授業科目	自立学習入門				単位	2.0
担当者	堤　拓也			シラバスグループ	TA6001	
開講年度	2023	履修方法	VR	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
基礎教育 I-VR	白石克己企画監修	佛教大学	B-net Learning 講義室のメディア学習を確認すること
自立学習の手引き	私立大学通信教育協会	私立大学通信教育協会	

■授業の概要	大学通信教育は通学方式の学習とは違い、在宅学習（遠隔学習）が中核になる。これは学習を自分のイニシアティブで進める自立学習である。したがって、この科目の目標は通信教育課程で学んでいくために必要な基本的能力、スキルを習得することにある。　上のスキルとは「読む能力、書く能力、問う能力」の３つである。ただし、現代においては読む・書くといっても文章や数式だけではなく音声、映像、パフォーマンスなどとして情報が提供されるので、こうした情報の受信・発信を含むスキルである。さらにインターネットを駆使した情報活用も日常的になっている。　この科目では、指定テキスト及び映像教材を通して、学習に必須となる「読む・書く・問う」の働きと関連を理解し、さらにこれまでの学習・仕事を振り返りながら「問うこと」の重要性を考察して、今後の履修全般に活かしていただきたい。
■学習の要点	印刷教材（テキスト『自立学習の手引き』）はじっくり読みながら読む能力、書く能力、問う能力がどういう性格の学習能力であるか、考えながら読んでほしい。この学習法を自分のこれまでの学習法と照らし合わせて点検し、今後の学習法の構えをつくっていくことが望まれる。映像教材では印刷教材の内容をさらに具体的にし、分かりやすく提供されている。
■学習の到達目標	全ての学習の基本となる「読む」「書く」「問う」のはたらきと関連を教材から読み解くとともに、自らの学習経験をふりかえってこれらを確認し、今後の学習計画に活かせるよう自分の学習方法を点検する。
■成績評価の基準	リポート評価を 100%とします。参考文献の引用箇所は必ず明記してください。テキストの内容に触れていないリポートや、規定字数に対して大幅に満たないリポート、他のリポートを写した剽窃が行われた場合には評価の対象にはなりません。

授業科目	日本国憲法				単位	2.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TA6109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
一歩先への憲法入門 第 2 版	片桐　直人･井上　武史･大林　啓吾／著	有斐閣	[ISBN]9784641228238
憲法判例 50！ 第 3 版	上田　健介･尾形　健･片桐直人／著	有斐閣	[ISBN]9784641228467

■授業の概要	憲法は国家の根本法であり、最高法規である。この憲法において自由主義・民主主義・平和主義が保障されており、国民はその利益を享受しているのである。この憲法の精神に照らした民主的で文化的な国の建設、国際貢献の実現は教育の力によると教育基本法が明言しているところ、特に教育関係者には憲法の正しい理解と認識が求められる。そこでは、憲法学における日本国憲法の論じ方を理解する必要がある。憲法の実践は理論と判例の両側面から成り立つため、学習にあたっては近年の判例動向にも注意されたい。
■学習の要点	テキストを参考にしながら次の項目を中心に学習してください。() 内は対応する Unit のナンバーです。学習に際しては、各段落ごとに示されている内容を、論理に沿って理解することを意識してください。　１．憲法と立憲主義（１）：憲法とは何か、憲法の歴史　２．日本国憲法の基本原理（２～４）：権力分立、国民主権、天皇　４．民主政と統治機構（５～１１）：国会、内閣、裁判所、地方自治　５．平和主義（１２）：平和主義の理念と現実、憲法９条の解釈の変遷　６．人権保障の仕組み（１３）：日本国憲法と人権、公共の福祉による人権の制約　７．精神的自由①（１４～１６）：思想・良心の自由、信教の自由、政教分離　８．精神的自由②（１７～２０）：表現の自由、集会の自由　９．経済的自由・手続的権利（２１～２３）：職業選択の自由、財産権、刑事手続上の権利　１０．社会権（２４～２６）：社会権の意義、生存権の法的性格、教育を受ける権利の意味　１１．平等原則（２７）：平等の意味、差別が禁止される事柄、性別をめぐる問題の動向　１２．自己決定権・プライバシー（２８～２９）：個人の尊重と新しい人権、自己決定権の限界、プライバシー権論の展開
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解し、憲法学の考え方に基づいた解答が述べられていること。テキストの記述や関連判例を踏まえた論述の展開が求められる。・評価項目として、日本語として正確かつ論理的な文章であることが求められる。

授業科目	情報処理入門				単位	2.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TA6110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報処理入門 -Windows10&Office2016-	長尾文孝	共立出版	[ISBN]9784320124240

■授業の概要	情報の入手、加工および伝達、すなわち情報処理にコンピュータを用いることは、現在の社会では当たり前の事となっている。特に、インターネットの発達が我々の社会にもたらした影響はとても大きく、今やほぼリアルタイムで情報の入手や発信が可能であり、情報のデジタル化の波は社会全体に広がっている。今後、この傾向はさらに加速し、ユビキタス・コンピューティング（どこにいてもコンピュータネットワークにアクセス可能な）の世界が近い将来に実現する事になるだろう。こうした社会の進化に対して必要不可欠な事は、我々個々のコンピュータを用いた情報処理能力の向上である。したがって本科目では、主にパーソナルコンピューティング知識と技術の向上を目指し、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトを用いた情報処理に加えて、インターネットやメールソフトなどを用いたコンピュータネットワークを利用した情報処理に関する基礎的知識および技術を向上させることを目的とする。
■学習の要点	科目の概要でも述べたように、現在の情報処理に用いられるツールはコンピュータであるため、コンピューティングの能力が要求される。したがって、実際にコンピュータを使う事が必須であり、コンピュータを使用できなければこの科目は履修できない。コンピュータを使いながら、コンピュータのハードに関する知識はもちろんの事、ソフトに関する知識や技能も身につけて欲しい。本テキストではコンピュータに関する基礎的事項を全般的に包括しているので、分からない操作方法などはテキストを読んで理解を深め、同時にコンピュータに関する全般的な知識も得て、パーソナルコンピューティングの技能を高めて欲しい。
■学習の到達目標	本科目で学習したテキストの内容、コンピュータの操作法やソフトの操作法等をきちんと習得していること。それから、それぞれのソフトの機能を整理して自分のものとしていることが到達目標である。
■成績評価の基準	リポートの評価基準：(1)ポスターとしてデザイン性と訴える力が優れているか(2)客観的に評価でき、改善点が指摘できているか(3)情報を正確にデータ化、グラフ化、かつ客観的説明ができているか(4) プレゼンテーションとして適当な内容、時間であるか。科目最終試験の評価基準：問題に対して的確に答えているか。包括的に欠落なく説明できているか。教える対象および教える事項が論理的に矛盾なく、分かりやすいかどうか。 が評価の基準である。

授業科目	英語コミュニケーション				単位	2.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TA6301	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN

本科目は、デジタル教材「総合英語コース８（ReallyEnglish 社)」を使って学習します。学習を始めるには、まず下記の専用サイトからコンテンツ（教材）を購入（コンビニ決済）してください。購入後、1 年間利用可能です。※※※ {購入サイトはこちら,https://go.reallyenglish.jp/ja/bukkyo-u} ※※※専用サイトからダウンロードできる {受講マニュアル,https://b-net2.bukkyo-u.ac.jp/uptusin/faces/bnet/pdf/syllabus/22_A6301_Z1003.pdf}をよく読み、まずは診断テストから実施してください。その後は、自分のレベルにあったコンテンツが提供されます。レッスンに取り組み、小テストに合格することで次のレッスンに進むことができます。小テストを受ける前に、練習問題に取り組んでおくことが望ましいです（解説があります)。なお、この教材はどのデバイス（パソコン、タブレット、スマートフォン）でも利用可能です。教材に関する問い合わせは、マニュアルに記載のサポート窓口までお願いします。合格後も復習できますので、英語力 UP に役立ててください。

■授業の概要	生きた英語の学習を通して英語でのコミュニケーション能力を向上させるのがねらいである。そのためには「読む、聞く、話す、書く」の４技能の向上が必要だが、この科目では特に正確に読む能力を身につけてもらいたい。文法、語彙、イディオムなど、正しく英語の文章を読むためには欠かせない力を出来る限り多くインプットしてもらい、英語でコミュニケーションが出来る下地を作ってもらいたい。
■学習の要点	まずはレポート提出までに 25 レッスンを受講すること。さらに、レポート提出後試験までの間にさらに 15 レッスンを受講してもらう。その中で間違った問題について振り返り、どんな力が足りなくてその問いを間違えたのかを分析すること。そのように自分の弱点についての分析を行うことにより、自分にはどういう力が必要なのかを知ってもらいたい。
■学習の到達目標	基礎的な英語の文章を正しく理解し、正しい英語で自分の言いたいことを伝えられるようになることが目標。
■成績評価の基準	(1) レッスンを通して分かった自分の弱点を把握できていること(2) 文法的に正しく適切な単語や表現を使って英語の文章が書かれていること(3) 自分独自の意見が書かれていること(4) 説得力ある客観的な視点で文章が書けていること

授業科目	スポーツ論入門				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TA6501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
健康・フィットネスと生涯スポーツ　三訂版	東海大学一般体育研究室編	大修館書店	[ISBN]9784469268874

■授業の概要	運動（スポーツ）は，食事・睡眠とともに子どもの発育発達に欠かせない。この生活習慣を大人になっても継続することが健康の維持・増進の秘訣となる。しかしながら，一般的に青年期になると運動する時間が少なくなる傾向にある。学習活動（職務）の多忙化や生活の利便化などによって屋外で遊ぶ時間や運動（スポーツ）に親しむ機会が減り，運動（スポーツ）が疎遠になっていく。これより，生活様式の変化をよく認識し，運動（スポーツ）の大切な点と効用を学ぶ必要がある。　本科目では健康の意味や意義の確認，健康体であるための生活の仕方や運動（スポーツ）の役割の理解，とりわけ，運動処方の理解を目指す。さらに，生涯スポーツの視点からスポーツの楽しみ方を，行う，観る，支える，調べるから学ぶ。これにより，生涯にわたって運動（スポーツ）に親しむ態度が少しでも涵養されることを期待する。
■学習の要点	テキストは「健康・フィットネス」及び「生涯スポーツ」の２部構成になっている。　第１部の「健康・フィットネス」における学習の要点は以下の通りである。１．健康，とりわけ「心の健康」についてストレスとの関係について理解する。２．生活習慣病の要因と対処法について理解する。３．健康体を維持するために，「運動・休養」，「食事」，「喫煙・飲酒・薬物乱用」の観点から望ましいあり方について理解する。４．トレーニングの原則とその効果，トレーニング処方について理解する。５．エアロビクス運動，筋力トレーニング，ストレッチング，コーディネーショントレーニングについて，目的･方法･効果を理解する。　第２部の「生涯スポーツ」における学習の要点は以下の通りである。６．スポーツの意味と価値，また，生涯スポーツの考え方について理解する。７．生涯スポーツを実践する上で，その楽しみ方について「行う」，「観る」，「支える」，「調べる」の観点から，ねらいや行い方について理解する。８．各スポーツについて，歴史や特性，行い方（ルールなど）について理解する。
■学習の到達目標	１．シラバスの「学習の要点」に書かれた内容が説明できる。２．１に加えて，さらに自分の考えを述べることができる。
■成績評価の基準	問題に対する解答が，テキストに記載された内容を踏まえたものになっていること（個人の考えのみによる記述は評価できない）。

授業科目	浄土学の基礎				単位	2.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土学概論	坪井俊映著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248791&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土教思想は、インド大乗仏教の中で成立し、東アジアに伝わり、日本において法然による浄土宗として結実した。この科目は、阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）を軸に、以下の内容を思想史的な流れの上にとらえることを目的とする。　（１）浄土　（２）阿弥陀仏とその本願　（３）浄土教思想家　（４）聖典　（５）全仏教における位置づけ（教相判釈）　（６）末法思想　（７）人間観（凡夫観）　（８）往生行とその心構え　（９）善導、法然、法然門下の思想
■学習の要点	（１）「授業の概要」で示した九項目やテキストの目次をたよりに、全体的な学習内容を念頭に置くこと（２）テキストを熟読してポイントをノートにまとめること（３）専門用語については仏教辞典を引くこと（４）テキストの「学習課題」を参考に、自分の理解度をチェックすること（５）あきらめず面倒がらず粘り強く反復すること
■学習の到達目標	（１）阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）ということが歴史の中でどう理解されていったのか、が説明できる。（２）法然の思想が理解できている。
■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、問われたこと以外のことを記述していないか、論理的矛盾がないか、誤字脱字の有無、読み手に誤解を与えないか、をチェックし、正しい日本語で書かれていることを基準とする。

授業科目	仏教学の基礎				単位	2.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教学概論	仏教学概論編纂会	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248863&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	2500 年もの歴史を有する仏教は、その発祥の地であるインドばかりでなく、伝播したアジア諸国においても、それぞれの国の主要な思想・宗教に大きな影響を与えてきました。中国あるいは日本にも仏教が伝わり、それぞれに独自の発達を遂げてきましたが、それらの仏教も、その根幹にはインド仏教思想があったと考えるべきでしょう。本科目は、そのように仏教の根幹に位置付けられるインド仏教思想を全体的に概観することを目的とするものです。インド仏教が一貫して主張し続ける思想を理解する一方で、時代の変化の中で変容していく思想を正確に理解することは、仏教全体を正しく把握するための不可欠な要素と言えます。
■学習の要点	1.＜原始仏教・部派仏教＞ーまず仏教がどのように成立したのかを学ぶと共に、原始仏教と呼ばれる初期の仏教がどのような教理・思想を有していたのか、またそれらは具体的にいかなる内容であったのかを捉えてください。特に「縁起」「四諦」「八正道」「涅槃」などに注目し、これらの思想がいかなる背景のもとに成立し、どのような教理内容を持っていたのか、また部派仏教になってどのように解釈され体系化され発展していったのかを学習してください。2.＜大乗仏教＞ーはじめに、大乗仏教がどのような経緯を経て原始・部派仏教という流れの中から産み出されていったのかを考えてください。その上で、＜般若経＞＜法華経＞＜華厳経＞など大乗仏教の根幹を形成する様々な経典群がいかなるものであるのかを捉え、併せてそれらの経典中にどのような教理や思想が説かれているのかについて基本的な知識を身に付けてください。さらには、個々の教理や思想の内容がどのようなものであり、その後どんな役割を担いながら発展していくことになったのかを、「空」「菩薩」「六波羅蜜」「利他行」などに注目しながら把握するよう努めてください。
■学習の到達目標	仏教を学ぶにあたって必要とされる仏教思想の基本的な概念を身につける。
■成績評価の基準	疑問点や問題点を整理し、理解した内容について自分の言葉でどれだけ論述がなされているかを判断する。

授業科目	仏教文化学の基礎				単位	2.0
担当者	馬場　久幸			シラバスグループ	TB5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東アジア仏教史	石井公成著	岩波書店	[ISBN]9784004317586

■授業の概要	仏教文化と一言で言っても、時代や分野が広範囲にわたり、また地域によって仏教の特色も異なるため、その全容を把握するは困難である。しかし、各地域の仏教文化を理解するためには、それぞれの地域の仏教の特色を把握することが必要となってくる。そこで、本科目では、まず東アジアの仏教を理解することを念頭に置く。その上で、時代や地域においてどのように仏教が受容されて仏教文化が発展したのかを明らかにしていきたい。
■学習の要点	中国を中心とした東アジアの仏教は、相互に影響を及ぼしている。日本仏教だけでなく、中国や朝鮮半島、ベトナムなどの仏教文化に関する広い知識を持ち、今後の研究に生かせるようにしてもらいたい。
■学習の到達目標	各自関心のある分野だけでなく、異なる分野の仏教や仏教文化に関心を持つこと。
■成績評価の基準	東アジアの仏教について深く理解する必要はないが、課せられた課題については詳しく調べること。

授業科目	日本仏教史（仏教伝来～平安）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	日本仏教史（鎌倉以降）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中おいて、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	2.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで興った仏教が中国に伝来して、中国人社会に、どのように変容し、適応し、受容されていったかを中心に中国における仏教の歴史的展開について、学習することが望ましい。・インドより中国・日本へと伝わった仏教の流れの中の中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の青磁・社会・生活の中で仏教はどのような立場で、展開してきたのかという中国史の立場からみた仏教史を考えなければならない。よって西暦前後の仏教伝来から現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的・教団史的に偏ることなく、歴史的・全般的に学習することである。
■学習の要点	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支配下の仏教)、12．明・清の仏教、13．現代の仏教について時代の流れにそって、理解すること。
■学習の到達目標	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支
■成績評価の基準	「学修の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に即して、成績評価をする。

授業科目	インド仏教史				単位	2.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教史概説インド篇	佐々木教悟ほか	平楽寺書店	[ISBN]9784831301147
印度仏教史：学習の手引	小野田俊蔵	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244720&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教の開祖のゴータマブッダは長いインドの思想史の中でも重要な人物であることは言うまでもありませんが、重要であるだけではなく、その流れの中でもユニークな存在でもあります。当然、あくまでインドが生んだ思想家なのでその流れの中で捉える必要があると思われます。この科目では思想史上でのゴータマの位置を捉えることを先ず最初のポイントとし、そして彼にはじまる仏教教団がどのように展開するのか、発展していく哲学や修行方法がインド社会とどのように関係しているのか、ということを学習するのが目的です。
■学習の要点	インド仏教全体の流れは、哲学的議論に於いては継承的発展をとげつつ、宗教的な発想という点では、直前のものを批判しながら発展する批判的発展をくり返してきました。その全体の流れこそ注目されるべきです。大きな流れのポイントを先ず掴むように努力してください。　１．ゴータマが生きた古代インドの社会と宗教について　２．ゴータマブッダの一生について　３．初期の仏教教団の成り立ちについて　４．アショーカ王時代の仏教について　５．クシャーナ王朝期の仏教について　６．グプタ王朝時代の仏教について
■学習の到達目標	固有名詞も重要ですが、あくまで思想や考え方の発展や継承が理解されている必要があります。インド仏教全体の流れを自分の中で体系化すれば、その中でその問題がどういう意味を持つのか、つまり設問の意図が理解されてくると思います。まず問題の意図を考えるという作業をしてください。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断する。

授業科目	アジア仏教史（チベット・東南アジア）			単位	2.0
担当者	中御門　敬教		シラバスグループ	TB5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
チベット密教〔増補〕	ツルティム・ケサンほか著	筑摩書房	[ISBN]9784480091437
※チベット密教を知るにあたっては性的な表現等も一部含まれるため、受講者はそのことを理解し受講すること。			

■授業の概要	チベット仏教前伝期、チベットへの仏教伝来、後伝期における仏教の復興、チベット仏教諸宗派の起こりを学習する。またサキャ派とモンゴルとの関係、ダライラマ制度およびチベットの大僧院がチベットの歴史と文化の形成に果たした事柄を学び取る。
■学習の要点	チベット仏教の歴史の開始すなわちソンツェンガンポ王の時代からダライラマ 14 世に至るまでのチベット仏教展開の流れをよく把握すること。本格的なチベットへの仏教の導入は、インド人であるシャーンタラクシタ、その弟子カマラシーラの入蔵と貢献にある。吐蕃王朝の弱体化による 100 年におよぶ空白時代からアティーシャ(982-1054)などによる後伝期の開始、仏教復興。宗派の誕生、アティーシャの教義体系を継承するカダム派、チベット仏教最初の宗派と自認するニンマ派、密教の実践に重き置くカギュ派、転生活仏制度を生み出したカルマ・カギュ派、モンゴルとの関係強化に努めたサキャ派、ツォンカパ(1357-1419)とゲルク派及びダライラマ制度。顕教と密教、戒律を巡る問題。これらに焦点を当て学習する。
■学習の到達目標	チベット仏教の歴史とその展開を把握すること。十二分に時間をかけ学習し重要な点を漏らさず十分に書き尽くしていること。焦点となるところを十分踏まえて論じていること。
■成績評価の基準	最終試験においては問題に合致した内容の質と量を評価の基準とします。

授業科目	アジア仏教史（韓国）				単位	2.0
担当者	馬場　久幸			シラバスグループ	TB5112	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
韓国仏教史	金　龍泰・著	春秋社	[ISBN]9784393118238

■授業の概要	朝鮮半島における仏教の伝来から現代に至るまでの歴史的な展開について、通仏教史的に学修することが望ましい。
■学習の要点	三国時代（高句麗・百済・新羅）の仏教統一新羅時代の仏教（教学の盛行、禅宗の伝来）高麗時代の仏教（教宗と禅宗）朝鮮時代の仏教（抑仏政策、儒教との交流）現代の仏教（仏教浄化運動）
■学習の到達目標	朝鮮半島における仏教の伝来から現代に至るまでの歴史的な展開について正確に理解し、東アジア仏教史の中で朝鮮半島の仏教がどのような位置にあるのか、説明できるようになること。
■成績評価の基準	三国時代に仏教が伝来し、各国でどのような信仰が流行ったのかを把握していること。統一新羅時代以降、中国から新たな思想が次々と入ってくる。朝鮮では、それをどのように受容して、独自の思想を確立したのかを把握していること。

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。
■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。
■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。
■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	宗教史				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5114	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学及び宗教史	菅井大果	佛教大学	[ISBN] 9784907177027

■授業の概要	宗教は時代の変化に関わらない真実を語るのではないか、そうならば、「宗教史」という、変化をいう語は馴染まないのではないか。確かに、宗教史が、学問として開始されるのは 18 世紀からで、教会や信仰が人を引きつける力を失い始める時代からである。宗教は距離を置いた、つまり、客観的な考察の対象になるのである。　使用するテキスト『宗教学及び宗教史』は、原始宗教から現代プロテスタントの展開に至るまで、広範な領域を概観するものである。　日常生活を超えるように思える宗教は、その生活にどのような基礎を持ち、生活をどのように導くか、この点に注意しながら、テキストの内容を追っていただきたい。※テキストの p.186 までは、宗教学概論と重複する内容ですが、全く同じではありませんので、補完するものと考えてください。この授業では p.188 以降が主になります。
■学習の要点	「宗教」という言葉によって括られる様々な流れ（ヒンズー教・仏教・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教など）は、どれも同じような構造であると考えられがちですが、その内容を具に見ていくならば、はたして宗教という枠組は成立するのでしょうか。それぞれの宗教の発生と展開を概観することによって、我々が用いる「宗教」という概念について再考していきます。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。
■成績評価の基準	問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。解答に必要なキーワードが十分使われているか、ここに留意しながら、丁寧な記述を試みること。

授業科目	南方仏教思想				単位	2.0
担当者	南　清隆			シラバスグループ	TB5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ビルマ仏教:その歴史と儀礼・信仰	池田正隆著	法蔵館	[ISBN]9784831874207
南方仏教思想:学習の手引	南清隆	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248772&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	オリジナルな仏教の正当な継承者であることを誇りとするテーラヴァーダ(南方上座部)の伝播は、紀元前 3c のアショーカ王時代にセイロン島(現在のスリランカ)に伝来したことを嚆矢とする。爾来、スリランカ・ビルマ・タイの主要三国を中心に、その周辺地方、そして近代にはインドへの逆移入というように、歴史的にも地理的にも多岐にわたっている。元来保守的な傾向をもってはいても、2500 年以上の歳月とさまざまな民族の文化ベースの相違によって、多くの変遷・変質を経ていることは疑いない。本科目では、その史的展開の跡と思想の概略についてを、テキストによって学んでいただきたい。
■学習の要点	南伝仏教と呼ばれることの多い上座部仏教は、ブッダ時代にまで遡れる資料を伝えながら、連綿と絶えることなく現在まで続く唯一のオリジナル仏教という評価が定着している。確かに、外面的にも厳格な戒律の条項をできるだけ遵守しながら教団を運営し、思想的にも伝統を重んじる姿勢は、他の地域、とくに北伝の諸地方に伝わった仏教の著しく変遷を繰り返した現在の姿と比較すると、伝統を重んじたきわめて価値のあるものといえる。しかしながら、厳密にその歴史的推移と各地での姿を比較検討すると、様々な展開と変遷の跡を見出すことができるのもまた一面の事実でもある。本科目では、以下の「リポート学習の留意点」の論点を中心にテキストと手引書を参考にしながら南方仏教の歴史と思想を学習していただきたい。
■学習の到達目標	リポート学習の留意点で列挙したポイントと、それぞれの国(とくにセイロンとビルマ)での仏教受容の変遷に留意し、上座部仏教の概要の理解に努めていただきたい。それらのポイントに基づいて最終試験の問題を設定し、理解度に応じて成績を評価する。
■成績評価の基準	それぞれの問題が問う要目に関して、歴史的展開や意義内容が正しく把握できているかを最重要ポイントとして評価します。

授業科目	チベット仏教思想				単位	2.0
担当者	中御門　敬教			シラバスグループ	TB5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
チベット密教〔増補〕	ツルティム・ケサンほか著	筑摩書房	[ISBN]9784480091437

※チベット密教を知るにあたっては性的な表現等も一部含まれるため、受講者はそのことを理解し受講すること。

■授業の概要	ソンツェンガンポ王の時代、二人の妃により仏像がもたらされたことをもってチベットへの仏教伝来とされる。その後、ネパール経由で、再度の入蔵でチベットに留まることを果たしたインド大乗仏教を代表するシャーンタラクシタにより最初の国立寺院サムイェー寺が建立され、そこから最初のチベット僧六人が出る。その後、弟子のカマラシーラが入蔵し、時同じくして入蔵していた中国禅の摩訶衍との頓漸二教の対決がありサムイェーの論争として知られること。その後、経、論が蔵訳され目録、辞典が編纂される。その後吐蕃王朝の弱体化による 150 年程の空白時代を経て後伝期のチベット仏教の展開が始まる。アティーシャの顕教、密教、戒律を重視する伝統が形成され、カダム派が生まれる。またニンマ派、サキャ派、カギュ派といった宗派も誕生する。サキャパンディタ、プトンなどの活躍。その後、アティーシャの影響を受けたツォンカパがゲルク派を開き最大の宗派へと発展して行く。この派からは、カルマ派の転生活仏制度の影響を受けダライラマ制度が確立されチベット仏教、文化、歴史の形成に寄与することとなる。後伝期にはモンゴルとの密接な関係が、その後のチベットの歴史全般に大きな影響を与える。このチベット仏教史の展開をおさえながら同時に仏教思想の基礎的な知識もつかんでいただきたい。
■学習の要点	科目の概要に示したことが主なる学習の要点となる。さらに留意することは、歴史的な展開を理解しながら学習を進めること。人物名や事柄など聞き慣れないものも多いであろうが、注意し正確に理解すること。チベットへの仏教の導入から、その後の社会構造の発展に伴ったあらたな仏教の展開、モンゴルの軍事力の脅威など限りない困難の道をたどり、またその後、モンゴルとの良好な関係が築かれモンゴルにチベット仏教がもたらされることなど、チベット仏教史の大きな流れを理解すること。後伝期には前伝期にはなかった宗派が生まれ特色ある思想が形成されること。正統な仏教への回帰であり新展開として顕教、密教、戒律が重視される伝統を知ること。ダライラマ制度による神権政治が 300 年ばかり大きく機能したことを学び知ること。自ら十分理解を得るよう考察を加えることに留意されたい。
■学習の到達目標	インド仏教をいかに自分たちに合ったかたちで継承しようとしたかという点、つまりチベット仏教の特徴的な面を把握しチベット仏教史の展開を自分の言葉で纏められることを目標とする。問題に合致したことが網羅的に十分論じられているかを自覚し、どんなポイントをどうまとめるのかを十分に考察した上で叙述出来ることを目標とする。部分的な記述や参考書などを写しただけの自らの理解の及んでいないものは、合格に達しないので、自ら十分理解できるよう努力と思索を重ねていただきたい。
■成績評価の基準	リポートにおいては、設題の意図をよく理解し、自分自身で理解したことを構成を考えてまとめること。参考書などの単なる写し取ったものは、添削対象外となる。最終試験においては、問題をよく理解し、その重要な点を外さぬよう解答すること。また、しっかりした内容を質と量ともに十分論じること。

授業科目	浄土教史				単位	2.0
担当者	齋藤　蒙光			シラバスグループ	TB5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土教史概説	坪井俊映	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248792&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土教は紀元前後のインドにおいて、大乗仏教の中から展開してきた思想です。大乗経典では色々な仏・菩薩の世界があることが説かれますが、圧倒的な影響力をもってきたのが西方極楽浄土にすまう阿弥陀仏をよりどころとする浄土教思想です。テキストはおおむね時代に沿って、インド・中国・日本における浄土教の展開について要領よく解説しています。本科目においては、浄土教がそれぞれの地域・時代においてどのように受容されてきたのか、どのように教義が構築され、信仰が宣揚されていったのかを学んでいきます。さらに、大乗仏教としての浄土教が、人間社会の中で生き生きと活動してきた宗教であり哲学であるということを学ぶことができます。
■学習の要点	（1）「浄土三部経」（無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経）および般舟三昧経の浄土教思想（2）インドの龍樹（2～3 世紀）や天親（世親、5 世紀）の浄土教思想（3）在来宗教・思想などとの接触、末法思想や他の仏教宗派との関わりの中で構築されていった中国の浄土教思想（4）鎮護国家と現当二世安楽思想を基調とする日本仏教の中で、機根（能力・資質）の自覚や時代感が産み出した新たな浄土教（5）中国の善導大師とわが国の法然上人の浄土教の共通点と相違点　浄土教の歴史とは、すなわち経典解釈・教理の展開についての歴史です。学習に際しては、参考文献を参照しながら、それぞれの時代の事象・教理について分析する視点と、それらを総合的に捉えて論じることのできる視点の両者を養うよう心がけてください。
■学習の到達目標	出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。どれもみな浄土教の基本的な問題ですので、要領よく的確にまとめてください。
■成績評価の基準	主観を交えず、テキストや参考文献にテキストや参考文献を忠実に理解しているかを基準とします。

授業科目	浄土宗史				単位	2.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TB5404	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗史概説	恵谷隆戒	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248793&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土宗史とは浄土宗の歴史的展開を研究する学問である。浄土宗は法然によって開宗された。その法然の教えを門弟や多くの人びとが信奉し、やがて集団化、組織化されていったところに浄土宗教団が出現し、浄土宗文化が生まれて浄土宗史が展開される。テキストではその展開を四篇にわけ、各篇のはじめにその時代の文化を概観し、第一篇では法然の伝記、門下の五流、法然教学の継承、地方への伝播について述べ、第二篇では浄土宗が独立宗派となるまでの三祖門下の六流、その流れの一つから聖冏聖聡の二師が輩出、浄土宗中興の祖といわれる理由を述べ、第三篇では近世浄土宗の基礎を作った人びと、そして教団制度、その中での教学の状況、一般寺院の成立について述べ、第四篇では廃仏毀釈の中での教団の近代化、教学の振興、伝法の沿革、布教伝道について述べている。
■学習の要点	テキストは勿論のこと、他の関係図書も参考にし、特に日本史、日本仏教史の中での浄土宗の歴史を考えることが必要である。テキストを熟読し、章ごとの要点、問題点を整理してノートしておくこと。そして問題の意図を把握してからまとめること。　1．法然以前の念仏の理解、法然の説いた念仏の教え、宗の成立等を総合的に考え、日本仏教史上どのような意味をもつかを考えること。　2．初期法然教団が朝廷や既成教団から迫害をうけたのは何故か。念仏者の行動、教義内容など、多面的に考えること。　3．法然門下の五流、良忠門下の六流、そしてその門弟達の活躍した地域を正しく理解し、把握しておくこと。　4．聖光から浄土宗義を相承した良忠の業績を把握し、代表的な門弟の活躍を考えること。　5．伝法制度の沿革をまとめておくこと。　6．徳川幕府の宗教政策を理解した上で、浄土宗はどのように教団を組織していったかを考えること。　7．テキストに出てくる人物は、それぞれ中世、近世、近代に活躍した宗史上重要な人物である。その生涯と業績を理解、把握しておくこと。
■学習の到達目標	法然上人の弟子ならびに末流の人びとによって、法然上人の教えがどのように継承されていったか。またどの様な法系の人びとによって、どこを拠点に浄土宗の教えが伝播していったか。また、いつ頃から浄土宗が名実ともに独立教団として歩んでいくのか等の問題を、しっかり把握しておくこと。
■成績評価の基準	法然上人以後の浄土宗が歴史的にどのように展開していくのか、そしてその節目で登場する人物たちの業績・後世への影響・意義を把握できているのかを基準にします。

授業科目	東南アジアの仏教				単位	2.0
担当者	山極　伸之			シラバスグループ	TB5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
静と動の仏教(新アジア仏教史；04)	奈良康明ほか	佼成出版社	[ISBN]9784333024322

■授業の概要	この科目は、インドで誕生した仏教がアジアの各地へと伝えられるなかで、東南アジアで受容されていった経緯と、そこで変容を遂げていった歴史について概観することを目的とするものです。長い時間をかけて、東南アジア全域にわたる多様な地域性の中で、仏教がどのように変移し、受容されていったのかを把握することは、仏教に関わる様々な現象や思想を理解するためにも不可欠の要素と言えます。具体的には、スリランカ・ミャンマー・タイ・カンボジア・ラオスといった地域を中心とする仏教受容の歴史的な流れを捉え、それらが変容して現在に至っている状況を理解することを目指します。
■学習の要点	１．＜全体＞ーまず仏教がインドでどのように成立したのかを学ぶと共に、その仏教がどのように東南アジアへと展開していったのかを全体的に理解するよう努めてください。２．＜スリランカ＞ー仏教がインドからスリランカにどのように伝来したのかを理解すると共に、スリランカの各時代における仏教の変容とミャンマーなど東南アジア諸国との交流の流れを把握するよう努めてください。３．＜ミャンマー＞ースリランカとの交流を踏まえながら、ミャンマーにおける仏教の受容とサンガの展開を歴史的な経緯を踏まえて把握するように努めてください。４．＜タイ＞ータイという国家と仏教との関係について、タイの歴史を踏まえながら概観するように努めてください。５．＜カンボジアとラオス＞ーカンボジアとラオスを取り巻く歴史的な社会状況を踏まえながら、サンガの成立とその後の仏教の展開の流れを把握するように努めてください。
■学習の到達目標	①インドで成立した仏教がどのように東南アジアへと展開していったのかについて説明できる。②スリランカへの仏教伝来と、スリランカの各時代における仏教の変容について説明できる。③ミャンマーにおける仏教の受容とサンガの展開を歴史的な経緯を説明できる④タイという国家と仏教との関係について、タイの歴史を踏まえながら説明できる⑤カンボジアとラオスを取り巻く歴史的な社会状況を踏まえ、サンガの成立と仏教の展開について説明できる。
■成績評価の基準	学習の到達点への達成度を、最終試験における記述内容で確認し、評価する。

授業科目	仏教と日本文化				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
殺生と往生のあいだ-中世仏教と民衆生活	苅米 一志　著	吉川弘文館	[ISBN]9784642058148

■授業の概要	中世仏教を研究する上で、当時の社会との係わりという観点は重要である。これは単に寺社が多くの荘園や所領を有し、当時の社会経済上において多大な役割を果たしていたというだけでなく、当時を生きる人々の社会通念や生活規範まで深く規定していたからである。本科目のテキストである苅米一志『殺生と往生のあいだ　中世仏教と民衆生活』では、古代から中世における「殺生」とそこから生じる「罪業観」をめぐって、当時の仏教がどのような言説を生みだし、国家や民衆がどのように揺れ動いたのかが活写されている。まさに中世仏教がどのように社会で機能していたのかを考える上で好材料となる著書である。　また「殺生」をめぐる問題は中世のみならず、現代まで通じる課題であり、本書を受講生各自が主体的問題として捉えるなら、現代社会における我々の立ち位置を考えることもできるだろう。
■学習の要点	テキストの各章を読み、以下の点を中心に読み取ること。(古代国家と殺生)　・日本列島における狩猟・漁労と中央への贄献上の実態　・殺生戒の内容とその意義　・古代国家における「殺生」と「放生」をめぐる政策とその特質（中世のはじまりと殺生罪業観)　・狩猟・漁労による堕地獄と浄土往生　・白河院による「殺生禁断」策の特質（寺院・神社による「殺生禁断」)　・中世の民衆生活における狩猟・漁労の位置づけ　・寺院における殺生禁断とそれを支える論理　・神社に係わる狩猟・漁猟のあり方（荘園と「殺生禁断」)　・寺領荘園における殺生禁断の特徴、及びそこで形成される論理（殺生と武士の苦悩)　・叡尊による殺生禁断の特質　・苦悩する武士の出家への動機、武士による滅罪
■学習の到達目標	・日本の古代から中世における殺生禁断がどのような特徴をもっていたか、説明できるようになる。・仏教が中世の社会生活においてどのような役割を果たし、どのような論理を形成してきたか、説明できるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、古代から中世に至る殺生禁断の諸相について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	仏教と芸能				単位	2.0
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	TB5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教芸能	関山和夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248776&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	日本の文化史を支えてきた各種の芸能は、宗教の影響を強くうけ、発展してきました。このおり、仏教との関係は看過できないものがあります。したがって、日本文化史を論ずる場合、仏教が日本人の生活の隅々にまで浸透していた庶民生活史を十分に考慮する必要があります。古代から現代まで、さまざまな芸能が発生・生成し、展開してきました。伎楽・舞楽・平曲・能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・落語・講談・浪曲などなどです。これらの芸能の要素を考察すると、仏教との関係が濃厚に認められます。　本科目では、日本文化史の底辺に深く根を張った「仏教と芸能」との関係を具体的に追求し、考察することを目的とします。
■学習の要点	１．仏教と芸能の源流　　声明・講式・唱導の芸能としての特質を、詳しい資料によって学習する。２．歌謡芸能　　御詠歌・和讃・歌念仏などは質的にもすぐれた作品が多い。それらの成立や発展過程につ　　いて資料を提示して多角的に追求する。３．踊り芸能　　念仏踊りや盆踊りは日本古来の芸能と仏教が結びついた特異な民俗芸能であるので、その　　特徴や内容について説明し、仏教文化の一面を学ぶ。４．仏教と語り物　　仏教が生産した数々の「語り物」について諸資料によって研究する。５．仏教と話芸　　唱導（演説体説教）から落語・講談などの話芸が派生する経緯と歴史を詳しく学習する。
■学習の到達目標	日本において仏教と芸能とが如何に密接な関係にあり、芸能の生成と大成、展開に影響を与えたかを理解していただくことを到達目標とします。科目最終試験では要点を端的にまとめるようにしましょう。
■成績評価の基準	（１）誤字脱字の有無（２）論旨が明瞭か否か（３）問題の主旨にそいながら回答しているか。（４）要点を過不足なくまとめているか。（５）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	仏教哲学（インド）				単位	2.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB5418	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	大乗仏教の中から二つの哲学が生まれる。ナーガールジュナ（龍樹）に始まる中観派は、般若経に説く「空の思想」を文字通りに理解する。「全宇宙の一切は空であり、存在しない」と。一 方、アサンガ＝ヴァスバンドゥ（無著・世親）兄弟に始まる唯識派はそれに反旗を翻す。「般若経を文字通りに理解してはならぬ。一切は空ではない。自己の心こそ唯一存在するものであると。心のみの存在を主張する唯識派は心を詳細に分析し、心の奥底に潜むアーラヤ識の存在を主張する。本授業では、唯識思想を代表するアーラヤ識説を読み解き、アーラヤ識の機能と特徴を学ぶ。
■学習の要点	インド初期唯識思想で主張されるアーラヤ識について学びます。なぜアーラヤ識の存在が必要とされたのか。眼識から意識に至る六識だけでは、この世界は説明できず、自己の生命活動もありえず、輪廻の継続もありえないと無著・世親の唯識思想家は主張します。これらの点を念頭に置きながら、アーラヤ識の機能と特徴を学び、紀元４世紀から５世紀のインドに現れた唯識思想、説くにアーラヤ識説を体得してください。
■学習の到達目標	大乗仏教哲学のひとつである唯識思想の基本的概念の取得。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断する。

授業科目	仏教哲学（中国・日本）				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5419	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本的霊性（岩波文庫）	鈴木大拙著	岩波書店	[ISBN]9784003332313
禅（ちくま文庫）	鈴木大拙著	筑摩書房	[ISBN]9784480021571

■授業の概要	仏教を哲学的に考えるとは、どういうことか。この問いを、鈴木大拙の議論を中心に、考えていく。大拙は仏教の近代的表現を試み、西洋の思想界に影響を与えた。ここで近代的表現とは、西洋の哲学を仏教表現の基礎に据えたことをいう。哲学の限界、とくに哲学が信仰を語る限界を厳しく指摘しながら大拙は、禅や浄土教を描くとき、近代哲学の用語をためらうことなく用いたのである。大拙によって新たな表現を得た仏教や日本的信仰に接することで、宗教の目指すところや哲学の問いの意味を考え直してみたい。
■学習の要点	ここでは、東洋、西洋の区別にとらわれず、仏教や哲学から提出される問いを論理的に考えていきたい。理屈によって段階的に進む哲学の議論によって、宗教への入り口を探ることになる。リポートなど、課題にこたえるときには、筋の通った明確な文章を第一に心がけること。
■学習の到達目標	大拙の置かれた時代背景も理解すること。そして霊性という言葉を用いる意図をはっきり把握すること。日本の独自性を、西洋に比してどうとらえたか、その比べ方にも注意を払うこと。
■成績評価の基準	テキストを自分の言葉で、明確な筋道で要約してあること。テキストや参考書の文章をそのまま使っていないこと。自分の考えがテキストに沿って積極的に表現してあること。これらを評価する。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	浄土宗日常勤行式の解説				単位	2.0
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	TB5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗日常勤行の話	香月乗光著	浄土宗	[ISBN]9784883631483

■授業の概要	「日常勤行」とは、毎日、仏前でおこなう「おつとめ」のことです。「おつとめ」をすることは、私たちの行いを善くし、生活を正しくしていく上において、たいへん重要な、意義のあるものです。「おつとめ」は私たちを仏道修行により邁進させるために整備・制定されているものであります。テキストは、浄土宗の日常勤行式の次第にそって、唱え方(音読、訓読)とその意味、さらには関係する浄土宗義、仏教思想を解説しています。本科目では、浄土宗の日常勤行式も、阿弥陀仏に対する深い信仰によって作られており、その中には浄土宗の宗義が取り込まれているということを学んでいくことができます。
■学習の要点	浄土宗の日常勤行式が、どのような浄土宗義に基づいて組織されているかを、しっかりと理解することが必要です。法然上人が『一枚起請文』において「ただ往生極楽のためには(中略)ただ一向に念仏すべし」と述べられていること、すなわち正定業たる称名念仏がすべての中心であるということは、日常勤行式でも同様です。　なぜ称名念仏がすべての中心であるのか、称名念仏以外の修行はどのように位置づけられるのかということが、浄土宗義ではどのように説明されているのかを考え、一つ一つの偈文の意味内容、順序配列を理解していくことが必要です。
■学習の到達目標	【到達目標】・日常勤行式に取り込まれている浄土宗義が正しく指摘できる。・日常勤行式の最重要部分はどこか指摘でき、その理由について説明できる。・日常勤行式の構成（順序配列）の意味が説明できる。・それぞれの偈文の意味、および浄土宗義との関係について説明できる。
■成績評価の基準	・必要なキーワードが回答に正しく含まれているか否か。・キーワードの意味を正しく理解できているか否か。

授業科目	仏教と福祉				単位	2.0
担当者	野田　隆生			シラバスグループ	TB5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教・共生・福祉	水谷幸正	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542916

■授業の概要	現代社会を生きるわたしたちが、満足し、充実した生活を送ることは可能なのだろうか。少子・高齢社会と言われて久しいが、保育士不足や介護士不足、認知症のケア、児童虐待や高齢者虐待、ひとり親家庭の問題等々が毎日のようにメディアを賑わし、「いのち」の危機を覚えるような現象が次々と起きている。そのような現実の社会の中で、果たして「しあわせ」と言える生活を手に入れるにはどうすればいいのでしょうか。こうした社会が抱える諸問題に、社会福祉や医療がその支えとなる一方で、「いのち」の意義を説く教えとして「仏教」が挙げられる。　本講の学びとしては、「いのち」の尊厳や生きている人間の心の支えとなる教えを「仏教福祉」という視点で考究することを主題とする。
■学習の要点	仏教については、仏教の基礎となる文献を読み込み、下記に示す用語について簡単に説明ができるようにしておくことが肝要である。　☆基礎用語☆　・四苦八苦　・四諦八正道　・生死一如　・輪廻　・三法印　・共生　福祉については、社会福祉関連の文献を読むことも必要であるが、それ以上に時事問題に目を向け、それらについて批評・批判する姿勢を求める。特に、ターミナル・ケア、脳死・臓器移植、児童虐待、介護殺人の問題については着目することが必要となる。　仏教福祉については、関連学会の発行する論文集や参考文献を披覧することを求める。　　絵空事として仏教福祉を捉えるのではなく、現実社会で活かすことのできる概念として、時事問題の解決や人々へ安心感を与えることができるように働きかけることのできるひとつの考え方であるという意識で、以下の点に着目しながら学習をする。　　①　仏教福祉の概念について　②　地域社会における仏教福祉実践の活動について　③　社会福祉施設における仏教福祉実践の理念や具体的展開について　④　「いのち」の救いとしての仏教福祉について　⑤　現代社会における仏教と共生について
■学習の到達目標	現代社会における諸問題について、医学、看護学、社会福祉学などの専門領域のみでは解決し得ない事象について、「いのち」を基軸とした仏教なかんずく仏教福祉の可能性について思索し、あわよくば社会実践へと応用することができるようになる。
■成績評価の基準	⑴テキストのみならず、参考文献や各自が収集した文献、雑誌等の資料が試験に反映されていること。⑵設題が求める〔学習の要点〕を正しく理解し、文献、雑誌、資料等を参照にしながら 4,000 字程度で私見を交えながらまとめること。

授業科目	宗教法制				単位	2.0
担当者	野田　雅史			シラバスグループ	TB5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教法人ハンドブック　設立・会計･税務のすべて　11訂版	実藤秀志	税務経理協会	[ISBN]9784419065966
浄土宗宗教法制関係法令資料集〔第2版〕	笠原慎一監修	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244836&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教法は、憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律(以下、「墓埋法」という。)、税法、宗教法制史、宗教団体の自治法規等にまたがる広い分野を対象とします。大日本帝国憲法下と日本国憲法下において信教の自由や政教分離等の宗教法制がどのように変遷していったのかをしっかりと学習してください。それを前提として、宗教法人法、墓埋法、税法、宗教団体の自治法規等を具体的にしっかりと理解してください。条文については「宗教法制関係法令資料集」を中心に学習してください。浄土宗関係法規については、信教の自由を念頭に置きながら、包括宗教団体と被包括宗教団体との関係を意識しながら、学習してください。必要に応じて判例を学習し、憲法や法令等の解釈や適用において判例が果たしている役割とその内容を理解し、習得してください。
■学習の要点	次の各点について学習し、理解してください。① 日本国憲法下での信教の自由の保障規定と政教分離規定② 包括宗教団体と単位宗教団体③ 宗教法人の所轄庁とその権限④ 宗教法人の設立手続きの流れ⑤ 宗教法人の規則と宗教法人の規則の絶対的記載事項⑥ 宗教法人の代表役員の地位及び資格並びにその職務権限⑦ 宗教法人の責任役員の地位及び資格並びにその職務権限⑧ 宗教法人の代務者⑨ 宗教法人の仮代表役員について⑩ 宗教法人の仮責任役員について⑪ 宗教法人の監査機関について⑫ 宗教法人の事務運営について⑬ 宗教法人の規則の変更手続きについて⑭ 宗教法人の合併･解散について⑮ 宗教法人の会計について⑯ 宗教法人の税務について⑰ 墓地、埋葬等に関する法律及び同法律施行規則について

■学習の到達目標	①「学習の要点」に記載のある内容についてテキストを中心としてしっかりと理解して、記憶することを学習の到達目標とします。この学習の到達目標に対する到達度合を科目最終試験で測ります。そして、その到達度合によって成績評価します。②科目最終試験の問題はしっかりとテキストの内容を理解・記憶していれば、最低限の記載はできる内容とします。
■成績評価の基準	科目最終試験の採点は加点方式を基本とします。試験問題が求めている解答内容の一定程度以上の解答の記載が答案にあれば 60 点とします。特に深い理解や積極的な学習成果が科目最終試験の問題の出題意図に沿った内容で答案に記載されていれば加点事由とします。

授業科目	仏教伝道学				単位	2.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB5541	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
伝道	恵谷隆戒	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248841&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教伝道者、とりわけ浄土宗の教義を伝道する浄土宗教師は、仏教の思想はもちろん、浄土宗の教え、念仏の元祖である法然上人の教えを伝道しなければならない。そこで、伝道布教のためには伝道教案（原稿）が必要である。　この科目では、伝道教案（原稿）の作り方の基本として、テキストを参考に、法説・譬喩・因縁・合釈に添うように考えていく。法然上人のご法語を通して、浄土宗義の理解を深め、正しい念仏の教義を伝道出来るようにしたい。
■学習の要点	浄土宗教師は布教・伝道者たるべきであるという観点から、伝道教案（原稿）を実際に作成する作業をする。讃題を決め、法説・譬喩・因縁・合釈に添うようにお話を組みたてていく。
■学習の到達目標	①浄土宗教師として、安居院流説教を修得する。②法然法語が理解できる。
■成績評価の基準	法比因縁合釈の形式を守り、論理的に、また文章表現も正しく記述されていれば 90 点以上。形式を踏まえず、また法然思想から逸脱していれば 59 点以下。

授業科目	仏教看護				単位	2.0
担当者	永田　真隆			シラバスグループ	TB5554	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教と看護	藤本淨彦ほか編	法蔵館	[ISBN]9784831856197

■授業の概要	人間の尊厳を老苦・病苦・死苦の克服に置く仏教が、病苦に直面した人の看護、死に臨んだ人の看護のあり方をどのように捉え指導していたのか、また病者自身の加療療養の心得、終末に際しての心得をどのように指導していたのかを歴史的に振り返りつつ、現代仏教の課題としても学習する。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を熟読し、自分なりにまとめる。その際には以下の点を中心に読み込み、要点や問題点を整理するとよい。最後にそれらに対する自分の見解をまとめておく。・律蔵に規定されるサンガにおける看病人法にみられる仏教看護の特色・大乗菩薩戒を説く仏典にみられる仏教看護の特色・法然の臨終観・各種の臨終行儀書にみられる病人と看病人の関係性・ブッダの死生観・ブッダとアーナンダの関係性より捉えられる仏教的ターミナル・ケア・ターミナル・ケアにおける仏教の役割と期待・ビハーラ・ケアにおけるビハーラ僧の役割
■学習の到達目標	「学習の要点」にあげられた内容を理解することで、仏教看護を歴史的に振り返り、その意義を説明することができる。また現代仏教の課題としても理解し、主体的に考える力を身につけることができるようになる。
■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、論理的矛盾や無意味な繰り返し、誤字脱字、読み手に誤解を与える表現はないかをまずは確認する。「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に応じて、成績評価をする。

授業科目	仏教伝道学Ⅱ				単位	2.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB5555	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
法然上人のお言葉一元祖大師御法語一	布教師会編集委員会編	総本山知恩院布教師会	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248869&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教伝道者、とりわけ浄土宗の教義を伝道する浄土宗教師は、仏教の思想はもちろん、念仏の元祖である法然上人の教えを伝道できなければならない。伝道布教のためには伝道教案（原稿）が必要である。　この科目では、テキストを参考に、伝道教案（原稿）の作り方の基本として、法説・譬喩・因縁・合釈に添うように原稿を組み立てていく。このことによって法然上人のご法語、浄土宗義の理解を深め、正しい念仏の教義を伝道出来るようにする。
■学習の要点	浄土宗教師資格を得るための課程であるが、浄土宗教師は布教・伝道者たるべきである、という考えのもと、伝道教案（原稿）を実際に作成する作業をしてもらう。浄土宗の伝統的な説教の方法である法説・譬喩・因縁・合釈に添う組み立てで原稿を作成すること。
■学習の到達目標	①浄土宗教師として、安居院流説教を修得する。②法然法語が理解できる。
■成績評価の基準	法比因縁合釈の形式を守り、論理的に、また文章表現も正しく記述されていれば 90 点以上。形式を踏まえず、また法然思想から逸脱していれば 59 点以下。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	インド仏教史				単位	2.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教史概説インド篇	佐々木教悟ほか	平楽寺書店	[ISBN]9784831301147
印度仏教史：学習の手引	小野田俊蔵	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244720&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教の開祖のゴータマブッダは長いインドの思想史の中でも重要な人物であることは言うまでもありませんが、重要であるだけではなく、その流れの中でもユニークな存在でもあります。当然、あくまでインドが生んだ思想家なのでその流れの中で捉える必要があると思われます。この科目では思想史上でのゴータマの位置を捉えることを先ず最初のポイントとし、そして彼にはじまる仏教教団がどのように展開するのか、発展していく哲学や修行方法がインド社会とどのように関係しているのか、ということを学習するのが目的です。
■学習の要点	インド仏教全体の流れは、哲学的議論に於いては継承的発展をとげつつ、宗教的な発想という点では、直前のものを批判しながら発展する批判的発展をくり返してきました。その全体の流れこそ注目されるべきです。大きな流れのポイントを先ず掴むように努力してください。　１．ゴータマが生きた古代インドの社会と宗教について　２．ゴータマブッダの一生について　３．初期の仏教教団の成り立ちについて　４．アショーカ王時代の仏教について　５．クシャーナ王朝期の仏教について　６．グプタ王朝時代の仏教について
■学習の到達目標	固有名詞も重要ですが、あくまで思想や考え方の発展や継承が理解されている必要があります。インド仏教全体の流れを自分の中で体系化すれば、その中でその問題がどういう意味を持つのか、つまり設問の意図が理解されてくると思います。まず問題の意図を考えるという作業をしてください。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断する。

授業科目	チベット仏教史				単位	2.0
担当者	中御門　敬教			シラバスグループ	TB5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
チベット密教〔増補〕	ツルティム・ケサンほか著	筑摩書房	[ISBN]9784480091437
※チベット密教を知るにあたっては性的な表現等も一部含まれるため、受講者はそのことを理解し受講すること。			

■授業の概要	チベット仏教前伝期、チベットへの仏教伝来、後伝期における仏教の復興、チベット仏教諸宗派の起こりを学習する。またサキャ派とモンゴルとの関係、ダライラマ制度およびチベットの大僧院がチベットの歴史と文化の形成に果たした事柄を学び取る。
■学習の要点	チベット仏教の歴史の開始すなわちソンツェンガンポ王の時代からダライラマ 14 世に至るまでのチベット仏教展開の流れをよく把握すること。本格的なチベットへの仏教の導入は、インド人であるシャーンタラクシタ、その弟子カマラシーラの入蔵と貢献にある。吐蕃王朝の弱体化による 100 年におよぶ空白時代からアティーシャ(982-1054)などによる後伝期の開始、仏教復興。宗派の誕生、アティーシャの教義体系を継承するカダム派、チベット仏教最初の宗派と自認するニンマ派、密教の実践に重き置くカギュ派、転生活仏制度を生み出したカルマ・カギュ派、モンゴルとの関係強化に努めたサキャ派、ツォンカパ(1357-1419)とゲルク派及びダライラマ制度。顕教と密教、戒律を巡る問題。これらに焦点を当て学習する。
■学習の到達目標	チベット仏教の歴史とその展開を把握すること。十二分に時間をかけ学習し重要な点を漏らさず十分に書き尽くしていること。焦点となるところを十分踏まえて論じていること。
■成績評価の基準	最終試験においては問題に合致した内容の質と量を評価の基準とします。

授業科目	朝鮮仏教史				単位	2.0
担当者	馬場　久幸			シラバスグループ	TB5112	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
韓国仏教史	金　龍泰・著	春秋社	[ISBN]9784393118238

■授業の概要	朝鮮半島における仏教の伝来から現代に至るまでの歴史的な展開について、通仏教史的に学修することが望ましい。

■学習の要点	三国時代（高句麗・百済・新羅）の仏教統一新羅時代の仏教（教学の盛行、禅宗の伝来）高麗時代の仏教（教宗と禅宗）朝鮮時代の仏教（抑仏政策、儒教との交流）現代の仏教（仏教浄化運動）

■学習の到達目標	朝鮮半島における仏教の伝来から現代に至るまでの歴史的な展開について正確に理解し、東アジア仏教史の中で朝鮮半島の仏教がどのような位置にあるのか、説明できるようになること。

■成績評価の基準	三国時代に仏教が伝来し、各国でどのような信仰が流行ったのかを把握していること。統一新羅時代以降、中国から新たな思想が次々と入ってくる。朝鮮では、それをどのように受容して、独自の思想を確立したのかを把握していること。

授業科目	宗教学				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。
■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。
■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。
■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	宗教史				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5114	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学及び宗教史	菅井大果	佛教大学	[ISBN] 9784907177027

■授業の概要	宗教は時代の変化に関わらない真実を語るのではないか、そうならば、「宗教史」という、変化をいう語は馴染まないのではないか。確かに、宗教史が、学問として開始されるのは 18 世紀からで、教会や信仰が人を引きつける力を失い始める時代からである。宗教は距離を置いた、つまり、客観的な考察の対象になるのである。　使用するテキスト『宗教学及び宗教史』は、原始宗教から現代プロテスタントの展開に至るまで、広範な領域を概観するものである。　日常生活を超えるように思える宗教は、その生活にどのような基礎を持ち、生活をどのように導くか、この点に注意しながら、テキストの内容を追っていただきたい。※テキストの p.186 までは、宗教学概論と重複する内容ですが、全く同じではありませんので、補完するものと考えてください。この授業では p.188 以降が主になります。
■学習の要点	「宗教」という言葉によって括られる様々な流れ（ヒンズー教・仏教・ユダヤ教・キリスト教・イスラム教など）は、どれも同じような構造であると考えられがちですが、その内容を具に見ていくならば、はたして宗教という枠組は成立するのでしょうか。それぞれの宗教の発生と展開を概観することによって、我々が用いる「宗教」という概念について再考していきます。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。
■成績評価の基準	問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。解答に必要なキーワードが十分使われているか、ここに留意しながら、丁寧な記述を試みること。

授業科目	南方仏教思想				単位	2.0
担当者	南　清隆			シラバスグループ	TB5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ビルマ仏教:その歴史と儀礼・信仰	池田正隆著	法蔵館	[ISBN]9784831874207
南方仏教思想:学習の手引	南清隆	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248772&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	オリジナルな仏教の正当な継承者であることを誇りとするテーラヴァーダ(南方上座部)の伝播は、紀元前 3c のアショーカ王時代にセイロン島(現在のスリランカ)に伝来したことを嚆矢とする。爾来、スリランカ・ビルマ・タイの主要三国を中心に、その周辺地方、そして近代にはインドへの逆移入というように、歴史的にも地理的にも多岐にわたっている。元来保守的な傾向をもってはいても、2500 年以上の歳月とさまざまな民族の文化ベースの相違によって、多くの変遷・変質を経ていることは疑いない。本科目では、その史的展開の跡と思想の概略についてを、テキストによって学んでいただきたい。
■学習の要点	南伝仏教と呼ばれることの多い上座部仏教は、ブッダ時代にまで遡れる資料を伝えながら、連綿と絶えることなく現在まで続く唯一のオリジナル仏教という評価が定着している。確かに、外面的にも厳格な戒律の条項をできるだけ遵守しながら教団を運営し、思想的にも伝統を重んじる姿勢は、他の地域、とくに北伝の諸地方に伝わった仏教の著しく変遷を繰り返した現在の姿と比較すると、伝統を重んじたきわめて価値のあるものといえる。しかしながら、厳密にその歴史的推移と各地での姿を比較検討すると、様々な展開と変遷の跡を見出すことができるのもまた一面の事実でもある。本科目では、以下の「リポート学習の留意点」の論点を中心にテキストと手引書を参考にしながら南方仏教の歴史と思想を学習していただきたい。
■学習の到達目標	リポート学習の留意点で列挙したポイントと、それぞれの国(とくにセイロンとビルマ)での仏教受容の変遷に留意し、上座部仏教の概要の理解に努めていただきたい。それらのポイントに基づいて最終試験の問題を設定し、理解度に応じて成績を評価する。
■成績評価の基準	それぞれの問題が問う要目に関して、歴史的展開や意義内容が正しく把握できているかを最重要ポイントとして評価します。

授業科目	チベット仏教思想				単位	2.0
担当者	中御門　敬教			シラバスグループ	TB5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
チベット密教〔増補〕	ツルティム・ケサンほか著	筑摩書房	[ISBN]9784480091437

※チベット密教を知るにあたっては性的な表現等も一部含まれるため、受講者はそのことを理解し受講すること。

■授業の概要	ソンツェンガンポ王の時代、二人の妃により仏像がもたらされたことをもってチベットへの仏教伝来とされる。その後、ネパール経由で、再度の入蔵でチベットに留まることを果たしたインド大乗仏教を代表するシャーンタラクシタにより最初の国立寺院サムイェー寺が建立され、そこから最初のチベット僧六人が出る。その後、弟子のカマラシーラが入蔵し、時同じくして入蔵していた中国禅の摩訶衍との頓漸二教の対決がありサムイェーの論争として知られること。その後、経、論が蔵訳され目録、辞典が編纂される。その後吐蕃王朝の弱体化による 150 年程の空白時代を経て後伝期のチベット仏教の展開が始まる。アティーシャの顕教、密教、戒律を重視する伝統が形成され、カダム派が生まれる。またニンマ派、サキャ派、カギュ派といった宗派も誕生する。サキャパンディタ、プトンなどの活躍。その後、アティーシャの影響を受けたツォンカパがゲルク派を開き最大の宗派へと発展して行く。この派からは、カルマ派の転生活仏制度の影響を受けダライラマ制度が確立されチベット仏教、文化、歴史の形成に寄与することとなる。後伝期にはモンゴルとの密接な関係が、その後のチベットの歴史全般に大きな影響を与える。このチベット仏教史の展開をおさえながら同時に仏教思想の基礎的な知識もつかんでいただきたい。
■学習の要点	科目の概要に示したことが主なる学習の要点となる。さらに留意することは、歴史的な展開を理解しながら学習を進めること。人物名や事柄など聞き慣れないものも多いであろうが、注意し正確に理解すること。チベットへの仏教の導入から、その後の社会構造の発展に伴ったあらたな仏教の展開、モンゴルの軍事力の脅威など限りない困難の道をたどり、またその後、モンゴルとの良好な関係が築かれモンゴルにチベット仏教がもたらされることなど、チベット仏教史の大きな流れを理解すること。後伝期には前伝期にはなかった宗派が生まれ特色ある思想が形成されること。正統な仏教への回帰であり新展開として顕教、密教、戒律が重視される伝統を知ること。ダライラマ制度による神権政治が 300 年ばかり大きく機能したことを学び知ること。自ら十分理解を得るよう考察を加えることに留意されたい。
■学習の到達目標	インド仏教をいかに自分たちに合ったかたちで継承しようとしたかという点、つまりチベット仏教の特徴的な面を把握しチベット仏教史の展開を自分の言葉で纏められることを目標とする。問題に合致したことが網羅的に十分論じられているかを自覚し、どんなポイントをどうまとめるのかを十分に考察した上で叙述出来ることを目標とする。部分的な記述や参考書などを写しただけの自らの理解の及んでいないものは、合格に達しないので、自ら十分理解できるよう努力と思索を重ねていただきたい。
■成績評価の基準	リポートにおいては、設題の意図をよく理解し、自分自身で理解したことを構成を考えてまとめること。参考書などの単なる写し取ったものは、添削対象外となる。最終試験においては、問題をよく理解し、その重要な点を外さぬよう解答すること。また、しっかりした内容を質と量ともに十分論じること。

授業科目	浄土宗の歴史				単位	2.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TB5404	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗史概説	恵谷隆戒	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248793&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土宗史とは浄土宗の歴史的展開を研究する学問である。浄土宗は法然によって開宗された。その法然の教えを門弟や多くの人びとが信奉し、やがて集団化、組織化されていったところに浄土宗教団が出現し、浄土宗文化が生まれて浄土宗史が展開される。テキストではその展開を四篇にわけ、各篇のはじめにその時代の文化を概観し、第一篇では法然の伝記、門下の五流、法然教学の継承、地方への伝播について述べ、第二篇では浄土宗が独立宗派となるまでの三祖門下の六流、その流れの一つから聖冏聖聡の二師が輩出、浄土宗中興の祖といわれる理由を述べ、第三篇では近世浄土宗の基礎を作った人びと、そして教団制度、その中での教学の状況、一般寺院の成立について述べ、第四篇では廃仏毀釈の中での教団の近代化、教学の振興、伝法の沿革、布教伝道について述べている。
■学習の要点	テキストは勿論のこと、他の関係図書も参考にし、特に日本史、日本仏教史の中での浄土宗の歴史を考えることが必要である。テキストを熟読し、章ごとの要点、問題点を整理してノートしておくこと。そして問題の意図を把握してからまとめること。　1．法然以前の念仏の理解、法然の説いた念仏の教え、宗の成立等を総合的に考え、日本仏教史上どのような意味をもつかを考えること。　2．初期法然教団が朝廷や既成教団から迫害をうけたのは何故か。念仏者の行動、教義内容など、多面的に考えること。　3．法然門下の五流、良忠門下の六流、そしてその門弟達の活躍した地域を正しく理解し、把握しておくこと。　4．聖光から浄土宗義を相承した良忠の業績を把握し、代表的な門弟の活躍を考えること。　5．伝法制度の沿革をまとめておくこと。　6．徳川幕府の宗教政策を理解した上で、浄土宗はどのように教団を組織していったかを考えること。　7．テキストに出てくる人物は、それぞれ中世、近世、近代に活躍した宗史上重要な人物である。その生涯と業績を理解、把握しておくこと。
■学習の到達目標	法然上人の弟子ならびに末流の人びとによって、法然上人の教えがどのように継承されていったか。またどの様な法系の人びとによって、どこを拠点に浄土宗の教えが伝播していったか。また、いつ頃から浄土宗が名実ともに独立教団として歩んでいくのか等の問題を、しっかり把握しておくこと。
■成績評価の基準	法然上人以後の浄土宗が歴史的にどのように展開していくのか、そしてその節目で登場する人物たちの業績・後世への影響・意義を把握できているのかを基準にします。

授業科目	東南アジアの仏教				単位	2.0
担当者	山極　伸之			シラバスグループ	TB5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
静と動の仏教(新アジア仏教史；04)	奈良康明ほか	佼成出版社	[ISBN]9784333024322

■授業の概要	この科目は、インドで誕生した仏教がアジアの各地へと伝えられるなかで、東南アジアで受容されていった経緯と、そこで変容を遂げていった歴史について概観することを目的とするものです。長い時間をかけて、東南アジア全域にわたる多様な地域性の中で、仏教がどのように変移し、受容されていったのかを把握することは、仏教に関わる様々な現象や思想を理解するためにも不可欠の要素と言えます。具体的には、スリランカ・ミャンマー・タイ・カンボジア・ラオスといった地域を中心とする仏教受容の歴史的な流れを捉え、それらが変容して現在に至っている状況を理解することを目指します。
■学習の要点	１．＜全体＞ーまず仏教がインドでどのように成立したのかを学ぶと共に、その仏教がどのように東南アジアへと展開していったのかを全体的に理解するよう努めてください。２．＜スリランカ＞ー仏教がインドからスリランカにどのように伝来したのかを理解すると共に、スリランカの各時代における仏教の変容とミャンマーなど東南アジア諸国との交流の流れを把握するよう努めてください。３．＜ミャンマー＞ースリランカとの交流を踏まえながら、ミャンマーにおける仏教の受容とサンガの展開を歴史的な経緯を踏まえて把握するように努めてください。４．＜タイ＞ータイという国家と仏教との関係について、タイの歴史を踏まえながら概観するように努めてください。５．＜カンボジアとラオス＞ーカンボジアとラオスを取り巻く歴史的な社会状況を踏まえながら、サンガの成立とその後の仏教の展開の流れを把握するように努めてください。
■学習の到達目標	①インドで成立した仏教がどのように東南アジアへと展開していったのかについて説明できる。②スリランカへの仏教伝来と、スリランカの各時代における仏教の変容について説明できる。③ミャンマーにおける仏教の受容とサンガの展開を歴史的な経緯を説明できる④タイという国家と仏教との関係について、タイの歴史を踏まえながら説明できる⑤カンボジアとラオスを取り巻く歴史的な社会状況を踏まえ、サンガの成立と仏教の展開について説明できる。
■成績評価の基準	学習の到達点への達成度を、最終試験における記述内容で確認し、評価する。

授業科目	仏教と日本文化				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
殺生と往生のあいだ-中世仏教と民衆生活	苅米 一志　著	吉川弘文館	[ISBN]9784642058148

■授業の概要	中世仏教を研究する上で、当時の社会との係わりという観点は重要である。これは単に寺社が多くの荘園や所領を有し、当時の社会経済上において多大な役割を果たしていたというだけでなく、当時を生きる人々の社会通念や生活規範まで深く規定していたからである。本科目のテキストである苅米一志『殺生と往生のあいだ　中世仏教と民衆生活』では、古代から中世における「殺生」とそこから生じる「罪業観」をめぐって、当時の仏教がどのような言説を生みだし、国家や民衆がどのように揺れ動いたのかが活写されている。まさに中世仏教がどのように社会で機能していたのかを考える上で好材料となる著書である。　また「殺生」をめぐる問題は中世のみならず、現代まで通じる課題であり、本書を受講生各自が主体的問題として捉えるなら、現代社会における我々の立ち位置を考えることもできるだろう。
■学習の要点	テキストの各章を読み、以下の点を中心に読み取ること。(古代国家と殺生)　・日本列島における狩猟・漁労と中央への贄献上の実態　・殺生戒の内容とその意義　・古代国家における「殺生」と「放生」をめぐる政策とその特質（中世のはじまりと殺生罪業観)　・狩猟・漁労による堕地獄と浄土往生　・白河院による「殺生禁断」策の特質（寺院・神社による「殺生禁断」)　・中世の民衆生活における狩猟・漁労の位置づけ　・寺院における殺生禁断とそれを支える論理　・神社に係わる狩猟・漁猟のあり方（荘園と「殺生禁断」)　・寺領荘園における殺生禁断の特徴、及びそこで形成される論理（殺生と武士の苦悩)　・叡尊による殺生禁断の特質　・苦悩する武士の出家への動機、武士による滅罪
■学習の到達目標	・日本の古代から中世における殺生禁断がどのような特徴をもっていたか、説明できるようになる。・仏教が中世の社会生活においてどのような役割を果たし、どのような論理を形成してきたか、説明できるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、古代から中世に至る殺生禁断の諸相について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	仏教と芸能				単位	2.0
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	TB5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教芸能	関山和夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248776&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	日本の文化史を支えてきた各種の芸能は、宗教の影響を強くうけ、発展してきました。このおり、仏教との関係は看過できないものがあります。したがって、日本文化史を論ずる場合、仏教が日本人の生活の隅々にまで浸透していた庶民生活史を十分に考慮する必要があります。古代から現代まで、さまざまな芸能が発生・生成し、展開してきました。伎楽・舞楽・平曲・能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・落語・講談・浪曲などなどです。これらの芸能の要素を考察すると、仏教との関係が濃厚に認められます。　本科目では、日本文化史の底辺に深く根を張った「仏教と芸能」との関係を具体的に追求し、考察することを目的とします。
■学習の要点	１．仏教と芸能の源流　　声明・講式・唱導の芸能としての特質を、詳しい資料によって学習する。２．歌謡芸能　　御詠歌・和讃・歌念仏などは質的にもすぐれた作品が多い。それらの成立や発展過程につ　　いて資料を提示して多角的に追求する。３．踊り芸能　　念仏踊りや盆踊りは日本古来の芸能と仏教が結びついた特異な民俗芸能であるので、その　　特徴や内容について説明し、仏教文化の一面を学ぶ。４．仏教と語り物　　仏教が生産した数々の「語り物」について諸資料によって研究する。５．仏教と話芸　　唱導（演説体説教）から落語・講談などの話芸が派生する経緯と歴史を詳しく学習する。
■学習の到達目標	日本において仏教と芸能とが如何に密接な関係にあり、芸能の生成と大成、展開に影響を与えたかを理解していただくことを到達目標とします。科目最終試験では要点を端的にまとめるようにしましょう。
■成績評価の基準	（１）誤字脱字の有無（２）論旨が明瞭か否か（３）問題の主旨にそいながら回答しているか。（４）要点を過不足なくまとめているか。（５）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	浄土宗日常勤行式の解説				単位	2.0
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	TB5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗日常勤行の話	香月乗光著	浄土宗	[ISBN]9784883631483

■授業の概要	「日常勤行」とは、毎日、仏前でおこなう「おつとめ」のことです。「おつとめ」をすることは、私たちの行いを善くし、生活を正しくしていく上において、たいへん重要な、意義のあるものです。「おつとめ」は私たちを仏道修行により邁進させるために整備・制定されているものであります。テキストは、浄土宗の日常勤行式の次第にそって、唱え方(音読、訓読)とその意味、さらには関係する浄土宗義、仏教思想を解説しています。本科目では、浄土宗の日常勤行式も、阿弥陀仏に対する深い信仰によって作られており、その中には浄土宗の宗義が取り込まれているということを学んでいくことができます。
■学習の要点	浄土宗の日常勤行式が、どのような浄土宗義に基づいて組織されているかを、しっかりと理解することが必要です。法然上人が『一枚起請文』において「ただ往生極楽のためには(中略)ただ一向に念仏すべし」と述べられていること、すなわち正定業たる称名念仏がすべての中心であるということは、日常勤行式でも同様です。　なぜ称名念仏がすべての中心であるのか、称名念仏以外の修行はどのように位置づけられるのかということが、浄土宗義ではどのように説明されているのかを考え、一つ一つの偈文の意味内容、順序配列を理解していくことが必要です。
■学習の到達目標	【到達目標】・日常勤行式に取り込まれている浄土宗義が正しく指摘できる。・日常勤行式の最重要部分はどこか指摘でき、その理由について説明できる。・日常勤行式の構成（順序配列）の意味が説明できる。・それぞれの偈文の意味、および浄土宗義との関係について説明できる。
■成績評価の基準	・必要なキーワードが回答に正しく含まれているか否か。・キーワードの意味を正しく理解できているか否か。

授業科目	仏教と福祉				単位	2.0
担当者	野田　隆生			シラバスグループ	TB5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教・共生・福祉	水谷幸正	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542916

■授業の概要	現代社会を生きるわたしたちが、満足し、充実した生活を送ることは可能なのだろうか。少子・高齢社会と言われて久しいが、保育士不足や介護士不足、認知症のケア、児童虐待や高齢者虐待、ひとり親家庭の問題等々が毎日のようにメディアを賑わし、「いのち」の危機を覚えるような現象が次々と起きている。そのような現実の社会の中で、果たして「しあわせ」と言える生活を手に入れるにはどうすればいいのでしょうか。こうした社会が抱える諸問題に、社会福祉や医療がその支えとなる一方で、「いのち」の意義を説く教えとして「仏教」が挙げられる。　本講の学びとしては、「いのち」の尊厳や生きている人間の心の支えとなる教えを「仏教福祉」という視点で考究することを主題とする。
■学習の要点	仏教については、仏教の基礎となる文献を読み込み、下記に示す用語について簡単に説明ができるようにしておくことが肝要である。　☆基礎用語☆　・四苦八苦　・四諦八正道　・生死一如　・輪廻　・三法印　・共生　福祉については、社会福祉関連の文献を読むことも必要であるが、それ以上に時事問題に目を向け、それらについて批評・批判する姿勢を求める。特に、ターミナル・ケア、脳死・臓器移植、児童虐待、介護殺人の問題については着目することが必要となる。　仏教福祉については、関連学会の発行する論文集や参考文献を披覧することを求める。　　絵空事として仏教福祉を捉えるのではなく、現実社会で活かすことのできる概念として、時事問題の解決や人々へ安心感を与えることができるように働きかけることのできるひとつの考え方であるという意識で、以下の点に着目しながら学習をする。　　①　仏教福祉の概念について　②　地域社会における仏教福祉実践の活動について　③　社会福祉施設における仏教福祉実践の理念や具体的展開について　④　「いのち」の救いとしての仏教福祉について　⑤　現代社会における仏教と共生について
■学習の到達目標	現代社会における諸問題について、医学、看護学、社会福祉学などの専門領域のみでは解決し得ない事象について、「いのち」を基軸とした仏教なかんずく仏教福祉の可能性について思索し、あわよくば社会実践へと応用することができるようになる。
■成績評価の基準	⑴テキストのみならず、参考文献や各自が収集した文献、雑誌等の資料が試験に反映されていること。⑵設題が求める〔学習の要点〕を正しく理解し、文献、雑誌、資料等を参照にしながら 4,000 字程度で私見を交えながらまとめること。

授業科目	宗教法制				単位	2.0
担当者	野田　雅史			シラバスグループ	TB5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教法人ハンドブック　設立・会計･税務のすべて　11訂版	実藤秀志	税務経理協会	[ISBN]9784419065966
浄土宗宗教法制関係法令資料集〔第2版〕	笠原慎一監修	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244836&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教法は、憲法、宗教法人法、墓地、埋葬等に関する法律(以下、「墓埋法」という。)、税法、宗教法制史、宗教団体の自治法規等にまたがる広い分野を対象とします。大日本帝国憲法下と日本国憲法下において信教の自由や政教分離等の宗教法制がどのように変遷していったのかをしっかりと学習してください。それを前提として、宗教法人法、墓埋法、税法、宗教団体の自治法規等を具体的にしっかりと理解してください。条文については「宗教法制関係法令資料集」を中心に学習してください。浄土宗関係法規については、信教の自由を念頭に置きながら、包括宗教団体と被包括宗教団体との関係を意識しながら、学習してください。必要に応じて判例を学習し、憲法や法令等の解釈や適用において判例が果たしている役割とその内容を理解し、習得してください。
■学習の要点	次の各点について学習し、理解してください。① 日本国憲法下での信教の自由の保障規定と政教分離規定② 包括宗教団体と単位宗教団体③ 宗教法人の所轄庁とその権限④ 宗教法人の設立手続きの流れ⑤ 宗教法人の規則と宗教法人の規則の絶対的記載事項⑥ 宗教法人の代表役員の地位及び資格並びにその職務権限⑦ 宗教法人の責任役員の地位及び資格並びにその職務権限⑧ 宗教法人の代務者⑨ 宗教法人の仮代表役員について⑩ 宗教法人の仮責任役員について⑪ 宗教法人の監査機関について⑫ 宗教法人の事務運営について⑬ 宗教法人の規則の変更手続きについて⑭ 宗教法人の合併･解散について⑮ 宗教法人の会計について⑯ 宗教法人の税務について⑰ 墓地、埋葬等に関する法律及び同法律施行規則について

■学習の到達目標	①「学習の要点」に記載のある内容についてテキストを中心としてしっかりと理解して、記憶することを学習の到達目標とします。この学習の到達目標に対する到達度合を科目最終試験で測ります。そして、その到達度合によって成績評価します。②科目最終試験の問題はしっかりとテキストの内容を理解・記憶していれば、最低限の記載はできる内容とします。
■成績評価の基準	科目最終試験の採点は加点方式を基本とします。試験問題が求めている解答内容の一定程度以上の解答の記載が答案にあれば 60 点とします。特に深い理解や積極的な学習成果が科目最終試験の問題の出題意図に沿った内容で答案に記載されていれば加点事由とします。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	仏教看護				単位	2.0
担当者	永田　真隆			シラバスグループ	TB5554	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教と看護	藤本淨彦ほか編	法蔵館	[ISBN]9784831856197

■授業の概要	人間の尊厳を老苦・病苦・死苦の克服に置く仏教が、病苦に直面した人の看護、死に臨んだ人の看護のあり方をどのように捉え指導していたのか、また病者自身の加療療養の心得、終末に際しての心得をどのように指導していたのかを歴史的に振り返りつつ、現代仏教の課題としても学習する。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を熟読し、自分なりにまとめる。その際には以下の点を中心に読み込み、要点や問題点を整理するとよい。最後にそれらに対する自分の見解をまとめておく。・律蔵に規定されるサンガにおける看病人法にみられる仏教看護の特色・大乗菩薩戒を説く仏典にみられる仏教看護の特色・法然の臨終観・各種の臨終行儀書にみられる病人と看病人の関係性・ブッダの死生観・ブッダとアーナンダの関係性より捉えられる仏教的ターミナル・ケア・ターミナル・ケアにおける仏教の役割と期待・ビハーラ・ケアにおけるビハーラ僧の役割
■学習の到達目標	「学習の要点」にあげられた内容を理解することで、仏教看護を歴史的に振り返り、その意義を説明することができる。また現代仏教の課題としても理解し、主体的に考える力を身につけることができるようになる。
■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、論理的矛盾や無意味な繰り返し、誤字脱字、読み手に誤解を与える表現はないかをまずは確認する。「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に応じて、成績評価をする。

授業科目	仏教伝道学Ⅱ				単位	2.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB5555	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
法然上人のお言葉一元祖大師御法語一	布教師会編集委員会編	総本山知恩院布教師会	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248869&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教伝道者、とりわけ浄土宗の教義を伝道する浄土宗教師は、仏教の思想はもちろん、念仏の元祖である法然上人の教えを伝道できなければならない。伝道布教のためには伝道教案（原稿）が必要である。　この科目では、テキストを参考に、伝道教案（原稿）の作り方の基本として、法説・譬喩・因縁・合釈に添うように原稿を組み立てていく。このことによって法然上人のご法語、浄土宗義の理解を深め、正しい念仏の教義を伝道出来るようにする。
■学習の要点	浄土宗教師資格を得るための課程であるが、浄土宗教師は布教・伝道者たるべきである、という考えのもと、伝道教案（原稿）を実際に作成する作業をしてもらう。浄土宗の伝統的な説教の方法である法説・譬喩・因縁・合釈に添う組み立てで原稿を作成すること。
■学習の到達目標	①浄土宗教師として、安居院流説教を修得する。②法然法語が理解できる。
■成績評価の基準	法比因縁合釈の形式を守り、論理的に、また文章表現も正しく記述されていれば 90 点以上。形式を踏まえず、また法然思想から逸脱していれば 59 点以下。

授業科目	京都と文学（古典）				単位	2.0
担当者	筒井　大祐			シラバスグループ	TM5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新訂 方丈記	鴨長明著・市古貞次校注	岩波書店	[ISBN]9784003010013
方丈記	鴨長明著・浅見和彦校訂	ちくま学芸文庫	[ISBN]9784480094070

■授業の概要	『方丈記』は、京都・下鴨神社の社家に生まれた鴨長明によって書かれた中世を代表する随筆である。本科目では、鴨長明の視点を通して書かれた『方丈記』を読むことで、中世の京都の様相を概観する。

■学習の要点	『方丈記』を読んだ上で、中世に生きた鴨長明によって書かれた『方丈記』に「京都」が、どのような場所として描かれているかを、本文から読み取れる事を目指す。

■学習の到達目標	鴨長明『方丈記』の内容を理解した上で、分析や考察を加える事ができる。

■成績評価の基準	『方丈記』の内容を理解した上で、受講者自身の分析や考察を加えているかを評価する。

授業科目	京都と文学（近・現代）				単位	2.0
担当者	朴　銀姫			シラバスグループ	TM5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
京都の明治文学 —伝統の継承と変革	河野仁昭著	白川書院	[ISBN]9784786700477

■授業の概要	慶応 4 年、江戸は東京と改められ、京都は首都の座を東京に明け渡した。明治時代の近代文明開化のなかで、京都の人たちは、京都が時代に遅れた古都として取り残されることを嫌っていた。伝統の継承と変革こそが、京都の人たちの課題であった。テキスト『京都の明治文学』は、このような明治時代の京都と関連する歌人や詩人、小説家の文学作品を取り上げ、文学と京都との関わりについて深い論を展開した。　本授業では、テキストを通して、京都という土地がどのような文学作品を生み出し、また、舞台装置としての機能を働く京都の郷土性が、それぞれの作品のなかで、具体的にどのように描かれ、イメージ作られたのかを理解した上で、現実の京都と作品中の京都との差異について実体験し、作者の動機や意図について追究する。
■学習の要点	この科目はテキストにより履修するので、テキストの学習を中心とする。　テキストに取り上げられている新聞や歌人、俳人、詩人、小説家の作品に詠われている、または描かれている京都の各名所を把握し、具体的にどのように詠われ、描かれたのか、そして著者はどのように説明したのかを理解し、さらに作品と京都の各名所との関連について探求することを中心に学習を進める。
■学習の到達目標	明治時代の京都と文学との関わりのある多様なジャンルの作品やその解説・論述を通して、具体的に、また現実との比較を通して学習し、京都という郷土性と文人たちの関係、作品に描かれた京都のイメージ、作品に働く機能などについて理解を深めることを目標とする。
■成績評価の基準	テキストにそくした学習の成果を答案にまとめることが基本である。まずはテキストの理解である。しっかり正確に理解した上で、リポートの形式に沿ってまとめ、自分が知っている京都の歴史や文化、地理などの知識に合わせて、自分の見解を述べる。

授業科目	ことばと表現（古典）				単位	2.0
担当者	神原　勇介			シラバスグループ	TM5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本語の古典	山口仲美著	岩波書店	[ISBN]9784004312871

■授業の概要	記紀万葉から近世までの資料（公的文書、消息、文学作品など、さまざまなジャンルの資料）をもとに、ことばが表現の中でどのように生きているかを味わう。古の人々・今の人々と対話することで、生死や世界について考え、また、人々の思いや美に触れて、情感を育む。そして、自らも短歌・俳句・詩・散文などを作って、自らの考えや心を表現する。どのようなことばを選び、どのような文章を作れば、他者に心を伝えることができるのか、ことばの力を磨く。
■学習の要点	記紀万葉から近世までの資料（公的文書、消息、文学作品など、さまざまなジャンルの資料）をもとに、ことばが表現の中でどのように生きているかを味わう。古の人々・今の人々と対話することで、生死や世界について考え、また、人々の思いや美に触れて、情感を育む。そして、自らも短歌・俳句・詩・散文などを作って、自らの考えや心を表現する。どのようなことばを選び、どのような文章を作れば、他者に心を伝えることができるのか、ことばの力を磨く。　具体的には、山口仲美『日本語の古典』の記述を参考に、ことばと表現について、考えを深める。
■学習の到達目標	学習の要点に記載のとおり。
■成績評価の基準	山口仲美『日本語の古典』を味読し、日本語のことばと表現の機微を理解する。日本の古典作品の、個別あるいは、全体的な、ことばの性格、表現の特徴を理解する。整った日本語の文章が書け、自分の考えを適切に表現できる。

授業科目	ことばと表現（近・現代）				単位	2.0
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	TM5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
物語論　基礎と応用	橋本陽介著	講談社選書メチエ	[ISBN]9784062586504

■授業の概要	文学へのアプローチ方法のひとつである「物語論」を理解する。

■学習の要点	文学研究は、まず作品の〈ことばと表現〉に触れなければ話にならない。しかし、ただ漫然と作品を読んでいたのでは、通常の読書と変わらない。では、文学研究として作品を読むとはどういうことか。そのことを身につけるために、無数にある文学へのアプローチ方法のなかから「物語論」について学習する。

■学習の到達目標	「物語論」について十分に理解し、今後の研究において活用できるようになる。

■成績評価の基準	テキストの内容を十分に理解しているか、具体例が適切に用いられているか、テキストで学んだことを自分の読解に生かせているか。

授業科目	日本書道史				単位	2.0
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	TM5119	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
政治家と書　―近現代に於ける日本人の教養―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639023364

■授業の概要	古来、中国では、教養人の間では書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は人々に尊重されてきた。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれてきたのである。　中国書道史、日本書道史−それぞれの文化の流れを理解することは、東洋古来の美の探究に他ならない。書を学問的に追求することの楽しさをこの科目でぜひ味わってほしい。
■学習の要点	1 三筆の人となりと、それぞれの代表作について学習する。2 三蹟の人となりと、それぞれの代表作について学習する。3 「かな」の代表的作品について学習する。特に、「高野切古今集」については、第一種・第二種・第三種の違いを明確にしておく。4 近現代の政治家の書について学習する。　以上を中心に中国書道史・日本書道史とも幅広く学んでほしい。特に、人物については『書の基本資料』（中教出版）12 巻中国の能書、13 巻日本の能書等によってまとめておくとよい。また、それぞれの代表作については、『書道全集』（平凡社）・『書道芸術』（中央公論新社）等によって確認しておくとよい。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②採点は、加点方式を基本とする。問題に対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は、1500 字以上に及んでいること。これを充たせば 10 点を加える。⑤誤字・脱字に注意すること。⑥人名・作品名は、基本的に漢字で記入すること。
■成績評価の基準	試験結果で判断する。

授業科目	中国書道史				単位	2.0
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	TM5120	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国の政治家と書　―激動の時代を生きた政治家たちの残したもの―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639025221

■授業の概要	古来、中国では、教養人の間では書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は人々に尊重されてきた。中国書道史の文化の流れを理解することは、東洋古来の美の探究に他ならない。書を学問的に追求することの楽しさをこの科目でぜひ味わってほしい。
■学習の要点	①王羲之・王献之の人となりと、代表作について学習する。②唐の四大家の人となりと、それぞれの代表作について学習する。③宋の四大家の人となりと、それぞれの代表作について学習する。④近現代中国の政治家の書について学習する。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②採点は、加点方式を基本とする。問題に対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は１５００字以上に及んでいること。これを充たせば 10 点を加える。⑤誤字・脱字に注意すること。⑥人名・作品名は、基本的に漢字で記すこと。
■成績評価の基準	試験結果で判断する。

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	西洋言語文化論				単位	2.0
担当者	寺尾　佳子			シラバスグループ	TP5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
BD（ベー・デー）―第九の芸術	古永真一著	未知谷	[ISBN]9784896423129

■授業の概要	ヨーロッパの文化圏におけるフランス文化の位置づけを学び、英語圏文化や我が国の文化と比較検討することで、文化の多様性についての認識を深めていく。テーマは大きく３つに分ける。「都市と観光」では世界的な観光都市であるパリをモデルとして、都市の機能や多言語対応について学ぶ。「manga と BD」では日仏の漫画比較を通じて、各国での受容の歴史や文化圏による表象の違いを学ぶ。「映画」ではフランスの映画産業の仕組みを理解するとともに、表現手法についても比較検討する。受講生は自ら調べ、能動的に課題に取り組むことが求められる。
■学習の要点	具体的にリポートに取りかかる前に、テキスト全体を熟読し、フランス文化全般に対して理解を深めておくこと。指定の参考文献以外のものでも積極的に活用して学習に取り組んでほしい。
■学習の到達目標	フランス文化を通して文化の多様性とその重要性について学び、ヨーロッパ文化への理解を深める。
■成績評価の基準	・学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にして、所定の字数内でまとめること。・テキストや資料の文章をそのまま写し取ったような解答は不合格とする。・自らの考察を簡潔にまとめること。考察が無いと不合格とする。・テキスト以外の参考資料を使用した場合は、明記すること。・リポートの約束事を守り、誤字・脱字に注意し、正確な日本語で書くこと。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	西洋社会文化論				単位	2.0
担当者	寺尾　佳子			シラバスグループ	TP5418	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
フランス・モード史への招待	徳井淑子･朝倉三枝･内村理奈著	悠書館	[ISBN]9784865820102

■授業の概要	ヨーロッパ文化圏におけるフランス文化の位置づけを学び、英語圏文化や我が国の文化と比較検討することで、文化の多様性についての認識を深めていく。テーマは大きく３つに分ける。「食文化」ではフランス料理の伝統やカフェ文化の歴史を学ぶとともに、各地方の特色を料理文化から理解する。「アート」では、最新の芸術文化に触れてヨーロッパのアートシーンを概観し、また伝統的な芸術の歴史、美術館のあり方についても考察する。「ファッション」ではハイブランドの歴史や、グローバルな時代に合わせたメゾンの経営実態などを学ぶ。受講は自ら調べ、能動的に課題に取り組むことが求められる。
■学習の要点	具体的にリポートに取りかかる前に、テキスト全体を熟読し、フランス文化全体に対して理解を深めておくこと。指定の参考文献以外のものでも積極的に活用して学習に取り組んでほしい。
■学習の到達目標	フランス文化を通して文化の多様性とその重要性について学び、ヨーロッパ文化への理解を深める。
■成績評価の基準	・学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にして、所定の字数内でまとめること。・テキストや資料の文章をそのまま写し取ったような解答は不合格とする。・自らの考察を簡潔にまとめること。考察が無いと不合格とする。・テキスト以外の参考資料を使用した場合は明記すること。・リポートの約束事を守り、誤字脱字に注意し、正確な日本語で書くこと。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	書論				単位	2.0
担当者	前田　秀雄			シラバスグループ	TM5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
書道理論〔改訂〕	加藤達成編	佛教大学	[ISBN]9784907177744

■授業の概要	古き良き日本の伝統を真に理解し、教養として身につけた人材が、今必要とされている。毛筆の書は、「己の志を詩にして、それを可視的な形で紙面に焼き付けたもの」と定義される。また、「書は人なり」。人格・識見・技量、三位一体の向上を目指して、全人格的な完成が求められなければならない。　ただ、日常の生活習慣が変化した昨今では、毛筆の学習は、過去の人々の、時間をかけることで「潜移黙化（知らず知らずのうちに感化されること）」に依存していた方法が望めなくなっている。そこでまず「眼高手低」にして、合理的で正確な訓練方法により学習効率を上げなければならない。臨書学習のテキストとしての古典作品は「物言わぬ師」であるが、幸い各種「書論」の作者たちは、等しく古典の作家でもあった。「書論」の熟読は、書写・書道教育の上に有効である。
■学習の要点	書の学習には、書法技術と理論の相補学習が望まれてきた。技術と理論は互いの向上に伴って、創作や教育の現場に活用されるものである。テキスト以外に、中高の書写書道のテキストや関係書物への関心も大いに必要なことである。　１．書とはどういう芸術か、他と比較する。　２．書美を分析、表現上の原理を考える。　３．創作過程を考え、書美の作られる原理を考える。　４．「余白」について考える。　５．「線」について他の芸術と比較する。６．臨書の大事なことを具体的に考える。
■学習の到達目標	古典としての書論学習によって、書の本質に理解が深まったか、書作の技術向上には、思索が大切であることに気づきが生まれたか？
■成績評価の基準	書論を学んで得た知識が、単なるオウム返しに終わらず、吟味咀嚼され、きちんと自分の言葉に落とし込まれた表現になっているかを評価したい。

授業科目	書道実技				単位	2.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5510	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	篆書体の特徴を学ぶ　1）篆書の用筆を学習する　2）篆書の字形を学習する隷書体の特徴を学ぶ　1）隷書の用筆を学習する　2）隷書の字形を学習する
■学習の要点	・篆書体の用筆（逆筆）を学習する・篆書体の字形を学習する・隷書体の用筆（逆筆）（波磔）を学習する・隷書体の字形（扁平）等を学習する
■学習の到達目標	設題の留意点で示した各項目について、技術を習得すること。落ち着いて課題に向き合い、丁寧に沢山練習することが大切です。
■成績評価の基準	設題の留意点で示した各項目について技術を習得し、表現できているか。誤字脱字のあるもの、テキストをなぞり書きしたものは提出に値しない。繰り返し提出していただいて理解の深まりと、技術の向上を評価させていただきたい。

授業科目	日本文学史１				単位	2.0
担当者	有田　和臣			シラバスグループ	TM5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧　ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	漢文学１			単位	2.0
担当者	鷲原　知良		シラバスグループ	TM5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文法基礎：本当にわかる漢文入門（講談社学術文庫；２０１８）	加地伸行著	講談社	[ISBN]9784062920186

■授業の概要	「漢文学」では、いわゆる「漢文訓読」の方法について学び、「漢文訓読」で中国の古典を読む。　日本人は中国の古典を、主として返り点を付け仮名を添えて読む「漢文訓読」の方法で読んできた。そのように受容してきた「漢文」が日本語に与えた影響は大きい。この科目では、まず漢文訓読がどのように成立したか、その歴史的背景を学ぶ。次に、その完成した漢文訓読がどのようなものか、仕組みを理解する。最後に、漢文訓読が持つ問題点についても考える。　また、あわせて有名な漢文に親しみ、漢文を読むための基礎的知識を習得し、日本文学との関連についても学ぶ。
■学習の要点	テキストの内容を理解すること以外に、以下のことを心がけよう。テキストで取り上げられている漢文の名句に関して、　１．簡単な白文に返り点・添え仮名を付けて読み下し文を作れるようになること。　２．置き字・再読文字や漢文の語法を理解すること。　３．歴史・文化的な背景の知識を身に付け、解説できるようにすること。１．２．については、高校卒業までで学んできたことをまず確認しよう。その上で、単に受験用の知識ではなく、その成立の背景や日本語との関係を理解し説明できるようにする。また可能な限り暗誦を心がけ、漢文のリズムを身に付けよう。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．漢文の名句について、次のことができること。　a．白文に返り点を付けられる　b．ａから読み下し文を作れる。　c．読み下し文を白文に戻せる。２．漢文に関する基礎的な知識について簡単に説明できること。【科目最終試験における成績評価の基準】リポート添削・評価の基準および留意点を参照。【「答案」作成上の留意点】リポート学習の留意点を参照。
■成績評価の基準	出題に応じて適切な用語で適切な説明ができているか。例示等により具体的な説明ができているか。以上の二点について評価し、誤字等の不備は減点する。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	日本文学史１			単位	2.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	漢文学１				単位	2.0
担当者	鷲原　知良			シラバスグループ	TM5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文法基礎：本当にわかる漢文入門（講談社学術文庫；２０１８）	加地伸行著	講談社	[ISBN]9784062920186

■授業の概要	「漢文学」では、いわゆる「漢文訓読」の方法について学び、「漢文訓読」で中国の古典を読む。　日本人は中国の古典を、主として返り点を付け仮名を添えて読む「漢文訓読」の方法で読んできた。そのように受容してきた「漢文」が日本語に与えた影響は大きい。この科目では、まず漢文訓読がどのように成立したか、その歴史的背景を学ぶ。次に、その完成した漢文訓読がどのようなものか、仕組みを理解する。最後に、漢文訓読が持つ問題点についても考える。　また、あわせて有名な漢文に親しみ、漢文を読むための基礎的知識を習得し、日本文学との関連についても学ぶ。
■学習の要点	テキストの内容を理解すること以外に、以下のことを心がけよう。テキストで取り上げられている漢文の名句に関して、　１．簡単な白文に返り点・添え仮名を付けて読み下し文を作れるようになること。　２．置き字・再読文字や漢文の語法を理解すること。　３．歴史・文化的な背景の知識を身に付け、解説できるようにすること。１．２．については、高校卒業までで学んできたことをまず確認しよう。その上で、単に受験用の知識ではなく、その成立の背景や日本語との関係を理解し説明できるようにする。また可能な限り暗誦を心がけ、漢文のリズムを身に付けよう。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．漢文の名句について、次のことができること。　a．白文に返り点を付けられる　b．ａから読み下し文を作れる。　c．読み下し文を白文に戻せる。２．漢文に関する基礎的な知識について簡単に説明できること。【科目最終試験における成績評価の基準】リポート添削・評価の基準および留意点を参照。【「答案」作成上の留意点】リポート学習の留意点を参照。
■成績評価の基準	出題に応じて適切な用語で適切な説明ができているか。例示等により具体的な説明ができているか。以上の二点について評価し、誤字等の不備は減点する。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	仏教と文学				単位	2.0
担当者	鵜飼　光昌			シラバスグループ	TN5411	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰・黒田彰子共著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教が中国文学・日本文学にどのような影響を与えたかを考察する。

■学習の要点	文学についての理解と仏教についての理解をともに十全なものにしつつ、仏教が文学においてどのように表現されているかを考察する。しかしこのことはなかなか容易ではない。一方で文学についての深い理解が要求され、もう一方では仏教思想や仏教経典にたいする確実な把握が求められるからである。その両者を可能な限り追及しつつ、文学者がどのように仏教を理解し、それを自己の文学としたのか、を考究する。

■学習の到達目標	空海が「三教指帰」において、最終的に仏教に軍配を上げたのはなぜか、を理解することを、目標とする。

■成績評価の基準	テキストは熟読されているか、ポイントは正確につかまれてるか、誤りはないか、明確な論述がなされているか、を成績評価の基準とする。

授業科目	漢文講読				単位	2.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原典対照中国思想文学通史	中村璋八	明治書院	[ISBN]9784625340031

■授業の概要	長い中国の歴史の中から、おびただしい思想・文学に関する詩文が作られてきました。その中にはすでに日本語に訳されたものもあるが、それは極僅かであり、その他の大部分の漢籍は訳なしで読まねばなりません。ところで、それらの漢籍を読破するには漢文訓読法が有効なことは言うまでもありません。しかし近年我が国では、この漢文訓読法が軽視されてきた結果、漢文読解力が著しく落ちてまいりました。　そこで受講生の皆さんには、この科目の受講を通じて、少しでも漢文訓読に親しまれるとともに中国古典学術に関し基礎的な知識を持たれることを願っております。
■学習の要点	中国古典文を読む為には、なによりも知識が必要です。そこで、まずテキスト「中国思想文学通史」を、じっくり読んで中国古典に関する基礎的知識を身につけることが肝心です。尚テキストには沢山の代表的中国古典詩文を収めるが、御覧の通りすべて訳注がついていません。これらを読む時は、図書館や市販の書籍で訳注本を見つけ、それぞれ対照して読まれることをおすすめします。
■学習の到達目標	テキストや参考書などを熟読し、できるだけ知識を蓄えること。試験にあたってはより具体的な記述ができることを要求します。
■成績評価の基準	テキストが熟読されているか、ポイントは正確につかまれているか、誤りはないか、明晰な論述がなされているか、を成績評価の基準とします。

授業科目	異文化理解「中国」 1				単位	2.0
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	TN5541	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国の歴史（ちくま学芸文庫）	岸本美緒	筑摩書房	[ISBN]9784480096913

■授業の概要	「異文化理解」――これは最近よく聞くことばであるから、耳に馴染んだ語感も相まって、容易な事柄に違いないと早合点する向きがあるかもしれない。しかしその実、「異文化」の「理解」を成し遂げるのは決してたやすいことではない。当科目では、自国の文化とは異なる、中国の文化について、虚心に、知的に理解することに専心努力してもらう。「異文化」を学ぶという取り組みはすなわち、「異文化」の存在を通じて、自国の文化についても改めて学びなおし、異社会の構造を考察しながら、おのれの属する社会への理解をも同時に深めるという営みである。その時、彼我に対する偏見や先入観は極力捨て去らねばならない。 「文化」という、広範にわたり、かつ、抽象性にも富む対象を理解するにあたっては、なんらかの具体的な「とっかかり」が必要である。そこで、本科目ではそのきっかけを「歴史」に求める。なぜならば、「文化」は「歴史」を形成する一大要素であり、逆に「歴史」もまた、「文化」の生生流転を映して止まぬ一大スクリーンであるからだ。文化の理解に励む時、併せてその歴史をも学ぶことは必須である。 もちろん「とっかかり」と言う以上、ここで持ち出す「歴史」の情報量には配慮するつもりである。この科目は「異文化（中国文化）」を学ぶためのものであり、「歴史」学習のためのものではないのだから。そこで本科目は、著者の岸本美緒によって手際よくまとめられた中国通史をテキストとして選定した。冒頭、「文化」に関して岸本は次のように言う、「そもそも“中国”とは何か、と考えてみたとき、中国それ自体がさまざまな文化が交流する複雑な過程のなかでつくられてきたものであることに思い至る。周辺諸国が中国の影響を受けたというばかりではなく、中国そのものが、周辺諸地域との対立や文化的融合を通じて形づくられてきたのである」と（テキスト「まえがき」）。著者の視線が、王朝や国家の交替史に止まらず、「文化」や社会といった、歴史の基底を成すものにまで、深く鋭く及んでいることを読者に知らしめる一節である。 このテキスト学習を契機に、中国の「歴史」を通じて、その基底を成す「文化」を知ろうとする発想と態度を養ってほしい。また、中国と日本、両国の歴史と文化を比較考察し、両者に対する認識を深めてほしい。
■学習の要点	まずは各章の内容を正しく理解し、要約することに力を注いでほしい。 作業としては、リポート作成を意識して、各章の内容を（もともと凝縮された内容ではあるが、そこからさらに縮めて）200～300 文字程度にまとめるところから始めること。そのうえで【史料】と【焦点】とを読み、【焦点】の方を 100 文字程度に要約する。 上記の作業が一通り済んだら、テキストの全体を俯瞰して、歴史の大きな流れを意識しつつ、「前近代（先秦～アヘン戦争まで）」「近現代（アヘン戦争～今日まで）」の両時期に区分し、「前近代」に属する各章の要約をつなげてみる（【史料】と【焦点】の内容も適宜反映させること）。各章をつなげる際には、その背景たる文化・社会の変遷に注意し、断片的な記述にならないよう十分配慮しながら、3000 文字程度でまとめてみる。 最後の仕上げとして、日本史に目を転じ、古来、

	日本が中国より受容してきたさまざまな文化的影響について、中国・日本における“（文化の）現れ方の違い”に留意しつつ、200 文字程度で整理し、先にまとめた「前近代史」に付加する。

■学習の到達目標	中国の歴史について、その基底を成す「文化・社会」の変遷を押さえつつ、あくまでもテキストに沿って正確に理解した上で、わかりやすく記述できるということが第一の到達目標である。併せて、日本文化についても考察し、その、中国からの影響下において遂げた（影響の）独自展開の様相について、着実な分析に基づいて論理的に記述できるということが第二の到達目標である。答案作成時には、それらの到達目標を意識した上で、簡潔にまとめるよう努めること

■成績評価の基準	1)中国の歴史について、テキストに沿って正確に理解し、わかりやすく記述できているか：40 点 2)歴史の基底を成す「文化・社会」の変遷に注意が行き届いているか：40 点 3)中日文化の交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できているか：20 点

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	異文化理解（中国）1				単位	2.0
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	TN5541	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国の歴史（ちくま学芸文庫）	岸本美緒	筑摩書房	[ISBN]9784480096913

■授業の概要	「異文化理解」――これは最近よく聞くことばであるから、耳に馴染んだ語感も相まって、容易な事柄に違いないと早合点する向きがあるかもしれない。しかしその実、「異文化」の「理解」を成し遂げるのは決してたやすいことではない。当科目では、自国の文化とは異なる、中国の文化について、虚心に、知的に理解することに専心努力してもらう。「異文化」を学ぶという取り組みはすなわち、「異文化」の存在を通じて、自国の文化についても改めて学びなおし、異社会の構造を考察しながら、おのれの属する社会への理解をも同時に深めるという営みである。その時、彼我に対する偏見や先入観は極力捨て去らねばならない。 「文化」という、広範にわたり、かつ、抽象性にも富む対象を理解するにあたっては、なんらかの具体的な「とっかかり」が必要である。そこで、本科目ではそのきっかけを「歴史」に求める。なぜならば、「文化」は「歴史」を形成する一大要素であり、逆に「歴史」もまた、「文化」の生生流転を映して止まぬ一大スクリーンであるからだ。文化の理解に励む時、併せてその歴史をも学ぶことは必須である。 もちろん「とっかかり」と言う以上、ここで持ち出す「歴史」の情報量には配慮するつもりである。この科目は「異文化（中国文化）」を学ぶためのものであり、「歴史」学習のためのものではないのだから。そこで本科目は、著者の岸本美緒によって手際よくまとめられた中国通史をテキストとして選定した。冒頭、「文化」に関して岸本は次のように言う、「そもそも“中国”とは何か、と考えてみたとき、中国それ自体がさまざまな文化が交流する複雑な過程のなかでつくられてきたものであることに思い至る。周辺諸国が中国の影響を受けたというばかりではなく、中国そのものが、周辺諸地域との対立や文化的融合を通じて形づくられてきたのである」と（テキスト「まえがき」）。著者の視線が、王朝や国家の交替史に止まらず、「文化」や社会といった、歴史の基底を成すものにまで、深く鋭く及んでいることを読者に知らしめる一節である。 このテキスト学習を契機に、中国の「歴史」を通じて、その基底を成す「文化」を知ろうとする発想と態度を養ってほしい。また、中国と日本、両国の歴史と文化を比較考察し、両者に対する認識を深めてほしい。
■学習の要点	まずは各章の内容を正しく理解し、要約することに力を注いでほしい。 作業としては、リポート作成を意識して、各章の内容を（もともと凝縮された内容ではあるが、そこからさらに縮めて）200～300 文字程度にまとめるところから始めること。そのうえで【史料】と【焦点】とを読み、【焦点】の方を 100 文字程度に要約する。 上記の作業が一通り済んだら、テキストの全体を俯瞰して、歴史の大きな流れを意識しつつ、「前近代（先秦～アヘン戦争まで）」「近現代（アヘン戦争～今日まで）」の両時期に区分し、「前近代」に属する各章の要約をつなげてみる（【史料】と【焦点】の内容も適宜反映させること）。各章をつなげる際には、その背景たる文化・社会の変遷に注意し、断片的な記述にならないよう十分配慮しながら、3000 文字程度でまとめてみる。 最後の仕上げとして、日本史に目を転じ、古来、

	日本が中国より受容してきたさまざまな文化的影響について、中国・日本における“（文化の）現れ方の違い”に留意しつつ、200 文字程度で整理し、先にまとめた「前近代史」に付加する。

■学習の到達目標	中国の歴史について、その基底を成す「文化・社会」の変遷を押さえつつ、あくまでもテキストに沿って正確に理解した上で、わかりやすく記述できるということが第一の到達目標である。併せて、日本文化についても考察し、その、中国からの影響下において遂げた（影響の）独自展開の様相について、着実な分析に基づいて論理的に記述できるということが第二の到達目標である。答案作成時には、それらの到達目標を意識した上で、簡潔にまとめるよう努めること

■成績評価の基準	1)中国の歴史について、テキストに沿って正確に理解し、わかりやすく記述できているか：40 点 2)歴史の基底を成す「文化・社会」の変遷に注意が行き届いているか：40 点 3)中日文化の交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できているか：20 点

授業科目	英語文学論１			単位	2.0
担当者	松本　真治		シラバスグループ	TP5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イギリス文学史	川崎　寿彦　著	成美堂	[ISBN]9784791934034

■授業の概要	日本語で書かれたテキストを使用して、イギリス文学の世界を学ぶ。基本的には文学史のように時間軸に沿って学習するが、網羅的にではなく、各時代で我々にとって興味深い作家・作品を重点的に学ぶ。作品についてはできる限り、原文（英文)、翻訳、映画版等によって、受講生各自で触れてもらいたい。なお、指定された作品については、翻訳で作品を味わってもらい、ブックリポートを提出する。
■学習の要点	１．テキストを丁寧に読んで、全体的な内容を把握した上で、各時代の時代背景、主要な作家・作品、重要事項について学ぶこと。２．以下の項目については重点的に学習し、要点をおさえた上で簡潔にまとめておくこと。１）古英語からシェイクスピアまでのイギリス文学について。２）17 世紀および 18 世紀のイギリス文学について。３）18 世紀およびロマン主義時代のイギリス文学について。４）ロマン主義時代とヴィクトリア朝期のイギリス文学について。５）ヴィクトリア朝期から第 2 次世界大戦までのイギリス文学について。６）20 世紀のイギリス文学について。
■学習の到達目標	１）古英語・中英語期から現代にいたるイギリス文学の主だった作家・作品を挙げることができる。２）またその作家・作品の特徴、作品の概要について説明することができる。３）文学事項について簡潔に説明することができる
■成績評価の基準	各時代の背景、主要な作家・作品、そして重要事項の３点について説明が加えられていること。

授業科目	英語文学論２				単位	2.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP5102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アメリカ文学史	野間正二･持留浩二著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248939&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	文学と文化は切っても切り離すことの出来ない関係にある。本講義では英米文学のうちアメリカ文学を概観することになる。一国の文学を全体的に把握する方法としては最適な方法だと思われるので、本講義ではアメリカ文学史を辿ることになる。
■学習の要点	テキストで取り上げられているそれぞれの代表的な作家について、全般的に勉強してほしい。またアメリカ文学の歴史的背景をふまえた大きな流れをとらえてもらいたい。テキストには各作家の代表作の冒頭部分が引用されている。この箇所については完全に理解してもらいたい。
■学習の到達目標	アメリカ文学における主要な作家名、作品名をあげることができる。さらにそれぞれの作家、作品に影響を及ぼした時代背景や地域性について、説明することができる。
■成績評価の基準	(1) テキストの内容が良く理解できているかどうか(2) テキスト以外の参考資料を読み、テキストで得た知識以上の広がりを持った学習を行っているかどうか(3) テキストで出てくる内容に関して得た知識を元に、自分の考えをアウトプットできているかどうか

授業科目	英語学概論				単位	2.0
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	TP5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
解いて学ぶ認知言語学の基礎	瀬戸賢一･山添秀剛･小田希望著	大修館書房	[ISBN]9784469213614

■授業の概要	1）英語の音声の仕組み、2）〈ことば〉の仕組み、とりわけ英語を対象とした認知言語学、3）言語と文化の関わり、についてその概要を説明する。新しい英語学の考え方の基礎を身につけ、その視点から英語の構造を理解できることを目指す。日本語との比較を行い、人間の言語に共通な性質にも着目する。

■学習の要点	認知言語学の観点から英語学の基礎を学ぶ。中心は〈解釈〉とカテゴリーである。

■学習の到達目標	１．英語の音声の仕組みについて理解し、それを簡潔に説明することができる。２．英語学的なものの見方から、英語の諸現象を説明することができる。３．言語と文化の関わりについて理解し、それを簡潔に説明することができる。

■成績評価の基準	つねに実証的なデータが伴っていることが重要である。

授業科目	英文法				単位	2.0
担当者	橘髙　眞一郎			シラバスグループ	TP5205	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
English Grammar in Use	Raymond Murphy 著	Cambridge University Press	{9781108586627,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244692&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英文法はいわば英語のルールであるが英文法が英語という言語を完全に支配しているわけではない。従って、中学校や高等学校で習う学校文法で、英語の全ての運用方法が説明されるわけではない。英文法からはみ出す例外的な用法も含めて、大学生にふさわしい、一歩進んだ英文法を学ぶ。英文法のための英文法ではなく、使える英文法を取り扱う。
■学習の要点	日本人学習者にとって、定冠詞と不定冠詞、未来形と現在形、現在完了形と過去形（過去完了形）、関係代名詞と関係副詞、現在分詞と過去分詞、to 不定詞と動名詞、前置詞などは、習得が困難な項目であるが、そのような項目を重点的に学習する。
■学習の到達目標	日本人学習者にとって習得困難な定冠詞と不定冠詞、現在完了形と過去形、関係代名詞と関係副詞、現在分詞と過去分詞、to 不定詞と動名詞、前置詞などの用法について、きちんと説明できる。
■成績評価の基準	必ず具体例をあげて簡潔に説明すること。回りくどくて要領を得ない解答や誤字・脱字が多いものは評価が大幅に下がる。

授業科目	Advanced Grammar				単位	2.0
担当者	橘高　眞一郎			シラバスグループ	TP5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学習者中心の最新英文法	Mizuho Hasegawa・Mutsuko Kimata	朝日出版社	[ISBN]9784255153056

■授業の概要	学校文法で習った文法規則の根底にある英文法の原理を学ぶ。英文法の規則を機械的に覚えるのではなく、多くの実例を通してその根本原理を考察することにより、基本的用法を理解する帰納的・発見学習的な文法指導法を学ぶ。
■学習の要点	英文法が英語という言語を完全に支配しているわけではない。従って学校文法で英語の全ての言語事象が説明されるわけではない。英文法からはみ出す例外的な用法も含めて、表面的な英文法規則を覚えるのではなく、根本原理に即して英文法規則を考える習慣を身につける。（なお、テキストの練習問題は自習用であり、解答は行なわない。）
■学習の到達目標	英文法についての機械的暗記ではなく、どうしてそのような規則が存在するのかを理解し、その規則を用いて正しい英文読解ができ、実際の場面において適切に使用することができる。
■成績評価の基準	各文法事項について、正しく説明でき、なおかつ具体例を示せること。

授業科目	英語学研究				単位	2.0
担当者	橘高　眞一郎			シラバスグループ	TP5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
解いて学ぶ認知意味論	瀬戸賢一･山添秀剛･小田希望	大修館書店	[ISBN]9784469213638

■授業の概要	英語の意味論について、1）形態素の意味、2）語の意味、3）文の意味について、多義性や文法化の観点から深く考察する。また、名詞句や動詞句の成り立ちを実際の言語使用の立場から論及する。基本的に認知言語学の立場を重視するが、その他の理論的背景にも言及していく。
■学習の要点	認知意味論の根本的問題として多義性について学ぶ。メタファー・メトニミー・シネクドキの三者の構造的理解とともに、文法化(grammaticalization)の意義について学ぶ。さらにグラウンディングの仕組と意義についても探究し、話者と聴者が現在する場での表現の仕組を明らかにする。（なお、テキストの練習問題は自習用であり、解答は行なわない。）
■学習の到達目標	１．英語の意味現象を統一的にみる観点を養う。２．意味をコンテクストに照らして理解する仕組みを明らかにできる。３．比喩的な意味の重要性について正しく理解できる。
■成績評価の基準	テキスト学習で取り扱った内容について総括的に問う試験にて評価する。

授業科目	英語文学研究１				単位	2.0
担当者	清川　祥恵			シラバスグループ	TP5208	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
East of Eden	John Steinbeck	Penguin Classics	{9780140186390,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244726&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	ジョン・スタインベックの『エデンの東』を読む
■学習の要点	John Steinbeck (1902-68)の長編小説、East of Eden (1952)を読む。エリア・カザンによる映画化作品(1955)が有名だが、映画となっているのはごく一部である。本作を精読することで、ユダヤ＝キリスト教文化圏における価値観や、アメリカという国で生きる人々が背負うバックグラウンド、あるいは女性の描かれ方など、他の英語小説を読む上でも重要な視角や知識を身につけることができる。20 世紀を代表する米作家の文章を味わいながら、作品が書かれた文化・歴史背景への理解を深め、より細やかに小説の内容を捉えることを目指す。
■学習の到達目標	1）文学を読み、分析するための姿勢を身につける 2）適切な形式・手法・構成でアカデミックなリポートを作成することができるようになる
■成績評価の基準	(1）テクストの内容を充分に理解できているか(2）アカデミックなリポートの書き方の作法を守っているか(3）自分の考えを、感想ではなく考察として適切に提示できているか以上の 3 点で評価する。

授業科目	英語文学研究２				単位	2.0
担当者	メドロック　皆尾　麻弥			シラバスグループ	TP5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
米文学研究〔改訂版〕	野間正二	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248760&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	文化のひとつの基盤に位置する文学、その文学の中心にある小説について、その味わい方の技法について、具体的なアメリカの小説を対象にして学ぶ。同時に、小説を読んで感じたことをどのように表現すれば論文（リポート）になり得るのかということについても考える。
■学習の要点	それぞれの小説を精読して、それぞれ要求されている視点から、的確に読み解いて、その作品の面白さを、明快で分かりやすい日本語で考えて欲しい。　１．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、語り手から読んで、その面白さについて考える。　２．サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』を歴史から読んで、その面白さについて考える。　３．メルヴィルの『二つの教会』を、歴史から読んで、その面白さについて考える。　４．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、歴史から読んで、その面白さについて考える。５．ヘミングウェイの『エデンの園』を、フェミニズムの視点から読んで、その面白さを考える。　６．ロチの『お菊さん』を、ポストコロニアルの視点から読んで、その面白さを考える。　７．ヘミングウェイの『老人と海』を、謎を手がかりに読んで、その面白さを考える。　８．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、謎を手がかりに読んで、その面白さを考える。
■学習の到達目標	大学で求められる論文（リポート）は、小中学校や高等学校で書いた読書感想文とは違うことを理解してもらう。大学の論文に求められる質を保証するための技法を理解して実践できるようになることを目指す。
■成績評価の基準	論文（リポート）の書き方の理解度と技法の理解度を評価する。

授業科目	English Writing				単位	2.0
担当者	清川　祥恵			シラバスグループ	TP5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英作文Ⅰ	渡辺和子	佛教大学	[ISBN]{9784907177935,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244693&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英文を書くための基本的な力を養成することが、この科目の目的となる。文法的な項目別に英文の組み立てを学び、最終的にはそれらを総合してパラグラフの作成をめざす。テキストの学習はもちろんのことであるが、同時に文法事項は文法書で、語句の用法は学習用辞書で常に確認しておくことも必要である。また、何らかの形で英文を読むことによって、正しい英文の知識を蓄えることも、英作文上達の秘訣でもある。
■学習の要点	この科目では、特に以下の項目を中心に英作文を学習する：１）話法の転換、２）仮定法過去完了、３）一般動詞の使い方、４）比較表現、５）現在完了形、６）頻度の副詞（句）、７）過去完了を用いた複文、８）関係代名詞を使った文の書き換え、９）和文英訳、１０）100語程度の自由英作文。
■学習の到達目標	１．学習の到達目標：　１）英語の質問に対する答えを英語で書くことができる。　２）過去完了を用いた複文を書くことができる。　３）仮定法過去完了を使って、過去の事実とは反する文を書くことができる。　４）直接話法を間接話法に書き換えることができる。　５）関係代名詞を使って、二つの文を一つの文に書き換えることができる。　６）与えられた日本語を、間接話法、仮定法過去、形容詞の原級、不定詞を使って英語にすることができる。７）与えられたテーマ（体験、子どもの頃のこと等）で、内容的にまとまりのある英文、一
■成績評価の基準	１）文法、語法、意味内容、スペルのすべてが評価の対象となる。特に自由英作文は、文法、語法もさることながら、内容的にまとまりのある文章となっているかも重要である。２）一見些細な間違いであっても、問題の趣旨として重要な場合は、その解答は不正解となる。原則的に部分点はない（ケアレスミスのみが部分点の対象）。　３）問題の指示の細部にまで気を配ること。

授業科目	English Writing 3				単位	1.0
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	TP5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
Write Better with Patterns—辞書を活用する英文ライティング	小室夕里・ Braven Smillie 著	金星堂	[ISBN]9784764739178

■授業の概要	English Writing 1・2 に引き続き、文法の定着を特に重視しつつ、英作文の基礎を身に着けることを目的とします。英作文というと、「文字の上の作業」であり、日常生活で用いることが多い「話すこと」や「聞くこと」とは一見すると無縁に見えると思います。しかし、皆さんが英語「話す」ときには、実のところは頭の中で英作文を組み立ててから（＝頭の中で英語を「書いて」から）、口に出しているのではないでしょうか。このため、「書く」ことと「話す」ことは、言語を発信する（output）という点で共通なのであり、英作文の訓練は英会話の訓練に直結していると考えられます。そうした output 時に情報を交通整理してくれる、聞き手／読み手とルールを共有できるようにしてくれるのが、文法なのです。このため、この授業では文法に気をつけつつ、今一度英語を基礎からおさらいしてみたいと思います。　また、外国語の習得では辞書の使用も欠かせませんから、辞書指導も徹底しておこなう予定です。
■学習の要点	（1）動詞型、名詞型、形容詞型などの文型やコロケーションごとに、繰り返し使い方を学習し、重要なパターンを身に付ける。（2）辞書を活用するための練習を盛り込み、ライティングに辞書を活かすスキルを習得する。
■学習の到達目標	1．文法を踏まえつつ、「和文和訳」の上で、基本的な英文を発信することができる。2．基本的な語彙・語法の定着ができている。
■成績評価の基準	（1）問題の指示内容を読んで、指示されたすべての課題をこなすこと。（2）文法、語法、スペル等も評価対象とする。それゆえ、英和辞典・英英辞典、文法書等をしっかり調べて課題に取り組むこと。（3）自由英作文の問題では、文法、語法、スペル等以外にも、文章が論理的なものになっているかという点も評価対象とする。

授業科目	Media English				単位	2.0
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	TP5404	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ニュースメディアの英語―演習と解説 2022 年度版―	高橋優身･伊藤典子･Richard Powell 著	朝日出版社	[ISBN]9784255156798

■授業の概要	グローバリゼーションの進展に伴い、世界の各国がつながり相互依存するようになっている。 インターネットとデジタルメディアの進化により、世界中からのニュースが瞬時にアクセスできる時代でもある。外国の人々とコミュニケーションを取り合いグローバル規模の問題に取り組むためには英語は欠かせない。この授業では世界のニュースを英語で理解し、時事問題に対する自分の意見を英語で表現する力をつけていく。
■学習の要点	テキストをしっかり学習すること。特に次のようにすると効果的である。･各ユニット内のセクションを順番に学習する。･各ユニットの記事は黙読する、CD を聞きながら読む、音読するなど読み方を変えながら繰り返し読む。･基礎知識を身につけるように、各ユニットのテーマに関連する他のニュース記事を検索して読む。･各ユニットのテーマについてにじっくり考え、自分の意見を英語で書き記してみる。
■学習の到達目標	テキスト履修により、英語のニュース記事を読み、理解した上で他のニュースソースと関係づけながら多様な角度から検討できる力を培う。
■成績評価の基準	・英文法の正確さというより、伝わる内容を重視して評価する。･試験問題の解答は極限にワード数が少ないと減点される。最低 200 ワード以上書くこと。

授業科目	Business Communication				単位	2.0
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	TP5405	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
Grobal Business Trends 英語でみる世界の大学生の就職事情	山下巌、西村厚子、Derek Eberi、淺間正通・著	南雲堂	[ISBN]9784523177890
Getting Global! Engineer Your Future with English	Tomoko Tsujimoto/Judy Noguchi/Akiko Miyama/Atsushi Mukuhira/Ryo Kirimura/Junko Murao	金星堂	[ISBN]9784764740075

■授業の概要	グローバル化が進み、世界中がインターネットでつながる時代であるからこそ英語による情報交換能力が問われる。この授業では色々な国の大学生の就職状況について学びながら、ビジネス界で必要とされる英語の語彙とコミュニケーション能力を身につけていく。
■学習の要点	以下の点を守りながら、両方のテキストをしっかり学習すること。●それぞれのテキストの指示に従い、全セクションを順番に学習するように。●『Global Business Trends』は CD がついている。『Getting Global!』のリスニング教材は次の URL からダウンロードできる：{http://www.kinsei-do.co.jp/download/4007,http://www.kinsei-do.co.jp/download/4007}● リスニングとリーディングは、聞き方・読み方を変えながら繰り返し行うと効果的である。例えばリーディングの場合、1）止まらずに最初から最後まで黙読する；2）分からない語彙や文法を調べる；3）CD を聞きながら読む；4）音読する。●インプットを強化するため、アウトプットでフォローすると効果的である。読んだり聞いたりした内容について書いたり話したりしてみてください。例えば、文章やトークの内容を英語で要約してみたり、英語で自分の意見を表現してみたりすると良い。
■学習の到達目標	テキスト履修により、ビジネス界や就職活動に関連する教育という分野での英語コミュニケーション力を培う。
■成績評価の基準	最終試験の結果で成績が決まります。最終試験で測れる能力はビジネスコミュニケーションにおいての聞き取る能力や読解力、語彙力、文法力である。

授業科目	言語学概論				単位	2.0
担当者	橘髙　眞一郎			シラバスグループ	TP5410	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
英語の構造	小野隆啓	金星堂	[ISBN] 9784764709768

■授業の概要	ヒトはことばによって思考し、コミュニケーションをする。ヒトのことばと動物の伝達とを観察して、ヒトのことばの特性を考える。次に、言語の修得について観察する。そうして獲得された言語が、どのような形をもっているのかを、音韻・文字・語彙・文法について考察する。そして、言語の構造・発音記号の役割などを考える。次に、ことばを発する際の心の動きを考え、実際に発されたことばが、言語場において、どのような意味をもち得るかを考える。
■学習の要点	言語についての体系的な知識を修得するためには、言語体系のより小さな単位からより大きな単位へと段階的に学習していく必要がある。音声構造、語彙構造、文構造、意味構造、談話構造、言語の社会的役割へと次第に視野を広げながら、具体例に基づいて言語についての疑問を解決しながら学習していくことが大切である。
■学習の到達目標	人間は特に教えられもしないのに生後 2 年ほどするとことばを用いることができるようになる。それは鳥が教えられもしないのに空を飛べるようになるのと同様の本能である。本能は遺伝子の中に前もって書き込まれていることである。言語学はその遺伝子情報とそこから生まれる＜ことば＞、言語の本質を追求する学問である。本能により自然にできることに人は疑問を持たないことが多いが、人体の仕組みと同様、＜ことば＞の仕組みも驚くほど複雑なものである。この授業では、＜ことば＞の不思議さと、その高度な機構を明らかにし、人間の特質を理解するこ
■成績評価の基準	テキストの内容について試験にて総括的に評価する。回りくどく何を言いたいのかわかりにくいものや、誤字・脱字があるものは評価が大幅に下がる。言語学は抽象的な哲学談議ではなく、具体的な言語事象の観察から成り立っている。従ってある言語事象の説明には必ず具体例が伴わなければならない。説明のみで具体例を欠いていたり、具体例の正しい説明がなされていないものは不可である。

授業科目	英語史				単位	2.0
担当者	橘高　眞一郎			シラバスグループ	TP5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
英語の歴史（スタンダード英語講座；第 3 巻）	渡部昇一	大修館書店	[ISBN]9784469141832

■授業の概要	go の過去形は goed でなくてなぜ went なのか､foot の複数形は foots でなくてどうして feet であり、また knight はどうして〔nait〕と発音されるのかといったような素朴な疑問を中学のころもったことがあるが､実はこうした疑問に答えてくれるのが英語史であることがわかった。英語史でとりあげられることがらは大体テキストなどの目次をみればわかるが、概略年代記的な外面史と英語の発達にかかわる内面史的な部分に分かれる。内面史に関することがらにウエイトが置かれるがまず先史時代から、古英語、中英語、近代英語へと進み、音韻、語形、文法、語彙に関する情報が与えられる。かつては西ゲルマン語の一方言をなしていた英語が今日国際語としての地位を獲得するに至った史的概観を学ぶことになる。
■学習の要点	英語史の時代区分は、史の取り上げ方によって多少ずれはあるが、古英語 700～1150、中英語 1150～1500､近代英語 1500～1900､現代英語 1900 以後とし､さらに､中英語は 1300 を境に前期と後期、近代英語は 1700 を境に前期と後期に分けられる場合もある。８世紀後半、アングロ・サクソン人は北欧民族デーン人の侵入にさらされ、Danelaw 施行区域を設けてすみ分けていたが､共にゲルマン民族であることから言語接触が進んだ｡1066 年の Norman Conquest によりフランス語が英国に入り中英語の時代に入っていく｡フランス語にも方言差があり、ノルマン・フランス語とパリ・フランス語では発音の違いもあり、さらにラテン語から直接入ってくるようになると、綴りや発音にも分化が生じてくる。そのうちにロンドンを中心とする東中部方言が標準英語としての地位を獲得し近代英語の時代へと進む。中英語中ごろから始まり、18 世紀後半に及ぶ大母音推移（Great Vowel Shift）も重要な意味を持つ。　・中英語期にノルマン・フランス語（Norman French）を経てイングランドに入ったものと、中央フランス語（Central French）から入ったものとの間で音韻上対立を示している例について学習する。　・中英語期に、ゲルマン系、フランス系、ラテン系と三層をなしている同意語がみとめられ、それぞれ微妙な意味の差がある。例をあげて学習する。　・ルネッサンス期に語源的意識によって綴りが変わったのに発音は変わらず､綴字と発音の不一致がいちじるしくなった語について学習する。　・中英語期イングランドで話されていた五方言の名をあげその中で標準英語に発達したのはどれか。またその背景的な理由について学習する。　・大母音推移（Great Vowel Shift）により、name、see、sea、moon、stone、like、house の各母音が、14 世紀、16 世紀、現在でそれぞれどのように発音されたか、発音記号を用いて学習する。　・Chaucer が中部方言を用いて書いたことを、代名詞などの例をあげて示すこと。

■学習の到達目標	・古英語、中英語、初期近代英語、現代英語へと変化を遂げて来た英語という言語のそれぞれの時期の特徴と、その原因となった事象について正しく理解し、説明できること。

■成績評価の基準	・問題の要点を正しく把握して、できるだけ具体例を挙げながら説明すること。説明のみで具体例がないとか、具体例のみで説明がない答案は評価が低くなるので、説明と具体例をバランス良く盛り込んだ答案にすること。回りくどくて要を得ない記述や誤字・脱字なども減点の対象となるので十分注意すること。

授業科目	西洋言語文化論			単位	2.0
担当者	寺尾　佳子		シラバスグループ	TP5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
BD（ベー・デー）―第九の芸術	古永真一著	未知谷	[ISBN]9784896423129

■授業の概要	ヨーロッパの文化圏におけるフランス文化の位置づけを学び、英語圏文化や我が国の文化と比較検討することで、文化の多様性についての認識を深めていく。テーマは大きく３つに分ける。「都市と観光」では世界的な観光都市であるパリをモデルとして、都市の機能や多言語対応について学ぶ。「manga と BD」では日仏の漫画比較を通じて、各国での受容の歴史や文化圏による表象の違いを学ぶ。「映画」ではフランスの映画産業の仕組みを理解するとともに、表現手法についても比較検討する。受講生は自ら調べ、能動的に課題に取り組むことが求められる。
■学習の要点	具体的にリポートに取りかかる前に、テキスト全体を熟読し、フランス文化全般に対して理解を深めておくこと。指定の参考文献以外のものでも積極的に活用して学習に取り組んでほしい。
■学習の到達目標	フランス文化を通して文化の多様性とその重要性について学び、ヨーロッパ文化への理解を深める。
■成績評価の基準	・学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にして、所定の字数内でまとめること。・テキストや資料の文章をそのまま写し取ったような解答は不合格とする。・自らの考察を簡潔にまとめること。考察が無いと不合格とする。・テキスト以外の参考資料を使用した場合は、明記すること。・リポートの約束事を守り、誤字・脱字に注意し、正確な日本語で書くこと。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	西洋社会文化論				単位	2.0
担当者	寺尾　佳子			シラバスグループ	TP5418	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
フランス・モード史への招待	徳井淑子･朝倉三枝･内村理奈著	悠書館	[ISBN]9784865820102

■授業の概要	ヨーロッパ文化圏におけるフランス文化の位置づけを学び、英語圏文化や我が国の文化と比較検討することで、文化の多様性についての認識を深めていく。テーマは大きく３つに分ける。「食文化」ではフランス料理の伝統やカフェ文化の歴史を学ぶとともに、各地方の特色を料理文化から理解する。「アート」では、最新の芸術文化に触れてヨーロッパのアートシーンを概観し、また伝統的な芸術の歴史、美術館のあり方についても考察する。「ファッション」ではハイブランドの歴史や、グローバルな時代に合わせたメゾンの経営実態などを学ぶ。受講は自ら調べ、能動的に課題に取り組むことが求められる。
■学習の要点	具体的にリポートに取りかかる前に、テキスト全体を熟読し、フランス文化全体に対して理解を深めておくこと。指定の参考文献以外のものでも積極的に活用して学習に取り組んでほしい。
■学習の到達目標	フランス文化を通して文化の多様性とその重要性について学び、ヨーロッパ文化への理解を深める。
■成績評価の基準	・学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にして、所定の字数内でまとめること。・テキストや資料の文章をそのまま写し取ったような解答は不合格とする。・自らの考察を簡潔にまとめること。考察が無いと不合格とする。・テキスト以外の参考資料を使用した場合は明記すること。・リポートの約束事を守り、誤字脱字に注意し、正確な日本語で書くこと。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	English Conversation 1				単位	2.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP6104	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
How Much Do You Agree? Evolving Opinions どれくらい賛成しますか？	小林敏彦 ・ Jeremie Bouchard 著	三修社	[ISBN]9784384334869

■授業の概要	この授業では、日常生活に関連した様々なトピックを取り上げ、そのトピックについて話すために必要な語彙を増強しながら、英会話力の養成を行う。ロールプレイやプレゼンテーション等のタスクが課されることになるが、その課題を完成させるプロセスで、リーディングやライティングの力も増強してもらいたい。
■学習の要点	テキストは 15 のユニットからなり、さまざまなトピックについて自分の立場を明確にした上で、それを論理的、客観的に主張するトレーニングができるものとなっています。各ユニットのエクササイズは 4 技能をアップさせるものとなっています。またこのテキストでは、音声がダウンロードできるので、常に音を聞きながら各ユニットに取り組んでください。音を聞きながら、同時にかぶせるように発音する英語学習法であるシャドーイングは、英語力をつける上でかなり効果的であると言われていますので、本学習を通して英語力を上げることも可能です。
■学習の到達目標	１．日常生活に関連した様々なトピックについて、自在に英語でやり取りすることができる。 ２．日常生活に関連した様々なトピックについて、英語でプレゼンテーションすることができる。
■成績評価の基準	(1) 適切な単語の選択と正しい文法で英語が書けているか(2) 自分独自の視点から、独創的な意見が書けているか(3) ただ単に自分の主観からではなく、論理的客観的に説得力を持って意見が書けているか

授業科目	English Writing				単位	2.0
担当者	清川　祥恵			シラバスグループ	TP5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英作文Ⅰ	渡辺和子	佛教大学	[ISBN]{9784907177935,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244693&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英文を書くための基本的な力を養成することが、この科目の目的となる。文法的な項目別に英文の組み立てを学び、最終的にはそれらを総合してパラグラフの作成をめざす。テキストの学習はもちろんのことであるが、同時に文法事項は文法書で、語句の用法は学習用辞書で常に確認しておくことも必要である。また、何らかの形で英文を読むことによって、正しい英文の知識を蓄えることも、英作文上達の秘訣でもある。
■学習の要点	この科目では、特に以下の項目を中心に英作文を学習する：１）話法の転換、２）仮定法過去完了、３）一般動詞の使い方、４）比較表現、５）現在完了形、６）頻度の副詞（句）、７）過去完了を用いた複文、８）関係代名詞を使った文の書き換え、９）和文英訳、１０）100語程度の自由英作文。
■学習の到達目標	１．学習の到達目標：　１）英語の質問に対する答えを英語で書くことができる。　２）過去完了を用いた複文を書くことができる。　３）仮定法過去完了を使って、過去の事実とは反する文を書くことができる。　４）直接話法を間接話法に書き換えることができる。　５）関係代名詞を使って、二つの文を一つの文に書き換えることができる。　６）与えられた日本語を、間接話法、仮定法過去、形容詞の原級、不定詞を使って英語にすることができる。７）与えられたテーマ（体験、子どもの頃のこと等）で、内容的にまとまりのある英文、一
■成績評価の基準	１）文法、語法、意味内容、スペルのすべてが評価の対象となる。特に自由英作文は、文法、語法もさることながら、内容的にまとまりのある文章となっているかも重要である。２）一見些細な間違いであっても、問題の趣旨として重要な場合は、その解答は不正解となる。原則的に部分点はない（ケアレスミスのみが部分点の対象）。　３）問題の指示の細部にまで気を配ること。

授業科目	時事英語				単位	2.0
担当者	Henry Foster			シラバスグループ	TP5404	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ニュースメディアの英語―演習と解説 2022 年度版―	高橋優身･伊藤典子･Richard Powell 著	朝日出版社	[ISBN]9784255156798

■授業の概要	グローバリゼーションの進展に伴い、世界の各国がつながり相互依存するようになっている。 インターネットとデジタルメディアの進化により、世界中からのニュースが瞬時にアクセスできる時代でもある。外国の人々とコミュニケーションを取り合いグローバル規模の問題に取り組むためには英語は欠かせない。この授業では世界のニュースを英語で理解し、時事問題に対する自分の意見を英語で表現する力をつけていく。
■学習の要点	テキストをしっかり学習すること。特に次のようにすると効果的である。･各ユニット内のセクションを順番に学習する。･各ユニットの記事は黙読する、CD を聞きながら読む、音読するなど読み方を変えながら繰り返し読む。･基礎知識を身につけるように、各ユニットのテーマに関連する他のニュース記事を検索して読む。･各ユニットのテーマについてにじっくり考え、自分の意見を英語で書き記してみる。
■学習の到達目標	テキスト履修により、英語のニュース記事を読み、理解した上で他のニュースソースと関係づけながら多様な角度から検討できる力を培う。
■成績評価の基準	・英文法の正確さというより、伝わる内容を重視して評価する。･試験問題の解答は極限にワード数が少ないと減点される。最低 200 ワード以上書くこと。

授業科目	英語史				単位	2.0
担当者	橘高　眞一郎			シラバスグループ	TP5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
英語の歴史（スタンダード英語講座；第 3 巻）	渡部昇一	大修館書店	[ISBN]9784469141832

■授業の概要	go の過去形は goed でなくてなぜ went なのか､foot の複数形は foots でなくてどうして feet であり、また knight はどうして〔nait〕と発音されるのかといったような素朴な疑問を中学のころもったことがあるが､実はこうした疑問に答えてくれるのが英語史であることがわかった。英語史でとりあげられることがらは大体テキストなどの目次をみればわかるが、概略年代記的な外面史と英語の発達にかかわる内面史的な部分に分かれる。内面史に関することがらにウエイトが置かれるがまず先史時代から、古英語、中英語、近代英語へと進み、音韻、語形、文法、語彙に関する情報が与えられる。かつては西ゲルマン語の一方言をなしていた英語が今日国際語としての地位を獲得するに至った史的概観を学ぶことになる。
■学習の要点	英語史の時代区分は、史の取り上げ方によって多少ずれはあるが、古英語 700～1150、中英語 1150～1500､近代英語 1500～1900､現代英語 1900 以後とし､さらに､中英語は 1300 を境に前期と後期、近代英語は 1700 を境に前期と後期に分けられる場合もある。８世紀後半、アングロ・サクソン人は北欧民族デーン人の侵入にさらされ、Danelaw 施行区域を設けてすみ分けていたが､共にゲルマン民族であることから言語接触が進んだ｡1066 年の Norman Conquest によりフランス語が英国に入り中英語の時代に入っていく｡フランス語にも方言差があり、ノルマン・フランス語とパリ・フランス語では発音の違いもあり、さらにラテン語から直接入ってくるようになると、綴りや発音にも分化が生じてくる。そのうちにロンドンを中心とする東中部方言が標準英語としての地位を獲得し近代英語の時代へと進む。中英語中ごろから始まり、18 世紀後半に及ぶ大母音推移（Great Vowel Shift）も重要な意味を持つ。　・中英語期にノルマン・フランス語（Norman French）を経てイングランドに入ったものと、中央フランス語（Central French）から入ったものとの間で音韻上対立を示している例について学習する。　・中英語期に、ゲルマン系、フランス系、ラテン系と三層をなしている同意語がみとめられ、それぞれ微妙な意味の差がある。例をあげて学習する。　・ルネッサンス期に語源的意識によって綴りが変わったのに発音は変わらず､綴字と発音の不一致がいちじるしくなった語について学習する。　・中英語期イングランドで話されていた五方言の名をあげその中で標準英語に発達したのはどれか。またその背景的な理由について学習する。　・大母音推移（Great Vowel Shift）により、name、see、sea、moon、stone、like、house の各母音が、14 世紀、16 世紀、現在でそれぞれどのように発音されたか、発音記号を用いて学習する。　・Chaucer が中部方言を用いて書いたことを、代名詞などの例をあげて示すこと。

■学習の到達目標	・古英語、中英語、初期近代英語、現代英語へと変化を遂げて来た英語という言語のそれぞれの時期の特徴と、その原因となった事象について正しく理解し、説明できること。

■成績評価の基準	・問題の要点を正しく把握して、できるだけ具体例を挙げながら説明すること。説明のみで具体例がないとか、具体例のみで説明がない答案は評価が低くなるので、説明と具体例をバランス良く盛り込んだ答案にすること。回りくどくて要を得ない記述や誤字・脱字なども減点の対象となるので十分注意すること。

授業科目	異文化理解（西欧）				単位	2.0
担当者	Ferries Jonathan			シラバスグループ	TP6701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ヨーロッパ統合と文化・民族問題	西川長夫ほか編	人文書院	[ISBN]9784409230244

■授業の概要	欧州各国は周囲を海に囲まれた日本とは違い、周囲の国々との緊張関係に絶えず耐えてきている。かつてのローマ帝国やオスマン・トルコの時代も、またナポレオンの時代も現代のヒトラーの時代も、欧州全土が激変・激動した。1990 年代になり、西欧の地域統合の試みが欧州連合（European Union）として実現した。この EU 統合によって新たなる西欧文化の芽が育まれようとした。欧州連合としての新たなる文化空間が世界の人々に認知されつつあった。だが近代的人権思想をも格納したはずの先進的地域 EU において民族・文化面で深刻な問題が出始めている。アメリカ合衆国同様、グローバリズムを背景とする経済統合や金融統合地域 EU は、2020 年を迎えた今、国民国家の理念や民族文化思想を背景として限界を見せつつある。ドイツのシリア難民受け入れ政策も拒否の方向に舵を切り始めた。EU の今は設立理念との板挟み（ジレンマ）に悩まされている。しかし、こうした EU の試みには、その失敗も含めてわれわれも見習うべき点がある。EU の歴史、統合への契機、現状の認識、未来への展望等について、このテキストを手がかりとして学びたい。
■学習の要点	テキストにはいくつかの論文の内容が重複している部分もある。章ごとに通読して要点を把握してほしい。本書には細部の例証や叙述が載せられている。専門的な部分はざっとポイントを把握したい。本テキストの初版の内容は、EU がこうした矛盾をきたす前のものであり、内容は、極まる難民問題など、現状にそぐわない部分もあるが、インターネットや他の参考書物などで EU の状況理解を補充してほしい。欧州文化についての話題や歴史的な事象についても学ぼう。西欧の歴史を踏まえて、EU 地域の住民がどのようにして諸権利を獲得していったか、EU 統合の経緯はどのようなものか、あるいは EU を構成する欧州各国、あるいはその周辺国のユニークな文化的特質などについても自覚的に自習したい。
■学習の到達目標	問題はテキストに即して出題する。よってテキストの内容をよく理解し、これに対する自分の態度をしっかりもっておくこと。
■成績評価の基準	解答には欠かせないキーワードをすべて含んでいる必要がある。この点が評価の残りの半ばに値する。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価の半ばが影響される。

授業科目	異文化理解（アメリカ）				単位	2.0
担当者	メドロック　皆尾　麻弥			シラバスグループ	TP6702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
アメリカ音楽の新しい地図	大和田 俊之 著	筑摩書房	[ISBN]9784480874092

■授業の概要	本授業は、音楽というレンズから見たアメリカ社会、文化を理解することを目的とする。本授業で扱うテキストは、「『歌は世につれ世は歌につれ』の現代版」（生井英孝、２０２２年２月 26 日付朝日新聞書評より）ともいうべきもので、アメリカ文化・社会を理解するうえで格好の視点を提示している。本テキストを読解し、自らのことばでエッセイとして語り直すことで、アメリカの歴史、文化、社会への理解を深め、さらには世界全体への視野を広げることを、本授業の目的とする。
■学習の要点	本テキストは、2010 年代以降のアメリカにおける音楽、とりわけポップ・スターについて、文学批評的な手法で論じたものである。そこからは必然的に、アメリカの歴史、文化も滲みだしており、受講者はそのあたりに注目しながらテキストを読解する必要がある。本テキストの主な関心は、「２０１０年代から２０年代初頭のアメリカ社会の変遷」（大和田)である。どのような変化が、どのような音楽現象に映し出されているのか、そういった点に注意しながら読み進めてほしい。 本テキストは１０章からなっている。詳細な構成は以下の通り。第１章：テイラー・スウィフトとカントリー・ポップの政治学第 2 章：ブルーノ・マーズとポストコロニアル・ノスタルジア第３章：ヒップ・ホップにおけるアフロ=アジア第４章：音楽メディアとランキング・システム第５章：ラナ・デル・レイとフェイクの美学第６章：チャンス・ザ・ラッパーとシカゴの政治/文化第７章：ケンドリック・ラマーと黒のグラデーション第８章：カーディ・B とリズム・オブ・ジ・アメリカス第９章：BTS と「エイジアン・インヴェイジョン」第１０章：パンデミックとアメリカ音楽テキストを読み進めながら、各章のキーワードや、重要だと思われる点などをメモにとり、理解を深めてほしい。また、各章から垣間見られるアメリカ文化の一片一片を丁寧にひろい出しながら、音楽を通してアメリカ社会全体を俯瞰してみてほしい。
■学習の到達目標	アメリカ現代の音楽の姿から、アメリカの文化と歴史、そして社会の変遷について理解を深める。アメリカにおける 2010 年代以降の急激な変遷について理解することができる。やや難解な批評文を読み、それを解釈し、自らのことばで書き直すことができる。
■成績評価の基準	科目最終試験にて、テキストが十分に読解できているか、テキスト内のキーワードの意味が理解できているか、さらに、出題の意図を理解し、論理的な日本語で書くことができているか、こうした点を評価する。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	日本古代・中世史特講１				単位	2.0
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	TQ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
室町人の精神（日本の歴史12）	桜井英治・著	講談社	[ISBN]9784062919128

■授業の概要	「室町時代」は、前後の鎌倉時代、江戸時代などと比べても、どのような時代であったのか、簡潔に説明することが難しい時代かもしれない。テキスト『室町人の精神』は、第３代将軍足利義満から始まり、応仁の乱の終わりまでを対象としている。これは、広義の「室町時代」に、「南北朝時代」と「戦国時代」の区分を加えた狭義の「室町時代」に相当している。また、その内容も、幕府や将軍権力の推移といった王道の時代史に、朝廷(天皇)との関わりを絡めた叙述や、守護や将軍の近臣の動向、文化や社会情勢といった多様なテーマを、おおよそ各将軍の時期ごとにまとめられており、テーマごとの通覧には少し工夫が必要である。ある部分だけを読むのではなく、一通り目を通すことと、足らない部分は他の文献で補っていただきたい。
■学習の要点	室町時代の画期は大きく３つ挙げられる。1.足利義満・義持の将軍在位期 2.足利義教の将軍在位期 3.足利義政の将軍在位期それぞれの時期の政治的特徴と変化の要因などを整理しながら学習を進める。
■学習の到達目標	1.テキストを通読、理解し、その内容を説明できる。2.テキスト以外の文献も参考にしながら、室町時代の特徴について説明できる。3.自分の見解を自分の表現で叙述できる。
■成績評価の基準	テキストだけではなく、それ以外の文献を通読し、理解した上で記述できているか。また、テキストの記述に依拠するだけではなく、自分で整理し、自分の表現でリポートを作成できているかなどで評価。

授業科目	日本近世史特講1				単位	2.0
担当者	高橋　大樹			シラバスグループ	TQ5213	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
村　百姓たちの近世（岩波新書 新赤版 シリーズ日本近世史 2）	水本邦彦	岩波書店	[ISBN]9784004315230

■授業の概要	近世社会の成立・展開、およびその特質を「村」に注目して考えます。近世初期、検地と兵農分離、石高制の導入によって近世的な「村」が成立します。そこで幕府や大名、旗本など領主は、村を年貢の村請の単位とし、さらに居住する人々を「百姓」として身分的に把握・支配しました。しかしながら、そうした村や百姓について考える時、支配の側面だけでなく、自治や生業、習俗などもあわせて史料から考える必要があります。また、近世に約 63,000 を数えた村々（天保年間）は、すべて同じ歴史をたどったわけではなく、支配や統治形態、自然環境や立地、住民構成、習俗などによって、それぞれ固有の歴史が積み重ねられてきたことに留意も必要です。　本科目では、そうした個別の村・地域史を具体的な史料に基づいて研究していく前提として、まずはテキストを通じて「近世の村」について具体的なイメージを学び、あわせて近世社会の基本的な構造・しくみを理解することを目的とします。
■学習の要点	本科目テキストは、近世の村について、その成立、景観、領主支配、自治、生業、自然との関わりなど、総合的に理解・イメージすることができます。もちろん、個別事例に基づいて説明されていますが、そこには近世史研究が追究してきた概念や用語（検地・石高制・百姓・村掟・相給村など）も説明されていて、単なる「村」研究にとどまらない日本近世史全体に関する課題・問題群が含まれています。その点を意識しながら学習することを心掛けてください。
■学習の到達目標	「授業の概要」・「学習の要点」に記したとおり、近世の村に関する基礎的・全体的な理解を深め、そこから近世社会における支配・自治・身分・生業などの諸問題について考える思考力を身に付けることを目的とします。したがって、近世の村に関する基礎的用語・内容について、自分の思考・言葉で論述することができるようになることを到達目標とします。
■成績評価の基準	評価の基準は次のとおりとします。（１）テキストの内容や出題の趣旨を理解しているかどうか。（２）文章表現が適切で、記述内容が論理的であるかどうか。（３）近世の村についての基礎的理解が深められているかどうか。

授業科目	日本近・現代史特講１				単位	2.0
担当者	麓　慎一			シラバスグループ	TQ5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
開国と条約締結　ＯＤ版	麓　慎一	吉川弘文館	[ISBN]9784642766692

■授業の概要	日本開国史を事例に日本近代史について以下の三点について習得する。（１）日本開国史は大きく二つの研究潮流が存在する。その二つの研究潮流を的確に理解する。（２）テキストで使われている史料を的確に理解する。（３）幕末・維新史については東京大学史料編纂所の『大日本維新史料稿本』という基本史料がある。テキストにおいてもこの基本史料が使用されている。この基礎史料を受講生が利用し、リポートを作成する。この基本史料は古文書ではありません。日本語の漢文史料です。古文書を解読できなくても辞典を使用することで意味を理解できると思います。（４）以上の（１）（２）（３）を踏まえて学習を進め、論文読解と基本史料の解読の力を養成する。
■学習の要点	①テキストを通読したうえで、テキストに掲載されている参考文献および本シラバスに掲載されている参考文献をいつくか読み込んで、比較検討する。これにより「開国」という歴史事象にも多様な見方があることを理解する。②『大日本維新史料稿本』を使うことで、幕末史の基本史料を解読し、自らの研究に利用できるようにする。③『大日本維新史料稿本』解読するためには辞典が必要である。佛教大学図書館の BIRD にリモートアクセスして、諸辞典を使えるようになる。④以上を通じて、できるだけ独自の見解を史料から示すことができるようになる。
■学習の到達目標	１）テキストを基軸としながらも多くの論考を読んで、それらを比較検討できるようになる。２）日本語の漢文史料を読めるようになる。３）『大日本維新史料稿本』利用して史料を探すことができるようなる。４）佛教大学の BIRD を利用して辞典を使うことができるようなる。＊４）について補足します。佛教大学の図書館のサイトにはいろいろな辞典を使うことができるジャパンナレッジが入っています。論考や史料を読むときに是非、使ってください。①佛大図書館のサイト→②真ん中の「リモートアクセス」から入る。③左上の「ジャパンナレ
■成績評価の基準	到達目標にしたがって、科目最終試験において、その目標達成の度合いが答案に反映されているかどうかが最終的な成績評価の基準となる。とりわけテキストと他の論考を比較し、検索した史料に基づいて独自の見解が示されているものを高く評価します。

授業科目	日本仏教史特講1				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TQ5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
神々の明治維新　神仏分離と廃仏毀釈	安丸　良夫	岩波書店	[ISBN]9784004201038

■授業の概要	日本仏教の歴史的展開を考えていく上で、明治初年の「神仏分離」「廃仏毀釈」は大きなトピックとなる出来事と言えるだろう。慶応 4 年 3 月に「神仏分離」の諸布告が出されると、その施策が粛々と実施された社寺があった一方で、地域によっては過激な「廃仏毀釈」が行われており、多くの寺院や文化財が被害に遭ったことは周知と言えるだろう。　ただ一方で、仏教側による抵抗もあり、明治政府は「神仏分離」が「廃仏毀釈」を意味するものではないことを表明している。また復古的な祭政一致を目指した人々も政府を追われ、その計画は頓挫したようにも見える。しかし本テキストの著者は、この「神仏分離」「廃仏毀釈」によって、日本人の精神史に根本的な大転換が生まれたと主張するのである。このことが正しいのなら、現在を生きる我々と前近代の人々の精神には大きな隔絶が存在することとなるだろう。　このように、「神仏分離」「廃仏毀釈」について理解・解釈することは、日本仏教の歴史だけでなく、現在の日本仏教の有り様を考える上でも重要な視座を与えてくれると思われる。本授業では、「神仏分離」「廃仏毀釈」の経緯とその影響について考察することを通じて、日本仏教を見通す歴史的視座を得ることを目的とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節について、以下の点を中心に読み取ること。Ⅰ幕藩制と宗教・近世的な統一権力と宗教の関係・近世の民衆生活における宗教の位置づけについて・近世後期に見える排仏論と具体的な動きの様相Ⅱ発端・新政府内における神祇官の位置づけと「神仏分離令」発布の経緯・「神仏分離」に対する温度差が生じた原因について・神道主義の影響とキリスト教対策、及び仏教の動向Ⅲ廃仏毀釈の展開・地方における「廃仏毀釈」の進展事例と仏教側の抵抗の様相・「廃仏毀釈」が成功・失敗する諸条件についてⅣ神道国教主義の展開・新政府による祭祀体系の整備過程について・国家的な祭祀体系が地方・地域にどのような影響を与えたかⅤ宗教生活の改変・修験道における神仏分離政策の影響について・神社祭祀の体系化により排除された信仰の様相Ⅵ大教院体制から「信教の自由」へ・教部省及び大教院の成立とその教化の様相・啓蒙思想家たちによる「信教の自由」論の特徴と「国家神道」の成立
■学習の到達目標	・「神仏分離」「廃仏毀釈」がどのような経緯で行われ、それが我々の考え方にどのような影響をもたらしたのか、説明できるようになる。・多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、「神仏分離」「廃仏毀釈」の経緯や影響について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。

授業科目	古文書講読１				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5219	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
演習古文書選．古代中世編	日本歴史学会編	吉川弘文館	[ISBN]9784642070218
演習古文書選．近世編	日本歴史学会編	吉川弘文館	[ISBN]9784642070225

■授業の概要	歴史学研究の基礎は、史料にもとづいた史実の検討にある。しかし、史料を用いようとする場合、史料の読解に先立ち、原文の史料（文書や記録）を読み解く作業が必須となるが、筆による記述が日常的ではない現代にあって、和紙に墨書された史料原典の解読は、ある程度の習熟を要する作業である。もちろん一部の分野によっては、史料は「翻字」され、史料集として公刊されているが、中世文書や近世の地方文書など未だ活字化されていない史料も多く、「読み方」を身につけないことには研究しようとする史実そのものの検討さえままならない。本科目は、史料原典を直接読み解く力を養うため古文書の講読を学ぶ。講読とはいえ、実際には「解読」である。一見判読さえも困難に思える古文書を、一文字づつ丹念に読み解き、そこから史料の内容を明らかにする、いわば歴史学研究の基本的な作業に接することにより、史実を明らかにする力を身につけて欲しい。
■学習の要点	まずは定型の文書を例に、古文書の解読を初歩から学ぶ。大まかには次の過程で、1)～5)に注意しながら学習を進めることにより、徐々に解読できるようになると思われる。1)人名や地名など、他の工具類により解読のヒントを得ることが可能な「語（言葉）」の判読 2)書き出しや書き止めなど、文章の中でも定型化しやすい「句（フレーズ）」の判読 3)助詞や助動詞などを含んだ定型な「句（フレーズ）」の判読 4)文中に複数回用いられ、同じ文書中で比較が可能な「文字」の判読 5)前後の文章から推定が可能な「文字」の判読これらの諸点に注意しながら、くりかえし学習してください。
■学習の到達目標	１：文書（原典史料）について、判読が容易な文書であれば概ね判読できる 2：難解な文書（表記）について、前後の文章から推測できる３：文書の発給と差出の関係を基礎に、文書の特徴が推測できる
■成績評価の基準	１：判読が容易な文書（原典史料）について、概ね判読できる 2：難解な文書（表記）について、前後の文章から推測できる３：文書の発給と差出の関係を基礎に、文書の特徴が推測できる

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	社会経済史				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TX5121	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
戦国大名の経済学	川戸　貴史	講談社	[ISBN]9784065200155

■授業の概要	前近代社会は現代社会とは異なる原理で成立している。現代日本は資本主義体制のもとにあり、我々はその中で生まれ育ち、教育を受けてきた。おのずから過去を見る眼は現代を基準にすることを免れない。しかし社会経済史が対象とする経済社会は、必ずしも資本主義とは限らず、この講義で取り上げる前近代社会のような場合は、経済の仕組みや原理も異なっており経済学辞典も通用しない。本講義では、経済事象の歴史学的な分析（史学的な検討や分析）を通じて「経済社会」の全体構造とその歴史的展開を究明する、という社会経済史の考え方や物の見方を学ぶ。
■学習の要点	人間の行動の多くは「経済的営為」によって占められている。ヒトは生活を維持・発展させるために必要な物質（食料・衣類・その他）を生産、分配（交換・贈与・搾取）、消費するだけでなく、それらの活動を通じて社会関係をも形成している。社会経済史は、こうした人の経済活動のありようや活動に伴い生じる社会関係を史学的に考えようとするもので、人の活動を経済活動としてとらえた場合にどのように理解できるかを考えることが重要である。ただし、この講義が対象とする前近代の経済活動は、戦争や祭祀といった一見経済活動とは無関係にさえ思える活動も検討の対象となることに注意が必要である。とりわけ戦争や祭祀は、事象自体の激しさ、派手さに目を奪われ、経済活動として理解するという視点が軽視しがちとなりやすい。対象となる事象を経済学的にとらえるどのように考えられるのか、という意識を大事にしたい。
■学習の到達目標	社会経済史とはどのような分野で、その特徴はどのようなものであるか。また社会経済史が対象とする経済事象としてはどのようなものが考えられるかについて説明できる
■成績評価の基準	論述問題が要求する課題の範囲内で、日本前近代の経済事象について、理解したうえでまとめられているかを見る

授業科目	宗教学				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。
■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。
■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。
■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	東洋古代史特講1				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5231	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国史：古代	永田英正ほか編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248767&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	中国古代は、前近代中国王朝の基本的形態が形成されてくる時期である。その形態がどのようなもので、それがどのようにして形成されてくるのかを学ぶ。その中で、特に重要だと考えられるのが春秋から戦国期にかけての社会的変動である。この変動がどのようにして起こり、その結果どのような結果がもたらされるのかに注意しながら学習すること。結果として、春秋・戦国時代が、戦乱のみの時代ではなかったことを理解できることを目標とする。
■学習の要点	春秋から戦国期にかけてさまざまな変化が起こる。そこで、その前提となる殷周期の政治体制、郡県制の形成過程、都市の発達と繁栄、諸子百家の出現を中心に学習すること。そしてそれを前提に、秦始皇帝による天下統一の意義、武帝期を中心とする前漢の政治動向等も視野に入れて学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①中国古代史の特色を、政治・社会・文化という多方面から説明できる、②社会の大きな変わり目を、各事象から適切に説明できる、という点を設定する。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	東洋中・近世史特講１				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国史：近世Ⅰ		佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	時代区分は歴史を理解するための鍵である。ところが時代区分は歴史家がそれぞれの歴史観によって体系化するものであり、中国史についてもこれまで提唱された区分法はかなりの数にのぼる。このうち日本において相対的に有力な学説は二つあり、テキストはいわゆる京都学派の区分で叙述されている。京都学派の時代区分では、3 世紀～10 世紀を中世貴族制の時代、10 世紀～19 世紀を近世君主独裁制の時代と見る。魏晋南北朝隋唐時代は中世にあたる。この科目では中国近世がどのような社会であるかを学んでいただきたいが、テキストに書かれていることも、数ある体系の一つとして絶対化しないで批判的に学び、その学習を通して自己の歴史を見る眼を養ってもらいたい。
■学習の要点	10 世紀から 14 世紀の中国社会の展開を学ぶ。唐宋変革や、北方民族の台頭、中国への進出・征服という大きなできごとがあり、五代十国の諸王朝、宋、遼、金、夏、モンゴルはどのような統治システムを構築し、社会はどう変化したかを理解する。
■学習の到達目標	10 世紀ー14 世紀の東アジアの国際関係を説明できる。当該時代における各国ぞれの社会状況を説明できる。当該時期における宋の経済的・文化的な特徴を説明できる。
■成績評価の基準	学習の進度と理解度を試験で測る。出題の要点を正しく理解し、重要な歴史事象を落とさずに記述し、記述にあたって論理的に整理することができているか否かをみる。

授業科目	東洋近・現代史特講１				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア近代史研究	狭間直樹ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248775&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	中国と朝鮮の近・現代史は、侵略と闘争のなかで繰り広げられ、政治のあり方、民衆や文化、社会秩序などが大きく変化し、近代国家を建設するという歴史であった。この歴史を単に過去の歴史として知るだけでなく、客観的に判断することが必要である。そして史実に基づいた正確な知識と、歴史の流れのなかでどのような意味を持っていたのかを考えることによって、現代の諸問題の理解に役立つといえる。つまり、中国と朝鮮の近代の歴史を学ぶことは、現在の日中韓関係を理解する上での道筋であるといえよう。　本科目のテキストは、これらの点を踏まえ、中国と朝鮮の近代政治史に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう配慮したものである。
■学習の要点	まずテキストを通読し、中国近代史、朝鮮近代史上どのような出来事があったのか、それらの出来事が起こった原因・展開過程・結果・影響などを把握し理解して欲しい。　その上で、中国の開国は、その後の近代国家を建設するためにどのような影響を与えたのか、帝国主義列強との不平等条約の特色を含め、洋務運動、変法運動の相違などにも目を向けて、中国が滅亡の危機をどのように乗り越えようとしたのかについても把握する必要がある。　朝鮮については、朝鮮の開国と近代化への歴史的展開と日朝関係を理解しておくこと。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中でなかで把握することにある。したがって、解答するにあたり、そうした観点に留意しながら論述することが肝要である。
■成績評価の基準	設問に対するキーワードが答案に全て書かれていれば、それを基準点（60 点）とし、論述の展開や内容を考慮（40 点）し、採点する。

授業科目	東洋宗教史特講1				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教史概説　中国篇	野上俊静	平楽寺書店	[ISBN]9784831301154

■授業の概要	インドで成立した仏教は、西域より中国へ伝播し、中国的特色を持った仏教が成立した。この中国仏教がどのような特色を持ち、中国文化の影響を受けてどのような変貌を遂げていったのか、中国社会にどのように受容されていったのかを学習する。これは、異文化交流の問題や、中国仏教が日本仏教を成立せしめ影響を与え続けた背景を考える上でも重要である。本科目では、中国仏教が一つの頂点を迎える唐代までを中心に上記の問題を考える。
■学習の要点	大前提として、中国史の流れの中に仏教を位置づけることを、たえず意識して学習すること。その上でテキストの章立てにそって、中国への仏教の初伝時期の問題(第 2 章)、魏晋期の経典翻訳と研究(第 3 章)、南北朝期の仏教芸術(第 5 章)、隋の仏教(第 6 章)、唐代における国家と仏教(第 7 章)、末法仏教と戒律(第 8 章)などの問題を中心に、中国仏教の受容・発展過程を学習する。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①中国に受け入れられた仏教の特色を的確に説明できる、②仏教と中国文化との関連性を理解できる、という点を設定する。
■成績評価の基準	問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	東北アジア史特講1				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新・韓国現代史（岩波新書新赤版 1577）	文京洙	岩波書店	[ISBN]9784004315773

■授業の概要	1945 年以後今日に至る韓国現代史の流れを理解することを目的とする。今は「韓流」や観光のイメージで多くの日本人に親しまれている隣国であるが、その波瀾万丈の現代史についてはさほど知られていないのが事実である。第二次世界大戦の終結により日本の植民地統治から解放されたものの、二つの国家に分断され、戦争と独裁、経済発展と民主化の激動を嘗めてきた歴史である。戦後世界情勢の変化、南北朝鮮の相互関係、韓国社会内部の葛藤などを総合的に考察することで、韓国の過去や現在を全うに理解することが出来よう。
■学習の要点	韓国現代史の流れを把握し、大きな転換点になった出来事や、その意義について理解してほしい。テキストを通読して、今日の韓国を理解することに役立ったとすれば、この科目の学習は充分成功を収めたことになる。以下、学習の要点を列挙しておく。１．日本の植民地統治からの解放から、米ソの分割占領、そして南北朝鮮に二つの国家が樹立し、分断体制を形成する過程について、国際情勢の流れの中で理解する。２．朝鮮戦争の勃発背景や経過、戦争が遺した影響について理解する。３．朴正熙政権下における韓国社会の変動、特に光と影、とりわけ経済開発と独裁の両面について理解し、その後の歴史にどのような影響を及ぼしたのかについて理解する。４．長期にわたる独裁政権に戦ってきた民主化運動の流れ、1987 年以後の民主化過程について理解する。５．日米をはじめとする国際関係、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との関係の中で、韓国の政治・経済変動を理解する。６．今なお韓国社会で政治・社会的対立の構図を形成している「保守」と「進歩」の流れについて、その歴史的背景を理解する。
■学習の到達目標	・韓国現代史の流れを把握し、大きな転換点になった出来事や、その意義について理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋古代・中世史特講１				単位	2.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TQ5251	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
修道院の歴史-聖アントニオスからイエズス会まで	杉崎泰一郎著	創元社	[ISBN]9784422203393

■授業の概要	西洋キリスト教世界の「修道院」という存在は、現代の日本に暮らす我々にとって、ほとんど馴染みがないものだろう。しかし中世の西ヨーロッパでは、修道院はさまざまな分野において社会や文化に影響を与えてきた。この授業ではそうした修道院の歴史を学ぶことを通して、当時の西洋社会の移り変わりを知り、その後の西ヨーロッパに大きな影響を与える存在であった修道院について総合的な理解を試みる。
■学習の要点	本テキストは、古代から近世にかけての修道院の歴史を、それぞれの時代に出現した修道院について、成立の社会的背景やその特徴に注目しつつ説明している。まずはテキストを通読し、西ヨーロッパ社会における修道院の在り方の変遷について、全体像を把握してもらいたい。　そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている修道院の特徴や当時の社会状況について、前後の時代の修道院との比較を通じて理解を深めてもらいたい。その際、下記の参考文献およびテキスト巻末に挙げられている参考文献も積極的に活用することが望まれる。１．中世を通じて西ヨーロッパ社会の修道院の在り方に大きな影響を与えた「ベネディクトゥスの戒律」の成立とその内容の特徴について、それ以前に成立した他の戒律の影響や社会的背景も考慮しつつまとめる。２．カロリング朝フランク王国の教会政策と、当時の修道院文化の発展の関連性について考察する。３．クリュニー修道院の発展について、修道院外部との関係や当時の社会状況を踏まえて考察し、その独自の修道院生活や組織の特徴を理解する。４．シトー修道会による修道院改革の背景を踏まえつつ、その修道院規則や制度の特徴についてまとめる。５．シャルトルーズ会の修道院生活の特徴について、他の修道会と対比しつつ考察する。６．グレゴリウス改革と連動した教会の社会的活動の中で、新たに出現した騎士修道会について、いわゆる三大騎士修道会を中心に、その成立背景と理念、活動の特徴についてまとめる。７．１３世紀に出現する托鉢修道会の活動について、当時の教会や社会の変化を踏まえつつ考察する。
■学習の到達目標	現代にいたるまでさまざまな分野において社会や文化に影響を与えてきた修道院の歴史について学び、それを通して中世西ヨーロッパのキリスト教世界について知識と総合的な理解を得ること。
■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。　出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	西洋近世史特講1				単位	2.0
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	TQ5253	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ベルリン・歴史の旅　都市空間に刻まれた変容の歴史	平田達治	大阪大学出版会	[ISBN]9784872593082

■授業の概要	現在のドイツの首都であるベルリンは、冷戦期において分断の歴史を経験したことでよく知られ、とりわけ現代史において注目される都市である。それ以前においては、19 世紀後半のドイツ統一を機にドイツ帝国の帝都となり、近代ドイツ史の中心舞台として語られる。だが、こうして近現代に大都市として登場するベルリンの礎は、ほかでもなくそれに先立つ近世に形づくられた。本科目では、都市計画による空間整備とともに、多様な人びとを受け入れることにより、政治・文化の中心地としての機能を整えていったベルリンの歴史に着目することにより、近代社会や国家の成立に向かって果たした近世都市の役割を考察することを目的とする。そうすることによって、近世という時代の特質とともに、近代とは何かという問題にも迫ることができる。
■学習の要点	(1)　日本とのかかわりからベルリンの歴史に親しみ、問題意識を共有するように努めること。(2)　中世から近世にかけての王都としての発展と、政治や文化との相互関係を理解すること。(3)　近世から近代にかけて、外的要因に翻弄されつつ、王家や来たる国民国家の表象の場としてベルリンが果たした役割について理解し、政治権威の表象の問題について考察すること。(4)　他者を受け入れることにより多文化都市として発展し、啓蒙期のヨーロッパにおいて一つの文化センターとなったベルリンの側面について理解すること。(5)　第 1 次世界大戦から冷戦終結までの歴史を概観し、1 都市と世界とのかかわりについて理解を深め、ローカルな歴史とグローバルな歴史との関係を考察すること。(6)　(2) ～ (5) を踏まえて、近代都市とは異なる「近世都市」の特質とその発展要素を考察すること。その際、近代との連続性についても留意されたい。
■学習の到達目標	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。
■成績評価の基準	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。

授業科目	西洋近代史特講1				単位	2.0
担当者	水田　大紀			シラバスグループ	TQ5255	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
二〇世紀の歴史　岩波新書 新赤版　1499	木畑洋一	岩波書店	[ISBN]9784004314998

■授業の概要	1870 年代から 1990 年代までを「長い二〇世紀」ととらえ、その構造と性格を帝国主義世界体制（帝国世界）の面から解説します。「長い二〇世紀」とは、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて作り上げられた世界の仕組みが、二つの世界大戦を通じて動揺し、再編され、解体されていく過程でした。この経緯を「帝国主義」をキーワードとして、支配側だけでなく、被支配側による戦争協力やその後に進行した独立抵抗運動、脱植民地化の流れもまじえてみていきます。なぜこの時期が「長い二〇世紀」たり得るのか。それは 21 世紀の現在では克服されたといえるものなのか。現代につながる大きな歴史の流れのなかで、「長い二〇世紀」はどのような意味を持っているのか、について考えていきます。
■学習の要点	歴史を学ぶ魅力を知ること。先行研究の視点や理論を把握しつつ、現代世界を正しく理解するうえで必要なバランス感覚を養い、世界史という観点にたって議論を組み立てること。そのためには、個々の事件や出来事をただ覚えるのではなく、それらを発生させた大きな歴史の流れについて理解することが重要となります。またその際、歴史学における課題の設定や史料の活用、解釈の方法など方法論についても検討し、西洋史学研究の基礎を修得します。そういった視点を身につけることは、ひいては私たちが生きている時代の展望を探る鍵にもなるでしょう。
■学習の到達目標	① 「長い二〇世紀」という視点から、国際社会の動きについてある程度の理解ができる。 ② 大きな歴史の流れやヨーロッパ―植民地両者の連動を踏まえて、とりあげた事例を説明できる。
■成績評価の基準	解答が「学習の到達目標」の各項目を十分に満たしているか、またはそれを踏まえて問題に答えられているかにより、成績評価を行います。

授業科目	西洋宗教史特講1				単位	2.0
担当者	山内　暁子			シラバスグループ	TQ5257	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
トロイア戦争：歴史・文学・考古学	エリック・H・クライン（西村賀子訳）	白水社	[ISBN]9784560098257

■授業の概要	「トロイア戦争」は、ホメロスの『イリアス』によってその一部が伝えられ、多くの神話伝承によって人々に知られている神話物語です。一方で、考古学という学問の黎明期において、「トロイア」が実在する都市をモデルとしたのではないか、ギリシア人と「トロイア人」との間に戦争が行われたのではないか、という、神話と歴史との間を考古学が橋渡しするという刺激的な展開が見られました。トロイアと推定された遺跡を発掘したシュリーマンは、「ギリシア考古学の父」として知られていながらも、多くの批判を受ける人物です。テキストでは、「トロイア戦争」を様々な研究成果から分析し、21 世紀初頭において、この疑問がどこまで回答を与えられているのかについて紹介したものです。まずは第Ⅰ部で「トロイア戦争」の神話物語と歴史的背景について、基本的な部分を理解して下さい。第Ⅱ部は「文字」による史料の検討で、ここでは歴史学的な観点から、さらに第Ⅲ部では遺跡や遺物といった考古学的な見地からの再検討が行われます。「トロイア戦争」の神話物語だけを読むと、オリュンポスの神々と英雄たちが活躍するフィクションだと言えますが、文字史料や考古学的な発見によって、「トロイア戦争」を現実の問題として考察することが可能になっています。ギリシア人が信じた神々や英雄たちが、どのような社会的背景に基づいて描かれていたのか、現在の歴史学が依拠する史料や、遺物から仮説を立てる方法など、どのようにして歴史像が構築されるのか、自ら学び取るように試みて下さい。考古学者シュリーマンの人物像に興味がある方は、参考文献として挙げた『愛と偽りのトロイ』で、シュリーマンに対する批判的な観点を見ていただいてもいいですし、具体的な発掘成果に触れたい方は『ギリシア考古学の父シュリーマン』で、ティリンスの遺跡発掘の遺物が参考になります。ただ、参考文献を読まなくても単位は取得可能ですから、より深く理解したい、あるいはテキストだけでは全体像を把握できない方のために紹介していると考えて下さい。提出するリポートについては、あくまでもテキストを中心にすえて作成をお願いします。「トロイア戦争」とは、どのように認識され、また理解される過程が存在したのか、「歴史」と「神話」の関連とはどのようなものなのか。常に疑問を持ちながらテキストに取り組むことによって、トロイア戦争の歴史蔵について理解することが、この講義の目的です。
■学習の要点	テキストは基本的な神話物語の概観と歴史的背景（第Ⅰ部）、ホメロスなどの文学資料と、ヒッタイト文書など歴史学史料の検討（第Ⅱ部）、そして考古学的な見地から、トロイアについて総合的に議論を進める（第Ⅲ部）という三つの部分から構成されています。全ての部分を詳細に理解していくことは難しいかもしれません。しかし、今現在トロイアについて分かっていること、それを考古学的な遺物から検討する第Ⅲ部については、よく理解していただければと思います。第Ⅲ部には 20 世紀末から始まったコルフマンによる発掘成果も取り入れられており、かなり近々の研究状況を反映しているので、ミュケナイ時代から 3000 年以上を経てなお議論が続いている様子が、よく分かるでしょう。また、このテキストは日本

	のギリシア古典学者による翻訳書であり、丁寧な用語集や、議論の道筋を掴みやすくするような配慮がなされています。訳者の西村賀子による「さらなる理解のために一解説にかえて」という部分は、エピローグの後に掲載されていますが、テキストの内容を補完し、読者がより容易にトロイアを理解できるような解説が付されています。テキストを読む前、あるいはテキストの内容を把握した後で、是非こちらの解説にも目を通すことをお勧めします。テキストには、様々な問題点が提示されています。「ホメロス問題」や「海の民」、「ミュケナイ人とトロイア人」「トロイアの位置」、あるいは「トロイアの木馬」についての解釈などです。自分が興味を持ったポイントをテキストを通じて追ってみることも可能です。様々な史料や研究手法、考古学的調査方法など、どのような手段によって議論が進められて行くのか、気をつけながら読み進めるようにして下さい。

■学習の到達目標	設問の内容をよく理解し、テキストをよく読んだ上で設問の指示に従って内容をまとめるようにしてください。史実や用語が正確であること、また明快な文章での論述を心がけるように。学習の到達目標は、テキストを入口として、古代ギリシア社会の様相と、それを後の時代がどのように受容したかについて、自分なりの歴史像を持つことです。最終試験における評価基準は、上記のリポート評価基準と同様ですので、これらの点に気を付けて回答してください。評価については、あくまでテキストに書かれた部分を中心としていますので、テキストをきちんと読み

■成績評価の基準	歴史学においては、様々な仮説が検討されており、いろいろな解釈が可能な事象が多くあります。しかし、一方でいくつかの考察を経て定着した用語や、歴史的経緯の説明については広く共有され、議論の基盤となっています。受講生の方にはテキストや参考文献を読み、古代ギリシア社会についてある程度の立体感を持った歴史像を抱いてもらい、それを解答で表現できるようにして欲しいと考えています。テキストに書いてある歴史的な事例や、遺物や遺跡などについて、具体的かつ正確な解説を行うことが、まず第一です。紹介されてある事例について正しく理

授業科目	東西交流史特講1				単位	2.0
担当者	鈴木　楠緒子			シラバスグループ	TQ5259	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
オスマンｖｓ．ヨーロッパ―“トルコの脅威”とは何だったのか	新井政美著	講談社学術文庫	[ISBN]9784065228456

■授業の概要	この授業では、歴史上ユーラシア大陸の東西交流の有力な担い手となってきたトルコ系の人々によって建設されたオスマン帝国の西方への拡大の歴史を取り上げ、この国が東西交流史の中で果たした役割について考えていく。その際、「トルコの脅威」に直面したヨーロッパがそれにどのように対処していったかについても具体的に跡づけることを通じて、「ヨーロッパ近代」の形成にオスマン帝国の存在が与えた影響についても考察を進めることとする。以上の作業を通じて、東西交流史の重要な一側面に対する理解を深めることが、この授業の目標である。
■学習の要点	(1)歴史上どのような勢力がユーラシア大陸の東西交易ルートを掌握してきたのかを理解する。(2)(1)を踏まえた上で、トルコ系の人々の活動の特色を理解する。(3)トルコ系の人々がイスラム教を受容したことを契機に、ユーラシア大陸の東西交流史が活発化していく過程を理解する。(4)ヨーロッパにとっての「トルコの脅威」は、キリスト教対イスラム教という単純な図式には還元できないことを、具体的な事例から理解する。
■学習の到達目標	「学習の要点」を参考にしながらテキストの内容と出題の意図を正しく理解した上で、それを明快な日本語で論理的に表現する。
■成績評価の基準	テキストの内容を正確に理解し、出題内容に即した論述になっているかどうかが、第一の評価基準である。下の参考文献等を利用し、学習内容を発展させた記述になっている場合は、加点する。

授業科目	経済地理学				単位	2.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5122	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域と産業　新版　オンデマンド版	富田　和暁	原書房	[ISBN]9784562101320

■授業の概要	私たちの日常生活は身近な地域からグローバルな広がりをもつものまでさまざまな経済活動によって支えられています。経済地理学はそうした経済活動が展開する地域を対象とする地理学の一分野です。この授業では、私たちが生活する地域がどのような経済活動と関わり、その経済活動が地域にどのような影響をもたらしているのかという点に重点を置きながら、産業別の立地理論や都市を中心とした経済活動がつくりだす地域構造を学び、経済活動と地域の多様な関係を考えていきます。
■学習の要点	①　経済地理学の基本的な理論を理解する。②　経済活動を通して地域の現状を理解する。③　経済活動と地域の関係を構造的に理解する。
■学習の到達目標	①　経済地理学における基本的な理論が理解できている。②　経済活動を通して地域の特徴を理解し、説明できる。③　経済活動と地域の関係を構造的に説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　論理的な構成をもった文章であること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること。なお、テキストの要約に終始したり、上記①～④に該当しないと判断した場合は評価対象外とする。

授業科目	歴史地理学				単位	2.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
歴史地理学	桑原公徳他編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248838&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	私たちの身の回りで起きている出来事・現象には、必ず時間と位置あるいは場所がある。また、それらは、単独ではなく、必ず他の出来事や現象と関わりながら起きている。このことは過去に起きた出来事・現象も同じである。歴史地理学は、過去に起きた出来事・現象をその場所において他の出来事や現象と関係づけて、場所のもつ意味や特性、場所（地域）の仕組みを考える学問分野である。この授業では、京都を中心にいくつかの出来事（現象）を取り上げ、複数の出来事（現象）を関係づけて空間的な視点からそれらの意味を考えていくことに重点を置き、講義していく。
■学習の要点	1．景観復原の直接的方法と間接的方法について、その方法の特色と使用する諸資（史）料、２つの方法の用い方や関連性を、具体例を通じて理解する。2．弥生時代～古墳時代の集落遺跡の立地環境を調べ、その変化と社会経済的背景を考える。3．わが国の古代都城（宮都）のプランについて、その計画性や特色を、図を用いて整理し、理解する。4．中世における集落形態の変化を整理し、城館集落の分布・形態・機能を具体例を用いてまとめる。5．近世城下町について都市の内部構造上の特色をまとめ、城下町における商工業機能の配置や地域的役割を整理するとともに、他の近世都市との機能的共通点や相違点を考える。6．近代以降における私鉄路線網の形成過程を図にして整理し、私鉄路線の伸長にともなってどのような地域開発が進んだかをまとめ、地域開発に対する私鉄の役割を理解する。
■学習の到達目標	①出来事・現象を含む、歴史地理学的な基本用語を正しく使うことができる。②複数の出来事（現象）間にある関係を見出し、その関係を説明できる。③ある出来事（現象）を他の出来事（現象）と関係づけながら説明できる。
■成績評価の基準	【リポート添削・評価の基準および留意点】①リポート問題の主旨を正確に理解し、それに適った内容になっていること。②リポートの文章構成が論理的に組み立てられているか。③自ら作成したオリジナルのリポートであること。これに該当しないと判断した場合は添削対象外とする。【リポート作成上の留意点】①リポートの形式（「はじめに」から開始し、本論に章番号・タイトルをつけて論理構成を示し、最後に「おわりに」で全体をまとめること）にしたがって記述すること。②参照した文献・資料を必ず記載すること。また、文献の参照

授業科目	東北アジア史				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア国際政治史	川島真編	名古屋大学出版会	[ISBN]9784815805616

■授業の概要	東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解することを目的とする。これまで、日本史、朝鮮史、中国史は、それぞれ別々に「一国史」の枠組みの中で理解されてきた。しかし実際には、三つの国家の歴史がばらばらに存在してきたわけではなく、古代以来それぞれの地域の歴史が有機的なつながりをもちながら展開してきた。また現在もそのような緊密な関係が続いており、「東アジア共同体」「東北アジア共同の家」構想に象徴されるように、今後もこの地域はいっそう強く結びついていくことが予想される。東北アジア史を学ぶことは、この三つの地域をより深いところで理解することでもある。　この科目では、東北アジアの近現代の歴史を学習する。東北アジアの諸地域が近代という時代をどのようにむかえ現代まで進んできたのかを歴史として理解することが必要である。とりわけ日本が朝鮮半島や中国の人々に対して植民地支配と侵略を行った歴史事実を直視することが重要だろう。そのことが、朝鮮半島や中国の人々とこれまで以上に友好関係を築いていくことにつながるからである。　東北アジア史を学ぶことによって、朝鮮半島や中国大陸に暮らす人々とともに生きていくための知識や知恵が得られることを願う。
■学習の要点	東北アジアの近現代史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「東北アジア史」の学習は成功である。特に、以下の点に留意しながら学習を進めてもらいたい。１．開港と近代化…資本主義化を進めた欧米列強のアジアへの圧力に対して、日本・朝鮮・中国の３国はどのように対応したのか。その中で日本はなぜ東北アジアに勢力を膨張させようとしたのか。それは東北アジアにどのような葛藤を引き起こしたのか。また、三つの地域で起った近代化への動きはどのように展開されたのか。２．日本の膨張と朝鮮・中国の抵抗…日清戦争、日露戦争の結果、日本は台湾、朝鮮を植民地支配したが、それはどのようなものだったのか。第一次世界大戦前後における中国問題をめぐる日本と国際社会の動向はどのようなものだったのか。日本の植民地支配、侵略に対して、朝鮮人や中国人はどのように対応したのか。また、そうした中でも進行していった産業化や民衆の生活はどのようなものだったのか。３．侵略戦争と民衆の被害…日本が、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と１５年にわたって行った侵略戦争はどのようなものだったのか。日本の軍国主義はどこから生まれたのか。日本国民は侵略戦争の体制に動員されたのか。それに対する朝鮮人や中国人はどのように抵抗したのか。被害はどのようなものだったのか。また、戦時体制化における民衆の生活はどのようなものだったのか。人類史的な視点から考える必要がある。４．第二次大戦後の東アジア…東北アジアの三つの地域は、１９４５年８月１５日から始まる「戦後」をどのように迎え、どのような国をつくったのだろうか。日本の「過去の清算」はどうなったのだろうか。また、三つの地域は、どのような関係を結んでいったのだろうか。

■学習の到達目標	・東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	日本史特講（古代・中世）1				単位	2.0
担当者	野地　秀俊			シラバスグループ	TQ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
室町人の精神（日本の歴史12）	桜井英治・著	講談社	[ISBN]9784062919128

■授業の概要	「室町時代」は、前後の鎌倉時代、江戸時代などと比べても、どのような時代であったのか、簡潔に説明することが難しい時代かもしれない。テキスト『室町人の精神』は、第３代将軍足利義満から始まり、応仁の乱の終わりまでを対象としている。これは、広義の「室町時代」に、「南北朝時代」と「戦国時代」の区分を加えた狭義の「室町時代」に相当している。また、その内容も、幕府や将軍権力の推移といった王道の時代史に、朝廷(天皇)との関わりを絡めた叙述や、守護や将軍の近臣の動向、文化や社会情勢といった多様なテーマを、おおよそ各将軍の時期ごとにまとめられており、テーマごとの通覧には少し工夫が必要である。ある部分だけを読むのではなく、一通り目を通すことと、足らない部分は他の文献で補っていただきたい。
■学習の要点	室町時代の画期は大きく３つ挙げられる。1.足利義満・義持の将軍在位期 2.足利義教の将軍在位期 3.足利義政の将軍在位期それぞれの時期の政治的特徴と変化の要因などを整理しながら学習を進める。
■学習の到達目標	1.テキストを通読、理解し、その内容を説明できる。2.テキスト以外の文献も参考にしながら、室町時代の特徴について説明できる。3.自分の見解を自分の表現で叙述できる。
■成績評価の基準	テキストだけではなく、それ以外の文献を通読し、理解した上で記述できているか。また、テキストの記述に依拠するだけではなく、自分で整理し、自分の表現でリポートを作成できているかなどで評価。

授業科目	日本史特講（近世）1				単位	2.0
担当者	高橋　大樹			シラバスグループ	TQ5213	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
村　百姓たちの近世（岩波新書 新赤版 シリーズ日本近世史 2）	水本邦彦	岩波書店	[ISBN]9784004315230

■授業の概要	近世社会の成立・展開、およびその特質を「村」に注目して考えます。近世初期、検地と兵農分離、石高制の導入によって近世的な「村」が成立します。そこで幕府や大名、旗本など領主は、村を年貢の村請の単位とし、さらに居住する人々を「百姓」として身分的に把握・支配しました。しかしながら、そうした村や百姓について考える時、支配の側面だけでなく、自治や生業、習俗などもあわせて史料から考える必要があります。また、近世に約 63,000 を数えた村々（天保年間）は、すべて同じ歴史をたどったわけではなく、支配や統治形態、自然環境や立地、住民構成、習俗などによって、それぞれ固有の歴史が積み重ねられてきたことに留意も必要です。　本科目では、そうした個別の村・地域史を具体的な史料に基づいて研究していく前提として、まずはテキストを通じて「近世の村」について具体的なイメージを学び、あわせて近世社会の基本的な構造・しくみを理解することを目的とします。
■学習の要点	本科目テキストは、近世の村について、その成立、景観、領主支配、自治、生業、自然との関わりなど、総合的に理解・イメージすることができます。もちろん、個別事例に基づいて説明されていますが、そこには近世史研究が追究してきた概念や用語（検地・石高制・百姓・村掟・相給村など）も説明されていて、単なる「村」研究にとどまらない日本近世史全体に関する課題・問題群が含まれています。その点を意識しながら学習することを心掛けてください。
■学習の到達目標	「授業の概要」・「学習の要点」に記したとおり、近世の村に関する基礎的・全体的な理解を深め、そこから近世社会における支配・自治・身分・生業などの諸問題について考える思考力を身に付けることを目的とします。したがって、近世の村に関する基礎的用語・内容について、自分の思考・言葉で論述することができるようになることを到達目標とします。
■成績評価の基準	評価の基準は次のとおりとします。（１）テキストの内容や出題の趣旨を理解しているかどうか。（２）文章表現が適切で、記述内容が論理的であるかどうか。（３）近世の村についての基礎的理解が深められているかどうか。

授業科目	日本史特講（近代・現代）１				単位	2.0
担当者	麓　慎一			シラバスグループ	TQ5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
開国と条約締結　ＯＤ版	麓　慎一	吉川弘文館	[ISBN]9784642766692

■授業の概要	日本開国史を事例に日本近代史について以下の三点について習得する。（１）日本開国史は大きく二つの研究潮流が存在する。その二つの研究潮流を的確に理解する。（２）テキストで使われている史料を的確に理解する。（３）幕末・維新史については東京大学史料編纂所の『大日本維新史料稿本』という基本史料がある。テキストにおいてもこの基本史料が使用されている。この基礎史料を受講生が利用し、リポートを作成する。この基本史料は古文書ではありません。日本語の漢文史料です。古文書を解読できなくても辞典を使用することで意味を理解できると思います。（４）以上の（１）（２）（３）を踏まえて学習を進め、論文読解と基本史料の解読の力を養成する。
■学習の要点	①テキストを通読したうえで、テキストに掲載されている参考文献および本シラバスに掲載されている参考文献をいつくか読み込んで、比較検討する。これにより「開国」という歴史事象にも多様な見方があることを理解する。②『大日本維新史料稿本』を使うことで、幕末史の基本史料を解読し、自らの研究に利用できるようにする。③『大日本維新史料稿本』解読するためには辞典が必要である。佛教大学図書館の BIRD にリモートアクセスして、諸辞典を使えるようになる。④以上を通じて、できるだけ独自の見解を史料から示すことができるようになる。
■学習の到達目標	１）テキストを基軸としながらも多くの論考を読んで、それらを比較検討できるようになる。２）日本語の漢文史料を読めるようになる。３）『大日本維新史料稿本』利用して史料を探すことができるようなる。４）佛教大学の BIRD を利用して辞典を使うことができるようなる。＊４）について補足します。佛教大学の図書館のサイトにはいろいろな辞典を使うことができるジャパンナレッジが入っています。論考や史料を読むときに是非、使ってください。①佛大図書館のサイト→②真ん中の「リモートアクセス」から入る。③左上の「ジャパンナレ
■成績評価の基準	到達目標にしたがって、科目最終試験において、その目標達成の度合いが答案に反映されているかどうかが最終的な成績評価の基準となる。とりわけテキストと他の論考を比較し、検索した史料に基づいて独自の見解が示されているものを高く評価します。

授業科目	日本史特講（宗教・文化）1				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TQ5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
神々の明治維新　神仏分離と廃仏毀釈	安丸　良夫	岩波書店	[ISBN]9784004201038

■授業の概要	日本仏教の歴史的展開を考えていく上で、明治初年の「神仏分離」「廃仏毀釈」は大きなトピックとなる出来事と言えるだろう。慶応 4 年 3 月に「神仏分離」の諸布告が出されると、その施策が粛々と実施された社寺があった一方で、地域によっては過激な「廃仏毀釈」が行われており、多くの寺院や文化財が被害に遭ったことは周知と言えるだろう。　ただ一方で、仏教側による抵抗もあり、明治政府は「神仏分離」が「廃仏毀釈」を意味するものではないことを表明している。また復古的な祭政一致を目指した人々も政府を追われ、その計画は頓挫したようにも見える。しかし本テキストの著者は、この「神仏分離」「廃仏毀釈」によって、日本人の精神史に根本的な大転換が生まれたと主張するのである。このことが正しいのなら、現在を生きる我々と前近代の人々の精神には大きな隔絶が存在することとなるだろう。　このように、「神仏分離」「廃仏毀釈」について理解・解釈することは、日本仏教の歴史だけでなく、現在の日本仏教の有り様を考える上でも重要な視座を与えてくれると思われる。本授業では、「神仏分離」「廃仏毀釈」の経緯とその影響について考察することを通じて、日本仏教を見通す歴史的視座を得ることを目的とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節について、以下の点を中心に読み取ること。Ⅰ幕藩制と宗教・近世的な統一権力と宗教の関係・近世の民衆生活における宗教の位置づけについて・近世後期に見える排仏論と具体的な動きの様相Ⅱ発端・新政府内における神祇官の位置づけと「神仏分離令」発布の経緯・「神仏分離」に対する温度差が生じた原因について・神道主義の影響とキリスト教対策、及び仏教の動向Ⅲ廃仏毀釈の展開・地方における「廃仏毀釈」の進展事例と仏教側の抵抗の様相・「廃仏毀釈」が成功・失敗する諸条件についてⅣ神道国教主義の展開・新政府による祭祀体系の整備過程について・国家的な祭祀体系が地方・地域にどのような影響を与えたかⅤ宗教生活の改変・修験道における神仏分離政策の影響について・神社祭祀の体系化により排除された信仰の様相Ⅵ大教院体制から「信教の自由」へ・教部省及び大教院の成立とその教化の様相・啓蒙思想家たちによる「信教の自由」論の特徴と「国家神道」の成立
■学習の到達目標	・「神仏分離」「廃仏毀釈」がどのような経緯で行われ、それが我々の考え方にどのような影響をもたらしたのか、説明できるようになる。・多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、「神仏分離」「廃仏毀釈」の経緯や影響について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。

授業科目	古文書講読１				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5219	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
演習古文書選．古代中世編	日本歴史学会編	吉川弘文館	[ISBN]9784642070218
演習古文書選．近世編	日本歴史学会編	吉川弘文館	[ISBN]9784642070225

■授業の概要	歴史学研究の基礎は、史料にもとづいた史実の検討にある。しかし、史料を用いようとする場合、史料の読解に先立ち、原文の史料（文書や記録）を読み解く作業が必須となるが、筆による記述が日常的ではない現代にあって、和紙に墨書された史料原典の解読は、ある程度の習熟を要する作業である。もちろん一部の分野によっては、史料は「翻字」され、史料集として公刊されているが、中世文書や近世の地方文書など未だ活字化されていない史料も多く、「読み方」を身につけないことには研究しようとする史実そのものの検討さえままならない。本科目は、史料原典を直接読み解く力を養うため古文書の講読を学ぶ。講読とはいえ、実際には「解読」である。一見判読さえも困難に思える古文書を、一文字づつ丹念に読み解き、そこから史料の内容を明らかにする、いわば歴史学研究の基本的な作業に接することにより、史実を明らかにする力を身につけて欲しい。
■学習の要点	まずは定型の文書を例に、古文書の解読を初歩から学ぶ。大まかには次の過程で、1)～5)に注意しながら学習を進めることにより、徐々に解読できるようになると思われる。1)人名や地名など、他の工具類により解読のヒントを得ることが可能な「語（言葉）」の判読 2)書き出しや書き止めなど、文章の中でも定型化しやすい「句（フレーズ）」の判読 3)助詞や助動詞などを含んだ定型な「句（フレーズ）」の判読 4)文中に複数回用いられ、同じ文書中で比較が可能な「文字」の判読 5)前後の文章から推定が可能な「文字」の判読これらの諸点に注意しながら、くりかえし学習してください。
■学習の到達目標	１：文書（原典史料）について、判読が容易な文書であれば概ね判読できる 2：難解な文書（表記）について、前後の文章から推測できる３：文書の発給と差出の関係を基礎に、文書の特徴が推測できる
■成績評価の基準	１：判読が容易な文書（原典史料）について、概ね判読できる 2：難解な文書（表記）について、前後の文章から推測できる３：文書の発給と差出の関係を基礎に、文書の特徴が推測できる

授業科目	東洋古代史特講1				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5231	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国史：古代	永田英正ほか編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248767&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	中国古代は、前近代中国王朝の基本的形態が形成されてくる時期である。その形態がどのようなもので、それがどのようにして形成されてくるのかを学ぶ。その中で、特に重要だと考えられるのが春秋から戦国期にかけての社会的変動である。この変動がどのようにして起こり、その結果どのような結果がもたらされるのかに注意しながら学習すること。結果として、春秋・戦国時代が、戦乱のみの時代ではなかったことを理解できることを目標とする。
■学習の要点	春秋から戦国期にかけてさまざまな変化が起こる。そこで、その前提となる殷周期の政治体制、郡県制の形成過程、都市の発達と繁栄、諸子百家の出現を中心に学習すること。そしてそれを前提に、秦始皇帝による天下統一の意義、武帝期を中心とする前漢の政治動向等も視野に入れて学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①中国古代史の特色を、政治・社会・文化という多方面から説明できる、②社会の大きな変わり目を、各事象から適切に説明できる、という点を設定する。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	東洋中・近世史特講１				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国史：近世Ⅰ		佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	時代区分は歴史を理解するための鍵である。ところが時代区分は歴史家がそれぞれの歴史観によって体系化するものであり、中国史についてもこれまで提唱された区分法はかなりの数にのぼる。このうち日本において相対的に有力な学説は二つあり、テキストはいわゆる京都学派の区分で叙述されている。京都学派の時代区分では、3 世紀～10 世紀を中世貴族制の時代、10 世紀～19 世紀を近世君主独裁制の時代と見る。魏晋南北朝隋唐時代は中世にあたる。この科目では中国近世がどのような社会であるかを学んでいただきたいが、テキストに書かれていることも、数ある体系の一つとして絶対化しないで批判的に学び、その学習を通して自己の歴史を見る眼を養ってもらいたい。
■学習の要点	10 世紀から 14 世紀の中国社会の展開を学ぶ。唐宋変革や、北方民族の台頭、中国への進出・征服という大きなできごとがあり、五代十国の諸王朝、宋、遼、金、夏、モンゴルはどのような統治システムを構築し、社会はどう変化したかを理解する。
■学習の到達目標	10 世紀ー14 世紀の東アジアの国際関係を説明できる。当該時代における各国ぞれの社会状況を説明できる。当該時期における宋の経済的・文化的な特徴を説明できる。
■成績評価の基準	学習の進度と理解度を試験で測る。出題の要点を正しく理解し、重要な歴史事象を落とさずに記述し、記述にあたって論理的に整理することができているか否かをみる。

授業科目	東洋近・現代史特講１				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア近代史研究	狭間直樹ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248775&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	中国と朝鮮の近・現代史は、侵略と闘争のなかで繰り広げられ、政治のあり方、民衆や文化、社会秩序などが大きく変化し、近代国家を建設するという歴史であった。この歴史を単に過去の歴史として知るだけでなく、客観的に判断することが必要である。そして史実に基づいた正確な知識と、歴史の流れのなかでどのような意味を持っていたのかを考えることによって、現代の諸問題の理解に役立つといえる。つまり、中国と朝鮮の近代の歴史を学ぶことは、現在の日中韓関係を理解する上での道筋であるといえよう。　本科目のテキストは、これらの点を踏まえ、中国と朝鮮の近代政治史に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう配慮したものである。
■学習の要点	まずテキストを通読し、中国近代史、朝鮮近代史上どのような出来事があったのか、それらの出来事が起こった原因・展開過程・結果・影響などを把握し理解して欲しい。　その上で、中国の開国は、その後の近代国家を建設するためにどのような影響を与えたのか、帝国主義列強との不平等条約の特色を含め、洋務運動、変法運動の相違などにも目を向けて、中国が滅亡の危機をどのように乗り越えようとしたのかについても把握する必要がある。　朝鮮については、朝鮮の開国と近代化への歴史的展開と日朝関係を理解しておくこと。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中でなかで把握することにある。したがって、解答するにあたり、そうした観点に留意しながら論述することが肝要である。
■成績評価の基準	設問に対するキーワードが答案に全て書かれていれば、それを基準点（60 点）とし、論述の展開や内容を考慮（40 点）し、採点する。

授業科目	東洋宗教史特講1				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教史概説　中国篇	野上俊静	平楽寺書店	[ISBN]9784831301154

■授業の概要	インドで成立した仏教は、西域より中国へ伝播し、中国的特色を持った仏教が成立した。この中国仏教がどのような特色を持ち、中国文化の影響を受けてどのような変貌を遂げていったのか、中国社会にどのように受容されていったのかを学習する。これは、異文化交流の問題や、中国仏教が日本仏教を成立せしめ影響を与え続けた背景を考える上でも重要である。本科目では、中国仏教が一つの頂点を迎える唐代までを中心に上記の問題を考える。
■学習の要点	大前提として、中国史の流れの中に仏教を位置づけることを、たえず意識して学習すること。その上でテキストの章立てにそって、中国への仏教の初伝時期の問題(第 2 章)、魏晋期の経典翻訳と研究(第 3 章)、南北朝期の仏教芸術(第 5 章)、隋の仏教(第 6 章)、唐代における国家と仏教(第 7 章)、末法仏教と戒律(第 8 章)などの問題を中心に、中国仏教の受容・発展過程を学習する。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①中国に受け入れられた仏教の特色を的確に説明できる、②仏教と中国文化との関連性を理解できる、という点を設定する。
■成績評価の基準	問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	東北アジア史特講1				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・韓国現代史（岩波新書新赤版 1577）	文京洙	岩波書店	[ISBN]9784004315773

■授業の概要	1945 年以後今日に至る韓国現代史の流れを理解することを目的とする。今は「韓流」や観光のイメージで多くの日本人に親しまれている隣国であるが、その波瀾万丈の現代史についてはさほど知られていないのが事実である。第二次世界大戦の終結により日本の植民地統治から解放されたものの、二つの国家に分断され、戦争と独裁、経済発展と民主化の激動を嘗めてきた歴史である。戦後世界情勢の変化、南北朝鮮の相互関係、韓国社会内部の葛藤などを総合的に考察することで、韓国の過去や現在を全うに理解することが出来よう。
■学習の要点	韓国現代史の流れを把握し、大きな転換点になった出来事や、その意義について理解してほしい。テキストを通読して、今日の韓国を理解することに役立ったとすれば、この科目の学習は充分成功を収めたことになる。以下、学習の要点を列挙しておく。１．日本の植民地統治からの解放から、米ソの分割占領、そして南北朝鮮に二つの国家が樹立し、分断体制を形成する過程について、国際情勢の流れの中で理解する。２．朝鮮戦争の勃発背景や経過、戦争が遺した影響について理解する。３．朴正熙政権下における韓国社会の変動、特に光と影、とりわけ経済開発と独裁の両面について理解し、その後の歴史にどのような影響を及ぼしたのかについて理解する。４．長期にわたる独裁政権に戦ってきた民主化運動の流れ、1987 年以後の民主化過程について理解する。５．日米をはじめとする国際関係、北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）との関係の中で、韓国の政治・経済変動を理解する。６．今なお韓国社会で政治・社会的対立の構図を形成している「保守」と「進歩」の流れについて、その歴史的背景を理解する。
■学習の到達目標	・韓国現代史の流れを把握し、大きな転換点になった出来事や、その意義について理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋古代・中世史特講１				単位	2.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TQ5251	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
修道院の歴史-聖アントニオスからイエズス会まで	杉崎泰一郎著	創元社	[ISBN]9784422203393

■授業の概要	西洋キリスト教世界の「修道院」という存在は、現代の日本に暮らす我々にとって、ほとんど馴染みがないものだろう。しかし中世の西ヨーロッパでは、修道院はさまざまな分野において社会や文化に影響を与えてきた。この授業ではそうした修道院の歴史を学ぶことを通して、当時の西洋社会の移り変わりを知り、その後の西ヨーロッパに大きな影響を与える存在であった修道院について総合的な理解を試みる。
■学習の要点	本テキストは、古代から近世にかけての修道院の歴史を、それぞれの時代に出現した修道院について、成立の社会的背景やその特徴に注目しつつ説明している。まずはテキストを通読し、西ヨーロッパ社会における修道院の在り方の変遷について、全体像を把握してもらいたい。　そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている修道院の特徴や当時の社会状況について、前後の時代の修道院との比較を通じて理解を深めてもらいたい。その際、下記の参考文献およびテキスト巻末に挙げられている参考文献も積極的に活用することが望まれる。１．中世を通じて西ヨーロッパ社会の修道院の在り方に大きな影響を与えた「ベネディクトゥスの戒律」の成立とその内容の特徴について、それ以前に成立した他の戒律の影響や社会的背景も考慮しつつまとめる。２．カロリング朝フランク王国の教会政策と、当時の修道院文化の発展の関連性について考察する。３．クリュニー修道院の発展について、修道院外部との関係や当時の社会状況を踏まえて考察し、その独自の修道院生活や組織の特徴を理解する。４．シトー修道会による修道院改革の背景を踏まえつつ、その修道院規則や制度の特徴についてまとめる。５．シャルトルーズ会の修道院生活の特徴について、他の修道会と対比しつつ考察する。６．グレゴリウス改革と連動した教会の社会的活動の中で、新たに出現した騎士修道会について、いわゆる三大騎士修道会を中心に、その成立背景と理念、活動の特徴についてまとめる。７．１３世紀に出現する托鉢修道会の活動について、当時の教会や社会の変化を踏まえつつ考察する。
■学習の到達目標	現代にいたるまでさまざまな分野において社会や文化に影響を与えてきた修道院の歴史について学び、それを通して中世西ヨーロッパのキリスト教世界について知識と総合的な理解を得ること。
■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。　出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	西洋近世史特講1				単位	2.0
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	TQ5253	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ベルリン・歴史の旅　都市空間に刻まれた変容の歴史	平田達治	大阪大学出版会	[ISBN]9784872593082

■授業の概要	現在のドイツの首都であるベルリンは、冷戦期において分断の歴史を経験したことでよく知られ、とりわけ現代史において注目される都市である。それ以前においては、19 世紀後半のドイツ統一を機にドイツ帝国の帝都となり、近代ドイツ史の中心舞台として語られる。だが、こうして近現代に大都市として登場するベルリンの礎は、ほかでもなくそれに先立つ近世に形づくられた。本科目では、都市計画による空間整備とともに、多様な人びとを受け入れることにより、政治・文化の中心地としての機能を整えていったベルリンの歴史に着目することにより、近代社会や国家の成立に向かって果たした近世都市の役割を考察することを目的とする。そうすることによって、近世という時代の特質とともに、近代とは何かという問題にも迫ることができる。
■学習の要点	(1)　日本とのかかわりからベルリンの歴史に親しみ、問題意識を共有するように努めること。(2)　中世から近世にかけての王都としての発展と、政治や文化との相互関係を理解すること。(3)　近世から近代にかけて、外的要因に翻弄されつつ、王家や来たる国民国家の表象の場としてベルリンが果たした役割について理解し、政治権威の表象の問題について考察すること。(4)　他者を受け入れることにより多文化都市として発展し、啓蒙期のヨーロッパにおいて一つの文化センターとなったベルリンの側面について理解すること。(5)　第 1 次世界大戦から冷戦終結までの歴史を概観し、1 都市と世界とのかかわりについて理解を深め、ローカルな歴史とグローバルな歴史との関係を考察すること。(6)　(2) ～ (5) を踏まえて、近代都市とは異なる「近世都市」の特質とその発展要素を考察すること。その際、近代との連続性についても留意されたい。
■学習の到達目標	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。
■成績評価の基準	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。

授業科目	西洋近代史特講1				単位	2.0
担当者	水田　大紀			シラバスグループ	TQ5255	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
二〇世紀の歴史　岩波新書　新赤版　1499	木畑洋一	岩波書店	[ISBN]9784004314998

■授業の概要	1870 年代から 1990 年代までを「長い二〇世紀」ととらえ、その構造と性格を帝国主義世界体制（帝国世界）の面から解説します。「長い二〇世紀」とは、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて作り上げられた世界の仕組みが、二つの世界大戦を通じて動揺し、再編され、解体されていく過程でした。この経緯を「帝国主義」をキーワードとして、支配側だけでなく、被支配側による戦争協力やその後に進行した独立抵抗運動、脱植民地化の流れもまじえてみていきます。なぜこの時期が「長い二〇世紀」たり得るのか。それは 21 世紀の現在では克服されたといえるものなのか。現代につながる大きな歴史の流れのなかで、「長い二〇世紀」はどのような意味を持っているのか、について考えていきます。
■学習の要点	歴史を学ぶ魅力を知ること。先行研究の視点や理論を把握しつつ、現代世界を正しく理解するうえで必要なバランス感覚を養い、世界史という観点にたって議論を組み立てること。そのためには、個々の事件や出来事をただ覚えるのではなく、それらを発生させた大きな歴史の流れについて理解することが重要となります。またその際、歴史学における課題の設定や史料の活用、解釈の方法など方法論についても検討し、西洋史学研究の基礎を修得します。そういった視点を身につけることは、ひいては私たちが生きている時代の展望を探る鍵にもなるでしょう。
■学習の到達目標	① 「長い二〇世紀」という視点から、国際社会の動きについてある程度の理解ができる。 ② 大きな歴史の流れやヨーロッパ―植民地両者の連動を踏まえて、とりあげた事例を説明できる。
■成績評価の基準	解答が「学習の到達目標」の各項目を十分に満たしているか、またはそれを踏まえて問題に答えられているかにより、成績評価を行います。

授業科目	西洋宗教史特講1				単位	2.0
担当者	山内　暁子			シラバスグループ	TQ5257	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
トロイア戦争：歴史・文学・考古学	エリック・H・クライン（西村賀子訳）	白水社	[ISBN]9784560098257

■授業の概要	「トロイア戦争」は、ホメロスの『イリアス』によってその一部が伝えられ、多くの神話伝承によって人々に知られている神話物語です。一方で、考古学という学問の黎明期において、「トロイア」が実在する都市をモデルとしたのではないか、ギリシア人と「トロイア人」との間に戦争が行われたのではないか、という、神話と歴史との間を考古学が橋渡しするという刺激的な展開が見られました。トロイアと推定された遺跡を発掘したシュリーマンは、「ギリシア考古学の父」として知られていながらも、多くの批判を受ける人物です。テキストでは、「トロイア戦争」を様々な研究成果から分析し、21 世紀初頭において、この疑問がどこまで回答を与えられているのかについて紹介したものです。まずは第Ⅰ部で「トロイア戦争」の神話物語と歴史的背景について、基本的な部分を理解して下さい。第Ⅱ部は「文字」による史料の検討で、ここでは歴史学的な観点から、さらに第Ⅲ部では遺跡や遺物といった考古学的な見地からの再検討が行われます。「トロイア戦争」の神話物語だけを読むと、オリュンポスの神々と英雄たちが活躍するフィクションだと言えますが、文字史料や考古学的な発見によって、「トロイア戦争」を現実の問題として考察することが可能になっています。ギリシア人が信じた神々や英雄たちが、どのような社会的背景に基づいて描かれていたのか、現在の歴史学が依拠する史料や、遺物から仮説を立てる方法など、どのようにして歴史像が構築されるのか、自ら学び取るように試みて下さい。考古学者シュリーマンの人物像に興味がある方は、参考文献として挙げた『愛と偽りのトロイ』で、シュリーマンに対する批判的な観点を見ていただいてもいいですし、具体的な発掘成果に触れたい方は『ギリシア考古学の父シュリーマン』で、ティリンスの遺跡発掘の遺物が参考になります。ただ、参考文献を読まなくても単位は取得可能ですから、より深く理解したい、あるいはテキストだけでは全体像を把握できない方のために紹介していると考えて下さい。提出するリポートについては、あくまでもテキストを中心にすえて作成をお願いします。「トロイア戦争」とは、どのように認識され、また理解される過程が存在したのか、「歴史」と「神話」の関連とはどのようなものなのか。常に疑問を持ちながらテキストに取り組むことによって、トロイア戦争の歴史蔵について理解することが、この講義の目的です。
■学習の要点	テキストは基本的な神話物語の概観と歴史的背景（第Ⅰ部）、ホメロスなどの文学資料と、ヒッタイト文書など歴史学史料の検討（第Ⅱ部）、そして考古学的な見地から、トロイアについて総合的に議論を進める（第Ⅲ部）という三つの部分から構成されています。全ての部分を詳細に理解していくことは難しいかもしれません。しかし、今現在トロイアについて分かっていること、それを考古学的な遺物から検討する第Ⅲ部については、よく理解していただければと思います。第Ⅲ部には 20 世紀末から始まったコルフマンによる発掘成果も取り入れられており、かなり近々の研究状況を反映しているので、ミュケナイ時代から 3000 年以上を経てなお議論が続いている様子が、よく分かるでしょう。また、このテキストは日本

	のギリシア古典学者による翻訳書であり、丁寧な用語集や、議論の道筋を掴みやすくするような配慮がなされています。訳者の西村賀子による「さらなる理解のために一解説にかえて」という部分は、エピローグの後に掲載されていますが、テキストの内容を補完し、読者がより容易にトロイアを理解できるような解説が付されています。テキストを読む前、あるいはテキストの内容を把握した後で、是非こちらの解説にも目を通すことをお勧めします。テキストには、様々な問題点が提示されています。「ホメロス問題」や「海の民」、「ミュケナイ人とトロイア人」「トロイアの位置」、あるいは「トロイアの木馬」についての解釈などです。自分が興味を持ったポイントをテキストを通じて追ってみることも可能です。様々な史料や研究手法、考古学的調査方法など、どのような手段によって議論が進められて行くのか、気をつけながら読み進めるようにして下さい。

■学習の到達目標	設問の内容をよく理解し、テキストをよく読んだ上で設問の指示に従って内容をまとめるようにしてください。史実や用語が正確であること、また明快な文章での論述を心がけるように。学習の到達目標は、テキストを入口として、古代ギリシア社会の様相と、それを後の時代がどのように受容したかについて、自分なりの歴史像を持つことです。最終試験における評価基準は、上記のリポート評価基準と同様ですので、これらの点に気を付けて回答してください。評価については、あくまでテキストに書かれた部分を中心としていますので、テキストをきちんと読み

■成績評価の基準	歴史学においては、様々な仮説が検討されており、いろいろな解釈が可能な事象が多くあります。しかし、一方でいくつかの考察を経て定着した用語や、歴史的経緯の説明については広く共有され、議論の基盤となっています。受講生の方にはテキストや参考文献を読み、古代ギリシア社会についてある程度の立体感を持った歴史像を抱いてもらい、それを解答で表現できるようにして欲しいと考えています。テキストに書いてある歴史的な事例や、遺物や遺跡などについて、具体的かつ正確な解説を行うことが、まず第一です。紹介されてある事例について正しく理

授業科目	東西交流史特講1				単位	2.0
担当者	鈴木　楠緒子			シラバスグループ	TQ5259	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
オスマンｖｓ．ヨーロッパ―“トルコの脅威”とは何だったのか	新井政美著	講談社学術文庫	[ISBN]9784065228456

■授業の概要	この授業では、歴史上ユーラシア大陸の東西交流の有力な担い手となってきたトルコ系の人々によって建設されたオスマン帝国の西方への拡大の歴史を取り上げ、この国が東西交流史の中で果たした役割について考えていく。その際、「トルコの脅威」に直面したヨーロッパがそれにどのように対処していったかについても具体的に跡づけることを通じて、「ヨーロッパ近代」の形成にオスマン帝国の存在が与えた影響についても考察を進めることとする。以上の作業を通じて、東西交流史の重要な一側面に対する理解を深めることが、この授業の目標である。
■学習の要点	(1)歴史上どのような勢力がユーラシア大陸の東西交易ルートを掌握してきたのかを理解する。(2)(1)を踏まえた上で、トルコ系の人々の活動の特色を理解する。(3)トルコ系の人々がイスラム教を受容したことを契機に、ユーラシア大陸の東西交流史が活発化していく過程を理解する。(4)ヨーロッパにとっての「トルコの脅威」は、キリスト教対イスラム教という単純な図式には還元できないことを、具体的な事例から理解する。
■学習の到達目標	「学習の要点」を参考にしながらテキストの内容と出題の意図を正しく理解した上で、それを明快な日本語で論理的に表現する。
■成績評価の基準	テキストの内容を正確に理解し、出題内容に即した論述になっているかどうかが、第一の評価基準である。下の参考文献等を利用し、学習内容を発展させた記述になっている場合は、加点する。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	日本文化史				単位	2.0
担当者	駒井　匠			シラバスグループ	TX5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本文化史　第 2 版	家永　三郎	岩波書店	[ISBN]9784004201878

■授業の概要	近年の日本史研究の分野では、日本の文化の独自性・特殊性を強調するのではなく、諸外国からの影響も適切に把握し、その中で日本文化の特質を明らかにすべきことが求められている。また文化は社会の産物であるから、各時代の特質との関係にも留意する必要がある。本科目では、日本文化史に関する古典的な著作を読むことから、日本文化史のおおまかな流れを把握し、その特質を考える手がかりを得たい。特に諸外国との交流や社会の変容と文化史との関係を重点的に読みとるように努めてほしい。
■学習の要点	以下の諸点に留意しながらテキストを読むこと。①文化といっても、政治や社会経済と全く無関係であるということはあり得ない。政治や経済を扱ういわゆる「一般史」との関わりを視野に入れて、日本文化史の流れを把握する。②貴族や武士だけが文化の担い手であるわけではない。文化の担い手を広く捉え、その変化を把握する。③日本の文化の歴史と諸外国との関係をどのように描き出しているか。このあたりは近年の日本史研究でも強く求められるところである。本書は新しい研究ではないが、叙述の特徴をしっかりと把握すること。④原書は必ずしも最近のものとは言えないので、参考文献を含め、近年の研究も積極的に参照し、理解を深めること。
■学習の到達目標	・文化史の流れを把握し、日本文化の特質を理解するための視角を身に付ける。・文化の展開それ自体を孤立したものとしてではなく、政治史・経済史・対外交流等との連関から捉える視角を身に付けることを大きな目標とする。
■成績評価の基準	上記の到達目標に合致した内容を含んでいるかどうかを重視する。その他、リポートとしての体裁を備えているかも評価の基準とする。・論理的な記述であること。・常体（～だ、～である）で書いていること。・自分の考えと他者の考えをきちんと区別して書いていること。・他者の意見の引用が適切にできていること。

授業科目	東洋文化史				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	西洋文化史				単位	2.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TQ5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
魔女・怪物・天変地異　―近代的精神はどこから生まれたか	黒川正剛著	筑摩書房	[ISBN]9784480016713

■授業の概要	中世末から近世にかけてのヨーロッパ世界では、「魔女狩りの激化」と「驚異の大増殖」という二つの出来事が同時代現象として噴出した。それは中世から近代へと移り変わる過渡期であり、中世的な考え方と近代的な考え方がせめぎあう時期であった。この授業では「魔女狩り」と「驚異」の歴史を考察することを通して、西洋における近代的精神がどのように生まれてきたのか理解することを目指す。
■学習の要点	まずは本テキストを通読し、「驚異」と「魔女／魔術」に対する人々の認識の変容について、全体像を把握してもらいたい。そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている内容の理解を深め、テキスト著者の主張を考察してもらいたい。その際、下記の参考文献やテキスト巻末に挙げられている参考文献なども活用すると良いだろう。1．近世以前のヨーロッパの人々の、「驚異」に対する認識と「好奇心」に関する考え方について、後世への影響も踏まえつつまとめる。2．大航海時代の幕開けが、ヨーロッパ人の「驚異」に対する認識と「知的好奇心」に与えた影響について、地図・植物誌・動物誌などにおける発展・変容を踏まえつつまとめる。3．16 世紀ヨーロッパにおける、新大陸をはじめとする異境由来の「驚異」についての認識と、「好奇心」に関する見解について、アンドレ・テヴェやアンブロワーズ・パレの著述を中心にまとめる。4．宗教改革前後の時代のヨーロッパ社会における、怪物・驚異を「世界の終末」や「神の怒り」として認識する傾向について、各地のさまざまな例を踏まえつつ整理する。5．近世を通して緩やかに進行した、「驚異の自然化」と「好奇心の近代化（名誉回復）」について、パレなどの萌芽的な動きと、中世的考え方を維持しようとする立場を対照させつつまとめる。6．魔女狩り激化の時代とその終焉以降において、「魔女」と「魔術／驚異」についての認識はどのように変化したか、例を挙げつつ整理する。7．近代的精神の成立に向けて、「悪徳としての好奇心」から「学知の起動力としての好奇心」へという変化について、それと連動したジェンダーの問題についても踏まえつつ、例とともにまとめる。
■学習の到達目標	「魔女／魔術」および「驚異」に対するヨーロッパの人々の認識の変容について学び、それを通して西洋の近代的精神とは何か、近代化とは何かということについて総合的な理解を得ること。
■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。　出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	交渉・交流史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際交易の古代列島	田中史生・著	KADOKAWA	[ISBN]9784047035676

■授業の概要	グローバル化が進展するこんにちではあるが、こうした「国際」的関係・交流は、日本列島を含む東アジアにおいては古代より見られるものである。本講義では、従来日本列島内部でのみ語られがちな古代史を、首長層の交流や民間海商の活動など、国際的交易の観点から学修する。
■学習の要点	テキストを的確に講読し、それをノートなどにまとめておくとよい。またテキストだけでなく、様々な文献にも目を通し、意見の相違などを理解しておくこと。また古代の交流を日本の立場だけでなく、中国から見た場合、どう理解できるかも、積極的に考えること。
■学習の到達目標	①日本列島を含む東アジア古代の交流・交渉の歴史について、その流れを理解している。②東アジアにおける古代の交流・交渉について、具体例を挙げながら的確に述べることができる。③東アジア古代の交流・交渉の果たした役割について、適格に述べることができる。
■成績評価の基準	①テキストが的確に読めているかを基準とします。②他の文献や意見を参照して、テキストとの異同を理解できているかを基準とします。

授業科目	政治文化史				単位	2.0
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	TX5120	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本歴史 05　律令国家の転換と「日本」	坂上康俊著	講談社文庫	[ISBN]9784062919050
日本歴史 06　道長と宮廷社会	大津透著	講談社文庫	[ISBN]9784062919067

■授業の概要	テーマ：平安時代の政治と文化概要：政治文化とは、ある社会や社会を構成する人々に特有の政治認識･政治行動のパターンをいう。近年の諸研究において、日本の政治文化の特徴は、権威上義的性格、集団主義的、他者依存的、状況依存的、「場」の重視などと指摘されている。このような政治文化は、それぞれの時代の政治形態や文化と関連して醸成されたものであるといえよう。本講義では、日本の古代から中世への移行期である平安時代の政治と文化を取り上げて、政治と文化との関連性や日本の政治文化の特徴の一端を考える。
■学習の要点	多くの受講者にとっては、専門用語や人名などが難しく感じられるかもしれません。面倒ではありますが、辞書をこまめに引くことが、研究の第一歩です。辞書を引きながら、ゆっくり読み進め、最後にもう一度、全体を読み通してみてテキストの内容理解を深めてください。
■学習の到達目標	・平安時代の政治形態の推移とその特徴を説明できる。・平安貴族社会の文化的特徴を説明できる。・日本の古代から中世社会への移行状況を理解し、政治と文化の関係を説明できる。
■成績評価の基準	・平安時代に関する基礎的知識を有し、用語や概念を的確に理解した上で論述しているかを判断します。・テキストの内容を十分に理解しているかを判断します。・テキストの内容を踏まえた上で、自分の考えや意見を、史料的根拠に基づき述べられていれば高く評価します。

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	日本思想史			単位	2.0
担当者	寺嶋　一根		シラバスグループ	TQ5419	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概説日本思想史	佐藤弘夫　編集委員代表	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623043033

■授業の概要	本科目においては、日本の古代から現代にいたる日本思想の歴史を学ぶ。日本の思想の特徴としては、伝統的な思想を保持しようとする傾向、海外思想を取り入れることによりその後進性を克服しようとする努力、新旧両思想の反発と融合による二重構造の形成といったことが指摘できる。日本の思想や文化、その歴史や伝統を学ぶことは、民族の歴史や伝統を再検討・再認識することでもあり、また、思想や文化の新しい進路を探ることにつながる。
■学習の要点	テキストは古代から現代までの通史である。第１章 「日本の誕生」～第２５章「国民と市民の相克」からなるが、最初に目次を参考に、各章の特色を把握すること。試験問題は、各時代において基礎的に重要と思われる事項や思想について出題している。テキストは通史また概説書として編纂されたものであるので、参考文献を手がかりに、より一層の考察を深めてほしい。１．奈良時代の仏教と寺院２．摂関政治と国風文化３．平安時代の仮名文学と物語文学４．中世の文芸と芸能の思想５．近世の町人の思想・農民の思想６．大正デモクラシーの思想
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。・問題はテキストに即して出題する。出題意図、問題内容、何を書くか、結論はどうするか、じっくり考えて解答すること。・誤字脱字、文体の不統一、不自然な表現や意味不明な表現がはなはだしい場合は不合格とする。・採点は加点方式を基本とする。問いに対して解答するに必要なキーワードがすべて含まれていると 60 点とする。・出題の要点を正しく理解していて、表現が的確であり、主張の要旨が明快であれば高く評価する。
■成績評価の基準	出題の要点が正しく理解できていること。表現が的確であること。主張の要旨が明確であること、等を評価の基準とする。

授業科目	東洋思想史				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
入門 中国思想史	井ノ口哲也著	勁草書房	[ISBN]9784326102150

■授業の概要	中国思想の変遷について、各時期の思想的特色を規定する時代背景をも視野に入れて、殷周期から近現代までを通史的に理解する。
■学習の要点	学習に当たっては、春秋末～戦国期における諸子百家の出現、秦始皇帝の統一～前漢武帝期における思想動向、魏晋南北朝期における道教・仏教の隆盛、宋代における朱子学の成立とその後の展開、明代～清朝における考証学および西洋思想との邂逅、清朝後半期～民国期における近代思想の展開等に注意しながら取り組むこと。
■学習の到達目標	①中国思想の変遷を的確に説明することができる。②各思想は、相互に影響しあいながら成立していることを説明することができる。③各時期の思想的特色を、歴史的背景をも視野に入れて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の到達目標に示した①～③の点が、どれだけ達成されているかによって評価する。到達目標②③が不十分であっても、①ができていれば 60～69 点、十分とはいえないが①～③のすべてに論及できていれば 70～79 点、①～③をほぼ達成できていれば 80～90 点、①～③を十分に達成していれば 90～100 点。

授業科目	西洋思想史				単位	2.0
担当者	山内　暁子			シラバスグループ	TQ5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
学問としてのオリンピック	村田奈々子・ 橋場弦著	山川出版社	[ISBN]9784634640849

■授業の概要	2021 年に東京で開催された現代のオリンピックは、古代ギリシアにおける「オリンピア祭」にならったものです。ギリシア人はオリュンポス十二神を中心とする多神教を信仰し、オリンピア祭はゼウスへの動物犠牲を主な儀式とする宗教行事でした。同時に、祭典は古代市民たちが冠と名誉をかけて戦う場であり、多くの情報交換や政治・哲学・芸術などのアピールを可能ともしたのです。授業のテキストはオリンピア祭だけでなく、それを近代オリンピックへと転換した思想的バックグラウンドについても取り上げており、今日的観点からもオリンピア祭を考えることが可能です。第 4 章「スポーツを科学する」は、思想史の観点からはやや異質で、リポートや試験についてはその他の章に重点を置いた記述をするように注意してください。古代の祭祀については、第１章と第３章を参考にし、思想としてオリンピックを考察する際には第２章と第５章を熟読することを勧めます。古代の祭儀について詳細な情報が欲しい場合は、参考文献として挙げる桜井万里子・橋場結弦編『古代オリンピック』を読んでください。古代ギリシア人が実践した祭儀を、なぜ現代世界において私たちが受け継いでいるのか、あるいはオリンピックとはどのような歴史観が反映されたものなのか一自ら問いかけながらテキストに取り組むことによって、オリンピックについて独自の考えを持てるようになることが、この講義の目的です。
■学習の要点	テキストの記述は平明で分かりやすく、読み進めやすいのですが、何人かの著者によって書かれたものであるという性質上、通読が難しく感じる部分もあるかもしれません。自分が興味を持ったテーマについての関連部分をチェックし、そこを中心に読み解くことを勧めます。「授業の概要」で上述した通り、古代の祭祀については『古代オリンピック』が参考になりますし、テキスト巻末の参考文献リストには、日本語で読める一般書や古典史料が案内されているので、自分が興味を感じたものを手に取ってみてください。もちろん、テキスト一冊を深く読み込むことも大切ですが、自分が関心を持った部分だけでも理解を広めていただきたいと思います。テキスト第 3 章は考古学的遺物、すなわち「モノ」を中心としてオリンピックを概観した部分ですが、このように「モノ」や視覚的史料に基づいて知見を深めることもひとつの方法です。参考にした文献はリポートなどにきちんと明記して、テキスト理解のための努力をアピールしてください。自分独自の観点から、テキストに接近していくことを試みてください。
■学習の到達目標	設問の内容をよく理解し、テキストをよく読んだ上で設問の指示に従って内容をまとめるようにしてください。史実や用語が正確であること、また明快な文章での論述を心がけるように。学習の到達目標は、テキストを入口として、古代ギリシア社会の様相と、それを後の時代がどのように受容したかについて、自分なりの歴史像を持つことです。最終試験における評価基準は、上記のリポート評価基準と同様ですので、これらの点に気を付けて解答してください。評価については、テキスト読解の力を中心としていますので、テキストをきちんと

	読み込んで、テキス

■成績評価の基準	歴史学においては、様々な仮説が検討されており、いろいろな解釈が可能な事象が多くあります。しかし、一方でいくつかの考察を経て定着した用語や、歴史的経緯の説明については広く共有され、議論の基盤となっています。受講生の方にはテキストや参考文献を読み、古代ギリシア社会についてある程度の立体感を持った歴史像を抱いてもらい、それを解答で表現できるようにして欲しいと考えています。テキストに書いてある歴史的な事例や、遺物や遺跡などについて、具体的かつ正確な解説を行うことが、まず第一です。紹介されている事例について正しく理

授業科目	宗教文化				単位	2.0
担当者	熊谷　貴史・斎藤　英喜			シラバスグループ	TQ5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本文化の歴史	尾藤　正英　著	岩波新書	[ISBN]9784004306689

■授業の概要	日本文化の歴史を、仏教の受容とその影響に主眼をおいて概観する。

■学習の要点	インドにはじまる仏教は、地域や時代を経て、ダイナミックに展開しながら日本へと東漸した。日本の文化史を概観すると、大陸からの先進的な諸文化の受容と、それらを日本的に応用・変容していく流れがある。とくに古代～中世にかけては、漸次もたらされた仏教にかかるウエイトが大きい。ただし仏教にも様々な哲学や思想があり、その違いにより、文化としての表出の仕方も異なる。仏教思想の根幹と多様性をおさえ、それらが日本でどのように受け入れられ、また影響を及ぼしたのか、という点を整理・理解することが学習の要点となろう。

■学習の到達目標	日本文化の流れのなかで、仏教がどのように受容され、影響をおよぼしたのか、その要点を説明できるようになる。

■成績評価の基準	・該当する対象を的確にとりあげ、論述されていること。・項目の羅列や用語説明ではなく、日本文化の流れを視野に入れて論述されていること。・テキスト等の書き写しではなく、各自の言葉で論述されていること。

授業科目	社会経済史				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TX5121	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
戦国大名の経済学	川戸　貴史	講談社	[ISBN]9784065200155

■授業の概要	前近代社会は現代社会とは異なる原理で成立している。現代日本は資本主義体制のもとにあり、我々はその中で生まれ育ち、教育を受けてきた。おのずから過去を見る眼は現代を基準にすることを免れない。しかし社会経済史が対象とする経済社会は、必ずしも資本主義とは限らず、この講義で取り上げる前近代社会のような場合は、経済の仕組みや原理も異なっており経済学辞典も通用しない。本講義では、経済事象の歴史学的な分析（史学的な検討や分析）を通じて「経済社会」の全体構造とその歴史的展開を究明する、という社会経済史の考え方や物の見方を学ぶ。
■学習の要点	人間の行動の多くは「経済的営為」によって占められている。ヒトは生活を維持・発展させるために必要な物質（食料・衣類・その他）を生産、分配（交換・贈与・搾取）、消費するだけでなく、それらの活動を通じて社会関係をも形成している。社会経済史は、こうした人の経済活動のありようや活動に伴い生じる社会関係を史学的に考えようとするもので、人の活動を経済活動としてとらえた場合にどのように理解できるかを考えることが重要である。ただし、この講義が対象とする前近代の経済活動は、戦争や祭祀といった一見経済活動とは無関係にさえ思える活動も検討の対象となることに注意が必要である。とりわけ戦争や祭祀は、事象自体の激しさ、派手さに目を奪われ、経済活動として理解するという視点が軽視しがちとなりやすい。対象となる事象を経済学的にとらえるどのように考えられるのか、という意識を大事にしたい。
■学習の到達目標	社会経済史とはどのような分野で、その特徴はどのようなものであるか。また社会経済史が対象とする経済事象としてはどのようなものが考えられるかについて説明できる
■成績評価の基準	論述問題が要求する課題の範囲内で、日本前近代の経済事象について、理解したうえでまとめられているかを見る

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。

■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。

■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。

■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	人文地理学１				単位	2.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TQ5514	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
地理学基礎シリーズ　地理学概論〔第２版〕	上野和彦･椿真智子･中村康子編著	朝倉書店	[ISBN]9784254168198

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場　　合は不合格とする）。

授業科目	自然地理学１				単位	2.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TQ5515	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕　地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	問題の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学１				単位	2.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TQ5516	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌[改訂版]	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種・民族に関する問題を適切に理解している。③世界のさまざまな地域や国における人種・民族に関する問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う問題について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論１				単位	2.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TQ5517	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第２版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	教育評価				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS0559	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。【成績

■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	幼児教育職入門				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　保育職論	松本峰雄他・編著	建帛社	[ISBN]9784767951072

■授業の概要	教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ、「教える」「保育する」という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。併せて幼小連携・幼保連携の観点から、教育・保育の専門職として教育の制度について理解し、教師・保育者に求められる知識・資質・専門性・連携等について考える。
■学習の要点	教職・保育職の理解と教育・保育に必要な資質・能力を涵養する。具体的には、以下の事項等である。・教師・保育者の存在意義と役割・教師・保育者の歴史・教師・保育者の職責と求められる資質・能力・教師・保育者の専門性・教師・保育者としての成長・社会の中の教師・保育者
■学習の到達目標	1.教師・保育者に必要な知識・技術の概要を把握する。2.教師・保育者に必要な資質能力を理解する。3.教師・保育者の職務内容、服務上・身分上の義務を理解する。4.ティーム保育の意義及び専門家との連携について理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	学校教育職入門			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	幼児教育課程論				単位	2.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振る返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	学校教育課程論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS0527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	法的拘束力には議論がありますが、現実には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」は学習指導要領が規定しています。各学校が教育課程を編成するにあたっては、地域や子どもの実態を考えながら、これによらなければならないものであります。この学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領（小学校：2011 年、中学校：2012 年、高等学校：2013 年）はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、総合的な学習の時間が削減され、小学校高学年で外国語活動が導入されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」の問題を端緒としていると考えられています。今回の改訂によって教育内容は劇的に変容することを示しており、現場の教師に大きな負担をかけることも事実です。
■学習の要点	学習指導要領について様々な観点から学習してください。　・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ 1958 年の改訂は学習指導要領の性格を以下の点で大きく変えるものでありました（①生活単元学習・問題解決学習から系統的学習へ移行したこと。②学習指導要領の法的拘束力を主張したこと。③道徳の時間を特設したことなど)。以上について詳細に学習してください。　・「総合的な学習の時間」について、学習してください。　・現行の学習指導要領（2008 年改訂）について、どのような特徴をもつか、学習指導要領を確認して論じてください。　・学習指導要領（2008 年改訂）が改訂されるまでに、我が国ではさかんに学力の低下について論じられてきました。学力とは何か、学びとは何か、今日の学力問題の見方、議論について学習を深めておきましょう。同時に「基礎基本の確実な定着（つまり基礎学力)」を学校教育においてどう実現すればいいのか、その留意点を考え学習しておいてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳教育の研究				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS0561	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動研究			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TS0563	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちであることは論を待ちません。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。 子どもたちの主体性や自主性、個性の伸長が涵養され、学びとる力、学ぶ意欲が育成されれば、それが教科学習のやる気につながります。そこで得た知識が再び特別活動で実践され、その実践の中で確認されたものが教科学習で深化・充実されるという相互作用があればそれらが相乗効果を生み、真の学力となっていきます。それが、教育のあるべき姿ではないでしょうか。 特別活動の研究では、教師としての教科外指導に対してどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級活動」「児童（生徒）会活動」「クラブ活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」とを示しています。この２つについての内容の理解を深めておいてください。また、(1)、(2)についての指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．児童（生徒）会活動における「委員会活動」や「児童（生徒）会集会活動」について理解を深めておいてください。とくに、児童（生徒）会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「遠足・集団宿泊的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	幼児理解と保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育方法論				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TS5460	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心』『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	生徒指導・進路指導の研究（初等）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS0567	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、児童の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 教員の特性と在り方について考えるにあたり、学校教育法第 17 条、第 18 条ならびに学校教育法施行規則、さらには学習指導要領総則に目を通し、教育の基本と特性について理解を深めることが重要となります。
■学習の要点	教育は、教育基本法などの法令などに示すところに従い、各学校において地域の実態や児童の心身の発達段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程編成に基づいて、初等普通教育として調和のとれた人間の育成を図ることを目的としています。変化の激しい社会に主体的に対応できる力の育成、心豊かで社会性に富み、国際社会に生きていくことのできる日本人の育成、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実によって、自己教育力の育成を図る、などを重要な教育課題としています。 昨今では、全国各地の教育現場で「学級崩壊」なる現象がみられ、現場教員を悩ませています。それは小学校のみならず、中学校や高等学校でもみられるようになってきていることからも明らかです。 それぞれの校種の教育の基本や教員の特性を十分念頭において、中央教育審議会が指摘する「人間力」を身につけた児童の育成に努力を傾注しなければなりません。学習にあたり、特に以下の項目に留意してください。 １．教科外教育とは何かについてまとめ、その構造と課題について述べてください。 ２．生徒指導の原理とは何かについてまとめ、その意義と内容について説明できるようにしてください。 ３．教育相談とは何かについてまとめ、その際のカウンセリングの理論と技法について説明できるようにしてください。 ４．不登校の児童が自分のクラスにいた場合、どのような点に注意して指導するのか、その背景となる理論と具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ５．いじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ６．学級崩壊はどのような背景から生じるものかについて理論的にまとめ、その対応と予防策について説明できるようにしてください。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	生徒指導・進路指導の研究（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の研究			単位	2.0
担当者	渡邉　照美		シラバスグループ	TS0569	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年児童・生徒の成長・発達上の問題として、いわゆる不登校、いじめ、非行などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする児童も増えていると言われている。このような子どもたちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、すべての学級担任教師が教科指導とともに教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングの意義と方法について。３．小学校時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、子どもたちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめなど、子どもたちの人間関係の問題への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	教育評価（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	学校教育課程論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳教育の研究（中）				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。

■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。

■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。

■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動研究（中・高）			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の研究（中・高）			単位	2.0
担当者	渡邉　照美		シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	幼児教育・保育職入門				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　保育職論	松本峰雄他・編著	建帛社	[ISBN]9784767951072

■授業の概要	教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ、「教える」「保育する」という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。併せて幼小連携・幼保連携の観点から、教育・保育の専門職として教育の制度について理解し、教師・保育者に求められる知識・資質・専門性・連携等について考える。
■学習の要点	教職・保育職の理解と教育・保育に必要な資質・能力を涵養する。具体的には、以下の事項等である。・教師・保育者の存在意義と役割・教師・保育者の歴史・教師・保育者の職責と求められる資質・能力・教師・保育者の専門性・教師・保育者としての成長・社会の中の教師・保育者
■学習の到達目標	1.教師・保育者に必要な知識・技術の概要を把握する。2.教師・保育者に必要な資質能力を理解する。3.教師・保育者の職務内容、服務上・身分上の義務を理解する。4.ティーム保育の意義及び専門家との連携について理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児教育・保育課程論				単位	2.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振る返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児理解と保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育の内容と方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	教育評価論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS0559	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。【成績

■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	教育評価論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）2）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。3）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。4）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。5）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】1．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。2．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。3．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。4．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。5．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。1．問題の要求にきちんと応えられている。2．記述がテキストの内容を踏まえている。3．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	道徳の理論及び指導法				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS0561	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	道徳の理論及び指導法（中）				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動の指導法			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TS0563	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちであることは論を待ちません。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。 子どもたちの主体性や自主性、個性の伸長が涵養され、学びとる力、学ぶ意欲が育成されれば、それが教科学習のやる気につながります。そこで得た知識が再び特別活動で実践され、その実践の中で確認されたものが教科学習で深化・充実されるという相互作用があればそれらが相乗効果を生み、真の学力となっていきます。それが、教育のあるべき姿ではないでしょうか。 特別活動の研究では、教師としての教科外指導に対してどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級活動」「児童（生徒）会活動」「クラブ活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」とを示しています。この２つについての内容の理解を深めておいてください。また、(1)、(2)についての指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．児童（生徒）会活動における「委員会活動」や「児童（生徒）会集会活動」について理解を深めておいてください。とくに、児童（生徒）会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「遠足・集団宿泊的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	特別活動の指導法（中・高）			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	ICT の活用及び教育				単位	2.0
担当者	古市　文章			シラバスグループ	TS5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育のための ICT 活用〔改訂版〕	中川一史・苑復傑	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595323515

■授業の概要	知識基盤社会の到来やグローバル化の進展、少子高齢化の進展など社会が大きく変化する中、生活のあらゆる場面で ICT を活用することが当たり前の社会になってきている。さらに、人工知能（AI)、ビックデータ、IoT(Internet of Things)、ロボテックス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活の取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変革する「Society5.0」時代がやってくると言われている。　高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この講座は、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、問題の発見・解決能力を育成するために，基礎情報学の視点から事象をデータや情報とその結び付きの視点から捉え，情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必履修科目としての「情報Ⅰ」の設定趣旨を理解する。加えて、新学習指導要領の趣旨に沿って、知識基盤社会におけるこれからの専門職教師のあるべき姿を「教育の情報化」の側面から考察し理解を深めたい。　これらの視点は、中学校技術・家庭科（技術分野）「情報の技術」における指導にも十分資することができると考えている。
■学習の要点	知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、情報化が進展する中で、教育の情報化をどのように捉えるべきかを考える。
■学習の到達目標	教育の情報化について、必要とされる資質・能力を理解し修得する。
■成績評価の基準	各回の設題、及び最終試験において、文献を参考にしながら自身の論が確立できているか否かを評価します。引用のみではダメです。

授業科目	ICT の活用及び教育（中・高）				単位	2.0
担当者	古市　文章			シラバスグループ	TS0566	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育のための ICT 活用〔改訂版〕	中川一史・苑復傑	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595323515

■授業の概要	知識基盤社会の到来やグローバル化の進展、少子高齢化の進展など社会が大きく変化する中、生活のあらゆる場面で ICT を活用することが当たり前の社会になってきている。さらに、人工知能（AI)、ビックデータ、IoT(Internet of Things)、ロボテックス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活の取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変革する「Society5.0」時代がやってくると言われている。　高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この講座は、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、問題の発見・解決能力を育成するために，基礎情報学の視点から事象をデータや情報とその結び付きの視点から捉え，情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必履修科目としての「情報Ⅰ」の設定趣旨を理解する。加えて、新学習指導要領の趣旨に沿って、知識基盤社会におけるこれからの専門職教師のあるべき姿を「教育の情報化」の側面から考察し理解を深めたい。　これらの視点は、中学校技術・家庭科（技術分野）「情報の技術」における指導にも十分資することができると考えている。
■学習の要点	知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、情報化が進展する中で、教育の情報化をどのように捉えるべきかを考える。
■学習の到達目標	教育の情報化について、必要とされる資質・能力を理解し修得する。
■成績評価の基準	各回の設題、及び最終試験において、文献を参考にしながら自身の論が確立できているか否かを評価します。引用のみではダメです。

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS0567	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、児童の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 教員の特性と在り方について考えるにあたり、学校教育法第 17 条、第 18 条ならびに学校教育法施行規則、さらには学習指導要領総則に目を通し、教育の基本と特性について理解を深めることが重要となります。
■学習の要点	教育は、教育基本法などの法令などに示すところに従い、各学校において地域の実態や児童の心身の発達段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程編成に基づいて、初等普通教育として調和のとれた人間の育成を図ることを目的としています。変化の激しい社会に主体的に対応できる力の育成、心豊かで社会性に富み、国際社会に生きていくことのできる日本人の育成、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実によって、自己教育力の育成を図る、などを重要な教育課題としています。 昨今では、全国各地の教育現場で「学級崩壊」なる現象がみられ、現場教員を悩ませています。それは小学校のみならず、中学校や高等学校でもみられるようになってきていることからも明らかです。 それぞれの校種の教育の基本や教員の特性を十分念頭において、中央教育審議会が指摘する「人間力」を身につけた児童の育成に努力を傾注しなければなりません。学習にあたり、特に以下の項目に留意してください。 １．教科外教育とは何かについてまとめ、その構造と課題について述べてください。 ２．生徒指導の原理とは何かについてまとめ、その意義と内容について説明できるようにしてください。 ３．教育相談とは何かについてまとめ、その際のカウンセリングの理論と技法について説明できるようにしてください。 ４．不登校の児童が自分のクラスにいた場合、どのような点に注意して指導するのか、その背景となる理論と具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ５．いじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ６．学級崩壊はどのような背景から生じるものかについて理論的にまとめ、その対応と予防策について説明できるようにしてください。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS0569	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年児童・生徒の成長・発達上の問題として、いわゆる不登校、いじめ、非行などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする児童も増えていると言われている。このような子どもたちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、すべての学級担任教師が教科指導とともに教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングの意義と方法について。３．小学校時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、子どもたちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめなど、子どもたちの人間関係の問題への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法（中・高）				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育の内容及び方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	幼児理解及び保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育内容研究言葉1(言語)				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5502	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容研究言葉	吉岡剛編	佛教大学	[ISBN]9784907177034

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	１．領域「言葉」のねらいと内容２．乳幼児期のことばの発達３．聞くこと・話すことと保育４．読むこと・書くことと保育５．ことばの指導の留意点６．ことばをのばす遊び　呼びかけ、劇あそび、ことばあそび、ごっこ、手あそび・指あそび、伝承あそび等７．ことばを育む視聴覚文化財　童話、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等８．保育者のことば
■学習の到達目標	・乳幼児期のことばの育ちについて理解する。・子どものことばの育ちを支える保育者の役割や保育内容について理解する。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	保育内容研究言葉２(児童文化)				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TS0673	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
児童文化	髙橋司編	佛教大学	[ISBN]9784907177546

■授業の概要	児童文化とは何かを理解し、正しい子ども観のもとさまざまな児童文化財の理解と修得につとめ、児童文化の心に触れ、保育者としての感性と創造性を養う。
■学習の要点	１．児童文化とは何か２．児童文化の成立過程３．児童文化における児童とは４．児童観と児童文化５．幼児の発達と児童文化６．保育活動におけるさまざまな児童文化財（スクーリングで実施）の活用
■学習の到達目標	・問題はテキストに即して出題する。・出題の要点を理解し、論理的に解答が述べられていること。
■成績評価の基準	それぞれの児童文化とは何か、それが保育に、幼児にどのような意味を持っているのかを理解できているかどうか。

授業科目	音楽概論Ⅰ				単位	2.0
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	TS5521	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい小学校音楽科の授業をつくる	高見仁志著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081707

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、小学校音楽科授業づくりの基礎となる専門的理論について学習する。とりわけ，歌唱の授業、器楽の授業、音楽づくりの授業、鑑賞の授業の基盤となる「教科専門の力量」はもちろんのこと，それと「教科の指導法」との融合を重視している。このような視点から、音楽科授業を構想する能力を高めることを目標としている。
■学習の要点	①学習指導要領に基づいた音楽科授業づくりの専門的能力を高める。②歌唱指導の基礎・基本に関して実践的に探究する。③鑑賞の授業づくりに関して教材選択し授業を構成する。④音楽科における ICT の活用に関して、具体例をあげ授業を構想する。⑤楽器の奏法を身につけ，器楽指導のポイントについて学びを深める。⑥音楽づくりの基となる教師の創造性を高める。⑦異文化の音楽や日本の音楽について理解する。⑧音楽科における評価に関して認識を深める。⑨学習指導要領に示された共通事項に基づいた授業を構想する。
■学習の到達目標	・平成 29 年版学習指導要領に基づいて、教科専門の力量を駆使して具体的な授業のあり方を構想できることが到達目標である。
■成績評価の基準	リポート作成にあたっては、設題が求める学習の要点を正しく理解し、所定の字数でまとめること。また、設題内容に対するテキスト内容を基に自身の考えを簡潔にまとめて記述すること。単にテキストの要約とならないよう、具体的な場面や教材、自身の経験や考え等を交えて論述すること。

授業科目	美術概論Ⅰ				単位	2.0
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	TS5522	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑦　図画工作科教育	波多野達二・三宅茂夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082032
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590112

■授業の概要	図画工作科において、造形活動に関する基礎的な知識や技術の習得は大切である。しかしながら、そうした知識や技能は、子ども一人ひとりが感覚や行為等を基に、材料、空間、他者（友だち・地域社会）と関わり習得・活用されることでその子の生きる力として定着してくる。知識や技能は、表現や鑑賞活動の中で、「つくりだす喜び」とともに習得され、活用されることで、確実に身につき、生活や社会の中で生かそうとする意欲が育まれてくるのである。したがって教育現場では、一人ひとりの子どもが表現や鑑賞の喜びを味わい、その活動を通して豊かな感性や想像力、造形的な能力を習得・活用しながら、イメージの共有や言語活動を通して他者と関わり、豊かな情操を養うことができる場を創り出していく必要がある。本科目においては、図画工作科の意義と目的にふれることから始め、平成29年告示小学校学習指導要領（図画工作編）に基づいた授業づくりについて考察することとする。
■学習の要点	・第Ⅰ部　理論編（第1・2・3章）　図画工作科教育を正しく理解するためには、教科の意義や目的、今日的な課題等について十分学習し、自分なりの図画工作科教育観を確立することが肝要である。ここでは、平成29年告示学習指導要領の骨子及び評価のあり方、さらには指導計画や学習指導案の作成について学び、授業構築の基礎的な能力を身につけたい。・第Ⅱ部　実践編（第4・5・6・7・8・9章）　ここでは、図画工作科の内容領域についての理念と具体的な授業展開について学ぶ。紹介されている実践事例を実際に経験してみる等の教材研究をしておくことも大切である。・第Ⅲ部　基礎知識編（第10・11・12・13章）　ここでは、図画工作の授業を支え、教師として知っておくべき基礎知識について学ぶ。子どもの成長発達と学びの連続性、図画工作科教育の歴史、図画工作の基礎知識、色彩の基礎知識等、授業の土台となる基礎知識を身につけ、授業に広がりと深みを与えたい。
■学習の到達目標	1.「平成29年告示　小学校学習指導要領　図画工作」の目標や内容領域等を正しく理解し、授業構築に関する基礎的な能力を身につける。2．図画工作科の具体的な内容領域についての理念と具体的な授業展開について理解する。3．図画工作科の評価の基本的な考え方と、その実際について理解する。
■成績評価の基準	1．以下の点が成績評価の基準となる。・出題の意図を正しく理解していること。・解答の条件が示されている場合は、これに合致していること。・論理的な文章で述べられていること。・論述の内容がテキストや参考資料の内容に沿っていること。2．解答は,課題ごとに1,600字程度記述すること。

授業科目	体育概論Ⅰ				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TS5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑨ 初等体育科教育	山口孝治・石田智己　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082056

■授業の概要	小学校体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」ことであり，具体的な内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの観点から記されている。この目標を達成するために、教師は子どもたちに「できる−わかる」授業の継続的な実践が求められる。しかしながら、子どもたちの「体力低下」が社会問題となっている現実があり、こうした点からも体育科の果たすべき役割は大きいといえる。そのために、「体育科という教科はどのような教科か」「どのような力（目標）をどのように身につけさせるのか（方法）」などについて理解を深める必要がある。
■学習の要点	① 体育科の授業実践における構成要素（目標・内容・単元計画・教材づくりの視点・評価など）についての理解を深める。② 体育科における６つの運動領域（体つくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・ボール運動・表現運動）において、各領域の特性、内容のポイントについて理解を深める。その際、発達段階における運動教材の系統性について整理する。③ 小学校体育科の学習指導案を作成する上での手順やポイントを整理する。
■学習の到達目標	・体育科の特性や各運動領域の特性を理解している。・各領域の授業づくりのイメージがもてる。
■成績評価の基準	・体育科の目標を踏まえた上で要点が記されている。・各課題の意図を理解し，解答に必要なキーワードを踏まえた上で記述がなされている。

授業科目	数学概論				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5525	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
数学教育の基礎	黒田恭史編著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248771&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目では，小学校における算数科の指導にあたっての基礎的な数学を対象に扱う。算数教育を行うにあたっては，単に解法を教えたり，記憶・習熟を繰り返したりするだけでは十分ではない。算数を教育する意義と目的を明確にして，数学的な見方・考え方の育成を重視した授業を設計していく必要がある。そこで，算数の数学的背景となる内容を取り上げることを通して，授業実践への基礎を築く。
■学習の要点	テキスト全般にわたり十分に理解してもらいたい。1．数学教育の基礎を学ぶ意義を理解する。2．数・代数の分野において，各種の数とその四則計算の種類と特徴，バラ数，さらに文字と文字式について理解する。3．立体・空間・変換の分野において，点・直線・平面・立体・空間の関係，二面角と三面角，アフィン変換・射影変換の仕組みについて理解する。4．量・関数・解析の分野において，各種量の特徴，関数の種類，微分・積分について理解する。5．確率・統計の分野において，確率と統計の基礎的な概念，実際の場面での確率や統計の活用方法について理解する。6．集合・論理の分野において，集合の基礎的な概念，論理の命題，合接，離接，真理表について理解する。
■学習の到達目標	算数の数学的背景となる「数・代数」「立体・空間・変換」「量・関数・解析」「確率・統計」「集合・命題」の主な内容について，説明することができる。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	生活科概論				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5526	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活理解と環境づくり	岡野聡子・筒井愛知　編著	ふくろう出版	[ISBN]9784861867484

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版小学校学習指導要領と幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、子どもと環境の教育的なかかわりについて具体的に学習する。「子どもにとっての未分化な環境との総合的で全面的なかかわり」「環境との主体的で能動的で体験的なかかわり」「環境との自我関与的な自分ごとに引きつけてのかかわり」といった生活科創設時の基本的な考え方は、現在の生活科にも引き継がれている。テキストでは特に就学前教育から小学校への接続を視点とし、生活科の自然認識・社会認識・自己認識に係る学習の実際を具体的に述べている。
■学習の要点	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解すること。２．子どもの発達特性とその理解について、深く考えること。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解すること。
■学習の到達目標	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解できている。２．子どもの発達特性とその理解について、深く理解できている。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解できている。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。100 点満点で６０点以上が合格、６０点未満は不合格である。

授業科目	社会科概論				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校学習指導要領(平成29年告示）解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590099

■授業の概要	小学校第３学年から始まる「社会科」は、どのような内容の学習をするのだろうか。本科目では、「社会科教育法」に進む前提として、小学校社会科の内容研究を行う。小学校社会科の内容については、第３学年では市を中心とする地域社会に関する内容を、第４学年では県を中心とする地域社会に関する内容を、第５学年では我が国の国土と産業に関する内容を、第６学年では我が国の政治と歴史、国際理解に関する内容を、それぞれ取り上げている。これらは、中学校で学ぶ内容との関連を考慮し、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活に区分して捉えることができる。
■学習の要点	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我が国の政治の働き　②我が国の歴史上の主な事象 ③グローバル化する世界と日本の役割以上の内容を、ご自身の身近で具体的な素材を通して研究すること。それが「教材研究」につながります。
■学習の到達目標	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	理科概論				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TS5528	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校理科を教えるために知っておきたいこと−初等理科内容学と指導法−	平田　豊誠・小川　博士	東洋館出版社	[ISBN]9784491047225

■授業の概要	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を学習していきます。理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な理解を深めます。また，児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むことのできる理科授業を構想できるような基本的な内容について学びます。
■学習の要点	何よりもまず，テキスト学習を行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを知り理解してください。　テキストの第Ⅰ部では，「理科これだけは−小学校で理科を教えるにあたって」として理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，学習指導要領の読み取り方などの基本的な事柄が解説してあります。第Ⅱ部「しっかりとした理解に基づく小学校理科指導のために」では，教える側の教師も誤解しているかもしれないことを取り入れながら，子どもたちに理科の内容をどのように解釈し教えていけば良いのかということを具体例や実践事例をあげながら解説してあります。第Ⅲ部「授業実践力の向上のために」では，理科の学習を基本に据えながら，他の教科や領域でも存分に活用していくことが可能な教授方法や授業実践に関する内容が解説してあります。また，各章末には「学習課題」によって学びの確認・振り返りができるようになっていますので，自身でしっかりと各課題に取り組んでください。「さらに学びたい人のための図書」に掲載されている図書を手に取り，主体的に学修を進めることで，より詳しく学びを広げたり深めたりしてください。　そして，特に興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けてテキスト学習を十分に行い，特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。１．理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，理科を学ぶ必然性，学習指導要領の読み取り方などについて考える。２．科学の方法，問題解決，学ぶ必然性の理解をもとに「検証のための実験」と「確証のための実験」の違いを考える。３．各領域（エネルギー領域，粒子領域，生命領域，地球領域）における知っておくべき概念をよく理解し，各領域を題材にした授業例を題材に，子どもが主体的に問題解決を図る学習活動となるための指導の具体を，理科の概念理解の面，授業指導面から考える。４．テキスト 14，16，17 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，指導と評価の一体化，形成的評価，ルーブリック等と関連付けて考える。５．テキスト 15，18 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，探究的な学習，話し合い活動，社会構成主義等と関連付けて考える。６．テキスト 13 章をもとに，理科の指導のヒントとなる内容について自身でさらに調べ，見識を広げる。

■学習の到達目標	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を理解し，理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な内容を理解し，自身の言葉で説明することができる。 児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むための理科授業を構想できるような基本的な内容について，自分なりに解釈し説明することができる。
■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。・問題の求める意図を理解し，テキスト学習に基づき内容説明に必要なキーワード・要点を踏まえた記述がなされていること。・剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等不正が疑われるものは合格とならない場合があります。〇リポート添削指導の基準１．設題の求めていることを明確に把握し，その要点を所定の字数内でまとめていることが大切です。２．自分の体験，意見，考察を述べるだけでは不十分です。必ずテキスト学習の成果を反映させてください

授業科目	家庭科概論				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5529	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版家庭科概論	大塚眞理子･加地芳子著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248977&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	家庭科では社会や時代の変化、児童の実態に合わせた適切な指導が求められる。そのために、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、広い視野から幅広く内容を理解出来るように学習する。 本科目では、生活者の視点から今日の生活問題の状況を捉えて、家族の生活や衣食住、消費と環境に関連する学習をして知識を深める。さらに習得した知識やスキルを活用して課題に取り組む。
■学習の要点	1.家族・家庭生活について、家族や社会の一員として、社会の変化と家庭生活の現状を理解し、これからの共生社会のあり方について考えられる。2.衣食住の生活に関する知識を得て、身近な環境との関わりから持続可能な社会の構築について考えられる。3.消費生活・環境について、消費者教育や環境教育について理解し、消費者市民社会の一員として環境に配慮する生活の工夫について考えられる。
■学習の到達目標	生活者として社会の変化に伴う生活の問題を、衣食住や消費、環境に関する知識をもって、社会の一員としてより良くあるための方法を考え、生活の改善に取り組み、生活の工夫ができる。
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、テキストの内容を概ね理解して解答できているか、必要な事項がすべて含まれ、論理的に記述できているかを評価し、さらに内容の展開と学習の深まりにより加点する。

授業科目	外国史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	初等教育内容社会				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校学習指導要領(平成29年告示）解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590099

■授業の概要	小学校第３学年から始まる「社会科」は、どのような内容の学習をするのだろうか。本科目では、「社会科教育法」に進む前提として、小学校社会科の内容研究を行う。小学校社会科の内容については、第３学年では市を中心とする地域社会に関する内容を、第４学年では県を中心とする地域社会に関する内容を、第５学年では我が国の国土と産業に関する内容を、第６学年では我が国の政治と歴史、国際理解に関する内容を、それぞれ取り上げている。これらは、中学校で学ぶ内容との関連を考慮し、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活に区分して捉えることができる。
■学習の要点	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我が国の政治の働き　②我が国の歴史上の主な事象 ③グローバル化する世界と日本の役割以上の内容を、ご自身の身近で具体的な素材を通して研究すること。それが「教材研究」につながります。
■学習の到達目標	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	初等教育内容算数				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5525	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
数学教育の基礎	黒田恭史編著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248771&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目では，小学校における算数科の指導にあたっての基礎的な数学を対象に扱う。算数教育を行うにあたっては，単に解法を教えたり，記憶・習熟を繰り返したりするだけでは十分ではない。算数を教育する意義と目的を明確にして，数学的な見方・考え方の育成を重視した授業を設計していく必要がある。そこで，算数の数学的背景となる内容を取り上げることを通して，授業実践への基礎を築く。
■学習の要点	テキスト全般にわたり十分に理解してもらいたい。1．数学教育の基礎を学ぶ意義を理解する。2．数・代数の分野において，各種の数とその四則計算の種類と特徴，バラ数，さらに文字と文字式について理解する。3．立体・空間・変換の分野において，点・直線・平面・立体・空間の関係，二面角と三面角，アフィン変換・射影変換の仕組みについて理解する。4．量・関数・解析の分野において，各種量の特徴，関数の種類，微分・積分について理解する。5．確率・統計の分野において，確率と統計の基礎的な概念，実際の場面での確率や統計の活用方法について理解する。6．集合・論理の分野において，集合の基礎的な概念，論理の命題，合接，離接，真理表について理解する。
■学習の到達目標	算数の数学的背景となる「数・代数」「立体・空間・変換」「量・関数・解析」「確率・統計」「集合・命題」の主な内容について，説明することができる。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	初等教育内容理科				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TS5528	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校理科を教えるために知っておきたいこと−初等理科内容学と指導法−	平田　豊誠・小川　博士	東洋館出版社	[ISBN]9784491047225

■授業の概要	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を学習していきます。理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な理解を深めます。また，児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むことのできる理科授業を構想できるような基本的な内容について学びます。
■学習の要点	何よりもまず，テキスト学習を行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを知り理解してください。　テキストの第Ⅰ部では，「理科これだけは−小学校で理科を教えるにあたって」として理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，学習指導要領の読み取り方などの基本的な事柄が解説してあります。第Ⅱ部「しっかりとした理解に基づく小学校理科指導のために」では，教える側の教師も誤解しているかもしれないことを取り入れながら，子どもたちに理科の内容をどのように解釈し教えていけば良いのかということを具体例や実践事例をあげながら解説してあります。第Ⅲ部「授業実践力の向上のために」では，理科の学習を基本に据えながら，他の教科や領域でも存分に活用していくことが可能な教授方法や授業実践に関する内容が解説してあります。また，各章末には「学習課題」によって学びの確認・振り返りができるようになっていますので，自身でしっかりと各課題に取り組んでください。「さらに学びたい人のための図書」に掲載されている図書を手に取り，主体的に学修を進めることで，より詳しく学びを広げたり深めたりしてください。　そして，特に興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けてテキスト学習を十分に行い，特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。１．理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，理科を学ぶ必然性，学習指導要領の読み取り方などについて考える。２．科学の方法，問題解決，学ぶ必然性の理解をもとに「検証のための実験」と「確証のための実験」の違いを考える。３．各領域（エネルギー領域，粒子領域，生命領域，地球領域）における知っておくべき概念をよく理解し，各領域を題材にした授業例を題材に，子どもが主体的に問題解決を図る学習活動となるための指導の具体を，理科の概念理解の面，授業指導面から考える。４．テキスト 14，16，17 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，指導と評価の一体化，形成的評価，ルーブリック等と関連付けて考える。５．テキスト 15，18 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，探究的な学習，話し合い活動，社会構成主義等と関連付けて考える。６．テキスト 13 章をもとに，理科の指導のヒントとなる内容について自身でさらに調べ，見識を広げる。

■学習の到達目標	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を理解し，理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な内容を理解し，自身の言葉で説明することができる。 児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むための理科授業を構想できるような基本的な内容について，自分なりに解釈し説明することができる。
■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。・問題の求める意図を理解し，テキスト学習に基づき内容説明に必要なキーワード・要点を踏まえた記述がなされていること。・剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等不正が疑われるものは合格とならない場合があります。〇リポート添削指導の基準１．設題の求めていることを明確に把握し，その要点を所定の字数内でまとめていることが大切です。２．自分の体験，意見，考察を述べるだけでは不十分です。必ずテキスト学習の成果を反映させてください

授業科目	初等教育内容生活				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5526	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活理解と環境づくり	岡野聡子・筒井愛知　編著	ふくろう出版	[ISBN]9784861867484

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版小学校学習指導要領と幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、子どもと環境の教育的なかかわりについて具体的に学習する。「子どもにとっての未分化な環境との総合的で全面的なかかわり」「環境との主体的で能動的で体験的なかかわり」「環境との自我関与的な自分ごとに引きつけてのかかわり」といった生活科創設時の基本的な考え方は、現在の生活科にも引き継がれている。テキストでは特に就学前教育から小学校への接続を視点とし、生活科の自然認識・社会認識・自己認識に係る学習の実際を具体的に述べている。
■学習の要点	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解すること。２．子どもの発達特性とその理解について、深く考えること。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解すること。
■学習の到達目標	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解できている。２．子どもの発達特性とその理解について、深く理解できている。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解できている。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。100 点満点で６０点以上が合格、６０点未満は不合格である。

授業科目	初等教育内容音楽				単位	2.0
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	TS5521	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい小学校音楽科の授業をつくる	高見仁志著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081707

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、小学校音楽科授業づくりの基礎となる専門的理論について学習する。とりわけ，歌唱の授業、器楽の授業、音楽づくりの授業、鑑賞の授業の基盤となる「教科専門の力量」はもちろんのこと，それと「教科の指導法」との融合を重視している。このような視点から、音楽科授業を構想する能力を高めることを目標としている。
■学習の要点	①学習指導要領に基づいた音楽科授業づくりの専門的能力を高める。②歌唱指導の基礎・基本に関して実践的に探究する。③鑑賞の授業づくりに関して教材選択し授業を構成する。④音楽科における ICT の活用に関して、具体例をあげ授業を構想する。⑤楽器の奏法を身につけ，器楽指導のポイントについて学びを深める。⑥音楽づくりの基となる教師の創造性を高める。⑦異文化の音楽や日本の音楽について理解する。⑧音楽科における評価に関して認識を深める。⑨学習指導要領に示された共通事項に基づいた授業を構想する。
■学習の到達目標	・平成 29 年版学習指導要領に基づいて、教科専門の力量を駆使して具体的な授業のあり方を構想できることが到達目標である。
■成績評価の基準	リポート作成にあたっては、設題が求める学習の要点を正しく理解し、所定の字数でまとめること。また、設題内容に対するテキスト内容を基に自身の考えを簡潔にまとめて記述すること。単にテキストの要約とならないよう、具体的な場面や教材、自身の経験や考え等を交えて論述すること。

授業科目	初等教育内容図画工作				単位	2.0
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	TS5522	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑦　図画工作科教育	波多野達二・三宅茂夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082032
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590112

■授業の概要	図画工作科において、造形活動に関する基礎的な知識や技術の習得は大切である。しかしながら、そうした知識や技能は、子ども一人ひとりが感覚や行為等を基に、材料、空間、他者（友だち・地域社会）と関わり習得・活用されることでその子の生きる力として定着してくる。知識や技能は、表現や鑑賞活動の中で、「つくりだす喜び」とともに習得され、活用されることで、確実に身につき、生活や社会の中で生かそうとする意欲が育まれてくるのである。したがって教育現場では、一人ひとりの子どもが表現や鑑賞の喜びを味わい、その活動を通して豊かな感性や想像力、造形的な能力を習得・活用しながら、イメージの共有や言語活動を通して他者と関わり、豊かな情操を養うことができる場を創り出していく必要がある。本科目においては、図画工作科の意義と目的にふれることから始め、平成29年告示小学校学習指導要領（図画工作編）に基づいた授業づくりについて考察することとする。
■学習の要点	・第Ⅰ部　理論編（第1・2・3章）　図画工作科教育を正しく理解するためには、教科の意義や目的、今日的な課題等について十分学習し、自分なりの図画工作科教育観を確立することが肝要である。ここでは、平成29年告示学習指導要領の骨子及び評価のあり方、さらには指導計画や学習指導案の作成について学び、授業構築の基礎的な能力を身につけたい。・第Ⅱ部　実践編（第4・5・6・7・8・9章）　ここでは、図画工作科の内容領域についての理念と具体的な授業展開について学ぶ。紹介されている実践事例を実際に経験してみる等の教材研究をしておくことも大切である。・第Ⅲ部　基礎知識編（第10・11・12・13章）　ここでは、図画工作の授業を支え、教師として知っておくべき基礎知識について学ぶ。子どもの成長発達と学びの連続性、図画工作科教育の歴史、図画工作の基礎知識、色彩の基礎知識等、授業の土台となる基礎知識を身につけ、授業に広がりと深みを与えたい。
■学習の到達目標	1.「平成 29 年告示　小学校学習指導要領　図画工作」の目標や内容領域等を正しく理解し、授業構築に関する基礎的な能力を身につける。2．図画工作科の具体的な内容領域についての理念と具体的な授業展開について理解する。3．図画工作科の評価の基本的な考え方と、その実際について理解する。
■成績評価の基準	1．以下の点が成績評価の基準となる。・出題の意図を正しく理解していること。・解答の条件が示されている場合は、これに合致していること。・論理的な文章で述べられていること。・論述の内容がテキストや参考資料の内容に沿っていること。2．解答は,課題ごとに1,600字程度記述すること。

授業科目	初等教育内容体育				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TS5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑨ 初等体育科教育	山口孝治・石田智己　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082056

■授業の概要	小学校体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」ことであり，具体的な内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの観点から記されている。この目標を達成するために、教師は子どもたちに「できる−わかる」授業の継続的な実践が求められる。しかしながら、子どもたちの「体力低下」が社会問題となっている現実があり、こうした点からも体育科の果たすべき役割は大きいといえる。そのために、「体育科という教科はどのような教科か」「どのような力（目標）をどのように身につけさせるのか（方法）」などについて理解を深める必要がある。
■学習の要点	① 体育科の授業実践における構成要素（目標・内容・単元計画・教材づくりの視点・評価など）についての理解を深める。② 体育科における６つの運動領域（体つくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・ボール運動・表現運動）において、各領域の特性、内容のポイントについて理解を深める。その際、発達段階における運動教材の系統性について整理する。③ 小学校体育科の学習指導案を作成する上での手順やポイントを整理する。
■学習の到達目標	・体育科の特性や各運動領域の特性を理解している。・各領域の授業づくりのイメージがもてる。
■成績評価の基準	・体育科の目標を踏まえた上で要点が記されている。・各課題の意図を理解し，解答に必要なキーワードを踏まえた上で記述がなされている。

授業科目	初等教育内容家庭				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5529	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版家庭科概論	大塚眞理子･加地芳子著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248977&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	家庭科では社会や時代の変化、児童の実態に合わせた適切な指導が求められる。そのために、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、広い視野から幅広く内容を理解出来るように学習する。 本科目では、生活者の視点から今日の生活問題の状況を捉えて、家族の生活や衣食住、消費と環境に関連する学習をして知識を深める。さらに習得した知識やスキルを活用して課題に取り組む。
■学習の要点	1.家族・家庭生活について、家族や社会の一員として、社会の変化と家庭生活の現状を理解し、これからの共生社会のあり方について考えられる。2.衣食住の生活に関する知識を得て、身近な環境との関わりから持続可能な社会の構築について考えられる。3.消費生活・環境について、消費者教育や環境教育について理解し、消費者市民社会の一員として環境に配慮する生活の工夫について考えられる。
■学習の到達目標	生活者として社会の変化に伴う生活の問題を、衣食住や消費、環境に関する知識をもって、社会の一員としてより良くあるための方法を考え、生活の改善に取り組み、生活の工夫ができる。
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、テキストの内容を概ね理解して解答できているか、必要な事項がすべて含まれ、論理的に記述できているかを評価し、さらに内容の展開と学習の深まりにより加点する。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5502	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容研究言葉	吉岡剛編	佛教大学	[ISBN]9784907177034

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	１．領域「言葉」のねらいと内容２．乳幼児期のことばの発達３．聞くこと・話すことと保育４．読むこと・書くことと保育５．ことばの指導の留意点６．ことばをのばす遊び　呼びかけ、劇あそび、ことばあそび、ごっこ、手あそび・指あそび、伝承あそび等７．ことばを育む視聴覚文化財　童話、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等８．保育者のことば
■学習の到達目標	・乳幼児期のことばの育ちについて理解する。・子どものことばの育ちを支える保育者の役割や保育内容について理解する。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	保育内容の理論と方法「児童文化」				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TS0673	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
児童文化	髙橋司編	佛教大学	[ISBN]9784907177546

■授業の概要	児童文化とは何かを理解し、正しい子ども観のもとさまざまな児童文化財の理解と修得につとめ、児童文化の心に触れ、保育者としての感性と創造性を養う。
■学習の要点	１．児童文化とは何か２．児童文化の成立過程３．児童文化における児童とは４．児童観と児童文化５．幼児の発達と児童文化６．保育活動におけるさまざまな児童文化財（スクーリングで実施）の活用
■学習の到達目標	・問題はテキストに即して出題する。・出題の要点を理解し、論理的に解答が述べられていること。
■成績評価の基準	それぞれの児童文化とは何か、それが保育に、幼児にどのような意味を持っているのかを理解できているかどうか。

授業科目	教育実習研究（小）				単位	1.0
担当者	小林　隆・原　清治			シラバスグループ	TS5624	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習研究（幼）				単位	1.0
担当者	小林　みどり・小林　隆			シラバスグループ	TU5813	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹 著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直 ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、幼児との関係性・保育指導のあり方・集団指導等について実践的に学ぶ。特に保育指導については、教育実習校園からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・保育指導案の作成・保育実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	保育者・教師としての資質、能力が備わっているかどうか。
■成績評価の基準	省察ができているか。課題が明確になったか。

授業科目	教育実習研究（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5634	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	学校経営と学校図書館				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校経営と学校図書館〔改訂新版〕	野口武悟・前田稔編著	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595317538

■授業の概要	学習の内容として、学校図書館の意義と役割、管理と運営面を概説するとともに、公共図書館との連携・協力にも触れながら現状と課題について考察を深めたい。　司書教諭、学校司書の役割と任務、学習情報センターとしての学校図書館、図書館の相互協力とネットワーク、地域社会に対する学校図書館の役割、「人間としての在り方・生き方」に寄与する学校図書館などを学習の課題としたい。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）（１）学校の中にある「学校図書館」の果たすべき役割についてまとめること。→まとめるために：学校教育が目指すゴールは「児童生徒の生きる力を育てる」つまり、「生涯学習者として育てていく」、児童生徒を生涯学習者として支援していくために、学校図書館はどのような役割を果たすのか。児童生徒に身につけさせたい具体的な支援も含めて考えてみよう（第１章、第５章）。（２）1953 年の学校図書館法制定時と比べ、1997 年及び 2014 年の学校図書館法の一部改正では何が変わったのか。→まとめるために：学校図書館のどのような点が変わったのかを理解するうえで、司書教諭と学校司書に着目して、学校図書館法を時系列で整理してみよう（第 2 章、第 4 章）。(3) 学校図書館の現状と課題は何かについてまとめること。→まとめるために：学校図書館の現状を各種データに基づいて把握し、そこから見えてくる課題を指摘すること（第 3 章）(4) 学校図書館経営を行う際に、なぜ、学校経営の視点が必要なのか。そして、学校図書館経営のポイントについてまとめること。→まとめるために：本が好きという理由のみで、学校図書館経営が務まるだろうか。学校図書館経営が目指すところは何か、学校教育の目指す点に着目してみよう。そのうえで、学校図書館経営ではどのような点に注意すべきか、マネジメントサイクルの考え方、学校図書館評価の意義、評価の対象、評価の方法及び改善の視点を軸にして、整理してみよう。（第 7 章、第 8 章）。（５）なぜ、図書館ネットワークが必要なのか。学校図書館支援センターでの実践例を踏まえて、まとめること。→まとめるために：図書館協力のねらいと意義、学校図書館支援センターでの実践例を踏まえて、図書館ネットワークを形成する必要があるのかについて、自身の考えをまとめてみよう（第 14 章）（６）教育課程における学校図書館活用を発展させるために、管理職、司書教諭と学校司書、ボランティアとの協働について、「チーム学校」の視点を軸にまとめること。まとめるために：「チーム学校」の定義を示したうえで、全校体制で学校図書館活用教育を進めるために管理職の役割、司書教諭と学校司書の協働、ボランティアとの連携に関して、まとめてみよう（第 6 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを読むための 6 つの視点に沿って、6 つのテーマを理解・説明できることが目標である。「学習の要点」にある 6 つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	学校図書館メディアの構成				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
探究学校図書館学　学校図書館メディアの構成	「探究　学校図書館学」編集委員会	全国学校図書館協議会	[ISBN]9784793322754

■授業の概要	児童生徒が学校図書館で求める情報に主体的にアクセスできるようにするには、学校図書館メディアとして必要な情報資源と、それへの適切なアクセスツールを用意していることが必須条件となる。　本科目では、上記のコンセプトに基づいて、学校図書館に具備すべき情報資源（学校図書館メディア）の種類と特性、学校図書館メディアの選択・収集と管理、メディアの組織化について概観する。
■学習の要点	以下の点を中心にテキストを読み進めてまとめること。なお、本科目の参考動画の視聴も参考になる。1. ①　メディアの「組織化」とは何か。メディアの「組織化」の定義を（1～3 行）踏まえたうえで、②　学校図書館において、メディアの「組織化」が児童生徒にとってどのような影響を与えるについてあなたの言葉でまとめてみよう。→まとめるために：児童生徒が自分の知りたい情報を見つけるために、学校図書館としてどのような手立てが必要か。メディアの「組織化」の定義や「組織化」の意義に着目して、「組織化」がなされていなかったら児童生徒は知りたい情報を見つけられるのかなど、あなたの言葉でまとめること。（テキスト p.79~89.p.9~18)2.　学習に特別な支援を必要とする児童生徒の学習支援ツールとして期待される学校図書館メディアの特性と活用について、あなたの言葉でまとめてみよう。→まとめるために：　学習支援ツールとして、マルチメディア DAISY などが注目されている。なお、学習障害については、文部科学省のサイト→特別支援教育について→主な発達や障害の定義について→学習障害 (LD)の定義が、確認できる。根拠としたものには出典をつけること（テキスト pp.19~37)3.　新たに赴任した学校図書館には古い資料が多く余り活用されていないとする。司書教諭、あるいは学校司書としてどのように資料を整備していくか。校種を設定して具体的な計画を述べなさい。→まとめるために：蔵書構築のプロセスでは、学校図書館にある蔵書の０類から 9 類の割合について学校図書館メディア基準の蔵書配分比率を用いて確認しているか。各資料のジャンル（0~9 類）で配分比率よりも多すぎるジャンル（0~9 類）はどれか。そして、学校図書館廃棄基準*をもとにして、資料の廃棄を行っているか。資料の補充、あるいは、蔵書配分比率よりも資料が少ないジャンル（0~9 類）については、資料の収集方針にもとづき資料を収集しているかに着目する。なお、根拠としたものには出典を明記すること（pp.53-78)。*学校図書館廃棄基準 改訂版（2021 年 12 月 1 日）https://www.j-sla.or.jp/material/kijun/post-36.html４．探究的な学習において、「環境」というテーマを出した際に、児童生徒が環境テーマに関連して資料を入手するために、件名標目と所在記号（請求記号）について、どのように生徒に説明するか。説明する際には、児童生徒に語りかけるように話し言葉を用いて説明しよう。→まとめるために：　ヒント 1：児童生徒に件名標目や、所在記号（請求記号）の目的は何かを最初に説明した方が児童生徒にとってはわかりやすい　ヒント 2　件名標目については、件名とは何か、標目（アクセスポイント）とは何かを理解すると教えやすい。p., 129～131, 90

	～93.　　＊ キーワードと件名の違いは何か　　ヒント 3　所在記号の意味 p.80～81., 件名の意味 p.130L4.　ヒント 4　以下の a と b は５の学習の参考である。　a. タイトル、著者もわからない場合、OPAC のどの部分に注目して探索させるか、（テキスト pp.130 第２段落.カード目録・コンピューター目録ともに、基本は同じ。件名標目（アクセスポイントに着目して）　b.　本人にとって必要な資料を OPAC で見つけたのち、OPAC のどの部分と、資料のどの部分に着目して書架から必要な資料を入手するのか。分類の観点から、所在記号（または、請求記　号）に着目して。５　児童生徒が知りたい情報や資料を探すため、学校図書館メディアの配架やサイン表示をどのように工夫するか（サイン計画)。校種を設定したうえで考えてみよう。→まとめるために： 例えば、小学校を選択した場合、小学校 1 年と 6 年では、身体面や精神面で異なる。配架やサイン計画が同一だと、児童が混乱しないか。児童生徒を思い描いて、具体的な工夫を考えてみよう。(pp.82-86）6　目録とは何か。次に、2 つの図書館のコンピューター目録（OPAC）を用いて、『イチロー物語』の結果である資料詳細について、同じ結果であったかを比較検討して、あなたの所見をまとめてみよう。資料詳細では、次の 2 点について、それぞれ 2 館ごとの比較を行うこと（うち、1 館は京都市立図書館を用いること)。①『イチロー物語』の検索結果画面にある書誌的事項(例：タイトル、著者、件名など）では何を取り上げているか　それぞれの書誌的事項は 2 館すべて同じ事項をとりあげているかどうか。②書誌的事項に記載されていた記録（内容）の表示の仕方は 2 館すべて同じかどうか。それぞれ、比較したうえで、あなたの所見をまとめてみよう。→まとめるために：インターネットを利用して、よく利用する図書館と京都市立図書館の蔵書検索を用いて結果の資料詳細の各書誌的事項と各書誌的事項に記載されていた記録（内容）の表示の仕方（例えば、著者についての記載表示の仕方はどのようになっているか）目録の定義についてはテキスト p.90 記録（内容）の表示の仕方の基準については、テキスト p.90～93, 102～108＊＊目録について理解を深めるために：目録作成の意義と、日本の学校図書館で標準的な規則となっている「日本目録規則」に準じた記録のしかたを確認すること(手元にある資料について、目録を作成する演習を行うこと)。コンピュータ目録整備のプロセスについて確認すること（第 5 章）

■学習の到達目標	テキストを理解するためのポイントに沿って、各テーマを理解・説明できるようになるだけでなく、それぞれに必要な作業を計画できるよう、具体的に理解すること。　「学習の要点」にある各ポイントを整理したうえで、科目最終試験に臨んでください。

■成績評価の基準	問題に沿った解答であること（30)、問題内容についての正しい理解（用語の正確な使用を含む）(50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	学習指導と学校図書館				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5703	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学習指導と学校図書館〔改訂新版〕	堀川照代・塩谷京子編著	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595316500

■授業の概要	「学校教育は何をめざしているか」「なぜ学校教育に学校図書館が必要か」、「児童生徒が生涯学習者として成長していくうえで、学校図書館から、どのような支援が提供できるか」といった学校図書館のヴィジョン（展望）に注目したい。特に、「教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成する」ための学習情報センター機能に焦点をあてる。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）＊各章では最初に、目標とその章のポイント、そしてキーワードが書かれている。必ず目を通すこと。（１）なぜ、学校図書館に「学習指導」が関わるのか。まとめるために：学校教育そのものが変わる中で、児童生徒に求められている力を確認し、学習指導要領のめざすもの、学習指導と学校図書館の利活用に着目して考えを自身の言葉でまとめてみよう（第 1 章）（２）総合的な学習（探究）の時間で想定されている「探究的な学習における生徒（児童）の学習の姿」と関連付けながら、Big6 スキルモデルが着目される理由について自身の言葉でまとめてみよう。まとめるために：まず、第１章で「探究的な学習と学校図書館」を確認しよう。次に、情報リテラシーの定義を踏まえて、プロセスアプローチの意義を確認しよう。そして、情報リテラシーモデル（特に Big6 スキルモデル）は探究学習を行ううえで、なぜ児童生徒にとって活用しやすいかに着目してみよう（第 2～3 章）（３）児童生徒の情報リテラシーを育成するために、探究的な学習（調べ学習）において司書教諭と学校司はどのような協働が考えられるか。まとめるために：司書教諭と学校司書はそれぞれどのような専門性を有しているのかを踏まえたうえで（第 15 章）、児童生徒の情報リテラシーを育成するために、司書教諭、学校司書が教科担当とどのように授業に関わっていくのかに着目しよう（第 4 章、第９～11 章）なお、具体的なイメージを得るうえで、「学校図書館活用データベース」のサイトは参考になる。（４）①情報リテラシーの定義を簡潔に述べる。②　そして、司書教諭あるいは学校司書の立場を選択したうえで、児童生徒に情報リテラシーを身につけさせていくために、司書教諭あるいは学校司書はどのような支援ができるか（支援という言葉に留意）。根拠としたものには出典をつけること。まとめるために：情報リテラシーの定義を確認する。そして、情報リテラシーを児童生徒に身につけさせていくうえで、どのようなアプローチで支援ができるか。例えば、オリエンテーション中に Big6skills model の紹介、ポスター掲示など、あなたはどのような手立てを行いますか（第 5～8 章）（５）特別な教育的ニーズをもつ児童生徒に対して学校図書館としてどのような学習支援ができるか。まとめるために：「特別な教育的ニーズ」の定義をまず確認しよう。そして、学校図書館のもつ学習センターの機能を踏まえて、司書教諭、あるいは、学校司書の視点で「特別な教育的ニーズ」をもつ児童生徒にどのような学習支援ができるかを考えてみよう。特別支援教育における学校図書館の利用、ICT 活用と学

	校図書館も参考になる（第 12～13 章）（６）児童生徒に対するレファレンスサービスでは、どのような点に重点を置いているのか。まとめるために：最初に、レファレンスサービスと情報サービスの定義を確認してみよう。そして、レファレンスサービスを通して、児童生徒にどのような力を身につけさせていきたいのか。そのために、レファレンスサービスでは、どのような点に重点を置いているのかをまとめよう（第 14 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できることが目標となる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。

■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	読書と豊かな人間性				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読書の指導と学校図書館（学校図書館学 2）	小川三和子著	青弓社	[ISBN]9784787200563

■授業の概要	主に、読書の意義、読書興味の発達段階、子どもと本を結ぶための方法、多様な児童生徒に対する読書指導、読書教育に関わる司書教諭、学校司書の役割、地域社会との連携による読書支援についてを学習する。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）（１）この科目名には「読書と豊かな人間性」という名前がつけられています。なぜ、読書と豊かな人間性なのか。→まとめるために：子どもの読書の意義や、学校図書館における「読書センター」の機能に着目して、あなたの言葉でまとめること。根拠としたものには出典をつけること（第 1 章）（２）①阪本一郎の読書興味の発達の段階モデルとあなたの読書体験を段階ごとに比較しなさい。②比較したうえで、総括としてあなたの意見をまとめること。→まとめるために：阪本一郎版とあなたの体験版を阪本の読書興味の発達の段階に沿って表にして比較すると総括しやすい。根拠としたものには出典をつけること（第 3～4 章）（３）ある児童生徒が物語系のジャンルしか読まない。あなたは、その児童生徒に他のジャンルも手に取ってもらいたいと考えている。そこで、あなたはどのような方法で読書を誘うか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：児童生徒と本を結ぶための工夫についての方法と配慮すべき事項をまとめること。特に、読み聞かせ、ブックトーク、読書へのアニマシオンについては、別に提示する参考文献も合わせて参照すると良い。根拠としたものには出典をつけること（第 5～7 章）（４）読書感想文指導について、あなたはどのように評価するか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：意義ある取り組みであると評価する場合も、批判的な主張を展開する場合も、根拠としたものには出典をつけること（第 8 章）（５）読書活動を推進するため、組織として学校図書館は公共図書館、家庭・地域とどのような連携が行えるか。→まとめるために：　読書活動を推進するためには、各学校図書館の担当者のみの力では限界がある。組織として学校図書館が公共図書館、家庭・地域とどのような連携が行えるか。実践例の羅列ではなく、実践例から、このような連携ができるといったことをまとめてみよう。例えば、学校図書館支援センターに着目すると、公共図書館とこのような連携ができるなど。根拠としたものには出典をつけること（第 11 章）（６）特別な教育的ニーズをもつ児童生徒に対して、実践指導に着目してどのような読書指導を試みたらよいか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：　あなたが思い浮かべた特別な支援を要する児童生徒はどのような特性があるか。その児童生の特性に沿って、どのように読書指導を試みるか（例えば、LD（学習障害）の児童生徒に対してどのような方法で実践指導するか）根拠としたものには出典をつけること（第 12 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できることが目標となる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	情報メディアの活用				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報メディアの活用（探求学校図書館学；第 5 巻）	「探求　学校図書館学」編集員会・編著	全国学校図書館協議会	[ISBN]9784793322785

■授業の概要	本科目は、国家資格である司書教諭資格取得を前提とした必修科目である。小・中・高等学校、特別支援学校の学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。通信教育の特性上、情報メディアの種類と特色（現物提示）や、その活用方法（実技）については、担当教員から実物や実演を見せることが、かなわない。そこで、自らの学校図書館での経験を振り返ったり、可能な範囲で実在する学校図書館に赴き観察したり、web 上で、実在する学校図書館における実物・実技を検索したり、動画を視聴したりして、これからの教育現場での活用方法を模索してほしい。
■学習の要点	文部科学省から提示された下記の重要項目を確認した上で、学習・理解したい。1.高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む） 2.情報メディアの特性と選択 3.視聴覚メディアの活用 4.コンピュータの活用・教育用ソフトウェアの活用・データベースと情報検索･インターネットによる情報検索と発信 5.学校図書館メディアと著作権、情報モラル以下の 6 点について、テキストに従って学習をすすめてほしい。また、学びをより深めるためには参考文献を読み、調査によって具体的な事例を吸収すること。さらに、実際の学校で行われている学校図書館の情報メディアを活用した授業事例に学びながら、これからの学習教育活動の展開に貢献するような取り組みを模索すること。①メディアリテラシーの定義を確認したうえで、メディアリテラシーと学校図書館のかかわりについてまとめること。②学校図書館が学習・情報センターとしての機能や教員への支援機能などを発揮するうえで、どのような工夫・手だてが必要かをまとめること。③情報メディアとは何か。特に学校教育における情報メディアの意義と活用を、「学習」と「教授」という 2 つの視点から考えること。④様々な情報メディアの種類とそれぞれの特性について分類をもとに理解し、テキストに掲載されている以外の具体的な事例を調べて、効果的な選択方法について理解すること。⑤コンピュータなどの情報機器の有用性を理解した上で、児童生徒の情報行動の実体を把握し、指導上の留意点についてまとめること。⑥司書教諭として、著作権や情報モラル教育を行う際、どのような点を中心に児童生徒に教えるかをまとめること。
■学習の到達目標	・学校図書館における多様な情報メディアの種類と特性、それぞれの選択・活用方法について理解する。・司書教諭として知っておくべき、伝統的な情報メディアにくわえて、各種教育用ソフトウェアやコンテンツ、データベース等 web 情報の活用、並びに情報検索・発信の方法、著作権、情報モラル等を理解する。・これらを理解することによって、情報に等しくアクセスすることを使命とする学校図書館において、司書教諭として児童生徒及び教員の学習教育活動の進展を支え、教育課程の展開に寄与できるようになる。・さらに情報メディアの活用に関

■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館概論				単位	2.0
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	TS5711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館の基礎と展望（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望;1）第 2 版	二村健著	学文社	[ISBN]9784762028885

■授業の概要	・図書館に関する基礎的な知識を培い、図書館の全体像を把握するうえで重要な事項について学ぶ。　図書館の意義、図書館の種類と機能、図書館資料、図書館政策、図書館関連法規、図書館の課題と動向等が対象となる。・図書館奉仕の内容、図書館の管理と運用、図書館の自由、図書館員の責務など、基本的な事項について理解を深める。・マルチメディアやインターネットが普及している今、図書館は生涯学習の中核的な拠点とも考えられている。図書館のネットワーク化や著作権の問題にも取り組み、時代に沿った図書館の在り方について十分な理解に努める。
■学習の要点	テキストを理解するために、以下の６つの視点でまとめていくこと。1.　図書館法における図書館の位置づけを整理したうえで、図書館の役割についてまとめる(テキスト pp.24-31,98-100 のほか、同シラバスの参考文献も参考になる。図書館法とのかかわりを中心に、図書館の役割をまとめる)。2.「図書館の自由」とは何かを整理したうえで、図書館員の倫理綱領（目的と内容）についてまとめる(テキスト pp.83-85)。テキストの参考文献 3 の具体的な事例も参考になる。3.「中小レポート」の政策と言われる『市民の図書館』が当面の課題として取り上げた図書館奉仕活動の内容についてまとめる(テキスト 中小レポート pp.45-47, 市民の図書館 pp.47-49)。4. 公共図書館のネットワーク化の必要性・意義および内容についてまとめる(テキスト p.42)。　補足：東京書籍『新訂図書館概論』「第 10 章　図書館･情報提供施設の相互協力･ネットワーク化とボランティア活動」2005,pp.251-254 も参考になる。5. 図書館サービスにかかる問題を１つ取り上げて、問題内容、その問題の背景、その問題が及ぼす影響、図書館員としてその問題にどのように向き合うかをまとめる(テキスト pp.86-91)　意見を述べる際に、その意見を裏付ける（根拠や数値的データ）を含めること。根拠がないと、主観（思い込み）で書いてしまうので注意すること。6. ５つの図書館の種類、５つの図書館の主な対象者と提供するサービスの特徴についてそれぞれまとめる(テキスト p.56,pp. 58-67)。　ヒント：５つの図書館の種類については p.56 の社会制度上の区分けを参考にする。具体的な 5 館種についての説明は pp.58-67 を参照。
■学習の到達目標	学習の到達目標：上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。知識として、６つのポイントを体系化して欲しい。
■成績評価の基準	・テキストのほかに参考文献を読み、積極的に学ぶ姿勢が見られること。テキスト等に書かれていることをそのまま書くのではなく要約する、最小限の引用で補足するなどしてリポートや試験解答を行っていること。説明には、具体的な例示を加えて読み手に意図が伝わりや

	すいように工夫するとよい。· 参考文献、引用文献や参照文献を参考文献欄に記載しており、かつ必要な書誌情報が漏れなく記載されていること。科目最終試験の採点基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（1

授業科目	図書館経営論				単位	1.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS0762	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館制度･経営論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；2)	永田治樹編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820415183

■授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について理解するとともに、図書館の管理や経営についての考察を深める。職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などについて学習する。１） 図書館法について２） 他館種の図書館に関する法律等 ３） 図書館サービス関連法規 ４） 図書館政策（国、地方公共団体）５） 公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む） ６） 図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携） ７） 図書館の施設・設備 ８） 図書館のサービス計画と予算の確保 ９） 図書館業務・サービスの調査と評価１０） 図書館の管理形態の多様化
■学習の要点	近年、公共図書館の貸出冊数、設置率など急速に発展してきた。また一方で、社会情勢の変化や情報化の進展に伴い、地方財政問題、職員問題、管理主体の多様性など、図書館経営のあり方が問われている。さまざまな意見を参考にし、持続発展可能な公立図書館の制度・経営とはどうあるべきか、主体的に学び、自らの意見を持ってほしい。 テキスト等を参考に下記の点を理解すること。１） 図書館法について理解する２） 他館種の図書館に関する法律、図書館関連法規を概観する ３） 図書館の経営視点の必要性 ４） 図書館の計画と評価 ５） 図書館サービス計画と施設計画 ６） 公立図書館の組織、館長のリーダーシップ、職員の養成･育成 ７） 図書館の財務と振興計画、課金問題 ８） 管理運営形態の多様化 ９） 今後の図書館経営のあり方
■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを通読し必要に応じて参考文献などを用いて次のテーマを理解・説明できること。1.図書館奉仕、無料の原則、職員、図書館協議会という点から図書館法を理解すること。 2.現在、公立図書館は経営的視点が求められている。公立図書館を経営するとはどういうことか 多角的にとらえる。「経営」に対する一般的な定義を理解し、現代的な経営課題や図書館の使命、目的を理解すること。（テキスト :unit11,12 参照。）3.図書館長の役割、職員の育成、図書館組織について理解する
■成績評価の基準	成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）（10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館サービス論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5714	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
改訂 図書館サービス概論	高山 正也・村上篤太郎　編著	樹村房	[ISBN]9784883672943

■授業の概要	図書館サービスとは何か、その理念や意義と歴史的背景を学習し、各種サービスの現状と課題を把握するとともに、情報化の進展を踏まえたこれからの図書館の役割や図書館像を考察する。具体的な学習項目を以下に掲げる。（１）図書館サービスの理念と意義（２）図書館サービスの計画と評価（３）図書館活動の発展（４）図書館サービスの現状と課題（５）図書館活動における自由の問題（６）図書館づくりの政策と運動
■学習の要点	以下の点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館サービスはどのような理念や意義に基づいて展開されているのか、「ユネスコ公共図書館宣言」、「公立図書館の任務と目標」、「文字・活字文化振興法」と図書館関連法規等を踏まえて学習する（２）図書館サービスの計画と評価について、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や具体例を学習する。（３）図書館活動の発展について、歴史的背景における『中小都市における公共図書館の運営』、『市民の図書館』、「これからの図書館像　一地域を支える情報拠点をめざして（報告）」等の内容の理解と社会変化に対応した図書館の役割や図書館像を考えること（４）図書館サービスにおける資料・情報の提供、アウトリーチ活動、全域サービスと図書館システム、技術革新、図書館協力とネットワーク、都道府県と国の図書館活動、学校・大学図書館等との連携・協力、集会・文化・広報活動の現状を学習するとともに、これらのサービスにおける課題を把握すること（５）図書館活動における自由の問題について、「図書館の自由に関する宣言」を理解し、具体的な事例を学習すること。また「図書館員の倫理綱領」についても理解し、学習すること。（６）図書館づくりにおける指定管理者制度等の政策の動向と住民参加やボランティア活動の現状を把握すること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	情報サービス概論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5715	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望４　情報サービス論	竹之内 禎	学文社	[ISBN]9784762021947

■授業の概要	図書館における情報サービスとは何か、その意義･種類とサービスの実際を学習し、様々な情報源の利用法を理解する。また情報化の進展に伴い、これからの情報サービスはどうあるべきかを考え、図書館員がなすべきことなどを考察する。学習項目を以下に掲げる。（１）情報サービスの種類（２）情報サービスの理論的展開（３）レファレンスサービスの理論と実践（４）レファレンスサービスの実際と情報検索サービス（５）各種情報源の特質と利用法（データベースを含む）（６）各種情報源の評価と解説、その組織化（７）発信型情報サービスの意義と方法（８）情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識（９）図書館利用教育と情報リテラシーの育成（１０）これからの情報サービスについて：展望
■学習の要点	以下の 10 点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館における情報サービスの代表的な種類である下記のサービスについて、その具体的内容を学習すること　・直接サービス　・間接サービス　・課題解決支援サービス（２）情報サービスの理論的展開について、下記の事柄を学習すること　・定義　・図書館の種類と重視される情報サービス機能　・図書館の機能とレファレンスサービス理論（３）レファレンスサービスの理論と実践について、下記の事柄を学習すること　・図書館の教育機能と情報提供機能　・人的援助と物的援助　・レファレンスサービスの実践とレファレンス力（４）図書館現場でのレファレンスサービスをおこなううえでの注意点と実際のプロセス（テキスト p.27 図 4-4）とあわせて、データベースを利用した情報検索サービスのための理論と方法を学習すること（５）各種情報源の特質と利用法について、情報メディア・文献・データベースの検索など具体例で学習すること（６）代表的なレファレンスツールとして、レファレンスブックの評価と内容を学習するとともに、情報源の組織化について学ぶこと（７）発信型情報サービスの意義と方法について、パスファインダーなど電子情報技術を利用した新しい情報サービスの意義･形態とあり方を学習すること（８）知的財産権の骨格を学び、図書館での情報サービスに必要な知識を習得する（９）公共図書館における情報リテラシー教育の必要性とサービスの事例を学習すること（１０）これからの情報サービスのあり方、図書館や図書館員がなすべきこと、求められていることについて考えること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	図書館資料論			単位	2.0
担当者	杉岡　和弘		シラバスグループ	TS5717	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論（改訂）	岸田和明	樹村房	[ISBN]9784883673384

■授業の概要	従来の図書館では、印刷刊行物（書籍、雑誌、新聞など）と非印刷刊行物（レコード、CD、ビデオ、点字・録音資料）が主な図書館所蔵資料でした。しかし、現代の図書館では、パッケージ情報資源（CD-ROM で提供される情報資源など）やネットワーク情報資源（ウェブサイトや電子書籍、電子ジャーナルなど）を加えて、図書館情報資源とし、図書館業務を行っています。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について学び、図書館情報資源の生産（出版）と流通の実際、図書館コレクションとしての形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価)、方法について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。 1）印刷資料・非印刷資料の類型と特質(図書・雑誌・新聞、主要な一次・二次資料、資料の歴史を含む)2）電子資料、ネットワーク情報資源の類型 と特質 3）地域資料、行政資料(政府刊行物)、灰色文献 4）情報資源の生産(出版)と流通(主な出版者に関する基本的知識を含む)5）図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基本的知識を含む)6）コレクション形成の理論(資料の選択・収集・評価)7）コレクション形成の方法(選択ツールの利用、選定・評価)8）人文・社会科学分野の情報資源とその特性 9）科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 10）資料の受入・除籍・保存・管理(装備・補修・排架・展示・点検等を含む)
■学習の到達目標	1.印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、 歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を理解する。2.図書館情報資源をめぐるさまざまな課題について，具体的事例がとともに理解できていること。3.事実とデータに基づき自分の意見を論理的に表現することができるようになっているか 。
■成績評価の基準	1.構成(書式、章立て、文体の統一、見出し、引用)がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容(設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量)について、どれほど 広く学び取ったか。 3.論理性と表現(客観的理解、考察の内容、端的で明快)について、どれほど深い思考か。 4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に 当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。 5.その他の優位点。独

授業科目	専門資料論			単位	1.0
担当者	白井　亨		シラバスグループ	TS0768	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論	藤田岳久編著／二村健監修	学文社	[ISBN]9784762021985

■授業の概要	研究・調査活動において冊子体の情報だけではなく、様々なネットワーク情報資源が必要不可欠である。図書館は資料・情報を利用者に提供するという役割を担っているが、従来型の冊子体の提供に加え、オンライン上で得られる情報をいかに提供できるか課題の一つといえる。　この科目は、人文科学、社会科学、自然科学・技術における学術構造と資料・情報との関係について理解を図り、各専門分野の資料・情報の特性と種類を解説・理解することをねらいとしてきた。デジタル化された学術情報の提供を抜きにしては考えられないが、人文・社会科学では、従来の書誌・索引類の利用も見られるため、専門領域によって、資料・情報へのアクセス方法が異なっていることを理解することも必要である。　学術情報の生産・流通・利用・評価は研究者がどのように研究成果を生産し、流通させ、利用しているのかその学術構造そのものと深いかかわりを持っている。その上で現在のネットワーク環境下における学術情報・資料について図書館とのかかわりを含めて理解する。そののち、各専門分野の特性を把握し、各分野の情報・資料について理解を深めることを最終的な目的としている。
■学習の要点	学術情報への理解には研究活動そのものへの理解が必要であり、各専門分野への理解の前提として、学術構造に対する理解も必要である。その上でネットワーク情報環境下における学術情報の変化、さらに図書館がどのようなかかわりを持つのか、理解を深めたい。図書館員として、各領域の学問的特性の理解、個々の資料・情報についての知識を得るとともに、使いこなせることが理想的である。特に大学図書館では、専門分野への理解を深化させることにより、高度な図書館サービスが期待される。以上について理解を図ることになるが、指定のテキストだけではなく、各参考図書等を参照しながら学習を進めてほしい。具体的な資料名やデータベースは参考図書のほか、最新の情報を調べ、可能なかぎり図書館で資料を手にしたり、オンラインデータベースを利用して欲しい。（ポイント）１．学術構造への理解との学術情報・資料の特徴　この項目について、テキストだけではなく参考図書を参照にして学習を進めてほしい。学術構造について把握するとともに、いかに学術情報にアクセスし、利用しているのかを理解する。学術情報の生産・流通・利用・評価と特性、一次資料と二次資料の特性及び種類について理解を図る。代表的な学術情報の探索行動について理解する。また、学術情報の評価につながる「ビブリオメトリクス」とその法則、引用分析、インパクトファクターなどについて調べておく。２．電子資料、ネットワーク情報資源　ネットワーク情報資源として、オンラインデータベースや電子ジャーナル、オープンアクセス、機関リポジトリなどの様々な事象について理解を深める。最新動向の把握にはテキストや参考図書の他、様々な図書やインターネット情報で調べておくこと。ネットワーク情報源にかかわる図書館を取り巻く現状や課題などについても理解を深めたい。３．地域資料、灰色文献　地域資料や灰色文献について、理解を深める。これら資料も研究活動を行う上で欠くことができない。これらの文献の特性や種類、社会的な役割、現状など理解を深めたい。４．人文科

	学分野の特性と人文科学資料・情報の特性と種類人文科学分野の学問的特性と、情報・資料の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについても理解する。人文科学とは何か、人文科学の情報源の特徴、研究者の情報利用、書誌コントロールについて理解する。人文科学の情報源の特性はテキストだけではなく参考図書も併せて参照してほしい。二次資料やデータベースについても、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。５．社会科学分野の特性と社会科学分野の資料･情報の特性と種類社会科学分野の特性と、資料･情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。社会科学とは何か、社会科学の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。社会科学の資料・情報の検索ツールは多様である。その種類や特徴を含め調べておくこと。例えば、統計データを探すツールにどのようなものがあるか調べること。二次資料やデータベースについても、様々な図書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。６．自然科学・技術分野の特性と自然科学・技術分野の資料・情報の特性と種類自然科学分野の学問的特性と、資料・情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。自然科学・技術とは何か、自然科学・技術の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。また、技術分野には規格資料や特許資料、テクニカルレポートなど特徴的な資料があり、それらの特徴や探し方など必ず参考図書などで調べておいてほしい。二次資料やデータベースについては、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。

■学習の到達目標	人文科学、社会科学、自然科学・技術のそれぞれの代表的、基本的な書誌については、その資料名、書誌的事項の記述と配列、記述の様式、収載範囲などを知っておきたい。 近年では書誌情報は電子化されオンラインデータベースとして提供されているものが多くなってきており、ネットワークを利用した情報検索も増加している。同種の資料でも印刷メディア、電子メディア、データベースとしてネット上で検索可能な状態で存在している。ネットワーク情報源の現状と課題について理解を深めたい。 実際に図書館まで出かけて資料を手に取り、情報アク

■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10） 書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。

授業科目	資料組織概説				単位	2.0
担当者	蟹瀬　智弘			シラバスグループ	TS5718	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
情報資源組織論　三訂（現代図書館情報学シリーズ 9）	田窪直規　編	樹村房	[ISBN]9784883673391

■授業の概要	図書館情報資源を効率的に利用するための技術である目録と分類について、その理論と技術を学修する。資料の特徴を記す記述目録法と、内容から資料にたどり着きやすくするための主題目録法、およびネットワーク上の情報資源を組織化するメタデータについて学修する。

■学習の要点	指定されたテキストだけでなく、参考文献に挙げた教科書なども参考にすると理解しやすくなる。記述目録法、主題目録法、メタデータなどについて、なぜ必要なのか、どのような効果があるのかを考えながら学習するとよい。

■学習の到達目標	図書館情報資源組織化について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データに関する理論と技術を修得する。ただし目録や分類等の技術は情報資源組織演習で修得するので、本課目では理論を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	情報資源組織において重要なキーワードを理解しているか、適切に説明できているかを評価する。

授業科目	児童サービス論				単位	1.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS0771	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
児童サービス論　新訂版（ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ　3−6）	堀川照代　編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820419099

■授業の概要	本科目は、国家資格である司書資格取得を前提とした必修科目である。本科目における「児童」とは、学校教育における児童（小学生）ではなく、児童福祉法における児童（0 歳から 18 歳未満）を指すことに留意してほしい。したがって、本科目における「子ども」とは、児童（0 歳から 18 歳未満）のことを言う。また、本科目における「公共図書館」とは、図書館法における公立図書館と私立図書館の総称である。生涯学習のはじめの一歩となる、公共図書館における児童の発達段階に応じた各種のサービスや運営方法、児童資料等の特性、児童と資料を結びつける方法について総合的に学習する。通信教育の特性上、児童資料等の特色（現物提示）や児童と資料を結びつける方法（実技）については、担当教員から実物や実演を見せることが、かなわない。そこで、自らで実在する公共図書館や書店に赴いて児童書を手に取ったり、web 上で児童と資料を結びつける方法（実技）の動画を視聴したり、大学図書館などで関連する DVD を観て、自身でも実演を行ってみてほしい。なお、テキストにおいて「読み聞かせ」と表記されている部分を、担当教員は「読み語り」と表記している。
■学習の要点	児童サービスの要点は、(1)子どもを知ること、(2)子どものための児童資料を知ること、(3)子どもと児童資料を結びつけることである。このことを念頭に置いて、子どもの発達、児童資料、両者を結ぶ方法・技術、包括的な児童サービスの運営等を学習する。特に、以下の 8 点について、テキストに従って学習をすすめてほしい。また、学びをより深めるためには参考文献を読み、調査によって具体的な事例を吸収すること。　1. 児童サービスとは何か。児童サービスの意義。(テキスト：UNIT0～3 が該当するが、テキスト全体から理解してほしい)　2. 子どもの発達と読書の関係。(テキスト：UNIT4～6)　3. 児童資料の種類と類型の特色。(成人書との比較を含む)(テキスト：UNIT7～14)　4. 児童コレクションの形成と管理。(どのようにして選択・収集し整理するのか)(テキスト：UNIT15～17)　5. 児童サービスの運営。(テキスト：UNIT23～29)　6. 子どもと児童資料を結びつける技術。(読み語り、ストーリーテリング、ブックトーク、アニマシオン、ペープサート、ビブリオバトル、リテラチャー・サークル、読みあい、科学あそび等々)(テキスト：UNIT18～22、30～33、及び web 上の動画や DVD など)　7. 乳幼児、ヤングアダルト、特別な支援を要する児童へのサービス。(テキスト：UNIT34～42)　8. 公共図書館の連携・協力の必要性。(子ども読書活動推進計画、学校や地域との連携)(テキスト：UNIT43～48)
■学習の到達目標	児童サービスの目的と意義を理解し、「子ども（乳幼児からヤングアダルト）の発達」と「児童資料」について知り、「子どもと児童資料を結ぶための技術」を習得して、児童図書館員としての専門性を身につける。

■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書及び図書館史				単位	1.0
担当者	中山　愛理			シラバスグループ	TS5721	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書・図書館史（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；11）	小黒浩司編	日本図書館協会	[ISBN]9784820412182

■授業の概要	現在の図書館は、多様な変化に直面し、課題をかかえています。このような変化や課題は、急に出現したわけでもありません。　これまでの図書館の長い活動ひとつひとつが積み重なって、やがて歴史となり、結果として導かれたものです。図書館情報メディアや図書館の歴史を学ぶことを通じて、現在の図書館、そしてこれからの図書館の在りようをを冷静に見通すことを目指します。
■学習の要点	テキストは、「記録メディアの歴史」、「図書館の歴史：世界」、「図書館の歴史：日本」から構成されている。最初に、全体の構成を把握してください。　次に、「記録メディアの歴史」の部分を熟読し、自分なりにまとめてください。　その後、「図書館の歴史：世界」及び「図書館の歴史：日本」を熟読してください。その際に、各時代の図書館に扱われていたメディアを「記録メディアの歴史」を参照し、確認しながら読み進めてください。そして、各時代の図書館のトピック（出来事）とメディアを対照させるようにまとめてください。 また、現在の図書館の状況や課題に通ずる内容が過去のどこに起因するのかも探ってほしい。
■学習の到達目標	・図書館情報メディアの歴史について説明することができる。・世界の図書館の歴史について説明することができる。・日本の図書館の歴史について説明することができる。
■成績評価の基準	・問題に即した解答がされているかどうか。・テキストの内容を理解した解答となってるかどうか。

授業科目	情報機器論				単位	1.0
担当者	杉岡　和弘			シラバスグループ	TS0773	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　図書館と情報技術	田窪直規編	樹村房	[ISBN]9784883672745

■授業の概要	現代の図書館業務においては、大学図書館、公立図書館、学校図書館などいずれの図書館においても「情報技術（Information Technology）」は欠くことができない存在です。このコンピュータを中心とする情報機器に関する知識や、それを用いて的確な情報処理を遂行するための実務を身につけることが求められています。この図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。　1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会 3.図書館における情報技術活用の現状 4.図書館業務システムの仕組み(ホームページによる情報の発信を含む)5.データベースの仕組み 6.検索エンジンの仕組み 7.電子資料の管理技術 8.コンピュータシステムの管理(ネットワークセキュリティ、ソフトウエア及びデータ管理を含む)9.デジタルアーカイブ 10.最新の情報技術と図書館　また、テキストの第 10 章は、検索技術者検定 3 級の出題範囲になっています。検索技術者検定は、企業、大学、組織等において、研究開発やマーケティング、企画等のビジネスで必要とされる信頼性の高い情報を入手して活用できる専門家を育成するための検定です。（https://www.infosta.or.jp/examination/）検索技術者検定 3 級対応テキストを併読してチャレンジしてください。
■学習の到達目標	「学習の要点」に示す事項について、単に暗記するのでなく、実践と資料等を駆使して理解し納得すること。「答案」評価の基準および作成上の留意点は、レポートと共通である。そのうえで、　1.図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を身につける。2.知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。3.インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを展開することができる。4.情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索
■成績評価の基準	1.構成（書式、章立て、文体の統一、見出し、引用）がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容（設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量）について、どれほど広く学び取ったか。3.論理性と表現（客観的理解、考察の内容、端的で明快）について、どれほど深い思考か。4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。5.その他の優位点。独自のアイデ

授業科目	成人指導				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5743	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい生涯学習概論　後期 近代社会に生きる私たちの学び	赤尾勝己	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623062843

■授業の概要	国や地方自治体の生涯学習振興計画の中で成人の学習がどのようにとらえられているかについて理解するとともに、成人の学習機会の在り方、実態、課題についての考察を深める。
■学習の要点	以下を考察しておくこと。1.社会教育施設・生涯学習施設の実態と課題 2.高齢者の学習プログラムの立て方と地域の課題 3.地域における成人教育の課題 4.社会の変化と成人教育のあり方 5.生涯学習における学習プログラムの立て方 6.地方自治体の生涯学習に関する計画の課題
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、自ら調べ、考察すること。実態や具体例を調べ、理解し、課題を考察できるようになること。
■成績評価の基準	地域の現状を実際に調べた上で論述しているか、また自治体の計画と比べどのような問題があるのか、さらに実施における課題は何かについて深く考察すること。

授業科目	青少年指導				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5744	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論 生涯学習社会の展望 新版	浅井経子編	理想社	[ISBN]9784650010121

■授業の概要	平成 18 年の教育基本法の改正および平成 20 年の社会教育法改正等により加わった教育の新しい動きを捉えるととともに、国際化や情報化の中で、また深刻化する環境問題や経済雇用情勢の変化の中で、青少年指導がいかにあるべきかを広く深く考える。
■学習の要点	下記の事項について理解を深めておくこと。1.青少年指導のあり方 2.社会教育施設における青少年指導 3.青少年を対象とする指導者養成の課題とあり方 4.地方自治体の児童･生徒を対象とした教育計画 5.家庭教育･学校教育及び社会教育の連携と融合 6.地域における少年指導の課題
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、自ら調べ、考察すること。実態や具体例を調べ、理解し、課題を考察できるようになること。
■成績評価の基準	全てを網羅するのではなく、いくつかを取り上げて、自分で考察し、論述すること。

授業科目	博物館学				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TS5745	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館について、歴史、種類、機能、目的などの基本的な論点を整理し、理解を深めながら、現代そして将来において求められるべき博物館のあり方を考える。
■学習の要点	科目最終試験の各問題はそれぞれテキスト『新時代の博物館学』で各章を構成する節に含まれる項目として整理されています。問題はそのような項目を確実に学習すれば解答できるように作成してありますので、対象となる部分を熟読して、リポートや試験に備えてください。
■学習の到達目標	どの問題についても、テキストを読み、その論旨や要件を具体的で明瞭にまとめることが適確な解答を書くためのもっとも大切な点です。特にそれぞれを説明する際に必須となる用語を欠かさないように記述してください。
■成績評価の基準	テキストに用いられている専門用語が適切に説明されているかが、これらを用いた説明が的確であるかが評価に関わる重要な基準となります。

授業科目	図書館学				単位	2.0
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	TS5746	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館概論　５訂版　ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ　３−１	塩見昇　編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820418139

■授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、図書館の種類とそれぞれの機能や役割、関係法規、図書館職員の役割などについて考察する。我々が日々の生活を営む民主主義社会における図書館の役割及びその存在意義について考究することを目的としている。以下の内容について理解を深めてもらいたい。１．図書館の定義：構成要素と機能２．書物の役割：知的生産物、知識の媒介としての永遠性、人格表現、創造へのいざない、等３．図書館思想：公共図書館の成立と展開４．図書館の自由５．図書館をめぐる法の理念：図書館法、ユネスコ公共図書館宣言など６．図書館行財政７．図書館のはたらき：国立国会図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、各種図書館の意義やはたらきを理解する８．図書館協力　館種を超えた図書館間における連携･協力９．図書館職員の役割と資格、倫理綱領 10．図書館の現状と課題
■学習の要点	図書館の種類、機能、関係法規等に関する学習を通して、何故図書館が必要なのか、何故図書館に司書が必要なのかについて自らの考えをまとめてもらいたい。学習の要点としては、以下の内容に特に留意すること。１．図書館思想の流れ２．憲法、教育基本法、社会教育法と図書館法３．憲法と表現の自由・知る自由４．図書館の自由に関する宣言と、図書館の自由をめぐるさまざまな問題５．公共図書館の歴史：世界と日本６．第二次世界大戦後のわが国の公共図書館７．国立図書館の機能・役割と、わが国の国立国会図書館の法規と役割、現状と課題８．公共図書館の法規と役割、現状と課題９．学校図書館の役割・現状１０．大学図書館、専門図書館の役割・現状．１１．図書館ネットワーク、図書館協力とは何か１２．図書館行政、財政、指定管理・委託問題など１３．図書館職員の役割と資格：倫理綱領
■学習の到達目標	図書館の種類を挙げて、それぞれの機能、役割について要約できる。　図書館の歴史を概観して現在の公共図書館運営に多大な影響を与えた事柄についてまとめることができる。図書館の自由について理解し、その問題点と意義を列挙することができる。　図書館の行財政の問題点を指摘し、図書館運営の在り方について意見をまとめることができる。
■成績評価の基準	成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）（10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10)「答案」作成上の留意点：書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。**「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、評価対象外となる。

授業科目	教育学概論				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS5747	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「学校教育と社会」ノート―教育社会学への誘い(第3版)	山内乾史著	学文社	[ISBN]9784762029325

■授業の概要	グローバル化する社会の中で、日本の教育はどうあるべきかを考察する。日本の教育を客観的に見る視野が求められる。
■学習の要点	教育の本質は何かを、現在の学校に焦点をあてて考える。諸外国との比較の中で、日本の教育問題を客観的にみる。　・学校教育と社会との関係について考える。　・高学歴者はなぜ尊重されたのかについて考える。　・エリート教育、才能教育について考える。　・日本の授業料政策・奨学金政策の特徴について考える。　・日本の大学院修了者の就職問題について考える。　・日本の大学生文化の特徴について考える。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。
■成績評価の基準	自分自身の教育論をはっきりと確立できているかが成績評価の基準になる。テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。

授業科目	図書館制度・経営論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館制度･経営論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；2)	永田治樹編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820415183

■授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について理解するとともに、図書館の管理や経営についての考察を深める。職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などについて学習する。１） 図書館法について２） 他館種の図書館に関する法律等 ３） 図書館サービス関連法規 ４） 図書館政策（国、地方公共団体） ５） 公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む） ６） 図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携） ７） 図書館の施設・設備 ８） 図書館のサービス計画と予算の確保 ９） 図書館業務・サービスの調査と評価 １０） 図書館の管理形態の多様化
■学習の要点	近年、公共図書館の貸出冊数、設置率など急速に発展してきた。また一方で、社会情勢の変化や情報化の進展に伴い、地方財政問題、職員問題、管理主体の多様性など、図書館経営のあり方が問われている。さまざまな意見を参考にし、持続発展可能な公立図書館の制度・経営とはどうあるべきか、主体的に学び、自らの意見を持ってほしい。 テキスト等を参考に下記の点を理解すること。１） 図書館法について理解する２） 他館種の図書館に関する法律、図書館関連法規を概観する ３） 図書館の経営視点の必要性 ４） 図書館の計画と評価 ５） 図書館サービス計画と施設計画 ６） 公立図書館の組織、館長のリーダーシップ、職員の養成･育成 ７） 図書館の財務と振興計画、課金問題 ８） 管理運営形態の多様化 ９） 今後の図書館経営のあり方
■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを通読し必要に応じて参考文献などを用いて次のテーマを理解・説明できること。1.図書館奉仕、無料の原則、職員、図書館協議会という点から図書館法を理解すること。 2.現在、公立図書館は経営的視点が求められている。公立図書館を経営するとはどういうことか 多角的にとらえる。「経営」に対する一般的な定義を理解し、現代的な経営課題や図書館の使命、目的を理解すること。（テキスト :unit11,12 参照。）3.図書館長の役割、職員の育成、図書館組織について理解する
■成績評価の基準	成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）（10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館情報技術論				単位	2.0
担当者	杉岡　和弘			シラバスグループ	TS5713	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　図書館と情報技術	田窪直規編	樹村房	[ISBN]9784883672745

■授業の概要	現代の図書館業務においては、大学図書館、公立図書館、学校図書館などいずれの図書館においても「情報技術（Information Technology）」は欠くことができない存在です。このコンピュータを中心とする情報機器に関する知識や、それを用いて的確な情報処理を遂行するための実務を身につけることが求められています。この図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。　1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会 3.図書館における情報技術活用の現状 4.図書館業務システムの仕組み(ホームページによる情報の発信を含む)5.データベースの仕組み 6.検索エンジンの仕組み 7.電子資料の管理技術 8.コンピュータシステムの管理(ネットワークセキュリティ、ソフトウエア及びデータ管理を含む)9.デジタルアーカイブ 10.最新の情報技術と図書館　また、テキストの第 10 章は、検索技術者検定 3 級の出題範囲になっています。検索技術者検定は、企業、大学、組織等において、研究開発やマーケティング、企画等のビジネスで必要とされる信頼性の高い情報を入手して活用できる専門家を育成するための検定です。（https://www.infosta.or.jp/examination/）検索技術者検定 3 級対応テキストを併読してチャレンジしてください。
■学習の到達目標	「学習の要点」に示す事項について、単に暗記するのでなく、実践と資料等を駆使して理解し納得すること。「答案」評価の基準および作成上の留意点は、レポートと共通である。そのうえで、　1.図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を身につける。2.知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。3.インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを展開することができる。4.情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索
■成績評価の基準	1.構成（書式、章立て、文体の統一、見出し、引用）がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容（設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量）について、どれほど広く学び取ったか。3.論理性と表現（客観的理解、考察の内容、端的で明快）について、どれほど深い思考か。4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。5.その他の優位点。独自のアイデ

授業科目	図書館サービス概論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5714	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
改訂 図書館サービス概論	高山 正也・村上篤太郎　編著	樹村房	[ISBN]9784883672943

■授業の概要	図書館サービスとは何か、その理念や意義と歴史的背景を学習し、各種サービスの現状と課題を把握するとともに、情報化の進展を踏まえたこれからの図書館の役割や図書館像を考察する。具体的な学習項目を以下に掲げる。（１）図書館サービスの理念と意義（２）図書館サービスの計画と評価（３）図書館活動の発展（４）図書館サービスの現状と課題（５）図書館活動における自由の問題（６）図書館づくりの政策と運動
■学習の要点	以下の点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館サービスはどのような理念や意義に基づいて展開されているのか、「ユネスコ公共図書館宣言」、「公立図書館の任務と目標」、「文字・活字文化振興法」と図書館関連法規等を踏まえて学習する（２）図書館サービスの計画と評価について、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や具体例を学習する。（３）図書館活動の発展について、歴史的背景における『中小都市における公共図書館の運営』、『市民の図書館』、「これからの図書館像　一地域を支える情報拠点をめざして（報告）」等の内容の理解と社会変化に対応した図書館の役割や図書館像を考えること（４）図書館サービスにおける資料・情報の提供、アウトリーチ活動、全域サービスと図書館システム、技術革新、図書館協力とネットワーク、都道府県と国の図書館活動、学校・大学図書館等との連携・協力、集会・文化・広報活動の現状を学習するとともに、これらのサービスにおける課題を把握すること（５）図書館活動における自由の問題について、「図書館の自由に関する宣言」を理解し、具体的な事例を学習すること。また「図書館員の倫理綱領」についても理解し、学習すること。（６）図書館づくりにおける指定管理者制度等の政策の動向と住民参加やボランティア活動の現状を把握すること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	情報サービス論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5715	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望４　情報サービス論	竹之内 禎	学文社	[ISBN]9784762021947

■授業の概要	図書館における情報サービスとは何か、その意義･種類とサービスの実際を学習し、様々な情報源の利用法を理解する。また情報化の進展に伴い、これからの情報サービスはどうあるべきかを考え、図書館員がなすべきことなどを考察する。学習項目を以下に掲げる。（１）情報サービスの種類（２）情報サービスの理論的展開（３）レファレンスサービスの理論と実践（４）レファレンスサービスの実際と情報検索サービス（５）各種情報源の特質と利用法（データベースを含む）（６）各種情報源の評価と解説、その組織化（７）発信型情報サービスの意義と方法（８）情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識（９）図書館利用教育と情報リテラシーの育成（１０）これからの情報サービスについて：展望
■学習の要点	以下の 10 点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館における情報サービスの代表的な種類である下記のサービスについて、その具体的内容を学習すること　・直接サービス　・間接サービス　・課題解決支援サービス（２）情報サービスの理論的展開について、下記の事柄を学習すること　・定義　・図書館の種類と重視される情報サービス機能　・図書館の機能とレファレンスサービス理論（３）レファレンスサービスの理論と実践について、下記の事柄を学習すること　・図書館の教育機能と情報提供機能　・人的援助と物的援助　・レファレンスサービスの実践とレファレンス力（４）図書館現場でのレファレンスサービスをおこなううえでの注意点と実際のプロセス（テキスト p.27 図 4-4）とあわせて、データベースを利用した情報検索サービスのための理論と方法を学習すること（５）各種情報源の特質と利用法について、情報メディア・文献・データベースの検索など具体例で学習すること（６）代表的なレファレンスツールとして、レファレンスブックの評価と内容を学習するとともに、情報源の組織化について学ぶこと（７）発信型情報サービスの意義と方法について、パスファインダーなど電子情報技術を利用した新しい情報サービスの意義・形態とあり方を学習すること（８）知的財産権の骨格を学び、図書館での情報サービスに必要な知識を習得する（９）公共図書館における情報リテラシー教育の必要性とサービスの事例を学習すること（１０）これからの情報サービスのあり方、図書館や図書館員がなすべきこと、求められていることについて考えること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	児童サービス論				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5720	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
児童サービス論　新訂版（ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ　3−6）	堀川照代　編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820419099

■授業の概要	本科目は、国家資格である司書資格取得を前提とした必修科目である。本科目における「児童」とは、学校教育における児童（小学生）ではなく、児童福祉法における児童（0 歳から 18 歳未満）を指すことに留意してほしい。したがって、本科目における「子ども」とは、児童（0 歳から 18 歳未満）のことを言う。また、本科目における「公共図書館」とは、図書館法における公立図書館と私立図書館の総称である。生涯学習のはじめの一歩となる、公共図書館における児童の発達段階に応じた各種のサービスや運営方法、児童資料等の特性、児童と資料を結びつける方法について総合的に学習する。通信教育の特性上、児童資料等の特色（現物提示）や児童と資料を結びつける方法（実技）については、担当教員から実物や実演を見せることが、かなわない。そこで、自らで実在する公共図書館や書店に赴いて児童書を手に取ったり、web 上で児童と資料を結びつける方法（実技）の動画を視聴したり、大学図書館などで関連する DVD を観て、自身でも実演を行ってみてほしい。なお、テキストにおいて「読み聞かせ」と表記されている部分を、担当教員は「読み語り」と表記している。
■学習の要点	児童サービスの要点は、(1)子どもを知ること、(2)子どものための児童資料を知ること、(3)子どもと児童資料を結びつけることである。このことを念頭に置いて、子どもの発達、児童資料、両者を結ぶ方法・技術、包括的な児童サービスの運営等を学習する。特に、以下の 8 点について、テキストに従って学習をすすめてほしい。また、学びをより深めるためには参考文献を読み、調査によって具体的な事例を吸収すること。　1. 児童サービスとは何か。児童サービスの意義。(テキスト：UNIT0〜3 が該当するが、テキスト全体から理解してほしい)　2. 子どもの発達と読書の関係。(テキスト：UNIT4〜6)　3. 児童資料の種類と類型の特色。(成人書との比較を含む)(テキスト：UNIT7〜14)　4. 児童コレクションの形成と管理。(どのようにして選択・収集し整理するのか)(テキスト：UNIT15〜17)　5. 児童サービスの運営。(テキスト：UNIT23〜29)　6. 子どもと児童資料を結びつける技術。(読み語り、ストーリーテリング、ブックトーク、アニマシオン、ペープサート、ビブリオバトル、リテラチャー・サークル、読みあい、科学あそび等々)(テキスト：UNIT18〜22、30〜33、及び web 上の動画や DVD など)　7. 乳幼児、ヤングアダルト、特別な支援を要する児童へのサービス。(テキスト：UNIT34〜42)　8. 公共図書館の連携・協力の必要性。(子ども読書活動推進計画、学校や地域との連携)(テキスト：UNIT43〜48)
■学習の到達目標	児童サービスの目的と意義を理解し、「子ども（乳幼児からヤングアダルト）の発達」と「児童資料」について知り、「子どもと児童資料を結ぶための技術」を習得して、児童図書館員としての専門性を身につける。

■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館情報資源概論				単位	2.0
担当者	杉岡　和弘			シラバスグループ	TS5717	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論（改訂）	岸田和明	樹村房	[ISBN]9784883673384

■授業の概要	従来の図書館では、印刷刊行物（書籍、雑誌、新聞など）と非印刷刊行物（レコード、CD、ビデオ、点字・録音資料）が主な図書館所蔵資料でした。しかし、現代の図書館では、パッケージ情報資源（CD-ROM で提供される情報資源など）やネットワーク情報資源（ウェブサイトや電子書籍、電子ジャーナルなど）を加えて、図書館情報資源とし、図書館業務を行っています。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について学び、図書館情報資源の生産（出版）と流通の実際、図書館コレクションとしての形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価)、方法について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。 1）印刷資料・非印刷資料の類型と特質(図書・雑誌・新聞、主要な一次・二次資料、資料の歴史を含む)2）電子資料、ネットワーク情報資源の類型 と特質 3）地域資料、行政資料(政府刊行物)、灰色文献 4）情報資源の生産(出版)と流通(主な出版者に関する基本的知識を含む)5）図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基本的知識を含む)6）コレクション形成の理論(資料の選択・収集・評価)7）コレクション形成の方法(選択ツールの利用、選定・評価)8）人文・社会科学分野の情報資源とその特性 9）科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 10）資料の受入・除籍・保存・管理(装備・補修・排架・展示・点検等を含む)
■学習の到達目標	1.印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、 歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を理解する。2.図書館情報資源をめぐるさまざまな課題について，具体的事例がとともに理解できていること。3.事実とデータに基づき自分の意見を論理的に表現することができるようになっているか 。
■成績評価の基準	1.構成(書式、章立て、文体の統一、見出し、引用)がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容(設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量)について、どれほど 広く学び取ったか。 3.論理性と表現(客観的理解、考察の内容、端的で明快)について、どれほど深い思考か。 4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に 当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。 5.その他の優位点。独

授業科目	情報資源組織論				単位	2.0
担当者	蟹瀬　智弘			シラバスグループ	TS5718	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
情報資源組織論　三訂（現代図書館情報学シリーズ 9）	田窪直規　編	樹村房	[ISBN]9784883673391

■授業の概要	図書館情報資源を効率的に利用するための技術である目録と分類について、その理論と技術を学修する。資料の特徴を記す記述目録法と、内容から資料にたどり着きやすくするための主題目録法、およびネットワーク上の情報資源を組織化するメタデータについて学修する。

■学習の要点	指定されたテキストだけでなく、参考文献に挙げた教科書なども参考にすると理解しやすくなる。記述目録法、主題目録法、メタデータなどについて、なぜ必要なのか、どのような効果があるのかを考えながら学習するとよい。

■学習の到達目標	図書館情報資源組織化について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データに関する理論と技術を修得する。ただし目録や分類等の技術は情報資源組織演習で修得するので、本課目では理論を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	情報資源組織において重要なキーワードを理解しているか、適切に説明できているかを評価する。

授業科目	図書・図書館史			単位	1.0
担当者	中山　愛理		シラバスグループ	TS5721	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書・図書館史（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；11）	小黒浩司編	日本図書館協会	[ISBN]9784820412182

■授業の概要	現在の図書館は、多様な変化に直面し、課題をかかえています。このような変化や課題は、急に出現したわけでもありません。　これまでの図書館の長い活動ひとつひとつが積み重なって、やがて歴史となり、結果として導かれたものです。図書館情報メディアや図書館の歴史を学ぶことを通じて、現在の図書館、そしてこれからの図書館の在りようをを冷静に見通すことを目指します。
■学習の要点	テキストは、「記録メディアの歴史」、「図書館の歴史：世界」、「図書館の歴史：日本」から構成されている。最初に、全体の構成を把握してください。　次に、「記録メディアの歴史」の部分を熟読し、自分なりにまとめてください。　その後、「図書館の歴史：世界」及び「図書館の歴史：日本」を熟読してください。その際に、各時代の図書館に扱われていたメディアを「記録メディアの歴史」を参照し、確認しながら読み進めてください。そして、各時代の図書館のトピック（出来事）とメディアを対照させるようにまとめてください。 また、現在の図書館の状況や課題に通ずる内容が過去のどこに起因するのかも探ってほしい。
■学習の到達目標	・図書館情報メディアの歴史について説明することができる。・世界の図書館の歴史について説明することができる。・日本の図書館の歴史について説明することができる。
■成績評価の基準	・問題に即した解答がされているかどうか。・テキストの内容を理解した解答となってるかどうか。

授業科目	図書館情報資源特論				単位	1.0
担当者	白井　亨			シラバスグループ	TS5722	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論	藤田岳久編著／二村健監修	学文社	[ISBN]9784762021985

■授業の概要	研究・調査活動において冊子体の情報だけではなく、様々なネットワーク情報資源が必要不可欠である。図書館は資料・情報を利用者に提供するという役割を担っているが、従来型の冊子体の提供に加え、オンライン上で得られる情報をいかに提供できるか課題の一つといえる。　この科目は、人文科学、社会科学、自然科学・技術における学術構造と資料・情報との関係について理解を図り、各専門分野の資料・情報の特性と種類を解説・理解することをねらいとしてきた。デジタル化された学術情報の提供を抜きにしては考えられないが、人文・社会科学では、従来の書誌・索引類の利用も見られるため、専門領域によって、資料・情報へのアクセス方法が異なっていることを理解することも必要である。　学術情報の生産・流通・利用・評価は研究者がどのように研究成果を生産し、流通させ、利用しているのかその学術構造そのものと深いかかわりを持っている。その上で現在のネットワーク環境下における学術情報・資料について図書館とのかかわりを含めて理解する。そののち、各専門分野の特性を把握し、各分野の情報・資料について理解を深めることを最終的な目的としている。
■学習の要点	学術情報への理解には研究活動そのものへの理解が必要であり、各専門分野への理解の前提として、学術構造に対する理解も必要である。その上でネットワーク情報環境下における学術情報の変化、さらに図書館がどのようなかかわりを持つのか、理解を深めたい。図書館員として、各領域の学問的特性の理解、個々の資料・情報についての知識を得るとともに、使いこなせることが理想的である。特に大学図書館では、専門分野への理解を深化させることにより、高度な図書館サービスが期待される。以上について理解を図ることになるが、指定のテキストだけではなく、各参考図書等を参照しながら学習を進めてほしい。具体的な資料名やデータベースは参考図書のほか、最新の情報を調べ、可能なかぎり図書館で資料を手にしたり、オンラインデータベースを利用して欲しい。（ポイント）１．学術構造への理解との学術情報・資料の特徴　この項目について、テキストだけではなく参考図書を参照にして学習を進めてほしい。学術構造について把握するとともに、いかに学術情報にアクセスし、利用しているのかを理解する。学術情報の生産・流通・利用・評価と特性、一次資料と二次資料の特性及び種類について理解を図る。代表的な学術情報の探索行動について理解する。また、学術情報の評価につながる「ビブリオメトリクス」とその法則、引用分析、インパクトファクターなどについて調べておく。２．電子資料、ネットワーク情報資源　ネットワーク情報資源として、オンラインデータベースや電子ジャーナル、オープンアクセス、機関リポジトリなどの様々な事象について理解を深める。最新動向の把握にはテキストや参考図書の他、様々な図書やインターネット情報で調べておくこと。ネットワーク情報源にかかわる図書館を取り巻く現状や課題などについても理解を深めたい。３．地域資料、灰色文献　地域資料や灰色文献について、理解を深める。これら資料も研究活動を行う上で欠くことができない。これらの文献の特性や種類、社会的な役割、現状など理解を深めたい。４．人文科

	学分野の特性と人文科学資料・情報の特性と種類人文科学分野の学問的特性と、情報・資料の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについても理解する。人文科学とは何か、人文科学の情報源の特徴、研究者の情報利用、書誌コントロールについて理解する。人文科学の情報源の特性はテキストだけではなく参考図書も併せて参照してほしい。二次資料やデータベースについても、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。５．社会科学分野の特性と社会科学分野の資料･情報の特性と種類社会科学分野の特性と、資料･情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。社会科学とは何か、社会科学の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。社会科学の資料・情報の検索ツールは多様である。その種類や特徴を含め調べておくこと。例えば、統計データを探すツールにどのようなものがあるか調べること。二次資料やデータベースについても、様々な図書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。６．自然科学・技術分野の特性と自然科学・技術分野の資料・情報の特性と種類自然科学分野の学問的特性と、資料・情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。自然科学・技術とは何か、自然科学・技術の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。また、技術分野には規格資料や特許資料、テクニカルレポートなど特徴的な資料があり、それらの特徴や探し方など必ず参考図書などで調べておいてほしい。二次資料やデータベースについては、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。

■学習の到達目標	人文科学、社会科学、自然科学・技術のそれぞれの代表的、基本的な書誌については、その資料名、書誌的事項の記述と配列、記述の様式、収載範囲などを知っておきたい。 近年では書誌情報は電子化されオンラインデータベースとして提供されているものが多くなってきており、ネットワークを利用した情報検索も増加している。同種の資料でも印刷メディア、電子メディア、データベースとしてネット上で検索可能な状態で存在している。ネットワーク情報源の現状と課題について理解を深めたい。 実際に図書館まで出かけて資料を手に取り、情報アク

■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10） 書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。

授業科目	社会福祉論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える社会福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072446

■授業の概要	社会福祉は、戦後日本の資本主義社会の発展とともに定着し、制度化されてきた。しかし、現代社会の社会問題は、子どもの貧困にみられる「相対的貧困」のように複雑化、潜在化され、制度化されにくいものになっている。そのような中で、保育士としてこれらの問題にどうかかわるべきかについて、本論では次の 5 つの視点を理解することを目的として学習していく。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する、②社会福祉の制度や実施体系等について理解する、③社会福祉における相談援助について理解する、④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する、 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。保育士として、その基礎となる社会福祉について学び、専門職として活躍することを目指す。
■学習の要点	（1） 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学習する。（2）社会福祉の制度や実施体系等について学習する。（3）社会福祉における相談援助について学習する。（4）社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて学習する。（5）社会福祉の動向と課題について学習する。
■学習の到達目標	次の点を学習の到達目標とします。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。③社会福祉における相談援助について理解する。④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	社会福祉援助技術				単位	2.0
担当者	千葉　晃央			シラバスグループ	TW5554	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助演習（シードブック）	植田章編	建帛社	[ISBN]9784767932910

■授業の概要	保育と社会福祉援助（ソーシャルワーク）の関連性について理解し、実際の援助実践の場で活用できるように具体的な知識や支援方法について学ぶ。
■学習の要点	次の 5 点を意識しながら、テキストの理解につとめること１．保育において、社会福祉援助（ソーシャルワーク）が求められる社会背景を理解する。２．社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の視点および援助過程を理解する。３．個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について理解すると同時に、その関連性について理解を深める。４．社会福祉実践における記録の意義と方法について理解を深める。５．保育における家族支援について理解を深める。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	児童福祉論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える児童家庭福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623075928

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）に関する支援体制を理解するとともに、次の 5 点について、テキストを通して学ぶものである。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2．子どもの人権擁護について理解する。 3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
■学習の要点	テキストを読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえ学習する。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷　子ども家庭福祉の理念と概念についての理解を深め、子ども家庭福祉の歴史的変遷 について整理し、現代社会と子ども家庭福祉 あり方について考察を深める。2．子どもの人権擁護　子どもの人権擁護の歴史的変遷 について学び、「児童の権利に関する条約」に批准したことにより、児童福祉法などの諸制度の変革されていることについて理解を深める。3．子ども家庭福祉の制度と実施体系　子ども家庭福祉の制度と法体系や実施体系 について学ぶとともに、児童福祉施設 や子ども家庭福祉の専門職 についての理解を深める。4．子ども家庭福祉の現状と課題　少子化と地域子育て支援 の体制、母子保健と子どもの健全育成 など、多様な保育ニーズへの対応 や、子ども虐待･ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその防止などについての保育士の役割を学ぶ。さらに、社会的養護、障害のある子どもへの対応 、少年非行等への対応 や、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 について理解を深める。5．子ども家庭福祉の動向と展望　次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶとともに、 地域における連携 ・協働とネットワーク、諸外国の動向について学ぶ。
■学習の到達目標	児童の権利について、「児童の権利に関する条約」が大きく影響していることについて理解する。また、こども家庭福祉の制度や実施体系等について理解するとともに、子ども家庭福祉の現状と課題について整理する。 子ども家庭福祉の動向と展望について自ら述べられるようにするとともに、保育士として子育て支援にどう関わるのかについての課題を明確にする。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	養護原理				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの未来を支える社会的養護	小野澤　昇/大塚　良一/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623086658

■授業の概要	本科目は、社会的養護の子ども達への支援を理解するために、次の 5 つの点を基本的に学ぶものである。1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5.社会的養護の現状と課題について理解する。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷　　社会的養護の理念と概念 と社会的養護の歴史的変遷 について学ぶ。２．社会的養護の基本　　子どもの人権擁護と社会的養護 と社会的養護の基本原則 、さらに、社会的養護における保育士等の倫理と責務 について学ぶ。３．社会的養護の制度と実施体系　　社会的養護の制度と法体系 と社会的養護の仕組みと実施体系 について学ぶ。４．社会的養護の対象・形態・専門職　　社会的養護の対象 について理解するとともに、家庭養護と施設養護 、社会的養護に関わる専門職 について理解する。５．社会的養護の現状と課題　　社会的養護に関する社会的状況について理解するとともに、施設等の運営管理 、被措置児童等の虐待防止 、社会的養護と地域福祉について学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	小児栄養				単位	2.0
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	TW0808	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために第９版	飯塚美和子　ほか編著	学建書院	[ISBN]9784762468414

■授業の概要	小児期は子供の心身の発育にとって重要な時期であり、その栄養や食事の取り方は体を作るだけでなく心の発達にも影響をあたえる。現代の小児の食生活は社会変化の影響を深く受けている。子どもの食生活や生活習慣の乱れ、それに起因する健康上の問題は、子どもを取り巻く環境つまり家族や地域住民、保育士自身も含め養育者の栄養に対する関心の低さや食生活のあり方の問題でもある。将来の生活習慣病予防のため、また、子どもたちが豊かな人間性を育み、自ら生きる力を身につけていくためには、食の健全化が何よりも重要である。厚生労働省は食育に関する指針の中で、食育の実践を、食育の向上につながり、より充実した保育を期待するものとして位置づけている。子どもの食事とは、情緒を育て社会性を養う機会でもあり、心身の発達にあった十分な栄養、指導が大切になる。この科目では、乳児期、幼児期を中心として、小児の各発達段階に応じた栄養の摂取、食生活の現状、問題点について学ぶ。栄養の基礎知識を学び食生活と健康の関係を知り、学生自身が食や栄養に関する意識を高め、自身の食生活を反省し改善することは、将来保育にかかわる者として重要な意義をもつ。乳児、小児の特徴と食事について理解を深め、児童福祉施設で保育をする際、あるいは家庭で育児を行う際に必要とされる知識と技術の習得を目標とする。
■学習の要点	（1）栄養に関する基本的知識三大栄養素とビタミン、ミネラルについて学習する。栄養素の役割や消化と吸収、献立への展開、食事バランスガイドとの関係についても確認する。水分の体内分布、機能、摂取について学習する。(2) 胎児期の特徴と食事胎児の健やかな成長のために求められる、妊娠中の母親の食事について学習する。(3) 乳児期の特徴と食事母乳分泌の仕組みを知り、母乳の成分や利点、注意事項、支援方法、母子のアセスメント、保存方法について学習する。(4)育児用ミルクについて調整粉乳の種類と特徴について学習する。哺乳調乳器具の洗浄・滅菌、調乳方法および注意点についても確認する。(5) 離乳食の意義と進め方「授乳・離乳の支援ガイド」に基づいた離乳食の進め方の目安について学習する。離乳の開始と完了、離乳食の実際について整理しておく。また、離乳期と咀嚼機能の発達についても学習すること。ベビーフードの種類と利用上の留意点も確認する。(6) 乳幼児期におこしやすい病気と食事食物アレルギーの仕組み、アレルギー物質を含む食品、対処の方法（食事療法を含む）について学習する。学童期の食物アレルギーについても確認する。小児期に多い、感染症、下痢、嘔吐、便秘、う歯等の体調不良の子どもへの対応、食事について学習する。(7) 幼児期の特徴と食事おやつの意義について学習し、おやつの与え方の注意点を確認する。幼児期にみられる食行動の問題点（遊び食べ、偏食、むら食い、噛めない、小食・食べ過ぎ、箸の持ち方）を理解する。生活習慣と食事の関連についても学習する。また、保育所給食の実際について確認し、保育所や幼稚園における食育と食育計画について学習する。

■学習の到達目標	栄養学の正しい基礎知識に基づいて、小児の成長のために必要な食事を自分で考えることができるようになることが学習の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験では、上記「学習の要点」で示した（1）～（7）のいずれかについて説明してもらう。テキストの内容を正しく理解して、それを簡潔に説明することができれば十分に合格点に達する。〔成績評価の基準〕・試験問題で問われていることに過不足なく答えているか。・記述の内容が栄養学的に正しいものであるか。・文法的に正しく、読みやすい日本語で記述されているか。・テキストを理解したうえで自分の言葉で表現できているか。

授業科目	精神保健				単位	2.0
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	TW0733	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂版精神保健入門	山内常博ほか	文化書房博文社	[ISBN]9784830111419

■授業の概要	精神保健とは、人の「心の健康の維持」と「心の病気の予防」についての実践的学問です。その内容は以下の通りです。 ①精神保健とその歴史 ②精神的な問題と病理 ③子どもの心の問題 ④心理療法の理論 ⑤心の健康について ⑥精神障がい者の生活問題 ⑦精神障がい者への援助 保育士をめざす学生は、子どもの心身の成長・発達についての知識を持ち、子どもの心の健康に影響を与える要因を理解するのみならず、養育者の精神保健を自らの問題としてとらえ、積極的に学習しなければなりません。
■学習の要点	まず科目の概要を全体的に学習すること、その上で、以下の内容をより詳しく学習しましょう。 ①子どもの心の健康について ②子どもの心身症について ③発達障がいについて ④不登校について ⑤子どもへの援助法について ⑥家庭の役割について
■学習の到達目標	定型的な子どもの発達を理解すること、発達障がいを理解すること、障がいをもった子どもへの適切な関り方を理解すること、を目標とします。答案は、論理の筋道を立てて記してください。
■成績評価の基準	量的な観点（記述量）と質的な観点（内容）から評価します。質的な観点としては、論理的な記述や分かりやすい表現が評価基準になります。

授業科目	乳児保育				単位	2.0
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	TW5572	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
資料でわかる乳児の保育新時代　改訂５版	乳児保育研究会　編	ひとなる書房	[ISBN]9784894642539

■授業の概要	一般的には、乳児とは出生から１歳未満の０歳児をさすが、保育の世界においては児童福祉法制定以前から「３歳未満児保育」を「乳児保育」と称してきた経過がある。本科目においては、保育所における乳児保育を中心に、その意義を学び、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴と保育課題、さらにその内容・方法について理解を深める。
■学習の要点	１．乳児保育を巡る思想を整理し、保育所における乳児保育の意義について考察する。２．乳児の発達のみちすじを理解する。３．乳児保育の内容と方法について理解を深める。４．乳児保育の意義をふまえて、保育者のあり方を考える。５．乳児保育における記録のあり方と、保育計画・指導計画の立て方について考察する。６．乳児保育の歴史と現状をふまえ、これからの乳児保育の課題について考察する。
■学習の到達目標	乳児保育がなぜ必要なのか、その社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。現代的意義も大事だが、発達の観点をふまえること。そのうえで、大まかであっても、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴をつかみ、その時期の保育で大切にすべきことを理解していること。　乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で抑えるべき重点課題を理解していること。全体の中での各々の分量を考えて記述するように。
■成績評価の基準	乳児保育の必要性について、またその社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。「0 歳児」「1 歳児」「2 歳児」の発達的特徴をつかみ、その時期の保育で大事にすべきことを理解していること。「0 歳児」の発達的特徴については丁寧に記述しているにもかかわらず、年齢が上がるにつれて大雑把になる傾向があるので注意すること。乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で欠かすことのできない重点課題を理解していること。

授業科目	教科内容研究音楽				単位	2.0
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	TS0814	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑥ 初等音楽科教育	高見　仁志　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082025

■授業の概要	幼児は生来、歌うことや音を鳴らして遊ぶことに興味をもっており、保育現場でもさまざまな音楽活動が盛んに行われている。音楽に対する愛好心や豊かな感性を育む幼児期の音楽活動を支え、指導するためには、音楽の専門的知識や演奏技能の習得が必要とされる。ここでは保育における音楽活動内容と指導法について概観する。また、幼児期の音楽活動の意義や保幼小の学びの連続性について理解し、音楽指導実践に活かす応用力を身につける。
■学習の要点	１．幼稚園教育要領第２章「表現」のねらい及び内容についての理解を深めること。２．主たる音楽活動である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容と、幼児期の学びの特性を踏まえた指導上のポイント・留意点を理解すること。３．音楽活動を担う指導者として必要な音楽理論の基礎（読譜力・コード奏法・移調等）を習得すること。４．楽曲の魅力や特徴を幼児・児童にしっかり伝えるための教材研究の重要性に気づき、指導実践に活かす方法を探求すること。
■学習の到達目標	領域「表現」についての理解を深め、保育実践と結びつけながら音楽活動を展開する能力を身につける。また、音楽活動をとおして幼児・児童の豊かな表現を促す指導方法の工夫ができるようになることをめざす。
■成績評価の基準	・題意を正しく理解した上で解答されていることが重要である。　・テキスト学習の成果を必ず反映させること。テキスト学習の成果が見られない場合は不合格とする。・箇条書きだけの場合も不合格とする。

授業科目	教科内容研究図画工作				単位	2.0
担当者	芦田　風馬			シラバスグループ	TS0815	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容表現（乳幼児教育・保育シリーズ）	鈴木みゆき・吉永早苗・志民一成・島田由紀子 編著	光生館	[ISBN]9784332701880
幼稚園教育要領解説　平成30年3月	文部科学省著	フレーベル館	[ISBN]9784577814475

■授業の概要	造形表現はものを媒介にして表現される。それは紙であったり、木切れであったり、石ころであったり、粘土であったりと、幼児を取り巻くもの全てが表現材料となる。その造形表現は幼児が生活の中で感じ取っている様々な事柄、発見や経験、驚きや感動、楽しさや喜びなどが素直に自己表現される全人格的なものである。しかし、その表現の方法は極めて素朴であり、自分の内にある情感を十分に表現させるためには、教師の支援が必要である。そのためには幼児の成長発達の十分な理解とその理解に基づく保育の方法と表現するにふさわしい材料選択を行うことがなされなければならない。　この点から、保育者としての資質を高めることを目的に研鑽を深められたい。
■学習の要点	幼児の造形表現における教育的意義について、幼児期の一般的傾向と自己表現の関係をふまえて十分に理解しておくこと。また、幼児の造形遊びとその展開について学習し理解しておくこと。
■学習の到達目標	幼児の造形表現における教育的意義について、幼児期の一般的傾向と自己表現の関係をふまえて十分に理解することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験での評価となる。

授業科目	教科内容研究体育				単位	2.0
担当者	青木　好子			シラバスグループ	TS0816	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修　國土 将平・上田 恵子 編集	株式会社みらい	[ISBN]9784860155285

■授業の概要	領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが目標となる。そのため領域「健康」内容は、心身の健康、体を動かす遊びや運動、食生活、衛生･清潔の習慣、生活習慣、疾病の予防、安全管理、けがや事故の防止など多岐にわたる。それらは豊かな生涯の基盤となる。子ども達の発達に応じて十分に体を動かし楽しく遊ぶことの意義を踏まえ、現代の子どもたちの身体や心の健康に関する課題やその対策について考察し保育現場での環境設定や援助について理解を深める。
■学習の要点	１．領域「健康」のねらいと内容を理解し、基本的な知識や技能について考察し理解を深める。２．幼児期の子どもを取り巻く現状と課題を理解するとともに、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すために必要な環境構成や援助について具体的に考察し、保育現場での実践において重要なポイントを整理する。３．幼児期の運動の意義を理解し、発育発達に適した楽しい遊びを展開するための環境構成、援助について考察し様々な動きを獲得するための運動遊びのポイントについて整理する。
■学習の到達目標	領域「健康」のねらいや内容について理解し、説明ができる。領域「健康」のねらいを踏まえ内容を実践するにあたって保育現場での環境構成や援助のあり方のイメージをもつことができ、その実践や根拠について具体的な説明ができる。
■成績評価の基準	領域「健康」のねらいや内容を踏まえて、要点を示すキーワードを用いて記述されている。課題の意図を理解し、自身で具体的に考察した内容も含め整理して論理的に記述されている。

授業科目	障害教育総論				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代・澤田　均			シラバスグループ	TS5671	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育を学ぶ人へ	菅原伸康ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623059911

■授業の概要	長い間「特殊教育」の名のもとに行われてきた日本の障害児教育は、2007（平成 19）年度から「特別支援教育」として新しい出発をした。　その内容は、従来の盲学校・聾学校・養護学校から、障害種別を超えた「特別支援学校」に一本化したことと、小・中学校等において学習障害や注意欠陥多動性障害等を含む障害のある児童生徒に対して適切な教育を行うことを中心としたものである。　さらに、2012（平成 24）年には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が発表され、障害のあるなしにかかわらずすべての子どもが地域の学校にアクセスできることが目指されるようになった。　「障害教育総論」ではこうした経緯をふまえて、あらためて障害児教育の理念や制度について歴史的に理解するとともに、障害児教育について全般的な理解を深める。従って本科目は、障害児教育関連の他の諸科目、すなわち知的障害児や肢体不自由児などを対象とする各論的な諸科目に対して、総論的な役割を持つものである。
■学習の要点	本科目においては、テキストに基づき、「特別支援教育」の内容、障害児教育の歴史や制度、教育課程、障害児の発達特性と教育方法、障害児教育の課題について学習する。とりわけ、次の事項については重点的に学習するものとする。①「特別支援学校」（旧盲学校・聾学校・養護学校）、「特別支援学級」（旧特殊学級）、及び「通級による指導」の対象となる者の障害種別について。これらはそれぞれ異なっているからよく注意すること。②障害児教育にかかわる法規について③障害児の発達特性と教育方法について（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、重複障害、病弱・身体虚弱、発達障害など）。④特別支援教育固有のカリキュラムである「自立活動」の「内容」や「配慮事項」について。
■学習の到達目標	科目最終試験の出題の意図から外れないように、注意すること。学習の要点に書かれた内容を参考にして、テキストを中心に学んだ内容を記述すること。　評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえてリポートを作成すること。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	知的障害児の心理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5673	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害のことがよくわかる本	有馬正高・監	講談社	[ISBN]9784062594165
知的障害児の心理･生理･病理: エビデンスに基づく特別支援教育のために	勝二　博亮 編著	北大路書房	[ISBN]9784762831881

■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。また、知的障害と関連する障害として、自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害が挙げられる。それらの概要についても学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。
■学習の要点	１．知的障害の分類について理解すること。２．知的障害児の言語・コミュニケーションの特性を理解すること。３．知的障害児の認知（数概念、記憶）の特性を理解すること。４．知的障害児の行動の特性を理解すること。５．知的障害児への支援の概要を理解すること。６．知的障害を伴う他の障害についても理解すること。
■学習の到達目標	知的障害児の心理に関する基本的な内容を理解し、その知識が特別支援教育の中で具体的にどのように役立つか思考する力を身につけること。
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	知的障害児の生理・病理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5674	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害のことがよくわかる本	有馬正高・監	講談社	[ISBN]9784062594165
知的障害児の心理･生理･病理: エビデンスに基づく特別支援教育のために	勝二　博亮 編著	北大路書房	[ISBN]9784762831881

■授業の概要	知的障害とは、知的機能の低下に適応行動の障害をともなう状態が発達期に現れるとされる。そのような知的障害をもつ子どもたちの指導のためには、知的障害児の生理・病理についての理解が基盤となる。知的障害の原因は様々で、時期も出生前、周産期、出生後に分かれ、それぞれ原因が異なる。しかしいずれも脳神経系の障害である。ここでは、知的障害の特徴と原因の概要を知るとともに、脳神経系の基礎についても学ぶ。
■学習の要点	１．知的障害の原因を理解すること。２．脳神経系の構造と機能を理解すること。３．脳神経系の障害の原因について理解すること。４．症候の特徴としての注意、記憶、実行機能障害などについて理解すること。
■学習の到達目標	知的障害児の生理と病理に関する基本的な内容を理解し、その知識が特別支援教育の中で具体的にどのように役立つか思考する力を身につけること。
■成績評価の基準	問題の意味を理解しているか、必要な事項が含まれているか、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	病弱虚弱児の心理・生理・病理				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS5676	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理	小野次朗ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623061532

■授業の概要	教育現場で遭遇すると考えられる病弱・虚弱児の問題は、近年大きく変化し、多様化している。これまでの対象の中心であった気管支喘息や慢性腎疾患の多くは、通院しながら家庭生活と学校生活を送れるようになった。一方、教育を考える余地がなかった悪性疾患が治療可能となり、また難治・不治の長期療養が必要な疾患など、医療機関の専門家と教育の連携よりさらに生涯発達の視点から、病弱・虚弱児の心理・生理・病理について習得する。
■学習の要点	１.病弱・虚弱児教育の対象となる主な疾患について、生理と病態を理解する。　１）悪性腫瘍　２）循環器疾患　３）腎疾患　４）気管支喘息　５）糖尿病・内分泌疾患　６）膠原病　７）てんかん・神経疾患２.病弱・虚弱児の医療　上記の生理・病態を理解した上で、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士が行う医療を理解する。３.医療と教育の連携　４.病弱・虚弱児の学校教育５.病弱・虚弱児の生涯発達６.病弱・虚弱児の教育支援
■学習の到達目標	学習到達目標は、病弱教育では疾患が多様であり、必要とされる配慮も多様であることから、系統だった学習が必要である。リポートに記述したあらゆる疾患を理解し正しく対応できるよう習熟することが求められる。その上で、病弱児に関わる医療・療育・教育の連携を実践できる取り組みを課題としたい。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	知的障害教育Ⅰ				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5677	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育を学ぶ人へ	菅原伸康ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623059911

■授業の概要	本科目では、知的障害のある子どもの教育に関して、一人一人の発達や特性を考慮した教育のあり方について検討する。知的障害のある子どもの教育について学習するにあたり、まずは知的障害の定義や原因、特徴など知的障害に関する基礎知識について学ぶ。そして、特別支援教育における知的障害児の特性を考慮した教育のあり方について考える。その際、知的障害児の教育をめぐる障害教育の動向、インクルージョン、知的障害児が被る社会的不利などについても考える。加えて、自閉性障害等の近接領域の障害児の教育についても学習する。
■学習の要点	知的障害に関する基礎知識の習得をふまえ、知的に障害のある子どもたち（および近接領域の子どもたち）への具体的な教育支援のあり方について学習してもらいたい。その際、「多様な学びの場」「合理的配慮」といったことを視野に入れた教育のあり方を自分なりに模索すること。また、知的障害児の個別の特性だけでなく、「知的障害」という言葉そのものが有するイメージゆえに被る社会的不利や、周囲の人々のものの見方などについて（教育だけでなく福祉や労働といった観点から）も検討してもらいたい。指定テキストや参考文献にとどまらず、知的障害や自閉性障害、特別支援教育や障害理解等に関してできるだけ多くの文献や資料を収集し、広く学習することが望ましい。
■学習の到達目標	問題をよく読み、その出題の意図を正しく理解して解答を作成してください。これまで自身が学習したことや考えたことを踏まえて、できるだけ論理的かつ具体的に記述するよう努力してください。解答作成の際には問いに対する答え（自身がたどり着いた結論）を明確に、「起承転結」を意識して論を展開してください。以上が大きな評価のポイントです。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、問題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	知的障害教育Ⅱ				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5678	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害の心理学：発達支援からの理解	小池敏英ほか	北大路書房	[ISBN]9784762822155

■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの特別支援学校・特別支援学級・通常学級における教育支援のあり方について学習する。具体的には、知的障害児教育における学級経営や指導法、特性を考慮したカリキュラム創造、教員の役割や関わり方、問題行動の理解と支援、インクルージョンなどについて学ぶ。また、知的障害のある生徒の就労支援や社会参加を促すための保護者との関わり方や地域連携のあり方などについても検討する。
■学習の要点	この科目に関して、まずは知的障害のある子どもに関する一般的な教育課程について学習してもらいたい。とりわけ、「自立活動」など特別支援教育に特化したカリキュラムについてはテキストを読んで十分に理解しておくこと。そうした基礎的な学習をふまえ、対象児童個々への「合理的配慮」や「インクルージョン」といったことを視野に入れた教育のあり方を自分なりに模索すること（その際、知的障害だけでなく肢体不自由などとの重複障害の子どもの教育ニーズなどについても検討すること）。また、知的障害のある子どもの教育をめぐっては、その先にある就労についても考慮し、就労支援のあり方やそのための地域連携などについても学習しておくこと。そのためには指定テキストや参考文献にとどまらず、知的障害や特別支援教育、就労支援等に関してできるだけ多くの文献や資料を収集し、広く学習することが望ましい。
■学習の到達目標	問題をよく読み、その出題の意図を正しく理解して解答を作成すること。これまで自身が学習したことや考えたことを踏まえて、できるだけ論理的かつ具体的に記述するよう努力すること。解答作成の際には問いに対する答え（自身がたどり着いた結論）を明確に、「起承転結」を意識して論を展開していくこと。以上が大きな評価のポイントである。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、問題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	肢体不自由児の指導法				単位	2.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5679	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる肢体不自由教育やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ	安藤隆男 編著 他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072507

■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科等の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本について学ぶ。
■学習の要点	本科目を学習するにあたっては、指定テキストを熟読し、あわせて参考書にも目を通し、肢体不自由児に関する基礎知識を発達支援の視点から学んでもらいたい。ヒトの行動を時間系列的に理解しながら、肢体不自由を有することで現れてくるさまざまな課題を健康状態と家族関係などの環境因子及び性格などの個人因子と関連づけた障害の概念を理解することを念頭に置くよい。その上で固有の障害に対して、特別支援学校における教育課程に基づき、必要となる具体的な働きかけの内容や方法、場面設定等の工夫や配慮などを具体的に考えていくことが大切なこととなる。
■学習の到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本について理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	病弱虚弱児の指導法				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS5680	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
病弱・虚弱児の医療・療育・教育〔改訂第３版〕	宮本信也　編ほか	金芳堂	[ISBN]9784765316279

■授業の概要	病弱とは「身体が弱く、病気がちである」、身体虚弱とは「体力がなく、弱い」という常識的な意味で用いられており医学用語ではない。しかし、学校教育法施行令（22 条の３）には規定されている教育行政用語である。病弱教育の対象は、以前は「６ヶ月以上の医療または生活規成が必要とする程度のもの」の就学基準であったが、現在は「６ヶ月以上」が「継続して」と修正された。教育の場（教育機関）としては、特別支援学校（病弱）及び分校・分教室（病院内）、特別支援学級、通級指導教室、訪問教育となっている。医学の進歩、医療制度の変化もあり、時代により病気の種類や患者数は変化しているが近年の特徴として、ア．病種の多様化、イ．慢性疾患での短期化と頻回化（入退院の繰り返し）、ウ．重度化・重複化の傾向、エ．不登校などによる神経症状等の増加が見られる。本科目では、1．病気の種類毎の特徴の理解と配慮支援、2.　病弱児の心理や保護者（家族）の心理への理解と対応と支援、3．病弱児の学習空白や生活規制等への対応、学習環境の調整等、4．病弱児の教育（学習特性、教育課程、学習内容）の理解、5．教材教具の工夫と改善、6．教育、医療、心理、福祉等との連携のあり方、7．病弱教育に求められる教師の専門性、力量とは、等を具体的に学び深めていく。将来、病弱教育に従事する際の基盤をつくっていく。
■学習の要点	本科目では、病弱児の障害特性、学習特性への理解及び病弱教育の概要等について以下の項目で学習する。１．病弱・虚弱児教育の対象となる主要疾患２．病弱・虚弱児の医療の変遷３．病弱・虚弱児のリハビリテーション４．病弱特別支援学校の新たな対象としての心身症・虐待５．教育と医療の連携６．病弱・身体虚弱児の学校教育　７．病弱教育の課題とこれからの展望　今、特別支援教育では、教育、医療、心理、福祉、労働等に関わる幅広い専門性をベースにしたきめ細かい具体的な指導支援の力量が求められている。個々の項目の理解、学習と共に参考文献を含めた学習が必要である。身近に病弱児や病気体験者がいる場合、その聞き取りができれば、病弱児の状態像がわかり、この教育へのイメージが持ちやすいと考えられる。
■学習の到達目標	テキストの問題をよく考察し、はじめに書く内容をイメージして、構想を練ってから記述してほしい。小見出しをつけ、論理展開をはっきりさせ記述していく。問題はテキストに則し出題しているので、テキストのことを述べたあと、自己の考え、考察を入れると合格点になる。参考文献や他の書物を学習している場合などの学習成果が見られる場合は満点に近づく。特別支援教育は、具体的な支援や配慮が求められているので、講師等で教育現場の経験がある場合など自らの具体的事例をコンパクトに記述すれば、説得性のある内容になる。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは

	不可)。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	視覚障害教育総論				単位	2.0
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	TS5681	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
視覚障害教育に携わる方のために　5訂版	香川邦生　編著	慶応義塾大学出版会	[ISBN]9784766423679

■授業の概要	従前の特殊教育を、障害種別を超えて特別支援学校に一本化することや免許状の一本化等により、視覚障害教育における教科指導や自立活動等の専門性のある指導内容が薄められ、その結果として、視覚障害児の教育的ニーズに応えられない教育が行われるようになってはならない。視覚障害教育の専門性は、あくまでも充実され、確保された上での特別支援教育でなければならない。　視覚障害はもっとも人数の少ない障害であり、視覚に障害のある子どもたちの中には、全く見えない子どもと見えにくい子どもがいる。見えない子どもたちは、「指先を目として学ぶ子どもたち」であり、見えにくい子どもたちは、「保有する視機能を有効に活用しながら学ぶ子どもたち」である。その教育実践では、指導者の高い専門性と特別に工夫された教材・教具、教育課程、指導法等が不可欠である。　この科目では、まず、視覚障害とは何かについて学び、視覚障害教育の内容･方法等について、必要に応じて盲児、弱視児それぞれに整理しながら幅広く概観する。　テキストは、視覚障害教育を中心に就学前の支援から労働、福祉にまで幅広く視覚障害児・者に関わる項目について記述された視覚障害教育の入門書である。熟読して総合的な知識を広げ、参考文献にも目を通し、見識を深めてほしい。
■学習の要点	最初に視覚障害の意味について学習し、盲児と弱視児という用語について理解すること。その知見の上に立って、以下の項目について、盲児と弱視児について整理しながら考察すること。これらの項目は、科目最終試験の重要な要素である。　①　視覚障害とは何か。主な視機能およびその検査。主な眼疾（テキスト第１章）　②　視覚障害特別支援学校（盲学校）の役割と就学支援（テキスト第２章、第３章、第４章）　③　視覚障害児（盲児、弱視児）に対する指導内容・方法（テキスト第５章）　④　視覚障害児（盲児、弱視児）に対する自立活動の指導（テキスト第６章）　⑤　視覚障害児（盲児、弱視児）のための教材･教具（テキスト第７章）　⑥　乳幼児期における支援（テキスト第８章）
■学習の到達目標	視覚障害教育について総合的な知識を広げ見識を深める。　視覚障害の生理･病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した教育方法について理解を深める。
■成績評価の基準	「科目最終試験受験にあたっての留意点」に示した内容について、その学習の理解度、および、考察の深度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。

授業科目	聴覚障害教育総論				単位	2.0
担当者	菅原　伸康			シラバスグループ	TS5682	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
聴覚障害教育これまでとこれから：コミュニケーション論争･９歳の壁･障害認識を中心に	脇中起余子著	北大路書房	[ISBN]9784762826900

■授業の概要	三重苦として知られるヘレン･ケラーは､｢目が見えないことは、人と物を切り離す。聞こえないことは、人と人を切り離す｣､｢五感のうち、最も大切なものは聴覚」と語ったといわれているが、昔「聞こえない」ことは「話せない」ことを意味していた。　そして、現在も、言語獲得期以前に失聴した聴覚障害児は、日本語の獲得が大きな課題となる。　小学校低学年までの学習はできても、小学校高学年以降の学習が難しいという「９歳の壁」現象がよく見られる。　「障害者だけがバリアをこわす努力をすべき」という考え方から､｢バリアフリーに向けての努力は、障害者と非障害者の双方に求められる」という考え方に変わってきており、聾学校の中でも「発音指導の目的」や「手話に対する見方」などは大きく変わってきている。　現在､｢手話では、日本語力は育たない。聴覚口話法でなければならない」という主張から､｢手話を第一言語として十分に獲得しさえすれば、あとは文字との接触だけで書記日本語を獲得できる（発声や聴覚活用は必要ではない)」という主張まで、いろいろな主張が見られる。　さらに、現在の特別支援学校への転換の中で、また、手話の獲得が（書記）日本語の獲得に直結していない状況が見られる中で、コミュニケーションの保障と日本語教育や教科指導のあり方を再検討する必要がある。
■学習の要点	下記の点について学習し、理解を深めてほしい。　１．聴覚障害の種類（伝音性難聴や感音性難聴）について理解しておくこと（なお、聾学校の児童生徒の大半は、感音性難聴である)。　２．言語獲得期以前に失聴すると日本語の獲得が困難になるが、その日本語力や学力を獲得させるために、以前は、手話併用を認めるかという「口話−手話論争」が起き、最近は、口話併用を認めるかという「手話−手話論争」が起きていることについて理解しておくこと。　３．現在も「９歳の壁」にぶつかる聴覚障害児が多く見られるが、その現象とその克服の方向性について、考察を深めておくこと。　４．新生児スクリーニングの広がりに伴い、聴覚障害が超早期に発見されるようになったが、聴覚障害児の９割は聴者の親から生まれることを念頭に置きながら、両親援助のあり方や、親や本人などの「障害認識」のあり方について、考察を深めておくこと。　５．特別支援教育への転換が起きた経過を整理する中で、聴覚障害教育関係者の多くが現在抱いている懸念事項について知り、聴覚障害教育の今後のあり方や留意点を考察すること。
■学習の到達目標	本の引用にとどまらず、自分のことばで述べるようにすること。　大切なのは、現実を冷静に見つめ、足を地に着けて実践することである。そのために、聴覚障害の種類や補聴器（人工内耳を含む）の効果と限界、手話の種類とそれぞれの特徴、聴覚障害教育の歴史や、現在の聴覚障害教育（聾学校・難聴学級・通級など）の実態、サラマンカ宣言に対する聴覚障害

	教育関係者などの反応について、一定知識として知っておいてほしい。また、生活言語と学習言語の違い、抽象的な日本語の獲得や抽象的思考が難しくなる理由とその克服の方向性、聴覚障害児・者
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	保育原理				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5114	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・保育原理 ［第４版］ーすばらしき保育の世界へー	三宅茂夫　編	株式会社みらい	[ISBN]9784860154301

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上て、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性・自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	・保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。・テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。・問題に合致しない答案は不合格とする。・問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。・解答が論理的に展開されていること（20 点）。・自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	社会的養護				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの未来を支える社会的養護	小野澤　昇/大塚　良一/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623086658

■授業の概要	本科目は、社会的養護の子ども達への支援を理解するために、次の 5 つの点を基本的に学ぶものである。1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5.社会的養護の現状と課題について理解する。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷　　社会的養護の理念と概念 と社会的養護の歴史的変遷 について学ぶ。２．社会的養護の基本　　子どもの人権擁護と社会的養護 と社会的養護の基本原則 、さらに、社会的養護における保育士等の倫理と責務 について学ぶ。３．社会的養護の制度と実施体系　　社会的養護の制度と法体系 と社会的養護の仕組みと実施体系 について学ぶ。４．社会的養護の対象・形態・専門職　　社会的養護の対象 について理解するとともに、家庭養護と施設養護 、社会的養護に関わる専門職 について理解する。５．社会的養護の現状と課題　　社会的養護に関する社会的状況について理解するとともに、施設等の運営管理 、被措置児童等の虐待防止 、社会的養護と地域福祉について学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	保育の心理学Ⅰ				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW5558	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの「困った」を理解する：発達を見通した子育てを	長崎純子ほか編著	かもがわ出版	[ISBN]9784780302288

■授業の概要	人間の発達は、日々成長し、新しい活動を我がものにしていく過程である。大人もさまざまな経験をしながら発達していくが、子どもの発達は心身ともにめざましくダイナミックである。子どもの発達を理解しておくことは、保育に従事する者にとって非常に重要な視点・技量である。したがって本科目では、大人の理屈ではなく、子どもの理屈を踏まえた保育を考えていくために必要な発達の基本的理解を押さえていく。
■学習の要点	「子どもの心に寄り添える保育者」となることをめざし、運動・言語・自我といった領域ごとに発達を整理しながらも領域間のつながりを押さえた発達のありようを学んでいく。
■学習の到達目標	１．各時期の発達的特徴を理解する２．子どもの言動を子どもの視点や理屈に基づいて理解する３．上記２点の理解に基づいて子どもへの働きかけを考える
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容への回答が最低限できている７０点台：問題で問われている内容への回答に無理がない８０点台：共感の視点に基づく発達的特徴の理解がおおよそできている９０点以上：共感の視点に

授業科目	子どもの食と栄養				単位	2.0
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	TW0808	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために 第9版	飯塚美和子　ほか編著	学建書院	[ISBN]9784762468414

■授業の概要	小児期は子供の心身の発育にとって重要な時期であり、その栄養や食事の取り方は体を作るだけでなく心の発達にも影響をあたえる。現代の小児の食生活は社会変化の影響を深く受けている。子どもの食生活や生活習慣の乱れ、それに起因する健康上の問題は、子どもを取り巻く環境つまり家族や地域住民、保育士自身も含め養育者の栄養に対する関心の低さや食生活のあり方の問題でもある。将来の生活習慣病予防のため、また、子どもたちが豊かな人間性を育み、自ら生きる力を身につけていくためには、食の健全化が何よりも重要である。厚生労働省は食育に関する指針の中で、食育の実践を、食育の向上につながり、より充実した保育を期待するものとして位置づけている。子どもの食事とは、情緒を育て社会性を養う機会でもあり、心身の発達にあった十分な栄養、指導が大切になる。この科目では、乳児期、幼児期を中心として、小児の各発達段階に応じた栄養の摂取、食生活の現状、問題点について学ぶ。栄養の基礎知識を学び食生活と健康の関係を知り、学生自身が食や栄養に関する意識を高め、自身の食生活を反省し改善することは、将来保育にかかわる者として重要な意義をもつ。乳児、小児の特徴と食事について理解を深め、児童福祉施設で保育をする際、あるいは家庭で育児を行う際に必要とされる知識と技術の習得を目標とする。
■学習の要点	（1）栄養に関する基本的知識三大栄養素とビタミン、ミネラルについて学習する。栄養素の役割や消化と吸収、献立への展開、食事バランスガイドとの関係についても確認する。水分の体内分布、機能、摂取について学習する。(2) 胎児期の特徴と食事胎児の健やかな成長のために求められる、妊娠中の母親の食事について学習する。(3) 乳児期の特徴と食事母乳分泌の仕組みを知り、母乳の成分や利点、注意事項、支援方法、母子のアセスメント、保存方法について学習する。(4)育児用ミルクについて調整粉乳の種類と特徴について学習する。哺乳調乳器具の洗浄・滅菌、調乳方法および注意点についても確認する。(5) 離乳食の意義と進め方「授乳・離乳の支援ガイド」に基づいた離乳食の進め方の目安について学習する。離乳の開始と完了、離乳食の実際について整理しておく。また、離乳期と咀嚼機能の発達についても学習すること。ベビーフードの種類と利用上の留意点も確認する。(6) 乳幼児期におこしやすい病気と食事食物アレルギーの仕組み、アレルギー物質を含む食品、対処の方法（食事療法を含む）について学習する。学童期の食物アレルギーについても確認する。小児期に多い、感染症、下痢、嘔吐、便秘、う歯等の体調不良の子どもへの対応、食事について学習する。(7) 幼児期の特徴と食事おやつの意義について学習し、おやつの与え方の注意点を確認する。幼児期にみられる食行動の問題点（遊び食べ、偏食、むら食い、噛めない、小食・食べ過ぎ、箸の持ち方）を理解する。生活習慣と食事の関連についても学習する。また、保育所給食の実際について確認し、保育所や幼稚園における食育と食育計画について学習する。

■学習の到達目標	栄養学の正しい基礎知識に基づいて、小児の成長のために必要な食事を自分で考えることができるようになることが学習の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験では、上記「学習の要点」で示した（1）～（7）のいずれかについて説明してもらう。テキストの内容を正しく理解して、それを簡潔に説明することができれば十分に合格点に達する。〔成績評価の基準〕・試験問題で問われていることに過不足なく答えているか。・記述の内容が栄養学的に正しいものであるか。・文法的に正しく、読みやすい日本語で記述されているか。・テキストを理解したうえで自分の言葉で表現できているか。

授業科目	家庭支援論				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW0809	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
実践　家庭支援論　第 3 版	松本園子　他著	ななみ書房	[ISBN]9784903355658

■授業の概要	家族・家庭への支援が必要といわれているが，それはなぜだろうか。本科目では、家族・家庭の置かれている現状や課題を取り上げながら、保育者に求められている家族・家庭への支援のありようを考えていく。その際、特別なニーズのある家族、子育てにかかわる政策動向、海外の子育て事情、といった点と合わせてわが国における具体的な支援策や支援例を学んでいく。
■学習の要点	家族や家庭を支援していく保育士には、支援方法を身につけるだけでなく、その支援方法を有効に活用していくための基本的な知識や見識を身につけることが必要となる。したがって、現在の家族や家庭が置かれている状況の把握が学びの土台となる。
■学習の到達目標	１．子どもが育つ場である家族・家庭の動向を理解する。２．子育て家庭を取り巻く環境・子育て意識・子育ての悩みを理解する。３．子育て家庭を支える具体的な制度や政策の動向を理解する。４．特別なニーズのある家族の多様性を理解し、具体的な支援が検討できる。５．世界の子育て事情や子育て支援について理解する。６．子育て支援の実際について具体例に基づいて理解を深める。
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：論述の仕方にやや無理がある（論理の飛躍がある）７０点台：論述の仕方に無理がない８０点台：複数の観点に基づく論述に無理がない９０点以上：複数の観点に基づく論述が正確である

授業科目	障害児保育				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW0812	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
主体性をはぐくむ障がい児保育	野村　朋・荒木美知子	文理閣	[ISBN]9784892598739

■授業の概要	人間が育ちゆく過程においては、他者への信頼感を土台に自己への肯定感を高めつつ人格を形成していくことが重要である。そのため、障害の有無に関わらず、社会の一員として共に育ち合う関係を育み、自分だけでなく他者も含め尊重しあうことが、幼児期の育ちや学びにおいて求められる。本科目では、障害の特性や保育の方法はもちろんのこと、子どもの育ちを中心とした保育や集団の意味、そして家族への支援やそれを支える社会的背景も含め、総合的に障害児保育について学んでいく。
■学習の要点	障害の軽減や改善に取り組むことを第一に考えることの危うさや難しさを踏まえながら、障害のある子どもの保育の目的・方法および関連する諸課題を学んでいく。
■学習の到達目標	１．障がいのある子どもの発達・障がい・生活を理解する２．障がい児保育に必要な障がいの基礎知識を理解する３．障がい児保育と発達支援の関係機関について理解する４．家族の障がい受容と成長について理解する５．保育園・幼稚園での障がい児保育と特別支援教育について理解する６．障がい特性の理解と子ども理解の関係を説明する
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容に最低限解答している７０点台：問題で問われている内容に無理なく解答している８０点台：問題で問われている内容におおよそ解答している９０点以上：問題で問われている内容に十

授業科目	保育実習指導Ⅰ				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5716	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
最新　保育士養成講座 9 巻 保育専門職と保育実践	『最新　保育士養成講座』総括編纂委員会　編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793513121

■授業の概要	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は保育実践現場においてこれまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。さらに、保育実習は保育士を目指す学生が自分を見つめる機会であり、これからの課題を発見する重要な機会ともなる。保育実習を通して、子ども理解・保育所および施設や保育士の仕事に対する理解及び自己に対する理解を深めてほしい。
■学習の要点	1.保育実習の意義を理解する 2.保育実習に臨む態度を理解する 3.保育実習における守秘義務を理解する 4.保育実習記録作成の意義を理解する 5.保育実習における実習テーマと課題について考える
■学習の到達目標	学習の要点に記載している事項と同様。
■成績評価の基準	①設題を踏まえてリポートを作成しているか　50%②自分の考えをまとめているか　40%③誤字脱字などはないか　10%

授業科目	保育実習指導Ⅱ				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5585	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	本授業では、保育所における保育実習の意義と目的を確認する。

■学習の要点	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。

■学習の到達目標	保育実習の意義と目的を確認した上で、保育実習のまとめと自己評価を行い、自らの今後の課題を明確化する。

■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	保育実習指導Ⅲ				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5587	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	①保育実習Ⅲ(施設実習)に臨む姿勢を再確認する。②実習の振り返りと自己評価を行い、自らの課題を明確化する。

■学習の要点	①保育実習(施設実習)の意義・目的を理解する。②実習施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。③実習施設におけるプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

■学習の到達目標	施設での保育実習を振り返り、自身の今後の課題を明確にする。

■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	教育実習研究（特支）				単位	1.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5642	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習を行うに際して、必要となる教育実習の仕組み、学習指導案作成等の基本的事項を学ぶとともに、教育実習で得られた成果や課題について確認する。
■学習の要点	実習日誌や実習中の記録をもとに、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題の確認及び課題解決のための方策を整理すること。
■学習の到達目標	的確な教育実習の自己評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	学校図書館サービス論				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5731	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　理論と実践　新訂版	全国学校図書館協議会	悠光堂	[ISBN]9784909348333

■授業の概要	本科目は、2014 年に「学校図書館法」に明記された学校司書を養成するための科目である。従前からあった司書教諭（国家資格）を養成するための科目ではないことを確認しておく。参照：学校図書館法第六条　学校には、前条第一項の司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図　り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、　専ら学校図書館の職務に従事する職員（次項において「学校司書」という。）を　置くよう努めなければならない。学校図書館法改正後の 2016 年に、文部科学省が通知した「学校司書のモデルカリキュラム」の中で設定された科目であり、学校図書館における学校司書の児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。
■学習の要点	まず、文部科学省が示している下記の学習の要点を確認する。1）学校図書館サービスの考え方と構造 2）学校図書館の環境整備（利用案内，配架・案内表示，展示・掲示，修理・製本）3）学校図書館の運営（年間運営計画，基準・マニュアル類，記録・統計，会計・文書管理）4）学校図書館利用のガイダンス 5）資料・情報の提供（利用案内，貸出，予約サービス，資料紹介・案内，資料相談）6）児童生徒への読書支援（図書館行事，図書リスト，読書推進活動，読書相談）7）児童生徒への学習支援（教科等の指導に関する支援，特別活動の指導に関する支援，　情報活用能力の育成に関する支援）8）特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 9）教職員への支援（資料相談，情報提供，教材準備に関する支援，ティームティーチング）10）広報・渉外活動（学校図書館便り，ＨＰの活用，学校行事等との連携）背景となる理念を理解した上で、学習教育現場で実践できるよう、自分事としてイメージを膨らませながら、以下の 8 点に重心を置き、テキストを読み進めまとめていくこと。１．学校図書館サービスの根幹である学校図書館の理念、歴史的変遷、学校図書館に関係する　法令等について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.10-85）　２．学校図書館における支援とは、サービスとは何かについて学校司書の視点で考察３．学校図書館の環境整備、運営について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.114-169）４．読書センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-23、pp.170-　177）　５．学習センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-21、pp.24-25、pp.178-185）　６．情報センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-21、pp.26-　27、pp.186-191）　７．特別な支援を必要とする児童生徒への支援について学校司書の視点で考察（pp.192-199）　８．主体的・対話的で深い学びと学校図書館について学校司書の視点で考察（pp.200-205）

■学習の到達目標	・学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についてを　理解した上で、自分ならどのような活動ができるかをイメージできる。・学校図書館法や学習指導要領など各種法令またはそれに準ずる物を読み、時代と共に変わる　解釈や求められる内容の変化についても理解できる
■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	教育実習指導（特支）				単位	1.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5642	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習を行うに際して、必要となる教育実習の仕組み、学習指導案作成等の基本的事項を学ぶとともに、教育実習で得られた成果や課題について確認する。
■学習の要点	実習日誌や実習中の記録をもとに、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題の確認及び課題解決のための方策を整理すること。
■学習の到達目標	的確な教育実習の自己評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	教育実習指導（幼）				単位	1.0
担当者	小林　みどり・小林　隆			シラバスグループ	TU5813	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹 著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直 ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、幼児との関係性・保育指導のあり方・集団指導等について実践的に学ぶ。特に保育指導については、教育実習校園からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・保育指導案の作成・保育実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	保育者・教師としての資質、能力が備わっているかどうか。
■成績評価の基準	省察ができているか。課題が明確になったか。

授業科目	教育実習指導（小）				単位	1.0
担当者	小林　隆・原　清治			シラバスグループ	TS5624	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5833	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	保育方法論				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TS5460	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	保育の内容と方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	教育原論				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5191	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育社会学				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5192	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　1．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされてきているその学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　2．いじめ問題は 1980 年代より我が国の学校病理のひとつとして論じられ、現代においてもその対応が求められるものと言ってよいでしょう。いじめ防止対策推進法の制定を経ても、いじめを苦に命を落とす子どもたちは後を絶ちません。最近は子どもたちにも一般的となったネットツールを用いたいじめも増えてきました。テキストを参考に、どうすればいじめを抑止することができるのか、考えることが求められます。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育心理学				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5193	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習支援にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育方法学				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5194	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童・生徒に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育方法学（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育方法論（ICT 活用含む）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5196	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。また、GIGA スクールや MEXTCBT による将来の教育構想を念頭に置き、授業や校務での ICT 活用を実践できるようになるための方法と技能を学ぶ。
■学習の要点	本授業で学ぶ要点とそれに関連する内容が書かれているテキストの章を挙げる。１． 求められる教育方法と技術　（1 章、2 章、5 章、6 章）２． 学力の現状と世界的に求められる資質・能力を育成する教育方法と技術（1 章、2 章）３． 学習意欲の現状と学習の動機づけ（主体的な学習）のための教育方法　（3 章、8 章）４． 教授方法・学習方略を育成する教育方法･教材　（3 章、4 章、10 章）５． 知識の定着を図る授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章、8 章）６． 素朴概念や躓きに焦点を置いた授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章）７． 知的好奇心を引き出す教材と授業づくり（8 章）８． 真の能力を評価する方法（12 章）９． 世界的に広まるオンライン学習と教材　（10 章）11. ICT を活用した教育の将来構想（GIGA スクール構想、MEXCBT 構想）（添付 PDF 資料）12. 対話的な学びを育む学習への ICT 活用　（4 章、5 章、9 章）13. 授業における Web 教材の効果的な活用　（11 章）14.ICT を活用したプログラミング教育の実践　（10 章、11 章）15. 情報モラル（学校教育における著作権）の理解　（10 章、添付 PDF 資料）
■学習の到達目標	児童生徒に対して、Society5.0 で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、学びに向かう力を育成するための普遍の教育の方法、教育の技術が授業で実践できるようになること、また、GIGA スクールや MEXCBT 構想の目的を理解し、効果的な ICT 機器の活用が想定できるようになる。
■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育評価論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5402	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。【成績

■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	ICT の活用及び教育				単位	2.0
担当者	古市　文章			シラバスグループ	TS5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育のための ICT 活用〔改訂版〕	中川一史・苑復傑	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595323515

■授業の概要	知識基盤社会の到来やグローバル化の進展、少子高齢化の進展など社会が大きく変化する中、生活のあらゆる場面で ICT を活用することが当たり前の社会になってきている。さらに、人工知能（AI)、ビックデータ、IoT(Internet of Things)、ロボテックス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活の取り入れられ、社会の在り方そのものが大きく変革する「Society5.0」時代がやってくると言われている。　高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この講座は、新学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、問題の発見・解決能力を育成するために，基礎情報学の視点から事象をデータや情報とその結び付きの視点から捉え，情報技術を適切かつ効果的に活用する力を全ての生徒に育む共通必履修科目としての「情報Ⅰ」の設定趣旨を理解する。加えて、新学習指導要領の趣旨に沿って、知識基盤社会におけるこれからの専門職教師のあるべき姿を「教育の情報化」の側面から考察し理解を深めたい。　これらの視点は、中学校技術・家庭科（技術分野）「情報の技術」における指導にも十分資することができると考えている。
■学習の要点	知識基盤社会における教師に求められる社会的なニーズを理解し、これからのグローバル化、情報化が進展する中で、教育の情報化をどのように捉えるべきかを考える。
■学習の到達目標	教育の情報化について、必要とされる資質・能力を理解し修得する。
■成績評価の基準	各回の設題、及び最終試験において、文献を参考にしながら自身の論が確立できているか否かを評価します。引用のみではダメです。

授業科目	生涯学習支援論1				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TS5441	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかるスポーツマネジメント	柳沢和雄ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623080144

■授業の概要	日本における戦後のスポーツの発展は，学校体育にその基礎を置いてきた。その後，高度経済成長下の中で一般の人々も運動やスポーツを行う状況になり，民間のスポーツクラブ等スポーツ環境が発展してきた。すなわち，「行うスポーツ」の普及発展である。これにより，人々の豊かなスポーツ生活の実現を期待したのである。一方，プロ野球やサッカーのＪリーグなど「みるスポーツ」への関心が高まるにつれ，スポーツをめぐる経営やマネジメントを広く捉え，人々のスポーツに対する需要も多種・多様になってきている。近年では「支えるスポーツ」や「調べるスポーツ」の楽しみ方も謳われている。　本科目では，これからの人とスポーツ（運動）との豊かな関わり方を目指すべく，上記の視点を踏まえ，考察するものである。
■学習の要点	まず，スポーツマネジメントの捉え方，発展と目的について知る。それを踏まえて，以下の対象とスポーツマネジメントの関係性について理解を深める。・参加型スポーツのマネジメント・観戦型スポーツのマネジメント・対象に応じたスポーツマネジメント・社会とスポーツマネジメント
■学習の到達目標	「学習の要点」に記された内容を理解し，各関係性について自分の言葉で説明できる。
■成績評価の基準	テキストに記載されているキーワードや要点が理解できている。また，それらを踏まえて自分の考えをまとめ，記述されている。

授業科目	生涯学習支援論２				単位	2.0
担当者	内山　淳子			シラバスグループ	TS5442	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
社会教育の学習論　社会教育がめざす人間像を考える	内山淳子　ほか編著	学文社	[ISBN]9784762025143
.			

■授業の概要	生涯学習は、学校教育・社会教育といった公教育による学習を含む全ての学習活動を指します。この科目では、学校教育に比べて対象・内容・方法の幅が広い社会教育に焦点をあてて、「学習内容」「学習者」の観点から掘り下げ、多様な学習場面における支援を理解することを目標としています。
■学習の要点	リポート設題の考察に加え、科目最終試験に備えて下記の事項についても理解を深めておくこと。　1.地域における学習活動と支援について　2.社会的マイノリティの学習と社会教育の役割について　3.高齢者の学習と社会教育の役割について　4.ジェンダーの視点から見た学習と社会教育について　5.社会教育におけるボランティア活動の支援について　6. 社会教育におけるキャリア教育・職場学習の支援について
■学習の到達目標	設題に見合った回答である点、テキスト各章末のキーワードが理解されている点、オリジナルの考察がなされている点を満たし、生涯学習支援の在り方に関心を深めることを到達目標とします。
■成績評価の基準	提出されたリポート・科目最終試験の内容を評価対象とし、設題を把握してテキストの理解が進んでいるか、その上で事例や自分の考えが述べられているかを評価します。

授業科目	幼児教育・保育職入門				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　保育職論	松本峰雄他・編著	建帛社	[ISBN]9784767951072

■授業の概要	教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ、「教える」「保育する」という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。併せて幼小連携・幼保連携の観点から、教育・保育の専門職として教育の制度について理解し、教師・保育者に求められる知識・資質・専門性・連携等について考える。
■学習の要点	教職・保育職の理解と教育・保育に必要な資質・能力を涵養する。具体的には、以下の事項等である。・教師・保育者の存在意義と役割・教師・保育者の歴史・教師・保育者の職責と求められる資質・能力・教師・保育者の専門性・教師・保育者としての成長・社会の中の教師・保育者
■学習の到達目標	1.教師・保育者に必要な知識・技術の概要を把握する。2.教師・保育者に必要な資質能力を理解する。3.教師・保育者の職務内容、服務上・身分上の義務を理解する。4.ティーム保育の意義及び専門家との連携について理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	学校教育職入門				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	特別な教育的ニーズの理解とその支援				単位	1.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5453	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育の基礎・基本（2020）	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715486

■授業の概要	通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上･生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。

■学習の要点	１．特別支援教育に関する理念・制度について学ぶ。２．心身の発達の概要と様々な障害について学ぶ。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要について学ぶ。

■学習の到達目標	１．特別支援教育に関する理念・制度を理解する。２．心身の発達の概要と様々な障害を理解する。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要を理解する。

■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現すること。

授業科目	幼児教育・保育課程論				単位	2.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振る返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	学校教育課程論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5455	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	法的拘束力には議論がありますが、現実には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」は学習指導要領が規定しています。各学校が教育課程を編成するにあたっては、地域や子どもの実態を考えながら、これによらなければならないものであります。この学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領（小学校：2011 年、中学校：2012 年、高等学校：2013 年）はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、総合的な学習の時間が削減され、小学校高学年で外国語活動が導入されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」の問題を端緒としていると考えられています。今回の改訂によって教育内容は劇的に変容することを示しており、現場の教師に大きな負担をかけることも事実です。
■学習の要点	学習指導要領について様々な観点から学習してください。　・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ 1958 年の改訂は学習指導要領の性格を以下の点で大きく変えるものでありました（①生活単元学習・問題解決学習から系統的学習へ移行したこと。②学習指導要領の法的拘束力を主張したこと。③道徳の時間を特設したことなど)。以上について詳細に学習してください。　・「総合的な学習の時間」について、学習してください。　・現行の学習指導要領（2008 年改訂）について、どのような特徴をもつか、学習指導要領を確認して論じてください。　・学習指導要領（2008 年改訂）が改訂されるまでに、我が国ではさかんに学力の低下について論じられてきました。学力とは何か、学びとは何か、今日の学力問題の見方、議論について学習を深めておきましょう。同時に「基礎基本の確実な定着（つまり基礎学力)」を学校教育においてどう実現すればいいのか、その留意点を考え学習しておいてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳の理論及び指導法				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS5456	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	総合的な学習の時間の指導法				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5457	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑧総合的な学習の時間	森田真樹、篠原正典編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081912

■授業の概要	総合的な学習の時間の導入背景、意義と教育課程での位置づけを学ぶ。総合的な学習の真の効果を上げるために、学校内横断的なカリキュラムマネジメントに基づく年間指導計画、単元計画の作成が重要となる、その作成の考え方と実際の作成法を学ぶとともに、教科学習からより深い探求的な学びを行う学習過程と学習行動の指導法および評価法を学ぶ。さらに、小学校での総合的な学習事例から、実践に応用できる知識・技能を学ぶ。
■学習の要点	１．総合的な学習の時間が導入された背景、導入における目的および実践における課題について学ぶ。学習指導要領で求められている「能力・資質」の育成と総合的な学習の時間との関係を学び、総合的な学習の時間を充実するための課題を考える。（第 1 章）２．総合的な学習の時間の源流ともいうべき、戦後初期のコア・カリキュラムを取り上げ、①目標の設定、カリキュラム編成の視点、②学習指導の実際、の二点から検討し、その特質や課題から今日的な示唆を導き出す。（第 2 章）３．総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけや目標の変化、また、各学校の取り組み状況と課題を学ぶ。これらの課題克服とそれを充実させるための具体的な年間指導計画や単元計画を作成するための基礎となる校内体制等について学ぶ。（第 3 章）４．学習指導要領及び総合的な学習の時間解説書に示されている「指導計画の作成」を手がかりに、「全体計画」「年間計画」「単元計画」に分けて、それぞれの計画を計画的、効果的に展開できるための考え方や内容、方法や手順について学ぶ。（第 4 章）５．総合的な学習の時間における学習指導を、１．探求的な学習とは何か、２．他者と協同して取り組む学習活動、３．総合的な学習の時間における体験活動、４．総合的な学習の時間における情報活用能力の育成、の４つの観点から学ぶ。（第 5 章）６．学力評価の基本用語や、学習指導要領で示された総合学習の評価の留意点、総合学習における評価の方法のポイントなど評価の基本を理解する。評価は、教師だけではなく子どもや保護者などが参加しながら、学習を豊かにするものであることを学ぶ。（第 6 章）７．八幡市における授業実践から、①「21 世紀型能力」を育成する授業を実現するためのカリキュラムや授業設計、②総合の特性に目を留め、児童の変容に「授業」が果たしていた役割、これらの知見から③今後の初等教育における総合への示唆を得る。（第７章）８．中学校において、①カリキュラムの作成、②探究のプロセス、③思考ツールの活用、④地域との連携、⑤生徒・教師・地域の変容の５つの観点から中学校の総合的な学習の実践を学ぶ。（第８章）９．総合的な学習の時間では、その趣旨や目的を踏まえた上で、国際理解をテーマとした実践が行われることが増えている。本章では、国内における国際理解教育の歴史と現状、目標及び内容の事例、実践の特質や課題について学ぶ。（第 9 章）10．近年、地球温暖化やオゾン層の破壊、野生生物種の減少など地球規模の環境問題が世界共通の課題となっている。総合的な学習の時間で、１．環境教育の歴史的展開、２．環境教育と ESD、３．環境教育の実現、の３つの観点から学ぶ。（第

	10 章）11.　1990 年代以降にシティズンシップ教育が注目されるようになった背景として、社会の多様化・流動化や学校教育で育成すべき力の変容に注目する。総合的な学習の時間について、シティズンシップ教育との接点、および実践上の課題について考察する。（第 11 章）12.　古くて新しい「地域学習」は、問題解決学習を伴ういつの時代にも重要な学習である。地域学習の教育理論や歴史的展開を追いながら、その理由を知るとともに、改めて地域学習を学ぶカリキュラム内容、実践の進め方について理解を深める。（第 12 章）

■学習の到達目標	児童・生徒が、各教科の特質に応じた見方・考え方を成長させ、総合的・統合的に活用することで、探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成が実現できるようにする。そのために、総合的な学習の時間の指導計画の作成や学習活動の指導・評価に関する知識・技能を身に付け、実践への応用ができるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	特別活動の指導法				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5458	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちであることは論を待ちません。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。 子どもたちの主体性や自主性、個性の伸長が涵養され、学びとる力、学ぶ意欲が育成されれば、それが教科学習のやる気につながります。そこで得た知識が再び特別活動で実践され、その実践の中で確認されたものが教科学習で深化・充実されるという相互作用があればそれらが相乗効果を生み、真の学力となっていきます。それが、教育のあるべき姿ではないでしょうか。 特別活動の研究では、教師としての教科外指導に対してどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級活動」「児童（生徒）会活動」「クラブ活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」とを示しています。この２つについての内容の理解を深めておいてください。また、(1)、(2)についての指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．児童（生徒）会活動における「委員会活動」や「児童（生徒）会集会活動」について理解を深めておいてください。とくに、児童（生徒）会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「遠足・集団宿泊的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	幼児理解及び保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育の内容及び方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5461	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、児童の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 教員の特性と在り方について考えるにあたり、学校教育法第 17 条、第 18 条ならびに学校教育法施行規則、さらには学習指導要領総則に目を通し、教育の基本と特性について理解を深めることが重要となります。
■学習の要点	教育は、教育基本法などの法令などに示すところに従い、各学校において地域の実態や児童の心身の発達段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程編成に基づいて、初等普通教育として調和のとれた人間の育成を図ることを目的としています。変化の激しい社会に主体的に対応できる力の育成、心豊かで社会性に富み、国際社会に生きていくことのできる日本人の育成、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実によって、自己教育力の育成を図る、などを重要な教育課題としています。 昨今では、全国各地の教育現場で「学級崩壊」なる現象がみられ、現場教員を悩ませています。それは小学校のみならず、中学校や高等学校でもみられるようになってきていることからも明らかです。 それぞれの校種の教育の基本や教員の特性を十分念頭において、中央教育審議会が指摘する「人間力」を身につけた児童の育成に努力を傾注しなければなりません。学習にあたり、特に以下の項目に留意してください。 １．教科外教育とは何かについてまとめ、その構造と課題について述べてください。 ２．生徒指導の原理とは何かについてまとめ、その意義と内容について説明できるようにしてください。 ３．教育相談とは何かについてまとめ、その際のカウンセリングの理論と技法について説明できるようにしてください。 ４．不登校の児童が自分のクラスにいた場合、どのような点に注意して指導するのか、その背景となる理論と具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ５．いじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしてください。 ６．学級崩壊はどのような背景から生じるものかについて理論的にまとめ、その対応と予防策について説明できるようにしてください。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS5462	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年児童・生徒の成長・発達上の問題として、いわゆる不登校、いじめ、非行などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする児童も増えていると言われている。このような子どもたちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、すべての学級担任教師が教科指導とともに教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングの意義と方法について。３．小学校時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、子どもたちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめなど、子どもたちの人間関係の問題への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	幼児理解及び保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育の内容及び方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	特別な教育的ニーズの理解とその支援				単位	1.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5473	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育の基礎・基本（2020）	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715486

■授業の概要	通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上･生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。

■学習の要点	１．特別支援教育に関する理念・制度について学ぶ。２．心身の発達の概要と様々な障害について学ぶ。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要について学ぶ。

■学習の到達目標	１．特別支援教育に関する理念・制度を理解する。２．心身の発達の概要と様々な障害を理解する。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要を理解する。

■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現すること。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5502	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容研究言葉	吉岡剛編	佛教大学	[ISBN]9784907177034

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	１．領域「言葉」のねらいと内容２．乳幼児期のことばの発達３．聞くこと・話すことと保育４．読むこと・書くことと保育５．ことばの指導の留意点６．ことばをのばす遊び　呼びかけ、劇あそび、ことばあそび、ごっこ、手あそび・指あそび、伝承あそび等７．ことばを育む視聴覚文化財　童話、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等８．保育者のことば
■学習の到達目標	・乳幼児期のことばの育ちについて理解する。・子どものことばの育ちを支える保育者の役割や保育内容について理解する。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	幼児と健康				単位	2.0
担当者	青木　好子			シラバスグループ	TU5503	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修　國土 将平・上田 恵子 編集	株式会社みらい	[ISBN]9784860155285

■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、取り組んでください。

■学習の要点	１．領域「健康」のねらいと内容を理解し、基本的な知識や技能について考察し理解を深める。２．幼児期の子どもを取り巻く現状と課題を理解するとともに、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すために必要な環境構成や援助について具体的に考察し、保育現場での実践において重要なポイントを整理する。３．幼児期の運動の意義を理解し、発育発達に適した楽しい遊びを展開するための環境構成、援助について考察し様々な動きを獲得するための運動遊びのポイントについて整理する。

■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」について、ねらいと内容について説明することができる。２．幼児期の心身の発育発達の特徴やそれに応じた運動あそびについて説明できる。３．心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方について説明できる。

■成績評価の基準	領域「健康」のねらいや内容を踏まえて、要点を示すキーワードを用いて記述されている。課題の意図を理解し、自身で具体的に考察した内容も含め整理して論理的に記述されている。

授業科目	幼児と人間関係				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容人間関係 （新保育ライブラリ;保育の内容･方法を知る ）	小田豊ほか編著	北大路書房	[ISBN]9784762826412

■授業の概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･現代社会における幼児の人間関係・人間関係を視点とした幼児期に育みたい資質･能力･人間関係を視点とした 3 歳未満児の発達の理解･園生活における人と関わる力の育ち･乳幼児期の依存と自立･協同的な学び･幼児期の道徳性･規範意識の芽生えと育ち･乳幼児期の人間関係のひろがり
■学習の到達目標	１．幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。２．人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。３．乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。４．幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。５．自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。６．協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。７．道徳性・規範意識の芽
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児と環境				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TU5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境	福元真由美　編集・無藤隆　監修	萌文書林	[ISBN]9784893472588

■授業の概要	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導力につながる専門性を学ぶ。　幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，実践的指導力につながる専門性を学習する。　自然環境を活かした実践方法や、環境構成の実践方法につながる専門性を学習する。
■学習の要点	何よりもまず，テキスト学習を行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを知り理解してください。　そして，とくに興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けて特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。１．テキストおよび幼稚園教育要領解説をもとに幼児教育の基本についてよく学修する。養護と教育の一体性，小学校教育への基盤，遊びを通しての指導，環境を通して行う教育の意義，幼児の主体性と教師の意図，環境を通して行う教育の特質等の内容について整理し考える。２．テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容をもとに，領域「環境」における意図的・計画的な教育の必要性について具体例をもとに考える。３．子どもの発達と環境とのかかわりを考える。乳幼児期の発達における環境との関わり，乳幼児と環境とのかかわりを支える人の視点から，テキスト（コラムの用語にも留意）や他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。４．子どもが自然の中で体験すること，学んでいることを捉え，体験を深めるための教師の関わり，自然をいかした環境構成を考える。教師の立ち振る舞い，計画性，教材選択，直接体験とその表現，季節の変化，遊びと好奇心などのキーワードをふまえ，テキストや他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。５．ものや道具に関わって遊ぶことについて，テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容や，他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。６．文字や標識，数量や図形に関心をもつことについて，テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容や，他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。７．思考力の芽生えについて，第８章を基礎としてテキスト全体を見直し，「遊び」を鍵に，好奇心，試行錯誤，協同という用語を通して具体例をもとに考察すること。

■学習の到達目標	・幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，保育内容「環境」の実践的指導力につながる専門性を身につける。・自然環境を活かした実践方法や、環境構成の実践方法，身近な自然とのかかわりと実践的指導力（環境構成を含む）につながる専門性を体得する。

■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。 テキスト学習の成果を判断します。テキスト学習の成果が認められない場合は不合格となります。 剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等，不正が疑われるものは合格とならない場合があります。 テキスト以外からの引用について，出典等が明記されていないものは合格とならない場合があります。

授業科目	幼児と言葉				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5506	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
乳幼児のことばの世界　聞くこと・話すことを育む智恵	髙橋　司著	宮帯出版社	[ISBN]9784863669154

■授業の概要	幼稚園において育みたい３つの資質、能力や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解したうえで、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的、対話的で深い学びの過程を踏まえ、領域「言葉」のねらいの達成に繋がるような指導場面を想定した保育の構想ができる力を身につける。
■学習の要点	幼稚園教育要領における領域「言葉」の理解とその指導について考察する。
■学習の到達目標	1.幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいおよび内容を理解すること。2.幼児のことばの発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」にかかわる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。3.幼児を取り巻く現代的課題を理解し、それに応じた保育が構想できるようになること。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	幼児と表現（造形）			単位	2.0
担当者	髙橋　敏之・芦田　風馬		シラバスグループ	TU5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容表現 保育の内容・方法を知る	花原幹夫編著	北大路書房	[ISBN]9784762826610

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された幼児の造形表現に関する目標や内容を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。
■学習の要点	幼児の造形活動における基本的な知識を学ぶ・幼児期における「造形表現」の目的と意義・幼児の造形表現の発達と保育者の役割・描画（かく）活動の意味と理解・制作（つくる）活動の意味と理解・教材研究（教材のとらえ方と活用法について）・個別指導と集団指導（仲間意識育成の重要性について）
■学習の到達目標	1．幼稚園教育要領・表現（造形）の目標、内容について理解している。2．造形表現題材開発とその振り返りから、子どもの実態を視野に入れた保育設計の在り方を理解している。
■成績評価の基準	科目最終試験での評価となる。

授業科目	幼児と表現（音楽）			単位	2.0
担当者	臼井　奈緒		シラバスグループ	TU5508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑥ 初等音楽科教育	高見　仁志　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082025

■授業の概要	幼児は生来、歌うことや音を鳴らして遊ぶことに興味をもっており、保育現場でもさまざまな音楽活動が盛んに行われている。音楽に対する愛好心や豊かな感性を育む幼児期の音楽活動を支え、指導するためには、音楽の専門的知識や演奏技能の習得が必要とされる。　ここでは保育における音楽活動内容と指導法について概観する。また、音楽指導実践に必要な音楽理論の知識とその活用法について学ぶ。
■学習の要点	１．幼稚園教育要領第２章「表現」のねらい及び内容についての理解を深めること。２．主たる音楽活動である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容と、指導上のポイント・留意点を理解すること。３．音楽活動を担う指導者として必要な音楽理論の基礎（読譜力・コード奏法・移調等）を習得すること。４．楽曲の魅力や特徴を幼児・児童にしっかり伝えるための教材研究の重要性に気づき、指導実践に活かす方法を探求すること。
■学習の到達目標	音楽理論の基礎的知識を習得し、読譜力と想像力をもとに教材と真摯に向き合い、音楽活動をとおして幼児・児童の豊かな表現を促す指導方法の工夫ができるようになることを目指す。
■成績評価の基準	・題意を正しく理解した上で解答されていることが重要である。　・テキスト学習の成果を必ず反映させること。テキスト学習の成果が見られない場合は不合格とする。・箇条書きだけの場合も不合格とする。

授業科目	初等教育内容音楽				単位	2.0
担当者	高見　仁志			シラバスグループ	TS5521	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい小学校音楽科の授業をつくる	高見仁志著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081707

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、小学校音楽科授業づくりの基礎となる専門的理論について学習する。とりわけ，歌唱の授業、器楽の授業、音楽づくりの授業、鑑賞の授業の基盤となる「教科専門の力量」はもちろんのこと，それと「教科の指導法」との融合を重視している。このような視点から、音楽科授業を構想する能力を高めることを目標としている。
■学習の要点	①学習指導要領に基づいた音楽科授業づくりの専門的能力を高める。②歌唱指導の基礎・基本に関して実践的に探究する。③鑑賞の授業づくりに関して教材選択し授業を構成する。④音楽科における ICT の活用に関して、具体例をあげ授業を構想する。⑤楽器の奏法を身につけ，器楽指導のポイントについて学びを深める。⑥音楽づくりの基となる教師の創造性を高める。⑦異文化の音楽や日本の音楽について理解する。⑧音楽科における評価に関して認識を深める。⑨学習指導要領に示された共通事項に基づいた授業を構想する。
■学習の到達目標	・平成 29 年版学習指導要領に基づいて、教科専門の力量を駆使して具体的な授業のあり方を構想できることが到達目標である。
■成績評価の基準	リポート作成にあたっては、設題が求める学習の要点を正しく理解し、所定の字数でまとめること。また、設題内容に対するテキスト内容を基に自身の考えを簡潔にまとめて記述すること。単にテキストの要約とならないよう、具体的な場面や教材、自身の経験や考え等を交えて論述すること。

授業科目	初等教育内容図画工作				単位	2.0
担当者	波多野　達二			シラバスグループ	TS5522	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑦　図画工作科教育	波多野達二・三宅茂夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082032
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　図画工作編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590112

■授業の概要	図画工作科において、造形活動に関する基礎的な知識や技術の習得は大切である。しかしながら、そうした知識や技能は、子ども一人ひとりが感覚や行為等を基に、材料、空間、他者（友だち・地域社会）と関わり習得・活用されることでその子の生きる力として定着してくる。知識や技能は、表現や鑑賞活動の中で、「つくりだす喜び」とともに習得され、活用されることで、確実に身につき、生活や社会の中で生かそうとする意欲が育まれてくるのである。したがって教育現場では、一人ひとりの子どもが表現や鑑賞の喜びを味わい、その活動を通して豊かな感性や想像力、造形的な能力を習得・活用しながら、イメージの共有や言語活動を通して他者と関わり、豊かな情操を養うことができる場を創り出していく必要がある。本科目においては、図画工作科の意義と目的にふれることから始め、平成29年告示小学校学習指導要領（図画工作編）に基づいた授業づくりについて考察することとする。
■学習の要点	・第Ⅰ部　理論編（第1・2・3章）　図画工作科教育を正しく理解するためには、教科の意義や目的、今日的な課題等について十分学習し、自分なりの図画工作科教育観を確立することが肝要である。ここでは、平成29年告示学習指導要領の骨子及び評価のあり方、さらには指導計画や学習指導案の作成について学び、授業構築の基礎的な能力を身につけたい。・第Ⅱ部　実践編（第4・5・6・7・8・9章）　ここでは、図画工作科の内容領域についての理念と具体的な授業展開について学ぶ。紹介されている実践事例を実際に経験してみる等の教材研究をしておくことも大切である。・第Ⅲ部　基礎知識編（第10・11・12・13章）　ここでは、図画工作の授業を支え、教師として知っておくべき基礎知識について学ぶ。子どもの成長発達と学びの連続性、図画工作科教育の歴史、図画工作の基礎知識、色彩の基礎知識等、授業の土台となる基礎知識を身につけ、授業に広がりと深みを与えたい。
■学習の到達目標	1.「平成 29 年告示　小学校学習指導要領　図画工作」の目標や内容領域等を正しく理解し、授業構築に関する基礎的な能力を身につける。2．図画工作科の具体的な内容領域についての理念と具体的な授業展開について理解する。3．図画工作科の評価の基本的な考え方と、その実際について理解する。
■成績評価の基準	1．以下の点が成績評価の基準となる。・出題の意図を正しく理解していること。・解答の条件が示されている場合は、これに合致していること。・論理的な文章で述べられていること。・論述の内容がテキストや参考資料の内容に沿っていること。2．解答は,課題ごとに1,600字程度記述すること。

授業科目	初等教育内容体育				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TS5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑨ 初等体育科教育	山口孝治・石田智己　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082056

■授業の概要	小学校体育科の目標は、「体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を見付け，その解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す」ことであり，具体的な内容が「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの観点から記されている。この目標を達成するために、教師は子どもたちに「できる−わかる」授業の継続的な実践が求められる。しかしながら、子どもたちの「体力低下」が社会問題となっている現実があり、こうした点からも体育科の果たすべき役割は大きいといえる。そのために、「体育科という教科はどのような教科か」「どのような力（目標）をどのように身につけさせるのか（方法）」などについて理解を深める必要がある。
■学習の要点	① 体育科の授業実践における構成要素（目標・内容・単元計画・教材づくりの視点・評価など）についての理解を深める。② 体育科における６つの運動領域（体つくり運動・器械運動・陸上運動・水泳・ボール運動・表現運動）において、各領域の特性、内容のポイントについて理解を深める。その際、発達段階における運動教材の系統性について整理する。③ 小学校体育科の学習指導案を作成する上での手順やポイントを整理する。
■学習の到達目標	・体育科の特性や各運動領域の特性を理解している。・各領域の授業づくりのイメージがもてる。
■成績評価の基準	・体育科の目標を踏まえた上で要点が記されている。・各課題の意図を理解し，解答に必要なキーワードを踏まえた上で記述がなされている。

授業科目	初等教育内容算数				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5525	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
数学教育の基礎	黒田恭史編著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248771&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目では，小学校における算数科の指導にあたっての基礎的な数学を対象に扱う。算数教育を行うにあたっては，単に解法を教えたり，記憶・習熟を繰り返したりするだけでは十分ではない。算数を教育する意義と目的を明確にして，数学的な見方・考え方の育成を重視した授業を設計していく必要がある。そこで，算数の数学的背景となる内容を取り上げることを通して，授業実践への基礎を築く。
■学習の要点	テキスト全般にわたり十分に理解してもらいたい。1．数学教育の基礎を学ぶ意義を理解する。2．数・代数の分野において，各種の数とその四則計算の種類と特徴，バラ数，さらに文字と文字式について理解する。3．立体・空間・変換の分野において，点・直線・平面・立体・空間の関係，二面角と三面角，アフィン変換・射影変換の仕組みについて理解する。4．量・関数・解析の分野において，各種量の特徴，関数の種類，微分・積分について理解する。5．確率・統計の分野において，確率と統計の基礎的な概念，実際の場面での確率や統計の活用方法について理解する。6．集合・論理の分野において，集合の基礎的な概念，論理の命題，合接，離接，真理表について理解する。
■学習の到達目標	算数の数学的背景となる「数・代数」「立体・空間・変換」「量・関数・解析」「確率・統計」「集合・命題」の主な内容について，説明することができる。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	初等教育内容生活				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5526	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活理解と環境づくり	岡野聡子・筒井愛知　編著	ふくろう出版	[ISBN]9784861867484

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版小学校学習指導要領と幼稚園教育要領、保育所保育指針に基づき、子どもと環境の教育的なかかわりについて具体的に学習する。「子どもにとっての未分化な環境との総合的で全面的なかかわり」「環境との主体的で能動的で体験的なかかわり」「環境との自我関与的な自分ごとに引きつけてのかかわり」といった生活科創設時の基本的な考え方は、現在の生活科にも引き継がれている。テキストでは特に就学前教育から小学校への接続を視点とし、生活科の自然認識・社会認識・自己認識に係る学習の実際を具体的に述べている。
■学習の要点	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解すること。２．子どもの発達特性とその理解について、深く考えること。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解すること。
■学習の到達目標	１．就学前教育から小学校教育への接続について、深く理解できている。２．子どもの発達特性とその理解について、深く理解できている。３．生活科における自然認識・社会認識・自己認識の学習の実際を具体的に理解できている。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。100 点満点で６０点以上が合格、６０点未満は不合格である。

授業科目	初等教育内容社会				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校学習指導要領(平成29年告示）解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590099

■授業の概要	小学校第３学年から始まる「社会科」は、どのような内容の学習をするのだろうか。本科目では、「社会科教育法」に進む前提として、小学校社会科の内容研究を行う。小学校社会科の内容については、第３学年では市を中心とする地域社会に関する内容を、第４学年では県を中心とする地域社会に関する内容を、第５学年では我が国の国土と産業に関する内容を、第６学年では我が国の政治と歴史、国際理解に関する内容を、それぞれ取り上げている。これらは、中学校で学ぶ内容との関連を考慮し、①地理的環境と人々の生活、②歴史と人々の生活、③現代社会の仕組みや働きと人々の生活に区分して捉えることができる。
■学習の要点	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我が国の政治の働き　②我が国の歴史上の主な事象 ③グローバル化する世界と日本の役割以上の内容を、ご自身の身近で具体的な素材を通して研究すること。それが「教材研究」につながります。
■学習の到達目標	（１）第３学年の内容①身近な地域や市区町村の様子 ②地域に見られる生産や販売の仕事 ③地域の安全を守る働き ④市の様子の移り変わり（２）第４学年の内容①都道府県の様子 ②人々の健康や生活環境を支える事業 ③自然災害から人々を守る活動 ④県内の伝統や文化、先人の働き ⑤県内の特色ある地域の様子（３）第５学年の内容①我が国の国土の様子と国民生活 ②我が国の農業や水産業における食料生産 ③我が国の工業生産 ④我が国の産業と情報の関わり ⑤我が国の国土の自然と国民生活の関わり（４）第６学年の内容①我
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	初等教育内容理科				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TS5528	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校理科を教えるために知っておきたいこと−初等理科内容学と指導法−	平田　豊誠・小川　博士	東洋館出版社	[ISBN]9784491047225

■授業の概要	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を学習していきます。理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な理解を深めます。また，児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むことのできる理科授業を構想できるような基本的な内容について学びます。
■学習の要点	何よりもまず，テキスト学習を行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを知り理解してください。　テキストの第Ⅰ部では，「理科これだけは−小学校で理科を教えるにあたって」として理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，学習指導要領の読み取り方などの基本的な事柄が解説してあります。第Ⅱ部「しっかりとした理解に基づく小学校理科指導のために」では，教える側の教師も誤解しているかもしれないことを取り入れながら，子どもたちに理科の内容をどのように解釈し教えていけば良いのかということを具体例や実践事例をあげながら解説してあります。第Ⅲ部「授業実践力の向上のために」では，理科の学習を基本に据えながら，他の教科や領域でも存分に活用していくことが可能な教授方法や授業実践に関する内容が解説してあります。また，各章末には「学習課題」によって学びの確認・振り返りができるようになっていますので，自身でしっかりと各課題に取り組んでください。「さらに学びたい人のための図書」に掲載されている図書を手に取り，主体的に学修を進めることで，より詳しく学びを広げたり深めたりしてください。　そして，特に興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けてテキスト学習を十分に行い，特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。１．理科と自然科学，科学の方法，観察・実験の位置づけ，理科を学ぶ必然性，学習指導要領の読み取り方などについて考える。２．科学の方法，問題解決，学ぶ必然性の理解をもとに「検証のための実験」と「確証のための実験」の違いを考える。３．各領域（エネルギー領域，粒子領域，生命領域，地球領域）における知っておくべき概念をよく理解し，各領域を題材にした授業例を題材に，子どもが主体的に問題解決を図る学習活動となるための指導の具体を，理科の概念理解の面，授業指導面から考える。４．テキスト 14，16，17 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，指導と評価の一体化，形成的評価，ルーブリック等と関連付けて考える。５．テキスト 15，18 章の内容をよく理解し，授業実践につなげるための考察を行うとともに，探究的な学習，話し合い活動，社会構成主義等と関連付けて考える。６．テキスト 13 章をもとに，理科の指導のヒントとなる内容について自身でさらに調べ，見識を広げる。

■学習の到達目標	小学校で理科を教えるために教師として知っておいてほしい理科の専門的内容を理解し，理科の内容について理論に基づく知識と考え方を身につけ，理科の授業づくりに関する基礎的な内容を理解し，自身の言葉で説明することができる。 児童に理科を主体的に学ぼうとする態度を涵養し，問題解決の力を育むための理科授業を構想できるような基本的な内容について，自分なりに解釈し説明することができる。
■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。・問題の求める意図を理解し，テキスト学習に基づき内容説明に必要なキーワード・要点を踏まえた記述がなされていること。・剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等不正が疑われるものは合格とならない場合があります。〇リポート添削指導の基準１．設題の求めていることを明確に把握し，その要点を所定の字数内でまとめていることが大切です。２．自分の体験，意見，考察を述べるだけでは不十分です。必ずテキスト学習の成果を反映させてください

授業科目	初等教育内容家庭				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5529	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版家庭科概論	大塚眞理子･加地芳子著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248977&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	家庭科では社会や時代の変化、児童の実態に合わせた適切な指導が求められる。そのために、基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、広い視野から幅広く内容を理解出来るように学習する。 本科目では、生活者の視点から今日の生活問題の状況を捉えて、家族の生活や衣食住、消費と環境に関連する学習をして知識を深める。さらに習得した知識やスキルを活用して課題に取り組む。
■学習の要点	1.家族・家庭生活について、家族や社会の一員として、社会の変化と家庭生活の現状を理解し、これからの共生社会のあり方について考えられる。2.衣食住の生活に関する知識を得て、身近な環境との関わりから持続可能な社会の構築について考えられる。3.消費生活・環境について、消費者教育や環境教育について理解し、消費者市民社会の一員として環境に配慮する生活の工夫について考えられる。
■学習の到達目標	生活者として社会の変化に伴う生活の問題を、衣食住や消費、環境に関する知識をもって、社会の一員としてより良くあるための方法を考え、生活の改善に取り組み、生活の工夫ができる。
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、テキストの内容を概ね理解して解答できているか、必要な事項がすべて含まれ、論理的に記述できているかを評価し、さらに内容の展開と学習の深まりにより加点する。

授業科目	初等教育内容外国語				単位	2.0
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	TS5530	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小学校英語内容論入門	樋口忠彦〔編者代表〕／泉惠美子、加賀田哲也〔編〕	研究社	[ISBN]9784327410995

■授業の概要	小学校における外国語教育の実践的研究や小中連携の実践例を具体的に把握しながら、小学校で英語を教えるのに必要な英語力や異文化理解にかかわる内容を学ぶ。
■学習の要点	まず最初に、各章・各節に何が書いてあるかを把握し、そして自分なりにまとめてみる。次にテキスト全体を通読し、外国語教育の小中学校現場における実践や取り組み、児童生徒の実態を踏まえて、小学校外国語教育にかかわる英語の知識（音声や文法）、また異文化理解にかかわる内容を理解する。そのうえで、自分自身に必要な課題を把握したり、実践における自分なりの見解を論じる。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、各章の内容をまとめる。そのうえで小学校で英語を教えるための実践的コミュニケーション能力はどのようなものであるかをイメージし、必要な英語力を把握し身につける方法を理解する。
■成績評価の基準	テキストに即し、知識を問う問題・体験にもとづく考察を問う問題を出題する。「出題の要点を正しく理解できているか」「論理的に記述できているか」「自身の課題に引きつけて論じられているか」が評価の観点となる。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会学概論				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　１．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　２．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　３．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　４．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　５．文化相対主義、同化主義などについて把握すること。　６．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	経済学概論				単位	2.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172
新･世界経済学入門(岩波新書新赤版 1482)	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど非正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には答えを出せないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」「貧困」の現状把握、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。

■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。

■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。

■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	代数学概論１				単位	2.0
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	TS5591	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
線型代数学入門	丹後弘司著	佛教大学	[ISBN]9784907177553

■授業の概要	比例，１次関数，連立１次方程式などの話題を発展/拡張させたところにある線型代数学について，その基礎を学んでいきます．ベクトルの概念を理解し，行列の関わりについて学びます．また，直線や平面などの高等学校でも学んだ幾何学的対象について，線型代数学の観点から議論していきます．また，行列演算に習熟し，連立１次方程式の理解を深めていきます．行列式とその性質を理解し，その幾何学的な応用についてまで理解を広げていきます．線型代数学の核心部分である，線型独立/従属，基底や次元の概念を習得します．線型空間の間の写像を学び，行列そのものの理解を深めていきます．行列の固有値，固有空間を学び，さらに，その様々な応用について議論を展開していきます．
■学習の要点	筆記用具を必ず傍らに置いてテキストや参考文献などを読み進めてください．頭で理解している事を実際に紙の上に起こしてみる作業は重要です．また，定理等の証明の勘どころをつかみながら，数学的思考を育んでもらいたいと思います．さらに，問などを手を動かして具体的に解き確実な計算力を養う事も本学習の重要課題の一つです．
■学習の到達目標	・ ベクトル，行列の概念が理解でき，それらの代数的な計算が的確にできる．・ 直線，平面などの幾何学的対象を線型代数学の言葉で理解できる．・ 連立１次方程式を行列の性質を運用しながら解くことができる．・ 行列式の性質を理解し，その代数的な評価や，幾何学的な応用が理解できる．　・ 線型空間，線型写像について理解できる．・ 線型独立/従属，基底や次元の概念が理解でき，それらを様々な場面で運用できる．・ 行列の対角化，固有値，固有空間が理解できる．・ 定理の証明等を通じて，数学的な思考力を獲得する．
■成績評価の基準	学習の到達目標が達成されているかについて評価します．

授業科目	幾何学概論１				単位	2.0
担当者	堀内　遼・田嶌　優			シラバスグループ	TS5592	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
集合と位相への入門 ～ユークリッド空間の位相～	鈴木晋一	サイエンス社	[ISBN]9784781910345

■授業の概要	幾何学分野を学ぶために必要な、数学の基本ともなる集合･写像･論理について学習します。集合や写像は，すべての数学の基本であり，重要な役割を果たしていますが、高校までの数学では詳しくは学んでいない事項が多くあります。
■学習の要点	数学記号を正確に用いることが理解への第一歩です。高校までで知っているつもりの数学用語でも今一度しっかり定義を確認しましょう。テキストをただ眺めるのではなく、自分で例を考えながら読み進めましょう。テキストは距離空間にも言及していますが、この科目では第３章１節のユークリッド空間までを必読範囲とします。
■学習の到達目標	学習の到達目標･論理記号を用いることができる。･集合･写像を理解する。･集合の濃度を理解する。
■成績評価の基準	・リポートについて。考え方の記述・数学記号の用い方も含め全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。･最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	解析学概論１				単位	2.0
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	TS5593	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
追補版　解析学のための微分積分入門	長田尚・剣持信幸	佛教大学	[ISBN]9784907177317

■授業の概要	「１変数関数の微分積分」について学習を行います．微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では１変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．学習内容としては高校数学における「数Ⅱ」と「数Ⅲ」の延長にあたり，高校数学の内容を新たな観点から再定義することから始め，最終的にはテイラー展開や広義積分といった，より高度な概念の学習を目指します．
■学習の要点	テキストをただ眺めるのではなく，登場する定理などの証明を頭で理解しながら読み進めてください．テキストにある問や練習問題を解くことで計算力を養い，理解を深めてください．問題に取り組むときは答えだけでなく，途中計算や文章による説明を必ず書いてください．テキストの後半では２変数関数の微分積分についても書かれていますが，この科目では第４章までを必読範囲とします．
■学習の到達目標	・数列・関数の極限について理解し，計算することができる．・初等関数に関する基本的な計算ができる．・１変数関数の微分について理解し，その応用ができる．・１変数関数の積分について理解し，その応用ができる．
■成績評価の基準	リポート：第 1 設題と第 2 設題ともに，全ての問において概ね正答であることを受理の基準とする．最終試験：論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし，60 点以上を合格とする．

授業科目	確率論 1				単位	2.0
担当者	堀内　遼・藤木　美江			シラバスグループ	TS5594	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
明解演習　数理統計	小寺 平治	共立出版	[ISBN]9784320013810

■授業の概要	本講義では，統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び確率モデルの基礎知識，また、推測統計の基礎知識の習得を目的とする．具体的に，記述統計で必要となるデータやグラフの読み方，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計で用いられる確率，確率変数などの定義と，その性質を示し，推測統計の方法である推定と検定の考え方とその使用方法について学ぶ.
■学習の要点	テキストは演習に重きを置いているので、定義や考え方に疑問がある場合には参考文献を参照してください。数学用語や記号は本によって定義が違うことがありますので、複数の文献に当たる場合は必ず最初に定義を確認しましょう。
■学習の到達目標	学習の到達目標・確率論の数学的な基礎が理解できること。・統計学の基本概念が理解できること。　・代表的な確率分布を知る。・推定・検定を行える。
■成績評価の基準	・リポートについて。考え方の記述・数学記号の用い方も含め全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。・最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	教育実習指導（幼）				単位	1.0
担当者	小林　みどり・小林　隆			シラバスグループ	TU5813	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹 著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直 ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、幼児との関係性・保育指導のあり方・集団指導等について実践的に学ぶ。特に保育指導については、教育実習校園からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・保育指導案の作成・保育実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	保育者・教師としての資質、能力が備わっているかどうか。
■成績評価の基準	省察ができているか。課題が明確になったか。

授業科目	教育実習指導（小）				単位	1.0
担当者	小林　隆・原　清治			シラバスグループ	TS5624	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5833	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習指導（特支）				単位	1.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5642	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	知的障害・肢体不自由・病弱が就学対象となる特別支援学校における教育実習を行うに際して、必要となる教育実習の仕組み、学習指導案作成等の基本的事項を学ぶとともに、教育実習で得られた成果や課題について確認する。
■学習の要点	実習日誌や実習中の記録をもとに、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題の確認及び課題解決のための方策を整理すること。
■学習の到達目標	的確な教育実習の自己評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	障害教育総論				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代・澤田　均			シラバスグループ	TS5671	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育を学ぶ人へ	菅原伸康ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623059911

■授業の概要	長い間「特殊教育」の名のもとに行われてきた日本の障害児教育は、2007（平成 19）年度から「特別支援教育」として新しい出発をした。　その内容は、従来の盲学校・聾学校・養護学校から、障害種別を超えた「特別支援学校」に一本化したことと、小・中学校等において学習障害や注意欠陥多動性障害等を含む障害のある児童生徒に対して適切な教育を行うことを中心としたものである。　さらに、2012（平成 24）年には「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」が発表され、障害のあるなしにかかわらずすべての子どもが地域の学校にアクセスできることが目指されるようになった。　「障害教育総論」ではこうした経緯をふまえて、あらためて障害児教育の理念や制度について歴史的に理解するとともに、障害児教育について全般的な理解を深める。従って本科目は、障害児教育関連の他の諸科目、すなわち知的障害児や肢体不自由児などを対象とする各論的な諸科目に対して、総論的な役割を持つものである。
■学習の要点	本科目においては、テキストに基づき、「特別支援教育」の内容、障害児教育の歴史や制度、教育課程、障害児の発達特性と教育方法、障害児教育の課題について学習する。とりわけ、次の事項については重点的に学習するものとする。①「特別支援学校」（旧盲学校・聾学校・養護学校）、「特別支援学級」（旧特殊学級）、及び「通級による指導」の対象となる者の障害種別について。これらはそれぞれ異なっているからよく注意すること。②障害児教育にかかわる法規について③障害児の発達特性と教育方法について（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、重複障害、病弱・身体虚弱、発達障害など）。④特別支援教育固有のカリキュラムである「自立活動」の「内容」や「配慮事項」について。
■学習の到達目標	科目最終試験の出題の意図から外れないように、注意すること。学習の要点に書かれた内容を参考にして、テキストを中心に学んだ内容を記述すること。　評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえてリポートを作成すること。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	知的障害児の心理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5673	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害のことがよくわかる本	有馬正高・監	講談社	[ISBN]9784062594165
知的障害児の心理･生理･病理: エビデンスに基づく特別支援教育のために	勝二　博亮 編著	北大路書房	[ISBN]9784762831881

■授業の概要	知的障害児の心理・行動特性について、定型発達を基盤として、学習する。また、知的障害と関連する障害として、自閉症スペクトラム障害、ADHD、学習障害が挙げられる。それらの概要についても学ぶ。さらに、知的障害児への支援の概要を理解する。
■学習の要点	１．知的障害の分類について理解すること。２．知的障害児の言語・コミュニケーションの特性を理解すること。３．知的障害児の認知（数概念、記憶）の特性を理解すること。４．知的障害児の行動の特性を理解すること。５．知的障害児への支援の概要を理解すること。６．知的障害を伴う他の障害についても理解すること。
■学習の到達目標	知的障害児の心理に関する基本的な内容を理解し、その知識が特別支援教育の中で具体的にどのように役立つか思考する力を身につけること。
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	知的障害児の生理・病理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5674	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害のことがよくわかる本	有馬正高・監	講談社	[ISBN]9784062594165
知的障害児の心理･生理･病理: エビデンスに基づく特別支援教育のために	勝二　博亮 編著	北大路書房	[ISBN]9784762831881

■授業の概要	知的障害とは、知的機能の低下に適応行動の障害をともなう状態が発達期に現れるとされる。そのような知的障害をもつ子どもたちの指導のためには、知的障害児の生理・病理についての理解が基盤となる。知的障害の原因は様々で、時期も出生前、周産期、出生後に分かれ、それぞれ原因が異なる。しかしいずれも脳神経系の障害である。ここでは、知的障害の特徴と原因の概要を知るとともに、脳神経系の基礎についても学ぶ。
■学習の要点	１．知的障害の原因を理解すること。２．脳神経系の構造と機能を理解すること。３．脳神経系の障害の原因について理解すること。４．症候の特徴としての注意、記憶、実行機能障害などについて理解すること。
■学習の到達目標	知的障害児の生理と病理に関する基本的な内容を理解し、その知識が特別支援教育の中で具体的にどのように役立つか思考する力を身につけること。
■成績評価の基準	問題の意味を理解しているか、必要な事項が含まれているか、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	病弱虚弱児の心理・生理・病理				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS5676	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理	小野次朗ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623061532

■授業の概要	教育現場で遭遇すると考えられる病弱・虚弱児の問題は、近年大きく変化し、多様化している。これまでの対象の中心であった気管支喘息や慢性腎疾患の多くは、通院しながら家庭生活と学校生活を送れるようになった。一方、教育を考える余地がなかった悪性疾患が治療可能となり、また難治・不治の長期療養が必要な疾患など、医療機関の専門家と教育の連携よりさらに生涯発達の視点から、病弱・虚弱児の心理・生理・病理について習得する。
■学習の要点	１.病弱・虚弱児教育の対象となる主な疾患について、生理と病態を理解する。　１）悪性腫瘍　２）循環器疾患　３）腎疾患　４）気管支喘息　５）糖尿病・内分泌疾患　６）膠原病　７）てんかん・神経疾患２.病弱・虚弱児の医療　上記の生理・病態を理解した上で、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床心理士が行う医療を理解する。３.医療と教育の連携　４.病弱・虚弱児の学校教育５.病弱・虚弱児の生涯発達６.病弱・虚弱児の教育支援
■学習の到達目標	学習到達目標は、病弱教育では疾患が多様であり、必要とされる配慮も多様であることから、系統だった学習が必要である。リポートに記述したあらゆる疾患を理解し正しく対応できるよう習熟することが求められる。その上で、病弱児に関わる医療・療育・教育の連携を実践できる取り組みを課題としたい。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	知的障害教育Ⅰ				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5677	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育を学ぶ人へ	菅原伸康ほか編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623059911

■授業の概要	本科目では、知的障害のある子どもの教育に関して、一人一人の発達や特性を考慮した教育のあり方について検討する。知的障害のある子どもの教育について学習するにあたり、まずは知的障害の定義や原因、特徴など知的障害に関する基礎知識について学ぶ。そして、特別支援教育における知的障害児の特性を考慮した教育のあり方について考える。その際、知的障害児の教育をめぐる障害教育の動向、インクルージョン、知的障害児が被る社会的不利などについても考える。加えて、自閉性障害等の近接領域の障害児の教育についても学習する。
■学習の要点	知的障害に関する基礎知識の習得をふまえ、知的に障害のある子どもたち（および近接領域の子どもたち）への具体的な教育支援のあり方について学習してもらいたい。その際、「多様な学びの場」「合理的配慮」といったことを視野に入れた教育のあり方を自分なりに模索すること。また、知的障害児の個別の特性だけでなく、「知的障害」という言葉そのものが有するイメージゆえに被る社会的不利や、周囲の人々のものの見方などについて（教育だけでなく福祉や労働といった観点から）も検討してもらいたい。指定テキストや参考文献にとどまらず、知的障害や自閉性障害、特別支援教育や障害理解等に関してできるだけ多くの文献や資料を収集し、広く学習することが望ましい。
■学習の到達目標	問題をよく読み、その出題の意図を正しく理解して解答を作成してください。これまで自身が学習したことや考えたことを踏まえて、できるだけ論理的かつ具体的に記述するよう努力してください。解答作成の際には問いに対する答え（自身がたどり着いた結論）を明確に、「起承転結」を意識して論を展開してください。以上が大きな評価のポイントです。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、問題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	知的障害教育Ⅱ				単位	2.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5678	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
知的障害の心理学：発達支援からの理解	小池敏英ほか	北大路書房	[ISBN]9784762822155

■授業の概要	昨今の特別支援教育の潮流を鑑み、知的障害のある子どもの特別支援学校・特別支援学級・通常学級における教育支援のあり方について学習する。具体的には、知的障害児教育における学級経営や指導法、特性を考慮したカリキュラム創造、教員の役割や関わり方、問題行動の理解と支援、インクルージョンなどについて学ぶ。また、知的障害のある生徒の就労支援や社会参加を促すための保護者との関わり方や地域連携のあり方などについても検討する。
■学習の要点	この科目に関して、まずは知的障害のある子どもに関する一般的な教育課程について学習してもらいたい。とりわけ、「自立活動」など特別支援教育に特化したカリキュラムについてはテキストを読んで十分に理解しておくこと。そうした基礎的な学習をふまえ、対象児童個々への「合理的配慮」や「インクルージョン」といったことを視野に入れた教育のあり方を自分なりに模索すること（その際、知的障害だけでなく肢体不自由などとの重複障害の子どもの教育ニーズなどについても検討すること）。また、知的障害のある子どもの教育をめぐっては、その先にある就労についても考慮し、就労支援のあり方やそのための地域連携などについても学習しておくこと。そのためには指定テキストや参考文献にとどまらず、知的障害や特別支援教育、就労支援等に関してできるだけ多くの文献や資料を収集し、広く学習することが望ましい。
■学習の到達目標	問題をよく読み、その出題の意図を正しく理解して解答を作成すること。これまで自身が学習したことや考えたことを踏まえて、できるだけ論理的かつ具体的に記述するよう努力すること。解答作成の際には問いに対する答え（自身がたどり着いた結論）を明確に、「起承転結」を意識して論を展開していくこと。以上が大きな評価のポイントである。
■成績評価の基準	科目最終試験において問題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。問題に関わる知識を正しく理解し、問題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	肢体不自由児の指導法				単位	2.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5679	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる肢体不自由教育やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ	安藤隆男 編著 他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072507

■授業の概要	肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程及び肢体不自由の障害特性が、各教科等の学習に及ぼす影響について理解し、各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本について学ぶ。
■学習の要点	本科目を学習するにあたっては、指定テキストを熟読し、あわせて参考書にも目を通し、肢体不自由児に関する基礎知識を発達支援の視点から学んでもらいたい。ヒトの行動を時間系列的に理解しながら、肢体不自由を有することで現れてくるさまざまな課題を健康状態と家族関係などの環境因子及び性格などの個人因子と関連づけた障害の概念を理解することを念頭に置くよい。その上で固有の障害に対して、特別支援学校における教育課程に基づき、必要となる具体的な働きかけの内容や方法、場面設定等の工夫や配慮などを具体的に考えていくことが大切なこととなる。
■学習の到達目標	①肢体不自由児が就学対象となる特別支援学校等の教育課程を理解する。②肢体不自由児に対する各教科・自立活動等の指導を行う際の工夫や配慮事項及び指導法の基礎基本について理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	病弱虚弱児の指導法				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TS5680	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
病弱・虚弱児の医療・療育・教育〔改訂第３版〕	宮本信也　編ほか	金芳堂	[ISBN]9784765316279

■授業の概要	病弱とは「身体が弱く、病気がちである」、身体虚弱とは「体力がなく、弱い」という常識的な意味で用いられており医学用語ではない。しかし、学校教育法施行令（22 条の３）には規定されている教育行政用語である。病弱教育の対象は、以前は「６ヶ月以上の医療または生活規成が必要とする程度のもの」の就学基準であったが、現在は「６ヶ月以上」が「継続して」と修正された。教育の場（教育機関）としては、特別支援学校（病弱）及び分校・分教室（病院内）、特別支援学級、通級指導教室、訪問教育となっている。医学の進歩、医療制度の変化もあり、時代により病気の種類や患者数は変化しているが近年の特徴として、ア．病種の多様化、イ．慢性疾患での短期化と頻回化（入退院の繰り返し）、ウ．重度化・重複化の傾向、エ．不登校などによる神経症状等の増加が見られる。本科目では、1．病気の種類毎の特徴の理解と配慮支援、2.　病弱児の心理や保護者（家族）の心理への理解と対応と支援、3．病弱児の学習空白や生活規制等への対応、学習環境の調整等、4．病弱児の教育（学習特性、教育課程、学習内容）の理解、5．教材教具の工夫と改善、6．教育、医療、心理、福祉等との連携のあり方、7．病弱教育に求められる教師の専門性、力量とは、等を具体的に学び深めていく。将来、病弱教育に従事する際の基盤をつくっていく。
■学習の要点	本科目では、病弱児の障害特性、学習特性への理解及び病弱教育の概要等について以下の項目で学習する。１．病弱・虚弱児教育の対象となる主要疾患２．病弱・虚弱児の医療の変遷３．病弱・虚弱児のリハビリテーション４．病弱特別支援学校の新たな対象としての心身症・虐待５．教育と医療の連携６．病弱・身体虚弱児の学校教育　７．病弱教育の課題とこれからの展望　今、特別支援教育では、教育、医療、心理、福祉、労働等に関わる幅広い専門性をベースにしたきめ細かい具体的な指導支援の力量が求められている。個々の項目の理解、学習と共に参考文献を含めた学習が必要である。身近に病弱児や病気体験者がいる場合、その聞き取りができれば、病弱児の状態像がわかり、この教育へのイメージが持ちやすいと考えられる。
■学習の到達目標	テキストの問題をよく考察し、はじめに書く内容をイメージして、構想を練ってから記述してほしい。小見出しをつけ、論理展開をはっきりさせ記述していく。問題はテキストに則し出題しているので、テキストのことを述べたあと、自己の考え、考察を入れると合格点になる。参考文献や他の書物を学習している場合などの学習成果が見られる場合は満点に近づく。特別支援教育は、具体的な支援や配慮が求められているので、講師等で教育現場の経験がある場合など自らの具体的事例をコンパクトに記述すれば、説得性のある内容になる。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは

	不可)。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	視覚障害教育総論				単位	2.0
担当者	藤井　則之			シラバスグループ	TS5681	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
視覚障害教育に携わる方のために　5訂版	香川邦生　編著	慶応義塾大学出版会	[ISBN]9784766423679

■授業の概要	従前の特殊教育を、障害種別を超えて特別支援学校に一本化することや免許状の一本化等により、視覚障害教育における教科指導や自立活動等の専門性のある指導内容が薄められ、その結果として、視覚障害児の教育的ニーズに応えられない教育が行われるようになってはならない。視覚障害教育の専門性は、あくまでも充実され、確保された上での特別支援教育でなければならない。　視覚障害はもっとも人数の少ない障害であり、視覚に障害のある子どもたちの中には、全く見えない子どもと見えにくい子どもがいる。見えない子どもたちは、「指先を目として学ぶ子どもたち」であり、見えにくい子どもたちは、「保有する視機能を有効に活用しながら学ぶ子どもたち」である。その教育実践では、指導者の高い専門性と特別に工夫された教材・教具、教育課程、指導法等が不可欠である。　この科目では、まず、視覚障害とは何かについて学び、視覚障害教育の内容･方法等について、必要に応じて盲児、弱視児それぞれに整理しながら幅広く概観する。　テキストは、視覚障害教育を中心に就学前の支援から労働、福祉にまで幅広く視覚障害児･者に関わる項目について記述された視覚障害教育の入門書である。熟読して総合的な知識を広げ、参考文献にも目を通し、見識を深めてほしい。
■学習の要点	最初に視覚障害の意味について学習し、盲児と弱視児という用語について理解すること。その知見の上に立って、以下の項目について、盲児と弱視児について整理しながら考察すること。これらの項目は、科目最終試験の重要な要素である。　①　視覚障害とは何か。主な視機能およびその検査。主な眼疾（テキスト第１章）　②　視覚障害特別支援学校（盲学校）の役割と就学支援（テキスト第２章、第３章、第４章）　③　視覚障害児（盲児、弱視児）に対する指導内容・方法（テキスト第５章）　④　視覚障害児（盲児、弱視児）に対する自立活動の指導（テキスト第６章）　⑤　視覚障害児（盲児、弱視児）のための教材･教具（テキスト第７章）　⑥　乳幼児期における支援（テキスト第８章）
■学習の到達目標	視覚障害教育について総合的な知識を広げ見識を深める。　視覚障害の生理･病理的および心理的特性を理解し、その障害特性を配慮した教育方法について理解を深める。
■成績評価の基準	「科目最終試験受験にあたっての留意点」に示した内容について、その学習の理解度、および、考察の深度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。

授業科目	聴覚障害教育総論				単位	2.0
担当者	菅原　伸康			シラバスグループ	TS5682	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
聴覚障害教育これまでとこれから：コミュニケーション論争･９歳の壁･障害認識を中心に	脇中起余子著	北大路書房	[ISBN]9784762826900

■授業の概要	三重苦として知られるヘレン･ケラーは､｢目が見えないことは、人と物を切り離す。聞こえないことは、人と人を切り離す｣､｢五感のうち、最も大切なものは聴覚」と語ったといわれているが、昔「聞こえない」ことは「話せない」ことを意味していた。　そして、現在も、言語獲得期以前に失聴した聴覚障害児は、日本語の獲得が大きな課題となる。　小学校低学年までの学習はできても、小学校高学年以降の学習が難しいという「９歳の壁」現象がよく見られる。　「障害者だけがバリアをこわす努力をすべき」という考え方から､｢バリアフリーに向けての努力は、障害者と非障害者の双方に求められる」という考え方に変わってきており、聾学校の中でも「発音指導の目的」や「手話に対する見方」などは大きく変わってきている。　現在､｢手話では、日本語力は育たない。聴覚口話法でなければならない」という主張から､｢手話を第一言語として十分に獲得しさえすれば、あとは文字との接触だけで書記日本語を獲得できる（発声や聴覚活用は必要ではない)」という主張まで、いろいろな主張が見られる。　さらに、現在の特別支援学校への転換の中で、また、手話の獲得が（書記）日本語の獲得に直結していない状況が見られる中で、コミュニケーションの保障と日本語教育や教科指導のあり方を再検討する必要がある。
■学習の要点	下記の点について学習し、理解を深めてほしい。　１．聴覚障害の種類（伝音性難聴や感音性難聴）について理解しておくこと（なお、聾学校の児童生徒の大半は、感音性難聴である)。　２．言語獲得期以前に失聴すると日本語の獲得が困難になるが、その日本語力や学力を獲得させるために、以前は、手話併用を認めるかという「口話−手話論争」が起き、最近は、口話併用を認めるかという「手話−手話論争」が起きていることについて理解しておくこと。　３．現在も「９歳の壁」にぶつかる聴覚障害児が多く見られるが、その現象とその克服の方向性について、考察を深めておくこと。　４．新生児スクリーニングの広がりに伴い、聴覚障害が超早期に発見されるようになったが、聴覚障害児の９割は聴者の親から生まれることを念頭に置きながら、両親援助のあり方や、親や本人などの「障害認識」のあり方について、考察を深めておくこと。　５．特別支援教育への転換が起きた経過を整理する中で、聴覚障害教育関係者の多くが現在抱いている懸念事項について知り、聴覚障害教育の今後のあり方や留意点を考察すること。
■学習の到達目標	本の引用にとどまらず、自分のことばで述べるようにすること。　大切なのは、現実を冷静に見つめ、足を地に着けて実践することである。そのために、聴覚障害の種類や補聴器（人工内耳を含む）の効果と限界、手話の種類とそれぞれの特徴、聴覚障害教育の歴史や、現在の聴覚障害教育（聾学校・難聴学級・通級など）の実態、サラマンカ宣言に対する聴覚障害

	教育関係者などの反応について、一定知識として知っておいてほしい。また、生活言語と学習言語の違い、抽象的な日本語の獲得や抽象的思考が難しくなる理由とその克服の方向性、聴覚障害児・者
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現できているかを成績評価の基準とする。

授業科目	学校経営と学校図書館				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校経営と学校図書館〔改訂新版〕	野口武悟・前田稔編著	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595317538

■授業の概要	学習の内容として、学校図書館の意義と役割、管理と運営面を概説するとともに、公共図書館との連携・協力にも触れながら現状と課題について考察を深めたい。　司書教諭、学校司書の役割と任務、学習情報センターとしての学校図書館、図書館の相互協力とネットワーク、地域社会に対する学校図書館の役割、「人間としての在り方・生き方」に寄与する学校図書館などを学習の課題としたい。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）（１）学校の中にある「学校図書館」の果たすべき役割についてまとめること。→まとめるために：学校教育が目指すゴールは「児童生徒の生きる力を育てる」つまり、「生涯学習者として育てていく」、児童生徒を生涯学習者として支援していくために、学校図書館はどのような役割を果たすのか。児童生徒に身につけさせたい具体的な支援も含めて考えてみよう（第１章、第５章）。（２）1953 年の学校図書館法制定時と比べ、1997 年及び 2014 年の学校図書館法の一部改正では何が変わったのか。→まとめるために：学校図書館のどのような点が変わったのかを理解するうえで、司書教諭と学校司書に着目して、学校図書館法を時系列で整理してみよう（第 2 章、第 4 章）。(3) 学校図書館の現状と課題は何かについてまとめること。→まとめるために：学校図書館の現状を各種データに基づいて把握し、そこから見えてくる課題を指摘すること（第 3 章）(4) 学校図書館経営を行う際に、なぜ、学校経営の視点が必要なのか。そして、学校図書館経営のポイントについてまとめること。→まとめるために：本が好きという理由のみで、学校図書館経営が務まるだろうか。学校図書館経営が目指すところは何か、学校教育の目指す点に着目してみよう。そのうえで、学校図書館経営ではどのような点に注意すべきか、マネジメントサイクルの考え方、学校図書館評価の意義、評価の対象、評価の方法及び改善の視点を軸にして、整理してみよう。（第 7 章、第 8 章）。（５）なぜ、図書館ネットワークが必要なのか。学校図書館支援センターでの実践例を踏まえて、まとめること。→まとめるために：図書館協力のねらいと意義、学校図書館支援センターでの実践例を踏まえて、図書館ネットワークを形成する必要があるのかについて、自身の考えをまとめてみよう（第 14 章）（６）教育課程における学校図書館活用を発展させるために、管理職、司書教諭と学校司書、ボランティアとの協働について、「チーム学校」の視点を軸にまとめること。まとめるために：「チーム学校」の定義を示したうえで、全校体制で学校図書館活用教育を進めるために管理職の役割、司書教諭と学校司書の協働、ボランティアとの連携に関して、まとめてみよう（第 6 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを読むための 6 つの視点に沿って、6 つのテーマを理解・説明できることが目標である。「学習の要点」にある 6 つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	学校図書館メディアの構成				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
探究学校図書館学　学校図書館メディアの構成	「探究　学校図書館学」編集委員会	全国学校図書館協議会	[ISBN]9784793322754

■授業の概要	児童生徒が学校図書館で求める情報に主体的にアクセスできるようにするには、学校図書館メディアとして必要な情報資源と、それへの適切なアクセスツールを用意していることが必須条件となる。　本科目では、上記のコンセプトに基づいて、学校図書館に具備すべき情報資源（学校図書館メディア）の種類と特性、学校図書館メディアの選択・収集と管理、メディアの組織化について概観する。
■学習の要点	以下の点を中心にテキストを読み進めてまとめること。なお、本科目の参考動画の視聴も参考になる。1. ①　メディアの「組織化」とは何か。メディアの「組織化」の定義を（1～3 行）踏まえたうえで、②　学校図書館において、メディアの「組織化」が児童生徒にとってどのような影響を与えるについてあなたの言葉でまとめてみよう。→まとめるために：児童生徒が自分の知りたい情報を見つけるために、学校図書館としてどのような手立てが必要か。メディアの「組織化」の定義や「組織化」の意義に着目して、「組織化」がなされていなかったら児童生徒は知りたい情報を見つけられるのかなど、あなたの言葉でまとめること。（テキスト p.79~89.p.9~18)2.　学習に特別な支援を必要とする児童生徒の学習支援ツールとして期待される学校図書館メディアの特性と活用について、あなたの言葉でまとめてみよう。→まとめるために：　学習支援ツールとして、マルチメディア DAISY などが注目されている。なお、学習障害については、文部科学省のサイト→特別支援教育について→主な発達や障害の定義について→学習障害 (LD)の定義が、確認できる。根拠としたものには出典をつけること（テキスト pp.19~37)3.　新たに赴任した学校図書館には古い資料が多く余り活用されていないとする。司書教諭、あるいは学校司書としてどのように資料を整備していくか。校種を設定して具体的な計画を述べなさい。→まとめるために：蔵書構築のプロセスでは、学校図書館にある蔵書の０類から 9 類の割合について学校図書館メディア基準の蔵書配分比率を用いて確認しているか。各資料のジャンル（0~9 類）で配分比率よりも多すぎるジャンル（0~9 類）はどれか。そして、学校図書館廃棄基準*をもとにして、資料の廃棄を行っているか。資料の補充、あるいは、蔵書配分比率よりも資料が少ないジャンル（0~9 類）については、資料の収集方針にもとづき資料を収集しているかに着目する。なお、根拠としたものには出典を明記すること（pp.53-78)。*学校図書館廃棄基準 改訂版（2021 年 12 月 1 日）https://www.j-sla.or.jp/material/kijun/post-36.html４．探究的な学習において、「環境」というテーマを出した際に、児童生徒が環境テーマに関連して資料を入手するために、件名標目と所在記号（請求記号）について、どのように生徒に説明するか。説明する際には、児童生徒に語りかけるように話し言葉を用いて説明しよう。→まとめるために：　ヒント 1：児童生徒に件名標目や、所在記号（請求記号）の目的は何かを最初に説明した方が児童生徒にとってはわかりやすい　ヒント 2　件名標目については、件名とは何か、標目（アクセスポイント）とは何かを理解すると教えやすい。p., 129～131, 90

	～93.　　＊ キーワードと件名の違いは何か　　ヒント 3　所在記号の意味 p.80～81., 件名の意味 p.130L4.　ヒント 4　以下の a と b は５の学習の参考である。　a. タイトル、著者もわからない場合、OPAC のどの部分に注目して探索させるか、（テキスト pp.130 第２段落.カード目録・コンピューター目録ともに、基本は同じ。件名標目（アクセスポイントに着目して）　b.　本人にとって必要な資料を OPAC で見つけたのち、OPAC のどの部分と、資料のどの部分に着目して書架から必要な資料を入手するのか。分類の観点から、所在記号（または、請求記　号）に着目して。５　児童生徒が知りたい情報や資料を探すため、学校図書館メディアの配架やサイン表示をどのように工夫するか（サイン計画)。校種を設定したうえで考えてみよう。→まとめるために： 例えば、小学校を選択した場合、小学校 1 年と 6 年では、身体面や精神面で異なる。配架やサイン計画が同一だと、児童が混乱しないか。児童生徒を思い描いて、具体的な工夫を考えてみよう。(pp.82-86）6　目録とは何か。次に、2 つの図書館のコンピューター目録（OPAC）を用いて、『イチロー物語』の結果である資料詳細について、同じ結果であったかを比較検討して、あなたの所見をまとめてみよう。資料詳細では、次の 2 点について、それぞれ 2 館ごとの比較を行うこと（うち、1 館は京都市立図書館を用いること)。①『イチロー物語』の検索結果画面にある書誌的事項(例：タイトル、著者、件名など）では何を取り上げているか　それぞれの書誌的事項は 2 館すべて同じ事項をとりあげているかどうか。②書誌的事項に記載されていた記録（内容）の表示の仕方は 2 館すべて同じかどうか。それぞれ、比較したうえで、あなたの所見をまとめてみよう。→まとめるために：インターネットを利用して、よく利用する図書館と京都市立図書館の蔵書検索を用いて結果の資料詳細の各書誌的事項と各書誌的事項に記載されていた記録（内容）の表示の仕方（例えば、著者についての記載表示の仕方はどのようになっているか）目録の定義についてはテキスト p.90 記録（内容）の表示の仕方の基準については、テキスト p.90～93,102～108＊＊目録について理解を深めるために：目録作成の意義と、日本の学校図書館で標準的な規則となっている「日本目録規則」に準じた記録のしかたを確認すること(手元にある資料について、目録を作成する演習を行うこと)。コンピュータ目録整備のプロセスについて確認すること（第 5 章）

■学習の到達目標	テキストを理解するためのポイントに沿って、各テーマを理解・説明できるようになるだけでなく、それぞれに必要な作業を計画できるよう、具体的に理解すること。　「学習の要点」にある各ポイントを整理したうえで、科目最終試験に臨んでください。

■成績評価の基準	問題に沿った解答であること（30)、問題内容についての正しい理解（用語の正確な使用を含む）(50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	学習指導と学校図書館				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5703	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学習指導と学校図書館〔改訂新版〕	堀川照代・塩谷京子編著	放送大学教育振興会	[ISBN]9784595316500

■授業の概要	「学校教育は何をめざしているか」「なぜ学校教育に学校図書館が必要か」、「児童生徒が生涯学習者として成長していくうえで、学校図書館から、どのような支援が提供できるか」といった学校図書館のヴィジョン（展望）に注目したい。特に、「教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成する」ための学習情報センター機能に焦点をあてる。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）＊各章では最初に、目標とその章のポイント、そしてキーワードが書かれている。必ず目を通すこと。（１）なぜ、学校図書館に「学習指導」が関わるのか。まとめるために：学校教育そのものが変わる中で、児童生徒に求められている力を確認し、学習指導要領のめざすもの、学習指導と学校図書館の利活用に着目して考えを自身の言葉でまとめてみよう（第 1 章）（２）総合的な学習（探究）の時間で想定されている「探究的な学習における生徒（児童）の学習の姿」と関連付けながら、Big6 スキルモデルが着目される理由について自身の言葉でまとめてみよう。まとめるために：まず、第１章で「探究的な学習と学校図書館」を確認しよう。次に、情報リテラシーの定義を踏まえて、プロセスアプローチの意義を確認しよう。そして、情報リテラシーモデル（特に Big6 スキルモデル）は探究学習を行ううえで、なぜ児童生徒にとって活用しやすいかに着目してみよう（第 2～3 章）（３）児童生徒の情報リテラシーを育成するために、探究的な学習（調べ学習）において司書教諭と学校司はどのような協働が考えられるか。まとめるために：司書教諭と学校司書はそれぞれどのような専門性を有しているのかを踏まえたうえで（第 15 章）、児童生徒の情報リテラシーを育成するために、司書教諭、学校司書が教科担当とどのように授業に関わっていくのかに着目しよう（第 4 章、第９～11 章）なお、具体的なイメージを得るうえで、「学校図書館活用データベース」のサイトは参考になる。（４）①情報リテラシーの定義を簡潔に述べる。②　そして、司書教諭あるいは学校司書の立場を選択したうえで、児童生徒に情報リテラシーを身につけさせていくために、司書教諭あるいは学校司書はどのような支援ができるか（支援という言葉に留意）。根拠としたものには出典をつけること。まとめるために：情報リテラシーの定義を確認する。そして、情報リテラシーを児童生徒に身につけさせていくうえで、どのようなアプローチで支援ができるか。例えば、オリエンテーション中に Big6skills model の紹介、ポスター掲示など、あなたはどのような手立てを行いますか（第 5～8 章）（５）特別な教育的ニーズをもつ児童生徒に対して学校図書館としてどのような学習支援ができるか。まとめるために：「特別な教育的ニーズ」の定義をまず確認しよう。そして、学校図書館のもつ学習センターの機能を踏まえて、司書教諭、あるいは、学校司書の視点で「特別な教育的ニーズ」をもつ児童生徒にどのような学習支援ができるかを考えてみよう。特別支援教育における学校図書館の利用、ICT 活用と学

	校図書館も参考になる（第 12～13 章）（６）児童生徒に対するレファレンスサービスでは、どのような点に重点を置いているのか。まとめるために：最初に、レファレンスサービスと情報サービスの定義を確認してみよう。そして、レファレンスサービスを通して、児童生徒にどのような力を身につけさせていきたいのか。そのために、レファレンスサービスでは、どのような点に重点を置いているのかをまとめよう（第 14 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できることが目標となる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。

■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	読書と豊かな人間性				単位	2.0
担当者	松戸　宏予			シラバスグループ	TS5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読書の指導と学校図書館（学校図書館学 2）	小川三和子著	青弓社	[ISBN]9784787200563

■授業の概要	主に、読書の意義、読書興味の発達段階、子どもと本を結ぶための方法、多様な児童生徒に対する読書指導、読書教育に関わる司書教諭、学校司書の役割、地域社会との連携による読書支援についてを学習する。
■学習の要点	知識を体系化していくために、以下の６点を中心にテキストを読み進め、まとめること。（各項目の括弧内は、指定テキストの該当章を示している）（１）この科目名には「読書と豊かな人間性」という名前がつけられています。なぜ、読書と豊かな人間性なのか。→まとめるために：子どもの読書の意義や、学校図書館における「読書センター」の機能に着目して、あなたの言葉でまとめること。根拠としたものには出典をつけること（第 1 章）（２）①阪本一郎の読書興味の発達の段階モデルとあなたの読書体験を段階ごとに比較しなさい。②比較したうえで、総括としてあなたの意見をまとめること。→まとめるために：阪本一郎版とあなたの体験版を阪本の読書興味の発達の段階に沿って表にして比較すると総括しやすい。根拠としたものには出典をつけること（第 3～4 章）（３）ある児童生徒が物語系のジャンルしか読まない。あなたは、その児童生徒に他のジャンルも手に取ってもらいたいと考えている。そこで、あなたはどのような方法で読書を誘うか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：児童生徒と本を結ぶための工夫についての方法と配慮すべき事項をまとめること。特に、読み聞かせ、ブックトーク、読書へのアニマシオンについては、別に提示する参考文献も合わせて参照すると良い。根拠としたものには出典をつけること（第 5～7 章）（４）読書感想文指導について、あなたはどのように評価するか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：意義ある取り組みであると評価する場合も、批判的な主張を展開する場合も、根拠としたものには出典をつけること（第 8 章）（５）読書活動を推進するため、組織として学校図書館は公共図書館、家庭・地域とどのような連携が行えるか。→まとめるために：　読書活動を推進するためには、各学校図書館の担当者のみの力では限界がある。組織として学校図書館が公共図書館、家庭・地域とどのような連携が行えるか。実践例の羅列ではなく、実践例から、このような連携ができるといったことをまとめてみよう。例えば、学校図書館支援センターに着目すると、公共図書館とこのような連携ができるなど。根拠としたものには出典をつけること（第 11 章）（６）特別な教育的ニーズをもつ児童生徒に対して、実践指導に着目してどのような読書指導を試みたらよいか。司書教諭あるいは、学校司書の立場を選択してまとめること。→まとめるために：　あなたが思い浮かべた特別な支援を要する児童生徒はどのような特性があるか。その児童生の特性に沿って、どのように読書指導を試みるか（例えば、LD（学習障害）の児童生徒に対してどのような方法で実践指導するか）根拠としたものには出典をつけること（第 12 章）

■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できることが目標となる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20%）、知識として理解しているか（50%）、構成（論理性）（10%）、書式スタイル（10%）、オリジナリティ（10%）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	情報メディアの活用				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報メディアの活用（探求学校図書館学；第 5 巻）	「探求　学校図書館学」編集員会・編著	全国学校図書館協議会	[ISBN]9784793322785

■授業の概要	本科目は、国家資格である司書教諭資格取得を前提とした必修科目である。小・中・高等学校、特別支援学校の学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。通信教育の特性上、情報メディアの種類と特色（現物提示）や、その活用方法（実技）については、担当教員から実物や実演を見せることが、かなわない。そこで、自らの学校図書館での経験を振り返ったり、可能な範囲で実在する学校図書館に赴き観察したり、web 上で、実在する学校図書館における実物・実技を検索したり、動画を視聴したりして、これからの教育現場での活用方法を模索してほしい。
■学習の要点	文部科学省から提示された下記の重要項目を確認した上で、学習・理解したい。1.高度情報社会と人間（情報メディアの発達と変化を含む） 2.情報メディアの特性と選択 3.視聴覚メディアの活用 4.コンピュータの活用・教育用ソフトウェアの活用・データベースと情報検索･インターネットによる情報検索と発信 5.学校図書館メディアと著作権、情報モラル以下の 6 点について、テキストに従って学習をすすめてほしい。また、学びをより深めるためには参考文献を読み、調査によって具体的な事例を吸収すること。さらに、実際の学校で行われている学校図書館の情報メディアを活用した授業事例に学びながら、これからの学習教育活動の展開に貢献するような取り組みを模索すること。①メディアリテラシーの定義を確認したうえで、メディアリテラシーと学校図書館のかかわりについてまとめること。②学校図書館が学習・情報センターとしての機能や教員への支援機能などを発揮するうえで、どのような工夫・手だてが必要かをまとめること。③情報メディアとは何か。特に学校教育における情報メディアの意義と活用を、「学習」と「教授」という 2 つの視点から考えること。④様々な情報メディアの種類とそれぞれの特性について分類をもとに理解し、テキストに掲載されている以外の具体的な事例を調べて、効果的な選択方法について理解すること。⑤コンピュータなどの情報機器の有用性を理解した上で、児童生徒の情報行動の実体を把握し、指導上の留意点についてまとめること。⑥司書教諭として、著作権や情報モラル教育を行う際、どのような点を中心に児童生徒に教えるかをまとめること。
■学習の到達目標	・学校図書館における多様な情報メディアの種類と特性、それぞれの選択・活用方法について理解する。・司書教諭として知っておくべき、伝統的な情報メディアにくわえて、各種教育用ソフトウェアやコンテンツ、データベース等 web 情報の活用、並びに情報検索・発信の方法、著作権、情報モラル等を理解する。・これらを理解することによって、情報に等しくアクセスすることを使命とする学校図書館において、司書教諭として児童生徒及び教員の学習教育活動の進展を支え、教育課程の展開に寄与できるようになる。・さらに情報メディアの活用に関

■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館概論				単位	2.0
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	TS5711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館の基礎と展望（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望;1）第 2 版	二村健著	学文社	[ISBN]9784762028885

■授業の概要	・図書館に関する基礎的な知識を培い、図書館の全体像を把握するうえで重要な事項について学ぶ。　図書館の意義、図書館の種類と機能、図書館資料、図書館政策、図書館関連法規、図書館の課題と動向等が対象となる。・図書館奉仕の内容、図書館の管理と運用、図書館の自由、図書館員の責務など、基本的な事項について理解を深める。・マルチメディアやインターネットが普及している今、図書館は生涯学習の中核的な拠点とも考えられている。図書館のネットワーク化や著作権の問題にも取り組み、時代に沿った図書館の在り方について十分な理解に努める。
■学習の要点	テキストを理解するために、以下の６つの視点でまとめていくこと。1.　図書館法における図書館の位置づけを整理したうえで、図書館の役割についてまとめる(テキスト pp.24-31,98-100 のほか、同シラバスの参考文献も参考になる。図書館法とのかかわりを中心に、図書館の役割をまとめる)。2.「図書館の自由」とは何かを整理したうえで、図書館員の倫理綱領（目的と内容）についてまとめる(テキスト pp.83-85)。テキストの参考文献 3 の具体的な事例も参考になる。3.「中小レポート」の政策と言われる『市民の図書館』が当面の課題として取り上げた図書館奉仕活動の内容についてまとめる(テキスト　中小レポート pp.45-47, 市民の図書館 pp.47-49)。4. 公共図書館のネットワーク化の必要性・意義および内容についてまとめる(テキスト p.42)。　補足：東京書籍『新訂図書館概論』「第 10 章　図書館･情報提供施設の相互協力･ネットワーク化とボランティア活動」2005,pp.251-254　も参考になる。5. 図書館サービスにかかる問題を１つ取り上げて、問題内容、その問題の背景、その問題が及ぼす影響、図書館員としてその問題にどのように向き合うかをまとめる(テキスト pp.86-91)　意見を述べる際に、その意見を裏付ける（根拠や数値的データ）を含めること。根拠がないと、主観（思い込み）で書いてしまうので注意すること。6. ５つの図書館の種類、５つの図書館の主な対象者と提供するサービスの特徴についてそれぞれまとめる(テキスト p.56,pp. 58-67)。　ヒント：５つの図書館の種類については p.56 の社会制度上の区分けを参考にする。具体的な 5 館種についての説明は pp.58-67 を参照。
■学習の到達目標	学習の到達目標：上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。知識として、６つのポイントを体系化して欲しい。
■成績評価の基準	・テキストのほかに参考文献を読み、積極的に学ぶ姿勢が見られること。テキスト等に書かれていることをそのまま書くのではなく要約する、最小限の引用で補足するなどしてリポートや試験解答を行っていること。説明には、具体的な例示を加えて読み手に意図が伝わりや

	すいように工夫するとよい。· 参考文献、引用文献や参照文献を参考文献欄に記載しており、かつ必要な書誌情報が漏れなく記載されていること。科目最終試験の採点基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（1

授業科目	図書館制度・経営論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館制度･経営論(JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；2)	永田治樹編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820415183

■授業の概要	図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について理解するとともに、図書館の管理や経営についての考察を深める。職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などについて学習する。１） 図書館法について２） 他館種の図書館に関する法律等 ３） 図書館サービス関連法規 ４） 図書館政策（国、地方公共団体） ５） 公共機関・施設の経営方法（マーケティング,危機管理を含む） ６） 図書館の組織・職員（組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携） ７） 図書館の施設・設備 ８） 図書館のサービス計画と予算の確保 ９） 図書館業務・サービスの調査と評価 １０） 図書館の管理形態の多様化
■学習の要点	近年、公共図書館の貸出冊数、設置率など急速に発展してきた。また一方で、社会情勢の変化や情報化の進展に伴い、地方財政問題、職員問題、管理主体の多様性など、図書館経営のあり方が問われている。さまざまな意見を参考にし、持続発展可能な公立図書館の制度・経営とはどうあるべきか、主体的に学び、自らの意見を持ってほしい。 テキスト等を参考に下記の点を理解すること。１） 図書館法について理解する２） 他館種の図書館に関する法律、図書館関連法規を概観する ３） 図書館の経営視点の必要性 ４） 図書館の計画と評価 ５） 図書館サービス計画と施設計画 ６） 公立図書館の組織、館長のリーダーシップ、職員の養成･育成 ７） 図書館の財務と振興計画、課金問題 ８） 管理運営形態の多様化 ９） 今後の図書館経営のあり方
■学習の到達目標	上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを通読し必要に応じて参考文献などを用いて次のテーマを理解・説明できること。1.図書館奉仕、無料の原則、職員、図書館協議会という点から図書館法を理解すること。 2.現在、公立図書館は経営的視点が求められている。公立図書館を経営するとはどういうことか 多角的にとらえる。「経営」に対する一般的な定義を理解し、現代的な経営課題や図書館の使命、目的を理解すること。（テキスト :unit11,12 参照。）3.図書館長の役割、職員の育成、図書館組織について理解する
■成績評価の基準	成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）（10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書館情報技術論				単位	2.0
担当者	杉岡　和弘			シラバスグループ	TS5713	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　図書館と情報技術	田窪直規編	樹村房	[ISBN]9784883672745

■授業の概要	現代の図書館業務においては、大学図書館、公立図書館、学校図書館などいずれの図書館においても「情報技術（Information Technology）」は欠くことができない存在です。このコンピュータを中心とする情報機器に関する知識や、それを用いて的確な情報処理を遂行するための実務を身につけることが求められています。この図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータ等の基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料、コンピュータシステム等について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。　1.コンピュータとネットワークの基礎 2.情報技術と社会 3.図書館における情報技術活用の現状 4.図書館業務システムの仕組み(ホームページによる情報の発信を含む)5.データベースの仕組み 6.検索エンジンの仕組み 7.電子資料の管理技術 8.コンピュータシステムの管理(ネットワークセキュリティ、ソフトウエア及びデータ管理を含む)9.デジタルアーカイブ 10.最新の情報技術と図書館　また、テキストの第 10 章は、検索技術者検定 3 級の出題範囲になっています。検索技術者検定は、企業、大学、組織等において、研究開発やマーケティング、企画等のビジネスで必要とされる信頼性の高い情報を入手して活用できる専門家を育成するための検定です。（https://www.infosta.or.jp/examination/）検索技術者検定 3 級対応テキストを併読してチャレンジしてください。
■学習の到達目標	「学習の要点」に示す事項について、単に暗記するのでなく、実践と資料等を駆使して理解し納得すること。「答案」評価の基準および作成上の留意点は、レポートと共通である。そのうえで、　1.図書館の現場で必要となる基礎的な情報技術の知識を身につける。2.知識を活用して図書館が直面する今日的な課題に対応することができる。3.インターネット上の情報源や電子出版の動向などを理解し、それらと連携した図書館サービスを展開することができる。4.情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ、情報サービス論とあわせて履修することにより、「検索
■成績評価の基準	1.構成（書式、章立て、文体の統一、見出し、引用）がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容（設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量）について、どれほど広く学び取ったか。3.論理性と表現（客観的理解、考察の内容、端的で明快）について、どれほど深い思考か。4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。5.その他の優位点。独自のアイデ

授業科目	図書館サービス概論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5714	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
改訂 図書館サービス概論	高山 正也・村上篤太郎　編著	樹村房	[ISBN]9784883672943

■授業の概要	図書館サービスとは何か、その理念や意義と歴史的背景を学習し、各種サービスの現状と課題を把握するとともに、情報化の進展を踏まえたこれからの図書館の役割や図書館像を考察する。具体的な学習項目を以下に掲げる。（１）図書館サービスの理念と意義（２）図書館サービスの計画と評価（３）図書館活動の発展（４）図書館サービスの現状と課題（５）図書館活動における自由の問題（６）図書館づくりの政策と運動
■学習の要点	以下の点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館サービスはどのような理念や意義に基づいて展開されているのか、「ユネスコ公共図書館宣言」、「公立図書館の任務と目標」、「文字・活字文化振興法」と図書館関連法規等を踏まえて学習する（２）図書館サービスの計画と評価について、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や具体例を学習する。（３）図書館活動の発展について、歴史的背景における『中小都市における公共図書館の運営』、『市民の図書館』、「これからの図書館像　一地域を支える情報拠点をめざして（報告）」等の内容の理解と社会変化に対応した図書館の役割や図書館像を考えること（４）図書館サービスにおける資料・情報の提供、アウトリーチ活動、全域サービスと図書館システム、技術革新、図書館協力とネットワーク、都道府県と国の図書館活動、学校・大学図書館等との連携・協力、集会・文化・広報活動の現状を学習するとともに、これらのサービスにおける課題を把握すること（５）図書館活動における自由の問題について、「図書館の自由に関する宣言」を理解し、具体的な事例を学習すること。また「図書館員の倫理綱領」についても理解し、学習すること。（６）図書館づくりにおける指定管理者制度等の政策の動向と住民参加やボランティア活動の現状を把握すること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	情報サービス論				単位	2.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS5715	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望４　情報サービス論	竹之内 禎	学文社	[ISBN]9784762021947

■授業の概要	図書館における情報サービスとは何か、その意義･種類とサービスの実際を学習し、様々な情報源の利用法を理解する。また情報化の進展に伴い、これからの情報サービスはどうあるべきかを考え、図書館員がなすべきことなどを考察する。学習項目を以下に掲げる。（１）情報サービスの種類（２）情報サービスの理論的展開（３）レファレンスサービスの理論と実践（４）レファレンスサービスの実際と情報検索サービス（５）各種情報源の特質と利用法（データベースを含む）（６）各種情報源の評価と解説、その組織化（７）発信型情報サービスの意義と方法（８）情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識（９）図書館利用教育と情報リテラシーの育成（１０）これからの情報サービスについて：展望
■学習の要点	以下の 10 点に注意して学習を進めていくこと。（１）図書館における情報サービスの代表的な種類である下記のサービスについて、その具体的内容を学習すること　・直接サービス　・間接サービス　・課題解決支援サービス（２）情報サービスの理論的展開について、下記の事柄を学習すること　・定義　・図書館の種類と重視される情報サービス機能　・図書館の機能とレファレンスサービス理論（３）レファレンスサービスの理論と実践について、下記の事柄を学習すること　・図書館の教育機能と情報提供機能　・人的援助と物的援助　・レファレンスサービスの実践とレファレンス力（４）図書館現場でのレファレンスサービスをおこなううえでの注意点と実際のプロセス（テキスト p.27 図 4-4）とあわせて、データベースを利用した情報検索サービスのための理論と方法を学習すること（５）各種情報源の特質と利用法について、情報メディア・文献・データベースの検索など具体例で学習すること（６）代表的なレファレンスツールとして、レファレンスブックの評価と内容を学習するとともに、情報源の組織化について学ぶこと（７）発信型情報サービスの意義と方法について、パスファインダーなど電子情報技術を利用した新しい情報サービスの意義・形態とあり方を学習すること（８）知的財産権の骨格を学び、図書館での情報サービスに必要な知識を習得する（９）公共図書館における情報リテラシー教育の必要性とサービスの事例を学習すること（１０）これからの情報サービスのあり方、図書館や図書館員がなすべきこと、求められていることについて考えること
■学習の到達目標	学習の到達目標として、シラバスの「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習を進めること。
■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　とする。

授業科目	図書館情報資源概論				単位	2.0
担当者	杉岡　和弘			シラバスグループ	TS5717	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論（改訂）	岸田和明	樹村房	[ISBN]9784883673384

■授業の概要	従来の図書館では、印刷刊行物（書籍、雑誌、新聞など）と非印刷刊行物（レコード、CD、ビデオ、点字・録音資料）が主な図書館所蔵資料でした。しかし、現代の図書館では、パッケージ情報資源（CD-ROM で提供される情報資源など）やネットワーク情報資源（ウェブサイトや電子書籍、電子ジャーナルなど）を加えて、図書館情報資源とし、図書館業務を行っています。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源を情報・資料・メディアととらえて図書館情報資源について学び、図書館情報資源の生産（出版）と流通の実際、図書館コレクションとしての形成及び提供する理論（資料の選択・収集・評価)、方法について学習します。
■学習の要点	テキスト学習を進めるにあたり、以下の 10 項目をまとめておくこと。 1）印刷資料・非印刷資料の類型と特質(図書・雑誌・新聞、主要な一次・二次資料、資料の歴史を含む)2）電子資料、ネットワーク情報資源の類型 と特質 3）地域資料、行政資料(政府刊行物)、灰色文献 4）情報資源の生産(出版)と流通(主な出版者に関する基本的知識を含む)5）図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基本的知識を含む)6）コレクション形成の理論(資料の選択・収集・評価)7）コレクション形成の方法(選択ツールの利用、選定・評価)8）人文・社会科学分野の情報資源とその特性 9）科学技術分野、生活分野の情報資源とその特性 10）資料の受入・除籍・保存・管理(装備・補修・排架・展示・点検等を含む)
■学習の到達目標	1.印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、 歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を理解する。2.図書館情報資源をめぐるさまざまな課題について，具体的事例がとともに理解できていること。3.事実とデータに基づき自分の意見を論理的に表現することができるようになっているか 。
■成績評価の基準	1.構成(書式、章立て、文体の統一、見出し、引用)がしっかりしていて、注意深くしっかりていねいに書かれたか。2.内容(設題の主旨に応える、設題の条件に適う、参考/引用元とその量)について、どれほど 広く学び取ったか。 3.論理性と表現(客観的理解、考察の内容、端的で明快)について、どれほど深い思考か。 4.学習量として、参考とした文献は多いことを評価する。少なくとも引用した数だけ資料等に 当たって学習したと評価できる。反対に、1 冊だけからしか引用がない場合は学習不足とする。 5.その他の優位点。独

授業科目	情報資源組織論				単位	2.0
担当者	蟹瀬　智弘			シラバスグループ	TS5718	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
情報資源組織論　三訂（現代図書館情報学シリーズ 9）	田窪直規　編	樹村房	[ISBN]9784883673391

■授業の概要	図書館情報資源を効率的に利用するための技術である目録と分類について、その理論と技術を学修する。資料の特徴を記す記述目録法と、内容から資料にたどり着きやすくするための主題目録法、およびネットワーク上の情報資源を組織化するメタデータについて学修する。

■学習の要点	指定されたテキストだけでなく、参考文献に挙げた教科書なども参考にすると理解しやすくなる。記述目録法、主題目録法、メタデータなどについて、なぜ必要なのか、どのような効果があるのかを考えながら学習するとよい。

■学習の到達目標	図書館情報資源組織化について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データに関する理論と技術を修得する。ただし目録や分類等の技術は情報資源組織演習で修得するので、本課目では理論を理解することを目標とする。

■成績評価の基準	情報資源組織において重要なキーワードを理解しているか、適切に説明できているかを評価する。

授業科目	児童サービス論				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5720	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
児童サービス論　新訂版（ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ　3−6）	堀川照代　編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820419099

■授業の概要	本科目は、国家資格である司書資格取得を前提とした必修科目である。本科目における「児童」とは、学校教育における児童（小学生）ではなく、児童福祉法における児童（0 歳から 18 歳未満）を指すことに留意してほしい。したがって、本科目における「子ども」とは、児童（0 歳から 18 歳未満）のことを言う。また、本科目における「公共図書館」とは、図書館法における公立図書館と私立図書館の総称である。生涯学習のはじめの一歩となる、公共図書館における児童の発達段階に応じた各種のサービスや運営方法、児童資料等の特性、児童と資料を結びつける方法について総合的に学習する。通信教育の特性上、児童資料等の特色（現物提示）や児童と資料を結びつける方法（実技）については、担当教員から実物や実演を見せることが、かなわない。そこで、自らで実在する公共図書館や書店に赴いて児童書を手に取ったり、web 上で児童と資料を結びつける方法（実技）の動画を視聴したり、大学図書館などで関連する DVD を観て、自身でも実演を行ってみてほしい。なお、テキストにおいて「読み聞かせ」と表記されている部分を、担当教員は「読み語り」と表記している。
■学習の要点	児童サービスの要点は、(1)子どもを知ること、(2)子どものための児童資料を知ること、(3)子どもと児童資料を結びつけることである。このことを念頭に置いて、子どもの発達、児童資料、両者を結ぶ方法・技術、包括的な児童サービスの運営等を学習する。特に、以下の 8 点について、テキストに従って学習をすすめてほしい。また、学びをより深めるためには参考文献を読み、調査によって具体的な事例を吸収すること。　1. 児童サービスとは何か。児童サービスの意義。(テキスト：UNIT0〜3 が該当するが、テキスト全体から理解してほしい)　2. 子どもの発達と読書の関係。(テキスト：UNIT4〜6)　3. 児童資料の種類と類型の特色。(成人書との比較を含む)(テキスト：UNIT7〜14)　4. 児童コレクションの形成と管理。(どのようにして選択・収集し整理するのか)(テキスト：UNIT15〜17)　5. 児童サービスの運営。(テキスト：UNIT23〜29)　6. 子どもと児童資料を結びつける技術。(読み語り、ストーリーテリング、ブックトーク、アニマシオン、ペープサート、ビブリオバトル、リテラチャー・サークル、読みあい、科学あそび等々)(テキスト：UNIT18〜22、30〜33、及び web 上の動画や DVD など)　7. 乳幼児、ヤングアダルト、特別な支援を要する児童へのサービス。(テキスト：UNIT34〜42)　8. 公共図書館の連携・協力の必要性。(子ども読書活動推進計画、学校や地域との連携)(テキスト：UNIT43〜48)
■学習の到達目標	児童サービスの目的と意義を理解し、「子ども（乳幼児からヤングアダルト）の発達」と「児童資料」について知り、「子どもと児童資料を結ぶための技術」を習得して、児童図書館員としての専門性を身につける。

■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	図書・図書館史			単位	1.0
担当者	中山　愛理		シラバスグループ	TS5721	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書・図書館史（JLA 図書館情報学テキストシリーズ 3；11）	小黒浩司編	日本図書館協会	[ISBN]9784820412182

■授業の概要	現在の図書館は、多様な変化に直面し、課題をかかえています。このような変化や課題は、急に出現したわけでもありません。　これまでの図書館の長い活動ひとつひとつが積み重なって、やがて歴史となり、結果として導かれたものです。図書館情報メディアや図書館の歴史を学ぶことを通じて、現在の図書館、そしてこれからの図書館の在りようをを冷静に見通すことを目指します。
■学習の要点	テキストは、「記録メディアの歴史」、「図書館の歴史：世界」、「図書館の歴史：日本」から構成されている。最初に、全体の構成を把握してください。　次に、「記録メディアの歴史」の部分を熟読し、自分なりにまとめてください。　その後、「図書館の歴史：世界」及び「図書館の歴史：日本」を熟読してください。その際に、各時代の図書館に扱われていたメディアを「記録メディアの歴史」を参照し、確認しながら読み進めてください。そして、各時代の図書館のトピック（出来事）とメディアを対照させるようにまとめてください。 また、現在の図書館の状況や課題に通ずる内容が過去のどこに起因するのかも探ってほしい。
■学習の到達目標	・図書館情報メディアの歴史について説明することができる。・世界の図書館の歴史について説明することができる。・日本の図書館の歴史について説明することができる。
■成績評価の基準	・問題に即した解答がされているかどうか。・テキストの内容を理解した解答となってるかどうか。

授業科目	図書館情報資源特論				単位	1.0
担当者	白井　亨			シラバスグループ	TS5722	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館情報資源概論	藤田岳久編著／二村健監修	学文社	[ISBN]9784762021985

■授業の概要	研究・調査活動において冊子体の情報だけではなく、様々なネットワーク情報資源が必要不可欠である。図書館は資料・情報を利用者に提供するという役割を担っているが、従来型の冊子体の提供に加え、オンライン上で得られる情報をいかに提供できるか課題の一つといえる。　この科目は、人文科学、社会科学、自然科学・技術における学術構造と資料・情報との関係について理解を図り、各専門分野の資料・情報の特性と種類を解説・理解することをねらいとしてきた。デジタル化された学術情報の提供を抜きにしては考えられないが、人文・社会科学では、従来の書誌・索引類の利用も見られるため、専門領域によって、資料・情報へのアクセス方法が異なっていることを理解することも必要である。　学術情報の生産・流通・利用・評価は研究者がどのように研究成果を生産し、流通させ、利用しているのかその学術構造そのものと深いかかわりを持っている。その上で現在のネットワーク環境下における学術情報・資料について図書館とのかかわりを含めて理解する。そののち、各専門分野の特性を把握し、各分野の情報・資料について理解を深めることを最終的な目的としている。
■学習の要点	学術情報への理解には研究活動そのものへの理解が必要であり、各専門分野への理解の前提として、学術構造に対する理解も必要である。その上でネットワーク情報環境下における学術情報の変化、さらに図書館がどのようなかかわりを持つのか、理解を深めたい。図書館員として、各領域の学問的特性の理解、個々の資料・情報についての知識を得るとともに、使いこなせることが理想的である。特に大学図書館では、専門分野への理解を深化させることにより、高度な図書館サービスが期待される。以上について理解を図ることになるが、指定のテキストだけではなく、各参考図書等を参照しながら学習を進めてほしい。具体的な資料名やデータベースは参考図書のほか、最新の情報を調べ、可能なかぎり図書館で資料を手にしたり、オンラインデータベースを利用して欲しい。（ポイント）１．学術構造への理解との学術情報・資料の特徴　この項目について、テキストだけではなく参考図書を参照にして学習を進めてほしい。学術構造について把握するとともに、いかに学術情報にアクセスし、利用しているのかを理解する。学術情報の生産・流通・利用・評価と特性、一次資料と二次資料の特性及び種類について理解を図る。代表的な学術情報の探索行動について理解する。また、学術情報の評価につながる「ビブリオメトリクス」とその法則、引用分析、インパクトファクターなどについて調べておく。２．電子資料、ネットワーク情報資源　ネットワーク情報資源として、オンラインデータベースや電子ジャーナル、オープンアクセス、機関リポジトリなどの様々な事象について理解を深める。最新動向の把握にはテキストや参考図書の他、様々な図書やインターネット情報で調べておくこと。ネットワーク情報源にかかわる図書館を取り巻く現状や課題などについても理解を深めたい。３．地域資料、灰色文献　地域資料や灰色文献について、理解を深める。これら資料も研究活動を行う上で欠くことができない。これらの文献の特性や種類、社会的な役割、現状など理解を深めたい。４．人文科

	学分野の特性と人文科学資料・情報の特性と種類人文科学分野の学問的特性と、情報・資料の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについても理解する。人文科学とは何か、人文科学の情報源の特徴、研究者の情報利用、書誌コントロールについて理解する。人文科学の情報源の特性はテキストだけではなく参考図書も併せて参照してほしい。二次資料やデータベースについても、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。５．社会科学分野の特性と社会科学分野の資料･情報の特性と種類社会科学分野の特性と、資料･情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。社会科学とは何か、社会科学の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。社会科学の資料・情報の検索ツールは多様である。その種類や特徴を含め調べておくこと。例えば、統計データを探すツールにどのようなものがあるか調べること。二次資料やデータベースについても、様々な図書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。６．自然科学・技術分野の特性と自然科学・技術分野の資料・情報の特性と種類自然科学分野の学問的特性と、資料・情報の特性や種類を理解し、これらの検索ツールについて理解する。自然科学・技術とは何か、自然科学・技術の情報源の特性と種類、研究者の情報利用、書誌コントロールなどについて理解する。また、技術分野には規格資料や特許資料、テクニカルレポートなど特徴的な資料があり、それらの特徴や探し方など必ず参考図書などで調べておいてほしい。二次資料やデータベースについては、各参考書やオンライン情報など最新の情報に留意し調べておくこと。

■学習の到達目標	人文科学、社会科学、自然科学・技術のそれぞれの代表的、基本的な書誌については、その資料名、書誌的事項の記述と配列、記述の様式、収載範囲などを知っておきたい。 近年では書誌情報は電子化されオンラインデータベースとして提供されているものが多くなってきており、ネットワークを利用した情報検索も増加している。同種の資料でも印刷メディア、電子メディア、データベースとしてネット上で検索可能な状態で存在している。ネットワーク情報源の現状と課題について理解を深めたい。 実際に図書館まで出かけて資料を手に取り、情報アク

■成績評価の基準	問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10） 書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。

授業科目	学校図書館サービス論				単位	2.0
担当者	坂下　直子			シラバスグループ	TS5731	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　理論と実践　新訂版	全国学校図書館協議会	悠光堂	[ISBN]9784909348333

■授業の概要	本科目は、2014 年に「学校図書館法」に明記された学校司書を養成するための科目である。従前からあった司書教諭（国家資格）を養成するための科目ではないことを確認しておく。参照：学校図書館法第六条　　学校には、前条第一項の司書教諭のほか、学校図書館の運営の改善及び向上を図　　り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、　　専ら学校図書館の職務に従事する職員（次項において「学校司書」という。）を　　置くよう努めなければならない。学校図書館法改正後の 2016 年に、文部科学省が通知した「学校司書のモデルカリキュラム」の中で設定された科目であり、学校図書館における学校司書の児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についての理解を図る。
■学習の要点	まず、文部科学省が示している下記の学習の要点を確認する。1）学校図書館サービスの考え方と構造 2）学校図書館の環境整備（利用案内，配架・案内表示，展示・掲示，修理・製本）3）学校図書館の運営（年間運営計画，基準・マニュアル類，記録・統計，会計・文書管理）4）学校図書館利用のガイダンス 5）資料・情報の提供（利用案内，貸出，予約サービス，資料紹介・案内，資料相談）6）児童生徒への読書支援（図書館行事，図書リスト，読書推進活動，読書相談）7）児童生徒への学習支援（教科等の指導に関する支援，特別活動の指導に関する支援，　　情報活用能力の育成に関する支援）8）特別の支援を必要とする児童生徒に対する支援 9）教職員への支援（資料相談，情報提供，教材準備に関する支援，ティームティーチング）10）広報・渉外活動（学校図書館便り，ＨＰの活用，学校行事等との連携）背景となる理念を理解した上で、学習教育現場で実践できるよう、自分事としてイメージを膨らませながら、以下の 8 点に重心を置き、テキストを読み進めまとめていくこと。１．学校図書館サービスの根幹である学校図書館の理念、歴史的変遷、学校図書館に関係する　　法令等について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.10-85）　２．学校図書館における支援とは、サービスとは何かについて学校司書の視点で考察３．学校図書館の環境整備、運営について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.114-169）４．読書センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-23、pp.170-　　177）　５．学習センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-21、pp.24-25、pp.178-185）　６．情報センターとしての機能について学校司書の視点で考察（テキスト：pp.20-21、pp.26-　　27、pp.186-191）　７．特別な支援を必要とする児童生徒への支援について学校司書の視点で考察（pp.192-199）　８．主体的・対話的で深い学びと学校図書館について学校司書の視点で考察（pp.200-205）

■学習の到達目標	・学校図書館における児童生徒及び教職員へのサービスの考え方や各種サービス活動についてを　理解した上で、自分ならどのような活動ができるかをイメージできる。・学校図書館法や学習指導要領など各種法令またはそれに準ずる物を読み、時代と共に変わる　解釈や求められる内容の変化についても理解できる
■成績評価の基準	問題の主旨に沿った解答（20)、知識の理解状況（50)、論理性（10)、書式（10)、オリジナリティ（10）

授業科目	成人指導				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5743	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい生涯学習概論　後期 近代社会に生きる私たちの学び	赤尾勝己	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623062843

■授業の概要	国や地方自治体の生涯学習振興計画の中で成人の学習がどのようにとらえられているかについて理解するとともに、成人の学習機会の在り方、実態、課題についての考察を深める。
■学習の要点	以下を考察しておくこと。1.社会教育施設・生涯学習施設の実態と課題 2.高齢者の学習プログラムの立て方と地域の課題 3.地域における成人教育の課題 4.社会の変化と成人教育のあり方 5.生涯学習における学習プログラムの立て方 6.地方自治体の生涯学習に関する計画の課題
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、自ら調べ、考察すること。実態や具体例を調べ、理解し、課題を考察できるようになること。
■成績評価の基準	地域の現状を実際に調べた上で論述しているか、また自治体の計画と比べどのような問題があるのか、さらに実施における課題は何かについて深く考察すること。

授業科目	青少年指導				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5744	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論 生涯学習社会の展望 新版	浅井経子編	理想社	[ISBN]9784650010121

■授業の概要	平成 18 年の教育基本法の改正および平成 20 年の社会教育法改正等により加わった教育の新しい動きを捉えるととともに、国際化や情報化の中で、また深刻化する環境問題や経済雇用情勢の変化の中で、青少年指導がいかにあるべきかを広く深く考える。
■学習の要点	下記の事項について理解を深めておくこと。1.青少年指導のあり方 2.社会教育施設における青少年指導 3.青少年を対象とする指導者養成の課題とあり方 4.地方自治体の児童･生徒を対象とした教育計画 5.家庭教育･学校教育及び社会教育の連携と融合 6.地域における少年指導の課題
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、自ら調べ、考察すること。実態や具体例を調べ、理解し、課題を考察できるようになること。
■成績評価の基準	全てを網羅するのではなく、いくつかを取り上げて、自分で考察し、論述すること。

授業科目	博物館学				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TS5745	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館について、歴史、種類、機能、目的などの基本的な論点を整理し、理解を深めながら、現代そして将来において求められるべき博物館のあり方を考える。
■学習の要点	科目最終試験の各問題はそれぞれテキスト『新時代の博物館学』で各章を構成する節に含まれる項目として整理されています。問題はそのような項目を確実に学習すれば解答できるように作成してありますので、対象となる部分を熟読して、リポートや試験に備えてください。
■学習の到達目標	どの問題についても、テキストを読み、その論旨や要件を具体的で明瞭にまとめることが適確な解答を書くためのもっとも大切な点です。特にそれぞれを説明する際に必須となる用語を欠かさないように記述してください。
■成績評価の基準	テキストに用いられている専門用語が適切に説明されているかが、これらを用いた説明が的確であるかが評価に関わる重要な基準となります。

授業科目	図書館学				単位	2.0
担当者	髙畑　悦子			シラバスグループ	TS5746	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図書館概論　５訂版　ＪＬＡ図書館情報学テキストシリーズ　３−１	塩見昇　編著	日本図書館協会	[ISBN]9784820418139

■授業の概要	図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、図書館の種類とそれぞれの機能や役割、関係法規、図書館職員の役割などについて考察する。我々が日々の生活を営む民主主義社会における図書館の役割及びその存在意義について考究することを目的としている。以下の内容について理解を深めてもらいたい。１．図書館の定義：構成要素と機能２．書物の役割：知的生産物、知識の媒介としての永遠性、人格表現、創造へのいざない、等３．図書館思想：公共図書館の成立と展開４．図書館の自由５．図書館をめぐる法の理念：図書館法、ユネスコ公共図書館宣言など６．図書館行財政７．図書館のはたらき：国立国会図書館、公共図書館、大学図書館、学校図書館、専門図書館、各種図書館の意義やはたらきを理解する８．図書館協力　館種を超えた図書館間における連携･協力９．図書館職員の役割と資格、倫理綱領 10．図書館の現状と課題
■学習の要点	図書館の種類、機能、関係法規等に関する学習を通して、何故図書館が必要なのか、何故図書館に司書が必要なのかについて自らの考えをまとめてもらいたい。学習の要点としては、以下の内容に特に留意すること。１．図書館思想の流れ２．憲法、教育基本法、社会教育法と図書館法３．憲法と表現の自由・知る自由４．図書館の自由に関する宣言と、図書館の自由をめぐるさまざまな問題５．公共図書館の歴史：世界と日本６．第二次世界大戦後のわが国の公共図書館７．国立図書館の機能・役割と、わが国の国立国会図書館の法規と役割、現状と課題８．公共図書館の法規と役割、現状と課題９．学校図書館の役割・現状１０．大学図書館、専門図書館の役割・現状．１１．図書館ネットワーク、図書館協力とは何か１２．図書館行政、財政、指定管理・委託問題など１３．図書館職員の役割と資格：倫理綱領
■学習の到達目標	図書館の種類を挙げて、それぞれの機能、役割について要約できる。　図書館の歴史を概観して現在の公共図書館運営に多大な影響を与えた事柄についてまとめることができる。図書館の自由について理解し、その問題点と意義を列挙することができる。　図書館の行財政の問題点を指摘し、図書館運営の在り方について意見をまとめることができる。
■成績評価の基準	成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）（10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10)「答案」作成上の留意点：書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。**「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、評価対象外となる。

授業科目	教育学概論				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS5747	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「学校教育と社会」ノート―教育社会学への誘い(第3版)	山内乾史著	学文社	[ISBN]9784762029325

■授業の概要	グローバル化する社会の中で、日本の教育はどうあるべきかを考察する。日本の教育を客観的に見る視野が求められる。
■学習の要点	教育の本質は何かを、現在の学校に焦点をあてて考える。諸外国との比較の中で、日本の教育問題を客観的にみる。　・学校教育と社会との関係について考える。　・高学歴者はなぜ尊重されたのかについて考える。　・エリート教育、才能教育について考える。　・日本の授業料政策・奨学金政策の特徴について考える。　・日本の大学院修了者の就職問題について考える。　・日本の大学生文化の特徴について考える。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。
■成績評価の基準	自分自身の教育論をはっきりと確立できているかが成績評価の基準になる。テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。

授業科目	社会福祉論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える社会福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072446

■授業の概要	社会福祉は、戦後日本の資本主義社会の発展とともに定着し、制度化されてきた。しかし、現代社会の社会問題は、子どもの貧困にみられる「相対的貧困」のように複雑化、潜在化され、制度化されにくいものになっている。そのような中で、保育士としてこれらの問題にどうかかわるべきかについて、本論では次の 5 つの視点を理解することを目的として学習していく。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する、②社会福祉の制度や実施体系等について理解する、③社会福祉における相談援助について理解する、④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する、 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。保育士として、その基礎となる社会福祉について学び、専門職として活躍することを目指す。
■学習の要点	（1） 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学習する。（2）社会福祉の制度や実施体系等について学習する。（3）社会福祉における相談援助について学習する。（4）社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて学習する。（5）社会福祉の動向と課題について学習する。
■学習の到達目標	次の点を学習の到達目標とします。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。③社会福祉における相談援助について理解する。④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	子ども家庭支援論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5703	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える家庭支援論	小野澤　昇/田中　利則/大塚　良一編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066438

■授業の概要	子ども家庭支援の観点から、次の５点について学ぶ。１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
■学習の要点	学習の要点として次の点を、４つの内容について理解を深める。１．子ども家庭支援の意義と役割　子ども家庭支援の意義と必要性 と、子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。２．保育士による子ども家庭支援の意義と基本　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について学び 、子どもの育ちの喜びの共有 、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援や保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)、家庭の状況に応じた支援 、地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 について考察する。３．子育て家庭に対する支援の体制　子育て家庭の福祉を図るための社会資源 について学び、子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について理解を深める。４．多様な支援の展開と関係機関との連携　子ども家庭支援の内容と対象 について学び、保育所等を利用する子どもの家庭への支援 、地域の子育て家庭への支援 、要保護児童等及びその家庭に対する支援 、子ども家庭支援に関する現状と課題について理解を深める。
■学習の到達目標	１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う。出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100 点)。

授業科目	子ども家庭福祉				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える児童家庭福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623075928

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）に関する支援体制を理解するとともに、次の 5 点について、テキストを通して学ぶものである。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2．子どもの人権擁護について理解する。 3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
■学習の要点	テキストを読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえ学習する。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷　子ども家庭福祉の理念と概念についての理解を深め、子ども家庭福祉の歴史的変遷 について整理し、現代社会と子ども家庭福祉 あり方について考察を深める。2．子どもの人権擁護　子どもの人権擁護の歴史的変遷 について学び、「児童の権利に関する条約」に批准したことにより、児童福祉法などの諸制度の変革されていることについて理解を深める。3．子ども家庭福祉の制度と実施体系　子ども家庭福祉の制度と法体系や実施体系 について学ぶとともに、児童福祉施設 や子ども家庭福祉の専門職 についての理解を深める。4．子ども家庭福祉の現状と課題　少子化と地域子育て支援 の体制、母子保健と子どもの健全育成 など、多様な保育ニーズへの対応 や、子ども虐待･ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその防止などについての保育士の役割を学ぶ。さらに、社会的養護、障害のある子どもへの対応 、少年非行等への対応 や、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 について理解を深める。5．子ども家庭福祉の動向と展望　次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶとともに、 地域における連携 ・協働とネットワーク、諸外国の動向について学ぶ。
■学習の到達目標	児童の権利について、「児童の権利に関する条約」が大きく影響していることについて理解する。また、こども家庭福祉の制度や実施体系等について理解するとともに、子ども家庭福祉の現状と課題について整理する。 子ども家庭福祉の動向と展望について自ら述べられるようにするとともに、保育士として子育て支援にどう関わるのかについての課題を明確にする。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	保育原理				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5114	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新・保育原理 ［第４版］ーすばらしき保育の世界へー	三宅茂夫　編	株式会社みらい	[ISBN]9784860154301

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上て、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性・自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	・保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。・テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。・問題に合致しない答案は不合格とする。・問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。・解答が論理的に展開されていること（20 点）。・自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	社会的養護１				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの未来を支える社会的養護	小野澤　昇/大塚　良一/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623086658

■授業の概要	本科目は、社会的養護の子ども達への支援を理解するために、次の 5 つの点を基本的に学ぶものである。1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5.社会的養護の現状と課題について理解する。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷　　社会的養護の理念と概念 と社会的養護の歴史的変遷 について学ぶ。２．社会的養護の基本　　子どもの人権擁護と社会的養護 と社会的養護の基本原則 、さらに、社会的養護における保育士等の倫理と責務 について学ぶ。３．社会的養護の制度と実施体系　　社会的養護の制度と法体系 と社会的養護の仕組みと実施体系 について学ぶ。４．社会的養護の対象・形態・専門職　　社会的養護の対象 について理解するとともに、家庭養護と施設養護 、社会的養護に関わる専門職 について理解する。５．社会的養護の現状と課題　　社会的養護に関する社会的状況について理解するとともに、施設等の運営管理 、被措置児童等の虐待防止 、社会的養護と地域福祉について学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	保育の心理学				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW5558	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの「困った」を理解する：発達を見通した子育てを	長崎純子ほか編著	かもがわ出版	[ISBN]9784780302288

■授業の概要	人間の発達は、日々成長し、新しい活動を我がものにしていく過程である。大人もさまざまな経験をしながら発達していくが、子どもの発達は心身ともにめざましくダイナミックである。子どもの発達を理解しておくことは、保育に従事する者にとって非常に重要な視点・技量である。したがって本科目では、大人の理屈ではなく、子どもの理屈を踏まえた保育を考えていくために必要な発達の基本的理解を押さえていく。
■学習の要点	「子どもの心に寄り添える保育者」となることをめざし、運動・言語・自我といった領域ごとに発達を整理しながらも領域間のつながりを押さえた発達のありようを学んでいく。
■学習の到達目標	１．各時期の発達的特徴を理解する２．子どもの言動を子どもの視点や理屈に基づいて理解する３．上記２点の理解に基づいて子どもへの働きかけを考える
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容への回答が最低限できている７０点台：問題で問われている内容への回答に無理がない８０点台：共感の視点に基づく発達的特徴の理解がおおよそできている９０点以上：共感の視点に

授業科目	子ども家庭支援の心理学				単位	2.0
担当者	山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学	青木　紀久代	株式会社みらい	[ISBN]9784860154820

■授業の概要	保育者は乳幼児に限らず、学齢児から高齢者までのさまざまなライフコースの対象者ともかかわります。生涯発達の基礎的知識とともに、現代の家族・家庭を取り巻く心理・社会的環境、その課題について理解し、保育者として当事者に寄り添う支援のあり方について考えます。
■学習の要点	まずはしっかりとテキストに目を通しましょう。また、テキストに紹介されている文献もチェックしてみましょう。その際、自分のこれまでの体験をふりかえったり、自分がこの先、保育者としてどのようなかかわりをしたいのか考えたりしながら、読み進めていきましょう。その上で、次のテーマについて理解を深めてください。①生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につけ、各段階の特徴や課題を理解する。②家族・家庭の意義やはたらきを理解し、子どもとその家庭を一つの大きなまとまり・システムとしてとらえる視点を身につける。③現代の子育て家庭をとりまく社会的状況、その課題を理解し、保育者としての支援のあり方を考える。④子どもの精神保健とその課題について理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点に示された 4 つのテーマについて理解を深め、自分の言葉で相手にわかりやすく説明できるようになることです。
■成績評価の基準	1. 学習の要点に記載されている内容を正確に理解できているか。2. 問題の趣旨をとらえ、相手に伝わりやすいよう、論理的に説明できているか。3. 文献や資料を引用する場合は、引用の作法にしたがって引用することができているか。4. 自分の考えを述べる際は理論やデータ、具体例にもとづきながら、わかりやすく説明することができているか。上記の基準がほぼ達成されている場合は 70 点台、十分に達成できていれば 80 点台とします。基準を十分に達成し、自分なりの考察が非常に優れている場合は 90 点以上とします。なお基準

授業科目	子どもの保健			単位	2.0
担当者	鬼頭　泰子		シラバスグループ	TU5706	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第 2 版	小林美由紀　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、子どもの成長発達及び子ども取り巻く背景として、家族、社会背景などもの知識を持っていることは重要です。このため、子どもたちの発達上に起こりやすい症状、疾患、安全など考慮しなければならない点について理解し、その対応についても想定した関わり考えていく必要があります。子どもが健やかに成長・発達するために、現在の社会背景として、保健動向や、虐待や感染症（COVID-19 も含む）伴う子どもへの弊害についても自身の考えを持っておくことが必要です。また、発達上安全（事故、感染症）に留意すること、発達障害などの子どもの特性を考慮した関わりについて知り、子どもがのびのびと生活できるような物的･人的環境を考え、言葉だけでない子ども達の状況や思いに気づき、対応できるよう学びを深めていただきたいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、最近の動向と自身の考えを持ち、多面的に考えていってください。できれば書籍や大学図書館のポータルサイトを利用して、正しい情報を得て理解を深めてください。自分で問題をしっかり考えて整理し記述してください。乳幼児の集団生活に関わる保育士にとって、事故の予防や安全対策についての知識が必要です。
■学習の到達目標	学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べたことが活かせる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述できているか、また学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。
■成績評価の基準	ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	乳児保育１				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5708	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
乳児保育Ⅰ・Ⅱ	髙内正子･豊田和子･梶美保編著	建帛社	[ISBN]9784767951126

■授業の概要	乳児保育の歴史と意義を理解し、乳児保育の役割と今後の課題を考察する。乳児（3 歳未満）の発達を理解し、乳児保育の内容・方法に関する基礎知識と方法を習得する。乳児保育に求められる保育士の専門性について理解する。
■学習の要点	１．乳児保育を巡る思想を整理し、保育所における乳児保育の意義について考察する。２．乳児の発達のみちすじを理解する。３．乳児保育の内容と方法について理解を深める。４．乳児保育の意義をふまえて、保育者のあり方を考える。５．乳児保育における記録のあり方と、保育計画・指導計画の立て方について考察する。６．乳児保育の歴史と現状をふまえ、これからの乳児保育の課題について考察する。
■学習の到達目標	乳児保育がなぜ必要なのか、その社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。現代的意義も大事だが、発達の観点をふまえること。そのうえで、大まかであっても、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴をつかみ、その時期の保育で大切にすべきことを理解していること。　乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で抑えるべき重点課題を理解していること。全体の中での各々の分量を考えて記述するように。
■成績評価の基準	乳児保育の必要性について、またその社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。「0 歳児」「1 歳児」「2 歳児」の発達的特徴をつかみ、その時期の保育で大事にすべきことを理解していること。「0 歳児」の発達的特徴については丁寧に記述しているにもかかわらず、年齢が上がるにつれて大雑把になる傾向があるので注意すること。乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で欠かすことのできない重点課題を理解していること。

授業科目	保育実習指導１				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5716	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
最新　保育士養成講座 9 巻 保育専門職と保育実践	『最新　保育士養成講座』総括編纂委員会　編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793513121

■授業の概要	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は保育実践現場においてこれまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。さらに、保育実習は保育士を目指す学生が自分を見つめる機会であり、これからの課題を発見する重要な機会ともなる。保育実習を通して、子ども理解・保育所および施設や保育士の仕事に対する理解及び自己に対する理解を深めてほしい。

■学習の要点	1.保育実習の意義を理解する 2.保育実習に臨む態度を理解する 3.保育実習における守秘義務を理解する 4.保育実習記録作成の意義を理解する 5.保育実習における実習テーマと課題について考える

■学習の到達目標	学習の要点に記載している事項と同様。

■成績評価の基準	①設題を踏まえてリポートを作成しているか　50%②自分の考えをまとめているか　40%③誤字脱字などはないか　10%

授業科目	保育実習指導２				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5585	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	本授業では、保育所における保育実習の意義と目的を確認する。
■学習の要点	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■学習の到達目標	保育実習の意義と目的を確認した上で、保育実習のまとめと自己評価を行い、自らの今後の課題を明確化する。
■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	保育実習指導３				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5587	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	①保育実習Ⅲ(施設実習)に臨む姿勢を再確認する。②実習の振り返りと自己評価を行い、自らの課題を明確化する。

■学習の要点	①保育実習(施設実習)の意義・目的を理解する。②実習施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。③実習施設におけるプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

■学習の到達目標	施設での保育実習を振り返り、自身の今後の課題を明確にする。

■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	教育実習指導（幼・小）				単位	1.0
担当者	小林　みどり・小林　隆			シラバスグループ	TU5813	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹 著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直 ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、幼児との関係性・保育指導のあり方・集団指導等について実践的に学ぶ。特に保育指導については、教育実習校園からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・保育指導案の作成・保育実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	保育者・教師としての資質、能力が備わっているかどうか。
■成績評価の基準	省察ができているか。課題が明確になったか。

授業科目	教育実習指導（小・中）				単位	1.0
担当者	小林　隆・原　清治			シラバスグループ	TS5624	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248817&refHpStenCode=68038}
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5634	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育原論１				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TZ5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二Ｘ	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第１部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。２．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。３．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育心理学１				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TZ5204	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育社会学１				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	1960 年代から高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、「一億総中流」と呼ばれる社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしました。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが「格差社会」と呼ばれるような社会問題を引き起こしているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　１．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされている学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　２．学力低下については諸説があり、いずれも一長一短の議論です。しかし、これほど学力の問題が論じられている背景には何があるのかを考えてみれば、教育改革が何を意図しているのかにたどり着くはずです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な

	構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法学１（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために， 1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育社会学				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS8131	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、学校で起こるさまざまな教育問題について考え、日本国憲法第 26 条で規定されている教育を受ける権利、教育の義務を踏まえながらそうした問題の解決に当たることを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。こうした議論の背景には日本国憲法第 26 条の教育を受ける権利、教育の義務があります。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。１．いじめの原因はどこにあるのかについてまとめ、なぜいじめが減少しないのか、今日的な特徴は何かを考えてください。そして、いじめが学校だけの問題ではないことについて事例から学び取ることが必要となります。２．いじめ問題はなにも日本に限ったことではありません。その国際比較を通してみると、共通している部分とまったく日本にのみ特徴的な部分とがあります。それについて具体的に考えてみてください。３．ネットいじめの問題が社会でも取り上げられる機会が少なくありません。その特質について考えてみましょう。４．テキストでは、他国と日本のいじめ比較が取り上げられています。そのなかからひとつの国を選び、日本のいじめと比較してください。その際に、共通性と異質性という視点から、それぞれの国の特徴を整理していくことが求められます。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、

	客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	幼児教育・保育課程論				単位	1.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS8132	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振り返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	保育の内容及び方法				単位	1.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TS8144	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	幼稚園教育における内容や方法、指導の意味やあり方について考察する。
■学習の要点	１．幼稚園教育要領の比較検討　　昭和３９年版・平成元年版・平成１０年版・平成２０年版・平成３０年版２．新しい幼稚園教育要領と倉橋惣三の『幼稚園真諦』　　他にも倉橋の『育ての心』、『幼稚園雑草』参照。３．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と非認知能力４．環境を通しての保育５．幼児の主体的な活動を促す保育６．一人ひとりに応じた保育７．遊びを通しての指導８．生活習慣の指導９．園行事の指導 10．課題活動の指導 11．個人・グループ・クラス全体の指導 12．さまざまな保育形態
■学習の到達目標	・問題はテキストに即して出題する。・出題の要点を理解し、論理的に解答が述べられていること。
■成績評価の基準	倉橋のことばを理解したうえで考察しているかどうかを評価する。

授業科目	幼児理解及び保育相談				単位	1.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TS8145	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	現代思想				単位	2.0
担当者	太寿堂　真			シラバスグループ	TT5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
テキストブック　生命倫理〔第 2 版〕	霜田求　編	法律文化社	[ISBN]9784589041890

■授業の概要	2022 年 9 月、世界的に著名な映画監督、J=L=ゴダール氏が、安楽死を遂げた。この出来事は世界に衝撃をもって迎えられた。なぜなら、同氏が、通常は安楽死の要件とされる「回復の見込みのない病で、耐え難い苦痛を抱えている」わけではなかったからだ。同氏は、ただ「人生に疲れていた」ため安楽死したと報じられた。実際には、重篤ではないものの、加齢による複合疾患をかかえていたようだが、近年では、安楽死が合法化された国々で、このような状態で安楽死する高齢者の数が増加傾向にあるという。このことからは、それらの国々で、安楽死の要件が、どんどん緩やかになっている実態がうかがえよう。一方、日本では、安楽死は合法化されてはいない。その日本で、2020 年 7 月、神経性の難病、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者から依頼を受け、その人に致死薬を投与してこれを殺害したとして、40 代の二人の医師が、嘱託殺人の容疑で逮捕される事件があった。この医師たちは、依頼者に致死薬を投与して「安楽死」させることについて、SNS に盛んに自論を投稿していたという。再び世界を目を向ければ、ベネルクス 3 国など、先に安楽死を合法化した国々に続く形で、2020 年ニュージーランドで、さらに 2021 年、スペインで安楽死が合法化された。これらの事をきっかけに、今、改めて「安楽死」や「尊厳死」の是非が論じられている。　「尊厳死」という言葉がマスコミその他で使われるようになって久しい。それは死期が近いと医学的に判断される患者に対し、人工呼吸、人工栄養・水分補給、人工透析などの生命維持装置を使った、いわゆる「延命措置」を施すことは、当の患者にいたずらな苦しみを強いるばかりであり、それを止めて患者を速やかに死ぬに任せることが、患者や家族のためだ、という趣旨を表す言葉だ。少し前まで、医療現場では、一旦装着した人工呼吸器などの、いわゆる生命維持装置を使った延命医療を中止した場合、それに関わった医療スタッフは殺人罪などに問われ、警察の介入を招く、という考えが強かった。また現在も、そうした見解を取っている医療機関が依然として多いのも事実である。しかし現在では、延命措置の不開始や中止を想定した厚生労働省や各関係学会のガイドラインが示される中で、アドバンス・ケア・プランニング(ACP、『人生会議』)という考え方が、医療現場でも進みつつある。ACP とは、人生の最終段階における医療、ケアについては、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされたうえで、患者本人が自らが望む人生の最終段階における医療、ケアについて前もって考え、医療、ケアチームと繰り返し話し合い、それを踏まえ、本人の意思決定を基本として治療にあたる、という考え方である。これに基づいて、例えば、どういう場合には、人工栄養を止めるか、人工呼吸器をどうするか、などの意思をあらかじめ確認する書類を医療者側が準備し、医療者や家族との話し合いの中で、患者本人が意思決定し、それを書面で指示しておけば、医療、ケアチームはそれを尊重して治療にあたる、という医療機関や在宅医などの例も見られるようになった。　　他方、「尊厳死を合法化すべきだ」と主張する人々がいる。すなわち、自分が「終末期」や「植物状態」になった場合、延命のための治療を拒否する意

	思表示を記した「リビング・ウィル」を法律的に有効なものにせよ、と唱える人々である。『日本尊厳死協会』に属する人々がそれである。その人々からすれば、ACP が普及することは望ましいことだという。ただし同協会には次のような考えを示す人がいる。すなわち、ACP は、医療者の働きかけから始まる。だが、当人が突然の事故等で、医療を受ける以前に、すでに意思表示能力を失っている場合も考えられる。そのことから、疾患や事故にあう以前の、元気なうちに意思表示をしておき、医療者にはそれを遵守してもらいたいのだという。しかし元気な時と、例えば認知症等で意思表示能力が低下した後とでは、本人の気持ちに変化が起こりうるのではないか、という疑問が残る。　その一方で、尊厳死の合法化に反対の人たちもいる。そうした人たちは、いわゆる『尊厳死法』が成立すれば、もともと定義の曖昧な「終末期」という要件が、次第に、まるで「滑りやすい坂」を転がり落ちるかのように、どんどん拡大適用される可能性を指摘する。そして、やがては、人工呼吸器などの生命維持装置なしには生きられない難病患者や重度障害者など、「社会的弱者」にまで適用されるようになり、彼らの存在を負担と感じる家族や社会の有形無形の圧力の下で、そうした人々が「死の自己決定」をするよう強いられるような社会的風潮が出てくることを懸念しているのだ。　終末期医療に関する近年の調査からは、生命維持装置による延命医療を否定的に考える人が回答者の 9 割を占めるなど、多数であることがうかがえる。一方で、「尊厳死」や「安楽死」の合法化によって、社会的弱者が不利益をこうむるとすれば、それは避けねばならない。人は健康を保つため、医療を必要とし、誰しもが死を避けられない。本科目では、現在の医療とその前提になる生命観について基本的なことを学習し、受講生お一人お一人のお考えを深めてもらう機会としたい。
■学習の要点	まず、テキストや参考文献を通じて「終末期医療」「生殖補助医療」「脳死・臓器移植」等、日本と諸外国における個々の問題の歴史と現在のあらましを学習していただき、あわせて当の問題をめぐって相異なる立場をとる人々の主張の要点を把握し、ご自身の考察と意見を展開してください。
■学習の到達目標	（目標）　各々が手がけたテーマについて、できるだけ丁寧に取材し、それをもとに自分なりの視点を培うとともに、それをできるだけ説得的に論述する術を磨くことです。しかしながら、情報が氾濫するなかでは、その糸口がともすれば見失われがちです。　そこでまず、（１）自分の手がける問題について、根拠ある情報を粘り強く選び出し、（２）テキスト、またはシラバスで紹介された文献のうち、自分の関心に即していずれか一冊、それもいずれか一つのテーマについて精読し、そこからいかに論じたらよいかの術をより深く学ぶことです。
■成績評価の基準	思索には終わりはありません。ただ受講する各々の方が到達したご意見について、どうしてそういえるかの根拠(理由)を明らかにしているかどうか、そこから無理なく導ける結論に達しているかどうかを評価の基準とします。この根拠(理由)を明示しているかどうかを、リポートを受理するか、試験に合格したとみなすかどうかを判断する一つの基準とします。必ず理由をあげて論じてください。また、事実を正確に踏まえているかどうか、事実誤認がないかどうかも、成績評価にあたって考慮します。

授業科目	国際社会論				単位	2.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
≪アジア≫、例外としての新自由主義	アイファ・オング	作品社	[ISBN]9784861824449

■授業の概要	本授業ではアイファ・オングの『《アジア》、例外としての新自由主義』をテキストとします。オングによると、新自由主義はそれぞれの地域の市民権の体制や統治の形式といった論理と相互作用しながら、日本を含む世界各地において既存の関係性を再編成しています。そこでは市場価値のある技術を持つ者が優先的に権利と利益を手に入れる一方、それらの技術を持たないと判断された人々の地位は不安定な状況に置かれ続けているとされます。このテキストの序章では、「効率」と「自己責任」に重きを置く「新自由主義」という概念の定義を学び、オングが主張する「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いを理解していきます。この理解を基礎として、テキストの第一章以降の議論では、東南アジアのムスリム女性やインドネシア系中国人、中国における特別区やアジアの新興都市について民族誌的視点から学びます。オングはこのテキストにおいて、カール・シュミット、ミシェル・フーコー、ジョルジョ・アガンベンといった哲学者の理論を用いながら、人類学的なボトムアップの視点から国際社会を理解することの意義を主張しています。オングがキーワードとして提示する「ラチチュード」に加え、新自由主義の影響下にある現在の国際社会における「倫理的な主体の形成」について理解し、これらの議論全体が主張していることを把握していきます。
■学習の要点	本授業のテキストは、序章に加え、第一部から第四部までに分かれています。序章はカール・シュミットの「例外状況」、ミシェル・フーコーの「生政治」、ジョルジョ・アガンベンの「剥き出しの生」など、非常に難解な哲学の用語ですが、哲学以外の分野でも頻繁に引用されるものが用いられています。テキストの巻末にある「本書を理解するための用語集」、以下の参考文献、他の入門書なども参考にしながら、「新自由主義」という概念の定義、「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いについて、可能な範囲で丁寧に理解を進めてください。第一部から第四部までは、より具体的なテーマについて、民族誌的な視点から議論が進められ、序章と比べると理解しやすいものになっています。第一部「アジアの〈倫理〉をめぐる闘争」では、マレーシアのムスリム女性（第一章）とインドネシアのグローバル華人（第二章）について議論が行われています。第二部では「アジアのガバナンス（統治空間）」というタイトルで、東南アジアにおけるポスト開発主義（第三章）と東アジアの特別区（第四章）について論じられています。第三部「新たな人工空間「ラチチュード」」では、電子製造業（第五章）、高等教育（第六章）、シリコンバレー（第七章）について議論されています。第四部では「新興国、その現れと影、あるいは新興都市の憂鬱」とのタイトルで、シンガポール（第八章）、東南アジア都市部の外国人メイド（第九章）、上海（第十章）が取り上げられています。序章から第四部までを読んだ後に、再び序章を読むことで、序章における理論的な議論も理解が深まり、このテキストが全体として示そうとしていることを学ぶことができます。新自由主義の影響下にある国際社会を人はどのように生きるべきかと

	いうオングの「倫理的問いかけ」を自分自身への問いかけとし、自分自身の答えを説得的に示すことを目指してください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	外国史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	情報システム				単位	2.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TT5521	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
コンピュータ概論-情報システム入門 第9版	魚田 勝臣 編著・ 渥美 幸雄 著・ 植竹 朋文 著・ 大曽根 匡 著・ 森本 祥一 著・ 綿貫 理明 著	共立出版	[ISBN]9784320124981

■授業の概要	現代の情報化社会の中では、誰もが何らかの形で情報システムと関わりを持って生活している。また、21 世紀の情報化時代を生きるためには、情報リテラシーと同様にエンドユーザーでさえ情報システムについての知識が必要になりつつある。そこで本科目では、情報の収集、蓄積、加工、管理、伝達、利用をどのように行えば良いかという観点に立ち、人間の活動に、高い効率性、柔軟性、利便性をもたらす情報システム、特に現代の情報化社会におけるコンピュータを中心とした機械的機構を重視した情報システムの知識や技術について、コンピュータリテラシーの知識も含めて学習することを目的とする。
■学習の要点	本科目の学習の重要なポイントとして、（1）企業情報システムの基本概念の変遷を組織、戦略、ネットワークという側面から捉えること、（2）既存の情報システムの利点や欠点を明らかにして、今後の情報システムの在り方について、特にネットワーク化されたシステムについての問題点などについて検討すること、（3）情報システムにおけるハードウェアの仕組みやソフトウェアの役割について理解すること、以上の点に留意して学習を進めていくことが必要である。　情報システムの基本概念の変遷については、単に歴史的な回顧だけではなく、情報システムの役割の変化を検討することにより、情報システムの設計・管理・運営において留意すべき事項を明確にして、情報システムに求める役割についての認識を深める。また、コンピュータネットワークの発達により、情報システムにおけるネットワークの役割を検討し、今後の情報システムの可能性を CALS の進展と事例から検討する。コンピュータのハードウェアについては、リテラシーとしてその仕組みを正確に理解し、また、ソフトウェアについては、OS やプログラミング、ファイル・データベースなどを中心に、情報システムの重要な要素として、その必要性や目的、役割について詳しく理解する。
■学習の到達目標	情報システムは何か、および情報システムの歴史や、ハードやソフトの変遷はどうなっているかについて理解を深めることが目的である。また、普段利用している情報システムの構築や維持等、複雑な過程が絡み合って成り立っていることを認識し、情報システム化とは何か、について学習して知ることが目標である。
■成績評価の基準	リポート：ライフサイクルの各項目がきちんと述べられていること、および実際例がそれぞれ述べられていることが添削のポイントとなる。最終試験：問題に沿って論理的に正しく、かつ情報システムのライフサイクルに即して述べられているかが評価の基準となる。

授業科目	情報ビジネス				単位	2.0
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	TT5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説日本のメディア[新版]―伝統メディアはネットでどう変わるか	藤竹暁・竹下俊郎編著	NHK 出版	[ISBN]9784140912539

■授業の概要	現代社会を動かしているものの１つにメディアがある。このメディアの本質を理解することが大切だ。メディアに関連したビジネスは巨大な産業になっているし、メディアビジネスと無関係な生活や仕事は存在しないほどである。さらにメディアビジネスは、大きな雇用を生んでいる。就職先としてもいまや無視できない。この科目では「メディアビジネス」といわれるものを幅広くとらえ、その実際を把握しようとするものである。「実学」という視点では、広汎のメディアビジネスの実勢を捉えておくことは様々な意味で役立つものである。非常に変化の激しいビジネスではあるが、メディア需要と市場の変化、コンテンツの生産と消費などなど、鋭い動体視力で実像をつかんでもらいたい。
■学習の要点	（１）ここでは、テキストに即して新しいメディア産業と社会との関係を中心に学習してほしい。（２）放送・新聞・出版などのいわゆるマスメディアの産業的な変化とその背景の学習にも意を注いでもらいたい。（３）新興メディアビジネスのうちインターネット関連はとくに重点的に学習してほしい。（４）カタカナによる専門用語が多く出てくるので、情報学辞典と IT 関連の用語辞（事）典などを参照しながらキーワードは把握してもらいたい。（５）テキストは１冊だけ指定しておくが、関連する本や雑誌は数多く出版されているので、それらの中から参考になると思われるものにも目を通しておきたい。
■学習の到達目標	情報ビジネスにおける今日的課題を理解する。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	社会調査の基礎				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0718	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	社会調査の設計				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0719	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	基礎統計学				単位	2.0
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	TT0720	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門はじめての統計解析	石村貞夫著	東京図書	[ISBN]9784489007460
数学嫌いのための社会統計学　第 2 版	山口洋　ほか編	法律文化社	[ISBN]9784589036193

■授業の概要	社会的および科学的事象を一般化するために有効な手段は、それら事象に関するデータ収集と解析である。本科目においては、それらデータ収集および解析に関する知識を学ぶことによって、客観的にそれらの事象を一般化する、またはその事象に関してある判断を行う方法を習得し、社会調査、科学調査等における基礎的知識を身につけるのが目的である。データ収集およびデータ解析においては必然的に統計学の知識を要するため、数理統計学観点からのアプローチに加えて、実際的な調査手法も念頭に置いて、データ収集、データ解析に関する知識及び技術を学習する。本科目においてはデータ解析において基本となる記述統計学を主に扱い、量的および質的変量を統計学的に処理し、解釈する方法を主として学ぶ。
■学習の要点	本科目においては、記述統計を主とするため学習の要点は以下のようになる。1.統計学という学問は何かを学習する。2.データの収集方法を学習する。3.主に量的データ群の整理方法を学習する。すなわち、第 1 にデータを視覚的に表す手法を学習する（様々なグラフ化）、第 2 にデータ群をある数値で代表する手法を学習する（平均値や最大値、最小値等）、データ群全体の傾向を表す手法を学習する（分散、標準偏差、尖度、歪度等）。4.質的データ群に対する解釈手法を学習する（比率や変化率等）。5.異なる 2 変量の関係性の解釈について学習する（共分散および相関係数）。6.関係性と因果関係を学習する。7.質的データの整理、加えてそれに基づいたクロス集計を学習する。8.各種白書の解釈およびそれらの活用方法について学習する。
■学習の到達目標	代表値等統計学的な数値を正確に算出でき、データ解析において役立たせることができるようになる事が本科目の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験においては、統計学的用語や数値、そして統計学的考えを理解しているかどうか（70 点）、テキストに直接書かれていない事であっても、自らが思考して統計学的考えをさらに掘り下げる事ができるかどうか（30 点）を採点基準とする。

授業科目	応用統計学				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0721	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	質的調査法				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0722	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	現代思想				単位	2.0
担当者	太寿堂　真			シラバスグループ	TT5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
テキストブック　生命倫理〔第 2 版〕	霜田求　編	法律文化社	[ISBN]9784589041890

■授業の概要

2022 年 9 月、世界的に著名な映画監督、J=L=ゴダール氏が、安楽死を遂げた。この出来事は世界に衝撃をもって迎えられた。なぜなら、同氏が、通常は安楽死の要件とされる「回復の見込みのない病で、耐え難い苦痛を抱えている」わけではなかったからだ。同氏は、ただ「人生に疲れていた」ため安楽死したと報じられた。実際には、重篤ではないものの、加齢による複合疾患をかかえていたようだが、近年では、安楽死が合法化された国々で、このような状態で安楽死する高齢者の数が増加傾向にあるという。このことからは、それらの国々で、安楽死の要件が、どんどん緩やかになっている実態がうかがえよう。一方、日本では、安楽死は合法化されてはいない。その日本で、2020 年 7 月、神経性の難病、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者から依頼を受け、その人に致死薬を投与してこれを殺害したとして、40 代の二人の医師が、嘱託殺人の容疑で逮捕される事件があった。この医師たちは、依頼者に致死薬を投与して「安楽死」させることについて、SNS に盛んに自論を投稿していたという。再び世界を目を向ければ、ベネルクス 3 国など、先に安楽死を合法化した国々に続く形で、2020 年ニュージーランドで、さらに 2021 年、スペインで安楽死が合法化された。これらの事をきっかけに、今、改めて「安楽死」や「尊厳死」の是非が論じられている。　「尊厳死」という言葉がマスコミその他で使われるようになって久しい。それは死期が近いと医学的に判断される患者に対し、人工呼吸、人工栄養・水分補給、人工透析などの生命維持装置を使った、いわゆる「延命措置」を施すことは、当の患者にいたずらな苦しみを強いるばかりであり、それを止めて患者を速やかに死ぬに任せることが、患者や家族のためだ、という趣旨を表す言葉だ。少し前まで、医療現場では、一旦装着した人工呼吸器などの、いわゆる生命維持装置を使った延命医療を中止した場合、それに関わった医療スタッフは殺人罪などに問われ、警察の介入を招く、という考えが強かった。また現在も、そうした見解を取っている医療機関が依然として多いのも事実である。しかし現在では、延命措置の不開始や中止を想定した厚生労働省や各関係学会のガイドラインが示される中で、アドバンス・ケア・プランニング(ACP、『人生会議』)という考え方が、医療現場でも進みつつある。ACP とは、人生の最終段階における医療、ケアについては、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされたうえで、患者本人が自らが望む人生の最終段階における医療、ケアについて前もって考え、医療、ケアチームと繰り返し話し合い、それを踏まえ、本人の意思決定を基本として治療にあたる、という考え方である。これに基づいて、例えば、どういう場合には、人工栄養を止めるか、人工呼吸器をどうするか、などの意思をあらかじめ確認する書類を医療者側が準備し、医療者や家族との話し合いの中で、患者本人が意思決定し、それを書面で指示しておけば、医療、ケアチームはそれを尊重して治療にあたる、という医療機関や在宅医などの例も見られるようになった。　　他方、「尊厳死を合法化すべきだ」と主張する人々がいる。すなわち、自分が「終末期」や「植物状態」になった場合、延命のための治療を拒否する意

	思表示を記した「リビング・ウィル」を法律的に有効なものにせよ、と唱える人々である。『日本尊厳死協会』に属する人々がそれである。その人々からすれば、ACP が普及することは望ましいことだという。ただし同協会には次のような考えを示す人がいる。すなわち、ACP は、医療者の働きかけから始まる。だが、当人が突然の事故等で、医療を受ける以前に、すでに意思表示能力を失っている場合も考えられる。そのことから、疾患や事故にあう以前の、元気なうちに意思表示をしておき、医療者にはそれを遵守してもらいたいのだという。しかし元気な時と、例えば認知症等で意思表示能力が低下した後とでは、本人の気持ちに変化が起こりうるのではないか、という疑問が残る。　その一方で、尊厳死の合法化に反対の人たちもいる。そうした人たちは、いわゆる『尊厳死法』が成立すれば、もともと定義の曖昧な「終末期」という要件が、次第に、まるで「滑りやすい坂」を転がり落ちるかのように、どんどん拡大適用される可能性を指摘する。そして、やがては、人工呼吸器などの生命維持装置なしには生きられない難病患者や重度障害者など、「社会的弱者」にまで適用されるようになり、彼らの存在を負担と感じる家族や社会の有形無形の圧力の下で、そうした人々が「死の自己決定」をするよう強いられるような社会的風潮が出てくることを懸念しているのだ。　終末期医療に関する近年の調査からは、生命維持装置による延命医療を否定的に考える人が回答者の 9 割を占めるなど、多数であることがうかがえる。一方で、「尊厳死」や「安楽死」の合法化によって、社会的弱者が不利益をこうむるとすれば、それは避けねばならない。人は健康を保つため、医療を必要とし、誰しもが死を避けられない。本科目では、現在の医療とその前提になる生命観について基本的なことを学習し、受講生お一人お一人のお考えを深めてもらう機会としたい。
■学習の要点	まず、テキストや参考文献を通じて「終末期医療」「生殖補助医療」「脳死・臓器移植」等、日本と諸外国における個々の問題の歴史と現在のあらましを学習していただき、あわせて当の問題をめぐって相異なる立場をとる人々の主張の要点を把握し、ご自身の考察と意見を展開してください。
■学習の到達目標	（目標）　各々が手がけたテーマについて、できるだけ丁寧に取材し、それをもとに自分なりの視点を培うとともに、それをできるだけ説得的に論述する術を磨くことです。しかしながら、情報が氾濫するなかでは、その糸口がともすれば見失われがちです。　そこでまず、（１）自分の手がける問題について、根拠ある情報を粘り強く選び出し、（２）テキスト、またはシラバスで紹介された文献のうち、自分の関心に即していずれか一冊、それもいずれか一つのテーマについて精読し、そこからいかに論じたらよいかの術をより深く学ぶことです。
■成績評価の基準	思索には終わりはありません。ただ受講する各々の方が到達したご意見について、どうしてそういえるかの根拠(理由)を明らかにしているかどうか、そこから無理なく導ける結論に達しているかどうかを評価の基準とします。この根拠(理由)を明示しているかどうかを、リポートを受理するか、試験に合格したとみなすかどうかを判断する一つの基準とします。必ず理由をあげて論じてください。また、事実を正確に踏まえているかどうか、事実誤認がないかどうかも、成績評価にあたって考慮します。

授業科目	国際社会論				単位	2.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
≪アジア≫、例外としての新自由主義	アイファ・オング	作品社	[ISBN]9784861824449

■授業の概要	本授業ではアイファ・オングの『《アジア》、例外としての新自由主義』をテキストとします。オングによると、新自由主義はそれぞれの地域の市民権の体制や統治の形式といった論理と相互作用しながら、日本を含む世界各地において既存の関係性を再編成しています。そこでは市場価値のある技術を持つ者が優先的に権利と利益を手に入れる一方、それらの技術を持たないと判断された人々の地位は不安定な状況に置かれ続けているとされます。このテキストの序章では、「効率」と「自己責任」に重きを置く「新自由主義」という概念の定義を学び、オングが主張する「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いを理解していきます。この理解を基礎として、テキストの第一章以降の議論では、東南アジアのムスリム女性やインドネシア系中国人、中国における特別区やアジアの新興都市について民族誌的視点から学びます。オングはこのテキストにおいて、カール・シュミット、ミシェル・フーコー、ジョルジョ・アガンベンといった哲学者の理論を用いながら、人類学的なボトムアップの視点から国際社会を理解することの意義を主張しています。オングがキーワードとして提示する「ラチチュード」に加え、新自由主義の影響下にある現在の国際社会における「倫理的な主体の形成」について理解し、これらの議論全体が主張していることを把握していきます。
■学習の要点	本授業のテキストは、序章に加え、第一部から第四部までに分かれています。序章はカール・シュミットの「例外状況」、ミシェル・フーコーの「生政治」、ジョルジョ・アガンベンの「剥き出しの生」など、非常に難解な哲学の用語ですが、哲学以外の分野でも頻繁に引用されるものが用いられています。テキストの巻末にある「本書を理解するための用語集」、以下の参考文献、他の入門書なども参考にしながら、「新自由主義」という概念の定義、「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いについて、可能な範囲で丁寧に理解を進めてください。第一部から第四部までは、より具体的なテーマについて、民族誌的な視点から議論が進められ、序章と比べると理解しやすいものになっています。第一部「アジアの〈倫理〉をめぐる闘争」では、マレーシアのムスリム女性（第一章）とインドネシアのグローバル華人（第二章）について議論が行われています。第二部では「アジアのガバナンス（統治空間）」というタイトルで、東南アジアにおけるポスト開発主義（第三章）と東アジアの特別区（第四章）について論じられています。第三部「新たな人工空間「ラチチュード」」では、電子製造業（第五章）、高等教育（第六章）、シリコンバレー（第七章）について議論されています。第四部では「新興国、その現れと影、あるいは新興都市の憂鬱」とのタイトルで、シンガポール（第八章）、東南アジア都市部の外国人メイド（第九章）、上海（第十章）が取り上げられています。序章から第四部までを読んだ後に、再び序章を読むことで、序章における理論的な議論も理解が深まり、このテキストが全体として示そうとしていることを学ぶことができます。新自由主義の影響下にある国際社会を人はどのように生きるべきかと

	いうオングの「倫理的問いかけ」を自分自身への問いかけとし、自分自身の答えを説得的に示すことを目指してください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	文化社会学				単位	2.0
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	TT5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アフター・カルチュラル・スタディーズ	吉見俊哉	青土社	[ISBN] 9784791771844

■授業の概要	「文化社会学」の範囲はとても広いため、全てを概説的にみるよりも、具体的に専門家の書いた「文化の社会学についての議論」を一つ丁寧にみることを本科目では行います。 そのため、テキストは最先端の「文化社会学」に関するテーマで、少し難易度の高いものを設定していますが、大学生読者が丁寧にキーワードを検索しながら読んでいけば十分に議論の筋道を捉えることのできるものです。 テキストで論じられている事柄は、現代文化社会学で「スタンダードな問題」「とても大切な論点」と目されているテーマですので、文章は少し難しいですが、内容自体は変わったものではありません。例えば、「文化をめぐる思想的な論点」「現代アメリカにおける文化、消費、政治」などです。 今現在、社会学分野で「文化」をめぐってどのような論争があるのか、著者はどういった問題意識を持っているのかに注意しながら、丁寧に「やや高度な、文化社会学の本」を読んでみること、そこで分かったり、分からなかったりすることが何かを考え、文化と知に向き合うという科目です。
■学習の要点	まずテキストの前半（序章・第一部）を丁寧に読みます。後半部分（第二部、アメリカの議論）は具体的な素材として読んでほしいもので、主に前半部分を丁寧に読み、理解しようと試みることが大切となります。 著者は専門家として、著者の視点を明確にして「文化」を論じていますので、その解釈、立場に読み手である受講者が同意する必要はありません。むしろ「自分の考えとどう違うのか」を観察して、書かれてある事柄を観察して下さい。
■学習の到達目標	現代的な「文化社会学」の、特に「カルチュラル・スタディーズ」と呼ばれる領野の議論に触れ、大きな論点、問題関心を知ることで、文化社会学的な議論にとって大切な「社会の分断」「差別と文化」などを考える力を得ること。
■成績評価の基準	テキスト内容を「ある程度の妥当性を持って丁寧に読解できているかどうか」そして、「自分の言葉でテキストで論じられた論点を整理し、解釈できるかどうか」です。一つの正解がある科目ではなく「読解力と、自分で文章を書く能力」を見る、「やや高度な小論文」課題です。

授業科目	宗教社会学			単位	2.0
担当者	武井　謙悟		シラバスグループ	TT5218	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教社会学を学ぶ人のために	井上順孝編	世界思想社	[ISBN] 9784790716822

■授業の概要	宗教社会学は、「宗教と社会」の関係を考察し、実証的に解明する研究分野である。本科目は、宗教を対象とする様々な研究領域のなかで、宗教社会学の持つ特徴を把握し、その視点を用いて、宗教現象を検討する力を養うことを目的とする。テキストを読み進めるにあたって、①宗教社会学の主要な学説・理論の学習を通じて、宗教社会学がどのような視点を持つか、②宗教社会学の視点を通じて具体的な宗教現象を理解するとはどのようなことか、以上二点をとくに意識して欲しい。
■学習の要点	・テキスト第Ⅰ部に沿って、宗教社会学の理論を体系的に把握する。とくに、欧米と日本の宗教社会学、宗教社会学と隣接する学問領域（宗教人類学・宗教民俗学・宗教心理学・宗教史学など）との研究手法・対象の相違点および共通点を把握する。・テキスト第Ⅱ部に沿って、具体的な宗教の社会的展開を学習する。そのなかから、関心のある具体的なテーマ（国家と宗教、新宗教、葬儀問題、スピリチュアリティ、ツーリズムなど）を見出す。
■学習の到達目標	１、宗教社会学の理論、学説史を把握する。２、宗教社会学の視点を用いて宗教現象を理解する。
■成績評価の基準	１、題意の把握・理解（問題に対する応答が適切か、テキストの内容を理解しているか）２、論理構成・主張（主語・術語の関係、段落などが適切か、自分の意見が含まれているか）３、表現・文字の正確さ（用語が適切に使用されているか、誤字脱字等が見られないか）４、引用・出典明記（無断引用、テキストの丸写しをしていないか、著者名、『書名』または「論文名」・『収録文献・ 雑誌』、出版社、発行年およびインターネットアドレス、閲覧日の記載）・以上の基準に照らし合わせ、総合的に判断する。

授業科目	共生の社会学				単位	2.0
担当者	大束　貢生			シラバスグループ	TT5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
排除と差別の社会学　新版	好井裕明編	有斐閣	[ISBN] 9784641281400

■授業の概要	私たちの生活している社会には様々な不平等や抑圧があります。こうした中では、私たちは無意識のうちに抑圧する側にいる可能性があります。一方私たちは自分が「抑圧されている」と感じることも多々あります。いったい私たちは「誰かに傷つけられ誰かを傷つける」ことをいつまで繰り返せばいいのでしょうか。この科目では様々な抑圧について学びながら、その問題と私たち自身の問題がどのように関係しているのかについて考えていきたいと思います。こうした中から、「弱いモノたちがさらに弱いものをたたく」という抑圧の起こる社会学的要因について考えたいと思います。あなたとわたし、違いを認め合う方がよりよく生きられることを一緒に考えてみませんか。「みんなちがって、みんないい。」のですから。
■学習の要点	社会学での共生の問題は、「共生」という価値観、すなわち「互いの違いを積極的に認め合って関係しながら生きる」という価値観は、「何故あるのか、いつからあるのか、今後どのようになっていくのか」が問題です。さまざまな場面での抑圧や差別の問題について、テキストや参考文献を読んでください。またこうした「共生」の価値観と前近代社会、近代社会の価値観との関係に留意しておいてください。　１．排除・差別問題と当事者の問題について。　２．部落問題について。　３．からだの問題について。　４．ひきこもりの問題について。　５．学校での問題について。　６．同性愛の問題について。
■学習の到達目標	「あなた自身の個人的な悩みや問題」の抑圧性・被抑圧性が、どのように社会と関係しているのかについての理解が必要です。
■成績評価の基準	抑圧性の議論と被抑圧性の議論の両方の議論の展開とその理解度によって採点を行います。

授業科目	共生の社会学２				単位	2.0
担当者	大束　貢生			シラバスグループ	TT5234	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
排除と差別の社会学　新版	好井裕明編	有斐閣	[ISBN] 9784641281400

■授業の概要	私たちの生活している社会には様々な不平等や抑圧があります。こうした中では、私たちは無意識のうちに抑圧する側にいる可能性があります。一方私たちは自分が「抑圧されている」と感じることも多々あります。いったい私たちは「誰かに傷つけられ誰かを傷つける」ことをいつまで繰り返せばいいのでしょうか。この科目では様々な抑圧について学びながら、その問題と私たち自身の問題がどのように関係しているのかについて考えていきたいと思います。こうした中から、「弱いモノたちがさらに弱いものをたたく」という抑圧の起こる社会学的要因について考えたいと思います。あなたとわたし、違いを認め合う方がよりよく生きられることを一緒に考えてみませんか。「みんなちがって、みんないい。」のですから。
■学習の要点	社会学での共生の問題は、「共生」という価値観、すなわち「互いの違いを積極的に認め合って関係しながら生きる」という価値観は、「何故あるのか、いつからあるのか、今後どのようになっていくのか」が問題です。さまざまな場面での抑圧や差別の問題について、テキストや参考文献を読んでください。またこうした「共生」の価値観と前近代社会、近代社会の価値観との関係に留意しておいてください。　１．障害者問題について。　２．見た目問題について。　３．民族問題について。　４．震災復興の問題について。　５．原爆問題について。　６．原発事故の問題について。
■学習の到達目標	抑圧性･被抑圧性の議論から自身と他者の問題がどのように社会と関係しているのかについての理解が必要です。
■成績評価の基準	抑圧性の議論と被抑圧性の議論の両方の議論の展開とその理解度によって採点を行います。

授業科目	情報・メディアとコミュニケーション				単位	2.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TT5253	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルメディア論・改訂版　　つながりを再設計する	藤代裕之編著	青弓社	[ISBN]9784787234490

■授業の概要	近年におけるメディアの変化は著しく、特にソーシャルメディアの発展に代表される個人からの情報発信は時にはマス・メディアの影響力を上回るほどになっている。このようなデジタルコミュニケーションの発達はユーザー/消費者の利便性の向上をもたらした一方で、情報洪水、炎上・誤報、ステルスマーケティングなどの新たな問題も引き起こしている。「情報」「メディア」「コミュニケーション」のいずれも元来の意味はオンラインに限定されたものではなく、長い期間をかけて進化してきたものである。ただし、インターネットの普及に伴う「情報」「メディア」「コミュニケーション」の変化は、社会にも大きな影響を与え、現在では「情報社会」と呼ばれるものの基盤となっている。　本講義では、情報社会における主要構成概念である「情報」「メディア」「コミュニケーション」のそれぞれについて学習することで、現在起こっているさまざまな事象への理解を深めることを意図している。
■学習の要点	本講義指定のテキストでは、「情報」「メディア」「コミュニケーション」のそれぞれについて主要なトピックが章ごとにまとめられている。そのため、まずはテキストの内容を的確に把握することが必要となる。テキストを読み進めていけば「情報」「メディア」「コミュニケーション」の各分野が独立したものではなく、相互に依存した関係であることが理解できる。例えば、「コミュニケーション」の欲求が「メディア」の発達を促し、「情報」量の増大が「コミュニケーション」の阻害要因となったことで、更なる「メディア」の発達を促すといった具合に、「情報」「メディア」「コミュニケーション」の関係性を捉えることができるようになる。言い換えれば、「コミュニケーション」の問題を考えるに当たっては、「情報」と「メディア」の両方の視点が必要になるということであり、そうした点で各分野の基礎知識を網羅することが「情報・メディアとコミュニケーション」という科目を考える上では重要となる。　なお、各章には参考文献も記載されているため、必要に応じて活用して欲しい。
■学習の到達目標	本講義では、「情報」「メディア」「コミュニケーション」に関連した各分野における基礎知識を身につけるとともに、最新事例について把握することを目的としている。加えて、それらの知識や事例を有機的に結び付け、自身の考えに応用可能となることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。また、受講者自身の意見を記載することを重視しているため、エビデンスを示した上で意見を論理的に記載できているような場合に高得点を与える。

授業科目	情報社会論				単位	2.0
担当者	長光　太志			シラバスグループ	TT5254	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
メディア社会論	辻泉	有斐閣	[ISBN]9784641150553

■授業の概要	本科目では、情報化の進展によって個人や社会システムにどのような変化が生じているのかを理解することを目的とする。そのために、「メディア社会論」において論じられる「流動化」「個人化」「再帰化」の 3 つの項目について検討する。まず「流動化」の項目では、これまでのメディアの来歴が「流動化」というキーワードに即して解釈される。つぎに「個人化」の項目では、現代社会におけるメディアの功罪を「個人化」というキーワードを軸に読み解く。最後に「再帰化」の項目ではこれまでの様々なメディアを反省的に比較検討し、「再帰化」というキーワードを手掛かりとして、メディアが作り上げる情報化社会のよりベターな在り方を構想する。
■学習の要点	情報社会の歴史は新しいが、日々変化している。このような情報社会を理解するためには、過去から現在というクロノロジカルな視点を持ち、その先に未来の可能性を構想することが大切である。近代の情報化は、情報の一方向的発信から始まり、次第に双方向的な情報化へと展開してきた。その中で社会は、情報をネットワーク化し、モバイル・デバイスを発達させ、より変化に富むコンテンツを生み出すようになった。一方で社会の情報化は、私たちの生活にこれまでにないほど微細に入り込み、監視やコントロールの媒体ともなる。我々はこうした変化を総体として検討し、より良い未来を構想する必要がある。そのため、特に、下記の問いについて留意しながら学習を進めることが肝要となる。 (1) これまでメディアがそのような経緯を辿って発達してきたのか (2) 現在のメディアが持つ具体的な功罪とは何か (3) 今後の情報化社会（≒メディア社会）は、メディアの来歴や功罪を踏まえると、どのように構想できるか？
■学習の到達目標	情報社会に関する包括的理解。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	コンピュータ論			単位	2.0
担当者	長尾　文孝		シラバスグループ	TT5255	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
コンピュータと情報システム［第 2 版］	草薙信照著	サイエンス社	[ISBN]9784781913698

■授業の概要	今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されている。コンピュータは計算する道具から、データ処理の道具、そして情報を引き出し、整理し、分析した上でその結果を分かりやすく提示したり、情報を発信する道具、さらには日常生活のあらゆる道具を制御する装置になりつつある。この科目の第 1 の目的は、何故コンピュータが計算機に留まらず今日のような展開ができたのかについて、ハード装置の構成や動作の仕組み（例：何故 2 進数をベースにおくのか、データサイズの容量等）を理解することである。第２の目的は、コンピュータ利用の現状と問題について理解することであるが、それについては、情報通信ネットワーク、情報システムは、今やコンピュータと切り離すことができない必要不可欠な関係にあるので、同時にこういった項目についても学習したい。
■学習の要点	本科目で取り上げるテキストにおいては、各項目について、トピックのみを抜き出して、箇条書きのように説明がされていて、多少分かりにくい部分があると思うが、全ての項目は裏ではきちんとリンクしている。その点については注意して学習して欲しい。例えば、例を挙げると、コンピュータは電気を動力源にして作動している→スイッチの ON/OFF で区別するしかない→2 進数で情報を区別するしかない→データの容量も 2 進数で表現するしかない→1M は 1024byte になる、といったような事である。つまり、コンピュータのハードと周辺の環境も全てつながっている。テキストはそれらを項目別に区別して論じているので、つながりがあいまいであるが、各項目はつながっているので、どこでどうつながっているのかを考えながら学習していただきたい。加えて、コンピュータは今や、情報システム、情報通信ネットワークの基幹機器であるので、付加的知識としてそれについても学習して欲しい。
■学習の到達目標	科目の概要で示した第１・第２の目的にかかわる部分についての諸見解を理解した上で、自分なりの評価軸が持てるようになることを目標としている。また、コンピュータのハードとソフトについては、コンピュータの発明以来めざましい発展をしてきており、その変遷を自らが理解することが到達目標となる。
■成績評価の基準	リポート：設題に対して的確に、かつ詳細に述べ、論理的に矛盾がないかどうかが評価の基準となる。科目最終試験：問題に対して、包括的に全体像をとらえているか。かつそれぞれの項目がもれなく詳細に述べられているかが評価の基準となる。

授業科目	メディア・リテラシー				単位	2.0
担当者	崔　銀姫			シラバスグループ	TT5256	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
【新テキスト】五輪と戦後：上演としての東京オリンピック	吉見　俊哉	河出書房新社	[ISBN]9784309254050
【旧テキスト】表象の政治学　テレビドキュメンタリーにおける「アイヌ」へのまなざし	崔銀姫	明石書店	9784750341101

■授業の概要	【新テキスト】今年度のテキストですが、日本の著名な社会学者である吉見俊哉先生の{『五輪と戦後』,https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309254050/}を選びました。今回はみなさんとともに『五輪と戦後』を読みながら、日本の社会について、それから私たちが経験してきた「五輪と戦後」について、じっくり考えれればと思っています。もとよりこの授業は、現代社会の国内・海外のさまざまな動向や社会的現象、出来事などについて関連する文献を読みながら、そこで学んだ知識と経験をもとに、自分の考えを創造的にまとめられる力を身につけることといえます。現代社会について一緒に考えながら進めていきますので、関心のある学生は奮ってご参加ください。【旧テキスト】本科目では、戦後の最も「マス」な社会システムの一つとして成立した「テレビ放送」が戦後の日本の社会においていかなる歴史的背景のなかで生まれて、また他のさまざまなマスメディアとの関係性のなかでどのように連続・断絶しながら変容してきたのか、その際、メディアはどのように人種やジェンダー、または民族といった文化的差別の問題に関わってきたのか、たとえば、メディアはどのような日本のマイノリティー（アイヌ民族や部落、沖縄、在日コリアンなど）へのまなざしを作り出してきたのか、という問題について考えます。さらに、戦後日本のメディア社会と権力との連続（もしくは非連続）する歴史におけるテレビというメディアの位置づけを「ドキュメンタリー」というメディアジャンルから検討します。これは、「放送」「ドキュメンタリー」といった一次的なキーワードの意味を学習することだけではなく、「メディア」や「情報」といったキーワードをいわゆる「社会科学」として解釈・理解することを意味します。つまり、「メディア」や「情報」「放送」「ドキュメンタリー」等の問題から、「近代」や「国民国家」「戦争」「放送空間」「公共性」「マイノリティー」「ナショナリズム」「人種」「アイデンティティ」「グローバル化」などといった社会科学の「知」の世界との関係性を探ることが重要であることと、そしてこうした学びが一次的な「メディアリテラシー」の学びからより深められたの本科目の履修の狙いと重なると言えます。
■学習の要点	【新テキスト】·「現代社会を考える」こととは何か、をまなぶ·コロナと五輪をメディアはいかに報じたか､著者の意見を参考しながら検討する·日本の世論と海外の反応を検討する·何が、それからなぜ問題なのかを、考える·学術的な知識をもとに自分の意見を論理的にまとめられる【旧テキスト】今回テキストとして選定した拙著､『表象の政治学：テレビドキュメンタリーにおける「アイヌ」へのまなざし』は、本科目の問題意識（試験問題）に直接的な、また間接的な答えとヒントを示してくれています。しかしながら、学びの方法として言

	うのならば、早速最初から指定のテキストを読みながら学習するのも良いかも知れませんが、可能であればメディア関連の入門書(たとえば、〇〇概論、〇〇入門）等を事前に（または同時進行型で）読了しておくとテキストの内容が理解しやすくなるとともに、試験問題への回答がやり易くなると思います。また、拙著では難しい専門用語はできるだけ使用しないようにしていますが、テキストを読む際、もし分からない専門用語が出てきた場合は必ず検索してその意味を事前に理解しておくことが必要です。それから、メディア関連だけではなく、日本社会全体の歴史的な動きや変化について幅広く理解しておくことは「社会科学」としてメディアを研究するために重要とされる姿勢だと言えます。なお、テキストのタイトルでは「テレビ」や「ドキュメンタリー」、「表象」、「まなざし」といった限定的な表現が書かれているが、テキストを読了すればこれは問題関心の出発点にしか過ぎないことが分かるはずです。具体的な「メディア」の問題から日本社会における歴史的編制を鳥瞰しつつ捉え直すこととはどういうことなのか、テレビ放送におけるメディアリテラシーとは何なのか、テキストでは何を主張しているのか、なぜテレビドキュメンタリーからメディアリテラシーが言えるのか、なぜ２１世紀のデジタルメディア時代にメディアリテラシー的判断はますます難しくなっているのか、しかしながらメディアリテラシーはなぜ重要なのか、そもそもメディアとは何のためにあるものなのか、などを、注意深く検討しながら学習してもらいたいです。

■学習の到達目標	日常生活におけるメディアとの関わりをクリティカルに読み取って論理的に説明できる。

■成績評価の基準	適切な事例が挙げられたのか論理的な記述なのか引用や参考文献を正しく理解していたのかクリティカルな見解が書かれていたのか

授業科目	メディア文化論				単位	2.0
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	TT5257	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
メディア文化論　メディアを学ぶ人のための 15 話	吉見俊哉	有斐閣	[ISBN]9784641124875

■授業の概要	本科目の狙いはメディアに関する歴史的かつ社会学的な展開やアプローチ、そして解釈について基礎的な知識を身につけると共に社会文化としてのメディアを体系的に考察することである。現代のデジタルメディア時代における様々なメディアと日常生活との関係性をどのように「メディア文化」として読み取ればいいのか、身近なメディアと文化の形をどのように社会学として位置づけうるのか、過去から今に至るまでの変容はなぜ、そしてどのように行われてきたのかなどなど、本科目ではこうした問いの答えを探ることを目指す。テキストでは様々なメディアの具体的な事例をあげながら文化へのアプローチの方法と解釈について説明されているので本テキスト履修を通して現在のメディア環境に応用できるように力を身につけてもらいたい。
■学習の要点	まず、テキストの総論をしっかり読み取ることが重要である。そして、テキストのなかで事例として取り上げられている様々なメディアを「文化」として捉えることとは何か、「メディア文化」のような考察のための方法論は何なのか、そして、結局こうした研究から分かってきた成果は何かといった問題点の回答をしっかり理解してほしい。また、参考文献のリストも要チェックである。今年度は社会学の基礎的な専門用語を各自の日常メディア実践の中で探し、適応することを目指すためのリポート設題を準備した。テキスト及び関連する参考文献や論文もしっかり読み込みながら、専門用語や理論を理解することから始めよう。その次のステップは、理解した内容を、自分の生活の中で応用してみることである。
■学習の到達目標	マスメディアの発展と社会における影響を理解すること。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	社会心理学				単位	2.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TT5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	東京書籍	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在としての誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自我や社会的性格、パーソナリティや社会的相互作用、そして帰属意識や公正などについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　攻撃 2　集団 3　社会的自己 4　態度と説得 5　社会的影響 6　ステレオタイプ
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	経済学概論				単位	2.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172
新･世界経済学入門(岩波新書新赤版 1482)	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど非正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には答えを出せないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」「貧困」の現状把握、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	社会学概論				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．文化相対主義、同化主義などについて把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	現代日本社会史				単位	2.0
担当者	近藤　敏夫・野﨑　敏郎			シラバスグループ	TT5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
現代日本社会論	飯田哲也・著	学文社	[ISBN]9784762017391

■授業の概要	現代日本社会は、他の国の社会と共通する諸問題を抱えているとともに、日本独特の構造をもち、それによって、社会のありかたや問題解決の方向性に差異が生じている。そこで、日本の社会はどのようにして形成されたのか、なぜ日本独特の問題が生じてくるのかを解明する。また、その問題発生の原因・要因を探ることによって、その解決の方向性を検討する。この科目では、幕末以降の日本の歩みを振りかえり、日本の将来を見通すための歴史的視座について考える。1860 年代から 1990 年代までの近現代史を検討するが、1945 年以降の現代をおもに取り上げる。
■学習の要点	幕末期からバブル崩壊後までの社会変動を概観し、現代日本社会が歴史的にどのような性質を帯びるに至ったのかを明らかにする。あわせて、国際社会のなかにおける日本の位置づけ、日本人の社会意識やナショナリズムの問題も検討し、グローバルな歴史認識のための基礎知識の習得を図る。
■学習の到達目標	現代の日本社会を条件づけてきた歴史的文脈や背景を考察する。政治、経済の領域よりも社会領域を中心として学習し、現代日本社会の民主主義のあり方について、受講生が自分自身の理解と意見を持つことを目標とする。
■成績評価の基準	日本社会の歴史的動向について自分自身の理解と意見をもっているかどうか。

授業科目	20 世紀の歴史				単位	2.0
担当者	上田　道明・山本　奈生			シラバスグループ	TT5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
二〇世紀の歴史	木畑　洋一著	岩波書店	[ISBN]9784004314998

■授業の概要	人文社会学系であればどの分野でも、基礎教養として現代史の大きな文脈をしることが大切です。本科目は通史として「帝国主義の時代」から「冷戦の終わり」までの流れを学習します。大国間の戦争や政治の歴史と同時に、植民地解放や社会変動に留意しながら読書すべきです。
■学習の要点	テキストを丁寧に読むことが第一となります。その上で、「知っているようで曖昧」「あまり知識がない」「特に関心をもった時代や出来事」とご自身で考えた箇所については、適宜図書館やネット上できちんとした論文情報などを調べて補完します。
■学習の到達目標	現代史の大きな流れを知り、「帝国主義」「二度の世界大戦」「ロシア革命」「ホロコースト」「ベトナム戦争」などの重要な世界史的出来事について基礎知識を固めること。
■成績評価の基準	記述する出来事について大きな文脈と社会背景を正しく理解できているかどうかがまず評価基準となります。細かな年号や人名のミスは小さな減点となるだけです。

授業科目	情報通信ネットワーク論				単位	2.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TT5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
おうちで学べるネットワークのきほん	Gene	翔泳社	[ISBN]9784798125268

■授業の概要	狼煙、伝書鳩、駅制等を経てきた情報通信の歴史は、年月を重ねながらコンピュータを介した情報通信ネットワークに変化してきている。現在ではユビキタス・ネットワーク（いつ、どこにいても情報通信サービスを利用できる偏在的ネットワーク）の時代へと発展しつつあり、経済・社会インフラの一つとしてコンピュータネットワークが情報通信ネットワークの主な役割を担うようになっている。したがって、現在の情報ネットワーク社会において、コンピュータによる情報通信ネットワークは関わりを避けては生きてゆけないものとなっている。これゆえ、現在、情報通信ネットワークの仕組みを理解する事は、急速に発展し続ける情報ネットワーク社会に対応するために必要不可欠なものであると考えられる。加えて、今後のコンピュータネットワーク社会に対する先見性を養うためにも重要な事であると思われる。本科目は、コンピュータネットワークの基礎である LAN および WAN の接続方式や TCP/IP に代表される通信プロトコル等、ハードとソフト両方からネットワークシステムについて学習する事によって、情報通信ネットワークの現在の状況および構築するための知識、さらにはその問題点を理解する事を目的とする。
■学習の要点	情報通信ネットワークは今やコンピュータがその役割のほとんどを果たしているといってよい。したがって、現在の情報通信を理解するにはコンピュータネットワークの概観を捉える事が第一に必要である。コンピュータネットワークとは何か、LAN あるいは Internet の仕組みを把握し、コンピュータネットワークシステムの歩んできた歴史を学習する事によって、現在のネットワーク技術の全体像をとらえる。その上で、通信プロトコルの階層化と各プロトコルの役割や利便性と問題点を学び、LAN やインターネットにおける情報をやり取りする仕組みを詳細に理解すべきである。これに加えて、対応するハード（サーバ、ルータ、ハブ等）による情報伝達の仕組みに関する知識を得ることによって、コンピュータネットワークを利用する側、あるいは管理する側からの知識を学び、コンピュータネットワークの機能と現在の情報通信ネットワークに対する理解を深めて欲しい。その上で、情報通信ネットワーク技術の向上と発展が社会にもたらしている利便性と問題点について、新たに思考して欲しい。
■学習の到達目標	現在の情報通信ネットワークを支えている技術、主には、TCP/IP の各プロトコルについて知識を習得することが第一の目標である。また、情報通信ネットワークの仕組みと便利さについて実感すると同時に、過去では考えられなかったような問題が起きている事も、頭のどこかに置いておけるように学習していただきたい。
■成績評価の基準	現在の情報通信ネットワークを支えている技術、主には、TCP/IP の各プロトコルについて知識を習得することが第一の目標である。また、情報通信ネットワークの仕組みと便利さについて実感すると同時に、過去では考えられなかったような問題が起きている事も、頭のど

	こかに置いておけるように学習していただきたい。

授業科目	広告・広報論				単位	2.0
担当者	樋口　摩彌			シラバスグループ	TT5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　広告・広報論	藤澤武夫	佛教大学通信教育部	[ISBN] 9784861543357

■授業の概要	「戦争は平和である 自由は屈従である 無知は力である」この言葉は、かの有名なディストピア小説、ジョージ・オーウェル『1984 年』に出てくる、有名な言葉である。昨今の情報過多ともいえる社会の中、「無知」とはどういうことなのか。また「知」と「力」とはどのようにつながるのか。近年の、情報技術がもたらすコミュニケーションの広がりと迅速化により、いつ、誰が、どこで、何を、どのように伝えるかということは、テクストよりも重要な「情報」である。ネット広告、TV 広告、企業広告、企業広報、行政広報などの巧妙かつ、影響を与えた広告は、これを戦略的に実行している。こうした社会的な背景を受けて、広報活動の基礎概念と現代の広告の実態を、研究するのが本講義の狙いである。そして情報の送り手とその受け手、双方のスタンスを検証し、「知」を想像する立場、「力」を生み出す展開を認識・会得するのが、本講義の目的である。したがって、本講義は、アカデミックなアプローチとともに、現代社会や日常生活に即した、「大衆」そして「大衆を引導する少数」の視点を重点を置き、コミュニケーションの世界を分析する。
■学習の要点	広告とは何か。広報とは何か。現代社会の中で、不可欠となったこれらの情報を、生活体験の中でとらえ、正しく認識する。・広告の機能は本来経済的なものであったが、最近では文化的、社会的な機能も有している。それらを認識し理解する。・各自が一生活者として、広告・広報情報を、受け手の立場で認識すること。こうして「広告・広報」の向こう側を考察し、社会全体を分析する。・「ブランディング」は広告表現をはじめ、「あり方」すべてに通じる概念である。広告を通じて「ブランディング」を実践し、「ブランディング」が「力」になる瞬間を考察する。・広告表現における著作権をはじめ、知的財産権や差別問題などの倫理に関する、基本的知識を得る。・近年発展が著しいネット広告の実態を分析し、広告を創造できる人材になる。
■学習の到達目標	いずれもテキストを精読、考察し、現代社会を分析すれば、解答は導かれます。特に難しく考える必要はありません。ただし「学習の要点」に書かれた ポイントは的確に押さえること。また、広告や広報は、日常生活に浸透しています。したがって、日々の暮らしの中から、具体的な事例を考えておき、それを論述してください。それが自身の意見、考察に結びつき、評価対象となります。
■成績評価の基準	設題、試験は履修者と教員の重要なコミュニケーション手段です。わかりやすさを重要視してください。なお、誤字脱字や不明瞭な「てにをは」の使用がないように留意してください。

授業科目	情報産業と職業				単位	2.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TT5423	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
実践メディア・コンテンツ論入門	岩崎　達也・著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766420319

■授業の概要	情報産業に該当する産業は多岐に亘るが、特に近年ではメディアやコンテンツに関する産業の成長が著しい。インターネットやスマートフォンの普及によってメディアやコンテンツ関連産業ではビジネスモデルの変化を余儀なくされている。本授業では、メディアやコンテンツビジネスを取り巻く環境を学習することで、職業としての情報産業を考える一助とする。
■学習の要点	本講義指定のテキストでは、メディアの考え方や概要を示しつつ、情報や映像を伝える手段としてのメディアを多角的にとらえている。また、社会学、マーケティング論、広告論などの学問分野をまたぎ、実務的な要素が多く採り入れられている。そのため、まずはテキストの内容を的確に把握することが必要となる。　これらの理解を通じてメディア・コンテンツビジネスに関して包括的に学ぶことが求められる。
■学習の到達目標	メディアの基礎知識を得るとともに、今後のメディア・コンテンツビジネスの向かう方向性を考えられるようになることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。また、受講者自身の意見を記載することを重視しているため、エビデンスを示した上で意見を論理的に記載できているような場合に高得点を与える。

授業科目	マスコミ論				単位	2.0
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	TT5424	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説日本のメディア[新版]―伝統メディアはネットでどう変わるか	藤竹暁・竹下俊郎編著	NHK 出版	[ISBN]9784140912539

■授業の概要	高度情報化社会といわれる今日、マスメディアが送り出す情報は私たちの生活に不可欠なものとなっている。一方で、情報テクノロジー（IT）の進化と普及に伴い放送、新聞、出版などのマスメディア産業は大きな変革の波にさらされ、マスコミュニケーションのあり方そのものが変わろうとしている。授業ではマスメディアの機能と特性、社会における役割、受容ならびに利用状況、問題点、将来展望などを理解する。
■学習の要点	講義にはマスメディアに関わる実際の事例や時事問題を多く織り交ぜ、日常的な視点からマスメディアを考察する。まずマスコミュニケーションを理論的な側面から考える。多数の人々に情報を伝えるコミュニケーションの一形態としてマスコミュニケーションをとらえ、これが社会的にどのような機能を果たしているのか議論する。続いてテレビ放送、新聞、出版、映画、音楽などの産業別に分け、各業界の概要について基礎データを参照しつつ、それぞれが抱えている課題について考察を行う。
■学習の到達目標	今日のマスメディア産業のメカニズムを把握し、実際にそこで起きていることを議論する中で、マスコミュニケーションの全体像を包括的に理解することを目標とする。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史（仏教伝来～平安）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	日本仏教史（鎌倉以降）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中おいて、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	2.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで興った仏教が中国に伝来して、中国人社会に、どのように変容し、適応し、受容されていったかを中心に中国における仏教の歴史的展開について、学習することが望ましい。・インドより中国・日本へと伝わった仏教の流れの中の中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の青磁・社会・生活の中で仏教はどのような立場で、展開してきたのかという中国史の立場からみた仏教史を考えなければならない。よって西暦前後の仏教伝来から現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的・教団史的に偏ることなく、歴史的・全般的に学習することである。
■学習の要点	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支配下の仏教)、12．明・清の仏教、13．現代の仏教について時代の流れにそって、理解すること。
■学習の到達目標	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支
■成績評価の基準	「学修の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に即して、成績評価をする。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。

■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。

■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。

■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	情報システム論				単位	2.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TT5521	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
コンピュータ概論-情報システム入門 第9版	魚田 勝臣 編著・ 渥美 幸雄 著・ 植竹 朋文 著・ 大曽根 匡 著・ 森本 祥一 著・ 綿貫 理明 著	共立出版	[ISBN]9784320124981

■授業の概要	現代の情報化社会の中では、誰もが何らかの形で情報システムと関わりを持って生活している。また、21 世紀の情報化時代を生きるためには、情報リテラシーと同様にエンドユーザーでさえ情報システムについての知識が必要になりつつある。そこで本科目では、情報の収集、蓄積、加工、管理、伝達、利用をどのように行えば良いかという観点に立ち、人間の活動に、高い効率性、柔軟性、利便性をもたらす情報システム、特に現代の情報化社会におけるコンピュータを中心とした機械的機構を重視した情報システムの知識や技術について、コンピュータリテラシーの知識も含めて学習することを目的とする。
■学習の要点	本科目の学習の重要なポイントとして、（1）企業情報システムの基本概念の変遷を組織、戦略、ネットワークという側面から捉えること、（2）既存の情報システムの利点や欠点を明らかにして、今後の情報システムの在り方について、特にネットワーク化されたシステムについての問題点などについて検討すること、（3）情報システムにおけるハードウェアの仕組みやソフトウェアの役割について理解すること、以上の点に留意して学習を進めていくことが必要である。　情報システムの基本概念の変遷については、単に歴史的な回顧だけではなく、情報システムの役割の変化を検討することにより、情報システムの設計・管理・運営において留意すべき事項を明確にして、情報システムに求める役割についての認識を深める。また、コンピュータネットワークの発達により、情報システムにおけるネットワークの役割を検討し、今後の情報システムの可能性を CALS の進展と事例から検討する。コンピュータのハードウェアについては、リテラシーとしてその仕組みを正確に理解し、また、ソフトウェアについては、OS やプログラミング、ファイル・データベースなどを中心に、情報システムの重要な要素として、その必要性や目的、役割について詳しく理解する。
■学習の到達目標	情報システムは何か、および情報システムの歴史や、ハードやソフトの変遷はどうなっているかについて理解を深めることが目的である。また、普段利用している情報システムの構築や維持等、複雑な過程が絡み合って成り立っていることを認識し、情報システム化とは何か、について学習して知ることが目標である。
■成績評価の基準	リポート：ライフサイクルの各項目がきちんと述べられていること、および実際例がそれぞれ述べられていることが添削のポイントとなる。最終試験：問題に沿って論理的に正しく、かつ情報システムのライフサイクルに即して述べられているかが評価の基準となる。

授業科目	デジタル・メディア論				単位	2.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TT5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
実践マルチメディア[改訂新版]	実践マルチメディア［改訂新版］編集委員会著	CG-ARTS 協会	[ISBN]9784903474618

■授業の概要	本講義ではマルチメディアの処理技術からコンピュータ、インターネット、Web を通してビジネスやセキュリティ、知的財産権に関するテーマを扱う。マルチメディアが関与する領域は幅広いため、体系的に学ぶことで相互の関連についてより深い理解を得ることができる。
■学習の要点	デジタル・メディアを理解するうえで必要とされる知識は多岐にわたるため、テキストを繰り返し精読し、分からない点については自身で逐一調べる必要がある。
■学習の到達目標	CG-ARTS 協会が発行する民間資格であるマルチメディア検定のエキスパートレベルを取得できる程度の知識と技能を身につけることを本講義の到達目標とする。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。また、受講者自身の意見を記載することを重視しているため、エビデンスを示した上で意見を論理的に記載できているような場合に高得点を与える。

授業科目	情報ビジネス				単位	2.0
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	TT5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説日本のメディア[新版]―伝統メディアはネットでどう変わるか	藤竹暁・竹下俊郎編著	NHK 出版	[ISBN]9784140912539

■授業の概要	現代社会を動かしているものの１つにメディアがある。このメディアの本質を理解することが大切だ。メディアに関連したビジネスは巨大な産業になっているし、メディアビジネスと無関係な生活や仕事は存在しないほどである。さらにメディアビジネスは、大きな雇用を生んでいる。就職先としてもいまや無視できない。この科目では「メディアビジネス」といわれるものを幅広くとらえ、その実際を把握しようとするものである。「実学」という視点では、広汎のメディアビジネスの実勢を捉えておくことは様々な意味で役立つものである。非常に変化の激しいビジネスではあるが、メディア需要と市場の変化、コンテンツの生産と消費などなど、鋭い動体視力で実像をつかんでもらいたい。
■学習の要点	（１）ここでは、テキストに即して新しいメディア産業と社会との関係を中心に学習してほしい。（２）放送・新聞・出版などのいわゆるマスメディアの産業的な変化とその背景の学習にも意を注いでもらいたい。（３）新興メディアビジネスのうちインターネット関連はとくに重点的に学習してほしい。（４）カタカナによる専門用語が多く出てくるので、情報学辞典と IT 関連の用語辞（事）典などを参照しながらキーワードは把握してもらいたい。（５）テキストは１冊だけ指定しておくが、関連する本や雑誌は数多く出版されているので、それらの中から参考になると思われるものにも目を通しておきたい。
■学習の到達目標	情報ビジネスにおける今日的課題を理解する。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	教師・保育者論				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂　保育職論	松本峰雄他・編著	建帛社	[ISBN]9784767951072

■授業の概要	教師・保育者になることを志望する学生に、学校・園における教師・保育者の仕事の実際を歴史的に具体的に示しつつ、「教える」「保育する」という行為を成り立たせるために必要な教師・保育者の能力について考察する。併せて幼小連携・幼保連携の観点から、教育・保育の専門職として教育の制度について理解し、教師・保育者に求められる知識・資質・専門性・連携等について考える。
■学習の要点	教職・保育職の理解と教育・保育に必要な資質・能力を涵養する。具体的には、以下の事項等である。・教師・保育者の存在意義と役割・教師・保育者の歴史・教師・保育者の職責と求められる資質・能力・教師・保育者の専門性・教師・保育者としての成長・社会の中の教師・保育者
■学習の到達目標	1.教師・保育者に必要な知識・技術の概要を把握する。2.教師・保育者に必要な資質能力を理解する。3.教師・保育者の職務内容、服務上・身分上の義務を理解する。4.ティーム保育の意義及び専門家との連携について理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児教育・保育課程論				単位	2.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振る返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児理解及び保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	保育原理				単位	2.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TU5114	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・保育原理 ［第４版］ーすばらしき保育の世界へー	三宅茂夫　編	株式会社みらい	[ISBN]9784860154301

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上て、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性・自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	・保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。・テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。・問題に合致しない答案は不合格とする。・問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。・解答が論理的に展開されていること（20 点）。・自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	特別な教育的ニーズの理解とその支援				単位	1.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5473	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育の基礎・基本（2020）	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715486

■授業の概要	通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上・生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。
■学習の要点	１．特別支援教育に関する理念・制度について学ぶ。２．心身の発達の概要と様々な障害について学ぶ。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要について学ぶ。
■学習の到達目標	１．特別支援教育に関する理念・制度を理解する。２．心身の発達の概要と様々な障害を理解する。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要を理解する。
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現すること。

授業科目	保育の内容及び方法				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育方法論	髙橋司著	佛教大学	[ISBN]9784907177485

■授業の概要	「幼稚園教育要領」を通して保育内容を理解するとともに、「領域」（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の有機的関連について理解を深める。また、保育内容の歴史的編成について考察し、平成 30 年版「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の共通性についても考察する。さらに、倉橋惣三の保育を通して保育内容・方法の理解を深め、「環境を通して行う保育」を基本に、養護と教育が一体的に展開することを具体的な指導技術につなげて学習する。
■学習の要点	１．幼児教育の基本と保育の内容と方法（対話的・主体的な保育とは）２．「領域」と「教科」の違いと連携３．幼稚園教育要領の変遷と比較検討４．映像教材を活用した環境による教育５．幼稚園教育において育みたい３つの資質・能力の育成６．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿７．倉橋惣三と幼稚園教育要領８．『幼稚園真諦』を読む　～さながらの生活・目的か対象か～９．『幼稚園真諦』を読む　～設備と自由・自己充実・充実指導～10.『幼稚園真諦』を読む　～生活を生活で生活へ～11.『幼稚園真諦』を読む　～誘導・教導～12.『育ての心」『子ども賛歌』を読む 13. グループ・クラス活動の中での指導・評価 14. 生活習慣の指導・評価 15. 保育行事の指導・評価
■学習の到達目標	現代の幼稚園教育要領に多大な影響を与えた、倉橋惣三の保育をどこまで理解できたか。
■成績評価の基準	『幼稚園真諦』を自分で読んで、キーワード抽出の上考察できているか。キーワードがどれくらい理解できているかを評価する。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	保育内容の理論と方法「言葉」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5502	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容研究言葉	吉岡剛編	佛教大学	[ISBN]9784907177034

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	１．領域「言葉」のねらいと内容２．乳幼児期のことばの発達３．聞くこと・話すことと保育４．読むこと・書くことと保育５．ことばの指導の留意点６．ことばをのばす遊び　呼びかけ、劇あそび、ことばあそび、ごっこ、手あそび・指あそび、伝承あそび等７．ことばを育む視聴覚文化財　童話、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアター、エプロンシアター等８．保育者のことば
■学習の到達目標	・乳幼児期のことばの育ちについて理解する。・子どものことばの育ちを支える保育者の役割や保育内容について理解する。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	幼児と健康				単位	2.0
担当者	青木　好子			シラバスグループ	TU5503	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修　國土 将平・上田 恵子 編集	株式会社みらい	[ISBN]9784860155285

■授業の概要	運動あそびを通して、「健康」について具体的に学習する。そのための保育者の環境構成、援助について考え、その在り方と共に体感し合いましょう。保育者として、実践を行う上での資質を高めることに役立つように展開します。受講生に対しては、知識の伝承ではなく、対話を繰り返しながら「健康」について一緒に考えましょう。テキストの予習や、配付資料の復習を行ない、受け身ではなく常に「問い」と「自分なりの考え」を持ち、取り組んでください。

■学習の要点	１．領域「健康」のねらいと内容を理解し、基本的な知識や技能について考察し理解を深める。２．幼児期の子どもを取り巻く現状と課題を理解するとともに、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すために必要な環境構成や援助について具体的に考察し、保育現場での実践において重要なポイントを整理する。３．幼児期の運動の意義を理解し、発育発達に適した楽しい遊びを展開するための環境構成、援助について考察し様々な動きを獲得するための運動遊びのポイントについて整理する。

■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域「健康」について、ねらいと内容について説明することができる。２．幼児期の心身の発育発達の特徴やそれに応じた運動あそびについて説明できる。３．心を動かし、体を動かすあそびに則した環境構成、援助の在り方について説明できる。

■成績評価の基準	領域「健康」のねらいや内容を踏まえて、要点を示すキーワードを用いて記述されている。課題の意図を理解し、自身で具体的に考察した内容も含め整理して論理的に記述されている。

授業科目	幼児と人間関係				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容人間関係 （新保育ライブラリ;保育の内容･方法を知る ）	小田豊ほか編著	北大路書房	[ISBN]9784762826412

■授業の概要	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として、関係発達論的視点について学び、他者や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･現代社会における幼児の人間関係・人間関係を視点とした幼児期に育みたい資質･能力･人間関係を視点とした 3 歳未満児の発達の理解･園生活における人と関わる力の育ち･乳幼児期の依存と自立･協同的な学び･幼児期の道徳性･規範意識の芽生えと育ち･乳幼児期の人間関係のひろがり
■学習の到達目標	１．幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。２．人と関わる力の育ちがその後に続く一人一人の人生を支える力となることを理解している。３．乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。４．幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。５．自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。６．協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。７．道徳性・規範意識の芽
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児と環境				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TU5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉環境	福元真由美　編集・無藤隆　監修	萌文書林	[ISBN]9784893472588

■授業の概要	領域「環境」のねらいを基に、幼児と身近な環境とのかかわりを通して、生きぬく力の基礎を育てるための実践的指導力につながる専門性を学ぶ。　幼稚園教育要領の領域「環境」について，ねらいと内容を理解し，実践的指導力につながる専門性を学習する。　自然環境を活かした実践方法や、環境構成の実践方法につながる専門性を学習する。
■学習の要点	何よりもまず，テキスト学習を行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを知り理解してください。　そして，とくに興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けて特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。１．テキストおよび幼稚園教育要領解説をもとに幼児教育の基本についてよく学修する。養護と教育の一体性，小学校教育への基盤，遊びを通しての指導，環境を通して行う教育の意義，幼児の主体性と教師の意図，環境を通して行う教育の特質等の内容について整理し考える。２．テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容をもとに，領域「環境」における意図的・計画的な教育の必要性について具体例をもとに考える。３．子どもの発達と環境とのかかわりを考える。乳幼児期の発達における環境との関わり，乳幼児と環境とのかかわりを支える人の視点から，テキスト（コラムの用語にも留意）や他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。４．子どもが自然の中で体験すること，学んでいることを捉え，体験を深めるための教師の関わり，自然をいかした環境構成を考える。教師の立ち振る舞い，計画性，教材選択，直接体験とその表現，季節の変化，遊びと好奇心などのキーワードをふまえ，テキストや他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。５．ものや道具に関わって遊ぶことについて，テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容や，他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。６．文字や標識，数量や図形に関心をもつことについて，テキストおよび幼稚園教育要領解説の領域「環境」のねらいと内容や，他の参考文献をもとに具体例を通して考察すること。７．思考力の芽生えについて，第８章を基礎としてテキスト全体を見直し，「遊び」を鍵に，好奇心，試行錯誤，協同という用語を通して具体例をもとに考察すること。

■学習の到達目標	・幼稚園教育要領の領域「環境」のねらいと内容を理解し，乳幼児期の育ちと環境の関係を把握するとともに，保育内容「環境」の実践的指導力につながる専門性を身につける。・自然環境を活かした実践方法や、環境構成の実践方法，身近な自然とのかかわりと実践的指導力（環境構成を含む）につながる専門性を体得する。

■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。 テキスト学習の成果を判断します。テキスト学習の成果が認められない場合は不合格となります。 剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等，不正が疑われるものは合格とならない場合があります。 テキスト以外からの引用について，出典等が明記されていないものは合格とならない場合があります。

授業科目	幼児と言葉				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5506	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
乳幼児のことばの世界　聞くこと・話すことを育む智恵	髙橋　司著	宮帯出版社	[ISBN]9784863669154

■授業の概要	幼稚園において育みたい３つの資質、能力や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解したうえで、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について理解を深める。さらに、幼児の発達に即して、主体的、対話的で深い学びの過程を踏まえ、領域「言葉」のねらいの達成に繋がるような指導場面を想定した保育の構想ができる力を身につける。
■学習の要点	幼稚園教育要領における領域「言葉」の理解とその指導について考察する。
■学習の到達目標	1.幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらいおよび内容を理解すること。2.幼児のことばの発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」にかかわる具体的な指導場面を想定し、保育を構想する方法を身につける。3.幼児を取り巻く現代的課題を理解し、それに応じた保育が構想できるようになること。
■成績評価の基準	・領域「言葉」のねらいと内容が理解できているか。・子どものことばの育ちにつながる保育のあり方について理解できているか。

授業科目	幼児と表現(造形)				単位	2.0
担当者	髙橋　敏之・芦田　風馬			シラバスグループ	TU5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容表現 保育の内容・方法を知る	花原幹夫編著	北大路書房	[ISBN]9784762826610

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された幼児の造形表現に関する目標や内容を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を身に付ける。
■学習の要点	幼児の造形活動における基本的な知識を学ぶ・幼児期における「造形表現」の目的と意義・幼児の造形表現の発達と保育者の役割・描画（かく）活動の意味と理解・制作（つくる）活動の意味と理解・教材研究（教材のとらえ方と活用法について）・個別指導と集団指導（仲間意識育成の重要性について）
■学習の到達目標	1．幼稚園教育要領・表現（造形）の目標、内容について理解している。2．造形表現題材開発とその振り返りから、子どもの実態を視野に入れた保育設計の在り方を理解している。
■成績評価の基準	科目最終試験での評価となる。

授業科目	幼児と表現（音楽）			単位	2.0
担当者	臼井　奈緒		シラバスグループ	TU5508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑥ 初等音楽科教育	高見　仁志　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082025

■授業の概要	幼児は生来、歌うことや音を鳴らして遊ぶことに興味をもっており、保育現場でもさまざまな音楽活動が盛んに行われている。音楽に対する愛好心や豊かな感性を育む幼児期の音楽活動を支え、指導するためには、音楽の専門的知識や演奏技能の習得が必要とされる。　ここでは保育における音楽活動内容と指導法について概観する。また、音楽指導実践に必要な音楽理論の知識とその活用法について学ぶ。
■学習の要点	１．幼稚園教育要領第２章「表現」のねらい及び内容についての理解を深めること。２．主たる音楽活動である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容と、指導上のポイント・留意点を理解すること。３．音楽活動を担う指導者として必要な音楽理論の基礎（読譜力・コード奏法・移調等）を習得すること。４．楽曲の魅力や特徴を幼児・児童にしっかり伝えるための教材研究の重要性に気づき、指導実践に活かす方法を探求すること。
■学習の到達目標	音楽理論の基礎的知識を習得し、読譜力と想像力をもとに教材と真摯に向き合い、音楽活動をとおして幼児・児童の豊かな表現を促す指導方法の工夫ができるようになることを目指す。
■成績評価の基準	・題意を正しく理解した上で解答されていることが重要である。　・テキスト学習の成果を必ず反映させること。テキスト学習の成果が見られない場合は不合格とする。・箇条書きだけの場合も不合格とする。

授業科目	子ども家庭福祉				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える児童家庭福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623075928

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）に関する支援体制を理解するとともに、次の 5 点について、テキストを通して学ぶものである。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2．子どもの人権擁護について理解する。 3．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
■学習の要点	テキストを読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえ学習する。1．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷　子ども家庭福祉の理念と概念についての理解を深め、子ども家庭福祉の歴史的変遷 について整理し、現代社会と子ども家庭福祉 あり方について考察を深める。2．子どもの人権擁護　子どもの人権擁護の歴史的変遷 について学び、「児童の権利に関する条約」に批准したことにより、児童福祉法などの諸制度の変革されていることについて理解を深める。3．子ども家庭福祉の制度と実施体系　子ども家庭福祉の制度と法体系や実施体系 について学ぶとともに、児童福祉施設 や子ども家庭福祉の専門職 についての理解を深める。4．子ども家庭福祉の現状と課題　少子化と地域子育て支援 の体制、母子保健と子どもの健全育成 など、多様な保育ニーズへの対応 や、子ども虐待･ＤＶ（ドメスティックバイオレンス）とその防止などについての保育士の役割を学ぶ。さらに、社会的養護、障害のある子どもへの対応 、少年非行等への対応 や、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 について理解を深める。5．子ども家庭福祉の動向と展望　次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進について学ぶとともに、 地域における連携 ・協働とネットワーク、諸外国の動向について学ぶ。
■学習の到達目標	児童の権利について、「児童の権利に関する条約」が大きく影響していることについて理解する。また、こども家庭福祉の制度や実施体系等について理解するとともに、子ども家庭福祉の現状と課題について整理する。 子ども家庭福祉の動向と展望について自ら述べられるようにするとともに、保育士として子育て支援にどう関わるのかについての課題を明確にする。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	社会福祉論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える社会福祉	大塚　良一/小野澤　昇/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072446

■授業の概要	社会福祉は、戦後日本の資本主義社会の発展とともに定着し、制度化されてきた。しかし、現代社会の社会問題は、子どもの貧困にみられる「相対的貧困」のように複雑化、潜在化され、制度化されにくいものになっている。そのような中で、保育士としてこれらの問題にどうかかわるべきかについて、本論では次の 5 つの視点を理解することを目的として学習していく。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する、②社会福祉の制度や実施体系等について理解する、③社会福祉における相談援助について理解する、④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する、 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。保育士として、その基礎となる社会福祉について学び、専門職として活躍することを目指す。
■学習の要点	（1） 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について学習する。（2）社会福祉の制度や実施体系等について学習する。（3）社会福祉における相談援助について学習する。（4）社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて学習する。（5）社会福祉の動向と課題について学習する。
■学習の到達目標	次の点を学習の到達目標とします。①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。③社会福祉における相談援助について理解する。④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	子ども家庭支援論				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5703	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの生活を支える家庭支援論	小野澤　昇/田中　利則/大塚　良一編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066438

■授業の概要	子ども家庭支援の観点から、次の５点について学ぶ。１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
■学習の要点	学習の要点として次の点を、４つの内容について理解を深める。１．子ども家庭支援の意義と役割　子ども家庭支援の意義と必要性 と、子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。２．保育士による子ども家庭支援の意義と基本　保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義について学び 、子どもの育ちの喜びの共有 、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援や保育士に求められる基本的態度（受容的関わり・自己決定の尊重・秘密保持等)、家庭の状況に応じた支援 、地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力 について考察する。３．子育て家庭に対する支援の体制　子育て家庭の福祉を図るための社会資源 について学び、子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進について理解を深める。４．多様な支援の展開と関係機関との連携　子ども家庭支援の内容と対象 について学び、保育所等を利用する子どもの家庭への支援 、地域の子育て家庭への支援 、要保護児童等及びその家庭に対する支援 、子ども家庭支援に関する現状と課題について理解を深める。
■学習の到達目標	１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う。出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100 点)。

授業科目	社会的養護１				単位	2.0
担当者	大塚　良一			シラバスグループ	TU5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの未来を支える社会的養護	小野澤　昇/大塚　良一/田中　利則編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623086658

■授業の概要	本科目は、社会的養護の子ども達への支援を理解するために、次の 5 つの点を基本的に学ぶものである。1.現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 3.社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 4.社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 5.社会的養護の現状と課題について理解する。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷　　社会的養護の理念と概念 と社会的養護の歴史的変遷 について学ぶ。２．社会的養護の基本　　子どもの人権擁護と社会的養護 と社会的養護の基本原則 、さらに、社会的養護における保育士等の倫理と責務 について学ぶ。３．社会的養護の制度と実施体系　　社会的養護の制度と法体系 と社会的養護の仕組みと実施体系 について学ぶ。４．社会的養護の対象・形態・専門職　　社会的養護の対象 について理解するとともに、家庭養護と施設養護 、社会的養護に関わる専門職 について理解する。５．社会的養護の現状と課題　　社会的養護に関する社会的状況について理解するとともに、施設等の運営管理 、被措置児童等の虐待防止 、社会的養護と地域福祉について学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	子ども家庭支援の心理学				単位	2.0
担当者	山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子ども家庭支援の心理学	青木　紀久代	株式会社みらい	[ISBN]9784860154820

■授業の概要	保育者は乳幼児に限らず、学齢児から高齢者までのさまざまなライフコースの対象者ともかかわります。生涯発達の基礎的知識とともに、現代の家族・家庭を取り巻く心理・社会的環境、その課題について理解し、保育者として当事者に寄り添う支援のあり方について考えます。
■学習の要点	まずはしっかりとテキストに目を通しましょう。また、テキストに紹介されている文献もチェックしてみましょう。その際、自分のこれまでの体験をふりかえったり、自分がこの先、保育者としてどのようなかかわりをしたいのか考えたりしながら、読み進めていきましょう。その上で、次のテーマについて理解を深めてください。①生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につけ、各段階の特徴や課題を理解する。②家族・家庭の意義やはたらきを理解し、子どもとその家庭を一つの大きなまとまり・システムとしてとらえる視点を身につける。③現代の子育て家庭をとりまく社会的状況、その課題を理解し、保育者としての支援のあり方を考える。④子どもの精神保健とその課題について理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点に示された 4 つのテーマについて理解を深め、自分の言葉で相手にわかりやすく説明できるようになることです。
■成績評価の基準	1. 学習の要点に記載されている内容を正確に理解できているか。2. 問題の趣旨をとらえ、相手に伝わりやすいよう、論理的に説明できているか。3. 文献や資料を引用する場合は、引用の作法にしたがって引用することができているか。4. 自分の考えを述べる際は理論やデータ、具体例にもとづきながら、わかりやすく説明することができているか。上記の基準がほぼ達成されている場合は 70 点台、十分に達成できていれば 80 点台とします。基準を十分に達成し、自分なりの考察が非常に優れている場合は 90 点以上とします。なお基準

授業科目	子どもの保健				単位	2.0
担当者	鬼頭　泰子			シラバスグループ	TU5706	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第 2 版	小林美由紀　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、子どもの成長発達及び子ども取り巻く背景として、家族、社会背景などもの知識を持っていることは重要です。このため、子どもたちの発達上に起こりやすい症状、疾患、安全など考慮しなければならない点について理解し、その対応についても想定した関わり考えていく必要があります。子どもが健やかに成長・発達するために、現在の社会背景として、保健動向や、虐待や感染症（COVID-19 も含む）伴う子どもへの弊害についても自身の考えを持っておくことが必要です。また、発達上安全（事故、感染症）に留意すること、発達障害などの子どもの特性を考慮した関わりについて知り、子どもがのびのびと生活できるような物的･人的環境を考え、言葉だけでない子ども達の状況や思いに気づき、対応できるよう学びを深めていただきたいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、最近の動向と自身の考えを持ち、多面的に考えていってください。できれば書籍や大学図書館のポータルサイトを利用して、正しい情報を得て理解を深めてください。自分で問題をしっかり考えて整理し記述してください。乳幼児の集団生活に関わる保育士にとって、事故の予防や安全対策についての知識が必要です。
■学習の到達目標	学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べたことが活かせる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述できているか、また学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。
■成績評価の基準	ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	乳児保育１				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5708	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
乳児保育Ⅰ・Ⅱ	髙内正子･豊田和子･梶美保編著	建帛社	[ISBN]9784767951126

■授業の概要	乳児保育の歴史と意義を理解し、乳児保育の役割と今後の課題を考察する。乳児（3 歳未満）の発達を理解し、乳児保育の内容・方法に関する基礎知識と方法を習得する。乳児保育に求められる保育士の専門性について理解する。
■学習の要点	１．乳児保育を巡る思想を整理し、保育所における乳児保育の意義について考察する。２．乳児の発達のみちすじを理解する。３．乳児保育の内容と方法について理解を深める。４．乳児保育の意義をふまえて、保育者のあり方を考える。５．乳児保育における記録のあり方と、保育計画・指導計画の立て方について考察する。６．乳児保育の歴史と現状をふまえ、これからの乳児保育の課題について考察する。
■学習の到達目標	乳児保育がなぜ必要なのか、その社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。現代的意義も大事だが、発達の観点をふまえること。そのうえで、大まかであっても、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴をつかみ、その時期の保育で大切にすべきことを理解していること。　乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で抑えるべき重点課題を理解していること。全体の中での各々の分量を考えて記述するように。
■成績評価の基準	乳児保育の必要性について、またその社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。「0 歳児」「1 歳児」「2 歳児」の発達的特徴をつかみ、その時期の保育で大事にすべきことを理解していること。「0 歳児」の発達的特徴については丁寧に記述しているにもかかわらず、年齢が上がるにつれて大雑把になる傾向があるので注意すること。乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で欠かすことのできない重点課題を理解していること。

授業科目	保育実習指導１				単位	2.0
担当者	柏　まり			シラバスグループ	TU5716	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
最新　保育士養成講座 9 巻 保育専門職と保育実践	『最新　保育士養成講座』総括編纂委員会　編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793513121

■授業の概要	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は保育実践現場においてこれまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。さらに、保育実習は保育士を目指す学生が自分を見つめる機会であり、これからの課題を発見する重要な機会ともなる。保育実習を通して、子ども理解・保育所および施設や保育士の仕事に対する理解及び自己に対する理解を深めてほしい。

■学習の要点	1.保育実習の意義を理解する 2.保育実習に臨む態度を理解する 3.保育実習における守秘義務を理解する 4.保育実習記録作成の意義を理解する 5.保育実習における実習テーマと課題について考える

■学習の到達目標	学習の要点に記載している事項と同様。

■成績評価の基準	①設題を踏まえてリポートを作成しているか　50%②自分の考えをまとめているか　40%③誤字脱字などはないか　10%

授業科目	教育実習指導（幼・小）				単位	1.0
担当者	小林　みどり・小林　隆			シラバスグループ	TU5813	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑬ 教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹 著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直 ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、幼児との関係性・保育指導のあり方・集団指導等について実践的に学ぶ。特に保育指導については、教育実習校園からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・保育指導案の作成・保育実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	保育者・教師としての資質、能力が備わっているかどうか。
■成績評価の基準	省察ができているか。課題が明確になったか。

授業科目	現代思想				単位	2.0
担当者	太寿堂　真			シラバスグループ	TT5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
テキストブック　生命倫理〔第 2 版〕	霜田求　編	法律文化社	[ISBN]9784589041890

■授業の概要	2022 年 9 月、世界的に著名な映画監督、J=L=ゴダール氏が、安楽死を遂げた。この出来事は世界に衝撃をもって迎えられた。なぜなら、同氏が、通常は安楽死の要件とされる「回復の見込みのない病で、耐え難い苦痛を抱えている」わけではなかったからだ。同氏は、ただ「人生に疲れていた」ため安楽死したと報じられた。実際には、重篤ではないものの、加齢による複合疾患をかかえていたようだが、近年では、安楽死が合法化された国々で、このような状態で安楽死する高齢者の数が増加傾向にあるという。このことからは、それらの国々で、安楽死の要件が、どんどん緩やかになっている実態がうかがえよう。一方、日本では、安楽死は合法化されてはいない。その日本で、2020 年 7 月、神経性の難病、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者から依頼を受け、その人に致死薬を投与してこれを殺害したとして、40 代の二人の医師が、嘱託殺人の容疑で逮捕される事件があった。この医師たちは、依頼者に致死薬を投与して「安楽死」させることについて、SNS に盛んに自論を投稿していたという。再び世界を目を向ければ、ベネルクス 3 国など、先に安楽死を合法化した国々に続く形で、2020 年ニュージーランドで、さらに 2021 年、スペインで安楽死が合法化された。これらの事をきっかけに、今、改めて「安楽死」や「尊厳死」の是非が論じられている。　「尊厳死」という言葉がマスコミその他で使われるようになって久しい。それは死期が近いと医学的に判断される患者に対し、人工呼吸、人工栄養・水分補給、人工透析などの生命維持装置を使った、いわゆる「延命措置」を施すことは、当の患者にいたずらな苦しみを強いるばかりであり、それを止めて患者を速やかに死ぬに任せることが、患者や家族のためだ、という趣旨を表す言葉だ。少し前まで、医療現場では、一旦装着した人工呼吸器などの、いわゆる生命維持装置を使った延命医療を中止した場合、それに関わった医療スタッフは殺人罪などに問われ、警察の介入を招く、という考えが強かった。また現在も、そうした見解を取っている医療機関が依然として多いのも事実である。しかし現在では、延命措置の不開始や中止を想定した厚生労働省や各関係学会のガイドラインが示される中で、アドバンス・ケア・プランニング(ACP、『人生会議』)という考え方が、医療現場でも進みつつある。ACP とは、人生の最終段階における医療、ケアについては、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされたうえで、患者本人が自らが望む人生の最終段階における医療、ケアについて前もって考え、医療、ケアチームと繰り返し話し合い、それを踏まえ、本人の意思決定を基本として治療にあたる、という考え方である。これに基づいて、例えば、どういう場合には、人工栄養を止めるか、人工呼吸器をどうするか、などの意思をあらかじめ確認する書類を医療者側が準備し、医療者や家族との話し合いの中で、患者本人が意思決定し、それを書面で指示しておけば、医療、ケアチームはそれを尊重して治療にあたる、という医療機関や在宅医などの例も見られるようになった。　　他方、「尊厳死を合法化すべきだ」と主張する人々がいる。すなわち、自分が「終末期」や「植物状態」になった場合、延命のための治療を拒否する意

	思表示を記した「リビング・ウィル」を法律的に有効なものにせよ、と唱える人々である。『日本尊厳死協会』に属する人々がそれである。その人々からすれば、ACP が普及することは望ましいことだという。ただし同協会には次のような考えを示す人がいる。すなわち、ACP は、医療者の働きかけから始まる。だが、当人が突然の事故等で、医療を受ける以前に、すでに意思表示能力を失っている場合も考えられる。そのことから、疾患や事故にあう以前の、元気なうちに意思表示をしておき、医療者にはそれを遵守してもらいたいのだという。しかし元気な時と、例えば認知症等で意思表示能力が低下した後とでは、本人の気持ちに変化が起こりうるのではないか、という疑問が残る。　その一方で、尊厳死の合法化に反対の人たちもいる。そうした人たちは、いわゆる『尊厳死法』が成立すれば、もともと定義の曖昧な「終末期」という要件が、次第に、まるで「滑りやすい坂」を転がり落ちるかのように、どんどん拡大適用される可能性を指摘する。そして、やがては、人工呼吸器などの生命維持装置なしには生きられない難病患者や重度障害者など、「社会的弱者」にまで適用されるようになり、彼らの存在を負担と感じる家族や社会の有形無形の圧力の下で、そうした人々が「死の自己決定」をするよう強いられるような社会的風潮が出てくることを懸念しているのだ。　終末期医療に関する近年の調査からは、生命維持装置による延命医療を否定的に考える人が回答者の 9 割を占めるなど、多数であることがうかがえる。一方で、「尊厳死」や「安楽死」の合法化によって、社会的弱者が不利益をこうむるとすれば、それは避けねばならない。人は健康を保つため、医療を必要とし、誰しもが死を避けられない。本科目では、現在の医療とその前提になる生命観について基本的なことを学習し、受講生お一人お一人のお考えを深めてもらう機会としたい。
■学習の要点	まず、テキストや参考文献を通じて「終末期医療」「生殖補助医療」「脳死・臓器移植」等、日本と諸外国における個々の問題の歴史と現在のあらましを学習していただき、あわせて当の問題をめぐって相異なる立場をとる人々の主張の要点を把握し、ご自身の考察と意見を展開してください。
■学習の到達目標	（目標）　各々が手がけたテーマについて、できるだけ丁寧に取材し、それをもとに自分なりの視点を培うとともに、それをできるだけ説得的に論述する術を磨くことです。しかしながら、情報が氾濫するなかでは、その糸口がともすれば見失われがちです。　そこでまず、（１）自分の手がける問題について、根拠ある情報を粘り強く選び出し、（２）テキスト、またはシラバスで紹介された文献のうち、自分の関心に即していずれか一冊、それもいずれか一つのテーマについて精読し、そこからいかに論じたらよいかの術をより深く学ぶことです。
■成績評価の基準	思索には終わりはありません。ただ受講する各々の方が到達したご意見について、どうしてそういえるかの根拠(理由)を明らかにしているかどうか、そこから無理なく導ける結論に達しているかどうかを評価の基準とします。この根拠(理由)を明示しているかどうかを、リポートを受理するか、試験に合格したとみなすかどうかを判断する一つの基準とします。必ず理由をあげて論じてください。また、事実を正確に踏まえているかどうか、事実誤認がないかどうかも、成績評価にあたって考慮します。

授業科目	国際社会論			単位	2.0
担当者	根本　達		シラバスグループ	TT5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
≪アジア≫、例外としての新自由主義	アイファ・オング	作品社	[ISBN]9784861824449

■授業の概要	本授業ではアイファ・オングの『《アジア》、例外としての新自由主義』をテキストとします。オングによると、新自由主義はそれぞれの地域の市民権の体制や統治の形式といった論理と相互作用しながら、日本を含む世界各地において既存の関係性を再編成しています。そこでは市場価値のある技術を持つ者が優先的に権利と利益を手に入れる一方、それらの技術を持たないと判断された人々の地位は不安定な状況に置かれ続けているとされます。このテキストの序章では、「効率」と「自己責任」に重きを置く「新自由主義」という概念の定義を学び、オングが主張する「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いを理解していきます。この理解を基礎として、テキストの第一章以降の議論では、東南アジアのムスリム女性やインドネシア系中国人、中国における特別区やアジアの新興都市について民族誌的視点から学びます。オングはこのテキストにおいて、カール・シュミット、ミシェル・フーコー、ジョルジョ・アガンベンといった哲学者の理論を用いながら、人類学的なボトムアップの視点から国際社会を理解することの意義を主張しています。オングがキーワードとして提示する「ラチチュード」に加え、新自由主義の影響下にある現在の国際社会における「倫理的な主体の形成」について理解し、これらの議論全体が主張していることを把握していきます。
■学習の要点	本授業のテキストは、序章に加え、第一部から第四部までに分かれています。序章はカール・シュミットの「例外状況」、ミシェル・フーコーの「生政治」、ジョルジョ・アガンベンの「剥き出しの生」など、非常に難解な哲学の用語ですが、哲学以外の分野でも頻繁に引用されるものが用いられています。テキストの巻末にある「本書を理解するための用語集」、以下の参考文献、他の入門書なども参考にしながら、「新自由主義」という概念の定義、「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いについて、可能な範囲で丁寧に理解を進めてください。第一部から第四部までは、より具体的なテーマについて、民族誌的な視点から議論が進められ、序章と比べると理解しやすいものになっています。第一部「アジアの〈倫理〉をめぐる闘争」では、マレーシアのムスリム女性（第一章）とインドネシアのグローバル華人（第二章）について議論が行われています。第二部では「アジアのガバナンス（統治空間）」というタイトルで、東南アジアにおけるポスト開発主義（第三章）と東アジアの特別区（第四章）について論じられています。第三部「新たな人工空間「ラチチュード」」では、電子製造業（第五章）、高等教育（第六章）、シリコンバレー（第七章）について議論されています。第四部では「新興国、その現れと影、あるいは新興都市の憂鬱」とのタイトルで、シンガポール（第八章）、東南アジア都市部の外国人メイド（第九章）、上海（第十章）が取り上げられています。序章から第四部までを読んだ後に、再び序章を読むことで、序章における理論的な議論も理解が深まり、このテキストが全体として示そうとしていることを学ぶことができます。新自由主義の影響下にある国際社会を人はどのように生きるべきかと

	いうオングの「倫理的問いかけ」を自分自身への問いかけとし、自分自身の答えを説得的に示すことを目指してください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	外国史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	社会調査の基礎				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0718	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	社会調査の設計				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0719	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	基礎統計学				単位	2.0
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	TT0720	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門はじめての統計解析	石村貞夫著	東京図書	[ISBN]9784489007460
数学嫌いのための社会統計学　第 2 版	山口洋　ほか編	法律文化社	[ISBN]9784589036193

■授業の概要	社会的および科学的事象を一般化するために有効な手段は、それら事象に関するデータ収集と解析である。本科目においては、それらデータ収集および解析に関する知識を学ぶことによって、客観的にそれらの事象を一般化する、またはその事象に関してある判断を行う方法を習得し、社会調査、科学調査等における基礎的知識を身につけるのが目的である。データ収集およびデータ解析においては必然的に統計学の知識を要するため、数理統計学観点からのアプローチに加えて、実際的な調査手法も念頭に置いて、データ収集、データ解析に関する知識及び技術を学習する。本科目においてはデータ解析において基本となる記述統計学を主に扱い、量的および質的変量を統計学的に処理し、解釈する方法を主として学ぶ。
■学習の要点	本科目においては、記述統計を主とするため学習の要点は以下のようになる。1.統計学という学問は何かを学習する。2.データの収集方法を学習する。3.主に量的データ群の整理方法を学習する。すなわち、第 1 にデータを視覚的に表す手法を学習する（様々なグラフ化）、第 2 にデータ群をある数値で代表する手法を学習する（平均値や最大値、最小値等）、データ群全体の傾向を表す手法を学習する（分散、標準偏差、尖度、歪度等）。4.質的データ群に対する解釈手法を学習する（比率や変化率等）。5.異なる 2 変量の関係性の解釈について学習する（共分散および相関係数）。6.関係性と因果関係を学習する。7.質的データの整理、加えてそれに基づいたクロス集計を学習する。8.各種白書の解釈およびそれらの活用方法について学習する。
■学習の到達目標	代表値等統計学的な数値を正確に算出でき、データ解析において役立たせることができるようになる事が本科目の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験においては、統計学的用語や数値、そして統計学的考えを理解しているかどうか（70 点）、テキストに直接書かれていない事であっても、自らが思考して統計学的考えをさらに掘り下げる事ができるかどうか（30 点）を採点基準とする。

授業科目	応用統計学				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0721	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	質的調査法				単位	2.0
担当者	0			シラバスグループ	TT0722	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	現代思想				単位	2.0
担当者	太寿堂　真			シラバスグループ	TT5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
テキストブック　生命倫理〔第 2 版〕	霜田求　編	法律文化社	[ISBN]9784589041890

■授業の概要	2022 年 9 月、世界的に著名な映画監督、J=L=ゴダール氏が、安楽死を遂げた。この出来事は世界に衝撃をもって迎えられた。なぜなら、同氏が、通常は安楽死の要件とされる「回復の見込みのない病で、耐え難い苦痛を抱えている」わけではなかったからだ。同氏は、ただ「人生に疲れていた」ため安楽死したと報じられた。実際には、重篤ではないものの、加齢による複合疾患をかかえていたようだが、近年では、安楽死が合法化された国々で、このような状態で安楽死する高齢者の数が増加傾向にあるという。このことからは、それらの国々で、安楽死の要件が、どんどん緩やかになっている実態がうかがえよう。一方、日本では、安楽死は合法化されてはいない。その日本で、2020 年 7 月、神経性の難病、ALS(筋萎縮性側索硬化症)の患者から依頼を受け、その人に致死薬を投与してこれを殺害したとして、40 代の二人の医師が、嘱託殺人の容疑で逮捕される事件があった。この医師たちは、依頼者に致死薬を投与して「安楽死」させることについて、SNS に盛んに自論を投稿していたという。再び世界を目を向ければ、ベネルクス 3 国など、先に安楽死を合法化した国々に続く形で、2020 年ニュージーランドで、さらに 2021 年、スペインで安楽死が合法化された。これらの事をきっかけに、今、改めて「安楽死」や「尊厳死」の是非が論じられている。　「尊厳死」という言葉がマスコミその他で使われるようになって久しい。それは死期が近いと医学的に判断される患者に対し、人工呼吸、人工栄養・水分補給、人工透析などの生命維持装置を使った、いわゆる「延命措置」を施すことは、当の患者にいたずらな苦しみを強いるばかりであり、それを止めて患者を速やかに死ぬに任せることが、患者や家族のためだ、という趣旨を表す言葉だ。少し前まで、医療現場では、一旦装着した人工呼吸器などの、いわゆる生命維持装置を使った延命医療を中止した場合、それに関わった医療スタッフは殺人罪などに問われ、警察の介入を招く、という考えが強かった。また現在も、そうした見解を取っている医療機関が依然として多いのも事実である。しかし現在では、延命措置の不開始や中止を想定した厚生労働省や各関係学会のガイドラインが示される中で、アドバンス・ケア・プランニング(ACP、『人生会議』)という考え方が、医療現場でも進みつつある。ACP とは、人生の最終段階における医療、ケアについては、医療従事者から適切な情報提供と説明がなされたうえで、患者本人が自らが望む人生の最終段階における医療、ケアについて前もって考え、医療、ケアチームと繰り返し話し合い、それを踏まえ、本人の意思決定を基本として治療にあたる、という考え方である。これに基づいて、例えば、どういう場合には、人工栄養を止めるか、人工呼吸器をどうするか、などの意思をあらかじめ確認する書類を医療者側が準備し、医療者や家族との話し合いの中で、患者本人が意思決定し、それを書面で指示しておけば、医療、ケアチームはそれを尊重して治療にあたる、という医療機関や在宅医などの例も見られるようになった。　　他方、「尊厳死を合法化すべきだ」と主張する人々がいる。すなわち、自分が「終末期」や「植物状態」になった場合、延命のための治療を拒否する意

	思表示を記した「リビング・ウィル」を法律的に有効なものにせよ、と唱える人々である。『日本尊厳死協会』に属する人々がそれである。その人々からすれば、ACP が普及することは望ましいことだという。ただし同協会には次のような考えを示す人がいる。すなわち、ACP は、医療者の働きかけから始まる。だが、当人が突然の事故等で、医療を受ける以前に、すでに意思表示能力を失っている場合も考えられる。そのことから、疾患や事故にあう以前の、元気なうちに意思表示をしておき、医療者にはそれを遵守してもらいたいのだという。しかし元気な時と、例えば認知症等で意思表示能力が低下した後とでは、本人の気持ちに変化が起こりうるのではないか、という疑問が残る。　その一方で、尊厳死の合法化に反対の人たちもいる。そうした人たちは、いわゆる『尊厳死法』が成立すれば、もともと定義の曖昧な「終末期」という要件が、次第に、まるで「滑りやすい坂」を転がり落ちるかのように、どんどん拡大適用される可能性を指摘する。そして、やがては、人工呼吸器などの生命維持装置なしには生きられない難病患者や重度障害者など、「社会的弱者」にまで適用されるようになり、彼らの存在を負担と感じる家族や社会の有形無形の圧力の下で、そうした人々が「死の自己決定」をするよう強いられるような社会的風潮が出てくることを懸念しているのだ。　終末期医療に関する近年の調査からは、生命維持装置による延命医療を否定的に考える人が回答者の 9 割を占めるなど、多数であることがうかがえる。一方で、「尊厳死」や「安楽死」の合法化によって、社会的弱者が不利益をこうむるとすれば、それは避けねばならない。人は健康を保つため、医療を必要とし、誰しもが死を避けられない。本科目では、現在の医療とその前提になる生命観について基本的なことを学習し、受講生お一人お一人のお考えを深めてもらう機会としたい。
■学習の要点	まず、テキストや参考文献を通じて「終末期医療」「生殖補助医療」「脳死・臓器移植」等、日本と諸外国における個々の問題の歴史と現在のあらましを学習していただき、あわせて当の問題をめぐって相異なる立場をとる人々の主張の要点を把握し、ご自身の考察と意見を展開してください。
■学習の到達目標	（目標）　各々が手がけたテーマについて、できるだけ丁寧に取材し、それをもとに自分なりの視点を培うとともに、それをできるだけ説得的に論述する術を磨くことです。しかしながら、情報が氾濫するなかでは、その糸口がともすれば見失われがちです。　そこでまず、（１）自分の手がける問題について、根拠ある情報を粘り強く選び出し、（２）テキスト、またはシラバスで紹介された文献のうち、自分の関心に即していずれか一冊、それもいずれか一つのテーマについて精読し、そこからいかに論じたらよいかの術をより深く学ぶことです。
■成績評価の基準	思索には終わりはありません。ただ受講する各々の方が到達したご意見について、どうしてそういえるかの根拠(理由)を明らかにしているかどうか、そこから無理なく導ける結論に達しているかどうかを評価の基準とします。この根拠(理由)を明示しているかどうかを、リポートを受理するか、試験に合格したとみなすかどうかを判断する一つの基準とします。必ず理由をあげて論じてください。また、事実を正確に踏まえているかどうか、事実誤認がないかどうかも、成績評価にあたって考慮します。

授業科目	国際社会論				単位	2.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
≪アジア≫、例外としての新自由主義	アイファ・オング	作品社	[ISBN]9784861824449

■授業の概要	本授業ではアイファ・オングの『《アジア》、例外としての新自由主義』をテキストとします。オングによると、新自由主義はそれぞれの地域の市民権の体制や統治の形式といった論理と相互作用しながら、日本を含む世界各地において既存の関係性を再編成しています。そこでは市場価値のある技術を持つ者が優先的に権利と利益を手に入れる一方、それらの技術を持たないと判断された人々の地位は不安定な状況に置かれ続けているとされます。このテキストの序章では、「効率」と「自己責任」に重きを置く「新自由主義」という概念の定義を学び、オングが主張する「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いを理解していきます。この理解を基礎として、テキストの第一章以降の議論では、東南アジアのムスリム女性やインドネシア系中国人、中国における特別区やアジアの新興都市について民族誌的視点から学びます。オングはこのテキストにおいて、カール・シュミット、ミシェル・フーコー、ジョルジョ・アガンベンといった哲学者の理論を用いながら、人類学的なボトムアップの視点から国際社会を理解することの意義を主張しています。オングがキーワードとして提示する「ラチチュード」に加え、新自由主義の影響下にある現在の国際社会における「倫理的な主体の形成」について理解し、これらの議論全体が主張していることを把握していきます。
■学習の要点	本授業のテキストは、序章に加え、第一部から第四部までに分かれています。序章はカール・シュミットの「例外状況」、ミシェル・フーコーの「生政治」、ジョルジョ・アガンベンの「剥き出しの生」など、非常に難解な哲学の用語ですが、哲学以外の分野でも頻繁に引用されるものが用いられています。テキストの巻末にある「本書を理解するための用語集」、以下の参考文献、他の入門書なども参考にしながら、「新自由主義」という概念の定義、「例外としての新自由主義」と「新自由主義からの例外化」の違いについて、可能な範囲で丁寧に理解を進めてください。第一部から第四部までは、より具体的なテーマについて、民族誌的な視点から議論が進められ、序章と比べると理解しやすいものになっています。第一部「アジアの〈倫理〉をめぐる闘争」では、マレーシアのムスリム女性（第一章）とインドネシアのグローバル華人（第二章）について議論が行われています。第二部では「アジアのガバナンス（統治空間）」というタイトルで、東南アジアにおけるポスト開発主義（第三章）と東アジアの特別区（第四章）について論じられています。第三部「新たな人工空間「ラチチュード」」では、電子製造業（第五章）、高等教育（第六章）、シリコンバレー（第七章）について議論されています。第四部では「新興国、その現れと影、あるいは新興都市の憂鬱」とのタイトルで、シンガポール（第八章）、東南アジア都市部の外国人メイド（第九章）、上海（第十章）が取り上げられています。序章から第四部までを読んだ後に、再び序章を読むことで、序章における理論的な議論も理解が深まり、このテキストが全体として示そうとしていることを学ぶことができます。新自由主義の影響下にある国際社会を人はどのように生きるべきかと

	いうオングの「倫理的問いかけ」を自分自身への問いかけとし、自分自身の答えを説得的に示すことを目指してください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	公共経済学				単位	2.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
岩波新書新赤版 1799　日本経済 30 年史	山家悠紀夫・著	岩波書店	[ISBN]9784004317999
ちくま新書　社会保障入門	伊藤周平・著	筑摩書房	[ISBN]9784480071613

■授業の概要	本科目では、日本の財政と社会保障の現状を概観することで、その問題点や問題点の打開の道を探ることを課題とする。
■学習の要点	現代日本の財政と社会保障の現状は、経済的条件に規定されている。よって、以下の項目に留意して学習することを推奨する。１、日本経済の 30 年２、社会保障の基礎理論３、社会保障制度の概要
■学習の到達目標	参考文献をよく勉強して、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。
■成績評価の基準	経済学(ないしは社会保障)の専門用語をきちんと把握し、「答案」で適切にそれを活かしていることが評価の基準である。

授業科目	環境政策論				単位	2.0
担当者	水上　象吾			シラバスグループ	TV5213	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然保護と利用のアンケート調査　―公園管理・野生動物・観光のための社会調査ハンドブック	愛甲哲也･庄子康･栗山浩一編	築地書館	[ISBN] 9784806715160

■授業の概要	自然保護と利用について、調査の方法、データ分析の仕方を学ぶ。また、自然の評価にかかわる多様なアプローチの仕方を理解し、自然と人間との共存について考察する。
■学習の要点	①自然環境に関する社会調査について理解する。②アンケート調査の方法や分析方法を理解する。③多様な観点から自然を評価することの意義を考える。④自然と人間との共存について特定の視点に立って考える。
■学習の到達目標	①出題の要点を理解し、自ら考える力をつけること。②自分の考えを示し、その考えの理由について論理的に説明すること。
■成績評価の基準	・リポートの内容に独創性やオリジナリティがあるか・自身の主張がきちんとされているか・適切な資料を引用し議論がなされているか

授業科目	環境社会学				単位	2.0
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	TV5214	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
環境社会学への招待：グローバルな展開	満田久義	佛教大学通信教育部	[ISBN] 9784861542718

■授業の概要	「環境」問題が声高に叫ばれて 30 年、その間環境に対する意識はかなり変化しました。環境に対する意識の高まりから、日常化、きれい事への嫌悪、様々な感じ方があると思います。　本科目では、人間社会と自然環境との相互作用について研究する環境社会学の立場から、１．どうして環境社会学が生まれたのか、２．いくつかの環境問題の事例研究、３．環境問題に対する限界と可能性、に焦点をあてて詳しく学習していきます。
■学習の要点	環境社会学とは、「自然環境と人間社会との相互関連を明らかにする社会学」と定義されています。まず、社会学とはなんなのか、社会学の基礎的な知識、学習が必要になります。また、今日の身近な環境問題から地球環境問題までを取り上げて、具体的に研究することが望まれます。　なお、試験に際しては、以下の点に留意してとくに学習するとよいでしょう。１．なぜ、どのようにして環境社会学は成立したのか、考察してみましょう（テキスト第１章参照）。　２．その後環境社会学はどのように発展し、変化してきたのか考察してみましょう（第２章参照）。　３．経済のグローバリゼーション、消費が環境とどのように関連するか考えてみましょう（第２・４章参照）。　４．「持続可能な世界」の概念と誕生背景について考えてみましょう（第２・４章参照）。　５．都会から田園を目指した人々の価値観、ネオ・ルーラリズムを理解し、田園志向の可能性を探ってみましょう（第５章参照）。　６．持続可能な発展戦略としてのエコツーリズムを、具体的事例を通して考えてみましょう（第６章参照）。
■学習の到達目標	テキストによる学習のみならず、新聞やテレビ報道にも関心をもち、資料・データ収集を行い自ら考えられるようになる。
■成績評価の基準	① 学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　② 問題は、テキストに即して出題する。　③ 採点は、加点方式を基本とする。　　出題の要点を正しく理解出来ているか、20 点　　テキストをしっかりまとめられているか、30 点　　そのとき重要なタームがきちんと含まれているか、20 点　　自分の考えが論理的に論じられているか、30 点

授業科目	刑法				単位	2.0
担当者	森川　智晶			シラバスグループ	TV5250	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
刑法総論	杉本一敏ほか	有斐閣	[ISBN]9784641150652

■授業の概要	刑法とは、どのような行為が犯罪になるのか、また、それに対してどのような刑罰が科されるのかを定めた法律である。悲しいことに、事件･犯罪に関わる報道を目にしない日はない。それほどに犯罪というものは、重大な社会問題となっている。こうした報道に接すると、私たちは、犯人を許せない、厳しく処罰して欲しい、犯罪をなくすために刑法を改正して厳罰化して欲しいなどと思いがちである。確かに、そうした気持ちはもっともであるし、犯罪に対して許せないと感じる正義感は大切にして欲しいが、一方で、加害者にも言い分がある。理由なく犯罪をする人はおらず、また、犯罪をした者も（死刑になったり服役中に死亡したりでもしない限り）基本的にいつか社会に戻ってきて誰かの隣に住むことになる。そうした時に、一度犯罪をしてしまった者が、二度と犯罪を犯すことのないように、社会に適応して生きていくことが必要となるが、そのためにはそうした人々を温かく受け入れる社会の実現が必要であろう。本講義では、刑法を学ぶことを通して、犯罪がなく市民の安全が守られつつ、人々の自由が過度に制約されない社会とはいかにあるべきか、犯罪をした者も社会の一員として共生していける社会とはいかにあるべきかを皆で考えていきたい。同時に、犯罪を許せないと感じる正義感や被害に遭った人々に対する思いやりの気持ちを養うとともに、様々な事情から犯罪をしてしまった人に対する偏見をなくし、そうした人々に対する思いやりの気持ちやそうした人々にも言い分があることをきちんと理解し、どんな相手の言い分にもきちんと耳を傾ける態度を育んで欲しい。
■学習の要点	・刑法の意義、機能・罪刑法定主義・不作為犯・因果関係・違法性阻却事由・責任・未遂・共犯
■学習の到達目標	本講義では、上記のような法的事柄について学ぶことを通じて、法律の知識のみならず、論理的に考える力、社会的に弱い立場にある者に対する思いやりなど社会人として、人間として生きていくうえで大切な素養を身につけてもらうことを目的とする。また、社会における犯罪と刑罰に関する諸事象に対して問題意識を深めることを目指す
■成績評価の基準	基本的な概念を正しく理解できているか、日本語として適切な文章（誤字脱字・形式なども含め）書けているかを評価基準とする。

授業科目	刑法２				単位	2.0
担当者	森川　智晶			シラバスグループ	TV5251	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
刑法Ⅱ各論	亀井源太郎ほか	日本評論社	[ISBN]9784535806917

■授業の概要	刑法とは、どのような行為が犯罪になるのか、また、それに対してどのような刑罰が科されるのかを定めた法律である。悲しいことに、事件･犯罪に関わる報道を目にしない日はない。それほどに犯罪というものは、重大な社会問題となっている。こうした報道に接すると、私たちは、犯人を許せない、厳しく処罰して欲しい、犯罪をなくすために刑法を改正して厳罰化して欲しいなどと思いがちである。確かに、そうした気持ちはもっともであるし、犯罪に対して許せないと感じる正義感は大切にして欲しいが、一方で、加害者にも言い分がある。理由なく犯罪をする人はおらず、また、犯罪をした者も（死刑になったり服役中に死亡したりでもしない限り）基本的にいつか社会に戻ってきて誰かの隣に住むことになる。そうした時に、一度犯罪をしてしまった者が、二度と犯罪を犯すことのないように、社会に適応して生きていくことが必要となるが、そのためにはそうした人々を温かく受け入れる社会の実現が必要であろう。本講義では、刑法を学ぶことを通して、犯罪がなく市民の安全が守られつつ、人々の自由が過度に制約されない社会とはいかにあるべきか、犯罪をした者も社会の一員として共生していける社会とはいかにあるべきかを皆で考えていきたい。同時に、犯罪を許せないと感じる正義感や被害に遭った人々に対する思いやりの気持ちを養うとともに、様々な事情から犯罪をしてしまった人に対する偏見をなくし、そうした人々に対する思いやりの気持ちやそうした人々にも言い分があることをきちんと理解し、どんな相手の言い分にもきちんと耳を傾ける態度を育んで欲しい。

■学習の要点	・人の始期と終期・暴行罪・傷害罪・名誉棄損罪・財産犯・放火罪・文書偽造罪・わいせつの罪・公務執行妨害罪・賄賂罪

■学習の到達目標	本講義では、上記のような法的事柄について学ぶことを通じて、法律の知識のみならず、論理的に考える力、社会的に弱い立場にある者に対する思いやりなど社会人として、人間として生きていくうえで大切な素養を身につけてもらうことを目的とする。また、社会における犯罪と刑罰に関する諸事象に対して問題意識を深めることを目指す

■成績評価の基準	基本的な概念を正しく理解できているか、日本語として適切な文章（誤字脱字・形式なども含め）書けているかを評価基準とする。

授業科目	経済学概論				単位	2.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172
新･世界経済学入門(岩波新書新赤版 1482)	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど非正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には答えを出せないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」「貧困」の現状把握、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	社会学概論				単位	2.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　１．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　２．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　３．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　４．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　５．文化相対主義、同化主義などについて把握すること。　６．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	社会的企業論				単位	2.0
担当者	河内　良彰			シラバスグループ	TV5423	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会が変わるマーケティング　民間企業の知恵を公共サービスに活かす	フィリップ・コトラー,ナンシー・リー著	英治出版	［ISBN］9784862760098

■授業の概要	ソーシャル･マーケティングの技法や民間企業の経営手法を取り入れ、事業収入を増やし、企業が財政的に自立することが求められている。本授業は、社会利益の実現を目指す新しい経済組織、社会的企業に着目し、経済活動が社会関係や文化、政治などから多くの影響を受けていることを学修する。産業とネットワークの関係、産業の社会的な構成過程についての知見を得るとともに、日欧の社会的企業の先進事例から協働や地域福祉、貧困問題削減のあり方を考察する。
■学習の要点	本授業は、社会ネットワークに関する新たな理論的・分析的な知見を用いて、ネットワーク組織の原理と実態を理解することをねらいとする。また、バングラデシュのグラミン銀行にみるソーシャルビジネスの特徴と可能性を講じる。特に日本の社会的企業とビジネスパーソンがネットワーク構築の強みをもつかどうかに留意しつつ、分析手法を体得することも目指す。
■学習の到達目標	【知識・理解の観点】社会の中の集団、組織、共同体、行為者の相互作用を理解する。【思考・判断の観点】個人や組織的関係のネットワークの中で行われる経済活動を考察する。
■成績評価の基準	テキストおよび授業内容の理解度を評価する。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	現代日本社会史				単位	2.0
担当者	近藤　敏夫・野﨑　敏郎			シラバスグループ	TT5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
現代日本社会論	飯田哲也・著	学文社	[ISBN]9784762017391

■授業の概要	現代日本社会は、他の国の社会と共通する諸問題を抱えているとともに、日本独特の構造をもち、それによって、社会のありかたや問題解決の方向性に差異が生じている。そこで、日本の社会はどのようにして形成されたのか、なぜ日本独特の問題が生じてくるのかを解明する。また、その問題発生の原因・要因を探ることによって、その解決の方向性を検討する。この科目では、幕末以降の日本の歩みを振りかえり、日本の将来を見通すための歴史的視座について考える。1860 年代から 1990 年代までの近現代史を検討するが、1945 年以降の現代をおもに取り上げる。
■学習の要点	幕末期からバブル崩壊後までの社会変動を概観し、現代日本社会が歴史的にどのような性質を帯びるに至ったのかを明らかにする。あわせて、国際社会のなかにおける日本の位置づけ、日本人の社会意識やナショナリズムの問題も検討し、グローバルな歴史認識のための基礎知識の習得を図る。
■学習の到達目標	現代の日本社会を条件づけてきた歴史的文脈や背景を考察する。政治、経済の領域よりも社会領域を中心として学習し、現代日本社会の民主主義のあり方について、受講生が自分自身の理解と意見を持つことを目標とする。
■成績評価の基準	日本社会の歴史的動向について自分自身の理解と意見をもっているかどうか。

授業科目	20 世紀の歴史				単位	2.0
担当者	上田　道明・山本　奈生			シラバスグループ	TT5417	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
二〇世紀の歴史	木畑　洋一著	岩波書店	[ISBN]9784004314998

■授業の概要	人文社会学系であればどの分野でも、基礎教養として現代史の大きな文脈をしることが大切です。本科目は通史として「帝国主義の時代」から「冷戦の終わり」までの流れを学習します。大国間の戦争や政治の歴史と同時に、植民地解放や社会変動に留意しながら読書すべきです。
■学習の要点	テキストを丁寧に読むことが第一となります。その上で、「知っているようで曖昧」「あまり知識がない」「特に関心をもった時代や出来事」とご自身で考えた箇所については、適宜図書館やネット上できちんとした論文情報などを調べて補完します。
■学習の到達目標	現代史の大きな流れを知り、「帝国主義」「二度の世界大戦」「ロシア革命」「ホロコースト」「ベトナム戦争」などの重要な世界史的出来事について基礎知識を固めること。
■成績評価の基準	記述する出来事について大きな文脈と社会背景を正しく理解できているかどうかがまず評価基準となります。細かな年号や人名のミスは小さな減点となるだけです。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。

■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。

■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。

■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史（仏教伝来～平安）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	日本仏教史（鎌倉以降）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中おいて、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	2.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで興った仏教が中国に伝来して、中国人社会に、どのように変容し、適応し、受容されていったかを中心に中国における仏教の歴史的展開について、学習することが望ましい。・インドより中国・日本へと伝わった仏教の流れの中の中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の青磁・社会・生活の中で仏教はどのような立場で、展開してきたのかという中国史の立場からみた仏教史を考えなければならない。よって西暦前後の仏教伝来から現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的・教団史的に偏ることなく、歴史的・全般的に学習することである。
■学習の要点	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支配下の仏教)、12．明・清の仏教、13．現代の仏教について時代の流れにそって、理解すること。
■学習の到達目標	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支
■成績評価の基準	「学修の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に即して、成績評価をする。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	現代福祉社会論				単位	2.0
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	TW5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代福祉社会論	岡﨑祐司	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248972&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目では、社会福祉を専門的に学んでいく基礎となる社会科学的な知識、認識を人権、平和、労働、生活を中心に学びます。さらに、社会福祉の全体像や対象、主体など基本的なとらえ方を学びます。社会のなかで、あるいは資本主義の変化のなかで社会福祉をとらえるという観点をしっかりもって学習を進めてください。　①福祉の理念、「反福祉状況」　②自由権と社会権―自由権の意味と歴史的性格、社会権の登場の背景と意義、民主主義と国民主権　③平和と日本国憲法―第９条の世界史的意義、安全保障の考え方、平和的生存権の先駆性、人間の安全保障、平和的手段による国際貢献の意義　④労働と生活―人間発達と労働の歴史的視点、資本主義と労働、人間らしい働き方、生活様式、生活の社会化　⑤社会福祉の基本の理解―政策・労働・実践の三つの視点、社会福祉政策、福祉労働、社会福祉の対象、目的、主体
■学習の要点	（１）社会福祉の対象となる社会問題を人権保障の視点から考える。（２）社会権を資本主義体制の労働と生活の構造、実態からつかむ。（３）現代日本の生活様式の特徴、問題点をつかみ、勤労国民の生活困難、貧困化の本質を生活からつかむ。（４）社会保障・社会福祉の意義と役割（重要性）を、現代の生活様式、生活の社会化のとの関係からつかむ。（５）社会福祉の「対象の対象化」の構造を理解し、福祉運動の意義と役割を具体的課題に即してつかむ。（６）市民の活動・事業としての社会福祉の内容と役割を、地域社会の維持や地方自治との関係からつかむ。
■学習の到達目標	（１）社会福祉の対象となる社会問題をひとつとりあげ、人権保障の視点からそれについて説明できる。（２）社会権保障の意義を資本主義体制の労働と生活の構造、実態から説明できる。（３）現代日本の生活様式の特徴、問題点を二つから三つ説明することができ、現代の生活様式が勤労国民の生活困難、貧困化につながっていることを説明できる。（４）社会保障・社会福祉の意義と役割（重要性）を、現代の生活様式、生活の社会化のとの関係から説明できる。（５）社会福祉の「対象の対象化」の構造を説明でき、それとのかかわりで福祉運動の意
■成績評価の基準	①テキストの内容をしっかり理解しており、それをふまえた自己の問題意識が明確なこと。②論理的な文章で論理的に展開できること。③到達目標に達していると認められること。

授業科目	社会福祉方法論３				単位	2.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5223	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12「ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）」	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規	[ISBN]9784805882429

■授業の概要	歴史的・社会的仕組みとして存在する社会福祉は、政策によって実態化する法律や制度、サービスの管理運営機構である組織や法令、人の配置などによる社会福祉供給体制を前提に、そのもとにおける多様な社会福祉援助活動によって、人々の暮らしに具体的な関わりを作り出している。しかもその仕組みや運用の有り様は今日、急速な変化をみせつつあり、新しい利用、契約といった制度運用や、まちづくりに見られるような多様な地域における活動の広がり、さらに当事者、市民などといったこれまでにはない参加者を作り出している。したがって、そこで用いられる方法・技術といったことも新たな事態への対応が求められている。　ここでは歴史的な歩みを踏まえながら、そうした現代の社会福祉援助活動とその運用に関わる原理・原則といったことを前提に、主として地域における活動とその方法について取り上げる。
■学習の要点	社会福祉援助技術や地域における社会福祉活動の歴史的な歩みについて整理するとともに、近年のコミュニティにおける活動の進展やそれを支える理論的背景についての理解を深めること。さらに最近の福祉改革とその中でまちづくりといった視点から取り組まれる社会福祉活動についても、関連する資料（行政資料や調査、報告等）とともに広くあたること。特に、多様な社会福祉領域の活動については援助活動の視点から整理・検討を行い、そこで用いられる方法・技術について考察を深めること。その際、次の点に留意すること。　１．社会福祉の歴史の中で社会福祉援助活動とともに方法・技術はどのように形成・発展してきたのか　２．ソーシャルグループワークの発展とグループワーク実践について　　３．特に初期の慈善組織協会やセツルメント活動などコミュニティにおける活動の成立とその背景、またその後における施設ケアの成立とその後の歩みについて　４．1960 年代以後における国際的なコミュニティケアの成立と脱施設化政策の推移、ケアマネジメントの誕生と発展について　５．コミュニティケアの発展とソーシャルアクションの機能について　６．最近のわが国における社会福祉改革に関わる政策動向（行政計画やその背景となる審議会、検討会等々の議論）とそのもとで社会福祉援助における課題について
■学習の到達目標	（１）「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進める。不明な用語を調べ、関連する法制度や理論についての文献資料にあたりながら、ソーシャルワークを体系的に理解しポイントを説明できるようになる。（２）リポートとは何かを理解し、出題で問われている内容について適切に（全体の組立、箇条書きは不可、自身の経験や感想で終わらせない）まとめることができる。

■成績評価の基準	設題に沿って正確にまとめられているかどうかを何よりも重視します。 さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価します。 また、引用や参照箇所をきちんと明記してください。 答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となります。

授業科目	社会福祉方法論４				単位	2.0
担当者	三馬　哲彦			シラバスグループ	TW5224	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワークの理論と方法１（MINERVA 社会福祉士養成テキスト３）	岩田正美　ほか監修	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623053919

■授業の概要	社会福祉援助（ソーシャルワーク）の展開過程、およびそれに関わる知識について理解する。ソーシャルワークの展開過程は、一連のものではあるが、いくつかの段階に区分される。アウトリーチを含めたケースの発見、導入期における援助関係の形成、クライエントにどのような生活ニーズが生じているかを明らかにするアセスメント（事前評価）、明らかになったニーズを充足するための計画の作成、援助計画にもとづく具体的な支援の提供、生活困難が解決したかどうか（ニーズの充足）を評価するエバリュエーション（事後評価）、そして終結を迎える。これらの各段階において求められる知識、理論および技術について理解を深めることを目的とする。
■学習の要点	１）相談援助の展開過程について理解する。２）相談援助の展開過程における知識・技術を理解する。３）援助者とクライエントとの関係について理解を深める。４）ソーシャルワークにおけるニーズの定義を理解する。５）アセスメントの定義と目的を理解し、その特徴について学ぶ。
■学習の到達目標	学習の到達目標：「学習の留意点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の趣旨・要点を正しく理解し、相談援助の展開過程の段階を簡潔に説明していること。また、展開過程の中でのアセスメントの役割がその前後の段階と関連付けられて述べられていること。そのうえで、相談援助職としての視点・視野から収集された情報が整理されていること。

授業科目	社会福祉計画論				単位	2.0
担当者	齊藤　拓			シラバスグループ	TW5609	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
福祉行財政と福祉計画　第5版（新・社会福祉士養成講座10）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805854303

■授業の概要	本科目のねらいは、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画の基礎的事項を学ぶことである。　２１世紀にはいってから本格化した社会福祉基礎構造改革後の福祉行財政のもとで、社会福祉計画策定プロセスの原則や方法、計画に基づく社会福祉行政の意義、住民参加や地方自治との関係を学ぶこと、それらをふまえて地域の福祉計画を科学的な視点で分析し評価するよう試みることを重視する。そして、実際に市町村が策定している福祉計画および福祉行財政計画を具体的に取り上げ、地域の実態や住民の生活問題と切り結んでその内容を批判的に検討するレポート作成を課題とする。
■学習の要点	１）社会福祉における福祉計画の背景や意義について２）組織体制からみた福祉行政の提供過程の変化について３）福祉計画の過程　PDCA サイクルを含めた計画過程の前提的なプランニングについて４）福祉計画の評価の意味、技法、課題について５）福祉計画における住民参加のありかたについて６）日本の社会福祉行政における組織・人材・財源について
■学習の到達目標	①福祉計画が作成されるようになった背景や計画化することの意義について理解し、基本的なことを説明できるようになる。②福祉行政の提供過程の変化と福祉計画の行政にとっての意義を理解し、説明できるようになる。③福祉計画の過程を PDCA サイクルを含めて理解し、説明できるようになる。④福祉計画の評価の意義、技法、課題について基本的事項を理解し、説明できるようになる。⑤福祉計画における住民参加の意義を理解し、説明できるようになる。⑥地域福祉計画の概要、意義を理解し、説明できるようになる。
■成績評価の基準	・レポート設題で問われていることに対する回答を明確に示すこと。・テキストの内容を熟読・理解していることがわかるよう、テキストの記述に基づいて答えること。・レポート全体の話の流れが分かるよう、節番号と小見出しを付けること。その上で、問題にたいして、到達目標にあるように内容を理解し基本的事項が説明できているかどうかが評価の基準となります。

授業科目	保健医療政策論				単位	2.0
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	TW5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
安倍医療改革と皆保険体制の解体	岡﨑祐司、中村暁、横山壽一編著	大月書店	[ISBN]9784272360840

■授業の概要	現在推進されている新自由主義改革の側面を強くもつ医療制度改革の本質をつかみ、受講生に国民の側からの医療保障のありかたを探る基本や方向性を考察してもらう。社会保障としての医療保障の根幹と、現在の医療制度改革の主たる政策手段や方法がなにか、国民の側からの医療保障をもとめる運動の課題はなにかを考察する。社会保障としての医療保障の基本は、「社会保障論」で学修しておいてほしい。それを踏まえたうえでの学修を想定しているので、やや応用的な内容を含んでいる。
■学習の要点	日本の医療保障の根幹になっている「皆保険」の意義をつかみ、以下の医療制度改革の動向をつかむ。①医療費抑制策・医療費総管理体制の構築や国民健康保険財政の都道府県化のもつ意味、②医療費管理の政策手法と提供体制改革、地域医療計画と地域医療構想、非営利ホールディングカンパニー型法人の議論、成長戦略と医療の営利ビジネス化、国家戦略特区の活用。なお、社会保障としての医療保障の基本については「社会保障論」で学習しておいていただきたい。
■学習の到達目標	学習の到達目標新自由主義改革の特徴をつよくもつ現在の医療制度改革について、以下の諸点から説明することができる。（１）国民健康保険財政の都道府県化の課題について説明することができる。（２）社会保険診療における混合診療が医療保障を崩壊させる問題点と危険性があることを説明することができる。（３）地域医療構想と病床機能報告が、今後の地域医療提供体制にもつ影響と課題を説明することができる。（４）政府の成長戦略における医療の位置づけとそれが国民の医療保障からみて問題が多いことを説明できる。（５）都道府県で
■成績評価の基準	それぞれのテキストの内容をふまえ、論理的に記述できており、自己の問題意識を明確にしていること、また一連のつながりのある文章を作成できていること。

授業科目	居住福祉論				単位	2.0
担当者				シラバスグループ	TW5408	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	介護概論				単位	2.0
担当者	小田　史			シラバスグループ	TW5614	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高齢者に対する支援と介護保険制度　第 6 版（新・社会福祉士養成講座 13）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805858073

■授業の概要	この科目では、介護福祉の理解を通して、福祉専門職としての基本的な考え方や姿勢について学ぶことを目的とする。　具体的には、介護の概念や対象についての理解、高齢者を支援する専門職の役割、自立支援にむけた介護過程の展開の理解などについて学習する。また認知症ケア、終末期ケアなど、より専門的な知識や技術・倫理が求められるケアのあり方についても学習する。
■学習の要点	1.隣接領域である「介護」の専門性について学習をし、その上で社会福祉士が「介護」の理解を必要とする理由について考える。2.介護の概念と範囲について理解する。まず概念の法制度の中での変遷と位置づけや介護の定義、介護の働き（機能）と実践構造などから考察する。3.介護の専門性を支える理念と価値については、介護の目的や実践手段としての原則や専門職倫理から考察する。4.介護実践の対象は高齢者と障害児・者と介護者（家族）である。ここでは利用者を要介護高齢者に限定した上で全人的理解の視点やＩＣＦの視点に基づく利用者理解を学習する。5.介護過程では、要介護者本人の全体像を捉え、ニーズを導き出すことが重要である。ICF（国際生活機能分類)を用いたアセスメント、的確にニーズをつかみ本人を主体とした介護過程の展開技法について理解する。6.介護の原則である自立（自律）支援とは何かについて考え、自立（自律）に向けた介護の根拠となる理論及び具体的方法について学習する。7.認知症ケアでは、まず認知症の原因疾患に関する医学的な知識をベースに認知症の人が生活で感じる不自由さを理解し、尊厳と自立（自律）を意識したケアを実現する技法について理解する。8.終末期ケアでは、高齢者の終末期の特徴、終末期ケアの基本的考え方について理解し、当事者のＱＯＬを尊重した終末期ケアの具体的展開とは何かを検討する。
■学習の到達目標	学習の到達目標：「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価の基準：出題の要点を正しく理解し、理論的に述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。留意点：(1）箇条書きではなく、論理的に記述されていること。(2）リポート設題での学びが活かされていること。設題に対し、関心を持つとともに、テキスト及び参考文献で学んだ内容を筋道を立てなら整理し、記述することができている。ソーシャルワーカーに求められる課題の解決を目指し、客観的な事実をもとに判断し、工夫し、表現することができている。

授業科目	外国史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	職業指導				単位	2.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
キャリア教育の展開：職業教育及び職業指導	伊藤一雄	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248747&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	職業とは何か、職業選択に導くとはどういうことかを考察する科目である。もし科学的な職業適性検査が作成され、実施されたとしても、その適正にみあった人数分の職業を社会が準備することはありえない（多い場合もあり少ない場合もあり)。こうした矛盾のなかで行われるのが職業指導である。そうした職業指導の意義や課題について考察することを目的とする科目である。
■学習の要点	１．現代社会における職業の特質を歴史的に考察する。２．職業指導とは何かについて考察する。３．保護者及び地域との連携について考察する。４．学校でのキャリア教育について考察する。
■学習の到達目標	①現代社会における職業の特質を歴史的に認識することができる。②職業指導とは何かについて説明できる。③保護者および地域との連携について説明できる。④学校でのキャリア教育のあり方について解説できる。⑤以上をふまえて、自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①科目最終試験の採点は加点方式とする。②科目最終試験の問題に合致しない答案は不合格とする。③科目最終試験の問題にできる限り様々な面から解答されていること（60 点）④科目最終試験の解答の柱立てが明確で論理的であること（20 点）⑤科目最終試験に解答する自分自身のことばが豊かであること（20 点）

授業科目	介護概論Ⅱ				単位	2.0
担当者	小田　史			シラバスグループ	TW5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
介護福祉総論（新大学社会福祉・介護福祉講座〔改訂版〕）	井上千津子 ほか 編著	第一法規	[ISBN]9784474027909

■授業の概要	「介護」は、すべての人間のライフサイクルにおいて必要不可欠な時期があり、また「人権保障の最後の仕上げ」であるとも言われるように、「尊厳の保持」、「自立支援」を理念とした生活支援の実践が行われている。介護には、人の生活を全体的に捉えることが求められ、その生活の質を高めていくために背景となる専門的な知識、技術が存在する。この科目では、介護を必要とする人の生活の理解から始まり、当事者主体の介護、意思決定支援、権利養護等々を日常生活の中に確立させていく介護について理解することを目的とする。
■学習の要点	１．介護の原則、介護従事者に求められる倫理性、専門性について理解し、尊厳を支える介護とは何か２．介護を必要とする人の生活がどのような実態にあるか知り、個別の意思決定支援において介護、生活支援の果たす役割について学ぶ３．ＩＣＦ（国際生活機能分類）に基づくアセスメントを活用した介護過程の展開について学ぶ４．介護従事者が自らの健康実態を把握し、身体的、精神的な健康の管理を行なうこととともに、介護現場における安全の確保、リスクマネジメントについて学ぶ５．チーム労働の組織のマネジメントについての理論と実践について学ぶ
■学習の到達目標	「尊厳の保持」を明記した法律、ノーマライゼーションの原理、ＷＨＯの定義した生活の質、ICF の概念など、様々な考え方をもとに発展してきた「尊厳を支える介護」の背景を理解できている。なおかつ具体的な介護や生活支援において、当事者主体、意思決定の支援の重要性が理解できている。
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、論述していること（60 点）　論述の展開その深度により 40 点を上限に加点する。箇条書きでなく、客観的事実を述べた後に、事実に基づいて論理的に記述を行うこと。リポート設題での学びを活かすこと。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	社会福祉総合実習指導				単位	2.0
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	TW5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領解説 福祉編	文部科学省	海文堂出版	[ISBN]9784303125110

■授業の概要	教科「福祉」は、高等学校における福祉教育を導入することによって、福祉関連従事者の養成および人間性豊かな人材育成を目的として創設された。また、高等学校で行われる「福祉」教育は、限られた時間のなかで社会福祉学全体を学んでいくため、そのポイントと教育方法が課題となる。したがって、教育を担当する者自身の的確な内容理解が要求されることから、福祉専門職としての知識や技術のポイントはもちろん教育内容の全体像を押さえていく。
■学習の要点	教科「福祉」創設の背景と目的を理解し、単なる免許取得のための学習ではなく、生徒へ実際に教授することのできる能力を実際的に身につけるという視点での学習が求められる。したがって、テキスト第２章「福祉科の各科目」をよく理解した上で、その内容をいかにして伝えていくかを自分なりに考えながら学習を進めること。
■学習の到達目標	①福祉科の各科目の基本事項を分かりやすく説明することができる。②社会福祉総合実習に向けて、各自の問題意識や関心の対象を明確にする。
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。1．学習の到達目標がおおよそ達成されている。２．科目最終試験の設題の趣旨を正確に理解し回答していること。３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、記述内容の深まりに応じて以下の基準に則って評価する。６０点台：論述の仕方にやや無理がある（論理の飛躍がある）７０点台：論述の仕方にあまり無理がない（内容が抽象的なもの）８０点台：論述の仕方に無理がない（内容が具体的なもの）９０点台：論述の仕方が優れて

授業科目	社会福祉援助技術				単位	2.0
担当者	千葉　晃央			シラバスグループ	TW5554	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助演習（シードブック）	植田章編	建帛社	[ISBN]9784767932910

■授業の概要	保育と社会福祉援助（ソーシャルワーク）の関連性について理解し、実際の援助実践の場で活用できるように具体的な知識や支援方法について学ぶ。
■学習の要点	次の 5 点を意識しながら、テキストの理解につとめること１．保育において、社会福祉援助（ソーシャルワーク）が求められる社会背景を理解する。２．社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の視点および援助過程を理解する。３．個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について理解すると同時に、その関連性について理解を深める。４．社会福祉実践における記録の意義と方法について理解を深める。５．保育における家族支援について理解を深める。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	養護原理				単位	2.0
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	TW5556	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
三訂　子どもの社会的養護―出会いと希望のかけはし―	望月彰編著	建帛社	[ISBN]9784767950891

■授業の概要	本科目は、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解したうえで、子どもの人権擁護を基盤とする社会的養護の制度と実施体系、その対象と形態、それを担う専門職について学ぶことを目的とする。これらの学びを踏まえ、制度政策の動向、実施体系と支援の展開、現状と課題等について理解を深める。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。社会的養護の意義と理念、社会的養護の歴史的変遷、現代社会における子どものニーズと支援課題について学ぶ。２．　子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 子どもの権利条約、児童福祉法、児童虐待防止法、児童憲章等をふまえ、子どもの権利について理解する。また、社会的養護における権利擁護の取り組みと課題を学ぶ。社会的養護における保育士等の倫理と責務についても理解を深める。３．　社会的養護の制度や実施体系等について理解する。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体制、専門職と専門性、諸資格等を学ぶ。組織と運営管理について理解する。４．　社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。社会的養護を必要とする子どもの実態を学び、その子どもを支援する家庭養護と施設養護という形態の実際を学ぶ。社会的養護に関わる専門職についても理解を深める。５．　社会的養護の現状と課題について理解する。社会的養護の現状と課題を学ぶ。子どもの権利擁護の視点から、子どもと家族を支えるために求められる社会的養護の現状と今後の方向性、課題を学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合、800 字以上の記述がなされていない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	初等教育原理				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TW5552	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	発達心理学				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW0728	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの「困った」を理解する：発達を見通した子育てを	長崎純子ほか編著	かもがわ出版	[ISBN]9784780302288

■授業の概要	人間の発達は、日々成長し、新しい活動を我がものにしていく過程である。大人もさまざまな経験をしながら発達していくが、子どもの発達は心身とにもめざましくダイナミックである。子どもの発達を理解しておくことは、保育に従事する者にとって非常に重要な視点・技量である。したがって本科目では、大人の理屈ではなく、子どもの理屈を踏まえた保育を考えていくために必要な発達の基本的理解を押さえていく。
■学習の要点	「子どもの心に寄り添える保育者」となることをめざし、運動・言語・自我といった領域ごとに発達を整理しながらも領域間のつながりを押さえた発達のありようを学んでいく。
■学習の到達目標	１．各時期の発達的特徴を理解する２．子どもの言動を子どもの視点や理屈に基づいて理解する３．上記２点の理解に基づいて子どもへの働きかけを考える
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し回答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容への解答が最低限できている７０点台：問題で問われている内容への解答に無理がない８０点台：共感の視点に基づく発達的特徴の理解がおおよそできている９０点以上：共感の視点に

授業科目	教育心理学				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TW0729	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	小児栄養				単位	2.0
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	TW0808	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために第９版	飯塚美和子　ほか編著	学建書院	[ISBN]9784762468414

■授業の概要	小児期は子供の心身の発育にとって重要な時期であり、その栄養や食事の取り方は体を作るだけでなく心の発達にも影響をあたえる。現代の小児の食生活は社会変化の影響を深く受けている。子どもの食生活や生活習慣の乱れ、それに起因する健康上の問題は、子どもを取り巻く環境つまり家族や地域住民、保育士自身も含め養育者の栄養に対する関心の低さや食生活のあり方の問題でもある。将来の生活習慣病予防のため、また、子どもたちが豊かな人間性を育み、自ら生きる力を身につけていくためには、食の健全化が何よりも重要である。厚生労働省は食育に関する指針の中で、食育の実践を、食育の向上につながり、より充実した保育を期待するものとして位置づけている。子どもの食事とは、情緒を育て社会性を養う機会でもあり、心身の発達にあった十分な栄養、指導が大切になる。この科目では、乳児期、幼児期を中心として、小児の各発達段階に応じた栄養の摂取、食生活の現状、問題点について学ぶ。栄養の基礎知識を学び食生活と健康の関係を知り、学生自身が食や栄養に関する意識を高め、自身の食生活を反省し改善することは、将来保育にかかわる者として重要な意義をもつ。乳児、小児の特徴と食事について理解を深め、児童福祉施設で保育をする際、あるいは家庭で育児を行う際に必要とされる知識と技術の習得を目標とする。
■学習の要点	（1）栄養に関する基本的知識三大栄養素とビタミン、ミネラルについて学習する。栄養素の役割や消化と吸収、献立への展開、食事バランスガイドとの関係についても確認する。水分の体内分布、機能、摂取について学習する。(2）胎児期の特徴と食事胎児の健やかな成長のために求められる、妊娠中の母親の食事について学習する。(3）乳児期の特徴と食事母乳分泌の仕組みを知り、母乳の成分や利点、注意事項、支援方法、母子のアセスメント、保存方法について学習する。(4)育児用ミルクについて調整粉乳の種類と特徴について学習する。哺乳調乳器具の洗浄・滅菌、調乳方法および注意点についても確認する。(5）離乳食の意義と進め方「授乳・離乳の支援ガイド」に基づいた離乳食の進め方の目安について学習する。離乳の開始と完了、離乳食の実際について整理しておく。また、離乳期と咀嚼機能の発達についても学習すること。ベビーフードの種類と利用上の留意点も確認する。(6）乳幼児期におこしやすい病気と食事食物アレルギーの仕組み、アレルギー物質を含む食品、対処の方法（食事療法を含む）について学習する。学童期の食物アレルギーについても確認する。小児期に多い、感染症、下痢、嘔吐、便秘、う歯等の体調不良の子どもへの対応、食事について学習する。(7）幼児期の特徴と食事おやつの意義について学習し、おやつの与え方の注意点を確認する。幼児期にみられる食行動の問題点（遊び食べ、偏食、むら食い、噛めない、小食・食べ過ぎ、箸の持ち方）を理解する。生活習慣と食事の関連についても学習する。また、保育所給食の実際について確認し、保育所や幼稚園における食育と食育計画について学習する。

■学習の到達目標	栄養学の正しい基礎知識に基づいて、小児の成長のために必要な食事を自分で考えることができるようになることが学習の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験では、上記「学習の要点」で示した（1）～（7）のいずれかについて説明してもらう。テキストの内容を正しく理解して、それを簡潔に説明することができれば十分に合格点に達する。〔成績評価の基準〕・試験問題で問われていることに過不足なく答えているか。・記述の内容が栄養学的に正しいものであるか。・文法的に正しく、読みやすい日本語で記述されているか。・テキストを理解したうえで自分の言葉で表現できているか。

授業科目	精神保健				単位	2.0
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	TW0733	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂版精神保健入門	山内常博ほか	文化書房博文社	[ISBN]9784830111419

■授業の概要	精神保健とは、人の「心の健康の維持」と「心の病気の予防」についての実践的学問です。その内容は以下の通りです。 ①精神保健とその歴史 ②精神的な問題と病理 ③子どもの心の問題 ④心理療法の理論 ⑤心の健康について ⑥精神障がい者の生活問題 ⑦精神障がい者への援助 保育士をめざす学生は、子どもの心身の成長・発達についての知識を持ち、子どもの心の健康に影響を与える要因を理解するのみならず、養育者の精神保健を自らの問題としてとらえ、積極的に学習しなければなりません。
■学習の要点	まず科目の概要を全体的に学習すること、その上で、以下の内容をより詳しく学習しましょう。 ①子どもの心の健康について ②子どもの心身症について ③発達障がいについて ④不登校について ⑤子どもへの援助法について ⑥家庭の役割について
■学習の到達目標	定型的な子どもの発達を理解すること、発達障がいを理解すること、障がいをもった子どもへの適切な関り方を理解すること、を目標とします。答案は、論理の筋道を立てて記してください。
■成績評価の基準	量的な観点（記述量）と質的な観点（内容）から評価します。質的な観点としては、論理的な記述や分かりやすい表現が評価基準になります。

授業科目	保育内容研究人間関係				単位	1.0
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	TW0734	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育内容「人間関係」（最新保育講座　８）	森上史朗ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623054985

■授業の概要	近年の社会における人間関係については様々な問題が議論されている。乳幼児をとりまく人的環境の変化についても同様である。人とのかかわりが希薄になっているといわれる現在、人間関係の基盤を作る時期である幼児期において、保育者はどのような役割を果たすことができるのか考察する。

■学習の要点	（1） 保育の基本と人とのかかわり（2） 乳幼児期における人とのかかわりの発達（3） 遊びのなかで育つ人とのかかわり（4） 人とのかかわりを育てる保育の実践（5） 人とのかかわりを育てる保育者の役割（6） 人とのかかわりが難しい子どもへの支援（7） 園、家庭、地域の生活と人とのかかわり（8） 領域「人間関係」をめぐる諸問題

■学習の到達目標	リポート作成を踏まえて、試験においてテキスト内容を根拠にした論述ができること。

■成績評価の基準	①科目最終試験の採点は加点方式とする。②科目最終試験の問題に合致しない答案は不合格とする。③科目最終試験の問題にできる限り様々な面から解答されていること（60 点）④科目最終試験の解答の柱立てが明確で論理的であること（20 点）⑤科目最終試験に解答する自分自身のことばが豊かであること（20 点）

授業科目	保育内容研究環境				単位	1.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW0736	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容 環境〔第３版〕	秋田喜代美･増田時枝･安見克夫・箕輪潤子　編	みらい	[ISBN]9784860154479

■授業の概要	保育内容「環境」のねらいと内容を理解し、乳幼児の育ちを豊かにする環境とは何かについて考察する。また、保育の具体的展開についても学ぶ。
■学習の要点	第 1 部基礎編で、保育における領域「環境」の意味を十分に理解したうえで、第 2 部の実践編の事例において、基礎編で学んだ内容がどのように表れているかを考察すること。
■学習の到達目標	・保育における「環境」の意義を多面的に述べることができる。・保育における環境の創造において、保育者に必要なものを述べることができる。・子どもの「環境」のかかわりを豊かにする保育実践について自分の考えを述べることができる。
■成績評価の基準	①科目最終試験の採点は加点方式とする。②科目最終試験の設題に合致しない答案は不合格とする。③科目最終試験の設題にできる限り様々な面から解答されていること（60 点）④科目最終試験の解答の柱立てが明確で論理的であること（20 点）⑤科目最終試験に解答する自分自身のことばが豊かであること（20 点）

授業科目	保育内容研究言語				単位	1.0
担当者	花房　ナオミ			シラバスグループ	TW0737	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・言葉	秋田 喜代美·三宅 茂夫 監修　砂上 史子 編集	みらい	[ISBN]9784860155261

■授業の概要	言葉は、自分の思いを表現し、人と人を豊かにつなぐ道具である。人は言葉を獲得しそれを媒介にして自己を知り他者を認知する。乳幼児期は言葉を獲得する基盤の時期であるため、子どもと共に生活している保育者の役割は大きい。子どもの豊かな環境を創り出す保育力を培う。
■学習の要点	·言葉のはたらきと言葉を育むもの·乳幼児期の言語発達·言葉の楽しさ·美しさ·領域「言葉」について·言葉を育む保育実践·文字や記号に対する感覚や興味·関心を育む保育実践·領域「言葉」と 10 の姿
■学習の到達目標	1　「保育所保育指針」における保育内容「言葉」について理解することができる。2　　領域「言葉」と 10 の姿について、述べることができる。3　年齢ごとの保育実践を立案したうえで、人的環境としての保育者の言葉について説明することができる。
■成績評価の基準	1　誕生から就学までの言葉の育ちを大きく二つの時期に分けてまとめる。(3 歳未満児と3歳以上児)2　それぞれの時期の保育者の関わりについてできるだけ具体的に述べること。3　論述の柱立て、論理性、言葉の豊かさ、正しい日本語が求められる。

授業科目	保育方法論				単位	1.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW0739	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育方法・指導法　新しい保育講座　6	大豆生田啓友・渡邉秀則	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623085323

■授業の概要	保育における「方法」とは、マニュアルを学ぶことではない。保育方法の原理とその展開について、テキストの事例も参考にしながら多様な角度から考え、保育者の育ちのために必要なことについて理解する。
■学習の要点	遊び・環境・人間関係、個と集団、保護者や地域との連携、乳幼児理解など、さまざまな角度から、保育の方法を探究する。具体的な学習の要点は以下の通りである。･「方法」を考えるときに大切なこと・乳幼児理解と保育方法の関連を探る・環境による保育を探る・遊びと総合的指導について学ぶ･個と集団が生きる保育を探る･子どもにふさわしい園生活の展開を学ぶ・日常生活と行事の関連を考える・家庭・地域など連携した保育のあり方を探る・さまざまな工夫が求められる保育のあり方を探る・実践の省察と保育者の成長について学ぶ
■学習の到達目標	1.「学習の要点」に示した保育方法に関わる基本的なテーマ群について学ぶ。2.方法の基本を保育の具体的な展開と結びつけて理解する。3.方法の基本について学んだことを批判的にとらえなおし、自らの問題関心や価値観を自覚的に問いなおそうとする姿勢を身につける。
■成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りである。･問題の意味を理解し論述している・できる限りさまざまな面から論述している･的確な表現を用いて論理的に論述されている・テキストや参考文献で学んだことを自分の言葉で論述している

授業科目	乳児保育				単位	2.0
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	TW5572	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
資料でわかる乳児の保育新時代　改訂５版	乳児保育研究会　編	ひとなる書房	[ISBN]9784894642539

■授業の概要	一般的には、乳児とは出生から１歳未満の０歳児をさすが、保育の世界においては児童福祉法制定以前から「３歳未満児保育」を「乳児保育」と称してきた経過がある。本科目においては、保育所における乳児保育を中心に、その意義を学び、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴と保育課題、さらにその内容・方法について理解を深める。
■学習の要点	１．乳児保育を巡る思想を整理し、保育所における乳児保育の意義について考察する。２．乳児の発達のみちすじを理解する。３．乳児保育の内容と方法について理解を深める。４．乳児保育の意義をふまえて、保育者のあり方を考える。５．乳児保育における記録のあり方と、保育計画・指導計画の立て方について考察する。６．乳児保育の歴史と現状をふまえ、これからの乳児保育の課題について考察する。
■学習の到達目標	乳児保育がなぜ必要なのか、その社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。現代的意義も大事だが、発達の観点をふまえること。そのうえで、大まかであっても、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴をつかみ、その時期の保育で大切にすべきことを理解していること。　乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で抑えるべき重点課題を理解していること。全体の中での各々の分量を考えて記述するように。
■成績評価の基準	乳児保育の必要性について、またその社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。「0 歳児」「1 歳児」「2 歳児」の発達的特徴をつかみ、その時期の保育で大事にすべきことを理解していること。「0 歳児」の発達的特徴については丁寧に記述しているにもかかわらず、年齢が上がるにつれて大雑把になる傾向があるので注意すること。乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で欠かすことのできない重点課題を理解していること。

授業科目	教科内容研究音楽				単位	2.0
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	TS0814	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑥ 初等音楽科教育	高見　仁志　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082025

■授業の概要	幼児は生来、歌うことや音を鳴らして遊ぶことに興味をもっており、保育現場でもさまざまな音楽活動が盛んに行われている。音楽に対する愛好心や豊かな感性を育む幼児期の音楽活動を支え、指導するためには、音楽の専門的知識や演奏技能の習得が必要とされる。ここでは保育における音楽活動内容と指導法について概観する。また、幼児期の音楽活動の意義や保幼小の学びの連続性について理解し、音楽指導実践に活かす応用力を身につける。
■学習の要点	１．幼稚園教育要領第２章「表現」のねらい及び内容についての理解を深めること。２．主たる音楽活動である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容と、幼児期の学びの特性を踏まえた指導上のポイント・留意点を理解すること。３．音楽活動を担う指導者として必要な音楽理論の基礎（読譜力・コード奏法・移調等）を習得すること。４．楽曲の魅力や特徴を幼児・児童にしっかり伝えるための教材研究の重要性に気づき、指導実践に活かす方法を探求すること。
■学習の到達目標	領域「表現」についての理解を深め、保育実践と結びつけながら音楽活動を展開する能力を身につける。また、音楽活動をとおして幼児・児童の豊かな表現を促す指導方法の工夫ができるようになることをめざす。
■成績評価の基準	・題意を正しく理解した上で解答されていることが重要である。　・テキスト学習の成果を必ず反映させること。テキスト学習の成果が見られない場合は不合格とする。・箇条書きだけの場合も不合格とする。

授業科目	教科内容研究図画工作				単位	2.0
担当者	芦田　風馬			シラバスグループ	TS0815	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容表現（乳幼児教育・保育シリーズ）	鈴木みゆき・吉永早苗・志民一成・島田由紀子 編著	光生館	[ISBN]9784332701880
幼稚園教育要領解説　平成30年3月	文部科学省著	フレーベル館	[ISBN]9784577814475

■授業の概要	造形表現はものを媒介にして表現される。それは紙であったり、木切れであったり、石ころであったり、粘土であったりと、幼児を取り巻くもの全てが表現材料となる。その造形表現は幼児が生活の中で感じ取っている様々な事柄、発見や経験、驚きや感動、楽しさや喜びなどが素直に自己表現される全人格的なものである。しかし、その表現の方法は極めて素朴であり、自分の内にある情感を十分に表現させるためには、教師の支援が必要である。そのためには幼児の成長発達の十分な理解とその理解に基づく保育の方法と表現するにふさわしい材料選択を行うことがなされなければならない。　この点から、保育者としての資質を高めることを目的に研鑽を深められたい。
■学習の要点	幼児の造形表現における教育的意義について、幼児期の一般的傾向と自己表現の関係をふまえて十分に理解しておくこと。また、幼児の造形遊びとその展開について学習し理解しておくこと。
■学習の到達目標	幼児の造形表現における教育的意義について、幼児期の一般的傾向と自己表現の関係をふまえて十分に理解することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験での評価となる。

授業科目	教科内容研究体育				単位	2.0
担当者	青木　好子			シラバスグループ	TS0816	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修　國土 将平・上田 恵子 編集	株式会社みらい	[ISBN]9784860155285

■授業の概要	領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが目標となる。そのため領域「健康」内容は、心身の健康、体を動かす遊びや運動、食生活、衛生･清潔の習慣、生活習慣、疾病の予防、安全管理、けがや事故の防止など多岐にわたる。それらは豊かな生涯の基盤となる。子ども達の発達に応じて十分に体を動かし楽しく遊ぶことの意義を踏まえ、現代の子どもたちの身体や心の健康に関する課題やその対策について考察し保育現場での環境設定や援助について理解を深める。
■学習の要点	１．領域「健康」のねらいと内容を理解し、基本的な知識や技能について考察し理解を深める。２．幼児期の子どもを取り巻く現状と課題を理解するとともに、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すために必要な環境構成や援助について具体的に考察し、保育現場での実践において重要なポイントを整理する。３．幼児期の運動の意義を理解し、発育発達に適した楽しい遊びを展開するための環境構成、援助について考察し様々な動きを獲得するための運動遊びのポイントについて整理する。
■学習の到達目標	領域「健康」のねらいや内容について理解し、説明ができる。領域「健康」のねらいを踏まえ内容を実践するにあたって保育現場での環境構成や援助のあり方のイメージをもつことができ、その実践や根拠について具体的な説明ができる。
■成績評価の基準	領域「健康」のねらいや内容を踏まえて、要点を示すキーワードを用いて記述されている。課題の意図を理解し、自身で具体的に考察した内容も含め整理して論理的に記述されている。

授業科目	幼児教育課程論				単位	2.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
あたらしい幼児教育課程総論　第二版	岸井勇雄、横山文樹	同文書院	[ISBN]9784810314953

■授業の概要	教育課程・保育課程、指導計画、保育の展開、評価、記録の方法などの意義や特徴について実践的な観点から理解する。実践されている教育課程・保育課程、指導計画をもとに幼児の発達に応じたカリキュラムの編成、指導計画の作成について学ぶことを通し、体系的指導力の育成を図る。
■学習の要点	教育課程・保育課程の基本的構造を理解し、保育を計画・実践・評価・改善する力を身に付ける。具体的には以下のような事項等についてである。・教育課程・保育課程とは・教育課程・保育課程の意義と必要性・教育課程・保育課程の特徴と機能（カリキュラムマネジメントの理解）・教育課程・保育課程の変遷・教育課程・保育課程の編成・教育課程・保育課程と指導計画の関連・指導計画の編成・教育・保育活動の評価と記録・指導要録・保育要録の意義と具体例・幼小連携・幼保連携を踏まえたカリキュラムのあり方・教育課程・保育課程をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．　就学前教育のカリキュラムの特徴と全体像を理解する。２．教育・保育を実践する際に考慮すべき要件や力量形成のあり方を理解する。３．長期指導計画を踏まえた短期指導計画の書き方を学ぶ。４．観点をもって実践を振る返る日誌や指導要録の書き方を学ぶ。５．カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	幼児理解と保育相談				単位	2.0
担当者	柏　まり・山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの発達と保育カウンセリング	次良丸睦子ほか	金子書房	[ISBN]9784760822935

■授業の概要	保育場面で幼児に起こる問題を理解して対応できるような情報を学習し、更に、育児支援を目指した保育カウンセリング技法を用いた保育相談方法を学習する。従って、保育相談方法としての保育カウンセリングの在り方、保育カウンセリングに関する諸理論、幼児の発達・発達診断、発達障害、親に対する育児支援等について学ぶ。
■学習の要点	・保育相談方法としての保育カウンセリング：保育カウンセリングとは何か、保育カウンセリングの目的と必要性、保育カウンセリングに関する諸理論について学ぶ。・幼児の発達：発達とは何か、発達の規定因、各発達段階の特徴について学ぶ。・幼児の発達診断：発達診断の目的と必要性、発達検査方法について学ぶ。・発達障害：自閉症スペクトラム、ADHD、LDについて学ぶ。・保護者に対する育児支援：保護者の育児不安と育児ストレスへの対応、家族のライフサイクルについて学ぶ。
■学習の到達目標	試験は、「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	社会福祉現場実習指導Ⅰ（事前指導）				単位	2.0
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	TW0761	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉実習：社会福祉現場と共に歩む社会福祉士を目指して	佛教大学社会福祉実習研究会編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248866&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目のねらいは社会福祉援助技術現場実習に臨むにあたり、その前提として必要とされる援助者としての姿勢、社会福祉援助の専門的知識、援助技術および実習領域の基礎知識を深めることを目的とする。実習とは、人と人とが直接関わる実践の場であることを念頭に置き、それが何を意味するのかを考え臨まなければならない。学習過程において、自らの行う実習の意義を考え、目的を明確にし実習のテーマおよび課題を主体的に設定することが求められる。
■学習の要点	社会福祉の実践はヒューマンサービスであるということを念頭に置き、以下の諸点について考え、自らの実習に対する目的や課題を明確にできるよう学習を進めることを求める。１．現場実習において求められる実習生としての姿勢について理解すること。　２．ソーシャルワーカーの職業倫理について理解すること（社会福祉士の倫理綱領を参照）。　３．現場実習の指定施設についてその概要や根拠となる法律、また最低基準等を理解すると同時に、そこで働く専門職の専門性について理解すること。　４．実習生として現場実習において留意すべき事柄について理解すること。　５．実践の場において関わるさまざまな専門職種について理解し、その連携の意義を考えること。　６．実習における記録の意義について理解すること。
■学習の到達目標	①現場実習において求められる実習生としての姿勢について身につける。②ソーシャルワーカーの職業倫理について理解する。③現場実習の指定施設についてその概要や根拠となる法律、また最低基準等を理解すると同時に、そこで働く専門職の専門性について理解する。④実習生として現場実習において留意すべき事柄について理解する。⑤実践の場において関わるさまざまな専門職種について理解し、その連携の意義を考えられるようになる。⑥実習における記録の意義について理解する。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即したテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測り、その到達度に即して成績評価する・試験解答については、1600 字～2000 字程度で作成すること。・問いに対して、解答するに必要なキーワードが含まれてい

	るかどうかを評価する。・問いを正しく理解し、要点を押さえ、論理的に解答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	医学概論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
人体の構造と機能及び疾病（新・社会福祉士養成講座〔第３版〕；１）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851005

■授業の概要	福祉の分野で高齢者あるいは障害児者などに関わる場合、医学への全般的で基本的な知識が求められます。そうした医学に関わる知識を身につけることをここでの課題とします。
■学習の要点	テキスト全体に目を通してください。その中でも、特にご自身の進みたい領域、高齢者や障害者などの分野の知識は、さらに他の文献にもあたって、知識の幅を身につけていってもらえればと思います。
■学習の到達目標	医学全般の基本的な知識が身につくこと成績評価は、リポート記述のオリジナリティーを重視します。
■成績評価の基準	問題をしっかり掘り下げて論じているかを重視します。オリジナルな解答であっても、医学的な過ちによる解答は看過できませんので、ご注意ください。また、明らかにテキストやネットからの情報の切り取りを行っているのに、答案内でその点を断らずコピペしていると判断せざるをえない場合は、合格点を与えることはできません。

授業科目	社会福祉調査				単位	2.0
担当者	長光　太志			シラバスグループ	TW5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会調査の基礎（新・社会福祉士養成講座〔第３版〕；５）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805837603

■授業の概要	昨今、社会福祉の分野でも注目されている社会調査に関して、基礎的な素養を身に付けることを目的とした科目である。そのために、まずは社会福祉と社会調査との関わりを学習する。その上で、社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状についても考える。その際、社会調査の歴史についても、最低限の知識を獲得する。　次に、実際の社会調査を、量的調査と質的調査に弁別し、それぞれの方法の概略を学ぶ。　量的調査の項目では、「全数調査／標本調査」あるいは「横断調査／縦断調査」といった量的調査の種類や特徴を学習する。その上で、調査票の作成方法や留意点などへの理解を深め、配布や回収といった調査の実際についても学ぶ。加えて、初歩的なデータ解析についても言及する。　質的調査の項目では、この調査の特徴や目的を踏まえた上で、調査設計や対象者の選定について学ぶ。その後、インタビューや参与観察、あるいはアクションリサーチといった手法についても概観し、質的データの分析についての知識も身に付ける。　最後に、社会調査における倫理や個人情報保護というトピックに触れ、社会調査を実施する上での姿勢を涵養し、学習を終了する。
■学習の要点	本カリキュラムの要点を、以下に列挙する。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解し、質的データの分析法を把握する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理について学び、個人情報保護や情報管理の重要性を理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点とほぼ重なるであろう。重要なことは、以下の５点である。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理に
■成績評価の基準	テキストを十分に理解し、社会調査に関する基本的な知識が明確に説明できているかどうかを評価の基準としている。

授業科目	福祉経営論				単位	2.0
担当者	村田　麻起子			シラバスグループ	TW5711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座１　福祉サービスの組織と経営	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882443

■授業の概要	社会福祉法の改称・改正、介護保険法及び障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の制定・施行、成年後見法の創設など、1990 年代から推進されてきた社会福祉基礎構造改革に伴い、事業体やサービス提供方法が多様化し、従来の社会福祉サービスのあり方や福祉サービスの提供が、それまでの行政による措置から利用者と事業者との利用契約に基づき選択することが可能となりました。福祉サービスの提供事業者、とりわけわが国の社会福祉事業を担ってきた社会福祉法人の在り方は「運営」から「経営」へ移行し、2016 年の社会福祉法の改正では、ガバナンス強化や地域における公益的な役割が明確になり、非営利法人としての経営の在り方を問われています。　サービスに関しては、本人中心「尊厳の保持」「自立支援」「自己決定」といった理念が掲げられ、サービスは個別化、地域化しています。サービスの担い手に関しては、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴い、資格の定義、義務規定、資格取得方法などの見直しが行われ、サービスを提供する福祉専門職の教育と人材育成の検討も本格化しており、福祉経営においても重要な課題の一つとなっています。　以上の状況を踏まえ、本科目では、福祉サービスに係る組織や団体の役割の理解を深めます。また、福祉サービスの提供主体や組織経営に関する基礎理論について学ぶとともに、その実際について、現状を把握し、組織経営の課題や可能性を考察します。
■学習の要点	１．　福祉サービスを提供する組織―法人　社会福祉法人　特定非営利活動法人　医療法人等２．　福祉サービスの沿革と概況３．福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論―コンフリクト　集団力学　リーダーシップ４．福祉サービスの管理運営方法①ガバナンスとコンプライアンス　サービス管理　苦情処理・解決　リスクマネジメント５．福祉サービスの管理運営方法②情報管理６．福祉サービスの管理運営方法③会計管理　財務管理７．福祉サービスの管理運営方法②福祉人材のマネジメント　人材育成　労働環境の整備
■学習の到達目標	福祉サービスの提供主体の組織や経営に係る基礎理論と経営の実際理解することが到達目標。・福祉サービス提供を経営の視点でとらえることができる。・福祉経営と一般ビジネスモデル、福祉サービスと一般商業サービスの違いを指摘する。・行政と社会福祉法人等で担ってきた社会福祉の変遷を学び「運営から経営」への転換と意義　を説明する。・社会福祉法人等のガバナンスとコンプライアンスを理解して説明する。・事業体の活動目標としての理念、ビジョン、その実現に向けた具体的方法（戦略）を開発す　る意義を理解する。・福祉サ
■成績評価の基準	①文章が論理的に記述されて内容が展開しており本質をとらえて考察しているかを評価する。②内容と、問題意識、結論部分が明確で、関連性があり、具体的で説得力があるかを評価する。③テキストや参考文献を用いる際は、必ず引用もとを明記していることを確認する。

	④問題の内容を把握し、わかりやすく、読み手を意識した文章で記述しているかを評価する。 ⑤800 字に満たない場合、900 字を超える場合は内容にかかわらず評価対象外となる。

授業科目	介護の基本				単位	2.0
担当者	小田　史			シラバスグループ	TW5614	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高齢者に対する支援と介護保険制度　第 6 版（新・社会福祉士養成講座 13）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805858073

■授業の概要	この科目では、介護福祉の理解を通して、福祉専門職としての基本的な考え方や姿勢について学ぶことを目的とする。　具体的には、介護の概念や対象についての理解、高齢者を支援する専門職の役割、自立支援にむけた介護過程の展開の理解などについて学習する。また認知症ケア、終末期ケアなど、より専門的な知識や技術・倫理が求められるケアのあり方についても学習する。
■学習の要点	1.隣接領域である「介護」の専門性について学習をし、その上で社会福祉士が「介護」の理解を必要とする理由について考える。2.介護の概念と範囲について理解する。まず概念の法制度の中での変遷と位置づけや介護の定義、介護の働き（機能）と実践構造などから考察する。3.介護の専門性を支える理念と価値については、介護の目的や実践手段としての原則や専門職倫理から考察する。4.介護実践の対象は高齢者と障害児・者と介護者（家族）である。ここでは利用者を要介護高齢者に限定した上で全人的理解の視点やＩＣＦの視点に基づく利用者理解を学習する。5.介護過程では、要介護者本人の全体像を捉え、ニーズを導き出すことが重要である。ICF（国際生活機能分類)を用いたアセスメント、的確にニーズをつかみ本人を主体とした介護過程の展開技法について理解する。6.介護の原則である自立（自律）支援とは何かについて考え、自立（自律）に向けた介護の根拠となる理論及び具体的方法について学習する。7.認知症ケアでは、まず認知症の原因疾患に関する医学的な知識をベースに認知症の人が生活で感じる不自由さを理解し、尊厳と自立（自律）を意識したケアを実現する技法について理解する。8.終末期ケアでは、高齢者の終末期の特徴、終末期ケアの基本的考え方について理解し、当事者のＱＯＬを尊重した終末期ケアの具体的展開とは何かを検討する。
■学習の到達目標	学習の到達目標：「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価の基準：出題の要点を正しく理解し、理論的に述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。留意点：(1）箇条書きではなく、論理的に記述されていること。(2）リポート設題での学びが活かされていること。設題に対し、関心を持つとともに、テキスト及び参考文献で学んだ内容を筋道を立てなら整理し、記述することができている。ソーシャルワーカーに求められる課題の解決を目指し、客観的な事実をもとに判断し、工夫し、表現することができている。

授業科目	権利擁護と成年後見制度論				単位	2.0
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	TW5719	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座〔第4版〕；19）	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	[ISBN]9784805839362

■授業の概要	社会福祉士や精神保健福祉士は利用者支援にあたり、権利擁護実践の担い手として活動を行う。認知症や障がいがあるために、意思表示が十分にできない人々の中には、周囲から理解されず、差別や排除、虐待を受け、あたりまえの日常生活をおくれない人がいる。しかしそのような状況は家庭内や地域の中に埋もれ見えにくい。残念ながら福祉施設内でも起こっている。私たち支援者は鋭い人権意識を持たないと、そのような環境にある人を見つけることができない。　この科目で学ぶ憲法や民法、行政法は直接の支援とは遠く感じ、敬遠しがちであるが、何が権利侵害なのか、人権とは何か、権利擁護とは何かを学ぶために必要な知識となる。そしてそのような権利侵害に陥りやすい人のための制度として、成年後見制度や日常生活自立支援制度があることを学習し、活用できるようにする。また将来、社会福祉士や精神保健福祉士として自身が専門職後見人となることも視野に入れて学習をすすめる。
■学習の要点	1　ソーシャルワークの活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わりについて理解する。2　ソーシャルワークの活動において必要となる成年後見制度について理解する。3　成年後見制度や日常生活自立支援事業等の実際について理解する。4　社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②冒頭で解答の方針を数行で書いてから論述すること。箇条書きを避け、文章で論理を示すこと。
■成績評価の基準	文章力および論理構成を評価基準とする。

授業科目	心身ケア論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会福祉士養成講座１ 人体の構造と機能及び疾病〔第３版〕	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	[ISBN]9784805851005

■授業の概要	教科書には医学全般が網羅されています。その中から特に「疾病の概要」にある全人的な医療が期待される「終末期医療と緩和ケア」、「障害の概要」のいくつかの節、あるいはリハビリテーションおよび生活機能分類（ＩＣＦ）の概念を理解し、健康について心身両面、さらには個人と環境との関係性の中でとらえる力を身につけます。
■学習の要点	心身ケアに含意されるのは、身体の疾患も心の問題と密接につながりをもつということです。その点を社会との繋がりの中で捉える社会医学の視点で理解できる力を身につけるように頑張りましょう。
■学習の到達目標	現代社会のもつ社会病理として心身の不適応をとらえ、その回復への手がかりを知ることで、社会福祉での心の支援の手がかりを見つけてください。COVID-19 はそうした問題がある意味、明確化した世界的感染症であると言えます。
■成績評価の基準	テキストの一般的な記述にとどまらないで、またや世間で流布している言説ではない、自分自身の考えを社会福祉の視点で適切に展開できているかを成績評価の対象としたいと思います。

授業科目	高齢者ケア論				単位	2.0
担当者	新井　康友			シラバスグループ	TW5536	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
支援困難事例と向き合う18 事例から学ぶ援助の視点と方法	岩間伸之	中央法規出版	[ISBN]9784805850480

■授業の概要	本授業では、「支援困難事例」への具体的な援助の視点及び方法を提示することによって、高齢者ケアの実践の根拠となる「価値」の意義と内容を学ぶ。支援困難事例へのアプローチを深めていくプロセスは、同時にそのアプローチを導き出す「根拠」を問うことになる。それぞれの事例に対し、それぞれ特別な方法を学ぶのではなく、高齢者ケアの実践の根拠となるべき「価値」に基づいた援助、つまり原理・原則に基づいた高齢者ケアについて学ぶ。
■学習の要点	本授業では、具体的事例を通して高齢者ケアにおけるソーシャルワーカーのあり方について考えを深める。テキストは、支援困難事例として 18 のケースがとりあげられている。理論で学んだことを現場実践に生かす上で、重要な示唆を与える箇所も多いので、必ずすべてに目を通して欲しい。大学での学びには、テキストなどの丸暗記は必要ない。むしろ、テキストなどを活用して自分で考えたことを論理的に説明する力をつけていくことが求められる。常に「疑い得る」精神をもって、学習に臨んで欲しい。
■学習の到達目標	高齢者ケアの実践の根拠となる「価値」の意義と内容について理解する。「価値」に基づいた高齢者ケアについて理解する。
■成績評価の基準	設題の意図を理解できているかどうかを評価する。問いに対して、正しく理解し、要点を押さえ、論理的に回答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	保育原理				単位	2.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW0801	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育原理　第 3 版（最新保育講座 1）	森上史朗･小林紀子･若月芳浩　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073511

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上て、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性･自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	･保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。･テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。･採点は加点方式とする。･問題に合致しない答案は不合格とする。･問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点)。･解答が論理的に展開されていること（20 点)。･自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点)。

授業科目	社会的養護				単位	2.0
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	TW5556	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
三訂　子どもの社会的養護―出会いと希望のかけはし―	望月彰編著	建帛社	[ISBN]9784767950891

■授業の概要	本科目は、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解したうえで、子どもの人権擁護を基盤とする社会的養護の制度と実施体系、その対象と形態、それを担う専門職について学ぶことを目的とする。これらの学びを踏まえ、制度政策の動向、実施体系と支援の展開、現状と課題等について理解を深める。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。社会的養護の意義と理念、社会的養護の歴史的変遷、現代社会における子どものニーズと支援課題について学ぶ。２．　子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 子どもの権利条約、児童福祉法、児童虐待防止法、児童憲章等をふまえ、子どもの権利について理解する。また、社会的養護における権利擁護の取り組みと課題を学ぶ。社会的養護における保育士等の倫理と責務についても理解を深める。３．　社会的養護の制度や実施体系等について理解する。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体制、専門職と専門性、諸資格等を学ぶ。組織と運営管理について理解する。４．　社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。社会的養護を必要とする子どもの実態を学び、その子どもを支援する家庭養護と施設養護という形態の実際を学ぶ。社会的養護に関わる専門職についても理解を深める。５．　社会的養護の現状と課題について理解する。社会的養護の現状と課題を学ぶ。子どもの権利擁護の視点から、子どもと家族を支えるために求められる社会的養護の現状と今後の方向性、課題を学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合、800 字以上の記述がなされていない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	保育者論				単位	2.0
担当者	石野　美也子			シラバスグループ	TW5557	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育者論（新しい保育講座；2）	汐見稔幸 ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623083329

■授業の概要	保育者の仕事の内容と専門性について学ぶ。
■学習の要点	１．保育者の仕事の魅力と資格・免許２．保育者の１日３．子どもの思いや育ちを理解する４．子どもと一緒に心と体を動かす５．文化や自然との出会いをつなぐ６．保護者や家庭と共に歩む７．学び合い協働する８．保育者の専門性とは
■学習の到達目標	1.保育者の仕事の多面的について基礎的な知識を習得する 2.保育者の仕事を保育の具体的な展開と結びつけて理解する 3.自分の問題関心や価値観を自覚的に問いなおし、望ましい保育者像を身につける
■成績評価の基準	以下の基準により評価します。1.問題の意味を理解し論述している 2.できる限り様々な面から論述している 3.論述が論理的で表現も的確である 4.参考文献などを活用し、テキストで学んだことを発展させている

授業科目	保育の心理学Ⅰ				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW5558	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの「困った」を理解する：発達を見通した子育てを	長崎純子ほか編著	かもがわ出版	[ISBN]9784780302288

■授業の概要	人間の発達は、日々成長し、新しい活動を我がものにしていく過程である。大人もさまざまな経験をしながら発達していくが、子どもの発達は心身ともにめざましくダイナミックである。子どもの発達を理解しておくことは、保育に従事する者にとって非常に重要な視点・技量である。したがって本科目では、大人の理屈ではなく、子どもの理屈を踏まえた保育を考えていくために必要な発達の基本的理解を押さえていく。
■学習の要点	「子どもの心に寄り添える保育者」となることをめざし、運動・言語・自我といった領域ごとに発達を整理しながらも領域間のつながりを押さえた発達のありようを学んでいく。
■学習の到達目標	１．各時期の発達的特徴を理解する２．子どもの言動を子どもの視点や理屈に基づいて理解する３．上記２点の理解に基づいて子どもへの働きかけを考える
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容への回答が最低限できている７０点台：問題で問われている内容への回答に無理がない８０点台：共感の視点に基づく発達的特徴の理解がおおよそできている９０点以上：共感の視点に

授業科目	子どもの食と栄養				単位	2.0
担当者	猿渡　綾子			シラバスグループ	TW0808	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新子どもの食と栄養　食生活の基礎を築くために 第9版	飯塚美和子　ほか編著	学建書院	[ISBN]9784762468414

■授業の概要	小児期は子供の心身の発育にとって重要な時期であり、その栄養や食事の取り方は体を作るだけでなく心の発達にも影響をあたえる。現代の小児の食生活は社会変化の影響を深く受けている。子どもの食生活や生活習慣の乱れ、それに起因する健康上の問題は、子どもを取り巻く環境つまり家族や地域住民、保育士自身も含め養育者の栄養に対する関心の低さや食生活のあり方の問題でもある。将来の生活習慣病予防のため、また、子どもたちが豊かな人間性を育み、自ら生きる力を身につけていくためには、食の健全化が何よりも重要である。厚生労働省は食育に関する指針の中で、食育の実践を、食育の向上につながり、より充実した保育を期待するものとして位置づけている。子どもの食事とは、情緒を育て社会性を養う機会でもあり、心身の発達にあった十分な栄養、指導が大切になる。この科目では、乳児期、幼児期を中心として、小児の各発達段階に応じた栄養の摂取、食生活の現状、問題点について学ぶ。栄養の基礎知識を学び食生活と健康の関係を知り、学生自身が食や栄養に関する意識を高め、自身の食生活を反省し改善することは、将来保育にかかわる者として重要な意義をもつ。乳児、小児の特徴と食事について理解を深め、児童福祉施設で保育をする際、あるいは家庭で育児を行う際に必要とされる知識と技術の習得を目標とする。
■学習の要点	（1）栄養に関する基本的知識三大栄養素とビタミン、ミネラルについて学習する。栄養素の役割や消化と吸収、献立への展開、食事バランスガイドとの関係についても確認する。水分の体内分布、機能、摂取について学習する。(2) 胎児期の特徴と食事胎児の健やかな成長のために求められる、妊娠中の母親の食事について学習する。(3) 乳児期の特徴と食事母乳分泌の仕組みを知り、母乳の成分や利点、注意事項、支援方法、母子のアセスメント、保存方法について学習する。(4)育児用ミルクについて調整粉乳の種類と特徴について学習する。哺乳調乳器具の洗浄・滅菌、調乳方法および注意点についても確認する。(5) 離乳食の意義と進め方「授乳・離乳の支援ガイド」に基づいた離乳食の進め方の目安について学習する。離乳の開始と完了、離乳食の実際について整理しておく。また、離乳期と咀嚼機能の発達についても学習すること。ベビーフードの種類と利用上の留意点も確認する。(6) 乳幼児期におこしやすい病気と食事食物アレルギーの仕組み、アレルギー物質を含む食品、対処の方法（食事療法を含む）について学習する。学童期の食物アレルギーについても確認する。小児期に多い、感染症、下痢、嘔吐、便秘、う歯等の体調不良の子どもへの対応、食事について学習する。(7) 幼児期の特徴と食事おやつの意義について学習し、おやつの与え方の注意点を確認する。幼児期にみられる食行動の問題点（遊び食べ、偏食、むら食い、噛めない、小食・食べ過ぎ、箸の持ち方）を理解する。生活習慣と食事の関連についても学習する。また、保育所給食の実際について確認し、保育所や幼稚園における食育と食育計画について学習する。

■学習の到達目標	栄養学の正しい基礎知識に基づいて、小児の成長のために必要な食事を自分で考えることができるようになることが学習の到達目標である。
■成績評価の基準	科目最終試験では、上記「学習の要点」で示した（1）～（7）のいずれかについて説明してもらう。テキストの内容を正しく理解して、それを簡潔に説明することができれば十分に合格点に達する。〔成績評価の基準〕・試験問題で問われていることに過不足なく答えているか。・記述の内容が栄養学的に正しいものであるか。・文法的に正しく、読みやすい日本語で記述されているか。・テキストを理解したうえで自分の言葉で表現できているか。

授業科目	家庭支援論				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW0809	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
実践　家庭支援論　第 3 版	松本園子　他著	ななみ書房	[ISBN]9784903355658

■授業の概要	家族・家庭への支援が必要といわれているが，それはなぜだろうか。本科目では、家族・家庭の置かれている現状や課題を取り上げながら、保育者に求められている家族・家庭への支援のありようを考えていく。その際、特別なニーズのある家族、子育てにかかわる政策動向、海外の子育て事情、といった点と合わせてわが国における具体的な支援策や支援例を学んでいく。
■学習の要点	家族や家庭を支援していく保育士には、支援方法を身につけるだけでなく、その支援方法を有効に活用していくための基本的な知識や見識を身につけることが必要となる。したがって、現在の家族や家庭が置かれている状況の把握が学びの土台となる。
■学習の到達目標	１．子どもが育つ場である家族・家庭の動向を理解する。２．子育て家庭を取り巻く環境・子育て意識・子育ての悩みを理解する。３．子育て家庭を支える具体的な制度や政策の動向を理解する。４．特別なニーズのある家族の多様性を理解し、具体的な支援が検討できる。５．世界の子育て事情や子育て支援について理解する。６．子育て支援の実際について具体例に基づいて理解を深める。
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：論述の仕方にやや無理がある（論理の飛躍がある）７０点台：論述の仕方に無理がない８０点台：複数の観点に基づく論述に無理がない９０点以上：複数の観点に基づく論述が正確である

授業科目	保育課程論				単位	2.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW5563	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育計画のつくり方・いかし方　改訂版	保育計画研究会　編	ひとなる書房	[ISBN]9784894641884

■授業の概要	保育・幼児教育における計画の重要性と、その編成の基本的な視点と具体的な方法を学ぶ。
■学習の要点	保育の計画と評価の意義について理解し、保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に学ぶ。保育所における、計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動態的に捉え、保育の質向上との関係を理解する。合わせて、保育の計画作成に関わる諸要件(集団編制、条件、職員集団、家庭との連携など)についても学ぶ。
■学習の到達目標	1.保育計画に関わる一連のテーマについて基礎的な知識を習得する 2.計画作成と改善のあり方を実際のケースに即して理解する 3.学んだことを批判的にとらえなおしたり、自分の問題関心や価値観を自覚的に問いなおそうとする姿勢を身につける
■成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りである。・問題の意味を理解し論述している・できる限りさまざまな面から論述している・的確な表現を用いて論理的に論述されている・テキストで学んだことを自分の言葉で論述している

授業科目	障害児保育				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW0812	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
主体性をはぐくむ障がい児保育	野村　朋・荒木美知子	文理閣	[ISBN]9784892598739

■授業の概要	人間が育ちゆく過程においては、他者への信頼感を土台に自己への肯定感を高めつつ人格を形成していくことが重要である。そのため、障害の有無に関わらず、社会の一員として共に育ち合う関係を育み、自分だけでなく他者も含め尊重しあうことが、幼児期の育ちや学びにおいて求められる。本科目では、障害の特性や保育の方法はもちろんのこと、子どもの育ちを中心とした保育や集団の意味、そして家族への支援やそれを支える社会的背景も含め、総合的に障害児保育について学んでいく。
■学習の要点	障害の軽減や改善に取り組むことを第一に考えることの危うさや難しさを踏まえながら、障害のある子どもの保育の目的・方法および関連する諸課題を学んでいく。
■学習の到達目標	１．障がいのある子どもの発達・障がい・生活を理解する２．障がい児保育に必要な障がいの基礎知識を理解する３．障がい児保育と発達支援の関係機関について理解する４．家族の障がい受容と成長について理解する５．保育園・幼稚園での障がい児保育と特別支援教育について理解する６．障がい特性の理解と子ども理解の関係を説明する
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容に最低限解答している７０点台：問題で問われている内容に無理なく解答している８０点台：問題で問われている内容におおよそ解答している９０点以上：問題で問われている内容に十

授業科目	保育実習指導Ⅰ				単位	2.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5580	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新　保育士養成講座 9 巻 保育専門職と保育実践	『最新　保育士養成講座』総括編纂委員会　編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793513121

■授業の概要	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は保育実践現場においてこれまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。さらに、保育実習は保育士を目指す学生が自分を見つめる機会であり、これからの課題を発見する重要な機会ともなる。保育実習を通して、子ども理解・保育所および施設や保育士の仕事に対する理解及び自己に対する理解を深めてほしい。
■学習の要点	1.保育実習の意義を理解する 2.保育実習に臨む態度を理解する 3.保育実習における守秘義務を理解する 4.保育実習記録作成の意義を理解する 5.保育実習における実習テーマと課題について考える
■学習の到達目標	学習の要点に記載している事項と同様。
■成績評価の基準	①設題を踏まえてリポートを作成しているか　50%②自分の考えをまとめているか　40%③誤字脱字などはないか　10%

授業科目	保育実習指導Ⅱ				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5585	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	本授業では、保育所における保育実習の意義と目的を確認する。

■学習の要点	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。

■学習の到達目標	保育実習の意義と目的を確認した上で、保育実習のまとめと自己評価を行い、自らの今後の課題を明確化する。

■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	保育実習指導Ⅲ				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5587	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	①保育実習Ⅲ(施設実習)に臨む姿勢を再確認する。②実習の振り返りと自己評価を行い、自らの課題を明確化する。

■学習の要点	①保育実習(施設実習)の意義・目的を理解する。②実習施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。③実習施設におけるプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

■学習の到達目標	施設での保育実習を振り返り、自身の今後の課題を明確にする。

■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	現代福祉社会論				単位	2.0
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	TW5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代福祉社会論	岡﨑祐司	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248972&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目では、社会福祉を専門的に学んでいく基礎となる社会科学的な知識、認識を人権、平和、労働、生活を中心に学びます。さらに、社会福祉の全体像や対象、主体など基本的なとらえ方を学びます。社会のなかで、あるいは資本主義の変化のなかで社会福祉をとらえるという観点をしっかりもって学習を進めてください。　①福祉の理念、「反福祉状況」　②自由権と社会権―自由権の意味と歴史的性格、社会権の登場の背景と意義、民主主義と国民主権　③平和と日本国憲法―第９条の世界史的意義、安全保障の考え方、平和的生存権の先駆性、人間の安全保障、平和的手段による国際貢献の意義　④労働と生活―人間発達と労働の歴史的視点、資本主義と労働、人間らしい働き方、生活様式、生活の社会化　⑤社会福祉の基本の理解―政策・労働・実践の三つの視点、社会福祉政策、福祉労働、社会福祉の対象、目的、主体
■学習の要点	（１）社会福祉の対象となる社会問題を人権保障の視点から考える。（２）社会権を資本主義体制の労働と生活の構造、実態からつかむ。（３）現代日本の生活様式の特徴、問題点をつかみ、勤労国民の生活困難、貧困化の本質を生活からつかむ。（４）社会保障・社会福祉の意義と役割（重要性）を、現代の生活様式、生活の社会化のとの関係からつかむ。（５）社会福祉の「対象の対象化」の構造を理解し、福祉運動の意義と役割を具体的課題に即してつかむ。（６）市民の活動・事業としての社会福祉の内容と役割を、地域社会の維持や地方自治との関係からつかむ。
■学習の到達目標	（１）社会福祉の対象となる社会問題をひとつとりあげ、人権保障の視点からそれについて説明できる。（２）社会権保障の意義を資本主義体制の労働と生活の構造、実態から説明できる。（３）現代日本の生活様式の特徴、問題点を二つから三つ説明することができ、現代の生活様式が勤労国民の生活困難、貧困化につながっていることを説明できる。（４）社会保障・社会福祉の意義と役割（重要性）を、現代の生活様式、生活の社会化のとの関係から説明できる。（５）社会福祉の「対象の対象化」の構造を説明でき、それとのかかわりで福祉運動の意
■成績評価の基準	①テキストの内容をしっかり理解しており、それをふまえた自己の問題意識が明確なこと。②論理的な文章で論理的に展開できること。③到達目標に達していると認められること。

授業科目	日本社会福祉史				単位	2.0
担当者	小池　桂			シラバスグループ	TW5104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本福祉史講義	池田敬正ほか著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248821&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目は、世界史の流れに関連させながら、日本の福祉のあゆみを古代から現代までたどるものである。福祉は生活を通じた「さいわいの共有」を意味する言葉であるが、そこには、生存の条件となる生活共同の視点が見出せる。福祉の歴史をひもとくことは、各時代の制約をうけながら展開されてきた生活の共同の営みをたどることである。そうした福祉の営みは、大きく三つの段階に分けることができる。第一段階は前近代で、共同体の規制や身分制を前提とした政治的、宗教的救済や共同体内部の相互扶助（共済）が中心となる。第二段階は近代で、抑圧的な共同体や身分制社会からの個々の人間の解放による自由が大きな意味をもつ。地域の公共的救済や人間愛（博愛）にもとづく慈善事業が生まれる。第三段階の現代社会では、個人の自由を前提とした社会福祉が成立する。特に、人類史の全過程を通じた福祉の営みを学びながら、現代に社会福祉が成立する意義を理解することが大切である。
■学習の要点	福祉のあゆみを大きく三つの段階で理解することが必要である。歴史の苦手意識は、個別の事象にとらわれすぎて、全体の流れを見失うことに原因がある。大きな流れをまず把握して、個々の事象が示す特徴をふまえることが重要である。そののちに、わが国の三つの段階の特徴を把握して、個別事象がその特徴とどう関連しているかを理解すること。テキストの序および１、２、３の各々のはじめの方の節（１−１、２−１・２、３−１・２）は、そうした全体の流れを把握するために大切な箇所であるから、常に念頭に置きつつその他の内容をとらえること。また、日本史の基礎知識が不可欠であるので、簡単な日本史の入門書などを読んでおくことが望ましい。
■学習の到達目標	1．福祉の展開過程を通史的かつ段階的に把握することができる。2．その中で個別的な事象を位置づけることができる。
■成績評価の基準	1．試験問題は、テキストの各章のいずれかから出題するので、基本的にはテキストの理解度が問われる。2．テキストからそのまま引用せず、自分の言葉で記述することも重視する。但し、歴史的展開をはずれた感想は認められず、不合格となるので注意すること。3．解答は 2,000 字以上でまとめること。

授業科目	欧米社会福祉史				単位	2.0
担当者	朴　光駿			シラバスグループ	TW5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる社会福祉の歴史	清水教恵・朴光駿　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623055364

■授業の概要	イギリスを中心とした社会福祉の歴史の流れを把握し、福祉制度発展の背景にあるさまざまな要因（政治的要因、経済的要因、社会的要因、文化的要因など）とその影響について理解を深める。社会福祉以前の時代と社会福祉が存在した時代にはどのような差異があるのか、救貧の国家責任を史上初めて認めた法律である救貧法の背景と内容を学習する。イギリス以外の国の歴史については、社会保険を最初に導入したドイツの歴史、社会保障システムを初めて作った 2 つの国、ソビエトとアメリカの福祉歴史を学習する。
■学習の要点	福祉制度の内容を中心に学習することではなく、福祉制度の発展をもたらす背景要因として、政治的要因、経済的要因、社会的要因、文化的要因について理解を深めること。合わせて、福祉制度の背景にある福祉思想についても学習すること。比較の観点から国家間の福祉発展の違いを探究すること。
■学習の到達目標	福祉制度の生成・発展・消滅の背景にある諸要因を、政治的要因、経済的要因、社会的要因、文化的要因に区分して理解すること。福祉制度が最も早い時期から生成したイギリス特有の事情を理解すること。①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。③採点は、加点方式を基本とする。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられている
■成績評価の基準	テキストの理解度、設題の趣旨に対する理解度、論理性、内容の充実さ、私見などを総合的に考慮して評価する。

授業科目	社会福祉方法論３				単位	2.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5223	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座12「ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）」	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規	[ISBN]9784805882429

■授業の概要	歴史的・社会的仕組みとして存在する社会福祉は、政策によって実態化する法律や制度、サービスの管理運営機構である組織や法令、人の配置などによる社会福祉供給体制を前提に、そのもとにおける多様な社会福祉援助活動によって、人々の暮らしに具体的な関わりを作り出している。しかもその仕組みや運用の有り様は今日、急速な変化をみせつつあり、新しい利用、契約といった制度運用や、まちづくりに見られるような多様な地域における活動の広がり、さらに当事者、市民などといったこれまでにはない参加者を作り出している。したがって、そこで用いられる方法・技術といったことも新たな事態への対応が求められている。　ここでは歴史的な歩みを踏まえながら、そうした現代の社会福祉援助活動とその運用に関わる原理・原則といったことを前提に、主として地域における活動とその方法について取り上げる。
■学習の要点	社会福祉援助技術や地域における社会福祉活動の歴史的な歩みについて整理するとともに、近年のコミュニティにおける活動の進展やそれを支える理論的背景についての理解を深めること。さらに最近の福祉改革とその中でまちづくりといった視点から取り組まれる社会福祉活動についても、関連する資料（行政資料や調査、報告等）とともに広くあたること。特に、多様な社会福祉領域の活動については援助活動の視点から整理・検討を行い、そこで用いられる方法・技術について考察を深めること。その際、次の点に留意すること。　１．社会福祉の歴史の中で社会福祉援助活動とともに方法・技術はどのように形成・発展してきたのか　２．ソーシャルグループワークの発展とグループワーク実践について　　３．特に初期の慈善組織協会やセツルメント活動などコミュニティにおける活動の成立とその背景、またその後における施設ケアの成立とその後の歩みについて　４．1960 年代以後における国際的なコミュニティケアの成立と脱施設化政策の推移、ケアマネジメントの誕生と発展について　５．コミュニティケアの発展とソーシャルアクションの機能について　６．最近のわが国における社会福祉改革に関わる政策動向（行政計画やその背景となる審議会、検討会等々の議論）とそのもとで社会福祉援助における課題について
■学習の到達目標	（１）「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進める。不明な用語を調べ、関連する法制度や理論についての文献資料にあたりながら、ソーシャルワークを体系的に理解しポイントを説明できるようになる。（２）リポートとは何かを理解し、出題で問われている内容について適切に（全体の組立、箇条書きは不可、自身の経験や感想で終わらせない）まとめることができる。

■成績評価の基準	設題に沿って正確にまとめられているかどうかを何よりも重視します。 さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価します。 また、引用や参照箇所をきちんと明記してください。 答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となります。

授業科目	社会福祉方法論４				単位	2.0
担当者	三馬　哲彦			シラバスグループ	TW5224	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワークの理論と方法１（MINERVA 社会福祉士養成テキスト３）	岩田正美　ほか監修	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623053919

■授業の概要	社会福祉援助（ソーシャルワーク）の展開過程、およびそれに関わる知識について理解する。ソーシャルワークの展開過程は、一連のものではあるが、いくつかの段階に区分される。アウトリーチを含めたケースの発見、導入期における援助関係の形成、クライエントにどのような生活ニーズが生じているかを明らかにするアセスメント（事前評価）、明らかになったニーズを充足するための計画の作成、援助計画にもとづく具体的な支援の提供、生活困難が解決したかどうか（ニーズの充足）を評価するエバリュエーション（事後評価）、そして終結を迎える。これらの各段階において求められる知識、理論および技術について理解を深めることを目的とする。
■学習の要点	１）相談援助の展開過程について理解する。２）相談援助の展開過程における知識・技術を理解する。３）援助者とクライエントとの関係について理解を深める。４）ソーシャルワークにおけるニーズの定義を理解する。５）アセスメントの定義と目的を理解し、その特徴について学ぶ。
■学習の到達目標	学習の到達目標：「学習の留意点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の趣旨・要点を正しく理解し、相談援助の展開過程の段階を簡潔に説明していること。また、展開過程の中でのアセスメントの役割がその前後の段階と関連付けられて述べられていること。そのうえで、相談援助職としての視点・視野から収集された情報が整理されていること。

授業科目	現代の社会問題				単位	2.0
担当者	新井　康友			シラバスグループ	TW5231	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
誰も置き去りにしない社会―貧困・格差の現場から―	平松知子他	新日本出版社	[ISBN] 9784406061919

■授業の概要	本授業では、現代日本において拡大を続ける格差・貧困の実態に迫り、人権・生存権保障の視点から現代の社会問題について考え、学ぶ。テキストでは、格差・貧困の多様な内容や形態が紹介され、人々を苦しめる格差・貧困の構造の根深さを知る。そして、対処すべき課題や問題解決の手がかりについて学ぶ。
■学習の要点	テキストでは、保育現場、給食費未納、多発する奨学金返還トラブル、シングル女性の貧困など、具体的な事例が紹介され、今日の貧困の現場（実態）を学ぶ。テキストで紹介されている貧困の現場（実態）を学ぶだけではなく、各章の執筆者は現代日本における格差・貧困の実態についてさまざまな視点から指摘している点についても学ぶ。
■学習の到達目標	さまざまな格差・貧困の実態を知り、これからの展望と課題について理解する。
■成績評価の基準	問題の意図を理解し、要点を押さえて論じることができているかを評価する。

授業科目	人権と福祉				単位	2.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5232	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
人権論入門　日本国憲法から考える	奥野　恒久	法律文化社	[ISBN]9784589040213

■授業の概要	現代の日本社会では、人権尊重が強調されながら、子どもの貧困、校則による黒髪強制、デートＤＶ、虐待・暴力、ブラック企業での働かせ方、ブラックバイト、LGBT 蔑視、外国人技能実習生への劣悪な労働条件、ヘイト・スピーチ、風営法によるダンス規制、沖縄県民への米軍基地被害の強制、震災・自然災害の被災者の生活困難など人権にかかわる問題が数多く存在している。しかし、これらを「人権問題」として身近にリアルにとらえることができているだろうか。自分自身を大切にすること、ひとりひとりが大切にされることが人権であり、人と人との関係だけではなく、権力・国家と個人、政治と個人、組織と個人との関係の間でも、実は人権侵害が発生する。人権の理念や意義を理解するだけではなく、「おかしなこと」に対抗するために人権を自分のものとしてとらえることが重要である。　人権侵害の事態に対して、わたしたちが「それはおかしい」と主張する根拠となるのは、人権の思想であり日本国憲法である。最近、「憲法改定」の是非がさまざまなところで話題になっているが、なかには憲法とは何かを正しく理解できていない議論もある。いったい、憲法とはどのような性格をもつものなのだろうか。わたしたち市民が、改憲についての判断が迫られる時期が来るとするならば、まず市民が憲法についての正しい認識をもつ必要がある。 「福祉」は、ひとりひとりの人権を守り、ひとりひとりの生き方を尊重するための社会制度であり社会的実践である。人権と憲法についての正しい理解が、福祉とはなにかを理解し深めることにつながる。また人権はこの「社会」で生き抜く、わたしたちの力（ちから）になる。この授業では、日本国憲法を土台にしながら、わたしたちが社会で主人公として生きるために（主権を奪われたり、主体的に考えることを奪われたり、ごまかされたりだまされたりしないために）必要な、人権の考え方や憲法についての正しい知識とその「活用の仕方」を学ぶ。
■学習の要点	日本国権法の基本原理を学び、平和主義、人権に関わる条文とその解釈、統治機構について正しく理解し、現実の諸問題と関わらせて考えることができるようになることをめざします。
■学習の到達目標	1.日本国権法の基本原理について説明することができる。2.平和主義とは何か、それがなぜ重要なのかについて具体的な問題と照らし合わせて説明することができる。3.人権とは何か、人権を守るためにどのような条文があるのかについて具体的な社会問題と照らし合わせて説明することができる。4.憲法において統治機構がどのように位置づけられているかを理解し、実際の統治機構をめぐる諸問題と関わらせて検討することができる。
■成績評価の基準	テキストの内容を理解できているか。人権を守るために憲法はどのようなことを謳っているのか．憲法と現実問題に矛盾はないのか。あるとすればどうすればいいのかについて自己の見解を述べられているのかを指標にして採点します。

授業科目	障害児臨床論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
重い障害を生きるということ	高谷清・著	岩波書店	[ISBN]9784004313359

■授業の概要	医療型障害児施設（重症心身障害児施設）で生活する方々への関わりを知ることを通じて、障害児者の生きる権利について学びます。

■学習の要点	指定テキストとして高谷清著の岩波新書を選びましたが、この本を通読してのち、重い障害と共に生きる人たちの権利性をさらに深く学んでほしいと思っています。そこで、いくつかの参考文献を紹介しています。時間あるいは経済的に許せば、目を通してください。

■学習の到達目標	一つの結論が導かれるとは思っていません。ですが、社会の公平性や社会正義とは何かという点にも思いをはせて、深みのある学びを期待しています。

■成績評価の基準	自分自身の考えを、社会福祉の視点で適切に展開できているか、その点を見極めながら成績評価します。

授業科目	児童ケア論				単位	2.0
担当者	奥井　菜穂子			シラバスグループ	TW5234	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
障害と子どもたちの生きるかたち	浜田　寿美男	岩波書店	[ISBN]9784006031794

■授業の概要	人間はみな、身体の境界に区切られた個体として生きているだけでなく、他者との間で様々なやり取りをかわしながら、重層的な関係の網の目を生きている。本テキストは、この両義性を踏まえ、人が生きるかたちを＜文化＞として読み解きながら描き出すものである。特に、障害を抱え、「あたりまえ」とされるふるまいから外れてしまう人たちの生きるかたちが、ことばの発達、内的世界の構図、他者との関わりの事例から詳細に描かれている。本科目では、そうした事例を読み込むことを通して、障害を一つの＜文化＞としてとらえ直し、多様な文化がともに生きるための筋道を考察することを目指す。加えて、保育・教育・福祉現場で起こる様々な問題を再考するとともに、子どもたちのありのままを受け入れ、支えるための保育・教育・福祉の役割について理解を深める。
■学習の要点	１、個別的でありながら、同時に共同的でもあるという、人が生きる両義性を理解する。２、筆者がなぜ障害を＜文化＞として捉えようと試みたのか、その理由を理解する。３、障害を＜文化＞として捉えることと、＜個性＞として捉えることはどう違うか、筆者の主張を理解する。４、筆者は、障害を「治す」という発想のどこに危うさが潜んでいると述べているのか理解する。５、テキストに登場する「たかし君」の生きる世界を、対話性という観点から理解する。６、テキストに登場する「みつこさん」が自分の右手を受け入れられるようになった過程を理解する。７、筆者が「ありのままを生きる」という言葉に込めた意味を理解する。８、様々な＜文化＞を生きる子どもたちとともに生きるかたちを、自身の研究や関心とひきつけて考察する。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点から行う。１、科目最終試験の出題に対し、課題に合致した解答でない場合は不合格とする。２、テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考文献を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること。（４０点）３、解答の論点がはっきりしており、明確であること。（４０点）４、テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の体験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること。（２０点）

授業科目	障害児者ケア論				単位	2.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木　勉・田中　智子　編著	法律文化社	[ISBN] 9784589040336

■授業の概要	生きる権利を保障すると言うのは単に生存を保障することを指しているのではない。市民としていかに生活するのか、その質までも問うことである。本科目では、障害者の誕生から高齢期までの各ライフサイクルにおける生活課題と支援の実際を理解した上で、現代における障害者の生きる権利をどのようにとらえるべきなのか、そのためにどのような社会的支援が必要なのか、その中で専門職が果たすべき役割とは何なのかを検討する。
■学習の要点	①障害者・家族の各ライフステージにおける生活実態・生活問題を理解する②障害者福祉実践の意義と課題を理解する③障害者に関わる支援の専門性を理解する
■学習の到達目標	障害者・家族を取り巻く生活問題を理解できる。そのうえで、支援の在り方や求められる専門性について独自の考察を展開できるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を理解できていること・身近な事例等に引き付けて、現実と切り結んで理解し、考察できていること・論述の構成が適当であること

授業科目	保健医療政策論				単位	2.0
担当者	岡﨑　祐司			シラバスグループ	TW5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
安倍医療改革と皆保険体制の解体	岡﨑祐司、中村暁、横山壽一編著	大月書店	[ISBN]9784272360840

■授業の概要	現在推進されている新自由主義改革の側面を強くもつ医療制度改革の本質をつかみ、受講生に国民の側からの医療保障のありかたを探る基本や方向性を考察してもらう。社会保障としての医療保障の根幹と、現在の医療制度改革の主たる政策手段や方法がなにか、国民の側からの医療保障をもとめる運動の課題はなにかを考察する。社会保障としての医療保障の基本は、「社会保障論」で学修しておいてほしい。それを踏まえたうえでの学修を想定しているので、やや応用的な内容を含んでいる。
■学習の要点	日本の医療保障の根幹になっている「皆保険」の意義をつかみ、以下の医療制度改革の動向をつかむ。①医療費抑制策・医療費総管理体制の構築や国民健康保険財政の都道府県化のもつ意味、②医療費管理の政策手法と提供体制改革、地域医療計画と地域医療構想、非営利ホールディングカンパニー型法人の議論、成長戦略と医療の営利ビジネス化、国家戦略特区の活用。なお、社会保障としての医療保障の基本については「社会保障論」で学習しておいていただきたい。
■学習の到達目標	学習の到達目標新自由主義改革の特徴をつよくもつ現在の医療制度改革について、以下の諸点から説明することができる。（１）国民健康保険財政の都道府県化の課題について説明することができる。（２）社会保険診療における混合診療が医療保障を崩壊させる問題点と危険性があることを説明することができる。（３）地域医療構想と病床機能報告が、今後の地域医療提供体制にもつ影響と課題を説明することができる。（４）政府の成長戦略における医療の位置づけとそれが国民の医療保障からみて問題が多いことを説明できる。（５）都道府県で
■成績評価の基準	それぞれのテキストの内容をふまえ、論理的に記述できており、自己の問題意識を明確にしていること、また一連のつながりのある文章を作成できていること。

授業科目	居住福祉論				単位	2.0
担当者				シラバスグループ	TW5408	
開講年度	2023	履修方法		設題数		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	

■学習の要点	

■学習の到達目標	

■成績評価の基準	

授業科目	福祉行財政と福祉計画				単位	2.0
担当者	日下部　雅喜			シラバスグループ	TW5411	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉士シリーズ 10 福祉行財政と福祉計画＜第4版＞	福祉臨床シリーズ編集委員会	弘文堂	[ISBN] 9784335612053

■授業の概要	福祉行政と福祉計画に関する基本事項を学ぶ。1.基本として国と地方自治体の行政と財政の関係（中央省庁、地方自治制度、地公交付税、国庫補助金負担金、国及び地方の税制など）。／2.社会保障・社会福祉の法律と実施体制、運営システムについて、全体の共通事項と生活保護、高齢者福祉（介護保険を含む）、児童福祉、障がい者福祉（総合支援法も含む）など各領域の仕組み。／3.社会保障・社会福祉の財政問題と改革課題。／4.社会福祉における計画行政の登場とその意義、住民参加、当事者参加など策定過程の基本。／5.社会福祉の各法に定められた福祉計画?法定化される経過、法的根拠と内容、厚労省通知などに示された策定内容、ほかの領域の計画との関係。ニーズ調査、福祉計画の策定手法、PDCA を含めた点検評価方法。／6.実際の地方自治体の各福祉計画の検証及び今後の福祉計画の課題。
■学習の要点	①社会福祉行政の基本的な法制度・仕組みとその成り立ちを明らかにし、社会福祉行政における国、自治体の役割及び専門機関・専門職の課題について考察する。②社会保障・社会福祉の財政問題の動向と課題について考察する。③社会福祉における計画の意義・目的、策定方法・過程・評価について明らかにする。④自治体において実際に各種福祉計画がどのように策定・実施・評価されているかを検証する
■学習の到達目標	①福祉行政に関する国・都道府県・市町村の役割及び国と地方の関係について説明できる。②福祉行政の組織、実施体制、専門機関及び専門職の役割について説明できる。③社会保障・社会福祉の財政について基本的事項を踏まえて意見が述べられる。④福祉計画の背景と意義、目的、策定方法等について説明できる。⑤自治体の各種福祉計画について調べて内容を説明することができる。
■成績評価の基準	学習の要点で示した内容について、基礎知識を理解し、出された問題に対して的確かつ論理的な文章になっているかどうかで評価します。

授業科目	社会福祉法				単位	2.0
担当者	三田尾隆志			シラバスグループ	TW5412	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会保障法　第 7 版（有斐閣アルマ）	加藤智章･菊池馨実･倉田聡 著	有斐閣	[ISBN] 9784641221307

■授業の概要	日本法制では､社会保障法が大概念/社会福祉法はその一部をなす小概念とされています｡そこで、本科目では、社会保障法の標準教科書をテキストとして、まず全体像を概観してもらった上で､その中の社会福祉法の学習に入る行き方をとります｡社会福祉の主要分野である、児童福祉･障がい者福祉･高齢者福祉のそれぞれについて、対応する法制度の構造を理解し、さらに、個別の法的論点につき自分の頭で考えられるようになる事を目的とします。
■学習の要点	･社会福祉法を学ぶには、まず、社会福祉制度そのものについての知識がある事が前提となります。直近の制度改正にも留意しながら、参考文献等を活用して勉強してください。･社会福祉法は、単体で存在するわけではありません｡関連する、国際人権条約･憲法･行政法･民法等についても、自発的に学習を進めてください｡･社会福祉各法は生きている法であり、その活用のされ方を知る事が重要です｡テキストに挙がっている判例で関心を持ったものについては、社会保障法判例百選や、佛教大学図書館ホームページ BIRD のデータベースを用いて、実際に読んでみる事を薦めます。
■学習の到達目標	クライエントに法制度の概要が説明できるようになり、さらに、その先の実務で生じた問題意識についても、自分で調べられるようになる基礎をつくる事を目的とします。
■成績評価の基準	法制度の理解の正確性と、それを伝える能力とが、クライエントにとってプラスになる水準に達しているかで評価します。

授業科目	日本史概論				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。・奈良時代の政治について・古代社会と信仰（仏教、神道など）について・執権政治の展開について・中世から近世の農民生活について・鎖国から開国への政治過程について・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	問題に対する概括的な理解（40%）問題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	東洋史概論				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基いてテキストを精読しておくこと。1.王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実態、その反乱の時代的特質等を整理する。2.各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理する。3.各時代の文化の特色について、その時代の特質をふまえて整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達点は、歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れのなかで把握することにある。したがって試験問題を解くにあたって、そうした観点にたって論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずはポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例などが明確に正確に指摘されているかどうか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	2.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5513	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史（仏教伝来～平安）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	日本仏教史（鎌倉以降）				単位	2.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中おいて、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	2.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで興った仏教が中国に伝来して、中国人社会に、どのように変容し、適応し、受容されていったかを中心に中国における仏教の歴史的展開について、学習することが望ましい。・インドより中国・日本へと伝わった仏教の流れの中の中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の青磁・社会・生活の中で仏教はどのような立場で、展開してきたのかという中国史の立場からみた仏教史を考えなければならない。よって西暦前後の仏教伝来から現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的・教団史的に偏ることなく、歴史的・全般的に学習することである。
■学習の要点	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支配下の仏教)、12．明・清の仏教、13．現代の仏教について時代の流れにそって、理解すること。
■学習の到達目標	中国仏教の歴史的展開について、具体的には１．後漢の仏教(仏教の伝来と受容)、２．三国時代の仏教(支謙と康僧会)、３．魏晋の仏教(仏図澄、道安、鳩摩羅什、廬山の慧遠)、４．南朝の仏教(梁の武帝の奉仏)、５．北朝の仏教(北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏)、６．仏教芸術の展開(敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経)、７．隋の仏教(天台宗、三論宗、三階教)、８．唐の仏教(末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難)、９．五代の仏教(世宗の法難)、10．宋の仏教(大蔵経の開板)、11．遼・金の仏教(異民族支
■成績評価の基準	「学修の要点」に書かれた学習目標に即してテキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度に即して、成績評価をする。

授業科目	現代家族論				単位	2.0
担当者	柳下　実・田中　智子			シラバスグループ	TW5518	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
２１世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた〔第４版〕(有斐閣選書　１６１３)	落合　恵美子	有斐閣	[ISBN]9784641281462

■授業の概要	本科目では「近代家族」（家族愛で結ばれ、プライバシーを重んじ、夫は稼ぎ手で妻は主婦として性別分業を行い、子どもに対して強い愛情と教育関心を注ぐ家族）という概念をもとに、戦後から今日にかけて、家族はどのように変化してきたのか、歴史的、地域的な文脈を考慮にいれながら、日本の戦後の家族変動の実態とこれからのゆくえについて理解を深めてほしい。
■学習の要点	まず、テキスト全体に目を通すことが求められる。次に以下のテーマについて論じられている箇所を熟読し、内容をしっかりと理解する必要がある。　１．家事と主婦はいつどのようにして誕生したかについて　２.「二人っ子革命」について　３.「人口学的世代」について　４.「近代家族」について　５．ウーマンリブ運動について　６．家族の双系化について
■学習の到達目標	１．家族のあり方は絶対的なものではなく、時代や社会とともに変化していくことを学ぶ。２．現代日本の家族の原型である、「近代家族」の特徴について理解する。３．戦後の日本の家族体制の特徴について、①家事と専業主婦の誕生、②人口学的世代、③二人っ子革命、④ウーマンリブ運動、⑤家族の双系化から理解する。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。
■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。
■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。
■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	社会心理学				単位	2.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TT5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	東京書籍	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在としての誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自我や社会的性格、パーソナリティや社会的相互作用、そして帰属意識や公正などについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　攻撃 2　集団 3　社会的自己 4　態度と説得 5　社会的影響 6　ステレオタイプ
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	職業指導				単位	2.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
キャリア教育の展開：職業教育及び職業指導	伊藤一雄	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248747&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	職業とは何か、職業選択に導くとはどういうことかを考察する科目である。もし科学的な職業適性検査が作成され、実施されたとしても、その適正にみあった人数分の職業を社会が準備することはありえない（多い場合もあり少ない場合もあり)。こうした矛盾のなかで行われるのが職業指導である。そうした職業指導の意義や課題について考察することを目的とする科目である。

■学習の要点	１．現代社会における職業の特質を歴史的に考察する。２．職業指導とは何かについて考察する。３．保護者及び地域との連携について考察する。４．学校でのキャリア教育について考察する。

■学習の到達目標	①現代社会における職業の特質を歴史的に認識することができる。②職業指導とは何かについて説明できる。③保護者および地域との連携について説明できる。④学校でのキャリア教育のあり方について解説できる。⑤以上をふまえて、自己の見解を述べることができる。

■成績評価の基準	①科目最終試験の採点は加点方式とする。②科目最終試験の問題に合致しない答案は不合格とする。③科目最終試験の問題にできる限り様々な面から解答されていること（60 点）④科目最終試験の解答の柱立てが明確で論理的であること（20 点）⑤科目最終試験に解答する自分自身のことばが豊かであること（20 点）

授業科目	介護概論				単位	2.0
担当者	小田　史			シラバスグループ	TW5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
介護福祉総論（新大学社会福祉・介護福祉講座〔改訂版〕）	井上千津子 ほか 編著	第一法規	[ISBN]9784474027909

■授業の概要	「介護」は、すべての人間のライフサイクルにおいて必要不可欠な時期があり、また「人権保障の最後の仕上げ」であるとも言われるように、「尊厳の保持」、「自立支援」を理念とした生活支援の実践が行われている。介護には、人の生活を全体的に捉えることが求められ、その生活の質を高めていくために背景となる専門的な知識、技術が存在する。この科目では、介護を必要とする人の生活の理解から始まり、当事者主体の介護、意思決定支援、権利養護等々を日常生活の中に確立させていく介護について理解することを目的とする。
■学習の要点	１．介護の原則、介護従事者に求められる倫理性、専門性について理解し、尊厳を支える介護とは何か２．介護を必要とする人の生活がどのような実態にあるか知り、個別の意思決定支援において介護、生活支援の果たす役割について学ぶ３．ＩＣＦ（国際生活機能分類）に基づくアセスメントを活用した介護過程の展開について学ぶ４．介護従事者が自らの健康実態を把握し、身体的、精神的な健康の管理を行なうこととともに、介護現場における安全の確保、リスクマネジメントについて学ぶ５．チーム労働の組織のマネジメントについての理論と実践について学ぶ
■学習の到達目標	「尊厳の保持」を明記した法律、ノーマライゼーションの原理、ＷＨＯの定義した生活の質、ICF の概念など、様々な考え方をもとに発展してきた「尊厳を支える介護」の背景を理解できている。なおかつ具体的な介護や生活支援において、当事者主体、意思決定の支援の重要性が理解できている。
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、論述していること（60 点）　論述の展開その深度により 40 点を上限に加点する。箇条書きでなく、客観的事実を述べた後に、事実に基づいて論理的に記述を行うこと。リポート設題での学びを活かすこと。

授業科目	社会福祉総合実習指導				単位	2.0
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	TW5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領解説 福祉編	文部科学省	海文堂出版	[ISBN]9784303125110

■授業の概要	教科「福祉」は、高等学校における福祉教育を導入することによって、福祉関連従事者の養成および人間性豊かな人材育成を目的として創設された。また、高等学校で行われる「福祉」教育は、限られた時間のなかで社会福祉学全体を学んでいくため、そのポイントと教育方法が課題となる。したがって、教育を担当する者自身の的確な内容理解が要求されることから、福祉専門職としての知識や技術のポイントはもちろん教育内容の全体像を押さえていく。
■学習の要点	教科「福祉」創設の背景と目的を理解し、単なる免許取得のための学習ではなく、生徒へ実際に教授することのできる能力を実際的に身につけるという視点での学習が求められる。したがって、テキスト第２章「福祉科の各科目」をよく理解した上で、その内容をいかにして伝えていくかを自分なりに考えながら学習を進めること。
■学習の到達目標	①福祉科の各科目の基本事項を分かりやすく説明することができる。②社会福祉総合実習に向けて、各自の問題意識や関心の対象を明確にする。
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。1．学習の到達目標がおおよそ達成されている。２．科目最終試験の設題の趣旨を正確に理解し回答していること。３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、記述内容の深まりに応じて以下の基準に則って評価する。６０点台：論述の仕方にやや無理がある（論理の飛躍がある）７０点台：論述の仕方にあまり無理がない（内容が抽象的なもの）８０点台：論述の仕方に無理がない（内容が具体的なもの）９０点台：論述の仕方が優れて

授業科目	心身ケア論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会福祉士養成講座１ 人体の構造と機能及び疾病 〔第３版〕	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規	[ISBN]9784805851005

■授業の概要	教科書には医学全般が網羅されています。その中から特に「疾病の概要」にある全人的な医療が期待される「終末期医療と緩和ケア」、「障害の概要」のいくつかの節、あるいはリハビリテーションおよび生活機能分類（ＩＣＦ）の概念を理解し、健康について心身両面、さらには個人と環境との関係性の中でとらえる力を身につけます。
■学習の要点	心身ケアに含意されるのは、身体の疾患も心の問題と密接につながりをもつということです。その点を社会との繋がりの中で捉える社会医学の視点で理解できる力を身につけるように頑張りましょう。
■学習の到達目標	現代社会のもつ社会病理として心身の不適応をとらえ、その回復への手がかりを知ることで、社会福祉での心の支援の手がかりを見つけてください。COVID-19 はそうした問題がある意味、明確化した世界的感染症であると言えます。
■成績評価の基準	テキストの一般的な記述にとどまらないで、またや世間で流布している言説ではない、自分自身の考えを社会福祉の視点で適切に展開できているかを成績評価の対象としたいと思います。

授業科目	高齢者ケア論				単位	2.0
担当者	新井　康友			シラバスグループ	TW5536	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
支援困難事例と向き合う18 事例から学ぶ援助の視点と方法	岩間伸之	中央法規出版	[ISBN]9784805850480

■授業の概要	本授業では、「支援困難事例」への具体的な援助の視点及び方法を提示することによって、高齢者ケアの実践の根拠となる「価値」の意義と内容を学ぶ。支援困難事例へのアプローチを深めていくプロセスは、同時にそのアプローチを導き出す「根拠」を問うことになる。それぞれの事例に対し、それぞれ特別な方法を学ぶのではなく、高齢者ケアの実践の根拠となるべき「価値」に基づいた援助、つまり原理・原則に基づいた高齢者ケアについて学ぶ。
■学習の要点	本授業では、具体的事例を通して高齢者ケアにおけるソーシャルワーカーのあり方について考えを深める。テキストは、支援困難事例として 18 のケースがとりあげられている。理論で学んだことを現場実践に生かす上で、重要な示唆を与える箇所も多いので、必ずすべてに目を通して欲しい。大学での学びには、テキストなどの丸暗記は必要ない。むしろ、テキストなどを活用して自分で考えたことを論理的に説明する力をつけていくことが求められる。常に「疑い得る」精神をもって、学習に臨んで欲しい。
■学習の到達目標	高齢者ケアの実践の根拠となる「価値」の意義と内容について理解する。「価値」に基づいた高齢者ケアについて理解する。
■成績評価の基準	設題の意図を理解できているかどうかを評価する。問いに対して、正しく理解し、要点を押さえ、論理的に回答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	保育原理				単位	2.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW5551	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育原理　第 3 版（最新保育講座 1）	森上史朗･小林紀子･若月芳浩　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073511

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育とは何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上で、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性・自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	・保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。・テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。・採点は加点方式とする。・問題に合致しない答案は不合格とする。・問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。・解答が論理的に展開されていること（20 点）。・自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	初等教育原理				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TW5552	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	子ども家庭福祉				単位	2.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5553	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子ども家庭福祉　子ども・家族・社会をどうとらえるか	垣内国光･岩田美香･板倉香子	生活書院	[ISBN]9784865001211

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）に関する基礎知識を学ぶとともに、支援の実際と課題について理解を深める。子どもの生活と成長・発達を支援する児童福祉について、子どもの育つ環境（家庭・学校・地域社会等）との関わりを視野に入れて学ぶ。子どもとその家庭を支援するための基本的な視点、子どもの権利擁護に関する基本的な視座を身につける。児童福祉の歴史的な展開と、現代社会における児童福祉の法制度・施策の動向をふまえ、現代における子どもとその養育者への支援について考察を深める。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童福祉（子ども家庭福祉）における基本的視点　関連法規の内容を踏まえ、児童福祉の歴史的展開にみる児童観の変遷と、児童の権利擁護に関する基本的視角を得る。２．現代社会における子どもを取り巻く状況・背景と子ども家庭の生活課題、ニーズ　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会について理解を深め、子ども家庭のおかれている状況、生活上のニーズを理解する。３．児童福祉（子ども家庭福祉）に関する法制度と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。関連する施設・機関の内容、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。４．児童福祉（子ども家庭福祉）の担い手　専門職の特性と職業倫理について学ぶ。５．子どもの支援の実際と課題　家庭及び地域社会で生活する子どもへの支援の実際について理解し、連携の意義と方法を学ぶ。支援のあり方、課題についても検討する。６．現代社会における子どもの生活困難、生活課題と支援の実際　子どもの貧困、子どもへの虐待等々、子どもの権利擁護の観点から、子どもが育ち、子どもを育てる営みを支える児童福祉の事業や取組みの実際と課題について考察する。
■学習の到達目標	児童福祉(子ども家庭福祉）に関する基礎知識と支援のあり方について説明できる。子どもの生活と成長・発達を支援する児童福祉について、子どもの育つ環境（家庭・学校・地域社会等）との関わりにおいて考察できる。子どもとその家庭を支援するための基本的な視点、子どもの権利擁護に関する基本的な視座を身につける。児童福祉の歴史的な展開と、現代社会における児童福祉の法制度・施策の動向をふまえ、現代における子どもとその養育者への支援について自身の考えを述べることができる。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	社会福祉援助技術論				単位	2.0
担当者	千葉　晃央			シラバスグループ	TW5554	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助演習（シードブック）	植田章編	建帛社	[ISBN]9784767932910

■授業の概要	保育と社会福祉援助（ソーシャルワーク）の関連性について理解し、実際の援助実践の場で活用できるように具体的な知識や支援方法について学ぶ。
■学習の要点	次の 5 点を意識しながら、テキストの理解につとめること１．保育において、社会福祉援助（ソーシャルワーク）が求められる社会背景を理解する。２．社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の視点および援助過程を理解する。３．個別援助技術・集団援助技術・地域援助技術について理解すると同時に、その関連性について理解を深める。４．社会福祉実践における記録の意義と方法について理解を深める。５．保育における家族支援について理解を深める。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	子ども家庭支援論				単位	2.0
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	TW5555	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学ぶ･わかる･みえる　シリーズ保育と現代社会　演習・保育と相談援助　第 2 版	前田敏雄･監修佐藤伸隆･中西遍彦・編	みらい	[ISBN]9784860153205

■授業の概要	家庭の意義と機能および家庭支援の必要性をふまえて、保育士が家庭支援を行うことの意義と役割を理解する。さらに子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解を深め、子育ての支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について考察を行う。
■学習の要点	子どもと保護者の支援をになう保育士は、子どもと家族をソーシャルワーク的な視点でまなざし、その具体的な手立てを考えるための知識・技術が必要とされる。そのためには、現代の子育て家庭の実態を多様に理解するとともに、保育士の専門性を活かした支援を行うために、その家族を支援していくための基本的な知識（法制度、ソーシャルワーク的な視点、子育て家庭を支援する制度・施策）を身につける必要がある。
■学習の到達目標	１．現代日本における子育て家庭の実態、子育て家庭を取り巻く環境を理解する。２．子育て家庭をソーシャルワークの視点でまなざし、その支援の意義･目的とプロセスを理解する。３．同時に、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。４．子育て家庭をめぐる制度・施策の展開や動向を理解する。５．子育て家庭に対する支援の体制を具体的な事例を通して理解し、手立てを検討できる。６．現状を踏まえ、多様な支援の展開とその現状・課題について理解する。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う。①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	社会的養護１				単位	2.0
担当者	長瀬　正子			シラバスグループ	TW5556	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
三訂　子どもの社会的養護―出会いと希望のかけはし―	望月彰編著	建帛社	[ISBN]9784767950891

■授業の概要	本科目は、現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷を理解したうえで、子どもの人権擁護を基盤とする社会的養護の制度と実施体系、その対象と形態、それを担う専門職について学ぶことを目的とする。これらの学びを踏まえ、制度政策の動向、実施体系と支援の展開、現状と課題等について理解を深める。なお、本科目は、2011 年 4 月より施行した保育士養成課程の改正において「養護原理」から「社会的養護」に科目名の変更がなされたこと、2018 年 4 月より施行される保育士養成課程の改正をふまえた学修内容とする。
■学習の要点	１．　現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。社会的養護の意義と理念、社会的養護の歴史的変遷、現代社会における子どものニーズと支援課題について学ぶ。２．　子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 子どもの権利条約、児童福祉法、児童虐待防止法、児童憲章等をふまえ、子どもの権利について理解する。また、社会的養護における権利擁護の取り組みと課題を学ぶ。社会的養護における保育士等の倫理と責務についても理解を深める。３．　社会的養護の制度や実施体系等について理解する。社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体制、専門職と専門性、諸資格等を学ぶ。組織と運営管理について理解する。４．　社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。社会的養護を必要とする子どもの実態を学び、その子どもを支援する家庭養護と施設養護という形態の実際を学ぶ。社会的養護に関わる専門職についても理解を深める。５．　社会的養護の現状と課題について理解する。社会的養護の現状と課題を学ぶ。子どもの権利擁護の視点から、子どもと家族を支えるために求められる社会的養護の現状と今後の方向性、課題を学ぶ。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。その学習の進度と理解度を試験において測り、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価は以下の観点より行う①科目最終試験の出題に対し、課題に合致した回答でない場合、800 字以上の記述がなされていない場合は不合格とする。②テキストでの学びに加え、テキスト以外の参考資料を検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（40 点）③解答の論点がはっきりしており、明確であること（40 点）④テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、自身の経験および学びにもとづく言葉が豊かに表現されていること（20 点）

授業科目	保育者論				単位	2.0
担当者	石野　美也子			シラバスグループ	TW5557	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育者論（新しい保育講座；2）	汐見稔幸 ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623083329

■授業の概要	保育者の仕事の内容と専門性について学ぶ。
■学習の要点	１．保育者の仕事の魅力と資格・免許２．保育者の１日３．子どもの思いや育ちを理解する４．子どもと一緒に心と体を動かす５．文化や自然との出会いをつなぐ６．保護者や家庭と共に歩む７．学び合い協働する８．保育者の専門性とは
■学習の到達目標	1.保育者の仕事の多面的について基礎的な知識を習得する 2.保育者の仕事を保育の具体的な展開と結びつけて理解する 3.自分の問題関心や価値観を自覚的に問いなおし、望ましい保育者像を身につける
■成績評価の基準	以下の基準により評価します。1.問題の意味を理解し論述している 2.できる限り様々な面から論述している 3.論述が論理的で表現も的確である 4.参考文献などを活用し、テキストで学んだことを発展させている

授業科目	保育の心理学				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW5558	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの「困った」を理解する：発達を見通した子育てを	長崎純子ほか編著	かもがわ出版	[ISBN]9784780302288

■授業の概要	人間の発達は、日々成長し、新しい活動を我がものにしていく過程である。大人もさまざまな経験をしながら発達していくが、子どもの発達は心身ともにめざましくダイナミックである。子どもの発達を理解しておくことは、保育に従事する者にとって非常に重要な視点・技量である。したがって本科目では、大人の理屈ではなく、子どもの理屈を踏まえた保育を考えていくために必要な発達の基本的理解を押さえていく。
■学習の要点	「子どもの心に寄り添える保育者」となることをめざし、運動・言語・自我といった領域ごとに発達を整理しながらも領域間のつながりを押さえた発達のありようを学んでいく。
■学習の到達目標	１．各時期の発達的特徴を理解する２．子どもの言動を子どもの視点や理屈に基づいて理解する３．上記２点の理解に基づいて子どもへの働きかけを考える
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：問題で問われている内容への回答が最低限できている７０点台：問題で問われている内容への回答に無理がない８０点台：共感の視点に基づく発達的特徴の理解がおおよそできている９０点以上：共感の視点に

授業科目	子ども家庭支援の心理学				単位	2.0
担当者	井上　洋平			シラバスグループ	TW5559	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シードブック　子ども家庭支援の心理学	本郷一夫・神谷哲司　編著	建帛社	[ISBN]9784767950921

■授業の概要	保育士は乳幼児に限らず、学齢児から高齢者までの各ライフコースの対象者とも接する。生涯発達の基礎的知識とともに、現代の家族・家庭を取り巻く社会的諸課題とその影響について当事者の立場にそった理解を確かなものにしていく。
■学習の要点	家族や家庭を支援していく保育士には、支援方法だけでなくその支援方法を有効に活用するための基本的知識を身につけることが求められる。本科目では、子どもや保護者と日常的に関わる保育士に求められる内容として、対象（子ども・保護者・家族）に関する心理学的知見と福祉的知見を取り上げながら、今日求められている支援への理解を深めていく。
■学習の到達目標	１．対象に一人ずつ丁寧に寄り添うだけでなく、システムの観点からも家族を理解する。２．時代の変化に伴う家族･家庭をめぐる状況を理解し、いま求められている対応を考える。３．子育て期の保護者にとっての仕事と生活の調和について、社会的諸課題とあわせて理解する。４．育児に困難を抱えやすい家族･家庭のありようとそれに対する保育士の支援を理解する。５．特別な配慮を要する子どもや家族･家庭への支援について理解する。６．災害時における子どもとその家族･家庭へのサポートについて、事態を具体的に想定しながら理解する。
■成績評価の基準	合格のための最低基準は以下の３点である。１．学習の到達目標がおおよそ正確に理解できていること２．科目最終試験の問題の趣旨を正確に理解し解答していること３．最低限のルールを守ること（引用する場合の出典の明記、剽窃をしないこと）上記３点を前提とした上で、論述内容の深まりに応じて以下のように評価する。６０点台：論述の仕方にやや無理がある（論理の飛躍がある）７０点台：論述の仕方に無理がない８０点台：複数の観点に基づく論述に無理がない９０点以上：複数の観点に基づく論述が正確である

授業科目	子どもの保健				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5561	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第２版	小林　美由紀　　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、保育園や乳児院、発達支援センター、そのほかの施設で子どもたちに接する際に、子どもの成長発達の基本を知り、母子関係の意味を知り、さらに、子どもたちの障害や疾患についての知識をもっていることは、子どもたちにとって求められる保育とは何かを考える基礎になっていきます。とくに今日大きな問題として取り上げられる、子どもの貧困・虐待、発達障害、そして COVID-19 パンデミックに伴う問題について、自分の考えをもつことは大変重要です。知識を増やすだけでなく、自分自身でしっかり考えて判断できるように、本科目では自ら考える姿勢を重視したいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、自分自身で新聞の記事、事実に基づくネット情報、そしてできれば書籍からのまとまった知識を加えて、自分で問題をしっかり考えて整理してみる、そうした取り組みを期待します。大学図書館のポータルサイトを利用して、フェイクではない正しい情報を得て理解を深めてください。乳幼児の集団生活に関わる立場にとって、事故の予防と救急蘇生の手技およびワクチンで防げる病気と具体的な予防接種の中身（どういったワクチンをいつ接種するのかなど）を知っていることは、大変重要です。それらの点を特に強調し、リポート設題としました。
■学習の到達目標	学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べたことが活かせる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述の展開とその深度がどのようであるか、学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。
■成績評価の基準	内容が最新の情報に基づいて書かれているか（特にワクチン関係）は重要です。また、ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価の上では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	保育の計画と評価				単位	2.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW5563	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育計画のつくり方・いかし方　改訂版	保育計画研究会　編	ひとなる書房	[ISBN]9784894641884

■授業の概要	保育・幼児教育における計画の重要性と、その編成の基本的な視点と具体的な方法を学ぶ。
■学習の要点	保育の計画と評価の意義について理解し、保育課程の編成と指導計画の作成について具体的に学ぶ。保育所における、計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を動態的に捉え、保育の質向上との関係を理解する。合わせて、保育の計画作成に関わる諸要件(集団編制、条件、職員集団、家庭との連携など)についても学ぶ。
■学習の到達目標	1.保育計画に関わる一連のテーマについて基礎的な知識を習得する 2.計画作成と改善のあり方を実際のケースに即して理解する 3.学んだことを批判的にとらえなおしたり、自分の問題関心や価値観を自覚的に問いなおそうとする姿勢を身につける
■成績評価の基準	成績評価の基準は以下の通りである。・問題の意味を理解し論述している・できる限りさまざまな面から論述している・的確な表現を用いて論理的に論述されている・テキストで学んだことを自分の言葉で論述している

授業科目	乳児保育１				単位	2.0
担当者	増本　敏子			シラバスグループ	TW5572	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
資料でわかる乳児の保育新時代　改訂５版	乳児保育研究会　編	ひとなる書房	[ISBN]9784894642539

■授業の概要	一般的には、乳児とは出生から１歳未満の０歳児をさすが、保育の世界においては児童福祉法制定以前から「３歳未満児保育」を「乳児保育」と称してきた経過がある。本科目においては、保育所における乳児保育を中心に、その意義を学び、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴と保育課題、さらにその内容・方法について理解を深める。
■学習の要点	１．乳児保育を巡る思想を整理し、保育所における乳児保育の意義について考察する。２．乳児の発達のみちすじを理解する。３．乳児保育の内容と方法について理解を深める。４．乳児保育の意義をふまえて、保育者のあり方を考える。５．乳児保育における記録のあり方と、保育計画・指導計画の立て方について考察する。６．乳児保育の歴史と現状をふまえ、これからの乳児保育の課題について考察する。
■学習の到達目標	乳児保育がなぜ必要なのか、その社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。現代的意義も大事だが、発達の観点をふまえること。そのうえで、大まかであっても、「０歳児」「１歳児」「２歳児」の発達特徴をつかみ、その時期の保育で大切にすべきことを理解していること。　乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で抑えるべき重点課題を理解していること。全体の中での各々の分量を考えて記述するように。
■成績評価の基準	乳児保育の必要性について、またその社会的役割を子どもの発達保障の視点を含めて理解していること。「0 歳児」「1 歳児」「2 歳児」の発達的特徴をつかみ、その時期の保育で大事にすべきことを理解していること。「0 歳児」の発達的特徴については丁寧に記述しているにもかかわらず、年齢が上がるにつれて大雑把になる傾向があるので注意すること。乳児保育における保育計画・指導計画の必要性と、その内容で欠かすことのできない重点課題を理解していること。

授業科目	保育実習指導１				単位	2.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5580	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新　保育士養成講座 9 巻 保育専門職と保育実践	『最新　保育士養成講座』総括編纂委員会　編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793513121

■授業の概要	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は保育実践現場においてこれまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。さらに、保育実習は保育士を目指す学生が自分を見つめる機会であり、これからの課題を発見する重要な機会ともなる。保育実習を通して、子ども理解・保育所および施設や保育士の仕事に対する理解及び自己に対する理解を深めてほしい。
■学習の要点	1.保育実習の意義を理解する 2.保育実習に臨む態度を理解する 3.保育実習における守秘義務を理解する 4.保育実習記録作成の意義を理解する 5.保育実習における実習テーマと課題について考える
■学習の到達目標	学習の要点に記載している事項と同様。
■成績評価の基準	①設題を踏まえてリポートを作成しているか　50%②自分の考えをまとめているか　40%③誤字脱字などはないか　10%

授業科目	保育実習指導２				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5585	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	本授業では、保育所における保育実習の意義と目的を確認する。
■学習の要点	保育実習は、今まで学んだ知識を保育実践に結び付けていく大切な機会である。そのため、本科目は施設における保育実践現場において、これまで学んできた知識や技能を総合的に関連づける力と保育実践に応用する力とを養うものである。
■学習の到達目標	保育実習の意義と目的を確認した上で、保育実習のまとめと自己評価を行い、自らの今後の課題を明確化する。
■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	保育実習指導３				単位	1.0
担当者	佐藤　順子			シラバスグループ	TW5587	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育実習　第 2 版（最新保育講座 13）	阿部和子･増田まゆみ･小櫃智子　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623069569

■授業の概要	①保育実習Ⅲ(施設実習)に臨む姿勢を再確認する。②実習の振り返りと自己評価を行い、自らの課題を明確化する。
■学習の要点	①保育実習(施設実習)の意義・目的を理解する。②実習施設の概要を理解し、自らの課題を明確にする。③実習施設におけるプライバシーの保護と守秘義務等について理解する。④実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。
■学習の到達目標	施設での保育実習を振り返り、自身の今後の課題を明確にする。
■成績評価の基準	①リポート設題を踏まえた上で作成しているか　50%②紹介事例について十分に記載されているか　30%③誤字脱字などはないか　20%

授業科目	医学概論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
人体の構造と機能及び疾病（新・社会福祉士養成講座〔第３版〕；１）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851005

■授業の概要	福祉の分野で高齢者あるいは障害児者などに関わる場合、医学への全般的で基本的な知識が求められます。そうした医学に関わる知識を身につけることをここでの課題とします。
■学習の要点	テキスト全体に目を通してください。その中でも、特にご自身の進みたい領域、高齢者や障害者などの分野の知識は、さらに他の文献にもあたって、知識の幅を身につけていってもらえればと思います。
■学習の到達目標	医学全般の基本的な知識が身につくこと成績評価は、リポート記述のオリジナリティーを重視します。
■成績評価の基準	問題をしっかり掘り下げて論じているかを重視します。オリジナルな解答であっても、医学的な過ちによる解答は看過できませんので、ご注意ください。また、明らかにテキストやネットからの情報の切り取りを行っているのに、答案内でその点を断らずコピペしていると判断せざるをえない場合は、合格点を与えることはできません。

授業科目	社会福祉調査				単位	2.0
担当者	長光　太志			シラバスグループ	TW5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会調査の基礎（新・社会福祉士養成講座〔第３版〕；５）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805837603

■授業の概要	昨今、社会福祉の分野でも注目されている社会調査に関して、基礎的な素養を身に付けることを目的とした科目である。そのために、まずは社会福祉と社会調査との関わりを学習する。その上で、社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状についても考える。その際、社会調査の歴史についても、最低限の知識を獲得する。　次に、実際の社会調査を、量的調査と質的調査に弁別し、それぞれの方法の概略を学ぶ。　量的調査の項目では、「全数調査／標本調査」あるいは「横断調査／縦断調査」といった量的調査の種類や特徴を学習する。その上で、調査票の作成方法や留意点などへの理解を深め、配布や回収といった調査の実際についても学ぶ。加えて、初歩的なデータ解析についても言及する。　質的調査の項目では、この調査の特徴や目的を踏まえた上で、調査設計や対象者の選定について学ぶ。その後、インタビューや参与観察、あるいはアクションリサーチといった手法についても概観し、質的データの分析についての知識も身に付ける。　最後に、社会調査における倫理や個人情報保護というトピックに触れ、社会調査を実施する上での姿勢を涵養し、学習を終了する。
■学習の要点	本カリキュラムの要点を、以下に列挙する。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解し、質的データの分析法を把握する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理について学び、個人情報保護や情報管理の重要性を理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点とほぼ重なるであろう。重要なことは、以下の５点である。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理に
■成績評価の基準	テキストを十分に理解し、社会調査に関する基本的な知識が明確に説明できているかどうかを評価の基準としている。

授業科目	社会福祉計画論				単位	2.0
担当者	齊藤　拓			シラバスグループ	TW5609	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
福祉行財政と福祉計画　第5版（新・社会福祉士養成講座10）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805854303

■授業の概要	本科目のねらいは、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画の基礎的事項を学ぶことである。　２１世紀にはいってから本格化した社会福祉基礎構造改革後の福祉行財政のもとで、社会福祉計画策定プロセスの原則や方法、計画に基づく社会福祉行政の意義、住民参加や地方自治との関係を学ぶこと、それらをふまえて地域の福祉計画を科学的な視点で分析し評価するよう試みることを重視する。そして、実際に市町村が策定している福祉計画および福祉行財政計画を具体的に取り上げ、地域の実態や住民の生活問題と切り結んでその内容を批判的に検討するレポート作成を課題とする。
■学習の要点	１）社会福祉における福祉計画の背景や意義について２）組織体制からみた福祉行政の提供過程の変化について３）福祉計画の過程　PDCA サイクルを含めた計画過程の前提的なプランニングについて４）福祉計画の評価の意味、技法、課題について５）福祉計画における住民参加のありかたについて６）日本の社会福祉行政における組織・人材・財源について
■学習の到達目標	①福祉計画が作成されるようになった背景や計画化することの意義について理解し、基本的なことを説明できるようになる。②福祉行政の提供過程の変化と福祉計画の行政にとっての意義を理解し、説明できるようになる。③福祉計画の過程を PDCA サイクルを含めて理解し、説明できるようになる。④福祉計画の評価の意義、技法、課題について基本的事項を理解し、説明できるようになる。⑤福祉計画における住民参加の意義を理解し、説明できるようになる。⑥地域福祉計画の概要、意義を理解し、説明できるようになる。
■成績評価の基準	・レポート設題で問われていることに対する回答を明確に示すこと。・テキストの内容を熟読・理解していることがわかるよう、テキストの記述に基づいて答えること。・レポート全体の話の流れが分かるよう、節番号と小見出しを付けること。その上で、問題にたいして、到達目標にあるように内容を理解し基本的事項が説明できているかどうかが評価の基準となります。

授業科目	福祉経営論				単位	2.0
担当者	村田　麻起子			シラバスグループ	TW5711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座１　福祉サービスの組織と経営	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882443

■授業の概要	社会福祉法の改称・改正、介護保険法及び障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の制定・施行、成年後見法の創設など、1990 年代から推進されてきた社会福祉基礎構造改革に伴い、事業体やサービス提供方法が多様化し、従来の社会福祉サービスのあり方や福祉サービスの提供が、それまでの行政による措置から利用者と事業者との利用契約に基づき選択することが可能となりました。福祉サービスの提供事業者、とりわけわが国の社会福祉事業を担ってきた社会福祉法人の在り方は「運営」から「経営」へ移行し、2016 年の社会福祉法の改正では、ガバナンス強化や地域における公益的な役割が明確になり、非営利法人としての経営の在り方を問われています。　サービスに関しては、本人中心「尊厳の保持」「自立支援」「自己決定」といった理念が掲げられ、サービスは個別化、地域化しています。サービスの担い手に関しては、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴い、資格の定義、義務規定、資格取得方法などの見直しが行われ、サービスを提供する福祉専門職の教育と人材育成の検討も本格化しており、福祉経営においても重要な課題の一つとなっています。　以上の状況を踏まえ、本科目では、福祉サービスに係る組織や団体の役割の理解を深めます。また、福祉サービスの提供主体や組織経営に関する基礎理論について学ぶとともに、その実際について、現状を把握し、組織経営の課題や可能性を考察します。
■学習の要点	１．　福祉サービスを提供する組織―法人　社会福祉法人　特定非営利活動法人　医療法人等２．　福祉サービスの沿革と概況３．福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論―コンフリクト　集団力学　リーダーシップ４．福祉サービスの管理運営方法①ガバナンスとコンプライアンス　サービス管理　苦情処理・解決　リスクマネジメント５．福祉サービスの管理運営方法②情報管理６．福祉サービスの管理運営方法③会計管理　財務管理７．福祉サービスの管理運営方法②福祉人材のマネジメント　人材育成　労働環境の整備
■学習の到達目標	福祉サービスの提供主体の組織や経営に係る基礎理論と経営の実際理解することが到達目標。・福祉サービス提供を経営の視点でとらえることができる。・福祉経営と一般ビジネスモデル、福祉サービスと一般商業サービスの違いを指摘する。・行政と社会福祉法人等で担ってきた社会福祉の変遷を学び「運営から経営」への転換と意義　を説明する。・社会福祉法人等のガバナンスとコンプライアンスを理解して説明する。・事業体の活動目標としての理念、ビジョン、その実現に向けた具体的方法（戦略）を開発す　る意義を理解する。・福祉サ
■成績評価の基準	①文章が論理的に記述されて内容が展開しており本質をとらえて考察しているかを評価する。②内容と、問題意識、結論部分が明確で、関連性があり、具体的で説得力があるかを評価する。③テキストや参考文献を用いる際は、必ず引用もとを明記していることを確認する。

	④問題の内容を把握し、わかりやすく、読み手を意識した文章で記述しているかを評価する。 ⑤800 字に満たない場合、900 字を超える場合は内容にかかわらず評価対象外となる。

授業科目	介護の基本				単位	2.0
担当者	小田　史			シラバスグループ	TW5614	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高齢者に対する支援と介護保険制度　第 6 版（新・社会福祉士養成講座 13）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805858073

■授業の概要	この科目では、介護福祉の理解を通して、福祉専門職としての基本的な考え方や姿勢について学ぶことを目的とする。　具体的には、介護の概念や対象についての理解、高齢者を支援する専門職の役割、自立支援にむけた介護過程の展開の理解などについて学習する。また認知症ケア、終末期ケアなど、より専門的な知識や技術・倫理が求められるケアのあり方についても学習する。
■学習の要点	1.隣接領域である「介護」の専門性について学習をし、その上で社会福祉士が「介護」の理解を必要とする理由について考える。2.介護の概念と範囲について理解する。まず概念の法制度の中での変遷と位置づけや介護の定義、介護の働き（機能）と実践構造などから考察する。3.介護の専門性を支える理念と価値については、介護の目的や実践手段としての原則や専門職倫理から考察する。4.介護実践の対象は高齢者と障害児・者と介護者（家族）である。ここでは利用者を要介護高齢者に限定した上で全人的理解の視点やＩＣＦの視点に基づく利用者理解を学習する。5.介護過程では、要介護者本人の全体像を捉え、ニーズを導き出すことが重要である。ICF（国際生活機能分類)を用いたアセスメント、的確にニーズをつかみ本人を主体とした介護過程の展開技法について理解する。6.介護の原則である自立（自律）支援とは何かについて考え、自立（自律）に向けた介護の根拠となる理論及び具体的方法について学習する。7.認知症ケアでは、まず認知症の原因疾患に関する医学的な知識をベースに認知症の人が生活で感じる不自由さを理解し、尊厳と自立（自律）を意識したケアを実現する技法について理解する。8.終末期ケアでは、高齢者の終末期の特徴、終末期ケアの基本的考え方について理解し、当事者のＱＯＬを尊重した終末期ケアの具体的展開とは何かを検討する。
■学習の到達目標	学習の到達目標：「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	成績評価の基準：出題の要点を正しく理解し、理論的に述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。留意点：(1）箇条書きではなく、論理的に記述されていること。(2）リポート設題での学びが活かされていること。設題に対し、関心を持つとともに、テキスト及び参考文献で学んだ内容を筋道を立てなら整理し、記述することができている。ソーシャルワーカーに求められる課題の解決を目指し、客観的な事実をもとに判断し、工夫し、表現することができている。

授業科目	権利擁護と成年後見制度論				単位	2.0
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	TW5719	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座〔第4版〕；19）	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	[ISBN]9784805839362

■授業の概要	社会福祉士や精神保健福祉士は利用者支援にあたり、権利擁護実践の担い手として活動を行う。認知症や障がいがあるために、意思表示が十分にできない人々の中には、周囲から理解されず、差別や排除、虐待を受け、あたりまえの日常生活をおくれない人がいる。しかしそのような状況は家庭内や地域の中に埋もれ見えにくい。残念ながら福祉施設内でも起こっている。私たち支援者は鋭い人権意識を持たないと、そのような環境にある人を見つけることができない。　この科目で学ぶ憲法や民法、行政法は直接の支援とは遠く感じ、敬遠しがちであるが、何が権利侵害なのか、人権とは何か、権利擁護とは何かを学ぶために必要な知識となる。そしてそのような権利侵害に陥りやすい人のための制度として、成年後見制度や日常生活自立支援制度があることを学習し、活用できるようにする。また将来、社会福祉士や精神保健福祉士として自身が専門職後見人となることも視野に入れて学習をすすめる。
■学習の要点	1　ソーシャルワークの活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わりについて理解する。2　ソーシャルワークの活動において必要となる成年後見制度について理解する。3　成年後見制度や日常生活自立支援事業等の実際について理解する。4　社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②冒頭で解答の方針を数行で書いてから論述すること。箇条書きを避け、文章で論理を示すこと。
■成績評価の基準	文章力および論理構成を評価基準とする。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	医学概論				単位	2.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW5701	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
人体の構造と機能及び疾病（新・社会福祉士養成講座〔第３版〕；１）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851005

■授業の概要	福祉の分野で高齢者あるいは障害児者などに関わる場合、医学への全般的で基本的な知識が求められます。そうした医学に関わる知識を身につけることをここでの課題とします。
■学習の要点	テキスト全体に目を通してください。その中でも、特にご自身の進みたい領域、高齢者や障害者などの分野の知識は、さらに他の文献にもあたって、知識の幅を身につけていってもらえればと思います。
■学習の到達目標	医学全般の基本的な知識が身につくこと成績評価は、リポート記述のオリジナリティーを重視します。
■成績評価の基準	問題をしっかり掘り下げて論じているかを重視します。オリジナルな解答であっても、医学的な過ちによる解答は看過できませんので、ご注意ください。また、明らかにテキストやネットからの情報の切り取りを行っているのに、答案内でその点を断らずコピペしていると判断せざるをえない場合は、合格点を与えることはできません。

授業科目	心理学と心理的支援				単位	2.0
担当者	中妻　拓也			シラバスグループ	TW5702	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
心理学理論と心理的支援（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；2）	社会福祉士養成講座編集委員会 編	中央法規出版	[ISBN]9784805851012

■授業の概要	心理学は、人間と人間の行動に関しての多様な見方を提供してくれます。心理学を学ぶことは、自分や他人、集団や社会についてのより深い理解の手助けとなることでしょう。ただ現代の心理学は、統一された学問というよりはいくつかの分野が方法論を共有しつつ緩やかに結合した状態にあります。　本科目では、テキストを通して様々な分野の研究を概観していきます。そして心理学の各分野が人間と人間の行動に対して、どのようにアプローチしているかを理解してください。これらの学習を通して、現代の心理学が提供する人間観を学びます。
■学習の要点	まず指定テキストを通読して、心理学の全体像を把握するとともに、使用されている用語について慣れて、理解を深めてください。心理学で用いる専門用語の多くは、日常的な用語と同じものですが、その意味する内容は日常の用語とは異なっています。その点に留意したうえでテキスト全体を通読してきます。　さらに各章（特に第1章から第8章）で扱っている内容を日常の現象（自分の経験、日常で見聞きしたこと）を思い浮かべながら、理解していきましょう。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書いてある点に留意し、テキストの内容を理解し、日常で活かせるようにすることです。学習の要点に従ってテキスト学習を進めてください。科目最終試験では、学習の理解度を測り、理解度に応じて成績評価をします。　問題はテキストに即して出題します。テキストの内容を理解しているかどうかを問うので、テキスト学習を踏まえて解答してください。テキストの内容を無視した答案は不合格です。答案を作成する際には、単語の羅列ではなく、日本語として意味のある文章の形で論述することが必要です。第三者が読んで理解できるような
■成績評価の基準	成績は、心理学的知見が正確に記述できているか、自分の考えを含めて表現できているか、読み手が理解しやすいように工夫がされているか、を評価の基準とします。また、引用の形式が適切かなど、論述の形式についても、評価の基準とします。

授業科目	社会学と社会システム				単位	2.0
担当者	趙　没名			シラバスグループ	TW5703	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会福祉士養成講座３社会理論と社会システム第３版	社会福祉士養成講座編集委員会　編集	中央法規出版	[ISBN]9784805839300

■授業の概要	他の社会科学、たとえば経済学・法律学・政治学などと異なり、社会学が取り扱う対象である「社会」は、幅広い内容をもっている。ゆえに、はじめて社会学を学ぶ学生にとって、とらえどころのない学問であるかもしれない。　「人は何を信じるのか？」、「家族や学校や会社の役割は？」、「結婚は必要か？」、「専業主婦は職業か？」などといった身近な疑問から、「ひきこもり・フリーター・ニート」、「少子・高齢化」、「貧困」、「地域格差」、「環境」といった社会問題までがその対象となる。しかし、その中で一貫しているのは、多様な関係や制度の中で、人の振舞いや価値観がどのように形成されているか、といった視点である。　成熟した社会は、ありとあらゆるものが多様化し流動化する。それにともなう家族の変化、コミュニティの変化、産業社会の変化は避けることができない。これらに起因する社会問題への対応が、社会福祉の基本ともなる。社会の変化・変動を客観的・社会科学的に把握していく道具のひとつが社会学である。　様々な領域における社会の変化を捉えることによって、（歴史的）時代認識を深め、将来的な社会（人間）の存立の可能性について考えをめぐらしたい。
■学習の要点	序章においては、近代社会の成立と社会学に課せられた課題について整理してください。また、基本的な社会学者とその著者について記憶する必要があります。　第１章においては、社会を社会システムとして捉える際に必要とされる社会学の概念をおさえてください。さらに、現代社会において法の果たす役割を理解し、人々および企業の経済行動と社会システムとはどのような関係にあるかを整理してください。そして、社会の変動（社会の変化）の捉え方を理解したうえで、社会変動を起こす大きな要因である人口について整理してください。　第２章においては、人々の具体的な生活の場として、地域と家族に焦点を当てて、社会学的に分析する手法を理解し、「生活」を捉えるための概念を整理してください。　第３章においては、人々の行為と社会との関係や、日常的な行動パターンの背景にあるものに注目する社会学的視座を整理してください。　第４章においては、社会学は、社会病理もしくは社会問題に対して、社会全体への処方箋を提示し、その解決を目指そうとしている特徴を有していることを理解してください。　この履修ガイドに記した参考文献のみならず、個別領域については〈脚注〉に記されている参考文献も読まれることをおすすめします。

■学習の到達目標	社会学の基礎理論を用いて今日の社会現象を解釈し論理的に分析すること。

■成績評価の基準	・社会学の専門用語の定義を正確に理解し適切に使用できる。30%・妥当な量的、質的データを用いながら論述できる。20%・論理的整合性のある文章構造　20%・社会現象と社会学理論の結合　30%

授業科目	社会福祉調査の基礎				単位	2.0
担当者	長光　太志			シラバスグループ	TW5705	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会調査の基礎(新・社会福祉士養成講座〔第3版〕;5)	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805837603

■授業の概要	昨今、社会福祉の分野でも注目されている社会調査に関して、基礎的な素養を身に付けることを目的とした科目である。そのために、まずは社会福祉と社会調査との関わりを学習する。その上で、社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状についても考える。その際、社会調査の歴史についても、最低限の知識を獲得する。　次に、実際の社会調査を、量的調査と質的調査に弁別し、それぞれの方法の概略を学ぶ。　量的調査の項目では、「全数調査／標本調査」あるいは「横断調査／縦断調査」といった量的調査の種類や特徴を学習する。その上で、調査票の作成方法や留意点などへの理解を深め、配布や回収といった調査の実際についても学ぶ。加えて、初歩的なデータ解析についても言及する。　質的調査の項目では、この調査の特徴や目的を踏まえた上で、調査設計や対象者の選定について学ぶ。その後、インタビューや参与観察、あるいはアクションリサーチといった手法についても概観し、質的データの分析についての知識も身に付ける。　最後に、社会調査における倫理や個人情報保護というトピックに触れ、社会調査を実施する上での姿勢を涵養し、学習を終了する。
■学習の要点	本カリキュラムの要点を、以下に列挙する。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解し、質的データの分析法を把握する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理について学び、個人情報保護や情報管理の重要性を理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点とほぼ重なるであろう。重要なことは、以下の5点である。(1) 社会福祉と社会調査との関わりを理解する。(2) 社会調査の意義や目的を理解し、社会調査を取り巻く現状について考える。(3) 量的調査の種類や特徴を理解し、調査票の作成技術や調査の実際に対する理解を深め、様々なデータ解析法を概観する。(4) 質的調査の特徴を把握し、調査設計や対象者の選定の方法を学習する。その上で、インタビュー、参与観察、およびアクションリサーチといった手法を理解する。(5) 社会調査を行う上で求められる倫理に
■成績評価の基準	テキストを十分に理解し、社会調査に関する基本的な知識が明確に説明できているかどうかを評価の基準としている。

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職				単位	2.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5706	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　１１　ソーシャルワークの基盤と専門職［共通・社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882412

■授業の概要	日本ではソーシャルワーカーの国家資格として、社会福祉士と精神保健福祉士が位置づいている。現代では、ソーシャルワーカーが地域を基盤としたソーシャルワーク、地域共生社会の実現に向けたソーシャルワークを展開することが求められている。 現在の社会福祉士に求められている専門性やコンピテンシーは何かを知るとともに、ソーシャルワークの定義を学ぶ。グローバル定義にある原理や理念、その他ソーシャルワークの構成要素について理解を深める。さらに、ソーシャルワークが展開されるようになった歴史的経緯を学習する。 倫理綱領に基づいたソーシャルワーク実践について学習する。
■学習の要点	１．社会福祉士の法律的位置づけを理解する。さらに現在、社会福祉士に求められている専門性、コンピテンシーを理解する。【p.2～50】２．ソーシャルワーク専門職のグローバル定義について、定義の各用語を１つ１つを理解する。その上で、用語を散逸した状態で理解するのではなく、ソーシャルワーク実践の事例等に照らして説明し、用いることができるようになる。【p.52～66、86～102】３．ソーシャルワークの構成要素について理解する。【p.68～82】４．ソーシャルワークの理念について、１つ１つの用語を理解する。合わせて、１つ１つの用語が散逸した状態ではなく、ソーシャルワークの事例等に照らして説明し、用いることができるようになる。【p.103～118】５．ソーシャルワークの形成過程を理解し説明できるようになる。とりわけ、欧米のケースワークを中心とする「人」と「環境」を軸とした変遷について整理する。【p.120～169】６．ソーシャルワーカーとしての倫理の必要性を理解する。ソーシャルワーク実践において倫理綱領を活用し説明する。【p.172～202】※【　】内は、テキストの該当ページ。学習の目安として活用すること。※テキストを読むだけでなく、各節に末尾にある引用文献や参考文献にも目を通し、積極的に原典に当たること。
■学習の到達目標	１．社会福祉士の業務、専門性、コンピテンシーを説明できるようになる。２．ソーシャルワーク専門職のグルーバル定義を、実際のソーシャルワーク実践や事例に照らして説明できるようになる。３．ソーシャルワークの構成要素について説明できるようになる。４．ソーシャルワークの理念について、実際のソーシャルワーク実践や事例で用いることができるようになる。５．現在のソーシャルワーク理論に至る形成過程を説明できるようになる。６．倫理綱領を活用し、ソーシャルワーク実践や事例で用いることができるようになる。
■成績評価の基準	１．テキストに加えて、テキストの各節の末尾に掲載されている引用文献や参考文献に当たり、検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（30 点）２．記述の論点がはっきりしており、明確であること（30 点）３．テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、ソ

	ーシャルワーク実践や学生自身の経験や学びに基づき記述されていること（30 点）４．誤字・脱字がないこと（10 点）※論述問題の出題に対し、合致した解答でない場合は不合格とする。

授業科目	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）				単位	2.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5707	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　１　１　ソーシャルワークの基盤と専門職［共通・社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882412

■授業の概要	現代日本社会において様々な課題が生じる中で、社会福祉士の職域が拡大している。当科目では職域拡大している社会福祉士の役割について学ぶ。また、拡大する中において、ソーシャルワーカーが専門職であるための条件とは何かについて考える。　今、ソーシャルワーカーに求められているミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク、総合的かつ包括的な支援、多職種連携について、その内容や方法を理解する。事例を通してソーシャルワーク実践に用いることができるようになることを目指す。
■学習の要点	１．ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について理解する。【p.206～218】２．社会福祉士が働く職域の拡大とその社会福祉士の役割について理解する。【p.219～244】３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。【p.246～262】４．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの支援の実際について学ぶ。【p.263～267】５．総合的かつ包括的な支援と多職種連携について理解する。【p.270～288】６．具体的なチームアプローチの内容を学ぶ。【p.289～302】※【　】内は、テキストの該当ページ。学習の目安として活用すること。※テキストを読むだけでなく、各節に末尾にある引用文献や参考文献にも目を通し、積極的に原典に当たること。※とりわけ、「４．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの支援の実際について学ぶ」、「６．具体的なチームアプローチの内容を学ぶ」の２つは、具体的なソーシャルワーク実践や自身の経験などに照らして説明できるようにすること。
■学習の到達目標	１．ソーシャルワーカーが専門職であるための条件について説明できる。２．社会福祉士が働く職域の拡大とその社会福祉士の役割について説明できる。３．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。４．ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークを実際の事例に照らして用いることができる。５．総合的かつ包括的な支援について説明できる。６．多職種連携。チームアプローチについて実際の事例に照らして用いることができる。
■成績評価の基準	１．テキストに加えて、テキストの各節の末尾に掲載されている引用文献や参考文献に当たり、検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（30 点）２．記述の論点がはっきりしており、明確であること（30 点）３．テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、ソーシャルワーク実践や学生自身の経験や学びに基づき記述されていること（30 点）４．誤字・脱字がないこと（10 点）※論述問題の出題に対し、合致した解答でない場合は不合格とする。

授業科目	福祉サービスの組織と経営				単位	2.0
担当者	村田　麻起子			シラバスグループ	TW5711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座1　福祉サービスの組織と経営	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882443

■授業の概要	社会福祉法の改称・改正、介護保険法及び障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）の制定・施行、成年後見法の創設など、1990 年代から推進されてきた社会福祉基礎構造改革に伴い、事業体やサービス提供方法が多様化し、従来の社会福祉サービスのあり方や福祉サービスの提供が、それまでの行政による措置から利用者と事業者との利用契約に基づき選択することが可能となりました。福祉サービスの提供事業者、とりわけわが国の社会福祉事業を担ってきた社会福祉法人の在り方は「運営」から「経営」へ移行し、2016 年の社会福祉法の改正では、ガバナンス強化や地域における公益的な役割が明確になり、非営利法人としての経営の在り方を問われています。　サービスに関しては、本人中心「尊厳の保持」「自立支援」「自己決定」といった理念が掲げられ、サービスは個別化、地域化しています。サービスの担い手に関しては、社会福祉士及び介護福祉士法の改正に伴い、資格の定義、義務規定、資格取得方法などの見直しが行われ、サービスを提供する福祉専門職の教育と人材育成の検討も本格化しており、福祉経営においても重要な課題の一つとなっています。　以上の状況を踏まえ、本科目では、福祉サービスに係る組織や団体の役割の理解を深めます。また、福祉サービスの提供主体や組織経営に関する基礎理論について学ぶとともに、その実際について、現状を把握し、組織経営の課題や可能性を考察します。
■学習の要点	１．　福祉サービスを提供する組織―法人　社会福祉法人　特定非営利活動法人　医療法人等２．　福祉サービスの沿革と概況３．福祉サービスの組織と運営に係る基礎理論―コンフリクト　集団力学　リーダーシップ４．福祉サービスの管理運営方法①ガバナンスとコンプライアンス　サービス管理　苦情処理・解決　リスクマネジメント５．福祉サービスの管理運営方法②情報管理６．福祉サービスの管理運営方法③会計管理　財務管理７．福祉サービスの管理運営方法②福祉人材のマネジメント　人材育成　労働環境の整備
■学習の到達目標	福祉サービスの提供主体の組織や経営に係る基礎理論と経営の実際理解することが到達目標。・福祉サービス提供を経営の視点でとらえることができる。・福祉経営と一般ビジネスモデル、福祉サービスと一般商業サービスの違いを指摘する。・行政と社会福祉法人等で担ってきた社会福祉の変遷を学び「運営から経営」への転換と意義　を説明する。・社会福祉法人等のガバナンスとコンプライアンスを理解して説明する。・事業体の活動目標としての理念、ビジョン、その実現に向けた具体的方法（戦略）を開発す　る意義を理解する。・福祉サ
■成績評価の基準	①文章が論理的に記述されて内容が展開しており本質をとらえて考察しているかを評価する。②内容と、問題意識、結論部分が明確で、関連性があり、具体的で説得力があるかを評価する。③テキストや参考文献を用いる際は、必ず引用もとを明記していることを確認する。

	④問題の内容を把握し、わかりやすく、読み手を意識した文章で記述しているかを評価する。 ⑤800 字に満たない場合、900 字を超える場合は内容にかかわらず評価対象外となる。

授業科目	高齢者福祉論				単位	2.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5714	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	高齢者福祉への社会的ニーズは、少子高齢化により更なる社会的サービスの需要が予測されている。その対応のため、介護保険制度が 2000 年より実施された。その制度の現状を理解し、「介護の社会化」といった理念、および「選別主義」から「普遍主義」を希求した結果の新しい制度であったことも認識していただきたい。また、今後のサービスの拡大と財源問題および自己負担問題、保険料の設定など現状から変更を迫られる時期がくると考えられる。その意味で、今後の制度設計と理念などをどのように融合させていけばよいか学習してほしい。
■学習の要点	(1)深刻化する高齢者介護問題　現代的な課題である、要介護高齢者の社会生活上の課題や、その支援のためのサービスの充実がどのように変遷してきたのかを理解する。(2)私的介護から公的介護への変遷　「介護の社会化」や「選別主義」から「普遍主義」への理念の転換。そして、今後の財源問題や自己負担問題など制度が抱える課題についても学習してください。(3)高齢者ケアサービスの発展　我が国における、高齢者福祉サービスの変遷を理解し、現状のサービス形態やサービス種類、および施設形態などの特徴について学習してください。(4)介護保険制度と財源構成　介護保険制度が市町村における、介護保険事業計画に基づいて実施されていることの理解とともに、各市町村ごとの人口動態の変化、財源構成、利用者負担などの理解(5)認知症高齢者および認知症ケア　認知症に関する、精神医学的な知見と、認知症当事者の内的世界について学習を深めてください。また、認知症ケア実践としてさまざまな取り組みが行われているが、ケア提供者やまわりの人々はどのようなことを意識（注意）して認知症の方々と接していけばよいのか学習してください。(6)地域包括支援センターと、地域包括ケアシステムの理解　日常生活圏域への理解と、日本版コミュニティ・ケアへむけた地域包括支援システムへの現状と課題(7)その他の高齢者福祉関連法について学習してください。　成年後見制度、日常生活自立支援制度、高齢者居住法など、広く学習してください。
■学習の到達目標	基本的なキーワード（専門用語）および、国家試験に対応できる基本的理解ができていることを基準とする。

■成績評価の基準	（1）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（2）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（3）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。

授業科目	障害児者福祉論				単位	2.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5715	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を前提とした障害者問題の現れについて理解を深める。その上で、障害者問題の解決の指針を導きだすために、障害者福祉理念や障害概念、障害者福祉施策の変遷や、現在の障害者関連法等の基礎的知識の習得を目的とする。その上で、社会福祉専門職として障害者問題をどのように把握するのか、またその問題に対し社会的支援をどのように介入させるのかということについて、事例等をもとに理論と現実を切り結んで理解する視点を身につける。
■学習の要点	テキスト･参考文献等に学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、現代における障害者･家族の貧困問題を引き起こす社会構造についての理解を深める。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、現在の国際的到達である障害者の権利条約についてその成立背景と内容を理解する。（３）わが国における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー福祉政策ー社会運動という側面から理解する。（４）障害とは何か、国際的到達である WHO の「国際生活機能分類」(ICF）との比較において、わが国の障害規定の特徴と問題について理解する。（５）障害者総合福祉法の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者の実際との関連において理解する。（６）社会福祉実践の供給主体像について、公的責任との関連において理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。「答案」は箇条書きではなく論述すること。
■成績評価の基準	問題についての基礎的な理解度が問われるが、独自の見解が説得的に述べられていれば、より高い得点になる。

授業科目	児童・家庭福祉論				単位	2.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5716	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新･社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	[ISBN]9784805882467

■授業の概要	本科目では、児童・家庭福祉の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶことを目的とする。日々の生活のなかで、子どもの成長・発達を支援する児童・家庭福祉の意義とは何か、また現代社会における児童・家庭福祉の課題とは何かを考える。これまで展開されてきた児童･家庭福祉の歴史に学びつつ、少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ社会環境の変化をおさえ、現代における子どもとその養育者への社会的支援について考察を深めたい。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童・家庭福祉の思想・理念、子どもの権利　関連法規の内容を踏まえ、児童・家庭福祉の歴史的展開にみる子ども観の変遷と、子どもの権利擁護に関する基本的視角を得る。２．現代社会における福祉ニーズとその背景子どもの育つ生活環境、子どもを取り巻く社会状況について理解を深め、子どもとその家庭のニーズを考察する。３．児童・家庭福祉の関係法規と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。福祉サービスの体系と、利用に関する費用、財源、運営主体としての機関・施設、非営利組織、その他関連する社会資源、専門職の役割・機能について学ぶ。また、児童・家庭福祉における計画や運営、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。４．児童・家庭福祉の施策　母子保健、保育、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭・要保護児童・障がいのある児童等を対象とした支援、子ども家庭の貧困への対応、児童虐待防止などの児童・家庭福祉施策全般について学び、支援の展開と絡めて課題を考察する。５．児童・家庭福祉の支援活動における視点と原理・原則　児童・家庭福祉の専門職として、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。当事者参画の視点とその具現化について学ぶ。6.児童･家庭福祉の担い手と子育ての社会化　児童・家庭福祉の専門職による支援にとどまらず、子どもが育つこと・子どもを育てることに関するソーシャル・サポートやネットワークについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル･インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子育て支援の意義と課題、社会的養護のあり方、虐待防止のための取組みなど具体的に関心のあるテーマで検討を深める。
■学習の到達目標	児童・家庭福祉の諸課題を考えるための基本的な視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論、基礎知識と方策を理解することを目指す。児童･家庭福祉の歴史的変遷を、社会的背景・社会問題との関連させながら理解を深め、子どもとその家庭の生活の困難や生活課題について考察する力を涵養する。子どもの権利について学び、現代社会における子どもとその家庭への支援のあり方について検討できるようになる。

■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	貧困に対する支援				単位	2.0
担当者	加美　嘉史			シラバスグループ	TW5717	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門貧困論　―ささえあう・たすけあう社会をつくるために―	金子充	明石書店	[ISBN]9784750345475

■授業の概要	１．貧困・低所得・生活困窮の理解２．貧困の概念と定義３．保守化する貧困観４．スティグマ・不自由・不平等５．公的扶助の思想・理念６．貧困対策と福祉国家の統治７．社会保障のなかの公的扶助８．生活保護の目的と原理９．生活保護の内容・方法・水準１０．生活保護行政におけるケアとコントロール１１．公的扶助の周辺１２．市民・民間の支援と当事者参加１３．貧困対策の国際的動向と展望
■学習の要点	１．現代社会における公的扶助制度の理念と意義を理解する。２．「貧困」とは何かについて理解する。３．生活保護制度の仕組みと最近の動向を理解する。４．生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその関連のあり方を理解する。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進展と理解度を試験で測る。・テキストに示された参考文献にもできる限り目を通すよう努めること。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた項目についての学習の進展と理解度を試験で測る。

授業科目	保健医療と福祉				単位	2.0
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	TW5718	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
医療福祉論	村上 武敏	明石書店	[ISBN]9784750350950

■授業の概要	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要とされてきたのか、それを歴史的かつ社会構造的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活に何をもたらすのか。こうした疾病と貧困の悪循環の社会構造的な理解を踏まえて、医療福祉の社会的な使命を本質的に理解する必要がある。　そして、1990 年代以降の医療制度改革により、医療ソーシャルワーカーの業務は退院援助に大きく傾斜してきた。退院援助とは何かを社会科学的に明らかにするとともに、現代にける医療福祉の対象論と方法論について模索していきたい。
■学習の要点	・健康の社会的決定要因（SDH）と「疾病と貧困の悪循環」の本質を理解する。・医療保険制度と診療報酬制度の概要について理解する。・医療ソーシャルワークの発生と歴史について理解する。・医療ソーシャルワーカーの業務と保健医療機関における役割について理解する。・医療機関における各専門職の役割とチーム医療のあり方について理解する。・医療福祉の対象と方法について理解する。
■学習の到達目標	・疾病や生活問題を社会的にとらえられる。・医療福祉とは何かを歴史的かつ社会構造的に理解する。・ソーシャルワークの方法について新たな視点を獲得する。
■成績評価の基準	・設問に適切に答えていること・事実に基づき理論的であること・否定にとどまらず建設的であること・自らの考えが述べられていること・参考・引用文献が明示されていること・正しい文章で表記されていること

授業科目	権利擁護を支える法制度				単位	2.0
担当者	楳原　直美			シラバスグループ	TW5719	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座〔第4版〕；19）	社会福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	[ISBN]9784805839362

■授業の概要	社会福祉士や精神保健福祉士は利用者支援にあたり、権利擁護実践の担い手として活動を行う。認知症や障がいがあるために、意思表示が十分にできない人々の中には、周囲から理解されず、差別や排除、虐待を受け、あたりまえの日常生活をおくれない人がいる。しかしそのような状況は家庭内や地域の中に埋もれ見えにくい。残念ながら福祉施設内でも起こっている。私たち支援者は鋭い人権意識を持たないと、そのような環境にある人を見つけることができない。　この科目で学ぶ憲法や民法、行政法は直接の支援とは遠く感じ、敬遠しがちであるが、何が権利侵害なのか、人権とは何か、権利擁護とは何かを学ぶために必要な知識となる。そしてそのような権利侵害に陥りやすい人のための制度として、成年後見制度や日常生活自立支援制度があることを学習し、活用できるようにする。また将来、社会福祉士や精神保健福祉士として自身が専門職後見人となることも視野に入れて学習をすすめる。
■学習の要点	1　ソーシャルワークの活動と法(日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む)との関わりについて理解する。2　ソーシャルワークの活動において必要となる成年後見制度について理解する。3　成年後見制度や日常生活自立支援事業等の実際について理解する。4　社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②冒頭で解答の方針を数行で書いてから論述すること。箇条書きを避け、文章で論理を示すこと。
■成績評価の基準	文章力および論理構成を評価基準とする。

授業科目	刑事司法と福祉				単位	2.0
担当者	水藤　昌彦			シラバスグループ	TW5720	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　10　刑事司法と福祉	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882405

■授業の概要	本科目では「刑事司法と福祉」について学習します。刑事司法が関与する犯罪行為者と被害者等に対して、なぜ福祉による支援が必要なのかについて理解することを目指します。司法と福祉の連携に焦点をあてながら、犯罪行為・非行に至った人への対応や支援、犯罪被害者等への支援について考えます。
■学習の要点	学習にあたっては、指定テキストを初めから終わりまで順序に従って読んでください。テキストは 15 章で構成されており、順に読み進めることで、刑事司法領域におけるソーシャルワークの基本を理解するために必要な知識を段階的に身につけられるようになっています。各章のトビラには、その章全体を通じての学びのねらいが書かれており、さらに各節の冒頭には「学習のポイント」として、その節が何を目的として書かれているのかが示されています。これらの箇所を確認してから、本文を読んでみましょう。指定テキストを精読することで、刑事司法と福祉という科目を学ぶ意義、現代社会における犯罪と刑罰、犯罪原因論と対策、刑事・少年司法手続と処遇、多様なニーズを有する犯罪行為者、犯罪被害者等支援、コミュニティと犯罪の各項目について学びます。特に、犯罪行為者、犯罪被害者等支援にあたって、司法と福祉の連携が求められる理由について考察してみましょう。この科目には、社会福祉領域の他の科目との関連性が必ずしも高くない項目が多く含まれています。そのため、学習が難しく感じるかもしれません。その理由と学習にあたっての留意点は、テキストの冒頭に掲載されている「はじめに」で説明されています。まず、ここを読んでみてください。【法律の検索方法】テキストを読んでいて刑事司法制度に関する疑問が出てきたら、それに関連する法律の内容を確認してみましょう。参照すべき法律の名前は、本文中に示されています。政府の運営する「e-Gov 法令検索」サイトでは、その時点での最新の法令を検索することができます。アドレスは以下の通りです。{https://elaws.e-gov.go.jp}自分が探している法律を見つけたら、疑問に思っている内容に関連する単語を本文検索してみましょう。
■学習の到達目標	（1）刑事司法が関与した人びと（加害行為者と被害者等）に、なぜ、福祉専門職が関わることが求められるのかを理解すること。（2）現代社会における犯罪・非行、および犯罪・非行現象に対応する刑事司法制度の概要について理解すること。（3）刑事司法において用いられる基礎的な概念について理解すること。（4）福祉専門職として、福祉的ニーズをもつ犯罪行為者、および犯罪被害者等への支援・対応に必要とされる基礎的な知識を習得すること。
■成績評価の基準	【論述内容】（配点比率 70%）（1）問題について、指定テキストで解説されている内容に関する基本的事項への理解を示しているかどうか。（2）制度や状況の説明だけではなく、自分の意見を述べているかどうか。自らの意見、建設的批判などの受講者自らの視点からの論

	述が含まれている場合は高く評価する。【論旨の展開】（配点比率 30%）（１）文頭に導入、文末に結論が述べられているかどうか。（２）答案全体の構成が整い、論旨が適切に展開されているかどうか。（３）「パラグラフライティング」の基本が守られているかどうか

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ				単位	2.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5724	
開講年度	2023	履修方法	T・S	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワーク演習［共通科目］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集	中央法規	[ISBN]9784805882436

■授業の概要	①ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を習得する。②社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範の理解と倫理的な判断能力を養う。③支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援についての実践的に理解する。④ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。
■学習の要点	第 1 章　ソーシャルワーク演習の意義と目的第 2 章　人と環境の相互作用第 3 章　ソーシャルワークの対象、機能と役割第 4 章　コミュニケーション技術と面接技術第 5 章　ソーシャルワークの展開過程と関連技法第 6 章　ソーシャルワーク実習後の演習①　個人や集団に対する具体的な事例を活用して、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する。②　虐待、ひきこもり、貧困、その他の危機的状態にある事例等を題材として、ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアのソーシャルワークの場面と過程を実践的に理解する。③　ソーシャルワークの事例検討・事例研究の方法について理解する。
■学習の到達目標	①　個人や集団に対する具体的な事例を活用して、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援の実践について説明できる②　ケースの発見、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケアのソーシャルワークの場面とプロセスを説明できる④　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて自分の言葉で説明できる⑤　ソーシャルワークの事例検討、事例研究の方法について説明できる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（1）自分の考えが加えられていること（2）テキスト全体の学習がなされていること。（3）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（4）リポート設題での学びが活かされていること。また、リポートで指摘されたことが踏まえていること。（5）1000 字～1200 字程度にまとめられていること

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ				単位	2.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5725	
開講年度	2023	履修方法	T・S	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワーク演習［社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集	中央法規	[ISBN]9784805882504

■授業の概要	①地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みについての実践的に理解する②実習を通じて体験した事例について、事例検討や事例研究を実際に行い、その意義や方法を具体的に理解する③実践の質の向上を図るため、スーパービジョンについて体験的に理解する
■学習の要点	第 1 章　ソーシャルワーク演習の意義と目的第 2 章　ソーシャルワークの展開過程と社会福祉士のアクション（活動）第 3 章　実践的にソーシャルワークを学ぶ①　個人や集団に対する具体的な事例を活用して、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得する　・認知症、終末期ケア、災害時、その他の危機状態にある事例②　ソーシャルワークの場面や過程に関するアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションについて学ぶ③　地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、次の項目について学ぶ　・地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価④　ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な知識及び技術として習得する　・事例研究、事例検討　・スーパービジョン
■学習の到達目標	①　個人や集団に対する具体的な事例を活用して、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について説明できる。②　ソーシャルワークの場面や過程に関するアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションについて説明できる。③　地域福祉の基盤整備と開発に係る事例から、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域アセスメント、組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価について説
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）自分の考えが加えられていること（２）テキスト全体の学習がなされていること。（３）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（４）リポート設題での学びが活かされていること。また、リポートで指摘されたことが踏まえてあること。（５）1200 字～1600 字程度にまとめられていること

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ				単位	2.0
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	TW5728	
開講年度	2023	履修方法	T・S	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新 社会福祉士養成講座8『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習[社会専門]』	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 編集	中央法規	[ISBN]9784805882511

■授業の概要	この科目のねらいはソーシャルワーク実習を通して、援助者としての姿勢、社会福祉援助の専門的知識、援助技術および実習領域の基礎知識を深めることを目的とする。実習とは、人と人とが直接関わる実践の場であることを念頭に置き、それが何を意味するのかを考え臨まなければならない。学習過程において、ソーシャルワーク実習での経験に基づいて、実習課題及び学習課題を明らかにすることを目的としている。
■学習の要点	社会福祉の実践はヒューマンサービスであるということを念頭に置き、以下の諸点について考え、ソーシャルワーク実習における実習課題や学習課題を明確にできるよう学習を進めることを求める。1.社会福祉施設・機関の果たす役割について理解すること。2.社会福祉士における価値と倫理の重要性について理解すること。3.社会福祉実践における専門職種の連携（チームアプローチ）の意義について理解すること。4.実践での記録の目的と意義について理解すること。5.社会福祉施設・機関での当事者及び利用者との関わりにおいて留意すべき点について理解すること。6.社会福祉施設・機関における利用者及び関係者とのコミュニケーションの重要性について理解すること。
■学習の到達目標	1.社会福祉施設・機関の果たす役割について理解する。2.社会福祉士における価値と倫理の重要性について理解するこ 3.社会福祉実践における専門職種の連携（チームアプローチ）の意義について理解する。4.実践での記録の目的と意義について理解する。5.社会福祉施設・機関での当事者及び利用者との関わりにおいて留意すべき点について理解する。6.社会福祉施設・機関における利用者及び関係者とのコミュニケーションの重要性について理解する。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即したテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測り、その到達度に即して成績評価する。・試験解答については、1200 字～1600 字程度で作成すること。・問いに対して、解答するに必要なキーワードが含まれているかどうかを評価する。・問いを正しく理解し、要点を押さえ、論理的に解答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	精神障害リハビリテーション論				単位	2.0
担当者	髙木　健志			シラバスグループ	TW5756	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新精神保健福祉士養成講座　３　精神障害リハビリテーション論	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882542

■授業の概要	精神保健福祉士の行う相談援助活動に必要な、精神障害リハビリテーションの概念、プログラム及び方法について、医療機関で行う、または医学的リハビリテーションに限定しないものとして理解する。
■学習の要点	①精神障害リハビリテーションの概念とプロセス及び精神保健福祉士の役割について理解し、援助場面で活用できる。②精神障害リハビリテーションプログラムの知識を援助場面で活用できる。③精神障害リハビリテーションの実施機関と精神障害リハビリテーションプログラムの関連について理解し、援助場面で活用できる。
■学習の到達目標	学習では、精神障害リハビリテーションの理念・定義・基本原則、精神障害リハビリテーションの構成及び展開、精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関、という３点については十分な学習を行ってください。
■成績評価の基準	テキスト履修と、科目認定試験によって評価し、６０点を超える場合に単位認定となります。

授業科目	精神保健福祉制度論				単位	2.0
担当者	山本　耕平			シラバスグループ	TW5757	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
障害ピアサポート―多様な障害領域の歴史と今後の展望	岩崎香編集	中央法規出版	[ISBN]9784805858172

■授業の概要	精神保健福祉・医療の法・制度に流れる哲学について学習するとともに，今後求められる法・制度の課題について学ぶ
■学習の要点	精神障害者福祉の法・制度やハンセン病やエイズ等の政策を流れる棄民思想や，保安処分要素の強い法・制度がもつ性格を深く学び，精神障害者の権利を護る法・制度・政策・実践について学ぶ.
■学習の到達目標	精神保健福祉の流れを概観するなかで，そこに流れる法・制度の哲学を理解するとともに，人権の護り手である精神科ソーシャルワーカーとしての使命や役割を学ぶ
■成績評価の基準	精神障害者福祉の法・制度やハンセン病やエイズ等の政策を流れる棄民思想や，保安処分要素の強い法・制度がもつ性格を深く学び，精神障害者の権利を護る法・制度・政策・実践について学ぶことができているかレポートから判断する。

授業科目	精神保健福祉援助技術演習				単位	2.0
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	TW5758	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 精神専門	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882580

■授業の概要	ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 なお、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することが求められる。
■学習の要点	①ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解する。②ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。③ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を実践的に理解する。
■学習の到達目標	①ソーシャルワークの価値規範と倫理について説明することができる。②ソーシャルワーク実践で求められるコミュニケーションを実演することができる。③ソーシャルワークの展開過程において用いられる知識と技術を説明することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門） I				単位	2.0
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	TW5759	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 精神専門	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882580

■授業の概要	相談援助に係る基礎的な知識と技術に関する実技を用いながら学びを深め，個別指導ならびに集団指導により，地域福祉の基盤整備に係る事例の活用と，その開発に係る具体的な相談事例について実技指導を踏まえながら多様な援助技術の方法を体系的に学ぶ。 なお、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することが求められる。
■学習の要点	① 精神障害者や精神保健の課題のある人の状況や困難、希望を理解する。② 精神保健福祉士に求められる専門性（知識、技術、価値）の基礎を理解する。③ 実践現場におけるサービス等の諸制度利用の要件及び利用手続きを理解する。
■学習の到達目標	① 精神障害者や精神保健の課題のある人の状況や困難、希望 を説明することができる。② 精神保健福祉士に求められる 専門性（知識、 技術 、価値）の基礎を説明することができる。③ 実践現場におけるサービス等の諸制度利用の要件及び利用手続きを理解し、活用することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

授業科目	精神保健福祉援助技術演習（専門）Ⅱ				単位	2.0
担当者	泉　洋一			シラバスグループ	TW5760	
開講年度	2023	履修方法	T・S	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新 精神保健福祉士養成講座 7 ソーシャルワーク演習 精神専門	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882580

■授業の概要	精神保健福祉援助活動の具体的事例から、関係機関やそこで働く専門職を理解し，課題解決に向けた多職種連携や関係機関の連携、精神保健福祉士の行うコーディネイトを学び、実践能力を涵養する。なお、すべての事例において、精神保健福祉士に共通する原理として「社会的復権と権利擁護」「自己決定」「当事者主体」「社会正義」「ごく当たり前の生活」を実践的に考察することが求められる。
■学習の要点	①精神障害者や精神保健の課題のある人のための関係機関やそこで働く職種を理解する。②関係機関や多職種と連携し、コーディネイト役を理解する。
■学習の到達目標	①精神障害者や精神保健の課題のある人のための関係機関やそこで働く職種を説明することができる。②関係機関や多職種と連携し、コーディネイト役を担うことができる。
■成績評価の基準	科目最終試験を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

授業科目	社会福祉原論				単位	2.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW8151	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉原論	岡崎祐司編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784907177898

■授業の概要	この科目は、社会科学的視点から社会福祉の対象、目的、主体、社会的機能、分野などを理解することに重点をおいています。社会福祉を歴史的産物としてとらえ、社会との関わりで社会福祉の本質をとらえるということです。人権や発達が保障される社会をめざす人類の歩みのなかで、社会福祉の政策・制度はどうあるべきか、社会福祉実践者はどのような働きや役割を期待されているのかを考えることが大きなねらいです。そのため、テキストでは資本主義論、国家論、社会問題論を重視しています。それをふまえて社会福祉の対象、主体、目的などの基礎理論と社会福祉の歴史的歩みをつかんでいきます。さらに社会福祉システムのトータルな理解と、社会福祉改革の論点を、その基礎・背景にある現代社会の矛盾と関わらせて学びます。いわゆる制度・実践の解説本ではなく社会科学的方法論にもとづく社会福祉理論を展開しているので、理解のためには繰り返し読む必要があるでしょう。社会福祉の最新動向解説のためのテキストではないので、それについては雑誌、インターネット等で各自フォローをこころがけておいていただきたい。あくまで原理論科目として社会福祉の基礎理論を深めます。
■学習の要点	1）福祉の対象である生活問題を社会問題論の観点から考える。資本主義の矛盾と社会問題の生成、社会問題と個人、社会問題と関わらせた社会福祉の対象設定などについて。（2）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について考える。人権の思想とその歴史的意義、人権保障と社会福祉の目的、社会福祉の権利性、発達保障について。（3）社会福祉サービスの供給原則のうち、「権利性」と「普遍性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。（4）社会福祉サービスの供給原則のうち、「総合性」と「地域性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。
■学習の到達目標	1．学習の到達目標（1）基本的なこととして、社会との関わり、社会問題との関わりで社会福祉の基礎をつかめるようになること。（2）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について、理解すること。とくに、人権保障との関わりからとらえるようになること。（3）生活問題を地域、家族、生活様式の変化の視点からとらえるようになること。（4）社会福祉の政策主体とはなにか、その役割と責任はどのようなものか、どのような社会的勢力に影響されているのかについて理解できるようになること。（5）「権利性」、「普遍性」、「
■成績評価の基準	学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できていること。試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成すること。解答は問題に対する的確な答えで作成すること。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄について記載することは減点の対象となります。情緒的ではなく、論理的に展開できていること、引用註の付け方等の作文上のルールが守られていること、自己の見解が述べられていることが必要です。

授業科目	老人福祉論				単位	2.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW8152	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	わが国では、2025 年に団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者に到達する。また、今後さらなる高齢化が進み、医療・介護・福祉に関するニーズが高まると予測される。　そこで、本科目では老人福祉に関する基本的理解を深め、高齢社会における明るい長寿社会の実現に向けて、私たちが直面している諸問題について学ぶ。さらに誰もが豊かな老後を送るための制度・政策について学ぶ。
■学習の要点	（１）高齢社会の進展と高齢者の生活　　わが国における人口高齢化の特徴とその要因、そして今後の課題について理解する。（２）深刻化する要介護高齢者の介護　　要介護高齢者の増加とその要因について理解する。そして、要介護高齢者を介護する家族介護の現状について理解する。（３）高齢者の介護と福祉に関する政策のあゆみ　　高齢者に関する介護と福祉の政策は、どのような変遷を経てきたのかを理解する。（４）高齢者ケアサービス　　特別養護老人ホームにおける介護のあゆみ、そして新たな高齢者介護の取り組みについて理解する。（５）認知症の基本的理解　　認知症の定義・原因疾患、認知症高齢者の障害特性について理解する。また、認知症ケアについても理解する。（６）高齢者福祉に関する法律　　老人福祉法・介護保険法・高齢者虐待防止法の概要について理解する。（７）介護保険サービス　　介護保険制度下にある居宅サービス・施設サービスについて理解する。（８）高齢者の人権を守る法制度　　高齢者の権利擁護制度である成年後見制度・福祉サービス利用援助事業について理解する。
■学習の到達目標	（１）科目最終試験はテキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。（２）「学習の要点」を参照して、テキスト全体の学習をしてください。（３）出題の要点を正しく理解し述べられているかによって成績評価をする。
■成績評価の基準	福祉関連法・制度および、政策動向などを把握しながら述べているか。また、テキストを中心としながらキーワードなどを押さえ、理解できているかなど、総合的に判断する。

授業科目	児童福祉論				単位	2.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5553	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子ども家庭福祉　子ども・家族・社会をどうとらえるか	垣内国光･岩田美香･板倉香子	生活書院	[ISBN]9784865001211

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）に関する基礎知識を学ぶとともに、支援の実際と課題について理解を深める。子どもの生活と成長・発達を支援する児童福祉について、子どもの育つ環境（家庭・学校・地域社会等）との関わりを視野に入れて学ぶ。子どもとその家庭を支援するための基本的な視点、子どもの権利擁護に関する基本的な視座を身につける。児童福祉の歴史的な展開と、現代社会における児童福祉の法制度・施策の動向をふまえ、現代における子どもとその養育者への支援について考察を深める。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童福祉（子ども家庭福祉）における基本的視点　関連法規の内容を踏まえ、児童福祉の歴史的展開にみる児童観の変遷と、児童の権利擁護に関する基本的視角を得る。２．現代社会における子どもを取り巻く状況・背景と子ども家庭の生活課題、ニーズ　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会について理解を深め、子ども家庭のおかれている状況、生活上のニーズを理解する。３．児童福祉（子ども家庭福祉）に関する法制度と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。関連する施設・機関の内容、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。４．児童福祉（子ども家庭福祉）の担い手　専門職の特性と職業倫理について学ぶ。５．子どもの支援の実際と課題　家庭及び地域社会で生活する子どもへの支援の実際について理解し、連携の意義と方法を学ぶ。支援のあり方、課題についても検討する。６．現代社会における子どもの生活困難、生活課題と支援の実際　子どもの貧困、子どもへの虐待等々、子どもの権利擁護の観点から、子どもが育ち、子どもを育てる営みを支える児童福祉の事業や取組みの実際と課題について考察する。
■学習の到達目標	児童福祉(子ども家庭福祉）に関する基礎知識と支援のあり方について説明できる。子どもの生活と成長・発達を支援する児童福祉について、子どもの育つ環境（家庭・学校・地域社会等）との関わりにおいて考察できる。子どもとその家庭を支援するための基本的な視点、子どもの権利擁護に関する基本的な視座を身につける。児童福祉の歴史的な展開と、現代社会における児童福祉の法制度・施策の動向をふまえ、現代における子どもとその養育者への支援について自身の考えを述べることができる。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	障害者福祉論				単位	2.0
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	TW8154	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN] 9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を把握し、障害者問題に関する構造的理解を深める。また、障害者問題の解決の指針を示す障害者福祉理念について学習する。さらに、障害者の活動や参加の制約を克服するための実践的な方策を明らかにするためにも、「障害」概念の構造的な把握についての理解を深める。以上の基礎知識を習得したうえで、現行の障害者福祉制度である障害者自立支援法（総合支援法）についての現状と課題を把握する。加えて、人間発達のためには「生活の 3 拠点」を分離して確立する必要性を理解する。また、障害者やその家族の権利保障を目指して展開されてきた社会福祉実践についても考察を深める。
■学習の要点	テキストに学び、次の項目について学習を深めること。（1）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、障害者問題の現れを労働と生活を中心に学習する。（2）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、リハビリテーションについて学習する。また、障害者の人権確立に向けた国際的な動向について、国連の提唱による「国際障害者年」とそれ以降の動き、（～「障害者権利条約」）について学習する。（3）障害とは何か、WHO の「国際生活機能分類」（ICF）によって理解し、障害の構造的把握の意義と課題について理解する。（4）日本における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー政策ー運動の側面から理解する。（5）日本の障害者福祉政策の展開を障害者運動との関わりにおいて理解する。（6）障害者自立支援法（総合支援法）の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者との関連において理解する。（7）現在展開されている障害者福祉実践について、テキストに紹介されている事例も参考に現状と課題を理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。その上で、独自の説得的な意見が記述できるようになること。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。

授業科目	地域福祉論１				単位	2.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW8155	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会福祉領域における地方分権化の進行に伴い、地域福祉のあり方が問われるようになってきている。ここ数年の動向の中では、新しい多様な活動・実践内容や方法が見受けられるようになり、あらためて地域福祉とは何かが問われているといえるであろう。とりわけ、1990年の社会福祉関係八法改正から2000年の社会福祉事業法改正までの政策動向は、地域福祉のあり方に大きな影響を与えている。本科目においては、こうした歴史的・政策的・実践的背景を把握した上で、その実践面の基盤となる基本的理念・概念、視角を学ぶことを重視しながら、これからの地域福祉の展開方法を考える力を養うことを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の基礎的概念・理念の変遷とその内容について理解する。地域福祉における基礎的理論の動向を、その背景となる時代状況とともに理解する。２．コミュニティとは何かについて基本的概念を理解する。また、コミュニティ崩壊の進む中での地域福祉の役割について理解する。３．地域福祉の対象把握の視角を理解する。また、社会福祉における地方分権化の動向を踏まえた上で地域福祉計画のあり方について理解する。４．地域福祉における政策、制度、施設、在宅、環境、マンパワー、住民参加等の実体について、基礎的概念を理解するとともに、具体的な地域福祉実践に引き付けて理解する。５．地域福祉実践における社会福祉協議会の機能とその役割について理解する。社会福祉協議会の変遷過程とともに、これからの地域福祉実践における役割について理解する。６．地域福祉政策・地域福祉事業における地方自治体の役割と住民の関連性について理解する。近年の社会福祉を取り巻く状況の変化と地方自治体のあり方、地域住民の動向について理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展

	開できている。

授業科目	地理学特講１				単位	2.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5214	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
地形と日本人　私たちはどこに暮らしてきたか	金田章裕・著	日本経済新聞出版社	[ISBN]9784532264383

■授業の概要	地理学は人文・社会から自然にいたる多様な事象（物質を含む）を、しかも過去から現在に至るまでの事象を広く扱う総合の学問です。地表面に見られる様々な事象はそれを対象とする専門的学問分野がそれぞれ成立していますが、個別の知見を独立して追求するだけでは把握することのできない側面も存在します。地理学には、こうした個別の要素を総合してその変遷を追いかける視点があり、「景観史」の議論もその一つです。この講義ではとりわけ自然地形を代表とする自然景観の諸要素がどのように変遷し、また人間の営みやその結果である文化景観に影響を与えてきたのかを学びます。それにより、地表面の景観中に見られる諸要素を自然・人文の垣根をこえて総合的に捉える地理学的視点の涵養を目指します。
■学習の要点	①　　日本の自然景観を構成する諸要素を正しく理解する。②　　自然景観と人間の相互作用により形成される文化景観の諸要素を理解することができる。③　　自然景観と文化景観の諸要素を総合的に捉える地理学の理論的議論への理解を深める。
■学習の到達目標	①　　日本の自然地形に見られる諸要素を正確に説明できる。②　　日本の自然地形に対応した文化景観の特徴を説明できる。③　　景観を総合的に理解し説明する地理学の理論的議論を説明できる。
■成績評価の基準	①　学習の要点に対応する解答がどこまでできているかを、成績評価の基本的指標とします。　②　学術的な用語の意味をきちんと理解しているか、学術的用語を適切に使用できているかを学習の進度と理解をはかる判断材料の一つに加えます。　③　問題の主旨を正確に理解していること。　④　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　⑤　記述が論理的に構成されていること。

授業科目	考古学特講１				単位	2.0
担当者	門田　誠一			シラバスグループ	TX5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
海からみた日本の古代	門田誠一	吉川弘文館	[ISBN]9784642071291

■授業の概要	日本と朝鮮半島･中国その他の外国の遺跡や遺物との比較によって、日本列島外の視点から、日本の古代史を構築していく方法を示します。考古学の目的や資料と方法を把握し、その後、時代や事象に対する考古学的な知見と文献史料などとの相関によって歴史を構築し、叙述していく方法を修得していくことを目的としています。大学におけるやや専門的な内容の考古学の学習をめざしています。
■学習の要点	考古学資料を通じて、日本およびその他の地域の時代区分に親しみ、日本と外国の考古資料の比較検討によって歴史を叙述する方法を示す。これによって考古資料による文献史料の相対的かつ批判的に理解する観点から、テキストを読み、歴史研究における考古資料の具体的な活用方法を知ることを目的としています。
■学習の到達目標	考古資料を通じて、日本およびその他の地域の文化に親しみ、考古学・歴史学の方法に習熟していただくことを一義的な目的としています。
■成績評価の基準	考古資料や歴史史料は、地域や時代についての明瞭な記述がないと歴史資料とはなりません。そのため、下記の記述があるかを成績評価の基準とします。１いつ・どこで・なにが・どうして・どのような意味があるのか、という基本的事項が記されているか。２１を踏まえたうえで、とりあげたテキストの章や部分や遺跡に関する歴史的な説明があるか。以上を備えた記述は 80 点以上とします。

授業科目	地図情報学１				単位	2.0
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	TX5220	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
地図からの発想	中村和郎著	古今書院	[ISBN]9784772251020

■授業の概要	現代社会では，様々な情報をやり取りするために地図が盛んに利用されています。地図の表現は、対象や空間の大きさに応じて、多様な表現方法があり，目的に応じて様々な工夫が取り入れられています。この講義では、教科書を通じて様々な地図に触れ，情報を整理分析する方法を学習します。
■学習の要点	現代社会の情報は多岐多様にわたっており，諸現象が複雑に結びついています。様々な情報を自身で理解し，第三者に伝える場合，その目的に応じてテーマを設定し，情報を整理・分析して分かりやすく示すことが効果的です。テキスト学習を通じて，地図の多様な表現方法，実践的な地図の読み解き方，第三者への説明方法などを学習します
■学習の到達目標	（1）情報を入手する方法を学習する。（2）情報を整理・分析する方法を学習する。（3）情報を地図で表現する方法を学習する。
■成績評価の基準	論述問題 1～6 の理解度，期末レポートにおける地図や図表の使い方，レポートにおける地域調査に対する姿勢や内容を総合的に評価します

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	宗教学				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。
■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。
■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。
■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	博物館学Ⅱ				単位	1.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX0712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館に関するいろいろな問題のなかで、学芸員として必要とされる資料の収集、整理、保存や展示および研究と普及等に対しての実践的な知識や方法について学習する。
■学習の要点	博物館資料をめぐる具体的な知識および実際的な整理や作業の方法を把握してください。設題解答の端緒はテキスト『博物館実習マニュアル』の小見出し単位でさがすと、該当部分が必ずありますので、テキストを精読することによって、解答は自ずと発見できます。　この科目ではテキスト『博物館実習マニュアル』を主体的に学習し、テキスト『新時代の博物館学』は補助的に利用してください。
■学習の到達目標	リポートを含めて、博物館資料に関する知識と技能について学習し、資料の扱い方にふれることが目標です。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	教育学概論				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS5747	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「学校教育と社会」ノート―教育社会学への誘い(第3版)	山内乾史著	学文社	[ISBN]9784762029325

■授業の概要	グローバル化する社会の中で、日本の教育はどうあるべきかを考察する。日本の教育を客観的に見る視野が求められる。
■学習の要点	教育の本質は何かを、現在の学校に焦点をあてて考える。諸外国との比較の中で、日本の教育問題を客観的にみる。　・学校教育と社会との関係について考える。　・高学歴者はなぜ尊重されたのかについて考える。　・エリート教育、才能教育について考える。　・日本の授業料政策・奨学金政策の特徴について考える。　・日本の大学院修了者の就職問題について考える。　・日本の大学生文化の特徴について考える。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。
■成績評価の基準	自分自身の教育論をはっきりと確立できているかが成績評価の基準になる。テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	博物館資料論Ⅰ				単位	1.0
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	TX5525	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館に関するいろいろな問題のなかで、学芸員として必要とされる資料の収集、整理、保存や展示および研究と普及等に対しての実践的な知識や方法について学習する。
■学習の要点	博物館資料をめぐる具体的な知識および実際的な整理や作業の方法を把握してください。解答の端緒はテキストをさがすと、該当部分がありますので、テキストを精読することによって、解答は自ずと発見できます。
■学習の到達目標	リポートを含めて、博物館資料に関する知識と技能について学習することが目標です。最終試験の問題についてはテキスト「第３章　博物館資料論」に設問と対応する節がありますので参照してください。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館資料保存論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館資料を保存の観点から捉え、博物館における資料保存の意味と意義を知り、資料の保存および修理・修復などの実際と展示および収蔵の関係を理解し、博物館における資料保存の問題の基本的理解を養う。
■学習の要点	博物館資料保存について、基本的理念や法的環境を学んだ後、資料の保存や修復方法、資料の保存環境、生物被害などの資料の劣化などの資料保存に関する具体的な方法を理解し、最後に資料保存をとりまく社会的環境について理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館展示論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5528	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館の基本的な機能である展示について、基本的理念と具体的な方法を把握した後、実際の展示の事例を理解することによって、展示を通して博物館の活動に対する基本的な知見を理解することを目的とする。
■学習の要点	展示は博物館の基本的機能であり、展示を知ることは博物館の活動の基幹を理解することにつながる。よって本科目では博物館における展示についての概念を示し、展示の歴史を通覧したのち、展示に関する実践的な方法を学ぶ。さらに展示環境と設備や展示解説などの展示に関する基本的な事項の理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館情報・メディア論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館情報・メディア運用の方法論には、博物館学のみならず、教育学や著作権などの法律などの幅広い分野の議論が関連している。本科目では、博物館における情報伝達過程とメディアの役割について、これらの分野のエッセンスを紹介し、博物館情報・メディア教育の実践に必要な知識を身に付けることを目的とする。
■学習の要点	博物館における情報・メディアの発展は、広い領野における「教育」に多大な影響を及ぼしてきた。情報機器（伝達手段＝メディア）の進展は、そうした影響をさらに大きくしている。しかし、その一方で博物館における情報・メディアの運用とは何か、という問題が複雑化したことも事実である。本科目では、博物館における情報・メディアの展開を紹介しつつ、博物館における情報・メディアのあり方や本質について学ぶ。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館教育論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館で行う教育は学校とは対象も方法的にも異なる。このような博物館における教育活動について、歴史と背景、学芸員の教育活動、具体的な方法、博物館教育の実例を学び、博物館教育の現状を理解し、博物館固有の機能を背景とした教育について基礎的理解を形成することを目的とする。
■学習の要点	博物館の主要な機能として位置づけられる教育について、歴史をふまえつつ、実際の学芸員の活動と具体的に方法を学ぶ。そのために近年、課題となっている博物館と学校の連携、ワークショップ・ハンズ・オン・アウトリーチ等の具体的方法について学習し、実際的な教育の事例によって博物館における教育に対する理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館概論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館について、歴史、種類、機能、目的などの基本的な論点を整理し、理解を深めながら、現代そして将来において求められるべき博物館のあり方を考える。
■学習の要点	科目最終試験の各問題はそれぞれテキスト『新時代の博物館学』で、各章を構成する節に含まれる項目として整理されています。問題はそのような項を確実に学習すれば解答できるように作成してありますので、対象となる項を熟読して、試験に備えてください。　要点について、テキストから抽出して、学習することが重要です。
■学習の到達目標	どの問題についても、テキストを読み、その論旨や要件を具体的で明瞭にまとめることが、解答を書くためのもっとも大切な点です。ですから、特にそれぞれを説明する際に必須となる用語を欠かさないように記述してください。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館経営論				単位	2.0
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	TX5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館の経営とは一般企業のように、たんに経済的利益を追及するのではなく、博物館の目的と機能を十全に動かしていくことを指しており、むしろ博物館の運営といった方がよい。現代の博物館の環境は，以前とは異なり大きく変化してきた。この大きな変化が何によるものかを考えていくとともに，博物館や学芸員はどのような働きをすべきかを模索することが、本科目の目的とするところである。
■学習の要点	博物館経営に関する基本的な知識についての理解を図るためにテキストでは意義や方法･職員と組織・制度・施設と管理・社会連携の四つの観点から説明しているので、これらを核として学習を行う。
■学習の到達目標	（１）博物館経営に関する基本的な知識についての理解を深める。（２）博物館経営の意義や方法･職員と組織･制度･施設と管理･社会連携の四つの観点から説明できるようになる。
■成績評価の基準	（１）誤字脱字の有無（２）論旨が明瞭か否か（３）問題の主旨にそいながら回答しているか。（４）要点を過不足なくまとめているか。（５）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	民俗学特講１				単位	2.0
担当者	大野　啓			シラバスグループ	TX5234	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・民俗学を学ぶ　―現代を知るために	八木透・編著	昭和堂	[ISBN]9784812212561

■授業の概要	現在、民俗学は新たな方向性を模索している段階である。従来、民俗学は伝統的とされている文化（社会）的な要素を再構成することによって民俗誌を構築したり、議論を構築したりしていたのである。しかし、これでは研究者の恣意によって伝統的な文化（社会）が創造されてしまう危険性をともなっていたのである。したがって、具体的な事実を積み上げていくという民俗学の基本的な姿勢に立ち返って文化（社会）を検討することが必要となっているのである。そこで、履修生はテキストの中でどのように事例が構築されているかについて検討していき、自らが文化（社会）に対してどのような視座を有しているのかについて考えていくことが必要である。
■学習の要点	学習に際しては、テキストの各論がどのように事例を構築しているのかについて注意すること。具体的な事例をどのような枠組みで研究史上に位置付けているのかについて留意しながらテキストを読み込むことが必要である。当然、テキストの巻末に上げられている参考文献一覧のなかの論文に目を通すことが求められる。なお、本科目と民俗学は同じテキストを使用しているが、本科目の履修生は、民俗学において必要な知識を得たことを前提とする。さらに、以下の点についての学習を行なうこと。　・村落のあり方がどのように生業と関係しているのかについて　・仏教民俗が村落社会の中にどのように包含されているのかについて　・民俗学において「家」は、どの様なものとして捉えられてきたのか　・現在の墓制研究が,どのような問題をはらんでいるのかについて　・民俗学の中でジェンダーの問題がどの様に取り上げられているのかについて　・儀礼や慣習が、文化財化することによって、それらに対して人々がどのように意識の変化するのかについて考える
■学習の到達目標	・基本的な民俗学の知識を運用し、様々な民俗事象を分析することができる。・最低限でもテキストの内容を把握したうえで、解答をすること。・可能であれば、これまでの学史の展開を踏まえたうえで、自らの考えを述べること。
■成績評価の基準	民俗学の基本的な知識や考え方を理解した上で、解答していること。問題に対して、テキストの論や内容を踏まえた上で、論理的に解答していること。上記の条件を満たしたうえで、受講生自らの考えを論理的に述べることが望ましい。

授業科目	文化人類学特講１				単位	2.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東アジアで学ぶ文化人類学	上水流久彦ほか編	昭和堂	[ISBN]9784812216125

■授業の概要	文化人類学の応用編です。人類学の基本的テーマである家族・親族、社会関係、ジェンダーなどから植民地主義、民族、移民、トランスナショナリズム、観光、グローバル化などの近年のトピックまで、東アジアを事例に人間の文化・社会を考察する視点を学修します。
■学習の要点	（１）各章の要点、重要な点を事例を交えながらまとめてください。（２）説明されていない専門用語、不明な内容,人物などは、下記の参考文献、本文献各章末尾の参考文献、推薦図書やその他の文化人類学事典などで調べてください。国語辞典で調べる人がありますが、専門の概念を知るには不十分あるいは、不適です。例えば、「テキスト」という言葉などは、教科書という意味ではなく、人文科学における独特な用語である場合があります。（３）各章は、独立したテーマであるとともに、相互に関連した内容もあります。全体を丁寧に読み込み、その関係性についても考慮しつつまとめてください。　　主たる留意点は下記の通りです。 ①文化人類学の特徴的な方法論、視点のひとつである民族誌とそのフィールドワーク法について理解する。（序章、1 章、13 章） ②文化人類学の歴史と近年の民族誌(エスノグラフィー）批判およびそれらを踏まえたその可能性について理解する（1 章、6 章、13 章） ③人類学において、「社会関係」とは何か、また、それらを調べることでどのようなことが理解できるのかを押さえる。「交換」、「互酬性」、「つながり」などの意味を押さえる。（5 章） ④世界の家族・親族を通して、何を考えることができるのか。文化とは何か、説明できるようにする。（2 章） ⑤文化人類学で考える宗教とは何か。社会集団、国家などと宗教の関係にも注意する。（3 章）　⑥ジェンダー、セクシャリティ、第 3 の性、LGBT などの用語を理解する。また、性の多様性から何が考えられるのかを説明できるようにする。（4 章） ⑦エスニッシティ、人種、民族という概念や近年のその概念に対する変化や重層性を理解する。国民国家（nation- state)との関係について押さえる。移民社会からも考える。ディアスポラ、国籍などともあわせて考える。（7、8 章） ⑧文化人類学の歴史と植民地研究の関係を理解する。植民地研究から明らかになった知見について押さえる。文化の構築性、流用、植民地近代化論、植民地近代性論、帝国研究などの意味も理解し、説明できるようにする。（6 章、7 章、1 章） ⑨日本のなかで、「多文化共生」が唱えられるようになった背景や、その問題点、あるいは可能性について理解する。移民という他地域の状況とも比較して考えてみる（10 章、8 章） ⑩観光の文化人類学的研究とはどのようなものであるかを考える。（11 章、9 章） ⑪グローバル化やトランスナショナリズムの議論から明らかになったことは何かを理解する。国家との関係からは、どのようなことが見えてくるのかを考える。（9 章） ⑫文化人類学的視点による「経済」の研究とはどのようなものであるかを理解する。（12 章、5 章,） ⑬移動、国境、他者理解とは何かを考える(11 章、9 章、5 章） ⑭13 章、および全体から、人類学が、実社会における役割、可能性とは何かを考える。

■学習の到達目標	各章のトピックごとにどのような主題、視点をもって研究されているか、専門用語、具体的な事例を使って説明できるようにする

■成績評価の基準	①重要な視点が把握され、適切に説明できているか。②独自に調べ、論が展開されているもの，あるいは複数の章をまたいで、論稿が創られ、内容を咀嚼し、自分の言葉でまとめられているものが高得点になります。③単なる要約は、不可です。④最後の参考文献のみでなく、文中に適切に引用（根拠）資料が示されていること。

授業科目	神話・伝承学特講１				単位	2.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5240	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
荒ぶるスサノヲ、七変化〈中世神話〉の世界	斎藤英喜	吉川弘文館	[ISBN]9784642057462

■授業の概要	スサノヲといえば、古代神話ではヤマタノヲロチを退治するなど、荒ぶる神として有名です。しかし、スサノヲの魅力は古代神話に留まりません。スサノヲは、歴史のなかで劇的というべき変貌を遂げていきます。その変貌は、アマテラスやオホクニヌシなどの有名な神々をも巻き込んで繰り広げられた、『日本書紀』の注釈や天皇の即位儀礼＝「即位灌頂」、あるいは伊勢神宮などを拠点に展開した中世神道説などの世界にあらわれます。中世におけるスサノヲは、仏教世界の閻魔王や牛頭天王、摩多羅神という異国の神へと変貌していきます。まさに「七変化」です。　このように、中世という時代では、記紀神話の神々を中世における仏教世界と結びつけ、中世の人々の生き方や救済、あるいは中世の国家支配の根拠づけを果たしました。研究上、そうした中世に見合うように、古代神話を読み替え、新しい神話を作り出すことを〈中世神話〉の創造行為と呼びます。変貌するスサノヲの姿は、まさに〈中世神話〉を代表するものの一つといえます。その姿を追うことで、古代神話の世界が中世にどのように変容していったのかを探ります。
■学習の要点	テキストでは、具体的なスサノヲ神話、さらには「神話」という概念について、多くの既存の研究とは異なる視点の分析が示されています。それは〈中世神話〉の研究の成果を受け、より豊かに様々な歴史上の出来事、資料上の記述を取り上げることで論じられています。歴史上の神々の在り方への分析ということを念頭に、これまでの神話の理解とは違う点を学んでください。
■学習の到達目標	１．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて他の文献や資料を読み進め、理解を深める、という学習方法を身につけてください。２．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。３．神話・伝承学という大きな視野の中で、具体的な「スサノヲ」神話の変容を位置づけて読み解くための歴史的な観点について学ぶことを意識してください。４．神話・伝承学を研究・分析の方法の一つとして理解し、それが学問・研究においてどのような意義や可能性
■成績評価の基準	１．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。２．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として論理的な文章を書くことも評価の基準とします。３．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】神話・伝承学および中世神話という研究方法への理解：30%設問に関する適切で具体的な知識：50%論述として相応しい論理展

授業科目	芸術文化特講１				単位	2.0
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	TX5252	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏像の樹種から考える古代一木彫像の謎	金子 啓明ほか著	東京美術	[ISBN]9784808710415

■授業の概要	日本彫刻史における重要な議論のひとつ、一木彫像成立の問題について学習する。近年検証が進められた仏像の用材をめぐる報告を通し、論点、成果、課題等の確認とあわせ、議論のなかで重視される「檀像」の理解を深める。
■学習の要点	本科目で取り組む内容は、日本彫刻史上、極めて大きなトピックである。前提として、以下の研究の流れを把握しておく必要がある。 神護寺薬師如来像などに代表される一木彫像の系譜は、かつて貞観彫刻と称され平安時代初期の成立と考えられてきた（資財帳にみる仏像の用材の変化、木心乾漆造からの技法的展開を論拠とする）。この文脈では、飛鳥時代の木彫像や奈良時代の唐招提寺木彫群などは例外的もしくは萌芽的な位置づけに留まる。転機となったのは、『日本霊異記』に散見する木像の話に着目した中野玄三氏の論で、奈良時代にも民間造像の場で広く木像が制作されていた可能性が説かれた。さらに井上正氏によって、一木彫像の制作年代の抜本的な見直しを含め、奈良時代に制作された可能性のある一木彫像が多数報告された。井上氏の研究では、仏教と日本古来の霊木信仰の習合現象として「霊木化現仏」の概念が提起され、あわせて「檀像」という仏教側に起因する用材観も重視されている。奈良時代における木彫制作の可能性は徐々に受け入れられつつあるが、個別の作例についてはその限りではなく、現在も様々な視点から議論が交わされている。 このような状況のなかで、近年、木彫像の用材に焦点をあて、科学的な樹種同定を含む研究が試みられた。本科目のテキストはその報告書である。従前、目視によって鑑定されてきた仏像の樹種について、科学的な実証が進められたことは大きな成果であった。その分析結果が一木彫像の議論に結びつくポイントが「檀像」という用材観である。今後なお慎重な検討を要する部分もあるが、本科目では議論の軸となる「檀像」の意義を重点的に学びながら、俯瞰的に日本彫刻史における一木彫像の研究動向を把握してほしい。
■学習の到達目標	・檀像の概念と特徴を説明できるようになる・日本彫刻史における一木彫像成立の問題について説明できるようになる
■成績評価の基準	・仏像の材質・技法に関する基礎事項が踏まえられていること・テキストや先行する議論を踏まえ理論的に論述されていること

授業科目	日本美術史特講1				単位	2.0
担当者	熊谷　貴史			シラバスグループ	TX5255	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本美術の歴史　補訂版	辻惟雄	東京大学出版会	[ISBN]9784130820912

■授業の概要	日本美術史の流れを意識しながら古代～中世の仏教美術を学習する。中国をはじめとする外来文化を摂取し、一方で日本独自の思想や感性を反映して育まれてきた、多彩な造形世界の変遷を学ぶ。
■学習の要点	美術史という学問は、彫刻・絵画・工芸など様々な形態の造形作品を対象とし、作品の個性･魅力を捉え、美意識の変遷を跡付けていく「モノ学」である。したがって本来は作品（実物）の鑑賞・観察が基盤にあり、テキスト学習はそれを補完する側面であることを前提とする。まずはテキストを概観し、主要な作品をおさえながら日本美術史の流れを把握してほしい。　本科目では古代～中世（飛鳥～室町時代）の仏教美術を対象に、テキストの第三章～第七章を範囲とする（テキストは可能な限り通読することが望ましい）。その範囲は一段階踏み込んで、以下の点を整理しながら個々の作品の意義を確認すること。・基礎情報　：名称、構造、法量･所有者、指定状況など･造形的特徴：形式（≒図像）、様式（≒作風）など･制作背景　：時代性、地域性、対外交渉、思想的要素など　作品によって注目すべきポイントが異なり、テキストの記載事項にも差がある（それは各作品の意義を知る手掛かりともいえる）。作品理解には多角的な視点が求められるが、作品の様式（≒作風）への言及は、美術史が他の研究分野と一線を画す特徴である。また、より多くの作品を比較することで、相対的に個々の特徴が明瞭になる。
■学習の到達目標	・日本美術史（古代～中世）の概略を説明できようになる・主要な仏教美術作品の特徴を説明できるようになる
■成績評価の基準	・日本美術史の見地から的確な用語や文脈で記述されていること・主要な仏教美術作品の特徴が正確に説明されていること

授業科目	東洋美術史特講1				単位	2.0
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	TX5258	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
マンダラ事典 100 のキーワードで読み解く	森 雅秀	春秋社	[ISBN]9784393135433

■授業の概要	曼荼羅と呼ばれるものにも様々な種類があるが、いずれも諸仏菩薩が集うパンテオンとしての意味を持っている。宇宙の表象とされる胎蔵曼荼羅と金剛界曼荼羅の「両界曼荼羅」、浄土への往生のツールとしての「浄土曼陀羅」、あるいは明王中心の曼荼羅や天中心の曼荼羅、さらには星曼荼羅など様々な種類の曼荼羅がそれぞれどのような典拠にもとづいて成立しているか、どのような役割や機能を持っているのかを学ぶ。
■学習の要点	曼荼羅、曼陀羅とひとくくりにされるものの中に、多様な種類とそれに応じた機能・役割があることを理解する。ことに、宇宙の表象である「胎蔵曼荼羅」、「金剛界曼荼羅」の構造と意味について理解する。
■学習の到達目標	両界曼荼羅の構造と尊様が把握されていることを到達目標とする。
■成績評価の基準	①テクストを読みこみ、整理して上で自己の言葉で記述されているかどうか。②両界曼荼羅の構造と各尊の配置が理解できているかどうか。

授業科目	京都学特講１				単位	2.0
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	TX5274	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
京都〈千年の都〉の歴史	髙橋　昌明	岩波書店	[ISBN]9784004315032
祇園祭:祝祭の京都	川嶋將生 著	吉川弘文館	[ISBN]9784642057097

■授業の概要	本科目では、京都の歴史を考える上で重要な問題、とりわけ都市の成立あるいは変容という都市の盛衰にかかわる問題をとりあげ、京都という都市がどのような歴史的経緯のもとにあるのかを考える。その際、京都で何が起こったのかではなく、京都がどのような事情により変化・変質したのか、また変化・変質はその後の京都にどのような影響を及ぼしたのか、という視点を重視したい。とかくステレオタイプ的な言説が多くありきたりの理解に終始しがちな京都であるが、それぞれの時代や状況を冷静に見つめ、歴史都市京都の歩みを跡づけたい。

■学習の要点	京都の歴史的な経過を考えると、以下の諸点が考察のポイントとなろう。1）平安京から京都への変容 2）応仁の乱と京都 3）祇園祭の成立 4）祇園祭と京都一都市共同体の成立と発展―5）祭礼を支える組織と権力 6）祭礼の変容と京都の変貌

■学習の到達目標	1：中世から近世にかけての京都の特徴について理解する２：京都の変容と祭礼の成立発展の関係を理解する 3：都市変容のきっかけとなる事象について考える

■成績評価の基準	1：中世から近世にかけての京都の特徴について理解できている２：京都の変容と祭礼の成立発展の関係について理解できている 3：都市変容のきっかけとなる事象について考えることができる

授業科目	京都の歴史１				単位	2.0
担当者	杉本　弘幸			シラバスグループ	TX5277	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
京都の歴史を歩く	小林丈広･高木博志･三枝暁子	岩波書店	[ISBN]9784004315841

■授業の概要	史跡や地域に注目しつつ、京都の歴史をたどり、京都の歴史と地域の魅力、特色について考えていく
■学習の要点	最初に各章に何が書いてあるかを把握し、自分なりにまとめてみること。次にテキスト全体を通読し、テキストの内容を理解する。そのうえで、自分はそれらの記述に対して、どのように考えるか叙述する。･京都イメージがいつ、どのようにつくられたか・日本史の中で京都はどのような位置にあるのか･京都という地域で各章にとりあげられた地域は、どのような特徴があるのか・京都の「洛中」と「洛外」の関係はどのようなものだったのか・各時代の国際社会と京都との関係はどうだったのか･京都の町に住んだ人々の生活はどのようなものだったのか・観光言説で隠されてきた京都の社会問題はどのようなものだったのか
■学習の到達目標	1:京都の歴史について、日本史上どのような位置にあるか理解できる。2:京都における人々のくらしがどのように形成されたのかを理解できる。3：京都を形づくる諸要素について理解できる。
■成績評価の基準	1：京都の歴史について、日本史上どのような位置にあったか理解できている。2：京都における人々の暮らしがどのように形成されたのかを理解できている。3：京都を形づくる諸要素について理解できている。

授業科目	京都の伝統芸能１				単位	2.0
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	TX5280	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
京都の夏祭りと民俗信仰１	八木透編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248750&refHpStenCode=68038}
京都の夏祭りと民俗信仰２	八木透編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248881&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	京都が育み継承している芸能は劇場芸能、座敷芸能といったかたちで幾多もあります。「京観世」と呼ばれる能の観世流。南座の顔見世にみられる歌舞伎は京都が発祥の地です。上方舞のひとつ、井上流の舞も優美です。ですが、実は京都は民俗芸能の宝庫でもあります。京都の庶民が楽しみ継承してきた民俗芸能について、その歴史と特徴の知見を深め、理解をもつことは有意義なことといえましょう。　このような観点にたち、本科目では京都の伝統芸能のなかでも、「民俗芸能」を中心に学習していただきたいと思います。現在でも民俗行事として継承されている様々な民俗芸能を幾つか取り上げて、考えていきたいと思います。京都の文化について考える「時」と「場」としていきたいと思います。
■学習の要点	リポートでは、古代や中世から、近世、現在に至るまで変化を繰り返しながらも継承されてきた京都の民俗芸能を取りあげています。　第１設題において「六斎念仏」、「盆の踊り」といった民俗芸能をテーマにしましょう。両芸能は何も京都だけではありませんが、京都の民俗芸能としての「六斎念仏」、「盆の踊り」の特質と歴史的展開を考えてもらえればと思います。　現在も民俗行事として伝承されている諸事例が、うつりゆく時代の中でどのように変化し、またどのような意味を付与されて伝承されてきたのかについて注目して、芸能という範疇の幅広さや奥深さ、そして身近にある事例に隠された歴史の流れについて学習していきましょう。
■学習の到達目標	（１）テキスト学習を通して、京都という都市が育んだ芸能への興味、理解を深めている。（２）それらの芸能の歴史・特徴などを理解する。（３）第三者に解説できるようになる。

■成績評価の基準	（1）誤字脱字の有無（2）論旨が明瞭か否か（3）問題の主旨にそいながら回答しているか。（4）要点を過不足なくまとめているか。（5）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	民俗学				単位	2.0
担当者	八木　透			シラバスグループ	TX5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･民俗学を学ぶ:現代を知るために	八木透編	佛教大学	[ISBN]9784907177300

■授業の概要	民俗学は、現代社会の中に横たわる諸問題に目を据え、身近な日常生活を題材として、フィールドワークという手法を最大限に生かしながら、私たちの暮らしの表裏に見え隠れするさまざまな事象の持つ意味を読み解いてゆく、とても魅力溢れる学問である。本テキストは、第 1 章の総論を除いては、現代において民俗学が関わりを持つべきだと思われる諸課題について、あえて恣意的にテーマを設定した。そのほとんどが近年になって民俗学の研究対象とされるようになった、どちらかといえば新しい研究テーマである。また 10 編の論考の間に「コラム」として 9 編の小テーマを挟み込んでいる。コラムの内容も、また現代社会を考える上で示唆的なテーマに厳選したつもりである。そして全体を熟読していただくことにより、現代社会について考えるための、民俗学のあらましを学んでいただけるものと思う。
■学習の要点	リポート設題では、最近の民俗学の研究対象の中から、いくつかの課題を受講生諸君が自由に選択できるようにしている。また、民俗学の学史的動向に関する設題では、民俗学そのものが歩んできた道程についての学習を第一義とする。学問は時代の流れとともに常に進化するものであり、それは民俗学とて例外ではない。柳田國男をはじめとする多くの研究者によって提示された研究方法とその成否をめぐる議論、そして新たに着目された研究分野など、民俗学の研究動向について学び、生活文化への研究視角の変遷についての知識を深めてもらうことを希望したい。　･柳田國男存命中の「調査」と「研究」の乖離の実態についてまとめること。　･柳田國男の差別問題や被差別民へのまなざしの特徴と問題点についてまとめること。　･現在において無宗教葬や家族葬が増えてきた背景についてまとめること。　･民俗社会において「いのち」はどのように保護されてきたかについてまとめること。　･従来の民俗学で考えられていた「家」が次第に変質しつつある理由についてまとめること。　･生業研究における環境民俗学の可能性についてまとめること。
■学習の到達目標	解答の文章は箇条書きによる記述は避け、あくまでも論述形式でまとめること。また漢字表記には正確さを求める。論点がうまく整理されているかどうか、また要点が正確に盛り込まれているかどうかが評価の基準となる。
■成績評価の基準	問題に対する適切な解答が論述されているかどうか。さらに具体的な事例に基づいて論述されているかどうか。

授業科目	考古学				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる考古学	松藤和人・門田誠一編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623055630

■授業の概要	考古学の目的や資料と方法を把握し、その後、時代や事象に対する考古学的な知見によって歴史を構築し、叙述していく方法を修得していくことを目的としています。これによって大学における考古学の学修をめざしています
■学習の要点	考古学は人間が地中に残した物資資料や大地に刻んだ生活の痕跡によって歴史を叙述するために、国や地域を越えた広がりをもつ研究分野となってきています。不明な専門用語や未知の地名などがあった場合は、各種の歴史事典、考古学事典および日本地図や世界地図でこまめに調べてみることを勧めます。
■学習の到達目標	考古学資料は地域や時代についての具体的な情報から歴史叙述を構築することが特色です。そのため遺跡・遺構・遺物などを根拠として。論理的な記述ができるようになることが目的です。
■成績評価の基準	考古学資料は、地域や時代についての明瞭な記述がないと歴史資料とはなりません。最近、いつ・どこで・なにが・どうして・どのような意味があるのか、という基本的事項が欠けている解答が多く、これは歴史叙述としては基本的要件を満たしていません。基本事項の理解と記述に努めてください。

授業科目	歴史地理学				単位	2.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
歴史地理学	桑原公徳他編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248838&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	私たちの身の回りで起きている出来事・現象には、必ず時間と位置あるいは場所がある。また、それらは、単独ではなく、必ず他の出来事や現象と関わりながら起きている。このことは過去に起きた出来事・現象も同じである。歴史地理学は、過去に起きた出来事・現象をその場所において他の出来事や現象と関係づけて、場所のもつ意味や特性、場所（地域）の仕組みを考える学問分野である。この授業では、京都を中心にいくつかの出来事（現象）を取り上げ、複数の出来事（現象）を関係づけて空間的な視点からそれらの意味を考えていくことに重点を置き、講義していく。
■学習の要点	1．景観復原の直接的方法と間接的方法について、その方法の特色と使用する諸資（史）料、２つの方法の用い方や関連性を、具体例を通じて理解する。2．弥生時代～古墳時代の集落遺跡の立地環境を調べ、その変化と社会経済的背景を考える。3．わが国の古代都城（宮都）のプランについて、その計画性や特色を、図を用いて整理し、理解する。4．中世における集落形態の変化を整理し、城館集落の分布・形態・機能を具体例を用いてまとめる。5．近世城下町について都市の内部構造上の特色をまとめ、城下町における商工業機能の配置や地域的役割を整理するとともに、他の近世都市との機能的共通点や相違点を考える。6．近代以降における私鉄路線網の形成過程を図にして整理し、私鉄路線の伸長にともなってどのような地域開発が進んだかをまとめ、地域開発に対する私鉄の役割を理解する。
■学習の到達目標	①出来事・現象を含む、歴史地理学的な基本用語を正しく使うことができる。②複数の出来事（現象）間にある関係を見出し、その関係を説明できる。③ある出来事（現象）を他の出来事（現象）と関係づけながら説明できる。
■成績評価の基準	【リポート添削・評価の基準および留意点】①リポート問題の主旨を正確に理解し、それに適った内容になっていること。②リポートの文章構成が論理的に組み立てられているか。③自ら作成したオリジナルのリポートであること。これに該当しないと判断した場合は添削対象外とする。【リポート作成上の留意点】①リポートの形式（「はじめに」から開始し、本論に章番号・タイトルをつけて論理構成を示し、最後に「おわりに」で全体をまとめること）にしたがって記述すること。②参照した文献・資料を必ず記載すること。また、文献の参照

授業科目	日本文化史				単位	2.0
担当者	駒井　匠			シラバスグループ	TX5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本文化史　第 2 版	家永　三郎	岩波書店	[ISBN]9784004201878

■授業の概要	近年の日本史研究の分野では、日本の文化の独自性・特殊性を強調するのではなく、諸外国からの影響も適切に把握し、その中で日本文化の特質を明らかにすべきことが求められている。また文化は社会の産物であるから、各時代の特質との関係にも留意する必要がある。本科目では、日本文化史に関する古典的な著作を読むことから、日本文化史のおおまかな流れを把握し、その特質を考える手がかりを得たい。特に諸外国との交流や社会の変容と文化史との関係を重点的に読みとるように努めてほしい。
■学習の要点	以下の諸点に留意しながらテキストを読むこと。①文化といっても、政治や社会経済と全く無関係であるということはあり得ない。政治や経済を扱ういわゆる「一般史」との関わりを視野に入れて、日本文化史の流れを把握する。②貴族や武士だけが文化の担い手であるわけではない。文化の担い手を広く捉え、その変化を把握する。③日本の文化の歴史と諸外国との関係をどのように描き出しているか。このあたりは近年の日本史研究でも強く求められるところである。本書は新しい研究ではないが、叙述の特徴をしっかりと把握すること。④原書は必ずしも最近のものとは言えないので、参考文献を含め、近年の研究も積極的に参照し、理解を深めること。
■学習の到達目標	・文化史の流れを把握し、日本文化の特質を理解するための視角を身に付ける。・文化の展開それ自体を孤立したものとしてではなく、政治史・経済史・対外交流等との連関から捉える視角を身に付けることを大きな目標とする。
■成績評価の基準	上記の到達目標に合致した内容を含んでいるかどうかを重視する。その他、リポートとしての体裁を備えているかも評価の基準とする。・論理的な記述であること。・常体（～だ、～である）で書いていること。・自分の考えと他者の考えをきちんと区別して書いていること。・他者の意見の引用が適切にできていること。

授業科目	東北アジア史				単位	2.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア国際政治史	川島真編	名古屋大学出版会	[ISBN]9784815805616

■授業の概要	東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解することを目的とする。これまで、日本史、朝鮮史、中国史は、それぞれ別々に「一国史」の枠組みの中で理解されてきた。しかし実際には、三つの国家の歴史がばらばらに存在してきたわけではなく、古代以来それぞれの地域の歴史が有機的なつながりをもちながら展開してきた。また現在もそのような緊密な関係が続いており、「東アジア共同体」「東北アジア共同の家」構想に象徴されるように、今後もこの地域はいっそう強く結びついていくことが予想される。東北アジア史を学ぶことは、この三つの地域をより深いところで理解することでもある。　この科目では、東北アジアの近現代の歴史を学習する。東北アジアの諸地域が近代という時代をどのようにむかえ現代まで進んできたのかを歴史として理解することが必要である。とりわけ日本が朝鮮半島や中国の人々に対して植民地支配と侵略を行った歴史事実を直視することが重要だろう。そのことが、朝鮮半島や中国の人々とこれまで以上に友好関係を築いていくことにつながるからである。　東北アジア史を学ぶことによって、朝鮮半島や中国大陸に暮らす人々とともに生きていくための知識や知恵が得られることを願う。
■学習の要点	東北アジアの近現代史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「東北アジア史」の学習は成功である。特に、以下の点に留意しながら学習を進めてもらいたい。１．開港と近代化…資本主義化を進めた欧米列強のアジアへの圧力に対して、日本・朝鮮・中国の３国はどのように対応したのか。その中で日本はなぜ東北アジアに勢力を膨張させようとしたのか。それは東北アジアにどのような葛藤を引き起こしたのか。また、三つの地域で起った近代化への動きはどのように展開されたのか。２．日本の膨張と朝鮮・中国の抵抗…日清戦争、日露戦争の結果、日本は台湾、朝鮮を植民地支配したが、それはどのようなものだったのか。第一次世界大戦前後における中国問題をめぐる日本と国際社会の動向はどのようなものだったのか。日本の植民地支配、侵略に対して、朝鮮人や中国人はどのように対応したのか。また、そうした中でも進行していった産業化や民衆の生活はどのようなものだったのか。３．侵略戦争と民衆の被害…日本が、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と１５年にわたって行った侵略戦争はどのようなものだったのか。日本の軍国主義はどこから生まれたのか。日本国民は侵略戦争の体制に動員されたのか。それに対する朝鮮人や中国人はどのように抵抗したのか。被害はどのようなものだったのか。また、戦時体制化における民衆の生活はどのようなものだったのか。人類史的な視点から考える必要がある。４．第二次大戦後の東アジア…東北アジアの三つの地域は、１９４５年８月１５日から始まる「戦後」をどのように迎え、どのような国をつくったのだろうか。日本の「過去の清算」はどうなったのだろうか。また、三つの地域は、どのような関係を結んでいったのだろうか。

■学習の到達目標	・東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	政治文化史				単位	2.0
担当者	佐古　愛己			シラバスグループ	TX5120	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本歴史 05　律令国家の転換と「日本」	坂上康俊著	講談社文庫	[ISBN]9784062919050
日本歴史 06　道長と宮廷社会	大津透著	講談社文庫	[ISBN]9784062919067

■授業の概要	テーマ：平安時代の政治と文化概要：政治文化とは、ある社会や社会を構成する人々に特有の政治認識･政治行動のパターンをいう。近年の諸研究において、日本の政治文化の特徴は、権威上義的性格、集団主義的、他者依存的、状況依存的、「場」の重視などと指摘されている。このような政治文化は、それぞれの時代の政治形態や文化と関連して醸成されたものであるといえよう。本講義では、日本の古代から中世への移行期である平安時代の政治と文化を取り上げて、政治と文化との関連性や日本の政治文化の特徴の一端を考える。
■学習の要点	多くの受講者にとっては、専門用語や人名などが難しく感じられるかもしれません。面倒ではありますが、辞書をこまめに引くことが、研究の第一歩です。辞書を引きながら、ゆっくり読み進め、最後にもう一度、全体を読み通してみてテキストの内容理解を深めてください。
■学習の到達目標	・平安時代の政治形態の推移とその特徴を説明できる。･平安貴族社会の文化的特徴を説明できる。･日本の古代から中世社会への移行状況を理解し、政治と文化の関係を説明できる。
■成績評価の基準	･平安時代に関する基礎的知識を有し、用語や概念を的確に理解した上で論述しているかを判断します。･テキストの内容を十分に理解しているかを判断します。･テキストの内容を踏まえた上で、自分の考えや意見を、史料的根拠に基づき述べられていれば高く評価します。

授業科目	社会経済史				単位	2.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TX5121	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
戦国大名の経済学	川戸　貴史	講談社	[ISBN]9784065200155

■授業の概要	前近代社会は現代社会とは異なる原理で成立している。現代日本は資本主義体制のもとにあり、我々はその中で生まれ育ち、教育を受けてきた。おのずから過去を見る眼は現代を基準にすることを免れない。しかし社会経済史が対象とする経済社会は、必ずしも資本主義とは限らず、この講義で取り上げる前近代社会のような場合は、経済の仕組みや原理も異なっており経済学辞典も通用しない。本講義では、経済事象の歴史学的な分析（史学的な検討や分析）を通じて「経済社会」の全体構造とその歴史的展開を究明する、という社会経済史の考え方や物の見方を学ぶ。
■学習の要点	人間の行動の多くは「経済的営為」によって占められている。ヒトは生活を維持・発展させるために必要な物質（食料・衣類・その他）を生産、分配（交換・贈与・搾取）、消費するだけでなく、それらの活動を通じて社会関係をも形成している。社会経済史は、こうした人の経済活動のありようや活動に伴い生じる社会関係を史学的に考えようとするもので、人の活動を経済活動としてとらえた場合にどのように理解できるかを考えることが重要である。ただし、この講義が対象とする前近代の経済活動は、戦争や祭祀といった一見経済活動とは無関係にさえ思える活動も検討の対象となることに注意が必要である。とりわけ戦争や祭祀は、事象自体の激しさ、派手さに目を奪われ、経済活動として理解するという視点が軽視しがちとなりやすい。対象となる事象を経済学的にとらえるどのように考えられるのか、という意識を大事にしたい。
■学習の到達目標	社会経済史とはどのような分野で、その特徴はどのようなものであるか。また社会経済史が対象とする経済事象としてはどのようなものが考えられるかについて説明できる
■成績評価の基準	論述問題が要求する課題の範囲内で、日本前近代の経済事象について、理解したうえでまとめられているかを見る

授業科目	経済地理学				単位	2.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5122	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域と産業　新版　オンデマンド版	富田　和暁	原書房	[ISBN]9784562101320

■授業の概要	私たちの日常生活は身近な地域からグローバルな広がりをもつものまでさまざまな経済活動によって支えられています。経済地理学はそうした経済活動が展開する地域を対象とする地理学の一分野です。この授業では、私たちが生活する地域がどのような経済活動と関わり、その経済活動が地域にどのような影響をもたらしているのかという点に重点を置きながら、産業別の立地理論や都市を中心とした経済活動がつくりだす地域構造を学び、経済活動と地域の多様な関係を考えていきます。
■学習の要点	①　経済地理学の基本的な理論を理解する。②　経済活動を通して地域の現状を理解する。③　経済活動と地域の関係を構造的に理解する。
■学習の到達目標	①　経済地理学における基本的な理論が理解できている。②　経済活動を通して地域の特徴を理解し、説明できる。③　経済活動と地域の関係を構造的に説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　論理的な構成をもった文章であること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること。なお、テキストの要約に終始したり、上記①～④に該当しないと判断した場合は評価対象外とする。

授業科目	地理学特講１				単位	2.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5214	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
地形と日本人　私たちはどこに暮らしてきたか	金田章裕・著	日本経済新聞出版社	[ISBN]9784532264383

■授業の概要	地理学は人文・社会から自然にいたる多様な事象（物質を含む）を、しかも過去から現在に至るまでの事象を広く扱う総合の学問です。地表面に見られる様々な事象はそれを対象とする専門的学問分野がそれぞれ成立していますが、個別の知見を独立して追求するだけでは把握することのできない側面も存在します。地理学には、こうした個別の要素を総合してその変遷を追いかける視点があり、「景観史」の議論もその一つです。この講義ではとりわけ自然地形を代表とする自然景観の諸要素がどのように変遷し、また人間の営みやその結果である文化景観に影響を与えてきたのかを学びます。それにより、地表面の景観中に見られる諸要素を自然・人文の垣根をこえて総合的に捉える地理学的視点の涵養を目指します。
■学習の要点	①　　日本の自然景観を構成する諸要素を正しく理解する。②　　自然景観と人間の相互作用により形成される文化景観の諸要素を理解することができる。③　　自然景観と文化景観の諸要素を総合的に捉える地理学の理論的議論への理解を深める。
■学習の到達目標	①　　日本の自然地形に見られる諸要素を正確に説明できる。②　　日本の自然地形に対応した文化景観の特徴を説明できる。③　　景観を総合的に理解し説明する地理学の理論的議論を説明できる。
■成績評価の基準	①　学習の要点に対応する解答がどこまでできているかを、成績評価の基本的指標とします。　②　学術的な用語の意味をきちんと理解しているか、学術的用語を適切に使用できているかを学習の進度と理解をはかる判断材料の一つに加えます。　③　問題の主旨を正確に理解していること。　④　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　⑤　記述が論理的に構成されていること。

授業科目	考古学特講１				単位	2.0
担当者	門田　誠一			シラバスグループ	TX5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
海からみた日本の古代	門田誠一	吉川弘文館	[ISBN]9784642071291

■授業の概要	日本と朝鮮半島･中国その他の外国の遺跡や遺物との比較によって、日本列島外の視点から、日本の古代史を構築していく方法を示します。考古学の目的や資料と方法を把握し、その後、時代や事象に対する考古学的な知見と文献史料などとの相関によって歴史を構築し、叙述していく方法を修得していくことを目的としています。大学におけるやや専門的な内容の考古学の学習をめざしています。
■学習の要点	考古学資料を通じて、日本およびその他の地域の時代区分に親しみ、日本と外国の考古資料の比較検討によって歴史を叙述する方法を示す。これによって考古資料による文献史料の相対的かつ批判的に理解する観点から、テキストを読み、歴史研究における考古資料の具体的な活用方法を知ることを目的としています。
■学習の到達目標	考古資料を通じて、日本およびその他の地域の文化に親しみ、考古学・歴史学の方法に習熟していただくことを一義的な目的としています。
■成績評価の基準	考古資料や歴史史料は、地域や時代についての明瞭な記述がないと歴史資料とはなりません。そのため、下記の記述があるかを成績評価の基準とします。１いつ・どこで・なにが・どうして・どのような意味があるのか、という基本的事項が記されているか。２１を踏まえたうえで、とりあげたテキストの章や部分や遺跡に関する歴史的な説明があるか。以上を備えた記述は 80 点以上とします。

授業科目	地図情報学１				単位	2.0
担当者	古関　大樹			シラバスグループ	TX5220	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
地図からの発想	中村和郎著	古今書院	[ISBN]9784772251020

■授業の概要	現代社会では，様々な情報をやり取りするために地図が盛んに利用されています。地図の表現は、対象や空間の大きさに応じて、多様な表現方法があり，目的に応じて様々な工夫が取り入れられています。この講義では、教科書を通じて様々な地図に触れ，情報を整理分析する方法を学習します。
■学習の要点	現代社会の情報は多岐多様にわたっており，諸現象が複雑に結びついています。様々な情報を自身で理解し，第三者に伝える場合，その目的に応じてテーマを設定し，情報を整理・分析して分かりやすく示すことが効果的です。テキスト学習を通じて，地図の多様な表現方法，実践的な地図の読み解き方，第三者への説明方法などを学習します
■学習の到達目標	（1）情報を入手する方法を学習する。（2）情報を整理・分析する方法を学習する。（3）情報を地図で表現する方法を学習する。
■成績評価の基準	論述問題 1～6 の理解度，期末レポートにおける地図や図表の使い方，レポートにおける地域調査に対する姿勢や内容を総合的に評価します

授業科目	民俗学特講１				単位	2.0
担当者	大野　啓			シラバスグループ	TX5234	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・民俗学を学ぶ　―現代を知るために	八木透・編著	昭和堂	[ISBN]9784812212561

■授業の概要	現在、民俗学は新たな方向性を模索している段階である。従来、民俗学は伝統的とされている文化（社会）的な要素を再構成することによって民俗誌を構築したり、議論を構築したりしていたのである。しかし、これでは研究者の恣意によって伝統的な文化（社会）が創造されてしまう危険性をともなっていたのである。したがって、具体的な事実を積み上げていくという民俗学の基本的な姿勢に立ち返って文化（社会）を検討することが必要となっているのである。そこで、履修生はテキストの中でどのように事例が構築されているかについて検討していき、自らが文化（社会）に対してどのような視座を有しているのかについて考えていくことが必要である。
■学習の要点	学習に際しては、テキストの各論がどのように事例を構築しているのかについて注意すること。具体的な事例をどのような枠組みで研究史上に位置付けているのかについて留意しながらテキストを読み込むことが必要である。当然、テキストの巻末に上げられている参考文献一覧のなかの論文に目を通すことが求められる。なお、本科目と民俗学は同じテキストを使用しているが、本科目の履修生は、民俗学において必要な知識を得たことを前提とする。さらに、以下の点についての学習を行なうこと。　・村落のあり方がどのように生業と関係しているのかについて　・仏教民俗が村落社会の中にどのように包含されているのかについて　・民俗学において「家」は、どの様なものとして捉えられてきたのか　・現在の墓制研究が,どのような問題をはらんでいるのかについて　・民俗学の中でジェンダーの問題がどの様に取り上げられているのかについて　・儀礼や慣習が、文化財化することによって、それらに対して人々がどのように意識の変化するのかについて考える
■学習の到達目標	・基本的な民俗学の知識を運用し、様々な民俗事象を分析することができる。・最低限でもテキストの内容を把握したうえで、解答をすること。・可能であれば、これまでの学史の展開を踏まえたうえで、自らの考えを述べること。
■成績評価の基準	民俗学の基本的な知識や考え方を理解した上で、解答していること。問題に対して、テキストの論や内容を踏まえた上で、論理的に解答していること。上記の条件を満たしたうえで、受講生自らの考えを論理的に述べることが望ましい。

授業科目	文化人類学特講１				単位	2.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
東アジアで学ぶ文化人類学	上水流久彦ほか編	昭和堂	[ISBN]9784812216125

■授業の概要	文化人類学の応用編です。人類学の基本的テーマである家族・親族、社会関係、ジェンダーなどから植民地主義、民族、移民、トランスナショナリズム、観光、グローバル化などの近年のトピックまで、東アジアを事例に人間の文化・社会を考察する視点を学修します。
■学習の要点	（１）各章の要点、重要な点を事例を交えながらまとめてください。（２）説明されていない専門用語、不明な内容,人物などは、下記の参考文献、本文献各章末尾の参考文献、推薦図書やその他の文化人類学事典などで調べてください。国語辞典で調べる人がありますが、専門の概念を知るには不十分あるいは、不適です。例えば、「テキスト」という言葉などは、教科書という意味ではなく、人文科学における独特な用語である場合があります。（３）各章は、独立したテーマであるとともに、相互に関連した内容もあります。全体を丁寧に読み込み、その関係性についても考慮しつつまとめてください。　　主たる留意点は下記の通りです。 ①文化人類学の特徴的な方法論、視点のひとつである民族誌とそのフィールドワーク法について理解する。（序章、1 章、13 章） ②文化人類学の歴史と近年の民族誌(エスノグラフィー）批判およびそれらを踏まえたその可能性について理解する（1 章、6 章、13 章） ③人類学において、「社会関係」とは何か、また、それらを調べることでどのようなことが理解できるのかを押さえる。「交換」、「互酬性」、「つながり」などの意味を押さえる。（5 章） ④世界の家族・親族を通して、何を考えることができるのか。文化とは何か、説明できるようにする。（2 章） ⑤文化人類学で考える宗教とは何か。社会集団、国家などと宗教の関係にも注意する。（3 章）　⑥ジェンダー、セクシャリティ、第 3 の性、LGBT などの用語を理解する。また、性の多様性から何が考えられるのかを説明できるようにする。（4 章） ⑦エスニッシティ、人種、民族という概念や近年のその概念に対する変化や重層性を理解する。国民国家（nation- state)との関係について押さえる。移民社会からも考える。ディアスポラ、国籍などともあわせて考える。（7、8 章） ⑧文化人類学の歴史と植民地研究の関係を理解する。植民地研究から明らかになった知見について押さえる。文化の構築性、流用、植民地近代化論、植民地近代性論、帝国研究などの意味も理解し、説明できるようにする。（6 章、7 章、1 章） ⑨日本のなかで、「多文化共生」が唱えられるようになった背景や、その問題点、あるいは可能性について理解する。移民という他地域の状況とも比較して考えてみる（10 章、8 章） ⑩観光の文化人類学的研究とはどのようなものであるかを考える。（11 章、9 章） ⑪グローバル化やトランスナショナリズムの議論から明らかになったことは何かを理解する。国家との関係からは、どのようなことが見えてくるのかを考える。（9 章） ⑫文化人類学的視点による「経済」の研究とはどのようなものであるかを理解する。（12 章、5 章,） ⑬移動、国境、他者理解とは何かを考える(11 章、9 章、5 章） ⑭13 章、および全体から、人類学が、実社会における役割、可能性とは何かを考える。

■学習の到達目標	各章のトピックごとにどのような主題、視点をもって研究されているか、専門用語、具体的な事例を使って説明できるようにする

■成績評価の基準	①重要な視点が把握され、適切に説明できているか。②独自に調べ、論が展開されているもの，あるいは複数の章をまたいで、論稿が創られ、内容を咀嚼し、自分の言葉でまとめられているものが高得点になります。③単なる要約は、不可です。④最後の参考文献のみでなく、文中に適切に引用（根拠）資料が示されていること。

授業科目	神話・伝承学特講１				単位	2.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5240	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
荒ぶるスサノヲ、七変化〈中世神話〉の世界	斎藤英喜	吉川弘文館	[ISBN]9784642057462

■授業の概要	スサノヲといえば、古代神話ではヤマタノヲロチを退治するなど、荒ぶる神として有名です。しかし、スサノヲの魅力は古代神話に留まりません。スサノヲは、歴史のなかで劇的というべき変貌を遂げていきます。その変貌は、アマテラスやオホクニヌシなどの有名な神々をも巻き込んで繰り広げられた、『日本書紀』の注釈や天皇の即位儀礼＝「即位灌頂」、あるいは伊勢神宮などを拠点に展開した中世神道説などの世界にあらわれます。中世におけるスサノヲは、仏教世界の閻魔王や牛頭天王、摩多羅神という異国の神へと変貌していきます。まさに「七変化」です。　このように、中世という時代では、記紀神話の神々を中世における仏教世界と結びつけ、中世の人々の生き方や救済、あるいは中世の国家支配の根拠づけを果たしました。研究上、そうした中世に見合うように、古代神話を読み替え、新しい神話を作り出すことを〈中世神話〉の創造行為と呼びます。変貌するスサノヲの姿は、まさに〈中世神話〉を代表するものの一つといえます。その姿を追うことで、古代神話の世界が中世にどのように変容していったのかを探ります。
■学習の要点	テキストでは、具体的なスサノヲ神話、さらには「神話」という概念について、多くの既存の研究とは異なる視点の分析が示されています。それは〈中世神話〉の研究の成果を受け、より豊かに様々な歴史上の出来事、資料上の記述を取り上げることで論じられています。歴史上の神々の在り方への分析ということを念頭に、これまでの神話の理解とは違う点を学んでください。
■学習の到達目標	１．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて他の文献や資料を読み進め、理解を深める、という学習方法を身につけてください。２．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。３．神話・伝承学という大きな視野の中で、具体的な「スサノヲ」神話の変容を位置づけて読み解くための歴史的な観点について学ぶことを意識してください。４．神話・伝承学を研究・分析の方法の一つとして理解し、それが学問・研究においてどのような意義や可能性
■成績評価の基準	１．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。２．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として論理的な文章を書くことも評価の基準とします。３．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】神話・伝承学および中世神話という研究方法への理解：30%設問に関する適切で具体的な知識：50%論述として相応しい論理展

授業科目	芸術文化特講１				単位	2.0
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	TX5252	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏像の樹種から考える古代一木彫像の謎	金子 啓明ほか著	東京美術	[ISBN]9784808710415

■授業の概要	日本彫刻史における重要な議論のひとつ、一木彫像成立の問題について学習する。近年検証が進められた仏像の用材をめぐる報告を通し、論点、成果、課題等の確認とあわせ、議論のなかで重視される「檀像」の理解を深める。
■学習の要点	本科目で取り組む内容は、日本彫刻史上、極めて大きなトピックである。前提として、以下の研究の流れを把握しておく必要がある。 神護寺薬師如来像などに代表される一木彫像の系譜は、かつて貞観彫刻と称され平安時代初期の成立と考えられてきた（資財帳にみる仏像の用材の変化、木心乾漆造からの技法的展開を論拠とする）。この文脈では、飛鳥時代の木彫像や奈良時代の唐招提寺木彫群などは例外的もしくは萌芽的な位置づけに留まる。転機となったのは、『日本霊異記』に散見する木像の話に着目した中野玄三氏の論で、奈良時代にも民間造像の場で広く木像が制作されていた可能性が説かれた。さらに井上正氏によって、一木彫像の制作年代の抜本的な見直しを含め、奈良時代に制作された可能性のある一木彫像が多数報告された。井上氏の研究では、仏教と日本古来の霊木信仰の習合現象として「霊木化現仏」の概念が提起され、あわせて「檀像」という仏教側に起因する用材観も重視されている。奈良時代における木彫制作の可能性は徐々に受け入れられつつあるが、個別の作例についてはその限りではなく、現在も様々な視点から議論が交わされている。 このような状況のなかで、近年、木彫像の用材に焦点をあて、科学的な樹種同定を含む研究が試みられた。本科目のテキストはその報告書である。従前、目視によって鑑定されてきた仏像の樹種について、科学的な実証が進められたことは大きな成果であった。その分析結果が一木彫像の議論に結びつくポイントが「檀像」という用材観である。今後なお慎重な検討を要する部分もあるが、本科目では議論の軸となる「檀像」の意義を重点的に学びながら、俯瞰的に日本彫刻史における一木彫像の研究動向を把握してほしい。
■学習の到達目標	・檀像の概念と特徴を説明できるようになる・日本彫刻史における一木彫像成立の問題について説明できるようになる
■成績評価の基準	・仏像の材質・技法に関する基礎事項が踏まえられていること・テキストや先行する議論を踏まえ理論的に論述されていること

授業科目	日本美術史特講1				単位	2.0
担当者	熊谷　貴史			シラバスグループ	TX5255	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本美術の歴史　補訂版	辻惟雄	東京大学出版会	[ISBN]9784130820912

■授業の概要	日本美術史の流れを意識しながら古代～中世の仏教美術を学習する。中国をはじめとする外来文化を摂取し、一方で日本独自の思想や感性を反映して育まれてきた、多彩な造形世界の変遷を学ぶ。
■学習の要点	美術史という学問は、彫刻・絵画・工芸など様々な形態の造形作品を対象とし、作品の個性･魅力を捉え、美意識の変遷を跡付けていく「モノ学」である。したがって本来は作品（実物）の鑑賞・観察が基盤にあり、テキスト学習はそれを補完する側面であることを前提とする。まずはテキストを概観し、主要な作品をおさえながら日本美術史の流れを把握してほしい。　本科目では古代～中世（飛鳥～室町時代）の仏教美術を対象に、テキストの第三章～第七章を範囲とする（テキストは可能な限り通読することが望ましい）。その範囲は一段階踏み込んで、以下の点を整理しながら個々の作品の意義を確認すること。・基礎情報　：名称、構造、法量･所有者、指定状況など･造形的特徴：形式（≒図像）、様式（≒作風）など･制作背景　：時代性、地域性、対外交渉、思想的要素など　作品によって注目すべきポイントが異なり、テキストの記載事項にも差がある（それは各作品の意義を知る手掛かりともいえる）。作品理解には多角的な視点が求められるが、作品の様式（≒作風）への言及は、美術史が他の研究分野と一線を画す特徴である。また、より多くの作品を比較することで、相対的に個々の特徴が明瞭になる。
■学習の到達目標	・日本美術史（古代～中世）の概略を説明できようになる・主要な仏教美術作品の特徴を説明できるようになる
■成績評価の基準	・日本美術史の見地から的確な用語や文脈で記述されていること・主要な仏教美術作品の特徴が正確に説明されていること

授業科目	東洋美術史特講1				単位	2.0
担当者	川野　憲一			シラバスグループ	TX5258	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
マンダラ事典 100 のキーワードで読み解く	森 雅秀	春秋社	[ISBN]9784393135433

■授業の概要	曼荼羅と呼ばれるものにも様々な種類があるが、いずれも諸仏菩薩が集うパンテオンとしての意味を持っている。宇宙の表象とされる胎蔵曼荼羅と金剛界曼荼羅の「両界曼荼羅」、浄土への往生のツールとしての「浄土曼陀羅」、あるいは明王中心の曼荼羅や天中心の曼荼羅、さらには星曼荼羅など様々な種類の曼荼羅がそれぞれどのような典拠にもとづいて成立しているか、どのような役割や機能を持っているのかを学ぶ。
■学習の要点	曼荼羅、曼陀羅とひとくくりにされるものの中に、多様な種類とそれに応じた機能・役割があることを理解する。ことに、宇宙の表象である「胎蔵曼荼羅」、「金剛界曼荼羅」の構造と意味について理解する。
■学習の到達目標	両界曼荼羅の構造と尊様が把握されていることを到達目標とする。
■成績評価の基準	①テクストを読みこみ、整理して上で自己の言葉で記述されているかどうか。②両界曼荼羅の構造と各尊の配置が理解できているかどうか。

授業科目	京都学特講１				単位	2.0
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	TX5274	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
京都〈千年の都〉の歴史	髙橋　昌明	岩波書店	[ISBN]9784004315032
祇園祭:祝祭の京都	川嶋將生 著	吉川弘文館	[ISBN]9784642057097

■授業の概要	本科目では、京都の歴史を考える上で重要な問題、とりわけ都市の成立あるいは変容という都市の盛衰にかかわる問題をとりあげ、京都という都市がどのような歴史的経緯のもとにあるのかを考える。その際、京都で何が起こったのかではなく、京都がどのような事情により変化・変質したのか、また変化・変質はその後の京都にどのような影響を及ぼしたのか、という視点を重視したい。とかくステレオタイプ的な言説が多くありきたりの理解に終始しがちな京都であるが、それぞれの時代や状況を冷静に見つめ、歴史都市京都の歩みを跡づけたい。

■学習の要点	京都の歴史的な経過を考えると、以下の諸点が考察のポイントとなろう。1）平安京から京都への変容 2）応仁の乱と京都 3）祇園祭の成立 4）祇園祭と京都一都市共同体の成立と発展―5）祭礼を支える組織と権力 6）祭礼の変容と京都の変貌

■学習の到達目標	1：中世から近世にかけての京都の特徴について理解する２：京都の変容と祭礼の成立発展の関係を理解する 3：都市変容のきっかけとなる事象について考える

■成績評価の基準	1：中世から近世にかけての京都の特徴について理解できている２：京都の変容と祭礼の成立発展の関係について理解できている 3：都市変容のきっかけとなる事象について考えることができる

授業科目	京都の歴史１				単位	2.0
担当者	杉本　弘幸			シラバスグループ	TX5277	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
京都の歴史を歩く	小林丈広･高木博志･三枝暁子	岩波書店	[ISBN]9784004315841

■授業の概要	史跡や地域に注目しつつ、京都の歴史をたどり、京都の歴史と地域の魅力、特色について考えていく
■学習の要点	最初に各章に何が書いてあるかを把握し、自分なりにまとめてみること。次にテキスト全体を通読し、テキストの内容を理解する。そのうえで、自分はそれらの記述に対して、どのように考えるか叙述する。･京都イメージがいつ、どのようにつくられたか・日本史の中で京都はどのような位置にあるのか･京都という地域で各章にとりあげられた地域は、どのような特徴があるのか・京都の「洛中」と「洛外」の関係はどのようなものだったのか・各時代の国際社会と京都との関係はどうだったのか･京都の町に住んだ人々の生活はどのようなものだったのか・観光言説で隠されてきた京都の社会問題はどのようなものだったのか
■学習の到達目標	1:京都の歴史について、日本史上どのような位置にあるか理解できる。2:京都における人々のくらしがどのように形成されたのかを理解できる。3：京都を形づくる諸要素について理解できる。
■成績評価の基準	1：京都の歴史について、日本史上どのような位置にあったか理解できている。2：京都における人々の暮らしがどのように形成されたのかを理解できている。3：京都を形づくる諸要素について理解できている。

授業科目	京都の伝統芸能１				単位	2.0
担当者	斉藤　利彦			シラバスグループ	TX5280	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
京都の夏祭と民俗信仰１	八木透編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248750&refHpStenCode=68038}
京都の夏祭と民俗信仰２	八木透編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248881&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	京都が育み継承している芸能は劇場芸能、座敷芸能といったかたちで幾多もあります。「京観世」と呼ばれる能の観世流。南座の顔見世にみられる歌舞伎は京都が発祥の地です。上方舞のひとつ、井上流の舞も優美です。ですが、実は京都は民俗芸能の宝庫でもあります。京都の庶民が楽しみ継承してきた民俗芸能について、その歴史と特徴の知見を深め、理解をもつことは有意義なことといえましょう。　このような観点にたち、本科目では京都の伝統芸能のなかでも、「民俗芸能」を中心に学習していただきたいと思います。現在でも民俗行事として継承されている様々な民俗芸能を幾つか取り上げて、考えていきたいと思います。京都の文化について考える「時」と「場」としていきたいと思います。
■学習の要点	リポートでは、古代や中世から、近世、現在に至るまで変化を繰り返しながらも継承されてきた京都の民俗芸能を取りあげています。　第１設題において「六斎念仏」、「盆の踊り」といった民俗芸能をテーマにしましょう。両芸能は何も京都だけではありませんが、京都の民俗芸能としての「六斎念仏」、「盆の踊り」の特質と歴史的展開を考えてもらえればと思います。　現在も民俗行事として伝承されている諸事例が、うつりゆく時代の中でどのように変化し、またどのような意味を付与されて伝承されてきたのかについて注目して、芸能という範疇の幅広さや奥深さ、そして身近にある事例に隠された歴史の流れについて学習していきましょう。
■学習の到達目標	（１）テキスト学習を通して、京都という都市が育んだ芸能への興味、理解を深めている。（２）それらの芸能の歴史・特徴などを理解する。（３）第三者に解説できるようになる。

■成績評価の基準	（1）誤字脱字の有無（2）論旨が明瞭か否か（3）問題の主旨にそいながら回答しているか。（4）要点を過不足なくまとめているか。（5）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	哲学概論				単位	2.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB5432	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この、私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をまず、できるだけ詳しく答案に反映させることが求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	2.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5433	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化･文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。 ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。 テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。 くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。 また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。 １．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。 ２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。 ３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。 ４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。 ５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について。 6. エピクロスの倫理学と快楽の関係はどのようなものか。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	東洋文化史				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	西洋文化史				単位	2.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TQ5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
魔女・怪物・天変地異　―近代的精神はどこから生まれたか	黒川正剛著	筑摩書房	[ISBN]9784480016713

■授業の概要	中世末から近世にかけてのヨーロッパ世界では、「魔女狩りの激化」と「驚異の大増殖」という二つの出来事が同時代現象として噴出した。それは中世から近代へと移り変わる過渡期であり、中世的な考え方と近代的な考え方がせめぎあう時期であった。この授業では「魔女狩り」と「驚異」の歴史を考察することを通して、西洋における近代的精神がどのように生まれてきたのか理解することを目指す。
■学習の要点	まずは本テキストを通読し、「驚異」と「魔女／魔術」に対する人々の認識の変容について、全体像を把握してもらいたい。そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている内容の理解を深め、テキスト著者の主張を考察してもらいたい。その際、下記の参考文献やテキスト巻末に挙げられている参考文献なども活用すると良いだろう。1．近世以前のヨーロッパの人々の、「驚異」に対する認識と「好奇心」に関する考え方について、後世への影響も踏まえつつまとめる。2．大航海時代の幕開けが、ヨーロッパ人の「驚異」に対する認識と「知的好奇心」に与えた影響について、地図・植物誌・動物誌などにおける発展・変容を踏まえつつまとめる。3．16 世紀ヨーロッパにおける、新大陸をはじめとする異境由来の「驚異」についての認識と、「好奇心」に関する見解について、アンドレ・テヴェやアンブロワーズ・パレの著述を中心にまとめる。4．宗教改革前後の時代のヨーロッパ社会における、怪物・驚異を「世界の終末」や「神の怒り」として認識する傾向について、各地のさまざまな例を踏まえつつ整理する。5．近世を通して緩やかに進行した、「驚異の自然化」と「好奇心の近代化（名誉回復）」について、パレなどの萌芽的な動きと、中世的考え方を維持しようとする立場を対照させつつまとめる。6．魔女狩り激化の時代とその終焉以降において、「魔女」と「魔術／驚異」についての認識はどのように変化したか、例を挙げつつ整理する。7．近代的精神の成立に向けて、「悪徳としての好奇心」から「学知の起動力としての好奇心」へという変化について、それと連動したジェンダーの問題についても踏まえつつ、例とともにまとめる。
■学習の到達目標	「魔女／魔術」および「驚異」に対するヨーロッパの人々の認識の変容について学び、それを通して西洋の近代的精神とは何か、近代化とは何かということについて総合的な理解を得ること。
■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。　出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	交渉・交流史				単位	2.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5416	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
国際交易の古代列島	田中史生・著	KADOKAWA	[ISBN]9784047035676

■授業の概要	グローバル化が進展するこんにちではあるが、こうした「国際」的関係・交流は、日本列島を含む東アジアにおいては古代より見られるものである。本講義では、従来日本列島内部でのみ語られがちな古代史を、首長層の交流や民間海商の活動など、国際的交易の観点から学修する。
■学習の要点	テキストを的確に講読し、それをノートなどにまとめておくとよい。またテキストだけでなく、様々な文献にも目を通し、意見の相違などを理解しておくこと。また古代の交流を日本の立場だけでなく、中国から見た場合、どう理解できるかも、積極的に考えること。
■学習の到達目標	①日本列島を含む東アジア古代の交流・交渉の歴史について、その流れを理解している。②東アジアにおける古代の交流・交渉について、具体例を挙げながら的確に述べることができる。③東アジア古代の交流・交渉の果たした役割について、適格に述べることができる。
■成績評価の基準	①テキストが的確に読めているかを基準とします。②他の文献や意見を参照して、テキストとの異同を理解できているかを基準とします。

授業科目	書誌学				単位	2.0
担当者	濵田　泰彦			シラバスグループ	TM5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
江戸の板本　書誌学談義	中野三敏	岩波書店	[ISBN]9784006003395

■授業の概要	（一）書誌学は個々の書物の特質・特性を見定めることに主眼をおいた学問である。そのためには、他の書物との類似・相違点を見つけ出し、特質を認知しなければならない。したがって、実際に和本（板本）を手に取って調査することを推奨する。（二）書物に共通している部位・箇所があり、かつそれらに与えられた名称及び正確な知識とそれに基づいた調査手法を修得しなければならない。（三）書物の各部位・箇所についての名称や詳細な知識を身につけ、様式（ジャンル）の異なる書物の調査についても、対応できるようにする。（四）書誌学は、書物を最も重要な研究のメディアとする文学や史学研究の補助科学の一つであるが、その研究のためには、逆に文学・史学・美術史・工芸史等、さまざまな領域の知識が必要であると認識すること。
■学習の要点	古典籍は、なおまだ古い民家や寺社、図書館など身近な所に所蔵されていながら、未調査のまま眠っているものも数多くある。現在、『国書総目録』（岩波書店）や「日本古典籍総合目録データベース」（国文学研究資料館ホームページ：http://base1.nijl.ac.jp）などによって知られるものは約 70 万点といわれているが、その内 9 割以上は未だに活字化（翻刻）も紹介もされていないと考えてよい。これらの身近にありながらまだ知られていない新資料、その反対に市中にありふれた江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することが本科目のねらいである。書物とどう対峙し、取り扱い、調査し、その本独自の特質を書誌記述するために知識と技術を身につけて欲しい。　テキストは簡潔で分かりやすく、読めばすぐに理解できるはずであるが、上記の目的から是非とも和本（版本）と遭遇して、その本の独自の特色をどう認知することができるか、実践的な調査を行う機会ならびに契機となるよう役立てて欲しい。
■学習の到達目標	１．江戸時代の出版物について調査するにはどうしたらよいか、その知識と技術を習得することを目標とする。その学習の到達度に即して成績評価する。２．箇条書き指定の問題については、各箇条毎に見出しを記すとともに、具体的な調査理由も明記すること。また、どの問題についても、正確な書誌学用語を用いて答案を作成するよう心がけること。
■成績評価の基準	試験問題に関わる重要なキーワードや、具体的で正確な説明等に対して加点し、これをもって 100 点満点とする。なお、正確な書誌学用語が用いられていない場合、加点対象とはならないので注意すること。

授業科目	日本思想史				単位	2.0
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	TQ5419	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
概説日本思想史	佐藤弘夫　編集委員代表	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623043033

■授業の概要	本科目においては、日本の古代から現代にいたる日本思想の歴史を学ぶ。日本の思想の特徴としては、伝統的な思想を保持しようとする傾向、海外思想を取り入れることによりその後進性を克服しようとする努力、新旧両思想の反発と融合による二重構造の形成といったことが指摘できる。日本の思想や文化、その歴史や伝統を学ぶことは、民族の歴史や伝統を再検討・再認識することでもあり、また、思想や文化の新しい進路を探ることにつながる。
■学習の要点	テキストは古代から現代までの通史である。第１章 「日本の誕生」～第２５章「国民と市民の相克」からなるが、最初に目次を参考に、各章の特色を把握すること。試験問題は、各時代において基礎的に重要と思われる事項や思想について出題している。テキストは通史また概説書として編纂されたものであるので、参考文献を手がかりに、より一層の考察を深めてほしい。１．奈良時代の仏教と寺院２．摂関政治と国風文化３．平安時代の仮名文学と物語文学４．中世の文芸と芸能の思想５．近世の町人の思想・農民の思想６．大正デモクラシーの思想
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。・問題はテキストに即して出題する。出題意図、問題内容、何を書くか、結論はどうするか、じっくり考えて解答すること。・誤字脱字、文体の不統一、不自然な表現や意味不明な表現がはなはだしい場合は不合格とする。・採点は加点方式を基本とする。問いに対して解答するに必要なキーワードがすべて含まれていると 60 点とする。・出題の要点を正しく理解していて、表現が的確であり、主張の要旨が明快であれば高く評価する。
■成績評価の基準	出題の要点が正しく理解できていること。表現が的確であること。主張の要旨が明確であること、等を評価の基準とする。

授業科目	東洋思想史				単位	2.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
入門 中国思想史	井ノ口哲也著	勁草書房	[ISBN]9784326102150

■授業の概要	中国思想の変遷について、各時期の思想的特色を規定する時代背景をも視野に入れて、殷周期から近現代までを通史的に理解する。
■学習の要点	学習に当たっては、春秋末～戦国期における諸子百家の出現、秦始皇帝の統一～前漢武帝期における思想動向、魏晋南北朝期における道教・仏教の隆盛、宋代における朱子学の成立とその後の展開、明代～清朝における考証学および西洋思想との邂逅、清朝後半期～民国期における近代思想の展開等に注意しながら取り組むこと。
■学習の到達目標	①中国思想の変遷を的確に説明することができる。②各思想は、相互に影響しあいながら成立していることを説明することができる。③各時期の思想的特色を、歴史的背景をも視野に入れて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の到達目標に示した①～③の点が、どれだけ達成されているかによって評価する。到達目標②③が不十分であっても、①ができていれば 60～69 点、十分とはいえないが①～③のすべてに論及できていれば 70～79 点、①～③をほぼ達成できていれば 80～90 点、①～③を十分に達成していれば 90～100 点。

授業科目	西洋思想史				単位	2.0
担当者	山内　暁子			シラバスグループ	TQ5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
学問としてのオリンピック	村田奈々子・ 橋場弦著	山川出版社	[ISBN]9784634640849

■授業の概要	2021 年に東京で開催された現代のオリンピックは、古代ギリシアにおける「オリンピア祭」にならったものです。ギリシア人はオリュンポス十二神を中心とする多神教を信仰し、オリンピア祭はゼウスへの動物犠牲を主な儀式とする宗教行事でした。同時に、祭典は古代市民たちが冠と名誉をかけて戦う場であり、多くの情報交換や政治・哲学・芸術などのアピールを可能ともしたのです。授業のテキストはオリンピア祭だけでなく、それを近代オリンピックへと転換した思想的バックグラウンドについても取り上げており、今日的観点からもオリンピア祭を考えることが可能です。第 4 章「スポーツを科学する」は、思想史の観点からはやや異質で、リポートや試験についてはその他の章に重点を置いた記述をするように注意してください。古代の祭祀については、第１章と第３章を参考にし、思想としてオリンピックを考察する際には第２章と第５章を熟読することを勧めます。古代の祭儀について詳細な情報が欲しい場合は、参考文献として挙げる桜井万里子・橋場結弦編『古代オリンピック』を読んでください。古代ギリシア人が実践した祭儀を、なぜ現代世界において私たちが受け継いでいるのか、あるいはオリンピックとはどのような歴史観が反映されたものなのか一自ら問いかけながらテキストに取り組むことによって、オリンピックについて独自の考えを持てるようになることが、この講義の目的です。
■学習の要点	テキストの記述は平明で分かりやすく、読み進めやすいのですが、何人かの著者によって書かれたものであるという性質上、通読が難しく感じる部分もあるかもしれません。自分が興味を持ったテーマについての関連部分をチェックし、そこを中心に読み解くことを勧めます。「授業の概要」で上述した通り、古代の祭祀については『古代オリンピック』が参考になりますし、テキスト巻末の参考文献リストには、日本語で読める一般書や古典史料が案内されているので、自分が興味を感じたものを手に取ってみてください。もちろん、テキスト一冊を深く読み込むことも大切ですが、自分が関心を持った部分だけでも理解を広めていただきたいと思います。テキスト第 3 章は考古学的遺物、すなわち「モノ」を中心としてオリンピックを概観した部分ですが、このように「モノ」や視覚的史料に基づいて知見を深めることもひとつの方法です。参考にした文献はリポートなどにきちんと明記して、テキスト理解のための努力をアピールしてください。自分独自の観点から、テキストに接近していくことを試みてください。
■学習の到達目標	設問の内容をよく理解し、テキストをよく読んだ上で設問の指示に従って内容をまとめるようにしてください。史実や用語が正確であること、また明快な文章での論述を心がけるように。学習の到達目標は、テキストを入口として、古代ギリシア社会の様相と、それを後の時代がどのように受容したかについて、自分なりの歴史像を持つことです。最終試験における評価基準は、上記のリポート評価基準と同様ですので、これらの点に気を付けて解答してください。評価については、テキスト読解の力を中心としていますので、テキストをきちんと

	読み込んで、テキス

■成績評価の基準	歴史学においては、様々な仮説が検討されており、いろいろな解釈が可能な事象が多くあります。しかし、一方でいくつかの考察を経て定着した用語や、歴史的経緯の説明については広く共有され、議論の基盤となっています。受講生の方にはテキストや参考文献を読み、古代ギリシア社会についてある程度の立体感を持った歴史像を抱いてもらい、それを解答で表現できるようにして欲しいと考えています。テキストに書いてある歴史的な事例や、遺物や遺跡などについて、具体的かつ正確な解説を行うことが、まず第一です。紹介されている事例について正しく理

授業科目	宗教文化				単位	2.0
担当者	熊谷　貴史・斎藤　英喜			シラバスグループ	TQ5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本文化の歴史	尾藤　正英　著	岩波新書	[ISBN]9784004306689

■授業の概要	日本文化の歴史を、仏教の受容とその影響に主眼をおいて概観する。

■学習の要点	インドにはじまる仏教は、地域や時代を経て、ダイナミックに展開しながら日本へと東漸した。日本の文化史を概観すると、大陸からの先進的な諸文化の受容と、それらを日本的に応用・変容していく流れがある。とくに古代～中世にかけては、漸次もたらされた仏教にかかるウエイトが大きい。ただし仏教にも様々な哲学や思想があり、その違いにより、文化としての表出の仕方も異なる。仏教思想の根幹と多様性をおさえ、それらが日本でどのように受け入れられ、また影響を及ぼしたのか、という点を整理・理解することが学習の要点となろう。

■学習の到達目標	日本文化の流れのなかで、仏教がどのように受容され、影響をおよぼしたのか、その要点を説明できるようになる。

■成績評価の基準	・該当する対象を的確にとりあげ、論述されていること。・項目の羅列や用語説明ではなく、日本文化の流れを視野に入れて論述されていること。・テキスト等の書き写しではなく、各自の言葉で論述されていること。

授業科目	国際政治学				単位	2.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	宗教学概論				単位	2.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
宗教学概論	菅井大果	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248785&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	宗教学は、特定の宗教への帰依を前提とせずに、宗教を文化現象として見ていく。様々な信仰形態に対して寛容な態度を維持しながら信仰生活の事実を探求するのである。探求の対象は世界宗教であったり、また、迷信としたときに軽んじられる信仰形態であったりする。さらには宗教一般に対しての否定的な態度や議論も考察の対象とする。現代は一見したところ宗教が日常の生活を律することはない。しかしこのことは、私たちから信仰心がなくなってしまったことを意味しない。信仰はかつてない多様さで生活に生きている。日頃の経験を振り返りながら、自らの信仰のありどころを探るよすがとして、この学問に入っていただきたい。

■学習の要点	テキストにはさまざまな観点から多様な宗教が描かれる。とくに、日本での信仰形態が詳説されている。最初はこの多様性にとまどうかも知れないが、現代の日常生活のなかの宗教を探るには、このような錯雑した観点が欠かせないのである。複雑さにたじろぐことなく、自分の経験を見つめ直す機会としていただきたい。　・宗教一般など宗教史学の成立と展開について考える。　・宗教社会学とはどんな学問かについて考える。　・宗教の起源説の諸相を考える。　・神話と儀礼の関係を考える。　・宗教集団の近代化を考える。　・御霊信仰について考える。

■学習の到達目標	テキスト内容の正確な理解が求められる。自分の感想でなく、テキストのできるだけ忠実な再現がまず必要である。言葉を大切に、慎重に扱うこと。答案は他人にそのまま伝わるような明快さが求められる。

■成績評価の基準	テキストの情報がよく理解されているかどうか、引き写しではない自身の言葉による表現かどうかを基準とします。

授業科目	博物館概論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5523	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館について、歴史、種類、機能、目的などの基本的な論点を整理し、理解を深めながら、現代そして将来において求められるべき博物館のあり方を考える。
■学習の要点	科目最終試験の各問題はそれぞれテキスト『新時代の博物館学』で、各章を構成する節に含まれる項目として整理されています。問題はそのような項を確実に学習すれば解答できるように作成してありますので、対象となる項を熟読して、試験に備えてください。　要点について、テキストから抽出して、学習することが重要です。
■学習の到達目標	どの問題についても、テキストを読み、その論旨や要件を具体的で明瞭にまとめることが、解答を書くためのもっとも大切な点です。ですから、特にそれぞれを説明する際に必須となる用語を欠かさないように記述してください。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館経営論				単位	2.0
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	TX5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館の経営とは一般企業のように、たんに経済的利益を追及するのではなく、博物館の目的と機能を十全に動かしていくことを指しており、むしろ博物館の運営といった方がよい。現代の博物館の環境は，以前とは異なり大きく変化してきた。この大きな変化が何によるものかを考えていくとともに，博物館や学芸員はどのような働きをすべきかを模索することが、本科目の目的とするところである。
■学習の要点	博物館経営に関する基本的な知識についての理解を図るためにテキストでは意義や方法･職員と組織･制度･施設と管理･社会連携の四つの観点から説明しているので、これらを核として学習を行う。
■学習の到達目標	（１）博物館経営に関する基本的な知識についての理解を深める。（２）博物館経営の意義や方法･職員と組織･制度･施設と管理･社会連携の四つの観点から説明できるようになる。
■成績評価の基準	（１）誤字脱字の有無（２）論旨が明瞭か否か（３）問題の主旨にそいながら回答しているか。（４）要点を過不足なくまとめているか。（５）論述の際、具体的な事例などをあげるなどして、具体性をもたせているかどうか。

授業科目	博物館資料論Ⅰ				単位	1.0
担当者	苫名　悠			シラバスグループ	TX5525	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館に関するいろいろな問題のなかで、学芸員として必要とされる資料の収集、整理、保存や展示および研究と普及等に対しての実践的な知識や方法について学習する。
■学習の要点	博物館資料をめぐる具体的な知識および実際的な整理や作業の方法を把握してください。解答の端緒はテキストをさがすと、該当部分がありますので、テキストを精読することによって、解答は自ずと発見できます。
■学習の到達目標	リポートを含めて、博物館資料に関する知識と技能について学習することが目標です。最終試験の問題についてはテキスト「第３章　博物館資料論」に設問と対応する節がありますので参照してください。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館資料保存論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5527	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館資料を保存の観点から捉え、博物館における資料保存の意味と意義を知り、資料の保存および修理・修復などの実際と展示および収蔵の関係を理解し、博物館における資料保存の問題の基本的理解を養う。
■学習の要点	博物館資料保存について、基本的理念や法的環境を学んだ後、資料の保存や修復方法、資料の保存環境、生物被害などの資料の劣化などの資料保存に関する具体的な方法を理解し、最後に資料保存をとりまく社会的環境について理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館展示論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5528	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館の基本的な機能である展示について、基本的理念と具体的な方法を把握した後、実際の展示の事例を理解することによって、展示を通して博物館の活動に対する基本的な知見を理解することを目的とする。
■学習の要点	展示は博物館の基本的機能であり、展示を知ることは博物館の活動の基幹を理解することにつながる。よって本科目では博物館における展示についての概念を示し、展示の歴史を通覧したのち、展示に関する実践的な方法を学ぶ。さらに展示環境と設備や展示解説などの展示に関する基本的な事項の理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	博物館情報・メディア論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館情報・メディア運用の方法論には、博物館学のみならず、教育学や著作権などの法律などの幅広い分野の議論が関連している。本科目では、博物館における情報伝達過程とメディアの役割について、これらの分野のエッセンスを紹介し、博物館情報・メディア教育の実践に必要な知識を身に付けることを目的とする。
■学習の要点	博物館における情報・メディアの発展は、広い領野における「教育」に多大な影響を及ぼしてきた。情報機器（伝達手段＝メディア）の進展は、そうした影響をさらに大きくしている。しかし、その一方で博物館における情報・メディアの運用とは何か、という問題が複雑化したことも事実である。本科目では、博物館における情報・メディアの展開を紹介しつつ、博物館における情報・メディアのあり方や本質について学ぶ。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	教育学概論				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TS5747	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「学校教育と社会」ノート―教育社会学への誘い(第3版)	山内乾史著	学文社	[ISBN]9784762029325

■授業の概要	グローバル化する社会の中で、日本の教育はどうあるべきかを考察する。日本の教育を客観的に見る視野が求められる。
■学習の要点	教育の本質は何かを、現在の学校に焦点をあてて考える。諸外国との比較の中で、日本の教育問題を客観的にみる。　・学校教育と社会との関係について考える。　・高学歴者はなぜ尊重されたのかについて考える。　・エリート教育、才能教育について考える。　・日本の授業料政策・奨学金政策の特徴について考える。　・日本の大学院修了者の就職問題について考える。　・日本の大学生文化の特徴について考える。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。
■成績評価の基準	自分自身の教育論をはっきりと確立できているかが成績評価の基準になる。テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。

授業科目	博物館教育論				単位	2.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館で行う教育は学校とは対象も方法的にも異なる。このような博物館における教育活動について、歴史と背景、学芸員の教育活動、具体的な方法、博物館教育の実例を学び、博物館教育の現状を理解し、博物館固有の機能を背景とした教育について基礎的理解を形成することを目的とする。
■学習の要点	博物館の主要な機能として位置づけられる教育について、歴史をふまえつつ、実際の学芸員の活動と具体的に方法を学ぶ。そのために近年、課題となっている博物館と学校の連携、ワークショップ・ハンズ・オン・アウトリーチ等の具体的方法について学習し、実際的な教育の事例によって博物館における教育に対する理解を深める。
■学習の到達目標	問題は、いずれもテキストにそって出題しており、テキストの該当部分はおおむね 1,300～1,500 字程度で記述されているので、これを各自で整理して記述すれば解答になります。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	人権（同和）教育				単位	2.0
担当者	後藤　直			シラバスグループ	TS5481	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要

1965 年の「同和問題の早急な解決は国の責務であり、国民的課題である」とした同和対策審議会答申以降、行政施策などによって住環境、産業・就労など同和地区の実態は改善され、人々の人権意識も大きく変化してきた。教育においては「今日も机にあの子がいない」という長欠・不就学の解消を契機として就学保障→進路保障そして学力保障へとシフトしながら被差別部落児童生徒の学力向上を目的とした同和教育が約半世紀間にわたって取り組まれてきた。同時に同和教育は日本における人権教育のさきがけとして被差別部落の子どもたちの教育権だけでなく障害をもった・外国籍などのマイノリテイの立場にある子どもたち、そして一人ひとりの子どもの教育権の実質化へ向けた取り組みへと広がりを見せた。このように戦後の反差別教育の牽引役であり今日的な人権教育の礎となった同和教育 50 年の取り組みに学ぶところは少なくない。　1994 年国連は『人権教育とは知識共有、技術伝達、態度形成をとおして人権という普遍的文化構築のための教育・研修および情報である』と定義した。1995 年から 2004 年までの人権教育の国連 10 年をベースとして行動計画などを立てながら国や自治体レベルで人権教育が取組まれて 20 年が経過した。このような中、都道府県や市町村の人権教育指針などが新たに示され人権教育が新しく展開されておりテキストなどを中心に今日的な人権学習実践の考察を行う。　20 世紀後半から 30 年以上取り組まれてきた同和（行政）施策が（国レベルでは）2002 年 3 月に終結し、その後、自治体レベルにおいても完全に終結を見ている。しかし今なお、産業・就労・教育などの面で課題が残されており、啓発面においても、被差別部落に対する差別観念が根強く存在していることも否定しがたい事実である。　このような状況の中「インターネットなど部落差別が新たな状況にあること」を踏まえ「①国と地方公共団体の責務を定め②相談体制の充実を図り③教育と啓発を行い④実態調査を行う」−を柱とした「部落差別の解消の推進に関する法律（案）」が 2016 年 12 月に成立施行した。2016 年４月の「障がいを理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が 6 月に施行され、先のマイノリティ三法を軸に「人権問題に関する新たな展開」が今日的に求められている。　本学に学ぶ一人ひとりが、この部落問題をはじめ今日の人権問題の現状と課題について認識を深めることによって、すべての人々が自分が大切にされ、共に生きていく社会の実現への一歩となるのである。人権（同和）教育は、そうした人権・部落問題の解決に向けた教育活動として、差別の現実から学びつつ、一切の差別を許さ

	ず、人権文化の創造をめざして豊かな実践を積み重ねてきている。そしてその実践は、今日の人権教育の創造・発展・展開を牽引するものである。すべての学校で確かな人権教育を実践していくには、同和教育のあゆみをしっかりと学ばなければならない。　本科目は、すべての人の生き方を問い、人と人との豊かなつながりを求めるものとして、学習することを望むものである。
■学習の要点	部落（同和）問題の歴史的経過と人権を取り巻く状況、同和教育のめざす理念とその実践のあゆみと現状や、同和教育と人権教育との関連について学習を深め、以下の６点をまとめてみること。その際、多くの参考文献から様々な取組の事例や論議について積極的に学ぶとともに各自の小・中・高校での学習体験やこれまでの生活と結び付ける視点を持つこと。 １．人権・部落問題が重大な社会問題とされる理由について。　・同和対策審議会答申などの資料の理解とともに、人権・部落問題とつながる自分自身の　生活経験などを振り返ってみること。　２．中世以降の部落や差別の起源やありよう、近代以降の部落問題解決に向けた取組について。　・従来の近世政治起源説にとらわれることなく、歴史学習・部落史学習の在り方について　考察を深めること。　３．人権（同和）教育が必要とされる理由について。　４．人権教育と同和教育の関連について。　５．国連人権教育の定義と人権（同和）教育のあり方について。　・以上２点では、同和教育の理念とあゆみ、具体的実践を確認し、その普遍化としての人　権教育の創造に向けた先進的な取組事例を積極的に学ぶこと。　６．学校教育における人権（同和）教育を実践していく上で、重視しなければならない諸点に　ついて。　・対象、方法、目標、内容などについて基本的事項をまとめるとともに、それらを踏まえた具体的な学習活動のあり方を構想してみること。
■学習の到達目標	「学習の要点」にある学習目標に即してテキスト学習を進めること。テストは学習の進度と理解度を測るものであり、その到達度に即して成績評価を行なう。したがって、科目最終試験は「問題の要点を正しく理解し、その要旨に即して論理的に論述する」内容面と「論述は 2000 字以内で」との量的内容の両面から採点を行なう。
■成績評価の基準	学習進度と理解度を到達度に即しての成績評価。内容としては課題に即した論理的な論述。量的には 2000 字以内。

授業科目	日本国憲法				単位	2.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TA6109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
一歩先への憲法入門 第 2 版	片桐　直人･井上　武史･大林　啓吾／著	有斐閣	[ISBN]9784641228238
憲法判例 50！ 第 3 版	上田　健介･尾形　健･片桐直人／著	有斐閣	[ISBN]9784641228467

■授業の概要	憲法は国家の根本法であり、最高法規である。この憲法において自由主義・民主主義・平和主義が保障されており、国民はその利益を享受しているのである。この憲法の精神に照らした民主的で文化的な国の建設、国際貢献の実現は教育の力によると教育基本法が明言しているところ、特に教育関係者には憲法の正しい理解と認識が求められる。そこでは、憲法学における日本国憲法の論じ方を理解する必要がある。憲法の実践は理論と判例の両側面から成り立つため、学習にあたっては近年の判例動向にも注意されたい。
■学習の要点	テキストを参考にしながら次の項目を中心に学習してください。() 内は対応する Unit のナンバーです。学習に際しては、各段落ごとに示されている内容を、論理に沿って理解することを意識してください。　１．憲法と立憲主義（1）：憲法とは何か、憲法の歴史　２．日本国憲法の基本原理（２～４）：権力分立、国民主権、天皇　４．民主政と統治機構（５～１１）：国会、内閣、裁判所、地方自治　５．平和主義（１２）：平和主義の理念と現実、憲法９条の解釈の変遷　６．人権保障の仕組み（１３）：日本国憲法と人権、公共の福祉による人権の制約　７．精神的自由①（１４～１６）：思想・良心の自由、信教の自由、政教分離　８．精神的自由②（１７～２０）：表現の自由、集会の自由　９．経済的自由・手続的権利（２１～２３）：職業選択の自由、財産権、刑事手続上の権利　１０．社会権（２４～２６）：社会権の意義、生存権の法的性格、教育を受ける権利の意味　１１．平等原則（２７）：平等の意味、差別が禁止される事柄、性別をめぐる問題の動向　１２．自己決定権・プライバシー（２８～２９）：個人の尊重と新しい人権、自己決定権の限界、プライバシー権論の展開
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解し、憲法学の考え方に基づいた解答が述べられていること。テキストの記述や関連判例を踏まえた論述の展開が求められる。・評価項目として、日本語として正確かつ論理的な文章であることが求められる。

授業科目	スポーツ論入門				単位	2.0
担当者	山口　孝治			シラバスグループ	TA6501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
健康・フィットネスと生涯スポーツ　三訂版	東海大学一般体育研究室編	大修館書店	[ISBN]9784469268874

■授業の概要	運動（スポーツ）は，食事・睡眠とともに子どもの発育発達に欠かせない。この生活習慣を大人になっても継続することが健康の維持・増進の秘訣となる。しかしながら，一般的に青年期になると運動する時間が少なくなる傾向にある。学習活動（職務）の多忙化や生活の利便化などによって屋外で遊ぶ時間や運動（スポーツ）に親しむ機会が減り，運動（スポーツ）が疎遠になっていく。これより，生活様式の変化をよく認識し，運動（スポーツ）の大切な点と効用を学ぶ必要がある。　本科目では健康の意味や意義の確認，健康体であるための生活の仕方や運動（スポーツ）の役割の理解，とりわけ，運動処方の理解を目指す。さらに，生涯スポーツの視点からスポーツの楽しみ方を，行う，観る，支える，調べるから学ぶ。これにより，生涯にわたって運動（スポーツ）に親しむ態度が少しでも涵養されることを期待する。
■学習の要点	テキストは「健康・フィットネス」及び「生涯スポーツ」の２部構成になっている。　第１部の「健康・フィットネス」における学習の要点は以下の通りである。１．健康，とりわけ「心の健康」についてストレスとの関係について理解する。２．生活習慣病の要因と対処法について理解する。３．健康体を維持するために，「運動・休養」，「食事」，「喫煙・飲酒・薬物乱用」の観点から望ましいあり方について理解する。４．トレーニングの原則とその効果，トレーニング処方について理解する。５．エアロビクス運動，筋力トレーニング，ストレッチング，コーディネーショントレーニングについて，目的･方法･効果を理解する。　第２部の「生涯スポーツ」における学習の要点は以下の通りである。６．スポーツの意味と価値，また，生涯スポーツの考え方について理解する。７．生涯スポーツを実践する上で，その楽しみ方について「行う」，「観る」，「支える」，「調べる」の観点から，ねらいや行い方について理解する。８．各スポーツについて，歴史や特性，行い方（ルールなど）について理解する。

■学習の到達目標	１．シラバスの「学習の要点」に書かれた内容が説明できる。２．１に加えて，さらに自分の考えを述べることができる。

■成績評価の基準	問題に対する解答が，テキストに記載された内容を踏まえたものになっていること（個人の考えのみによる記述は評価できない）。

授業科目	英語コミュニケーション				単位	2.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TA6301	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN

本科目は、デジタル教材「総合英語コース８（ReallyEnglish 社)」を使って学習します。学習を始めるには、まず下記の専用サイトからコンテンツ（教材）を購入（コンビニ決済）してください。購入後、1 年間利用可能です。※※※ {購入サイトはこちら,https://go.reallyenglish.jp/ja/bukkyo-u} ※※※専用サイトからダウンロードできる {受講マニュアル,https://b-net2.bukkyo-u.ac.jp/uptusin/faces/bnet/pdf/syllabus/22_A6301_Z1003.pdf}をよく読み、まずは診断テストから実施してください。その後は、自分のレベルにあったコンテンツが提供されます。レッスンに取り組み、小テストに合格することで次のレッスンに進むことができます。小テストを受ける前に、練習問題に取り組んでおくことが望ましいです（解説があります)。なお、この教材はどのデバイス（パソコン、タブレット、スマートフォン）でも利用可能です。教材に関する問い合わせは、マニュアルに記載のサポート窓口までお願いします。合格後も復習できますので、英語力 UP に役立ててください。

■授業の概要	生きた英語の学習を通して英語でのコミュニケーション能力を向上させるのがねらいである。そのためには「読む、聞く、話す、書く」の４技能の向上が必要だが、この科目では特に正確に読む能力を身につけてもらいたい。文法、語彙、イディオムなど、正しく英語の文章を読むためには欠かせない力を出来る限り多くインプットしてもらい、英語でコミュニケーションが出来る下地を作ってもらいたい。
■学習の要点	まずはレポート提出までに 25 レッスンを受講すること。さらに、レポート提出後試験までの間にさらに 15 レッスンを受講してもらう。その中で間違った問題について振り返り、どんな力が足りなくてその問いを間違えたのかを分析すること。そのように自分の弱点についての分析を行うことにより、自分にはどういう力が必要なのかを知ってもらいたい。
■学習の到達目標	基礎的な英語の文章を正しく理解し、正しい英語で自分の言いたいことを伝えられるようになることが目標。
■成績評価の基準	(1) レッスンを通して分かった自分の弱点を把握できていること(2) 文法的に正しく適切な単語や表現を使って英語の文章が書かれていること(3) 自分独自の意見が書かれていること(4) 説得力ある客観的な視点で文章が書けていること

授業科目	情報処理入門					単位	2.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TA6110		
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1		

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
情報処理入門 -Windows10&Office2016-	長尾文孝	共立出版	[ISBN]9784320124240

■授業の概要	情報の入手、加工および伝達、すなわち情報処理にコンピュータを用いることは、現在の社会では当たり前の事となっている。特に、インターネットの発達が我々の社会にもたらした影響はとても大きく、今やほぼリアルタイムで情報の入手や発信が可能であり、情報のデジタル化の波は社会全体に広がっている。今後、この傾向はさらに加速し、ユビキタス・コンピューティング（どこにいてもコンピュータネットワークにアクセス可能な）の世界が近い将来に実現する事になるだろう。こうした社会の進化に対して必要不可欠な事は、我々個々のコンピュータを用いた情報処理能力の向上である。したがって本科目では、主にパーソナルコンピューティング知識と技術の向上を目指し、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトを用いた情報処理に加えて、インターネットやメールソフトなどを用いたコンピュータネットワークを利用した情報処理に関する基礎的知識および技術を向上させることを目的とする。
■学習の要点	科目の概要でも述べたように、現在の情報処理に用いられるツールはコンピュータであるため、コンピューティングの能力が要求される。したがって、実際にコンピュータを使う事が必須であり、コンピュータを使用できなければこの科目は履修できない。コンピュータを使いながら、コンピュータのハードに関する知識はもちろんの事、ソフトに関する知識や技能も身につけて欲しい。本テキストではコンピュータに関する基礎的事項を全般的に包括しているので、分からない操作方法などはテキストを読んで理解を深め、同時にコンピュータに関する全般的な知識も得て、パーソナルコンピューティングの技能を高めて欲しい。
■学習の到達目標	本科目で学習したテキストの内容、コンピュータの操作法やソフトの操作法等をきちんと習得していること。それから、それぞれのソフトの機能を整理して自分のものとしていることが到達目標である。
■成績評価の基準	リポートの評価基準：(1)ポスターとしてデザイン性と訴える力が優れているか(2)客観的に評価でき、改善点が指摘できているか(3)情報を正確にデータ化、グラフ化、かつ客観的説明ができているか(4) プレゼンテーションとして適当な内容、時間であるか。科目最終試験の評価基準：問題に対して的確に答えているか。包括的に欠落なく説明できているか。教える対象および教える事項が論理的に矛盾なく、分かりやすいかどうか。 が評価の基準である。

授業科目	学校教育職入門				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育原論１				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TZ5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二Ｘ	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第１部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。２．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。３．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育心理学１				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TZ5204	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育社会学１				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	1960 年代から高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、「一億総中流」と呼ばれる社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしました。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが「格差社会」と呼ばれるような社会問題を引き起こしているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　１．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされている学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　２．学力低下については諸説があり、いずれも一長一短の議論です。しかし、これほど学力の問題が論じられている背景には何があるのかを考えてみれば、教育改革が何を意図しているのかにたどり着くはずです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な

	構成になっているかどうか。

授業科目	学校教育課程論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳教育の研究				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動研究				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法学１				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために， 1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	生徒指導・進路指導の研究（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の研究				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育評価				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	学校教育課程論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳教育の研究（中）				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。

■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。

■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。

■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動研究（中・高）			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法学１（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育相談の研究（中・高）				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育評価（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）2）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。3）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。4）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。5）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】1．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。2．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。3．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。4．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。5．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。1．問題の要求にきちんと応えられている。2．記述がテキストの内容を踏まえている。3．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	教育実習研究（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5634	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	介護等体験研究				単位	1.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TZ5811	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑬　教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹　著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
介護等体験ブック　新フィリア	全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟編著	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715226

■授業の概要	小学校・中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者には、この「介護等体験」が課せられています。この目的は、介護等体特例験法で「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずる」とされているとおりです。　この「介護等体験研究」は「介護等体験」に先立ち、その現場となる特別支援学校や社会福祉施設、障害者や高齢者に関する知識を身につけ、必要な心構えを持つために設けられた科目です。　この科目においては、その趣旨にかんがみ、講義やテキストによってその内容を充分に理解するように努めてください。
■学習の要点	1．特別支援学校における介護等の体験について学習することは、障害児の心理的特性、生理・病理的特性、教育法に関する知識を身につけることと深い関わりがある。またこれら障害児に対する人間的理解も求められている。従って、「介護等体験」に課せられた短い期間で学習する内容は限られたものであるが、実は関連する広範な学習課題があることに留意し、この科目を通して適宜専門的な領域についても学習すること。2.「介護」の礎として、「すべての人間はなんらかの障害を持っている」ことを根底とした WHO の国際生活機能分類（ICF)、障害の意味とノーマライゼーションの原理は、専門的介護プロバイダーのみならず、教育に携わる者にも必須であることを学習すること。3．人間の福祉（Well-being）の全体性に関わり、対人社会サービスを必要とする利用者を理解し、利用者の自律と生活機能の自立を支援し、代弁者の介護力の軽減と教育を深め、コミュニティケアの実践を推進し、権利擁護、個別性に応じた具体的な援助を学習すること。
■学習の到達目標	介護等体験について自分なりの意義を見出すことができる
■成績評価の基準	設題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	教育原論				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TZ5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	学校教育職入門			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育社会学				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	1960 年代から高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、「一億総中流」と呼ばれる社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしました。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが「格差社会」と呼ばれるような社会問題を引き起こしているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　1．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされている学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　2．学力低下については諸説があり、いずれも一長一短の議論です。しかし、これほど学力の問題が論じられている背景には何があるのかを考えてみれば、教育改革が何を意図しているのかにたどり着くはずです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な

	構成になっているかどうか。

授業科目	教育心理学				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TZ5204	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	学校教育課程論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳の理論及び指導法（中）				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	特別活動の指導法（中・高）			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法学（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために， 1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法（中高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法（中・高）				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可）。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5833	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育原論				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TZ5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二Ｘ	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第１部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。２．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。３．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	学校教育職入門			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育社会学				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	1960 年代から高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、「一億総中流」と呼ばれる社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしました。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが「格差社会」と呼ばれるような社会問題を引き起こしているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　1．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされている学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　2．学力低下については諸説があり、いずれも一長一短の議論です。しかし、これほど学力の問題が論じられている背景には何があるのかを考えてみれば、教育改革が何を意図しているのかにたどり着くはずです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な

	構成になっているかどうか。

授業科目	教育心理学				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TZ5204	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	特別な教育的ﾆｰｽﾞの理解とその支援(中・高)				単位	1.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TZ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育の基礎・基本（2020）	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715486

■授業の概要	通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上･生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。
■学習の要点	１．特別支援教育に関する理念・制度について学ぶ。２．心身の発達の概要と様々な障害について学ぶ。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要について学ぶ。
■学習の到達目標	１．特別支援教育に関する理念・制度を理解する。２．心身の発達の概要と様々な障害を理解する。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要を理解する。
■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現すること。

授業科目	学校教育課程論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳の理論及び指導法（中）				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	総合的な学習の時間の指導法（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TZ5208	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑧総合的な学習の時間	森田真樹、篠原正典編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081912

■授業の概要	総合的な学習の時間の導入背景、意義と教育課程での位置づけを学ぶ。総合的な学習の真の効果を上げるために、学校内横断的なカリキュラムマネジメントに基づく年間指導計画、単元計画の作成が重要となる、その作成の考え方と実際の作成法を学ぶとともに、教科学習からより深い探求的な学びを行う学習過程と学習行動の指導法および評価法を学ぶ。さらに、小学校での総合的な学習事例から、実践に応用できる知識・技能を学ぶ。
■学習の要点	１．総合的な学習の時間が導入された背景、導入における目的および実践における課題について学ぶ。学習指導要領で求められている「能力・資質」の育成と総合的な学習の時間との関係を学び、総合的な学習の時間を充実するための課題を考える。（第 1 章）２．総合的な学習の時間の源流ともいうべき、戦後初期のコア・カリキュラムを取り上げ、①目標の設定、カリキュラム編成の視点、②学習指導の実際、の二点から検討し、その特質や課題から今日的な示唆を導き出す。（第 2 章）３．総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけや目標の変化、また、各学校の取り組み状況と課題を学ぶ。これらの課題克服とそれを充実させるための具体的な年間指導計画や単元計画を作成するための基礎となる校内体制等について学ぶ。（第 3 章）４．学習指導要領及び総合的な学習の時間解説書に示されている「指導計画の作成」を手がかりに、「全体計画」「年間計画」「単元計画」に分けて、それぞれの計画を計画的、効果的に展開できるための考え方や内容、方法や手順について学ぶ。（第 4 章）５．総合的な学習の時間における学習指導を、１．探求的な学習とは何か、２．他者と協同して取り組む学習活動、３．総合的な学習の時間における体験活動、４．総合的な学習の時間における情報活用能力の育成、の４つの観点から学ぶ。（第 5 章）６．学力評価の基本用語や、学習指導要領で示された総合学習の評価の留意点、総合学習における評価の方法のポイントなど評価の基本を理解する。評価は、教師だけではなく子どもや保護者などが参加しながら、学習を豊かにするものであることを学ぶ。（第 6 章）７．八幡市における授業実践から、①「21 世紀型能力」を育成する授業を実現するためのカリキュラムや授業設計、②総合の特性に目を留め、児童の変容に「授業」が果たしていた役割、これらの知見から③今後の初等教育における総合への示唆を得る。（第７章）８．中学校において、①カリキュラムの作成、②探究のプロセス、③思考ツールの活用、④地域との連携、⑤生徒・教師・地域の変容の５つの観点から中学校の総合的な学習の実践を学ぶ。（第８章）９．総合的な学習の時間では、その趣旨や目的を踏まえた上で、国際理解をテーマとした実践が行われることが増えている。本章では、国内における国際理解教育の歴史と現状、目標及び内容の事例、実践の特質や課題について学ぶ。（第 9 章）10．近年、地球温暖化やオゾン層の破壊、野生生物種の減少など地球規模の環境問題が世界共通の課題となっている。総合的な学習の時間で、１．環境教育の歴史的展開、２．環境教育と ESD、３．環境教育の実現、の３つの観点から学ぶ。（第

	10 章）11.　1990 年代以降にシティズンシップ教育が注目されるようになった背景として、社会の多様化・流動化や学校教育で育成すべき力の変容に注目する。総合的な学習の時間について、シティズンシップ教育との接点、および実践上の課題について考察する。（第 11 章）12.　古くて新しい「地域学習」は、問題解決学習を伴ういつの時代にも重要な学習である。地域学習の教育理論や歴史的展開を追いながら、その理由を知るとともに、改めて地域学習を学ぶカリキュラム内容、実践の進め方について理解を深める。（第 12 章）

■学習の到達目標	生徒が、各教科の特質に応じた見方・考え方を成長させ、総合的・統合的に活用することで、探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成が実現できるようにする。そのために、総合的な学習の時間の指導計画の作成や学習活動の指導・評価に関する知識・技能を身に付け、実践への応用ができるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	特別活動の指導法（中・高）			単位	2.0
担当者	原　清治		シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法学（中・高）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5195	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	児童に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法（中高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法（中・高）				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可)。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5833	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育評価論（中・高）				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）2）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。3）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。4）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。5）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】1．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。2．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。3．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。4．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。5．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。1．問題の要求にきちんと応えられている。2．記述がテキストの内容を踏まえている。3．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	教育原論				単位	2.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TZ5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二Ｘ	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題にとりくんでみましょう。第１部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。２．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。３．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	学校教育職入門				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5452	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編②　教職論	久保富三夫・砂田信夫編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081851

■授業の概要	日本は教育大国になりましたが、同時に受験戦争、学歴社会問題、登校拒否や不登校問題、中退者の増加、対教師暴力や荒れる学校、最近では学級崩壊、学力低下など多くの教育問題が発生しました。　そこで、文部省（現：文部科学省）では、教員の資質向上、特に教員の生徒理解、生徒指導力の向上を図ろうと 1988（昭和 63）年に教育職員免許法を改正しました。また、教育職員養成審議会は、1997（平成９）年「新たな時代に向けた教員養成の改善方策」と題する答申を文部省に出しました。これを受けて同省は、1998（平成 10）年、戦後２回目の教育職員免許法の大改正を行いました。その改正の最大のポイントがこの「教職論」の新設であり、教職の使命感を自覚させること、教職への志向と一体感の形成などを強化しようというものです。近年の教員免許更新制や６年制教員養成制度の構想など、教職を取り巻く政策は大転換の渦中にあるといえます。　子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事、それが教職であるといえるでしょう。教職は非常に人間的な仕事であり、やり甲斐のあるすばらしい仕事です。教職を目指す方々は、教職のなんたるかを学び、自分が教職に向くかどうかを熟考する契機にしてくださることを希望しています。
■学習の要点	まず、教職とはどんな仕事か、その基本的な性格や社会的使命などについて考えてみましょう。それは、教師の歴史、教職がどのような経過で職業として、社会制度として成立したのでしょうか。そして、教員の在り方についての論争、すなわち聖職論、労働者論、専門職論などを経て、今どう考えられているのか、文部科学省や教育職員養成審議会などでは、21世紀の教員の在り方や期待される教員資質をどう描いているかなどを概観することによって明らかとなります。　そして、現代社会が抱えている教育的諸問題と教員の関係を考察してみましょう。教育問題は、学級崩壊、いじめ問題から学力低下、教育改革まで実に多くの問題が発生しており、それらは、今や、学校のみならず家庭や地域社会、さらには国家的な問題にもなるなど広範囲で大きな社会問題になっているものも多いといえます。それらに教師はどう対処したらよいのか、教師の役割は、複雑かつ肥大化しています。激動する社会、急変する教育界の中で、教師の使命や役割は、どうあればよいのかを考えることが求められているのです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育社会学				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	1960 年代から高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、「一億総中流」と呼ばれる社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしました。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが「格差社会」と呼ばれるような社会問題を引き起こしているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　1．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされている学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　2．学力低下については諸説があり、いずれも一長一短の議論です。しかし、これほど学力の問題が論じられている背景には何があるのかを考えてみれば、教育改革が何を意図しているのかにたどり着くはずです。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に
■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な

	構成になっているかどうか。

授業科目	教育心理学				単位	2.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TZ5204	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	児童生徒の学習の過程や心身の発達について教育心理学の視点から議論し、理解を深め、各自の学習観・教育観を再構成するとともに、発達の視点から見た場合の、障がいのある子どもたちの学習過程についても理解する。これらを通じて、教育実践に専門的に従事する者として、児童・生徒の学習や発達上の問題に取り組む際に、必要に応じて教育心理学の理論を参照し、実践の文脈へと変換することができるための基礎的な資質を養う。　人はその時々に身を置く状況にあって、モノや他者とかかわりながら成長していくことを客観的にとらえる視点を得ることを目標とする。したがって、理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と教育場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	①　「学ぶ」ということに関与する心理が、いかに複雑で自己の在り方そのものに影響することを理解する。また、それを支える学習環境を自らデザインする。 ②　教室内の人間関係をとりまく環境の特質を理解する。その上で、学級を運営する教師の立場と役割について考察する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	特別な教育的ニーズの理解とその支援				単位	1.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TZ5205	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
特別支援教育の基礎・基本（2020）	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715486

■授業の概要	通常の学級にも在籍している様々な障害等により特別の支援を必要とする生徒の学習上･生活上の困難さを理解し、個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や指導方法を学ぶ。

■学習の要点	１．特別支援教育に関する理念・制度について学ぶ。２．心身の発達の概要と様々な障害について学ぶ。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要について学ぶ。

■学習の到達目標	１．特別支援教育に関する理念・制度を理解する。２．心身の発達の概要と様々な障害を理解する。３．知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害・発達障害児の理解と指導方法の概要を理解する。

■成績評価の基準	問題の意味を理解し、解答として必要な事項を的確に整理し、その内容を論旨の展開に活かし、完結した文章として表現すること。

授業科目	学校教育課程論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5206	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑥　教育課程・教育評価	細尾萌子・田中耕治編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081899

■授業の概要	学習指導要領の法的拘束力に関しては、さまざまな議論がありますが、実際には学校で「何を教えるか」「何を学ぶか」が規定されており、各学校が教育課程を編成するにあたってのよりどころとなるものです。その際に、地域や子どもの実態を考慮に入れることはもちろんです。　学習指導要領は、第二次世界大戦後から現在にかけてほぼ 10 年ごとに改訂され、その時代が要請する教育目標と内容を示し、日本の教育の方向性を変化させてきました。今回、改訂された新学習指導要領はいくつかの大きな特徴をもっています。例えば、前回の改訂では大幅に削減された教育内容が多くの教科で増加したこと、とりわけ外国語や理数科目の時間が大幅に増加したのに対し、総合的な学習の時間が削減されたことなどがあります。今回の改訂の目的は、いわゆる「学力低下」への対応の問題が背景にあると考えられています。　したがって、これからは教育内容が大きく変容することをしっかり把握し、それがまた学校現場や生徒たちにも影響していくことへの理解を深めましょう。
■学習の要点	学習指導要領について以下の観点から学習してください。・学習指導要領は、第二次世界大戦後の 1947 年に初めて発表されて以来、どのように変化してきたのでしょうか。改訂のそのときどきの社会情勢、子どもたちの荒れや教育問題、学力問題などを含めて学習してください。とりわけ小学校と異なる中学校および高等学校での教育課程の目標や原則的事項について学習してください。進路に関する部分は、「キャリア教育」の推進のもと中学校及び高等学校で重視されている内容なので、きちんと理解しておきましょう。・現行の学習指導要領について、どのような特徴をもつか、中学校および高等学校の科目および時間数に注目して論じてください。とりわけ、選択教科についても理解を深めてください。・学習指導要領（中学校：2012 年施行、高等学校：2013 年第 1 学年より順次実施）が改訂施行となりました。新学習指導要領の特徴について、中学校および高等学校それぞれに学習しておきましょう。とりわけ授業時間数の増加や教育内容の追加についても、学習指導要領解説編を参照しながら学習を進めてください。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	道徳の理論及び指導法				単位	2.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TZ5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「道徳教育と社会」ノート	山内　乾史	学文社	[ISBN]9784762031151
新しい教職教育講座 教職教育編⑦ 道徳教育	荒木寿友 編著,藤井基貴 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081905

■授業の概要	「特別の教科　道徳」（道徳科）が目指すものは、学校教育全体を通じて行う道徳教育の目標と同様に、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。このような学習指導要領に応じて、道徳科を指導する教員としての力量をつけることを中心に、道徳教育の概要から道徳科の授業の内容や方法までを理解し、道徳教育の指導力の基盤を養う。
■学習の要点	1. 道徳教育の理論と歴史　道徳は教育の要であることを理論的・歴史的に説明する。2. 学習指導要領と道徳教育　学習指導要領に示されている道徳教育の目標・指導・課題について学習する。3. 道徳科とその実践　「特別の教科　道徳」が設置された意味と実践のための授業作りについて説明する。特に学習指導案作成について指導する。4. 模擬授業と評価　教育のなかでも道徳科は人間形成に深く関るものであるため、教師は慎重に実践しなければならない。そこでは教師の力量と評価力が問われるため、そのような力がつくように実際の模擬授業を想定して指導する。
■学習の到達目標	道徳教育の概要と学習指導要領を理解し、実際の教材資料等をもとに、「特別の教科　道徳（道徳科）」の学習指導案を作成し、その分析が行えるようにする。
■成績評価の基準	テキスト理解と関連文献の精読を通して問題を把握し、論理的に記述されているか、『学習指導要領』に示された道徳教育と道徳科の授業に対して留意点や教材をどれだけ深く理解しているか、という点で評価する。

授業科目	総合的な学習の時間の指導法				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TZ5208	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑧総合的な学習の時間	森田真樹、篠原正典編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081912

■授業の概要	総合的な学習の時間の導入背景、意義と教育課程での位置づけを学ぶ。総合的な学習の真の効果を上げるために、学校内横断的なカリキュラムマネジメントに基づく年間指導計画、単元計画の作成が重要となる、その作成の考え方と実際の作成法を学ぶとともに、教科学習からより深い探求的な学びを行う学習過程と学習行動の指導法および評価法を学ぶ。さらに、小学校での総合的な学習事例から、実践に応用できる知識・技能を学ぶ。
■学習の要点	１．総合的な学習の時間が導入された背景、導入における目的および実践における課題について学ぶ。学習指導要領で求められている「能力・資質」の育成と総合的な学習の時間との関係を学び、総合的な学習の時間を充実するための課題を考える。（第 1 章）２．総合的な学習の時間の源流ともいうべき、戦後初期のコア・カリキュラムを取り上げ、①目標の設定、カリキュラム編成の視点、②学習指導の実際、の二点から検討し、その特質や課題から今日的な示唆を導き出す。（第 2 章）３．総合的な学習の時間の教育課程上の位置づけや目標の変化、また、各学校の取り組み状況と課題を学ぶ。これらの課題克服とそれを充実させるための具体的な年間指導計画や単元計画を作成するための基礎となる校内体制等について学ぶ。（第 3 章）４．学習指導要領及び総合的な学習の時間解説書に示されている「指導計画の作成」を手がかりに、「全体計画」「年間計画」「単元計画」に分けて、それぞれの計画を計画的、効果的に展開できるための考え方や内容、方法や手順について学ぶ。（第 4 章）５．総合的な学習の時間における学習指導を、１．探求的な学習とは何か、２．他者と協同して取り組む学習活動、３．総合的な学習の時間における体験活動、４．総合的な学習の時間における情報活用能力の育成、の４つの観点から学ぶ。（第 5 章）６．学力評価の基本用語や、学習指導要領で示された総合学習の評価の留意点、総合学習における評価の方法のポイントなど評価の基本を理解する。評価は、教師だけではなく子どもや保護者などが参加しながら、学習を豊かにするものであることを学ぶ。（第 6 章）７．八幡市における授業実践から、①「21 世紀型能力」を育成する授業を実現するためのカリキュラムや授業設計、②総合の特性に目を留め、児童の変容に「授業」が果たしていた役割、これらの知見から③今後の初等教育における総合への示唆を得る。（第７章）８．中学校において、①カリキュラムの作成、②探究のプロセス、③思考ツールの活用、④地域との連携、⑤生徒・教師・地域の変容の５つの観点から中学校の総合的な学習の実践を学ぶ。（第８章）９．総合的な学習の時間では、その趣旨や目的を踏まえた上で、国際理解をテーマとした実践が行われることが増えている。本章では、国内における国際理解教育の歴史と現状、目標及び内容の事例、実践の特質や課題について学ぶ。（第 9 章）10．近年、地球温暖化やオゾン層の破壊、野生生物種の減少など地球規模の環境問題が世界共通の課題となっている。総合的な学習の時間で、１．環境教育の歴史的展開、２．環境教育と ESD、３．環境教育の実現、の３つの観点から学ぶ。（第

	10 章）11.　1990 年代以降にシティズンシップ教育が注目されるようになった背景として、社会の多様化・流動化や学校教育で育成すべき力の変容に注目する。総合的な学習の時間について、シティズンシップ教育との接点、および実践上の課題について考察する。（第 11 章）12.　古くて新しい「地域学習」は、問題解決学習を伴ういつの時代にも重要な学習である。地域学習の教育理論や歴史的展開を追いながら、その理由を知るとともに、改めて地域学習を学ぶカリキュラム内容、実践の進め方について理解を深める。（第 12 章）

■学習の到達目標	生徒が、各教科の特質に応じた見方・考え方を成長させ、総合的・統合的に活用することで、探究的な見方・考え方を働かせ、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成が実現できるようにする。そのために、総合的な学習の時間の指導計画の作成や学習活動の指導・評価に関する知識・技能を身に付け、実践への応用ができるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	特別活動の指導法				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑨　特別活動	中村豊・原清治　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081929

■授業の概要	教科教育と教科外教育は、学校教育の「両輪」をなすものであるといわれます。さらに、その教科外教育のなかには、生徒指導や進路指導、特別活動などを含みます。 昨今の教育においては、「ゆとり」を標榜して子どもたちの学習に対する関心や意欲・態度に大きなウエイトをかけすぎている学校がある一方で、「知識偏重」というかけ声とともに基礎・基本に重きを置きすぎ、受験教育などといわれる学歴社会の弊害が指摘される学校もあるようです。 一方で、学力に関する論争も、どれだけ知識を詰め込みどれだけ憶えているかといった計測が容易な学力だけを測って得点化し、それをいわゆる「学力」とみなす傾向が指摘されています。それでは、断片的な知識詰め込みといった受身的な学習になりがちです。知識は自らが主体的に学びとってこそ身につくものでしょうし、特別活動のねらいとするところもそこにあります。また、新学習指導要領のもとでは、深く考え、実践する力をいかに特別活動を通して育むかが課題ともなっています。その際に、自己を理解するだけでなく、自己と他者との関係性の深まり、すなわちコミュニケーションを通して集団生活の中で生きる力を育むことが重要なのです。 特別活動の研究では、とりわけ中学生および高校生の発達課題に応じた学校行事に注目します。中学生や高校生においては、ボランティア活動や職業を意識したインターンシップ活動がさかんに実施されており、「勤労生産・奉仕的行事」についてはきちんと理解する必要があるといえるでしょう。 特別活動の領域には、学級（ホームルーム）活動や生徒会活動、学級行事などがありますが、わけても学校行事が思春期を迎える生徒たちに対して、どのような教育的効果をもつものか、またそれを実施する上においてはどのような点に注意しなければならないのか、そうした知見をもとに、特別活動の具体的な取り組みを理解し、実践的に把握することを目的としたいと思います。
■学習の要点	１．新学習指導要領に即して、特別活動のねらいや方法・原理としての特質を「特別活動の目標」からとらえ、それがなぜ特質なのか、各教科、道徳などと比較して説明できるようにしておいてください。さらに、特別活動における具体的な「学級（ホームルーム）活動」「生徒会活動」「学校行事」などがどのようなものであるかを列挙できるようにし、それぞれの特質を理解しておくことも重要です。２．学習指導要領では、学級活動のねらいを達成するための内容として、(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」と(2)「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」を示しています。この３つについての内容の理解を深めておいてください。また、 それぞれの指導の特質についても説明できるようにしておくことが重要です。３．学級活動のねらいを達成するための「学校行事」について、その指導上の要点を説明できるようにしておいてください。４．生徒会活動について理解を深めておいてください。とくに、生徒会活動のねらいや、今日的な問題を整理し、それを議題にもっていくまでの手順や指導上の留意点を具体的な事例に基づいて理解しておくことが大切です。５．学校行事の活動内容である「儀式的

	行事」「文化的行事」「健康安全・体育的行事」「遠足・集団宿泊的行事」及び「勤労生産・奉仕的行事」が正確に列挙できるようにし、それぞれのねらいを理解しておいてください。とくに、「勤労生産・奉仕的行事」の指導上の留意点を活動例を示して具体的に説明できるようにしておくことが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育方法論（ICT 活用含む）				単位	2.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TZ5210	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。また、GIGA スクールや MEXTCBT による将来の教育構想を念頭に置き、授業や校務での ICT 活用を実践できるようになるための方法と技能を学ぶ。
■学習の要点	本授業で学ぶ要点とそれに関連する内容が書かれているテキストの章を挙げる。１． 求められる教育方法と技術　（1 章、2 章、5 章、6 章）２． 学力の現状と世界的に求められる資質・能力を育成する教育方法と技術（1 章、2 章）３． 学習意欲の現状と学習の動機づけ（主体的な学習）のための教育方法　（3 章、8 章）４． 教授方法・学習方略を育成する教育方法･教材　（3 章、4 章、10 章）５． 知識の定着を図る授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章、8 章）６． 素朴概念や躓きに焦点を置いた授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章）７． 知的好奇心を引き出す教材と授業づくり（8 章）８． 真の能力を評価する方法（12 章）９． 世界的に広まるオンライン学習と教材　（10 章）11. ICT を活用した教育の将来構想（GIGA スクール構想、MEXCBT 構想）（添付 PDF 資料）12. 対話的な学びを育む学習への ICT 活用　（4 章、5 章、9 章）13. 授業における Web 教材の効果的な活用　（11 章）14.ICT を活用したプログラミング教育の実践　（10 章、11 章）15. 情報モラル（学校教育における著作権）の理解　（10 章、添付 PDF 資料）
■学習の到達目標	児童生徒に対して、Society5.0 で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、学びに向かう力を育成するための普遍の教育の方法、教育の技術が授業で実践できるようになること、また、GIGA スクールや MEXCBT 構想の目的を理解し、効果的な ICT 機器の活用が想定できるようになる。
■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	生徒指導・進路指導の理論及び方法				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5211	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編⑪ 生徒指導・進路指導	春日井敏之・山岡雅博	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081943

■授業の概要	今日の学校教育では、教科指導と同じだけ教育指導（生徒指導）のもつ比重は大きいといえます。こうした教科外指導を適切におこなうためには、学校で起こっているさまざまな問題や、生徒の変化を現象的に分析し、それを理解し、対処する方法が求められています。とりわけ、「いじめ」「自殺」「不登校」「学級崩壊」「学力低下」「暴力行為」などの問題は、最近の学校を取りまくテーマとして避けることのできない事象であるといえるでしょう。 教育指導では、教師としての教科外指導にどのような「教育観」をもつべきなのかという理論に発して、さまざまな現代的な教育病理現象をどのように理解し、それらに対処するのかまでを実践的に把握していきたいと思います。 中学校の教員の特性と在り方を考えるにあたっては、まず中学校教育の基本及び特性を理解しておく必要があります。理解をするための拠り所となるのは、学校教育法第 35 条及び 36 条、学校教育法施行規則及び中学校学習指導要領総則です。 高等学校の教育は、学校教育法（第 41 条、第 42 条）に明示されている通り、「中学校における教育の基礎の上に」「高等普通教育及び専門教育を施す」ことが目的であり、それを実現するための目標は次の三つになります。 ①中学校における教育の成果をさらに発展拡充させて、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うこと。 ②社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な技能に習熟させること。 ③社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、個性の確立に努めること。
■学習の要点	受験競争の過熱化などによるストレスの高まりとしてのいじめや不登校、さらには校内暴力あるいは学級の秩序を乱す学級崩壊現象など、学校を取り巻く問題は山積しているといえるでしょう。中学校においてその傾向は、他の校種にもまして強くみられます。教科指導の充実とともに生徒指導の充実という課題を抱えながら、日々の教育活動を推進していかなければならないのも、中学校教育における重要課題であります。 中学校教育にあっては、教員は単なる受験競争に勝つことをねらった姑息な考えに基づく教科指導の充実のみに走ることなく、生徒の真の成長に向けての教科指導の充実とともに生徒指導の充実の取り組みが求められています。 高校時代は、家族や友人との人間関係をはじめ、自己の進路、将来の生き方等について不安や葛藤を抱き模索する時期であり、自己を根底から再構築し確立を図っていく時期であります。それだけに、自発性、自律性、主体性などが一層大事なものになるでしょう。 生徒は多感な青年期を過ごしていますので、まず内面の成長発達を図り、望ましい自己形成を目指した主体的な取り組みが必要となります。そのためには、自分を作るのは自分であるという自覚を持たせなければなりません。そして、自分を自分たらしめている核（原理）は何か、自分を納得させるもの、自分であると実感させるものは何かを考えさせ、自分の在り方に責任を持ちながら自らを成長させていくことができるよう、指導援助し

	なければならないのです。自立するということは「いかに生きるか」を意識して自分の生き方を探ることであり、自我を立て直し自らの発達課題を明らかにしながら自分をつくっていくことです。自分で自分を律しながらより良い生活習慣をつくり上げるとともに、理想に向かって取り組み、常に自分に誠実であるような生き方を目指すことが大切といえるでしょう。　1．教科教育と教科外教育とはどのような関係にあるのかについてまとめ、その構造と課題について説明できるようにしましょう。　2．生徒指導の意義とは何かについて、実践的な事例をあげながら説明できるようにしましょう。　3．進路指導とは何かについてまとめ、進路保障の原理について説明できるようにしましょう。　4．中学生や高校生に起きやすい問題行動には何があるか説明し、どのような点に注意して指導すればよいか具体的な事例と指導方法を説明できるようにしましょう。　5．中学・高校におけるいじめの構造とその特質についてまとめ、具体的な指導方法を説明できるようにしましょう。　6．フリーターの増加がどのような社会的背景から生じるものかについてまとめ、その対応について説明できるようにしましょう。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育相談の理論及び方法				単位	2.0
担当者	渡邉　照美			シラバスグループ	TZ5212	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
学校カウンセリング入門 第3版	友久久雄　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623077847

■授業の概要	近年中・高校生の成長・発達上の問題として、不登校、いじめ、非行、摂食障害などのようなさまざまな不適応行動が多発している。また、仲間や親・教師との関わり方がよくわからなくて、対人不安を抱いたり、感情を爆発させたりなどする生徒も増えているといわれている。このような生徒たちの心情をよく理解し、主として個別に適切な指導・援助を行い、彼等の健やかな成長・発達を支援する「教育相談」は、学校カウンセリングとも言われる。これからの学校では、教育相談係の教師のみならず、すべての教師が教育相談活動もしくは教育相談的な指導を実践することを求められているので、しっかり学習していただきたい。
■学習の要点	１．一般的なカウンセリングの意義・理論・方法について。２．教育相談における発達援助的カウンセリングや進路相談（開発的カウンセリング）の在り方について。３．中・高校生時代における「発達課題」達成の援助と学校カウンセリング、生徒指導と学校カウンセリングそれぞれの関連について。４．スクールカウンセラーの役割や活動内容について。５．不登校など、生徒たちの閉じ籠もり傾向の原因と対応について。６．いじめや非行など、生徒たちの問題行動への対応について。７．摂食障害への対応について。
■学習の到達目標	試験は「学習の要点」に示されている学習目標がどれくらい達成されているかを測るものである。出題範囲は広いが、それぞれの「要点」にかかわるテキストの記述を整理し、重要事項について理解を深めておくこと。評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べ立てても評価されない。
■成績評価の基準	・テキストの理論・内容を踏まえているかどうか。・テキストの理論・内容に触れず、実践例のみ記述していないかどうか。・テキストを引用するだけでなく、自身の考察が深まっているかどうか。・記述の分量が適当であるかどうか（極端に長すぎる、または短すぎるものは不可)。・テキストで示されているデータよりも新しいデータがあれば、新しいものを使用しようと努めているかどうか。

授業科目	教育実習指導（中・高）				単位	1.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5833	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座教職教育編⑬教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
同和教育実践：新たな人権教育の創造	後藤直ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248817&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、生徒との関係性・授業（学習指導）のあり方・学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究・学習指導案の作成・授業実践・事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育実習指導（小・中）				単位	1.0
担当者	小林　隆・原　清治			シラバスグループ	TS5624	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN

■授業の概要	教育実習は自身の適性の確認に加え、これまで大学で学んできたことの実践化を図り、その事実を考察するところに意義がある。教育実習では、大学と教育実習校の指導に基づき、児童との関係性･授業（学習指導）のあり方･学級経営等について実践的に学ぶ。特に授業（学習指導）については、教育実習校からの指導を受けるとともに、主体的に「観察ならびに教材研究･学習指導案の作成･授業実践･事後検討等」を通して自己評価と考察を行い、教育実践力を養う。本科目は、そのような教育実習に臨むにあたっての事前学習（S 履修）と、省察のための事後学習（R 履修）で構成されており、本授業は事後学習（R 履修）にあたる。※事後学習（R 履修）の用紙は、教育実習簿巻末に挿入している。切り離さず、教育実習簿と一緒に提出すること。
■学習の要点	教育実習を有意義なものとするために、事前学習（S 履修）にあたっては予めテキストを熟読しておくこと。スクーリングでは、他の学生と積極的に意見交流し、教育実習に臨むにあたっての留意事項を理解し心構えを確立すること。事後学習（R 履修）では、教育実習を客観的に振り返り、成果と課題を整理すること。
■学習の到達目標	・教育実習を総合的に省察し、その成果や課題を整理することができる。・教職に対する意欲、資質・能力を自覚することができる。
■成績評価の基準	「教育実習簿」巻末のリポートにより、学習の到達目標に準じ評価する。

授業科目	教育評価論				単位	2.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TZ5243	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科と総合に活かすポートフォリオ評価法	西岡加名恵	図書文化社	[ISBN]9784810034073

■授業の概要	教育評価とは、教育活動と直接的あるいは間接的に関連した各種の実態把握と価値判断のすべてを意味するものである。なかでも、教育目標として設定した学力が子どもたちの身についているかどうかを評価する学力評価は、教育評価の中核に位置づいている。現行の指導要録において「目標に準拠した評価」が導入されたこともあり、評価に関わる教師の力量形成の重要性は、ますます高まっている。そこで本科目では、教育評価に関する基本的な概念の理解を深めるとともに、授業・単元設計・カリキュラム設計に使える評価のスキルを身につけることをめざす。
■学習の要点	1）指導要録の歴史を振り返ると、戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、「目標に準拠した評価」の四つの立場が登場している。それぞれの意義と問題点・課題について把握しておくこと（テキスト第1章 pp.18～24 参照）。なお、平成 22（2010）年に改訂された新指導要録の参考様式については、http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1292898.htm で見ることができる。新指導 要録の趣旨については、次の URL を参照。http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htm（「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」）２）ポートフォリオ評価法の定義と意義を理解しておくこと（テキスト pp.52～68 参照）。３）子どもが効果的に学習を進めることができるようにするには、子どもの自己評価力を高める必要がある。その重要性と、具体的な指導法を理解しておくこと（テキスト pp.32～35、pp.68～85、pp.116～127、pp.158～161 など）。４）幅広い学力を保障するためには、筆記テストだけでなく、パフォーマンス課題を用いる必要がある。パフォーマンス課題を評価に用いる場合の留意点を考えておくこと。また、このとき評価基準として用いられるルーブリックについての理解を深め、その作り方と指導への活かし方についても考えておくこと（テキスト pp.63～67、pp.134～161）。５）評価計画を評価する際に必要となる視点について、理解しておくこと（テキスト pp.203～208）。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．戦前型の絶対評価（認定評価）、相対評価、個人内評価、到達度評価、以上四つの立場の違いを説明し、それぞれ意義と問題点・課題を述べることができる。２．ポートフォリオ評価法の定義と意義について、具体的な例を出しながら述べることができる。３．学習における子どもの自己評価の役割を認識し、自己評価を用いた指導法を計画することができる。４．パフォーマンス評価を用いた評価計画をルーブリックの作成も含めて計画することができる。５．自分の評価計画を客観的な視点から評価することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。

授業科目	介護等体験指導				単位	1.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TZ5811	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑬　教育実習・学校体験活動	小林隆・森田真樹　著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081967
介護等体験ブック　新フィリア	全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟編著	ジアース教育新社	[ISBN]9784863715226

■授業の概要	小学校・中学校教諭の普通免許状を取得しようとする者には、この「介護等体験」が課せられています。この目的は、介護等体特例験法で「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずる」とされているとおりです。　この「介護等体験研究」は「介護等体験」に先立ち、その現場となる特別支援学校や社会福祉施設、障害者や高齢者に関する知識を身につけ、必要な心構えを持つために設けられた科目です。　この科目においては、その趣旨にかんがみ、講義やテキストによってその内容を充分に理解するように努めてください。
■学習の要点	1．特別支援学校における介護等の体験について学習することは、障害児の心理的特性、生理・病理的特性、教育法に関する知識を身につけることと深い関わりがある。またこれら障害児に対する人間的理解も求められている。従って、「介護等体験」に課せられた短い期間で学習する内容は限られたものであるが、実は関連する広範な学習課題があることに留意し、この科目を通して適宜専門的な領域についても学習すること。2.「介護」の礎として、「すべての人間はなんらかの障害を持っている」ことを根底とした WHO の国際生活機能分類（ICF)、障害の意味とノーマライゼーションの原理は、専門的介護プロバイダーのみならず、教育に携わる者にも必須であることを学習すること。3．人間の福祉（Well-being）の全体性に関わり、対人社会サービスを必要とする利用者を理解し、利用者の自律と生活機能の自立を支援し、代弁者の介護力の軽減と教育を深め、コミュニティケアの実践を推進し、権利擁護、個別性に応じた具体的な援助を学習すること。
■学習の到達目標	介護等体験について自分なりの意義を見出すことができる
■成績評価の基準	設題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	哲学入門				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TA6101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
連続をめぐる哲学:流れ・瞬間・同一性	田山令史ほか編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248839&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	哲学では、出来上がった知識を習うだけでなく、自分で自分なりの問いを見つけ、育てることが欠かせない。テキストは、この問いを育てるということを目的に作られた。「連続性」は、絶えることなく問われてきた謎である。そしてこの問いは、「私」「魂」「算術の基礎」といった問題と連なっている。６人の論者が異なる角度から連続性を論じ、この関連を分析していく。いつも自分の経験を念頭にしながら、議論をねばり強くたどっていただきたい。
■学習の要点	特に以下の点に注意をしながら学習すること。・第１章「無限と連続ーその感性と論理ー」は、ゼノンによる二分割のパラドックスを否定するが、このための議論を詳しくたどっておくこと。特に「論理（観念）」と「現実（知覚）」という区分けについて考えよ。・第２章「刹那滅の哲学ー瞬間的存在と連続ー」では、「私の死」と刹那滅思想との関係をよく読みとるように。そして「悪」や「他者」の問題と刹那滅との関連にも注目しておくこと。・第３章「瞬間と創造ーデカルトにおける〈私〉の連続性ー」は、デカルトとライプニッツを比較しながら、私の同一性を問う。ここで特に、デカルトが「考える私」の存在が時間の幅を持たないとした、その理由に気をつけておくこと。・第４章「限定と無限ープラトン哲学における存在と生成ー」は、ヘラクレイトスとプラトンの存在、生成の哲学を比較しながら、プラトンによるイデアの思想が成立する過程を描く。このイデア論成立の理由を考えておくこと。・第５章「ーと連続ー〈記号〉ということー」は、同一性のパラドックスを基礎に、「反復」「記号」「想像力」といった言葉でもって世界の現れを説いていく。この論理のつながりをていねいにたどること。・第６章「距離と位相ー〈近さ〉と感覚についてー」では、数学が語る「連続性」の意味を理解しておくこと。そのとき、自然数、有理数、実数の区別に注意すること。
■学習の到達目標	答案は明快さが要求される。テキストの議論の筋が答案で十分に再現できるよう、読み込むこと。そして自分の理解したところを、できるだけ他人を説得するように分かりやすく述べること。
■成績評価の基準	テキストの論文をどれだけ正確に理解しているか、他人に伝わるような筋の明確な文章で答案が作成されているかが、成績評価の基準となる。

授業科目	文学入門				単位	4.0
担当者	日高　佳紀			シラバスグループ	TA6102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
教科書名短篇　人間の情景	中央公論新社・編	中央公論新社	[ISBN]9784122062467

■授業の概要	以前学んだことがあるかもしれない作品を、あらためて研究する視点で読み返し、文学作品の価値を知り、言語化して表現することを目的とする。

■学習の要点	まずはテキスト全体を通読してみること。その中で特に印象に残った作品に関して、わかりにくい語句、意味の通じにくい一文などを、辞書で調べてみたり、前後の関係を探ってみたりして検討し、作品の価値を自分のことばで語れるよう考えてみること。

■学習の到達目標	作品の価値（魅力）を知り、それを〈自分の言葉〉で他者に説得力のある説明を行う力を身につける。

■成績評価の基準	繰り返しになりますが、この科目の到達目標は、〈自分の言葉〉で作品の持つ〈魅力と秘密〉を説明できるようになることです。したがって、他人の言葉のコピー＆ペーストではなく、自身の言葉で論理的かつ説得的に説明ができているかどうかがポイントになります。

授業科目	社会学入門				単位	4.0
担当者	白石　哲郎			シラバスグループ	TA6103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
現代社会学への誘い	満田久義ほか編	朝日新聞出版	[ISBN]9784021000676

■授業の概要	本科目では社会学の基礎理論、特に現代社会に強い影響を及ぼしている古典的な社会学者、デュルケム、ウェーバー、マルクスの理論について学習する。しかし、これらの古典的社会を習得するのだけではなく、現実社会の複雑さや不思議な社会現象を発見し、その成立へのメカニズムを、社会学理論をもちいて解明する。更に現実社会がかかえている諸問題の解決法についても議論する。具体的な社会問題としては、家族の機能の変化と病理、地域解体と住民の暮らし、マスコミの世論操作、人類が直面している環境問題の他、大衆社会の病理や価値観の転換についても幅広く学習する。そして、現代社会での生きることの意味や人間的な生き方を探求する。
■学習の要点	本テキストは、社会学を専攻する学生のみならず、現代社会に興味をもつ一般の方に書かれた入門書である。社会学が研究対象とする激変する現代社会は、複雑であり、また、我々の常識とは大きく異なることがあるので、各章の内容をよく読み、それぞれの章末にある学習課題についても、学習するとよい。　社会学理論については、18 世紀のヨーロッパ社会の状況を理解したうえで、考察すること。　なお、社会学の基礎概念については、社会学辞典も参考にしながら理解に努める姿勢が重要である。　・現代社会学理論の展開について、特に機能主義、コンフリクト理論、シンボリック相互作用理論、ポストモダン論について。　・社会調査における事例的調査と統計的調査の長所と短所について。　・現代家族の変容と男女参画平等社会について。　・グローバリゼーションと国民国家について。　・科学技術の発展と地球環境問題について。　・市民主体の自律的社会と NPO・NGO・ボランティアについて。
■学習の到達目標	テキストや参考書を熟読して、社会学の基礎概念と現実的素材とを強く関連させて理解することが重要である。とくにテキストの章末にある学習課題を学んでおく必要がある。　①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　② 問題は、テキストに即して出題する。よって解答は、基本的にテキスト学習の範疇で記述すればよい。　③ 採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。　④ 出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点し、総合的に 100 点満点にて評価する。
■成績評価の基準	詳細は「学習の到達目標」を参照のこと。

授業科目	社会福祉学入門				単位	4.0
担当者	末崎　栄司			シラバスグループ	TA6104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉学	佛教大学通信教育部編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248967&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	我国は、少子高齢化が進行する中で、福祉という言葉が広く国民の間に進行・浸透しつつある。この状況の中で、福祉とは何か、社会福祉とは何か、問い直す必要も一方で生じてきている。　社会福祉学は、社会福祉というものを現代社会の中でとらえ、そこから生じてくる社会問題・生活問題を社会科学的にとらえ、それらの問題の解決の方途を考えていくものである。
■学習の要点	我々の周辺に生じる生活上の問題を社会問題・生活問題としてとらえることが必要である。社会福祉の概念は拡大し、大正中期に社会事業としてその原型が誕生した所謂貧困対策から、周辺領域も含む広範なものとなっている。それらの分野は、それぞれが独立しているものの一方では種々の分野と重なり合って多様化複雑化した問題となり顕在化しているということを理解しておくことが必要である。　テキストでは全般的ではあるが、それぞれが一つの論文として論述されたものを集成している。これを読み、さらに他の文献も読み問題を理解することが要求される。　・社会福祉にいう人権とは何か。　・社会福祉協議会の地域福祉実践について。　・共生について、語意・内容について。　・QOL について（精神障害者福祉を通して)。　・介護・社会的介護・公的介護保険のそれぞれの用語の意味と内容について。　・高齢社会における施策動向について。
■学習の到達目標	テキストに書いてある内容を、まず、自分自身で十分に理解した上で自分のものになっているかどうかが重要である。そのためには何回もテキストを読み、テキストの中で言いたいことや主張したい事をしっかりとつかんでいってほしい。それゆえ、テキストに書いてある内容がどれぐらい習得されているのかが成績評価の大切な基準となる。日頃からテキストの内容を少しずつ理解し、覚えていくことが大切になると思う。　そして、答案を作成するにあたっては、論理的に答案を作成してほしい。筋道を立てて論理的に答案をまとめていくことが重要である。また、試験問題からはずれた解答をしないようにもしてほしい。試験問題にそって答案を作成してほしいと思う。そして、誤字などがないように正しい文章表現で答案がまとめられていなければならない。答案の中に自分自身の意見や考え方なども書いていただくとよいと思う。ていねいでわかりやすい答案を作成してほしい。
■成績評価の基準	成績評価は学習の到達目標に対する達成度を科目最終試験で測って行いたい。それゆえ成績評価においては、出題の要点を正しく正確に理解し、理論的に解答が述べられていることが重要であり、その論述の筋道の通った論理的展開とその深度にもとづいて成績評価を行って

	いきたい。また、出題(科目最終試験問題）からはずれた解答はしないでほしい。

授業科目	政治学入門				単位	4.0
担当者	上田　道明			シラバスグループ	TA6105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代日本政治講義―自民党政権を中心として	藪野　祐三著	北海道大学出版会	[ISBN]9784832968479

■授業の概要	この授業では、日本政治を題材とします。それ自体は、多くの受講生のみなさんも予備知識をお持ちのことと思います。総理大臣が政治のリーダーであること、国会には衆議院と参議院があること、主要政党の名前…。また、日々、マスメディアを通じて、政治の動きに気を配っている方もいらっしゃるでしょう。　ただ、そのように制度を知り日々の動きを観察するだけでは、読み取ることのできない政治の深層へとわたしたちを誘ってくれるのが、政治学の面白さです。　この授業で扱うテキストは、日頃わたしたちが政治を語るときにはなかなか使うことのない数十年という長めのスパンと、数々の理論的概念を通じて、日本政治への洞察をより深めてくれるものです。この授業を通じて、今までは接したことのなかった政治への理解や興味を持ってもらえれば幸いです。
■学習の要点	まずはテキストの記述の正確な理解をめざしてください。　筆者は「自民党による長期政権」という事実から、日本政治を理解すること＝自民党政治を理解すること、というスタンスをとります。自民党長期政権の原因を「政権交代」、「政党」、「政策」、「有権者」、「外交」という 5 つの視点から読み解きます。各章で述べられている「長期政権の原因」のなかには、きっと巷で語られているものとは異なる、あるいは受講生のみなさんがこれまで理解してきたものとは違う、日本政治の特徴があるでしょう。テキストの精読を通じて、まずはそのような「新発見」をぜひ体験してください。
■学習の到達目標	到達目標ですが、「学習の要点」にありますように、まずはテキストから筆者の主張を正確にくみ取ってもらうことにあります。その結果、従来自分考えていたものとと違っていた場合には、あるいは新しい発見があった場合には、それをご自身の言葉で表現できるようになってもらうことを目指しています。
■成績評価の基準	解答は基本的にテキスト学習の範囲内で記述してもらえれば OK ですし、それが出来ていれば合格点を出すことができます。その意味では、テキストの理解を最優先に取り組んでください。その「基本」の上での話ですが、出題テーマに関連して、従来ご自身が理解していたものとの違いやテキストを通じて発見したことなどがまとめられれば、さらに高い評価を与えたいと思います。ただし、いずれにしても、前提となるテキストの正確な理解を欠いた答案は、評価が低くなりますので、その点は留意してください。

授業科目	経済学入門				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TA6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
不平等　―誰もが知っておくべきこと	ジェームス・K・ガルブレイス著	明石書店	[ISBN]9784750345383

■授業の概要	1990 年代初頭のバブル崩壊からおよそ 30 年近くが経ったものの、いまだ日本経済は混迷を続けている。この時期は、世界でグローバル化が進んだ時期と重なる。多くの先進資本主義国では、経済的不平等の告発とそれへの処方箋をどう描くかが重要な政治的、経済的課題となっている。この授業では、さまざまな事象を一方的に「平等だ」とか「不平等だ」ときめつけることをせず、経済学的にどのようなアプローチが可能かという点に重きを置いているので、その道案内に従って「経済学の門」を開ける手助けをしたい。
■学習の要点	経済学的な見方に慣れていただくことが、第１の条件であろうと思われる。このテキストでは、簡単な数式や表が含まれており、違和感を感じられる方もいると思われるが、そのあたりの点に過度に神経質になる必要はない。テキストは、経済学的にみて「不平等」といえるかどうかを吟味しているので、一方的に「平等だ」とか「不平等だ」とか決めつけないでいただきたい。「不平等」の問題に多角的に迫っている本テキストに沿って、経済学的思考の訓練をしていると思って、精読していただきたい。
■学習の到達目標	経済学的アプローチに習熟して、「不平等」を経済学的にみたら、なにが語れるかを把握することを目標とする。
■成績評価の基準	上記の「目標」をクリアして、なおかつ、わかりやすく文章を書くことが評価の基準である。

授業科目	教育学入門				単位	4.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TA6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
教師 魂の職人であれ	森田薫, 原清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623052820

■授業の概要	子どもたちにとってなぜ教育が必要なのか、また、教師になるためにどのようなことに配慮することが必要なのかを考える。次に、テキストにある事例をもとに、現代の学校がどのような課題に直面しているのかについて学習を深めていく。

■学習の要点	この科目での学習の要点は次の３点である。１．教育とは何かについての基本的な見方・考え方を学ぶ。２．教師になることはどのような意味をもつのかを学ぶ。３．教育が今日直面している課題について考え、深く学ぶ機会を提供する。

■学習の到達目標	１．教育とは何かについての基本的な見方・考え方を説明することができる。２．教師は子どもたちにとってどのような影響をもつ職業なのかを説明することができる。３．教育が今日直面している課題について具体的な事例を用いて説明することができる。４．自分がどのような教師になりたいのか、説明することができる。

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。

授業科目	心理学入門				単位	4.0
担当者	植田　愛美			シラバスグループ	TA6108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
心の理解を求めて	橋本憲尚編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248769&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	心理学では、日々の生活において私たちがなぜそのように感じ、考え、行動するのか、様々な手法を用いて明らかにしてきた。その内面で生じている経過には一定の規則性が認められると同時に、その意味は個人ごとに様々である。人々に共通した規則性を把握しつつ、個人差の多様性を理解することが大切になってくる。　テキストでは、まず私たちの基本的な心の働きとして、環境からの情報を取り込んで意味を作り出す働き（第３～５章）、環境を評価し行動を引き起こす働き（第６・７章）について解説されている。また、他者と関わり、集団にあってこそみられる心の働きについて説明がある（第８～10 章）。続いて、新たに知識・態度・行動を身につけること、年齢と共に自分自身のあり方が変化することについて言及がある（第 11・12 章）。最後に、様々な心の働きをもった個人を全体としてとらえ、健全な社会生活を営むためのヒントを与えてくれている（第 13・14 章）。　様々な具体例を示しながら、こうした心の働きのとらえ方がわかりやすく解説されている。ぜひテキストを熟読のうえ、皆さん自身の経験と照らし合わせながら、心についての理解を深めてもらいたい。 ※この科目は、実務経験のある教員による授業科目です
■学習の要点	１）心とは何か、また意識はどうして生まれるのか、また私たちは意識しないうちに多くの情報を総合し、視覚対象について推論している。この能動的な働きによって安定した知覚世界が得られていることを、恒常現象や文脈効果を例に理解しておくこと（テキスト第１章から第３章参照）。２）感情は日常生活で経験する物事を評価するという働きをもつ。また、自分の内面の状態を表出するだけでなく、それを他者に伝えることによってコミュニケーションが計られる点にも留意（テキスト第６章参照）。３）私たちが自分自身を知ろうとする営みには、他者が深くかかわっている。他者のまなざしを意識することで自己を意識し、他者との関係で自己の特性を表現したり、他者との比較により自己の能力や状態を確認する（テキスト第８章から第 9 章参照）。４）新しい行動を身につける最も単純なしくみとして、刺激と反応の結びつきが想定される。生得的な反応が別の刺激によって引き起こされるようになる、あるいは全く新しい反応が賞罰を伴ううちに強化されることを理解する（テキスト第 11 章参照）。５）私たちは個々様々な人たちを幾つかのタイプに分けたり、どんな特徴がどれくらいあるか判断して理解しようとする。各々学問的にも確立された方法だが、長所・短所を心得ておく必要がある（テキスト第 13 章参照）。６）ストレスという語には、学問的に言うと私たちが環境に適応していくプロセスが含意されている。また、それに対処して健康

	を維持していくためには、心理社会的な能力の向上が重要であることを理解すること（テキスト第 14 章参照）。

■学習の到達目標	「心理学」の学習内容は日常経験にかかわるものが多く、それに基づいて理解を深めることが重要である。しかしながら、いわゆる自分の「常識」のみに頼って答えようとすると、客観的な視点を失った独りよがりな見解に陥ってしまう。必ず、〔学習の要点〕を参照した上でテキストを熟読し、必要なキーワードをきちんと使って記載するように心がけることも重要である。

■成績評価の基準	テキストを適切に理解し、必要なキーワードを使用して心理学的な知見が述べられているか。さらには、自分なりの考察が述べられてるかで、学習の進度と理解度を測り成績評価を行う。

授業科目	法然門下の思想				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗史	成田俊治･伊藤唯眞･平祐史	浄土宗出版	[ISBN]9784883632046
浄土教理史	恵谷隆戒	浄土宗出版	[ISBN]9784883632121

■授業の概要	仏教史上、善人も悪人も、智者も愚者も、持戒者も破戒者も、また老若男女その他あらゆる立場や条件をこえて、念仏一つで平等に救済される教えを説き、仏教のみならず世界の宗教改革者とも位置づけられる法然の教えはそれぞれ門下の間で種々の受け止めがなされ分派をみることとなる。法然が本願念仏を説くにあたって、それまでの修行論、仏身論、成仏（往生）論等々において発想の転換をしたため、当時の仏教界から種々の反発があった。それにも関わらず本願念仏弘通の信念のもと、あらゆる条件をこえて念仏のみで救済されることを説く中で、例えば「一念なお生まるいわんや多念をや」と表現されるように、一念と多念はじめ、信と行、臨終と平生等において独自の表現がとられてきた。これらをめぐって、いずれが法然の立場かと門下の受けとめが異なってきた。また法然は念仏を選択するために諸行を廃する表現が強調されたので既成教団からの批判を受けることになった。そこで門下にとっては、従来の仏教、とくに天台の立場を批判するものではないとの配慮から、全仏教や天台との融合をはかる面がみられる。そこに門下の間で位置づけの相違も発生してきた。これらの諸事情を受けて各門下においてどのような受けとめがなされたか、その特色や相違点を学習する。
■学習の要点	法然門下において法然の教えがどのように受けとめられたかを知るためには、まず法然自身の教えの特色をよく把握しておく必要がある。その上で法然門下の各祖師の生涯や教えを立てる背景をよく検討し、その特色をよく理解して相違点等を明らかにするよう心がけていただきたい。坪井俊映著『浄土学概論』も門下の教義を詳説していますので併用するようにしてください。
■学習の到達目標	法然浄土教の特色をまずつかむことが大切です。その上で門下の各祖師がどのように受けとめ、特色を示したか、その理解を求める。
■成績評価の基準	法然門下の誰がどのような理解を示したかが明確であることと、テキストの引き写しではなく、自身の言葉で論じられているかを重視します。

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	浄土教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5410	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
往生要集. 上(岩波文庫; 33-316-1)	源信著	岩波書店	[ISBN]9784003331613
往生要集. 下(岩波文庫; 33-316-2)	源信著	岩波書店	[ISBN]9784003331620

■授業の概要	不浄なる現世を厭い離れ（「厭離穢土」）、西方極楽浄土への往生を希う（「欣求浄土」）浄土教は、数々の優れた芸術作品を生み出した。すなわち、阿弥陀の極楽浄土世界を描きあらわした浄土図や、臨終時に阿弥陀仏が聖衆を伴い迎え来たるとする来迎思想にもとづく来迎図や来迎印を結ぶ阿弥陀像などである。浄土教はこうした往生浄土に関わる造形芸術とともに、反対に厭うべき六道輪廻の世界もまた造形化の対象とされ、凄惨な地獄絵などが制作された。本科目では、こうした美術作品を生み出す背景となった思想を理解したうえで、浄土教の信仰上の要請と密接に関連して生み出された美術作品について、当時の人々の信仰や切なる願いを読み解いていく。
■学習の要点	浄土教美術は、仏教美術のなかでもとりわけ思想との関連が密接である。とくに日本の浄土教美術の発展には、源信の『往生要集』が大きく影響を及ぼしている。そうした思想と造形との関係に留意しながら、日本浄土教美術の個々の作例の制作背景や造形的特徴を理解してほしい。石田瑞麿訳注の『往生要集』をテキストとするが、美術作品については参考文献等を必ず参照し、学習の実をあげること。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）浄土教美術の思想的背景について説明することができる。２）浄土教美術の代表的作例について説明することができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）リポート、答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	仏教書誌学				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TB5412	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
佛教書誌学	坪井俊英	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248827&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	およそ文献により人類文化を見つめていく学問は広義の意味で文献学と呼ぶことができる。文献学では文献に書かれた内容だけでなく、体裁、書体、刊本か写本かなどがまず問われるが、何に、どうやって書いたのかも重要である。たとえば書かれる材料に限っても時代により獣皮、絹布、竹、木、樹皮、紙などが使われ多種多様である。　テキストでは釈尊の説法にはじまった仏教が、東アジアの国々にどのように伝播し、日本に伝えられ広まってきたかを仏教典籍（仏典）の編輯、書写、刊行という側面から記述されている。仏教の展開の歴史を仏典の流布から学んで欲しい。
■学習の要点	・釈尊がどのような言葉を用いて説法されたのか、その説法がどのような経緯で編輯されたのか。結集、三藏、大乗経典などを中心として学習すること。・中国にいつごろ仏教は伝わり、どのような人々によって漢字に翻訳されてきたのか。経典目録、訳経事業、経典書写の目的などを中心として学習すること。・大蔵経（一切経）の開版はいつ、どこで、どのような経緯により行われたのか。写経と開版との長所短所、開版の発展原因、開版の種類と概要などを学習すること。・日本に仏教が伝来し、大蔵経（一切経）はどのように伝えられたのか。写経所の概要、書写経典の具体的事例をあげながら平安期までを学習すること。・日本における仏典開版の歴史を概説し、浄土教版といわれる出版はどのようなものなのか。浄土教版の定義をした上で出版事例を学習すること。・日本における大蔵経開版の試み、完成された大蔵経にはどのようなものがあるか。木製活字から整版、整版から金属活字へと変遷した理由、製本の変化を学習すること。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。③採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。⑤解答は、1200 字以上。これを充たせば 10 点を加える。
■成績評価の基準	到達目標の達成度で採点します。

授業科目	仏教と文学			単位	4.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5414
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教文学とは、仏教の影響を受けて成立した文学である。6 世紀に中国から朝鮮半島を通って日本に伝来した仏教は、古代から一貫して、文学に多大な影響を与え、物語や説話集、和歌、歌謡、謡曲など多くの作品が作られた。　仏教の果した役割は主にふたつ。ひとつは仏教伝来以前の人びとに、想像を超えた人生観・世界観をもたらしたこと。もうひとつは仏教伝来以前の宗教・習俗を、対象化し自覚化させたことである。そしてそれらは、とりわけ人間観・救済感覚・美的感性に結びつき、文学の基盤となり、長く複雑な仏教文学史を形成してきたのである。　仏教文学が隆盛した中世以降、近世の儒学や国学などの影響により日本文学における仏教の貢献度が過小評価された段階を経て、現在は、仏教抜きで日本文学を語ることはできないと考えられている。代表的な文学といわれる『源氏物語』『平家物語』『方丈記』『徒然草』などもまた仏教文学作品である。これらの作品を適切に把握し鑑賞するために、まず仏教（語）に関する正確な情報を学び、その上で個々の作品の中での仏教（語）の意味変容に留意し、可能な限り仏教（語）と文学（史）の双方を眺めながら日本の〈仏教文学〉理解に努めたい。
■学習の要点	テキストは、日本古典文学における仏教文学としての流れをとらえ、時代・ジャンル・作品などに分けて概説している。また仏教文学の具体相になるべく接近できるように、多くの例文を挙げている。もとよりテキストは文字どおり概説であり、入り口であり土台であることを忘れてはならない。そこで次の 2 つの点に留意して学習を進めること。　一つは、仏教文学は日本文学史の重要な一流であり、したがって仏教文学は大きく文学史に包摂されており、文学史を母胎としていることである。同時に仏教史の概説をも参照しながら、仏教にかかわる文学の歴史として巨視的に読み解くように心掛けてほしい。　もう一つは、仏教文学作品の内部には、まだ解明されていない多くの問題がひそんでいることである。とりわけ人間、救済、美にかかわる精神や心性が、深層に息づいている。それらはテキストの叙述を詳細に検討することによって顕在化するであろう。そのためにもテキスト所収の参考文献や例文の原典に直接当ってみることが肝要である。　以上の 2 点を念頭に置いて、仏教文学のなかにあらたな問題の発見につとめよう。
■学習の到達目標	テキストを熟読し、仏教文学史の流れと特色を明確に理解、把握できることが目標である。

■成績評価の基準	仏教（語）の適切な理解と、仏教文学が果たした役割が述べられているか。そういった基本的な理解度を合格点とする。

授業科目	浄土教学				単位	4.0
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	TB5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土の教義	石井教道	佛教大学	[ISBN]9784907177805

■授業の概要	このテキストは「浄土の教義」ですが、実際には「浄土宗の教義」をめぐって救済者としての阿弥陀仏論・被救済者としての衆生論・最終到達点としての解脱論から構成されています。そして各章ともに法然上人が敬い慕われた中国の善導大師と法然上人自身の教えにもとづいて解説されています。　なぜ阿弥陀仏による救済が行われるのか、なぜ念仏を称えるのか、浄土宗義における衆生とはどのような者なのか、往生とは何かといった浄土宗義の根幹について学びます。　なおテキストは浄土教の基礎知識がすでに備わっている学習者を対象としています。よって基礎知識のない人は相応の努力が必要となります。
■学習の要点	１．浄土教に特有な用語を辞典などを使ってこまめに調べること。その際、二つ以上の資料で調べることをすすめます。２．救済者としての阿弥陀仏は、どのような仏であるのか、またなぜ衆生を救おうとするのかが学習の中心となります。特に「阿弥陀仏の仏格」と「本願」という術語に留意してください。３．テキストでは衆生論について特に詳細に解説しています。浄土宗義において衆生（救済される側）の実現のありさまをどのようにとらえているのか、そしてその衆生が行うことのできる修道としての信仰・実践・態度・（安心・起行・四修）と、それを表現する用語の意味をしっかりと理解してください。４．解脱論では、救済（往生浄土）の理論について学び、加えて往生した後にさとりを得るために修行する場としての極楽浄土とはいかなる世界であるのかを理解してください。
■学習の到達目標	・浄土宗の仏陀論、衆生論、修道論、解脱論を表現する用語と、その具体的な意味を正確に述べることができる。・浄土宗の仏陀論、衆生論、修道論、解脱論を関連付けて、浄土宗義の本質について説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に掲げた点を達成できているかで評価する。具体的には、・浄土宗の教義を示す用語とその意味の理解度。・仏陀論、衆生論、修道論、解脱論の関係性についての理解度。・論理的な回答となっているか。以上によって評価する。

授業科目	原始・部派仏教思想			単位	4.0
担当者	山極　伸之		シラバスグループ	TB5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原始仏教（サーラ叢書　4）	水野弘元	平楽寺書店	[ISBN]9784831300041

■授業の概要	原始仏教は、仏教の根本であることから根本仏教ともいわれ、またインド仏教の歴史において初期時代の仏教であることから初期仏教ともいわれます。仏教の祖である釈尊（ゴータマ・ブッダ）や仏弟子の教えを中心に説かれた経（阿含・ニカーヤ）、律を研究の対象とする仏教を指します。また部派仏教は原始仏教に続いて興った仏教で、「経に対する解釈や研究」を意味するアビダルマ仏教とも言われ、原始仏教の根本思想について学問的に哲学的に体系付けを行った仏教を意味します。その文献は論と言われ、仏教学の基本とも言うべき仏教を指します。この原始・部派仏教思想は、後の仏教の基礎とも源流とも言いうる仏教であるという点から、仏教を学ぶ者にとって不可欠な科目であります。
■学習の要点	仏教の基礎とも源流ともいいうる仏教であるので、特定の部分だけを学ぶのではなく、全体を学ぶことによって仏教とはどのような思想をもった宗教であるのかを知る必要があります。そこに説かれる思想は、いずれも仏教の根本思想がさまざまな角度から説き明かされた結果となるので、すべてが相互に関係したものといえます。その点を踏まえて、以下の点について学習を進めてください。①三学②無我、無常③四諦説④涅槃⑤三明と六神通⑥涅槃の合理性と迷信の排除という仏教の立場
■学習の到達目標	①三学について説明できる。②無我、無常の内容について説明できる。③四諦説について説明できる。④涅槃の内容と特徴について説明できる。⑤三明と六神通について説明できる。⑥涅槃の合理性と迷信の排除という仏教の立場について説明できる。
■成績評価の基準	学習の到達点への達成度を、最終試験における記述内容で確認し、評価する。

授業科目	大乗仏教思想				単位	4.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5424	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
インド仏教の歴史：「悟り」と「空」（講談社学術文庫；1638）	竹村牧男	講談社	[ISBN]9784061596382
仏教の源流：インド	長尾雅人著	中央公論新社	[ISBN]9784122038677

■授業の概要	紀元１世紀頃、インドに新たな仏教が誕生した。それを大乗仏教という。大乗とは「大いなる乗り物」を意味する。原始・初期仏教の時代から、ブッダの教えは私たちを「さとりの世界」に運ぶ「乗り物」に喩えられてきた。大乗仏教を担った人たちは、自分たちの新たな仏教こそ、既成の教団仏教よりすぐれた「大いなる乗り物」だと自負したのである。そしてその中から『般若経』『法華経』『華厳経』『無量寿経』といった私たちにも著名な数々の大乗経典が生み出され、それらの経典をバックボーンとする思想家が次々と現れて、紀元２世紀以降インドに大乗仏教思想の花を咲かせた。シルクロードを経て中国に伝えられ、さらに海を渡って現在の我が国に至る仏教のほとんどは、大乗仏教もしくはその影響下にある仏教である。この科目では、大乗経典に説かれる「菩薩」「誓願」「空（くう）」「一乗」といった大乗仏教独自の思想を学び、さらに大乗仏教の思想家の中から、ナーガールジュナ（龍樹）の中観思想と、アサンガ（無著）・ヴァスバンドゥ（世親）兄弟の唯識思想の基本を、それらの中国、日本における展開をも視野に入れつつ学びます。
■学習の要点	・大乗仏教文献にあらわれる様々な概念は、阿含経典やアビダルマ文献にあらわれるものとは随分異なります。まずそれら大乗仏教独特の概念を学ぶ必要があります。テキストはすべてを網羅しているわけではありませんので、不足分は参考書にあたってください。・さらにテキストを離れて『般若経』『法華経』『無量寿経』といった著名な大乗経典自体を読むことも必要です。実際の文章を読むと、大乗仏教の世界がより身近なものとして理解できるはずです。サンスクリット語原典や漢訳を読む必要はありません。参考文献に挙げている現代語訳を用いてください。・インドにおける大乗仏教の哲学は大きくふたつの流れに分けることができます。龍樹に始まる中観思想（中観派）と、無著・世親兄弟に始まる唯識思想（唯識派）です。二つの哲学は『般若経』の空の思想をめぐって大きく対立します。また唯識思想に見られるアーラヤ識説や三性説などは、一般には理解困難なものと見なされがちですが、そんなことはありません。参考書は分かりやすく書かれています。皆さん方の挑戦を望みます。
■学習の到達目標	科目最終試験の問題はリポート設題と関連する事項から出題されます。リポート作成の時から関連する項目もしっかり調べておきましょう。成績評価に関しては、試験問題の問題の意図するところが正しく理解され、自身の言葉で合理的な論述がなされているかどうかによって評価します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断する。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	神話・伝承学				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	大乗仏教思想史				単位	4.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5430	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
インド仏教思想史（講談社学術文庫 2191）	三枝充悳	講談社	[ISBN]9784062921916
インド仏教の歴史（講談社学術文庫 1638）	竹村牧夫男	講談社	[ISBN]9784061596382

■授業の概要	大乗仏教思想史という限り、学派の伝承として思想をとらえることが重要と思われる。大乗仏教の学派というと中観派と唯識派である。　中観派（Mādhyamika）は、ナーガールジュナ（龍樹 150-250）を祖とし、アーリャデーヴァ（聖提婆 170-270）が出て、その後、ブッダパーリタ（仏護）、チャーンドラキールティ（月称 600-650）らの帰謬派とバーヴァヴィヴェーカ（清弁 500-570）、ジュニャーナガルバ（700-760）、シャーンタラクシタ（725-784）、カマラシーラ（740-797）、ハリバドラ（８世紀）らの自立派とに分かれる。それは『中論』の解釈と、また無自性の論証に於いて異なりが生じた為である。空、無自性の論理、龍樹の論法、分別、戯論、二諦説を柱とする。　唯識派（Vijñānavādin）に関しては、『瑜伽師地論』『解深密経』『大乗荘厳経論』に加え、特に無着の『摂大乗論』、世親の『唯識二十論』『唯識三十頌』は必読の書である。それらから三性説、アーラヤ識説、唯識無境説を学び取る必要がある。『二十論』の外境批判としての原子批判から唯識無境へと導く過程は、後代にも大きく影響したものであり、理解を深める必要がある。　如来蔵思想とは一切の衆生が悟り得る根拠を示すものであるが、それは『如来蔵経』の九種の譬喩により明示される。『不増不減経』『勝鬘経』『宝性論』等が主な基本テキストである。
■学習の要点	１．中観思想を学習するに際しては、それ以前のアビダルマの哲学と『般若経』やナーガールジュナの思想、特に空、無自性、縁起が何故説かれたのか、この意味を十分考察してください。２．ナーガールジュナ（龍樹）に始まる中観派は『中論』の縁起、空、無自性、二諦説に基づいて成立した学系であるが、それらの解釈と証明法を巡り自立派と帰謬派に分派する。さらにその後、シャーンタラクシタ、カマラシーラが現われ、唯識思想を高く評価しつつ、さらに中観思想へと導く体系が確立される。彼らは仏教論理学派のダルマキールティ（法称）の理論を広く活用している。彼らの中観思想はチベット仏教思想に多大の影響を与えた。３．唯識無境、三性説、アーラヤ識に通じるためには『解深密経』『瑜伽論』及び無着や世親の諸論書に通じることが大切である。それと共に止観に基づく修道論を学習することは不可欠である。我々の言動、心理活動は、その時その場で終るのではなく種子としてアーラヤ識に保存され、その影響力を未来に行使する。この意味をよく把握する必要がある。
■学習の到達目標	１．アビダルマの「有」の哲学体系が構築され、その後『般若経』、ナーガールジュナにより、空、無自性、縁起の思想が打ち出される。そのポイントは「自性」に対する考え方の相違がある。２．唯識思想の柱といえるものは、唯識無境説、アーラヤ識、三性説である。唯識無境とはどういうことなのか、よく理解し、前七識とアーラヤ識とが相互に関係し合うこと及び三性説の意味を十分理解すること。３．無着の著わした『摂大乗論』、世親の著わした『唯識二十論』『唯識三十頌』等、テキストとそれらの内容を十分理解すること。無着の唯識

	説、また世親にはどういった特徴ある唯識説が展開されているのか把握すること。４．中観派の自立派と帰謬派にはどういう論師がいるのか。それらは何を意味するのか。また両派の二諦説の特徴は何であるのか。後代の中観派にはどういう論師がいて、いかなる思想が展開されるのか十分把握すること。５．ナーガールジュナの無自性、縁起、空の思想とは、何が表されようとしているのか。戯論、分別とは何かよく把握し、なおかつ二諦説がどう説かれ何を意味するのか、確かにまた明瞭に理解すること。６．しっかりとした知識と理解を得ること。
■成績評価の基準	リポートに関しては、設題の意図をよく理解し、重要な点を外さないこと。参考書などの単なる写し取ったものは評価の対象とならないので、自分自身でよく理解し構成を考えてまとめること。最終試験においては、問題の焦点に敵った内容を十分に論じること。

授業科目	天台教学				単位	4.0
担当者	善　裕昭			シラバスグループ	TB5434	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
天台教学概論	恵谷隆戒	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248813&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	天台宗の教え（天台教学）は中国隋代の天台智者大師智顗（538～597）によって唱えられた。釈尊によって説かれた多くの経典を整理して『法華経』を最高価値のものとし、すべてのものが速やかに成仏することを明らかにした。智顗の著作は多いが、特に重要なのは天台三大部といわれる『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』であり、このほか五小部といわれる著作を中心に種々の教えが説かれる。それらにみる基礎的な概念を学び、天台教学の実践・思惟の一端に触れたい。　日本でも天台宗の教えはひろまった。伝教大師最澄（767～822）は中国留学から帰り比叡山延暦寺を創建し天台宗を開いた。それ以後、平安時代を通じ密教と融合した天台密教（台密）が発達し、顕密一致が唱えられた。天台宗は政治的にも文化的にも日本の社会に大きな影響力を持つに至る。その日本天台宗の歴史的展開を学ぶ。
■学習の要点	天台教学を学習するには、広い基礎知識が必要である。天台宗は四宗兼学といい、円・密・禅・戒の四つの教えを含むのみならず、インドから日本に至るまでの広範囲な仏教思想を包括した歴史的展開があるので、テキスト以外の概説書をも熟読して基礎知識を身につける必要がある。辞典を座右において学習することを勧める。
■学習の到達目標	「学習の要点」に示された学習目標に向かってテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。設題を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。
■成績評価の基準	日本天台宗の歴史的展開および天台教学の理解の度合いを測る。テキスト・参考文献そのままではなく、必ず自分の理解した文章で論じること。自分の疑問を積極的に投げかけてよい。論理的な文章であること。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	基礎浄土学				単位	4.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB6104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土学概論	坪井俊映著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248791&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土教思想は、インド大乗仏教の中で成立し、東アジアに伝わり、日本において法然による浄土宗として結実した。この科目は、阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）を軸に、以下の内容を思想史的な流れの上にとらえることを目的とする。　（１）浄土　（２）阿弥陀仏とその本願　（３）浄土教思想家　（４）聖典　（５）全仏教における位置づけ（教相判釈）　（６）末法思想　（７）人間観（凡夫観）　（８）往生行とその心構え　（９）善導、法然、法然門下の思想
■学習の要点	（１）「授業の概要」で示した九項目やテキストの目次をたよりに、全体的な学習内容を念頭に置くこと（２）テキストを熟読してポイントをノートにまとめること（３）専門用語については仏教辞典を引くこと（４）テキストの「学習課題」を参考に、自分の理解度をチェックすること（５）あきらめず面倒がらず粘り強く反復すること
■学習の到達目標	（１）阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）ということが歴史の中でどう理解されていったのか、が説明できる。（２）法然の思想が理解できている。
■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、問われたこと以外のことを記述していないか、論理的矛盾がないか、誤字脱字の有無、読み手に誤解を与えないか、をチェックし、正しい日本語で書かれていることを基準とする。

授業科目	基礎仏教学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教学概論	仏教学概論編纂会	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248863&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	2500 年もの歴史を有する仏教は、その発祥の地であるインドばかりでなく、伝播したアジア諸国においても、それぞれの国の主要な思想・宗教に大きな影響を与えてきました。中国あるいは日本にも仏教が伝わり、それぞれに独自の発達を遂げてきましたが、それらの仏教も、その根幹にはインド仏教思想があったと考えるべきでしょう。本科目は、そのように仏教の根幹に位置付けられるインド仏教思想を全体的に概観することを目的とするものです。インド仏教が一貫して主張し続ける思想を理解する一方で、時代の変化の中で変容していく思想を正確に理解することは、仏教全体を正しく把握するための不可欠な要素であります。具体的には、＜原始仏教・部派仏教＞と＜大乗仏教＞という二種にインド仏教を区分し、それぞれの思想の特徴を大まかに捉えながら、インド仏教全体を理解する上での基礎を学びます。
■学習の要点	１．＜原始仏教・部派仏教＞ーまず仏教がどのように成立したのかを学ぶと共に、原始仏教と呼ばれる初期の仏教がどのような思想を有していたのか、またそれらは具体的にいかなる内容であったのかを理解するよう努めてください。特に「縁起説」「四諦説」「煩悩」「悟り」などに注目し、これらの思想がいかなる背景のもとに成立し、どのような教理内容を持っていたのか、また部派仏教ではどのように解釈され体系化され発展していったのかを学習してください。２．＜大乗仏教＞ーはじめに、大乗仏教がどのような経緯を経て原始・部派仏教という流れの中から産み出されていったのかを考えてください。とくに部派が伝承していたジャータカや仏伝文学の役割に注目してください（ここには菩薩・利他・六波羅蜜がすでに見られます）。その上で、＜般若経＞＜法華経＞＜華厳経＞など大乗仏教の根幹を形成する様々な経典群がいかなるものであるのかを捉え、併せてそれらの経典中にどのような教理や思想が説かれているのかについて基本的な知識を身に付けてください。さらには、個々の教理や思想の内容がどのようなものであり、その後どんな役割を担いながら発展していくことになったのかを、「菩薩」「利他行」「中観」「唯識」「浄土」「仏性」などに注目しながら把握するよう努めてください。
■学習の到達目標	科目最終試験において、答案は要点を明確にまとめるよう努めてください。項目を羅列するだけの答案や、問題と全く関係のない内容を記述した答案を作成しないよう注意してください。

■成績評価の基準	疑問点や問題点を整理し、理解した内容について自分の言葉でどれだけ論述がなされているかを判断します。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	法然門下の思想				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土宗史	成田俊治･伊藤唯眞･平祐史	浄土宗出版	[ISBN]9784883632046
浄土教理史	恵谷隆戒	浄土宗出版	[ISBN]9784883632121

■授業の概要	仏教史上、善人も悪人も、智者も愚者も、持戒者も破戒者も、また老若男女その他あらゆる立場や条件をこえて、念仏一つで平等に救済される教えを説き、仏教のみならず世界の宗教改革者とも位置づけられる法然の教えはそれぞれ門下の間で種々の受け止めがなされ分派をみることとなる。法然が本願念仏を説くにあたって、それまでの修行論、仏身論、成仏（往生）論等々において発想の転換をしたため、当時の仏教界から種々の反発があった。それにも関わらず本願念仏弘通の信念のもと、あらゆる条件をこえて念仏のみで救済されることを説く中で、例えば「一念なお生まるいわんや多念をや」と表現されるように、一念と多念はじめ、信と行、臨終と平生等において独自の表現がとられてきた。これらをめぐって、いずれが法然の立場かと門下の受けとめが異なってきた。また法然は念仏を選択するために諸行を廃する表現が強調されたので既成教団からの批判を受けることになった。そこで門下にとっては、従来の仏教、とくに天台の立場を批判するものではないとの配慮から、全仏教や天台との融合をはかる面がみられる。そこに門下の間で位置づけの相違も発生してきた。これらの諸事情を受けて各門下においてどのような受けとめがなされたか、その特色や相違点を学習する。
■学習の要点	法然門下において法然の教えがどのように受けとめられたかを知るためには、まず法然自身の教えの特色をよく把握しておく必要がある。その上で法然門下の各祖師の生涯や教えを立てる背景をよく検討し、その特色をよく理解して相違点等を明らかにするよう心がけていただきたい。坪井俊映著『浄土学概論』も門下の教義を詳説していますので併用するようにしてください。
■学習の到達目標	法然浄土教の特色をまずつかむことが大切です。その上で門下の各祖師がどのように受けとめ、特色を示したか、その理解を求める。
■成績評価の基準	法然門下の誰がどのような理解を示したかが明確であることと、テキストの引き写しではなく、自身の言葉で論じられているかを重視します。

授業科目	浄土教の歴史				単位	4.0
担当者	齋藤　蒙光			シラバスグループ	TB6502	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土教史概説	坪井俊映	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248792&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土教は紀元前後のインドにおいて、大乗仏教の中から展開してきた思想です。大乗経典では色々な仏・菩薩の世界があることが説かれますが、圧倒的な影響力をもってきたのが西方極楽浄土にすまう阿弥陀仏をよりどころとする浄土教思想です。テキストはおおむね時代に沿って、インド・中国・日本における浄土教の展開について要領よく解説しています。本科目においては、浄土教がそれぞれの地域・時代においてどのように受容されてきたのか、どのように教義が構築され、信仰が宣揚されていったのかを学んでいきます。さらに、大乗仏教としての浄土教が、人間社会の中で生き生きと活動してきた宗教であり哲学であるということを学ぶことができます。
■学習の要点	（1)「浄土三部経」(無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経）および般舟三昧経の浄土教思想（2）インドの龍樹（2～3 世紀）や天親（世親、5 世紀）の浄土教思想（3）在来宗教・思想などとの接触、末法思想や他の仏教宗派との関わりの中で構築されていった中国の浄土教思想（4）鎮護国家と現当二世安楽思想を基調とする日本仏教の中で、機根（能力・資質）の自覚や時代感が産み出した新たな浄土教（5）中国の善導大師とわが国の法然上人の浄土教の共通点と相違点　浄土教の歴史とは、すなわち経典解釈・教理の展開についての歴史です。学習に際しては、参考文献を参照しながら、それぞれの時代の事象・教理について分析する視点と、それらを総合的に捉えて論じることのできる視点の両者を養うよう心がけてください。
■学習の到達目標	出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。　どれもみな浄土教の基本的な問題ですので、要領よく的確にまとめてください。
■成績評価の基準	主観を交えず、テキストや参考文献に忠実に理解しているかを基準とします。

授業科目	インド哲学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島　鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	前半は「ヴェーダの宗教と思想」として、仏教が誕生するまでの古代インド思想について、バラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を読解します。1 ヴェーダ文献 2『リグ・ヴェーダ』の神々3『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 4『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 5 ブラーフマナの祭儀と神話 6 ウパニシャッドの哲学思想　　a. シャーンディリヤ; b. 五火・二道説; c. ウッダーラカ; d. ヤージュニャヴァルキヤ後半は「六派哲学」と呼ばれるインド正統派の６つの哲学が成立したマウリヤ王朝からグプタ王朝に至る時代背景と思想史を概観します。1 サーンキヤ学派(精神と物質の二元論)2 ヨーガ学派(実践論)3 ニヤーヤ学派(論理学)4 ヴァイシェーシカ学派(カテゴリー論)5 ミーマーンサー学派(聖典解釈学)6 ヴェーダーンタ学派(不二一元論)
■学習の要点	以下のキーワードを理解し、レポートを作成して下さい。「ヴェーダの宗教と思想」1 四ヴェーダ, 四祭官, ヴェーダの四部門, ヴェーダの補助学; 2『リグ・ヴェーダ』, 自然神, 特定の神々, 宇宙創造に関わる神々; 3 哲学的讃歌, 謎の歌, 原人の歌, 宇宙開闢の歌;4『アタルヴァ・ヴェーダ』, 呪法讃歌, 人体の構造を讃うる歌, 支柱の歌; 5 ブラーフマナ, 創造神話, 念想と同置, 祭式の内面化; 6 ウパニシャッド, 輪廻と解脱, 梵我一如, 五火・二道説,「汝はそれなり」,「あらず・あらずのアートマン」「六派哲学」1 サーンキヤ, 二元論, 25 原理, 純粋精神; 2 八支ヨーガ, 総持, 禅定, 三昧; 3 ニヤーヤ, 論理学, 認識手段, 認識対象; 4 ヴァイシェーシカ, カテゴリー論, 原子論, 実体と性質; 5 ミーマーンサー, 新得力,文法学, スポータ説; 6 ヴェーダーンタ,不二一元論, シャンカラ
■学習の到達目標	学習の要点に示される用語の理解によって、1 バラモン教典の内容を簡潔に説明し、原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握出来ることを目指します。 2 主要なインド思想について、それぞれの内容を簡潔に説明し、中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握出来ることを目指します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断します。

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介·皿井舞·佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的·宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	浄土教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5410	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
往生要集. 上(岩波文庫; 33-316-1)	源信著	岩波書店	[ISBN]9784003331613
往生要集. 下(岩波文庫; 33-316-2)	源信著	岩波書店	[ISBN]9784003331620

■授業の概要	不浄なる現世を厭い離れ（「厭離穢土」）、西方極楽浄土への往生を希う（「欣求浄土」）浄土教は、数々の優れた芸術作品を生み出した。すなわち、阿弥陀の極楽浄土世界を描きあらわした浄土図や、臨終時に阿弥陀仏が聖衆を伴い迎え来たるとする来迎思想にもとづく来迎図や来迎印を結ぶ阿弥陀像などである。浄土教はこうした往生浄土に関わる造形芸術とともに、反対に厭うべき六道輪廻の世界もまた造形化の対象とされ、凄惨な地獄絵などが制作された。本科目では、こうした美術作品を生み出す背景となった思想を理解したうえで、浄土教の信仰上の要請と密接に関連して生み出された美術作品について、当時の人々の信仰や切なる願いを読み解いていく。
■学習の要点	浄土教美術は、仏教美術のなかでもとりわけ思想との関連が密接である。とくに日本の浄土教美術の発展には、源信の『往生要集』が大きく影響を及ぼしている。そうした思想と造形との関係に留意しながら、日本浄土教美術の個々の作例の制作背景や造形的特徴を理解してほしい。石田瑞麿訳注の『往生要集』をテキストとするが、美術作品については参考文献等を必ず参照し、学習の実をあげること。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）浄土教美術の思想的背景について説明することができる。２）浄土教美術の代表的作例について説明することができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）リポート、答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	仏教書誌学				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TB5412	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
佛教書誌学	坪井俊英	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248827&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	およそ文献により人類文化を見つめていく学問は広義の意味で文献学と呼ぶことができる。文献学では文献に書かれた内容だけでなく、体裁、書体、刊本か写本かなどがまず問われるが、何に、どうやって書いたのかも重要である。たとえば書かれる材料に限っても時代により獣皮、絹布、竹、木、樹皮、紙などが使われ多種多様である。　テキストでは釈尊の説法にはじまった仏教が、東アジアの国々にどのように伝播し、日本に伝えられ広まってきたかを仏教典籍（仏典）の編輯、書写、刊行という側面から記述されている。仏教の展開の歴史を仏典の流布から学んで欲しい。
■学習の要点	・釈尊がどのような言葉を用いて説法されたのか、その説法がどのような経緯で編輯されたのか。結集、三藏、大乗経典などを中心として学習すること。・中国にいつごろ仏教は伝わり、どのような人々によって漢字に翻訳されてきたのか。経典目録、訳経事業、経典書写の目的などを中心として学習すること。・大蔵経（一切経）の開版はいつ、どこで、どのような経緯により行われたのか。写経と開版との長所短所、開版の発展原因、開版の種類と概要などを学習すること。・日本に仏教が伝来し、大蔵経（一切経）はどのように伝えられたのか。写経所の概要、書写経典の具体的事例をあげながら平安期までを学習すること。・日本における仏典開版の歴史を概説し、浄土教版といわれる出版はどのようなものなのか。浄土教版の定義をした上で出版事例を学習すること。・日本における大蔵経開版の試み、完成された大蔵経にはどのようなものがあるか。木製活字から整版、整版から金属活字へと変遷した理由、製本の変化を学習すること。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。③採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。⑤解答は、1200 字以上。これを充たせば 10 点を加える。
■成績評価の基準	到達目標の達成度で採点します。

授業科目	仏教文学				単位	4.0
担当者	三好　俊徳			シラバスグループ	TB5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教文学とは、仏教の影響を受けて成立した文学である。6 世紀に中国から朝鮮半島を通って日本に伝来した仏教は、古代から一貫して、文学に多大な影響を与え、物語や説話集、和歌、歌謡、謡曲など多くの作品が作られた。　仏教の果した役割は主にふたつ。ひとつは仏教伝来以前の人びとに、想像を超えた人生観・世界観をもたらしたこと。もうひとつは仏教伝来以前の宗教・習俗を、対象化し自覚化させたことである。そしてそれらは、とりわけ人間観・救済感覚・美的感性に結びつき、文学の基盤となり、長く複雑な仏教文学史を形成してきたのである。　仏教文学が隆盛した中世以降、近世の儒学や国学などの影響により日本文学における仏教の貢献度が過小評価された段階を経て、現在は、仏教抜きで日本文学を語ることはできないと考えられている。代表的な文学といわれる『源氏物語』『平家物語』『方丈記』『徒然草』などもまた仏教文学作品である。これらの作品を適切に把握し鑑賞するために、まず仏教（語）に関する正確な情報を学び、その上で個々の作品の中での仏教（語）の意味変容に留意し、可能な限り仏教（語）と文学（史）の双方を眺めながら日本の〈仏教文学〉理解に努めたい。
■学習の要点	テキストは、日本古典文学における仏教文学としての流れをとらえ、時代・ジャンル・作品などに分けて概説している。また仏教文学の具体相になるべく接近できるように、多くの例文を挙げている。もとよりテキストは文字どおり概説であり、入り口であり土台であることを忘れてはならない。そこで次の 2 つの点に留意して学習を進めること。　一つは、仏教文学は日本文学史の重要な一流であり、したがって仏教文学は大きく文学史に包摂されており、文学史を母胎としていることである。同時に仏教史の概説をも参照しながら、仏教にかかわる文学の歴史として巨視的に読み解くように心掛けてほしい。　もう一つは、仏教文学作品の内部には、まだ解明されていない多くの問題がひそんでいることである。とりわけ人間、救済、美にかかわる精神や心性が、深層に息づいている。それらはテキストの叙述を詳細に検討することによって顕在化するであろう。そのためにもテキスト所収の参考文献や例文の原典に直接当ってみることが肝要である。　以上の 2 点を念頭に置いて、仏教文学のなかにあらたな問題の発見につとめよう。
■学習の到達目標	テキストを熟読し、仏教文学史の流れと特色を明確に理解、把握できることが目標である。

■成績評価の基準	仏教（語）の適切な理解と、仏教文学が果たした役割が述べられているか。そういった基本的な理解度を合格点とする。

授業科目	仏教哲学				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6512	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本的霊性（岩波文庫）	鈴木大拙著	岩波書店	[ISBN]9784003332313
禅(ちくま文庫)	鈴木大拙著	筑摩書房	[ISBN]9784480021571

■授業の概要	仏教を哲学的に考えるとは、どういうことか。この問いを、鈴木大拙の議論を中心に、考えていく。大拙は仏教の近代的表現を試み、西洋の思想界に影響を与えた。ここで近代的表現とは、西洋の哲学を仏教表現の基礎に据えたことをいう。哲学の限界、とくに哲学が信仰を語る限界を厳しく指摘しながら大拙は、禅や浄土教を描くとき、近代哲学の用語をためらうことなく用いたのである。大拙によって新たな表現を得た仏教や日本的信仰に接することで、宗教の目指すところや哲学の問いの意味を考え直してみたい。
■学習の要点	ここでは、東洋、西洋の区別にとらわれず、仏教や哲学から提出される問いを論理的に考えていきたい。理屈によって段階的に進む哲学の議論によって、宗教への入り口を探ることになる。リポートなど、課題にこたえるときには、筋の通った明確な文章を第一に心がけること。
■学習の到達目標	大拙の置かれた時代背景も理解すること。そして霊性という言葉を用いる意図をははっきり把握すること。日本の独自性を、西洋に比してどうとらえたか、その比べ方にも注意を払うこと。
■成績評価の基準	テキストを自分の言葉で、明確な筋道で要約してあること。テキストや参考書の文章をそのまま使っていないこと。自分の考えがテキストに沿って積極的に表現してあること。これらを評価する。

授業科目	浄土教学				単位	4.0
担当者	曽和　義宏			シラバスグループ	TB5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
浄土の教義	石井教道	佛教大学	[ISBN]9784907177805

■授業の概要	このテキストは「浄土の教義」ですが、実際には「浄土宗の教義」をめぐって救済者としての阿弥陀仏論・被救済者としての衆生論・最終到達点としての解脱論から構成されています。そして各章ともに法然上人が敬い慕われた中国の善導大師と法然上人自身の教えにもとづいて解説されています。　なぜ阿弥陀仏による救済が行われるのか、なぜ念仏を称えるのか、浄土宗義における衆生とはどのような者なのか、往生とは何かといった浄土宗義の根幹について学びます。　なおテキストは浄土教の基礎知識がすでに備わっている学習者を対象としています。よって基礎知識のない人は相応の努力が必要となります。
■学習の要点	１．浄土教に特有な用語を辞典などを使ってこまめに調べること。その際、二つ以上の資料で調べることをすすめます。２．救済者としての阿弥陀仏は、どのような仏であるのか、またなぜ衆生を救おうとするのかが学習の中心となります。特に「阿弥陀仏の仏格」と「本願」という術語に留意してください。３．テキストでは衆生論について特に詳細に解説しています。浄土宗義において衆生（救済される側）の実現のありさまをどのようにとらえているのか、そしてその衆生が行うことのできる修道としての信仰・実践・態度・（安心・起行・四修）と、それを表現する用語の意味をしっかりと理解してください。４．解脱論では、救済（往生浄土）の理論について学び、加えて往生した後にさとりを得るために修行する場としての極楽浄土とはいかなる世界であるのかを理解してください。
■学習の到達目標	・浄土宗の仏陀論、衆生論、修道論、解脱論を表現する用語と、その具体的な意味を正確に述べることができる。・浄土宗の仏陀論、衆生論、修道論、解脱論を関連付けて、浄土宗義の本質について説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に掲げた点を達成できているかで評価する。具体的には、・浄土宗の教義を示す用語とその意味の理解度。・仏陀論、衆生論、修道論、解脱論の関係性についての理解度。・論理的な回答となっているか。以上によって評価する。

授業科目	原始・部派仏教思想				単位	4.0
担当者	山極　伸之			シラバスグループ	TB5422	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
原始仏教（サーラ叢書　4）	水野弘元	平楽寺書店	[ISBN]9784831300041

■授業の概要	原始仏教は、仏教の根本であることから根本仏教ともいわれ、またインド仏教の歴史において初期時代の仏教であることから初期仏教ともいわれます。仏教の祖である釈尊（ゴータマ・ブッダ）や仏弟子の教えを中心に説かれた経（阿含・ニカーヤ）、律を研究の対象とする仏教を指します。また部派仏教は原始仏教に続いて興った仏教で、「経に対する解釈や研究」を意味するアビダルマ仏教とも言われ、原始仏教の根本思想について学問的に哲学的に体系付けを行った仏教を意味します。その文献は論と言われ、仏教学の基本とも言うべき仏教を指します。この原始・部派仏教思想は、後の仏教の基礎とも源流とも言いうる仏教であるという点から、仏教を学ぶ者にとって不可欠な科目であります。
■学習の要点	仏教の基礎とも源流ともいいうる仏教であるので、特定の部分だけを学ぶのではなく、全体を学ぶことによって仏教とはどのような思想をもった宗教であるのかを知る必要があります。そこに説かれる思想は、いずれも仏教の根本思想がさまざまな角度から説き明かされた結果となるので、すべてが相互に関係したものといえます。その点を踏まえて、以下の点について学習を進めてください。①三学②無我、無常③四諦説④涅槃⑤三明と六神通⑥涅槃の合理性と迷信の排除という仏教の立場
■学習の到達目標	①三学について説明できる。②無我、無常の内容について説明できる。③四諦説について説明できる。④涅槃の内容と特徴について説明できる。⑤三明と六神通について説明できる。⑥涅槃の合理性と迷信の排除という仏教の立場について説明できる。
■成績評価の基準	学習の到達点への達成度を、最終試験における記述内容で確認し、評価する。

授業科目	大乗仏教思想				単位	4.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5424	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
インド仏教の歴史：「悟り」と「空」（講談社学術文庫；1638）	竹村牧男	講談社	[ISBN]9784061596382
仏教の源流：インド	長尾雅人著	中央公論新社	[ISBN]9784122038677

■授業の概要	紀元１世紀頃、インドに新たな仏教が誕生した。それを大乗仏教という。大乗とは「大いなる乗り物」を意味する。原始・初期仏教の時代から、ブッダの教えは私たちを「さとりの世界」に運ぶ「乗り物」に喩えられてきた。大乗仏教を担った人たちは、自分たちの新たな仏教こそ、既成の教団仏教よりすぐれた「大いなる乗り物」だと自負したのである。そしてその中から『般若経』『法華経』『華厳経』『無量寿経』といった私たちにも著名な数々の大乗経典が生み出され、それらの経典をバックボーンとする思想家が次々と現れて、紀元２世紀以降インドに大乗仏教思想の花を咲かせた。シルクロードを経て中国に伝えられ、さらに海を渡って現在の我が国に至る仏教のほとんどは、大乗仏教もしくはその影響下にある仏教である。この科目では、大乗経典に説かれる「菩薩」「誓願」「空（くう）」「一乗」といった大乗仏教独自の思想を学び、さらに大乗仏教の思想家の中から、ナーガールジュナ（龍樹）の中観思想と、アサンガ（無著）・ヴァスバンドゥ（世親）兄弟の唯識思想の基本を、それらの中国、日本における展開をも視野に入れつつ学びます。
■学習の要点	・大乗仏教文献にあらわれる様々な概念は、阿含経典やアビダルマ文献にあらわれるものとは随分異なります。まずそれら大乗仏教独特の概念を学ぶ必要があります。テキストはすべてを網羅しているわけではありませんので、不足分は参考書にあたってください。・さらにテキストを離れて『般若経』『法華経』『無量寿経』といった著名な大乗経典自体を読むことも必要です。実際の文章を読むと、大乗仏教の世界がより身近なものとして理解できるはずです。サンスクリット語原典や漢訳を読む必要はありません。参考文献に挙げている現代語訳を用いてください。・インドにおける大乗仏教の哲学は大きくふたつの流れに分けることができます。龍樹に始まる中観思想（中観派）と、無著・世親兄弟に始まる唯識思想（唯識派）です。二つの哲学は『般若経』の空の思想をめぐって大きく対立します。また唯識思想に見られるアーラヤ識説や三性説などは、一般には理解困難なものと見なされがちですが、そんなことはありません。参考書は分かりやすく書かれています。皆さん方の挑戦を望みます。
■学習の到達目標	科目最終試験の問題はリポート設題と関連する事項から出題されます。リポート作成の時から関連する項目もしっかり調べておきましょう。成績評価に関しては、試験問題の問題の意図するところが正しく理解され、自身の言葉で合理的な論述がなされているかどうかによって評価します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断する。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	神話・伝承学				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	大乗仏教思想史				単位	4.0
担当者	松田　和信			シラバスグループ	TB5430	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
インド仏教思想史（講談社学術文庫 2191）	三枝充悳	講談社	[ISBN]9784062921916
インド仏教の歴史（講談社学術文庫 1638）	竹村牧夫男	講談社	[ISBN]9784061596382

■授業の概要	大乗仏教思想史という限り、学派の伝承として思想をとらえることが重要と思われる。大乗仏教の学派というと中観派と唯識派である。　中観派（Mādhyamika）は、ナーガールジュナ（龍樹 150-250）を祖とし、アーリャデーヴァ（聖提婆 170-270）が出て、その後、ブッダパーリタ（仏護）、チャーンドラキールティ（月称 600-650）らの帰謬派とバーヴァヴィヴェーカ（清弁 500-570）、ジュニャーナガルバ（700-760）、シャーンタラクシタ（725-784）、カマラシーラ（740-797）、ハリバドラ（８世紀）らの自立派とに分かれる。それは『中論』の解釈と、また無自性の論証に於いて異なりが生じた為である。空、無自性の論理、龍樹の論法、分別、戯論、二諦説を柱とする。　唯識派（Vijñānavādin）に関しては、『瑜伽師地論』『解深密経』『大乗荘厳経論』に加え、特に無着の『摂大乗論』、世親の『唯識二十論』『唯識三十頌』は必読の書である。それらから三性説、アーラヤ識説、唯識無境説を学び取る必要がある。『二十論』の外境批判としての原子批判から唯識無境へと導く過程は、後代にも大きく影響したものであり、理解を深める必要がある。　如来蔵思想とは一切の衆生が悟り得る根拠を示すものであるが、それは『如来蔵経』の九種の譬喩により明示される。『不増不減経』『勝鬘経』『宝性論』等が主な基本テキストである。
■学習の要点	１．中観思想を学習するに際しては、それ以前のアビダルマの哲学と『般若経』やナーガールジュナの思想、特に空、無自性、縁起が何故説かれたのか、この意味を十分考察してください。２．ナーガールジュナ（龍樹）に始まる中観派は『中論』の縁起、空、無自性、二諦説に基づいて成立した学系であるが、それらの解釈と証明法を巡り自立派と帰謬派に分派する。さらにその後、シャーンタラクシタ、カマラシーラが現われ、唯識思想を高く評価しつつ、さらに中観思想へと導く体系が確立される。彼らは仏教論理学派のダルマキールティ（法称）の理論を広く活用している。彼らの中観思想はチベット仏教思想に多大の影響を与えた。３．唯識無境、三性説、アーラヤ識に通じるためには『解深密経』『瑜伽論』及び無着や世親の諸論書に通じることが大切である。それと共に止観に基づく修道論を学習することは不可欠である。我々の言動、心理活動は、その時その場で終るのではなく種子としてアーラヤ識に保存され、その影響力を未来に行使する。この意味をよく把握する必要がある。
■学習の到達目標	１．アビダルマの「有」の哲学体系が構築され、その後『般若経』、ナーガールジュナにより、空、無自性、縁起の思想が打ち出される。そのポイントは「自性」に対する考え方の相違がある。２．唯識思想の柱といえるものは、唯識無境説、アーラヤ識、三性説である。唯識無境とはどういうことなのか、よく理解し、前七識とアーラヤ識とが相互に関係し合うこと及び三性説の意味を十分理解すること。３．無着の著わした『摂大乗論』、世親の著わした『唯識二十論』『唯識三十頌』等、テキストとそれらの内容を十分理解すること。無着の唯識

	説、また世親にはどういった特徴ある唯識説が展開されているのか把握すること。４．中観派の自立派と帰謬派にはどういう論師がいるのか。それらは何を意味するのか。また両派の二諦説の特徴は何であるのか。後代の中観派にはどういう論師がいて、いかなる思想が展開されるのか十分把握すること。５．ナーガールジュナの無自性、縁起、空の思想とは、何が表されようとしているのか。戯論、分別とは何かよく把握し、なおかつ二諦説がどう説かれ何を意味するのか、確かにまた明瞭に理解すること。６．しっかりとした知識と理解を得ること。
■成績評価の基準	リポートに関しては、設題の意図をよく理解し、重要な点を外さないこと。参考書などの単なる写し取ったものは評価の対象とならないので、自分自身でよく理解し構成を考えてまとめること。最終試験においては、問題の焦点に敵った内容を十分に論じること。

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	天台教学				単位	4.0
担当者	善　裕昭			シラバスグループ	TB5434	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
天台教学概論	恵谷隆戒	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248813&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	天台宗の教え（天台教学）は中国隋代の天台智者大師智顗（538～597）によって唱えられた。釈尊によって説かれた多くの経典を整理して『法華経』を最高価値のものとし、すべてのものが速やかに成仏することを明らかにした。智顗の著作は多いが、特に重要なのは天台三大部といわれる『法華玄義』『法華文句』『摩訶止観』であり、このほか五小部といわれる著作を中心に種々の教えが説かれる。それらにみる基礎的な概念を学び、天台教学の実践・思惟の一端に触れたい。　日本でも天台宗の教えはひろまった。伝教大師最澄（767～822）は中国留学から帰り比叡山延暦寺を創建し天台宗を開いた。それ以後、平安時代を通じ密教と融合した天台密教（台密）が発達し、顕密一致が唱えられた。天台宗は政治的にも文化的にも日本の社会に大きな影響力を持つに至る。その日本天台宗の歴史的展開を学ぶ。
■学習の要点	天台教学を学習するには、広い基礎知識が必要である。天台宗は四宗兼学といい、円・密・禅・戒の四つの教えを含むのみならず、インドから日本に至るまでの広範囲な仏教思想を包括した歴史的展開があるので、テキスト以外の概説書をも熟読して基礎知識を身につける必要がある。辞典を座右において学習することを勧める。
■学習の到達目標	「学習の要点」に示された学習目標に向かってテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。設題を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。
■成績評価の基準	日本天台宗の歴史的展開および天台教学の理解の度合いを測る。テキスト・参考文献そのままではなく、必ず自分の理解した文章で論じること。自分の疑問を積極的に投げかけてよい。論理的な文章であること。

授業科目	日本の歴史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋の歴史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋の歴史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	地理学				単位	4.0
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	TX5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
文化地理学ガイダンス［改訂版］あたりまえを読み解く三段活用	中川正・森正人・神田孝治 著	ナカニシヤ出版	[ISBN]9784779516146

■授業の概要	地理学は地表面で生じる様々な現象（出来事）と地域との関係を理解しようとする学問です。現象には必ず位置（場所）が存在し、かつ、単独ではなく複数の現象との関係のもと地域に分布（地理的分布）しています。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々ですが、2 つとして同じ場所はなく、現象には必ず地域差（地域的差異）が現れます。そこで、この授業では位置や分布をキーワードとして地理学の基本を学びます。
■学習の要点	①　地理学における基本的用語（概念）の意味を理解する。②　基本的用語（概念）を通して地域について理解する。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて理解する。
■学習の到達目標	①　地理学における基本的用語（概念）を正しく説明できる。②　基本的用語（概念）を用いて地域について説明できる。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　記述が論理的に構成されていること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は不合格とする）。⑤　テキストの丸写し、テキストの再構成のみの論述は不合格とする。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学			単位	4.0
担当者	大邑　潤三		シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	日本語学概論				単位	4.0
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	TM5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	[ISBN]9784894767102

■授業の概要	わたくしたちは、生まれた時から、周囲の人々の話すことばに触れ、それを習得することによって、コミュニーションをはかることを覚えます。その後、異なったことばに出会った時に、違いを知るところから、ふりかえって自らのことばの体系を客観的に見ることとなります。　時間の隔たり、空間の隔たりによって、ことばはさまざまな様相を見せます。古い時代から現代まで、日本語がどのような歩みをしてきたのか、すなわち、日本人が何を考え、どう生きてきたのかを知ることは、これからのわたくしたちがどう生きるかを考えることとなるでしょう。　そのようなことを教科書や他の書物などから学んでください。
■学習の要点	まず、テキストを読んでください。特別な学術用語もありますので、それを覚えると整理がしやすくなります。また、テキストには多くのことが載っていますが、その結果、内容は広く薄くなっています。よって、テキストだけで理解するのに不十分な場合があり、その際は、他の書物などで調べてください。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してください。次に、リポート設題を中心に、他の書物などで更に詳しく調べてください。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字でわかりやすくまとめてあるかが基準となります。

授業科目	言語学概論				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
入門ことばの科学	田中春美ほか	大修館書店	[ISBN]9784469211870

■授業の概要	ヒトの言語は、いくつかの音の組み合せ、単語の組み合せから成っている（分節言語）。広い意味での言語には、音楽・美術・身振り・その他、も含む。言語学では、広い意味での言語を考慮しつつ、主として分節言語を研究する。　テキストでは、〔言語の起源、動物の伝達と人間の言語、言語の習得、言語の構造、発音記号の役割、発話の意味、言語の多様性、言語と社会、言語接触、ピジンとクレオール、言語の系統、世界の言語〕などの項目について学習し、さまざまな方面から、言語はどのような役割を持つものなのか、を考える。
■学習の要点	テキストには、はじめて接する用語なども多数出てくる。それらの用語を理解するには、各章の章末に掲載されている参考図書などを読んだり、テキストの執筆陣による一般書『言語学のすすめ』（大修館書店）のような易しい言葉で説明してある入門書を読むのもいいだろう。　言語を考えることは、我々が生き、他者との関わりを考えることにつながる。テキストとあわせて種々の書物を読み、いろいろな問題を、自身で考えてほしい。テキストを暗記するのではなく、自身で考えることが最も重要である。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してほしい。次に、リポート設題、学習の要点を中心に、他の書物などで、更に詳しく調べ、深く理解しすること。そのレベルに達すれば、リポートも試験もできる。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	日本文学概論				単位	4.0
担当者	奥村　和美・坂井　健			シラバスグループ	TM5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本文学研究法	坂井健	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244724&refHpStenCode=68038,}

■授業の概要	まず初めに、文学とはどのようなものか、日本文学にはどのような領域が含まれるのかといった問題から説き起こし、国学の歴史と日本文学研究との関わり、日本文学研究の目的に及ぶ。ついで、実際に行われている日本文学研究のさまざまな方法を、具体例をあげながら紹介していく。それぞれの方法で、どのような手順で研究が行われるのか、その方法によって何を明らかにすることができるのか、あるいは、その目的は何か、また、その方法の短所は何か、などを明らかにしていく。　日本文学を学習しようとする人に、自分たちがこれから学習しようとすることはどのようなものなのか、どのように学習していかなければならないのか、といった点について、その概略を把握してもらうことを目的としている。
■学習の要点	この科目で学習するべきことは、日本文学研究についての概略であって、個別的知識ではない。個別的知識が述べられている場合でも、それはあくまで研究方法などを説明するためにあげられた具体例に過ぎないのであって、例そのものよりも、その例によって何が述べられているのかに注意して理解するようにして欲しい。特に重要なのは以下の点である。　1．国学と日本文学研究の関係はどのようなものであるか。日本文学研究の歴史とその性格はどのようなものか。　2．書誌学はどのような作業を行うか。その作業の必要性とその作業をおろそかにした場合の問題点は何か。　3．注釈・解釈・鑑賞とはどのような作業か。その有効性と問題点は何か。　4．出典研究の有効性と問題点は何か。　5．玉鬘系後記挿入説について説明しなさい。　6．伝記研究の有効性とその問題点は何か。　7．歴史社会学的研究の必要性について説明しなさい。　8．テクスト論とはどのような立場か。その有効性と問題点は何か。　9．文学史・文芸理念研究は何を明らかにしようとするか。その有効性と問題点は何か。いずれの場合でも、日本文学研究は何を明らかにすることができるのかという問題意識を持ちながら学習して欲しい。
■学習の到達目標	1．「学習の要点」にある学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績を評価する。2．問題はテキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。3．出題を正しく理解し、問題の要求にしたがって論理的に解答をするように。
■成績評価の基準	問題に対して、テキストの記述に即して解答しているかによって評価します。

授業科目	日本文学史			単位	4.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244716&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	漢文学				単位	4.0
担当者	鷲原　知良			シラバスグループ	TM5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文法基礎：本当にわかる漢文入門（講談社学術文庫；２０１８）	加地伸行著	講談社	[ISBN]9784062920186

■授業の概要	「漢文学」では、「漢文訓読」の方法について学び、「漢文訓読」で中国の古典を読む。　日本人は中国の古典を、主として返り点を付け仮名を添えて読む「漢文訓読」の方法で読んできた。そのように受容してきた「漢文」が日本語に与えた影響は大きい。この科目では、まず漢文訓読がどのように成立したか、その歴史的背景を学ぶ。次に、その完成した漢文訓読がどのようなものか、仕組みを理解する。最後に、漢文訓読が持つ問題点についても考える。また、あわせて有名な漢文に親しみ、漢文を読むための基礎的知識を習得し、日本文学との関連についても学ぶ。
■学習の要点	テキストの内容を理解すること以外に、以下のことを心がけよう。テキストで取り上げられている漢文の名句に関して、　１．簡単な白文に返り点・添え仮名を付けて読み下し文を作れるようになること。　２．置き字・再読文字や漢文の語法を理解すること。　３．歴史・文化的な背景の知識を身に付け、解説できるようにすること。１．２．については、高校卒業までで学んできたことをまず確認しよう。その上で、単に受験用の知識ではなく、その成立の背景や日本語との関係を理解し説明できるようにする。また可能な限り暗誦を心がけ、漢文のリズムを身に付けよう。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．漢文の名句について、次のことができること。　a. 白文に返り点を付けられる　b. a から読み下し文を作れる。　c. 読み下し文を白文に戻せる。２．漢文に関する基礎的な知識について簡単に説明できること。
■成績評価の基準	出題に応じて適切な用語で適切な説明ができているか。例示等により具体的な説明ができているか。以上の二点について評価し、誤字等の不備は減点する。

授業科目	日本漢文入門				単位	4.0
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	TM5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文学び方の基礎〔改訂版〕	近藤春雄著	武蔵野書院	[ISBN]9784838606153
古文と漢文：日中比較文学史	神田秀夫編	武蔵野書院	[ISBN]9784838606221

■授業の概要	日本文学は有史以来、世界有数の優れた文化の一つ、中国文化を摂取することで、文学の歴史を育んできた。それはひとり文学に限られたことでなく、仏教の伝来を始めとして、日本の文化全体が、中国の文化を受容することで、固有の文化を保持、展開させ得たのである。そして、例えば文学史を形作る基本要件の一つである、事簿を文字で書き表す能力−文字表記の能力−をわが日本人は、どのようにして手にしたのであろうか。日本文学史の始まりに位置する古事記、日本書紀、万葉集の原文を一見すれば、それらの作品が全て漢字で書き表されていることから明らかなように、そのことは中国の漢字を理解、応用することによって、可能となったのである。さらに漢字を日本語に適用することにより、仮名−平仮名と片仮名−が作り出され、日本の文学史を実際に発展させる基本要件を整えることが出来た。　さて、日本文学、殊に古典文学を理解する上で、非常に重要な役割を担うものとして、所謂「漢文」と呼ばれるものの存在がある。漢文は元来、中国語(古典中国語)の文章であるが、我々日本人の祖先は、漢字のみならず、漢文を受容することによって、その文学史を形成していったことは、例えば日本書紀が漢文で書かれていることから分かる。当科目はその漢文の概念を具体的に把握、理解することを目的とする。
■学習の要点	漢文は本来、古典中国語の文章を意味するが、古代の日本人は、大陸から伝わった漢文を学習、利用することにより、自らの言葉即ち日本語を表記しようとした。しかし、中国語の表記法である漢字、それを用いた漢文を、言語の体系の異なる日本語に適用しようとした日本人は、多大な苦労に直面することになる。例えば、文法を異にする日、中両国語の隔たりは、語順の違いを埋めるべく、返り点という符合を案出し、見事に漢文を日本語の文章として読解することに成功した。或いは、同一事物に対する発音が全く異なる、日中両国語の課題を解消すべく、漢字の発音(中国語の音)を「音(オン)」として残しつつ、日本語における発音を、「訓(くん)」として漢字に当てることで、音訓を並立させる、今日に至る漢字の用法を確立させたのである。このように漢字、漢文の日本語への適用に成功した日本人は、漢文を読解することで、世界有数の優れた中国文化を本格的に受容する一方において、日本独特の文化の表現法をも手にすることが出来た。　さて、日本文学はこのようにユニークな成立要件をもっているため、その基礎的な理解において、漢字、漢文の役割の把握が欠かせない。加えて、漢文を自家薬籠中のものとした日本人は、漢文をそのまま用いた日本漢文の流れを、全ての時代に貫流させた。そして、時代、各ジャンルの基底にある、言わば漢文脈の意義を知ることなしに、日本文学を理解することは殆ど不可能と言って過言ではないであろう。

■学習の到達目標	当科目は、「漢文」というものが日本文学において果たした役割を理解し、また、漢文に対する具体的且つ、正しい理解を得ることを到達目標とする。

■成績評価の基準	科目最終試験は、いずれの問題も、漢文というものの具体的成り立ちと機能を問うもので、大きく漢文及び、漢字の二つに対する理解を前提とするものになっている。いずれもテキスト『漢文学び方の基礎』7―25 頁、『古文と漢文』7―33 頁から項目を出題したものなので、テキスト上記を熟読し、漢文に対する基礎的理解を深めておいて欲しい。　評価の基準は、問題のポイントを押さえていることを及第点とする。従って、問題の主旨を外れた答案は、評価の対象とならない。また、単なる事項の羅列の場合も対象としない。問題のポイントを押さえ

授業科目	書道				単位	4.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5505	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	書道は、文字を素材とする造形芸術である。　本科目は、書道における漢字五書体の内、楷書・行書・草書の三体、および仮名の基本的技法を修得することを目的とする。いずれも古典の臨書によって、書技法の修得、並びに鑑賞力の向上を目指すものである。　楷行草三体は、しだいに簡略化されて完成していったように考えやすいが、実際は逆の草行楷の順に完成されたのである。最後に生まれた楷書は、唐代に頂点を迎え、現代に至るまで正式書体となっている。行書草書は、一貫して補助書体としての役目を荷いながらも、書道芸術の特に表現面において主要な位置を占めている。これら三書体を書き分けられることは、書道の理解のためには不可欠のことである。　一方、仮名は草書を母体として日本で独自に発達したもので、平安・鎌倉時代の技法を学ぶことが主となる。　テキストには、それぞれの代表的名品が解説とともに掲載されている。設題となっている古典だけではなく、幅広く書道の世界を味わっていただきたい。
■学習の要点	楷行草三書体の違いは、単に構造が異なるだけでなく、用筆法の相違による要素が大きい。三書体の書き分けのためには、筆使いの習熟が求められる。毛筆の働きに慣れるには、テキストを熟読し、毛筆が自然に動くように時間をかけて訓練する事が必要である。　また、単に手の動きだけではなく、臨書の対象となる古典の特徴を理解できる鑑賞力が、作品の出来不出来に大きくかかわる。テキスト掲載の主要な古典は、拓本（石などに刻された文字を紙に写しとったもの）が中心で、白黒反転した手本を見て書くことになる。拓本の見方に慣れるとともに、各古典の書風の相違を見極める力が求められる。　テキストには、参考手本が掲載されている。特に初心者はまずこれを参考に、六文字の適度な配置・文字の大きさを学んでほしい。　仮名は、小筆を使用するために、一層の繊細さが求められる。用具用材も漢字用のものとは異なるので、解説等を読んで吟味することが必要である。
■学習の到達目標	古典の臨書としての完成度の高さがあり､指導ができるような力をつける。
■成績評価の基準	古典の臨書として字形･線質･布置･章法ができていることが大前提｡その上で完成度の高いものを高く評価する。

授業科目	仏教伝道学				単位	4.0
担当者	伊藤　真宏			シラバスグループ	TB6104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
浄土学概論	坪井俊映著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248791&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	浄土教思想は、インド大乗仏教の中で成立し、東アジアに伝わり、日本において法然による浄土宗として結実した。この科目は、阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）を軸に、以下の内容を思想史的な流れの上にとらえることを目的とする。　（１）浄土　（２）阿弥陀仏とその本願　（３）浄土教思想家　（４）聖典　（５）全仏教における位置づけ（教相判釈）　（６）末法思想　（７）人間観（凡夫観）　（８）往生行とその心構え　（９）善導、法然、法然門下の思想
■学習の要点	（１）「授業の概要」で示した九項目やテキストの目次をたよりに、全体的な学習内容を念頭に置くこと（２）テキストを熟読してポイントをノートにまとめること（３）専門用語については仏教辞典を引くこと（４）テキストの「学習課題」を参考に、自分の理解度をチェックすること（５）あきらめず面倒がらず粘り強く反復すること
■学習の到達目標	（１）阿弥陀仏（所帰）、極楽浄土（所求）、念仏（去行）ということが歴史の中でどう理解されていったのか、が説明できる。（２）法然の思想が理解できている。
■成績評価の基準	問われたことに正確に答えているか、問われたこと以外のことを記述していないか、論理的矛盾がないか、誤字脱字の有無、読み手に誤解を与えないか、をチェックし、正しい日本語で書かれていることを基準とする。

授業科目	文献学入門				単位	4.0
担当者	神原　勇介			シラバスグループ	TM5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
原典をめざして：古典文学のための書誌	橋本不美男著	笠間書院	[ISBN]9784305603043

■授業の概要	日本の古典文学は、過去において多くは書写による写本という形で、伝えられてきた。そこには人の目と手による書写、装丁という作業が必然的に関与していた。そのため、そこには、作業を行う人物の錯誤と、意図的変改という不確定な要素が常に付随して、古典文学の伝承を複雑なものにしてきた。同様な事情は、版本による出版が主流になった近世や、活字印刷がほとんどとなった現在においても、形を変えて、存在している。そうした問題の実態と実例を、主に写本の場合を例にして学ぶことで、活字に頼りすぎている現代の古典文学享受の現状を反省し、日本文学研究の前提を理解する。
■学習の要点	文献学や書誌学が何を目的としているのか、本の装丁にはどのような種類があるのか、本文の異同・異本はどのような事情で発生するのか、その異同から、どのように元の形を復元していくのか、異同・異本の発生の様相から、どのような成立、または享受の姿を考えるのか、本に記されている奥書をどのように見ていくのか、日本文芸の中心であった和歌の記録がどのような形態でなされていたかを知る。
■学習の到達目標	主に、書写によって伝えられてきた日本の古典作品について、本文を校訂して、それを読むにいたるまでに、どのような考慮すべき問題があり手続きが求められるのかを、理解すること。また、それらの問題、手続きに関するこれまでの具体例を知ること。設定された課題に関して、テキストの内容が適切に理解されていること。答案の文章が日本語として適切であること。
■成績評価の基準	テキストの内容が理解できていること。日本語の文章として整っていること。テキスト外の内容についても学習できていれば、なおよい。

授業科目	日本文学概論				単位	4.0
担当者	奥村　和美・坂井　健			シラバスグループ	TM5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本文学研究法	坂井健	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244724&refHpStenCode=68038,}

■授業の概要	まず初めに、文学とはどのようなものか、日本文学にはどのような領域が含まれるのかといった問題から説き起こし、国学の歴史と日本文学研究との関わり、日本文学研究の目的に及ぶ。ついで、実際に行われている日本文学研究のさまざまな方法を、具体例をあげながら紹介していく。それぞれの方法で、どのような手順で研究が行われるのか、その方法によって何を明らかにすることができるのか、あるいは、その目的は何か、また、その方法の短所は何か、などを明らかにしていく。　日本文学を学習しようとする人に、自分たちがこれから学習しようとすることはどのようなものなのか、どのように学習していかなければならないのか、といった点について、その概略を把握してもらうことを目的としている。
■学習の要点	この科目で学習するべきことは、日本文学研究についての概略であって、個別的知識ではない。個別的知識が述べられている場合でも、それはあくまで研究方法などを説明するためにあげられた具体例に過ぎないのであって、例そのものよりも、その例によって何が述べられているのかに注意して理解するようにして欲しい。特に重要なのは以下の点である。　1．国学と日本文学研究の関係はどのようなものであるか。日本文学研究の歴史とその性格はどのようなものか。　2．書誌学はどのような作業を行うか。その作業の必要性とその作業をおろそかにした場合の問題点は何か。　3．注釈・解釈・鑑賞とはどのような作業か。その有効性と問題点は何か。　4．出典研究の有効性と問題点は何か。　5．玉鬘系後記挿入説について説明しなさい。　6．伝記研究の有効性とその問題点は何か。　7．歴史社会学的研究の必要性について説明しなさい。　8．テクスト論とはどのような立場か。その有効性と問題点は何か。　9．文学史・文芸理念研究は何を明らかにしようとするか。その有効性と問題点は何か。いずれの場合でも、日本文学研究は何を明らかにすることができるのかという問題意識を持ちながら学習して欲しい。
■学習の到達目標	1．「学習の要点」にある学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績を評価する。2．問題はテキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。3．出題を正しく理解し、問題の要求にしたがって論理的に解答をするように。
■成績評価の基準	問題に対して、テキストの記述に即して解答しているかによって評価します。

授業科目	日本文学史			単位	4.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	日本語学概論				単位	4.0
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	TM5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	[ISBN]9784894767102

■授業の概要	わたくしたちは、生まれた時から、周囲の人々の話すことばに触れ、それを習得することによって、コミュニーションをはかることを覚えます。その後、異なったことばに出会った時に、違いを知るところから、ふりかえって自らのことばの体系を客観的に見ることとなります。　時間の隔たり、空間の隔たりによって、ことばはさまざまな様相を見せます。古い時代から現代まで、日本語がどのような歩みをしてきたのか、すなわち、日本人が何を考え、どう生きてきたのかを知ることは、これからのわたくしたちがどう生きるかを考えることとなるでしょう。　そのようなことを教科書や他の書物などから学んでください。
■学習の要点	まず、テキストを読んでください。特別な学術用語もありますので、それを覚えると整理がしやすくなります。また、テキストには多くのことが載っていますが、その結果、内容は広く薄くなっています。よって、テキストだけで理解するのに不十分な場合があり、その際は、他の書物などで調べてください。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してください。次に、リポート設題を中心に、他の書物などで更に詳しく調べてください。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字でわかりやすくまとめてあるかが基準となります。

授業科目	日本語文法				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新口語文法	平居謙編	京都書房	[ISBN]9784763711519
標準古典文法	市川孝・山内洋一郎　監修	第一学習社	[ISBN]9784804033105

■授業の概要	日本語の文法を学ぶ。まず、平安時代の文法を中心とした文語文法（古典文法）、および口語文法（現代語の文法）の基礎を身につける。テキストの文法論は、学校文法と呼ばれるもので、言葉を形の上から見分けることを主眼にした、文法を勉強し始める人にとっては、わかりやすい文法の理論である。　しかし、テキストにも触れてあるが、「文法は言葉がどんな法則で成り立っているのかを解明するために後から考えられたもの」である。そのため、文法論は数多くあり、そしてそれは、それぞれの文法学者の言語観・人間観・世界観が反映されている。　したがって、文法書によって、言葉の単位の設定の仕方、品詞の名づけ方にも違いがある。それらにも学びながら、皆さんの言語観・人間観・世界観を養ってほしい。
■学習の要点	2 冊のテキストの記述をよく読み、日本語の文法を考える力を身につける。中でも、古典文法は、できるかぎり例文の原典を読み、文章の流れの中で考えるとよい。　人の言葉は、時代により、人々のものの考え方により、変化する。それゆえ、古典文法と現代語の文法との間で、もともとは同じ言葉であったものの品詞が異なる場合も起きてくる。　また、同時代において、別の働きをする言葉もある。たとえば、「本がある。」の「ある」と「これは本である。」の「ある」とでは、働きが異なっている。これは、どのように説明すればよいか。そのような疑問がいろいろ起きるだろう。その時には、さらに種々の文法論をひもといてほしい。それぞれの文法論に触れるうちに、疑問に対する解答を見つけていくことができるだろう。種々の文法書を読む基礎の力を、このテキストの学習を通して身につけてほしい。（注意：出版社により別冊の解答は一般向けには付属しない場合がある）
■学習の到達目標	文語文法（古典文法）を身につければ、古典作品が正確に読める。また、口語文法（現代語の文法）を身につければ、今使っている日本語に関して疑問がわいたときに、その答えを導く一助になるだろう。そのレベルに達してほしい。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	日本漢文入門				単位	4.0
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	TM5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文学び方の基礎〔改訂版〕	近藤春雄著	武蔵野書院	[ISBN]9784838606153
古文と漢文：日中比較文学史	神田秀夫編	武蔵野書院	[ISBN]9784838606221

■授業の概要	日本文学は有史以来、世界有数の優れた文化の一つ、中国文化を摂取することで、文学の歴史を育んできた。それはひとり文学に限られたことでなく、仏教の伝来を始めとして、日本の文化全体が、中国の文化を受容することで、固有の文化を保持、展開させ得たのである。そして、例えば文学史を形作る基本要件の一つである、事簿を文字で書き表す能力−文字表記の能力−をわが日本人は、どのようにして手にしたのであろうか。日本文学史の始まりに位置する古事記、日本書紀、万葉集の原文を一見すれば、それらの作品が全て漢字で書き表されていることから明らかなように、そのことは中国の漢字を理解、応用することによって、可能となったのである。さらに漢字を日本語に適用することにより、仮名−平仮名と片仮名−が作り出され、日本の文学史を実際に発展させる基本要件を整えることが出来た。　さて、日本文学、殊に古典文学を理解する上で、非常に重要な役割を担うものとして、所謂「漢文」と呼ばれるものの存在がある。漢文は元来、中国語(古典中国語)の文章であるが、我々日本人の祖先は、漢字のみならず、漢文を受容することによって、その文学史を形成していったことは、例えば日本書紀が漢文で書かれていることから分かる。当科目はその漢文の概念を具体的に把握、理解することを目的とする。
■学習の要点	漢文は本来、古典中国語の文章を意味するが、古代の日本人は、大陸から伝わった漢文を学習、利用することにより、自らの言葉即ち日本語を表記しようとした。しかし、中国語の表記法である漢字、それを用いた漢文を、言語の体系の異なる日本語に適用しようとした日本人は、多大な苦労に直面することになる。例えば、文法を異にする日、中両国語の隔たりは、語順の違いを埋めるべく、返り点という符合を案出し、見事に漢文を日本語の文章として読解することに成功した。或いは、同一事物に対する発音が全く異なる、日中両国語の課題を解消すべく、漢字の発音(中国語の音)を「音(オン)」として残しつつ、日本語における発音を、「訓(くん)」として漢字に当てることで、音訓を並立させる、今日に至る漢字の用法を確立させたのである。このように漢字、漢文の日本語への適用に成功した日本人は、漢文を読解することで、世界有数の優れた中国文化を本格的に受容する一方において、日本独特の文化の表現法をも手にすることが出来た。　さて、日本文学はこのようにユニークな成立要件をもっているため、その基礎的な理解において、漢字、漢文の役割の把握が欠かせない。加えて、漢文を自家薬籠中のものとした日本人は、漢文をそのまま用いた日本漢文の流れを、全ての時代に貫流させた。そして、時代、各ジャンルの基底にある、言わば漢文脈の意義を知ることなしに、日本文学を理解することは殆ど不可能と言って過言ではないであろう。

■学習の到達目標	当科目は、「漢文」というものが日本文学において果たした役割を理解し、また、漢文に対する具体的且つ、正しい理解を得ることを到達目標とする。

■成績評価の基準	科目最終試験は、いずれの問題も、漢文というものの具体的成り立ちと機能を問うもので、大きく漢文及び、漢字の二つに対する理解を前提とするものになっている。いずれもテキスト『漢文学び方の基礎』7―25 頁、『古文と漢文』7―33 頁から項目を出題したものなので、テキスト上記を熟読し、漢文に対する基礎的理解を深めておいて欲しい。　評価の基準は、問題のポイントを押さえていることを及第点とする。従って、問題の主旨を外れた答案は、評価の対象とならない。また、単なる事項の羅列の場合も対象としない。問題のポイントを押さえ

授業科目	漢文学				単位	4.0
担当者	鷲原　知良			シラバスグループ	TM5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文法基礎：本当にわかる漢文入門（講談社学術文庫；２０１８）	加地伸行著	講談社	[ISBN]9784062920186

■授業の概要	「漢文学」では、「漢文訓読」の方法について学び、「漢文訓読」で中国の古典を読む。　日本人は中国の古典を、主として返り点を付け仮名を添えて読む「漢文訓読」の方法で読んできた。そのように受容してきた「漢文」が日本語に与えた影響は大きい。この科目では、まず漢文訓読がどのように成立したか、その歴史的背景を学ぶ。次に、その完成した漢文訓読がどのようなものか、仕組みを理解する。最後に、漢文訓読が持つ問題点についても考える。また、あわせて有名な漢文に親しみ、漢文を読むための基礎的知識を習得し、日本文学との関連についても学ぶ。
■学習の要点	テキストの内容を理解すること以外に、以下のことを心がけよう。テキストで取り上げられている漢文の名句に関して、　１．簡単な白文に返り点・添え仮名を付けて読み下し文を作れるようになること。　２．置き字・再読文字や漢文の語法を理解すること。　３．歴史・文化的な背景の知識を身に付け、解説できるようにすること。１．２．については、高校卒業までで学んできたことをまず確認しよう。その上で、単に受験用の知識ではなく、その成立の背景や日本語との関係を理解し説明できるようにする。また可能な限り暗誦を心がけ、漢文のリズムを身に付けよう。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．漢文の名句について、次のことができること。　a. 白文に返り点を付けられる　b. a から読み下し文を作れる。　c. 読み下し文を白文に戻せる。２．漢文に関する基礎的な知識について簡単に説明できること。
■成績評価の基準	出題に応じて適切な用語で適切な説明ができているか。例示等により具体的な説明ができているか。以上の二点について評価し、誤字等の不備は減点する。

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋の歴史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	文化人類学			単位	4.0
担当者	鈴木　文子		シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	神話・伝承学				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	東洋文化史				単位	4.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ0508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	中国現代文学史				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国現代文学史	吉田富夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244702&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	五四時期から中華人民共和国成立までの時期の文学を扱う。文学上の時期区分とその主な内容は次の通りである。Ⅰ．五四新文化運動と新文学の覚醒　　文学革命Ⅱ．左翼文学の勃興と三十年代文学　　左翼作家連盟　　文芸大衆化問題Ⅲ．抗日戦争　　毛沢東「文芸講話」また、テキスト pp.ⅲ～pp.16 を参照。
■学習の要点	テキスト pp.339～pp.343 を参照。
■学習の到達目標	中国現代文学史上の基礎知識を身につけることが目標である。事実に即して、文学事項の相互の関連を理解しているかどうかを重視する。最低限、作家名、作品名、文学的事項は正確に覚えること。
■成績評価の基準	中国現代文学史の基礎的事項が理解出来ているかどうかを評価基準とする。

授業科目	中国古典文学史				単位	4.0
担当者	大井　さき			シラバスグループ	TN5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国文学概論	岩城秀夫著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	まず、テキストの全篇を通読して、中国の古典文学の歴史的流れを大まかに捉えてください。その際、とくに韻文（詩や詞）の変遷に留意してください。このテキストは書名に「概論」とありますが、中国古典文学史の流れに沿って書かれているので、「文学史」のテキストでもあります。テキスト中には比較的多くの作品が引用されていますが、量的にはまだ十分ではないので、具体的なイメージを形成するために「参考文献」に掲げた諸書を読むことを強く勧めます。
■学習の要点	テキストに出てくる人名や作品名を覚えることばかりに意を注ぐのではなく、古典文学の歴史的流れをつかむことに重点を置いて学習して下さい。
■学習の到達目標	文学史上の個々の詩人や作家の作品をより深く理解するための基礎として、中国古典文学史の大まかな流れと基礎知識を修得できているのが到達目標です。それが最終試験の答案に表われていることを期待します。
■成績評価の基準	設題の要求をはずさずに、自らの考えを自らの文章で書けているのが評価の基準です。テキストや参考文献の文章を安易にかつ無批判に引用するのはできる限り避けること。

授業科目	言語学概論				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
入門ことばの科学	田中春美ほか	大修館書店	[ISBN]9784469211870

■授業の概要	ヒトの言語は、いくつかの音の組み合せ、単語の組み合せから成っている（分節言語）。広い意味での言語には、音楽・美術・身振り・その他、も含む。言語学では、広い意味での言語を考慮しつつ、主として分節言語を研究する。　テキストでは、〔言語の起源、動物の伝達と人間の言語、言語の習得、言語の構造、発音記号の役割、発話の意味、言語の多様性、言語と社会、言語接触、ピジンとクレオール、言語の系統、世界の言語〕などの項目について学習し、さまざまな方面から、言語はどのような役割を持つものなのか、を考える。
■学習の要点	テキストには、はじめて接する用語なども多数出てくる。それらの用語を理解するには、各章の章末に掲載されている参考図書などを読んだり、テキストの執筆陣による一般書『言語学のすすめ』（大修館書店）のような易しい言葉で説明してある入門書を読むのもいいだろう。　言語を考えることは、我々が生き、他者との関わりを考えることにつながる。テキストとあわせて種々の書物を読み、いろいろな問題を、自身で考えてほしい。テキストを暗記するのではなく、自身で考えることが最も重要である。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してほしい。次に、リポート設題、学習の要点を中心に、他の書物などで、更に詳しく調べ、深く理解しすること。そのレベルに達すれば、リポートも試験もできる。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000082447 16&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	仏教文学				単位	4.0
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	TM5503	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教が中国文学・日本文学にどのような影響を与えたかを考察する。
■学習の要点	文学についての理解と仏教についての理解をともに十全なものにしつつ、仏教が文学においてどのように表現されているかを考察する。しかしこのことはなかなか容易ではない。一方で文学についての深い理解が要求され、もう一方では仏教思想や仏教経典にたいする確実な把握が求められるからである。その両者を可能な限り追及しつつ、文学者がどのように仏教を理解し、それを自己の文学としたのか、を考究する。
■学習の到達目標	日本文学において、仏教文学は文学史の基底をなすものの一つで、文学のみならず、仏教史に関する知識が要求される。このことをふまえて、テキストを中心とし、日本仏教史についての理解を深め、日本仏教文学の概念をしっかり把握する。
■成績評価の基準	学習の到達目標に示した点が、選択したテーマにおいて達成出来ているかを基準とする。

授業科目	書道				単位	4.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5505	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	書道は、文字を素材とする造形芸術である。　本科目は、書道における漢字五書体の内、楷書・行書・草書の三体、および仮名の基本的技法を修得することを目的とする。いずれも古典の臨書によって、書技法の修得、並びに鑑賞力の向上を目指すものである。　楷行草三体は、しだいに簡略化されて完成していったように考えやすいが、実際は逆の草行楷の順に完成されたのである。最後に生まれた楷書は、唐代に頂点を迎え、現代に至るまで正式書体となっている。行書草書は、一貫して補助書体としての役目を荷いながらも、書道芸術の特に表現面において主要な位置を占めている。これら三書体を書き分けられることは、書道の理解のためには不可欠のことである。　一方、仮名は草書を母体として日本で独自に発達したもので、平安・鎌倉時代の技法を学ぶことが主となる。　テキストには、それぞれの代表的名品が解説とともに掲載されている。設題となっている古典だけではなく、幅広く書道の世界を味わっていただきたい。
■学習の要点	楷行草三書体の違いは、単に構造が異なるだけでなく、用筆法の相違による要素が大きい。三書体の書き分けのためには、筆使いの習熟が求められる。毛筆の働きに慣れるには、テキストを熟読し、毛筆が自然に動くように時間をかけて訓練する事が必要である。　また、単に手の動きだけではなく、臨書の対象となる古典の特徴を理解できる鑑賞力が、作品の出来不出来に大きくかかわる。テキスト掲載の主要な古典は、拓本（石などに刻された文字を紙に写しとったもの）が中心で、白黒反転した手本を見て書くことになる。拓本の見方に慣れるとともに、各古典の書風の相違を見極める力が求められる。　テキストには、参考手本が掲載されている。特に初心者はまずこれを参考に、六文字の適度な配置・文字の大きさを学んでほしい。　仮名は、小筆を使用するために、一層の繊細さが求められる。用具用材も漢字用のものとは異なるので、解説等を読んで吟味することが必要である。
■学習の到達目標	古典の臨書としての完成度の高さがあり､指導ができるような力をつける。
■成績評価の基準	古典の臨書として字形･線質･布置･章法ができていることが大前提｡その上で完成度の高いものを高く評価する。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	文献学入門				単位	4.0
担当者	神原　勇介			シラバスグループ	TM5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
原典をめざして：古典文学のための書誌	橋本不美男著	笠間書院	[ISBN]9784305603043

■授業の概要	日本の古典文学は、過去において多くは書写による写本という形で、伝えられてきた。そこには人の目と手による書写、装丁という作業が必然的に関与していた。そのため、そこには、作業を行う人物の錯誤と、意図的変改という不確定な要素が常に付随して、古典文学の伝承を複雑なものにしてきた。同様な事情は、版本による出版が主流になった近世や、活字印刷がほとんどとなった現在においても、形を変えて、存在している。そうした問題の実態と実例を、主に写本の場合を例にして学ぶことで、活字に頼りすぎている現代の古典文学享受の現状を反省し、日本文学研究の前提を理解する。
■学習の要点	文献学や書誌学が何を目的としているのか、本の装丁にはどのような種類があるのか、本文の異同・異本はどのような事情で発生するのか、その異同から、どのように元の形を復元していくのか、異同・異本の発生の様相から、どのような成立、または享受の姿を考えるのか、本に記されている奥書をどのように見ていくのか、日本文芸の中心であった和歌の記録がどのような形態でなされていたかを知る。
■学習の到達目標	主に、書写によって伝えられてきた日本の古典作品について、本文を校訂して、それを読むにいたるまでに、どのような考慮すべき問題があり手続きが求められるのかを、理解すること。また、それらの問題、手続きに関するこれまでの具体例を知ること。設定された課題に関して、テキストの内容が適切に理解されていること。答案の文章が日本語として適切であること。
■成績評価の基準	テキストの内容が理解できていること。日本語の文章として整っていること。テキスト外の内容についても学習できていれば、なおよい。

授業科目	王城の文学・近代京都の文学				単位	4.0
担当者	筒井　大祐・朴　銀姫			シラバスグループ	TM6102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新訂　方丈記方丈記	鴨長明著・市古貞次校注鴨長明著・浅見和彦校訂	岩波書店ちくま学芸文庫	[ISBN]9784003010013[ISBN]9784480094070
京都の明治文学　―伝統の継承と変革―	河野仁昭著	白川書院	[ISBN]9784786700477

■授業の概要	＜王城の文学＞　『方丈記』は、京都・下鴨神社の社家に生まれた鴨長明によって書かれた中世を代表する随筆である。本科目では、鴨長明の視点を通して書かれた『方丈記』を読むことで、中世の京都の様相を概観する。＜近代京都の文学＞慶応４年、江戸は東京と改められ、京都は首都の座を東京に明け渡した。明治時代の近代文明開化のなかで、京都の人たちは、京都が時代に遅れた古都として取り残されることを嫌っていた。伝統の継承と変革こそが、京都の人たちの課題であった。テキスト『京都の明治文学』は、このような明治時代の京都と関連する歌人や詩人、小説家の文学作品を取り上げ、文学と京都との関わりについて深い論を展開した。　本授業では、テキストを通して、京都という土地がどのような文学作品を生み出し、また、舞台装置としての機能を働く京都の郷土性が、それぞれの作品のなかで、具体的にどのように描かれ、イメージ作られたのかを理解した上で、現実の京都と作品中の京都との差異について実体験し、作者の動機や意図について追究する。
■学習の要点	＜王城の文学＞『方丈記』を読んだ上で、中世に生きた鴨長明によって書かれた『方丈記』に「京都」が、どのような場所として描かれているかを読み取れる事を目指す。＜近代京都の文学＞この科目はテキストにより履修するので、テキストの学習を中心とする。　テキストに取り上げられている新聞や歌人、俳人、詩人、小説家の作品に詠われている、または描かれている京都の各名所を把握し、具体的にどのように詠われ、描かれたのか、そして著者はどのように説明したのかを理解し、さらに作品と京都の各名所との関連について探求することを中心に学習を進める。
■学習の到達目標	＜王城の文学＞鴨長明『方丈記』の内容を理解した上で、分析や考察を加えることができる。＜近代京都の文学＞明治時代の京都と文学との関わりのある多様なジャンルの作品やその解説・論述を通して、具体的に、また現実との比較を通して学習し、京都という郷土性と文人たちの関係、作品に描かれた京都のイメージ、作品に働く機能などについて理解を深めることを目標とする。
■成績評価の基準	＜王城の文学＞『方丈記』の内容を理解した上で、受講者自身の分析や考察を加えているかを評価する。＜近代京都の文学＞テキストにそくした学習の成果を答案にまとめることが基本である。まずはテキストの理解である。しっかり正確に理解した上で、リポートの形式に沿ってまとめ、自分が知っている京都の歴史や文化、地理などの知識に合わせて、自分の見解を述べる。

授業科目	ことばと表現				単位	4.0
担当者	諸岡　哲也			シラバスグループ	TM6103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
物語論　基礎と応用	橋本陽介著	講談社選書メチエ	[ISBN]9784062586504

■授業の概要	文学へのアプローチ方法のひとつである「物語論」を理解する。

■学習の要点	文学研究は、まず作品の〈ことばと表現〉に触れなければ話にならない。しかし、ただ漫然と作品を読んでいたのでは、通常の読書と変わらない。では、文学研究として作品を読むとはどういうことか。そのことを身につけるために、無数にある文学へのアプローチ方法のなかから「物語論」について学習する。

■学習の到達目標	「物語論」について十分に理解し、今後の研究において活用できるようになる。

■成績評価の基準	テキストの内容を十分に理解しているか、具体例が適切に用いられているか、テキストで学んだことを自分の読解に生かせているか。

授業科目	日本文学概論				単位	4.0
担当者	奥村　和美・坂井　健			シラバスグループ	TM5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本文学研究法	坂井健	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244724&refHpStenCode=68038,}

■授業の概要	まず初めに、文学とはどのようなものか、日本文学にはどのような領域が含まれるのかといった問題から説き起こし、国学の歴史と日本文学研究との関わり、日本文学研究の目的に及ぶ。ついで、実際に行われている日本文学研究のさまざまな方法を、具体例をあげながら紹介していく。それぞれの方法で、どのような手順で研究が行われるのか、その方法によって何を明らかにすることができるのか、あるいは、その目的は何か、また、その方法の短所は何か、などを明らかにしていく。　日本文学を学習しようとする人に、自分たちがこれから学習しようとすることはどのようなものなのか、どのように学習していかなければならないのか、といった点について、その概略を把握してもらうことを目的としている。
■学習の要点	この科目で学習するべきことは、日本文学研究についての概略であって、個別的知識ではない。個別的知識が述べられている場合でも、それはあくまで研究方法などを説明するためにあげられた具体例に過ぎないのであって、例そのものよりも、その例によって何が述べられているのかに注意して理解するようにして欲しい。特に重要なのは以下の点である。　1．国学と日本文学研究の関係はどのようなものであるか。日本文学研究の歴史とその性格はどのようなものか。　2．書誌学はどのような作業を行うか。その作業の必要性とその作業をおろそかにした場合の問題点は何か。　3．注釈・解釈・鑑賞とはどのような作業か。その有効性と問題点は何か。　4．出典研究の有効性と問題点は何か。　5．玉鬘系後記挿入説について説明しなさい。　6．伝記研究の有効性とその問題点は何か。　7．歴史社会学的研究の必要性について説明しなさい。　8．テクスト論とはどのような立場か。その有効性と問題点は何か。　9．文学史・文芸理念研究は何を明らかにしようとするか。その有効性と問題点は何か。いずれの場合でも、日本文学研究は何を明らかにすることができるのかという問題意識を持ちながら学習して欲しい。
■学習の到達目標	1．「学習の要点」にある学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績を評価する。2．問題はテキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。3．出題を正しく理解し、問題の要求にしたがって論理的に解答をするように。
■成績評価の基準	問題に対して、テキストの記述に即して解答しているかによって評価します。

授業科目	日本文学史			単位	4.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	日本語学概論				単位	4.0
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	TM5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	[ISBN]9784894767102

■授業の概要	わたくしたちは、生まれた時から、周囲の人々の話すことばに触れ、それを習得することによって、コミュニーションをはかることを覚えます。その後、異なったことばに出会った時に、違いを知るところから、ふりかえって自らのことばの体系を客観的に見ることとなります。　時間の隔たり、空間の隔たりによって、ことばはさまざまな様相を見せます。古い時代から現代まで、日本語がどのような歩みをしてきたのか、すなわち、日本人が何を考え、どう生きてきたのかを知ることは、これからのわたくしたちがどう生きるかを考えることとなるでしょう。　そのようなことを教科書や他の書物などから学んでください。
■学習の要点	まず、テキストを読んでください。特別な学術用語もありますので、それを覚えると整理がしやすくなります。また、テキストには多くのことが載っていますが、その結果、内容は広く薄くなっています。よって、テキストだけで理解するのに不十分な場合があり、その際は、他の書物などで調べてください。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してください。次に、リポート設題を中心に、他の書物などで更に詳しく調べてください。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字でわかりやすくまとめてあるかが基準となります。

授業科目	日本語文法				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新口語文法	平居謙編	京都書房	[ISBN]9784763711519
標準古典文法	市川孝・山内洋一郎　監修	第一学習社	[ISBN]9784804033105

■授業の概要	日本語の文法を学ぶ。まず、平安時代の文法を中心とした文語文法（古典文法）、および口語文法（現代語の文法）の基礎を身につける。テキストの文法論は、学校文法と呼ばれるもので、言葉を形の上から見分けることを主眼にした、文法を勉強し始める人にとっては、わかりやすい文法の理論である。　しかし、テキストにも触れてあるが、「文法は言葉がどんな法則で成り立っているのかを解明するために後から考えられたもの」である。そのため、文法論は数多くあり、そしてそれは、それぞれの文法学者の言語観・人間観・世界観が反映されている。　したがって、文法書によって、言葉の単位の設定の仕方、品詞の名づけ方にも違いがある。それらにも学びながら、皆さんの言語観・人間観・世界観を養ってほしい。
■学習の要点	2 冊のテキストの記述をよく読み、日本語の文法を考える力を身につける。中でも、古典文法は、できるかぎり例文の原典を読み、文章の流れの中で考えるとよい。　人の言葉は、時代により、人々のものの考え方により、変化する。それゆえ、古典文法と現代語の文法との間で、もともとは同じ言葉であったものの品詞が異なる場合も起きてくる。　また、同時代において、別の働きをする言葉もある。たとえば、「本がある。」の「ある」と「これは本である。」の「ある」とでは、働きが異なっている。これは、どのように説明すればよいか。そのような疑問がいろいろ起きるだろう。その時には、さらに種々の文法論をひもといてほしい。それぞれの文法論に触れるうちに、疑問に対する解答を見つけていくことができるだろう。種々の文法書を読む基礎の力を、このテキストの学習を通して身につけてほしい。（注意：出版社により別冊の解答は一般向けには付属しない場合がある）
■学習の到達目標	文語文法（古典文法）を身につければ、古典作品が正確に読める。また、口語文法（現代語の文法）を身につければ、今使っている日本語に関して疑問がわいたときに、その答えを導く一助になるだろう。そのレベルに達してほしい。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	日本漢文入門				単位	4.0
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	TM5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文学び方の基礎〔改訂版〕	近藤春雄著	武蔵野書院	[ISBN]9784838606153
古文と漢文：日中比較文学史	神田秀夫編	武蔵野書院	[ISBN]9784838606221

■授業の概要	日本文学は有史以来、世界有数の優れた文化の一つ、中国文化を摂取することで、文学の歴史を育んできた。それはひとり文学に限られたことでなく、仏教の伝来を始めとして、日本の文化全体が、中国の文化を受容することで、固有の文化を保持、展開させ得たのである。そして、例えば文学史を形作る基本要件の一つである、事簿を文字で書き表す能力−文字表記の能力−をわが日本人は、どのようにして手にしたのであろうか。日本文学史の始まりに位置する古事記、日本書紀、万葉集の原文を一見すれば、それらの作品が全て漢字で書き表されていることから明らかなように、そのことは中国の漢字を理解、応用することによって、可能となったのである。さらに漢字を日本語に適用することにより、仮名−平仮名と片仮名−が作り出され、日本の文学史を実際に発展させる基本要件を整えることが出来た。　さて、日本文学、殊に古典文学を理解する上で、非常に重要な役割を担うものとして、所謂「漢文」と呼ばれるものの存在がある。漢文は元来、中国語(古典中国語)の文章であるが、我々日本人の祖先は、漢字のみならず、漢文を受容することによって、その文学史を形成していったことは、例えば日本書紀が漢文で書かれていることから分かる。当科目はその漢文の概念を具体的に把握、理解することを目的とする。
■学習の要点	漢文は本来、古典中国語の文章を意味するが、古代の日本人は、大陸から伝わった漢文を学習、利用することにより、自らの言葉即ち日本語を表記しようとした。しかし、中国語の表記法である漢字、それを用いた漢文を、言語の体系の異なる日本語に適用しようとした日本人は、多大な苦労に直面することになる。例えば、文法を異にする日、中両国語の隔たりは、語順の違いを埋めるべく、返り点という符合を案出し、見事に漢文を日本語の文章として読解することに成功した。或いは、同一事物に対する発音が全く異なる、日中両国語の課題を解消すべく、漢字の発音(中国語の音)を「音(オン)」として残しつつ、日本語における発音を、「訓(くん)」として漢字に当てることで、音訓を並立させる、今日に至る漢字の用法を確立させたのである。このように漢字、漢文の日本語への適用に成功した日本人は、漢文を読解することで、世界有数の優れた中国文化を本格的に受容する一方において、日本独特の文化の表現法をも手にすることが出来た。　さて、日本文学はこのようにユニークな成立要件をもっているため、その基礎的な理解において、漢字、漢文の役割の把握が欠かせない。加えて、漢文を自家薬籠中のものとした日本人は、漢文をそのまま用いた日本漢文の流れを、全ての時代に貫流させた。そして、時代、各ジャンルの基底にある、言わば漢文脈の意義を知ることなしに、日本文学を理解することは殆ど不可能と言って過言ではないであろう。

■学習の到達目標	当科目は、「漢文」というものが日本文学において果たした役割を理解し、また、漢文に対する具体的且つ、正しい理解を得ることを到達目標とする。

■成績評価の基準	科目最終試験は、いずれの問題も、漢文というものの具体的成り立ちと機能を問うもので、大きく漢文及び、漢字の二つに対する理解を前提とするものになっている。いずれもテキスト『漢文学び方の基礎』7―25 頁、『古文と漢文』7―33 頁から項目を出題したものなので、テキスト上記を熟読し、漢文に対する基礎的理解を深めておいて欲しい。　評価の基準は、問題のポイントを押さえていることを及第点とする。従って、問題の主旨を外れた答案は、評価の対象とならない。また、単なる事項の羅列の場合も対象としない。問題のポイントを押さえ

授業科目	漢文学				単位	4.0
担当者	鷲原　知良			シラバスグループ	TM5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
漢文法基礎：本当にわかる漢文入門（講談社学術文庫；２０１８）	加地伸行著	講談社	[ISBN]9784062920186

■授業の概要	「漢文学」では、「漢文訓読」の方法について学び、「漢文訓読」で中国の古典を読む。　日本人は中国の古典を、主として返り点を付け仮名を添えて読む「漢文訓読」の方法で読んできた。そのように受容してきた「漢文」が日本語に与えた影響は大きい。この科目では、まず漢文訓読がどのように成立したか、その歴史的背景を学ぶ。次に、その完成した漢文訓読がどのようなものか、仕組みを理解する。最後に、漢文訓読が持つ問題点についても考える。また、あわせて有名な漢文に親しみ、漢文を読むための基礎的知識を習得し、日本文学との関連についても学ぶ。
■学習の要点	テキストの内容を理解すること以外に、以下のことを心がけよう。テキストで取り上げられている漢文の名句に関して、　１．簡単な白文に返り点・添え仮名を付けて読み下し文を作れるようになること。　２．置き字・再読文字や漢文の語法を理解すること。　３．歴史・文化的な背景の知識を身に付け、解説できるようにすること。１．２．については、高校卒業までで学んできたことをまず確認しよう。その上で、単に受験用の知識ではなく、その成立の背景や日本語との関係を理解し説明できるようにする。また可能な限り暗誦を心がけ、漢文のリズムを身に付けよう。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】１．漢文の名句について、次のことができること。　a．白文に返り点を付けられる　b．a から読み下し文を作れる。　c．読み下し文を白文に戻せる。２．漢文に関する基礎的な知識について簡単に説明できること。
■成績評価の基準	出題に応じて適切な用語で適切な説明ができているか。例示等により具体的な説明ができているか。以上の二点について評価し、誤字等の不備は減点する。

授業科目	中国・日本書道史				単位	4.0
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	TM6110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治家と書　―近現代に於ける日本人の教養―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639023364
中国の政治家と書―激動の時代を生きた政治家たちの残したもの―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639025221

■授業の概要	古来、中国では、教養人の間では書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は人々に尊重されてきた。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれてきたのである。　中国書道史、日本書道史、それぞれの文化の流れを理解することは、東洋古来の美の探究に他ならない。書を学問的に追求することの楽しさをこの科目でぜひ味わってほしい。
■学習の要点	①王羲之・王献之の人となりと、代表作について学習する。②唐の四大家の人となりと、それぞれの代表作について学習する。③中国近現代の政治家の書について学習する。④三筆・三蹟の人となりと、それぞれの代表作について学習する。⑤日本近現代の政治家の書について学習する。⑥「かな」の代表的作品について学習する。特に、「高野切古今集」については、第一種・第二種・第三種の違いを明確にしておく。　以上を中心に中国書道史・日本書道史とも幅広く学んでほしい。特に、人物については『書の基本資料』（中教出版）12 巻中国の能書、13 巻日本の能書等によってまとめておくとよい。また、それぞれの代表作については、『書道全集』（平凡社）・『書道芸術』（中央公論新社）等によって確認しておくとよい。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②採点は、加点方式を基本とする。問題に対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は 1500 字以上に及んでいること。これを充たせば 10 点を加える。⑤誤字・脱字に注意すること。⑥人名・作品名は、基本的に漢字にすること。
■成績評価の基準	試験結果で判断する。

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋の歴史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	神話・伝承学				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	東洋文化史				単位	4.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ0508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	中国文学の歴史Ⅰ				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国現代文学史	吉田富夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244702&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	五四時期から中華人民共和国成立までの時期の文学を扱う。文学上の時期区分とその主な内容は次の通りである。Ⅰ．五四新文化運動と新文学の覚醒　　文学革命Ⅱ．左翼文学の勃興と三十年代文学　　左翼作家連盟　　文芸大衆化問題Ⅲ．抗日戦争　　毛沢東「文芸講話」また、テキスト pp.ⅲ～pp.16 を参照。
■学習の要点	テキスト pp.339～pp.343 を参照。
■学習の到達目標	中国現代文学史上の基礎知識を身につけることが目標である。事実に即して、文学事項の相互の関連を理解しているかどうかを重視する。最低限、作家名、作品名、文学的事項は正確に覚えること。
■成績評価の基準	中国現代文学史の基礎的事項が理解出来ているかどうかを評価基準とする。

授業科目	中国文学の歴史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN6102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国文学概論	岩城秀夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	長い中国の歴史の中で、文学は詩を中心として、賦・楽府・詞・戯曲・小説など多くのジャンルが発生し、いずれもが時代を象徴するに足るものである。テキストを通読し、中国における文学の歴史を学ぶと同時に、テキストに豊富に取り上げられている作品群を通じて、個々の文人や作品の特徴をつかんで欲しい。
■学習の要点	テキストを通じて中国文学の歴史と作品を幅広く学んだ上で、特に以下の項目について理解を深めて欲しい。　(1)『詩経』の特徴について。収録されている作品について、地域・時代背景・作者・形式内容などの面から特徴を把握してみる。　(2)『楚辞』の特徴について。収録されている作品について、地域・時代背景・作者・形式内容などの面から特徴を把握してみる。　(3)　(1)(2)を踏まえて、『詩経』と『楚辞』の特徴を比較し、それぞれの作品の意義や後世に及ぼした影響などを考えてみる。　(4)唐詩の特徴について。初唐から晩唐まで、それぞれの時期における詩人や作品を概観し、全体の流れを把握してみる。(5)宋詩の特徴について。唐と宋の時代の差異を念頭に置きつつ、北宋と南宋それぞれの時期に活躍した詩人とその作品に触れ、宋詩の流れを把握してみる。　(6)　(4)(5)を踏まえて、唐詩と宋詩の特徴を比較し、それぞれの詩人や作品の意義や後世への影響を考えてみる。　また特に個々の作品を読む際には、テキストP.472以降に挙げられる参考文献も合わせて参照されるとよい。
■学習の到達目標	中国文学の歴史について基本的な知識を身につける。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。　特にリポートではご自身の言葉で述べておられるかを重視します。　作品を引用する際は、原文のみを引き、「」でくくってください。訓読（書き下し）や日本語訳は不要です（訓読や訳の解釈が問題になる場合は付しても可）。　また引用文の改行はせず、句読点（、。など）で文節を区切ってください。　他の書物や先行研究から学説を引用する場合も「」でくくり、どこからどこまでが引用部分なのかを明らかにし、ご自身の言葉と区別してください。　当然の

授業科目	言語学概論				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門ことばの科学	田中春美ほか	大修館書店	[ISBN]9784469211870

■授業の概要	ヒトの言語は、いくつかの音の組み合せ、単語の組み合せから成っている（分節言語）。広い意味での言語には、音楽・美術・身振り・その他、も含む。言語学では、広い意味での言語を考慮しつつ、主として分節言語を研究する。　テキストでは、〔言語の起源、動物の伝達と人間の言語、言語の習得、言語の構造、発音記号の役割、発話の意味、言語の多様性、言語と社会、言語接触、ピジンとクレオール、言語の系統、世界の言語〕などの項目について学習し、さまざまな方面から、言語はどのような役割を持つものなのか、を考える。
■学習の要点	テキストには、はじめて接する用語なども多数出てくる。それらの用語を理解するには、各章の章末に掲載されている参考図書などを読んだり、テキストの執筆陣による一般書『言語学のすすめ』（大修館書店）のような易しい言葉で説明してある入門書を読むのもいいだろう。　言語を考えることは、我々が生き、他者との関わりを考えることにつながる。テキストとあわせて種々の書物を読み、いろいろな問題を、自身で考えてほしい。テキストを暗記するのではなく、自身で考えることが最も重要である。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してほしい。次に、リポート設題、学習の要点を中心に、他の書物などで、更に詳しく調べ、深く理解しすること。そのレベルに達すれば、リポートも試験もできる。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	西洋文学史				単位	4.0
担当者	寺尾　佳子			シラバスグループ	TP6509	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
フランス文学案内〔増補〕（岩波文庫；別冊-１）	渡辺一夫ほか	岩波書店	[ISBN]9784003500019

■授業の概要	フランス文学史を学ぶ。フランスという国に文学が生まれてから今日に至るまで、それがどのように発展してきたのかを、テキストを通して学んでいく。フランスに文学作品が現れ始めたのは 11 世紀以降のことと考えられるが、その頃から 20 世紀までの作品を、各世紀ごとにそれぞれ共通した特徴をもつものとして捉えながら、フランス文学の全体像を把握するのが、本科目の目的である。私達が慣れ親しんでいるのは、フランス文学の中でも 19 世紀、20 世紀のものが多いと思われるが、これら現代に近い時代に書かれた作品でも、長い間に築かれた文化的基盤の上に生み出されたものであるから、過去の歴史を学ぶことは、これらの作品を深く理解する上でも重要だと思われる。またフランス文学は、人間の良いものも悪いものも、美しいものも醜いものも、人間の全てを、いうならば「人間の赤裸の姿」を描く文学であるから、フランス文学に触れることは、人間の「赤裸の姿」を知ることにも通じるし、フランス文学の歴史を学ぶことは、フランス文学のみならず、他の文学を学ぶ人々にとっても、文学作品の背景を考える点で参考になると思われる。
■学習の要点	テキストに従って、６つの時代に分けて、フランス文学を考えていく。 (1) 中世期 (11、12 世紀から 15 世紀まで)　封建制度の推移はどうであったか、この時代の文学とはどういうものかを見ていく。エスプリ・ゴロワとエスプリ・クルトワとは何か。 (2) 16 世紀 (ルネサンスの時代)　16 世紀に何がよみがえり復位したのか。ユマニストとはどういう人達か。 (3) 17 世紀（古典主義の時代）　国家統一と絶対王制への道について。アカデミー・フランセーズによるフランス語の整備と古典主義文学の胎生について。 (4) 18 世紀（擬古典主義と啓蒙主義の時代）　啓蒙主義文学と大革命との関りについて。ヴォルテールとルソーについて。 (5) 19 世紀（ロマン主義、写実主義、自然主義、象徴主義が相つぐ時代）　ロマン主義とは何か。写実主義とは何か。 (6) 20 世紀（第一次大戦前の文学、第一次大戦後の不安の文学、第二次大戦中の抵抗文学、戦後の実存主義文学とそれ以後の新しい文学）　ダダイスム、シュールレアリスムとはどういうものか。
■学習の到達目標	テキストに従って学習を進め、その内容を正確に理解することによって、フランス文学の歴史を、フランス社会の変遷との関連で捉え、フランス文学の全体像を把握する。
■成績評価の基準	・問題はテキストに即して出題するので、テキストに基づいて解答すること。・出題の要点を正しく理解し、要点を押さえ、理論的かつ自分の言葉で明確に解答を記述すること。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000082447 16&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	仏教文学				単位	4.0
担当者	浜畑　圭吾			シラバスグループ	TM5503	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教が中国文学・日本文学にどのような影響を与えたかを考察する。
■学習の要点	文学についての理解と仏教についての理解をともに十全なものにしつつ、仏教が文学においてどのように表現されているかを考察する。しかしこのことはなかなか容易ではない。一方で文学についての深い理解が要求され、もう一方では仏教思想や仏教経典にたいする確実な把握が求められるからである。その両者を可能な限り追及しつつ、文学者がどのように仏教を理解し、それを自己の文学としたのか、を考究する。
■学習の到達目標	日本文学において、仏教文学は文学史の基底をなすものの一つで、文学のみならず、仏教史に関する知識が要求される。このことをふまえて、テキストを中心とし、日本仏教史についての理解を深め、日本仏教文学の概念をしっかり把握する。
■成績評価の基準	学習の到達目標に示した点が、選択したテーマにおいて達成出来ているかを基準とする。

授業科目	書道				単位	4.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5505	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	書道は、文字を素材とする造形芸術である。　本科目は、書道における漢字五書体の内、楷書・行書・草書の三体、および仮名の基本的技法を修得することを目的とする。いずれも古典の臨書によって、書技法の修得、並びに鑑賞力の向上を目指すものである。　楷行草三体は、しだいに簡略化されて完成していったように考えやすいが、実際は逆の草行楷の順に完成されたのである。最後に生まれた楷書は、唐代に頂点を迎え、現代に至るまで正式書体となっている。行書草書は、一貫して補助書体としての役目を荷いながらも、書道芸術の特に表現面において主要な位置を占めている。これら三書体を書き分けられることは、書道の理解のためには不可欠のことである。　一方、仮名は草書を母体として日本で独自に発達したもので、平安・鎌倉時代の技法を学ぶことが主となる。　テキストには、それぞれの代表的名品が解説とともに掲載されている。設題となっている古典だけではなく、幅広く書道の世界を味わっていただきたい。
■学習の要点	楷行草三書体の違いは、単に構造が異なるだけでなく、用筆法の相違による要素が大きい。三書体の書き分けのためには、筆使いの習熟が求められる。毛筆の働きに慣れるには、テキストを熟読し、毛筆が自然に動くように時間をかけて訓練する事が必要である。　また、単に手の動きだけではなく、臨書の対象となる古典の特徴を理解できる鑑賞力が、作品の出来不出来に大きくかかわる。テキスト掲載の主要な古典は、拓本（石などに刻された文字を紙に写しとったもの）が中心で、白黒反転した手本を見て書くことになる。拓本の見方に慣れるとともに、各古典の書風の相違を見極める力が求められる。　テキストには、参考手本が掲載されている。特に初心者はまずこれを参考に、六文字の適度な配置・文字の大きさを学んでほしい。　仮名は、小筆を使用するために、一層の繊細さが求められる。用具用材も漢字用のものとは異なるので、解説等を読んで吟味することが必要である。
■学習の到達目標	古典の臨書としての完成度の高さがあり､指導ができるような力をつける。
■成績評価の基準	古典の臨書として字形･線質･布置･章法ができていることが大前提｡その上で完成度の高いものを高く評価する。

授業科目	書論				単位	4.0
担当者	前田　秀雄			シラバスグループ	TM6704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道理論〔改訂〕	加藤達成編	佛教大学	[ISBN]9784907177744

■授業の概要	古き良き日本の伝統を真に理解し、教養として身につけた人材が、今必要とされている。毛筆の書は、「己の志を詩にして、それを可視的な形で紙面に焼き付けたもの」と定義される。また、「書は人なり」。人格・識見・技量、三位一体の向上を目指して、全人格的な完成が求められなければならない。　ただ、日常の生活習慣が変化した昨今では、毛筆の学習は、過去の人々の、時間をかけることで「潜移黙化（知らず知らずのうちに感化されること）」に依存していた方法が望めなくなっている。そこでまず「眼高手低」にして、合理的で正確な訓練方法により学習効率を上げなければならない。臨書学習のテキストとしての古典作品は「物言わぬ師」であるが、幸い各種「書論」の作者たちは、等しく古典の作家でもあった。「書論」の熟読は、書写・書道教育の上に有効である。
■学習の要点	書の学習には、書法技術と理論の相補学習が望まれてきた。技術と理論は互いの向上に伴って、創作や教育の現場に活用されるものである。テキスト以外に、中高の書写書道のテキストや関係書物への関心も大いに必要なことである。　１．書とはどういう芸術か、他と比較する。　２．書美を分析、表現上の原理を考える。　３．創作過程を考え、書美の作られる原理を考える。　４．「余白」について考える。　５．「線」について他の芸術と比較する。６．臨書の大事なことを具体的に考える。
■学習の到達目標	古典としての書論学習によって、書の本質に理解が深まったか、書作の技術向上には、思索が大切であることに気づきが生まれたか？
■成績評価の基準	書論を学んで得た知識が、単なるオウム返しに終わらず、吟味咀嚼され、きちんと自分の言葉に落とし込まれた表現になっているかを評価したい。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	中国現代文学史				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国現代文学史	吉田富夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244702&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	五四時期から中華人民共和国成立までの時期の文学を扱う。文学上の時期区分とその主な内容は次の通りである。Ⅰ．五四新文化運動と新文学の覚醒　　文学革命Ⅱ．左翼文学の勃興と三十年代文学　　左翼作家連盟　　文芸大衆化問題Ⅲ．抗日戦争　　毛沢東「文芸講話」また、テキスト pp.ⅲ～pp.16 を参照。
■学習の要点	テキスト pp.339～pp.343 を参照。
■学習の到達目標	中国現代文学史上の基礎知識を身につけることが目標である。事実に即して、文学事項の相互の関連を理解しているかどうかを重視する。最低限、作家名、作品名、文学的事項は正確に覚えること。
■成績評価の基準	中国現代文学史の基礎的事項が理解出来ているかどうかを評価基準とする。

授業科目	中国古典文学史				単位	4.0
担当者	大井　さき			シラバスグループ	TN5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国文学概論	岩城秀夫著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	まず、テキストの全篇を通読して、中国の古典文学の歴史的流れを大まかに捉えてください。その際、とくに韻文（詩や詞）の変遷に留意してください。このテキストは書名に「概論」とありますが、中国古典文学史の流れに沿って書かれているので、「文学史」のテキストでもあります。テキスト中には比較的多くの作品が引用されていますが、量的にはまだ十分ではないので、具体的なイメージを形成するために「参考文献」に掲げた諸書を読むことを強く勧めます。
■学習の要点	テキストに出てくる人名や作品名を覚えることばかりに意を注ぐのではなく、古典文学の歴史的流れをつかむことに重点を置いて学習して下さい。
■学習の到達目標	文学史上の個々の詩人や作家の作品をより深く理解するための基礎として、中国古典文学史の大まかな流れと基礎知識を修得できているのが到達目標です。それが最終試験の答案に表われていることを期待します。
■成績評価の基準	設題の要求をはずさずに、自らの考えを自らの文章で書けているのが評価の基準です。テキストや参考文献の文章を安易にかつ無批判に引用するのはできる限り避けること。

授業科目	中国思想史Ⅰ				単位	4.0
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	TN5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　上（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010961

■授業の概要	中国の昔の思想を題材に、自分の見解を自分の言葉で述べてください。　テキストの他、原典・専門書をできるだけ多く読んでください。
■学習の要点	テキスト・原典・専門書を読み、興味を持った点や疑問点をリポートの主題とし、自分の見解を自分の言葉で述べること。その際、見解の根拠を原典から提示すること。
■学習の到達目標	中国古典思想の概略を把握し、その中の何かしらについて自分の見解を持つ。　自分の見解を論述文で書く。
■成績評価の基準	テーマについて、自身の見解を論述文で示せているか否か。　原典を読んだことが明らかな内容を示せているか否か。　そのためにはある程度の文章量が必要だということは、試験に臨むまでに課題を通じて学んでいるはずです。　なお、文章の意味が理解できない答案、箇条書きの答案、出題内容と無関係なことを書いた答案、解答に際して不正があったと岡本が判断した答案は評価対象としません。

授業科目	中国思想史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　下（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010978

■授業の概要	漢代から清代にいたるまでの中国の思想史の流れを、中国において生成発展した儒教や道教と、外来思想である佛教思想との交流を機軸に深める。各時代の代表的な思想の特徴や思想家の生き方、その時代の政治や社会情勢との関わりについて特に留意して学習する。漢代以降、中国の思想は儒教を軸に進展してきたが、同時に道教や佛教もまた人々に大きな影響を及ぼしてきた。ことに六朝時代から唐代において中国佛教の発展はめざましく、儒教や道教にも大きな影響をあたえた。宋代以降、儒教が変貌をとげ、中国の中心的思想としての位置を取り戻したが、道教や佛教もそのあり方を変えて社会に浸透していった。　一般に中国哲学の歴史を論ずるとき、佛教思想を除いたかたちで叙述されることが多いが、テキストは佛教思想と儒教や道教など中国固有の思想との交流を機軸に中国思想を解明している。本科目はこのテキストを用いて漢代以降の思想史を通観する。
■学習の要点	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会状況との関連に留意し理解することにつとめるように。　漢代においては儒教を中心とした思想界の流れや、国家との関わりと経学の成立について理解を深めるように。六朝時代においては道教や佛教の興隆について、唐代においては仏教を中心に儒・仏・道三教相互の関連に留意して思想の流れを理解するように。宋代以降、儒教が復興するが、道教や仏教とも無関係ではなく、相互に影響しあって思想を形成していったことに留意して学習するように。清代の思想においては、考証学の発展を軸に考えるように。
■学習の到達目標	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会との関わりについて理解すること。　問題に対して、過不足なく記述することにつとめるように。思想内容や歴史的事実については誤りのないように気をつけること。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。

授業科目	中国語概論				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TN5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
はじめての中国語（講談社現代新書）	相原茂著	講談社	[ISBN]9784061489875

■授業の概要	中国語とはどのような言語なのか、発音・語彙・文法等、種々の視点からその仕組みを考察します。テキストは基本的な事項を平易に取り上げたものです。テキストに出てくる例文は、目で追うだけでなく、声に出して読んでください。　余裕があれば、関係書にもぜひ目を通してほしいと思います。
■学習の要点	１．漢字。中国で使われている漢字と、日本で使われている漢字の字形の相違を知る。また、言葉とは何よりもまず音声であり、漢字は音声を書き表す手段に過ぎないことを理解する。２．文字改革。ピンインの制定、異体字の整理、漢字の簡略化について知る。漢字の簡略化の八つの方法とその例字を覚えておくとよい。３．普通話と方言。４．発音。５．日中同形語。６．単語と形態素。単語と形態素の関係を理解する。具体的な例を挙げて説明できるようにすること。７．語順。特に、VO 構造動詞（動詞・目的語構造の動詞で、離合詞とも呼ばれる）の性質について理解する。VO 構造動詞がさらに別の目的語を取る場合、どのような語順になるのか、具体的な例を挙げて説明できるようにすること。８．疑問文。諾否疑問文（“ma”を用いる疑問文）・反復疑問文・疑問詞疑問文・選択疑問文（“haishi”を用いる疑問文）のそれぞれについて、例文を挙げて説明できるようにすること。９．補語。結果補語・方向補語・可能補語・様態補語のそれぞれについて、例文を挙げて説明できるようにすること。10.存現文。存在・非存在・発生・消失・自然現象などを表す存現文について、その性質を例文を挙げて説明できるようにすること。
■学習の到達目標	現代中国語の発音・文字・文法・語彙・方言について基本的な知識を持つことを学習の到達目標とします。
■成績評価の基準	基本的な事項について記述していること、内容に誤りが少ないこと、過不足ない分量があること、を科目最終試験の評価基準とします。

授業科目	漢文学				単位	4.0
担当者	大井　さき			シラバスグループ	TN5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国名文選	興膳宏著	岩波書店	[ISBN]9784004311133
漢文の話（ちくま学芸文庫）	吉川幸次郎著	筑摩書房	[ISBN]9784480090270

■授業の概要	日本においては、主として中国語の文語文を「漢文」と呼びならわしている。中国語と日本語とは、語順が異なるけれども、この語順の違う中国語を、日本語の語順に合わせて、いきなり直訳的に翻訳する、定型的な語法が訓読法である。訓読の方法は、中国語の本来持つリズムを移すことができないという欠点はあるけれども、たとえ中国語としての音を知らなくても、ある程度原文の意味を理解することができる、世界にもまれな方法といえる。またそれとともに、日本に古くから定着して、日本語を構成する底流の一つにもなっている。このことを理解して、中国の文語文を読み、漢文の読解力の向上を目指す。
■学習の要点	返り点がなぜ必要なのかを理解するように努めること。そのことは中国語と、日本語との言語としての違いを理解することにもつながる。
■学習の到達目標	漢文訓読と原典である中国語との関係を理解し、日本語としての漢文訓読調に習熟することを目標とする。
■成績評価の基準	（１）は文章を要約する能力の有無を見る。文章には柱となっている部分がいくつかあるので、それを把握すること。必ず自分の言葉でまとめ直すこと。（２）は自らの主張を明確にして、それを平明な文章で書くこと。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	日本文学史			単位	4.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	日本語学概論				単位	4.0
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	TM5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	[ISBN]9784894767102

■授業の概要	わたくしたちは、生まれた時から、周囲の人々の話すことばに触れ、それを習得することによって、コミュニーションをはかることを覚えます。その後、異なったことばに出会った時に、違いを知るところから、ふりかえって自らのことばの体系を客観的に見ることとなります。　時間の隔たり、空間の隔たりによって、ことばはさまざまな様相を見せます。古い時代から現代まで、日本語がどのような歩みをしてきたのか、すなわち、日本人が何を考え、どう生きてきたのかを知ることは、これからのわたくしたちがどう生きるかを考えることとなるでしょう。　そのようなことを教科書や他の書物などから学んでください。
■学習の要点	まず、テキストを読んでください。特別な学術用語もありますので、それを覚えると整理がしやすくなります。また、テキストには多くのことが載っていますが、その結果、内容は広く薄くなっています。よって、テキストだけで理解するのに不十分な場合があり、その際は、他の書物などで調べてください。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してください。次に、リポート設題を中心に、他の書物などで更に詳しく調べてください。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字でわかりやすくまとめてあるかが基準となります。

授業科目	言語学概論				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TN5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門ことばの科学	田中春美ほか	大修館書店	[ISBN]9784469211870

■授業の概要	ヒトの言語は、いくつかの音の組み合せ、単語の組み合せから成っています（分節言語）。広い意味での言語には、音楽・美術・身振り・その他、も含みます。言語学では、広い意味での言語を考慮しつつ、主として分節言語を研究します。　テキストでは、〔言語の起源、動物の伝達と人間の言語、言語の習得、言語の構造、発音記号の役割、発話の意味、言語の多様性、言語と社会、言語接触、ピジンとクレオール、言語の系統、世界の言語〕などの項目について学習し、さまざまな方面から、言語はどのような役割を持つものなのか、を考えます。
■学習の要点	テキストには、はじめて接する用語なども多数出てきます。それらの用語を理解するには、各章の章末に掲載されている参考図書などを読むことが、早くて確実です。また、テキストの執筆陣による一般書『言語学のすすめ』（大修館書店）は、易しい言葉で説明してありますので、これを読んでからテキストを読むと、興味を持って読むことができるでしょう。　言語を考えることは、わたしたちが生き、他者との関わりを考えることにつながります。テキストとあわせて種々の書物を読み、いろいろな問題を、自身で考えてください（テキストを暗記するのではなく、自身で考えることが最も重要です）。　１．母音と子音　２．方言　３．言語接触　４．ラングとパロル　５．言語の多様性　６．ピジンとクレオール
■学習の到達目標	・言語の役割を多角的に考え、理解する。・言語の役割について、説明することができる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を把握しているか。・テキストの内容をおさえ、自身で考えているか。・参考文献を読み、学習の成果が顕著であるか。・自分の意見と他人の意見が分かるような体裁で書かれているか。・参考文献を適切な情報(著者名、書名、発行所、発行年。該当ページ)を付けて挙げているか。

授業科目	日本語文法				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新口語文法	平居謙編	京都書房	[ISBN]9784763711519
標準古典文法	市川孝・山内洋一郎　監修	第一学習社	[ISBN]9784804033105

■授業の概要	日本語の文法を学ぶ。まず、平安時代の文法を中心とした文語文法（古典文法）、および口語文法（現代語の文法）の基礎を身につける。テキストの文法論は、学校文法と呼ばれるもので、言葉を形の上から見分けることを主眼にした、文法を勉強し始める人にとっては、わかりやすい文法の理論である。　しかし、テキストにも触れてあるが、「文法は言葉がどんな法則で成り立っているのかを解明するために後から考えられたもの」である。そのため、文法論は数多くあり、そしてそれは、それぞれの文法学者の言語観・人間観・世界観が反映されている。　したがって、文法書によって、言葉の単位の設定の仕方、品詞の名づけ方にも違いがある。それらにも学びながら、皆さんの言語観・人間観・世界観を養ってほしい。
■学習の要点	2 冊のテキストの記述をよく読み、日本語の文法を考える力を身につける。中でも、古典文法は、できるかぎり例文の原典を読み、文章の流れの中で考えるとよい。　人の言葉は、時代により、人々のものの考え方により、変化する。それゆえ、古典文法と現代語の文法との間で、もともとは同じ言葉であったものの品詞が異なる場合も起きてくる。　また、同時代において、別の働きをする言葉もある。たとえば、「本がある。」の「ある」と「これは本である。」の「ある」とでは、働きが異なっている。これは、どのように説明すればよいか。そのような疑問がいろいろ起きるだろう。その時には、さらに種々の文法論をひもといてほしい。それぞれの文法論に触れるうちに、疑問に対する解答を見つけていくことができるだろう。種々の文法書を読む基礎の力を、このテキストの学習を通して身につけてほしい。（注意：出版社により別冊の解答は一般向けには付属しない場合がある）
■学習の到達目標	文語文法（古典文法）を身につければ、古典作品が正確に読める。また、口語文法（現代語の文法）を身につければ、今使っている日本語に関して疑問がわいたときに、その答えを導く一助になるだろう。そのレベルに達してほしい。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000082244716&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	書道				単位	4.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5505	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	書道は、文字を素材とする造形芸術である。　本科目は、書道における漢字五書体の内、楷書・行書・草書の三体、および仮名の基本的技法を修得することを目的とする。いずれも古典の臨書によって、書技法の修得、並びに鑑賞力の向上を目指すものである。　楷行草三体は、しだいに簡略化されて完成していったように考えやすいが、実際は逆の草行楷の順に完成されたのである。最後に生まれた楷書は、唐代に頂点を迎え、現代に至るまで正式書体となっている。行書草書は、一貫して補助書体としての役目を荷いながらも、書道芸術の特に表現面において主要な位置を占めている。これら三書体を書き分けられることは、書道の理解のためには不可欠のことである。　一方、仮名は草書を母体として日本で独自に発達したもので、平安・鎌倉時代の技法を学ぶことが主となる。　テキストには、それぞれの代表的名品が解説とともに掲載されている。設題となっている古典だけではなく、幅広く書道の世界を味わっていただきたい。
■学習の要点	楷行草三書体の違いは、単に構造が異なるだけでなく、用筆法の相違による要素が大きい。三書体の書き分けのためには、筆使いの習熟が求められる。毛筆の働きに慣れるには、テキストを熟読し、毛筆が自然に動くように時間をかけて訓練する事が必要である。　また、単に手の動きだけではなく、臨書の対象となる古典の特徴を理解できる鑑賞力が、作品の出来不出来に大きくかかわる。テキスト掲載の主要な古典は、拓本（石などに刻された文字を紙に写しとったもの）が中心で、白黒反転した手本を見て書くことになる。拓本の見方に慣れるとともに、各古典の書風の相違を見極める力が求められる。　テキストには、参考手本が掲載されている。特に初心者はまずこれを参考に、六文字の適度な配置・文字の大きさを学んでほしい。　仮名は、小筆を使用するために、一層の繊細さが求められる。用具用材も漢字用のものとは異なるので、解説等を読んで吟味することが必要である。
■学習の到達目標	古典の臨書としての完成度の高さがあり､指導ができるような力をつける。
■成績評価の基準	古典の臨書として字形･線質･布置･章法ができていることが大前提｡その上で完成度の高いものを高く評価する。

授業科目	書道史				単位	4.0
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	TM6110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治家と書　―近現代に於ける日本人の教養―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639023364
中国の政治家と書―激動の時代を生きた政治家たちの残したもの―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639025221

■授業の概要	古来、中国では、教養人の間では書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は人々に尊重されてきた。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれてきたのである。　中国書道史、日本書道史、それぞれの文化の流れを理解することは、東洋古来の美の探究に他ならない。書を学問的に追求することの楽しさをこの科目でぜひ味わってほしい。
■学習の要点	①王羲之・王献之の人となりと、代表作について学習する。②唐の四大家の人となりと、それぞれの代表作について学習する。③中国近現代の政治家の書について学習する。④三筆・三蹟の人となりと、それぞれの代表作について学習する。⑤日本近現代の政治家の書について学習する。⑥「かな」の代表的作品について学習する。特に、「高野切古今集」については、第一種・第二種・第三種の違いを明確にしておく。　以上を中心に中国書道史・日本書道史とも幅広く学んでほしい。特に、人物については『書の基本資料』（中教出版）12 巻中国の能書、13 巻日本の能書等によってまとめておくとよい。また、それぞれの代表作については、『書道全集』（平凡社）・『書道芸術』（中央公論新社）等によって確認しておくとよい。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②採点は、加点方式を基本とする。問題に対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は 1500 字以上に及んでいること。これを充たせば 10 点を加える。⑤誤字・脱字に注意すること。⑥人名・作品名は、基本的に漢字にすること。
■成績評価の基準	試験結果で判断する。

授業科目	書論				単位	4.0
担当者	前田　秀雄			シラバスグループ	TM6704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道理論〔改訂〕	加藤達成編	佛教大学	[ISBN]9784907177744

■授業の概要	古き良き日本の伝統を真に理解し、教養として身につけた人材が、今必要とされている。毛筆の書は、「己の志を詩にして、それを可視的な形で紙面に焼き付けたもの」と定義される。また、「書は人なり」。人格・識見・技量、三位一体の向上を目指して、全人格的な完成が求められなければならない。　ただ、日常の生活習慣が変化した昨今では、毛筆の学習は、過去の人々の、時間をかけることで「潜移黙化（知らず知らずのうちに感化されること）」に依存していた方法が望めなくなっている。そこでまず「眼高手低」にして、合理的で正確な訓練方法により学習効率を上げなければならない。臨書学習のテキストとしての古典作品は「物言わぬ師」であるが、幸い各種「書論」の作者たちは、等しく古典の作家でもあった。「書論」の熟読は、書写・書道教育の上に有効である。
■学習の要点	書の学習には、書法技術と理論の相補学習が望まれてきた。技術と理論は互いの向上に伴って、創作や教育の現場に活用されるものである。テキスト以外に、中高の書写書道のテキストや関係書物への関心も大いに必要なことである。　１．書とはどういう芸術か、他と比較する。　２．書美を分析、表現上の原理を考える。　３．創作過程を考え、書美の作られる原理を考える。　４.「余白」について考える。　５.「線」について他の芸術と比較する。６．臨書の大事なことを具体的に考える。
■学習の到達目標	古典としての書論学習によって、書の本質に理解が深まったか、書作の技術向上には、思索が大切であることに気づきが生まれたか？
■成績評価の基準	書論を学んで得た知識が、単なるオウム返しに終わらず、吟味咀嚼され、きちんと自分の言葉に落とし込まれた表現になっているかを評価したい。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	古文書学				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古文書学入門〔新版〕	佐藤進一	法政大学出版局	[ISBN]9784588320118

■授業の概要	個人や組織・機関が命令や依頼、許可などを実施する際に発せられる文書（公文書、書状、書簡など）、いわゆる「古文書」は、宛先・差出の人物や組織の政治的・社会的な関係が反映されているだけでなく、その目的に即して一定の書式にしたがって記されることが多い。こうした書式は、人や組織が変化するに伴い変化するが、逆に文書の書式の変化に着目すれば、文書の発給・差出に関わる歴史的な事実を解き明かす手がかりとなる。本科目ではそうした「古文書学」に関する基礎的な知識の習得を目的とし、様式の具体的な内容、様式の変遷、その背景を検討することが学習の中心となる。　文書の様式についての理解を深め、それぞれの様式の用途について考えると共に、そうした様式がどのような背景で成立し、どのように変化していくのか、また後の様式とはどのような点で異なっているのか、その理由は何かといった点について学習する。
■学習の要点	古文書学の目的は、単なる文書様式の学習ではない。様式の背景にある時代的社会的な特徴と様式の関係を考えるのであるから、単に様式だけでなく、様式同士がどのような関係にあるのか、またその理由などについても考える必要がある。　実際の学習にあたっては、個々の様式を十分に理解した上で、様式成立の背景や前後の様式との関わりを意識しながら学習を進めてほしい。　・古文書とは何か。また古文書学研究と歴史学研究の関わりについて　・古文書における奉書と直状の特徴と違いについて　・中世の起請文の様式とその変遷について　・鎌倉時代の武家様文書の特色について　・次の古文書用語および様式について　　１：花押　２：右筆　３：院宣　４：奉書　５：外題安堵　・次の古文書用語および様式について　　１：綸旨　２：案文　３：女房奉書　４：端裏書　５：軍忠状
■学習の到達目標	用語に関する単なる理解ではなく、古文書学の基本的な考え方を理解するよう努めること。その上で以下の諸点について理解したい。１：古文書学の基本的な考え方が理解できている。２：古文書の基本的なターム（用語）について理解できている。３：古文書が社会関係や政治状況を反映していることを理解している。
■成績評価の基準	１：古文書学の目的や基本的な方法、考え方についての理解２：古文書学の基本的なターム（用語）についての理解３：文書様式についての理解

授業科目	日中比較文化研究				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5533	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
近代日本の中国観　石橋湛山・内藤湖南から谷川道雄まで	岡本隆司著	講談社選書メチエ	[ISBN]9784065123522

■授業の概要	日本と中国の相互認識問題を日中比較文化研究で取り上げることはしばしばなされている。本授業は東洋史の研究分野における「近代日本の中国観」に焦点を絞って、「巨大な中国」を「中国観」というフィルタを通して呈示する一方、近代日本の中国観そのものを日本思想史の問題として概観する。その際、東洋史の学統に連なる代表的な学者である石橋湛山·内藤湖南・矢野仁一・橘樸・桑原隲蔵・宮崎市定などに注目しながら考察する。
■学習の要点	①テキストに取り上げられた学者らの中国観とその背景②各学者の中国観の異同と互いの関連性③近代の中国観と今現在の中国認識との関係
■学習の到達目標	①近代日本の中国観について歴史的に説明することができる。②各種の中国観の内容と相互作用を説明することができる。③各時期の中国観を、歴史的背景をも視野に入れて説明することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験により評価する。

授業科目	異文化理解「中国」				単位	4.0
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	TN5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国の歴史（ちくま学芸文庫）	岸本美緒	筑摩書房	[ISBN]9784480096913

■授業の概要	「異文化理解」――これは最近よく聞くことばであるから、耳に馴染んだ語感も相まって、容易な事柄に違いないと早合点する向きがあるかもしれない。しかしその実、「異文化」の「理解」を成し遂げるのは決してたやすいことではない。当科目では、自国の文化とは異なる、中国の文化について、虚心に、知的に理解することに専心努力してもらう。「異文化」を学ぶという取り組みはすなわち、「異文化」の存在を通じて、自国の文化についても改めて学びなおし、異社会の構造を考察しながら、おのれの属する社会への理解をも同時に深めるという営みである。その時、彼我に対する偏見や先入観は極力捨て去らねばならない。 「文化」という、広範にわたり、かつ、抽象性にも富む対象を理解するにあたっては、なんらかの具体的な「とっかかり」が必要である。そこで、本科目ではそのきっかけを「歴史」に求める。なぜならば、「文化」は「歴史」を形成する一大要素であり、逆に「歴史」もまた、「文化」の生生流転を映して止まぬ一大スクリーンであるからだ。文化の理解に励む時、併せてその歴史をも学ぶことは必須である。 もちろん「とっかかり」と言う以上、ここで持ち出す「歴史」の情報量には配慮するつもりである。この科目は「異文化（中国文化）」を学ぶためのものであり、「歴史」学習のためのものではないのだから。そこで本科目は、著者の岸本美緒によって手際よくまとめられた中国通史をテキストとして選定した。冒頭、「文化」に関して岸本は次のように言う、「そもそも“中国”とは何か、と考えてみたとき、中国それ自体がさまざまな文化が交流する複雑な過程のなかでつくられてきたものであることに思い至る。周辺諸国が中国の影響を受けたというばかりではなく、中国そのものが、周辺諸地域との対立や文化的融合を通じて形づくられてきたのである」と（テキスト「まえがき」）。著者の視線が、王朝や国家の交替史に止まらず、「文化」や社会といった、歴史の基底を成すものにまで、深く鋭く及んでいることを読者に知らしめる一節である。 このテキスト学習を契機に、中国の「歴史」を通じて、その基底を成す「文化」を知ろうとする発想と態度とを養ってほしい。また、中国と日本、両国の歴史と文化を比較考察し、両者に対する認識を深めてほしい。
■学習の要点	まずは各章の内容を正しく理解し、要約することに力を注いでほしい。 作業としては、リポート作成を意識して、各章の内容を（もともと凝縮された内容ではあるが、そこからさらに縮めて）200～300 文字程度にまとめるところから始めること。そのうえで【史料】と【焦点】とを読み、【焦点】の方を 100 文字程度に要約する。 上記の作業が一通り済んだら、テキストの全体を俯瞰して、歴史の大きな流れを意識しつつ、「前近代（先秦～アヘン戦争まで）」「近現代（アヘン戦争～今日まで）」の両時期に区分し、各章の要約をつなげてみる（【史料】と【焦点】の内容も適宜反映させること）。各章をつなげる際には、その背景たる文化・社会の変遷に注意し、断片的な記述にならないよう十分配慮しながら、「前近代」「近現代」ともに、各 3000 文字程度でまとめてみる。 最後の仕上げとして、日本史に目

	を転じ、古来、日本が中国より受容してきたさまざまな文化的影響について（清末以降は日本から中国への“逆方向的”影響関係も生じた）、中国・日本における“（文化の）現れ方の違い”に留意しつつ、200 文字程度で整理し、先にまとめた「前近代史」「近現代史」にそれぞれ付加する。

■学習の到達目標	中国の歴史について、その基底を成す「文化・社会」の変遷を押さえつつ、あくまでもテキストに沿って正確に理解した上で、わかりやすく記述できるということが第一の到達目標である。併せて、日本文化についても考察し、その中国からの影響、あるいは日本において遂げた（影響の）独自展開の様相、逆に日本から中国に与えた影響、などといった文化交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できるということが第二の到達目標である。答案作成時には、それらの目標を意識した上で、簡潔にまとめるよう努めること。

■成績評価の基準	1)中国の歴史について、テキストに沿って正確に理解し、わかりやすく記述できているか：40 点 2)歴史の基底を成す「文化・社会」の変遷に注意が行き届いているか：40 点 3)中日文化の交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できているか：20 点

授業科目	中国文化研究				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5537	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
本邦における支那学の発達	倉石武四郎著	汲古書院	[ISBN]9784762912160

■授業の概要	中国文化の流れについて、日本における中国学の発展史という視座を据え、大陸文化の受容から「支那学」成立までを概観する。その際、日本の各時期において、どのような「中国文化」を、どのように読み取り、どのように展開させ、どのような文化的結果をもたらしたかに注目しながら考える。
■学習の要点	①学者を中心にして、日本各時期における中国文化の流れとその特色②テキストの内容に基づいて、漢学、漢文学、東洋史学、支那学の意味合いの違いとその相互関連性③中国文化摂取における中国語学の役割と意義
■学習の到達目標	①日本における中国文化を歴史的に説明することができる。②各時期の特色とその歴史的関連性を説明することができる。③中国文化摂取における中国語語学の役割と意義を説明することができる。
■成績評価の基準	科目最終試験により評価する。

授業科目	中国文学の歴史Ⅰ				単位	4.0
担当者	李　冬木			シラバスグループ	TN5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国現代文学史	吉田富夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244702&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	五四時期から中華人民共和国成立までの時期の文学を扱う。文学上の時期区分とその主な内容は次の通りである。Ⅰ．五四新文化運動と新文学の覚醒　　文学革命Ⅱ．左翼文学の勃興と三十年代文学　　左翼作家連盟　　文芸大衆化問題Ⅲ．抗日戦争　　毛沢東「文芸講話」また、テキスト pp.ⅲ～pp.16 を参照。
■学習の要点	テキスト pp.339～pp.343 を参照。
■学習の到達目標	中国現代文学史上の基礎知識を身につけることが目標である。事実に即して、文学事項の相互の関連を理解しているかどうかを重視する。最低限、作家名、作品名、文学的事項は正確に覚えること。
■成績評価の基準	中国現代文学史の基礎的事項が理解出来ているかどうかを評価基準とする。

授業科目	中国文学の歴史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN6102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国文学概論	岩城秀夫	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	長い中国の歴史の中で、文学は詩を中心として、賦・楽府・詞・戯曲・小説など多くのジャンルが発生し、いずれもが時代を象徴するに足るものである。テキストを通読し、中国における文学の歴史を学ぶと同時に、テキストに豊富に取り上げられている作品群を通じて、個々の文人や作品の特徴をつかんで欲しい。
■学習の要点	テキストを通じて中国文学の歴史と作品を幅広く学んだ上で、特に以下の項目について理解を深めて欲しい。　(1)『詩経』の特徴について。収録されている作品について、地域・時代背景・作者・形式内容などの面から特徴を把握してみる。　(2)『楚辞』の特徴について。収録されている作品について、地域・時代背景・作者・形式内容などの面から特徴を把握してみる。　(3)　(1)(2)を踏まえて、『詩経』と『楚辞』の特徴を比較し、それぞれの作品の意義や後世に及ぼした影響などを考えてみる。　(4)唐詩の特徴について。初唐から晩唐まで、それぞれの時期における詩人や作品を概観し、全体の流れを把握してみる。(5)宋詩の特徴について。唐と宋の時代の差異を念頭に置きつつ、北宋と南宋それぞれの時期に活躍した詩人とその作品に触れ、宋詩の流れを把握してみる。　(6)　(4)(5)を踏まえて、唐詩と宋詩の特徴を比較し、それぞれの詩人や作品の意義や後世への影響を考えてみる。　また特に個々の作品を読む際には、テキストP.472以降に挙げられる参考文献も合わせて参照されるとよい。
■学習の到達目標	中国文学の歴史について基本的な知識を身につける。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。　特にリポートではご自身の言葉で述べておられるかを重視します。　作品を引用する際は、原文のみを引き、「」でくくってください。訓読（書き下し）や日本語訳は不要です（訓読や訳の解釈が問題になる場合は付しても可）。　また引用文の改行はせず、句読点（、。など）で文節を区切ってください。　他の書物や先行研究から学説を引用する場合も「」でくくり、どこからどこまでが引用部分なのかを明らかにし、ご自身の言葉と区別してください。　当然の

授業科目	中国思想の歴史Ⅰ				単位	4.0
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	TN5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　上（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010961

■授業の概要	中国の昔の思想を題材に、自分の見解を自分の言葉で述べてください。　テキストの他、原典・専門書をできるだけ多く読んでください。
■学習の要点	テキスト・原典・専門書を読み、興味を持った点や疑問点をリポートの主題とし、自分の見解を自分の言葉で述べること。その際、見解の根拠を原典から提示すること。
■学習の到達目標	中国古典思想の概略を把握し、その中の何かしらについて自分の見解を持つ。　自分の見解を論述文で書く。
■成績評価の基準	テーマについて、自身の見解を論述文で示せているか否か。　原典を読んだことが明らかな内容を示せているか否か。　そのためにはある程度の文章量が必要だということは、試験に臨むまでに課題を通じて学んでいるはずです。　なお、文章の意味が理解できない答案、箇条書きの答案、出題内容と無関係なことを書いた答案、解答に際して不正があったと岡本が判断した答案は評価対象としません。

授業科目	中国思想の歴史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　下（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010978

■授業の概要	漢代から清代にいたるまでの中国の思想史の流れを、中国において生成発展した儒教や道教と、外来思想である佛教思想との交流を機軸に深める。各時代の代表的な思想の特徴や思想家の生き方、その時代の政治や社会情勢との関わりについて特に留意して学習する。漢代以降、中国の思想は儒教を軸に進展してきたが、同時に道教や佛教もまた人々に大きな影響を及ぼしてきた。ことに六朝時代から唐代において中国佛教の発展はめざましく、儒教や道教にも大きな影響をあたえた。宋代以降、儒教が変貌をとげ、中国の中心的思想としての位置を取り戻したが、道教や佛教もそのあり方を変えて社会に浸透していった。　一般に中国哲学の歴史を論ずるとき、佛教思想を除いたかたちで叙述されることが多いが、テキストは佛教思想と儒教や道教など中国固有の思想との交流を機軸に中国思想を解明している。本科目はこのテキストを用いて漢代以降の思想史を通観する。
■学習の要点	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会状況との関連に留意し理解することにつとめるように。　漢代においては儒教を中心とした思想界の流れや、国家との関わりと経学の成立について理解を深めるように。六朝時代においては道教や佛教の興隆について、唐代においては仏教を中心に儒・仏・道三教相互の関連に留意して思想の流れを理解するように。宋代以降、儒教が復興するが、道教や仏教とも無関係ではなく、相互に影響しあって思想を形成していったことに留意して学習するように。清代の思想においては、考証学の発展を軸に考えるように。
■学習の到達目標	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会との関わりについて理解すること。　問題に対して、過不足なく記述することにつとめるように。思想内容や歴史的事実については誤りのないように気をつけること。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。

授業科目	中国語の概論				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TN5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
はじめての中国語（講談社現代新書）	相原茂著	講談社	[ISBN]9784061489875

■授業の概要	中国語とはどのような言語なのか、発音・語彙・文法等、種々の視点からその仕組みを考察します。テキストは基本的な事項を平易に取り上げたものです。テキストに出てくる例文は、目で追うだけでなく、声に出して読んでください。　余裕があれば、関係書にもぜひ目を通してほしいと思います。
■学習の要点	１．漢字。中国で使われている漢字と、日本で使われている漢字の字形の相違を知る。また、言葉とは何よりもまず音声であり、漢字は音声を書き表す手段に過ぎないことを理解する。２．文字改革。ピンインの制定、異体字の整理、漢字の簡略化について知る。漢字の簡略化の八つの方法とその例字を覚えておくとよい。３．普通話と方言。４．発音。５．日中同形語。６．単語と形態素。単語と形態素の関係を理解する。具体的な例を挙げて説明できるようにすること。７．語順。特に、VO 構造動詞（動詞・目的語構造の動詞で、離合詞とも呼ばれる）の性質について理解する。VO 構造動詞がさらに別の目的語を取る場合、どのような語順になるのか、具体的な例を挙げて説明できるようにすること。８．疑問文。諾否疑問文（“ma”を用いる疑問文）・反復疑問文・疑問詞疑問文・選択疑問文（“haishi”を用いる疑問文）のそれぞれについて、例文を挙げて説明できるようにすること。９．補語。結果補語・方向補語・可能補語・様態補語のそれぞれについて、例文を挙げて説明できるようにすること。10.存現文。存在・非存在・発生・消失・自然現象などを表す存現文について、その性質を例文を挙げて説明できるようにすること。
■学習の到達目標	現代中国語の発音・文字・文法・語彙・方言について基本的な知識を持つことを学習の到達目標とします。
■成績評価の基準	基本的な事項について記述していること、内容に誤りが少ないこと、過不足ない分量があること、を科目最終試験の評価基準とします。

授業科目	中国古典文学史				単位	4.0
担当者	大井　さき			シラバスグループ	TN5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国文学概論	岩城秀夫著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248811&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	まず、テキストの全篇を通読して、中国の古典文学の歴史的流れを大まかに捉えてください。その際、とくに韻文（詩や詞）の変遷に留意してください。このテキストは書名に「概論」とありますが、中国古典文学史の流れに沿って書かれているので、「文学史」のテキストでもあります。テキスト中には比較的多くの作品が引用されていますが、量的にはまだ十分ではないので、具体的なイメージを形成するために「参考文献」に掲げた諸書を読むことを強く勧めます。
■学習の要点	テキストに出てくる人名や作品名を覚えることばかりに意を注ぐのではなく、古典文学の歴史的流れをつかむことに重点を置いて学習して下さい。
■学習の到達目標	文学史上の個々の詩人や作家の作品をより深く理解するための基礎として、中国古典文学史の大まかな流れと基礎知識を修得できているのが到達目標です。それが最終試験の答案に表われていることを期待します。
■成績評価の基準	設題の要求をはずさずに、自らの考えを自らの文章で書けているのが評価の基準です。テキストや参考文献の文章を安易にかつ無批判に引用するのはできる限り避けること。

授業科目	漢文学				単位	4.0
担当者	大井　さき			シラバスグループ	TN5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国名文選	興膳宏著	岩波書店	[ISBN]9784004311133
漢文の話（ちくま学芸文庫）	吉川幸次郎著	筑摩書房	[ISBN]9784480090270

■授業の概要	日本においては、主として中国語の文語文を「漢文」と呼びならわしている。中国語と日本語とは、語順が異なるけれども、この語順の違う中国語を、日本語の語順に合わせて、いきなり直訳的に翻訳する、定型的な語法が訓読法である。訓読の方法は、中国語の本来持つリズムを移すことができないという欠点はあるけれども、たとえ中国語としての音を知らなくても、ある程度原文の意味を理解することができる、世界にもまれな方法といえる。またそれとともに、日本に古くから定着して、日本語を構成する底流の一つにもなっている。このことを理解して、中国の文語文を読み、漢文の読解力の向上を目指す。
■学習の要点	返り点がなぜ必要なのかを理解するように努めること。そのことは中国語と、日本語との言語としての違いを理解することにもつながる。
■学習の到達目標	漢文訓読と原典である中国語との関係を理解し、日本語としての漢文訓読調に習熟することを目標とする。
■成績評価の基準	（１）は文章を要約する能力の有無を見る。文章には柱となっている部分がいくつかあるので、それを把握すること。必ず自分の言葉でまとめ直すこと。（２）は自らの主張を明確にして、それを平明な文章で書くこと。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	アジア史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	日本文学史			単位	4.0
担当者	有田　和臣		シラバスグループ	TM5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料〔増補３訂版〕	国語教育プロジェクト編著	文英堂	[ISBN]9784578841845

■授業の概要	上代から近代にいたるわが国の文学史の概略を理解することを目標とします。それぞれの時代における文学のジャンル、代表的な作家・作品とその特徴、および文学史上の位置づけ、時代背景との関わりを学びます。
■学習の要点	初めにテキストの「古文編／古典文学の流れ」・「現代文編／近代文学の流れ」を通読し、文学史の大きな流れを把握するとよいでしょう。次に、重点的に取り上げられている作品または作家についての解説を中心に読みます。できれば原典を読んでみましょう（全文でなくとも良いし、古文であれば、現代語訳つきでも構いません)。各時代（上代・中古・中世・近世・明治・大正・昭和）について、最低二作品は読むとよいでしょう。実際の作品に接した経験は必ず文学史への理解を助けます。　学習の要点は以下の７点です。これらについては確実に理解しておいてください。　１.「古事記」「日本書紀」の内容・特色。　２.「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」のおよその成立年代、内容・歌風の特色（３点以上)。３．王朝期（中古、平安時代）の「女流日記」「物語」「随筆」「説話集」の代表的な作品（女流日記、物語は２つ以上、随筆、説話集は１つずつ)、作者、内容の特色。　４.「平家物語」「方丈記」「徒然草」「風姿花伝」の属するジャンル、作者、およその成立時期、内容の特色。　５．松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、曲亭馬琴のおよその活躍時期、代表作、作品が属するジャンル、作品の内容上の特色。　６.「写実主義」「擬古典主義」「浪漫主義」「自然主義」「余裕派（高踏派)」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。　７.「耽美派」「白樺派」「新現実主義（新思潮派)」「プロレタリア文学」「新感覚派」それぞれに属する文学者２人以上、それぞれの代表作１つ以上。５つの思潮それぞれの特色。
■学習の到達目標	日本文学史の流れを、主要な作家・作品の知識とともに、歴史的背景との関連において把握できることを目標とします。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に示した重要事項を中心に、日本文学史の主要な作家・作品の知識が身についていること。・歴史的背景との関連において、日本文学史の大まかな流れを把握していること。・正しい日本語を書いていること。文の乱れ、誤字脱字、ひらがな表記の濫用は減点の対象とします。

授業科目	仏教文学概論				単位	4.0
担当者	鵜飼　光昌			シラバスグループ	TN6508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
仏教文学概説	黒田彰・黒田彰子共著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248828&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教が中国文学・日本文学にどのような影響を与えたかを考察する。

■学習の要点	文学についての理解と仏教についての理解をともに十全なものにしつつ、仏教が文学においてどのように表現されているかを考察する。しかしこのことはなかなか容易ではない。一方で文学についての深い理解が要求され、もう一方では仏教思想や仏教経典にたいする確実な把握が求められるからである。その両者を可能な限り追及しつつ、文学者がどのように仏教を理解し、それを自己の文学としたのか、を考究する。

■学習の到達目標	科目最終試験の答案作成においては、特に「三教指帰」「中国の唱導」『今昔物語集』「鎌倉新仏教」『方丈記』『徒然草』について、ポイントをつかんだ確実な理解に到達することを目標とする。

■成績評価の基準	テキストが熟読されているか、ポイントは正確につかまれているか、誤りはないか、明晰な論述がなされているか、を成績評価の基準とする。

授業科目	日本語学概論				単位	4.0
担当者	岡村　弘樹			シラバスグループ	TM5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	[ISBN]9784894767102

■授業の概要	わたくしたちは、生まれた時から、周囲の人々の話すことばに触れ、それを習得することによって、コミュニーションをはかることを覚えます。その後、異なったことばに出会った時に、違いを知るところから、ふりかえって自らのことばの体系を客観的に見ることとなります。　時間の隔たり、空間の隔たりによって、ことばはさまざまな様相を見せます。古い時代から現代まで、日本語がどのような歩みをしてきたのか、すなわち、日本人が何を考え、どう生きてきたのかを知ることは、これからのわたくしたちがどう生きるかを考えることとなるでしょう。　そのようなことを教科書や他の書物などから学んでください。
■学習の要点	まず、テキストを読んでください。特別な学術用語もありますので、それを覚えると整理がしやすくなります。また、テキストには多くのことが載っていますが、その結果、内容は広く薄くなっています。よって、テキストだけで理解するのに不十分な場合があり、その際は、他の書物などで調べてください。
■学習の到達目標	まずは、テキストをしっかり読んで、テキストに書かれている概念をきちんと把握してください。次に、リポート設題を中心に、他の書物などで更に詳しく調べてください。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字でわかりやすくまとめてあるかが基準となります。

授業科目	言語学概論			単位	4.0
担当者	池田　晋		シラバスグループ	TN5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門ことばの科学	田中春美ほか	大修館書店	[ISBN]9784469211870

■授業の概要	ヒトの言語は、いくつかの音の組み合せ、単語の組み合せから成っています（分節言語）。広い意味での言語には、音楽・美術・身振り・その他、も含みます。言語学では、広い意味での言語を考慮しつつ、主として分節言語を研究します。　テキストでは、〔言語の起源、動物の伝達と人間の言語、言語の習得、言語の構造、発音記号の役割、発話の意味、言語の多様性、言語と社会、言語接触、ピジンとクレオール、言語の系統、世界の言語〕などの項目について学習し、さまざまな方面から、言語はどのような役割を持つものなのか、を考えます。
■学習の要点	テキストには、はじめて接する用語なども多数出てきます。それらの用語を理解するには、各章の章末に掲載されている参考図書などを読むことが、早くて確実です。また、テキストの執筆陣による一般書『言語学のすすめ』（大修館書店）は、易しい言葉で説明してありますので、これを読んでからテキストを読むと、興味を持って読むことができるでしょう。　言語を考えることは、わたしたちが生き、他者との関わりを考えることにつながります。テキストとあわせて種々の書物を読み、いろいろな問題を、自身で考えてください（テキストを暗記するのではなく、自身で考えることが最も重要です）。　１．母音と子音　２．方言　３．言語接触　４．ラングとパロル　５．言語の多様性　６．ピジンとクレオール
■学習の到達目標	・言語の役割を多角的に考え、理解する。・言語の役割について、説明することができる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を把握しているか。・テキストの内容をおさえ、自身で考えているか。・参考文献を読み、学習の成果が顕著であるか。・自分の意見と他人の意見が分かるような体裁で書かれているか。・参考文献を適切な情報(著者名、書名、発行所、発行年。該当ページ)を付けて挙げているか。

授業科目	日本語文法				単位	4.0
担当者	荻原　廣			シラバスグループ	TM5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新口語文法	平居謙編	京都書房	[ISBN]9784763711519
標準古典文法	市川孝・山内洋一郎　監修	第一学習社	[ISBN]9784804033105

■授業の概要	日本語の文法を学ぶ。まず、平安時代の文法を中心とした文語文法（古典文法）、および口語文法（現代語の文法）の基礎を身につける。テキストの文法論は、学校文法と呼ばれるもので、言葉を形の上から見分けることを主眼にした、文法を勉強し始める人にとっては、わかりやすい文法の理論である。　しかし、テキストにも触れてあるが、「文法は言葉がどんな法則で成り立っているのかを解明するために後から考えられたもの」である。そのため、文法論は数多くあり、そしてそれは、それぞれの文法学者の言語観・人間観・世界観が反映されている。　したがって、文法書によって、言葉の単位の設定の仕方、品詞の名づけ方にも違いがある。それらにも学びながら、皆さんの言語観・人間観・世界観を養ってほしい。
■学習の要点	2 冊のテキストの記述をよく読み、日本語の文法を考える力を身につける。中でも、古典文法は、できるかぎり例文の原典を読み、文章の流れの中で考えるとよい。　人の言葉は、時代により、人々のものの考え方により、変化する。それゆえ、古典文法と現代語の文法との間で、もともとは同じ言葉であったものの品詞が異なる場合も起きてくる。　また、同時代において、別の働きをする言葉もある。たとえば、「本がある。」の「ある」と「これは本である。」の「ある」とでは、働きが異なっている。これは、どのように説明すればよいか。そのような疑問がいろいろ起きるだろう。その時には、さらに種々の文法論をひもといてほしい。それぞれの文法論に触れるうちに、疑問に対する解答を見つけていくことができるだろう。種々の文法書を読む基礎の力を、このテキストの学習を通して身につけてほしい。（注意：出版社により別冊の解答は一般向けには付属しない場合がある）
■学習の到達目標	文語文法（古典文法）を身につければ、古典作品が正確に読める。また、口語文法（現代語の文法）を身につければ、今使っている日本語に関して疑問がわいたときに、その答えを導く一助になるだろう。そのレベルに達してほしい。
■成績評価の基準	1000 字～2000 字で、問われた内容が充分、且つ、わかりやすくまとめてあるかが基準となる。また 1000 字～2000 字より多かったり少なかったりした場合は、評価しない。

授業科目	日本文学概論				単位	4.0
担当者	奥村　和美・坂井　健			シラバスグループ	TM5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本文学研究法	坂井健	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244724&refHpStenCode=68038,}

■授業の概要	まず初めに、文学とはどのようなものか、日本文学にはどのような領域が含まれるのかといった問題から説き起こし、国学の歴史と日本文学研究との関わり、日本文学研究の目的に及ぶ。ついで、実際に行われている日本文学研究のさまざまな方法を、具体例をあげながら紹介していく。それぞれの方法で、どのような手順で研究が行われるのか、その方法によって何を明らかにすることができるのか、あるいは、その目的は何か、また、その方法の短所は何か、などを明らかにしていく。　日本文学を学習しようとする人に、自分たちがこれから学習しようとすることはどのようなものなのか、どのように学習していかなければならないのか、といった点について、その概略を把握してもらうことを目的としている。
■学習の要点	この科目で学習するべきことは、日本文学研究についての概略であって、個別的知識ではない。個別的知識が述べられている場合でも、それはあくまで研究方法などを説明するためにあげられた具体例に過ぎないのであって、例そのものよりも、その例によって何が述べられているのかに注意して理解するようにして欲しい。特に重要なのは以下の点である。　1．国学と日本文学研究の関係はどのようなものであるか。日本文学研究の歴史とその性格はどのようなものか。　2．書誌学はどのような作業を行うか。その作業の必要性とその作業をおろそかにした場合の問題点は何か。　3．注釈・解釈・鑑賞とはどのような作業か。その有効性と問題点は何か。　4．出典研究の有効性と問題点は何か。　5．玉鬘系後記挿入説について説明しなさい。　6．伝記研究の有効性とその問題点は何か。　7．歴史社会学的研究の必要性について説明しなさい。　8．テクスト論とはどのような立場か。その有効性と問題点は何か。　9．文学史・文芸理念研究は何を明らかにしようとするか。その有効性と問題点は何か。いずれの場合でも、日本文学研究は何を明らかにすることができるのかという問題意識を持ちながら学習して欲しい。
■学習の到達目標	1．「学習の要点」にある学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を科目最終試験で測る。またその到達度に即して成績を評価する。2．問題はテキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。3．出題を正しく理解し、問題の要求にしたがって論理的に解答をするように。
■成績評価の基準	問題に対して、テキストの記述に即して解答しているかによって評価します。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000082447 16&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	漢文講読				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN6706	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
原典対照中国思想文学通史	中村璋八	明治書院	[ISBN]9784625340031

■授業の概要	長い中国の歴史の中から、おびただしい思想・文学に関する詩文が作られてきました。その中にはすでに日本語に訳されたものもあるが、それは極僅かであり、その他の大部分の漢籍は訳なしで読まねばなりません。ところで、それらの漢籍を読破するには漢文訓読法が有効なことは言うまでもありません。しかし近年我が国では、この漢文訓読法が軽視されてきた結果、漢文読解力が著しく落ちてまいりました。　そこで受講生の皆さんには、この科目の受講を通じて、少しでも漢文訓読に親しまれるとともに中国古典学術に関し基礎的な知識を持たれることを願っております。
■学習の要点	中国古典文を読む為には、なによりも知識が必要です。そこで、まずテキスト「中国思想文学通史」を、じっくり読んで中国古典に関する基礎的知識を身につけることが肝心です。尚テキストには沢山の代表的中国古典詩文を収めるが、御覧の通りすべて訳注がついていません。これらを読む時は、図書館や市販の書籍で訳注本を見つけ、それぞれ対照して読まれることをおすすめします。
■学習の到達目標	テキストや参考書などを熟読し、できるだけ知識を蓄えること。試験にあたってはより具体的な記述ができることを要求します。
■成績評価の基準	テキストが熟読されているか、ポイントは正確につかまれているか、誤りはないか、明晰な論述がなされているか、を成績評価の基準とします。

授業科目	書道				単位	4.0
担当者	長尾　秀則			シラバスグループ	TM5505	
開講年度	2023	履修方法	R	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道文化	加藤達成ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248797&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	書道は、文字を素材とする造形芸術である。　本科目は、書道における漢字五書体の内、楷書・行書・草書の三体、および仮名の基本的技法を修得することを目的とする。いずれも古典の臨書によって、書技法の修得、並びに鑑賞力の向上を目指すものである。　楷行草三体は、しだいに簡略化されて完成していったように考えやすいが、実際は逆の草行楷の順に完成されたのである。最後に生まれた楷書は、唐代に頂点を迎え、現代に至るまで正式書体となっている。行書草書は、一貫して補助書体としての役目を荷いながらも、書道芸術の特に表現面において主要な位置を占めている。これら三書体を書き分けられることは、書道の理解のためには不可欠のことである。　一方、仮名は草書を母体として日本で独自に発達したもので、平安・鎌倉時代の技法を学ぶことが主となる。　テキストには、それぞれの代表的名品が解説とともに掲載されている。設題となっている古典だけではなく、幅広く書道の世界を味わっていただきたい。
■学習の要点	楷行草三書体の違いは、単に構造が異なるだけでなく、用筆法の相違による要素が大きい。三書体の書き分けのためには、筆使いの習熟が求められる。毛筆の働きに慣れるには、テキストを熟読し、毛筆が自然に動くように時間をかけて訓練する事が必要である。　また、単に手の動きだけではなく、臨書の対象となる古典の特徴を理解できる鑑賞力が、作品の出来不出来に大きくかかわる。テキスト掲載の主要な古典は、拓本（石などに刻された文字を紙に写しとったもの）が中心で、白黒反転した手本を見て書くことになる。拓本の見方に慣れるとともに、各古典の書風の相違を見極める力が求められる。　テキストには、参考手本が掲載されている。特に初心者はまずこれを参考に、六文字の適度な配置・文字の大きさを学んでほしい。　仮名は、小筆を使用するために、一層の繊細さが求められる。用具用材も漢字用のものとは異なるので、解説等を読んで吟味することが必要である。
■学習の到達目標	古典の臨書としての完成度の高さがあり､指導ができるような力をつける。
■成績評価の基準	古典の臨書として字形･線質･布置･章法ができていることが大前提｡その上で完成度の高いものを高く評価する。

授業科目	書道史				単位	4.0
担当者	松宮　貴之			シラバスグループ	TM6110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治家と書　―近現代に於ける日本人の教養―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639023364
中国の政治家と書―激動の時代を生きた政治家たちの残したもの―	松宮貴之・編	雄山閣	[ISBN]9784639025221

■授業の概要	古来、中国では、教養人の間では書をよくすることは必須の条件とされ、また能書の人は人々に尊重されてきた。そして、日本でも、古く漢字を輸入して用い、また漢字から仮名を作って用いてきたが、やはり手跡の美しいことは尊ばれてきたのである。　中国書道史、日本書道史、それぞれの文化の流れを理解することは、東洋古来の美の探究に他ならない。書を学問的に追求することの楽しさをこの科目でぜひ味わってほしい。
■学習の要点	①王羲之・王献之の人となりと、代表作について学習する。②唐の四大家の人となりと、それぞれの代表作について学習する。③中国近現代の政治家の書について学習する。④三筆・三蹟の人となりと、それぞれの代表作について学習する。⑤日本近現代の政治家の書について学習する。⑥「かな」の代表的作品について学習する。特に、「高野切古今集」については、第一種・第二種・第三種の違いを明確にしておく。　以上を中心に中国書道史・日本書道史とも幅広く学んでほしい。特に、人物については『書の基本資料』（中教出版）12 巻中国の能書、13 巻日本の能書等によってまとめておくとよい。また、それぞれの代表作については、『書道全集』（平凡社）・『書道芸術』（中央公論新社）等によって確認しておくとよい。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即して学習すること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②採点は、加点方式を基本とする。問題に対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は 1500 字以上に及んでいること。これを充たせば 10 点を加える。⑤誤字・脱字に注意すること。⑥人名・作品名は、基本的に漢字にすること。
■成績評価の基準	試験結果で判断する。

授業科目	書論				単位	4.0
担当者	前田　秀雄			シラバスグループ	TM6704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
書道理論〔改訂〕	加藤達成編	佛教大学	[ISBN]9784907177744

■授業の概要	古き良き日本の伝統を真に理解し、教養として身につけた人材が、今必要とされている。毛筆の書は、「己の志を詩にして、それを可視的な形で紙面に焼き付けたもの」と定義される。また、「書は人なり」。人格・識見・技量、三位一体の向上を目指して、全人格的な完成が求められなければならない。　ただ、日常の生活習慣が変化した昨今では、毛筆の学習は、過去の人々の、時間をかけることで「潜移黙化（知らず知らずのうちに感化されること）」に依存していた方法が望めなくなっている。そこでまず「眼高手低」にして、合理的で正確な訓練方法により学習効率を上げなければならない。臨書学習のテキストとしての古典作品は「物言わぬ師」であるが、幸い各種「書論」の作者たちは、等しく古典の作家でもあった。「書論」の熟読は、書写・書道教育の上に有効である。
■学習の要点	書の学習には、書法技術と理論の相補学習が望まれてきた。技術と理論は互いの向上に伴って、創作や教育の現場に活用されるものである。テキスト以外に、中高の書写書道のテキストや関係書物への関心も大いに必要なことである。　１．書とはどういう芸術か、他と比較する。　２．書美を分析、表現上の原理を考える。　３．創作過程を考え、書美の作られる原理を考える。　４.「余白」について考える。　５.「線」について他の芸術と比較する。６．臨書の大事なことを具体的に考える。
■学習の到達目標	古典としての書論学習によって、書の本質に理解が深まったか、書作の技術向上には、思索が大切であることに気づきが生まれたか？
■成績評価の基準	書論を学んで得た知識が、単なるオウム返しに終わらず、吟味咀嚼され、きちんと自分の言葉に落とし込まれた表現になっているかを評価したい。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	異文化理解（中国）				単位	4.0
担当者	若杉　邦子			シラバスグループ	TN5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国の歴史（ちくま学芸文庫）	岸本美緒	筑摩書房	[ISBN]9784480096913

■授業の概要	「異文化理解」――これは最近よく聞くことばであるから、耳に馴染んだ語感も相まって、容易な事柄に違いないと早合点する向きがあるかもしれない。しかしその実、「異文化」の「理解」を成し遂げるのは決してたやすいことではない。当科目では、自国の文化とは異なる、中国の文化について、虚心に、知的に理解することに専心努力してもらう。「異文化」を学ぶという取り組みはすなわち、「異文化」の存在を通じて、自国の文化についても改めて学びなおし、異社会の構造を考察しながら、おのれの属する社会への理解をも同時に深めるという営みである。その時、彼我に対する偏見や先入観は極力捨て去らねばならない。 「文化」という、広範にわたり、かつ、抽象性にも富む対象を理解するにあたっては、なんらかの具体的な「とっかかり」が必要である。そこで、本科目ではそのきっかけを「歴史」に求める。なぜならば、「文化」は「歴史」を形成する一大要素であり、逆に「歴史」もまた、「文化」の生生流転を映して止まぬ一大スクリーンであるからだ。文化の理解に励む時、併せてその歴史をも学ぶことは必須である。 もちろん「とっかかり」と言う以上、ここで持ち出す「歴史」の情報量には配慮するつもりである。この科目は「異文化（中国文化）」を学ぶためのものであり、「歴史」学習のためのものではないのだから。そこで本科目は、著者の岸本美緒によって手際よくまとめられた中国通史をテキストとして選定した。冒頭、「文化」に関して岸本は次のように言う、「そもそも“中国”とは何か、と考えてみたとき、中国それ自体がさまざまな文化が交流する複雑な過程のなかでつくられてきたものであることに思い至る。周辺諸国が中国の影響を受けたというばかりではなく、中国そのものが、周辺諸地域との対立や文化的融合を通じて形づくられてきたのである」と（テキスト「まえがき」）。著者の視線が、王朝や国家の交替史に止まらず、「文化」や社会といった、歴史の基底を成すものにまで、深く鋭く及んでいることを読者に知らしめる一節である。 このテキスト学習を契機に、中国の「歴史」を通じて、その基底を成す「文化」を知ろうとする発想と態度とを養ってほしい。また、中国と日本、両国の歴史と文化を比較考察し、両者に対する認識を深めてほしい。
■学習の要点	まずは各章の内容を正しく理解し、要約することに力を注いでほしい。 作業としては、リポート作成を意識して、各章の内容を（もともと凝縮された内容ではあるが、そこからさらに縮めて）200～300 文字程度にまとめるところから始めること。そのうえで【史料】と【焦点】とを読み、【焦点】の方を 100 文字程度に要約する。 上記の作業が一通り済んだら、テキストの全体を俯瞰して、歴史の大きな流れを意識しつつ、「前近代（先秦～アヘン戦争まで）」「近現代（アヘン戦争～今日まで）」の両時期に区分し、各章の要約をつなげてみる（【史料】と【焦点】の内容も適宜反映させること）。各章をつなげる際には、その背景たる文化・社会の変遷に注意し、断片的な記述にならないよう十分配慮しながら、「前近代」「近現代」ともに、各 3000 文字程度でまとめてみる。 最後の仕上げとして、日本史に目

	を転じ、古来、日本が中国より受容してきたさまざまな文化的影響について（清末以降は日本から中国への“逆方向的”影響関係も生じた）、中国・日本における“（文化の）現れ方の違い”に留意しつつ、200 文字程度で整理し、先にまとめた「前近代史」「近現代史」にそれぞれ付加する。

■学習の到達目標	中国の歴史について、その基底を成す「文化・社会」の変遷を押さえつつ、あくまでもテキストに沿って正確に理解した上で、わかりやすく記述できるということが第一の到達目標である。併せて、日本文化についても考察し、その中国からの影響、あるいは日本において遂げた（影響の）独自展開の様相、逆に日本から中国に与えた影響、などといった文化交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できるということが第二の到達目標である。答案作成時には、それらの目標を意識した上で、簡潔にまとめるよう努めること。

■成績評価の基準	1)中国の歴史について、テキストに沿って正確に理解し、わかりやすく記述できているか：40 点 2)歴史の基底を成す「文化・社会」の変遷に注意が行き届いているか：40 点 3)中日文化の交流上の諸問題について、着実な分析に基づき論理的に記述できているか：20 点

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000082447 16&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	英文学史				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TP5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イギリス文学史入門	川崎寿彦著	研究社	[ISBN]9784327375010

■授業の概要	イギリス文学史は、古英語で書かれた『ベオウルフ』からはじまり、中英語で書かれたチョーサーの『カンタベリー物語』を経て、ルネサンス期にシェイクスピアをはじめとする多くの作家が登場し、その後も今日に至るまで脈々とつながる現在進行形のものである。21 世紀のイギリス文学を見ても、2001 年に V.S. ナイポール、2005 年にハロルド・ピンター、2007 年にドリス・レッシング、そして記憶に新しいところでは、2017 年にカズオ・イシグロがそれぞれノーベル文学賞を受賞している。この科目では、『ベオウルフ』にはじまるイギリス文学史を時代ごとに、またジャンルごとに概観することで、各作家・作品が文学史または各時代においてどのような位置づけにあるのかを把握しようとするものである。個々の芸術作品を取り上げて、その良し悪しを判断することの是非はともかくとして、イギリス文学の中で作家・作品に対して相対的な価値判断を下すことは可能であろうし、それが文学史というものである。学習にあたっては、作家・作品を単体で見るのではなく、時代背景や他の作家・作品との関わりを十分に意識しながら理解してもらいたい。
■学習の要点	１．テキストを丁寧に読んで、全体的な内容を把握した上で、各時代の時代背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、重要事項、またイギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルの歴史とそれぞれの特徴について学ぶこと。２．なお、時代背景については、必要であれば、テキスト以外の文献等で調べてみること。３．以下の項目については重点的に学習し、要点をおさえた上で簡潔にまとめておくこと。１）イギリスの演劇２）イギリスの詩３）イギリスの小説４）7 世紀から 16 世紀のイギリスの時代背景とその文学５）17 世紀および 18 世紀のイギリスの時代背景とその文学６）19 世紀および 20 世紀のイギリスの時代背景とその文学
■学習の到達目標	各時代の背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、そして重要事項について、また、イギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルの歴史とその特徴について説明することができる。
■成績評価の基準	各時代の背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、そして重要事項の 4 点について説明が加えられていること。また、イギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルについて、歴史的な視点からそれぞれの特徴に関する説明が加えられていること。

授業科目	米文学史				単位	4.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
21 世紀から見るアメリカ文学史	早瀬博範	英宝社	[ISBN]9784269520073

■授業の概要	21 世紀を迎え、アメリカではますます多文化主義と民族主義が進み、文学批評も同様の傾向をたどりつつある。アメリカ文学ほど、時代に敏感な文学はないだろう。その時々の時代思潮は、作品理解には欠かせない。テキストでは、「アメリカニズム」をキーワードとして、各時代で作家たちが、その形成・発展にどのようにかかわってきたのかを検証されている。
■学習の要点	テキストで取り上げられているそれぞれの代表的な作家について、それぞれの代表作を踏まえて、全般的に学習してもらいたい。またアメリカ文学の歴史的背景をふまえた大きな流れをとらえてもらいたい。
■学習の到達目標	各作家の原文や背景を理解した上で、アメリカ文学の大まかな歴史を理解することが到達目標。成績評価の基準は、ただしく原文が理解できているか、また自分の言葉で書くテーマついて論じることができているか。情報をまとめること以上に独自の意見を述べることは重要である。
■成績評価の基準	(1) テキストの内容が良く理解できているかどうか(2) テキスト以外の参考資料を読み、テキストで得た知識以上の広がりを持った学習を行っているかどうか(3) テキストで出てくる内容に関して得た知識を元に、自分の考えをアウトプットできているかどうか

授業科目	英米文学研究				単位	4.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP5311	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イギリス名作を温ねて	Peter Milward 著	開文社出版	[ISBN]9784875714330

■授業の概要	日本人の英語学習者のために、特にイギリスの文化背景も知りたいという人のために書かれたテキストを読みます。翻訳に頼らず、辞書を引きながら英語を読み、理解する機会を皆さんに持ってほしいと思っています。10 人のイギリスの詩人と劇作家の伝記と時代背景に加えて、代表作の抜粋についてのコメントが、味読するに十分値する、知的な英語で書かれています。特に、キリスト教に頻繁に言及しているのは、イギリス文学のみならず、イギリスの文化や社会の理解には、キリスト教について知識が不可欠だと作者が考えているからです。この機会に、キリスト教とバイブルについても学んでください。
■学習の要点	この科目は、1）リポートによって英文を要約する訓練を、2）試験によって英文を精読する力の涵養を目的としています。これらの点では、これまでの通信教育課程に類似の科目はありませんでした。テキストの題材は文学と文化(宗教）ですが、同じような内容の英文をアメリカやイギリスの高等教育レベルの科目では普通に読んでいます。つまり、この科目の履修は、将来英語圏の大学で学ぼうと考えている人が、そのレベルの複雑な論理と深い内容を持った英語力を身につけるのに役立ちます。　まず、辞書に頼らないで英文の内容を理解するつもりで読んでください。一回目は半分意味が分かれば上出来です。二度、三度同じように読み、概要を把握したらリポートの設題にあわせて要約を作成しましょう。英和辞典を引きながら丁寧に読んでください。（必ず筆記用具を持って読み、大事と思われる箇所には線を引く、意味を理解できなかった単語にも印をつけるように。夏目漱石は複数の色鉛筆を使っていたそうです。）作家と作品についての知識を身につけるのは当然ですが、それ以外に（同じくらいの比重で）テキストに使われている英語を自分のものにして、それを使って自分を表現することを目標にしてください。最初は辞書を引かないで読み、次に丁寧に辞書を引くという習慣をつけることは大事なことです。
■学習の到達目標	(到達目標)テキストの内容を的確に把握して、構成のしっかりしたリポートを書けるように。(最終試験)テキストを精読しているかどうかを評価の基準とします。テキストから出題します。その文章を日本語に訳してください。　通信生と通学生では距離や時間の制約の大きさが異なっているので、通信生に通学生と全く同じ指導をするのは不可能です。不可能と分かっていても、できるだけ通学生が受けている指導に近い指導を通信生の皆さんにもしたいというのが、この科目の担当者の思いです。皆さんがやがて受け取る添削済みのリポートをどの程度活用するかで、通信生の皆さんが通学生に指導の密度でどれだけ近づくことができるか決まります。
■成績評価の基準	(1）テキストの内容を正しく理解していること(2）テキストの内容にとどまらない広範な知識をもとに解答がなされていること(3）問われている内容について、自分独自の意見が書けていること

授業科目	英語音声学				単位	4.0
担当者	西川　明美			シラバスグループ	TP5406	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英語音声学	前川哲郎ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248852&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	音声学（phonetics）は、人が話す言葉の音声とその音の生成についての学問である。英音と米音は異なり、方言（dialect）で少し違い、話は各々の音素の一続きによって出来上がっている静的なものではなく動的なもので、話の間中、調音は絶え間なく動いている。話の力動的な特徴はそれらが起こる以前に、人は一連の話を計画しているということにあり、別の音素が完了する以前にある音素を調音してしまう結果、音はその音を取り囲んでいる環境（environment）と呼ばれるものによって修正される。英語の発音と表記(第１章)で英語の文字と発音の歴史や問題点を、調音音声学(第 2 章、第３章)で IPA、母音四角表と調音、有声音と無声音、複母音、子音の役割、豊富な練習問題(PRACTICE)で沢山の単語を習得し、米国南部や東部、ニューヨーク、オーストラリア英語等の発音について学習する。音声力学(第４章)で、強勢（stress）やイントネーション、H.E. パーマー（Harold E. Palmer）、R. キングドン（Roger Kingdon）の音調表記や音調核、ピッチを学習し、音韻論(第５章)で、異音、ミニマル・ペア、聞こえ度、分節法、音素配列の公式や N. チョムスキーと M. ハレの強勢規則について学習する。音響音声学(第６章)で音響の法則や音の知覚について学習し、スピーキングと音声(第７章)でスピーチ、朗読、レギュラーなディベートに加えオレゴン方式やノースカロライナ方式のアウトラインを学習する。英語音声学と英語教育(第８章)で、パーマー、キングドン、アレンの音調体系について学習する。
■学習の要点	発声器官と人間の声の英語の音素を調音する際の関係を中心に学習することが望ましい。音調強勢符号や IPA による表記が出来るように学習すること。　１．英語の母音四角表が書ける、発音できる、IPA 表記に慣れる。　２．英語の母音、子音が、取り囲んでいる分節によって影響されることが説明できる。　３．英語の子音の分類や子音の役割が理解できる。４．英単語が何音節であるかを、聞こえ度から説明できる。　５．英文に Kingdon の音調強勢符号を付けて、型、強勢、音調核、ピッチ等が説明できる。　６．異音とミニマル・ペアとの違いが説明できる。　７．　英語のイントネーションを習得し、会話、スピーチ、朗読、ディベートを行う。
■学習の到達目標	新情報と旧情報や、音が隣の音のようになる現象(適応、accommodation)を理解することで、英語を聞き取ることができる。R. Kingdon の音調強勢符号を学習することで、ネイティブの英語のイントネーションを習得し、英語らしい話し方ができる。

■成績評価の基準	〈復習テスト〉は 80%以上の正解を基準とする。

授業科目	比較文学				単位	4.0
担当者	朴　銀姫			シラバスグループ	TP5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
比較文学の世界	秋山正幸ほか編	南雲堂	[ISBN]9784523292982

■授業の概要	比較文学は、国際的、学際的な学問として注目されている。「日本文学」や「英米文学」といった各自の専門分野についての知識や関心を手がかりに、他国の文学との関係について考えてみよう。また、作品成立の背景として、その時代の文化、社会状況にも目を向けてみよう。比較文学を知ることで、視野を広げ柔軟な思考力を養ってほしい。
■学習の要点	１．比較文学研究の方法にはどのようなものがあるか。テキスト「序論」を読んで、要点をまとめなさい。影響（受容）の研究については第２章を参照、対比研究については第８章を参照すること。２．夏目漱石の経歴（特に、英米文学との関わり）について調べなさい。テキストの他、人名事典、文学事典などを活用しましょう。３．エドガー・アラン・ポーの作品について調べなさい。代表的な詩や小説の作品名、発表年、梗概（あらすじ）などを一覧にしてみましょう。また、ポーの翻訳者やポーに言及している日本人作家の名を調べなさい。４．ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の経歴（特に、日本での仕事）について調べなさい。５．横光利一の経歴について調べなさい。また、彼のヨーロッパ旅行について、その訪問地を書き込んだ世界地図（略図）を作成してみましょう。６.「旅愁」と「使者たち」に見られるナショナル・アイデンティティについて、また、あなた自身のナショナル・アイデンティティについて、それぞれどのような文化（言語、歴史、規範など）の中で形成されたか考えてみましょう。そして、異文化の理解と共生のために私たちができることは何か考えてみましょう。
■学習の到達目標	１)「学習の要点」を参考にして、テキストをよく読んでおくこと。作家名、作品名、作中人物名、地名、作家・作品の影響関係、等々の重要な固有名詞や事実関係が、出題に対応して適切に記述されていれば、60 点とする。２）解答は、1000 字程度記入することとし、これに不足する場合は不合格とする。３）解答は論述形式となるため、文章力や論文の構成の工夫に応じて加点する。４）テキスト以外からの情報や、解答者の個人的な見解については、解答を補足するものとして考慮する。
■成績評価の基準	テキスト内容についての理解力及び内容漏れの有無を基準にする。

授業科目	英米思想史				単位	4.0
担当者	大内　和正			シラバスグループ	TP5411	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英米思想史	古我正和編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248853&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英米文学を学ぶ上で、それぞれの時代の文芸思潮や個々の作品の背景に、どのような歴史的・社会的背景があるかを知ることは不可欠です。しかし、歴史や社会の動きは必ずしも直接に文学作品に反映されるわけではありません。それはまず、その時代を生きる人々の人生や世界についての考え方に現れ、逆にまた思想が社会や歴史を動かしていくのです。文学は、そうした社会と思想の往復運動の中から生まれた想像力の営みに他なりません。　この「英米思想史」は、主として英米文学を学ぶ人々に、文学の背景にあるこうした社会と思想の運動への理解を深めてもらうために設けられています。しかし注意しなければならないのは、文学にもまして、思想の世界には国境がないということです。したがって学習の出発点はヨーロッパの思想の源流を理解することにおかれます。そしてその後、ルネサンス以前はヨーロッパの辺境の島国にすぎなかったイギリス、そして 200 年余り前まではイギリスの植民地にすぎなかったアメリカが、世界の指導的地位を享受するまでに至った歴史を辿りながら、イギリスやアメリカで生まれた思想の特性を理解し、またその文学との関連を学んでいきます。そして、近代的な国民的＝民族的なアイデンティティが再び大きな動揺に晒されている今日、英米を発信地とした思想や文学がそれにいかに対応しようとしているのかを瞥見することによって、英米の思想や文学への新しい視線を模索します。
■学習の要点	テキストを通読して内容を理解し、長いヨーロッパの思想の伝統の中での英米思想の特徴を把握してください。試験問題やリポートの設題に取り組むにあたっては、直接に関連する部分だけではなく、このような広い見地からの理解が必要です。　1．帰納法と演繹法は大きな二つの思考の方法である。フランシス・ベーコンの帰納法やその思想の歴史的意義をよく理解すること。　2．ホーソンの『緋文字』で分かるように、清教主義はアメリカ文化に多大な影響を及ぼしたが、そのいきさつ、経過などを理解しておいてほしい。　3．ダーウィンの唱えた生物進化論は、人間や社会に関する従来の見方に大きな衝撃を与えた。その原因とその後に及ぼした影響をまとめておくこと。　4．19 世紀のアメリカで起こった超絶主義とは何かを把握し、その時代背景を理解しておくこと。　5．20 世紀モダニズム文学の成立には、長いあいだの歴史的な経験が前提となっている。まずモダニズムとは何かを把握し、その社会的・思想的背景をまとめておくこと。　6．現代における民族的マイノリティの自覚と運動、またフェミニズム運動には目覚しいものがある。これらを歴史的に理解し、現代の思想に与えた影響を考えておくこと。

■学習の到達目標	英米文学を学ぶ人に役に立つであろう英米思想史のアウトラインを理解することが学習の目標です。さまざまな事象を網羅的に記憶する必要はありませんが、いくつかのテーマについて深く学んでおくことで、全体の理解も進むことが期待されます。
■成績評価の基準	科目最終試験で、少なくとも 400 字以上のまとまった論述があることを、合格の最低限の条件とします。要点を正しく理解しているか、要点についての理解をどれだけ深めているかに応じて、評価点を加えていきます。

授業科目	東西比較哲学				単位	4.0
担当者	大内　和正			シラバスグループ	TP5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ヨーロッパ思想入門（岩波ジュニア新書）	岩田靖夫	岩波書店	[ISBN]9784005004416

■授業の概要	近年、国際化が進み、文化的背景の異なる人々が交流し合う機会が増えるのにともなって、相手の立場を理解することがますます必要になってきました。世界各地のさまざまな文化の中でも、現代人のものの考え方にもっとも大きな影響を与えてきたのが西洋の哲学思想であり、私たち日本人もその影響を強く受けています。　この東西比較哲学という科目では、西洋の哲学思想の母体となっているギリシア思想とキリスト教（ヘブライ）思想に触れることによって、私たち日本人が西洋から受け取ったものの考え方はどのようなものであるのか、そもそもどのように考えられていたのか、またそのすぐれた点はどこにあるのかについて学んでいきます。
■学習の要点	先人たちの思想を、次のような点に注意しながら理解してください。・ギリシア思想の大きな特色は「理性主義」にあるが、ホメロスはどのような姿勢で神々について描写したのか。・ソクラテスは一問一答による問答の形で知恵を探求したが、なぜそのような独自の方法を選んだのか。・プラトンは魂を理性、気概、欲望の３つに分けたが、それぞれの部分は相互にどのような働きをしているのか。・アリストテレスが幸福について論じる際の独創的な視点とはどのようなものか。・キリスト教（ヘブライ）思想の基本は「愛と赦し」であるが、イエスのたとえ話の根底にはどのような考えがあったのか。・神は自己の似姿として人間を創造したといわれるが、アウグスティヌスはどのように人間が三位一体の似像とされると考えたのか。
■学習の到達目標	哲学という学問は、私たちの人生に深く関わっている問題を扱っています。ギリシア思想とキリスト教思想の学習を通して、広い視野でものを考える力を身につけると同時に、現代の諸問題についても、その本質を見抜く目を養うことを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験で、少なくとも 400 字以上のまとまった論述があることを、合格の最低限の条件とします。要点を正しく理解しているか、要点についての理解をどれだけ深めているかに応じて、評価点を加えていきます。

授業科目	英米文学概論				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TP6101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
イギリス・アメリカ文学史: 作家のこころ	福田昇八著	南雲堂	[ISBN]9784523291794

■授業の概要	翻訳を通して日本でもよく知られた英米文学の作家や作品はあるが（たとえばシェイクスピアや『ハムレット』『ロミオとジュリエット』といった名前は一度は必ず耳にしたことはあるであろう）、それ以上に英米文学史には代表的な作家・作品が数多く存在する。この科目においては、英米文学の基礎知識の習得を目標として、文学史上における主要な作家・作品について学習する。イギリス文学やアメリカ文学の歴史の網羅的な学習は「英文学史」「米文学史」といった科目に譲るとして、とりあえずは英米文学史に登場する主だった作家・作品に触れてみることからはじめよう。　日本の文学作品ですらあまり読まれなくなっているのが昨今の傾向のようであるが、この科目の学習を通して興味関心を抱いた作家・作品があれば、翻訳でも構わないので、どんどん実際の作品を読んでもらいたい。文学史を学ぶことで様々な作家・作品を知り、そして作品を実際に読んでみる。そして作品に触れてから再び文学史を学ぶと、その意義がよりはっきりと見えてくる。この繰り返しが文学を学ぶ上ではきわめて重要であろう。
■学習の要点	１．テキストを丁寧に読んで、全体的な内容を把握した上で、作家の特徴や代表作について学ぶ。２．以下の項目については重点的に学習し、要点をおさえた上で簡潔にまとめておくこと。　１）シェイクスピアとミルトンについて。　２）ワーズワース、コールリッジ、バイロン、シェリー、キーツについて。　３）オースティン、ディケンズ、ブロンテ姉妹、ジョージ・エリオット、ハーディについて。　４）ジョイス、ウルフ、ロレンス、T.S.エリオット、グリーンについて。　５）ポー、ホーソーン、メルヴィル、トウェイン、F.スコット・フィッツジェラルドについて。　６）フォークナー、ヘミングウェイ、スタインベック、ベロウ、サリンジャーについて。
■学習の到達目標	英米文学の主要な作家の特徴および代表作について論じることができる。
■成績評価の基準	各作家の特徴および代表作について論じられていること。

授業科目	文学概論				単位	4.0
担当者	佐藤　良太・坂井　健			シラバスグループ	TM5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
小説神髄	坪内逍遥	岩波書店	[ISBN]9784003100417
復刻版 評論でみる明治大正文学史	坂井健編	北斗書房	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244716&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	坪内逍遥『小説神髄』（主に上巻）を読むことで、文学とは何か、小説の歴史、小説の目的、小説の種類について学び、『小説神髄』中に引用されている作品・作者について学習を深めることで、明治の前期までの文学についての知識を広く身に着けることを第一の目標とする。　次いで『評論でみる明治大正文学史』で扱われている評論を読み、それに関連する知識を学ぶことで、明治以降大正から昭和初期にかけての文学史について学習することを第二の目標とする。
■学習の要点	『小説神髄』を読むことで次のことを学ぶ。１　「緒言」に引用されている作品・作家について学ぶことで日本文学史の概要を知る。２　「小説総論」を読むことで、文学と芸術の関係ならびに詩の歴史について学ぶ。３　「小説の変遷」を読むことで、小説の歴史について学び、演劇との関係について考える。４　「小説の主眼」を読むことで、小説の目的、逍遥の主張した写実主義について考える。５　坪内逍遥『小説神髄』と二葉亭四迷「小説総論」を比較することで、両者の違いを考える。６　片上天弦「人生観上の自然主義」を読むことで、写実主義と自然主義の違いについて考える。
■学習の到達目標	西洋文学・漢文学・日本文学についての概略の把握。文学史的知識の獲得。書物の読解方法の習得。
■成績評価の基準	・テキストを正しく理解し、調べ、知識を身に着けているか。・身につけた知識を参考文献などを適切に示しながら、正確に記述できているか。・対象となる資料を正確に読解し、対象化した視点から考察できているか。

授業科目	英語学概論				単位	4.0
担当者	稲永　知世			シラバスグループ	TP6103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
解いて学ぶ認知言語学の基礎	瀬戸賢一･山添秀則･小田希望	大修館書店	[ISBN]9784469213614

■授業の概要	1）英語の音声の仕組み、2）〈ことば〉の仕組み、とりわけ英語を対象とした認知言語学、3）言語と文化の関わり、についてその概要を説明する。新しい英語学の考え方の基礎を身につけ、その視点から英語の構造を理解できることを目指す。日本語との比較をも行い、人間の言語に共通な性質にも着目する。
■学習の要点	認知言語学の観点から英語学の基礎を学ぶ。中心は〈解釈〉とカテゴリーである。
■学習の到達目標	1）英語の音声の仕組みについて理解し、それを簡潔に説明することができる。2）英語学的なものの見方から、英語の諸現象を説明することができる。3）言語と文化の関わりについて理解し、それを簡潔に説明することができる。
■成績評価の基準	つねに実証的なデータが伴っていることが重要である。

授業科目	英文学史				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TP5201	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イギリス文学史入門	川崎寿彦著	研究社	[ISBN]9784327375010

■授業の概要	イギリス文学史は、古英語で書かれた『ベオウルフ』からはじまり、中英語で書かれたチョーサーの『カンタベリー物語』を経て、ルネサンス期にシェイクスピアをはじめとする多くの作家が登場し、その後も今日に至るまで脈々とつながる現在進行形のものである。21 世紀のイギリス文学を見ても、2001 年に V.S. ナイポール、2005 年にハロルド・ピンター、2007 年にドリス・レッシング、そして記憶に新しいところでは、2017 年にカズオ・イシグロがそれぞれノーベル文学賞を受賞している。この科目では、『ベオウルフ』にはじまるイギリス文学史を時代ごとに、またジャンルごとに概観することで、各作家・作品が文学史または各時代においてどのような位置づけにあるのかを把握しようとするものである。個々の芸術作品を取り上げて、その良し悪しを判断することの是非はともかくとして、イギリス文学の中で作家・作品に対して相対的な価値判断を下すことは可能であろうし、それが文学史というものである。学習にあたっては、作家・作品を単体で見るのではなく、時代背景や他の作家・作品との関わりを十分に意識しながら理解してもらいたい。
■学習の要点	１．テキストを丁寧に読んで、全体的な内容を把握した上で、各時代の時代背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、重要事項、またイギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルの歴史とそれぞれの特徴について学ぶこと。２．なお、時代背景については、必要であれば、テキスト以外の文献等で調べてみること。３．以下の項目については重点的に学習し、要点をおさえた上で簡潔にまとめておくこと。１）イギリスの演劇２）イギリスの詩３）イギリスの小説４）7 世紀から 16 世紀のイギリスの時代背景とその文学５）17 世紀および 18 世紀のイギリスの時代背景とその文学６）19 世紀および 20 世紀のイギリスの時代背景とその文学
■学習の到達目標	各時代の背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、そして重要事項について、また、イギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルの歴史とその特徴について説明することができる。
■成績評価の基準	各時代の背景、その時代の文学の特徴、主要な作家・作品、そして重要事項の 4 点について説明が加えられていること。また、イギリスの詩、演劇、小説の各ジャンルについて、歴史的な視点からそれぞれの特徴に関する説明が加えられていること。

授業科目	米文学史				単位	4.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP5203	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
21 世紀から見るアメリカ文学史	早瀬博範	英宝社	[ISBN]9784269520073

■授業の概要	21 世紀を迎え、アメリカではますます多文化主義と民族主義が進み、文学批評も同様の傾向をたどりつつある。アメリカ文学ほど、時代に敏感な文学はないだろう。その時々の時代思潮は、作品理解には欠かせない。テキストでは、「アメリカニズム」をキーワードとして、各時代で作家たちが、その形成・発展にどのようにかかわってきたのかを検証されている。
■学習の要点	テキストで取り上げられているそれぞれの代表的な作家について、それぞれの代表作を踏まえて、全般的に学習してもらいたい。またアメリカ文学の歴史的背景をふまえた大きな流れをとらえてもらいたい。
■学習の到達目標	各作家の原文や背景を理解した上で、アメリカ文学の大まかな歴史を理解することが到達目標。成績評価の基準は、ただしく原文が理解できているか、また自分の言葉で書くテーマついて論じることができているか。情報をまとめること以上に独自の意見を述べることは重要である。
■成績評価の基準	(1) テキストの内容が良く理解できているかどうか(2) テキスト以外の参考資料を読み、テキストで得た知識以上の広がりを持った学習を行っているかどうか(3) テキストで出てくる内容に関して得た知識を元に、自分の考えをアウトプットできているかどうか

授業科目	英文法				単位	4.0
担当者	橘高　眞一郎			シラバスグループ	TP6303	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
English Grammar in Use	Raymond Murphy 著	Cambridge University Press	{9781108586627,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244692&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英文法の学習により、冠詞，可算・不可算の違い，前置詞の多義性，関係代名詞の用法などに習熟することによって、正確な英語運用力を身に付けることを目的とする。
■学習の要点	1．可算名詞・不可算名詞の基本的な区別を理解する。 2．単数形・複数形の違い，定冠詞・不定冠詞の区別を理解する。 3．動詞の時制を理解する。 4．前置詞の多義性を学ぶ。 5．関係詞の制限用法・非制限用法を理解する。 6．能動態・受動態を使い分ける。 7．副詞，接続詞などについても理解を徹底する。
■学習の到達目標	・学習の要点に挙げている７項目について、正しく説明できること。・学習の要点に挙げている７項目について、正しく説明でき、なおかつ具体例を示せること。・文法は決して机上の空論ではなく、具体的な言語記述によっている。従って、個別の具体的実例を挙げることができなくてはならない。
■成績評価の基準	・答案は、簡潔にして要を得た文で書くこと。回りくどく、なかなか何が言いたいのかわかりづらい答案はそれだけで大幅に評価が下がる。具体的な例文は、テキストの引用を避け、できる限り、平素から自分で収集したものを用いるよう心掛けること。また、基本的な例文は必ず覚えておくようにすること。誤字脱字なども評価のマイナス要素であるので十分に気を付けること。

授業科目	英文学研究				単位	4.0
担当者	メドロック　皆尾　麻弥			シラバスグループ	TP6304	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ヘミングウェイ短編集 Indian Camp & Other Stories	Ernest Hemingway 著大庭勝 編註	成美堂出版	[ISBN]9784791905072
コスモポリタンズ	Somerset Maugham 著岩崎良三 編著	金星堂	[ISBN]9784764700048

■授業の概要	この科目のタイトルは「英文学研究」です。従って、英語文学の原典に触れることを課題にしています。テキストは、平易ながらも奥深い高い英語で書かれていて、登場人物たちが自分とは異なる「他者」と向き合いかつ衝突しあうという姿巧みに描かれています。これらテキストで描かれる「他者」のありようは様々で、人種、年齢、性別、世代などが見いだせます。そのためこれらテキストは、英語力の涵養のみではなくて、精読や味読にも適しています。
■学習の要点	英和辞典を引きながら、丁寧にテキストを読むこと、英語を十分に理解して、テキストの内容を把握し、それを咀嚼した後で内容をまとめて書くこと。英文を一文一文丁寧に読むことはもちろん、作品のプロットにも注意すること。そのためにも、作品内で反復して登場する表現に注目して、それらを一つ一つ丁寧に拾っていくことを推奨します。
■学習の到達目標	・テキストの内容を的確に把握して、構成のしっかりしたリポートを書けるようにしておくためにも、テキストの英語を正しく理解すること。
■成績評価の基準	テキストの正確な理解が第一。具体的には、文型を含めた文法事項はもちろんのこと、作品の構造やプロットも含まれます。また、解答では必ず段落の構成を考えて書くこと。

授業科目	米文学研究				単位	4.0
担当者	メドロック　皆尾　麻弥			シラバスグループ	TP6305	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
米文学研究〔改訂版〕	野間正二	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248760&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	テキストは、小説の読み方と論文の書き方との両方をマスターするために書き下ろしたものです。しっかり読んで、小説の読み方と論文の書き方を身につけてください。これまでの学生のリポートや卒論・修論には、あまりにも読みの技法に無関心で、ただ感想を書きつけたものや、文学の論文とは言えないものがありました。それを少しでも少なくするための教科書です。　第一章「語り手から読む」、第二章「歴史から読む」、第三章「少数派の視点から読む」、第四章「謎を手がかりに読む」から成っていて、最新の批評理論のニューヒストリシズム、フェミニズム、ポストコロニアニズムをもあつかっています。　なお、リポートを作成する場合には、テキストや参考書を引き写したり、インターネット上の情報を単につなげたような答案はリポートとして認めないので注意してください。自分なりの考察や解釈の跡が垣間見えるものであって欲しい。他人の文や解釈（考え）を引用するときには、かならずカギカッコで括り、典拠と引用・参照ページなどのデータをかならず丸カッコ内に明示してください。（詳しくは、テキストを参照。）
■学習の要点	それぞれの小説を精読して、それぞれ要求されている視点から、的確に読み解いて、その作品の面白さを、明快で分かりやすい日本語で考えて欲しい。　1．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、語り手から読んで、その面白さを述べなさい。　2．サリンジャーの『ライ麦畑でつかまえて』を歴史から読んで、その面白さを述べなさい。　3．メルヴィルの『二つの教会』を、歴史から読んで、その面白さを述べなさい。　4．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、歴史から読んで、その面白さを述べなさい。　5．ヘミングウェイの『エデンの園』を、フェミニズムの視点から読んで、その面白さを述べなさい。　6．ロチの『お菊さん』を、ポストコロニアルの視点から読んで、その面白さを述べなさい。　7．ヘミングウェイの『老人と海』を、謎を手がかりに読んで、その面白さを述べなさい。　8．フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』を、謎を手がかりに読んで、その面白さを述べなさい。
■学習の到達目標	最終試験の設問は、テキスト履修科目ですから、テキストに書かれている範囲から出題されます。つまり解答はテキストの中にありますから、テキストを精読してから受験してください。尚、答案作成にあたっては、要点をおさえ、論理の筋道をつけてまとめること。論述の展開とその深度によって評価します。表面的な解説や項目を羅列したような答案は避けること。自分なりの解釈と考察に立脚していることが大切です。

■成績評価の基準	論文（リポート）の書き方の理解度と技法の理解度を評価する。

授業科目	英米文学研究				単位	4.0
担当者	持留　浩二			シラバスグループ	TP5311	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
イギリス名作を温ねて	Peter Milward 著	開文社出版	[ISBN]9784875714330

■授業の概要	日本人の英語学習者のために、特にイギリスの文化背景も知りたいという人のために書かれたテキストを読みます。翻訳に頼らず、辞書を引きながら英語を読み、理解する機会を皆さんに持ってほしいと思っています。10 人のイギリスの詩人と劇作家の伝記と時代背景に加えて、代表作の抜粋についてのコメントが、味読するに十分値する、知的な英語で書かれています。特に、キリスト教に頻繁に言及しているのは、イギリス文学のみならず、イギリスの文化や社会の理解には、キリスト教について知識が不可欠だと作者が考えているからです。この機会に、キリスト教とバイブルについても学んでください。
■学習の要点	この科目は、1）リポートによって英文を要約する訓練を、2）試験によって英文を精読する力の涵養を目的としています。これらの点では、これまでの通信教育課程に類似の科目はありませんでした。テキストの題材は文学と文化(宗教）ですが、同じような内容の英文をアメリカやイギリスの高等教育レベルの科目では普通に読んでいます。つまり、この科目の履修は、将来英語圏の大学で学ぼうと考えている人が、そのレベルの複雑な論理と深い内容を持った英語力を身につけるのに役立ちます。　まず、辞書に頼らないで英文の内容を理解するつもりで読んでください。一回目は半分意味が分かれば上出来です。二度、三度同じように読み、概要を把握したらリポートの設題にあわせて要約を作成しましょう。英和辞典を引きながら丁寧に読んでください。（必ず筆記用具を持って読み、大事と思われる箇所には線を引く、意味を理解できなかった単語にも印をつけるように。夏目漱石は複数の色鉛筆を使っていたそうです。）作家と作品についての知識を身につけるのは当然ですが、それ以外に（同じくらいの比重で）テキストに使われている英語を自分のものにして、それを使って自分を表現することを目標にしてください。最初は辞書を引かないで読み、次に丁寧に辞書を引くという習慣をつけることは大事なことです。
■学習の到達目標	(到達目標)テキストの内容を的確に把握して、構成のしっかりしたリポートを書けるように。(最終試験)テキストを精読しているかどうかを評価の基準とします。テキストから出題します。その文章を日本語に訳してください。　通信生と通学生では距離や時間の制約の大きさが異なっているので、通信生に通学生と全く同じ指導をするのは不可能です。不可能と分かっていても、できるだけ通学生が受けている指導に近い指導を通信生の皆さんにもしたいというのが、この科目の担当者の思いです。皆さんがやがて受け取る添削済みのリポートをどの程度活用するかで、通信生の皆さんが通学生に指導の密度でどれだけ近づくことができるか決まります。
■成績評価の基準	(1）テキストの内容を正しく理解していること(2）テキストの内容にとどまらない広範な知識をもとに解答がなされていること(3）問われている内容について、自分独自の意見が書けていること

授業科目	英語音声学				単位	4.0
担当者	西川　明美			シラバスグループ	TP5406	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英語音声学	前川哲郎ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248852&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	音声学（phonetics）は、人が話す言葉の音声とその音の生成についての学問である。英音と米音は異なり、方言（dialect）で少し違い、話は各々の音素の一続きによって出来上がっている静的なものではなく動的なもので、話の間中、調音は絶え間なく動いている。話の力動的な特徴はそれらが起こる以前に、人は一連の話を計画しているということにあり、別の音素が完了する以前にある音素を調音してしまう結果、音はその音を取り囲んでいる環境（environment）と呼ばれるものによって修正される。英語の発音と表記(第１章)で英語の文字と発音の歴史や問題点を、調音音声学(第 2 章、第３章)で IPA、母音四角表と調音、有声音と無声音、複母音、子音の役割、豊富な練習問題(PRACTICE)で沢山の単語を習得し、米国南部や東部、ニューヨーク、オーストラリア英語等の発音について学習する。音声力学(第４章)で、強勢（stress）やイントネーション、H.E. パーマー（Harold E. Palmer）、R. キングドン（Roger Kingdon）の音調表記や音調核、ピッチを学習し、音韻論(第５章)で、異音、ミニマル・ペア、聞こえ度、分節法、音素配列の公式や N. チョムスキーと M. ハレの強勢規則について学習する。音響音声学(第６章)で音響の法則や音の知覚について学習し、スピーキングと音声(第７章)でスピーチ、朗読、レギュラーなディベートに加えオレゴン方式やノースカロライナ方式のアウトラインを学習する。英語音声学と英語教育(第８章)で、パーマー、キングドン、アレンの音調体系について学習する。
■学習の要点	発声器官と人間の声の英語の音素を調音する際の関係を中心に学習することが望ましい。音調強勢符号や IPA による表記が出来るように学習すること。　１．英語の母音四角表が書ける、発音できる、IPA 表記に慣れる。　２．英語の母音、子音が、取り囲んでいる分節によって影響されることが説明できる。　３．英語の子音の分類や子音の役割が理解できる。４．英単語が何音節であるかを、聞こえ度から説明できる。　５．英文に Kingdon の音調強勢符号を付けて、型、強勢、音調核、ピッチ等が説明できる。　６．異音とミニマル・ペアとの違いが説明できる。　７．　英語のイントネーションを習得し、会話、スピーチ、朗読、ディベートを行う。
■学習の到達目標	新情報と旧情報や、音が隣の音のようになる現象(適応、accommodation)を理解することで、英語を聞き取ることができる。R. Kingdon の音調強勢符号を学習することで、ネイティブの英語のイントネーションを習得し、英語らしい話し方ができる。

■成績評価の基準	〈復習テスト〉は 80%以上の正解を基準とする。

授業科目	比較文学				単位	4.0
担当者	朴　銀姫			シラバスグループ	TP5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
比較文学の世界	秋山正幸ほか編	南雲堂	[ISBN]9784523292982

■授業の概要	比較文学は、国際的、学際的な学問として注目されている。「日本文学」や「英米文学」といった各自の専門分野についての知識や関心を手がかりに、他国の文学との関係について考えてみよう。また、作品成立の背景として、その時代の文化、社会状況にも目を向けてみよう。比較文学を知ることで、視野を広げ柔軟な思考力を養ってほしい。
■学習の要点	１．比較文学研究の方法にはどのようなものがあるか。テキスト「序論」を読んで、要点をまとめなさい。影響（受容）の研究については第２章を参照、対比研究については第８章を参照すること。２．夏目漱石の経歴（特に、英米文学との関わり）について調べなさい。テキストの他、人名事典、文学事典などを活用しましょう。３．エドガー・アラン・ポーの作品について調べなさい。代表的な詩や小説の作品名、発表年、梗概（あらすじ）などを一覧にしてみましょう。また、ポーの翻訳者やポーに言及している日本人作家の名を調べなさい。４．ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の経歴（特に、日本での仕事）について調べなさい。５．横光利一の経歴について調べなさい。また、彼のヨーロッパ旅行について、その訪問地を書き込んだ世界地図（略図）を作成してみましょう。６.「旅愁」と「使者たち」に見られるナショナル・アイデンティティについて、また、あなた自身のナショナル・アイデンティティについて、それぞれどのような文化（言語、歴史、規範など）の中で形成されたか考えてみましょう。そして、異文化の理解と共生のために私たちができることは何か考えてみましょう。
■学習の到達目標	１)「学習の要点」を参考にして、テキストをよく読んでおくこと。作家名、作品名、作中人物名、地名、作家・作品の影響関係、等々の重要な固有名詞や事実関係が、出題に対応して適切に記述されていれば、60 点とする。２）解答は、1000 字程度記入することとし、これに不足する場合は不合格とする。３）解答は論述形式となるため、文章力や論文の構成の工夫に応じて加点する。４）テキスト以外からの情報や、解答者の個人的な見解については、解答を補足するものとして考慮する。
■成績評価の基準	テキスト内容についての理解力及び内容漏れの有無を基準にする。

授業科目	言語学概論				単位	4.0
担当者	橘髙　眞一郎			シラバスグループ	TP6505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
英語の構造	小野隆啓	金星堂	[ISBN]9784764709768

■授業の概要	国語辞典を引くと、言語学とは「各民族の使用言語を広く見渡してその起源発達や系統的関係を究明する科学。特定地域の言語体系の構造的研究をも指す」（三省堂国語辞典）とあり、通時的、共時的アプローチが含まれている。言語への関心はとおくギリシヤの昔から始まって現在に至っているが、その間に言語観は変化しており、19 世紀にいたって言語の価値観から離れ、言語そのものの客観的研究へと移行している。構造主義言語学、生成文法理論へと進展し、各学派がそれぞれの見地に立って研究が行われ、最近は認知科学分野への広がりを呈している現状である。しかし音声、音韻、統語、意味が言語の基底部分を形成していることには変わりなく、言語学概論の科目でもそういった中心的分野にまず視点を向けて学ぶことになる。
■学習の要点	科目の概要で述べたような見地から、われわれ人間の用いることばが、もし動物たちにコトバがあるとして、彼らのコトバと比較してどのような特性を持っているかを考えることになる。しかしこれは大きな問題で、考え方によっては言語学で扱うことがすべて関係してくるともいえるだろう。人間のことばの仕組みは一体どうなっているかの問題に入っていくことになるが、しかし考えてみればこれは案外簡単で形式(Form)、音声(Sound)、意味(Meaning)からなる三角形を考え、形式を仲介に音と意味が結びつくと考えられる。そしてそれぞれが音韻、統語、意味に関する情報で関連づけられていると考えられる。学習の要点もこの三点に関係してくる。　・ラング（langue）とパロール（parole）について調べておくこと。　・言語の二重分節性（double articulation）について調べておくこと。　・同化（assimilation）と異化（dissimilation）について具体例を調べておくこと。　・言語の恣意性（arbitrariness）について調べておくこと。　・言語の構造にみられる統合関係（syntagmatic relation）と連合関係（paradigmatic relation）について調べておくこと。　・語形成のプロセスの１つにある合成（compounding）とよばれる方法について調べておくこと。
■学習の到達目標	・学習の要点に挙げられている項目について、正しく説明できること。
■成績評価の基準	・回りくどく何を言いたいのかわかりにくいものや、誤字・脱字があるものは評価が大幅に下がる。・言語学は抽象的な哲学談議ではなく、具体的な言語事象の観察から成り立っている。従ってある言語事象の説明には必ず具体例が伴わなければならない。説明のみで具体例を欠いていたり、具体例の正しい説明がなされていないものは不可である。

授業科目	英米思想史				単位	4.0
担当者	大内　和正			シラバスグループ	TP5411	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
英米思想史	古我正和編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248853&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	英米文学を学ぶ上で、それぞれの時代の文芸思潮や個々の作品の背景に、どのような歴史的・社会的背景があるかを知ることは不可欠です。しかし、歴史や社会の動きは必ずしも直接に文学作品に反映されるわけではありません。それはまず、その時代を生きる人々の人生や世界についての考え方に現れ、逆にまた思想が社会や歴史を動かしていくのです。文学は、そうした社会と思想の往復運動の中から生まれた想像力の営みに他なりません。　この「英米思想史」は、主として英米文学を学ぶ人々に、文学の背景にあるこうした社会と思想の運動への理解を深めてもらうために設けられています。しかし注意しなければならないのは、文学にもまして、思想の世界には国境がないということです。したがって学習の出発点はヨーロッパの思想の源流を理解することにおかれます。そしてその後、ルネサンス以前はヨーロッパの辺境の島国にすぎなかったイギリス、そして 200 年余り前まではイギリスの植民地にすぎなかったアメリカが、世界の指導的地位を享受するまでに至った歴史を辿りながら、イギリスやアメリカで生まれた思想の特性を理解し、またその文学との関連を学んでいきます。そして、近代的な国民的＝民族的なアイデンティティが再び大きな動揺に晒されている今日、英米を発信地とした思想や文学がそれにいかに対応しようとしているのかを瞥見することによって、英米の思想や文学への新しい視線を模索します。
■学習の要点	テキストを通読して内容を理解し、長いヨーロッパの思想の伝統の中での英米思想の特徴を把握してください。試験問題やリポートの設題に取り組むにあたっては、直接に関連する部分だけではなく、このような広い見地からの理解が必要です。　1．帰納法と演繹法は大きな二つの思考の方法である。フランシス・ベーコンの帰納法やその思想の歴史的意義をよく理解すること。　2．ホーソンの『緋文字』で分かるように、清教主義はアメリカ文化に多大な影響を及ぼしたが、そのいきさつ、経過などを理解しておいてほしい。　3．ダーウィンの唱えた生物進化論は、人間や社会に関する従来の見方に大きな衝撃を与えた。その原因とその後に及ぼした影響をまとめておくこと。　4．19 世紀のアメリカで起こった超絶主義とは何かを把握し、その時代背景を理解しておくこと。　5．20 世紀モダニズム文学の成立には、長いあいだの歴史的な経験が前提となっている。まずモダニズムとは何かを把握し、その社会的・思想的背景をまとめておくこと。　6．現代における民族的マイノリティの自覚と運動、またフェミニズム運動には目覚しいものがある。これらを歴史的に理解し、現代の思想に与えた影響を考えておくこと。

■学習の到達目標	英米文学を学ぶ人に役に立つであろう英米思想史のアウトラインを理解することが学習の目標です。さまざまな事象を網羅的に記憶する必要はありませんが、いくつかのテーマについて深く学んでおくことで、全体の理解も進むことが期待されます。
■成績評価の基準	科目最終試験で、少なくとも 400 字以上のまとまった論述があることを、合格の最低限の条件とします。要点を正しく理解しているか、要点についての理解をどれだけ深めているかに応じて、評価点を加えていきます。

授業科目	西洋文化史				単位	4.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TP6508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
魔女･怪物･天変地異　―近代的精神はどこから生まれたか	黒川正剛著	筑摩書房	[ISBN]9784480016713
図説　魔女狩り	黒川正剛著	河出書房新社	[ISBN]9784309761619

■授業の概要	中世末から近世にかけてのヨーロッパ世界では、「魔女狩りの激化」と「驚異の大増殖」という二つの出来事が同時代現象として噴出した。それは中世から近代へと移り変わる過渡期であり、中世的な考え方と近代的な考え方がせめぎあう時期であった。この授業では「魔女狩り」と「驚異」の歴史を考察することを通して、西洋における近代的精神がどのように生まれてきたのか理解することを目指す。
■学習の要点	二つのテキストは、社会背景について相互に補完しあう内容となっている。まずは両方のテキストを通読し、「驚異」と「魔女／魔術」に対する人々の認識の変容について、全体像を把握してもらいたい。そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている内容の理解を深め、テキスト著者の主張を考察してもらいたい。その際、下記の参考文献やテキスト巻末に挙げられている参考文献なども活用すると良いだろう。1．近世以前のヨーロッパの人々の、「驚異」に対する認識と「好奇心」に関する考え方について、後世への影響も踏まえつつまとめる。2．大航海時代の幕開けが、ヨーロッパ人の「驚異」に対する認識と「知的好奇心」に与えた影響について、地図・植物誌・動物誌などにおける発展･変容を踏まえつつまとめる。3．16 世紀ヨーロッパにおける、新大陸をはじめとする異境由来の「驚異」についての認識と、「好奇心」に関する見解について、アンドレ・テヴェやアンブロワーズ・パレの著述を中心にまとめる。4．宗教改革前後の時代のヨーロッパ社会における、怪物・驚異を「世界の終末」や「神の怒り」として認識する傾向について、各地のさまざまな例を踏まえつつ整理する。5．近世を通して緩やかに進行した、「驚異の自然化」と「好奇心の近代化（名誉回復）」について、パレなどの萌芽的な動きと、中世的考え方を維持しようとする立場を対照させつつまとめる。6．中世末以降の魔女狩りに影響を与えた、古代・中世における「魔女」と「悪魔崇拝」のイメージの形成について、異端や異端審問の制度化の影響も踏まえつつまとめる。7．近世における魔女狩りの激化について、宗教改革および近世国家の中央集権化との関連の有無を、男性優位の近世的価値観の進展（家父長制や性の規律化）についても踏まえつつ整理する。8．魔女狩り激化の時代とその終焉以降において、「魔女」と「魔術／驚異」そして「好奇心」についての認識はどのように変化したか、例を挙げつつ整理する。
■学習の到達目標	「魔女／魔術」および「驚異」に対するヨーロッパの人々の認識の変容について学び、それを通して西洋の近代的精神とは何か、近代化とは何かということについて総合的な理解を得ること。

■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。 出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	西洋文学史			単位	4.0
担当者	寺尾　佳子		シラバスグループ	TP6509	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
フランス文学案内〔増補〕（岩波文庫；別冊-１）	渡辺一夫ほか	岩波書店	[ISBN]9784003500019

■授業の概要	フランス文学史を学ぶ。フランスという国に文学が生まれてから今日に至るまで、それがどのように発展してきたのかを、テキストを通して学んでいく。フランスに文学作品が現れ始めたのは 11 世紀以降のことと考えられるが、その頃から 20 世紀までの作品を、各世紀ごとにそれぞれ共通した特徴をもつものとして捉えながら、フランス文学の全体像を把握するのが、本科目の目的である。私達が慣れ親しんでいるのは、フランス文学の中でも 19 世紀、20 世紀のものが多いと思われるが、これら現代に近い時代に書かれた作品でも、長い間に築かれた文化的基盤の上に生み出されたものであるから、過去の歴史を学ぶことは、これらの作品を深く理解する上でも重要だと思われる。またフランス文学は、人間の良いものも悪いものも、美しいものも醜いものも、人間の全てを、いうならば「人間の赤裸の姿」を描く文学であるから、フランス文学に触れることは、人間の「赤裸の姿」を知ることにも通じるし、フランス文学の歴史を学ぶことは、フランス文学のみならず、他の文学を学ぶ人々にとっても、文学作品の背景を考える点で参考になると思われる。
■学習の要点	テキストに従って、６つの時代に分けて、フランス文学を考えていく。 (1) 中世期 (11、12 世紀から 15 世紀まで)　封建制度の推移はどうであったか、この時代の文学とはどういうものかを見ていく。エスプリ・ゴロワとエスプリ・クルトワとは何か。 (2) 16 世紀 (ルネサンスの時代)　16 世紀に何がよみがえり復位したのか。ユマニストとはどういう人達か。 (3) 17 世紀（古典主義の時代）　国家統一と絶対王制への道について。アカデミー・フランセーズによるフランス語の整備と古典主義文学の胎生について。 (4) 18 世紀（擬古典主義と啓蒙主義の時代）　啓蒙主義文学と大革命との関りについて。ヴォルテールとルソーについて。 (5) 19 世紀（ロマン主義、写実主義、自然主義、象徴主義が相つぐ時代）　ロマン主義とは何か。写実主義とは何か。 (6) 20 世紀（第一次大戦前の文学、第一次大戦後の不安の文学、第二次大戦中の抵抗文学、戦後の実存主義文学とそれ以後の新しい文学）　ダダイスム、シュールレアリスムとはどういうものか。
■学習の到達目標	テキストに従って学習を進め、その内容を正確に理解することによって、フランス文学の歴史を、フランス社会の変遷との関連で捉え、フランス文学の全体像を把握する。
■成績評価の基準	・問題はテキストに即して出題するので、テキストに基づいて解答すること。・出題の要点を正しく理解し、要点を押さえ、理論的かつ自分の言葉で明確に解答を記述すること。・解答は１０００字以上であること。

授業科目	東西比較哲学				単位	4.0
担当者	大内　和正			シラバスグループ	TP5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ヨーロッパ思想入門（岩波ジュニア新書）	岩田靖夫	岩波書店	[ISBN]9784005004416

■授業の概要	近年、国際化が進み、文化的背景の異なる人々が交流し合う機会が増えるのにともなって、相手の立場を理解することがますます必要になってきました。世界各地のさまざまな文化の中でも、現代人のものの考え方にもっとも大きな影響を与えてきたのが西洋の哲学思想であり、私たち日本人もその影響を強く受けています。　この東西比較哲学という科目では、西洋の哲学思想の母体となっているギリシア思想とキリスト教（ヘブライ）思想に触れることによって、私たち日本人が西洋から受け取ったものの考え方はどのようなものであるのか、そもそもどのように考えられていたのか、またそのすぐれた点はどこにあるのかについて学んでいきます。
■学習の要点	先人たちの思想を、次のような点に注意しながら理解してください。・ギリシア思想の大きな特色は「理性主義」にあるが、ホメロスはどのような姿勢で神々について描写したのか。・ソクラテスは一問一答による問答の形で知恵を探求したが、なぜそのような独自の方法を選んだのか。・プラトンは魂を理性、気概、欲望の３つに分けたが、それぞれの部分は相互にどのような働きをしているのか。・アリストテレスが幸福について論じる際の独創的な視点とはどのようなものか。・キリスト教（ヘブライ）思想の基本は「愛と赦し」であるが、イエスのたとえ話の根底にはどのような考えがあったのか。・神は自己の似姿として人間を創造したといわれるが、アウグスティヌスはどのように人間が三位一体の似像とされると考えたのか。
■学習の到達目標	哲学という学問は、私たちの人生に深く関わっている問題を扱っています。ギリシア思想とキリスト教思想の学習を通して、広い視野でものを考える力を身につけると同時に、現代の諸問題についても、その本質を見抜く目を養うことを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験で、少なくとも 400 字以上のまとまった論述があることを、合格の最低限の条件とします。要点を正しく理解しているか、要点についての理解をどれだけ深めているかに応じて、評価点を加えていきます。

授業科目	日本の歴史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋の歴史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋の歴史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	史学史				単位	4.0
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	TQ5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
歴史学ってなんだ？	小田中 直樹	PHP 研究所	[ISBN]9784569632698
岩波テキストブック　歴史学入門（新版）	福井　憲彦	岩波書店	[ISBN]9784000289214

■授業の概要	近代は、「歴史学」にとって、叙述を中心とする歴史から史資料に基づく科学的な学問へと転換を遂げたという点で、大きな画期であった。だが、その近代歴史学も、20 世紀初頭からフランスに始まる「アナール学派」により、新しい局面を迎えた。その流れは、政治史から社会経済史・社会構造史、心性史や日常史へと、歴史学の対象・手法・考察に変化と広がりをもたらした。そして現在、アナール学派によって歴史のものの見方にもたらされた影響を批判・再検討し、新しい歴史学を模索するときを迎えている。そこで、本科目では、こうした歴史学の流れを理解し、そのうえで、各々が個別のテーマに取り組む際に、自らの研究姿勢を常に見直す土台を築くことを大きな目的とする。そのために、上述のテキストにより、アナール学派とは何か、いかなる歴史学を目指そうとしたのかを理解し、その手がかりとなる史資料の捉え方、分析法などを習得する。結果として、本科目が各々にとって歴史研究に対する見識と考察を深める一助となることを期待する。
■学習の要点	(1) 歴史学とは何か、高校までで学んできた点とどこが異なるのかを理解し、考察すること。 (2) アナール学派が目指した歴史の捉え方が、以前のものとどう異なるのを理解すること。 (3) 歴史を考える際の時間や空間の捉え方について理解を深めること。 (4) そのために用いられる史資料の可能性に見聞を広め、それらの性質を正しく理解し、分析する方法についての見識を身につけること。 (5) 心性史、家族史（歴史人口学)、環境・気候・景観史、社会的結合、記憶や政治的表象の歴史など、アナール学派の登場以来発展してきた歴史分野に対する理解を深め、それらと政治史との関わりについても考察すること。 (6)(1)～(5)を土台に自らの歴史研究に対する姿勢について考察すること。
■学習の到達目標	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。
■成績評価の基準	(1)　テキストをきちんと理解し、学習の要点を正確につかまえているかを評価基準とする。 (2)　その上で、テキストに対する批判や独自の考え・考察があれば加点する。 (3) (1)、(2)にも通じることであるが、リポート全体で論旨が明快であるか、論理的に執筆されているかどうか、も評価対象となる。 (4)　明快な日本語で書かれていることも評価対象である。

授業科目	地理学				単位	4.0
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	TX5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
文化地理学ガイダンス［改訂版］あたりまえを読み解く三段活用	中川正・森正人・神田孝治 著	ナカニシヤ出版	[ISBN]9784779516146

■授業の概要	地理学は地表面で生じる様々な現象（出来事）と地域との関係を理解しようとする学問です。現象には必ず位置（場所）が存在し、かつ、単独ではなく複数の現象との関係のもと地域に分布（地理的分布）しています。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々ですが、2 つとして同じ場所はなく、現象には必ず地域差（地域的差異）が現れます。そこで、この授業では位置や分布をキーワードとして地理学の基本を学びます。
■学習の要点	①　地理学における基本的用語（概念）の意味を理解する。②　基本的用語（概念）を通して地域について理解する。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて理解する。
■学習の到達目標	①　地理学における基本的用語（概念）を正しく説明できる。②　基本的用語（概念）を用いて地域について説明できる。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　記述が論理的に構成されていること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は不合格とする）。⑤　テキストの丸写し、テキストの再構成のみの論述は不合格とする。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	歴史地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX0104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
歴史地理学	桑原公徳他編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248838&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	私たちの身の回りで起きている出来事・現象には、必ず時間と位置あるいは場所がある。また、それらは、単独ではなく、必ず他の出来事や現象と関わりながら起きている。このことは過去に起きた出来事・現象も同じである。歴史地理学は、過去に起きた出来事・現象をその場所において他の出来事や現象と関係づけて、場所のもつ意味や特性、場所（地域）の仕組みを考える学問分野である。この授業では、京都を中心にいくつかの出来事（現象）を取り上げ、複数の出来事（現象）を関係づけて空間的な視点からそれらの意味を考えていくことに重点を置き、講義していく。
■学習の要点	1．景観復原の直接的方法と間接的方法について、その方法の特色と使用する諸資（史）料、２つの方法の用い方や関連性を、具体例を通じて理解する。2．弥生時代～古墳時代の集落遺跡の立地環境を調べ、その変化と社会経済的背景を考える。3．わが国の古代都城（宮都）のプランについて、その計画性や特色を、図を用いて整理し、理解する。4．中世における集落形態の変化を整理し、城館集落の分布・形態・機能を具体例を用いてまとめる。5．近世城下町について都市の内部構造上の特色をまとめ、城下町における商工業機能の配置や地域的役割を整理するとともに、他の近世都市との機能的共通点や相違点を考える。6．近代以降における私鉄路線網の形成過程を図にして整理し、私鉄路線の伸長にともなってどのような地域開発が進んだかをまとめ、地域開発に対する私鉄の役割を理解する。
■学習の到達目標	①出来事・現象を含む、歴史地理学的な基本用語を正しく使うことができる。②複数の出来事（現象）間にある関係を見出し、その関係を説明できる。③ある出来事（現象）を他の出来事（現象）と関係づけながら説明できる。
■成績評価の基準	【リポート添削・評価の基準および留意点】①リポート課題の主旨を正確に理解し、それに適った内容になっていること。②リポートの文章構成が論理的に組み立てられているか。③自ら作成したオリジナルのリポートであること。これに該当しないと判断した場合は添削対象外とする。【リポート作成上の留意点】①リポートの形式（「はじめに」から開始し、本論に章番号・タイトルをつけて論理構成を示し、最後に「おわりに」で全体をまとめること）にしたがって記述すること。②参照した文献・資料を必ず記載すること。また、文献の参照部

授業科目	東北アジア史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ0110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア国際政治史	川島真　編	名古屋大学出版会	[ISBN]9784815805616

■授業の概要	東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解することを目的とする。これまで、日本史、朝鮮史、中国史は、それぞれ別々に「一国史」の枠組みの中で理解されてきた。しかし実際には、三つの国家の歴史がばらばらに存在してきたわけではなく、古代以来それぞれの地域の歴史が有機的なつながりをもちながら展開してきた。また現在もそのような緊密な関係が続いており、「東アジア共同体」「東北アジア共同の家」構想に象徴されるように、今後もこの地域はいっそう強く結びついていくことが予想される。東北アジア史を学ぶことは、この三つの地域をより深いところで理解することでもある。　この科目では、東北アジアの近現代の歴史を学習する。東北アジアの諸地域が近代という時代をどのようにむかえ現代まで進んできたのかを歴史として理解することが必要である。とりわけ日本が朝鮮半島や中国の人々に対して植民地支配と侵略を行った歴史事実を直視することが重要だろう。そのことが、朝鮮半島や中国の人々とこれまで以上に友好関係を築いていくことにつながるからである。　東北アジア史を学ぶことによって、朝鮮半島や中国大陸に暮らす人々とともに生きていくための知識や知恵が得られることを願う。
■学習の要点	東北アジアの近現代史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「東北アジア史」の学習は成功である。特に、以下の点に留意しながら学習を進めてもらいたい。１．開港と近代化…資本主義化を進めた欧米列強のアジアへの圧力に対して、日本・朝鮮・中国の３国はどのように対応したのか。その中で日本はなぜ東北アジアに勢力を膨張させようとしたのか。それは東北アジアにどのような葛藤を引き起こしたのか。また、三つの地域で起った近代化への動きはどのように展開されたのか。２．日本の膨張と朝鮮・中国の抵抗…日清戦争、日露戦争の結果、日本は台湾、朝鮮を植民地支配したが、それはどのようなものだったのか。第一次世界大戦前後における中国問題をめぐる日本と国際社会の動向はどのようなものだったのか。日本の植民地支配、侵略に対して、朝鮮人や中国人はどのように対応したのか。また、そうした中でも進行していった産業化や民衆の生活はどのようなものだったのか。３．侵略戦争と民衆の被害…日本が、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と１５年にわたって行った侵略戦争はどのようなものだったのか。日本の軍国主義はどこから生まれたのか。日本国民は侵略戦争の体制に動員されたのか。それに対する朝鮮人や中国人はどのように抵抗したのか。被害はどのようなものだったのか。また、戦時体制化における民衆の生活はどのようなものだったのか。人類史的な視点から考える必要がある。４．第二次大戦後の東アジア…東北アジアの三つの地域は、１９４５年８月１５日から始まる「戦後」をどのように迎え、どのような国をつくったのだろうか。日本の「過去の清算」はどうなったのだろうか。また、三つの地域は、どのような関係を結んでいったのだろうか。

■学習の到達目標	・東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解すること・文献や資料を適切に調査し、その内容を理解して、文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	古文書学				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古文書学入門〔新版〕	佐藤進一	法政大学出版局	[ISBN]9784588320118

■授業の概要	個人や組織・機関が命令や依頼、許可などを実施する際に発せられる文書（公文書、書状、書簡など）、いわゆる「古文書」は、宛先・差出の人物や組織の政治的・社会的な関係が反映されているだけでなく、その目的に即して一定の書式にしたがって記されることが多い。こうした書式は、人や組織が変化するに伴い変化するが、逆に文書の書式の変化に着目すれば、文書の発給・差出に関わる歴史的な事実を解き明かす手がかりとなる。本科目ではそうした「古文書学」に関する基礎的な知識の習得を目的とし、様式の具体的な内容、様式の変遷、その背景を検討することが学習の中心となる。　文書の様式についての理解を深め、それぞれの様式の用途について考えると共に、そうした様式がどのような背景で成立し、どのように変化していくのか、また後の様式とはどのような点で異なっているのか、その理由は何かといった点について学習する。
■学習の要点	古文書学の目的は、単なる文書様式の学習ではない。様式の背景にある時代的社会的な特徴と様式の関係を考えるのであるから、単に様式だけでなく、様式同士がどのような関係にあるのか、またその理由などについても考える必要がある。 実際の学習にあたっては、個々の様式を十分に理解した上で、様式成立の背景や前後の様式との関わりを意識しながら学習を進めてほしい。　・古文書とは何か。また古文書学研究と歴史学研究の関わりについて　・古文書における奉書と直状の特徴と違いについて　・中世の起請文の様式とその変遷について　・鎌倉時代の武家様文書の特色について　・次の古文書用語および様式について　　1：花押　2：右筆　3：院宣　4：奉書　5：外題安堵　・次の古文書用語および様式について　　1：綸旨　2：案文　3：女房奉書　4：端裏書　5：軍忠状
■学習の到達目標	用語に関する単なる理解ではなく、古文書学の基本的な考え方を理解するよう努めること。その上で以下の諸点について理解したい。1：古文書学の基本的な考え方が理解できている。2：古文書の基本的なターム（用語）について理解できている。 3：古文書が社会関係や政治状況を反映していることを理解している。
■成績評価の基準	1：古文書学の目的や基本的な方法、考え方についての理解 2：古文書学の基本的なターム（用語）についての理解 3：文書様式についての理解

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	神話・伝承学概論				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	インド哲学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島　鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	前半は「ヴェーダの宗教と思想」として、仏教が誕生するまでの古代インド思想について、バラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を読解します。1 ヴェーダ文献 2『リグ・ヴェーダ』の神々3『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 4『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 5 ブラーフマナの祭儀と神話 6 ウパニシャッドの哲学思想　　a. シャーンディリヤ; b. 五火・二道説; c. ウッダーラカ; d. ヤージュニャヴァルキヤ後半は「六派哲学」と呼ばれるインド正統派の６つの哲学が成立したマウリヤ王朝からグプタ王朝に至る時代背景と思想史を概観します。1 サーンキヤ学派(精神と物質の二元論)2 ヨーガ学派(実践論)3 ニヤーヤ学派(論理学)4 ヴァイシェーシカ学派(カテゴリー論)5 ミーマーンサー学派(聖典解釈学)6 ヴェーダーンタ学派(不二一元論)
■学習の要点	以下のキーワードを理解し、レポートを作成して下さい。「ヴェーダの宗教と思想」1 四ヴェーダ, 四祭官, ヴェーダの四部門, ヴェーダの補助学; 2『リグ・ヴェーダ』, 自然神, 特定の神々, 宇宙創造に関わる神々; 3 哲学的讃歌, 謎の歌, 原人の歌, 宇宙開闢の歌;4『アタルヴァ・ヴェーダ』, 呪法讃歌, 人体の構造を讃うる歌, 支柱の歌; 5 ブラーフマナ, 創造神話, 念想と同置, 祭式の内面化; 6 ウパニシャッド, 輪廻と解脱, 梵我一如, 五火・二道説,「汝はそれなり」,「あらず・あらずのアートマン」「六派哲学」1 サーンキヤ, 二元論, 25 原理, 純粋精神; 2 八支ヨーガ, 総持, 禅定, 三昧; 3 ニヤーヤ, 論理学, 認識手段, 認識対象; 4 ヴァイシェーシカ, カテゴリー論, 原子論, 実体と性質; 5 ミーマーンサー, 新得力,文法学, スポータ説; 6 ヴェーダーンタ,不二一元論, シャンカラ
■学習の到達目標	学習の要点に示される用語の理解によって、1 バラモン教典の内容を簡潔に説明し、原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握出来ることを目指します。 2 主要なインド思想について、それぞれの内容を簡潔に説明し、中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握出来ることを目指します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断します。

授業科目	東洋文化史				単位	4.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ0508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	日本思想史				単位	4.0
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	TQ0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
概説日本思想史	佐藤弘夫　編集委員代表	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623043033

■授業の概要	本科目においては、日本の古代から現代にいたる日本思想の歴史を学ぶ。日本の思想の特徴としては、伝統的な思想を保持しようとする傾向、海外思想を取り入れることによりその後進性を克服しようとする努力、新旧両思想の反発と融合による二重構造の形成といったことが指摘できる。日本の思想や文化、その歴史や伝統を学ぶことは、民族の歴史や伝統を再検討・再認識することでもあり、また、思想や文化の新しい進路を探ることにつながる。
■学習の要点	テキストは古代から現代までの通史である。第１章 「日本の誕生」～第２５章「国民と市民の相克」からなるが、最初に目次を参考に、各章の特色を把握すること。試験問題は、各時代において基礎的に重要と思われる事項や思想について出題している。テキストは通史また概説書として編纂されたものであるので、参考文献を手がかりに、より一層の考察を深めてほしい。　１．奈良時代の仏教と寺院　２．摂関政治と国風文化　３．平安時代の仮名文学と物語文学　４．中世の文芸と芸能の思想　５．近世の町人の思想・農民の思想　６．大正デモクラシーの思想
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。・問題はテキストに即して出題する。出題意図、問題内容、何を書くか、結論はどうするか、じっくり考えて解答すること。・誤字脱字、文体の不統一、不自然な表現や意味不明な表現がはなはだしい場合は不合格とする。・採点は加点方式を基本とする。問いに対して解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・出題の要点を正しく理解していて、表現が的確であり、主張の要旨が明快であれば高く評価する。
■成績評価の基準	出題の要点が正しく理解できていること。表現が的確であること。主張の要旨が明確であること、等を評価の基準とする。

授業科目	中国思想の歴史Ⅰ				単位	4.0
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	TN5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　上（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010961

■授業の概要	中国の昔の思想を題材に、自分の見解を自分の言葉で述べてください。　テキストの他、原典・専門書をできるだけ多く読んでください。
■学習の要点	テキスト・原典・専門書を読み、興味を持った点や疑問点をリポートの主題とし、自分の見解を自分の言葉で述べること。その際、見解の根拠を原典から提示すること。
■学習の到達目標	中国古典思想の概略を把握し、その中の何かしらについて自分の見解を持つ。　自分の見解を論述文で書く。
■成績評価の基準	テーマについて、自身の見解を論述文で示せているか否か。　原典を読んだことが明らかな内容を示せているか否か。　そのためにはある程度の文章量が必要だということは、試験に臨むまでに課題を通じて学んでいるはずです。　なお、文章の意味が理解できない答案、箇条書きの答案、出題内容と無関係なことを書いた答案、解答に際して不正があったと岡本が判断した答案は評価対象としません。

授業科目	中国思想の歴史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　下（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010978

■授業の概要	漢代から清代にいたるまでの中国の思想史の流れを、中国において生成発展した儒教や道教と、外来思想である佛教思想との交流を機軸に深める。各時代の代表的な思想の特徴や思想家の生き方、その時代の政治や社会情勢との関わりについて特に留意して学習する。漢代以降、中国の思想は儒教を軸に進展してきたが、同時に道教や佛教もまた人々に大きな影響を及ぼしてきた。ことに六朝時代から唐代において中国佛教の発展はめざましく、儒教や道教にも大きな影響をあたえた。宋代以降、儒教が変貌をとげ、中国の中心的思想としての位置を取り戻したが、道教や佛教もそのあり方を変えて社会に浸透していった。　一般に中国哲学の歴史を論ずるとき、佛教思想を除いたかたちで叙述されることが多いが、テキストは佛教思想と儒教や道教など中国固有の思想との交流を機軸に中国思想を解明している。本科目はこのテキストを用いて漢代以降の思想史を通観する。
■学習の要点	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会状況との関連に留意し理解することにつとめるように。　漢代においては儒教を中心とした思想界の流れや、国家との関わりと経学の成立について理解を深めるように。六朝時代においては道教や佛教の興隆について、唐代においては仏教を中心に儒・仏・道三教相互の関連に留意して思想の流れを理解するように。宋代以降、儒教が復興するが、道教や仏教とも無関係ではなく、相互に影響しあって思想を形成していったことに留意して学習するように。清代の思想においては、考証学の発展を軸に考えるように。
■学習の到達目標	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会との関わりについて理解すること。　問題に対して、過不足なく記述することにつとめるように。思想内容や歴史的事実については誤りのないように気をつけること。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学			単位	4.0
担当者	大邑　潤三		シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	日本史概論				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	東洋史概論				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋史概論				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	史学史				単位	4.0
担当者	塚本　栄美子			シラバスグループ	TQ5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
歴史学ってなんだ？	小田中 直樹	PHP 研究所	[ISBN]9784569632698
岩波テキストブック　歴史学入門（新版）	福井　憲彦	岩波書店	[ISBN]9784000289214

■授業の概要	近代は、「歴史学」にとって、叙述を中心とする歴史から史資料に基づく科学的な学問へと転換を遂げたという点で、大きな画期であった。だが、その近代歴史学も、20 世紀初頭からフランスに始まる「アナール学派」により、新しい局面を迎えた。その流れは、政治史から社会経済史・社会構造史、心性史や日常史へと、歴史学の対象・手法・考察に変化と広がりをもたらした。そして現在、アナール学派によって歴史のものの見方にもたらされた影響を批判・再検討し、新しい歴史学を模索するときを迎えている。そこで、本科目では、こうした歴史学の流れを理解し、そのうえで、各々が個別のテーマに取り組む際に、自らの研究姿勢を常に見直す土台を築くことを大きな目的とする。そのために、上述のテキストにより、アナール学派とは何か、いかなる歴史学を目指そうとしたのかを理解し、その手がかりとなる史資料の捉え方、分析法などを習得する。結果として、本科目が各々にとって歴史研究に対する見識と考察を深める一助となることを期待する。
■学習の要点	(1) 歴史学とは何か、高校までで学んできた点とどこが異なるのかを理解し、考察すること。 (2) アナール学派が目指した歴史の捉え方が、以前のものとどう異なるのを理解すること。 (3) 歴史を考える際の時間や空間の捉え方について理解を深めること。 (4) そのために用いられる史資料の可能性に見聞を広め、それらの性質を正しく理解し、分析する方法についての見識を身につけること。 (5) 心性史、家族史（歴史人口学)、環境・気候・景観史、社会的結合、記憶や政治的表象の歴史など、アナール学派の登場以来発展してきた歴史分野に対する理解を深め、それらと政治史との関わりについても考察すること。 (6)(1)～(5)を土台に自らの歴史研究に対する姿勢について考察すること。
■学習の到達目標	出題の要点と意図を正しく理解し、それを論理的に記述していることが到達目標であり、評価基準である。また、明快な日本語で書かれていることも評価対象である。
■成績評価の基準	(1) テキストをきちんと理解し、学習の要点を正確につかまえているかを評価基準とする。 (2) その上で、テキストに対する批判や独自の考え・考察があれば加点する。 (3) (1)、(2)にも通じることであるが、リポート全体で論旨が明快であるか、論理的に執筆されているかどうか、も評価対象となる。 (4) 明快な日本語で書かれていることも評価対象である。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	古文書学				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古文書学入門〔新版〕	佐藤進一	法政大学出版局	[ISBN]9784588320118

■授業の概要	個人や組織・機関が命令や依頼、許可などを実施する際に発せられる文書（公文書、書状、書簡など）、いわゆる「古文書」は、宛先・差出の人物や組織の政治的・社会的な関係が反映されているだけでなく、その目的に即して一定の書式にしたがって記されることが多い。こうした書式は、人や組織が変化するに伴い変化するが、逆に文書の書式の変化に着目すれば、文書の発給・差出に関わる歴史的な事実を解き明かす手がかりとなる。本科目ではそうした「古文書学」に関する基礎的な知識の習得を目的とし、様式の具体的な内容、様式の変遷、その背景を検討することが学習の中心となる。　文書の様式についての理解を深め、それぞれの様式の用途について考えると共に、そうした様式がどのような背景で成立し、どのように変化していくのか、また後の様式とはどのような点で異なっているのか、その理由は何かといった点について学習する。
■学習の要点	古文書学の目的は、単なる文書様式の学習ではない。様式の背景にある時代的社会的な特徴と様式の関係を考えるのであるから、単に様式だけでなく、様式同士がどのような関係にあるのか、またその理由などについても考える必要がある。　実際の学習にあたっては、個々の様式を十分に理解した上で、様式成立の背景や前後の様式との関わりを意識しながら学習を進めてほしい。　・古文書とは何か。また古文書学研究と歴史学研究の関わりについて　・古文書における奉書と直状の特徴と違いについて　・中世の起請文の様式とその変遷について　・鎌倉時代の武家様文書の特色について　・次の古文書用語および様式について　　１：花押　２：右筆　３：院宣　４：奉書　５：外題安堵　・次の古文書用語および様式について　　１：綸旨　２：案文　３：女房奉書　４：端裏書　５：軍忠状
■学習の到達目標	用語に関する単なる理解ではなく、古文書学の基本的な考え方を理解するよう努めること。その上で以下の諸点について理解したい。１：古文書学の基本的な考え方が理解できている。２：古文書の基本的なターム（用語）について理解できている。３：古文書が社会関係や政治状況を反映していることを理解している。
■成績評価の基準	１：古文書学の目的や基本的な方法、考え方についての理解２：古文書学の基本的なターム（用語）についての理解３：文書様式についての理解

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	文化人類学			単位	4.0
担当者	鈴木　文子		シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	神話・伝承学概論				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	インド哲学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島　鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	前半は「ヴェーダの宗教と思想」として、仏教が誕生するまでの古代インド思想について、バラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を読解します。1 ヴェーダ文献 2『リグ・ヴェーダ』の神々3『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 4『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 5 ブラーフマナの祭儀と神話 6 ウパニシャッドの哲学思想　　a. シャーンディリヤ; b. 五火・二道説; c. ウッダーラカ; d. ヤージュニャヴァルキヤ後半は「六派哲学」と呼ばれるインド正統派の６つの哲学が成立したマウリヤ王朝からグプタ王朝に至る時代背景と思想史を概観します。1 サーンキヤ学派(精神と物質の二元論)2 ヨーガ学派(実践論)3 ニヤーヤ学派(論理学)4 ヴァイシェーシカ学派(カテゴリー論)5 ミーマーンサー学派(聖典解釈学)6 ヴェーダーンタ学派(不二一元論)
■学習の要点	以下のキーワードを理解し、レポートを作成して下さい。「ヴェーダの宗教と思想」1 四ヴェーダ, 四祭官, ヴェーダの四部門, ヴェーダの補助学; 2『リグ・ヴェーダ』, 自然神, 特定の神々, 宇宙創造に関わる神々; 3 哲学的讃歌, 謎の歌, 原人の歌, 宇宙開闢の歌;4『アタルヴァ・ヴェーダ』, 呪法讃歌, 人体の構造を讃うる歌, 支柱の歌; 5 ブラーフマナ, 創造神話, 念想と同置, 祭式の内面化; 6 ウパニシャッド, 輪廻と解脱, 梵我一如, 五火・二道説,「汝はそれなり」,「あらず・あらずのアートマン」「六派哲学」1 サーンキヤ, 二元論, 25 原理, 純粋精神; 2 八支ヨーガ, 総持, 禅定, 三昧; 3 ニヤーヤ, 論理学, 認識手段, 認識対象; 4 ヴァイシェーシカ, カテゴリー論, 原子論, 実体と性質; 5 ミーマーンサー, 新得力,文法学, スポータ説; 6 ヴェーダーンタ,不二一元論, シャンカラ
■学習の到達目標	学習の要点に示される用語の理解によって、1 バラモン教典の内容を簡潔に説明し、原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握出来ることを目指します。 2 主要なインド思想について、それぞれの内容を簡潔に説明し、中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握出来ることを目指します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断します。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学			単位	4.0
担当者	大邑　潤三		シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	教育原論				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題に取り組んでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。その他、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	生涯学習概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論	西岡正子編著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248756&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	生涯学習体系への移行が進む中、教育に関わる者としても、また一市民としても、生涯学習の基本を知らずして、学び働くことは不可能といえる。本科目において、生涯学習の基礎理念、基礎知識、国及び地域の実態及び実践の手法を学び、生涯学習社会を建設し、生涯学習時代を生きる力を付けていただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.ユネスコにおける生涯学習論の展開について　2.学校式教育の特色について　3.ハッチンスの学習社会論について　4.学社融合による展開について　5.人の成長に関する二つのモデルについて　6.学歴社会から学習社会への移行に関する機構改革について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。試験問題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	教育史				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本の教育文化史を学ぶ時代・生活・学校	山田恵吾 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623067404
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一著	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	歴史は、ともすれば過去の些末な事実の蓄積と思われがちです。ゆえに、初等中等教育では好き嫌いが大きく分かれる分野です。また、実践とは無縁ではあり得ない教育学においては、過去を振り返ることにどんな意味があるかと思われがちです。しかし、人間が何らかの挑戦を受け、それに応戦してきた記録である歴史は、意識するとしないのとにかかわらず、私たちの生活や思考の前提となっています。ゆえに、歴史を学ぶことは、私たちの現在を読み解き、未来を選択するための示唆を汲みだすために不可欠なのです。　ここでは、現代の日本の教育が明治期に西洋の教育を受容するなかで大きく変容してきた点を重視し、西洋の教育思想、その日本における受容、さらに第二次世界大戦後の展開について概観し、今日の教育問題の歴史的な背景を理解し、今後の教育の在り方について考えてもらいたいと考えます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。指定テキストにあげられている参考文献や引用文献にまで学びを広げられれば、素晴らしいです。最後に自分として理解した事実をどのように受けとめられるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の歴史において重要な事項や人物・思想について、背景にある時代状況、それらに関する具体的な歴史事実やその後への影響を、キーワードを踏まえて説明できる。２．現代の教育の特徴や問題点について、歴史事実を踏まえて考察できる。　３．歴史を中心に中学社会に関連する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、あなた自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育方法学				単位	4.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。（第 7 章）８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。（第 11 章） 12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。（第 12 章）

■学習の到達目標	児童・生徒に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	乳幼児期から青年期までの運動・認知・言語・社会性の領域についての特徴を把握し、子どもの発達過程が外的･内的要因の相互作用のうちに展開していくことを理解する。そして、こうした心理学の視点に基づく子ども理解が、具体的な保育･教育場面においてどのように活かされるのかを把握する。また、子どもの学習過程についての理論を踏まえたうえで、発達状況に応じた動機づけ・集団づくり・評価の在り方の工夫に見通しをもち、その働きかけにより主体的な活動を支える教師の役割について認識を深める。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。　【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育社会学				単位	4.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　１．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされてきているその学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　２．いじめ問題は 1980 年代より我が国の学校病理のひとつとして論じられ、現代においてもその対応が求められるものと言ってよいでしょう。いじめ防止対策推進法の制定を経ても、いじめを苦に命を落とす子どもたちは後を絶ちません。最近は子どもたちにも一般的となったネットツールを用いたいじめも増えてきました。テキストを参考に、どうすればいじめを抑止することができるのか、考えることが求められます。

■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に記述してください。

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育行政学				単位	4.0
担当者	大林　照明			シラバスグループ	TS0107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育行政学（第４版）子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎　編著	八千代出版	[ISBN]9784842918396

■授業の概要	法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか、それを考え、具体化していくのが教育行政の役割です。近年、教育行政・制度は大きく変化しています。本科目ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を、テキスト履修をとおして広く理解することを目指します。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について、リポート作成をとおして考察してもらいます。
■学習の要点	基本的には教科書の各章をまんべんなく学習してください。特につぎの要点、キーワードについては十分に学習するようにしてください。1.【第 1 章】教育基本法の変化（共同統治モデル・成果管理モデル）　※巻末の教育基本法全文は一度よく読むようにしてください。2.【第 2 章】戦後の教育政策形成の流れ（勅令主義から法律主義へ、官邸主導）3.【第 3 章】戦後教育行政（改革）における 3 つの原則、教育委員会法と地教行法、2015 年度からの教育委員会制度（特に変更点：教育長へ一本化、総合教育会議、大綱の策定など）4.【第 4 章】県費負担教職員（第 8 章にも説明あり）、義務教育費国庫負担金制度、総額裁量制 5.【第 5 章】 学習指導要領の法的拘束力、教科書採択の仕組み、広域採択制度、教科書の使用義務・無償給与 6.【第 6 章】私教育と公教育、学校体系（複線型・分岐型・単線型）、学校の設置者と種類（一条校など）、義務教育制度（就学義務、授業料の無償化、就学援助（第 11 章にも説明あり）、学校設置義務）、不登校の定義、脱落型不登校、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（第 9 章にも説明あり）7.【第 7 章】学校組織のしくみ（校務分掌、職員会議の法的位置づけ）、学校組織の特性（官僚制と疎結合）、コミュニティースクール（学校運営協議会の法的権限含む）8.【第 8 章】教職員の種類、新たな職階、服務義務、教職の困難、専門家との連携（テキストには記載がないが「チームとしての学校」についても自分で調べてみること）9.【第 11 章】 保育所と幼稚園の制度上の違い、幼保一元化と認定こども園、子どもの虐待とその対応
■学習の到達目標	①教育行政・制度の概要を理解する②教育行政・制度のあり方を見直す観点を持つ
■成績評価の基準	①教育行政・制度に関わるキーワードの正確な理解ができている（キーワードの説明はテキストからそのまま抜き書きするのではなく、論述問題への解答となるように、自分の言葉でまとめるようにしてください。）②キーワードの正確な理解に基づいて、既存の教育行政・制度についての自身の見解が、論理的に展開されている

授業科目	教育哲学				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
オンライン教育熟議オン・コメニウス	相馬伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771034402

■授業の概要	近代的な教育学を確立したとされるドイツの哲学者ヘルバルトは、教育学の目的は教育者に教育を見る眼をもたらすことだと言いました。しかし、それは簡単なことではありません。というのは、教育や学習は、どうしても国家の発展や個人の社会的成功といった目的を実現するための手段と見なされがちだからです。とくに、近代的な国民国家が成立した 18 世紀以降は、教育は国家との関係からとらえられてきました。この授業で、17 世紀チェコの思想家コメニウスをとりあげるのは、近代に向かいつつあった混沌とした時代に、教育を手段ではなく目的としてとらえ、そこから世界を見つめたのが彼だったからです。この科目では、哲学・教育・言語・政治・宗教にわたるコメニウスの思想を学習し、現在の世界を教育的な視点からとらえる方途を考えていきます。
■学習の要点	指定テキスト、とくに『オンライン教育熟議オン・コメニウス』を精読してください。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。そのうえで、教育の実際の場面や現代の教育動向と関連づけて考えてみましょう。
■学習の到達目標	1．コメニウスの思想を深く理解することをとおして、教育的な視点から世界の事象をとらえる思考様式について考えることができる。2．教育について広く深く考えることのできるリテラシーを高める。 3．世界史や倫理に関する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育方法学（中・高）				単位	4.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	生徒に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになるための基礎的な知識・技能を身に付ける。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育法規				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS0503	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ガイドブック教育法 新訂版	姉崎洋一ほか編	三省堂	[ISBN]9784385323138

■授業の概要	戦後わが国の教育法制は、教育勅語体制から憲法・教育基本法体制へと大きく転換した。その際、国民にとって教育を受けることが、義務から権利に変わった。つまり基本的人権の保障として教育がとらえられるようになったのである。ところが、2006 年末にその教育基本法が「改正」された。戦後教育法制の大転換とも言える。何がどう変わったのかしっかり学習したい。　総じて、教育法を学ぶことにより、教育を受ける権利を定めた憲法 26 条をはじめとした憲法における教育条項、及び新・旧教育基本法の各条項、学校教育法などについて検討し、今日の教育のあり方を考える一助としたい。
■学習の要点	・「教育を受ける権利」について及び、親あるいは教師の教育権等「教育をする権利」について・教育基本法について・教育内容、教育課程にかかわる法規定について・教師の懲戒権について・教師の労働基本権について・「開かれた学校づくり」について・学習指導要領について・全国学力調査について・教員の研修について
■学習の到達目標	①戦後の教育法制について理解する②教育法の理解をとおして、教育のあり方について自分なりに考えることができる
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。

授業科目	比較教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5405	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
比較教育学の基礎	田中圭治郎編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542657

■授業の概要	日本の教育問題を考える時、諸外国の教育を考察し、日本のそれとの比較の中から、さまざまな事実が浮かび上がってくる。欧米、アジアの教育とはどういうものかを理解する。
■学習の要点	まず最初に、各章、各節に何が書いてあるかを把握し、そして自分なりにまとめてみる。次にテキスト全体を通読し、このテキストは何を言おうとしているのかを理解し、最後に自分は、それらの記述に対してどのように思うのかという自分の見解が求められる。　アメリカ、中国、イギリス、インド、ドイツ、東南アジアの社会の特質を箇条書きでノートに書き出してみる。次に社会の特質と関連した学校現場での事例を取りあげて、社会の特質と学校教育が連動していることを示すようにする。最後に各国の社会と学校教育の関連した項目について、日本ではどうなっているかを比較して考えあわせるようにする。　1．アメリカの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　2．中国の社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　3．イギリスの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　4．インドの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　5．ドイツの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　6．東南アジアの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較
■学習の到達目標	（学習の到達目標）　テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。（成績評価の基準）　テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。（「答案」作成上の留意点）　出題の要点を正しく理解し、論理的に記述すること。記述量は過不足ない十分な量を求める。
■成績評価の基準	教科書の理解、適切な表現、論理的な文章に基づいて評価します

授業科目	宗教教育論				単位	4.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TS5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教的世界の教育論理 仏教と教育の接点	日本仏教教育学会編	法蔵館	[ISBN]9784831824431

■授業の概要	今日、教育の荒廃や青少年の精神的衰弱が指摘されている。戦後の教育が権利や自由は積極的に教えてきたが、責任や規範に対しては消極的となり、人間いかに生きるべきかを示してこなかった結果といってよい。今日、教育が叫ばれる所以もそこにあるであろう。しかしながら、宗教なき心の教育は小手先のこととならざるをえない。なぜなら、宗教は生き方の問題であり、「道徳は不可避的に宗教に至る」からである。それ故、宗教教育をタブー視する傾向が強いわが国の教育は問題である。人間形成にとって宗教教育は不可欠な根本問題なのである。
■学習の要点	１．宗教と人間　人間は相対有限な、欠けたる存在として不可避的に永遠や絶対を求める宗教的存在であることを理解する。２．宗教と共同体　人間が宗教的存在である以上その共同体も歴史的・社会的連関として宗教と無縁ではありえず、その置かれた場所によって慣習的に彩られているのであり、その共同体のなかに教育もあるのであるから、本来の教育は場所的に考えなければならないゆえに、硬直的に宗教を排除するような行為は教育を生気のない干からびたものとすることを理解する。３．学校と宗教　憲法・教育基本法などの規定にもあるように公立学校において政教分離の原則から認められないのは「特定の」宗派宗教教育であって、学校が人間形成の場所である以上、そもそも「宗教的なもの」と無縁であることはできず、学校や保育園は人間の宗教性を育てる場所であることを理解する。４．日本の宗教教育　日本の宗教教育は、伝統的には仏教が大きな役割を果たしてきた。そのことは近現代においても同じである。そのため日本の伝統文化も仏教を基層とするが、こうした日本文化の基層となる仏教の教育原理について理解する。
■学習の到達目標	テキストを十分に理解すること。そして宗教教育について独自の視点や深さを持つようにすること。
■成績評価の基準	いかによくテキストを理解し（50 点）、その上に関連する文献にどれだけあたっているか、自分の考えがどこまで出されているか、さらに具体性・論理性・表現力によって加点する。ただし学問的背景のない勝手な意見を主張することは認められない。根拠を挙げて展開することが大事である。

授業科目	生涯教育論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5409	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
成長と変容の生涯学習	西岡　正子	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623071616

■授業の概要	本科目においては、生涯学習の理念、基礎理論、国際的な動き、日本の動向、地域の実態を学ぶ。生涯学習体系への移行がどのように進められているか、自らの力で確認すると同時に、今後、生涯学習社会建設に何が求められているかを考究していただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。1．ユネスコの国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」および「ハンブルグ宣言」について 2．ポール・ラングランの生涯教育理念およびそれらが展開された際の日本の社会的背景について 3．高齢期の学習能力と学習機会について 4．ローマクラブの生涯学習論について 5．成人の学習における参加型学習の特徴と方法について 6．集合学習と個人学習について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。設題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	社会教育計画				単位	4.0
担当者	内山　淳子			シラバスグループ	TS5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会教育計画の基礎　新版	鈴木眞理ほか	学文社	[ISBN]9784762022722

■授業の概要	社会教育とは学校教育以外の組織的な教育活動をさし、生涯学習支援の中核に位置づくものである。社会教育は様々な学習課題に対応して組織される柔軟さを特徴としているため、地域課題などの社会的課題や個人の学習ニーズを教育実践にまで導く「社会教育計画」が必要になる。社会教育主事などの支援者として計画を立てる際には、生涯学習の理念や生涯学習体系への移行の状況、さらに社会教育、学校教育、家庭教育など広い分野に渡る基礎知識が求められる。また、その能力を付けるために、OJT による実践の中での切磋琢磨も重要である。この科目で社会教育計画に関する基礎知識を学ぶことによって、現在の教育に対する幅広い知識と深い洞察力を養うことが望まれる。
■学習の要点	テキストを精読する際、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.社会教育計画立案の法的根拠と学習者の自発性・主体性に関して　2.学社連携について　3.学習プログラムの策定主体と立案の原理について　4.社会教育計画の年間事業計画と学習プログラムの関係について　5.学習プログラムを立案する際の準備作業について　6.社会教育施設の事業と学習ニーズについて
■学習の到達目標	科目最終試験の準備としては、「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、テキスト各章末のキーワードに留意しながら学習を進める。試験答案も箇条書きは避け、具体例を考えると説明がしやすくなります。
■成績評価の基準	提出されたリポート・科目最終試験の内容を評価対象とし、設題を把握してテキストの理解が進んでいるか、その上で事例や自分の考えが述べられているかを評価します。

授業科目	視聴覚教育メディア論				単位	4.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS0517	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育メディアの開発と活用	日本教育工学会監修	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623063673

■授業の概要	学習者を中心においた教育はコミュニケーションであり、教育の歴史は、コミュニケーションの歴史でもあるといえる。学習の内容としては、・　教育メディアとコミュニケーションの関係、教育メディアの教育的意義や役割について概観する。・　各種メディアの特性と利用方法、教育メディア利用の効果等の関係について理解を深める。
■学習の要点	テキストを理解するために、以下の６つの視点でまとめていくこと。1　教育メディアの 2 つの定義を踏まえて、生涯教育の観点から、遠隔教育に注目し、教育メディアの意義についてまとめる（pp.23-27,80-84)。2　教育メディアの特徴と学習形態の志向について、3 つの時代区分（1）～1970 年代、(2) 1980～1990 年代、(3) 2000 年代～ごとにまとめる。ヒント：p.29「表 1-7 時代区分ごとの主な教育メディアと学習形態などの変遷」をもとに、pp.27-30、pp.39-40、pp.45-47 を読み取ると整理しやすい。3　学習者を中心においた教育では、教育メディアはどのような位置づけでかかわるか。教育メディアの 5 つの役割を中心にまとめる。ヒント：p.65「図 2-2 教育メディア 5 つの役割」をもとに、pp.57-64 を読み取ると整理しやすい。4　社会的構成主義の観点から、教育メディアの注目点、教育方法の特徴、教育メディアの役割についてまとめる。ヒント：p.93「表 2-4 教育メディアの背景理論」をもとに、pp.89-94 を読み取る。指定したページは、社会構成主義以外の主義も含む。しかし、全体を通して読むと、理解が深まる。5　教育メディア系の書籍で、なぜ、デールの「経験の円錐」が取り上げられるのか。デールの「経験の円錐」が教育メディアにどのような影響を与えたのか。教師の役割と関連してまとめる（p.6. p.57-59.)6　教育メディアの活用の普及にあたり、英国の例をとりあげ、どのような点が ICT 活用頻度にかかわったのかをまとめる。ヒント：4.1.2 実用化のための条件整備 pp.152-161. 特に p.158「図 4-2 英国における教育の情報化に関する施策」をもとに、指定された範囲の文章を読み取ると整理しやすい。
■学習の到達目標	学習の到達目標：上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。知識として、６つのポイントを体系化して欲しい。　　成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　「答案」作成上の留意点：書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。　**「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。
■成績評価の基準	問われている問題に適切に答えているか（20)、知識・理解ができているか（50)、文章の論理的な構成（10)、書式のスタイル・オリジナリティ（20）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、

	出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	臨床心理学				単位	4.0
担当者	武藤　奈奈			シラバスグループ	TS5423	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ライフサイクル（発達心理学の基礎；１）	平山諭ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623022786

■授業の概要	臨床心理学の学習は、人間の生きるありように関心を持つところから始まります。この科目では、乳児期から老年期までの心の発達と、各時期に起こりやすい心の問題について概観します。心の発達を学ぶことを通して、人が成長するとはどういうことか、成長過程でつまずくとはどういうことかについて理解を深めてもらいます。　この科目を通して、各自が辿ってきた道筋を振り返るとともに、人の生きるありようを見つめるまなざしが養われることを目指します。
■学習の要点	＜所定のテキストの活用法＞　１．各章ごとを再整理して、キーワードを十分に理解しておこう。　２．代表的な発達理論を押さえ、それらの理論間の違いを理解しよう。　３．心の発達が、身体面での発達と互いに絡み合って進んでいくさまを理解しよう。　４．現代社会が心の発達にどのような影響を及ぼしているかを考えてみよう。　５．人の心の発達を見るためのさまざまな研究法を整理し、それぞれの研究法が持つ利点と　　問題点を考えてみよう。　６．各章末にある参考文献も積極的に当たってみよう。
■学習の到達目標	「学習の要点」に記した＜所定のテキストの活用法＞を参考にしてください。また各章末の参考文献や以下の参考文献にも触れて理解を深めておくこと。テキストの理解をふまえた上で、自分なりの視点や考えが持てるようになることが目標です。
■成績評価の基準	問題で要求されている内容をほぼ満たしている場合（先行研究の理解が十分である）７０点以上、上記に加えて、適切な自分なりの考察が加えられている場合８０点以上その自分なりの考察が非常に優れている場合に９０点以上で評価する。内容を最低限満たしていると考えられる場合は６０点以上とし、それに満たない場合は６０点未満とする。

授業科目	児童心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5425	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
エピソードでつかむ児童心理学	伊藤亜矢子	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623058259

■授業の概要	人は一生涯にわたって、身体的・生理的だけでなく精神的・心理的に変化していくものである。本講では科目名称どおり内容を「児童期」に限定し、特に、子どもの「個性化と社会化」の過程に焦点を当てて学習を進める。子どもが健全に発達し自己の可能性を広げていくためには、親を始め仲間や教師など他者とのかかわりあいが欠かせない。この相互作用の過程を丁寧に読み解き、学習者それぞれの立場から子どもを支援していく態度を身につけることを目的とする。
■学習の要点	児童虐待・いじめ・学級崩壊など、今日マスコミを賑わしている教育的問題への処方箋を本講義に求めるのは筋違いである。教育実践に臨む前に、まずは問題を科学的・客観的な観点から把握する態度を身につけなくてはならない。幸いテキストには、各節で扱われているテーマに即した具体的なエピソード（事例）が掲載されている。これを手がかりとして、様々な立場に立って子どもを理解することを学んで頂きたい。　理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と日常生活場面での人の行動・心理とを結びつけて考えるよう努めてもらいたい。
■学習の到達目標	① 児童理解にあたっては、その行動結果ではなく過程に着目する。例えば、学習意欲や仲間とのかかわりは単純に把握できるものではなく、様々な要因が絡み合って立ち現れてくることの認識を深める。 ② 実際に子どもとかかわる際には、主体としての子どもの立場に立って環境（特に他者）の受け止め方を想定する。その理解に立って実践活動を行い、フィードバック（自分に対する評価）を得てかかわり方を修正していく必要性を理解する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	発達心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5427	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
発達心理学（現代心理学入門；２）	無藤隆ほか編	岩波書店	[ISBN]9784000039222

■授業の概要	ここでは生涯発達の観点から、人の一生涯にわたる心理的変化の過程を追う。人は誕生時にはゼロの状態で、成人した時点で完成をみるという見方には限界がある。人の成長・発達は生物学的・遺伝的要因や社会・文化的要因によって一方的に規定されているのでなく、それらを個人がいかに受け止め、どのように意味づけるのかによってその影響のしかたは変わる。また、子どもであれおとなであれ、その時々の発達課題に直面し克服しようとしていくことによって、次の発達の可能性が拓かれていく。　理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と日常生活場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストでは、乳児から老年に至るまでの重要なライフ・イベントに則して、個人内部で生じる心理的な年齢変化が説明されているとともに、現代社会における適応的な行動のあり方が示唆されている。学習者は、人間発達の過程を誕生から順にたどっていくのも良いし、まずは関心のあるライフ・イベントに焦点を当てて学習を進めていくのも良いだろう。発達心理学を学ぶことで、人間の成長・発達を促す発達課題に取り組むヒントを得てもらえば幸いである。
■学習の到達目標	本稿では以下のような発達観を得ることを到達目標とする。①　人の成長･発達の過程は、生物学的･遺伝的要因や社会･文化的要因のいずれか一方によって　規定されていくのではなく、両者の相互作用によって展開していく②　人が社会に適応していくためには、その時々に直面する発達課題を克服していかねばならない。　日々の活動経験をいかに受け止め、どのように意味づけるのかによって、次の発達の可能性が　左右される。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	青年心理学				単位	4.0
担当者	樫津　祥貴			シラバスグループ	TS5429	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
エピソードでつかむ青年心理学	大野久　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623057375

■授業の概要	生涯を通しての変化や成長を考える「生涯発達」という視点から「青年期」を位置づけ、その心理的発達の諸相を学びます。「青年期」は子どもから大人への移行期であり、身体的にも精神的にも著しい変化が見られます。人間関係においても、それまでの親子関係や友人関係とは随分変わってきます。変化と揺れのプロセスを経て、また様々な経験を通してアイデンティティを形成していくことが「青年期」の課題となります。自分の通ってきた道筋を振り返り、「青年期」の心理的特性を深く理解することを目指します。
■学習の要点	1.テキストを熟読し、整理しておこう。2. テキストだけではなく、青年期に関する参考文献も積極的にあたって学習しよう。3. エリクソンの漸成発達理論を理解しよう。特に青年期の主題についてはしっかりおさえておこう。4. 青年期の心理的特徴について、変わらないものと現代的特徴といえるものを整理しよう。5. 青年期の諸相が描かれている文芸作品（小説・漫画・映画など）を必ず一点は読んで、青年期という観点から自分なりに考え、理解を深めよう。（いくつかの作品は下記にあげています。テキストにも書いてあります。）6. 辿ってきた自分自身の体験を振り返り、自分なりの理解を試み深めよう。
■学習の到達目標	生涯発達という視点から青年期の心理的発達的特徴を学び、変化と揺れのプロセスを通して、アイデンティティを形成していくことを理解する。青年期の心について、深く考えることを期待する。
■成績評価の基準	・青年期の心理的発達的特徴がしっかりと理解でき、論理的に説明できていること。・青年期の心について、自分で深く考え、考察できていること。

授業科目	保育内容研究人間関係				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）･教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）･自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）･友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）･自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）･きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）･ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）･個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）･協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）･3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）･人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）･人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係･価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）･領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	音楽概論Ⅱ				単位	4.0
担当者	臼井　奈緒			シラバスグループ	TS0605	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑥ 初等音楽科教育	高見　仁志　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082025

■授業の概要	幼児は生来、歌うことや音を鳴らして遊ぶことに興味をもっており、保育現場でもさまざまな音楽活動が盛んに行われている。音楽に対する愛好心や豊かな感性を育む幼児期の音楽活動を支え、指導するためには、音楽の専門的知識や演奏技能の習得が必要とされる。　ここでは保育における音楽活動内容と指導法について概観する。また、音楽指導実践に必要な音楽理論の知識とその活用法について学ぶ。
■学習の要点	1.幼稚園教育要領第 2 章「表現」のねらい及び内容についての理解を深めること。2.主たる音楽活動である歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞の内容と、指導上のポイント・留意点を理解すること。3.音楽活動を担う指導者として必要な音楽理論の基礎（読譜力・コード奏法・移調等）を習得すること。4.楽曲の魅力や特徴を幼児・児童にしっかり伝えるための教材研究の重要性に気づき、指導実践に活かす方法を探求すること。
■学習の到達目標	音楽理論の基礎的知識を習得し、読譜力と想像力をもとに教材と真摯に向き合い、音楽活動をとおして幼児・児童の豊かな表現を促す指導方法の工夫ができるようになることを目指す。
■成績評価の基準	・題意を正しく理解した上で解答されていることが重要である。　・テキスト学習の成果を必ず反映させること。テキスト学習の成果が見られない場合は不合格とする。・箇条書きだけの場合も不合格とする。

授業科目	美術概論Ⅱ				単位	4.0
担当者	芦田　風馬			シラバスグループ	TS0607	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育内容表現（乳幼児教育・保育シリーズ ）	鈴木みゆき・吉永早苗・志民一成・島田由紀子 編著	光生館	[ISBN]9784332701880
幼稚園教育要領解説 平成30年3月	文部科学省著	フレーベル館	[ISBN]9784577814475

■授業の概要	「表現」領域の目的は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことである。それ故に、子どもたちには様々な経験が必要になり、保育者は日々の保育の中でいかに価値ある経験を積ませることができるかといった保育の質が求められているといえる。そのためには、子どもの生活経験と保育を結びつけてどう教材化していくか、保育を構想していく力が必要となる。この教科では、「表現」領域の基本的な理念の正しい理解と適切な実践力を身につけてもらいたい。
■学習の要点	「表現する楽しさを十分に味わわせる」ことに目的をおいた造形表現活動の設定を困難に考える保育者は多い。これは幼稚園教育の目的や領域「表現」の目的が何かの理解が不足していることに起因する。そして活動後の評価も、活動の充実が見られないとの評定をすることが多い。このような状況に陥らないようにするには幼稚園要領、保育所指針に示されている幼児教育（保育）の基本を十分に理解することが望まれる。そして造形表現活動の特性について把握することである。　〈要点〉　(1) 幼児の造形的遊びの教育的意味についてまとめておくこと　(2) 幼児期の造形表現の指導のありかたについてまとめておくこと (3) 幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらいと内容についてまとめておくこと (4) 幼児の造形表現活動の充実のために必要と思われる保育のありかたについてまとめておくこと
■学習の到達目標	「表現」領域の基本的な理念の正しい理解と適切な実践力を身につけることができる。
■成績評価の基準	科目最終試験で評価する

授業科目	体育概論Ⅱ				単位	4.0
担当者	青木　好子			シラバスグループ	TS0609	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・健康	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修　國土 将平・上田 恵子 編集	株式会社みらい	[ISBN]9784860155285

■授業の概要	領域「健康」は、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うことが目標となる。そのため領域「健康」内容は、心身の健康、体を動かす遊びや運動、食生活、衛生･清潔の習慣、生活習慣、疾病の予防、安全管理、けがや事故の防止など多岐にわたる。それらは豊かな生涯の基盤となる。子ども達の発達に応じて十分に体を動かし楽しく遊ぶことの意義を踏まえ、現代の子どもたちの身体や心の健康に関する課題やその対策について考察し保育現場での環境設定や援助について理解を深める。
■学習の要点	１．領域「健康」のねらいと内容を理解し、基本的な知識や技能について考察し理解を深める。２．幼児期の子どもを取り巻く現状と課題を理解するとともに、子どもが自ら健康で安全な生活をつくり出すために必要な環境構成や援助について具体的に考察し、保育現場での実践において重要なポイントを整理する。３．幼児期の運動の意義を理解し、発育発達に適した楽しい遊びを展開するための環境構成、援助について考察し様々な動きを獲得するための運動遊びのポイントについて整理する。
■学習の到達目標	領域「健康」のねらいや内容について理解し、説明ができる。領域「健康」のねらいを踏まえ内容を実践するにあたって保育現場での環境構成や援助のあり方のイメージをもつことができ、その実践や根拠について具体的な説明ができる。
■成績評価の基準	領域「健康」のねらいや内容を踏まえて、要点を示すキーワードを用いて記述されている。課題の意図を理解し、自身で具体的に考察した内容も含め整理して論理的に記述されている。

授業科目	国語科概論				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国語科内容論×国語科指導法	辻村敬三	東洋館出版	[ISBN]9784491036618
書写指導のてびき小学校学習指導要領解説〈平成2	達富洋二文部科学省編著	佛教大学東洋館出版社	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248751&refHpStenCode=68038}[ISBN]9784491034621

9年告示〉国語編			

■授業の概要	「ことば」の教育は、学校（園）生活・家庭生活など全ての言語生活場面において行われています。この日々の言語生活の中で育まれる子どもたちの「ことば」を基盤とし、それらを体系的・計画的に向上させることが国語科教育の使命です。国語科指導の難しさとして「学習の目標があいまいになりやすい」ということが挙げられます。例えば、他教科で言えば「この単元では繰り上がりのある足し算ができるようになるのだな」「この単元ではものの溶け方について理解するのだな」とその学びがある程度明瞭にイメージしやすいのに対して、国語科においては「このスイミーという教材を用いてどのような資質能力をそだてるのか」「新聞をつくるという活動を通してどのような資質能力を育てるのか」がイメージしにくいことがあるのです。この授業で具体的にどのような資質能力を育てるのかをはっきりもつことは、良い授業をする上で非常に重要です。そしてそのためには、それぞれの学年に示された指導事項の内容を適切に理解しておくことは必要不可欠です。この科目では、それぞれの領域において、どのような資質能力の育成が示されているのかについて学びます。
■学習の要点	1）テキストを熟読し、小学校の国語科教育の目的・内容について確実に理解しましょう。2）テキストを熟読し、国語科教育におけるそれぞれの領域や事項の内容や指導について整理しましょう。3）テキストを熟読し、「言語活動」や「主体的・対話的で深い学び」など、これからの国語科教育に関連する重要なトピックについて理解を深めましょう。4）書写の実技学習については２つの意味があります。1 つ目は児童に指導する教材としての理解を深めること、2 つ目は本作品の作成を通して教師として求められる書字技能を向上させることです。教師にはさまざまな場面で、整った文字を書く能力が求められます。特に文字の習得期にある子どもたちにとって、教師の文字は日常もっとも日常的に目にするモデルとなります。どちらの点も重要ですのでしっかりと意識して練習を重ねてください。

■学習の到達目標	小学校国語科の全体像とそれぞれの内容について理解し、説明することができる。

■成績評価の基準	テキストの内容を適切に理解できているか（40%）具体的な教材の特徴を理解し、その指導の方向性について論じられているか（40%）テキストの内容のみにとどまらず、自身の考えや経験を踏まえて論じられているか（20%）

授業科目	国語科教育法				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編① 初等国語科教育	井上　雅彦 ・青砥　弘幸 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081974
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編	文部科学省　著	東洋館出版社	[ISBN]9784491034621

■授業の概要	本授業では国語授業者として求められる基本的な知識、技能を身に付ける。平成29年度版学習指導要領の内容を中心に国語科の目標･内容･方法について理解を深めていくと同時に、具体的な学習者を想定しながら、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	次の点を到達目標に学習を進めましょう。１）小学校国語科教育の意義、学習指導要領（平成29年度版）の構造と内容について理解する。２）国語科の各分野・領域における目標・内容･評価の観点について理解する。３）国語科における児童の学習の実際や特性を理解し、その実態や学習状況に応じた指導の工夫（言語活動の工夫、ICTの活用、評価の工夫など）を指導に活かすことができるようにする。４）対象とする児童の実態や学習状況・教材の特性・指導要領の内容などを併せて、目的に応じた適切な教育活動、授業を構想し、学習指導案を作成することができるようにする。
■学習の到達目標	実際にテキストや指導要領の内容を踏まえた授業を構想することができる。
■成績評価の基準	最終試験については以下の3観点から総合的に判断します。1．テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか。（40%）２．教材の特徴を踏まえ、適切に授業構想することができているか。（40%）３．学んだことを踏まえて、自分なりに工夫した授業構想をすることができているか。（20%）なお、指定されたテキストや指導要領領解説以外の資料からの転記が疑われるものについては、その時点で0点とします。

授業科目	社会科教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教科教育編② 初等社会科教育	中西仁・小林隆著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081981

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、社会科授業実践のあり方を具体的に学習する。テキストでは、社会科の成立と変遷から平成 29 年版学習指導要領の性格を述べ、その性格に基づいた授業づくりのあり方と各学年の具体的な授業を掲載している。さらに、授業づくりや授業実施にあたっての留意点を解説している。
■学習の要点	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解すること。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できるようにすること。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できるようにすること。
■学習の到達目標	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解できている。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できる。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。

授業科目	算数科教育法				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5533	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編③算数科教育	原　清治　監修他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081998

■授業の概要	算数教育に対する数学的背景・理論・指導法等の理解及び，それらを活かした教材研究を行えるようになるための基礎的知識と基本的技能及びその考え方について考察する。
■学習の要点	算数科の目標について要点を把握する必要がある。また評価については，評価の時期（3 つの評価）と行為動詞の活用について理解しておく必要がある。さらに，各領域とプログラミング的思考について，今日的課題と指導の在り方について理解しておく必要がある。テキストに基づいて学習を進めること。
■学習の到達目標	１．算数の目標，評価及び各領域の今日的課題とその指導法について説明できる。２．児童の発達段階や実態に応じた授業構成の基本的な考え方を理解し，それを授業設計に活かすことができる。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	生活科教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑤ 生活科教育	鎌倉　博 船越　勝 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082018

■授業の概要	新学習指導要領における生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次の通り育成することを目指す。」である。指導上の留意点は、以下 3 点である。①具体的な活動や体験を通すこと。②身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと。③自立し生活を豊かにしていくこと。 生活科は児童の発達段階を鑑み、平成元年版の登場以降この 3 点を教科目標の根底に据えている。本科目では、生活科の本質と新学習指導要領における生活科の新たな方向性について学習し、生活科の学習指導案を立案し、模擬授業をできる力を育成する。なお、担当は小学校で 36 年間教職生活を送ってきた者である。生活科の授業に即して指導を行う。
■学習の要点	1．新学習指導要領の方向性をもとに、生活科授業実施の留意点について考察すること。2．生活科の「教科目標」等の分析から、生活科の本質について考察すること。3．生活科の「各学年の目標及び内容」に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を考察すること。4．生活科の「指導計画の作成と内容の取扱い」に基づいて、2 年間を見通した年間指導計画作成と単元計画作成のポイントについて理解し、「主体的・対話的で深い学びの実現」を実現する指導のあり方を考察すること。5．テキスト等に基づいて、生活科授業の実際について考察すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、次の通りである。1.新学習指導要領における生活科の教科目標に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を述べることができる。2.問題は、テキストに即して出題する。3.「答案」の記述は、必ず自分で章立てや段落をもうけて、分かりやすく記述する。
■成績評価の基準	科目最終試験によって評価する（100 点満点）。60 点未満のものは不合格とする。

授業科目	家庭科教育法				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑧初等家庭科教育	三沢徳枝、勝田映子他著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082049

■授業の概要	家庭科を学ぶ意義を理解し、小学校学習指導要領の家庭科における目標及び内容を把握する。さらに家庭科の背景となる家政学等との関係や家庭科を指導する知識と技術について学び、中学校の技術・家庭科の内容と双方向の見通しを持って、小学校家庭科の指導者として授業場面を想定した授業を構成し指導案を作成し評価する実践力を養う。なお、模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえて、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net を通して送付されたものを指導する。
■学習の要点	1.小学校家庭科教育の意義と役割を理解する。 2.家庭科で育てる資質能力とバランスの取れた指導方法や評価の方法、授業構成について理解し実践で活用できるようにする。3.家庭生活に関わりのある人、モノ、環境と関連づけて児童の学習活動の内容を考えられるようになる。4.児童が基本的・基礎的な知識及び技能を活用し身近な生活課題を発見し、解決方法を導き、家庭や地域で実践できるように、指導内容や指導方法を工夫・改善できるようになる。
■学習の到達目標	1.小学校家庭科の教科の特性を理解し、社会の変化と実践研究の動向を踏まえて、児童の生活を視野に入れた授業設計ができる。2.指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して、学習指導案を作成できる。3.授業改善の視点をもち、情報機器や教具を効果的に活用できる。
■成績評価の基準	試験では、問題の主旨を理解し、これまで学んだことを論理的に説明できているかを評価する。児童の生活をイメージし、家庭科の教科の特性や指導方法、評価について理解し、ICT や教具の効果的な活用を考えて授業設計ができることを基準とする。文献資料をそのまま転記したり、不適切あるいは不明瞭な箇所がある場合は合格点に満たないものとする。

授業科目	日本史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	代数学概論				単位	4.0
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	TS5561	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
線型代数学入門	丹後弘司著	佛教大学	[ISBN]9784907177553

■授業の概要	比例，1 次関数，連立 1 次方程式などの話題を発展/拡張させたところにある線型代数学について，その基礎を学んでいきます．ベクトルの概念を理解し，行列の関わりについて学びます．また，直線や平面などの高等学校でも学んだ幾何学的対象について，線型代数学の観点から議論していきます．また，行列演算に習熟し，連立 1 次方程式の理解を深めていきます．行列式とその性質を理解し，その幾何学的な応用についてまで理解を広げていきます．線型代数学の核心部分である，線型独立/従属，基底や次元の概念を習得します．線型空間の間の写像を学び，行列そのものの理解を深めていきます．行列の固有値，固有空間を学び，さらに，その様々な応用について議論を展開していきます．
■学習の要点	筆記用具を必ず傍らに置いてテキストや参考文献などを読み進めてください．頭で理解している事を実際に紙の上に起こしてみる作業は重要です．また，定理等の証明の勘どころをつかみながら，数学的思考を育んでもらいたいと思います．さらに，問などを手を動かして具体的に解き確実な計算力を養う事も本学習の重要課題の一つです．
■学習の到達目標	・ ベクトル，行列の概念が理解でき，それらの代数的な計算が的確にできる．・ 直線，平面などの幾何学的対象を線型代数学の言葉で理解できる．・ 連立 1 次方程式を行列の性質を運用しながら解くことができる．・ 行列式の性質を理解し，その代数的な評価や，幾何学的な応用が理解できる．　・ 線型空間，線型写像について理解できる．・ 線型独立/従属，基底や次元の概念が理解でき，それらを様々な場面で運用できる．・ 行列の対角化，固有値，固有空間が理解できる．・ 定理の証明等を通じて，数学的な思考力を獲得する．
■成績評価の基準	学習の到達目標が達成されているかについて評価します．

授業科目	幾何学概論				単位	4.0
担当者	堀内　遼・田嶌　優			シラバスグループ	TS5566	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
理工基礎 演習 集合と位相	鈴木晋一	サイエンス社	[ISBN]9784781910918

■授業の概要	幾何学分野を学ぶために必要な集合・写像・論理についてから学習を始めます。集合や写像は重要な役割を果たしていますが、高校までの数学では詳しくは学んでいない事項が多くあります。高校までのような初等的なユークリッド幾何を学習するのではなく、位相空間の入門となる距離空間までを学習範囲とします。
■学習の要点	高校までで知っているつもりの数学用語でも今一度しっかり定義を確認しましょう。テキストをただ眺めるのではなく、自分で例を考えながら読み進めましょう。テキストは位相空間にも言及していますが、この科目では第 4 章の距離空間までを必読範囲とします。
■学習の到達目標	学習の到達目標・論理記号を用いて証明ができる。・ユークリッド空間内の開集合・閉集合・内部・外部・境界を理解する。・簡単な距離空間の例を理解する。
■成績評価の基準	・リポートについて。第 1 第 2 設題ともに、考え方の記述・数学記号の用い方も含め、全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。・最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	解析学概論				単位	4.0
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	TS5571	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
追補版　解析学のための微分積分入門	長田尚・剣持信幸	佛教大学	[ISBN]9784907177317

■授業の概要	「１変数関数の微分積分」について学習を行います．微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では１変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．学習内容としては高校数学における「数Ⅱ」と「数Ⅲ」の延長にあたり，高校数学の内容を新たな観点から再定義することから始め，最終的にはテイラー展開や広義積分といった，より高度な概念の学習を目指します．
■学習の要点	テキストをただ眺めるのではなく，登場する定理などの証明を頭で理解しながら読み進めてください．テキストにある問や練習問題を解くことで計算力を養い，理解を深めてください．問題に取り組むときは答えだけでなく，途中計算や文章による説明を必ず書いてください．テキストの後半では２変数関数の微分積分についても書かれていますが，この科目では第４章までを必読範囲とします．
■学習の到達目標	・数列・関数の極限について理解し，計算することができる．・初等関数に関する基本的な計算ができる．・１変数関数の微分について理解し，その応用ができる．・１変数関数の積分について理解し，その応用ができる．
■成績評価の基準	リポート：第 1 設題と第 2 設題ともに，全ての問において概ね正答であることを受理の基準とする．最終試験：論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし，60 点以上を合格とする．

授業科目	確率論				単位	4.0
担当者	堀内　遼・藤木　美江			シラバスグループ	TS5576	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
明解演習　数理統計	小寺 平治	共立出版	[ISBN]9784320013810

■授業の概要	本講義では，統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び確率モデルの基礎知識，また、推測統計の基礎知識の習得を目的とする．具体的に，記述統計で必要となるデータやグラフの読み方，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計で用いられる確率，確率変数などの定義と，その性質を示し，推測統計の方法である推定と検定の考え方とその使用方法について学ぶ.
■学習の要点	テキストは演習に重きを置いているので、定義や考え方に疑問がある場合には参考文献を参照してください。数学用語や記号は本によって定義が違うことがありますので、複数の文献に当たる場合は必ず最初に定義を確認しましょう。
■学習の到達目標	学習の到達目標・確率論の数学的な基礎が理解できること。・統計学の基本概念が理解できること。　・代表的な確率分布を知る。・推定・検定を行える。
■成績評価の基準	・リポートについて。第 1 第 2 設題ともに、考え方の記述・数学記号の用い方も含め全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。・最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	初等国語教育法				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編① 初等国語科教育	井上　雅彦 ・青砥　弘幸 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081974
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編	文部科学省　著	東洋館出版社	[ISBN]9784491034621

■授業の概要	本授業では国語授業者として求められる基本的な知識、技能を身に付ける。平成29年度版学習指導要領の内容を中心に国語科の目標･内容･方法について理解を深めていくと同時に、具体的な学習者を想定しながら、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	次の点を到達目標に学習を進めましょう。１）小学校国語科教育の意義、学習指導要領（平成29年度版）の構造と内容について理解する。２）国語科の各分野・領域における目標・内容･評価の観点について理解する。３）国語科における児童の学習の実際や特性を理解し、その実態や学習状況に応じた指導の工夫（言語活動の工夫、ICTの活用、評価の工夫など）を指導に活かすことができるようにする。４）対象とする児童の実態や学習状況・教材の特性・指導要領の内容などを併せて、目的に応じた適切な教育活動、授業を構想し、学習指導案を作成することができるようにする。
■学習の到達目標	実際にテキストや指導要領の内容を踏まえた授業を構想することができる。
■成績評価の基準	最終試験については以下の3観点から総合的に判断します。1．テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか。（40%）２．教材の特徴を踏まえ、適切に授業構想することができているか。（40%）３．学んだことを踏まえて、自分なりに工夫した授業構想をすることができているか。（20%）なお、指定されたテキストや指導要領領解説以外の資料からの転記が疑われるものについては、その時点で0点とします。

授業科目	初等社会教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教科教育編② 初等社会科教育	中西仁・小林隆著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081981

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、社会科授業実践のあり方を具体的に学習する。テキストでは、社会科の成立と変遷から平成 29 年版学習指導要領の性格を述べ、その性格に基づいた授業づくりのあり方と各学年の具体的な授業を掲載している。さらに、授業づくりや授業実施にあたっての留意点を解説している。
■学習の要点	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解すること。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できるようにすること。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できるようにすること。
■学習の到達目標	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解できている。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できる。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。

授業科目	初等算数教育法				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5533	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編③算数科教育	原　清治　監修他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081998

■授業の概要	算数教育に対する数学的背景・理論・指導法等の理解及び，それらを活かした教材研究を行えるようになるための基礎的知識と基本的技能及びその考え方について考察する。

■学習の要点	算数科の目標について要点を把握する必要がある。また評価については，評価の時期（3 つの評価）と行為動詞の活用について理解しておく必要がある。さらに，各領域とプログラミング的思考について，今日的課題と指導の在り方について理解しておく必要がある。テキストに基づいて学習を進めること。

■学習の到達目標	１．算数の目標，評価及び各領域の今日的課題とその指導法について説明できる。２．児童の発達段階や実態に応じた授業構成の基本的な考え方を理解し，それを授業設計に活かすことができる。

■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	初等生活教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑤ 生活科教育	鎌倉　博 船越　勝 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082018

■授業の概要	新学習指導要領における生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次の通り育成することを目指す。」である。指導上の留意点は、以下 3 点である。①具体的な活動や体験を通すこと。②身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと。③自立し生活を豊かにしていくこと。 生活科は児童の発達段階を鑑み、平成元年版の登場以降この 3 点を教科目標の根底に据えている。本科目では、生活科の本質と新学習指導要領における生活科の新たな方向性について学習し、生活科の学習指導案を立案し、模擬授業をできる力を育成する。なお、担当は小学校で 36 年間教職生活を送ってきた者である。生活科の授業に即して指導を行う。
■学習の要点	1．新学習指導要領の方向性をもとに、生活科授業実施の留意点について考察すること。2．生活科の「教科目標」等の分析から、生活科の本質について考察すること。3．生活科の「各学年の目標及び内容」に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を考察すること。4．生活科の「指導計画の作成と内容の取扱い」に基づいて、2 年間を見通した年間指導計画作成と単元計画作成のポイントについて理解し、「主体的・対話的で深い学びの実現」を実現する指導のあり方を考察すること。5．テキスト等に基づいて、生活科授業の実際について考察すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、次の通りである。1.新学習指導要領における生活科の教科目標に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を述べることができる。2.問題は、テキストに即して出題する。3.「答案」の記述は、必ず自分で章立てや段落をもうけて、分かりやすく記述する。
■成績評価の基準	科目最終試験によって評価する（100 点満点）。60 点未満のものは不合格とする。

授業科目	初等家庭教育法				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑧初等家庭科教育	三沢徳枝、勝田映子他著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082049

■授業の概要	家庭科を学ぶ意義を理解し、小学校学習指導要領の家庭科における目標及び内容を把握する。さらに家庭科の背景となる家政学等との関係や家庭科を指導する知識と技術について学び、中学校の技術・家庭科の内容と双方向の見通しを持って、小学校家庭科の指導者として授業場面を想定した授業を構成し指導案を作成し評価する実践力を養う。なお、模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえて、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net を通して送付されたものを指導する。
■学習の要点	1.小学校家庭科教育の意義と役割を理解する。 2.家庭科で育てる資質能力とバランスの取れた指導方法や評価の方法、授業構成について理解し実践で活用できるようにする。3.家庭生活に関わりのある人、モノ、環境と関連づけて児童の学習活動の内容を考えられるようになる。4.児童が基本的・基礎的な知識及び技能を活用し身近な生活課題を発見し、解決方法を導き、家庭や地域で実践できるように、指導内容や指導方法を工夫・改善できるようになる。
■学習の到達目標	1.小学校家庭科の教科の特性を理解し、社会の変化と実践研究の動向を踏まえて、児童の生活を視野に入れた授業設計ができる。2.指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して、学習指導案を作成できる。3.授業改善の視点をもち、情報機器や教具を効果的に活用できる。
■成績評価の基準	試験では、問題の主旨を理解し、これまで学んだことを論理的に説明できているかを評価する。児童の生活をイメージし、家庭科の教科の特性や指導方法、評価について理解し、ICT や教具の効果的な活用を考えて授業設計ができることを基準とする。文献資料をそのまま転記したり、不適切あるいは不明瞭な箇所がある場合は合格点に満たないものとする。

授業科目	初等教育内容国語				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国語科内容論×国語科指導法	辻村敬三	東洋館出版	[ISBN]9784491036618
書写指導のてびき小学校学習指導要領解説〈平成2	達富洋二文部科学省編著	佛教大学東洋館出版社	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248751&refHpStenCode=68038}[ISBN]9784491034621

9年告示〉国語編			

■授業の概要	「ことば」の教育は、学校（園）生活・家庭生活など全ての言語生活場面において行われています。この日々の言語生活の中で育まれる子どもたちの「ことば」を基盤とし、それらを体系的・計画的に向上させることが国語科教育の使命です。国語科指導の難しさとして「学習の目標があいまいになりやすい」ということが挙げられます。例えば、他教科で言えば「この単元では繰り上がりのある足し算ができるようになるのだな」「この単元ではものの溶け方について理解するのだな」とその学びがある程度明瞭にイメージしやすいのに対して、国語科においては「このスイミーという教材を用いてどのような資質能力をそだてるのか」「新聞をつくるという活動を通してどのような資質能力を育てるのか」がイメージしにくいことがあるのです。この授業で具体的にどのような資質能力を育てるのかをはっきりもつことは、良い授業をする上で非常に重要です。そしてそのためには、それぞれの学年に示された指導事項の内容を適切に理解しておくことは必要不可欠です。この科目では、それぞれの領域において、どのような資質能力の育成が示されているのかについて学びます。
■学習の要点	1）テキストを熟読し、小学校の国語科教育の目的・内容について確実に理解しましょう。2）テキストを熟読し、国語科教育におけるそれぞれの領域や事項の内容や指導について整理しましょう。3）テキストを熟読し、「言語活動」や「主体的・対話的で深い学び」など、これからの国語科教育に関連する重要なトピックについて理解を深めましょう。4）書写の実技学習については２つの意味があります。1 つ目は児童に指導する教材としての理解を深めること、2 つ目は本作品の作成を通して教師として求められる書字技能を向上させることです。教師にはさまざまな場面で、整った文字を書く能力が求められます。特に文字の習得期にある子どもたちにとって、教師の文字は日常もっとも日常的に目にするモデルとなります。どちらの点も重要ですのでしっかりと意識して練習を重ねてください。

■学習の到達目標	小学校国語科の全体像とそれぞれの内容について理解し、説明することができる。

■成績評価の基準	テキストの内容を適切に理解できているか（40%）具体的な教材の特徴を理解し、その指導の方向性について論じられているか（40%）テキストの内容のみにとどまらず、自身の考えや経験を踏まえて論じられているか（20%）

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）･教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）･自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）･友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）･自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）･きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）･ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）･個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）･協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）･3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）･人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）･人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係･価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）･領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	教科教育法社会１				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。２．学習指導要領「第１ 目標」のポイントについて理解を深める。３．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	教科教育法数学１				単位	4.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中等数学科教育の理論と実践	二澤　善紀 編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623094080

■授業の概要	中学校・高等学校における生徒の学力が課題となっており，生徒の実態に応じた授業運営ができる資質が教員に求められている。そこで，数学教育の課題を明らかにし，授業研究のあり方について考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し，数学教育で生徒に身につけさせたい能力とは何かを理解し，各領域内容の特性を把握した上で学習指導案を作成する重要となる。また，生徒の学習欲を喚起するような授業の導入が重要である。テキストの各章末に示した参考文献等を活用して，更に深く理解することが望ましい。
■学習の到達目標	問題はテキストの内容に即して出題をするので，要点をまとめて記述できるようにしておくこと。また，その他の文献から問題に関連する内容について触れても良いが，それが大半を占めるような記述とならないように注意すること。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	中等教科教育法社会				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。２．学習指導要領「第１ 目標」のポイントについて理解を深める。３．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法数学				単位	4.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中等数学科教育の理論と実践	二澤　善紀 編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623094080

■授業の概要	中学校・高等学校における生徒の学力が課題となっており，生徒の実態に応じた授業運営ができる資質が教員に求められている。そこで，数学教育の課題を明らかにし，授業研究のあり方について考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し，数学教育で生徒に身につけさせたい能力とは何かを理解し，各領域内容の特性を把握した上で学習指導案を作成する重要となる。また，生徒の学習欲を喚起するような授業の導入が重要である。テキストの各章末に示した参考文献等を活用して，更に深く理解することが望ましい。
■学習の到達目標	問題はテキストの内容に即して出題をするので，要点をまとめて記述できるようにしておくこと。また，その他の文献から問題に関連する内容について触れても良いが，それが大半を占めるような記述とならないように注意すること。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	特別支援教育概論				単位	4.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5672	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑤　特別支援教育	原　幸一・堀家　由妃代編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081882

■授業の概要	この科目では、障害のある子どもに対する教育の変遷と現状を知るとともに、障害のある子どもに対する教育理念や今日的課題についても学ぶことを目的とする。　特に平成 19 年度に特殊教育から特別支援教育へと法制度が変わり、さらに平成 24 年からはインクルーシブ教育が目指されるようになったが、その背景には、障害のある児童生徒の教育をめぐる諸情勢にどのような変化があったのかを理解し、特別支援教育に移行した意義を学ぶ。さらに構築された理念の実現に向けての特別支援教育の在り方や基本的な考え方についても学習していくものである。
■学習の要点	学習するにあたっては、指定テキストを熟読し、障害児教育の歴史的変遷や新たに特別支援教育の対象となった障害のある児童生徒を含めて、対象児に対して用意される学びの場や学びの内容などの特別支援教育に関する基本的な知識について、下記の５点を主に理解をすることを念頭に置くとよい。①特殊教育から特別支援教育、そしてインクルーシブ教育へのパラダイムシフトとその意義について②障害児の発達特性･障害特性と教育方法について③特別支援教育における教育課程について④ノーマライゼーションやインクルーシブ教育の理念について⑤特別支援教育を担当する教師の専門性について
■学習の到達目標	科目最終試験の出題の意図から外れないように、注意すること。学習の要点に書かれた内容を参考にして、テキストを中心に学んだ内容を記述すること。　評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。
■成績評価の基準	科目最終試験において設題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。設題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	職業教育及び職業指導				単位	4.0
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	TS5748	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる生徒指導・キャリア教育	小泉令三編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623056156

■授業の概要	近年の日本社会は、高等教育機関（大学・専門学校等も含む）への進学率が高い。この教育期間の延長によって、「職業に従事して社会的に自立するのは遠い先のことである」と考える若者を増加させる傾向にある。また、産業構造の変化や雇用形態の多様化などを背景として将来への不透明さが増加する傾向にあり、そのことが「ニート」を助長している面もある。本科目は職業の問題は人々の「在り方・生き方」と大きく関わっているという視点から、「職業教育及び職業指導」について、基礎理論及びその実務について学校教育及び社会教育の両視点から解説し、人間が「生きる力」を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるように導くキャリア教育である。
■学習の要点	「キャリア教育」の展開について理解し、職業の問題について、人の「在り方、生き方」の視点で学習していただきたい。また、具体的に理解しておくべき内容を以下に挙げる。１．職業の語義と三要素について理解する。２．職業指導の意味を理解する。３．職業適性検査の実施上の留意点を学習する。４．職業選択の中で、特性・因子理論、構造（精神分析）理論、職業的発達理論の内容を理解する。５．進路選択における現代社会の課題を考察する。
■学習の到達目標	１．学校での職業教育について、職業選択の基本となる理論を学ぶ。２．学校での職業教育について、その実務を理解する。
■成績評価の基準	１．リポートは、定められた字数を有効に活用すること。テキストの丸写しや字数不足は、不合格とする。職業の課題に関わる基本的事項を理解しているか、日本社会の産業構造の変化を捉えることができいるかを点検する。２．学校での職業指導について、そのどれだけ理解しているかを点検する。また、リポートの論の展開が明確であるかどうかが成績評価のポイントとなる。

授業科目	保育原理				単位	4.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW0725	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
保育原理　第 3 版（最新保育講座 1）	森上史朗･小林紀子･若月芳浩　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073511

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上で、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性・自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	・保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。・テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。・採点は加点方式とする。・問題に合致しない答案は不合格とする。・問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。・解答が論理的に展開されていること（20 点）。・自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	小児保健				単位	4.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW0806	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第2版	小林　美由紀　　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、保育園や乳児院、発達支援センター、そのほかの施設で子どもたちに接する際に、子どもの成長発達の基本を知り、母子関係の意味を知り、さらに、子どもたちの障害や疾患についての知識をもっていることは、子どもたちにとって求められる保育とは何かを考える基礎になっていきます。とくに今日大きな問題として取り上げられる、子どもの貧困・虐待、発達障害、そしてCOVID-19パンデミックに伴う問題について、自分の考えをもつことは大変重要です。知識を増やすだけでなく、自分自身でしっかり考えて判断できるように、本科目では自ら考える姿勢を重視したいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、自分自身で新聞の記事、事実に基づくネット情報、そしてできれば書籍からのまとまった知識を加えて、自分で問題をしっかり考えて整理してみる、そうした取り組みを期待します。大学図書館のポータルサイトを利用して、フェイクではない正しい情報を得て理解を深めてください。乳幼児の集団生活に関わる立場にとって、事故の予防と救急蘇生の手技およびワクチンで防げる病気と具体的な予防接種の中身（どういったワクチンをいつ接種するのかなど）を知っていることは、大変重要です。それらの点を特に強調し、リポート設題としました。
■学習の到達目標	・学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べてくれたことが活かせれる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述の展開とその深度がどのようであるか、学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。教科書の各単元の終わりに、振り返りの問題がついています。必ず、自分自身の学びの確認を行なってください。
■成績評価の基準	内容が最新の情報にも続いて書かれているか（特にワクチン関係）は重要です。また、ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価の上では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	臨床教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5780	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
臨床教育学	矢野智司・西平直	共同出版	[ISBN]9784319003242

■授業の概要	テキストの『臨床教育学』は、臨床教育学をはじめて学ぼうとする人たちには、入門書の役割をはたすが、すでに臨床教育学について知識のある読者にも読むに値するだけの新たな思考の展開がなされており、たんなる教科書ではなく、教科書の姿をとった研究書でもある。人間についての知は、哲学や歴史学や地理学、教育学や心理学や人類学、生物学や医学といったように、多数の学問領域に分化し専門化している。しかし、この学問の細分化と専門化とは、人間の教育を考えるときには問題が多い。なにより具体的で実践的なかかわりをともなう教育では、専門的垣根を超えて人間をトータルにとらえることが求めているからだ。このように考えると、「人間の教育」こそが、こうして細分化され専門化した知を実践的見地からふたたび結びあわせる結節点となるのではないかと考えられる。そして「臨床 - 教育 - 学」という用語間のうちにのっぴきならない緊張をはらんだ名称を戴く学問は、こうした知の結節点としての役割をさらに尖鋭化させる領域となるだろう。「臨床教育学」は、人間の教育にかかわる課題が人間の知にとって極限として突出してくるクリティカル・ポイントに当たるといえよう。本書は、こうした人間の教育にかかわる知の課題を、自覚的に受けとめようとしている。　その内容は、「動物」「ライフサイクル」「語りえないもの」に、「身体」「芸術」「教師のタクト」に、「現象学」「仏教」そして「パトスの知」である。この雑多にも見える多様な広がりが臨床教育学にとって意味をもつ。表面上の多様さとは裏腹に、これらの論考はたがいに緊密につながっている。この論考のあいだには、領域横断的にまた主題横断的に、内的な地下通路が網の目のように何本も走っている。そのことによって各論考はたがいに響きあい新たな意味を生みだしてもいる。しかもその通路の数は潜在的には無数である。受講者は自身の力によって新たな通路を発見してほしい。
■学習の要点	1．矢野論文を読み、人間の固有性を語るために人間と動物との境界線を論じることがもたらす問題について考える。これはこのテクストの最も基本的な構造と関わっている。2．西平論文・井谷論文・奥井論文・小松論文を読み、臨床教育学と演劇との関係についての思考を深める。3．矢野論文・小野論文・坂井論文・西平論文を読み、臨床教育学と生命との関係について思考を深める。4．池田論文・西平論文・田端論文・小野論文を読み、臨床教育学を語るための論理として逆接が多用される理由を理解する。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕に沿って学習することが、最も効果的で最善の試験対策となる。〔学習の要点〕をふまえない解答は、合格とはならない。評価の観点としては、理解・認識・把握の、的確さ・深さを問う。試験当日は、まず、問題文をしっかり読み、求められているものは何かを的確につかんだ上で、解答に取り掛かること。解答はたくさん書くほど点数がよくなるというものではない。

■成績評価の基準	自らの教育観、保育観が記されているかどうかを評価する。

授業科目	肢体不自由児の心理・生理・病理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5675	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる肢体不自由教育やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ	安藤隆男 編著 他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072507

■授業の概要	肢体不自由児に関する心理学的情報と生理・病理的情報から、肢体不自由のある児童生徒の心理・生理・病理についての基礎知識を学ぶ。また肢体不自由児に対する教育を行う上で考慮すべき随伴障害についての知識も学ぶ。
■学習の要点	本科目を学習するにあたっては、テキストを熟読し、肢体不自由に関する基礎知識や心理・生理・病理的特性について、発達支援の視点から学んでほしい。また、脳性疾患に多く随伴する障害や運動障害に関連する顕著な二次障害についても学んでもらいたい。 ① 肢体不自由の定義と分類、原因、心理的特性等について理解し、あわせて脳性麻痺児に対する支援方法について考えておくこと。 ② 中途障害の心理と障害受容について理解し、あわせてそれらの支援方法について考えておくこと。 ③ 肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と方法について理解し、あわせてその活用について考えておくこと。 ④ 脳性麻痺の原因とその症状について理解し、その教育的対応について考えておくこと。 ⑤ てんかんの定義と分類について理解し、その教育的対応について考えておくこと。 ⑥ 脳の機能局在の視点から心身の病理と症状について理解しておくこと。
■学習の到達目標	① 肢体不自由児を指導する際に必要となる生理･病理に関する基礎知識を理解する。 ② 肢体不自由児を指導する際に必要となる心理に関する基礎知識を理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法				単位	2.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5683	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる発達障害 ： LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群〔第 2 版〕	小野次朗ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623057368
エピソードで学ぶ 障碍の重い子どもの理解と支援	菅原伸康/渡邊照美　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073115

■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。
■学習の要点	指定テキストを熟読し、重複障害児や軽度発達障害児に関する基礎知識を発達支援の視点から学んでもらいたい。ヒトの行動を時間系列的に理解しながら、健康状態と家族関係などの環境因子及び性格などの個人因子と関連づけたそれぞれの障害の概念を理解することを念頭に置くとよい。その上で固有の障害に対して、用意されている制度や教育課程を活用し、必要となる具体的な働きかけの方法、場面設定等の工夫や配慮などを具体的に考えていくことが大切なこととなる。①　発達障害や重複障害の概念について②　重複障害児の理解と指導・支援の基本について③　高機能自閉症・アスペルガー症候群の定義や基本特性の理解と指導・支援のあり方について④　注意欠陥多動性障害（ADHD）の定義や基本特性の理解と指導・支援のあり方について⑤　学習障害(LD)の定義や個々に異なる認知特性の理解と指導・支援のあり方について
■学習の到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎基本を理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	子どもの保健Ⅰ				単位	4.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW0806	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第2版	小林　美由紀　　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、保育園や乳児院、発達支援センター、そのほかの施設で子どもたちに接する際に、子どもの成長発達の基本を知り、母子関係の意味を知り、さらに、子どもたちの障害や疾患についての知識をもっていることは、子どもたちにとって求められる保育とは何かを考える基礎になっていきます。とくに今日大きな問題として取り上げられる、子どもの貧困・虐待、発達障害、そしてCOVID-19パンデミックに伴う問題について、自分の考えをもつことは大変重要です。知識を増やすだけでなく、自分自身でしっかり考えて判断できるように、本科目では自ら考える姿勢を重視したいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、自分自身で新聞の記事、事実に基づくネット情報、そしてできれば書籍からのまとまった知識を加えて、自分で問題をしっかり考えて整理してみる、そうした取り組みを期待します。大学図書館のポータルサイトを利用して、フェイクではない正しい情報を得て理解を深めてください。乳幼児の集団生活に関わる立場にとって、事故の予防と救急蘇生の手技およびワクチンで防げる病気と具体的な予防接種の中身（どういったワクチンをいつ接種するのかなど）を知っていることは、大変重要です。それらの点を特に強調し、リポート設題としました。
■学習の到達目標	・学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べてくれたことが活かせれる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述の展開とその深度がどのようであるか、学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。教科書の各単元の終わりに、振り返りの問題がついています。必ず、自分自身の学びの確認を行なってください。
■成績評価の基準	内容が最新の情報にも続いて書かれているか（特にワクチン関係）は重要です。また、ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価の上では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	保育内容研究人間関係				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）･教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）･自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）･友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）･自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）･きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）･ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）･個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）･協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）･3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）･人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）･人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係･価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）･領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	教育原論				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題に取り組んでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。その他、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	生涯学習概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論	西岡正子編著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248756&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	生涯学習体系への移行が進む中、教育に関わる者としても、また一市民としても、生涯学習の基本を知らずして、学び働くことは不可能といえる。本科目において、生涯学習の基礎理念、基礎知識、国及び地域の実態及び実践の手法を学び、生涯学習社会を建設し、生涯学習時代を生きる力を付けていただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.ユネスコにおける生涯学習論の展開について　2.学校式教育の特色について　3.ハッチンスの学習社会論について　4.学社融合による展開について　5.人の成長に関する二つのモデルについて　6.学歴社会から学習社会への移行に関する機構改革について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。試験問題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	教育史				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本の教育文化史を学ぶ時代・生活・学校	山田恵吾 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623067404
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一著	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	歴史は、ともすれば過去の些末な事実の蓄積と思われがちです。ゆえに、初等中等教育では好き嫌いが大きく分かれる分野です。また、実践とは無縁ではあり得ない教育学においては、過去を振り返ることにどんな意味があるかと思われがちです。しかし、人間が何らかの挑戦を受け、それに応戦してきた記録である歴史は、意識するとしないのとにかかわらず、私たちの生活や思考の前提となっています。ゆえに、歴史を学ぶことは、私たちの現在を読み解き、未来を選択するための示唆を汲みだすために不可欠なのです。　ここでは、現代の日本の教育が明治期に西洋の教育を受容するなかで大きく変容してきた点を重視し、西洋の教育思想、その日本における受容、さらに第二次世界大戦後の展開について概観し、今日の教育問題の歴史的な背景を理解し、今後の教育の在り方について考えてもらいたいと考えます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。指定テキストにあげられている参考文献や引用文献にまで学びを広げられれば、素晴らしいです。最後に自分として理解した事実をどのように受けとめられるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の歴史において重要な事項や人物・思想について、背景にある時代状況、それらに関する具体的な歴史事実やその後への影響を、キーワードを踏まえて説明できる。２．現代の教育の特徴や問題点について、歴史事実を踏まえて考察できる。　３．歴史を中心に中学社会に関連する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、あなた自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育方法学				単位	4.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。（第 7 章）８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。（第 11 章） 12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。（第 12 章）

■学習の到達目標	児童・生徒に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになる。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育方法学（中・高）				単位	4.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5109	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。
■学習の要点	１．国内の全国学力・学習状況調査の結果から、主体的な学習や知識を応用した発展的な学習を実践することの重要性，および資質・能力を育成するための発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法の重要性を学ぶ。（第 1 章）２．児童生徒の資質・能力を育む教育課程や授業を実現していくために，1. 新学習指導要領の捉え方，2. 主体的・対話的で深い学びを支える学習理論，3. 深い学びを実現する授業の原則、4. カリキュラム・マネジメントについて学習科学の視点から検討する。（第 2 章）３．授業設計に役立つインストラクショナルデザイン（ID）の考え方を学ぶ。ID は、授業設計の方法・理論・実践研究によって支えられた授業の基盤づくりのための技術であり、学習者を意識して、ID を用いて効果的、効率的でかつ魅力的な授業づくりを学ぶ。（第 3 章）４．学習環境をデザインするとは、学習者が学ぶこと自体の楽しさに気づき、創造的な学びを探究できるプレイフル（情熱的）な場を準備することである。学びを触発し、支援する環境構成要素や学習活動モデル、そして、学びを活性化する指標を提案する。（第 4 章）５．教師の力量向上および授業改善にとって，授業研究は非常に大きな意味を持つ。授業研究の系譜を概観するとともに，科学的な分析に力点をおく授業研究，アクション・リサーチ，校内授業研究，そして ICT を活用した新しい授業研究を取り上げて検討する。（第５章）６．授業を展開するにあたっては，教育技術（テクニック）が必要である。教育技術により授業の成否は大きく変わる。このような教育技術は伝達可能なものであり、基礎的な教育技術について明らかにする。教師の力量形成のための視点を学ぶ。（第６章）７．何かを考える上で「知識」は非常に重要である。「知識」とは何かを認識し，知識の理解と定着を図る授業づくりを考える。また、単に解答，解き方を教えるのではなく，間違いに気付かせる，疑問を考えさせる授業の重要性を学ぶ。〈第 7 章〉８．講義型授業の限界と学習者主体の授業づくりが必要な状況を理解し，それを実現するために「何」を教えるより「なぜ，どうして」を考えさせる知的好奇心を引き出す授業づくりと，課題発見解決型授業づくりについて学ぶ。（第 8 章）９．新学習指導要領は，新しい概念に基づく新たな学びではなく、基本的な授業設計の在り方を改めて問い直している。「対話的な学び」に焦点を当て，その学びをどのように設計すればよいのかについて，事例を参考にしながら考察する。（第 9 章）10. 授業を教授・学習過程として捉え，授業を成立させるために必要な教材・教具について，特に ICT 活用において多く用いられるさまざまなメディア教材について例示し，これからの教師にとって必要な ICT 活用指導力について考える。（第 10 章）11．2020 年度より必修化される小学校プログラミング教育，また、タブレット端末

	を利用した教育実践，授業での ICT 活用の課題と展望として，教員研修やコミュニティ構築の現状，児童生徒のスキル向上の必要性，クラウド活用への展望について学ぶ。〈第 11 章〉12．目標準拠評価において重要となる事項、また、現代社会で求められる資質・能力を育成する上で，「使える」学力を評価し育成するパフォーマンス評価を学ぶ。これらを意識することで，より人間的で創造的な営みとして評価を捉えなおしていくことを考える。(第 12 章)

■学習の到達目標	生徒に対して知識基盤社会で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、そして学びに向かう力を育成するための教育の方法、教育の技術、情報機器および教材の活用を実践できるようになるための基礎的な知識・技能を身に付ける。

■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	乳幼児期から青年期までの運動・認知・言語・社会性の領域についての特徴を把握し、子どもの発達過程が外的･内的要因の相互作用のうちに展開していくことを理解する。そして、こうした心理学の視点に基づく子ども理解が、具体的な保育･教育場面においてどのように活かされるのかを把握する。また、子どもの学習過程についての理論を踏まえたうえで、発達状況に応じた動機づけ・集団づくり・評価の在り方の工夫に見通しをもち、その働きかけにより主体的な活動を支える教師の役割について認識を深める。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。　【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育社会学				単位	4.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5113	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　１．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされてきているその学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　２．いじめ問題は 1980 年代より我が国の学校病理のひとつとして論じられ、現代においてもその対応が求められるものと言ってよいでしょう。いじめ防止対策推進法の制定を経ても、いじめを苦に命を落とす子どもたちは後を絶ちません。最近は子どもたちにも一般的となったネットツールを用いたいじめも増えてきました。テキストを参考に、どうすればいじめを抑止することができるのか、考えることが求められます。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に記述してください。

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育行政学				単位	4.0
担当者	大林　照明			シラバスグループ	TS5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育行政学（第４版）子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎　編著	八千代出版	[ISBN]9784842918396

■授業の概要	法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか、それを考え、具体化していくのが教育行政の役割です。近年、教育行政・制度は大きく変化しています。本科目ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を、テキスト履修をとおして広く理解することを目指します。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について、リポート作成をとおして考察してもらいます。
■学習の要点	基本的には教科書の各章をまんべんなく学習してください。特につぎの要点、キーワードについては十分に学習するようにしてください。1.【第 1 章】教育基本法の変化（共同統治モデル・成果管理モデル）　※巻末の教育基本法全文は一度よく読むようにしてください。2.【第 2 章】戦後の教育政策形成の流れ（勅令主義から法律主義へ、官邸主導）3.【第 3 章】戦後教育行政（改革）における 3 つの原則、教育委員会法と地教行法、2015 年度からの教育委員会制度（特に変更点：教育長へ一本化、総合教育会議、大綱の策定など）4.【第 4 章】県費負担教職員（第 8 章にも説明あり）、義務教育費国庫負担金制度、総額裁量制 5.【第 5 章】 学習指導要領の法的拘束力、教科書採択の仕組み、広域採択制度、教科書の使用義務・無償給与 6.【第 6 章】私教育と公教育、学校体系（複線型・分岐型・単線型）、学校の設置者と種類（一条校など）、義務教育制度（就学義務、授業料の無償化、就学援助（第 11 章にも説明あり）、学校設置義務）、不登校の定義、脱落型不登校、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（第 9 章にも説明あり）7.【第 7 章】学校組織のしくみ（校務分掌、職員会議の法的位置づけ）、学校組織の特性（官僚制と疎結合）、コミュニティースクール（学校運営協議会の法的権限含む）8.【第 8 章】教職員の種類、新たな職階、服務義務、教職の困難、専門家との連携（テキストには記載がないが「チームとしての学校」についても自分で調べてみること）9.【第 11 章】 保育所と幼稚園の制度上の違い、幼保一元化と認定こども園、子どもの虐待とその対応
■学習の到達目標	①教育行政・制度の概要を理解する②教育行政・制度のあり方を見直す観点を持つ
■成績評価の基準	①教育行政・制度に関わるキーワードの正確な理解ができている（キーワードの説明はテキストからそのまま抜き書きするのではなく、論述問題への解答となるように、自分の言葉でまとめるようにしてください。）②キーワードの正確な理解に基づいて、既存の教育行政・制度についての自身の見解が、論理的に展開されている

授業科目	教育哲学				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
オンライン教育熟議オン・コメニウス	相馬伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771034402

■授業の概要	近代的な教育学を確立したとされるドイツの哲学者ヘルバルトは、教育学の目的は教育者に教育を見る眼をもたらすことだと言いました。しかし、それは簡単なことではありません。というのは、教育や学習は、どうしても国家の発展や個人の社会的成功といった目的を実現するための手段と見なされがちだからです。とくに、近代的な国民国家が成立した 18 世紀以降は、教育は国家との関係からとらえられてきました。この授業で、17 世紀チェコの思想家コメニウスをとりあげるのは、近代に向かいつつあった混沌とした時代に、教育を手段ではなく目的としてとらえ、そこから世界を見つめたのが彼だったからです。この科目では、哲学・教育・言語・政治・宗教にわたるコメニウスの思想を学習し、現在の世界を教育的な視点からとらえる方途を考えていきます。
■学習の要点	指定テキスト、とくに『オンライン教育熟議オン・コメニウス』を精読してください。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。そのうえで、教育の実際の場面や現代の教育動向と関連づけて考えてみましょう。
■学習の到達目標	１．コメニウスの思想を深く理解することをとおして、教育的な視点から世界の事象をとらえる思考様式について考えることができる。２．教育について広く深く考えることのできるリテラシーを高める。３．世界史や倫理に関する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育原論				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5151	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
しょうせつ 教育原論二〇二X	相馬　伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、章末の課題に取り組んでみましょう。第 1 部の最後の「教職課程コアカリキュラム対応表」や巻末の索引は丁寧に作っているので、役立つはずです。その他、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。最後に自分としてテキストで言われていることに対して何が言えるかを考えましょう。
■学習の到達目標	1．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。2．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。3．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育方法論（ICT 活用含む）				単位	4.0
担当者	篠原　正典			シラバスグループ	TS5153	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑩教育の方法と技術	篠原正典著　荒木寿友著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081936

■授業の概要	求められる児童・生徒の資質・能力について理解し、これらを育成するための教育の方法と技術を学ぶ。知識の理解と定着、知識を応用した発展的な学習を図る授業方法、主体的な学習づくりのために知的好奇心を引き出す授業づくり、課題発見解決学習の学習プロセスを実践するための、児童・生徒の発達の段階に応じた教育方法や柔軟な教育方法を学ぶ。また、GIGA スクールや MEXTCBT による将来の教育構想を念頭に置き、授業や校務での ICT 活用を実践できるようになるための方法と技能を学ぶ。
■学習の要点	本授業で学ぶ要点とそれに関連する内容が書かれているテキストの章を挙げる。１． 求められる教育方法と技術　（1 章、2 章、5 章、6 章）２． 学力の現状と世界的に求められる資質・能力を育成する教育方法と技術（1 章、2 章）３． 学習意欲の現状と学習の動機づけ（主体的な学習）のための教育方法　（3 章、8 章）４． 教授方法・学習方略を育成する教育方法･教材　（3 章、4 章、10 章）５． 知識の定着を図る授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章、8 章）６． 素朴概念や躓きに焦点を置いた授業づくりと指導案の作成　（6 章、7 章）７． 知的好奇心を引き出す教材と授業づくり（8 章）８． 真の能力を評価する方法（12 章）９． 世界的に広まるオンライン学習と教材　（10 章）11. ICT を活用した教育の将来構想（GIGA スクール構想、MEXCBT 構想）（添付 PDF 資料）12. 対話的な学びを育む学習への ICT 活用　（4 章、5 章、9 章）13. 授業における Web 教材の効果的な活用　（11 章）14.ICT を活用したプログラミング教育の実践　（10 章、11 章）15. 情報モラル（学校教育における著作権）の理解　（10 章、添付 PDF 資料）
■学習の到達目標	児童生徒に対して、Society5.0 で求められる知識・技能、思考力・判断力・表現力、課題発見解決能力、学びに向かう力を育成するための普遍の教育の方法、教育の技術が授業で実践できるようになること、また、GIGA スクールや MEXCBT 構想の目的を理解し、効果的な ICT 機器の活用が想定できるようになる。
■成績評価の基準	最終試験の 60 点以上を合格とする

授業科目	教育心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5155	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深める。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていく。
■学習の要点	テキストは、従前から教育心理学において扱われてきた内容、近年の教育事情・動向を踏まえた新しい内容が含まれている。もちろん、それぞれの章に２つが混在しているが、第３章・第４章・第６章・第８章・第９章第４節は後者の部類に属する。特に、第６章・第８章は第５章・第７章の内容の理解を深めてから、熟読することを勧める。また、教育実践とのかかわりでいうと、第１章・第２章・第10章・第11章は児童生徒理解や学級経営の基礎となるものといえる。残りの章は学習指導（支援）にかかわる内容となっている。　テキスト学習にあたっては、まずは自分なりの興味・関心にしたがって章を選択して始めるとよい。さらに学習を深めていくためには、上記２点を念頭において、記述内容間の関連を考えて頭のなかで整理しながら進めることが望まれる。なお、リポートや科目最終試験への準備に関しては、それぞれの留意点の項を十分に参照して取り組んでもらいたい。
■学習の到達目標	乳幼児期から青年期までの運動・認知・言語・社会性の領域についての特徴を把握し、子どもの発達過程が外的･内的要因の相互作用のうちに展開していくことを理解する。そして、こうした心理学の視点に基づく子ども理解が、具体的な保育･教育場面においてどのように活かされるのかを把握する。また、子どもの学習過程についての理論を踏まえたうえで、発達状況に応じた動機づけ・集団づくり・評価の在り方の工夫に見通しをもち、その働きかけにより主体的な活動を支える教師の役割について認識を深める。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。　【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	教育社会学				単位	4.0
担当者	原　清治			シラバスグループ	TS5157	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868
ネットいじめの現在（いま）	原　清治	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089536

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　１．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされてきているその学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　２．いじめ問題は 1980 年代より我が国の学校病理のひとつとして論じられ、現代においてもその対応が求められるものと言ってよいでしょう。いじめ防止対策推進法の制定を経ても、いじめを苦に命を落とす子どもたちは後を絶ちません。最近は子どもたちにも一般的となったネットツールを用いたいじめも増えてきました。テキストを参考に、どうすればいじめを抑止することができるのか、考えることが求められます。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、客観的に記述してください。

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	教育法規				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ガイドブック教育法 新訂版	姉崎洋一ほか編	三省堂	[ISBN]9784385323138

■授業の概要	戦後わが国の教育法制は、教育勅語体制から憲法・教育基本法体制へと大きく転換した。その際、国民にとって教育を受けることが、義務から権利に変わった。つまり基本的人権の保障として教育がとらえられるようになったのである。ところが、2006 年末にその教育基本法が「改正」された。戦後教育法制の大転換とも言える。何がどう変わったのかしっかり学習したい。　総じて、教育法を学ぶことにより、教育を受ける権利を定めた憲法 26 条をはじめとした憲法における教育条項、及び新・旧教育基本法の各条項、学校教育法などについて検討し、今日の教育のあり方を考える一助としたい。
■学習の要点	・「教育を受ける権利」について及び、親あるいは教師の教育権等「教育をする権利」について・教育基本法について・教育内容、教育課程にかかわる法規定について・教師の懲戒権について・教師の労働基本権について・「開かれた学校づくり」について・学習指導要領について・全国学力調査について・教員の研修について
■学習の到達目標	①戦後の教育法制について理解する②教育法の理解をとおして、教育のあり方について自分なりに考えることができる
■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により評価する。

授業科目	比較教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5405	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
比較教育学の基礎	田中圭治郎編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542657

■授業の概要	日本の教育問題を考える時、諸外国の教育を考察し、日本のそれとの比較の中から、さまざまな事実が浮かび上がってくる。欧米、アジアの教育とはどういうものかを理解する。
■学習の要点	まず最初に、各章、各節に何が書いてあるかを把握し、そして自分なりにまとめてみる。次にテキスト全体を通読し、このテキストは何を言おうとしているのかを理解し、最後に自分は、それらの記述に対してどのように思うのかという自分の見解が求められる。　アメリカ、中国、イギリス、インド、ドイツ、東南アジアの社会の特質を箇条書きでノートに書き出してみる。次に社会の特質と関連した学校現場での事例を取りあげて、社会の特質と学校教育が連動していることを示すようにする。最後に各国の社会と学校教育の関連した項目について、日本ではどうなっているかを比較して考えあわせるようにする。　1．アメリカの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　2．中国の社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　3．イギリスの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　4．インドの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　5．ドイツの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較　6．東南アジアの社会と日本の社会の学校教育とのかかわりについての比較
■学習の到達目標	（学習の到達目標）　テキストをよく理解し、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれの内容をまとめる。（成績評価の基準）　テキストに即して出題する。解答はテキスト学習に基づいて答えること。（「答案」作成上の留意点）　出題の要点を正しく理解し、論理的に記述すること。記述量は過不足ない十分な量を求める。
■成績評価の基準	教科書の理解、適切な表現、論理的な文章に基づいて評価します

授業科目	宗教教育論				単位	4.0
担当者	佐藤　和順			シラバスグループ	TS5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
仏教的世界の教育論理 仏教と教育の接点	日本仏教教育学会編	法蔵館	[ISBN]9784831824431

■授業の概要	今日、教育の荒廃や青少年の精神的衰弱が指摘されている。戦後の教育が権利や自由は積極的に教えてきたが、責任や規範に対しては消極的となり、人間いかに生きるべきかを示してこなかった結果といってよい。今日、教育が叫ばれる所以もそこにあるであろう。しかしながら、宗教なき心の教育は小手先のこととならざるをえない。なぜなら、宗教は生き方の問題であり、「道徳は不可避的に宗教に至る」からである。それ故、宗教教育をタブー視する傾向が強いわが国の教育は問題である。人間形成にとって宗教教育は不可欠な根本問題なのである。
■学習の要点	１．宗教と人間　人間は相対有限な、欠けたる存在として不可避的に永遠や絶対を求める宗教的存在であることを理解する。２．宗教と共同体　人間が宗教的存在である以上その共同体も歴史的・社会的連関として宗教と無縁ではありえず、その置かれた場所によって慣習的に彩られているのであり、その共同体のなかに教育もあるのであるから、本来の教育は場所的に考えなければならないゆえに、硬直的に宗教を排除するような行為は教育を生気のない干からびたものとすることを理解する。３．学校と宗教　憲法・教育基本法などの規定にもあるように公立学校において政教分離の原則から認められないのは「特定の」宗派宗教教育であって、学校が人間形成の場所である以上、そもそも「宗教的なもの」と無縁であることはできず、学校や保育園は人間の宗教性を育てる場所であることを理解する。４．日本の宗教教育　日本の宗教教育は、伝統的には仏教が大きな役割を果たしてきた。そのことは近現代においても同じである。そのため日本の伝統文化も仏教を基層とするが、こうした日本文化の基層となる仏教の教育原理について理解する。
■学習の到達目標	テキストを十分に理解すること。そして宗教教育について独自の視点や深さを持つようにすること。
■成績評価の基準	いかによくテキストを理解し（50 点）、その上に関連する文献にどれだけあたっているか、自分の考えがどこまで出されているか、さらに具体性・論理性・表現力によって加点する。ただし学問的背景のない勝手な意見を主張することは認められない。根拠を挙げて展開することが大事である。

授業科目	生涯教育論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5409	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
成長と変容の生涯学習	西岡　正子	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623071616

■授業の概要	本科目においては、生涯学習の理念、基礎理論、国際的な動き、日本の動向、地域の実態を学ぶ。生涯学習体系への移行がどのように進められているか、自らの力で確認すると同時に、今後、生涯学習社会建設に何が求められているかを考究していただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。1．ユネスコの国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」および「ハンブルグ宣言」について 2．ポール・ラングランの生涯教育理念およびそれらが展開された際の日本の社会的背景について 3．高齢期の学習能力と学習機会について 4．ローマクラブの生涯学習論について 5．成人の学習における参加型学習の特徴と方法について 6．集合学習と個人学習について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。設題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	社会教育計画				単位	4.0
担当者	内山　淳子			シラバスグループ	TS5420	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会教育計画の基礎　新版	鈴木眞理ほか	学文社	[ISBN]9784762022722

■授業の概要	社会教育とは学校教育以外の組織的な教育活動をさし、生涯学習支援の中核に位置づくものである。社会教育は様々な学習課題に対応して組織される柔軟さを特徴としているため、地域課題などの社会的課題や個人の学習ニーズを教育実践にまで導く「社会教育計画」が必要になる。社会教育主事などの支援者として計画を立てる際には、生涯学習の理念や生涯学習体系への移行の状況、さらに社会教育、学校教育、家庭教育など広い分野に渡る基礎知識が求められる。また、その能力を付けるために、OJT による実践の中での切磋琢磨も重要である。この科目で社会教育計画に関する基礎知識を学ぶことによって、現在の教育に対する幅広い知識と深い洞察力を養うことが望まれる。
■学習の要点	テキストを精読する際、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.社会教育計画立案の法的根拠と学習者の自発性・主体性に関して　2.学社連携について　3.学習プログラムの策定主体と立案の原理について　4.社会教育計画の年間事業計画と学習プログラムの関係について　5.学習プログラムを立案する際の準備作業について　6.社会教育施設の事業と学習ニーズについて
■学習の到達目標	科目最終試験の準備としては、「学習の要点」に書かれた学習目標に即して、テキスト各章末のキーワードに留意しながら学習を進める。試験答案も箇条書きは避け、具体例を考えると説明がしやすくなります。
■成績評価の基準	提出されたリポート・科目最終試験の内容を評価対象とし、設題を把握してテキストの理解が進んでいるか、その上で事例や自分の考えが述べられているかを評価します。

授業科目	臨床心理学				単位	4.0
担当者	武藤　奈奈			シラバスグループ	TS5423	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ライフサイクル（発達心理学の基礎；１）	平山諭ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623022786

■授業の概要	臨床心理学の学習は、人間の生きるありように関心を持つところから始まります。この科目では、乳児期から老年期までの心の発達と、各時期に起こりやすい心の問題について概観します。心の発達を学ぶことを通して、人が成長するとはどういうことか、成長過程でつまずくとはどういうことかについて理解を深めてもらいます。　この科目を通して、各自が辿ってきた道筋を振り返るとともに、人の生きるありようを見つめるまなざしが養われることを目指します。
■学習の要点	＜所定のテキストの活用法＞　１．各章ごとを再整理して、キーワードを十分に理解しておこう。　２．代表的な発達理論を押さえ、それらの理論間の違いを理解しよう。　３．心の発達が、身体面での発達と互いに絡み合って進んでいくさまを理解しよう。　４．現代社会が心の発達にどのような影響を及ぼしているかを考えてみよう。　５．人の心の発達を見るためのさまざまな研究法を整理し、それぞれの研究法が持つ利点と　　問題点を考えてみよう。　６．各章末にある参考文献も積極的に当たってみよう。
■学習の到達目標	「学習の要点」に記した＜所定のテキストの活用法＞を参考にしてください。また各章末の参考文献や以下の参考文献にも触れて理解を深めておくこと。テキストの理解をふまえた上で、自分なりの視点や考えが持てるようになることが目標です。
■成績評価の基準	問題で要求されている内容をほぼ満たしている場合（先行研究の理解が十分である）７０点以上、上記に加えて、適切な自分なりの考察が加えられている場合８０点以上その自分なりの考察が非常に優れている場合に９０点以上で評価する。内容を最低限満たしていると考えられる場合は６０点以上とし、それに満たない場合は６０点未満とする。

授業科目	児童心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5425	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
エピソードでつかむ児童心理学	伊藤亜矢子	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623058259

■授業の概要	人は一生涯にわたって、身体的・生理的だけでなく精神的・心理的に変化していくものである。本講では科目名称どおり内容を「児童期」に限定し、特に、子どもの「個性化と社会化」の過程に焦点を当てて学習を進める。子どもが健全に発達し自己の可能性を広げていくためには、親を始め仲間や教師など他者とのかかわりあいが欠かせない。この相互作用の過程を丁寧に読み解き、学習者それぞれの立場から子どもを支援していく態度を身につけることを目的とする。
■学習の要点	児童虐待・いじめ・学級崩壊など、今日マスコミを賑わしている教育的問題への処方箋を本講義に求めるのは筋違いである。教育実践に臨む前に、まずは問題を科学的・客観的な観点から把握する態度を身につけなくてはならない。幸いテキストには、各節で扱われているテーマに即した具体的なエピソード（事例）が掲載されている。これを手がかりとして、様々な立場に立って子どもを理解することを学んで頂きたい。　理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と日常生活場面での人の行動・心理とを結びつけて考えるよう努めてもらいたい。
■学習の到達目標	① 児童理解にあたっては、その行動結果ではなく過程に着目する。例えば、学習意欲や仲間とのかかわりは単純に把握できるものではなく、様々な要因が絡み合って立ち現れてくることの認識を深める。 ② 実際に子どもとかかわる際には、主体としての子どもの立場に立って環境（特に他者）の受け止め方を想定する。その理解に立って実践活動を行い、フィードバック（自分に対する評価）を得てかかわり方を修正していく必要性を理解する。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	発達心理学				単位	4.0
担当者	橋本　憲尚			シラバスグループ	TS5427	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
発達心理学（現代心理学入門；２）	無藤隆ほか編	岩波書店	[ISBN]9784000039222

■授業の概要	ここでは生涯発達の観点から、人の一生涯にわたる心理的変化の過程を追う。人は誕生時にはゼロの状態で、成人した時点で完成をみるという見方には限界がある。人の成長・発達は生物学的・遺伝的要因や社会・文化的要因によって一方的に規定されているのでなく、それらを個人がいかに受け止め、どのように意味づけるのかによってその影響のしかたは変わる。また、子どもであれおとなであれ、その時々の発達課題に直面し克服しようとしていくことによって、次の発達の可能性が拓かれていく。　理論的な説明の文章理解に終わるのでなく、それが意味するところを具体的な事例に即して咀嚼する必要がある。用語の意味やキーワードを含んだ文章の暗記といった機械的な学習ではなく、心理学の理論的説明と日常生活場面での人の行動・心理とを結びつけて考える力を求めていく。
■学習の要点	テキストでは、乳児から老年に至るまでの重要なライフ・イベントに則して、個人内部で生じる心理的な年齢変化が説明されているとともに、現代社会における適応的な行動のあり方が示唆されている。学習者は、人間発達の過程を誕生から順にたどっていくのも良いし、まずは関心のあるライフ・イベントに焦点を当てて学習を進めていくのも良いだろう。発達心理学を学ぶことで、人間の成長・発達を促す発達課題に取り組むヒントを得てもらえば幸いである。
■学習の到達目標	本稿では以下のような発達観を得ることを到達目標とする。①　人の成長･発達の過程は、生物学的･遺伝的要因や社会･文化的要因のいずれか一方によって　規定されていくのではなく、両者の相互作用によって展開していく②　人が社会に適応していくためには、その時々に直面する発達課題を克服していかねばならない。　日々の活動経験をいかに受け止め、どのように意味づけるのかによって、次の発達の可能性が　左右される。
■成績評価の基準	【リポート設題】　本科目においては、リポートの記述が「設題の留意点」をふまえた論述と判定されない場合、科目最終試験の受験資格が与えられないことに注意。テキスト学習を丁寧に行ない、設題の趣旨をしっかりとらえて論述工夫を試みること。 【科目最終試験】本科目の最終試験の設題は、単にテキストの記述を機械的に暗記するだけでは論述できないものとなっている。受験にあたっての留意点をしっかり読んで、その記述に即した準備を怠らないように。

授業科目	青年心理学				単位	4.0
担当者	樫津　祥貴			シラバスグループ	TS5429	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
エピソードでつかむ青年心理学	大野久　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623057375

■授業の概要	生涯を通しての変化や成長を考える「生涯発達」という視点から「青年期」を位置づけ、その心理的発達の諸相を学びます。「青年期」は子どもから大人への移行期であり、身体的にも精神的にも著しい変化が見られます。人間関係においても、それまでの親子関係や友人関係とは随分変わってきます。変化と揺れのプロセスを経て、また様々な経験を通してアイデンティティを形成していくことが「青年期」の課題となります。自分の通ってきた道筋を振り返り、「青年期」の心理的特性を深く理解することを目指します。
■学習の要点	1.テキストを熟読し、整理しておこう。2. テキストだけではなく、青年期に関する参考文献も積極的にあたって学習しよう。3. エリクソンの漸成発達理論を理解しよう。特に青年期の主題についてはしっかりおさえておこう。4. 青年期の心理的特徴について、変わらないものと現代的特徴といえるものを整理しよう。5. 青年期の諸相が描かれている文芸作品（小説・漫画・映画など）を必ず一点は読んで、青年期という観点から自分なりに考え、理解を深めよう。（いくつかの作品は下記にあげています。テキストにも書いてあります。）6. 辿ってきた自分自身の体験を振り返り、自分なりの理解を試み深めよう。
■学習の到達目標	生涯発達という視点から青年期の心理的発達的特徴を学び、変化と揺れのプロセスを通して、アイデンティティを形成していくことを理解する。青年期の心について、深く考えることを期待する。
■成績評価の基準	・青年期の心理的発達的特徴がしっかりと理解でき、論理的に説明できていること。・青年期の心について、自分で深く考え、考察できていること。

授業科目	社会教育経営論				単位	4.0
担当者	堤　拓也			シラバスグループ	TS5443	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会教育経営の基礎	山本珠美･熊谷愼之輔･松橋義樹編著	学文社	[ISBN]9784762030376

■授業の概要	社会教育は教育基本法において「個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない（第 12 条)」と規定され、これが公教育としての社会教育の法的根拠となっている。社会教育の内容は幅広く、学習者の多様なニーズに応じて行われるために、学習課題を見極めて資源（ヒト・モノ・カネ）を投じ、様々な実施主体と連携しながら計画的に行うことが求められている。この科目ではこのような社会教育の特性を学び、受講者各自の地域課題を振り返る機会を設けて、習得した事柄を地域貢献に役立てる実践力を培う。
■学習の要点	テキストを精読する際、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.社会教育を規定する法的根拠と特性について　2.地方自治体における社会教育行政のしくみについて　3.社会教育行政の歴史的展開について　4.学校教育と社会教育の連携（学社連携)、および地域学校協働活動について　5.民間団体が行う社会教育事業について　6.社会教育施設の事業と学習ニーズについて
■学習の到達目標	レポート・最終試験ともに、設題に見合った回答である点、テキストの理解にもとづいた記述である点、オリジナルの考察がなされている点を満たし、社会教育の在り方に関心を深めることを到達目標とします。
■成績評価の基準	提出されたレポートおよび科目最終試験の内容を評価対象とし、設題とテキストを把握して自らの考えや事例が述べられているかを評価します。

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。･領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）･教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）･自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）･友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）･自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）･きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）･ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）･個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）･協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）･学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）･3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）･人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）･人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係･価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）･領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。・領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）・教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）・自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）・友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）・自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）・きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）・ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）・個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）・協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）・園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）・学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）・3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）・人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）・人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係・価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）・領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	初等教育内容国語				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5524	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国語科内容論×国語科指導法	辻村敬三	東洋館出版	[ISBN]9784491036618
書写指導のてびき小学校学習指導要領解説〈平成2	達富洋二文部科学省編著	佛教大学東洋館出版社	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248751&refHpStenCode=68038}[ISBN]9784491034621

9年告示〉国語編			

■授業の概要	「ことば」の教育は、学校（園）生活・家庭生活など全ての言語生活場面において行われています。この日々の言語生活の中で育まれる子どもたちの「ことば」を基盤とし、それらを体系的・計画的に向上させることが国語科教育の使命です。国語科指導の難しさとして「学習の目標があいまいになりやすい」ということが挙げられます。例えば、他教科で言えば「この単元では繰り上がりのある足し算ができるようになるのだな」「この単元ではものの溶け方について理解するのだな」とその学びがある程度明瞭にイメージしやすいのに対して、国語科においては「このスイミーという教材を用いてどのような資質能力をそだてるのか」「新聞をつくるという活動を通してどのような資質能力を育てるのか」がイメージしにくいことがあるのです。この授業で具体的にどのような資質能力を育てるのかをはっきりもつことは、良い授業をする上で非常に重要です。そしてそのためには、それぞれの学年に示された指導事項の内容を適切に理解しておくことは必要不可欠です。この科目では、それぞれの領域において、どのような資質能力の育成が示されているのかについて学びます。
■学習の要点	1）テキストを熟読し、小学校の国語科教育の目的・内容について確実に理解しましょう。2）テキストを熟読し、国語科教育におけるそれぞれの領域や事項の内容や指導について整理しましょう。3）テキストを熟読し、「言語活動」や「主体的・対話的で深い学び」など、これからの国語科教育に関連する重要なトピックについて理解を深めましょう。4）書写の実技学習については２つの意味があります。1 つ目は児童に指導する教材としての理解を深めること、2 つ目は本作品の作成を通して教師として求められる書字技能を向上させることです。教師にはさまざまな場面で、整った文字を書く能力が求められます。特に文字の習得期にある子どもたちにとって、教師の文字は日常もっとも日常的に目にするモデルとなります。どちらの点も重要ですのでしっかりと意識して練習を重ねてください。

■学習の到達目標	小学校国語科の全体像とそれぞれの内容について理解し、説明することができる。

■成績評価の基準	テキストの内容を適切に理解できているか（40%）具体的な教材の特徴を理解し、その指導の方向性について論じられているか（40%）テキストの内容のみにとどまらず、自身の考えや経験を踏まえて論じられているか（20%）

授業科目	初等国語教育法				単位	2.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TS5531	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編① 初等国語科教育	井上　雅彦 ・青砥　弘幸 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081974
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編	文部科学省　著	東洋館出版社	[ISBN]9784491034621

■授業の概要	本授業では国語授業者として求められる基本的な知識、技能を身に付ける。平成29年度版学習指導要領の内容を中心に国語科の目標･内容･方法について理解を深めていくと同時に、具体的な学習者を想定しながら、実際に指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	次の点を到達目標に学習を進めましょう。１）小学校国語科教育の意義、学習指導要領（平成29年度版）の構造と内容について理解する。２）国語科の各分野・領域における目標・内容･評価の観点について理解する。３）国語科における児童の学習の実際や特性を理解し、その実態や学習状況に応じた指導の工夫（言語活動の工夫、ICTの活用、評価の工夫など）を指導に活かすことができるようにする。４）対象とする児童の実態や学習状況・教材の特性・指導要領の内容などを併せて、目的に応じた適切な教育活動、授業を構想し、学習指導案を作成することができるようにする。
■学習の到達目標	実際にテキストや指導要領の内容を踏まえた授業を構想することができる。
■成績評価の基準	最終試験については以下の3観点から総合的に判断します。1．テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか。（40%）２．教材の特徴を踏まえ、適切に授業構想することができているか。（40%）３．学んだことを踏まえて、自分なりに工夫した授業構想をすることができているか。（20%）なお、指定されたテキストや指導要領領解説以外の資料からの転記が疑われるものについては、その時点で0点とします。

授業科目	初等社会教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5532	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教科教育編② 初等社会科教育	中西仁・小林隆著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081981

■授業の概要	本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づき、社会科授業実践のあり方を具体的に学習する。テキストでは、社会科の成立と変遷から平成 29 年版学習指導要領の性格を述べ、その性格に基づいた授業づくりのあり方と各学年の具体的な授業を掲載している。さらに、授業づくりや授業実施にあたっての留意点を解説している。
■学習の要点	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解すること。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できるようにすること。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できるようにすること。
■学習の到達目標	①社会科の成立と変遷から、平成 29 年版学習指導要領の性格を深く理解できている。②平成 29 年版学習指導要領に基づく具体的な学習指導案が作成できる。③作成した学習指導案に基づき、授業の一部を表現できる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」に基づきテキスト内容の理解が深まっているかを基準とする。

授業科目	初等算数教育法				単位	2.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5533	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編③算数科教育	原　清治　監修他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081998

■授業の概要	算数教育に対する数学的背景・理論・指導法等の理解及び，それらを活かした教材研究を行えるようになるための基礎的知識と基本的技能及びその考え方について考察する。
■学習の要点	算数科の目標について要点を把握する必要がある。また評価については，評価の時期（3 つの評価）と行為動詞の活用について理解しておく必要がある。さらに，各領域とプログラミング的思考について，今日的課題と指導の在り方について理解しておく必要がある。テキストに基づいて学習を進めること。
■学習の到達目標	１．算数の目標，評価及び各領域の今日的課題とその指導法について説明できる。２．児童の発達段階や実態に応じた授業構成の基本的な考え方を理解し，それを授業設計に活かすことができる。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	初等生活教育法				単位	2.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5534	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑤ 生活科教育	鎌倉　博 船越　勝 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082018

■授業の概要	新学習指導要領における生活科の教科目標は、「具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を、次の通り育成することを目指す。」である。指導上の留意点は、以下 3 点である。①具体的な活動や体験を通すこと。②身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと。③自立し生活を豊かにしていくこと。 生活科は児童の発達段階を鑑み、平成元年版の登場以降この 3 点を教科目標の根底に据えている。本科目では、生活科の本質と新学習指導要領における生活科の新たな方向性について学習し、生活科の学習指導案を立案し、模擬授業をできる力を育成する。なお、担当は小学校で 36 年間教職生活を送ってきた者である。生活科の授業に即して指導を行う。
■学習の要点	1．新学習指導要領の方向性をもとに、生活科授業実施の留意点について考察すること。2．生活科の「教科目標」等の分析から、生活科の本質について考察すること。3．生活科の「各学年の目標及び内容」に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を考察すること。4．生活科の「指導計画の作成と内容の取扱い」に基づいて、2 年間を見通した年間指導計画作成と単元計画作成のポイントについて理解し、「主体的・対話的で深い学びの実現」を実現する指導のあり方を考察すること。5．テキスト等に基づいて、生活科授業の実際について考察すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、次の通りである。1.新学習指導要領における生活科の教科目標に基づいて、「学校、家庭及び地域の生活に関する内容」「身近な人々、社会及び自然に関わる活動に関する内容」「自分自身の生活や成長に関する内容」のそれぞれについて理解し、具体的な指導のあり方を述べることができる。2.問題は、テキストに即して出題する。3.「答案」の記述は、必ず自分で章立てや段落をもうけて、分かりやすく記述する。
■成績評価の基準	科目最終試験によって評価する（100 点満点）。60 点未満のものは不合格とする。

授業科目	初等家庭教育法				単位	2.0
担当者	横山　和子			シラバスグループ	TS5535	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編⑧初等家庭科教育	三沢徳枝、勝田映子他著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082049

■授業の概要	家庭科を学ぶ意義を理解し、小学校学習指導要領の家庭科における目標及び内容を把握する。さらに家庭科の背景となる家政学等との関係や家庭科を指導する知識と技術について学び、中学校の技術・家庭科の内容と双方向の見通しを持って、小学校家庭科の指導者として授業場面を想定した授業を構成し指導案を作成し評価する実践力を養う。なお、模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえて、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net を通して送付されたものを指導する。
■学習の要点	1.小学校家庭科教育の意義と役割を理解する。 2.家庭科で育てる資質能力とバランスの取れた指導方法や評価の方法、授業構成について理解し実践で活用できるようにする。3.家庭生活に関わりのある人、モノ、環境と関連づけて児童の学習活動の内容を考えられるようになる。4.児童が基本的・基礎的な知識及び技能を活用し身近な生活課題を発見し、解決方法を導き、家庭や地域で実践できるように、指導内容や指導方法を工夫・改善できるようになる。
■学習の到達目標	1.小学校家庭科の教科の特性を理解し、社会の変化と実践研究の動向を踏まえて、児童の生活を視野に入れた授業設計ができる。2.指導上の留意点や学習評価の考え方を理解して、学習指導案を作成できる。3.授業改善の視点をもち、情報機器や教具を効果的に活用できる。
■成績評価の基準	試験では、問題の主旨を理解し、これまで学んだことを論理的に説明できているかを評価する。児童の生活をイメージし、家庭科の教科の特性や指導方法、評価について理解し、ICT や教具の効果的な活用を考えて授業設計ができることを基準とする。文献資料をそのまま転記したり、不適切あるいは不明瞭な箇所がある場合は合格点に満たないものとする。

授業科目	初等外国語教育法				単位	2.0
担当者	赤沢　真世			シラバスグループ	TS5536	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
小学校外国語科・外国語活動の授業づくり	赤沢　真世	教育出版	[ISBN]9784316804965

■授業の概要	小学校に外国語教育が導入されるに至った経緯やその意義を学習し、英語コミュニケーション能力とは何か、またその育成のために効果的な指導法や必要とされる指導者の英語力について理解する。また、テキストによる学習内容を踏まえ、模擬授業として自身が英語を用いて行った授業場面を動画として撮影し、具体的な指導技術について到達点および改善点について指導を受ける。
■学習の要点	１）小学校外国語活動ならびに外国語科の意義について、学習指導要領（2017 年度版）の構造と内容について理解する。２）外国語活動・外国語科の各技能・領域における目標・内容・評価の観点について理解する。３）外国語活動ならびに外国語科における児童の学習の実際や特性を理解し、その実態や学習状況に応じた指導の工夫（言語活動の工夫、ICT の活用、評価の工夫など）を指導に活かすことができるようにする。４）対象とする児童の実態や学習状況・教材の特性・指導要領の内容などを併せて、目的に応じた適切な教育活動、授業を構想し、学習指導案を作成することができるようにする。５）指導に必要な英語について理解し、指導に必要な英語の技術を身につける。小学校における外国語の授業を実際に体験・見学した経験がない場合は、イメージを具体的に持つことが難しいかもしれないので、小学校の公開授業や各研究会などに積極的に足を運ぶ姿勢もぜひ持っていただきたい。
■学習の到達目標	テキストをよく理解し、学習課題を意識しながら各章の内容をまとめる。その上で英語の指導法・英語力に関する自分の課題や考察した内容について述べる。
■成績評価の基準	テキストに即し、知識を問う問題・体験に基づく考察を問う問題を出題する。「出題の要点を正しく理解できているか」「論理的に記述できているか」が評価の観点となる。

授業科目	初等理科教育法Ⅱ				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TS5537	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編④初等理科教育	山下　芳樹 編著･平田　豊誠 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082001

■授業の概要	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A 区分：物質・エネルギー（エネルギー，粒子），B 区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ，授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ，学習指導案を作成し授業を実施できるようにしていきます。
■学習の要点	子どもが自然に働きかけて，自然から働きかえされるという相互作用によって，子どもは自然からさまざまな情報を受け取って自然を認識していきます。そしてその過程で人間的成長を遂げていくのです。教師はそのための援助・支援をする。この一連の過程が理科教育の本質です。　まずテキスト学習を確実にしっかりと行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを学び，考えを深めてください。　テキスト第Ⅰ部では，理科教育に託された先人たちの思いをもとに学習指導要領の読み解き方や理科の学習論を学びます。第Ⅱ部では，深い学びをさそう授業作りの手引きとして，エネルギー，粒子，生命，地球という 4 つの領域において具体例をもとに授業を考えていきます。第Ⅲ部では，学び続ける小学校教員としての研究のあり方や専門性について学んでいきます。　そして，各章の最後にある学習の課題をはじめ，興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けて特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。　1.「なぜ理科を学ぶのか」という問いに自分なりの回答を考えてみる。科学の特徴，日常生活との関連，理科の見方・考え方，探求の過程などに基づいて理科を指導する意義を考える。　2．テキストおよび小学校学習指導要領解説理科編をもとに，理科は何を教える教科かを考える。　3．理科の教え方，学び方（指導論・学習論）について考える。特に構成主義学習論を中心に学習を深める。　4．授業づくりにおいて，深い学びとなるような授業を考える。エネルギー，粒子，生命，地球の 4 領域において具体例をもとに学習を深め，具体の単元を例に教材研究を行う（理科指導に適した情報機器及び教材などの ICT 活用を含む）。　5．理科学習指導案について学習を深め，任意の単元を取り上げ，学習指導案を書き，模擬授業を行い，その様子を録画し，記録動画を用いた省察を行い，今後の課題を考える。その際，観察や実験における安全指導にも留意すること。6．理科における評価を次のキーフレーズをもとに考える。･目標に準拠した評価と観点別学習状況の評価，･指導と評価の一体化，･新しい学習評価の考え方。なお国立教育政策研究所の育課程研究センター発行の【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料】の小学校編「理科」をよく確認すること。

■学習の到達目標	小学校教員として必要な理科における学習内容の知識や技能を身につけ，自ら実践することができる。学習指導要領と理科学習論に基づいた授業設計を行い，学習指導案を作成することができる。１．理科という教科の意義・目標を理解する。２．理科の学習領域・内容を理解する。３．理科における学力と評価の在り方について理解する。４．理科指導技術の基本を身につけている。５．理科指導に適した情報機器及び教材の活用能力を身につけている。
■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。 テキスト学習の成果を判断します。テキスト学習の成果が認められない場合は不合格となります。 引用や引用文献の記載が適切になされていないもの，剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等，不正が疑われるものは合格とならない場合があります。 テキスト以外からの引用について，出典等が明記されていないものは合格とならない場合があります。 第2設題の動画の容量が100MBを超えている場合には添削対象外とすることがあります。 リポー

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	代数学概論				単位	4.0
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	TS5561	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
線型代数学入門	丹後弘司著	佛教大学	[ISBN]9784907177553

■授業の概要	比例，1 次関数，連立 1 次方程式などの話題を発展/拡張させたところにある線型代数学について，その基礎を学んでいきます．ベクトルの概念を理解し，行列の関わりについて学びます．また，直線や平面などの高等学校でも学んだ幾何学的対象について，線型代数学の観点から議論していきます．また，行列演算に習熟し，連立 1 次方程式の理解を深めていきます．行列式とその性質を理解し，その幾何学的な応用についてまで理解を広げていきます．線型代数学の核心部分である，線型独立/従属，基底や次元の概念を習得します．線型空間の間の写像を学び，行列そのものの理解を深めていきます．行列の固有値，固有空間を学び，さらに，その様々な応用について議論を展開していきます．
■学習の要点	筆記用具を必ず傍らに置いてテキストや参考文献などを読み進めてください．頭で理解している事を実際に紙の上に起こしてみる作業は重要です．また，定理等の証明の勘どころをつかみながら，数学的思考を育んでもらいたいと思います．さらに，問などを手を動かして具体的に解き確実な計算力を養う事も本学習の重要課題の一つです．
■学習の到達目標	・ ベクトル，行列の概念が理解でき，それらの代数的な計算が的確にできる．・ 直線，平面などの幾何学的対象を線型代数学の言葉で理解できる．・ 連立 1 次方程式を行列の性質を運用しながら解くことができる．・ 行列式の性質を理解し，その代数的な評価や，幾何学的な応用が理解できる．　・ 線型空間，線型写像について理解できる．・ 線型独立/従属，基底や次元の概念が理解でき，それらを様々な場面で運用できる．・ 行列の対角化，固有値，固有空間が理解できる．・ 定理の証明等を通じて，数学的な思考力を獲得する．
■成績評価の基準	学習の到達目標が達成されているかについて評価します．

授業科目	幾何学概論				単位	4.0
担当者	堀内　遼・田嶌　優			シラバスグループ	TS5566	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
理工基礎 演習 集合と位相	鈴木晋一	サイエンス社	[ISBN]9784781910918

■授業の概要	幾何学分野を学ぶために必要な集合・写像・論理についてから学習を始めます。集合や写像は重要な役割を果たしていますが、高校までの数学では詳しくは学んでいない事項が多くあります。高校までのような初等的なユークリッド幾何を学習するのではなく、位相空間の入門となる距離空間までを学習範囲とします。
■学習の要点	高校までで知っているつもりの数学用語でも今一度しっかり定義を確認しましょう。テキストをただ眺めるのではなく、自分で例を考えながら読み進めましょう。テキストは位相空間にも言及していますが、この科目では第 4 章の距離空間までを必読範囲とします。
■学習の到達目標	学習の到達目標・論理記号を用いて証明ができる。・ユークリッド空間内の開集合・閉集合・内部・外部・境界を理解する。・簡単な距離空間の例を理解する。
■成績評価の基準	・リポートについて。第 1 第 2 設題ともに、考え方の記述・数学記号の用い方も含め、全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。・最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	解析学概論				単位	4.0
担当者	伊藤　翼			シラバスグループ	TS5571	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
追補版　解析学のための微分積分入門	長田尚・剣持信幸	佛教大学	[ISBN]9784907177317

■授業の概要	「１変数関数の微分積分」について学習を行います．微分積分は数学の基礎として数学の多くの分野で応用されるだけでなく，自然科学や工学，情報科学および人文社会科学においても応用される極めて重要なものです．この科目では１変数実数値関数に対する微分積分の概念を理解し，計算に習熟することを目指します．学習内容としては高校数学における「数Ⅱ」と「数Ⅲ」の延長にあたり，高校数学の内容を新たな観点から再定義することから始め，最終的にはテイラー展開や広義積分といった，より高度な概念の学習を目指します．
■学習の要点	テキストをただ眺めるのではなく，登場する定理などの証明を頭で理解しながら読み進めてください．テキストにある問や練習問題を解くことで計算力を養い，理解を深めてください．問題に取り組むときは答えだけでなく，途中計算や文章による説明を必ず書いてください．テキストの後半では２変数関数の微分積分についても書かれていますが，この科目では第４章までを必読範囲とします．
■学習の到達目標	・数列・関数の極限について理解し，計算することができる．・初等関数に関する基本的な計算ができる．・１変数関数の微分について理解し，その応用ができる．・１変数関数の積分について理解し，その応用ができる．
■成績評価の基準	リポート：第 1 設題と第 2 設題ともに，全ての問において概ね正答であることを受理の基準とする．最終試験：論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし，60 点以上を合格とする．

授業科目	確率論				単位	4.0
担当者	堀内　遼・藤木　美江			シラバスグループ	TS5576	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
明解演習　数理統計	小寺 平治	共立出版	[ISBN]9784320013810

■授業の概要	本講義では，統計的な物の見方や考え方を養うと同時に，基本的な統計モデル及び確率モデルの基礎知識，また、推測統計の基礎知識の習得を目的とする．具体的に，記述統計で必要となるデータやグラフの読み方，代表値や散らばりの指標などの計算のしくみについて学ぶ．推測統計で用いられる確率，確率変数などの定義と，その性質を示し，推測統計の方法である推定と検定の考え方とその使用方法について学ぶ.
■学習の要点	テキストは演習に重きを置いているので、定義や考え方に疑問がある場合には参考文献を参照してください。数学用語や記号は本によって定義が違うことがありますので、複数の文献に当たる場合は必ず最初に定義を確認しましょう。
■学習の到達目標	学習の到達目標・確率論の数学的な基礎が理解できること。・統計学の基本概念が理解できること。　・代表的な確率分布を知る。・推定・検定を行える。
■成績評価の基準	・リポートについて。第 1 第 2 設題ともに、考え方の記述・数学記号の用い方も含め全ての問において概ね正答であることをリポート受理の基準とする。・最終試験について。論理的な記述・数学記号の用法も採点対象とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	中等教科教育法社会Ⅰ				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。２．学習指導要領「第１ 目標」のポイントについて理解を深める。３．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会Ⅱ				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5653	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会科授業づくりの理論と方法本質的な問いを生かした科学的探求学習	渡部　竜也・井手口　泰典　著	明治図書	[ISBN]9784183429230

■授業の概要	「社会１」では、中学校社会科指導の表層について理解し、授業を構想した。本科目（「社会２)」では、社会科教育をより深く理解するための学習を展開する。具体的には、「科学的探求学習」の視点に基づき、より本質的な社会認識形成を意図する学習指導のあり方を考える。
■学習の要点	①今日の社会科授業の現状と課題を把握する。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解する。③「問いの構造図」について理解を深める。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解を深める。⑤「科学的探求学習」の授業プランについて考えを深める。
■学習の到達目標	①今日の社会科授業の現状と課題を指摘できる。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解している。③「問いの構造図」について理解している。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解している。⑤「科学的探求学習」の授業プランを構想することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法数学Ⅰ				単位	4.0
担当者	二澤　善紀			シラバスグループ	TS5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中等数学科教育の理論と実践	二澤　善紀 編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623094080

■授業の概要	中学校・高等学校における生徒の学力が課題となっており，生徒の実態に応じた授業運営ができる資質が教員に求められている。そこで，数学教育の課題を明らかにし，授業研究のあり方について考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し，数学教育で生徒に身につけさせたい能力とは何かを理解し，各領域内容の特性を把握した上で学習指導案を作成する重要となる。また，生徒の学習欲を喚起するような授業の導入が重要である。テキストの各章末に示した参考文献等を活用して，更に深く理解することが望ましい。
■学習の到達目標	問題はテキストの内容に即して出題をするので，要点をまとめて記述できるようにしておくこと。また，その他の文献から問題に関連する内容について触れても良いが，それが大半を占めるような記述とならないように注意すること。
■成績評価の基準	問われている内容について解答できているか。解答の内容について，わかりやすく筋道立てて説明がなされているか。解答者の理解度が判断できる解答か。

授業科目	中等教科教育法数学Ⅱ				単位	4.0
担当者	月岡　卓也			シラバスグループ	TS5658	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説数学編平成29年7月	文部科学省	日本文教出版	[ISBN]9784536590129
高等学校学習指導要領（平成30年告示)解説　数学編理数編平成30年7月	文部科学省	学校図書	[ISBN] 9784762505355

■授業の概要	高等学校までの数学科の内容について，学習指導要領解説をもとに，その全体像を把握することを目的とします．また，大学で学ぶ数学との関わりについて理解していきます．
■学習の要点	代数学的，幾何学的、解析学的なアプローチから，「数学」という学問の総合的な理解を目指します．また，身の周りに応用されている数学についても深く考える機会を持ち，数学の汎用性と有効性を体得することを目的とします．
■学習の到達目標	・中学数学，高等学校数学の目的，内容，関連性について自身の言葉で明確に理解している．・代数的，幾何学的，解析学的な手法を正しく理解し，それらを適切に運用できる．
■成績評価の基準	リポート設題では，全ての問題に正解することを求め添削指導します．また，科目最終試験では，数学の答案として体をなしているかについても評価します．

授業科目	特別支援教育概論				単位	4.0
担当者	堀家　由妃代			シラバスグループ	TS5672	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教職教育編⑤　特別支援教育	原　幸一・堀家　由妃代編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081882

■授業の概要	この科目では、障害のある子どもに対する教育の変遷と現状を知るとともに、障害のある子どもに対する教育理念や今日的課題についても学ぶことを目的とする。　特に平成 19 年度に特殊教育から特別支援教育へと法制度が変わり、さらに平成 24 年からはインクルーシブ教育が目指されるようになったが、その背景には、障害のある児童生徒の教育をめぐる諸情勢にどのような変化があったのかを理解し、特別支援教育に移行した意義を学ぶ。さらに構築された理念の実現に向けての特別支援教育の在り方や基本的な考え方についても学習していくものである。
■学習の要点	学習するにあたっては、指定テキストを熟読し、障害児教育の歴史的変遷や新たに特別支援教育の対象となった障害のある児童生徒を含めて、対象児に対して用意される学びの場や学びの内容などの特別支援教育に関する基本的な知識について、下記の５点を主に理解をすることを念頭に置くとよい。①特殊教育から特別支援教育、そしてインクルーシブ教育へのパラダイムシフトとその意義について②障害児の発達特性･障害特性と教育方法について③特別支援教育における教育課程について④ノーマライゼーションやインクルーシブ教育の理念について⑤特別支援教育を担当する教師の専門性について
■学習の到達目標	科目最終試験の出題の意図から外れないように、注意すること。学習の要点に書かれた内容を参考にして、テキストを中心に学んだ内容を記述すること。　評価のポイントは、出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて正確に説明できているかにある。「学習の要点」を踏まえていない場合には、自らの経験や自説をいくら述べても評価されない。
■成績評価の基準	科目最終試験において設題を理解し、要点をおさえた的確な解答ができていること。設題に関わる知識を正しく理解し、設題のポイントをおさえた解答ができているか等で総合的に判断する。知識理解の不十分さだけでなく、誤字脱字や文章表現、論理の飛躍などについては減点されることがある。

授業科目	肢体不自由児の心理・生理・病理				単位	2.0
担当者	松村　京子			シラバスグループ	TS5675	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる肢体不自由教育やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ	安藤隆男 編著 他	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072507

■授業の概要	肢体不自由児に関する心理学的情報と生理・病理的情報から、肢体不自由のある児童生徒の心理・生理・病理についての基礎知識を学ぶ。また肢体不自由児に対する教育を行う上で考慮すべき随伴障害についての知識も学ぶ。
■学習の要点	本科目を学習するにあたっては、テキストを熟読し、肢体不自由に関する基礎知識や心理・生理・病理的特性について、発達支援の視点から学んでほしい。また、脳性疾患に多く随伴する障害や運動障害に関連する顕著な二次障害についても学んでもらいたい。 ① 肢体不自由の定義と分類、原因、心理的特性等について理解し、あわせて脳性麻痺児に対する支援方法について考えておくこと。 ② 中途障害の心理と障害受容について理解し、あわせてそれらの支援方法について考えておくこと。 ③ 肢体不自由教育におけるアセスメントの意義と方法について理解し、あわせてその活用について考えておくこと。 ④ 脳性麻痺の原因とその症状について理解し、その教育的対応について考えておくこと。 ⑤ てんかんの定義と分類について理解し、その教育的対応について考えておくこと。 ⑥ 脳の機能局在の視点から心身の病理と症状について理解しておくこと。
■学習の到達目標	① 肢体不自由児を指導する際に必要となる生理･病理に関する基礎知識を理解する。 ② 肢体不自由児を指導する際に必要となる心理に関する基礎知識を理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	重複障害・軽度発達障害児の指導法				単位	2.0
担当者	澤田　均			シラバスグループ	TS5683	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる発達障害 ： LD・ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群〔第 2 版〕	小野次朗ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623057368
エピソードで学ぶ 障碍の重い子どもの理解と支援	菅原伸康/渡邊照美　編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073115

■授業の概要	重複障害児や軽度発達障害児の学び場と教育課程及び指導の実際から、それぞれの障害を有する子どもに対する教育の現状と課題を理解し、双方の特別支援教育における指導方法の基礎基本を学ぶ。あわせて、重複障害と軽度発達障害の基礎的概念についても学ぶ。
■学習の要点	指定テキストを熟読し、重複障害児や軽度発達障害児に関する基礎知識を発達支援の視点から学んでもらいたい。ヒトの行動を時間系列的に理解しながら、健康状態と家族関係などの環境因子及び性格などの個人因子と関連づけたそれぞれの障害の概念を理解することを念頭に置くとよい。その上で固有の障害に対して、用意されている制度や教育課程を活用し、必要となる具体的な働きかけの方法、場面設定等の工夫や配慮などを具体的に考えていくことが大切なこととなる。①　発達障害や重複障害の概念について②　重複障害児の理解と指導・支援の基本について③　高機能自閉症・アスペルガー症候群の定義や基本特性の理解と指導・支援のあり方について④　注意欠陥多動性障害（ADHD）の定義や基本特性の理解と指導・支援のあり方について⑤　学習障害(LD)の定義や個々に異なる認知特性の理解と指導・支援のあり方について
■学習の到達目標	①　重複障害や軽度発達障害の基礎的概念を理解する。②　重複障害児が就学する特別支援学校等の教育課程について理解する。③　重複障害児に対する各教科・自立活動等における指導法の基礎・基本を理解する。④　軽度発達障害児が活用できる「通級による指導」の制度と教育課程について理解する。⑤　軽度発達障害児に対する各教科等における指導法の基礎基本を理解する。
■成績評価の基準	出題の主旨を適切に理解し、キーワードや事項をとらえて的確に説明できているかどうかが評価の基準となる。

授業科目	職業教育及び職業指導				単位	4.0
担当者	大森　弘子			シラバスグループ	TS5748	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる生徒指導・キャリア教育	小泉令三編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623056156

■授業の概要	近年の日本社会は、高等教育機関（大学・専門学校等も含む）への進学率が高い。この教育期間の延長によって、「職業に従事して社会的に自立するのは遠い先のことである」と考える若者を増加させる傾向にある。また、産業構造の変化や雇用形態の多様化などを背景として将来への不透明さが増加する傾向にあり、そのことが「ニート」を助長している面もある。本科目は職業の問題は人々の「在り方・生き方」と大きく関わっているという視点から、「職業教育及び職業指導」について、基礎理論及びその実務について学校教育及び社会教育の両視点から解説し、人間が「生きる力」を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるように導くキャリア教育である。
■学習の要点	「キャリア教育」の展開について理解し、職業の問題について、人の「在り方、生き方」の視点で学習していただきたい。また、具体的に理解しておくべき内容を以下に挙げる。１．職業の語義と三要素について理解する。２．職業指導の意味を理解する。３．職業適性検査の実施上の留意点を学習する。４．職業選択の中で、特性・因子理論、構造（精神分析）理論、職業的発達理論の内容を理解する。５．進路選択における現代社会の課題を考察する。
■学習の到達目標	１．学校での職業教育について、職業選択の基本となる理論を学ぶ。２．学校での職業教育について、その実務を理解する。
■成績評価の基準	１．リポートは、定められた字数を有効に活用すること。テキストの丸写しや字数不足は、不合格とする。職業の課題に関わる基本的事項を理解しているか、日本社会の産業構造の変化を捉えることができいるかを点検する。２．学校での職業指導について、そのどれだけ理解しているかを点検する。また、リポートの論の展開が明確であるかどうかが成績評価のポイントとなる。

授業科目	社会教育課題研究				単位	2.0
担当者	堤　拓也			シラバスグループ	TS5756	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会教育の施設論　―社会教育の空間的展開を考える―	鈴木眞理･井上伸良･大木真徳　編著	学文社	[ISBN]9784762025136

■授業の概要	公民館･図書館・青少年教育施設をはじめとする社会教育施設は、私たちの身近な存在でありながらも、改めて学習することは少ないと思われます。本履修では、その役割や運営についてテキストから学び、実際例にも関心をもって考察を深めてください。この科目は、「社会教育実習」において行われる「社会教育施設での業務実習」に関する基礎知識を習得する機会にも位置付けられています。
■学習の要点	第 1 設題では、社会教育施設の概要と民間との連携などの今日的な課題について考えます。学校教育とは異なる社会教育の特質、また社会状況の変化を考えながらテキストを読み進めましょう。第 2 設題では、実際の社会教育施設（公民館、図書館、博物館、青少年教育施設、男女共同参画センター、文化会館等）の活動について深く学びます。
■学習の到達目標	１．社会教育とはどのような教育かを説明できる。２．国や地方自治体が設置する社会教育施設の役割について説明できる。３．社会教育施設の運営について、官民連携などの現代的課題を説明できる。
■成績評価の基準	科目最終試験は、以下のような基準で採点します。１．問題の要求にきちんと応えられている。２．記述がテキストの内容を踏まえている。３．テキストで使われた専門用語を正確に使用している。　４．解答の記述字数が適当である。

授業科目	臨床教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5780	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
臨床教育学	矢野智司・西平直	共同出版	[ISBN]9784319003242

■授業の概要	テキストの『臨床教育学』は、臨床教育学をはじめて学ぼうとする人たちには、入門書の役割をはたすが、すでに臨床教育学について知識のある読者にも読むに値するだけの新たな思考の展開がなされており、たんなる教科書ではなく、教科書の姿をとった研究書でもある。人間についての知は、哲学や歴史学や地理学、教育学や心理学や人類学、生物学や医学といったように、多数の学問領域に分化し専門化している。しかし、この学問の細分化と専門化とは、人間の教育を考えるときには問題が多い。なにより具体的で実践的なかかわりをともなう教育では、専門的垣根を超えて人間をトータルにとらえることが求めているからだ。このように考えると、「人間の教育」こそが、こうして細分化され専門化した知を実践的見地からふたたび結びあわせる結節点となるのではないかと考えられる。そして「臨床 - 教育 - 学」という用語間のうちにのっぴきならない緊張をはらんだ名称を戴く学問は、こうした知の結節点としての役割をさらに尖鋭化させる領域となるだろう。「臨床教育学」は、人間の教育にかかわる課題が人間の知にとって極限として突出してくるクリティカル・ポイントに当たるといえよう。本書は、こうした人間の教育にかかわる知の課題を、自覚的に受けとめようとしている。　その内容は、「動物」「ライフサイクル」「語りえないもの」に、「身体」「芸術」「教師のタクト」に、「現象学」「仏教」そして「パトスの知」である。この雑多にも見える多様な広がりが臨床教育学にとって意味をもつ。表面上の多様さとは裏腹に、これらの論考はたがいに緊密につながっている。この論考のあいだには、領域横断的にまた主題横断的に、内的な地下通路が網の目のように何本も走っている。そのことによって各論考はたがいに響きあい新たな意味を生みだしてもいる。しかもその通路の数は潜在的には無数である。受講者は自身の力によって新たな通路を発見してほしい。
■学習の要点	1．矢野論文を読み、人間の固有性を語るために人間と動物との境界線を論じることがもたらす問題について考える。これはこのテクストの最も基本的な構造と関わっている。2．西平論文・井谷論文・奥井論文・小松論文を読み、臨床教育学と演劇との関係についての思考を深める。3．矢野論文・小野論文・坂井論文・西平論文を読み、臨床教育学と生命との関係について思考を深める。4．池田論文・西平論文・田端論文・小野論文を読み、臨床教育学を語るための論理として逆接が多用される理由を理解する。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕に沿って学習することが、最も効果的で最善の試験対策となる。〔学習の要点〕をふまえない解答は、合格とはならない。評価の観点としては、理解・認識・把握の、的確さ・深さを問う。試験当日は、まず、問題文をしっかり読み、求められているものは何かを的確につかんだ上で、解答に取り掛かること。解答はたくさん書くほど点数がよくなるというものではない。

■成績評価の基準	自らの教育観、保育観が記されているかどうかを評価する。

授業科目	理科教育法Ⅱ				単位	2.0
担当者	平田　豊誠			シラバスグループ	TS5537	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座　教科教育編④初等理科教育	山下　芳樹 編著･平田　豊誠 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623082001

■授業の概要	小学校理科教育の理論と実践について授業を進めます。A 区分：物質・エネルギー（エネルギー，粒子），B 区分：生命・地球の観察や実験の授業を取り上げ，授業づくりの視点や方法について学んでいきます。安全な観察・実験の方法を学びつつ，学習指導案を作成し授業を実施できるようにしていきます。
■学習の要点	子どもが自然に働きかけて，自然から働きかえされるという相互作用によって，子どもは自然からさまざまな情報を受け取って自然を認識していきます。そしてその過程で人間的成長を遂げていくのです。教師はそのための援助・支援をする。この一連の過程が理科教育の本質です。　まずテキスト学習を確実にしっかりと行ってください。通信教育はテキスト学習が基本です。テキスト学習は「通学課程」の授業に相当します。テキストのすべての記述に目を通して，このテキストにはどういうことが書かれているかを学び，考えを深めてください。　テキスト第Ⅰ部では，理科教育に託された先人たちの思いをもとに学習指導要領の読み解き方や理科の学習論を学びます。第Ⅱ部では，深い学びをさそう授業作りの手引きとして，エネルギー，粒子，生命，地球という 4 つの領域において具体例をもとに授業を考えていきます。第Ⅲ部では，学び続ける小学校教員としての研究のあり方や専門性について学んでいきます。　そして，各章の最後にある学習の課題をはじめ，興味・関心のある部分と，リポートの設題に関係する部分を重点的に学習するとともに，科目最終試験に向けて特に次の諸点を詳しく読みとって，理解し考えてください。　1.「なぜ理科を学ぶのか」という問いに自分なりの回答を考えてみる。科学の特徴，日常生活との関連，理科の見方・考え方，探求の過程などに基づいて理科を指導する意義を考える。　2．テキストおよび小学校学習指導要領解説理科編をもとに，理科は何を教える教科かを考える。　3．理科の教え方，学び方（指導論・学習論）について考える。特に構成主義学習論を中心に学習を深める。　4．授業づくりにおいて，深い学びとなるような授業を考える。エネルギー，粒子，生命，地球の 4 領域において具体例をもとに学習を深め，具体の単元を例に教材研究を行う（理科指導に適した情報機器及び教材などの ICT 活用を含む）。　5．理科学習指導案について学習を深め，任意の単元を取り上げ，学習指導案を書き，模擬授業を行い，その様子を録画し，記録動画を用いた省察を行い，今後の課題を考える。その際，観察や実験における安全指導にも留意すること。6．理科における評価を次のキーフレーズをもとに考える。･目標に準拠した評価と観点別学習状況の評価，･指導と評価の一体化，･新しい学習評価の考え方。なお国立教育政策研究所の育課程研究センター発行の【「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料】の小学校編「理科」をよく確認すること。

■学習の到達目標	小学校教員として必要な理科における学習内容の知識や技能を身につけ，自ら実践することができる。学習指導要領と理科学習論に基づいた授業設計を行い，学習指導案を作成することができる。１．理科という教科の意義・目標を理解する。２．理科の学習領域・内容を理解する。３．理科における学力と評価の在り方について理解する。４．理科指導技術の基本を身につけている。５．理科指導に適した情報機器及び教材の活用能力を身につけている。
■成績評価の基準	学習の到達目標や学習の要点について問い，理解度を評価します。 テキスト学習の成果を判断します。テキスト学習の成果が認められない場合は不合格となります。 引用や引用文献の記載が適切になされていないもの，剽窃・盗用が疑われるもの，他と類似の内容となっているもの等，不正が疑われるものは合格とならない場合があります。 テキスト以外からの引用について，出典等が明記されていないものは合格とならない場合があります。 第2設題の動画の容量が100MBを超えている場合には添削対象外とすることがあります。 リポー

授業科目	社会調査論				単位	4.0
担当者	山口　洋			シラバスグループ	TT5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会調査へのアプローチ　論理と方法	大谷信介ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066544

■授業の概要	社会現象を把握するためには社会調査が不可欠です。とはいえ、どのような対象をどのような問題意識で調査するかによって、社会調査の方法はさまざまです。ここでは種々の調査方法の特色と手順の概略を理解することが目的です。 この科目はテキスト履修科目ですから、テキストを読むことが主な学習方法になります。しかし社会調査論の場合、ただ単にテキストを読むのではなく、自分で調査を実施するつもりになってテキストを読むことをおすすめします。そうすることで初めて理解できる事柄が沢山あります。リポート設題の「１」は、そのような趣旨のものとご理解ください。
■学習の要点	以下の６点に留意しつつ、テキスト・参考文献を読んでください。 １．調査によって検証される仮説をどのように構成したらよいかについてまとめておくこと。 ２．様々なサンプリングの技法の概要とその特徴をまとめておくこと。 ３．調査票の構成や質問文の作り方について学習すること。 ４．調査票調査の主な実施方法（面接、留置、郵送、集合、電話）の特徴についてまとめておくこと。 ５．聞き取り調査の意義と実施上の注意点について学習すること。 ６．参与観察の意義と実施上の注意点について学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は「学習の要点」の各項目について、テキスト・参考文献のポイントをおさえつつ、具体例をあげながら説明できることです。
■成績評価の基準	試験の採点は加点方式を基本とします。つまり、あるポイントがきちんと説明されていれば何点、さらに別のあるポイントが説明されていれば何点、という具合に加点します。ピント外れの事を大量に書いても得点にはなりません。具体例をあげながら、各ポイントを的確かつ簡潔にまとめるようにしてください。また文章全体のまとまりや分かりやすさに応じて加点･減点します。テキストや他の参考文献の丸写しは評価できませんので、ご注意ください。

授業科目	社会学原論				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5205	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会学原論（岩波テキストブックス）	宮島喬	岩波書店	[ISBN]9784000289092

■授業の概要	「社会学」という学問は、近代社会の成立によって誕生したが、それは近代社会そのものを相対化する営みでもある。本科目の目的は、社会学の主要な学説・理論を確認するとともに、社会学的な思考方法（＝社会学的なモノの見方）を習得することにある。
■学習の要点	・社会学が近代化とともに誕生したこと、現代社会において社会学の枠組みも問い直しを迫られていることを理解する。・社会構造と行為（あるいは客観と主観、マクロとミクロ）の関係について考える。・ジェンダー／階層／エスニシティなどの問題について、社会学がどのようなアプローチをしてきたのかを把握する。
■学習の到達目標	(1) 社会学の基本知識の習得(2) 社会学的視点の獲得
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	社会学史				単位	4.0
担当者	辰巳　伸知			シラバスグループ	TT5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
クロニクル社会学（有斐閣アルマ）	那須壽	有斐閣	[ISBN]9784641120419

■授業の概要	社会学は、19 世紀前半フランスのオーギュスト・コントによってその名を与えられ、それ以降さまざまな社会学者がさまざまな学説を提唱し、今日に至っている。社会学史は、そのような社会学の歴史を扱う科目であるが、それは決して博物館に陳列されている過去の遺物を懐古的に観賞するようなことをねらいにするのではない。社会学者たちは、彼らが生きた時代の現実と知的に格闘してきた。主として時代的制約のゆえに、彼らが提唱した学説は、そのままわれわれが現在直面している現実に適用することはできないかもしれない。しかし、そういった制約ゆえの欠落や歪みにも関わらず、多くの社会学者が提唱した学説は、現代社会に鋭く切りこんでいく手段を提供してくれるのである。欠落や歪みについて考察することすら、われわれが生きる現代社会に対するセンスを研ぎすまさせてくれるであろう。社会学史とは、すぐれものがいっぱいつまった「道具箱」なのである。
■学習の要点	1．戦後アメリカでパーソンズの理論が登場し、一定期間絶大な影響力をもったこと、およびその影響力がその後減退したことについて、他の学説やアメリカ社会のあり方と関わらせて考えてほしい。2．『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』をはじめとするウェーバーの宗教社会学では何を解明しようとされていたのか考えてほしい。3．ハーバーマスのコミュニケーション概念は、単なるコミュニケーション論を展開するだけに用いられたのではないことを理解してほしい。4．「意味学派」として一括総称される反客観主義的立場について、学説ごとに検討してほしい。5．日常生活の対面的状況に特に留意したゴフマンのユニークさについて学んでほしい。6．「構造と主体的行為」というテーマに関して、ギデンズはどう考えたかということについて学んでほしい。
■学習の到達目標	この「社会学史」は、多くの社会学史とは異なって、比較的現在に近い社会学者や学説を学ぶことを目指している。したがって、より古典的な社会学者や学説（たとえば、コントやマルクス、デュルケム等）についての知識をある程度前提にしているところがあるので、その点留意してほしい。　科目最終試験に際しては、論述の一貫性を重視する。あまりに冗長な論述は歓迎しない。試験問題に応じた要所をおさえた内容にしてほしい。また、あまりに分量の少ない論述（500 字以下）には合格点を与えない。それなりに内容のある文章には、ある程度の量が必要だからである。　リポートとは異なって、自分の意見や考えを書く必要はない。また、テキストの内容にとどまっていたとしても、論述に一貫性があり要点をおさえておれば、90 点を上限に評価する。他の文献からの学習成果がうかがえれば、その内容に応じて加点する。
■成績評価の基準	設問との正確な対応。論述の一貫性。相応の分量。

授業科目	家族社会学				単位	4.0
担当者	柳下　実			シラバスグループ	TT5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
２１世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた〔第４版〕(有斐閣選書　１６１３)	落合恵美子著	有斐閣	[ISBN]9784641281462

■授業の概要	家族社会学は家族及び家族問題を研究する社会学の一分野であり、家族の歴史、制度、形態、機能など、多様な観点から研究がおこなわれている。特に近年では、社会史や人口学的視点からアプローチする家族変動論に注目が集まっている。　本科目では「近代家族」（家族愛で結ばれ、プライバシーを重んじ、夫は稼ぎ手で妻は主婦として性別分業を行い、子どもに対して強い愛情と教育関心を注ぐ家族）という概念をもとに、日本の家族はどのように変化してきたのか、歴史的、地域的な文脈を考慮にいれながら、日本の戦後の家族変動の実態とこれからのゆくえについて理解を深めてほしい。
■学習の要点	まず、テキスト全体に目を通すことが求められる。次に以下のテーマについて論じられている箇所を熟読し、内容をしっかりと理解する必要がある。　１.「家事と主婦の誕生」について　２.「二人っ子革命」について　３.「人口学的世代」について　４.「近代家族」について　５.「家族の双系化」について　6.「個人を単位とする社会」について
■学習の到達目標	１．家族のあり方は絶対的なものではなく、時代や社会とともに変化していくことを理解する。２．現代日本の家族の原型である「家族の戦後体制」について説明できるようにする。３．戦後の日本の家族体制の特徴について、①家事と専業主婦の誕生、②人口学的世代、③二人っ子革命、④ウーマンリブ運動、⑤家族の双系化から理解する。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	アイデンティティ論				単位	4.0
担当者	近藤　敏夫			シラバスグループ	TT5213	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自己と他者の社会学（有斐閣アルマ）	井上俊ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641122758

■授業の概要	アイデンティティとは自己のあり方や自己についての感覚、つまり、自分がどんな人物であるのかというあり方や感覚のことです。このアイデンティティの自覚には、自己が他者と異なっているという感覚がともないます。社会学ではアイデンティティを他者との社会関係に位置づけて問題にしてきました。古典的な考え方では、アイデンティティはジェンダー、エスニシティ、居住地、学歴、職歴などの確固とした核をもち、比較的固定したもの、また一貫したものであると考えられてきました。これに対して、現代ではアイデンティティがファッションを通して示されたり、ヴァーチャルな他者との関係で形成されたりするようになりました。アイデンティティは流動的で変化しやすいものであると考えられるようになっています。　テキストでは社会学の理論に基づいて現代日本における自己や他者、アイデンティティの問題が様々な角度から考察されています。受講生は各人の経験を反省して、アイデンティティの意味について考えてください。
■学習の要点	（1）テキスト第1章を中心に、自我の主体的側面と社会的側面の関連について要約し、それに対する自分の考えをまとめてください。（2）テキスト第3章を中心に、ゴッフマンの劇場論について要約してください。その際、社会の成員が演劇のパフォーマー（役者）やゲームの参加者に譬えられることの意義について考察してください。（3）テキスト第5章を中心に、自己の同一性が獲得されるメカニズムについて要約してください。その際、現在の自己と過去の自己との関係、自己を物語るときに用いるカテゴリーに留意してください。（4）テキスト第 10 章を中心に、模倣が自己形成に与える影響について要約してください。その際、現代日本ではヴァーチャルな他者に対する位置づけが変化してきたことに留意してください。（5）テキスト第 11 章を中心に、ファッションを通して「私らしさ」を表現することの意義と問題点を要約してください。その際、ファッションを媒介とした自己と他者との相互理解のあり方に留意してください。（6）テキスト第 13 章を中心に、「社会的アイデンティティ」が付与されるメカニズムについて要約してください。その際、「異質な他者」との関わり方にみられる問題点に留意してください。
■学習の到達目標	科目最終試験の問題は「学習の要点」に準じて作成してあります。学習の６つの要点にしたがって、テキストの該当箇所を簡潔にまとめておいてください。自分の考えがある人は、テキストの考え方をまとめた後で書いてください。自分の考えだけしか書いてない場合は、テキストを理解していないものとみなし、合格点には達しません。
■成績評価の基準	テキストの要点がまとめられているかどうかを基本とします。また、テキストや参考文献を基にして自分自身の考え方を答えた場合も、論旨が明解ならば合格点とします。

授業科目	社会意識論				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代日本人の意識構造〔第九版〕	NHK 放送文化研究所	NHK 出版	[ISBN]9784140912607

■授業の概要	戦後、日本社会が急激に変化するに伴って私たちの意識も大きく変わってきた。テキストでは、1973 年以降５年ごとに行われた調査結果がまとめられている。結婚・家族、政治、仕事・余暇、日常生活、生活目標などの領域における意識の変化を学ぶことを通して、社会の変化と意識がどのように関連しているかを考える。
■学習の要点	テキストをよく読み、社会意識の変化を理解するとともに、その社会的背景をおさえること。
■学習の到達目標	(1) 戦後から現代までの日本における意識構造の理解(2) 人々の意識と社会状況との関係の把握
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	現代文化論				単位	4.0
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	TT0323	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代文化を学ぶ人のために全訂新版	井上俊	世界思想社	[ISBN]9784790716365

■授業の概要	本科目では、現代社会における文化の諸相を知り、具体的な社会状況の中でどのような文化現象が生じているのかを探求する。 これまで社会学においても文化という概念には複数の意味が付与されてきた。昔日の意味における「文化」は人間精神を高めてくれる芸術や文学作品という教養主義的な含意が強く込められていたが、近年では「ポピュラー文化」「メディア文化」といったように、かつての教養主義的意味合いは薄れてきている。 グローバル化が進展し、「文化」と呼ばれる諸領域が拡張する現代社会において、人間社会と文化の関係性はどのように変貌しつつあるのだろうか。また、一般に言われるように文化はそれ自体が素朴に良きものであり、例えば社会における権力や政治とはあまり関係のないものなのだろうか。本科目は、こうした文化をめぐる諸状況を多面的な観点から考えていくものである。
■学習の要点	科目概要において述べたように、現代社会における文化の概念や文化現象は極めて多義的なものである。まずは現代における文化現象がメディアや観光、あるいはファッションや音楽といったそれぞれの分野に応じて、どのように展開されているのかに関心をもってほしい。その上で、表面的に展開されているメディア上の言説や、流行現象の細部が、抽象的な文化社会学の理論的観点からはどのように理解できるのかを考えていく必要がある。 また、文化現象は社会の具体的な動向、経済変動や政治的な問題と密接な関係をもっている場合が多い。例えばマイケル・ジャクソンの文化的表象は、アメリカにおける人種問題をめぐる経緯と切り離されてはありえないのである。 例えば、以下のような点に留意してみてほしい。・現代のグローバル化現象のもので、文化がいかに変容しつつあるのかについて考える。・現実の都市空間の物理的な変化が、そこで生活し消費する人々にとってどのような価値観の変化をもたらしたのか。・「クール・ジャパン」や「大規模スポーツイベント」を、単なる流行現象の一つとしてではなく、政治的・経済的な動向との関係性において理解する。・いわゆるポピュラー音楽を消費する人々は、どのような意味において当該流行現象を受容しているのか、その多面性について考える。
■学習の到達目標	テキストを十分に読解し、そして受講者が個別に関心をもつ文化現象と、具体的な社会状況の変動との関係性について理解することが目標である。科目最終試験では、メディア文化やポピュラー文化、都市空間の変容など、いずれか一つの分野における知見を突き詰めて展開することとなる。
■成績評価の基準	テキスト読解・テキスト内容要約に大きな誤りがないかどうかをまず確認します。その上で、より正確・丁寧な議論の展開を行えているかどうかが、主な評価基準です。プラスアルファとして、自身で自由に調べてきた他の本・資料の内容に触れられれば内容に応じて加点が行われます。

授業科目	現代宗教論				単位	4.0
担当者	大谷　栄一			シラバスグループ	TT5219	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教社会学を学ぶ人のために	井上　順孝　編	世界思想社	[ISBN]9784790716822

■授業の概要	この科目では、宗教社会学の研究視点から、現代宗教の分析を行う。宗教社会学とは「宗教と社会」の関係や宗教集団の社会的側面を調査・研究する学問である。宗教社会学の視点を身につけるためには、テキストの第Ⅰ部にあるように、「宗教社会学の基礎理論」を学ぶことが求められる。そのうえで、テキストの第Ⅱ部の「現代社会と宗教社会学」の学修を通じて、現代宗教の特徴を把握してほしい。　宗教社会学は何を問い、何を明らかにしてきたのか、その学説史を学び、現代社会における宗教をめぐるさまざまな問題を理解し、分析することが、本科目の目的である。
■学習の要点	本科目では、まず、「宗教社会学の基礎理論」として、宗教社会学の創始者であるフランスの社会学者エミール・デュルケム、ドイツの社会学者マックス・ウェーバー、ドイツの社会学者ゲオルグ・ジンメルの宗教社会学説を学修する。　ついで、「現代社会と宗教社会学」の問題として、近現代日本の「社会変動と宗教」の関係について学修する。　具体的には、第Ⅰ部の「第１章　宗教社会学の源流」と第Ⅱ部の「第５章　近代化と日本の宗教」をリポートの範囲とする。
■学習の到達目標	１．宗教社会学の基本的な学説を把握すること。 ２．近代化による「社会変動と宗教」の関係を理解すること。
■成績評価の基準	１．テキストの内容を十分に理解していること（25%）。２．テキストの概念を的確に理解していること（25%）。３．自分独自の意見や主張があること（25%）。４．文章に論理的な整合性・一貫性があること（25%）。

授業科目	共生の社会学			単位	4.0
担当者	大束　貢生		シラバスグループ	TT0331	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
排除と差別の社会学　新版	好井裕明　編	有斐閣	[ISBN]9784641281400

■授業の概要	私たちの生活している社会には様々な不平等や抑圧があります。こうした中では、私たちは無意識のうちに抑圧する側にいる可能性があります。一方私たちは自分が「抑圧されている」と感じることも多々あります。いったい私たちは「誰かに傷つけられ誰かを傷つける」ことをいつまで繰り返せばいいのでしょうか。この科目では様々な抑圧について学びながら、その問題と私たち自身の問題がどのように関係しているのかについて考えていきたいと思います。こうした中から、「弱いモノたちがさらに弱いものをたたく」という抑圧の起こる社会学的要因について考えたいと思います。あなたとわたし、違いを認め合う方がよりよく生きられることを一緒に考えてみませんか。「みんなちがって、みんないい。」のですから。
■学習の要点	社会学での共生の問題は、「共生」という価値観、すなわち「互いの違いを積極的に認め合って関係しながら生きる」という価値観は、「何故あるのか、いつからあるのか、今後どのようになっていくのか」が問題です。さまざまな場面での抑圧や差別の問題について、テキストや参考文献を読んでください。またこうした「共生」の価値観と前近代社会、近代社会の価値観との関係に留意しておいてください。　１．排除・差別問題と当事者の問題について。　２．学校と「ひきこもり」の問題について。　３．ジェンダーと同性愛の問題について。　４．近代社会と障害者の問題について。　５．原発事故と「復興災害」の問題について。　６．多文化共生と外国人の問題について。
■学習の到達目標	「あなた自身の個人的な悩みや問題」の抑圧性・被抑圧性と、あなた自身の問題でない問題の抑圧性･被抑圧性が、どのように社会の中で関係しているのかについての理解が必要です。
■成績評価の基準	抑圧性の議論と被抑圧性の議論の両方の議論の展開とその理解度によって採点を行います。

授業科目	ジェンダー論				単位	4.0
担当者	大束　貢生			シラバスグループ	TT5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ジェンダーで学ぶ社会学 全訂新版	伊藤公雄・牟田和恵　編	世界思想社	[ISBN]9784790716686

■授業の概要	現代社会における女性と男性の差（ジェンダー）が私たちの人間関係にどのような影響を与えているのかについて考えます。私たちが取り結ぶ人間関係の中では「女」と「男」は欠かせない話題のようです。男の友情はすばらしいと思ったり、女は情けが深いと思ったり。「男は女を好きになり、女は男を好きになる」と思い込んでいたり。でも、はたして根拠はあるのでしょうか。私たちのジェンダーに対する意識とジェンダーが社会に与えている影響を考えていきたいと思います。
■学習の要点	あなた自身がなぜ「女性／男性」であると考えているのかについて自問しながら学習してください。キーワードは、性別役割分業、異性愛主義、男性中心社会、女性嫌悪、同性愛嫌悪です。　1．学ぶこと-学校の中のジェンダー　2．外で働くこと-労働とジェンダー　3．家で働くこと-家事とジェンダー　4．つながること-友人関係とジェンダー　5．闘うこと-軍隊とジェンダー　6．愛すること-恋愛とジェンダー
■学習の到達目標	学習の要点に書かれたキーワード「性別役割分業、異性愛主義、男性中心社会、女性嫌悪、同性愛嫌悪」を使用して、具体的な現象を説明できることです。
■成績評価の基準	学習の要点に書かれた用語が理解できているかどうかを科目最終試験で測ります。またその理解度によって成績評価を行います。

授業科目	臨床社会学				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会病理学と臨床社会学：臨床と社会学的研究のブリッジング（社会病理学講座；4）	畠中宗一ほか	学文社	[ISBN]9784762012723

■授業の概要	「臨床社会学」とは、研究者自身が、様々な社会的現実の「現場」にかかわりながら、そこでの体験をふまえて社会学的研究を行うとともに、それらの社会学的知見を「現場」にフィードバックさせていく営みである。　本科目の目的は、臨床社会学の可能性を、具体的な研究事例に即して理解することにある。併せて、臨床社会学の視点から、身の回りの「社会的現実」を問い直してほしい。
■学習の要点	・他の学問分野（家族社会学、医療社会学、社会福祉学、臨床心理学等）と比較しながら、「臨床社会学」の意義を理解する。・臨床社会学の研究事例を通して、現代社会を自分なりに問い直す視座を獲得する。
■学習の到達目標	(1) 臨床社会学についての基本知識の習得(2) 臨床社会学的視点の獲得
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	保健医療社会学				単位	4.0
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	TT5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
医療化のポリティクス（シリーズ社会問題研究の最前線 1）	森田洋司ほか編	学文社	[ISBN]9784762016028

■授業の概要	「医療化」とは何か、「医療化」の諸相、「医療化」の問題点と今後の展望などを主として、われわれの身体をとりまく状況の変容から現代社会を捉えなおす。
■学習の要点	「医療化」に関わる問題について、さまざまな事例から具体的に考えてください。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】テキストの学習を通じて、「医療」や「健康」をどう考えるのか、自分の意見を明確にできるようになる。【成績評価の基準および「答案」作成上の留意点】・論旨のあいまいなものは、大幅に減点します。・誤字・脱字についても、その数に応じて減点します。
■成績評価の基準	リポートは、つぎの諸点を鑑み、総合的に評価します・内容が設題に対応しているか・学術的なスタイルで書かれているか・用語が正確に使用されているか・論旨は明確か・論拠が適切に提示されているか

授業科目	情報・メディアとコミュニケーション				単位	4.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TT0341	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャル･メディア論･改訂版　つながりを再設計する	藤代裕之編著	青弓社	[ISBN]9784787234490

■授業の概要	近年におけるメディアの変化は著しく、特にソーシャルメディアの発展に代表される個人からの情報発信は時にはマス・メディアの影響力を上回るほどになっている。このようなデジタルコミュニケーションの発達はユーザー/消費者の利便性の向上をもたらした一方で、情報洪水、炎上･誤報、ステルスマーケティングなどの新たな問題も引き起こしている。「情報」「メディア」「コミュニケーション」のいずれも元来の意味はオンラインに限定されたものではなく、長い期間をかけて進化してきたものである。ただし、インターネットの普及に伴う「情報」「メディア」「コミュニケーション」の変化は、社会にも大きな影響を与え、現在では「情報社会」と呼ばれるものの基盤となっている。　本講義では、情報社会における主要構成概念である「情報」「メディア」「コミュニケーション」のそれぞれについて学習することで、現在起こっているさまざまな事象への理解を深めることを意図している。
■学習の要点	本講義指定のテキストでは、「情報」「メディア」「コミュニケーション」のそれぞれについて主要なトピックが章ごとにまとめられている。そのため、まずはテキストの内容を的確に把握することが必要となる。テキストを読み進めていけば「情報」「メディア」「コミュニケーション」の各分野が独立したものではなく、相互に依存した関係であることが理解できる。例えば、「コミュニケーション」の欲求が「メディア」の発達を促し、「情報」量の増大が「コミュニケーション」の阻害要因となったことで、更なる「メディア」の発達を促すといった具合に、「情報」「メディア」「コミュニケーション」の関係性を捉えることができるようになる。言い換えれば、「コミュニケーション」の問題を考えるに当たっては、「情報」と「メディア」の両方の視点が必要になるということであり、そうした点で各分野の基礎知識を網羅することが「情報・メディアとコミュニケーション」という科目を考える上では重要となる。　なお、各章には参考文献も記載されているため、必要に応じて活用して欲しい。
■学習の到達目標	本講義では、「情報」「メディア」「コミュニケーション」に関連した各分野における基礎知識を身につけるとともに、最新事例について把握することを目的としている。加えて、それらの知識や事例を有機的に結び付け、自身の考えに応用可能となることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。また、受講者自身の意見を記載することを重視しているため、エビデンスを示した上で意見を論理的に記載できているような場合に高得点を与える。

授業科目	情報社会論				単位	4.0
担当者	長光　太志			シラバスグループ	TT0342	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
メディア社会論	辻泉	有斐閣	[ISBN]9784641150553

■授業の概要	本科目では、情報化の進展によって個人や社会システムにどのような変化が生じているのかを理解することを目的とする。そのために、「メディア社会論」において論じられる「流動化」「個人化」「再帰化」の 3 つの項目について検討する。まず「流動化」の項目では、これまでのメディアの来歴が「流動化」というキーワードに即して解釈される。つぎに「個人化」の項目では、現代社会におけるメディアの功罪を「個人化」というキーワードを軸に読み解く。最後に「再帰化」の項目ではこれまでの様々なメディアを反省的に比較検討し、「再帰化」というキーワードを手掛かりとして、メディアが作り上げる情報化社会のよりベターな在り方を構想する。
■学習の要点	情報社会の歴史は新しいが、日々変化している。このような情報社会を理解するためには、過去から現在というクロノロジカルな視点を持ち、その先に未来の可能性を構想することが大切である。近代の情報化は、情報の一方向的発信から始まり、次第に双方向的な情報化へと展開してきた。その中で社会は、情報をネットワーク化し、モバイル・デバイスを発達させ、より変化に富むコンテンツを生み出すようになった。一方で社会の情報化は、私たちの生活にこれまでにないほど微細に入り込み、監視やコントロールの媒体ともなる。我々はこうした変化を総体として検討し、より良い未来を構想する必要がある。そのため、特に、下記の問いについて留意しながら学習を進めることが肝要となる。 (1) これまでメディアがそのような経緯を辿って発達してきたのか (2) 現在のメディアが持つ具体的な功罪とは何か (3) 今後の情報化社会（≒メディア社会）は、メディアの来歴や功罪を踏まえると、どのように構想できるか？

■学習の到達目標	情報社会に関する包括的理解。

■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	コンピュータ論				単位	4.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TT0343	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
コンピュータと情報システム[第 2 版]	草薙信照著	サイエンス社	[ISBN]9784781913698

■授業の概要	今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されている。コンピュータは計算する道具から、データ処理の道具、そして情報を引き出し、整理し、分析した上でその結果を分かりやすく提示したり、情報を発信する道具、さらには日常生活のあらゆる道具を制御する装置になりつつある。この科目の第１の目的は、何故コンピュータが計算機に留まらず今日のような展開ができたのかについて、ハード装置の構成や動作の仕組み（例：何故 2 進数をベースにおくのか、データサイズの容量等）を理解することである。第２の目的は、コンピュータ利用の現状と問題について理解することであるが、それについては、情報通信ネットワーク、情報システムは、今やコンピュータと切り離すことができない必要不可欠な関係にあるので、同時にこういった項目についても学習したい。
■学習の要点	本科目で取り上げるテキストにおいては、各項目について、トピックのみを抜き出して、箇条書きのように説明がされていて、多少分かりにくい部分があると思うが、全ての項目は裏ではきちんとリンクしている。その点については注意して学習して欲しい。例えば、例を挙げると、コンピュータは電気を動力源にして作動している→スイッチの ON/OFF で区別するしかない→2 進数で情報を区別するしかない→データの容量も 2 進数で表現するしかない→1M は 1024byte になる、といったような事である。つまり、コンピュータのハードと周辺の環境も全てつながっている。テキストはそれらを項目別に区別して論じているので、つながりがあいまいであるが、各項目はつながっているので、どこでどうつながっているのかを考えながら学習していただきたい。加えて、コンピュータは今や、情報システム、情報通信ネットワークの基幹機器であるので、付加的知識としてそれについても学習して欲しい。
■学習の到達目標	科目の概要で示した第１・第２の目的にかかわる部分についての諸見解を理解した上で、自分なりの評価軸が持てるようになることを目標としている。また、コンピュータのハードとソフトについては、コンピュータの発明以来めざましい発展をしてきており、その変遷を自らが理解することが到達目標となる。
■成績評価の基準	リポート：設題に対して的確に、かつ詳細に述べ、論理的に矛盾がないかどうかが添削のポイントとなる。科目最終試験：問題に対して、包括的に全体像をとらえているか。かつそれぞれの項目がもれなく詳細に述べられているかが評価の基準となる。

授業科目	メディア文化論				単位	4.0
担当者	大場　吾郎			シラバスグループ	TT0344	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
メディア文化論　メディアを学ぶ人のための 15 話	吉見俊哉	有斐閣	[ISBN]9784641124875

■授業の概要	本科目の狙いはメディアに関する歴史的かつ社会学的な展開やアプローチ、そして解釈について基礎的な知識を身につけると共に社会文化としてのメディアを体系的に考察することである。現代のデジタルメディア時代における様々なメディアと日常生活との関係性をどのように「メディア文化」として読み取ればいいのか、身近なメディアと文化の形をどのように社会学として位置づけうるのか、過去から今に至るまでの変容はなぜ、そしてどのように行われてきたのかなどなど、本科目ではこうした問いの答えを探ることを目指す。テキストでは様々なメディアの具体的な事例をあげながら文化へのアプローチの方法と解釈について説明されているので本テキスト履修を通して現在のメディア環境に応用できるように力を身につけてもらいたい。
■学習の要点	まず、テキストの総論をしっかり読み取ることが重要である。そして、テキストのなかで事例として取り上げられている様々なメディアを「文化」として捉えることとは何か、「メディア文化」のような考察のための方法論は何なのか、そして、結局こうした研究から分かってきた成果は何かといった問題点の回答をしっかり理解してほしい。また、参考文献のリストも要チェックである。今年度は社会学の基礎的な専門用語を各自の日常メディア実践の中で探し、適応することを目指すためのリポート設題を準備した。テキスト及び関連する参考文献や論文もしっかり読み込みながら、専門用語や理論を理解することから始めよう。その次のステップは、理解した内容を、自分の生活の中で応用してみることである。
■学習の到達目標	マスメディアの発展と社会における影響を理解すること。
■成績評価の基準	テキストについて理解しているかどうか。また、箇条書きではなく、論理的な文章で書いているかどうか。

授業科目	社会心理学				単位	4.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TV5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在として誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自己や社会的認知、コミュニケーションなどについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　自己と態度 2　対人行動の仕組みと援助 3　社会的認知 4　対人コミュニケーション 5　社会環境と環境のもつ意味 6　文化的な自己と機能
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5402	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イメージの人類学	箭内匡	せりか書房	[ISBN]9784796703734

■授業の概要	20 世紀の人類学は、民族誌的フィールドワークの原点となる 1922 年のマリノフスキの著作『西太平洋の遠洋航海者』を出発点とし、理論的に大きく飛躍したレヴィ＝ストロースの構造主義を通過した後、クリフォードらによる『文化を書く』などの 1980 年代の文化人類学批判を受け止め、グローバル化する 1990 年代以降、新たな展開を遂げています。このような学術的な流れの中、この授業では、箭内匡の『イメージの人類学』をテキストとして、人間と自然の関係を中心に、人類学の最新の議論を学ぶことを目的とします。このテキストは、著者自身を含む人類学者が残した民族誌だけでなく、民族誌的映画作品や哲学についても言及しながら、人類学の古典的著作と、フィリップ・デスコラやティム・インゴルドといった 1990 年代以降の人類学の議論を結びつけるものです。テキストの前半部分は、理論的枠組みの議論が中心となっており、そこでは「イメージ」と「社会身体」という二つの概念を理解します。後半部分では、これらの概念の理解をもとに、おもに「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について学びます。これらの議論を通じて、箭内が主張する現代的人類学の方向性を学びます。
■学習の要点	本授業のテキストは、「はじめに」、第１章から第９章、「おわりに」の 11 パートに分かれています。難解な用語も出てきますが、それぞれのパートの主張は明確ですので、それをつかみ取るように丁寧に読み進めてください。「はじめに」では 1990 年代から 2000 年代にかけて起きた人類学の変化について解説されています。テキストの前半部分である第１章から第５章までは理論的枠組みが示されており、人類学の古典的著作にも言及しながら、「イメージ」、「不可量部分」、「脱イメージ化と再イメージ化」、「イメージ平面」、「社会身体」といった概念を論じています。テキストの後半部分である第６章から第９章では、これらの概念の理解をもとに、フィリップ・デスコラやヴィヴェイロス・デ・カストロなどのアニミズムをめぐる 1990 年代以降の著作を用いながら、「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について議論を深めています。とくに「ディナミスム」については箭内独自の議論が行われています。ここまでの議論はその後も引き継がれ、「近代性についての人類学」と「自然と身体をテーマとする人類学」の議論へと展開していきます。最後の「おわりに」では、「人類学的直観」に加え、「一回的なもの」と「反復的なもの」について論じられています。このように本テキストのテーマは多岐にわたり、人類学の最新の議論を提示しようと試みています。また哲学者からの引用も多く、理論的に難解な個所も複数ありますが、図や写真を数多く用いながら、古典から最新の著作まで、さらには民族誌的映画も取り上げて、できるだけ分かりやすい言葉で、中心となる議論がぶれないように丁寧に書かれたテキストです。図や写真を手掛かりにしながら粘り強く読み進め、このテキストが繰り返し主張する現代的人類学のあり方をつかみ取ってください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	政治社会学				単位	4.0
担当者	上田　道明			シラバスグループ	TV5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治学をつかむ	苅部直ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641177154

■授業の概要	「政治」とは何かという問いには様々な答えがあり得ます。例えば、政治に関するよく知られた定義として、「社会に対する価値の権威的配分」（D. イーストン）というものがあります。この場合、政治の機能とは、限りある資源や価値を何らかの強制力のもとに配分することを意味します。別の言い方をすれば、社会において、その構成員全てに関わるような決定がなされるとき、政治という社会現象が生じると言えるでしょう。政治社会学では、我々の社会的生活に多大な影響を及ぼす「政治」という営みを対象に、政治と社会の関係のあり方を考察します。政治社会学に関連する文献をみると、政治に関わる主体に注目する場合には、権力、投票行動、圧力団体などの概念が登場します。また、政策プロセスのあり方を論じる場合には、官僚制、ネットワーク、リーダーシップなどの概念が用いられます。さらに、国際社会における政治を考察する場合には、グローバリゼーション、地域主義、ナショナリズムなどのキーワードが登場します。このような概念は、社会経済が急速に変動するなか、高度化・複雑化しつつある政治という現象を理解するために必要不可欠な視角となります。この科目では、テキストによる学習を通して、政治と社会の関係のあり方を見直すために必要な概念や制度に関する理解を深めるとともに、現実の政治社会に対する論理的な思考を養うことを目標とします。
■学習の要点	1.「政治」をめぐる議論にはどのようなものがあるのでしょうか。権力と自由、政治的多元主義、国家と社会、「新しい市民社会」、現代社会における個人化、国家の役割などの論点を手掛かりに学習していきましょう。2．デモクラシーの歴史的な経緯と課題について学びましょう。デモクラシーの思想の系譜、デモクラシーの多様な側面と近年における変容、福祉国家が直面する様々な課題、現代における非民主的体制、政治教育などの視点から考察しましょう。3．現代日本の政治の現状と課題について、「55 年体制」の特徴、政策決定過程における政治家と官僚の関係、自民党一党優位の時代における政治の問題点、近年における政治改革と行政改革の取組み、民主党政権成立前後の動向などの論点を中心に学習しましょう。4．政治参加の主要な形態である選挙について、有権者の投票行動、選挙制度の変化と選挙結果の関係などの視点から考察しましょう。また、政治社会におけるマス・メディアの影響力はどのように捉えられるのでしょうか。テレビ報道の態様、マス・メディアの実態に注目しましょう。5．国際政治の様々な問題について学びましょう。国際政治の歴史的な経緯、ナショナリズムやテクノロジーが国際政治に及ぼした衝撃、国際社会におけるデモクラシーの役割、人道的介入の正当性などの論点から検討していきましょう。6．グローバリゼーションの諸側面、EU（欧州連合）と移民問題、戦争責任をめぐる歴史認識と政治との関わり、アジアにおける地域主義のゆくえ、政治課題として近年注目される環境とジェンダーの問題などの視点から、「政治」の今後の課題と方向性を考察しましょう。

■学習の到達目標	テキストを通じての学習の結果、概念や用語とともに、テキスト上の各トピックを正確に理解の上、それらを筋道を立てて論じられるようになることを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解するとともに論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。答案の作成にあたっては、出題の要点を正しく把握するとともに、概念や用語を正確に理解し、筋道の通った表現ができているかどうかという点にも留意してください。

授業科目	情報通信ネットワーク論				単位	4.0
担当者	長尾　文孝			シラバスグループ	TT0504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
おうちで学べるネットワークのきほん	Gene	翔泳社	[ISBN]9784798125268

■授業の概要	狼煙、伝書鳩、駅制等を経てきた情報通信の歴史は、年月を重ねながらコンピュータを介した情報通信ネットワークに変化してきている。現在ではユビキタス・ネットワーク（いつ、どこにいても情報通信サービスを利用できる偏在的ネットワーク）の時代へと発展しつつあり、経済・社会インフラの一つとしてコンピュータネットワークが情報通信ネットワークの主な役割を担うようになっている。したがって、現在の情報ネットワーク社会において、コンピュータによる情報通信ネットワークは関わりを避けては生きてゆけないものとなっている。これゆえ、現在、情報通信ネットワークの仕組みを理解することは、急速に発展し続ける情報ネットワーク社会に対応するために必要不可欠なものであると考えられる。加えて、今後のコンピュータネットワーク社会に対する先見性を養うためにも重要なことであると思われる。本科目は、コンピュータネットワークの基礎である LAN および WAN の接続方式や TCP/IP に代表される通信プロトコル等、ハードとソフト両方からネットワークシステムについて学習することによって、情報通信ネットワークの現在の状況および構築するための知識、さらにはその問題点を理解することを目的とする。
■学習の要点	情報通信ネットワークは今やコンピュータがその役割のほとんどを果たしているといってよい。したがって、現在の情報通信を理解するにはコンピュータネットワークの概観を捉えることが第一に必要である。コンピュータネットワークとは何か、LAN あるいは Internet の仕組みを把握し、コンピュータネットワークシステムの歩んできた歴史を学習することによって、現在のネットワーク技術の全体像をとらえる。その上で、通信プロトコルの階層化と各プロトコルの役割や利便性と問題点を学び、LAN やインターネットにおける情報をやり取りする仕組みを詳細に理解すべきである。これに加えて、対応するハード（サーバ、ルータ、ハブ等）による情報伝達の仕組みに関する知識を得ることによって、コンピュータネットワークを利用する側、あるいは管理する側からの知識を学び、コンピュータネットワークの機能と現在の情報通信ネットワークに対する理解を深めて欲しい。その上で、情報通信ネットワーク技術の向上と発展が社会にもたらしている利便性と問題点について、新たに思考して欲しい。
■学習の到達目標	現在の情報通信ネットワークを支えている技術、主には、TCP/IP の各プロトコルについて知識を習得することが第一の目標である。また、情報通信ネットワークの仕組みと便利さについて実感すると同時に、過去では考えられなかったような問題が起きていることも、頭のどこかに置いておけるように学習していただきたい。
■成績評価の基準	リポート：設題に対して詳細にかつ論理的に矛盾がない論述がされていることが、受理か否かを決める基準である。科目最終試験：問題に対して全てふれていて、欠落がない論述であること。全てにわたって矛盾がない正確な論述であることが、主な評価基準である。

授業科目	広告・広報論				単位	4.0
担当者	樋口　摩彌			シラバスグループ	TT0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　広告・広報論	藤澤武夫	佛教大学通信教育部	[ISBN] 9784861543357

■授業の概要	「戦争は平和である 自由は屈従である 無知は力である」この言葉は、かの有名なディストピア小説、ジョージ・オーウェル『1984 年』に出てくる、有名な言葉である。昨今の情報過多ともいえる社会の中、「無知」とはどういうことなのか。また「知」と「力」とはどのようにつながるのか。近年の、情報技術がもたらすコミュニケーションの広がりと迅速化により、いつ、誰が、どこで、何を、どのように伝えるかということは、テクストよりも重要な「情報」である。ネット広告、TV 広告、企業広告、企業広報、行政広報などの巧妙かつ、影響を与えた広告は、これを戦略的に実行している。こうした社会的な背景を受けて、広報活動の基礎概念と現代の広告の実態を、研究するのが本講義の狙いである。そして情報の送り手とその受け手、双方のスタンスを検証し、「知」を想像する立場、「力」を生み出す展開を認識・会得するのが、本講義の目的である。したがって、本講義は、アカデミックなアプローチとともに、現代社会や日常生活に即した、「大衆」そして「大衆を引導する少数」の視点を重点を置き、コミュニケーションの世界を分析する。
■学習の要点	・広告とは何か。広報とは何か。現代社会の中で、不可欠となったこれらの情報を、生活体験の中でとらえ、正しく認識する。・広告の機能は本来経済的なものであったが、最近では文化的、社会的な機能も有している。それらを認識し理解する。・各自が一生活者として、広告・広報情報を、受け手の立場で認識すること。こうして「広告・広報」の向こう側を考察し、社会全体を分析する。・「ブランディング」は広告表現をはじめ、「あり方」すべてに通じる概念である。広告を通じて「ブランディング」を実践し、「ブランディング」が「力」になる瞬間を考察する。・広告表現における著作権をはじめ、知的財産権や差別問題などの倫理に関する、基本的知識を得る。・近年発展が著しいネット広告の実態を分析し、広告を創造できる人材になる。
■学習の到達目標	いずれもテキストを精読、考察し、現代社会を分析すれば、解答は導かれます。特に難しく考える必要はありません。ただし「学習の要点」に書かれた ポイントは的確に押さえること。また、広告や広報は、日常生活に浸透しています。したがって、日々の暮らしの中から、具体的な事例を考えておき、それを論述してください。それが自身の意見、考察に結びつき、評価対象となります。
■成績評価の基準	設題、試験は履修者と教員の重要なコミュニケーション手段です。わかりやすさを重要視してください。なお、誤字脱字や不明瞭な「てにをは」の使用がないように留意してください。

授業科目	情報産業論				単位	4.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TV5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アップル、アマゾン、グーグルの競争戦略	雨宮寛二　著	NTT 出版	[ISBN]9784757122901

■授業の概要	本講義では、情報産業の中でも近年支配的な地位を確立しつつある、アップル・アマゾン・グーグルの 3 社について中心的に扱う。各社の競争戦略を比較しながら学習することで、情報産業において重要となるコンセプトについて理解することを講義の目的とする。
■学習の要点	アップル・アマゾン・グーグルの 3 社の競争戦略を理解するためには、情報産業に関する基本的な知識とビジネスモデルの理解が必要となる。そのため、本講義指定のテキストを通読したのちに、改めて最初から読み直してみることを勧めたい。また、不明なキーワードやコンセプトがあれば、検索サイト等を通じて積極的に自分から調べてみてほしい。
■学習の到達目標	アップル・アマゾン・グーグルの競争戦略について概要を理解しつつ、情報産業において重要となるコンセプトがどのように反映されているかを説明できるようになることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。

授業科目	集団・組織論				単位	4.0
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	TT5406	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
集団と組織の社会学　集合的アイデンティティのダイナミクス	山田　真茂留・著	世界思想社	[ISBN]9784790717010

■授業の概要	この科目は､「集団･組織論」となっているが、ここではとくに、現代的な組織について学習する。　現代では人間にとって組織に関わらずに生活することはできない。組織への関与と帰属が人生時間の多くを占めているだけではなく、生活の質にも大きく影響を与える。そうした組織への関与と帰属を有意味にするために、現代組織の特質･特徴をよく理解しておくことが必要である。　この科目では、現代組織の内部的な構造と過程、および外部的社会環境と相互作用する組織の実態をとらえることを目的とする。
■学習の要点	まず、組織の様々な性質に注目して、コミュニティやアソシエーション、社会的アイデンティティといった基礎的な用語を確認する。これらを含めて「準拠集団」や「ゲマインシャフト」などの概念は古典的な社会学の土台となる組織社会学の用語である。つぎに、近代的な組織の二面性や相互関係についてみていく。マックス・ヴェーバーの「官僚制論」をはじめとして、組織文化の「逆機能」や「感情労働」といった問題点から､「社会関係資本」などより最近の議論を概観する。
■学習の到達目標	1．この科目の学習目標は、現代社会における組織の実態を理論的に理解することです。まず、基本的な用語としてコミュニティや、官僚制、準拠集団などの概念を正確に理解してください。そして、逆機能、感情労働、ネットワーク、社会関係資本などをよく理解することが必要です。2．現代の組織についてテキストでは多岐にわたって論じていますが、科目最終試験は、その全般にわたって問うことはできず、各論的な問題について理解を問うものですので、ご注意ください。ただ、各論といっても、細かい知識を求めるものではありません。各論の骨格のところを理解していれば、十分に書けるはずです。3．特に、主語と述語との対応には気を配ってください。
■成績評価の基準	テキストの正確な読解が行われているかどうかをまず確認します。その上で、プラスアルファとして自由に調べてきた他の文献への言及や具体的な出来事への考察が含まれていれば、より良い評価となります。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会形成史				単位	4.0
担当者	野﨑　敏郎			シラバスグループ	TV0509	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本資本主義百年の歩み：安政の開国から戦後改革まで	大石嘉一郎著	東京大学出版会	[ISBN]9784130421218

■授業の概要	日本資本主義は、歴史上、特異な政治的社会的背景のもとに導入され、また発展を遂げました。テキストは、こうした日本資本主義の歩みをたどりながら、その発達のメカニズムや特質や問題構造を解明し、またそこから今日の私たちの直面している経済問題への視座をも提供しています。　幕藩体制下の経済構造、幕末期におけるその変容、安政の開国が経済・産業にもたらした甚大な影響、明治政権下の財政・経済課題、殖産興業政策の展開、自由民権運動と明治憲法体制への移行、産業革命過程の進行、日本資本主義の国際経済との関係、農業と地主制、第一次世界大戦とそれ以降における日本資本主義の変容過程、独占の進行と労働問題、農村支配体制の問題、世界大恐慌にたいする対処策、農村経済の危機、日本資本主義の構造変化、国家独占資本主義への移行とその戦時体制への帰結、第二次世界大戦下の統制経済、戦後改革と経済の民主化が、主要なトピックです。
■学習の要点	幕藩体制下の経済が、すでに諸矛盾を抱えており、安政の開国によってそこに多様な変動要因が加わり、古い経済制度を保ちこたえることが不可能になったこと、封建的な諸制度から近代的な諸制度への移行にさいして大きな困難と問題が生じたこと、国家財政の問題が大規模な経済改革を必要としたこと、これによってさらに大きな経済的困難に直面した階層が自由民権運動の支持基盤になったこと、産業革命過程の進行には多様な様相があること、またその発展が国際経済下の競争によって大きな影響を被ること、第一次世界大戦によって日本の経済が大きな改変過程を迎えること、それは農村の支配体制や政治にも大きな影響を与えること、世界大恐慌への対応は、狭い意味における地域経済のみならず、社会経済関係全般にわたる大改革を必要とすること、戦時体制は日本資本主義に過剰な負荷をかけ、経済体制そのものの崩壊を招くこと、戦後改革は経済の民主化を重要な内容物として含むことが、主要な論点です。　近代への移行は、けっして自然の成り行きで進んでいったのではなく、そこには非常に鋭い緊張・対立・競争関係があり、そのなかで、さまざまな政治闘争を交えて、経済体制の変化が生じ、しかも日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦という一連の戦争が、経済変動に決定的な意味をもっています。戦後においても、朝鮮戦争を抜きにして日本資本主義の再建を語ることはできません。戦争の問題と経済の問題とを結びつけて考えることも重要です。
■学習の到達目標	テキストを読むことによって、日本資本主義の形成過程とその特質と問題性とを把握し、大きな歴史の流れを読み取ることが到達目標です。

■成績評価の基準	社会経済構造がどのような要因によってどのような変化を余儀なくされたか、またそれによって新しい社会がどのような特徴をもつようになったのかを明確に理解しているかどうかを評価します。

授業科目	日本史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	アジア史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	情報制作				単位	4.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TT0714	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
メディアプロデュースの世界（叢書現代の社会学とメディア研究　第 6 巻）	中橋雄・松本恭幸　編著	北樹出版	[ISBN]9784779303593

■授業の概要	従来、メディアプロデュースといえば、新聞・雑誌・テレビ・ラジオなどのマス媒体を前提にしたものが多かったが、インターネットの普及等を背景にして、現代では個人によるメディアプロデュースが容易になってきた。こうしたなか、この科目では、メディアプロデュースのためのメディアリテラシーについて学ぶとともに、メディアごとの表現や手法について、特に映像を事例に理解することを目標としている。
■学習の要点	情報制作を行う／指導するためには、メディアリテラシーやメディア表現に関する幅広い知見が必要である。設題にとりかかる前に、テキスト全体を通読し、不明な点はテキストの参考文献や実際の作品で確認することが望ましい。
■学習の到達目標	専門書の通読を通して、メディアリテラシーやドキュメンタリー映像の表現について、自分なりに考えを整理し、具体例を交えて論じられるようになることが本講義の到達目標となる。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。また、受講者自身の意見を記載することを重視しているため、エビデンスを示した上で意見を論理的に記載できているような場合に高得点を与える。

授業科目	社会調査論				単位	4.0
担当者	山口　洋			シラバスグループ	TT5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会調査へのアプローチ　論理と方法	大谷信介ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066544

■授業の概要	社会現象を把握するためには社会調査が不可欠です。とはいえ、どのような対象をどのような問題意識で調査するかによって、社会調査の方法はさまざまです。ここでは種々の調査方法の特色と手順の概略を理解することが目的です。　この科目はテキスト履修科目ですから、テキストを読むことが主な学習方法になります。しかし社会調査論の場合、ただ単にテキストを読むのではなく、自分で調査を実施するつもりになってテキストを読むことをおすすめします。そうすることで初めて理解できる事柄が沢山あります。リポート設題の「１」は、そのような趣旨のものとご理解ください。
■学習の要点	以下の６点に留意しつつ、テキスト・参考文献を読んでください。　１．調査によって検証される仮説をどのように構成したらよいかについてまとめておくこと。　２．様々なサンプリングの技法の概要とその特徴をまとめておくこと。　３．調査票の構成や質問文の作り方について学習すること。　４．調査票調査の主な実施方法（面接、留置、郵送、集合、電話）の特徴についてまとめておくこと。　５．聞き取り調査の意義と実施上の注意点について学習すること。　６．参与観察の意義と実施上の注意点について学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は「学習の要点」の各項目について、テキスト・参考文献のポイントをおさえつつ、具体例をあげながら説明できることです。
■成績評価の基準	試験の採点は加点方式を基本とします。つまり、あるポイントがきちんと説明されていれば何点、さらに別のあるポイントが説明されていれば何点、という具合に加点します。ピント外れの事を大量に書いても得点にはなりません。具体例をあげながら、各ポイントを的確かつ簡潔にまとめるようにしてください。また文章全体のまとまりや分かりやすさに応じて加点･減点します。テキストや他の参考文献の丸写しは評価できませんので、ご注意ください。

授業科目	社会学原論				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5205	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会学原論（岩波テキストブックス）	宮島喬	岩波書店	[ISBN]9784000289092

■授業の概要	「社会学」という学問は、近代社会の成立によって誕生したが、それは近代社会そのものを相対化する営みでもある。本科目の目的は、社会学の主要な学説・理論を確認するとともに、社会学的な思考方法（＝社会学的なモノの見方）を習得することにある。
■学習の要点	・社会学が近代化とともに誕生したこと、現代社会において社会学の枠組みも問い直しを迫られていることを理解する。・社会構造と行為（あるいは客観と主観、マクロとミクロ）の関係について考える。・ジェンダー／階層／エスニシティなどの問題について、社会学がどのようなアプローチをしてきたのかを把握する。
■学習の到達目標	(1) 社会学の基本知識の習得(2) 社会学的視点の獲得
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	社会学史				単位	4.0
担当者	辰巳　伸知			シラバスグループ	TT5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
クロニクル社会学（有斐閣アルマ）	那須壽	有斐閣	[ISBN]9784641120419

■授業の概要	社会学は、19 世紀前半フランスのオーギュスト・コントによってその名を与えられ、それ以降さまざまな社会学者がさまざまな学説を提唱し、今日に至っている。社会学史は、そのような社会学の歴史を扱う科目であるが、それは決して博物館に陳列されている過去の遺物を懐古的に観賞するようなことをねらいにするのではない。社会学者たちは、彼らが生きた時代の現実と知的に格闘してきた。主として時代的制約のゆえに、彼らが提唱した学説は、そのままわれわれが現在直面している現実に適用することはできないかもしれない。しかし、そういった制約ゆえの欠落や歪みにも関わらず、多くの社会学者が提唱した学説は、現代社会に鋭く切りこんでいく手段を提供してくれるのである。欠落や歪みについて考察することすら、われわれが生きる現代社会に対するセンスを研ぎすまさせてくれるであろう。社会学史とは、すぐれものがいっぱいつまった「道具箱」なのである。
■学習の要点	1．戦後アメリカでパーソンズの理論が登場し、一定期間絶大な影響力をもったこと、およびその影響力がその後減退したことについて、他の学説やアメリカ社会のあり方と関わらせて考えてほしい。2．『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』をはじめとするウェーバーの宗教社会学では何を解明しようとされていたのか考えてほしい。3．ハーバーマスのコミュニケーション概念は、単なるコミュニケーション論を展開するだけに用いられたのではないことを理解してほしい。4．「意味学派」として一括総称される反客観主義的立場について、学説ごとに検討してほしい。5．日常生活の対面的状況に特に留意したゴフマンのユニークさについて学んでほしい。6．「構造と主体的行為」というテーマに関して、ギデンズはどう考えたかということについて学んでほしい。
■学習の到達目標	この「社会学史」は、多くの社会学史とは異なって、比較的現在に近い社会学者や学説を学ぶことを目指している。したがって、より古典的な社会学者や学説（たとえば、コントやマルクス、デュルケム等）についての知識をある程度前提にしているところがあるので、その点留意してほしい。　科目最終試験に際しては、論述の一貫性を重視する。あまりに冗長な論述は歓迎しない。試験問題に応じた要所をおさえた内容にしてほしい。また、あまりに分量の少ない論述（500 字以下）には合格点を与えない。それなりに内容のある文章には、ある程度の量が必要だからである。　リポートとは異なって、自分の意見や考えを書く必要はない。また、テキストの内容にとどまっていたとしても、論述に一貫性があり要点をおさえておれば、90 点を上限に評価する。他の文献からの学習成果がうかがえれば、その内容に応じて加点する。
■成績評価の基準	設問との正確な対応。論述の一貫性。相応の分量。

授業科目	家族社会学				単位	4.0
担当者	柳下　実			シラバスグループ	TT5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
２１世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた〔第４版〕(有斐閣選書　１６１３)	落合恵美子著	有斐閣	[ISBN]9784641281462

■授業の概要	家族社会学は家族及び家族問題を研究する社会学の一分野であり、家族の歴史、制度、形態、機能など、多様な観点から研究がおこなわれている。特に近年では、社会史や人口学的視点からアプローチする家族変動論に注目が集まっている。　本科目では「近代家族」（家族愛で結ばれ、プライバシーを重んじ、夫は稼ぎ手で妻は主婦として性別分業を行い、子どもに対して強い愛情と教育関心を注ぐ家族）という概念をもとに、日本の家族はどのように変化してきたのか、歴史的、地域的な文脈を考慮にいれながら、日本の戦後の家族変動の実態とこれからのゆくえについて理解を深めてほしい。
■学習の要点	まず、テキスト全体に目を通すことが求められる。次に以下のテーマについて論じられている箇所を熟読し、内容をしっかりと理解する必要がある。　１.「家事と主婦の誕生」について　２.「二人っ子革命」について　３.「人口学的世代」について　４.「近代家族」について　５.「家族の双系化」について　6.「個人を単位とする社会」について
■学習の到達目標	１．家族のあり方は絶対的なものではなく、時代や社会とともに変化していくことを理解する。２．現代日本の家族の原型である「家族の戦後体制」について説明できるようにする。３．戦後の日本の家族体制の特徴について、①家事と専業主婦の誕生、②人口学的世代、③二人っ子革命、④ウーマンリブ運動、⑤家族の双系化から理解する。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	アイデンティティ論				単位	4.0
担当者	近藤　敏夫			シラバスグループ	TT5213	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自己と他者の社会学（有斐閣アルマ）	井上俊ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641122758

■授業の概要	アイデンティティとは自己のあり方や自己についての感覚、つまり、自分がどんな人物であるのかというあり方や感覚のことです。このアイデンティティの自覚には、自己が他者と異なっているという感覚がともないます。社会学ではアイデンティティを他者との社会関係に位置づけて問題にしてきました。古典的な考え方では、アイデンティティはジェンダー、エスニシティ、居住地、学歴、職歴などの確固とした核をもち、比較的固定したもの、また一貫したものであると考えられてきました。これに対して、現代ではアイデンティティがファッションを通して示されたり、ヴァーチャルな他者との関係で形成されたりするようになりました。アイデンティティは流動的で変化しやすいものであると考えられるようになっています。　テキストでは社会学の理論に基づいて現代日本における自己や他者、アイデンティティの問題が様々な角度から考察されています。受講生は各人の経験を反省して、アイデンティティの意味について考えてください。
■学習の要点	（1）テキスト第1章を中心に、自我の主体的側面と社会的側面の関連について要約し、それに対する自分の考えをまとめてください。（2）テキスト第3章を中心に、ゴッフマンの劇場論について要約してください。その際、社会の成員が演劇のパフォーマー（役者）やゲームの参加者に譬えられることの意義について考察してください。（3）テキスト第5章を中心に、自己の同一性が獲得されるメカニズムについて要約してください。その際、現在の自己と過去の自己との関係、自己を物語るときに用いるカテゴリーに留意してください。（4）テキスト第 10 章を中心に、模倣が自己形成に与える影響について要約してください。その際、現代日本ではヴァーチャルな他者に対する位置づけが変化してきたことに留意してください。（5）テキスト第 11 章を中心に、ファッションを通して「私らしさ」を表現することの意義と問題点を要約してください。その際、ファッションを媒介とした自己と他者との相互理解のあり方に留意してください。（6）テキスト第 13 章を中心に、「社会的アイデンティティ」が付与されるメカニズムについて要約してください。その際、「異質な他者」との関わり方にみられる問題点に留意してください。
■学習の到達目標	科目最終試験の問題は「学習の要点」に準じて作成してあります。学習の６つの要点にしたがって、テキストの該当箇所を簡潔にまとめておいてください。自分の考えがある人は、テキストの考え方をまとめた後で書いてください。自分の考えだけしか書いてない場合は、テキストを理解していないものとみなし、合格点には達しません。
■成績評価の基準	テキストの要点がまとめられているかどうかを基本とします。また、テキストや参考文献を基にして自分自身の考え方を答えた場合も、論旨が明解ならば合格点とします。

授業科目	社会意識論				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代日本人の意識構造〔第九版〕	NHK 放送文化研究所	NHK 出版	[ISBN]9784140912607

■授業の概要	戦後、日本社会が急激に変化するに伴って私たちの意識も大きく変わってきた。テキストでは、1973 年以降５年ごとに行われた調査結果がまとめられている。結婚・家族、政治、仕事・余暇、日常生活、生活目標などの領域における意識の変化を学ぶことを通して、社会の変化と意識がどのように関連しているかを考える。
■学習の要点	テキストをよく読み、社会意識の変化を理解するとともに、その社会的背景をおさえること。
■学習の到達目標	(1) 戦後から現代までの日本における意識構造の理解(2) 人々の意識と社会状況との関係の把握
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	現代宗教論				単位	4.0
担当者	大谷　栄一			シラバスグループ	TT5219	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教社会学を学ぶ人のために	井上　順孝　編	世界思想社	[ISBN]9784790716822

■授業の概要	この科目では、宗教社会学の研究視点から、現代宗教の分析を行う。宗教社会学とは「宗教と社会」の関係や宗教集団の社会的側面を調査・研究する学問である。宗教社会学の視点を身につけるためには、テキストの第Ⅰ部にあるように、「宗教社会学の基礎理論」を学ぶことが求められる。そのうえで、テキストの第Ⅱ部の「現代社会と宗教社会学」の学修を通じて、現代宗教の特徴を把握してほしい。　宗教社会学は何を問い、何を明らかにしてきたのか、その学説史を学び、現代社会における宗教をめぐるさまざまな問題を理解し、分析することが、本科目の目的である。
■学習の要点	本科目では、まず、「宗教社会学の基礎理論」として、宗教社会学の創始者であるフランスの社会学者エミール・デュルケム、ドイツの社会学者マックス・ウェーバー、ドイツの社会学者ゲオルグ・ジンメルの宗教社会学説を学修する。　ついで、「現代社会と宗教社会学」の問題として、近現代日本の「社会変動と宗教」の関係について学修する。　具体的には、第Ⅰ部の「第１章　宗教社会学の源流」と第Ⅱ部の「第５章　近代化と日本の宗教」をリポートの範囲とする。
■学習の到達目標	１．宗教社会学の基本的な学説を把握すること。 ２．近代化による「社会変動と宗教」の関係を理解すること。
■成績評価の基準	１．テキストの内容を十分に理解していること（25%）。２．テキストの概念を的確に理解していること（25%）。３．自分独自の意見や主張があること（25%）。４．文章に論理的な整合性・一貫性があること（25%）。

授業科目	ジェンダー論				単位	4.0
担当者	大束　貢生			シラバスグループ	TT5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
ジェンダーで学ぶ社会学 全訂新版	伊藤公雄・牟田和恵　編	世界思想社	[ISBN]9784790716686

■授業の概要	現代社会における女性と男性の差（ジェンダー）が私たちの人間関係にどのような影響を与えているのかについて考えます。私たちが取り結ぶ人間関係の中では「女」と「男」は欠かせない話題のようです。男の友情はすばらしいと思ったり、女は情けが深いと思ったり。「男は女を好きになり、女は男を好きになる」と思い込んでいたり。でも、はたして根拠はあるのでしょうか。私たちのジェンダーに対する意識とジェンダーが社会に与えている影響を考えていきたいと思います。
■学習の要点	あなた自身がなぜ「女性／男性」であると考えているのかについて自問しながら学習してください。キーワードは、性別役割分業、異性愛主義、男性中心社会、女性嫌悪、同性愛嫌悪です。　1．学ぶこと-学校の中のジェンダー　2．外で働くこと-労働とジェンダー　3．家で働くこと-家事とジェンダー　4．つながること-友人関係とジェンダー　5．闘うこと-軍隊とジェンダー　6．愛すること-恋愛とジェンダー
■学習の到達目標	学習の要点に書かれたキーワード「性別役割分業、異性愛主義、男性中心社会、女性嫌悪、同性愛嫌悪」を使用して、具体的な現象を説明できることです。
■成績評価の基準	学習の要点に書かれた用語が理解できているかどうかを科目最終試験で測ります。またその理解度によって成績評価を行います。

授業科目	臨床社会学				単位	4.0
担当者	長野　慎一			シラバスグループ	TT5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会病理学と臨床社会学：臨床と社会学的研究のブリッジング（社会病理学講座；4）	畠中宗一ほか	学文社	[ISBN]9784762012723

■授業の概要	「臨床社会学」とは、研究者自身が、様々な社会的現実の「現場」にかかわりながら、そこでの体験をふまえて社会学的研究を行うとともに、それらの社会学的知見を「現場」にフィードバックさせていく営みである。　本科目の目的は、臨床社会学の可能性を、具体的な研究事例に即して理解することにある。併せて、臨床社会学の視点から、身の回りの「社会的現実」を問い直してほしい。
■学習の要点	・他の学問分野（家族社会学、医療社会学、社会福祉学、臨床心理学等）と比較しながら、「臨床社会学」の意義を理解する。・臨床社会学の研究事例を通して、現代社会を自分なりに問い直す視座を獲得する。
■学習の到達目標	(1) 臨床社会学についての基本知識の習得(2) 臨床社会学的視点の獲得
■成績評価の基準	・上記の目標への到達度を評価する。つまり、テキストの内容理解と、それらについての自分なりの捉え方が問われることになる。・最終試験の評価にあたっては、出題趣旨やテキストの内容をふまえているか、自分なりによく考えられているかを重視し、さらに論理展開や文章表現・表記などを含めて総合的に判断する。

授業科目	保健医療社会学				単位	4.0
担当者	香西　豊子			シラバスグループ	TT5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
医療化のポリティクス（シリーズ社会問題研究の最前線 1）	森田洋司ほか編	学文社	[ISBN]9784762016028

■授業の概要	「医療化」とは何か、「医療化」の諸相、「医療化」の問題点と今後の展望などを主として、われわれの身体をとりまく状況の変容から現代社会を捉えなおす。
■学習の要点	「医療化」に関わる問題について、さまざまな事例から具体的に考えてください。
■学習の到達目標	【学習の到達目標】テキストの学習を通じて、「医療」や「健康」をどう考えるのか、自分の意見を明確にできるようになる。【成績評価の基準および「答案」作成上の留意点】・論旨のあいまいなものは、大幅に減点します。・誤字・脱字についても、その数に応じて減点します。
■成績評価の基準	リポートは、つぎの諸点を鑑み、総合的に評価します・内容が設題に対応しているか・学術的なスタイルで書かれているか・用語が正確に使用されているか・論旨は明確か・論拠が適切に提示されているか

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5402	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イメージの人類学	箭内匡	せりか書房	[ISBN]9784796703734

■授業の概要	20 世紀の人類学は、民族誌的フィールドワークの原点となる 1922 年のマリノフスキの著作『西太平洋の遠洋航海者』を出発点とし、理論的に大きく飛躍したレヴィ＝ストロースの構造主義を通過した後、クリフォードらによる『文化を書く』などの 1980 年代の文化人類学批判を受け止め、グローバル化する 1990 年代以降、新たな展開を遂げています。このような学術的な流れの中、この授業では、箭内匡の『イメージの人類学』をテキストとして、人間と自然の関係を中心に、人類学の最新の議論を学ぶことを目的とします。このテキストは、著者自身を含む人類学者が残した民族誌だけでなく、民族誌的映画作品や哲学についても言及しながら、人類学の古典的著作と、フィリップ・デスコラやティム・インゴルドといった 1990 年代以降の人類学の議論を結びつけるものです。テキストの前半部分は、理論的枠組みの議論が中心となっており、そこでは「イメージ」と「社会身体」という二つの概念を理解します。後半部分では、これらの概念の理解をもとに、おもに「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について学びます。これらの議論を通じて、箭内が主張する現代的人類学の方向性を学びます。
■学習の要点	本授業のテキストは、「はじめに」、第１章から第９章、「おわりに」の 11 パートに分かれています。難解な用語も出てきますが、それぞれのパートの主張は明確ですので、それをつかみ取るように丁寧に読み進めてください。「はじめに」では 1990 年代から 2000 年代にかけて起きた人類学の変化について解説されています。テキストの前半部分である第１章から第５章までは理論的枠組みが示されており、人類学の古典的著作にも言及しながら、「イメージ」、「不可量部分」、「脱イメージ化と再イメージ化」、「イメージ平面」、「社会身体」といった概念を論じています。テキストの後半部分である第６章から第９章では、これらの概念の理解をもとに、フィリップ・デスコラやヴィヴェイロス・デ・カストロなどのアニミズムをめぐる 1990 年代以降の著作を用いながら、「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について議論を深めています。とくに「ディナミスム」については箭内独自の議論が行われています。ここまでの議論はその後も引き継がれ、「近代性についての人類学」と「自然と身体をテーマとする人類学」の議論へと展開していきます。最後の「おわりに」では、「人類学的直観」に加え、「一回的なもの」と「反復的なもの」について論じられています。このように本テキストのテーマは多岐にわたり、人類学の最新の議論を提示しようと試みています。また哲学者からの引用も多く、理論的に難解な個所も複数ありますが、図や写真を数多く用いながら、古典から最新の著作まで、さらには民族誌的映画も取り上げて、できるだけ分かりやすい言葉で、中心となる議論がぶれないように丁寧に書かれたテキストです。図や写真を手掛かりにしながら粘り強く読み進め、このテキストが繰り返し主張する現代的人類学のあり方をつかみ取ってください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	政治社会学				単位	4.0
担当者	上田　道明			シラバスグループ	TV5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治学をつかむ	苅部直ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641177154

■授業の概要	「政治」とは何かという問いには様々な答えがあり得ます。例えば、政治に関するよく知られた定義として、「社会に対する価値の権威的配分」（D. イーストン）というものがあります。この場合、政治の機能とは、限りある資源や価値を何らかの強制力のもとに配分することを意味します。別の言い方をすれば、社会において、その構成員全てに関わるような決定がなされるとき、政治という社会現象が生じると言えるでしょう。政治社会学では、我々の社会的生活に多大な影響を及ぼす「政治」という営みを対象に、政治と社会の関係のあり方を考察します。政治社会学に関連する文献をみると、政治に関わる主体に注目する場合には、権力、投票行動、圧力団体などの概念が登場します。また、政策プロセスのあり方を論じる場合には、官僚制、ネットワーク、リーダーシップなどの概念が用いられます。さらに、国際社会における政治を考察する場合には、グローバリゼーション、地域主義、ナショナリズムなどのキーワードが登場します。このような概念は、社会経済が急速に変動するなか、高度化・複雑化しつつある政治という現象を理解するために必要不可欠な視角となります。この科目では、テキストによる学習を通して、政治と社会の関係のあり方を見直すために必要な概念や制度に関する理解を深めるとともに、現実の政治社会に対する論理的な思考を養うことを目標とします。
■学習の要点	1.「政治」をめぐる議論にはどのようなものがあるのでしょうか。権力と自由、政治的多元主義、国家と社会、「新しい市民社会」、現代社会における個人化、国家の役割などの論点を手掛かりに学習していきましょう。2．デモクラシーの歴史的な経緯と課題について学びましょう。デモクラシーの思想の系譜、デモクラシーの多様な側面と近年における変容、福祉国家が直面する様々な課題、現代における非民主的体制、政治教育などの視点から考察しましょう。3．現代日本の政治の現状と課題について、「55 年体制」の特徴、政策決定過程における政治家と官僚の関係、自民党一党優位の時代における政治の問題点、近年における政治改革と行政改革の取組み、民主党政権成立前後の動向などの論点を中心に学習しましょう。4．政治参加の主要な形態である選挙について、有権者の投票行動、選挙制度の変化と選挙結果の関係などの視点から考察しましょう。また、政治社会におけるマス・メディアの影響力はどのように捉えられるのでしょうか。テレビ報道の態様、マス・メディアの実態に注目しましょう。5．国際政治の様々な問題について学びましょう。国際政治の歴史的な経緯、ナショナリズムやテクノロジーが国際政治に及ぼした衝撃、国際社会におけるデモクラシーの役割、人道的介入の正当性などの論点から検討していきましょう。6．グローバリゼーションの諸側面、EU（欧州連合）と移民問題、戦争責任をめぐる歴史認識と政治との関わり、アジアにおける地域主義のゆくえ、政治課題として近年注目される環境とジェンダーの問題などの視点から、「政治」の今後の課題と方向性を考察しましょう。

■学習の到達目標	テキストを通じての学習の結果、概念や用語とともに、テキスト上の各トピックを正確に理解の上、それらを筋道を立てて論じられるようになることを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解するとともに論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。答案の作成にあたっては、出題の要点を正しく把握するとともに、概念や用語を正確に理解し、筋道の通った表現ができているかどうかという点にも留意してください。

授業科目	集団・組織論				単位	4.0
担当者	山本　奈生			シラバスグループ	TT5406	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
集団と組織の社会学　集合的アイデンティティのダイナミクス	山田　真茂留・著	世界思想社	[ISBN]9784790717010

■授業の概要	この科目は､「集団･組織論」となっているが、ここではとくに、現代的な組織について学習する。　現代では人間にとって組織に関わらずに生活することはできない。組織への関与と帰属が人生時間の多くを占めているだけではなく、生活の質にも大きく影響を与える。そうした組織への関与と帰属を有意味にするために、現代組織の特質･特徴をよく理解しておくことが必要である。　この科目では、現代組織の内部的な構造と過程、および外部的社会環境と相互作用する組織の実態をとらえることを目的とする。
■学習の要点	まず、組織の様々な性質に注目して、コミュニティやアソシエーション、社会的アイデンティティといった基礎的な用語を確認する。これらを含めて「準拠集団」や「ゲマインシャフト」などの概念は古典的な社会学の土台となる組織社会学の用語である。つぎに、近代的な組織の二面性や相互関係についてみていく。マックス・ヴェーバーの「官僚制論」をはじめとして、組織文化の「逆機能」や「感情労働」といった問題点から､「社会関係資本」などより最近の議論を概観する。
■学習の到達目標	1．この科目の学習目標は、現代社会における組織の実態を理論的に理解することです。まず、基本的な用語としてコミュニティや、官僚制、準拠集団などの概念を正確に理解してください。そして、逆機能、感情労働、ネットワーク、社会関係資本などをよく理解することが必要です。2．現代の組織についてテキストでは多岐にわたって論じていますが、科目最終試験は、その全般にわたって問うことはできず、各論的な問題について理解を問うものですので、ご注意ください。ただ、各論といっても、細かい知識を求めるものではありません。各論の骨格のところを理解していれば、十分に書けるはずです。3．特に、主語と述語との対応には気を配ってください。
■成績評価の基準	テキストの正確な読解が行われているかどうかをまず確認します。その上で、プラスアルファとして自由に調べてきた他の文献への言及や具体的な出来事への考察が含まれていれば、より良い評価となります。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	基礎統計学				単位	4.0
担当者	吉田　秀和			シラバスグループ	TT5533	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
数学嫌いのための社会統計学　第 2 版	山口洋ほか編	法律文化社	[ISBN]9784589036193

■授業の概要	社会的および科学的事象を一般化するために有効な手段は、それら事象に関するデータ収集と解析である。本科目においては、それらデータ収集および解析に関する知識を学ぶことによって、客観的にそれらの事象を一般化する、またはその事象に関してある判断を行う方法を習得し、社会調査、科学調査等における基礎的知識を身につけるのが目的である。データ収集およびデータ解析においては必然的に統計学の知識を要するため、数理統計学観点からのアプローチに加えて、実際的な調査手法も念頭に置いて、データ収集、データ解析に関する知識及び技術を学習する。本科目ではまずデータ解析の基本となる記述統計学（第一部）において量的および質的変量を統計学的に処理し、解釈する方法をまず学び、続いて推定統計学（第二部）において母集団の標本データから母集団の推定、仮設検定、集団間の差の検定、事象間の相関を検定する方法を学ぶ
■学習の要点	本科目における学習の要点は以下のようになる。1.統計学という学問は何かを学習する。2.データの収集方法を学習する。3.主に量的データ群の整理方法を学習する。すなわち、第 1 にデータを視覚的に表す手法を学習する（様々なグラフ化）、第 2 にデータ群をある数値で代表する手法を学習する（平均値や最大値、最小値等）、データ群全体の傾向を表す手法を学習する（分散、標準偏差、尖度、歪度等）。4.質的データ群に対する解釈手法を学習する（比率や変化率等）。5.異なる 2 変量の関係性の解釈について学習する（共分散および相関係数）。6.関係性と因果関係を学習する。7.質的データの整理、加えてそれに基づいたクロス集計を学習する。8.各種白書の解釈およびそれらの活用方法について学習する。9.母平均と母比率の区間推定について学習する。（標本平均の分布により母平均の推定、ｔ分布による母平均の推定、カイ二乗分布による母標準偏差の推定、標本比率による母比率の推定）10.正規母集団の母平均と母比率の検定について学習する。（帰無仮説と対立仮説、母平均による仮説検定、母比率による仮説検定、母平均の差による検定、母比率の差による検定）11.クロス集計分析とカイ二乗検定について学習する。（独立性の検定）
■学習の到達目標	代表値等統計学的な数値を正確に算出できデータ解析において役立たせることができるようになる事、さらに標本から母集団を予測するさまざまな手法を習得することが本科目の到達目標である。
■成績評価の基準	リポート：正しい手法で分析し、論理的に考察できているかが、リポート添削のポイントである。最終試験：統計学的用語や数値、そして統計学的考えを理解しているかどうか（正しい手法で、正しい演算を行っているか）、また統計学の理論をふまえた考察となっているかを成績評価の採点基準とする。

授業科目	教育原論				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TU5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
幼児教育　知の探究　１３ 幼児理解の現象学	矢野　智司	萌文書林	[ISBN]9784893471130

■授業の概要	教育の基本的概念・歴史・思想の基礎を学ぶことをとおして、教育的態度をとるために求められる思考様式の基礎を養います。人に教えたことはないという人はいても、人から何も教わったことがないという人はいないでしょう。ですから、誰でも教育について何かを語ることができます。実際、世の中には教育に関する言説があふれています。しかし、それらはともすればごく個人的な体験に基づくものであったり、何らかの事件をとりあげた一時的なものであったりします。社会に出て家庭や学校や地域あるいは職場で何らかの教育的役割を求められるとします。そのとき私的な体験や断片的な知識しかなかったら、私たちは周囲の人々の理解や共感を得られるような行動をとれないでしょう。教育について学ぶことは、単なる知的な満足にとどまらず、私たちがより妥当な行動がとれるようになるという意義があるのです。私たちのあらゆる思考は言語によって行われますが、広く深く学ぶことによって私たちの思考が本当に変われば、同時に行動にも変化が現れるはずです。この授業では、とくに教育の歴史や思想に関する基礎的な知識をとおして教育の基本的概念について学びます。　教育という営みは歴史や社会の変遷のなかで生成され、今も未来に向かって変化し続けています。バックミラーを見なくては自動車を安全に運転できないのと同じように、未来に向かって教育を考えるには過去を振り返ることが有益です。この授業では、歴史のなかで現れてきた教育に関するさまざまな思想をとおして現代の教育を構成している基本的な概念について学びます。
■学習の要点	テキストのタイトルを見れば、幼児の教育と誤解されるかもしれませんが、このテキストは幼児から大人までの教育の基本的な原理について論じたものです。このテキストをもとに、教育の歴史や思想についての基本的な理論と概念の理解をめざします。
■学習の到達目標	１．教育の思想と歴史に関する基礎的な知識を学ぶことをとおして教育を成り立たせている基礎的な要因とそれらの関係について知り、現代社会における教育課題についての理解を深めることができる。２．教育に関する素朴な思い込みを見直し、実際に教育的役割を果たすために必要な思考様式について考え、具体的な課題場面にどのように対処するかについて考えることができる。３．生涯にわたるキャリア形成に向けた自らの学修課題について考えることができる。
■成績評価の基準	到達目標と関連して、教科書に書かれている思想・理論・基本概念がどの程度正しく理解されているかどうか、またそれを具体のなかで捉えられているかどうかを基準に評価する。

授業科目	生涯学習概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論	西岡正子編著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248756&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	生涯学習体系への移行が進む中、教育に関わる者としても、また一市民としても、生涯学習の基本を知らずして、学び働くことは不可能といえる。本科目において、生涯学習の基礎理念、基礎知識、国及び地域の実態及び実践の手法を学び、生涯学習社会を建設し、生涯学習時代を生きる力を付けていただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.ユネスコにおける生涯学習論の展開について　2.学校式教育の特色について　3.ハッチンスの学習社会論について　4.学社融合による展開について　5.人の成長に関する二つのモデルについて　6.学歴社会から学習社会への移行に関する機構改革について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。試験問題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	教育心理学				単位	4.0
担当者	山﨑　玲奈			シラバスグループ	TU5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい教職教育講座 教職教育編④ 教育心理学	神藤貴昭・橋本憲尚著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081875

■授業の概要	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、心理学の理論に基づいて認識を深めます。また、具体的な保育・学校教育場面を想定しながら、子どもの主体的な活動を支援する保育者・教師の役割を明らかにしていきます。
■学習の要点	まずはしっかりとテキストに目を通しましょう。また、テキストで紹介されている文献もチェックしてみましょう。そして自分のこれまでの学びの体験をふりかえったり、自分がこの先、保育者あるいは教師としてどのようなかかわりをしたいのか考えたりしながら、読み進めていきましょう。その上で、次のテーマについて理解を深めてください。①幼児、児童・生徒の心身の発達に関する代表的な理論を理解する。②乳幼児期から青年期までの各時期における発達の特徴（運動・認知・言語・社会性等）を理解する。③さまざまな学習の形態や授業方法、その背景にある基礎的な理論を理解する。④子どもの発達状況を踏まえた上で、子どもの興味・意欲を喚起し、主体的な学びを支える場づくり・評価のあり方を理解する。⑤子どもの主体性を高めるかわり、コミュニケーションについて理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、学習の要点に示された 5 つのテーマについて理解を深め、自分の言葉で相手にわかりやすく説明できるようになることです。
■成績評価の基準	1. 学習の要点に記載されている内容を正確に理解できているか。2. 問題の趣旨をとらえ、相手に伝わりやすいよう、論理的に説明できているか。3. 文献や資料を引用する場合は、引用の作法にしたがって引用することができているか。4. 自分の考えを述べる際は理論やデータ、具体例にもとづきながら、わかりやすく説明することができているか。上記の基準がほぼ達成されている場合は 70 点台、十分に達成できていれば 80 点台とします。基準を十分に達成し、自分なりの考察が非常に優れている場合は 90 点以上とします。なお基準

授業科目	教育社会学				単位	4.0
担当者	山内　乾史			シラバスグループ	TU5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「学校教育と社会」ノート―教育社会学への誘い(第3版)	山内乾史	学文社	[ISBN]9784762029325
新しい教職教育講座 教職教育編③ 教育社会学	原清治・山内乾史	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623081868

■授業の概要	高度に大衆化した現代の学校教育は、表面上は教育の機会を拡大し、社会の平等化を推進しましたが、その反面で、いじめや不登校、学級崩壊などのさまざまな教育病理も生みだしています。また、最近では、子どもたちの学力が低下し、それが社会的問題を引き起こしてきているという指摘までなされています。　教育社会学では、こうした現代の学校の諸相とそれを取りまく社会に視点を求め、その相互メカニズムを社会学的に明らかにしていくことを目的とします。
■学習の要点	教育社会学においては、社会の変化が教育にどのように影響を及ぼすのか、あるいは、教育の変化が社会にどのような影響を与えるのかといった視点からのアプローチが求められる学問領域です。特に、現代社会を特徴的に表すものに、「国際化社会」や「学歴社会」があげられ、教育との関連を問われた場合、それが大きな課題をかかえています。また、学校教育の内面における構造的な矛盾も大きくクローズアップされてきており、とりわけいじめや不登校が学校教育によって拡大されているという指摘も見過ごすわけにはいかないでしょう。こうした議論の上に立って、教育改革はもっぱら最近の流行言葉であり、わけても、社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てることは、2009 年の中央教育審議会答申「教育振興基本計画について」の主たる柱のひとつともなっています。このような視点からテキストを熟読していただき、理解を深めていただくことが本科目の目的です。　1．日本型学歴社会とは何かを論じることは、これまでどうして学歴社会が続いてきたのかを考えるとわかりやすいでしょう。教育改革でも標的にされてきているその学歴社会はこれからどうなるのか、学歴社会はなくなるのかについて考えてみることが求められます。　2．いじめ問題は 1980 年代より我が国の学校病理のひとつとして論じられ、現代においてもその対応が求められるものと言ってよいでしょう。いじめ防止対策推進法の制定を経ても、いじめを苦に命を落とす子どもたちは後を絶ちません。最近は子どもたちにも一般的となったネットツールを用いたいじめも増えてきました。テキストを参考に、どうすればいじめを抑止することができるのか、考えることが求められます。
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②問題は、テキストに即して出題します。したがって、解答はテキスト学習の範疇で記述してください。③採点は、加点方式を基本とします。問いに対して、解答に必要だと思われるキーワードを含めてください。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることが望ましいです。論述の展開とその深度により評価します。⑤内容が主観的過ぎるものは不合格とします。できるだけテキストの記述に沿って、

	客観的に記述してください。

■成績評価の基準	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めてください。その学習の進展と理解度を試験で問います。②つぎの 2 つの視点から評価します。　（1）内容について理解しているか、用いているキーワードが適切であるか。　（2）文の展開が論理的な構成になっているかどうか。

授業科目	臨床教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5780	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
臨床教育学	矢野智司・西平直	共同出版	[ISBN]9784319003242

■授業の概要	テキストの『臨床教育学』は、臨床教育学をはじめて学ぼうとする人たちには、入門書の役割をはたすが、すでに臨床教育学について知識のある読者にも読むに値するだけの新たな思考の展開がなされており、たんなる教科書ではなく、教科書の姿をとった研究書でもある。人間についての知は、哲学や歴史学や地理学、教育学や心理学や人類学、生物学や医学といったように、多数の学問領域に分化し専門化している。しかし、この学問の細分化と専門化とは、人間の教育を考えるときには問題が多い。なにより具体的で実践的なかかわりをともなう教育では、専門的垣根を超えて人間をトータルにとらえることが求めているからだ。このように考えると、「人間の教育」こそが、こうして細分化され専門化した知を実践的見地からふたたび結びあわせる結節点となるのではないかと考えられる。そして「臨床 - 教育 - 学」という用語間のうちにのっぴきならない緊張をはらんだ名称を戴く学問は、こうした知の結節点としての役割をさらに尖鋭化させる領域となるだろう。「臨床教育学」は、人間の教育にかかわる課題が人間の知にとって極限として突出してくるクリティカル・ポイントに当たるといえよう。本書は、こうした人間の教育にかかわる知の課題を、自覚的に受けとめようとしている。　その内容は、「動物」「ライフサイクル」「語りえないもの」に、「身体」「芸術」「教師のタクト」に、「現象学」「仏教」そして「パトスの知」である。この雑多にも見える多様な広がりが臨床教育学にとって意味をもつ。表面上の多様さとは裏腹に、これらの論考はたがいに緊密につながっている。この論考のあいだには、領域横断的にまた主題横断的に、内的な地下通路が網の目のように何本も走っている。そのことによって各論考はたがいに響きあい新たな意味を生みだしてもいる。しかもその通路の数は潜在的には無数である。受講者は自身の力によって新たな通路を発見してほしい。
■学習の要点	1．矢野論文を読み、人間の固有性を語るために人間と動物との境界線を論じることがもたらす問題について考える。これはこのテクストの最も基本的な構造と関わっている。2．西平論文・井谷論文・奥井論文・小松論文を読み、臨床教育学と演劇との関係についての思考を深める。3．矢野論文・小野論文・坂井論文・西平論文を読み、臨床教育学と生命との関係について思考を深める。4．池田論文・西平論文・田端論文・小野論文を読み、臨床教育学を語るための論理として逆接が多用される理由を理解する。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕に沿って学習することが、最も効果的で最善の試験対策となる。〔学習の要点〕をふまえない解答は、合格とはならない。評価の観点としては、理解・認識・把握の、的確さ・深さを問う。試験当日は、まず、問題文をしっかり読み、求められているものは何かを的確につかんだ上で、解答に取り掛かること。解答はたくさん書くほど点数がよくなるというものではない。

■成績評価の基準	自らの教育観、保育観が記されているかどうかを評価する。

授業科目	教育史				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本の教育文化史を学ぶ時代・生活・学校	山田恵吾 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623067404
しょうせつ　教育原論二〇二X	相馬　伸一著	晃洋書房	[ISBN]9784771031722

■授業の概要	歴史は、ともすれば過去の些末な事実の蓄積と思われがちです。ゆえに、初等中等教育では好き嫌いが大きく分かれる分野です。また、実践とは無縁ではあり得ない教育学においては、過去を振り返ることにどんな意味があるかと思われがちです。しかし、人間が何らかの挑戦を受け、それに応戦してきた記録である歴史は、意識するとしないのとにかかわらず、私たちの生活や思考の前提となっています。ゆえに、歴史を学ぶことは、私たちの現在を読み解き、未来を選択するための示唆を汲みだすために不可欠なのです。　ここでは、現代の日本の教育が明治期に西洋の教育を受容するなかで大きく変容してきた点を重視し、西洋の教育思想、その日本における受容、さらに第二次世界大戦後の展開について概観し、今日の教育問題の歴史的な背景を理解し、今後の教育の在り方について考えてもらいたいと考えます。
■学習の要点	指定テキストを精読し、分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。指定テキストにあげられている参考文献や引用文献にまで学びを広げられれば、素晴らしいです。最後に自分として理解した事実をどのように受けとめられるかを考えましょう。
■学習の到達目標	１．教育の歴史において重要な事項や人物・思想について、背景にある時代状況、それらに関する具体的な歴史事実やその後への影響を、キーワードを踏まえて説明できる。２．現代の教育の特徴や問題点について、歴史事実を踏まえて考察できる。　３．歴史を中心に中学社会に関連する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、あなた自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	教育行政学				単位	4.0
担当者	大林　照明			シラバスグループ	TS5115	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育行政学（第４版）子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎　編著	八千代出版	[ISBN]9784842918396

■授業の概要	法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか、それを考え、具体化していくのが教育行政の役割です。近年、教育行政・制度は大きく変化しています。本科目ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を、テキスト履修をとおして広く理解することを目指します。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について、リポート作成をとおして考察してもらいます。
■学習の要点	基本的には教科書の各章をまんべんなく学習してください。特につぎの要点、キーワードについては十分に学習するようにしてください。1.【第 1 章】教育基本法の変化（共同統治モデル・成果管理モデル）　※巻末の教育基本法全文は一度よく読むようにしてください。2.【第 2 章】戦後の教育政策形成の流れ（勅令主義から法律主義へ、官邸主導）3.【第 3 章】戦後教育行政（改革）における 3 つの原則、教育委員会法と地教行法、2015 年度からの教育委員会制度（特に変更点：教育長へ一本化、総合教育会議、大綱の策定など）4.【第 4 章】県費負担教職員（第 8 章にも説明あり）、義務教育費国庫負担金制度、総額裁量制 5.【第 5 章】 学習指導要領の法的拘束力、教科書採択の仕組み、広域採択制度、教科書の使用義務・無償給与 6.【第 6 章】私教育と公教育、学校体系（複線型・分岐型・単線型）、学校の設置者と種類（一条校など）、義務教育制度（就学義務、授業料の無償化、就学援助（第 11 章にも説明あり）、学校設置義務）、不登校の定義、脱落型不登校、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（第 9 章にも説明あり）7.【第 7 章】学校組織のしくみ（校務分掌、職員会議の法的位置づけ）、学校組織の特性（官僚制と疎結合）、コミュニティースクール（学校運営協議会の法的権限含む）8.【第 8 章】教職員の種類、新たな職階、服務義務、教職の困難、専門家との連携（テキストには記載がないが「チームとしての学校」についても自分で調べてみること）9.【第 11 章】 保育所と幼稚園の制度上の違い、幼保一元化と認定こども園、子どもの虐待とその対応
■学習の到達目標	①教育行政・制度の概要を理解する②教育行政・制度のあり方を見直す観点を持つ
■成績評価の基準	①教育行政・制度に関わるキーワードの正確な理解ができている（キーワードの説明はテキストからそのまま抜き書きするのではなく、論述問題への解答となるように、自分の言葉でまとめるようにしてください。）②キーワードの正確な理解に基づいて、既存の教育行政・制度についての自身の見解が、論理的に展開されている

授業科目	教育哲学				単位	4.0
担当者	相馬　伸一			シラバスグループ	TS5117	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
オンライン教育熟議オン・コメニウス	相馬伸一	晃洋書房	[ISBN]9784771034402

■授業の概要	近代的な教育学を確立したとされるドイツの哲学者ヘルバルトは、教育学の目的は教育者に教育を見る眼をもたらすことだと言いました。しかし、それは簡単なことではありません。というのは、教育や学習は、どうしても国家の発展や個人の社会的成功といった目的を実現するための手段と見なされがちだからです。とくに、近代的な国民国家が成立した 18 世紀以降は、教育は国家との関係からとらえられてきました。この授業で、17 世紀チェコの思想家コメニウスをとりあげるのは、近代に向かいつつあった混沌とした時代に、教育を手段ではなく目的としてとらえ、そこから世界を見つめたのが彼だったからです。この科目では、哲学・教育・言語・政治・宗教にわたるコメニウスの思想を学習し、現在の世界を教育的な視点からとらえる方途を考えていきます。
■学習の要点	指定テキスト、とくに『オンライン教育熟議オン・コメニウス』を精読してください。分からない言葉や事項は、インターネットなどを活用して調べましょう。そのうえで、教育の実際の場面や現代の教育動向と関連づけて考えてみましょう。
■学習の到達目標	1．コメニウスの思想を深く理解することをとおして、教育的な視点から世界の事象をとらえる思考様式について考えることができる。2．教育について広く深く考えることのできるリテラシーを高める。 3．世界史や倫理に関する知識を拡大する。
■成績評価の基準	指定テキストの内容を理解できたかどうか（50 点）、関連文献をどれだけ参照したか（30 点）、自分自身の考察があるか（20 点）で評価します。

授業科目	生涯教育論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5409	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
成長と変容の生涯学習	西岡　正子	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623071616

■授業の概要	本科目においては、生涯学習の理念、基礎理論、国際的な動き、日本の動向、地域の実態を学ぶ。生涯学習体系への移行がどのように進められているか、自らの力で確認すると同時に、今後、生涯学習社会建設に何が求められているかを考究していただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。1．ユネスコの国際成人教育会議で採択された「学習権宣言」および「ハンブルグ宣言」について 2．ポール・ラングランの生涯教育理念およびそれらが展開された際の日本の社会的背景について 3．高齢期の学習能力と学習機会について 4．ローマクラブの生涯学習論について 5．成人の学習における参加型学習の特徴と方法について 6．集合学習と個人学習について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。設題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	保育内容の理論と方法「人間関係」				単位	2.0
担当者	小林　みどり			シラバスグループ	TU5501	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
シリーズ知のゆりかご　子どもの姿からはじめる領域・人間関係	秋田 喜代美･三宅 茂夫 監修	株式会社みらい	[ISBN]9784860155711

■授業の概要	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育の実践を関連させて理解を深める。また、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し、実践する方法を身に付ける。
■学習の要点	幼児の人間関係の基本的構造を理解し、その構築を援助する力を身に付ける。具体的には、以下の事項である。・領域「人間関係」のねらい及び内容理解（幼稚園教育の基本を踏まえて）・教師との信頼関係を基盤とした友達との関係構築の援助の在り方（個々への丁寧な関わりと集団保育）・自立心を育む援助の在り方（事例を通した 3～5 歳の育ちの姿に沿った必要な援助と環境構成の理解）・友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気付く援助の在り方（事例を通したいざこざと教師の援助の理解）・自他の気持ちの違いに気付き、自分の気持ちを調整する力を育む援助の在り方（ロールプレイを通した友達との葛藤、けんかの理解）・きまりをめぐる幼児の葛藤と自己抑制に対する援助（幼児の社会化におけるきまりの意味）・ルールのある遊びと援助（ロールプレイを通した遊びを通した創造的きまりの意味）・個と集団の育ちを考える（友達との関わりを促す援助の在り方）・協同的な遊びの中で育ち合う長期的な保育の展開（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）・園行事を基盤とした人間関係の広がりを考える（指導案作成、教材研究、情報機器の活用を含めた保育構想）・学びの連続性、小学校以降の生活や学習で生かされる力を理解し実践的活動を考える（模擬保育を通した幼小の具体的な交流活動）・3～5 歳児の人間関係に着目した指導案作成と模擬保育・振り返り（「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を観点に保育を評価）・人間関係を視点とした地域の中の幼稚園の在り方（幼児期に経験させたい地域の人との関わり）・人間関係を視点としたインクルーシブ保育の在り方（人間関係・価値観の多様性を受け入れる具体的な保育構想）・領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題
■学習の到達目標	１．幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらい・内容及びその位置づけを理解できる。２．幼児の発達や学びの過程を理解し、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。３．領域「人間関係」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。４．指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成及び評価することができる。５．領域「人間関係」に係る現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	本授業の到達目標に対する達成度を科目最終試験により判断する。

授業科目	社会調査論				単位	4.0
担当者	山口　洋			シラバスグループ	TT5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会調査へのアプローチ　論理と方法	大谷信介ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066544

■授業の概要	社会現象を把握するためには社会調査が不可欠です。とはいえ、どのような対象をどのような問題意識で調査するかによって、社会調査の方法はさまざまです。ここでは種々の調査方法の特色と手順の概略を理解することが目的です。 この科目はテキスト履修科目ですから、テキストを読むことが主な学習方法になります。しかし社会調査論の場合、ただ単にテキストを読むのではなく、自分で調査を実施するつもりになってテキストを読むことをおすすめします。そうすることで初めて理解できる事柄が沢山あります。リポート設題の「１」は、そのような趣旨のものとご理解ください。
■学習の要点	以下の６点に留意しつつ、テキスト・参考文献を読んでください。 １．調査によって検証される仮説をどのように構成したらよいかについてまとめておくこと。 ２．様々なサンプリングの技法の概要とその特徴をまとめておくこと。 ３．調査票の構成や質問文の作り方について学習すること。 ４．調査票調査の主な実施方法（面接、留置、郵送、集合、電話）の特徴についてまとめておくこと。 ５．聞き取り調査の意義と実施上の注意点について学習すること。 ６．参与観察の意義と実施上の注意点について学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は「学習の要点」の各項目について、テキスト・参考文献のポイントをおさえつつ、具体例をあげながら説明できることです。
■成績評価の基準	試験の採点は加点方式を基本とします。つまり、あるポイントがきちんと説明されていれば何点、さらに別のあるポイントが説明されていれば何点、という具合に加点します。ピント外れの事を大量に書いても得点にはなりません。具体例をあげながら、各ポイントを的確かつ簡潔にまとめるようにしてください。また文章全体のまとまりや分かりやすさに応じて加点･減点します。テキストや他の参考文献の丸写しは評価できませんので、ご注意ください。

授業科目	公共政策学				単位	4.0
担当者	堀江　典子			シラバスグループ	TV5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
生活者のための地域マネジメント入門	朝日 ちさと　編　堀江 典子　編	昭和堂	[ISBN]9784812217320

■授業の概要	我々の社会は身近な地域の問題から地球規模の問題まで多種多様な問題を抱えています。ここでは、社会問題を解決するための公共政策について考えます。第二次世界大戦後に政策科学 Policy Sciences という名称で登場した公共政策 Public Policy は、公共的問題として課題を認識し、どのように解決するかという方向性と具体的手段を追求してきました。複雑化していく現代社会において公共政策の重要性は増大しており、さまざまな分野のさまざまなレベルの課題を捉えてアプローチしていくことが求められています。公共政策は行政など公共部門だけが担うものではなく、企業や NPO など民間部門、そして一人一人の生活者の担う役割が増大しているのです。　本科目では、公共政策を地域マネジメントとして捉え、よりよい社会のためのマネジメントについて考えます。
■学習の要点	学習の基本になるのはテキストを丁寧に読むことです。このテキストでは、公共政策を地域マネジメントとして捉えて枠組みを示し、考慮すべき価値、問題の捉え方と構造、可能な手段、意思決定・実施・評価のアウトライン、生活者の関与のあり方などが順を追って説明されています。理解するうえでは具体的な事例に当てはめて考えながら納得していくことが有効です。
■学習の到達目標	テキストをよく理解できていることが到達目標です。出題はテキストに即した内容ですので、解答もテキスト学習を踏まえて記述してください。答案の作成に当たっては、何が求められているかを正確に理解して、論理的に記述してください。
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解して、求められていることに対して解答できているか。・必要なキーワードが含まれているか。・正確かつ論理的に記述できているか。・記述量は適切か。記述量が少なすぎる場合には減点の対象になりますが、関係のないことで記述量を増やしても加点されません。

授業科目	環境と開発				単位	4.0
担当者	林　隆紀			シラバスグループ	TV5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
法学･経済学･自然科学から考える環境問題	青木淳一他　著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766424461
「環境を守る」とはどういうことか	尾関周二編、環境思想･教育研究会編	岩波書店	[ISBN]9784002709604

■授業の概要	人間が科学技術の力を借りて自然に働きかけ、さまざまな開発行為を加えることによって、これまでの歴史上でも自然環境に種々の影響を与えてきた。さらにそれが今日にいたって、地域の自然環境や都市環境の破壊をもたらし、同時に地球環境の安定的状態さえも変えるような事態を引き起こした。そのために今や、人類の持続的生存さえもが危うくなっている。本科目では環境を読み解くため、法学、経済学、自然科学など、様々な学問分野を学習することにより、環境問題のもつ多面的な視点を獲得することを目的とする。さらにそれらを統合して、環境やエコロジーをめぐる哲学、倫理学的な思想について学び、自ら深く考えることを目指す。
■学習の要点	① 循環型社会の在り方② 生物多様性概念の獲得③ 地球温暖化問題の理解④ 環境思想の流れ⑤ 自然と人間の共生について
■学習の到達目標	現代社会における環境問題に対する多角的な視点を獲得するために、複数の学問分野からの考え方を学ぶ。またこれからの持続可能な社会形成を深く考えるため、環境概念の捉え方を学ぶ。試験においては、抽象的努力目標のみを羅列するのではなく、学習内容に基づいて、具体的課題の指摘や分析、あるいは根拠の提示ができるようにすること。
■成績評価の基準	（1）テキスト内容の基本的理解ができていること（2）問題に示された指示内容について的確に解答できていること（3）最終試験の記述にあたっては、テキストや問題を踏まえて論述すること、かつその中に自分自身の意見が明示されていること

授業科目	環境政策論				単位	4.0
担当者	水上　象吾			シラバスグループ	TV0321	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然保護と利用のアンケート調査―公園管理・野生動物・観光のための社会調査ハンドブック	愛甲 哲也・庄子 康・栗山 浩一　編	築地書館	[ISBN]9784806715160

■授業の概要	自然保護と利用について、調査の方法、データ分析の仕方を学ぶ。また、自然の評価にかかわる多様なアプローチの仕方を理解し、自然と人間との共存について考察する。
■学習の要点	①自然環境に関する社会調査について理解する。②アンケート調査の方法や分析方法を理解する。③多様な観点から自然を評価することの意義を考える。④自然と人間との共存について特定の視点に立って考える。
■学習の到達目標	①出題の要点を理解し、自ら考える力をつけること。②自分の考えを示し、その考えの理由について論理的に説明すること。
■成績評価の基準	・内容に独創性やオリジナリティがあるか・自身の主張がきちんとされているか・適切な資料を引用し議論がなされているか

授業科目	環境社会学				単位	4.0
担当者	湯川　宗紀			シラバスグループ	TV0322	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
環境社会学への招待：グローバルな展開	満田久義	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542718

■授業の概要	「環境」問題が声高に叫ばれて 30 年、その間環境に対する意識はかなり変化しました。環境に対する意識の高まりから、日常化、きれい事への嫌悪、様々な感じ方があると思います。　本科目では、人間社会と自然環境との相互作用について研究する環境社会学の立場から、１．どうして環境社会学が生まれたのか、２．いくつかの環境問題の事例研究、３．環境問題に対する限界と可能性、に焦点をあてて詳しく学習していきます。
■学習の要点	環境社会学とは、「自然環境と人間社会との相互関連を明らかにする社会学」と定義されています。まず、社会学とはなんなのか、社会学の基礎的な知識、学習が必要になります。また、今日の身近な環境問題から地球環境問題までを取り上げて、具体的に研究することが望まれます。　なお、試験に際しては、以下の点に留意してとくに学習するとよいでしょう。１．なぜ、どのようにして環境社会学は成立したのか、考察してみましょう（テキスト第１章参照）。　２．その後環境社会学はどのように発展し、変化してきたのか考察してみましょう（第２章参照）。　３．経済のグローバリゼーション、消費が環境とどのように関連するか考えてみましょう（第２・４章参照）。　４．「持続可能な世界」の概念と誕生背景について考えてみましょう（第２・４章参照）。　５．都会から田園を目指した人々の価値観、ネオ・ルーラリズムを理解し、田園志向の可能性を探ってみましょう（第５章参照）。　６．持続可能な発展戦略としてのエコツーリズムを、具体的事例を通して考えてみましょう（第６章参照）。
■学習の到達目標	テキストによる学習のみならず、新聞やテレビ報道にも関心をもち、資料・データ収集を行い自ら考えられるようになる。
■成績評価の基準	① 学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　② 問題は、テキストに即して出題する。　③ 採点は、加点方式を基本とする。　　出題の要点を正しく理解出来ているか、20 点　　テキストをしっかりまとめられているか、30 点　　そのとき重要なタームがきちんと含まれているか、20 点　　自分の考えが論理的に論じられているか、30 点

授業科目	コミュニティ論				単位	4.0
担当者	若林　靖永			シラバスグループ	TV5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
コミュニティの幸福論	桜井　政成	明石書店	[ISBN]9784750350899

■授業の概要	私たち人間は一人では生きられない。コミュニティ、居場所があって私たちは生かされている存在である。今日、社会の個人化の進展によって、家族のつながり、地域コミュニティや居場所は失われつつあり、それによる孤独・孤立が広がっている。他方で、SNS やオンライン・ゲームなどによる新たなオンライン・コミュニティが登場し、新たな人と人のつながりを生み出しつつ、同時に、オンライン上での「いじめ」問題も生み出している。　この科目では、コミュニティの観点から私たちの幸せを追求するということについて多面的に理解することを目的としている。
■学習の要点	各章のポイントを具体的な事例を通じて理解する。１．コミュニティから幸せを考える意味って？２．日本人の幸福感３．助け合わない日本人？（1）利他的行動とボランティア４．助け合わない日本人？（2）被援助要請とウチ・ソト文化５．地域コミュニティの幸せ一地元で暮らすということ６．居場所を考える一子供・若者を締め出す地域コミュニティ７．インターネットとコミュニティ８．「当事者」とコミュニティ一LGBT を例に９．「働くこと」を支える一社会的包摂とコミュニティ 10.コミュニティとトラブル、排除 11.助け合える幸せなコミュニティとは
■学習の到達目標	コミュニティの観点から私たちの幸せを追求するということについて多面的に理解し、考察し自分の意見を展開することができる。
■成績評価の基準	論旨の展開や構成をよく考えた解答になっているかどうか。テキストに沿った説明だけでなく、自分のオリジナルな説明や考察が含まれているかどうか。引用等が適切に行われているかどうか。

授業科目	生活文化論				単位	4.0
担当者	柳下　実			シラバスグループ	TV5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
21 世紀ライフスタイル革命：生活文化を軸にした経済・社会の創造	坂東慧	勁草書房	[ISBN]9784326652662

■授業の概要	私たちは「人間らしい、豊かで文化的な生活の意味」や「それを実現するための可能性」について常に、一人の人間として模索する環境のなかにいます。しかし、現実の世界では「効率性」、「有効活用」といったことが支配原理となっています。普段生活するなかでは、これらの二つのアイデアの矛盾には気が付かないで生活しています。「生活文化」のテーマはこうした身近な問題から日々の生活を振り返り、また、家族、企業、協同組合、コミュニティア等から生活を多角的・多面的に捉え、客観的な検証を行い、確認しながら理解をすることです。本科目ではテキストを手掛かりに私たちの生活のなかから「消費生活」、「アイデンティティ」、「ライフスタイルとファッション」、「ソフト産業」、「時間・労働・余暇」、「宗教と宗教心」、「都市」をキーワードに「生活文化」の問題点を考えます。
■学習の要点	「生活」とは私たちの日々の行為の連続です。この点に注目し、まず、生活文化の意味を理解します。生活の変化によってどのような問題が発生し、その問題がどのように解決されたのかを確認をしましょう。テキストはすべてを網羅していませんので、学習は以下の６つの手順でおこないましょう。関連する文献や白書、報告書、統計資料を参考にすると学習が進みやすくなります。①「生活文化」という概念を学び、日常的に使用している「生活」や「文化」と、どのように異なるかを確認しましょう。②20 世紀に活発化したグローバル化の影響をみながら、21 世紀に求められる民族のアイデンティティの捉え方を検討しましょう。③「衣生活」をファッションの視点で整理してみましょう。また、機能に注目し、ファッションが意味を伝えるというコミュニケーション上の媒体機能や都市社会の発展との関わりを確認しましょう。④日本の第二次世界大戦後の産業の成長、変遷を確認し、私たちの働き方や暮らしにどのような影響を与えたのか確認しましょう。⑤社会・経済の発展の中で、顕在化する疎外を「信仰」の視点から考えてみましょう。⑥都市と生活文化の発展の関連を考え、産業の発展による人びとの都市部への移動と新しい生活文化の創造について検討しましょう。
■学習の到達目標	テキストを熟読することに加え、他の関連文献や白書、統計資料、新聞記事などにあたって、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれについて理解を深める。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	自治体論				単位	4.0
担当者	大藪　俊志			シラバスグループ	TV5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地方自治入門	稲継裕昭著	有斐閣	[ISBN]9784641173811

■授業の概要	日本国憲法第 92 条では、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて、法律でこれを定める」として、地方自治の原則を規定しています。一般に地方自治の本旨には、国から独立した地方公共団体（地方自治体）がその権限と責任において地域の行政を処理する団体自治と、地方行政はその地域の住民の意志と責任に基づいて行われるという住民自治の二つの要素が含まれるとされます。戦後の日本では、憲法で地方自治を制度的に保障することにより、自治の制度と内容の充実強化を図ってきました。　しかしながら現実の地方自治のあり方をみると、従来から特に事務や財政の面において地方自治体の裁量の余地が狭いことなどが指摘されてきました。そのため、中央集権的なシステムの改革が重要な政策課題に挙げられるようになり、近年の地方分権改革では機関委任事務制度の廃止、国の地方自治体に対する協議・関与の一般的ルールの制定、必置規制の大幅緩和、国地方係争処理委員会の設置などが実現しています。また、分権改革の潮流は、「地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会」（内閣府）の構築を目指す地域主権改革の取組みにもつながっています。この科目では、テキストによる学習を通して、地方自治体の仕組み、組織、財政、政策過程、改革の動向など、自治体に関わる基本的な知識の習得を目指します。
■学習の要点	１．地方自治体の仕組みについて、議決機関（議会）、首長（都道府県知事・市町村長）、行政委員会の機能と役割を調べてみましょう。２．地方自治体の財政はどのような仕組みになっているのでしょうか。地方財政の状況、地方財政の制度（地方交付税、国庫支出金、地方税など）について学習しましょう。３．地方公務員の制度について調べてみましょう。地方公務員の数と種類、採用・異動・昇任の仕組み、人事と給与の制度はどのようになっているのでしょうか。４．地方自治体の組織にはどのようなものがあるのでしょうか。また、近年における組織再編の動向にも注目しましょう。５．近年の地方自治体改革の取組みについて、行政評価、PFI（Private Finance Initiative）、指定管理者制度、地方独立行政法人などの改革手法を調べてみましょう。６．近年の地方自治体改革の背景にあるニュー・パブリック・マネジメント（NPM）の概念、諸外国における展開、日本における NPM の受容について調べてみましょう。
■学習の到達目標	１．中央地方関係、自治体の組織、財政、政策過程などに関する基本的な知識を習得し、的確に説明できるようになる。２．自治体における改革の背景、動向、市民参加の取組みなどを学び、自治体が直面する様々な課題の解決に向けた方策を考察できるようになる。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解しているかどうか、論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。

授業科目	政治社会学				単位	4.0
担当者	上田　道明			シラバスグループ	TV5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治学をつかむ	苅部直ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641177154

■授業の概要	「政治」とは何かという問いには様々な答えがあり得ます。例えば、政治に関するよく知られた定義として、「社会に対する価値の権威的配分」（D. イーストン）というものがあります。この場合、政治の機能とは、限りある資源や価値を何らかの強制力のもとに配分することを意味します。別の言い方をすれば、社会において、その構成員全てに関わるような決定がなされるとき、政治という社会現象が生じると言えるでしょう。政治社会学では、我々の社会的生活に多大な影響を及ぼす「政治」という営みを対象に、政治と社会の関係のあり方を考察します。政治社会学に関連する文献をみると、政治に関わる主体に注目する場合には、権力、投票行動、圧力団体などの概念が登場します。また、政策プロセスのあり方を論じる場合には、官僚制、ネットワーク、リーダーシップなどの概念が用いられます。さらに、国際社会における政治を考察する場合には、グローバリゼーション、地域主義、ナショナリズムなどのキーワードが登場します。このような概念は、社会経済が急速に変動するなか、高度化・複雑化しつつある政治という現象を理解するために必要不可欠な視角となります。この科目では、テキストによる学習を通して、政治と社会の関係のあり方を見直すために必要な概念や制度に関する理解を深めるとともに、現実の政治社会に対する論理的な思考を養うことを目標とします。
■学習の要点	1.「政治」をめぐる議論にはどのようなものがあるのでしょうか。権力と自由、政治的多元主義、国家と社会、「新しい市民社会」、現代社会における個人化、国家の役割などの論点を手掛かりに学習していきましょう。2．デモクラシーの歴史的な経緯と課題について学びましょう。デモクラシーの思想の系譜、デモクラシーの多様な側面と近年における変容、福祉国家が直面する様々な課題、現代における非民主的体制、政治教育などの視点から考察しましょう。3．現代日本の政治の現状と課題について、「55 年体制」の特徴、政策決定過程における政治家と官僚の関係、自民党一党優位の時代における政治の問題点、近年における政治改革と行政改革の取組み、民主党政権成立前後の動向などの論点を中心に学習しましょう。4．政治参加の主要な形態である選挙について、有権者の投票行動、選挙制度の変化と選挙結果の関係などの視点から考察しましょう。また、政治社会におけるマス・メディアの影響力はどのように捉えられるのでしょうか。テレビ報道の態様、マス・メディアの実態に注目しましょう。5．国際政治の様々な問題について学びましょう。国際政治の歴史的な経緯、ナショナリズムやテクノロジーが国際政治に及ぼした衝撃、国際社会におけるデモクラシーの役割、人道的介入の正当性などの論点から検討していきましょう。6．グローバリゼーションの諸側面、EU（欧州連合）と移民問題、戦争責任をめぐる歴史認識と政治との関わり、アジアにおける地域主義のゆくえ、政治課題として近年注目される環境とジェンダーの問題などの視点から、「政治」の今後の課題と方向性を考察しましょう。

■学習の到達目標	テキストを通じての学習の結果、概念や用語とともに、テキスト上の各トピックを正確に理解の上、それらを筋道を立てて論じられるようになることを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解するとともに論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。答案の作成にあたっては、出題の要点を正しく把握するとともに、概念や用語を正確に理解し、筋道の通った表現ができているかどうかという点にも留意してください。

授業科目	地域計画論				単位	4.0
担当者	河内　良彰			シラバスグループ	TV5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域計画の社会学：市民参加と分権化社会の構築をめざして	瀧本佳史編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542862

■授業の概要	本科目では、地域社会の身近な事例を通して、自らが住む自治体にいかに関わっていくかを学修することをねらいとする。地域社会に関わるために、住民が主体的に知識と情報を集めることの大切さを考える。地域社会について最も詳しく知りうる主体、地域社会に関われる主体は、地域社会の構成員、ひとり一人の住民にほかならず、地域社会を計画する主体は、地域社会で暮らし、地域社会に最も詳しい主体であることが望ましい。したがって、地域社会に生活する住民は、将来に向けてより良い地域社会を築いていくために、地域社会の問題を発見して解決を模索する実践力とともに、地域計画を企図できる教養を身につけなければならない。自らの生活の場である地域社会、コミュニティをより良い空間に改善できるか否かは、そこに生活する個々の主体の肩にかかっている。本講義では、地域社会を見る目を養い、人間としての主体的力量を発達させることを目標に掲げて取り組む。
■学習の要点	よりよい地域社会を計画するためには、どのように自治体を運営していくかという視点が肝要である。分権化社会の構築を目指し、先進的な自治体では様々な取組が模索されている。コスト意識の向上、行財政改革の推進、住民と行政との協働、情報の共有、住民参加などが挙げられる。受講者は地域社会に関わることを常に想定することが不可欠である。以下の項目に留意して学習することを推奨する。１．地域計画への社会学的アプローチ２．地域社会の変容と地域的公共性の形成３．地域社会の人材育成と社会化４．公共事業と補助金の政治過程５．地域社会における NPO の役割６．パートナーシップとワークショップ７．多様化する地域社会のメンバー
■学習の到達目標	学習の進度を試験によって評価する。知識・理解の観点からは、戦後の国土計画・地域計画、コミュニティ政策、まちづくりの系譜を広く理解すること。思考・判断の観点からは、地域社会の諸活動、NPO、人材育成が経済の基盤となり、先進事例を指摘できることが求められる。
■成績評価の基準	テキストの理解度を評価するが、履修者が関心のある問題について独自性のある議論を展開する力量も問う。

授業科目	地方財政論				単位	4.0
担当者	金　佑榮			シラバスグループ	TV5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域づくりの経済学入門 増補改訂版: 地域内再投資力論	岡田 知弘	自治体研究社	[ISBN]9784880377117

■授業の概要	現代においては、経済のグローバル化による産業空洞化問題や地域間格差の拡大、コミュニティの弱体化など種々の地域問題が広がっています。その解決を目的にしているのが、国や地方自治体による地域政策です。こういった地域政策は、国あるいは地方自治体の財政を通じて実現されるため、これらの財政運営は持続可能な地域づくりにおいて非常に重要な意味を持ちます。このテキストを読むことによって、個別分野政策を超えた地域政策が登場する歴史的背景、政策の展開過程、政策効果について、政策の立案サイドと受容サイドの双方から考察します。そのうえで、国や地方自治体の地域政策を理解し活用できる力を養いたいと思います。
■学習の要点	働き生活する場所がどこになろうと、皆さんは、地域経済の担い手として、地方自治体や国の主権者として、一生、生きることになります。その際に、地域経済・社会、地域公共政策についての基礎知識と基本的な考え方を習得することがとても重要です。テキストを読むことによって、地域社会・経済の仕組みや働きに関する基本的な理解が得られます。また、地域社会・経済の持続可能な発展において、地方自治体の役割、つまり、地方財政の運営のあり方について学ぶことかできます。
■学習の到達目標	1.日本の地域経済・社会の構造を全体的に概括し、地方自治体の役割に関する基本的な理解を得ること 2.日本における従来型地域政策の特質を理解し、その反映としての日本経済・社会の厳しい局面や将来像について考えること 3.持続可能な地域づくりに必要な要素について理解を進めること 4.地方自治体の財政運営のあり方を決定する住民それぞれの選択の基準になっている考え方を理解すること
■成績評価の基準	最終の成績は科目最終試験（100%）の点数で評価します。

授業科目	生活環境論				単位	4.0
担当者	若林　靖永			シラバスグループ	TV5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる環境社会学［第２版］	鳥越　皓之・帯谷　博明 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623079346

■授業の概要	環境問題と言われるようになったのは人類の歴史の中では比較的新しいことであるが、現代の私たちにとっては、人類の生存そのものに係わる重大なテーマとなっている。環境問題には、身の周りの、身近な問題もあれば、地球規模の問題もある。人類の行動、文明の発展の結果として生み出されている環境問題に対して、私たちは自らの問題として受け止めて共同して解決に取り組む必要がある。したがって、環境問題を引き起こす、私たちの社会のあり方について見直し、それをどう変えていったらよいかを明らかにしなくてはならない。この科目では、私たちの身の回りの環境問題を他人事ではなくて、自分たちの身近なものとしてとらえ理解することを目的としている。
■学習の要点	各章のポイントを具体的な事例を通じて理解する。１．人間社会と環境を考える２．自然保護を考える３．身近な自然を考える４．生活と水を考える５．農と食を考える６．ゴミ問題を考える７．環境 NPO/ＮＧＯ・ボランティア・市民活動を考える８．まちづくり/地域づくりと環境を考える９．歴史的環境と景観を考える 10.公害・差別・リスクを考える 11.開発と自然・エネルギー問題を考える 12.地球環境問題を考える
■学習の到達目標	私たちの身の回りの環境問題を他人事ではなくて、自分たちの身近なものとしてとらえて理解し、考察し自分の意見を展開することができる。
■成績評価の基準	論旨の展開や構成をよく考えた解答になっているかどうか。テキストに沿った説明だけでなく、自分のオリジナルな説明や考察が含まれているかどうか。引用等が適切に行われているかどうか。

授業科目	社会保障論				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TV5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
はじめての社会保障　―福祉を学ぶ人へ〔第 20 版〕	椋野美智子・田中耕太郎著	有斐閣	[ISBN]9784641222151

■授業の概要	年金、医療保険など社会保障は、実は私たちにとって非常に身近なものである。 年金の財源問題など私たちにとって避けては通れない問題をいろいろと孕んでおり、ぜひ勉強しておくべきものである。 社会保障は、貧困の撲滅を目的として発展してきた。19 世紀末に貧困原因の科学的発見によって、貧困原因を除去すれば貧困はなくなると考えられるようになり、貧困原因の除去を目的とした様々な社会改良政策が登場することになる。当初考えられていた貧困原因の除去によっては貧困はなくならなかった。貧困原因の除去は社会保険制度を中心に試みられたが、社会保険制度の限界によって貧困はなくならなかったのである。したがって、貧困そのものを救済するために公的扶助制度が必要とされた。社会保障制度は、この社会保険制度と公的扶助制度を基本として成り立っているが、社会保障の制度を支える前提条件として、教育、住宅制度や失業対策、最低賃金制度と児童手当制度が考えられた。国民の最低生活を保障する体系として社会保障制度を包括的に理解する必要がある。
■学習の要点	１．社会保障の理念と機能を理解する。２．社会保障の体系を理解する。３．日本の年金制度を理解する。４．日本の医療保険制度を理解する。５．日本の介護保険制度を理解する。６．日本の公的扶助制度を理解する。７．日本の社会保障制度の歩みを理解する。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進展と理解度を試験で測る。・問題は、テキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。
■成績評価の基準	基本的なことを理解できているか否かを重視する。

授業科目	老人福祉論				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5240	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の高齢者福祉の状況は、「介護問題」を中心に議論されている。しかし、「老人福祉」に求めれる学問的追求は、本来の「人間らしい生き方」を社会が守ろうとする現代的な課題でもある。そのことは、「介護問題」のみに着眼するのではなく広い意味での「福祉」の探究へとつながっていく。　また、「高齢期」に遭遇する生活状況や、社会が対峙していかなければならない課題なども理解し、多角的な分析を行えるよう、広い視野をもつようにしていただきたい。　そのため、この科目では、まず老人福祉の基本を学ぶことを目的とし、老人福祉の歴史的経緯や、「老い」についての理解、高齢期における生活課題、高齢者と人権などを学びつつ、学習の要点に示している内容の理解を深めていってほしい。
■学習の要点	（1）人口高齢化の状況とその特徴　わが国の人口高齢化には、他の先進国には見られない幾多の特徴がある。わが国の高齢化の進展状況とともに、その特徴を理解すること。（2）高齢者の生活実態　高齢者の生活状況を、健康・経済、家庭・住居、社会活動などの側面からトータルに理解すること。（3）要介護高齢者の増加と介護問題　高齢者の介護問題が生じた理由・社会的背景とともに、現代の高齢者の介護問題を理解すること。（4）高齢者福祉政策の変遷　わが国の高齢者福祉の発展・変遷の歴史を理解するとともに、近年、めまぐるしく変化している制度・政策の内容を理解すること。（5）高齢者福祉に関係する法律　　老人福祉法、高齢者居住法、後期高齢者医療制度(6) 高齢者社会対策基本法の理解
■学習の到達目標	（1）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（2）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（3）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。
■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）を押さえながら、理念や高齢者福祉をとらえる支援など、総合的に評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	社会心理学				単位	4.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TV5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在として誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自己や社会的認知、コミュニケーションなどについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　自己と態度 2　対人行動の仕組みと援助 3　社会的認知 4　対人コミュニケーション 5　社会環境と環境のもつ意味 6　文化的な自己と機能
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	社会学史				単位	4.0
担当者	辰巳　伸知			シラバスグループ	TT5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
クロニクル社会学（有斐閣アルマ）	那須壽	有斐閣	[ISBN]9784641120419

■授業の概要	社会学は、19 世紀前半フランスのオーギュスト・コントによってその名を与えられ、それ以降さまざまな社会学者がさまざまな学説を提唱し、今日に至っている。社会学史は、そのような社会学の歴史を扱う科目であるが、それは決して博物館に陳列されている過去の遺物を懐古的に観賞するようなことをねらいにするのではない。社会学者たちは、彼らが生きた時代の現実と知的に格闘してきた。主として時代的制約のゆえに、彼らが提唱した学説は、そのままわれわれが現在直面している現実に適用することはできないかもしれない。しかし、そういった制約ゆえの欠落や歪みにも関わらず、多くの社会学者が提唱した学説は、現代社会に鋭く切りこんでいく手段を提供してくれるのである。欠落や歪みについて考察することすら、われわれが生きる現代社会に対するセンスを研ぎすまさせてくれるであろう。社会学史とは、すぐれものがいっぱいつまった「道具箱」なのである。
■学習の要点	1．戦後アメリカでパーソンズの理論が登場し、一定期間絶大な影響力をもったこと、およびその影響力がその後減退したことについて、他の学説やアメリカ社会のあり方と関わらせて考えてほしい。2．『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』をはじめとするウェーバーの宗教社会学では何を解明しようとされていたのか考えてほしい。3．ハーバーマスのコミュニケーション概念は、単なるコミュニケーション論を展開するだけに用いられたのではないことを理解してほしい。4．「意味学派」として一括総称される反客観主義的立場について、学説ごとに検討してほしい。5．日常生活の対面的状況に特に留意したゴフマンのユニークさについて学んでほしい。6．「構造と主体的行為」というテーマに関して、ギデンズはどう考えたかということについて学んでほしい。
■学習の到達目標	この「社会学史」は、多くの社会学史とは異なって、比較的現在に近い社会学者や学説を学ぶことを目指している。したがって、より古典的な社会学者や学説（たとえば、コントやマルクス、デュルケム等）についての知識をある程度前提にしているところがあるので、その点留意してほしい。　科目最終試験に際しては、論述の一貫性を重視する。あまりに冗長な論述は歓迎しない。試験問題に応じた要所をおさえた内容にしてほしい。また、あまりに分量の少ない論述（500 字以下）には合格点を与えない。それなりに内容のある文章には、ある程度の量が必要だからである。　リポートとは異なって、自分の意見や考えを書く必要はない。また、テキストの内容にとどまっていたとしても、論述に一貫性があり要点をおさえておれば、90 点を上限に評価する。他の文献からの学習成果がうかがえれば、その内容に応じて加点する。
■成績評価の基準	設問との正確な対応。論述の一貫性。相応の分量。

授業科目	社会形成史				単位	4.0
担当者	野﨑　敏郎			シラバスグループ	TV0509	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本資本主義百年の歩み：安政の開国から戦後改革まで	大石嘉一郎著	東京大学出版会	[ISBN]9784130421218

■授業の概要	日本資本主義は、歴史上、特異な政治的社会的背景のもとに導入され、また発展を遂げました。テキストは、こうした日本資本主義の歩みをたどりながら、その発達のメカニズムや特質や問題構造を解明し、またそこから今日の私たちの直面している経済問題への視座をも提供しています。　幕藩体制下の経済構造、幕末期におけるその変容、安政の開国が経済・産業にもたらした甚大な影響、明治政権下の財政・経済課題、殖産興業政策の展開、自由民権運動と明治憲法体制への移行、産業革命過程の進行、日本資本主義の国際経済との関係、農業と地主制、第一次世界大戦とそれ以降における日本資本主義の変容過程、独占の進行と労働問題、農村支配体制の問題、世界大恐慌にたいする対処策、農村経済の危機、日本資本主義の構造変化、国家独占資本主義への移行とその戦時体制への帰結、第二次世界大戦下の統制経済、戦後改革と経済の民主化が、主要なトピックです。
■学習の要点	幕藩体制下の経済が、すでに諸矛盾を抱えており、安政の開国によってそこに多様な変動要因が加わり、古い経済制度を保ちこたえることが不可能になったこと、封建的な諸制度から近代的な諸制度への移行にさいして大きな困難と問題が生じたこと、国家財政の問題が大規模な経済改革を必要としたこと、これによってさらに大きな経済的困難に直面した階層が自由民権運動の支持基盤になったこと、産業革命過程の進行には多様な様相があること、またその発展が国際経済下の競争によって大きな影響を被ること、第一次世界大戦によって日本の経済が大きな改変過程を迎えること、それは農村の支配体制や政治にも大きな影響を与えること、世界大恐慌への対応は、狭い意味における地域経済のみならず、社会経済関係全般にわたる大改革を必要とすること、戦時体制は日本資本主義に過剰な負荷をかけ、経済体制そのものの崩壊を招くこと、戦後改革は経済の民主化を重要な内容物として含むことが、主要な論点です。　近代への移行は、けっして自然の成り行きで進んでいったのではなく、そこには非常に鋭い緊張・対立・競争関係があり、そのなかで、さまざまな政治闘争を交えて、経済体制の変化が生じ、しかも日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、第二次世界大戦という一連の戦争が、経済変動に決定的な意味をもっています。戦後においても、朝鮮戦争を抜きにして日本資本主義の再建を語ることはできません。戦争の問題と経済の問題とを結びつけて考えることも重要です。
■学習の到達目標	テキストを読むことによって、日本資本主義の形成過程とその特質と問題性とを把握し、大きな歴史の流れを読み取ることが到達目標です。

■成績評価の基準	社会経済構造がどのような要因によってどのような変化を余儀なくされたか、またそれによって新しい社会がどのような特徴をもつようになったのかを明確に理解しているかどうかを評価します。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5402	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イメージの人類学	箭内匡	せりか書房	[ISBN]9784796703734

■授業の概要	20 世紀の人類学は、民族誌的フィールドワークの原点となる 1922 年のマリノフスキの著作『西太平洋の遠洋航海者』を出発点とし、理論的に大きく飛躍したレヴィ＝ストロースの構造主義を通過した後、クリフォードらによる『文化を書く』などの 1980 年代の文化人類学批判を受け止め、グローバル化する 1990 年代以降、新たな展開を遂げています。このような学術的な流れの中、この授業では、箭内匡の『イメージの人類学』をテキストとして、人間と自然の関係を中心に、人類学の最新の議論を学ぶことを目的とします。このテキストは、著者自身を含む人類学者が残した民族誌だけでなく、民族誌的映画作品や哲学についても言及しながら、人類学の古典的著作と、フィリップ・デスコラやティム・インゴルドといった 1990 年代以降の人類学の議論を結びつけるものです。テキストの前半部分は、理論的枠組みの議論が中心となっており、そこでは「イメージ」と「社会身体」という二つの概念を理解します。後半部分では、これらの概念の理解をもとに、おもに「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について学びます。これらの議論を通じて、箭内が主張する現代的人類学の方向性を学びます。
■学習の要点	本授業のテキストは、「はじめに」、第１章から第９章、「おわりに」の 11 パートに分かれています。難解な用語も出てきますが、それぞれのパートの主張は明確ですので、それをつかみ取るように丁寧に読み進めてください。「はじめに」では 1990 年代から 2000 年代にかけて起きた人類学の変化について解説されています。テキストの前半部分である第１章から第５章までは理論的枠組みが示されており、人類学の古典的著作にも言及しながら、「イメージ」、「不可量部分」、「脱イメージ化と再イメージ化」、「イメージ平面」、「社会身体」といった概念を論じています。テキストの後半部分である第６章から第９章では、これらの概念の理解をもとに、フィリップ・デスコラやヴィヴェイロス・デ・カストロなどのアニミズムをめぐる 1990 年代以降の著作を用いながら、「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について議論を深めています。とくに「ディナミスム」については箭内独自の議論が行われています。ここまでの議論はその後も引き継がれ、「近代性についての人類学」と「自然と身体をテーマとする人類学」の議論へと展開していきます。最後の「おわりに」では、「人類学的直観」に加え、「一回的なもの」と「反復的なもの」について論じられています。このように本テキストのテーマは多岐にわたり、人類学の最新の議論を提示しようと試みています。また哲学者からの引用も多く、理論的に難解な個所も複数ありますが、図や写真を数多く用いながら、古典から最新の著作まで、さらには民族誌的映画も取り上げて、できるだけ分かりやすい言葉で、中心となる議論がぶれないように丁寧に書かれたテキストです。図や写真を手掛かりにしながら粘り強く読み進め、このテキストが繰り返し主張する現代的人類学のあり方をつかみ取ってください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	情報産業論				単位	4.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TV5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アップル、アマゾン、グーグルの競争戦略	雨宮寛二　著	NTT 出版	[ISBN]9784757122901

■授業の概要	本講義では、情報産業の中でも近年支配的な地位を確立しつつある、アップル・アマゾン・グーグルの 3 社について中心的に扱う。各社の競争戦略を比較しながら学習することで、情報産業において重要となるコンセプトについて理解することを講義の目的とする。
■学習の要点	アップル・アマゾン・グーグルの 3 社の競争戦略を理解するためには、情報産業に関する基本的な知識とビジネスモデルの理解が必要となる。そのため、本講義指定のテキストを通読したのちに、改めて最初から読み直してみることを勧めたい。また、不明なキーワードやコンセプトがあれば、検索サイト等を通じて積極的に自分から調べてみてほしい。
■学習の到達目標	アップル・アマゾン・グーグルの競争戦略について概要を理解しつつ、情報産業において重要となるコンセプトがどのように反映されているかを説明できるようになることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	日本史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	アジア史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	社会調査論				単位	4.0
担当者	山口　洋			シラバスグループ	TT5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・社会調査へのアプローチ　論理と方法	大谷信介ほか編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623066544

■授業の概要	社会現象を把握するためには社会調査が不可欠です。とはいえ、どのような対象をどのような問題意識で調査するかによって、社会調査の方法はさまざまです。ここでは種々の調査方法の特色と手順の概略を理解することが目的です。 この科目はテキスト履修科目ですから、テキストを読むことが主な学習方法になります。しかし社会調査論の場合、ただ単にテキストを読むのではなく、自分で調査を実施するつもりになってテキストを読むことをおすすめします。そうすることで初めて理解できる事柄が沢山あります。リポート設題の「１」は、そのような趣旨のものとご理解ください。
■学習の要点	以下の６点に留意しつつ、テキスト・参考文献を読んでください。 １．調査によって検証される仮説をどのように構成したらよいかについてまとめておくこと。 ２．様々なサンプリングの技法の概要とその特徴をまとめておくこと。 ３．調査票の構成や質問文の作り方について学習すること。 ４．調査票調査の主な実施方法（面接、留置、郵送、集合、電話）の特徴についてまとめておくこと。 ５．聞き取り調査の意義と実施上の注意点について学習すること。 ６．参与観察の意義と実施上の注意点について学習すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は「学習の要点」の各項目について、テキスト・参考文献のポイントをおさえつつ、具体例をあげながら説明できることです。
■成績評価の基準	試験の採点は加点方式を基本とします。つまり、あるポイントがきちんと説明されていれば何点、さらに別のあるポイントが説明されていれば何点、という具合に加点します。ピント外れの事を大量に書いても得点にはなりません。具体例をあげながら、各ポイントを的確かつ簡潔にまとめるようにしてください。また文章全体のまとまりや分かりやすさに応じて加点･減点します。テキストや他の参考文献の丸写しは評価できませんので、ご注意ください。

授業科目	公共政策学				単位	4.0
担当者	堀江　典子			シラバスグループ	TV5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
生活者のための地域マネジメント入門	朝日 ちさと　編　堀江 典子　編	昭和堂	[ISBN]9784812217320

■授業の概要	我々の社会は身近な地域の問題から地球規模の問題まで多種多様な問題を抱えています。ここでは、社会問題を解決するための公共政策について考えます。第二次世界大戦後に政策科学 Policy Sciences という名称で登場した公共政策 Public Policy は、公共的問題として課題を認識し、どのように解決するかという方向性と具体的手段を追求してきました。複雑化していく現代社会において公共政策の重要性は増大しており、さまざまな分野のさまざまなレベルの課題を捉えてアプローチしていくことが求められています。公共政策は行政など公共部門だけが担うものではなく、企業や NPO など民間部門、そして一人一人の生活者の担う役割が増大しているのです。　本科目では、公共政策を地域マネジメントとして捉え、よりよい社会のためのマネジメントについて考えます。
■学習の要点	学習の基本になるのはテキストを丁寧に読むことです。このテキストでは、公共政策を地域マネジメントとして捉えて枠組みを示し、考慮すべき価値、問題の捉え方と構造、可能な手段、意思決定・実施・評価のアウトライン、生活者の関与のあり方などが順を追って説明されています。理解するうえでは具体的な事例に当てはめて考えながら納得していくことが有効です。
■学習の到達目標	テキストをよく理解できていることが到達目標です。出題はテキストに即した内容ですので、解答もテキスト学習を踏まえて記述してください。答案の作成に当たっては、何が求められているかを正確に理解して、論理的に記述してください。
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解して、求められていることに対して解答できているか。・必要なキーワードが含まれているか。・正確かつ論理的に記述できているか。・記述量は適切か。記述量が少なすぎる場合には減点の対象になりますが、関係のないことで記述量を増やしても加点されません。

授業科目	環境と開発				単位	4.0
担当者	林　隆紀			シラバスグループ	TV5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
法学･経済学･自然科学から考える環境問題	青木淳一他　著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766424461
「環境を守る」とはどういうことか	尾関周二編、環境思想･教育研究会編	岩波書店	[ISBN]9784002709604

■授業の概要	人間が科学技術の力を借りて自然に働きかけ、さまざまな開発行為を加えることによって、これまでの歴史上でも自然環境に種々の影響を与えてきた。さらにそれが今日にいたって、地域の自然環境や都市環境の破壊をもたらし、同時に地球環境の安定的状態さえも変えるような事態を引き起こした。そのために今や、人類の持続的生存さえもが危うくなっている。本科目では環境を読み解くため、法学、経済学、自然科学など、様々な学問分野を学習することにより、環境問題のもつ多面的な視点を獲得することを目的とする。さらにそれらを統合して、環境やエコロジーをめぐる哲学、倫理学的な思想について学び、自ら深く考えることを目指す。
■学習の要点	① 循環型社会の在り方② 生物多様性概念の獲得③ 地球温暖化問題の理解④ 環境思想の流れ⑤ 自然と人間の共生について
■学習の到達目標	現代社会における環境問題に対する多角的な視点を獲得するために、複数の学問分野からの考え方を学ぶ。またこれからの持続可能な社会形成を深く考えるため、環境概念の捉え方を学ぶ。試験においては、抽象的努力目標のみを羅列するのではなく、学習内容に基づいて、具体的課題の指摘や分析、あるいは根拠の提示ができるようにすること。
■成績評価の基準	（1）テキスト内容の基本的理解ができていること（2）問題に示された指示内容について的確に解答できていること（3）最終試験の記述にあたっては、テキストや問題を踏まえて論述すること、かつその中に自分自身の意見が明示されていること

授業科目	コミュニティ論				単位	4.0
担当者	若林　靖永			シラバスグループ	TV5215	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
コミュニティの幸福論	桜井　政成	明石書店	[ISBN]9784750350899

■授業の概要	私たち人間は一人では生きられない。コミュニティ、居場所があって私たちは生かされている存在である。今日、社会の個人化の進展によって、家族のつながり、地域コミュニティや居場所は失われつつあり、それによる孤独・孤立が広がっている。他方で、SNS やオンライン・ゲームなどによる新たなオンライン・コミュニティが登場し、新たな人と人のつながりを生み出しつつ、同時に、オンライン上での「いじめ」問題も生み出している。　この科目では、コミュニティの観点から私たちの幸せを追求するということについて多面的に理解することを目的としている。
■学習の要点	各章のポイントを具体的な事例を通じて理解する。１．コミュニティから幸せを考える意味って？２．日本人の幸福感３．助け合わない日本人？（1）利他的行動とボランティア４．助け合わない日本人？（2）被援助要請とウチ・ソト文化５．地域コミュニティの幸せ一地元で暮らすということ６．居場所を考える一子供・若者を締め出す地域コミュニティ７．インターネットとコミュニティ８．「当事者」とコミュニティ一LGBT を例に９．「働くこと」を支える一社会的包摂とコミュニティ 10.コミュニティとトラブル、排除 11.助け合える幸せなコミュニティとは
■学習の到達目標	コミュニティの観点から私たちの幸せを追求するということについて多面的に理解し、考察し自分の意見を展開することができる。
■成績評価の基準	論旨の展開や構成をよく考えた解答になっているかどうか。テキストに沿った説明だけでなく、自分のオリジナルな説明や考察が含まれているかどうか。引用等が適切に行われているかどうか。

授業科目	生活文化論				単位	4.0
担当者	柳下　実			シラバスグループ	TV5217	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
21 世紀ライフスタイル革命：生活文化を軸にした経済・社会の創造	坂東慧	勁草書房	[ISBN]9784326652662

■授業の概要	私たちは「人間らしい、豊かで文化的な生活の意味」や「それを実現するための可能性」について常に、一人の人間として模索する環境のなかにいます。しかし、現実の世界では「効率性」、「有効活用」といったことが支配原理となっています。普段生活するなかでは、これらの二つのアイデアの矛盾には気が付かないで生活しています。「生活文化」のテーマはこうした身近な問題から日々の生活を振り返り、また、家族、企業、協同組合、コミュニティア等から生活を多角的・多面的に捉え、客観的な検証を行い、確認しながら理解をすることです。本科目ではテキストを手掛かりに私たちの生活のなかから「消費生活」、「アイデンティティ」、「ライフスタイルとファッション」、「ソフト産業」、「時間・労働・余暇」、「宗教と宗教心」、「都市」をキーワードに「生活文化」の問題点を考えます。
■学習の要点	「生活」とは私たちの日々の行為の連続です。この点に注目し、まず、生活文化の意味を理解します。生活の変化によってどのような問題が発生し、その問題がどのように解決されたのかを確認をしましょう。テキストはすべてを網羅していませんので、学習は以下の６つの手順でおこないましょう。関連する文献や白書、報告書、統計資料を参考にすると学習が進みやすくなります。①「生活文化」という概念を学び、日常的に使用している「生活」や「文化」と、どのように異なるかを確認しましょう。②20 世紀に活発化したグローバル化の影響をみながら、21 世紀に求められる民族のアイデンティティの捉え方を検討しましょう。③「衣生活」をファッションの視点で整理してみましょう。また、機能に注目し、ファッションが意味を伝えるというコミュニケーション上の媒体機能や都市社会の発展との関わりを確認しましょう。④日本の第二次世界大戦後の産業の成長、変遷を確認し、私たちの働き方や暮らしにどのような影響を与えたのか確認しましょう。⑤社会・経済の発展の中で、顕在化する疎外を「信仰」の視点から考えてみましょう。⑥都市と生活文化の発展の関連を考え、産業の発展による人びとの都市部への移動と新しい生活文化の創造について検討しましょう。
■学習の到達目標	テキストを熟読することに加え、他の関連文献や白書、統計資料、新聞記事などにあたって、「学習の要点」に書かれている項目のそれぞれについて理解を深める。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	自治体論				単位	4.0
担当者	大藪　俊志			シラバスグループ	TV5233	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地方自治入門	稲継裕昭著	有斐閣	[ISBN]9784641173811

■授業の概要	日本国憲法第 92 条では、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて、法律でこれを定める」として、地方自治の原則を規定しています。一般に地方自治の本旨には、国から独立した地方公共団体（地方自治体）がその権限と責任において地域の行政を処理する団体自治と、地方行政はその地域の住民の意志と責任に基づいて行われるという住民自治の二つの要素が含まれるとされます。戦後の日本では、憲法で地方自治を制度的に保障することにより、自治の制度と内容の充実強化を図ってきました。　しかしながら現実の地方自治のあり方をみると、従来から特に事務や財政の面において地方自治体の裁量の余地が狭いことなどが指摘されてきました。そのため、中央集権的なシステムの改革が重要な政策課題に挙げられるようになり、近年の地方分権改革では機関委任事務制度の廃止、国の地方自治体に対する協議・関与の一般的ルールの制定、必置規制の大幅緩和、国地方係争処理委員会の設置などが実現しています。また、分権改革の潮流は、「地域のことは地域に住む住民が責任を持って決めることのできる活気に満ちた地域社会」（内閣府）の構築を目指す地域主権改革の取組みにもつながっています。この科目では、テキストによる学習を通して、地方自治体の仕組み、組織、財政、政策過程、改革の動向など、自治体に関わる基本的な知識の習得を目指します。
■学習の要点	１．地方自治体の仕組みについて、議決機関（議会）、首長（都道府県知事・市町村長）、行政委員会の機能と役割を調べてみましょう。２．地方自治体の財政はどのような仕組みになっているのでしょうか。地方財政の状況、地方財政の制度（地方交付税、国庫支出金、地方税など）について学習しましょう。３．地方公務員の制度について調べてみましょう。地方公務員の数と種類、採用・異動・昇任の仕組み、人事と給与の制度はどのようになっているのでしょうか。４．地方自治体の組織にはどのようなものがあるのでしょうか。また、近年における組織再編の動向にも注目しましょう。５．近年の地方自治体改革の取組みについて、行政評価、PFI（Private Finance Initiative）、指定管理者制度、地方独立行政法人などの改革手法を調べてみましょう。６．近年の地方自治体改革の背景にあるニュー・パブリック・マネジメント（NPM）の概念、諸外国における展開、日本における NPM の受容について調べてみましょう。
■学習の到達目標	１．中央地方関係、自治体の組織、財政、政策過程などに関する基本的な知識を習得し、的確に説明できるようになる。２．自治体における改革の背景、動向、市民参加の取組みなどを学び、自治体が直面する様々な課題の解決に向けた方策を考察できるようになる。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解しているかどうか、論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。

授業科目	政治社会学				単位	4.0
担当者	上田　道明			シラバスグループ	TV5235	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
政治学をつかむ	苅部直ほか編	有斐閣	[ISBN]9784641177154

■授業の概要	「政治」とは何かという問いには様々な答えがあり得ます。例えば、政治に関するよく知られた定義として、「社会に対する価値の権威的配分」（D. イーストン）というものがあります。この場合、政治の機能とは、限りある資源や価値を何らかの強制力のもとに配分することを意味します。別の言い方をすれば、社会において、その構成員全てに関わるような決定がなされるとき、政治という社会現象が生じると言えるでしょう。政治社会学では、我々の社会的生活に多大な影響を及ぼす「政治」という営みを対象に、政治と社会の関係のあり方を考察します。政治社会学に関連する文献をみると、政治に関わる主体に注目する場合には、権力、投票行動、圧力団体などの概念が登場します。また、政策プロセスのあり方を論じる場合には、官僚制、ネットワーク、リーダーシップなどの概念が用いられます。さらに、国際社会における政治を考察する場合には、グローバリゼーション、地域主義、ナショナリズムなどのキーワードが登場します。このような概念は、社会経済が急速に変動するなか、高度化・複雑化しつつある政治という現象を理解するために必要不可欠な視角となります。この科目では、テキストによる学習を通して、政治と社会の関係のあり方を見直すために必要な概念や制度に関する理解を深めるとともに、現実の政治社会に対する論理的な思考を養うことを目標とします。
■学習の要点	1.「政治」をめぐる議論にはどのようなものがあるのでしょうか。権力と自由、政治的多元主義、国家と社会、「新しい市民社会」、現代社会における個人化、国家の役割などの論点を手掛かりに学習していきましょう。2．デモクラシーの歴史的な経緯と課題について学びましょう。デモクラシーの思想の系譜、デモクラシーの多様な側面と近年における変容、福祉国家が直面する様々な課題、現代における非民主的体制、政治教育などの視点から考察しましょう。3．現代日本の政治の現状と課題について、「55 年体制」の特徴、政策決定過程における政治家と官僚の関係、自民党一党優位の時代における政治の問題点、近年における政治改革と行政改革の取組み、民主党政権成立前後の動向などの論点を中心に学習しましょう。4．政治参加の主要な形態である選挙について、有権者の投票行動、選挙制度の変化と選挙結果の関係などの視点から考察しましょう。また、政治社会におけるマス・メディアの影響力はどのように捉えられるのでしょうか。テレビ報道の態様、マス・メディアの実態に注目しましょう。5．国際政治の様々な問題について学びましょう。国際政治の歴史的な経緯、ナショナリズムやテクノロジーが国際政治に及ぼした衝撃、国際社会におけるデモクラシーの役割、人道的介入の正当性などの論点から検討していきましょう。6．グローバリゼーションの諸側面、EU（欧州連合）と移民問題、戦争責任をめぐる歴史認識と政治との関わり、アジアにおける地域主義のゆくえ、政治課題として近年注目される環境とジェンダーの問題などの視点から、「政治」の今後の課題と方向性を考察しましょう。

■学習の到達目標	テキストを通じての学習の結果、概念や用語とともに、テキスト上の各トピックを正確に理解の上、それらを筋道を立てて論じられるようになることを目指します。
■成績評価の基準	科目最終試験では、出題のポイントを的確に理解するとともに論理的な記述がなされているかどうかという点を成績評価の基準としています。答案の作成にあたっては、出題の要点を正しく把握するとともに、概念や用語を正確に理解し、筋道の通った表現ができているかどうかという点にも留意してください。

授業科目	地域計画論				単位	4.0
担当者	河内　良彰			シラバスグループ	TV5237	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域計画の社会学：市民参加と分権化社会の構築をめざして	瀧本佳史編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784861542862

■授業の概要	本科目では、地域社会の身近な事例を通して、自らが住む自治体にいかに関わっていくかを学修することをねらいとする。地域社会に関わるために、住民が主体的に知識と情報を集めることの大切さを考える。地域社会について最も詳しく知りうる主体、地域社会に関われる主体は、地域社会の構成員、ひとり一人の住民にほかならず、地域社会を計画する主体は、地域社会で暮らし、地域社会に最も詳しい主体であることが望ましい。したがって、地域社会に生活する住民は、将来に向けてより良い地域社会を築いていくために、地域社会の問題を発見して解決を模索する実践力とともに、地域計画を企図できる教養を身につけなければならない。自らの生活の場である地域社会、コミュニティをより良い空間に改善できるか否かは、そこに生活する個々の主体の肩にかかっている。本講義では、地域社会を見る目を養い、人間としての主体的力量を発達させることを目標に掲げて取り組む。
■学習の要点	よりよい地域社会を計画するためには、どのように自治体を運営していくかという視点が肝要である。分権化社会の構築を目指し、先進的な自治体では様々な取組が模索されている。コスト意識の向上、行財政改革の推進、住民と行政との協働、情報の共有、住民参加などが挙げられる。受講者は地域社会に関わることを常に想定することが不可欠である。以下の項目に留意して学習することを推奨する。１．地域計画への社会学的アプローチ２．地域社会の変容と地域的公共性の形成３．地域社会の人材育成と社会化４．公共事業と補助金の政治過程５．地域社会における NPO の役割６．パートナーシップとワークショップ７．多様化する地域社会のメンバー
■学習の到達目標	学習の進度を試験によって評価する。知識・理解の観点からは、戦後の国土計画・地域計画、コミュニティ政策、まちづくりの系譜を広く理解すること。思考・判断の観点からは、地域社会の諸活動、NPO、人材育成が経済の基盤となり、先進事例を指摘できることが求められる。
■成績評価の基準	テキストの理解度を評価するが、履修者が関心のある問題について独自性のある議論を展開する力量も問う。

授業科目	地方財政論				単位	4.0
担当者	金　佑榮			シラバスグループ	TV5239	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
地域づくりの経済学入門 増補改訂版: 地域内再投資力論	岡田 知弘	自治体研究社	[ISBN]9784880377117

■授業の概要	現代においては、経済のグローバル化による産業空洞化問題や地域間格差の拡大、コミュニティの弱体化など種々の地域問題が広がっています。その解決を目的にしているのが、国や地方自治体による地域政策です。こういった地域政策は、国あるいは地方自治体の財政を通じて実現されるため、これらの財政運営は持続可能な地域づくりにおいて非常に重要な意味を持ちます。このテキストを読むことによって、個別分野政策を超えた地域政策が登場する歴史的背景、政策の展開過程、政策効果について、政策の立案サイドと受容サイドの双方から考察します。そのうえで、国や地方自治体の地域政策を理解し活用できる力を養いたいと思います。
■学習の要点	働き生活する場所がどこになろうと、皆さんは、地域経済の担い手として、地方自治体や国の主権者として、一生、生きることになります。その際に、地域経済・社会、地域公共政策についての基礎知識と基本的な考え方を習得することがとても重要です。テキストを読むことによって、地域社会・経済の仕組みや働きに関する基本的な理解が得られます。また、地域社会・経済の持続可能な発展において、地方自治体の役割、つまり、地方財政の運営のあり方について学ぶことかできます。
■学習の到達目標	1.日本の地域経済・社会の構造を全体的に概括し、地方自治体の役割に関する基本的な理解を得ること 2.日本における従来型地域政策の特質を理解し、その反映としての日本経済・社会の厳しい局面や将来像について考えること 3.持続可能な地域づくりに必要な要素について理解を進めること 4.地方自治体の財政運営のあり方を決定する住民それぞれの選択の基準になっている考え方を理解すること
■成績評価の基準	最終の成績は科目最終試験（100%）の点数で評価します。

授業科目	民法				単位	4.0
担当者	久保　壽彦			シラバスグループ	TV5246	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
民事法入門 第 8 版　補訂版	野村豊弘	有斐閣アルマ	[ISBN]9784641221987

■授業の概要	民法とは、私達一般市民の間の関係について定めた法律であり、civil low とも呼ばれている。従って、私達にとって非常に身近なもので、生きていくうえで否が応でも関わらざるを得ない法律である。　本科目では、私達の生活に直接関わりうる事柄を中心に取り上げながら、民法の基本を学ぶ。民法を学ぶことで、いち市民として幸せに生きていくためにも必要な知識・素養を得ることを目的とする。
■学習の要点	民法は条文数 1000 条を超える大法典であり、大きく分けて５つの異なる要点、すなわち、総則、物権、債権、家族、相続である。本授業では、年間を通じてこれらの要点を学ぶ。加えて、民法は私法分野の基本法とされ、様々な法律のベースとなっていることを理解して欲しい。　これらを踏まえた学習のポイントは、ともかくテキストを熟読することである。初めて目を通した項目については、数回読みこなすことで理解できる場合が多く、逆に何回も読めば授分理解出る法律でもある。さらに、レジュメを作成することができればさらに学習の効果が表出できるものと考えられる。
■学習の到達目標	法的事柄を学ぶことを通じて、法律の知識のみならず、論理的に考える力、自身の考えを論理的かつ的確に他者に伝える力、他者と議論する力、社会的に弱い立場にある者に対する思いやりなど社会人として、人間として生きていくうえで大切な素養を身につける。
■成績評価の基準	レポート課題の提出状況と最終試験によって成績評価する。最終試験は、民法の学習を通じて基本的かつ不可欠な法律知識を問い、民法に規定される総則・物権・債権・家族・相続について民法の理解度を図るものである。

授業科目	労働法				単位	4.0
担当者	嶋田　佳広			シラバスグループ	TV5248	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
労働法　第 9 版	水町勇一郎	有斐閣	[ISBN]9784641243521

■授業の概要	労働法を学ぶことで、自身が労働者として働いていくうえでの知識を得るとともに、働き方改革が叫ばれる現代社会における労働問題をいかに解決していくべきか考える。
■学習の要点	・労働法の存在意義・就業規則・賃金・労働時間・休日・人事・労働組合の意義・不当労働行為・争議行為
■学習の到達目標	①労働をめぐる様々な現代的問題に関心を持ち、その改善に向けて積極的かつ主体的に考え、行動することができる。②労働に関係する基本的な法規制の概要について理解できる。③自身や身近な人が労働問題に巻き込まれた時に解決するための手立てを持つことができる。
■成績評価の基準	日本語の文章として適切か（誤字脱字・形式なども含めて）、抑えるべきポイントをきちんと抑えられているか、基本的な概念について正しく理解できているかを評価基準にする。

授業科目	生活環境論				単位	4.0
担当者	若林　靖永			シラバスグループ	TV5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる環境社会学［第２版］	鳥越　皓之・帯谷　博明 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623079346

■授業の概要	環境問題と言われるようになったのは人類の歴史の中では比較的新しいことであるが、現代の私たちにとっては、人類の生存そのものに係わる重大なテーマとなっている。環境問題には、身の周りの、身近な問題もあれば、地球規模の問題もある。人類の行動、文明の発展の結果として生み出されている環境問題に対して、私たちは自らの問題として受け止めて共同して解決に取り組む必要がある。したがって、環境問題を引き起こす、私たちの社会のあり方について見直し、それをどう変えていったらよいかを明らかにしなくてはならない。この科目では、私たちの身の回りの環境問題を他人事ではなくて、自分たちの身近なものとしてとらえ理解することを目的としている。
■学習の要点	各章のポイントを具体的な事例を通じて理解する。１．人間社会と環境を考える２．自然保護を考える３．身近な自然を考える４．生活と水を考える５．農と食を考える６．ゴミ問題を考える７．環境 NPO/ＮＧＯ・ボランティア・市民活動を考える８．まちづくり/地域づくりと環境を考える９．歴史的環境と景観を考える 10.公害・差別・リスクを考える 11.開発と自然・エネルギー問題を考える 12.地球環境問題を考える
■学習の到達目標	私たちの身の回りの環境問題を他人事ではなくて、自分たちの身近なものとしてとらえて理解し、考察し自分の意見を展開することができる。
■成績評価の基準	論旨の展開や構成をよく考えた解答になっているかどうか。テキストに沿った説明だけでなく、自分のオリジナルな説明や考察が含まれているかどうか。引用等が適切に行われているかどうか。

授業科目	社会保障論				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TV5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
はじめての社会保障　―福祉を学ぶ人へ〔第 20 版〕	椋野美智子・田中耕太郎著	有斐閣	[ISBN]9784641222151

■授業の概要	年金、医療保険など社会保障は、実は私たちにとって非常に身近なものである。 年金の財源問題など私たちにとって避けては通れない問題をいろいろと孕んでおり、ぜひ勉強しておくべきものである。 社会保障は、貧困の撲滅を目的として発展してきた。19 世紀末に貧困原因の科学的発見によって、貧困原因を除去すれば貧困はなくなると考えられるようになり、貧困原因の除去を目的とした様々な社会改良政策が登場することになる。当初考えられていた貧困原因の除去によっては貧困はなくならなかった。貧困原因の除去は社会保険制度を中心に試みられたが、社会保険制度の限界によって貧困はなくならなかったのである。したがって、貧困そのものを救済するために公的扶助制度が必要とされた。社会保障制度は、この社会保険制度と公的扶助制度を基本として成り立っているが、社会保障の制度を支える前提条件として、教育、住宅制度や失業対策、最低賃金制度と児童手当制度が考えられた。国民の最低生活を保障する体系として社会保障制度を包括的に理解する必要がある。
■学習の要点	１．社会保障の理念と機能を理解する。２．社会保障の体系を理解する。３．日本の年金制度を理解する。４．日本の医療保険制度を理解する。５．日本の介護保険制度を理解する。６．日本の公的扶助制度を理解する。７．日本の社会保障制度の歩みを理解する。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進展と理解度を試験で測る。・問題は、テキストに即して出題する。解答はテキスト学習の範囲内で記述すればよい。
■成績評価の基準	基本的なことを理解できているか否かを重視する。

授業科目	老人福祉論				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5240	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の高齢者福祉の状況は、「介護問題」を中心に議論されている。しかし、「老人福祉」に求めれる学問的追求は、本来の「人間らしい生き方」を社会が守ろうとする現代的な課題でもある。そのことは、「介護問題」のみに着眼するのではなく広い意味での「福祉」の探究へとつながっていく。　また、「高齢期」に遭遇する生活状況や、社会が対峙していかなければならない課題なども理解し、多角的な分析を行えるよう、広い視野をもつようにしていただきたい。　そのため、この科目では、まず老人福祉の基本を学ぶことを目的とし、老人福祉の歴史的経緯や、「老い」についての理解、高齢期における生活課題、高齢者と人権などを学びつつ、学習の要点に示している内容の理解を深めていってほしい。
■学習の要点	（1）人口高齢化の状況とその特徴　わが国の人口高齢化には、他の先進国には見られない幾多の特徴がある。わが国の高齢化の進展状況とともに、その特徴を理解すること。（2）高齢者の生活実態　高齢者の生活状況を、健康・経済、家庭・住居、社会活動などの側面からトータルに理解すること。（3）要介護高齢者の増加と介護問題　高齢者の介護問題が生じた理由・社会的背景とともに、現代の高齢者の介護問題を理解すること。（4）高齢者福祉政策の変遷　わが国の高齢者福祉の発展・変遷の歴史を理解するとともに、近年、めまぐるしく変化している制度・政策の内容を理解すること。（5）高齢者福祉に関係する法律　　老人福祉法、高齢者居住法、後期高齢者医療制度(6) 高齢者社会対策基本法の理解
■学習の到達目標	（1）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（2）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（3）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。
■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）を押さえながら、理念や高齢者福祉をとらえる支援など、総合的に評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	社会心理学				単位	4.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TV5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在として誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自己や社会的認知、コミュニケーションなどについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　自己と態度 2　対人行動の仕組みと援助 3　社会的認知 4　対人コミュニケーション 5　社会環境と環境のもつ意味 6　文化的な自己と機能
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	社会学史				単位	4.0
担当者	辰巳　伸知			シラバスグループ	TT5207	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
クロニクル社会学（有斐閣アルマ）	那須壽	有斐閣	[ISBN]9784641120419

■授業の概要	社会学は、19 世紀前半フランスのオーギュスト・コントによってその名を与えられ、それ以降さまざまな社会学者がさまざまな学説を提唱し、今日に至っている。社会学史は、そのような社会学の歴史を扱う科目であるが、それは決して博物館に陳列されている過去の遺物を懐古的に観賞するようなことをねらいにするのではない。社会学者たちは、彼らが生きた時代の現実と知的に格闘してきた。主として時代的制約のゆえに、彼らが提唱した学説は、そのままわれわれが現在直面している現実に適用することはできないかもしれない。しかし、そういった制約ゆえの欠落や歪みにも関わらず、多くの社会学者が提唱した学説は、現代社会に鋭く切りこんでいく手段を提供してくれるのである。欠落や歪みについて考察することすら、われわれが生きる現代社会に対するセンスを研ぎすまさせてくれるであろう。社会学史とは、すぐれものがいっぱいつまった「道具箱」なのである。
■学習の要点	1．戦後アメリカでパーソンズの理論が登場し、一定期間絶大な影響力をもったこと、およびその影響力がその後減退したことについて、他の学説やアメリカ社会のあり方と関わらせて考えてほしい。2．『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』をはじめとするウェーバーの宗教社会学では何を解明しようとされていたのか考えてほしい。3．ハーバーマスのコミュニケーション概念は、単なるコミュニケーション論を展開するだけに用いられたのではないことを理解してほしい。4．「意味学派」として一括総称される反客観主義的立場について、学説ごとに検討してほしい。5．日常生活の対面的状況に特に留意したゴフマンのユニークさについて学んでほしい。6．「構造と主体的行為」というテーマに関して、ギデンズはどう考えたかということについて学んでほしい。
■学習の到達目標	この「社会学史」は、多くの社会学史とは異なって、比較的現在に近い社会学者や学説を学ぶことを目指している。したがって、より古典的な社会学者や学説（たとえば、コントやマルクス、デュルケム等）についての知識をある程度前提にしているところがあるので、その点留意してほしい。　科目最終試験に際しては、論述の一貫性を重視する。あまりに冗長な論述は歓迎しない。試験問題に応じた要所をおさえた内容にしてほしい。また、あまりに分量の少ない論述（500 字以下）には合格点を与えない。それなりに内容のある文章には、ある程度の量が必要だからである。　リポートとは異なって、自分の意見や考えを書く必要はない。また、テキストの内容にとどまっていたとしても、論述に一貫性があり要点をおさえておれば、90 点を上限に評価する。他の文献からの学習成果がうかがえれば、その内容に応じて加点する。
■成績評価の基準	設問との正確な対応。論述の一貫性。相応の分量。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	根本　達			シラバスグループ	TT5402	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
イメージの人類学	箭内匡	せりか書房	[ISBN]9784796703734

■授業の概要	20 世紀の人類学は、民族誌的フィールドワークの原点となる 1922 年のマリノフスキの著作『西太平洋の遠洋航海者』を出発点とし、理論的に大きく飛躍したレヴィ＝ストロースの構造主義を通過した後、クリフォードらによる『文化を書く』などの 1980 年代の文化人類学批判を受け止め、グローバル化する 1990 年代以降、新たな展開を遂げています。このような学術的な流れの中、この授業では、箭内匡の『イメージの人類学』をテキストとして、人間と自然の関係を中心に、人類学の最新の議論を学ぶことを目的とします。このテキストは、著者自身を含む人類学者が残した民族誌だけでなく、民族誌的映画作品や哲学についても言及しながら、人類学の古典的著作と、フィリップ・デスコラやティム・インゴルドといった 1990 年代以降の人類学の議論を結びつけるものです。テキストの前半部分は、理論的枠組みの議論が中心となっており、そこでは「イメージ」と「社会身体」という二つの概念を理解します。後半部分では、これらの概念の理解をもとに、おもに「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について学びます。これらの議論を通じて、箭内が主張する現代的人類学の方向性を学びます。
■学習の要点	本授業のテキストは、「はじめに」、第１章から第９章、「おわりに」の 11 パートに分かれています。難解な用語も出てきますが、それぞれのパートの主張は明確ですので、それをつかみ取るように丁寧に読み進めてください。「はじめに」では 1990 年代から 2000 年代にかけて起きた人類学の変化について解説されています。テキストの前半部分である第１章から第５章までは理論的枠組みが示されており、人類学の古典的著作にも言及しながら、「イメージ」、「不可量部分」、「脱イメージ化と再イメージ化」、「イメージ平面」、「社会身体」といった概念を論じています。テキストの後半部分である第６章から第９章では、これらの概念の理解をもとに、フィリップ・デスコラやヴィヴェイロス・デ・カストロなどのアニミズムをめぐる 1990 年代以降の著作を用いながら、「ディナミスム」、「アニミズム」、「アナロジスム」、「客体化された〈自然〉」という四つの自然観について議論を深めています。とくに「ディナミスム」については箭内独自の議論が行われています。ここまでの議論はその後も引き継がれ、「近代性についての人類学」と「自然と身体をテーマとする人類学」の議論へと展開していきます。最後の「おわりに」では、「人類学的直観」に加え、「一回的なもの」と「反復的なもの」について論じられています。このように本テキストのテーマは多岐にわたり、人類学の最新の議論を提示しようと試みています。また哲学者からの引用も多く、理論的に難解な個所も複数ありますが、図や写真を数多く用いながら、古典から最新の著作まで、さらには民族誌的映画も取り上げて、できるだけ分かりやすい言葉で、中心となる議論がぶれないように丁寧に書かれたテキストです。図や写真を手掛かりにしながら粘り強く読み進め、このテキストが繰り返し主張する現代的人類学のあり方をつかみ取ってください。

■学習の到達目標	①テキストのキーワードについて明確な定義を述べることができる。②テキストの各章の内容について、その要約を説明することができる。③自分で事例を選び、テキストのキーワードを用いながら、自分の言葉で解説できる。④テキスト全体で示されているテーマを把握しながら、テキストに同意できる箇所やテキストとは別の考えを持つ箇所について、説得力を持って読み手に説明できる。
■成績評価の基準	①最終試験では、テキストで用いられているキーワードについて、明確な定義を述べることができることが高く評価されます。②最終試験では、テキストの各章の内容について、事例を用いながら、自分の言葉で説明できることが高く評価されます。③最終試験では、テキストに同意できる点やテキストとは別の考えを持つ点について、自分の意見を述べていることが高く評価されます。④最終試験では、テキスト全体で示されているテーマを把握し、それを説明できることが高く評価されます。

授業科目	情報産業論				単位	4.0
担当者	谷本　和也			シラバスグループ	TV5421	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アップル、アマゾン、グーグルの競争戦略	雨宮寛二　著	NTT 出版	[ISBN]9784757122901

■授業の概要	本講義では、情報産業の中でも近年支配的な地位を確立しつつある、アップル・アマゾン・グーグルの 3 社について中心的に扱う。各社の競争戦略を比較しながら学習することで、情報産業において重要となるコンセプトについて理解することを講義の目的とする。
■学習の要点	アップル・アマゾン・グーグルの 3 社の競争戦略を理解するためには、情報産業に関する基本的な知識とビジネスモデルの理解が必要となる。そのため、本講義指定のテキストを通読したのちに、改めて最初から読み直してみることを勧めたい。また、不明なキーワードやコンセプトがあれば、検索サイト等を通じて積極的に自分から調べてみてほしい。
■学習の到達目標	アップル・アマゾン・グーグルの競争戦略について概要を理解しつつ、情報産業において重要となるコンセプトがどのように反映されているかを説明できるようになることが到達目標として期待されている。
■成績評価の基準	採点基準については、加点方式を基本とし、文字数等の制約は特には設けない。ただし、記載内容の論理性がより重要であり、単にキーワードを羅列するようなケースや同じような内容を繰り返して文字数を水増ししているようなケースは大幅な減点要因となる。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	社会福祉原論				単位	4.0
担当者	藤松　素子・岡﨑　祐司・長友　薫輝			シラバスグループ	TW5102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉原論	岡崎祐司編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784907177898

■授業の概要	この科目は、社会科学的視点から社会福祉の対象、目的、主体、社会的機能、分野などを理解することに重点をおいています。社会福祉を歴史的産物としてとらえ、社会との関わりで社会福祉の本質をとらえるということです。人権や発達が保障される社会をめざす人類の歩みのなかで、社会福祉の政策・制度はどうあるべきか、社会福祉実践者はどのような働きや役割を期待されているのかを考えることが大きなねらいです。そのため、テキストでは資本主義論、国家論、社会問題論を重視しています。それをふまえて社会福祉の対象、主体、目的などの基礎理論と社会福祉の歴史的歩みをつかんでいきます。さらに社会福祉システムのトータルな理解と、社会福祉改革の論点を、その基礎・背景にある現代社会の矛盾と関わらせて学びます。いわゆる制度・実践の解説本ではなく社会科学的方法論にもとづく社会福祉理論を展開しているので、理解のためには繰り返し読む必要があるでしょう。社会福祉の最新動向解説のためのテキストではないので、それについては雑誌、インターネット等で各自フォローをこころがけておいていただきたい。あくまで原理論科目として社会福祉の基礎理論を深めます。
■学習の要点	（１）福祉の対象である生活問題を社会問題論の観点から考える。資本主義の矛盾と社会問題の生成、社会問題と個人、社会問題と関わらせた社会福祉の対象設定などについて。（２）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について考える。人権の思想とその歴史的意義、人権保障と社会福祉の目的、社会福祉の権利性、発達保障について。（３）社会福祉サービスの供給原則のうち、「権利性」と「普遍性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。（４）社会福祉サービスの供給原則のうち、「総合性」と「地域性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。
■学習の到達目標	１．学習の到達目標（１）基本的なこととして、社会との関わり、社会問題との関わりで社会福祉の基礎をつかめるようになること。（２）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について、理解すること。とくに、人権保障との関わりからとらえるようになること。（３）生活問題を地域、家族、生活様式の変化の視点からとらえるようになること。（４）社会福祉の政策主体とはなにか、その役割と責任はどのようなものか、どのような社会的勢力に影響されているのかについて理解できるようになること。（５）「権利性」、「普遍性」、「総合性」、「地域性」という社会福祉の供給原則と社会福祉の公的責任の重要性を理解できるようになること。
■成績評価の基準	①情緒的ではなく論理的な文章が書かれている。②学習の要点を踏まえて、テキストを学習し理解できている。③問いに対する答えになっている。

授業科目	社会福祉史				単位	4.0
担当者	小池　桂			シラバスグループ	TW0103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本福祉史講義	池田敬正ほか	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248821&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目は、世界史の流れに関連させながら、日本の福祉のあゆみを古代から現代までたどるものである。福祉は生活を通じた「さいわいの共有」を意味する言葉であるが、そこには、生存の条件となる生活共同の視点が見出せる。福祉の歴史をひもとくことは、各時代の制約をうけながら展開されてきた生活の共同の営みをたどることである。そうした福祉の営みは、大きく三つの段階に分けることができる。第一段階は前近代で、共同体の規制や身分制を前提とした政治的、宗教的救済や共同体内部の相互扶助（共済）が中心となる。第二段階は近代で、抑圧的な共同体や身分制社会からの個々の人間の解放による自由が大きな意味をもつ。地域の公共的救済や人間愛（博愛）にもとづく慈善事業が生まれる。第三段階の現代社会では、個人の自由を前提とした社会福祉が成立する。特に、人類史の全過程を通じた福祉の営みを学びながら、現代に社会福祉が成立する意義を理解することが大切である。
■学習の要点	福祉のあゆみを大きく三つの段階で理解することが必要である。歴史の苦手意識は、個別の事象にとらわれすぎて、全体の流れを見失うことに原因がある。大きな流れをまず把握して、個々の事象が示す特徴をふまえることが重要である。そののちに、わが国の福祉の三つの段階の特徴を把握して、個別事象がその特徴とどう関連しているかを理解すること。テキストの序および１、２、３の各々のはじめの方の節（１−１、２−１・２、３−１・２）は、そうした全体の流れを把握するために大切な箇所であるから、常に念頭に置きつつその他の内容をとらえること。また、日本史の基礎知識が不可欠であるので、簡単な日本史の入門書などを読んでおくことが望ましい。
■学習の到達目標	1. 福祉の展開過程を通史的かつ段階的に把握することができる。2. その中で個別的な事象を位置づけることができる。
■成績評価の基準	1. 試験問題は、テキストの各章のいずれかから出題するので、基本的にはテキストの理解度が問われる。2. テキストからそのまま引用せず、自分の言葉で記述することも重視する。但し、歴史的展開をはずれた感想は認められず、不合格となるので注意すること。3. 解答は 2,000 字以上でまとめること。

授業科目	社会福祉方法原論				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉方法原論の展開	植田章ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248887&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	介護保険制度や障害者総合支援法など社会保障・社会福祉分野における利用契約制度への移行は、利用者・家族の暮らしに大きな影響をもたらしている。たとえば、「利用料負担」や「介護認定」「支援区分認定」といった仕組みはサービス利用を大きく制限するものとなっている。市場原理に基づく事業者間の競争は、利用者と福祉施設・事業所との信頼関係を崩し、職員の専門性の発揮をも妨げ、同時に福祉施設・事業所の運営・経営もいっそう厳しい状況に追い込んでいる。　こうした福祉現場の今に焦点を当て、社会福祉専門職の専門性とは何か、利用者の立場に立った福祉実践・福祉労働をどのように発展させていくのか、あらためて方法・技術論の今日的な課題から学習を深める。
■学習の要点	１）社会福祉実践とケアマネジメントを支える理論と方法について２）ケアにみる社会福祉援助の思想と方法について３）クライエントの生活を理解する意味と技法について４）当事者活動の意義と社会福祉援助の連携について５）社会福祉援助における社会福祉調査の意義とその方法について６）援助記録･実践に活かす記録とその方法について７）社会福祉援助のプロセスについて８）社会福祉労働と専門性の課題について
■学習の到達目標	①社会福祉実践とケアマネジメントを支える理論と方法について説明することができる。②ケアにみる社会福祉援助の思想と方法について自分の言葉で述べることができる。③クライエントの生活を理解する意味と技法について説明することができる。④当事者活動の意義と社会福祉援助の連携について説明することができる。⑤社会福祉援助における社会福祉調査の意義とその方法について説明することができる。⑥援助記録･実践に活かす記録とその方法について説明でき、自分で記録を書くことができる。⑦社会福祉援助のプロセスについて自分の言葉で説明できる。⑧社会福祉労働と専門性の課題を取り上げて、自分の考えを発表することができる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（２）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	精神保健福祉援助技術各論				単位	4.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	かつて精神障害者は医療の対象として対処されてきた。現在障害者総合支援法、精神保健福祉法等を中心に地域で生活するための施策やサービスが、国と地方自治体それぞれの役割に応じて提供されている。　本科目では、本人の主体性を重んじ、人としての尊厳や自尊心を損なうことなく、自立を支援するための具体的な方法を学習するとともに、家族支援についても検討する。　さらに、近年障害者本人もしくは家族による相互支援としての当事者活動も活発になってきており、そうした動向にも関心を寄せ、グループ支援のあり方について、またセルフヘルプ活動によって達成し得るもの、ピアサポートの意義とともに理解を深める。
■学習の要点	１．精神障害者の現状を把握する。２．精神障害者とその家族への個別およびグループを用いた支援方法を理解する。３．場面に応じた援助のあり方および実践プログラムや具体的な事業について理解する。４．ケアマネジメントの実際を知る。５．セルフヘルプグループの意義およびピアサポートについて理解する。６．チームアプローチと連携について理解する。
■学習の到達目標	まず第一に精神障害者の生活上の困難について、病者としてだけではなく生活者として把握したうえで説明することができる。さらに最新の具体的な関連法制度や施策・事業を理解するとともに、援助者側の多様な役割を説明できるようになる。
■成績評価の基準	問題では何が問われているのか、どのような事柄を取り上げ論述していくべきなのかを正確に読み解き、問題に沿って答案を作成してください。　さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価します。　答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、誤字脱字、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となります。

授業科目	家族福祉論				単位	4.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5236	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「子どもの貧困」を問い直す―家族・ジェンダーの視点から	松本伊智朗編	法律文化社	[ISBN]9784589038708

■授業の概要	子どもや女性、障害者、高齢者、患者などが抱える問題は、同時に、かれらの家族が抱える問題でもある。しかし、当事者に焦点化することで家族問題が後景に退いたり、あるいは世帯を単一のものととらえることでその内部の問題が捨象されたりする。この問題解決には、ジェンダー視点の導入が不可欠である。問題を抱える当事者とその家族は、当該家族の逸脱・病理とみなされることによって、孤立化を深め、問題をより深刻化させている。それほどに「家族」には、特定の固定化されたイメージがつきまとっている。「家族福祉」は、家族を歴史的・社会的にとらえることによって、現実の家族の多様性を受け止め、家族に自己責任を負わせない社会のありかたを展望するなかで、家族支援のあり方を検討することを課題としている。
■学習の要点	家族福祉とは何か、について社会福祉の一分野を正確に理解できるように、家族福祉についての内外の理論を学習し理解を深めておこう。そのためには、現代の社会構造に規定された家族の現状について理解を深めることが不可欠である。また、現代社会および現代家族の特質を理解し、なぜ家族福祉が必要とされるのか、現代の家族福祉の政策や実践、法律や制度についても学習しておこう。　１．現代社会と現代家族の特質について　２．現代家族を理解するうえでのジェンダー視点の意義について　３．家族内部の問題を可視化する視点について　４．家族問題の表れについて　５．家族支援のあり方について
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題の意図を十分にくみとって論述すること。
■成績評価の基準	テキストの内容を十分に理解できていること。そのうえで、独自の考察が展開できていること。

授業科目	児童福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5238	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
第５巻　児童･家庭福祉（学習双書 2023）	『社会福祉学習双書』編集委員会 編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793514135

■授業の概要	本科目では、現代社会における児童福祉(子ども家庭福祉）の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶ。少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ環境の変容について理解し、児童と家庭への支援のあり方について考察する。具体的には、歴史的な展開過程をふまえつつ、児童福祉の基本的視点、思想及び理念を学ぶ。また、戦後に創設した児童福祉法の成立とその社会的意義を確認し、児童の権利について理解を深めるとともに、今日の社会福祉全体の動向（制度改革、地域・在宅福祉への転換、利用者主体、自立支援など）のなかで児童福祉の課題をとらえる。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童福祉の思想･理念、児童の権利　　児童福祉の歴史的な変容をふまえ、児童の権利擁護に向けての歩みと、関連法規について学ぶ。児童福祉における基本理念を理解する。２．現代社会における子どもの生活ニーズとその背景　　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会状況について理解を深め、子どもの生活上のニーズ、生活困難等を学ぶ。成長・発達する存在としての子どもの特性についても理解する。３．児童福祉の関係法規と実施体制　　児童福祉法制度の内容、実施体制について学ぶ。法制度の改正とその背景についても理解を深める。担い手としての専門職の役割・機能についても学ぶ。児童福祉における権利擁護の仕組みと第三者評価･自己評価について理解する。４．児童福祉の施策　　児童福祉に関する施策全般について学び、支援活動の実際と絡めて課題を考察する。５．児童福祉の支援活動における基本的視点と支援の実際　　さまざまな支援活動（相談支援、施設ケア等を含む）について、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。事例から支援の実際を学び、課題を考察する。６．関連領域・職種との連携と子育ての社会化　　子どもが育つこと、子どもを育てることに関するソーシャル・サポートについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子どもとその家庭を支援する機関・施設等の連携のあり方について考察する。
■学習の到達目標	現代社会における児童福祉(子ども家庭福祉）の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について説明できる。少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ環境の変容について理解し、児童と家庭への支援のあり方について考察することができる。歴史的な児童福祉の展開過程をふまえ、児童福祉の基本的視点、思想及び理念を学び、児童の権利擁護の視点から、今日の児童福祉をめぐる諸課題について検討することができる。

■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	老人福祉論Ⅰ			単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5240
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の高齢者福祉の状況は、「介護問題」を中心に議論されている。しかし、「老人福祉」に求めれる学問的追求は、本来の「人間らしい生き方」を社会が守ろうとする現代的な課題でもある。そのことは、「介護問題」のみに着眼するのではなく広い意味での「福祉」の探究へとつながっていく。　また、「高齢期」に遭遇する生活状況や、社会が対峙していかなければならない課題なども理解し、多角的な分析を行えるよう、広い視野をもつようにしていただきたい。　そのため、この科目では、まず老人福祉の基本を学ぶことを目的とし、老人福祉の歴史的経緯や、「老い」についての理解、高齢期における生活課題、高齢者と人権などを学びつつ、学習の要点に示している内容の理解を深めていってほしい。
■学習の要点	（1）人口高齢化の状況とその特徴　わが国の人口高齢化には、他の先進国には見られない幾多の特徴がある。わが国の高齢化の進展状況とともに、その特徴を理解すること。（2）高齢者の生活実態　高齢者の生活状況を、健康・経済、家庭・住居、社会活動などの側面からトータルに理解すること。（3）要介護高齢者の増加と介護問題　高齢者の介護問題が生じた理由・社会的背景とともに、現代の高齢者の介護問題を理解すること。（4）高齢者福祉政策の変遷　わが国の高齢者福祉の発展・変遷の歴史を理解するとともに、近年、めまぐるしく変化している制度・政策の内容を理解すること。（5）高齢者福祉に関係する法律　　老人福祉法、高齢者居住法、後期高齢者医療制度(6) 高齢者社会対策基本法の理解
■学習の到達目標	（1）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（2）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（3）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。
■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）を押さえながら、理念や高齢者福祉をとらえる支援など、総合的に評価する。

授業科目	障害者福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	TW5242	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を把握し、障害者問題に関する構造的理解を深める。また、障害者問題の解決の指針を示す障害者福祉理念について学習する。さらに、障害者の活動や参加の制約を克服するための実践的な方策を明らかにするためにも、「障害」概念の構造的な把握についての理解を深める。以上の基礎知識を習得したうえで、現在の障害者制度である障害者自立支援法（総合支援法）についての現状と課題を把握する。更に、同法が障害当事者や家族の生活、あるいは障害福祉労働者の行なう支援にどのような影響を与えているのかということを、事例等をもとに考察を深める。また、障害者やその家族の権利保障を目指して展開されてきた社会福祉実践についても考察を深める。
■学習の要点	テキストに学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、障害者問題の現れを労働と生活を中心に学習する。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、リハビリテーションについて学習する。また、障害者の人権確立に向けた国際的な動向について、国連の提唱による「国際障害者年」とそれ以降の動き、（～「障害者権利条約」）について学習する。（３）障害とは何か、WHO の「国際生活機能分類」（ICF）によって理解し、障害の構造的把握の意義と課題について理解する。（４）日本における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー政策ー運動の側面から理解する。（５）日本の障害者福祉政策の展開を障害者運動との関わりにおいて理解する。（６）障害者自立支援法（総合支援法）の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者との関連において理解する。（７）現在展開されている障害者福祉実践について、テキストに紹介されている事例も参考に現状と課題を理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。その上で、独自の説得的な意見が記述できるようになること。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。

授業科目	地域福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5244	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会福祉領域の地方分権化の動向とも関わって、地域福祉の展開に注目が集まっている。しかしながら、既存の社会福祉概念と地域福祉概念の差異は必ずしも明確にされていないのが現状である。また、実践レベルでは新しい動きが数多く見られるようになってきており、この動向をふまえての検討が不可欠になっている。そこで、ここでは、これまでの地域をめぐる福祉課題を捉える視角を獲得するために、これまでの政策動向、歴史的経過、地域社会の変遷をふまえつつ、地域福祉理念や基礎的概念の検討、地域福祉実践のシステム・方法等についての学習を深めることを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について理解する。また、戦後のコミュニティの変化と生活の変化について理解する。２．社会福祉政策の動向について理解する。その上で、地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展方向について理解する。３．生活問題の現状とサービス供給主体の多様化について理解する。４．地域福祉における主体・対象について理解する。また、地域福祉における計画のもつ意義について、その目的・方法・過程について理解する。５．地方分権の推進と地域における公私の役割について理解する。特に社会福祉政策全般との関わりで地域福祉の現状を理解する。６．地域福祉における関連諸領域との関係について理解する。とりわけ、医療、保健、教育、労働等の福祉に密接に関わりのある領域との関係についてより深く理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	児童福祉論Ⅱ				単位	4.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5616	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新･社会福祉士養成講座３児童・家庭福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	[ISBN]9784805882467

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉）の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶことを目的とする。日々の生活のなかで、子どもの成長・発達を支援する児童福祉の意義とは何か、また現代社会における児童福祉の課題とは何かを考える。これまで展開されてきた児童福祉の歴史に学びつつ、少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ社会環境の変化をおさえ、現代における子どもとその養育者への社会的支援について考察を深めたい。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童福祉の思想･理念、児童の権利　関連法規の内容を踏まえ、児童福祉の歴史的展開にみる児童観の変遷と、児童の権利擁護に関する基本的視角を得る。２．現代社会における児童福祉ニーズとその背景　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会状況について理解を深め、児童福祉ニーズを考察する。３．児童福祉の関係法規と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。児童福祉サービスの体系と、利用に関する費用、財源、運営主体としての機関・施設、非営利組織、その他関連する社会資源、専門職の役割・機能について学ぶ。また、児童福祉における計画や運営、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。４．児童福祉の施策　母子保健、保育、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭・要保護児童・障がいのある児童等を対象とした支援、子ども家庭の貧困への対応、児童虐待防止などの児童福祉施策全般について学び、支援の展開と絡めて課題を考察する。５．児童福祉の支援活動における視点と原理・原則　児童福祉の専門職として、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。６．児童福祉の担い手と子育ての社会化　児童福祉の専門職による支援にとどまらず、子どもが育つこと・子どもを育てることに関するソーシャル・サポートやネットワークについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子育て支援の意義と課題、社会的養護のあり方、虐待防止のための取組みなど具体的に関心のあるテーマで検討を深める。
■学習の到達目標	児童福祉の諸課題を考えるための基本的な視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論、基礎知識と方策を理解することを目指す。児童福祉の歴史的変遷を、社会的背景・社会問題との関連させながら理解を深め、子どもとその家庭の生･生活の困難や生活課題について考察する力を涵養する。現代社会における子どもとその家庭への支援のあり方について検討できるようになる。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	老人福祉論Ⅱ				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5613	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	高齢者福祉への社会的ニーズは、少子高齢化により更なる社会的サービスの需要が予測されている。その対応のため、介護保険制度が 2000 年より実施された。その制度の現状を理解し、「介護の社会化」といった理念、および「選別主義」から「普遍主義」を希求した結果の新しい制度であったことも認識していただきたい。また、今後のサービスの拡大と財源問題および自己負担問題、保険料の設定など現状から変更を迫られる時期がくると考えられる。その意味で、今後の制度設計と理念などをどのように融合させていけばよいか学習してほしい。
■学習の要点	(1)深刻化する高齢者介護問題　現代的な課題である、要介護高齢者の社会生活上の課題や、その支援のためのサービスの充実がどのように変遷してきたのかを理解する。(2)私的介護から公的介護への変遷　「介護の社会化」や「選別主義」から「普遍主義」への理念の転換。そして、今後の財源問題や自己負担問題など制度が抱える課題についても学習してください。(3)高齢者ケアサービスの発展　我が国における、高齢者福祉サービスの変遷を理解し、現状のサービス形態やサービス種類、および施設形態などの特徴について学習してください。(4)介護保険制度と財源構成　介護保険制度が市町村における、介護保険事業計画に基づいて実施されていることの理解とともに、各市町村ごとの人口動態の変化、財源構成、利用者負担などの理解(5)認知症高齢者および認知症ケア　認知症に関する、精神医学的な知見と、認知症当事者の内的世界について学習を深めてください。また、認知症ケア実践としてさまざまな取り組みが行われているが、ケア提供者やまわりの人々はどのようなことを意識（注意）して認知症の方々と接していけばよいのか学習してください。(6)地域包括支援センターと、地域包括ケアシステムの理解　日常生活圏域への理解と、日本版コミュニティ・ケアへむけた地域包括支援システムへの現状と課題(7)その他の高齢者福祉関連法について学習してください。　成年後見制度、日常生活自立支援制度、高齢者居住法など、広く学習してください。
■学習の到達目標	（１）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（２）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（３）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。

■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）および、国家試験に対応できる基本的理解ができていることを基準とする。

授業科目	障害者福祉論Ⅱ				単位	4.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5615	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を前提とした障害者問題の現れについて理解を深める。その上で、障害者問題の解決の指針を導きだすために、障害者福祉理念や障害概念、障害者福祉施策の変遷や、現在の障害者関連法等の基礎的知識の習得を目的とする。その上で、社会福祉専門職として障害者問題をどのように把握するのか、またその問題に対し社会的支援をどのように介入させるのかということについて、事例等をもとに理論と現実を切り結んで理解する視点を身につける。
■学習の要点	テキスト･参考文献等に学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、現代における障害者･家族の貧困問題を引き起こす社会構造についての理解を深める。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、現在の国際的到達である障害者の権利条約についてその成立背景と内容を理解する。（３）わが国における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー福祉政策ー社会運動という側面から理解する。（４）障害とは何か、国際的到達である WHO の「国際生活機能分類」(ICF）との比較において、わが国の障害規定の特徴と問題について理解する。（５）障害者総合福祉法の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者の実際との関連において理解する。（６）社会福祉実践の供給主体像について、公的責任との関連において理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。「答案」は箇条書きではなく論述すること。
■成績評価の基準	問題についての基礎的な理解度が問われるが、独自の見解が説得的に述べられていれば、より高い得点になる。

授業科目	地域福祉論Ⅱ			単位	4.0
担当者	藤松　素子		シラバスグループ	TW5607	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	2000 年に「社会福祉事業法」から「社会福祉法」に名称改正され、新しい法体系の下で社会福祉が運営されるようになった。社会福祉領域の地方分権化の動向とも関わって、「地域における社会福祉」の展開に注目が集まっている。しかしながら、既存の社会福祉概念と地域福祉概念の差異は必ずしも明確にされていないのが現状である。また、実践レベルでは新しい動きが数多く見られるようになってきており、この動向をふまえての検討が不可欠になっている。ここでは、これまでの政策動向、歴史的経過、地域社会の変遷をふまえつつ、地域福祉理念や基礎的概念の検討、地域福祉実践のシステム・方法等についての学習を深めることを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の推進主体について、その取り扱う問題の特長をふまえて理解する。２．社会福祉政策の動向をふまえて、地域福祉問題の具体的内容、その解決方法について理解する。３．地域社会の変化、地域生活問題の現状と社会福祉サービス供給主体の多様化をふまえて、地域福祉の展開の可能性について検討する。４．地域福祉計画の意義と課題について、その目的・方法・過程の現状をふまえて理解する。５．地域福祉の対象と主体の関係性について、日本におけるコミュニティの現状をふまえて、具体的に理解する。６．地域福祉推進における関連諸領域との連携の重要性と、その具体的方法について理解する。とりわけ、医療、保健、教育、労働等の地域住民の生活に密接に関わりのある領域との関係についてより深く理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	精神医学				単位	4.0
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	TW5751	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神疾患とその治療　第 2 版(新･精神保健福祉士養成講座 1)	日本精神保健福祉士養成校協会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805853122

■授業の概要	精神医学とは人間の精神およびその障害を、生物学的・心理学的・社会的にとらえ、治療ならびに研究する学問です。　学習する内容は次のとおりです。　①精神医学・医療の歴史　②脳および神経の基礎知識　③精神障害の概念　④診断法　⑤代表的な精神疾患　⑥治療法　⑦病院精神医療および地域精神医療　福祉関係の業務に従事することを望む人にとって、精神医学を系統的に学ぶことは必要不可欠です。広範な内容が含まれるので、興味と関心を持って意欲的に学習してください。
■学習の要点	まず科目の内容を全体的に学習してください。そのうえで、以下の内容をより詳しく学習してください。　①精神疾患の成因と分類　②精神作用物質使用による精神および行動の障害　③統合失調症　④気分障害　⑤パーソナリティ障害　　⑥精神科医療と法
■学習の到達目標	主な精神疾患の症状および治療を正しく知ることと、精神障害者への適切な支援の方法を理解することが目標です。答案は、論理の筋道をきっちりたてて記してください。
■成績評価の基準	①問題のすべての側面に総合的かつ適切に対応してるか（設問のすべてをカバーしており、内容が設問に関連しており妥当かどうか）②関連する諸問題を理解しているか（諸要素を適切かつ批判的思考に基づいて把握していることが具体的に示されているかどうか）③参考文献を読んだことがわかる形で示しているか（テキスト及び参考文献等の関連図書を十分に読んだことが示されているかどうか）④論理的に構成されているか（論文を通じて思考が論理的かつ整然とした順序で展開されているかどうか）⑤論文として適切な構成、文法を適切にし

授業科目	精神保健学				単位	4.0
担当者	髙木　健志			シラバスグループ	TW0359	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健の課題と支援　第3版（新・精神保健福祉士養成講座2）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	[ISBN]9784805855959

■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う人々の精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、学ぶ。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症）の課題、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、⑤学校現場における精神保健の課題、を理解し、現行の対策とその限界について、考える。
■学習の要点	①精神保健の歴史　世界及び日本の精神保健活動の歴史的展開を理解する。②アディクション問題　依存症（アルコール、薬物依存、ギャンブル）とその支援について理解する。③ 家族の精神保健の課題　結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健課題とその支援について理解する。④労働者の精神保健の課題　過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う精神保健課題とその支援について理解する。⑤学校現場における精神保健の課題　学校現場における不登校、いじめ、教師の精神保健課題とその支援について理解する。
■学習の到達目標	①世界及び日本の精神保健活動がどのように展開してきたかについて、説明することができる。②依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）の理解とその支援について、説明することができる。③結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健の課題とその支援について、説明することができる。④過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う、精神保健課題とその支援について、説明することができる。⑤学校現場における不登校、いじめの理解とその支援について、説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば、100～90点、十分に達成できていれば89～80点、ほぼ達成できていれば79～70点、もう少し努力が必要な場合は69～60点､求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は59～0点とする。

授業科目	精神科リハビリテーション学				単位	4.0
担当者	太田　智之			シラバスグループ	TW5655	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	この科目は、精神障害者にとって必要とされる地域生活、自立生活をめざした、リハビリテーションの理念と技術、価値などについて学ぶことを目的としている。 リハビリテーションは元来「人間としての身分、名誉の回復」を意味するものである。時代によって職業的リハビリテーション、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーションと次々にその対象をひろげ、成果を上げていった。社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションとその目的は、ノーマライゼーション理念に通じる実践を必要としてきている。 精神保健福祉士は、その専門性の視点を生活者（人としてあたりまえの生活）、人権擁護、全体性の原理などにおいている。リハビリテーションが、単に社会復帰訓練や生活技能訓練として当事者のみに焦点がおかれることのないよう、社会福祉専門領域の「生活モデル」「当事者全体」の軸の中で講義としていく。加えて医学、心理学、その他の専門性が培ってきた知識と技術についても十分な理解が得られることをつけ加えておく。
■学習の要点	１．障害者リハビリテーションの理念と意義を理解する。２．精神科リハビリテーションの理念と意義を理解する。３．精神科リハビリテーションの対象と精神保健福祉士の役割を確立し、他の専門職等との連携のありかたについて理解する。４．医療機関におけるリハビリテーション（作業療法、レクリエーション、集団精神療法、SST、家族教育プログラム、デイケア・ナイトケア等）について学び、理解する。ロールプレイ等も行なう。５．精神保健福祉士が、その専門性を生かしながら、各リハビリテーションにかかわる意味（事例検討）を演習形式で発表、検討する。６．地域生活支援、生活のしづらさと精神科リハビリテーションの課題について考えていく。
■学習の到達目標	・あくまでもテキストや指定・関連文献を学ぶのであり、それを中心にして学んでほしい。施設での経験や当事者の話だけで報告しないこと。・成績評価はテキストに沿ったまとめが出来ているか、問題の意味が把握できているか、答案としてのまとまりがあるかを考慮する。・作業療法士や臨床心理士とは専門性が異なるので、あくまでも精神保健福祉士の視点から、記述するように心掛けること。
■成績評価の基準	評価としては、設題・問題に関するテキスト内容を理解しているか。また他の参考文献とともに論述考察ができているかによる。

授業科目	精神医学				単位	4.0
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	TW5751	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神疾患とその治療　第 2 版(新･精神保健福祉士養成講座 1)	日本精神保健福祉士養成校協会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805853122

■授業の概要	精神医学とは人間の精神およびその障害を、生物学的・心理学的・社会的にとらえ、治療ならびに研究する学問です。　学習する内容は次のとおりです。　①精神医学・医療の歴史　②脳および神経の基礎知識　③精神障害の概念　④診断法　⑤代表的な精神疾患　⑥治療法　⑦病院精神医療および地域精神医療　福祉関係の業務に従事することを望む人にとって、精神医学を系統的に学ぶことは必要不可欠です。広範な内容が含まれるので、興味と関心を持って意欲的に学習してください。
■学習の要点	まず科目の内容を全体的に学習してください。そのうえで、以下の内容をより詳しく学習してください。　①精神疾患の成因と分類　②精神作用物質使用による精神および行動の障害　③統合失調症　④気分障害　⑤パーソナリティ障害　　⑥精神科医療と法
■学習の到達目標	主な精神疾患の症状および治療を正しく知ることと、精神障害者への適切な支援の方法を理解することが目標です。答案は、論理の筋道をきっちりたてて記してください。
■成績評価の基準	①問題のすべての側面に総合的かつ適切に対応してるか（設問のすべてをカバーしており、内容が設問に関連しており妥当かどうか）②関連する諸問題を理解しているか（諸要素を適切かつ批判的思考に基づいて把握していることが具体的に示されているかどうか）③参考文献を読んだことがわかる形で示しているか（テキスト及び参考文献等の関連図書を十分に読んだことが示されているかどうか）④論理的に構成されているか（論文を通じて思考が論理的かつ整然とした順序で展開されているかどうか）⑤論文として適切な構成、文法を適切にし

授業科目	精神保健学				単位	4.0
担当者	髙木　健志			シラバスグループ	TW0359	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健の課題と支援　第3版（新・精神保健福祉士養成講座2）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	[ISBN]9784805855959

■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う人々の精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、学ぶ。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症）の課題、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、⑤学校現場における精神保健の課題、を理解し、現行の対策とその限界について、考える。
■学習の要点	①精神保健の歴史　世界及び日本の精神保健活動の歴史的展開を理解する。②アディクション問題　依存症（アルコール、薬物依存、ギャンブル）とその支援について理解する。③ 家族の精神保健の課題　結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健課題とその支援について理解する。④労働者の精神保健の課題　過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う精神保健課題とその支援について理解する。⑤学校現場における精神保健の課題　学校現場における不登校、いじめ、教師の精神保健課題とその支援について理解する。
■学習の到達目標	①世界及び日本の精神保健活動がどのように展開してきたかについて、説明することができる。②依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）の理解とその支援について、説明することができる。③結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健の課題とその支援について、説明することができる。④過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う、精神保健課題とその支援について、説明することができる。⑤学校現場における不登校、いじめの理解とその支援について、説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば、100～90点、十分に達成できていれば89～80点、ほぼ達成できていれば79～70点、もう少し努力が必要な場合は69～60点､求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は59～0点とする。

授業科目	精神科リハビリテーション学				単位	4.0
担当者	太田　智之			シラバスグループ	TW5655	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	この科目は、精神障害者にとって必要とされる地域生活、自立生活をめざした、リハビリテーションの理念と技術、価値などについて学ぶことを目的としている。 リハビリテーションは元来「人間としての身分、名誉の回復」を意味するものである。時代によって職業的リハビリテーション、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーションと次々にその対象をひろげ、成果を上げていった。社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションとその目的は、ノーマライゼーション理念に通じる実践を必要としてきている。 精神保健福祉士は、その専門性の視点を生活者（人としてあたりまえの生活）、人権擁護、全体性の原理などにおいている。リハビリテーションが、単に社会復帰訓練や生活技能訓練として当事者のみに焦点がおかれることのないよう、社会福祉専門領域の「生活モデル」「当事者全体」の軸の中で講義としていく。加えて医学、心理学、その他の専門性が培ってきた知識と技術についても十分な理解が得られることをつけ加えておく。
■学習の要点	１．障害者リハビリテーションの理念と意義を理解する。２．精神科リハビリテーションの理念と意義を理解する。３．精神科リハビリテーションの対象と精神保健福祉士の役割を確立し、他の専門職等との連携のありかたについて理解する。４．医療機関におけるリハビリテーション（作業療法、レクリエーション、集団精神療法、SST、家族教育プログラム、デイケア・ナイトケア等）について学び、理解する。ロールプレイ等も行なう。５．精神保健福祉士が、その専門性を生かしながら、各リハビリテーションにかかわる意味（事例検討）を演習形式で発表、検討する。６．地域生活支援、生活のしづらさと精神科リハビリテーションの課題について考えていく。
■学習の到達目標	・あくまでもテキストや指定・関連文献を学ぶのであり、それを中心にして学んでほしい。施設での経験や当事者の話だけで報告しないこと。・成績評価はテキストに沿ったまとめが出来ているか、問題の意味が把握できているか、答案としてのまとまりがあるかを考慮する。・作業療法士や臨床心理士とは専門性が異なるので、あくまでも精神保健福祉士の視点から、記述するように心掛けること。
■成績評価の基準	評価としては、設題・問題に関するテキスト内容を理解しているか。また他の参考文献とともに論述考察ができているかによる。

授業科目	社会保障論				単位	4.0
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	TW5712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版社会保障論	里見賢治著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248782&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会保障制度はしばしば「自助の補完物」と見なされることが多いが、現代においては遙かにそれを越えるものであり、少なくとも現代社会においては、「自助の前提条件」として国民生活の不可欠な構成要素の一つとなりつつある。　この講義では、この現代的な現象を政策論的な観点から理論的・制度論的に考察し、受講生が、社会保障制度の全体像と各個別制度の基本的な仕組み・今後の課題などを理解・把握し、社会保障に関する理論的・政策的な判断能力を獲得できることを目指す。なお、社会保障制度を構成する社会福祉各制度等については、本学では別に各種の授業科目が用意されているので、この講義で使用するテキストではそれらについては簡潔にふれるにとどめ、それらと重複しない社会保険各制度を中心に詳述しているが、社会保障制度は社会保険に限定されるものではなく、社会福祉各制度等を含む総合的生活保障制度の中核としてあることに、特に注意を喚起しておきたい。
■学習の要点	１．現代の国民生活における社会保障の意義と機能について把握する。２．社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式等を理解する。３．公的年金制度の概要と特徴、その矛盾と問題点を理解し、改革の方向について考える。４．医療保障制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。５．公的介護保険制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。６．社会保障の運営・財政方式について、社会保険方式と公費負担方式<税方式> の異同を整理し、それぞれのメリット・デメリットを考える。７．自助・共助・公助それぞれの意味と含意する内容について理解し、社会保障制度が「自助の補完物」ではなく「自助の前提条件」としてあるべき理由を考える。８．以上を踏まえて、少子・高齢社会と社会保障について考察を深め、なぜ社会保障の抑制ではなく充実が求められるか、考えを深める。
■学習の到達目標	1.現代の国民生活における社会保障の意義と機能を理解できる。2 社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式を理解できる。3.公的年金制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。4.医療保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。5.公的介護保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。6.社会保障の運営・財政運営方式について社会保険方式と公費負担方式の違いと特徴を理解できる。
■成績評価の基準	▼上記の「学習の要点」にあげた各項目について、概ね８割程度理解・把握できていることを学習の到達目標とする。各個別制度の仕組みを的確に理解するように努めること。▼科目最終試験に際しては、過不足なく８割程度の記述ができた場合 100～80 点をつけることと

	し、とりわけ優秀な答案には 90 点以上を与える。なお、重要な論点は踏まえているものの過不足がやや目立つ場合は 79 点～70 点、過不足が目立つが大きな間違いなく問題に答えている場合は 69 点～60 点、とする。▼制度について重大な勘違いをしていたり、問題に適切に答えて

授業科目	公的扶助論				単位	4.0
担当者	加美　嘉史			シラバスグループ	TW5617	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門貧困論　―ささえあう・たすけあう社会をつくるために―	金子充	明石書店	[ISBN]9784750345475

■授業の概要	１．貧困・低所得・生活困窮の理解２．貧困の概念と定義３．保守化する貧困観４．スティグマ・不自由・不平等５．公的扶助の思想・理念６．貧困対策と福祉国家の統治７．社会保障のなかの公的扶助８．生活保護の目的と原理９．生活保護の内容・方法・水準１０．生活保護行政におけるケアとコントロール１１．公的扶助の周辺１２．市民・民間の支援と当事者参加１３．貧困対策の国際的動向と展望
■学習の要点	１．現代社会における公的扶助制度の理念と意義を理解する。２．「貧困」とは何かについて理解する。３．生活保護制度の仕組みと最近の動向を理解する。４．生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその関連のあり方を理解する。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進展と理解度を試験で測る。・テキストに示された参考文献にもできる限り目を通すよう努めること。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた項目についての学習の進展と理解度を試験で測る。

授業科目	国際福祉論				単位	4.0
担当者	朴　光駿			シラバスグループ	TW5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際福祉論	朴光駿	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248883&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	「国際福祉」という言葉は、「社会福祉分野の国際援助」と「社会福祉の国際比較」という２つの意味で使われている。前者の場合、国際援助の主体が、主に国連を含む国際機構、個別国家による政府開発援助（ODA）、国際（協力）NGO、国際ボランティアの４者になっていることから、その４者による国際援助活動という側面が強調され、それは学問的分析対象ということよりは「援助実践」という性格が強い。その反面、後者は、２つ以上の国家のもつ社会福祉体系を比較し、その類似性と差異を明らかにすること、あるいはある特定国家の社会福祉の特徴についての理解を深めるということに焦点がおかれているもので、研究方法においても研究内容においても、全く学問的分析の対象になっているものである。　この科目は、「国際福祉論」のもつ以上の２つの側面を同時に学習することをその内容としている。社会福祉の国際比較の領域においては、主に、日本、韓国、中国を中心とした東アジアをその比較対象としている。
■学習の要点	学習の要点は、大きく分けて２点である。第一は、第三世界の国家が抱えている社会問題（貧困と環境破壊、女性と児童の搾取労働など）が、もはや特定国家の国内問題ではなく、国際的努力によってのみ解決できる国際問題になってきている経緯ないし背景を把握するとともに、その解決のために行われているさまざまな国際的取り組みを理解することである。第二の要点は、社会福祉の国際比較研究とは何か、比較研究の方法や長所は何かを理解したうえ、実際に東アジアの社会福祉を比較してみることである。　テキストに基づいた学習の要点は次の通りである。　（１）グローバリゼーションの意味と背景　（２）国際社会福祉とは何か　（３）第三世界の貧困とその原因に対するグローバルな観点　（４）国際社会開発の背景と内容　（５）社会福祉における国際比較研究の意義　（６）社会福祉に影響を及ぼす社会環境（社会文化、経済、市民社会の成熟度、人権状況など）を理解すること　（７）東アジアの価値と社会福祉への影響　（８）東アジア高齢者福祉の特徴
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。③採点は、加点方式を基本とする。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。

■成績評価の基準	設題の趣旨についての理解度、テキストの内容の学習、論理性などを総合的に判断し評価する。

授業科目	医療福祉論				単位	4.0
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	TW5618	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
医療福祉論	村上武敏	明石書店	[ISBN]9784750350950
入門保健医療と福祉	川村匡由編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623095520

■授業の概要	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要とされてきたのか、それを歴史的かつ社会構造的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活に何をもたらすのか。こうした疾病と貧困の悪循環の社会構造的な理解を踏まえて、医療福祉の社会的な使命を本質的に理解する必要がある。　そして、1990 年代以降の医療制度改革により、医療ソーシャルワーカーの業務は退院援助に大きく傾斜してきた。退院援助とは何かを社会科学的に明らかにするとともに、現代にける医療福祉の対象論と方法論について模索していきたい。
■学習の要点	・健康の社会的決定要因（SDH）と「疾病と貧困の悪循環」の本質を理解する。・医療保険制度と診療報酬制度の概要について理解する。・医療ソーシャルワークの発生と歴史について理解する。・医療ソーシャルワーカーの業務と保健医療機関における役割について理解する。・医療機関における各専門職の役割とチーム医療のあり方について理解する。・医療福祉の対象と方法について理解する。
■学習の到達目標	・疾病や生活問題を社会的にとらえられる。・医療福祉とは何かを歴史的かつ社会構造的に理解する。・ソーシャルワークの方法について新たな視点を獲得する。・医療保険制度や医療専門職の役割など社会福祉士に必要となる基本的な知識を習得する。
■成績評価の基準	・設問に適切に答えていること・事実に基づき理論的であること・否定にとどまらず建設的であること・自らの考えが述べられていること・参考・引用文献が明示されていること・正しい文章で表記されていること

授業科目	リハビリテーション論				単位	4.0
担当者	漆葉　成彦			シラバスグループ	TW5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
リハビリテーション概論 改訂第４版	田島文博　編著	永井書店	[ISBN]9784815919221

■授業の概要	障害者に対する社会的偏見や政策の誤りなどから、人としての尊厳や権利が奪われ、傷つけられた歴史がある。近年、全人間的復権としてのリハビリテーションの理念が社会に受け入れられつつあるが、理念の実現のためには、なお多くの課題が残されている。障害者のノーマライゼーションの実現のために、社会福祉士、介護福祉士に期待されている役割は大きい。医療、保健等、他の分野の専門職と連携をとりながら、その職務を担当しなければならない。リハビリテーションの理念、総合体系、技法等について学習することが必要である。
■学習の要点	学習の要点を以下に掲げる。１．リハビリテーションの理念の歴史的変遷を理解すること２．障害の概念と分類について理解すること３．障害の心理・社会的視点について理解すること４．医学的リハビリテーションの概要と、関わる専門職種の役割について理解すること５．社会的リハビリテーションの概要と、社会福祉士の役割について理解すること６．地域リハビリテーションの概要と、社会資源について理解すること７．リハビリテーションにかかわる医療・福祉制度について理解すること
■学習の到達目標	学習の要点にあげた事項などにつき、十分に理解し、かつ他人にわかりやすく説明できるようになることを到達目標とする。科目最終試験においては、問われている主題の言葉の定義をまずきっちり述べてから論述を展開することが必要である。自分なりの考察も述べること。
■成績評価の基準	設問の意味を把握していること、設問に関する正確な知識をもっていること、設問に対して自分自身の考えをのべられること、を基準として成績評価を行う。

授業科目	精神保健				単位	4.0
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	TW5405	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂版精神保健入門	山内常博ほか	文化書房博文社	[ISBN]9784830111419

■授業の概要	精神保健とは、人の「心の健康の維持」と「心の病気の予防」についての実践的学問です。その内容は以下の通りです。 ①精神保健とその歴史 ②精神的な問題と病理 ③子どもの心の問題 ④心理療法の理論 ⑤心の健康について ⑥精神障がい者の生活問題 ⑦精神障がい者への援助 保育士をめざす学生は、子どもの心身の成長・発達についての知識を持ち、子どもの心の健康に影響を与える要因を理解するのみならず、養育者の精神保健を自らの問題としてとらえ、積極的に学習しなければなりません。
■学習の要点	まず科目の概要を全体的に学習すること、その上で、以下の内容をより詳しく学習しましょう。 ①子どもの心の健康について ②子どもの心身症について ③発達障がいについて ④不登校について ⑤子どもへの援助法について ⑥家庭の役割について
■学習の到達目標	定型的な子どもの発達を理解すること、発達障がいを理解すること、障がいをもった子どもへの適切な関り方を理解すること、を目標とします。答案は、論理の筋道を立てて記してください。
■成績評価の基準	量的な観点（記述量）と質的な観点（内容）から評価します。質的な観点としては、論理的な記述や分かりやすい表現が評価基準になります。

授業科目	社会政策論				単位	4.0
担当者	岡﨑　祐司・藤松　素子			シラバスグループ	TW5409	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会政策を学ぶ人のために〔３訂〕	玉井金吾ほか編	世界思想社	[ISBN]9784790712787

■授業の概要	「労働力の保全・培養」政策としての社会政策がわが国で定立されて以来、社会政策の中核的施策が労働力政策であったことは周知のことである。近年の少子･高齢化の進行により、従来の社会政策の対象や方法に反省が迫られ、これまでの社会福祉や社会保障政策との関連を視野に入れた新たな社会政策の構築が必要とされていることも確かであるといえよう。しかし、社会政策にあって、労働力政策が軽視されてよいわけではない。今日の雇用の「流動化」は、むしろ、従来の労働力政策としての社会政策の意義と限界が検証されつつ、新たな「労働力」政策としての社会政策を生み出す客観的基盤となっていると言えるのではないであろうか。テキストは、生活問題対策を含めて社会政策を扱っており、複数の視点から社会政策を学ぶことができる。丁寧に読んでほしい。
■学習の要点	試験は論述ですので、論理的に構成し論理的な文章を書くようにしてほしい。リポートでも試験でも言えることですが、「問われていること」に正面から答えていただきたいと思う。無関係な叙述や個人的経験を書かれても、「評価」の対象にはなりません。個人の経験を書くのが試験ではありません。また、事実を整理し、正確にことをつかむように心がけてほしい。「思い込み」にならないように、注意してほしい。１．労働基準政策の実効性を高めるには、どのような労働行政が求められるのか、労働者の視点から考える。２．積極的労働市場政策とはどのような考え方か、また労働者に「安全」と「保障」をもたらす労働市場政策とはどのようなことか、考える。３．国民の医療保障の観点から「国民皆保険」の意義と現在の課題について考える。４．「労働力の再生産＝生活過程」における家族責任が、なぜ女性に過重な負担やキャリア形成の問題を背負わせることになるのか、その構造を考える。５．男女平等の観点から、ワーク・アンド・ライフ・バランスに関する企業の責任と課題、労働者の意識と行動について、考える。６．「個の自律」の観点から社会政策の課題を考える。
■学習の到達目標	１．日本の労働基準政策の歴史を説明し、それをふまえたうえで、現在の日本における労働をめぐる諸問題のなかから一つをとりあげ、労働者の人権と生活を守る観点から政府がとるべき対策とはなにか、について説明できる。２．今日の住宅問題と住宅という財の特質をふまえ住宅政策のポイントを説明したうえで、高齢者、障がいのある人、子育て家族など対象を特定し、望ましい住宅政策のありかたについて説明できる。３．労働基準政策の実効性を高めるには、どのような労働行政が求められるのか、労働者の視点から説明できる。４．積極的労働市場政策とはどのような考え方か、また労働者に「安全」と「保障」をもたらす労働市場政策とはどのようなことか、説明できる。５．国民の医療保障の観点から「国民皆保険」の意義と現在の課題について、説明できる。６．「労働力の再生産＝生活過程」における家族責任が、なぜ女性に過重な負担やキャリア形成の問題を背負わせることになるのか、その構造を説明できる。７．男女平等の観点から、ワーク・アンド・ライフ・バランスに関す

	る企業の責任と課題、労働者の意識と行動について、説明できる。８.「個の自律」の観点から社会政策の課題を、説明できる。
■成績評価の基準	①論理的構成になっており、論理的な文章で記述されているか。②テキストの基本的内容を理解しており、それをふまえて記述しているか。（個人的な経験、思い込みの記述は減点）③テキストをふまえ、社会政策的な観点で自分の考えを述べているか。（自らの考えを全面展開することを求めているわけではない。自らの考えを述べた部分が政策論的に展開されているかどうかが重要であり、そのような場合は評価が高くなる）。④各問題の内容に沿った内容であるか（問題と関係ない場合は、内容とは関係なく減点となる）。

授業科目	社会福祉行政論				単位	4.0
担当者	日下部　雅喜			シラバスグループ	TW5608	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
福祉行財政と福祉計画　第5版（新・社会福祉士養成講座10）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805854303

■授業の概要	本科目では、社会福祉サービスを支える行財政の仕組みについて、その背景となる地方自治制度の変遷と社会福祉関係法の変化を踏まえながら理解する。福祉行政の実施体制について学ぶとともに、地方自治、公的責任、ソーシャルアクションの役割についても学ぶ。特に社会福祉従事者としてその実践の基盤となる制度・政策・財政についてしっかり考える力を身に着け、行政に無批判に追随するのでなく主権者として行動できる能力を養うことが肝要である。　また、本科目は、社会福祉士受験資格課程に関する省令で定められたシラバス内容に即して学習する。内容は、福祉行政の動向と福祉行政の実施体制（国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、国と地方との関係、福祉の財源、福祉行政の組織及び団体の役割、福祉行政における専門職の役割）であり、社会福祉士国家試験の範囲となっている。　テキストは福祉行財政論と福祉計画論が一体となったものであるが、この科目の該当する箇所を中心に学習していただきたい。　試験は基礎知識を問うレベルである。また、リポートに関しては、基礎知識を踏まえ受講者の問題意識を問うレベルのものであるが、現状を単に説明するだけではなく、ソーシャルワーカーをめざすものとして、対象者の権利保障とそれを実現するための諸課題を分析する考察をしていただきたい。
■学習の要点	1.社会福祉行財政の基本的な法制度・仕組みとその成り立ちと変遷についてまとめる。2.地方分権改革の動向と社会福祉における国と地方公共団体の関係についてまとめる。4.社会福祉基礎構造改革の内容とそれによるサービス利用方式の変化についてまとめる。5.福祉サービスの利用者負担の考え方及び低所得者対策についてまとめる。6.社会福祉行政における相談体制について、専門諸機関、専門職の役割についてまとめる。
■学習の到達目標	福祉行政の実施体制及び福祉行財政の実際について理解し、説明できること。
■成績評価の基準	学習の要点で示した内容について、基礎知識を理解し、出された問題に対して的確かつ論理的な文章になっているかどうかで評価します。

授業科目	社会福祉法制				単位	4.0
担当者	三田尾隆志			シラバスグループ	TW0514	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会保障法　第 7 版（有斐閣アルマ）	加藤智章･菊池馨実･倉田聡 著	有斐閣	[ISBN]9784641221307

■授業の概要	日本法制では､社会保障法が大概念/社会福祉法はその一部をなす小概念とされています｡そこで、本科目では、社会保障法の標準教科書をテキストとして、まず全体像を概観してもらった上で､その中の社会福祉法の学習に入る行き方をとります｡社会福祉の主要分野である、児童福祉・障がい者福祉・高齢者福祉・低所得者福祉のそれぞれにつき、対応する法制度の構造を理解し、さらに、個別の法的論点につき、自分の頭で考えられるようになる事を目的とします。
■学習の要点	・社会福祉法を学ぶには、まず、社会福祉制度そのものについての知識がある事が前提となります。直近の制度改正にも留意しながら、参考文献等を活用して勉強してください。･社会福祉法は、単体で存在するわけではありません｡関連する、国際人権条約･憲法･行政法･民法等についても、自発的に学習を進めてください｡･社会福祉各法は生きている法であり、その活用のされ方を知る事が重要です｡テキストに挙がっている判例で関心を持ったものについては、社会保障法判例百選や、佛教大学図書館ホームページ BIRD のデータベースを用いて、実際に読んでみる事を薦めます。
■学習の到達目標	クライエントに法制度の概要が説明できるようになり、さらに、その先の実務で生じた問題意識についても、自分で調べられるようになる基礎をつくる事を目的とします。
■成績評価の基準	法制度の理解の正確性と、それを伝える能力とが、クライエントにとってプラスになる水準に達しているかで評価します。

授業科目	心理学				単位	4.0
担当者	中妻　拓也			シラバスグループ	TW5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
心理学理論と心理的支援（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；2）	社会福祉士養成講座編集委員会 編	中央法規出版	[ISBN]9784805851012

■授業の概要	心理学は、人間と人間の行動に関しての多様な見方を提供してくれます。心理学を学ぶことは、自分や他人、集団や社会についてのより深い理解の手助けとなることでしょう。ただ現代の心理学は、統一された学問というよりはいくつかの分野が方法論を共有しつつ緩やかに結合した状態にあります。　本科目では、テキストを通して様々な分野の研究を概観していきます。そして心理学の各分野が人間と人間の行動に対して、どのようにアプローチしているかを理解してください。これらの学習を通して、現代の心理学が提供する人間観を学びます。
■学習の要点	まず指定テキストを通読して、心理学の全体像を把握するとともに、使用されている用語について慣れて、理解を深めてください。心理学で用いる専門用語の多くは、日常的な用語と同じものですが、その意味する内容は日常の用語とは異なっています。その点に留意したうえでテキスト全体を通読してきます。　さらに各章（特に第1章から第8章）で扱っている内容を日常の現象（自分の経験、日常で見聞きしたこと）を思い浮かべながら、理解していきましょう。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、「学習の要点」に書いてある点に留意し、テキストの内容を理解し、日常で活かせるようにすることです。学習の要点に従ってテキスト学習を進めてください。科目最終試験では、学習の理解度を測り、理解度に応じて成績評価をします。　問題はテキストに即して出題します。テキストの内容を理解しているかどうかを問うので、テキスト学習を踏まえて解答してください。テキストの内容を無視した答案は不合格です。答案を作成する際には、単語の羅列ではなく、日本語として意味のある文章の形で論述することが必要です。第三者が読んで理解できるような、平易で・明快な文章を心がけてください。
■成績評価の基準	成績は、心理学的知見が正確に記述できているか、自分の考えを含めて表現できているか、読み手が理解しやすいように工夫がされているか、を評価の基準とします。また、引用の形式が適切かなど、論述の形式についても、評価の基準とします。

授業科目	社会学				単位	4.0
担当者	趙　没名			シラバスグループ	TW5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会理論と社会システム（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；3）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805839300

■授業の概要	他の社会科学、たとえば経済学・法律学・政治学などと異なり、社会学が取り扱う対象である「社会」は、幅広い内容をもっている。ゆえに、はじめて社会学を学ぶ学生にとって、とらえどころのない学問であるかもしれない。　「人は何を信じるのか？」、「家族や学校や会社の役割は？」、「結婚は必要か？」、「専業主婦は職業か？」などといった身近な疑問から、「ひきこもり・フリーター・ニート」、「少子・高齢化」、「貧困」、「地域格差」、「環境」といった社会問題までがその対象となる。しかし、その中で一貫しているのは、多様な関係や制度の中で、人の振舞いや価値観がどのように形成されているか、といった視点である。　成熟した社会は、ありとあらゆるものが多様化し流動化する。それにともなう家族の変化、コミュニティの変化、産業社会の変化は避けることができない。これらに起因する社会問題への対応が、社会福祉の基本ともなる。社会の変化・変動を客観的・社会科学的に把握していく道具のひとつが社会学である。　様々な領域における社会の変化を捉えることによって、（歴史的）時代認識を深め、将来的な社会（人間）の存立の可能性について考えをめぐらしたい。
■学習の要点	序章においては、近代社会の成立と社会学に課せられた課題について整理してください。また、基本的な社会学者とその著者について記憶する必要があります。　第 1 章においては、社会を社会システムとして捉える際に必要とされる社会学の概念をおさえてください。さらに、現代社会において法の果たす役割を理解し、人々および企業の経済行動と社会システムとはどのような関係にあるかを整理してください。そして、社会の変動（社会の変化）の捉え方を理解したうえで、社会変動を起こす大きな要因である人口について整理してください。　第 2 章においては、人々の具体的な生活の場として、地域と家族に焦点を当てて、社会学的に分析する手法を理解し、「生活」を捉えるための概念を整理してください。　第 3 章においては、人々の行為と社会との関係や、日常的な行動パターンの背景にあるものに注目する社会学的視座を整理してください。　第 4 章においては、社会学は、社会病理もしくは社会問題に対して、社会全体への処方箋を提示し、その解決を目指そうとしている特徴を有していることを理解してください。　この履修ガイドに記した参考文献のみならず、個別領域については〈脚注〉に記されている参考文献も読まれることをおすすめします。

■学習の到達目標	社会学の基礎理論を用いて今日の社会現象を解釈し論理的に分析すること。

■成績評価の基準	・社会学の専門用語の定義を正確に理解し適切に使用できる。30%・妥当な量的、質的データを用いながら論述できる。20%・論理的整合性のある文章構造　20%・社会現象と社会学理論の結合　30%

授業科目	日本史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	アジア史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	西洋史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	中国仏教史				単位	4.0
担当者	加藤　弘孝			シラバスグループ	TB6107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国佛教史.下	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244715&refHpStenCode=68038}
中国佛教史.上	山口修	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248809&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	・インドで起こった仏教が中国に伝来して、中国人社会の中で、どのように変容し、或いは適応し、さらに受容されていったかを中心に、中国における仏教の歴史的展開について学習することが望ましい。・インド、中国、日本と伝わった仏教の流れのなかの中国仏教史、すなわち護法的な仏教史ではなく、中国の政治・社会・生活のなかで、仏教はどのような立場にあり、展開してきたのかという、中国史という立場から見た仏教史を考えなければならない。よって西暦前後に中国に伝来したといわれる時代から、現代に至るまでの中国仏教の変遷、また展開について、教理史的、教団史的に偏ることなく、歴史的に全般的に学習することである。
■学習の要点	１．後漢の仏教（仏教の伝来と受容）２．三国時代の仏教（支謙と康僧会）３．魏・晋の仏教（仏図澄・道安・鳩摩羅什・廬山の慧遠）４．南朝の仏教（梁の武帝の奉仏）５．北朝の仏教（北魏の太武帝の廃仏、北周の武帝の廃仏）６．仏教芸術の展開（敦煌・龍門・雲崗の三大石窟、石経）７．隋の仏教（天台宗、三論宗、三階教）８．唐の仏教（末法思想と浄土教、華厳宗、法相宗、禅宗、会昌の法難）９．五代の仏教（後周の世宗の廃仏）10．宋の仏教（大蔵経の開版）11．遼・金の仏教（異民族支配下の仏教）12．明・清の仏教（居士仏教）13．現代の仏教
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。　西暦前後に中国に伝来した仏教が、どのようにして中国人社会に受け入れられ、現代に至るまでどのように展開していったかを時代と人物を中心に、各時代の歴史的な流れを全般的におさえること。
■成績評価の基準	「学習の要点」にかかれた学習目標に即して、テキストによる学習をすすめること。その学習の深度と理解度を試験で諮り、到達度によって成績評価をする。

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	家族社会学				単位	4.0
担当者	柳下　実			シラバスグループ	TT5209	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
２１世紀家族へ：家族の戦後体制の見かた・超えかた〔第４版〕(有斐閣選書　１６１３)	落合恵美子著	有斐閣	[ISBN]9784641281462

■授業の概要	家族社会学は家族及び家族問題を研究する社会学の一分野であり、家族の歴史、制度、形態、機能など、多様な観点から研究がおこなわれている。特に近年では、社会史や人口学的視点からアプローチする家族変動論に注目が集まっている。　本科目では「近代家族」（家族愛で結ばれ、プライバシーを重んじ、夫は稼ぎ手で妻は主婦として性別分業を行い、子どもに対して強い愛情と教育関心を注ぐ家族）という概念をもとに、日本の家族はどのように変化してきたのか、歴史的、地域的な文脈を考慮にいれながら、日本の戦後の家族変動の実態とこれからのゆくえについて理解を深めてほしい。
■学習の要点	まず、テキスト全体に目を通すことが求められる。次に以下のテーマについて論じられている箇所を熟読し、内容をしっかりと理解する必要がある。　１.「家事と主婦の誕生」について　２.「二人っ子革命」について　３.「人口学的世代」について　４.「近代家族」について　５.「家族の双系化」について　６.「個人を単位とする社会」について
■学習の到達目標	１．家族のあり方は絶対的なものではなく、時代や社会とともに変化していくことを理解する。２．現代日本の家族の原型である「家族の戦後体制」について説明できるようにする。３．戦後の日本の家族体制の特徴について、①家事と専業主婦の誕生、②人口学的世代、③二人っ子革命、④ウーマンリブ運動、⑤家族の双系化から理解する。
■成績評価の基準	〈リポート設題〉①テキストを熟読し、「リポート学習の留意点」に沿ってわかりやすくまとめられているか、②見出し、段落のつくり方などが適切か、③誤字・脱字がないか、④引用文献が文中と文末に明記されているか等によって総合的に判断する。〈科目最終試験〉問題の内容をしっかりと理解し、学習の要点に書かれている点を中心に適切に回答がなされているかによって総合的に判断する。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	社会心理学				単位	4.0
担当者	作田　誠一郎			シラバスグループ	TV5415	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
絶対役立つ社会心理学　日常の中の「あるある」と「なるほど」を探す	藤田　哲也・監村井　潤一郎・編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623084524

■授業の概要	社会心理学は、社会学的な視点と心理学的な視点とをあわせもつ学問といえる。人間が社会的な存在として誕生し、その人びとが他者との関係のなかでどのような意思に基づいて行動するのか、また集団のなかでその行動にどのような変化や特徴が見られるのか。そのような問題意識のもとに社会心理学の知見を用いつつ考えてみたい。本テキストを通じて、私たちが社会集団のなかで誕生し、そのなかで社会化が促されながら生活していることを自覚しつつ、そのなかで形成される自己や社会的認知、コミュニケーションなどについて考察しながら現代の社会現象を理解してもらいたい。したがって本科目の目的は、テキストから社会心理学の基礎的な理論を学び、その分析視点を用いて現代社会を読み解く力を得ることが最終的な到達点となる。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下のポイントを踏まえて学習してください。1　自己と態度 2　対人行動の仕組みと援助 3　社会的認知 4　対人コミュニケーション 5　社会環境と環境のもつ意味 6　文化的な自己と機能
■学習の到達目標	社会心理学の基本的な知識の修得とともに、その知見に基づいた新たな発想や身近にある人間関係を客観的に理解できる力を培うことが目標となる。
■成績評価の基準	テキストの内容の理解度を中心に成績を評価します。

授業科目	保育原理				単位	4.0
担当者	中西　さやか			シラバスグループ	TW0725	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
保育原理　第 3 版（最新保育講座 1）	森上史朗･小林紀子･若月芳浩　編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623073511

■授業の概要	保育の基本理念、思想と歴史、実践の原理を理解し、「保育と何か」について多面的に学ぶ。また、子どもと保護者を取り巻く状況を踏まえた上で、保育に求められるものについて考察する。
■学習の要点	テキストを熟読し、子どもについての捉え方、子どもの主体性･自発性を大切にする保育のあり方、子ども観と保育実践の結びつき、保育者の専門性、保育所をめぐる現状と課題について幅広く理解を深めてほしい。単にテキストを覚えるのではなく、子どもや保育に関する自らの見方や考え方が深まるよう意識すること。
■学習の到達目標	･保育の基本について学び、自らの保育観を醸成するための視点を養うこと。･テキスト内容を根拠として、保育の基本について論述ができること。
■成績評価の基準	科目最終試験の評価基準は以下のとおりである。･採点は加点方式とする。･問題に合致しない答案は不合格とする。･問題で問われている内容について、様々な面から解答されていること（60 点）。･解答が論理的に展開されていること（20 点）。･自分自身の言葉を豊かに用いて解答されていること（20 点）。

授業科目	小児保健				単位	4.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW0806	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第２版	小林　美由紀　　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、保育園や乳児院、発達支援センター、そのほかの施設で子どもたちに接する際に、子どもの成長発達の基本を知り、母子関係の意味を知り、さらに、子どもたちの障害や疾患についての知識をもっていることは、子どもたちにとって求められる保育とは何かを考える基礎になっていきます。とくに今日大きな問題として取り上げられる、子どもの貧困・虐待、発達障害、そして COVID-19 パンデミックに伴う問題について、自分の考えをもつことは大変重要です。知識を増やすだけでなく、自分自身でしっかり考えて判断できるように、本科目では自ら考える姿勢を重視したいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、自分自身で新聞の記事、事実に基づくネット情報、そしてできれば書籍からのまとまった知識を加えて、自分で問題をしっかり考えて整理してみる、そうした取り組みを期待します。大学図書館のポータルサイトを利用して、フェイクではない正しい情報を得て理解を深めてください。乳幼児の集団生活に関わる立場にとって、事故の予防と救急蘇生の手技およびワクチンで防げる病気と具体的な予防接種の中身（どういったワクチンをいつ接種するのかなど）を知っていることは、大変重要です。それらの点を特に強調し、リポート設題としました。
■学習の到達目標	・学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べてくれたことが活かせれる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述の展開とその深度がどのようであるか、学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。教科書の各単元の終わりに、振り返りの問題がついています。必ず、自分自身の学びの確認を行なってください。
■成績評価の基準	内容が最新の情報にも続いて書かれているか（特にワクチン関係）は重要です。また、ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価の上では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	臨床教育学				単位	4.0
担当者	杉本　均			シラバスグループ	TS5780	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
臨床教育学	矢野智司・西平直	共同出版	[ISBN]9784319003242

■授業の概要	テキストの『臨床教育学』は、臨床教育学をはじめて学ぼうとする人たちには、入門書の役割をはたすが、すでに臨床教育学について知識のある読者にも読むに値するだけの新たな思考の展開がなされており、たんなる教科書ではなく、教科書の姿をとった研究書でもある。人間についての知は、哲学や歴史学や地理学、教育学や心理学や人類学、生物学や医学といったように、多数の学問領域に分化し専門化している。しかし、この学問の細分化と専門化とは、人間の教育を考えるときには問題が多い。なにより具体的で実践的なかかわりをともなう教育では、専門的垣根を超えて人間をトータルにとらえることが求めているからだ。このように考えると、「人間の教育」こそが、こうして細分化され専門化した知を実践的見地からふたたび結びあわせる結節点となるのではないかと考えられる。そして「臨床 - 教育 - 学」という用語間のうちにのっぴきならない緊張をはらんだ名称を戴く学問は、こうした知の結節点としての役割をさらに尖鋭化させる領域となるだろう。「臨床教育学」は、人間の教育にかかわる課題が人間の知にとって極限として突出してくるクリティカル・ポイントに当たるといえよう。本書は、こうした人間の教育にかかわる知の課題を、自覚的に受けとめようとしている。　その内容は、「動物」「ライフサイクル」「語りえないもの」に、「身体」「芸術」「教師のタクト」に、「現象学」「仏教」そして「パトスの知」である。この雑多にも見える多様な広がりが臨床教育学にとって意味をもつ。表面上の多様さとは裏腹に、これらの論考はたがいに緊密につながっている。この論考のあいだには、領域横断的にまた主題横断的に、内的な地下通路が網の目のように何本も走っている。そのことによって各論考はたがいに響きあい新たな意味を生みだしてもいる。しかもその通路の数は潜在的には無数である。受講者は自身の力によって新たな通路を発見してほしい。
■学習の要点	1．矢野論文を読み、人間の固有性を語るために人間と動物との境界線を論じることがもたらす問題について考える。これはこのテクストの最も基本的な構造と関わっている。2．西平論文・井谷論文・奥井論文・小松論文を読み、臨床教育学と演劇との関係についての思考を深める。3．矢野論文・小野論文・坂井論文・西平論文を読み、臨床教育学と生命との関係について思考を深める。4．池田論文・西平論文・田端論文・小野論文を読み、臨床教育学を語るための論理として逆接が多用される理由を理解する。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕に沿って学習することが、最も効果的で最善の試験対策となる。〔学習の要点〕をふまえない解答は、合格とはならない。評価の観点としては、理解・認識・把握の、的確さ・深さを問う。試験当日は、まず、問題文をしっかり読み、求められているものは何かを的確につかんだ上で、解答に取り掛かること。解答はたくさん書くほど点数がよくなるというものではない。

■成績評価の基準	自らの教育観、保育観が記されているかどうかを評価する。

授業科目	社会福祉原論				単位	4.0
担当者	北垣　智基			シラバスグループ	TW5602	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
現代社会と福祉	児島亜紀子･伊藤文人･坂本啓毅編著	東山書房	[ISBN]9784827815375

■授業の概要	この科目は、社会福祉の基本的知識を学ぶとともに、社会福祉を捉える視角を身につけるための科目である。　社会福祉は歴史的産物であるため、その時々の社会状況に大きな影響を受ける。しかしながら、法律が改正され、制度が変化するなかでこそ、社会福祉とは何であり、どのような理念のもとに展開されるべきであるのかについての基礎認識が求められる。そのためにも、私たちが生きる社会に社会福祉が存在する理由、その根底に関わる原理や哲学、国内外における社会福祉の歴史的発展過程、今日における社会福祉政策・制度の内容等について理解することに重点を置いて学習を進めてほしい。また、学習にあたってはテキストを熟読するとともに、参考文献にもできる限りあたり、用語・概念の意味を理解し、考え、書き留めるという訓練を怠らないよう、丁寧に学習を進めてほしい。
■学習の要点	１．社会福祉の原理について、関連する国内外の理論・思想をふまえて理解する。２．社会保障・社会福祉の政策・制度に関わる諸概念について理解する。３．社会福祉における「ニーズ」概念について、関連する国内外の議論をふまえて理解する。４．社会福祉の歴史的あゆみについて理解する。特にイギリスの歴史から学び、COS、セツルメント運動、貧困調査活動の意義を理解する。５．戦後(第二次世界大戦以後)の日本における地域社会・国民生活の変化と社会福祉制度・政策の動向との関連性を理解する。６．福祉国家体制の成立と変容のプロセスについて、関連する歴史的動向や理論・思想と結びつけて理解する。７．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置づけを理論的に把握したうえで、ソーシャルワークの在り方を理解する。
■学習の到達目標	１．国内外における社会福祉の原理と歴史を理解し、説明することができる。２．社会福祉政策・制度に関する基礎概念を理解し、説明することができる。３．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置付けとソーシャルワーク実践のあり方を理解し、説明することができる。
■成績評価の基準	学習の要点に示されている内容を理解できているかどうかを確認する。試験問題をよく読み、求められている内容を理解した上で解答を作成すること、また解答は問題に対する的確な答えで作成することを求める。テキストに書かれている基礎的な内容のみならず、参考文献等も参照し、理解を深められていると判断される場合は、記述内容に応じて高く評価する。なお、問題と無関係な答案を作成し、字数を埋めていたとしても評価の対象にはならない。解答の中で自分の考え等を展開することは自由であるが、解答と無関係な事柄（例えば、ご自分の事情や

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ				単位	4.0
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	TW5621	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助の理論と方法Ⅱ第3版（新・社会福祉士養成講座8）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851043

■授業の概要	本科目は、これまで学んできた理論と現場実践をつなげていくための準備段階の学習として位置づけられる。実習の事前学習として、また社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を身につけることを目的としている。援助技術に関する一般原則や方法論を、社会福祉援助が必要な人々の生活支援において、また地域福祉の基盤整備と開発にかかわって、どのような展開・実践していくのか、事例検討などを通して具体的に学ぶとともに、ソーシャルワークの体系についての理解を深める。また、援助関係において「援助資源」たるソーシャルワーカー自身について、そのあり方、価値観、人間観についての理解を深める。社会福祉援助技術論で学ぶ理論を基盤として学ぶため、本科目のテキストとともに、社会福祉援助技術論のテキストや文献も活用して学ぶことを前提とする。
■学習の要点	１．社会福祉専門職に必要不可欠な対人援助における視点や方法、原則についての理解を深める。２．ソーシャルワーク実践の場面およびその過程を想定し具体的に理解する。３．総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な援助について、事例研究の意味や目的、方法を理解した上で、事例等を活用して理解を深め、ソーシャルワーク実践過程の枠組みや体系、ソーシャルワークワーカーの専門性の評価について理解する。４．ソーシャルワーク実践の定義に基づいてソーシャルワーカーの専門性の評価について理解する。５．対人援助における価値と倫理の重要性について、理解を深める。６．併修のスクーリングにおける少人数でのディスカッションやロールプレイ等を活用した実技指導と連動して学びが深められるよう、基本的技法を理解し、実践できるようにする。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進める。また、現場実践における具体的な援助視点および方法を理解するとともに、リポートについては、論点が伝わるよう、起承転結や序論、本論、結論などリポートの構成を考え、論理性のあるリポートを作成できる力が備わること。
■成績評価の基準	・テキスト内容の理解ができているか・自分の考えを論理的に展開できているか・誤字・脱字、文意、段落の付け方、私見と引用との区別、引用・参考文献や注の記載などの不備がないか。

授業科目	現代社会と福祉				単位	4.0
担当者	北垣　智基			シラバスグループ	TW5602	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代社会と福祉	児島亜紀子･伊藤文人･坂本啓毅編著	東山書房	[ISBN]9784827815375

■授業の概要	この科目は、社会福祉の基本的知識を学ぶとともに、社会福祉を捉える視角を身につけるための科目である。　社会福祉は歴史的産物であるため、その時々の社会状況に大きな影響を受ける。しかしながら、法律が改正され、制度が変化するなかでこそ、社会福祉とは何であり、どのような理念のもとに展開されるべきであるのかについての基礎認識が求められる。そのためにも、私たちが生きる社会に社会福祉が存在する理由、その根底に関わる原理や哲学、国内外における社会福祉の歴史的発展過程、今日における社会福祉政策・制度の内容等について理解することに重点を置いて学習を進めてほしい。また、学習にあたってはテキストを熟読するとともに、参考文献にもできる限りあたり、用語・概念の意味を理解し、考え、書き留めるという訓練を怠らないよう、丁寧に学習を進めてほしい。
■学習の要点	１．社会福祉の原理について、関連する国内外の理論・思想をふまえて理解する。２．社会保障・社会福祉の政策・制度に関わる諸概念について理解する。３．社会福祉における「ニーズ」概念について、関連する国内外の議論をふまえて理解する。４．社会福祉の歴史的あゆみについて理解する。特にイギリスの歴史から学び、COS、セツルメント運動、貧困調査活動の意義を理解する。５．戦後(第二次世界大戦以後)の日本における地域社会・国民生活の変化と社会福祉制度・政策の動向との関連性を理解する。６．福祉国家体制の成立と変容のプロセスについて、関連する歴史的動向や理論・思想と結びつけて理解する。７．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置づけを理論的に把握したうえで、ソーシャルワークの在り方を理解する。
■学習の到達目標	１．国内外における社会福祉の原理と歴史を理解し、説明することができる。２．社会福祉政策・制度に関する基礎概念を理解し、説明することができる。３．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置付けとソーシャルワーク実践のあり方を理解し、説明することができる。
■成績評価の基準	学習の要点に示されている内容を理解できているかどうかを確認する。試験問題をよく読み、求められている内容を理解した上で解答を作成すること、また解答は問題に対する的確な答えで作成することを求める。テキストに書かれている基礎的な内容のみならず、参考文献等も参照し、理解を深められていると判断される場合は、記述内容に応じて高く評価する。なお、問題と無関係な答案を作成し、字数を埋めていたとしても評価の対象にはならない。解答の中で自分の考え等を展開することは自由であるが、解答と無関係な事柄（例えば、ご自分の事情や

授業科目	相談援助の基盤と専門職				単位	4.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5604	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助の基盤と専門職（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；6）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805851029
相談援助の基盤と専門職：社会福祉援助実践の展開	植田章著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248788&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	ソーシャルワーカーが専門職として確立され、日本では1987年に国家資格としての社会福祉士や精神保健福祉士が設けられた。少子高齢化や経済・社会環境が急速に変化する中で、介護保険制度に象徴される社会福祉基礎構造改革の登場は、戦後のわが国の社会保障・社会福祉制度の仕組み、理念を大きく変更するものであった。こうした下で人々の直面する生活問題の多様化と複雑化に伴って、地域等のさまざまな分野においてソーシャルワーク実践が求められてきている。この科目では、人々の直面する生活問題、福祉課題を解決・緩和することを目的にして、地域を基盤として展開されるソーシャルワークの理論と実際について学習する。
■学習の要点	1.現代社会と地域生活との関わりにおいて社会福祉士の意義と役割について理解する。 2.ソーシャルワークの形成過程を辿りながら、それぞれの時期に登場したソーシャルワーク理論と多様な実践モデルについて理解する。 3.ソーシャルワークの定義と構成要素について理解する。4.ソーシャルワーク実践を支える基盤としての、価値、権利擁護、自己決定、自立支援ノーマライゼーション、社会的包摂等について理解する。5.地域を基盤としたソーシャルワークの意義と基本的視点及び専門的機能について理解する。 6.ソーシャルワークにかかる専門職の成立条件と専門職の範囲について理解する。
■学習の到達目標	ソーシャルワークの歴史や社会福祉士が成立してきた背景を理解できるようになる。ソーシャルワークの定義からソーシャルワーク実践を支える理念や価値を説明できるようになる。今求められているソーシャルワーク実践について述べられるようになる。

■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその進度により 40 点を上限に配点する。「科目最終試験受験に当たっての留意点」で記載している（1）～（5）も踏まえて評価する。

授業科目	社会福祉援助技術Ⅰ				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5605	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	[ISBN]9784805882429

■授業の概要	世界や日本のソーシャルワーク実践や研究の成果から、ソーシャルワークの多様な方法・技術が理論化し発展してきている。また、利用者・家族の生活問題の多様化と複雑化に伴い、専門職としてのソーシャルワーカーの実践の場も広がり、援助方法も多様化している。　この科目では、ソーシャルワークの様々な理論に学びながら、具体的なソーシャルワークの展開過程とその方法を理解し、今日の国民が抱える生活問題の解決・緩和のために、社会福祉士がソーシャルワーカーとしていかに対応していくのか、学習を深める。
■学習の要点	1.人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 2.ソーシャルワークの過程 3.ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 4.ソーシャルワークの面接 5.ソーシャルワークの記録 6.ケアマネジメント 7.グループを活用した支援 8.コミュニティワーク 9.ソーシャルアドミニストレーション 10.ソーシャルアクション 11.スーパービジョンとコンサルテーション
■学習の到達目標	①人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの関係について自分の言葉で説明できる。②ソーシャルワークの過程全体とそれぞれの過程における重要な点を説明できる。③ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。④ソーシャルワークの記録について説明でき、適切な記録を意識して作成することができる。⑤ケアマネジメントの目的、過程、特徴について、ソーシャルワークとの比較から説明できる。⑥グループを活用した支援、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて自分の言葉で説明できる。⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて自分の言葉で説明できる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（２）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	社会福祉援助技術Ⅱ				単位	4.0
担当者	三馬　哲彦			シラバスグループ	TW5709	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座６　ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882498

■授業の概要	国際的なソーシャルワーク研究の成果から、ケースマネジメント（ケアマネジメント）・ネットワーキング等の多様な方法・技術が理論化され、わが国においても介護保険制度や障害者自立支援法といった支援の場で活用されてきている。そして、利用者・家族の生活問題の多様化と複雑化に伴い、専門職としてのソーシャルワーカーの実践の方法も多様化している。この科目では、複合化・複雑化した福祉課題及び包括的なソーシャルワークの概念をおさえ、多様なニーズに対応できるソーシャルワークの基盤・理論・方法を学習し理解していく。
■学習の要点	1.総合的・包括的なソーシャルワーカーの支援の実際についての理解を深め、家族支援、地域支援、非常時・災害時支援について理解する。2.ソーシャルワーカーの援助関係の形成について学び、ネットワークを構築していく方法について理解を深める。3.社会資源の活用と調整、開発の方法を理解する。 4.カンファレンス、事例分析、事例検討、事例研究の目的、意義を理解する。 5.ソーシャルワーカーに関連する技法について理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標:「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の趣旨・要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることを基本とし、論述の展開とその深度により配点する。一冊の文献からの引用でなく、数冊の文献を学習したうえで考察を深め自分の考えとしてまとめるようにすること。留意点:（1）テキストや文献からのそのままの引用ではないこと。（2）箇条書ではなく、論理的に記述していること。（3）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	地域福祉論				単位	4.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5607	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	2000 年に「社会福祉事業法」から「社会福祉法」に名称改正され、新しい法体系の下で社会福祉が運営されるようになった。社会福祉領域の地方分権化の動向とも関わって、「地域における社会福祉」の展開に注目が集まっている。しかしながら、既存の社会福祉概念と地域福祉概念の差異は必ずしも明確にされていないのが現状である。また、実践レベルでは新しい動きが数多く見られるようになってきており、この動向をふまえての検討が不可欠になっている。ここでは、これまでの政策動向、歴史的経過、地域社会の変遷をふまえつつ、地域福祉理念や基礎的概念の検討、地域福祉実践のシステム・方法等についての学習を深めることを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の推進主体について、その取り扱う問題の特長をふまえて理解する。２．社会福祉政策の動向をふまえて、地域福祉問題の具体的内容、その解決方法について理解する。３．地域社会の変化、地域生活問題の現状と社会福祉サービス供給主体の多様化をふまえて、地域福祉の展開の可能性について検討する。４．地域福祉計画の意義と課題について、その目的・方法・過程の現状をふまえて理解する。５．地域福祉の対象と主体の関係性について、日本におけるコミュニティの現状をふまえて、具体的に理解する。６．地域福祉推進における関連諸領域との連携の重要性と、その具体的方法について理解する。とりわけ、医療、保健、教育、労働等の地域住民の生活に密接に関わりのある領域との関係についてより深く理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	老人福祉論				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5613	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	高齢者福祉への社会的ニーズは、少子高齢化により更なる社会的サービスの需要が予測されている。その対応のため、介護保険制度が 2000 年より実施された。その制度の現状を理解し、「介護の社会化」といった理念、および「選別主義」から「普遍主義」を希求した結果の新しい制度であったことも認識していただきたい。また、今後のサービスの拡大と財源問題および自己負担問題、保険料の設定など現状から変更を迫られる時期がくると考えられる。その意味で、今後の制度設計と理念などをどのように融合させていけばよいか学習してほしい。
■学習の要点	(1)深刻化する高齢者介護問題　現代的な課題である、要介護高齢者の社会生活上の課題や、その支援のためのサービスの充実がどのように変遷してきたのかを理解する。(2)私的介護から公的介護への変遷　「介護の社会化」や「選別主義」から「普遍主義」への理念の転換。そして、今後の財源問題や自己負担問題など制度が抱える課題についても学習してください。(3)高齢者ケアサービスの発展　我が国における、高齢者福祉サービスの変遷を理解し、現状のサービス形態やサービス種類、および施設形態などの特徴について学習してください。(4)介護保険制度と財源構成　介護保険制度が市町村における、介護保険事業計画に基づいて実施されていることの理解とともに、各市町村ごとの人口動態の変化、財源構成、利用者負担などの理解(5)認知症高齢者および認知症ケア　認知症に関する、精神医学的な知見と、認知症当事者の内的世界について学習を深めてください。また、認知症ケア実践としてさまざまな取り組みが行われているが、ケア提供者やまわりの人々はどのようなことを意識（注意）して認知症の方々と接していけばよいのか学習してください。(6)地域包括支援センターと、地域包括ケアシステムの理解　日常生活圏域への理解と、日本版コミュニティ・ケアへむけた地域包括支援システムへの現状と課題(7)その他の高齢者福祉関連法について学習してください。　成年後見制度、日常生活自立支援制度、高齢者居住法など、広く学習してください。
■学習の到達目標	（１）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（２）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（３）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。

■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）および、国家試験に対応できる基本的理解ができていることを基準とする。

授業科目	障害者福祉論				単位	4.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5615	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を前提とした障害者問題の現れについて理解を深める。その上で、障害者問題の解決の指針を導きだすために、障害者福祉理念や障害概念、障害者福祉施策の変遷や、現在の障害者関連法等の基礎的知識の習得を目的とする。その上で、社会福祉専門職として障害者問題をどのように把握するのか、またその問題に対し社会的支援をどのように介入させるのかということについて、事例等をもとに理論と現実を切り結んで理解する視点を身につける。
■学習の要点	テキスト･参考文献等に学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、現代における障害者･家族の貧困問題を引き起こす社会構造についての理解を深める。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、現在の国際的到達である障害者の権利条約についてその成立背景と内容を理解する。（３）わが国における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー福祉政策ー社会運動という側面から理解する。（４）障害とは何か、国際的到達である WHO の「国際生活機能分類」(ICF）との比較において、わが国の障害規定の特徴と問題について理解する。（５）障害者総合福祉法の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者の実際との関連において理解する。（６）社会福祉実践の供給主体像について、公的責任との関連において理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。「答案」は箇条書きではなく論述すること。
■成績評価の基準	問題についての基礎的な理解度が問われるが、独自の見解が説得的に述べられていれば、より高い得点になる。

授業科目	児童福祉論				単位	4.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5616	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新･社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	[ISBN]9784805882467

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉) の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶことを目的とする。日々の生活のなかで、子どもの成長・発達を支援する児童福祉の意義とは何か、また現代社会における児童福祉の課題とは何かを考える。これまで展開されてきた児童福祉の歴史に学びつつ、少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ社会環境の変化をおさえ、現代における子どもとその養育者への社会的支援について考察を深めたい。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。1．児童福祉の思想･理念、児童の権利　関連法規の内容を踏まえ、児童福祉の歴史的展開にみる児童観の変遷と、児童の権利擁護に関する基本的視角を得る。2．現代社会における児童福祉ニーズとその背景　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会状況について理解を深め、児童福祉ニーズを考察する。3．児童福祉の関係法規と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。児童福祉サービスの体系と、利用に関する費用、財源、運営主体としての機関・施設、非営利組織、その他関連する社会資源、専門職の役割・機能について学ぶ。また、児童福祉における計画や運営、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。4．児童福祉の施策　母子保健、保育、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭・要保護児童・障がいのある児童等を対象とした支援、子ども家庭の貧困への対応、児童虐待防止などの児童福祉施策全般について学び、支援の展開と絡めて課題を考察する。5．児童福祉の支援活動における視点と原理・原則　児童福祉の専門職として、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。6．児童福祉の担い手と子育ての社会化　児童福祉の専門職による支援にとどまらず、子どもが育つこと・子どもを育てることに関するソーシャル・サポートやネットワークについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子育て支援の意義と課題、社会的養護のあり方、虐待防止のための取組みなど具体的に関心のあるテーマで検討を深める。
■学習の到達目標	児童福祉の諸課題を考えるための基本的な視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論、基礎知識と方策を理解することを目指す。児童福祉の歴史的変遷を、社会的背景・社会問題との関連させながら理解を深め、子どもとその家庭の生･生活の困難や生活課題について考察する力を涵養する。現代社会における子どもとその家庭への支援のあり方について検討できるようになる。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ				単位	4.0
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	TW5620	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉士相談援助演習 第2版	日本社会福祉士養成校協会 監修	中央法規出版	[ISBN]9784805851234

■授業の概要	本科目は、相談援助技術の理論と実践を結びつける重要な科目として位置づけられる。履修にあたっては、とりわけ社会福祉援助技術論、社会福祉士実習（事前・事後学習を含む）と関連づけて学ぶ必要がある。ソーシャルワークの理論や技法が実践現場でどのように展開されているのか、ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる対人援助の基本的な視点や方法・原則とは何かといった相談援助技術の基本について考察し、理解を深める。
■学習の要点	ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる対人援助の基本的な視点や方法・原則について考察し、理解を深める。・ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる自己覚知・他者理解、価値・倫理の重要性について理解する・コミュニケーションの本質と基本的技法、とくに非言語コミュニケーションについて理解する・相談援助における面接の目的と特性、基盤について理解する・基本的な面接（応答）技法とそれらがクライエントに与える影響について理解する・相談援助における面接の展開過程について理解する・相談援助における記録の意義と重要性について理解する
■学習の到達目標	・ソーシャルワーカー（社会福祉士）の自己覚知・他者理解、価値・倫理の意義や重要性について説明できる・コミュニケーションの本質と基本的技法、とくに非言語コミュニケーションの意味と有用性について説明できる・相談援助における面接の目的と特性、基盤について説明できる・基本的な面接（応答）技法とそれらがクライエントに与える影響について説明できる・相談援助における面接の展開過程について説明できる・相談援助における記録の意義と重要性について説明できる
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解し、要点に沿って論理的に記述されていること（1200 字程度とする）・「学習の到達目標」の項目の理解度・到達度を評価する・自分の意見・考察内容が記述されていること

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ				単位	4.0
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	TW5621	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助の理論と方法Ⅱ第3版（新・社会福祉士養成講座8）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851043

■授業の概要	本科目は、これまで学んできた理論と現場実践をつなげていくための準備段階の学習として位置づけられる。実習の事前学習として、また社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を身につけることを目的としている。援助技術に関する一般原則や方法論を、社会福祉援助が必要な人々の生活支援において、また地域福祉の基盤整備と開発にかかわって、どのような展開・実践していくのか、事例検討などを通して具体的に学ぶとともに、ソーシャルワークの体系についての理解を深める。また、援助関係において「援助資源」たるソーシャルワーカー自身について、そのあり方、価値観、人間観についての理解を深める。社会福祉援助技術論で学ぶ理論を基盤として学ぶため、本科目のテキストとともに、社会福祉援助技術論のテキストや文献も活用して学ぶことを前提とする。
■学習の要点	１．社会福祉専門職に必要不可欠な対人援助における視点や方法、原則についての理解を深める。２．ソーシャルワーク実践の場面およびその過程を想定し具体的に理解する。３．総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な援助について、事例研究の意味や目的、方法を理解した上で、事例等を活用して理解を深め、ソーシャルワーク実践過程の枠組みや体系、ソーシャルワークワーカーの専門性の評価について理解する。４．ソーシャルワーク実践の定義に基づいてソーシャルワーカーの専門性の評価について理解する。５．対人援助における価値と倫理の重要性について、理解を深める。６．併修のスクーリングにおける少人数でのディスカッションやロールプレイ等を活用した実技指導と連動して学びが深められるよう、基本的技法を理解し、実践できるようにする。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進める。また、現場実践における具体的な援助視点および方法を理解するとともに、リポートについては、論点が伝わるよう、起承転結や序論、本論、結論などリポートの構成を考え、論理性のあるリポートを作成できる力が備わること。
■成績評価の基準	・テキスト内容の理解ができているか・自分の考えを論理的に展開できているか・誤字・脱字、文意、段落の付け方、私見と引用との区別、引用・参考文献や注の記載などの不備がないか。

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ				単位	4.0
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	TW5623	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉実習：社会福祉現場と共に歩む社会福祉士を目指して	佛教大学社会福祉実習研究会編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248866&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目のねらいは社会福祉援助技術現場実習に臨むにあたり、その前提として必要とされる援助者としての姿勢、社会福祉援助の専門的知識、援助技術および実習領域の基礎知識を深めることを目的とする。実習とは、人と人とが直接関わる実践の場であることを念頭に置き、それが何を意味するのかを考え臨まなければならない。学習過程において、自らの行う実習の意義を考え、目的を明確にし実習のテーマおよび課題を主体的に設定することが求められる。
■学習の要点	社会福祉の実践はヒューマンサービスであるということを念頭に置き、以下の諸点について考え、自らの実習に対する目的や課題を明確にできるよう学習を進めることを求める。１．現場実習において求められる実習生としての姿勢について理解すること。　２．ソーシャルワーカーの職業倫理について理解すること（社会福祉士の倫理綱領を参照）。　３．現場実習の指定施設についてその概要や根拠となる法律、また最低基準等を理解すると同時に、そこで働く専門職の専門性について理解すること。　４．実習生として現場実習において留意すべき事柄について理解すること。　５．実践の場において関わるさまざまな専門職種について理解し、その連携の意義を考えること。　６．実習における記録の意義について理解すること。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその達成度に即して成績評価する。なお、答案は論旨を明確に記述すること。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即したテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測り、その到達度に即して成績評価する。・試験解答については、1600 字～2000 字程度で作成すること。・問いに対して、解答するに必要なキーワードが含まれているかどうかを評価する。・問いを正しく理解し、要点を押さえ、論理的に解答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	子どもの保健Ⅰ				単位	4.0
担当者	武内　一			シラバスグループ	TW0806	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
子どもの保健テキスト　改訂第2版	小林　美由紀　　編著	診断と治療社	[ISBN]9784787825315

■授業の概要	保育士を目指す皆さんは、保育園や乳児院、発達支援センター、そのほかの施設で子どもたちに接する際に、子どもの成長発達の基本を知り、母子関係の意味を知り、さらに、子どもたちの障害や疾患についての知識をもっていることは、子どもたちにとって求められる保育とは何かを考える基礎になっていきます。とくに今日大きな問題として取り上げられる、子どもの貧困・虐待、発達障害、そしてCOVID-19パンデミックに伴う問題について、自分の考えをもつことは大変重要です。知識を増やすだけでなく、自分自身でしっかり考えて判断できるように、本科目では自ら考える姿勢を重視したいと思います。
■学習の要点	テキストから学ぶ内容に、自分自身で新聞の記事、事実に基づくネット情報、そしてできれば書籍からのまとまった知識を加えて、自分で問題をしっかり考えて整理してみる、そうした取り組みを期待します。大学図書館のポータルサイトを利用して、フェイクではない正しい情報を得て理解を深めてください。乳幼児の集団生活に関わる立場にとって、事故の予防と救急蘇生の手技およびワクチンで防げる病気と具体的な予防接種の中身（どういったワクチンをいつ接種するのかなど）を知っていることは、大変重要です。それらの点を特に強調し、リポート設題としました。
■学習の到達目標	・学習の進展と理解度を試験ではかり、その到達度に即して評価します。・問題はテキストのみならず、調べてくれたことが活かせれる出題としています。・問いに対し、解答するに必要なキーワードを含んでいるか、出題要点を理解し、理論的に論述の展開とその深度がどのようであるか、学習の状況が把握できるものとなっているか、などを総合的に評価します。教科書の各単元の終わりに、振り返りの問題がついています。必ず、自分自身の学びの確認を行なってください。
■成績評価の基準	内容が最新の情報にも続いて書かれているか（特にワクチン関係）は重要です。また、ネットの情報の書き写しではなく自分の考えが論じられているかを、評価の上では重視します。ネットのコピペが強く疑われ、そうした引用を明記されていないリポートや答案であると判断した場合、合格点は与えません。

授業科目	精神保健福祉援助技術各論				単位	4.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	かつて精神障害者は医療の対象として対処されてきた。現在障害者総合支援法、精神保健福祉法等を中心に地域で生活するための施策やサービスが、国と地方自治体それぞれの役割に応じて提供されている。　本科目では、本人の主体性を重んじ、人としての尊厳や自尊心を損なうことなく、自立を支援するための具体的な方法を学習するとともに、家族支援についても検討する。　さらに、近年障害者本人もしくは家族による相互支援としての当事者活動も活発になってきており、そうした動向にも関心を寄せ、グループ支援のあり方について、またセルフヘルプ活動によって達成し得るもの、ピアサポートの意義とともに理解を深める。
■学習の要点	１．精神障害者の現状を把握する。２．精神障害者とその家族への個別およびグループを用いた支援方法を理解する。３．場面に応じた援助のあり方および実践プログラムや具体的な事業について理解する。４．ケアマネジメントの実際を知る。５．セルフヘルプグループの意義およびピアサポートについて理解する。６．チームアプローチと連携について理解する。
■学習の到達目標	まず第一に精神障害者の生活上の困難について、病者としてだけではなく生活者として把握したうえで説明することができる。さらに最新の具体的な関連法制度や施策・事業を理解するとともに、援助者側の多様な役割を説明できるようになる。
■成績評価の基準	問題では何が問われているのか、どのような事柄を取り上げ論述していくべきなのかを正確に読み解き、問題に沿って答案を作成してください。　さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価します。　答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、誤字脱字、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となります。

授業科目	社会福祉原論				単位	4.0
担当者	藤松　素子・岡﨑　祐司・長友　薫輝			シラバスグループ	TW5102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉原論	岡崎祐司編	佛教大学通信教育部	[ISBN]9784907177898

■授業の概要	この科目は、社会科学的視点から社会福祉の対象、目的、主体、社会的機能、分野などを理解することに重点をおいています。社会福祉を歴史的産物としてとらえ、社会との関わりで社会福祉の本質をとらえるということです。人権や発達が保障される社会をめざす人類の歩みのなかで、社会福祉の政策・制度はどうあるべきか、社会福祉実践者はどのような働きや役割を期待されているのかを考えることが大きなねらいです。そのため、テキストでは資本主義論、国家論、社会問題論を重視しています。それをふまえて社会福祉の対象、主体、目的などの基礎理論と社会福祉の歴史的歩みをつかんでいきます。さらに社会福祉システムのトータルな理解と、社会福祉改革の論点を、その基礎・背景にある現代社会の矛盾と関わらせて学びます。いわゆる制度・実践の解説本ではなく社会科学的方法論にもとづく社会福祉理論を展開しているので、理解のためには繰り返し読む必要があるでしょう。社会福祉の最新動向解説のためのテキストではないので、それについては雑誌、インターネット等で各自フォローをこころがけておいていただきたい。あくまで原理論科目として社会福祉の基礎理論を深めます。
■学習の要点	（１）福祉の対象である生活問題を社会問題論の観点から考える。資本主義の矛盾と社会問題の生成、社会問題と個人、社会問題と関わらせた社会福祉の対象設定などについて。（２）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について考える。人権の思想とその歴史的意義、人権保障と社会福祉の目的、社会福祉の権利性、発達保障について。（３）社会福祉サービスの供給原則のうち、「権利性」と「普遍性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。（４）社会福祉サービスの供給原則のうち、「総合性」と「地域性」について理解する。また、それらと社会福祉の公的責任のあり方を関わらせて考察する。
■学習の到達目標	１．学習の到達目標（１）基本的なこととして、社会との関わり、社会問題との関わりで社会福祉の基礎をつかめるようになること。（２）国民の側からみた社会福祉の目的と基礎的な理念について、理解すること。とくに、人権保障との関わりからとらえるようになること。（３）生活問題を地域、家族、生活様式の変化の視点からとらえるようになること。（４）社会福祉の政策主体とはなにか、その役割と責任はどのようなものか、どのような社会的勢力に影響されているのかについて理解できるようになること。（５）「権利性」、「普遍性」、「総合性」、「地域性」という社会福祉の供給原則と社会福祉の公的責任の重要性を理解できるようになること。
■成績評価の基準	①情緒的ではなく論理的な文章が書かれている。②学習の要点を踏まえて、テキストを学習し理解できている。③問いに対する答えになっている。

授業科目	社会福祉方法原論				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉方法原論の展開	植田章ほか	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248887&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	介護保険制度や障害者総合支援法など社会保障・社会福祉分野における利用契約制度への移行は、利用者・家族の暮らしに大きな影響をもたらしている。たとえば、「利用料負担」や「介護認定」「支援区分認定」といった仕組みはサービス利用を大きく制限するものとなっている。市場原理に基づく事業者間の競争は、利用者と福祉施設・事業所との信頼関係を崩し、職員の専門性の発揮をも妨げ、同時に福祉施設・事業所の運営・経営もいっそう厳しい状況に追い込んでいる。　こうした福祉現場の今に焦点を当て、社会福祉専門職の専門性とは何か、利用者の立場に立った福祉実践・福祉労働をどのように発展させていくのか、あらためて方法・技術論の今日的な課題から学習を深める。
■学習の要点	１）社会福祉実践とケアマネジメントを支える理論と方法について２）ケアにみる社会福祉援助の思想と方法について３）クライエントの生活を理解する意味と技法について４）当事者活動の意義と社会福祉援助の連携について５）社会福祉援助における社会福祉調査の意義とその方法について６）援助記録･実践に活かす記録とその方法について７）社会福祉援助のプロセスについて８）社会福祉労働と専門性の課題について
■学習の到達目標	①社会福祉実践とケアマネジメントを支える理論と方法について説明することができる。②ケアにみる社会福祉援助の思想と方法について自分の言葉で述べることができる。③クライエントの生活を理解する意味と技法について説明することができる。④当事者活動の意義と社会福祉援助の連携について説明することができる。⑤社会福祉援助における社会福祉調査の意義とその方法について説明することができる。⑥援助記録･実践に活かす記録とその方法について説明でき、自分で記録を書くことができる。⑦社会福祉援助のプロセスについて自分の言葉で説明できる。⑧社会福祉労働と専門性の課題を取り上げて、自分の考えを発表することができる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（２）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	家族福祉論				単位	4.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5236	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
「子どもの貧困」を問い直す―家族・ジェンダーの視点から	松本伊智朗編	法律文化社	[ISBN]9784589038708

■授業の概要	子どもや女性、障害者、高齢者、患者などが抱える問題は、同時に、かれらの家族が抱える問題でもある。しかし、当事者に焦点化することで家族問題が後景に退いたり、あるいは世帯を単一のものととらえることでその内部の問題が捨象されたりする。この問題解決には、ジェンダー視点の導入が不可欠である。問題を抱える当事者とその家族は、当該家族の逸脱・病理とみなされることによって、孤立化を深め、問題をより深刻化させている。それほどに「家族」には、特定の固定化されたイメージがつきまとっている。「家族福祉」は、家族を歴史的・社会的にとらえることによって、現実の家族の多様性を受け止め、家族に自己責任を負わせない社会のありかたを展望するなかで、家族支援のあり方を検討することを課題としている。
■学習の要点	家族福祉とは何か、について社会福祉の一分野を正確に理解できるように、家族福祉についての内外の理論を学習し理解を深めておこう。そのためには、現代の社会構造に規定された家族の現状について理解を深めることが不可欠である。また、現代社会および現代家族の特質を理解し、なぜ家族福祉が必要とされるのか、現代の家族福祉の政策や実践、法律や制度についても学習しておこう。　１．現代社会と現代家族の特質について　２．現代家族を理解するうえでのジェンダー視点の意義について　３．家族内部の問題を可視化する視点について　４．家族問題の表れについて　５．家族支援のあり方について
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題の意図を十分にくみとって論述すること。
■成績評価の基準	テキストの内容を十分に理解できていること。そのうえで、独自の考察が展開できていること。

授業科目	児童福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5238	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
第５巻　児童･家庭福祉（学習双書 2023）	『社会福祉学習双書』編集委員会 編	全国社会福祉協議会	[ISBN]9784793514135

■授業の概要	本科目では、現代社会における児童福祉(子ども家庭福祉）の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶ。少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ環境の変容について理解し、児童と家庭への支援のあり方について考察する。具体的には、歴史的な展開過程をふまえつつ、児童福祉の基本的視点、思想及び理念を学ぶ。また、戦後に創設した児童福祉法の成立とその社会的意義を確認し、児童の権利について理解を深めるとともに、今日の社会福祉全体の動向（制度改革、地域・在宅福祉への転換、利用者主体、自立支援など）のなかで児童福祉の課題をとらえる。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。１．児童福祉の思想･理念、児童の権利　　児童福祉の歴史的な変容をふまえ、児童の権利擁護に向けての歩みと、関連法規について学ぶ。児童福祉における基本理念を理解する。２．現代社会における子どもの生活ニーズとその背景　　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会状況について理解を深め、子どもの生活上のニーズ、生活困難等を学ぶ。成長・発達する存在としての子どもの特性についても理解する。３．児童福祉の関係法規と実施体制　　児童福祉法制度の内容、実施体制について学ぶ。法制度の改正とその背景についても理解を深める。担い手としての専門職の役割・機能についても学ぶ。児童福祉における権利擁護の仕組みと第三者評価･自己評価について理解する。４．児童福祉の施策　　児童福祉に関する施策全般について学び、支援活動の実際と絡めて課題を考察する。５．児童福祉の支援活動における基本的視点と支援の実際　　さまざまな支援活動（相談支援、施設ケア等を含む）について、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。事例から支援の実際を学び、課題を考察する。６．関連領域・職種との連携と子育ての社会化　　子どもが育つこと、子どもを育てることに関するソーシャル・サポートについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子どもとその家庭を支援する機関・施設等の連携のあり方について考察する。
■学習の到達目標	現代社会における児童福祉(子ども家庭福祉）の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について説明できる。少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ環境の変容について理解し、児童と家庭への支援のあり方について考察することができる。歴史的な児童福祉の展開過程をふまえ、児童福祉の基本的視点、思想及び理念を学び、児童の権利擁護の視点から、今日の児童福祉をめぐる諸課題について検討することができる。

■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	老人福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5240	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の高齢者福祉の状況は、「介護問題」を中心に議論されている。しかし、「老人福祉」に求めれる学問的追求は、本来の「人間らしい生き方」を社会が守ろうとする現代的な課題でもある。そのことは、「介護問題」のみに着眼するのではなく広い意味での「福祉」の探究へとつながっていく。　また、「高齢期」に遭遇する生活状況や、社会が対峙していかなければならない課題なども理解し、多角的な分析を行えるよう、広い視野をもつようにしていただきたい。　そのため、この科目では、まず老人福祉の基本を学ぶことを目的とし、老人福祉の歴史的経緯や、「老い」についての理解、高齢期における生活課題、高齢者と人権などを学びつつ、学習の要点に示している内容の理解を深めていってほしい。
■学習の要点	（1）人口高齢化の状況とその特徴　わが国の人口高齢化には、他の先進国には見られない幾多の特徴がある。わが国の高齢化の進展状況とともに、その特徴を理解すること。（2）高齢者の生活実態　高齢者の生活状況を、健康・経済、家庭・住居、社会活動などの側面からトータルに理解すること。（3）要介護高齢者の増加と介護問題　高齢者の介護問題が生じた理由・社会的背景とともに、現代の高齢者の介護問題を理解すること。（4）高齢者福祉政策の変遷　わが国の高齢者福祉の発展・変遷の歴史を理解するとともに、近年、めまぐるしく変化している制度・政策の内容を理解すること。（5）高齢者福祉に関係する法律　　老人福祉法、高齢者居住法、後期高齢者医療制度(6) 高齢者社会対策基本法の理解
■学習の到達目標	（1）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（2）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（3）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。
■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）を押さえながら、理念や高齢者福祉をとらえる支援など、総合的に評価する。

授業科目	障害者福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	孔　栄鍾			シラバスグループ	TW5242	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を把握し、障害者問題に関する構造的理解を深める。また、障害者問題の解決の指針を示す障害者福祉理念について学習する。さらに、障害者の活動や参加の制約を克服するための実践的な方策を明らかにするためにも、「障害」概念の構造的な把握についての理解を深める。以上の基礎知識を習得したうえで、現在の障害者制度である障害者自立支援法（総合支援法）についての現状と課題を把握する。更に、同法が障害当事者や家族の生活、あるいは障害福祉労働者の行なう支援にどのような影響を与えているのかということを、事例等をもとに考察を深める。また、障害者やその家族の権利保障を目指して展開されてきた社会福祉実践についても考察を深める。
■学習の要点	テキストに学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、障害者問題の現れを労働と生活を中心に学習する。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、リハビリテーションについて学習する。また、障害者の人権確立に向けた国際的な動向について、国連の提唱による「国際障害者年」とそれ以降の動き、（～「障害者権利条約」）について学習する。（３）障害とは何か、WHO の「国際生活機能分類」（ICF）によって理解し、障害の構造的把握の意義と課題について理解する。（４）日本における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー政策ー運動の側面から理解する。（５）日本の障害者福祉政策の展開を障害者運動との関わりにおいて理解する。（６）障害者自立支援法（総合支援法）の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者との関連において理解する。（７）現在展開されている障害者福祉実践について、テキストに紹介されている事例も参考に現状と課題を理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。その上で、独自の説得的な意見が記述できるようになること。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。

授業科目	地域福祉論Ⅰ				単位	4.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5244	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会福祉領域の地方分権化の動向とも関わって、地域福祉の展開に注目が集まっている。しかしながら、既存の社会福祉概念と地域福祉概念の差異は必ずしも明確にされていないのが現状である。また、実践レベルでは新しい動きが数多く見られるようになってきており、この動向をふまえての検討が不可欠になっている。そこで、ここでは、これまでの地域をめぐる福祉課題を捉える視角を獲得するために、これまでの政策動向、歴史的経過、地域社会の変遷をふまえつつ、地域福祉理念や基礎的概念の検討、地域福祉実践のシステム・方法等についての学習を深めることを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について理解する。また、戦後のコミュニティの変化と生活の変化について理解する。２．社会福祉政策の動向について理解する。その上で、地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展方向について理解する。３．生活問題の現状とサービス供給主体の多様化について理解する。４．地域福祉における主体・対象について理解する。また、地域福祉における計画のもつ意義について、その目的・方法・過程について理解する。５．地方分権の推進と地域における公私の役割について理解する。特に社会福祉政策全般との関わりで地域福祉の現状を理解する。６．地域福祉における関連諸領域との関係について理解する。とりわけ、医療、保健、教育、労働等の福祉に密接に関わりのある領域との関係についてより深く理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	国際福祉論				単位	4.0
担当者	朴　光駿			シラバスグループ	TW5401	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際福祉論	朴光駿	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248883&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	「国際福祉」という言葉は、「社会福祉分野の国際援助」と「社会福祉の国際比較」という２つの意味で使われている。前者の場合、国際援助の主体が、主に国連を含む国際機構、個別国家による政府開発援助（ODA）、国際（協力）NGO、国際ボランティアの４者になっていることから、その４者による国際援助活動という側面が強調され、それは学問的分析対象ということよりは「援助実践」という性格が強い。その反面、後者は、２つ以上の国家のもつ社会福祉体系を比較し、その類似性と差異を明らかにすること、あるいはある特定国家の社会福祉の特徴についての理解を深めるということに焦点がおかれているもので、研究方法においても研究内容においても、全く学問的分析の対象になっているものである。　この科目は、「国際福祉論」のもつ以上の２つの側面を同時に学習することをその内容としている。社会福祉の国際比較の領域においては、主に、日本、韓国、中国を中心とした東アジアをその比較対象としている。
■学習の要点	学習の要点は、大きく分けて２点である。第一は、第三世界の国家が抱えている社会問題（貧困と環境破壊、女性と児童の搾取労働など）が、もはや特定国家の国内問題ではなく、国際的努力によってのみ解決できる国際問題になってきている経緯ないし背景を把握するとともに、その解決のために行われているさまざまな国際的取り組みを理解することである。第二の要点は、社会福祉の国際比較研究とは何か、比較研究の方法や長所は何かを理解したうえ、実際に東アジアの社会福祉を比較してみることである。　テキストに基づいた学習の要点は次の通りである。　（１）グローバリゼーションの意味と背景　（２）国際社会福祉とは何か　（３）第三世界の貧困とその原因に対するグローバルな観点　（４）国際社会開発の背景と内容　（５）社会福祉における国際比較研究の意義　（６）社会福祉に影響を及ぼす社会環境（社会文化、経済、市民社会の成熟度、人権状況など）を理解すること　（７）東アジアの価値と社会福祉への影響　（８）東アジア高齢者福祉の特徴
■学習の到達目標	①「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。②問題は、テキストに即して出題する。よって、解答はテキスト学習の範疇で記述すればよい。③採点は、加点方式を基本とする。④出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。

■成績評価の基準	設題の趣旨についての理解度、テキストの内容の学習、論理性などを総合的に判断し評価する。

授業科目	リハビリテーション論				単位	4.0
担当者	漆葉　成彦			シラバスグループ	TW5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
リハビリテーション概論 改訂第４版	田島文博　編著	永井書店	[ISBN]9784815919221

■授業の概要	障害者に対する社会的偏見や政策の誤りなどから、人としての尊厳や権利が奪われ、傷つけられた歴史がある。近年、全人間的復権としてのリハビリテーションの理念が社会に受け入れられつつあるが、理念の実現のためには、なお多くの課題が残されている。障害者のノーマライゼーションの実現のために、社会福祉士、介護福祉士に期待されている役割は大きい。医療、保健等、他の分野の専門職と連携をとりながら、その職務を担当しなければならない。リハビリテーションの理念、総合体系、技法等について学習することが必要である。
■学習の要点	学習の要点を以下に掲げる。１．リハビリテーションの理念の歴史的変遷を理解すること２．障害の概念と分類について理解すること３．障害の心理・社会的視点について理解すること４．医学的リハビリテーションの概要と、関わる専門職種の役割について理解すること５．社会的リハビリテーションの概要と、社会福祉士の役割について理解すること６．地域リハビリテーションの概要と、社会資源について理解すること７．リハビリテーションにかかわる医療・福祉制度について理解すること
■学習の到達目標	学習の要点にあげた事項などにつき、十分に理解し、かつ他人にわかりやすく説明できるようになることを到達目標とする。科目最終試験においては、問われている主題の言葉の定義をまずきっちり述べてから論述を展開することが必要である。自分なりの考察も述べること。
■成績評価の基準	設問の意味を把握していること、設問に関する正確な知識をもっていること、設問に対して自分自身の考えをのべられること、を基準として成績評価を行う。

授業科目	精神保健				単位	4.0
担当者	高橋　健太			シラバスグループ	TW5405	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
改訂版精神保健入門	山内常博ほか	文化書房博文社	[ISBN]9784830111419

■授業の概要	精神保健とは、人の「心の健康の維持」と「心の病気の予防」についての実践的学問です。その内容は以下の通りです。 ①精神保健とその歴史 ②精神的な問題と病理 ③子どもの心の問題 ④心理療法の理論 ⑤心の健康について ⑥精神障がい者の生活問題 ⑦精神障がい者への援助 保育士をめざす学生は、子どもの心身の成長・発達についての知識を持ち、子どもの心の健康に影響を与える要因を理解するのみならず、養育者の精神保健を自らの問題としてとらえ、積極的に学習しなければなりません。
■学習の要点	まず科目の概要を全体的に学習すること、その上で、以下の内容をより詳しく学習しましょう。 ①子どもの心の健康について ②子どもの心身症について ③発達障がいについて ④不登校について ⑤子どもへの援助法について ⑥家庭の役割について
■学習の到達目標	定型的な子どもの発達を理解すること、発達障がいを理解すること、障がいをもった子どもへの適切な関り方を理解すること、を目標とします。答案は、論理の筋道を立てて記してください。
■成績評価の基準	量的な観点（記述量）と質的な観点（内容）から評価します。質的な観点としては、論理的な記述や分かりやすい表現が評価基準になります。

授業科目	社会政策論				単位	4.0
担当者	岡﨑　祐司・藤松　素子			シラバスグループ	TW5409	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会政策を学ぶ人のために〔３訂〕	玉井金吾ほか編	世界思想社	[ISBN]9784790712787

■授業の概要	「労働力の保全・培養」政策としての社会政策がわが国で定立されて以来、社会政策の中核的施策が労働力政策であったことは周知のことである。近年の少子･高齢化の進行により、従来の社会政策の対象や方法に反省が迫られ、これまでの社会福祉や社会保障政策との関連を視野に入れた新たな社会政策の構築が必要とされていることも確かであるといえよう。しかし、社会政策にあって、労働力政策が軽視されてよいわけではない。今日の雇用の「流動化」は、むしろ、従来の労働力政策としての社会政策の意義と限界が検証されつつ、新たな「労働力」政策としての社会政策を生み出す客観的基盤となっていると言えるのではないであろうか。テキストは、生活問題対策を含めて社会政策を扱っており、複数の視点から社会政策を学ぶことができる。丁寧に読んでほしい。
■学習の要点	試験は論述ですので、論理的に構成し論理的な文章を書くようにしてほしい。リポートでも試験でも言えることですが、「問われていること」に正面から答えていただきたいと思う。無関係な叙述や個人的経験を書かれても、「評価」の対象にはなりません。個人の経験を書くのが試験ではありません。また、事実を整理し、正確にことをつかむように心がけてほしい。「思い込み」にならないように、注意してほしい。１．労働基準政策の実効性を高めるには、どのような労働行政が求められるのか、労働者の視点から考える。２．積極的労働市場政策とはどのような考え方か、また労働者に「安全」と「保障」をもたらす労働市場政策とはどのようなことか、考える。３．国民の医療保障の観点から「国民皆保険」の意義と現在の課題について考える。４．「労働力の再生産＝生活過程」における家族責任が、なぜ女性に過重な負担やキャリア形成の問題を背負わせることになるのか、その構造を考える。５．男女平等の観点から、ワーク・アンド・ライフ・バランスに関する企業の責任と課題、労働者の意識と行動について、考える。６．「個の自律」の観点から社会政策の課題を考える。
■学習の到達目標	１．日本の労働基準政策の歴史を説明し、それをふまえたうえで、現在の日本における労働をめぐる諸問題のなかから一つをとりあげ、労働者の人権と生活を守る観点から政府がとるべき対策とはなにか、について説明できる。２．今日の住宅問題と住宅という財の特質をふまえ住宅政策のポイントを説明したうえで、高齢者、障がいのある人、子育て家族など対象を特定し、望ましい住宅政策のありかたについて説明できる。３．労働基準政策の実効性を高めるには、どのような労働行政が求められるのか、労働者の視点から説明できる。４．積極的労働市場政策とはどのような考え方か、また労働者に「安全」と「保障」をもたらす労働市場政策とはどのようなことか、説明できる。５．国民の医療保障の観点から「国民皆保険」の意義と現在の課題について、説明できる。６．「労働力の再生産＝生活過程」における家族責任が、なぜ女性に過重な負担やキャリア形成の問題を背負わせることになるのか、その構造を説明できる。７．男女平等の観点から、ワーク・アンド・ライフ・バランスに関す

	る企業の責任と課題、労働者の意識と行動について、説明できる。８.「個の自律」の観点から社会政策の課題を、説明できる。
■成績評価の基準	①論理的構成になっており、論理的な文章で記述されているか。②テキストの基本的内容を理解しており、それをふまえて記述しているか。（個人的な経験、思い込みの記述は減点）③テキストをふまえ、社会政策的な観点で自分の考えを述べているか。（自らの考えを全面展開することを求めているわけではない。自らの考えを述べた部分が政策論的に展開されているかどうかが重要であり、そのような場合は評価が高くなる）。④各問題の内容に沿った内容であるか（問題と関係ない場合は、内容とは関係なく減点となる）。

授業科目	心理学				単位	4.0
担当者	中妻　拓也			シラバスグループ	TW5413	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
心理学理論と心理的支援（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；2）	社会福祉士養成講座編集委員会 編	中央法規出版	[ISBN]9784805851012

■授業の概要	心理学は、人間と人間の行動に関しての多様な見方を提供してくれます。心理学を学ぶことは、自分や他人、集団や社会についてのより深い理解の手助けとなることでしょう。ただ現代の心理学は、統一された学問というよりはいくつかの分野が方法論を共有しつつ緩やかに結合した状態にあります。　本科目では、テキストを通して様々な分野の研究を概観していきます。そして心理学の各分野が人間と人間の行動に対して、どのようにアプローチしているかを理解してください。これらの学習を通して、現代の心理学が提供する人間観を学びます。
■学習の要点	まず指定テキストを通読して、心理学の全体像を把握するとともに、使用されている用語について慣れて、理解を深めてください。心理学で用いる専門用語の多くは、日常的な用語と同じものですが、その意味する内容は日常の用語とは異なっています。その点に留意したうえでテキスト全体を通読してきます。　さらに各章（特に第1章から第8章）で扱っている内容を日常の現象（自分の経験、日常で見聞きしたこと）を思い浮かべながら、理解していきましょう。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、「学習の要点」に書いてある点に留意し、テキストの内容を理解し、日常で活かせるようにすることです。学習の要点に従ってテキスト学習を進めてください。科目最終試験では、学習の理解度を測り、理解度に応じて成績評価をします。　問題はテキストに即して出題します。テキストの内容を理解しているかどうかを問うので、テキスト学習を踏まえて解答してください。テキストの内容を無視した答案は不合格です。答案を作成する際には、単語の羅列ではなく、日本語として意味のある文章の形で論述することが必要です。第三者が読んで理解できるような、平易で・明快な文章を心がけてください。
■成績評価の基準	成績は、心理学的知見が正確に記述できているか、自分の考えを含めて表現できているか、読み手が理解しやすいように工夫がされているか、を評価の基準とします。また、引用の形式が適切かなど、論述の形式についても、評価の基準とします。

授業科目	社会学				単位	4.0
担当者	趙　没名			シラバスグループ	TW5414	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会理論と社会システム（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；3）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805839300

■授業の概要	他の社会科学、たとえば経済学・法律学・政治学などと異なり、社会学が取り扱う対象である「社会」は、幅広い内容をもっている。ゆえに、はじめて社会学を学ぶ学生にとって、とらえどころのない学問であるかもしれない。　「人は何を信じるのか？」、「家族や学校や会社の役割は？」、「結婚は必要か？」、「専業主婦は職業か？」などといった身近な疑問から、「ひきこもり・フリーター・ニート」、「少子・高齢化」、「貧困」、「地域格差」、「環境」といった社会問題までがその対象となる。しかし、その中で一貫しているのは、多様な関係や制度の中で、人の振舞いや価値観がどのように形成されているか、といった視点である。　成熟した社会は、ありとあらゆるものが多様化し流動化する。それにともなう家族の変化、コミュニティの変化、産業社会の変化は避けることができない。これらに起因する社会問題への対応が、社会福祉の基本ともなる。社会の変化・変動を客観的・社会科学的に把握していく道具のひとつが社会学である。　様々な領域における社会の変化を捉えることによって、（歴史的）時代認識を深め、将来的な社会（人間）の存立の可能性について考えをめぐらしたい。
■学習の要点	序章においては、近代社会の成立と社会学に課せられた課題について整理してください。また、基本的な社会学者とその著者について記憶する必要があります。　第 1 章においては、社会を社会システムとして捉える際に必要とされる社会学の概念をおさえてください。さらに、現代社会において法の果たす役割を理解し、人々および企業の経済行動と社会システムとはどのような関係にあるかを整理してください。そして、社会の変動（社会の変化）の捉え方を理解したうえで、社会変動を起こす大きな要因である人口について整理してください。　第 2 章においては、人々の具体的な生活の場として、地域と家族に焦点を当てて、社会学的に分析する手法を理解し、「生活」を捉えるための概念を整理してください。　第 3 章においては、人々の行為と社会との関係や、日常的な行動パターンの背景にあるものに注目する社会学的視座を整理してください。　第 4 章においては、社会学は、社会病理もしくは社会問題に対して、社会全体への処方箋を提示し、その解決を目指そうとしている特徴を有していることを理解してください。　この履修ガイドに記した参考文献のみならず、個別領域については〈脚注〉に記されている参考文献も読まれることをおすすめします。

■学習の到達目標	社会学の基礎理論を用いて今日の社会現象を解釈し論理的に分析すること。

■成績評価の基準	・社会学の専門用語の定義を正確に理解し適切に使用できる。30%・妥当な量的、質的データを用いながら論述できる。20%・論理的整合性のある文章構造　20%・社会現象と社会学理論の結合　30%

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	社会福祉援助技術論Ⅰ				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5537	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ【基礎編】	相澤 譲治 監　津田 耕一・橋本 有理子 編	みらい	[ISBN]9784860155520

■授業の概要	少子高齢社会の進展、大規模な自然災害、新型コロナウィルス感染拡大など人々を取り巻く環境の変化により人々の生活上の問題も多様化・複雑化している。このような生活問題を抱えている人々の生活を支援していくソーシャルワーカーの役割がますます重要視されている。加えて従来の専門分化した支援から、地域共生社会を目指したジェネラリストの養成が求められている。　本授業では、ソーシャルワークの理論の要点を整理し、実践モデルやアプローチを概観し、支援の展開過程全体の枠組みについて学ぶ。さらに、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの方法とプロセスについて学ぶ。また、支援に不可欠な記録やスーパービジョンの機能や方法について学ぶ。
■学習の要点	1.ソーシャルワークの理論　ソーシャルワークにおける生活理解、生活へのシステム思考と生態学的視座、生活支援のエコシステム視座、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 2.ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの種類と方法　ソーシャルワークの実践モデル、ソーシャルワークにおけるアプローチの種類と方法 3.ソーシャルワークの過程　ソーシャルワーク過程を学ぶ意味、ケース発見、アウトリーチ、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・効果測定・アフターケア、効果測定・評価の方法、シングル・システム・デザインのバリエーション 4.ソーシャルワークの記録　記録の意味と目的、記録の方法と実際、図表を用いた記録 5.ケアマネジメントの理解　ケアマネジメントとは何か、ケアマネジメントの過程と留意点、ケアマネジメントの諸モデル 6.グループワーク（集団援助技術）　グループとは、グループを構成する要素、グループワークの基本原則、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループ 7.コミュニティーワーク　コミュニティワークの意義と目的、「地域」の理解、コミュニティワークの展開過程　8.スーパービジョンとコンサルテーション　スーパービジョンの必要性、スーパービジョンの機能と方法、コンサルテーション
■学習の到達目標	①人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。③ソーシャルワークの過程とそれに掛る知識と技術について説明できる。④コミュニティワークの概念とその展開について説明できる。⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて説明できる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（２）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	現代社会と福祉				単位	4.0
担当者	北垣　智基			シラバスグループ	TW5602	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代社会と福祉	児島亜紀子･伊藤文人･坂本啓毅編著	東山書房	[ISBN]9784827815375

■授業の概要	この科目は、社会福祉の基本的知識を学ぶとともに、社会福祉を捉える視角を身につけるための科目である。　社会福祉は歴史的産物であるため、その時々の社会状況に大きな影響を受ける。しかしながら、法律が改正され、制度が変化するなかでこそ、社会福祉とは何であり、どのような理念のもとに展開されるべきであるのかについての基礎認識が求められる。そのためにも、私たちが生きる社会に社会福祉が存在する理由、その根底に関わる原理や哲学、国内外における社会福祉の歴史的発展過程、今日における社会福祉政策・制度の内容等について理解することに重点を置いて学習を進めてほしい。また、学習にあたってはテキストを熟読するとともに、参考文献にもできる限りあたり、用語・概念の意味を理解し、考え、書き留めるという訓練を怠らないよう、丁寧に学習を進めてほしい。
■学習の要点	１．社会福祉の原理について、関連する国内外の理論・思想をふまえて理解する。２．社会保障・社会福祉の政策・制度に関わる諸概念について理解する。３．社会福祉における「ニーズ」概念について、関連する国内外の議論をふまえて理解する。４．社会福祉の歴史的あゆみについて理解する。特にイギリスの歴史から学び、COS、セツルメント運動、貧困調査活動の意義を理解する。５．戦後(第二次世界大戦以後)の日本における地域社会・国民生活の変化と社会福祉制度・政策の動向との関連性を理解する。６．福祉国家体制の成立と変容のプロセスについて、関連する歴史的動向や理論・思想と結びつけて理解する。７．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置づけを理論的に把握したうえで、ソーシャルワークの在り方を理解する。
■学習の到達目標	１．国内外における社会福祉の原理と歴史を理解し、説明することができる。２．社会福祉政策・制度に関する基礎概念を理解し、説明することができる。３．社会福祉の供給過程におけるソーシャルワークの位置付けとソーシャルワーク実践のあり方を理解し、説明することができる。
■成績評価の基準	学習の要点に示されている内容を理解できているかどうかを確認する。試験問題をよく読み、求められている内容を理解した上で解答を作成すること、また解答は問題に対する的確な答えで作成することを求める。テキストに書かれている基礎的な内容のみならず、参考文献等も参照し、理解を深められていると判断される場合は、記述内容に応じて高く評価する。なお、問題と無関係な答案を作成し、字数を埋めていたとしても評価の対象にはならない。解答の中で自分の考え等を展開することは自由であるが、解答と無関係な事柄（例えば、ご自分の事情や

授業科目	相談援助の基盤と専門職				単位	4.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5604	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助の基盤と専門職（新・社会福祉士養成講座〔第3版〕；6）	社会福祉士養成講座編集委員会編	中央法規出版	[ISBN]9784805851029
相談援助の基盤と専門職：社会福祉援助実践の展開	植田章著	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248788&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	ソーシャルワーカーが専門職として確立され、日本では1987年に国家資格としての社会福祉士や精神保健福祉士が設けられた。少子高齢化や経済・社会環境が急速に変化する中で、介護保険制度に象徴される社会福祉基礎構造改革の登場は、戦後のわが国の社会保障・社会福祉制度の仕組み、理念を大きく変更するものであった。こうした下で人々の直面する生活問題の多様化と複雑化に伴って、地域等のさまざまな分野においてソーシャルワーク実践が求められてきている。この科目では、人々の直面する生活問題、福祉課題を解決・緩和することを目的にして、地域を基盤として展開されるソーシャルワークの理論と実際について学習する。
■学習の要点	1.現代社会と地域生活との関わりにおいて社会福祉士の意義と役割について理解する。 2.ソーシャルワークの形成過程を辿りながら、それぞれの時期に登場したソーシャルワーク理論と多様な実践モデルについて理解する。 3.ソーシャルワークの定義と構成要素について理解する。4.ソーシャルワーク実践を支える基盤としての、価値、権利擁護、自己決定、自立支援ノーマライゼーション、社会的包摂等について理解する。5.地域を基盤としたソーシャルワークの意義と基本的視点及び専門的機能について理解する。 6.ソーシャルワークにかかる専門職の成立条件と専門職の範囲について理解する。
■学習の到達目標	ソーシャルワークの歴史や社会福祉士が成立してきた背景を理解できるようになる。ソーシャルワークの定義からソーシャルワーク実践を支える理念や価値を説明できるようになる。今求められているソーシャルワーク実践について述べられるようになる。

■成績評価の基準	出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその進度により 40 点を上限に配点する。「科目最終試験受験に当たっての留意点」で記載している（1）～（5）も踏まえて評価する。

授業科目	社会福祉援助技術Ⅰ				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5605	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
ソーシャルワークの理論と方法（共通科目）	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規	[ISBN]9784805882429

■授業の概要	世界や日本のソーシャルワーク実践や研究の成果から、ソーシャルワークの多様な方法・技術が理論化し発展してきている。また、利用者・家族の生活問題の多様化と複雑化に伴い、専門職としてのソーシャルワーカーの実践の場も広がり、援助方法も多様化している。　この科目では、ソーシャルワークの様々な理論に学びながら、具体的なソーシャルワークの展開過程とその方法を理解し、今日の国民が抱える生活問題の解決・緩和のために、社会福祉士がソーシャルワーカーとしていかに対応していくのか、学習を深める。
■学習の要点	1.人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク 2.ソーシャルワークの過程 3.ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ 4.ソーシャルワークの面接 5.ソーシャルワークの記録 6.ケアマネジメント 7.グループを活用した支援 8.コミュニティワーク 9.ソーシャルアドミニストレーション 10.ソーシャルアクション 11.スーパービジョンとコンサルテーション
■学習の到達目標	①人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワークの関係について自分の言葉で説明できる。②ソーシャルワークの過程全体とそれぞれの過程における重要な点を説明できる。③ソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて説明できる。④ソーシャルワークの記録について説明でき、適切な記録を意識して作成することができる。⑤ケアマネジメントの目的、過程、特徴について、ソーシャルワークとの比較から説明できる。⑥グループを活用した支援、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションについて自分の言葉で説明できる。⑦スーパービジョンとコンサルテーションについて自分の言葉で説明できる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点)。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（１）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（２）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	社会福祉援助技術Ⅱ				単位	4.0
担当者	三馬　哲彦			シラバスグループ	TW5709	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座６　ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882498

■授業の概要	国際的なソーシャルワーク研究の成果から、ケースマネジメント（ケアマネジメント）・ネットワーキング等の多様な方法・技術が理論化され、わが国においても介護保険制度や障害者自立支援法といった支援の場で活用されてきている。そして、利用者・家族の生活問題の多様化と複雑化に伴い、専門職としてのソーシャルワーカーの実践の方法も多様化している。この科目では、複合化・複雑化した福祉課題及び包括的なソーシャルワークの概念をおさえ、多様なニーズに対応できるソーシャルワークの基盤・理論・方法を学習し理解していく。
■学習の要点	1.総合的・包括的なソーシャルワーカーの支援の実際についての理解を深め、家族支援、地域支援、非常時・災害時支援について理解する。2.ソーシャルワーカーの援助関係の形成について学び、ネットワークを構築していく方法について理解を深める。3.社会資源の活用と調整、開発の方法を理解する。 4.カンファレンス、事例分析、事例検討、事例研究の目的、意義を理解する。 5.ソーシャルワーカーに関連する技法について理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標:「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の趣旨・要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることを基本とし、論述の展開とその深度により配点する。一冊の文献からの引用でなく、数冊の文献を学習したうえで考察を深め自分の考えとしてまとめるようにすること。留意点:（1）テキストや文献からのそのままの引用ではないこと。（2）箇条書ではなく、論理的に記述していること。（3）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	地域福祉論				単位	4.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5607	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
現代地域福祉論	藤松素子編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248860&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	2000 年に「社会福祉事業法」から「社会福祉法」に名称改正され、新しい法体系の下で社会福祉が運営されるようになった。社会福祉領域の地方分権化の動向とも関わって、「地域における社会福祉」の展開に注目が集まっている。しかしながら、既存の社会福祉概念と地域福祉概念の差異は必ずしも明確にされていないのが現状である。また、実践レベルでは新しい動きが数多く見られるようになってきており、この動向をふまえての検討が不可欠になっている。ここでは、これまでの政策動向、歴史的経過、地域社会の変遷をふまえつつ、地域福祉理念や基礎的概念の検討、地域福祉実践のシステム・方法等についての学習を深めることを目的とする。
■学習の要点	１．地域福祉の推進主体について、その取り扱う問題の特長をふまえて理解する。２．社会福祉政策の動向をふまえて、地域福祉問題の具体的内容、その解決方法について理解する。３．地域社会の変化、地域生活問題の現状と社会福祉サービス供給主体の多様化をふまえて、地域福祉の展開の可能性について検討する。４．地域福祉計画の意義と課題について、その目的・方法・過程の現状をふまえて理解する。５．地域福祉の対象と主体の関係性について、日本におけるコミュニティの現状をふまえて、具体的に理解する。６．地域福祉推進における関連諸領域との連携の重要性と、その具体的方法について理解する。とりわけ、医療、保健、教育、労働等の地域住民の生活に密接に関わりのある領域との関係についてより深く理解する。
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	社会福祉行政論				単位	4.0
担当者	日下部　雅喜			シラバスグループ	TW5608	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
福祉行財政と福祉計画　第5版（新・社会福祉士養成講座10）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805854303

■授業の概要	本科目では、社会福祉サービスを支える行財政の仕組みについて、その背景となる地方自治制度の変遷と社会福祉関係法の変化を踏まえながら理解する。福祉行政の実施体制について学ぶとともに、地方自治、公的責任、ソーシャルアクションの役割についても学ぶ。特に社会福祉従事者としてその実践の基盤となる制度・政策・財政についてしっかり考える力を身に着け、行政に無批判に追随するのでなく主権者として行動できる能力を養うことが肝要である。　また、本科目は、社会福祉士受験資格課程に関する省令で定められたシラバス内容に即して学習する。内容は、福祉行政の動向と福祉行政の実施体制（国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、国と地方との関係、福祉の財源、福祉行政の組織及び団体の役割、福祉行政における専門職の役割）であり、社会福祉士国家試験の範囲となっている。　テキストは福祉行財政論と福祉計画論が一体となったものであるが、この科目の該当する箇所を中心に学習していただきたい。　試験は基礎知識を問うレベルである。また、リポートに関しては、基礎知識を踏まえ受講者の問題意識を問うレベルのものであるが、現状を単に説明するだけではなく、ソーシャルワーカーをめざすものとして、対象者の権利保障とそれを実現するための諸課題を分析する考察をしていただきたい。
■学習の要点	1.社会福祉行財政の基本的な法制度・仕組みとその成り立ちと変遷についてまとめる。2.地方分権改革の動向と社会福祉における国と地方公共団体の関係についてまとめる。4.社会福祉基礎構造改革の内容とそれによるサービス利用方式の変化についてまとめる。5.福祉サービスの利用者負担の考え方及び低所得者対策についてまとめる。6.社会福祉行政における相談体制について、専門諸機関、専門職の役割についてまとめる。
■学習の到達目標	福祉行政の実施体制及び福祉行財政の実際について理解し、説明できること。
■成績評価の基準	学習の要点で示した内容について、基礎知識を理解し、出された問題に対して的確かつ論理的な文章になっているかどうかで評価します。

授業科目	社会保障論				単位	4.0
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	TW5712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
新版社会保障論	里見賢治著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248782&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会保障制度はしばしば「自助の補完物」と見なされることが多いが、現代においては遙かにそれを越えるものであり、少なくとも現代社会においては、「自助の前提条件」として国民生活の不可欠な構成要素の一つとなりつつある。　この講義では、この現代的な現象を政策論的な観点から理論的・制度論的に考察し、受講生が、社会保障制度の全体像と各個別制度の基本的な仕組み・今後の課題などを理解・把握し、社会保障に関する理論的・政策的な判断能力を獲得できることを目指す。なお、社会保障制度を構成する社会福祉各制度等については、本学では別に各種の授業科目が用意されているので、この講義で使用するテキストではそれらについては簡潔にふれるにとどめ、それらと重複しない社会保険各制度を中心に詳述しているが、社会保障制度は社会保険に限定されるものではなく、社会福祉各制度等を含む総合的生活保障制度の中核としてあることに、特に注意を喚起しておきたい。
■学習の要点	１．現代の国民生活における社会保障の意義と機能について把握する。２．社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式等を理解する。３．公的年金制度の概要と特徴、その矛盾と問題点を理解し、改革の方向について考える。４．医療保障制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。５．公的介護保険制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。６．社会保障の運営・財政方式について、社会保険方式と公費負担方式<税方式> の異同を整理し、それぞれのメリット・デメリットを考える。７．自助・共助・公助それぞれの意味と含意する内容について理解し、社会保障制度が「自助の補完物」ではなく「自助の前提条件」としてあるべき理由を考える。８．以上を踏まえて、少子・高齢社会と社会保障について考察を深め、なぜ社会保障の抑制ではなく充実が求められるか、考えを深める。
■学習の到達目標	1.現代の国民生活における社会保障の意義と機能を理解できる。2 社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式を理解できる。3.公的年金制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。4.医療保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。5.公的介護保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。6.社会保障の運営・財政運営方式について社会保険方式と公費負担方式の違いと特徴を理解できる。
■成績評価の基準	▼上記の「学習の要点」にあげた各項目について、概ね８割程度理解・把握できていることを学習の到達目標とする。各個別制度の仕組みを的確に理解するように努めること。▼科目最終試験に際しては、過不足なく８割程度の記述ができた場合 100～80 点をつけることと

	し、とりわけ優秀な答案には 90 点以上を与える。なお、重要な論点は踏まえているものの過不足がやや目立つ場合は 79 点～70 点、過不足が目立つが大きな間違いなく問題に答えている場合は 69 点～60 点、とする。▼制度について重大な勘違いをしていたり、問題に適切に答えて

授業科目	老人福祉論				単位	4.0
担当者	坂本　勉			シラバスグループ	TW5613	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版高齢者福祉論	永和良之助編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244713&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	高齢者福祉への社会的ニーズは、少子高齢化により更なる社会的サービスの需要が予測されている。その対応のため、介護保険制度が 2000 年より実施された。その制度の現状を理解し、「介護の社会化」といった理念、および「選別主義」から「普遍主義」を希求した結果の新しい制度であったことも認識していただきたい。また、今後のサービスの拡大と財源問題および自己負担問題、保険料の設定など現状から変更を迫られる時期がくると考えられる。その意味で、今後の制度設計と理念などをどのように融合させていけばよいか学習してほしい。
■学習の要点	(1)深刻化する高齢者介護問題　現代的な課題である、要介護高齢者の社会生活上の課題や、その支援のためのサービスの充実がどのように変遷してきたのかを理解する。(2)私的介護から公的介護への変遷　「介護の社会化」や「選別主義」から「普遍主義」への理念の転換。そして、今後の財源問題や自己負担問題など制度が抱える課題についても学習してください。(3)高齢者ケアサービスの発展　我が国における、高齢者福祉サービスの変遷を理解し、現状のサービス形態やサービス種類、および施設形態などの特徴について学習してください。(4)介護保険制度と財源構成　介護保険制度が市町村における、介護保険事業計画に基づいて実施されていることの理解とともに、各市町村ごとの人口動態の変化、財源構成、利用者負担などの理解(5)認知症高齢者および認知症ケア　認知症に関する、精神医学的な知見と、認知症当事者の内的世界について学習を深めてください。また、認知症ケア実践としてさまざまな取り組みが行われているが、ケア提供者やまわりの人々はどのようなことを意識（注意）して認知症の方々と接していけばよいのか学習してください。(6)地域包括支援センターと、地域包括ケアシステムの理解　日常生活圏域への理解と、日本版コミュニティ・ケアへむけた地域包括支援システムへの現状と課題(7)その他の高齢者福祉関連法について学習してください。　成年後見制度、日常生活自立支援制度、高齢者居住法など、広く学習してください。
■学習の到達目標	（１）試験問題はテキスト及び各省庁の最新動向なども含めた内容に基づき出題する。（２）学習の要点に従い、テキストを熟読し学習を深めることが何よりも必要である。（３）出題の要点を正しく理解し、解答されているかによって採点する。

■成績評価の基準	基本的なキーワード（専門用語）および、国家試験に対応できる基本的理解ができていることを基準とする。

授業科目	障害者福祉論				単位	4.0
担当者	田中　智子			シラバスグループ	TW5615	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新・現代障害者福祉論	鈴木勉･田中智子編著、塩見洋介他著	法律文化社	[ISBN]9784589040336

■授業の概要	障害者の労働と生活の実態とこれを規定する社会的条件（経済メカニズム）を前提とした障害者問題の現れについて理解を深める。その上で、障害者問題の解決の指針を導きだすために、障害者福祉理念や障害概念、障害者福祉施策の変遷や、現在の障害者関連法等の基礎的知識の習得を目的とする。その上で、社会福祉専門職として障害者問題をどのように把握するのか、またその問題に対し社会的支援をどのように介入させるのかということについて、事例等をもとに理論と現実を切り結んで理解する視点を身につける。
■学習の要点	テキスト･参考文献等に学び、次の項目について学習を深めること。（１）障害者問題をどのようにとらえるべきか、その社会の経済メカニズム（生産とそのための労働のあり方）との関連で把握し、現代における障害者･家族の貧困問題を引き起こす社会構造についての理解を深める。（２）障害者福祉の基本的な理念であるノーマライゼーション、現在の国際的到達である障害者の権利条約についてその成立背景と内容を理解する。（３）わが国における障害者福祉の歴史を概観し、特に戦後の各時期の特質について、対象ー福祉政策ー社会運動という側面から理解する。（４）障害とは何か、国際的到達である WHO の「国際生活機能分類」(ICF）との比較において、わが国の障害規定の特徴と問題について理解する。（５）障害者総合福祉法の内容と課題を、障害者本人とその家族、福祉労働者の実際との関連において理解する。（６）社会福祉実践の供給主体像について、公的責任との関連において理解する。
■学習の到達目標	テキストの学習課題に取り組むこと。成績評価の基準は、テキストの理解度に置かれるが、その上で、独自の説得的な意見が記述される場合、高い評価を得ることができる。「答案」は箇条書きではなく論述すること。
■成績評価の基準	問題についての基礎的な理解度が問われるが、独自の見解が説得的に述べられていれば、より高い得点になる。

授業科目	児童福祉論				単位	4.0
担当者	伊部　恭子			シラバスグループ	TW5616	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新･社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉	日本ソーシャルワーク教育学校連盟	中央法規出版	[ISBN]9784805882467

■授業の概要	本科目では、児童福祉(子ども家庭福祉) の諸課題を考えるための視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論及び方策について学ぶことを目的とする。日々の生活のなかで、子どもの成長・発達を支援する児童福祉の意義とは何か、また現代社会における児童福祉の課題とは何かを考える。これまで展開されてきた児童福祉の歴史に学びつつ、少子化の進行、世帯構成や家族機能の変化、地域社会の変容等、子どもの育つ社会環境の変化をおさえ、現代における子どもとその養育者への社会的支援について考察を深めたい。
■学習の要点	テキスト、参考文献、その他の文献・資料等を読み、広い見地から深く学ぶ姿勢を大切にすること。その際、以下の点を踏まえておきたい。1．児童福祉の思想･理念、児童の権利　関連法規の内容を踏まえ、児童福祉の歴史的展開にみる児童観の変遷と、児童の権利擁護に関する基本的視角を得る。2．現代社会における児童福祉ニーズとその背景　児童の育つ生活環境、児童を取り巻く社会状況について理解を深め、児童福祉ニーズを考察する。3．児童福祉の関係法規と実施体制　児童福祉法制度の仕組みと内容、実施体制について理解する。児童福祉サービスの体系と、利用に関する費用、財源、運営主体としての機関・施設、非営利組織、その他関連する社会資源、専門職の役割・機能について学ぶ。また、児童福祉における計画や運営、権利擁護の仕組みと第三者評価・自己評価についても学ぶ。4．児童福祉の施策　母子保健、保育、健全育成、子育て支援、ひとり親家庭・要保護児童・障がいのある児童等を対象とした支援、子ども家庭の貧困への対応、児童虐待防止などの児童福祉施策全般について学び、支援の展開と絡めて課題を考察する。5．児童福祉の支援活動における視点と原理・原則　児童福祉の専門職として、支援の基盤となる価値や倫理、知識、技術・技能について学ぶ。6．児童福祉の担い手と子育ての社会化　児童福祉の専門職による支援にとどまらず、子どもが育つこと・子どもを育てることに関するソーシャル・サポートやネットワークについて考える。ノーマライゼーションやソーシャル・インクルージョン、エンパワーメントなどの視点に学ぶ。子育て支援の意義と課題、社会的養護のあり方、虐待防止のための取組みなど具体的に関心のあるテーマで検討を深める。
■学習の到達目標	児童福祉の諸課題を考えるための基本的な視座を養い、支援の展開に向けての基礎理論、基礎知識と方策を理解することを目指す。児童福祉の歴史的変遷を、社会的背景・社会問題との関連させながら理解を深め、子どもとその家庭の生･生活の困難や生活課題について考察する力を涵養する。現代社会における子どもとその家庭への支援のあり方について検討できるようになる。
■成績評価の基準	出題の主旨を理解し、論述が過不足なく記載されていること、シラバスの学習の要点をおさえていること、引用したり参考とした文献を必ず記載すること。以上をもって評価する(100点)。

授業科目	公的扶助論				単位	4.0
担当者	加美　嘉史			シラバスグループ	TW5617	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
入門貧困論　―ささえあう・たすけあう社会をつくるために―	金子充	明石書店	[ISBN]9784750345475

■授業の概要	１．貧困・低所得・生活困窮の理解２．貧困の概念と定義３．保守化する貧困観４．スティグマ・不自由・不平等５．公的扶助の思想・理念６．貧困対策と福祉国家の統治７．社会保障のなかの公的扶助８．生活保護の目的と原理９．生活保護の内容・方法・水準１０．生活保護行政におけるケアとコントロール１１．公的扶助の周辺１２．市民・民間の支援と当事者参加１３．貧困対策の国際的動向と展望
■学習の要点	１．現代社会における公的扶助制度の理念と意義を理解する。２．「貧困」とは何かについて理解する。３．生活保護制度の仕組みと最近の動向を理解する。４．生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその関連のあり方を理解する。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進展と理解度を試験で測る。・テキストに示された参考文献にもできる限り目を通すよう努めること。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた項目についての学習の進展と理解度を試験で測る。

授業科目	医療福祉論				単位	4.0
担当者	村上　武敏			シラバスグループ	TW5618	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
医療福祉論	村上武敏	明石書店	[ISBN]9784750350950
入門保健医療と福祉	川村匡由編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623095520

■授業の概要	なぜ、保健医療の現場において社会福祉が必要とされてきたのか、それを歴史的かつ社会構造的に理解する。疾病の背景に何があるのか、そして疾病は私たちの生活に何をもたらすのか。こうした疾病と貧困の悪循環の社会構造的な理解を踏まえて、医療福祉の社会的な使命を本質的に理解する必要がある。　そして、1990 年代以降の医療制度改革により、医療ソーシャルワーカーの業務は退院援助に大きく傾斜してきた。退院援助とは何かを社会科学的に明らかにするとともに、現代にける医療福祉の対象論と方法論について模索していきたい。
■学習の要点	・健康の社会的決定要因（SDH）と「疾病と貧困の悪循環」の本質を理解する。・医療保険制度と診療報酬制度の概要について理解する。・医療ソーシャルワークの発生と歴史について理解する。・医療ソーシャルワーカーの業務と保健医療機関における役割について理解する。・医療機関における各専門職の役割とチーム医療のあり方について理解する。・医療福祉の対象と方法について理解する。
■学習の到達目標	・疾病や生活問題を社会的にとらえられる。・医療福祉とは何かを歴史的かつ社会構造的に理解する。・ソーシャルワークの方法について新たな視点を獲得する。・医療保険制度や医療専門職の役割など社会福祉士に必要となる基本的な知識を習得する。
■成績評価の基準	・設問に適切に答えていること・事実に基づき理論的であること・否定にとどまらず建設的であること・自らの考えが述べられていること・参考・引用文献が明示されていること・正しい文章で表記されていること

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅰ				単位	4.0
担当者	池本　薫規			シラバスグループ	TW5620	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉士相談援助演習 第2版	日本社会福祉士養成校協会 監修	中央法規出版	[ISBN]9784805851234

■授業の概要	本科目は、相談援助技術の理論と実践を結びつける重要な科目として位置づけられる。履修にあたっては、とりわけ社会福祉援助技術論、社会福祉士実習（事前・事後学習を含む）と関連づけて学ぶ必要がある。ソーシャルワークの理論や技法が実践現場でどのように展開されているのか、ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる対人援助の基本的な視点や方法・原則とは何かといった相談援助技術の基本について考察し、理解を深める。
■学習の要点	ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる対人援助の基本的な視点や方法・原則について考察し、理解を深める。・ソーシャルワーカー（社会福祉士）に求められる自己覚知・他者理解、価値・倫理の重要性について理解する・コミュニケーションの本質と基本的技法、とくに非言語コミュニケーションについて理解する・相談援助における面接の目的と特性、基盤について理解する・基本的な面接（応答）技法とそれらがクライエントに与える影響について理解する・相談援助における面接の展開過程について理解する・相談援助における記録の意義と重要性について理解する
■学習の到達目標	・ソーシャルワーカー（社会福祉士）の自己覚知・他者理解、価値・倫理の意義や重要性について説明できる・コミュニケーションの本質と基本的技法、とくに非言語コミュニケーションの意味と有用性について説明できる・相談援助における面接の目的と特性、基盤について説明できる・基本的な面接（応答）技法とそれらがクライエントに与える影響について説明できる・相談援助における面接の展開過程について説明できる・相談援助における記録の意義と重要性について説明できる
■成績評価の基準	・出題の要点を正しく理解し、要点に沿って論理的に記述されていること（1200 字程度とする）・「学習の到達目標」の項目の理解度・到達度を評価する・自分の意見・考察内容が記述されていること

授業科目	社会福祉援助技術演習Ⅱ				単位	4.0
担当者	後藤　至功			シラバスグループ	TW5621	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
相談援助の理論と方法Ⅱ第3版（新・社会福祉士養成講座8）	社会福祉士養成講座編集委員会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805851043

■授業の概要	本科目は、これまで学んできた理論と現場実践をつなげていくための準備段階の学習として位置づけられる。実習の事前学習として、また社会福祉専門職として必要な実践力の基礎を身につけることを目的としている。援助技術に関する一般原則や方法論を、社会福祉援助が必要な人々の生活支援において、また地域福祉の基盤整備と開発にかかわって、どのような展開・実践していくのか、事例検討などを通して具体的に学ぶとともに、ソーシャルワークの体系についての理解を深める。また、援助関係において「援助資源」たるソーシャルワーカー自身について、そのあり方、価値観、人間観についての理解を深める。社会福祉援助技術論で学ぶ理論を基盤として学ぶため、本科目のテキストとともに、社会福祉援助技術論のテキストや文献も活用して学ぶことを前提とする。
■学習の要点	１．社会福祉専門職に必要不可欠な対人援助における視点や方法、原則についての理解を深める。２．ソーシャルワーク実践の場面およびその過程を想定し具体的に理解する。３．総合的かつ包括的な援助技術および地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な援助について、事例研究の意味や目的、方法を理解した上で、事例等を活用して理解を深め、ソーシャルワーク実践過程の枠組みや体系、ソーシャルワークワーカーの専門性の評価について理解する。４．ソーシャルワーク実践の定義に基づいてソーシャルワーカーの専門性の評価について理解する。５．対人援助における価値と倫理の重要性について、理解を深める。６．併修のスクーリングにおける少人数でのディスカッションやロールプレイ等を活用した実技指導と連動して学びが深められるよう、基本的技法を理解し、実践できるようにする。
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進める。また、現場実践における具体的な援助視点および方法を理解するとともに、リポートについては、論点が伝わるよう、起承転結や序論、本論、結論などリポートの構成を考え、論理性のあるリポートを作成できる力が備わること。
■成績評価の基準	・テキスト内容の理解ができているか・自分の考えを論理的に展開できているか・誤字・脱字、文意、段落の付け方、私見と引用との区別、引用・参考文献や注の記載などの不備がないか。

授業科目	社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ				単位	4.0
担当者	金田　喜弘			シラバスグループ	TW5623	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会福祉実習：社会福祉現場と共に歩む社会福祉士を目指して	佛教大学社会福祉実習研究会編	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248866&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	この科目のねらいは社会福祉援助技術現場実習に臨むにあたり、その前提として必要とされる援助者としての姿勢、社会福祉援助の専門的知識、援助技術および実習領域の基礎知識を深めることを目的とする。実習とは、人と人とが直接関わる実践の場であることを念頭に置き、それが何を意味するのかを考え臨まなければならない。学習過程において、自らの行う実習の意義を考え、目的を明確にし実習のテーマおよび課題を主体的に設定することが求められる。
■学習の要点	社会福祉の実践はヒューマンサービスであるということを念頭に置き、以下の諸点について考え、自らの実習に対する目的や課題を明確にできるよう学習を進めることを求める。１．現場実習において求められる実習生としての姿勢について理解すること。　２．ソーシャルワーカーの職業倫理について理解すること（社会福祉士の倫理綱領を参照）。　３．現場実習の指定施設についてその概要や根拠となる法律、また最低基準等を理解すると同時に、そこで働く専門職の専門性について理解すること。　４．実習生として現場実習において留意すべき事柄について理解すること。　５．実践の場において関わるさまざまな専門職種について理解し、その連携の意義を考えること。　６．実習における記録の意義について理解すること。
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその達成度に即して成績評価する。なお、答案は論旨を明確に記述すること。
■成績評価の基準	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即したテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測り、その到達度に即して成績評価する。・試験解答については、1600 字～2000 字程度で作成すること。・問いに対して、解答するに必要なキーワードが含まれているかどうかを評価する。・問いを正しく理解し、要点を押さえ、論理的に解答が述べられているかどうかを評価する。

授業科目	精神医学				単位	4.0
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	TW5751	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神疾患とその治療　第 2 版(新･精神保健福祉士養成講座 1)	日本精神保健福祉士養成校協会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805853122

■授業の概要	精神医学とは人間の精神およびその障害を、生物学的・心理学的・社会的にとらえ、治療ならびに研究する学問です。　学習する内容は次のとおりです。　①精神医学・医療の歴史　②脳および神経の基礎知識　③精神障害の概念　④診断法　⑤代表的な精神疾患　⑥治療法　⑦病院精神医療および地域精神医療　福祉関係の業務に従事することを望む人にとって、精神医学を系統的に学ぶことは必要不可欠です。広範な内容が含まれるので、興味と関心を持って意欲的に学習してください。
■学習の要点	まず科目の内容を全体的に学習してください。そのうえで、以下の内容をより詳しく学習してください。　①精神疾患の成因と分類　②精神作用物質使用による精神および行動の障害　③統合失調症　④気分障害　⑤パーソナリティ障害　　⑥精神科医療と法
■学習の到達目標	主な精神疾患の症状および治療を正しく知ることと、精神障害者への適切な支援の方法を理解することが目標です。答案は、論理の筋道をきっちりたてて記してください。
■成績評価の基準	①問題のすべての側面に総合的かつ適切に対応してるか（設問のすべてをカバーしており、内容が設問に関連しており妥当かどうか）②関連する諸問題を理解しているか（諸要素を適切かつ批判的思考に基づいて把握していることが具体的に示されているかどうか）③参考文献を読んだことがわかる形で示しているか（テキスト及び参考文献等の関連図書を十分に読んだことが示されているかどうか）④論理的に構成されているか（論文を通じて思考が論理的かつ整然とした順序で展開されているかどうか）⑤論文として適切な構成、文法を適切にし

授業科目	精神保健学				単位	4.0
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	TW5752	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健の課題と支援　第3版（新・精神保健福祉士養成講座 2）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	[ISBN]9784805855959

■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う人々の精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、学ぶ。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症）の課題、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、⑤学校現場における精神保健の課題、を理解し、現行の対策とその限界について、考える。
■学習の要点	①精神保健の歴史　世界及び日本の精神保健活動の歴史的展開を理解する。②アディクション問題　依存症（アルコール、薬物依存、ギャンブル）とその支援について理解する。③ 家族の精神保健の課題　結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健課題とその支援について理解する。④労働者の精神保健の課題　過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う精神保健課題とその支援について理解する。⑤学校現場における精神保健の課題　学校現場における不登校、いじめ、教師の精神保健課題とその支援について理解する。
■学習の到達目標	①世界及び日本の精神保健活動がどのように展開してきたかについて、説明することができる。②依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）の理解とその支援について、説明することができる。③結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健の課題とその支援について、説明することができる。④過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う、精神保健課題とその支援について、説明することができる。⑤学校現場における不登校、いじめの理解とその支援について、説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば、100～90 点、十分に達成できていれば 89～80 点、ほぼ達成できていれば 79～70 点、もう少し努力が必要な場合は 69～60 点､求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は 59～0 点とする。

授業科目	精神科リハビリテーション学				単位	4.0
担当者	太田　智之			シラバスグループ	TW5655	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	この科目は、精神障害者にとって必要とされる地域生活、自立生活をめざした、リハビリテーションの理念と技術、価値などについて学ぶことを目的としている。 リハビリテーションは元来「人間としての身分、名誉の回復」を意味するものである。時代によって職業的リハビリテーション、医学的リハビリテーション、教育的リハビリテーションと次々にその対象をひろげ、成果を上げていった。社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションとその目的は、ノーマライゼーション理念に通じる実践を必要としてきている。 精神保健福祉士は、その専門性の視点を生活者（人としてあたりまえの生活）、人権擁護、全体性の原理などにおいている。リハビリテーションが、単に社会復帰訓練や生活技能訓練として当事者のみに焦点がおかれることのないよう、社会福祉専門領域の「生活モデル」「当事者全体」の軸の中で講義としていく。加えて医学、心理学、その他の専門性が培ってきた知識と技術についても十分な理解が得られることをつけ加えておく。
■学習の要点	１．障害者リハビリテーションの理念と意義を理解する。２．精神科リハビリテーションの理念と意義を理解する。３．精神科リハビリテーションの対象と精神保健福祉士の役割を確立し、他の専門職等との連携のありかたについて理解する。４．医療機関におけるリハビリテーション（作業療法、レクリエーション、集団精神療法、SST、家族教育プログラム、デイケア・ナイトケア等）について学び、理解する。ロールプレイ等も行なう。５．精神保健福祉士が、その専門性を生かしながら、各リハビリテーションにかかわる意味（事例検討）を演習形式で発表、検討する。６．地域生活支援、生活のしづらさと精神科リハビリテーションの課題について考えていく。
■学習の到達目標	・あくまでもテキストや指定・関連文献を学ぶのであり、それを中心にして学んでほしい。施設での経験や当事者の話だけで報告しないこと。・成績評価はテキストに沿ったまとめが出来ているか、問題の意味が把握できているか、答案としてのまとまりがあるかを考慮する。・作業療法士や臨床心理士とは専門性が異なるので、あくまでも精神保健福祉士の視点から、記述するように心掛けること。
■成績評価の基準	評価としては、設題・問題に関するテキスト内容を理解しているか。また他の参考文献とともに論述考察ができているかによる。

授業科目	精神保健福祉援助技術各論				単位	4.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5656	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	1	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；４）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839461
精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（新・精神保健福祉士養成講座〔第２版〕；５）	日本精神保健福祉士養成校協会	中央法規出版	[ISBN]9784805839478

■授業の概要	かつて精神障害者は医療の対象として対処されてきた。現在障害者総合支援法、精神保健福祉法等を中心に地域で生活するための施策やサービスが、国と地方自治体それぞれの役割に応じて提供されている。　本科目では、本人の主体性を重んじ、人としての尊厳や自尊心を損なうことなく、自立を支援するための具体的な方法を学習するとともに、家族支援についても検討する。　さらに、近年障害者本人もしくは家族による相互支援としての当事者活動も活発になってきており、そうした動向にも関心を寄せ、グループ支援のあり方について、またセルフヘルプ活動によって達成し得るもの、ピアサポートの意義とともに理解を深める。
■学習の要点	１．精神障害者の現状を把握する。２．精神障害者とその家族への個別およびグループを用いた支援方法を理解する。３．場面に応じた援助のあり方および実践プログラムや具体的な事業について理解する。４．ケアマネジメントの実際を知る。５．セルフヘルプグループの意義およびピアサポートについて理解する。６．チームアプローチと連携について理解する。
■学習の到達目標	まず第一に精神障害者の生活上の困難について、病者としてだけではなく生活者として把握したうえで説明することができる。さらに最新の具体的な関連法制度や施策・事業を理解するとともに、援助者側の多様な役割を説明できるようになる。
■成績評価の基準	問題では何が問われているのか、どのような事柄を取り上げ論述していくべきなのかを正確に読み解き、問題に沿って答案を作成してください。　さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価します。　答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、誤字脱字、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となります。

授業科目	社会福祉の原理と政策				単位	4.0
担当者	北垣　智基			シラバスグループ	TW5704	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座４ 社会福祉の原理と政策	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882344

■授業の概要	本科目は社会福祉についての基本的知識を学ぶとともに、社会福祉を捉える視角を身につけるための科目である。　社会福祉は歴史的産物であり、その時々の社会状況に大きな影響を受ける。法律が改正され、制度が変化するなかでこそ、社会福祉とは何であり、どのような理念のもとに展開されるべきであるのかについての基礎認識が問われる。そのため、私たちが生きる社会に社会福祉が存在する理由、その根底に関わる原理や思想、国内外における社会福祉の歴史的発展過程、今日における社会福祉政策の動向や内容等について理解することに重点を置いて学習を進めてほしい。また、学習にあたってはテキストを熟読するとともに、参考文献にも極力あたるようにし、用語や概念の意味を正確に理解し、考え、書き留めるという訓練を怠らないよう、丁寧に学習を進めてほしい。
■学習の要点	１．　社会福祉の原理について、関連する国内外の理論や思想を踏まえて理解する。２．　国内外における社会福祉の歴史的あゆみについて理解する。３．　現代の日本における社会問題と、その構造的背景について理解する。４．　社会福祉政策に関する諸概念について理解する。５．　社会福祉政策におけるニーズ概念について理解する。６．　福祉サービスの利用過程におけるソーシャルワークの機能について理解する。
■学習の到達目標	１．　国内外における社会福祉の原理と歴史を理解し、説明することができる。２．　社会福祉政策に関する基礎概念を理解し、説明することができる。３．　社会福祉政策が対象とする社会問題及びニーズについて理解し、説明することができる。
■成績評価の基準	「学習の要点」に示している内容を理解できているかどうかを確認する。試験課題をよく読み、求められている内容を理解した上で解答を作成すること。また回答は問題に対する的確な答えで作成することを求める。テキストに書かれている基礎的な内容のみならず、参考文献等も参照し、理解を深めることができていると判断できる場合など、記述内容に応じて高く評価する。　なお問題と無関係な答案を作成し、字数を埋めていたとしても評価の対象にはならない。回答の中で自分の考え等を展開することは自由であるが、回答と無関係は事柄(例えば、ご自

授業科目	ソーシャルワーク論				単位	4.0
担当者	眞砂　照美			シラバスグループ	TW5708	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ【基礎編】	相澤 譲治 監　津田 耕一・橋本 有理子 編	みらい	[ISBN]9784860155520

■授業の概要	少子高齢社会の進展、大規模な自然災害、新型コロナウィルス感染拡大など人々を取り巻く環境の変化により人々の生活上の問題も多様化・複雑化している。このような生活問題を抱えている人々の生活を支援していくソーシャルワーカーの役割がますます重要視されている。加えて従来の専門分化した支援から、地域共生社会を目指したジェネラリストの養成が求められている。　本授業では、ソーシャルワークの理論の要点を整理し、実践モデルやアプローチを概観し、支援の展開過程全体の枠組みについて学ぶ。さらに、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワークの方法とプロセスについて学ぶ。また、支援に不可欠な記録やスーパービジョンの機能や方法について学ぶ。
■学習の要点	1.ソーシャルワークの理論　ソーシャルワークにおける生活理解、生活へのシステム思考と生態学的視座、生活支援のエコシステム視座、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク 2.ソーシャルワークの実践モデルとアプローチの種類と方法　ソーシャルワークの実践モデル、ソーシャルワークにおけるアプローチの種類と方法 3.ソーシャルワークの過程　ソーシャルワーク過程を学ぶ意味、ケース発見、アウトリーチ、インテーク、アセスメント、プランニング、支援の実施、モニタリング・効果測定・アフターケア、効果測定・評価の方法、シングル・システム・デザインのバリエーション 4.ソーシャルワークの記録　記録の意味と目的、記録の方法と実際、図表を用いた記録 5.ケアマネジメントの理解　ケアマネジメントとは何か、ケアマネジメントの過程と留意点、ケアマネジメントの諸モデル 6.グループワーク（集団援助技術）　グループとは、グループを構成する要素、グループワークの基本原則、グループワークの展開過程、セルフヘルプグループ 7.コミュニティーワーク　コミュニティワークの意義と目的、「地域」の理解、コミュニティワークの展開過程　8.スーパービジョンとコンサルテーション　スーパービジョンの必要性、スーパービジョンの機能と方法、コンサルテーション
■学習の到達目標	①人と環境との相互作用に関する理論とミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて説明できる。②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて説明できる。③ソーシャルワークの過程とそれに掛る知識と技術について説明できる。④コミュニティワークの概念とその展開について説明できる。⑤ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて説明できる。
■成績評価の基準	成績評価の基準:採点は、加点方式を基本とする。出題の要点を正しく理解し、論理的に解答が述べられていること（60 点）。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。尚、以下の点を加えて評価する（1）テキストの丸写しや箇条書きではないこと。（2）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	ソーシャルワーク論（専門）				単位	4.0
担当者	三馬　哲彦			シラバスグループ	TW5709	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座６　ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882498

■授業の概要	国際的なソーシャルワーク研究の成果から、ケースマネジメント（ケアマネジメント）・ネットワーキング等の多様な方法・技術が理論化され、わが国においても介護保険制度や障害者自立支援法といった支援の場で活用されてきている。そして、利用者・家族の生活問題の多様化と複雑化に伴い、専門職としてのソーシャルワーカーの実践の方法も多様化している。この科目では、複合化・複雑化した福祉課題及び包括的なソーシャルワークの概念をおさえ、多様なニーズに対応できるソーシャルワークの基盤・理論・方法を学習し理解していく。
■学習の要点	１.総合的・包括的なソーシャルワーカーの支援の実際についての理解を深め、家族支援、地域支援、非常時・災害時支援について理解する。２.ソーシャルワーカーの援助関係の形成について学び、ネットワークを構築していく方法について理解を深める。３.社会資源の活用と調整、開発の方法を理解する。４.カンファレンス、事例分析、事例検討、事例研究の目的、意義を理解する。５.ソーシャルワーカーに関連する技法について理解する。
■学習の到達目標	学習の到達目標:「学習の要点」に記した学習目標に即してテキスト学習を進め、その進度と理解度を試験で測る。また、その到達度に即して成績評価を行う。
■成績評価の基準	出題の趣旨・要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていることを基本とし、論述の展開とその深度により配点する。一冊の文献からの引用でなく、数冊の文献を学習したうえで考察を深め自分の考えとしてまとめるようにすること。留意点:（１）テキストや文献からのそのままの引用ではないこと。（２）箇条書ではなく、論理的に記述していること。（３）リポート設題での学びが活かされていること。

授業科目	地域福祉と包括的支援体制				単位	4.0
担当者	藤松　素子			シラバスグループ	TW5710	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　6　地域福祉と包括的支援体制	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882368

■授業の概要	地域社会において人と交流する機会は減少しつづけている。町内会・自治会の加入率は減少し、同じ集合住宅で暮らす者同士であっても挨拶すらしないことも珍しくない。 他方で、少子化、高齢化のますますの進行の中、高齢者・障害者の介護問題に関わる「7040 問題」、「8050 問題」、100 万人にものぼることが推計されている「ひきこもり問題」、地域からの孤立によってひきおこされることの多い、いわゆる「ごみ屋敷問題」等々、専門職のみでは解決の難しいとされる多様な問題を抱えながら生活している地域住民はたくさんいるのが現状である。 こうした地域生活課題の理解、地域福祉の考え方、地域福祉の実践方法、それを支える福祉計画、財政問題等を網羅的に理解するのが本科目である。
■学習の要点	各章・各節に何が書かれているのかをよく読み、理解した上でテキスト全体を通した理解を深める。具体的な地域生活課題との関わりについて、学習者がよく考えることが求められている。①地域生活課題の現状②地域福祉の概念・理論、歴史、対象と主体③地域福祉の実践における他機関との連携④福祉計画の現状⑤具体的な地域福祉実践⑥福祉行財政の現状
■学習の到達目標	①地域福祉の基本的理念、概念、構成要件について的確に指摘できる。②第二次世界大戦後の日本におけるコミュニティの変化と生活の変化について述べることができる。③地域問題や生活問題の変化、地域福祉実践の発展過程との関係性について指摘できる。④地域福祉における主体・対象とは何かについて的確に指摘できる。⑤地方分権の推進と公私の役割の関係について説明できる。⑥地域福祉における関連諸領域との関係について説明できる。⑦①～⑥について、具体的な問題にひきつけて自己の見解を述べることができる。
■成績評価の基準	①学習の要点に示されている基礎的な内容を理解できている。②試験問題をよく読み、そこで要求されている内容を理解した上で、解答を作成できている。③解答は問題に対する的確な答えで作成できている。解答の中で自分の考え等を展開することは自由ですが、解答と無関係な事柄が述べられている場合は減点の対象となります。④情緒的ではなく、論理的に展開できている。

授業科目	社会保障論				単位	4.0
担当者	長友　薫輝			シラバスグループ	TW5712	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版社会保障論	里見賢治著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248782&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	社会保障制度はしばしば「自助の補完物」と見なされることが多いが、現代においては遙かにそれを越えるものであり、少なくとも現代社会においては、「自助の前提条件」として国民生活の不可欠な構成要素の一つとなりつつある。　この講義では、この現代的な現象を政策論的な観点から理論的・制度論的に考察し、受講生が、社会保障制度の全体像と各個別制度の基本的な仕組み・今後の課題などを理解・把握し、社会保障に関する理論的・政策的な判断能力を獲得できることを目指す。なお、社会保障制度を構成する社会福祉各制度等については、本学では別に各種の授業科目が用意されているので、この講義で使用するテキストではそれらについては簡潔にふれるにとどめ、それらと重複しない社会保険各制度を中心に詳述しているが、社会保障制度は社会保険に限定されるものではなく、社会福祉各制度等を含む総合的生活保障制度の中核としてあることに、特に注意を喚起しておきたい。
■学習の要点	１．現代の国民生活における社会保障の意義と機能について把握する。２．社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式等を理解する。３．公的年金制度の概要と特徴、その矛盾と問題点を理解し、改革の方向について考える。４．医療保障制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。５．公的介護保険制度の概要と特徴、その現在の課題を理解し、改革の方向について考える。６．社会保障の運営・財政方式について、社会保険方式と公費負担方式<税方式> の異同を整理し、それぞれのメリット・デメリットを考える。７．自助・共助・公助それぞれの意味と含意する内容について理解し、社会保障制度が「自助の補完物」ではなく「自助の前提条件」としてあるべき理由を考える。８．以上を踏まえて、少子・高齢社会と社会保障について考察を深め、なぜ社会保障の抑制ではなく充実が求められるか、考えを深める。
■学習の到達目標	1.現代の国民生活における社会保障の意義と機能を理解できる。2 社会保障制度の概念と範囲、各制度の運営・財政方式を理解できる。3.公的年金制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。4.医療保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。5.公的介護保険制度の概要と特徴、現行制度の問題点と改革の方向を理解できる。6.社会保障の運営・財政運営方式について社会保険方式と公費負担方式の違いと特徴を理解できる。
■成績評価の基準	▼上記の「学習の要点」にあげた各項目について、概ね８割程度理解・把握できていることを学習の到達目標とする。各個別制度の仕組みを的確に理解するように努めること。▼科目最終試験に際しては、過不足なく８割程度の記述ができた場合 100～80 点をつけることと

	し、とりわけ優秀な答案には 90 点以上を与える。なお、重要な論点は踏まえているものの過不足がやや目立つ場合は 79 点～70 点、過不足が目立つが大きな間違いなく問題に答えている場合は 69 点～60 点、とする。▼制度について重大な勘違いをしていたり、問題に適切に答えて

授業科目	精神医学				単位	4.0
担当者	深谷　弘和			シラバスグループ	TW5751	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神疾患とその治療　第 2 版(新･精神保健福祉士養成講座 1)	日本精神保健福祉士養成校協会　編	中央法規出版	[ISBN]9784805853122

■授業の概要	精神医学とは人間の精神およびその障害を、生物学的・心理学的・社会的にとらえ、治療ならびに研究する学問です。　学習する内容は次のとおりです。　①精神医学・医療の歴史　②脳および神経の基礎知識　③精神障害の概念　④診断法　⑤代表的な精神疾患　⑥治療法　⑦病院精神医療および地域精神医療　福祉関係の業務に従事することを望む人にとって、精神医学を系統的に学ぶことは必要不可欠です。広範な内容が含まれるので、興味と関心を持って意欲的に学習してください。
■学習の要点	まず科目の内容を全体的に学習してください。そのうえで、以下の内容をより詳しく学習してください。　①精神疾患の成因と分類　②精神作用物質使用による精神および行動の障害　③統合失調症　④気分障害　⑤パーソナリティ障害　　⑥精神科医療と法
■学習の到達目標	主な精神疾患の症状および治療を正しく知ることと、精神障害者への適切な支援の方法を理解することが目標です。答案は、論理の筋道をきっちりたてて記してください。
■成績評価の基準	①問題のすべての側面に総合的かつ適切に対応してるか（設問のすべてをカバーしており、内容が設問に関連しており妥当かどうか）②関連する諸問題を理解しているか（諸要素を適切かつ批判的思考に基づいて把握していることが具体的に示されているかどうか）③参考文献を読んだことがわかる形で示しているか（テキスト及び参考文献等の関連図書を十分に読んだことが示されているかどうか）④論理的に構成されているか（論文を通じて思考が論理的かつ整然とした順序で展開されているかどうか）⑤論文として適切な構成、文法を適切にし

授業科目	精神保健の課題と支援				単位	4.0
担当者	朝比奈　寛正			シラバスグループ	TW5752	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健の課題と支援　第3版（新・精神保健福祉士養成講座2）	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	中央法規出版	[ISBN]9784805855959

■授業の概要	世界及び日本の精神保健の歴史を踏まえ、社会発展に伴う人々の精神保健問題の広がりと主要な精神保健課題とその対策・限界について、学ぶ。①精神保健の歴史を理解する。また、②アディクション問題（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル依存症）の課題、③家族の精神保健の課題、④労働者の精神保健の課題、⑤学校現場における精神保健の課題、を理解し、現行の対策とその限界について、考える。
■学習の要点	①精神保健の歴史　世界及び日本の精神保健活動の歴史的展開を理解する。②アディクション問題　依存症（アルコール、薬物依存、ギャンブル）とその支援について理解する。③ 家族の精神保健の課題　結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健課題とその支援について理解する。④労働者の精神保健の課題　過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う精神保健課題とその支援について理解する。⑤学校現場における精神保健の課題　学校現場における不登校、いじめ、教師の精神保健課題とその支援について理解する。
■学習の到達目標	①世界及び日本の精神保健活動がどのように展開してきたかについて、説明することができる。②依存症（アルコール、薬物、ギャンブル）の理解とその支援について、説明することができる。③結婚生活と周産期、子育てに関する精神保健の課題とその支援について、説明することができる。④過労死、ブラック企業等の労働環境の劣化に伴う、精神保健課題とその支援について、説明することができる。⑤学校現場における不登校、いじめの理解とその支援について、説明することができる。
■成績評価の基準	到達目標に示した項目に対する到達度によって評価する。期待値以上に達成できていれば、100～90点、十分に達成できていれば89～80点、ほぼ達成できていれば79～70点、もう少し努力が必要な場合は69～60点､求める最低水準に達せず更なる努力が必要な場合は59～0点とする。

授業科目	精神保健福祉の原理				単位	4.0
担当者	緒方　由紀			シラバスグループ	TW5753	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
精神保健福祉の原理	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882566

■授業の概要	日本の精神保健医療福祉に関わる法制度、特にその根幹である精神保健福祉法の歴史、法理念を学ぶと共に、関連する障害者福祉や社会保障領域の法制度、サービス、専門職の実践について学習する。さらに諸外国における精神保健福祉の現状と歴史的展開をとおして、日本の精神障害者をめぐる政策的かつ実践課題について理解を深める。
■学習の要点	精神病者、精神障害者に対するケアは社会の中でどのような歴史を辿ってきたのか、精神保健医療福祉に関する法制度および関連政策の変遷をおさえながら学習をすすめる。 また、諸外国の政策動向にも注目し、日本の精神障害者をめぐる現状と歴史的に積み残してきた課題(社会的入院、病床数の多さ、在院期間の長期化と高齢化、地域移行の難しさ等々)について考察を行う。
■学習の到達目標	精神障害者に関する法制度や支援の枠組みを体系的に把握することをとおして、精神病者、精神障害者、家族等が時代の中でそれぞれどのような困難を抱えてきたのか、社会問題として理解し説明できるようになる。そうした中で、必要な社会的支援とは何かを検討し、専門職や関係機関の役割について考察できるようになる。
■成績評価の基準	設題に沿って正確にまとめられているかどうかを何よりも重視する。さらに文章としてのまとまり、自身の考察が客観的な根拠とともに示されているかどうか、全体をとおして論理的展開となっているか、これらを踏まえ評価する。 答案作成の上での基本的事項（分量、正しい日本語、正確な用語の理解など）が不足している場合は減点の対象となる。

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法				単位	4.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5754	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座　１２　ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882429

■授業の概要	ソーシャルワークにはケースワーク以外にも様々な方法があり、ソーシャルワーカーはそれらの方法を必要に応じ用いてソーシャルワーク実践を行なっている。その際に重要になるのが面接であり、記録である。そのため、本科目では第１にそれぞれの意義や目的、方法について学習する。　第２として、様々な方法のうち、ケアマネジメント、グループワーク、コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの方法、スーパービジョン、コンサルテーションについて学習する。
■学習の要点	１．ソーシャルワークの面接についてその意義や目的、方法を理解する。【p.186～206】２．ソーシャルワークの記録についてその意義や目的、方法を理解する。【p.210～237】３．ケアマネジメントの原則、意義と方法を理解する。【p.240～253】４．グループワークの意義と目的、その展開過程を理解する。グループワークの中で、セルフヘルプグループについて理解する。【p.256～277】５．コミュニティワークの意義と目的、その展開過程を理解する。【p.280～299】６．ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの方法を理解する。【p.302～337】７．スーパービジョンとコンサルテーションの意義や目的、方法、それぞれの違いを理解する。【p.340～354】※【　】内は、テキストの該当ページ。学習の目安として活用すること。※テキストを読むだけでなく、各節に末尾にある引用文献や参考文献にも目を通し、積極的に原典に当たること。
■学習の到達目標	１．日常会話とソーシャルワークの面接の違いを説明できる。ソーシャルワークの面接の意義、目的、方法を理解し説明できる。２．ソーシャルワークの記録についてその意義や目的、方法を説明できる。記録の種類や描き方について習得できている。３．ケアマネジメントの歴史を踏まえ、原則、意義と方法を説明できる。４．グループワークの意義と目的、その展開過程を説明できる。グループワークと、グループワークの中のセルフヘルプグループについてその違いを説明できる。【p.256～277】５．コミュニティワークの意義と目的、その展開過程を説明できる。【p.280～299】６．ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションの方法をそれぞれ説明できる。７．スーパービジョンとコンサルテーションの意義や目的、方法、それぞれの違いを説明できる。
■成績評価の基準	１．テキストに加えて、テキストの各節の末尾に掲載されている引用文献や参考文献に当たり、検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（30 点）２．記述の論点がはっきりしており、明確であること（30 点）３．テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、ソーシャルワーク実践や学生自身の経験や学びに基づき記述されていること（30 点）４．誤字・脱字がないこと（10 点）※論述問題の出題に対し、合致した解答でない場合は不合格と

	する。

授業科目	ソーシャルワークの理論と方法（専門）				単位	4.0
担当者	西村　伸			シラバスグループ	TW5755	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
最新社会福祉士養成講座６　ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟＝編集	中央法規出版	[ISBN]9784805882498

■授業の概要	現代日本において、多様化・複雑化する生活課題が存在している。その中にあって、ソーシャルワーカーである社会福祉士には、総合的かつ包括的な支援が求められている。その仕事は、ミクロ・メゾ・マクロレベルに渡るソーシャルワークである。本科目では、今ソーシャルワーカーに求められる技法について学習する。　具体的には、ネットワーキングやコーディネーションの技法、社会資源の活用・調整・開発の技法、カンファレンスの技法、事例分析・事例検討・事例研究、その他ソーシャルワーカーに求められる様々な技法について学ぶ。
■学習の要点	１．ネットワーキングやコーディネーションに関する知識・技術を理解する。【p.120～149】２．社会資源の内容を知り、社会資源の活用や調整・開発の方法を理解する。【p.152～188】３．カンファレンスの手法を理解する。【p.190～220】４．事例分析、事例検討、事例研究を理解する。【p.222～250】５．そのほかのソーシャルワークに関連する技法を理解する。【p.252～315】※【　】内は、テキストの該当ページ。学習の目安として活用すること。※テキストを読むだけでなく、各節に末尾にある引用文献や参考文献にも目を通し、積極的に原典に当たること。
■学習の到達目標	１．ネットワーキングとコーディネーションについてそれぞれの方法を理解し説明できる。２．ソーシャルワーカーにとって社会資源の活用・調整・開発が求められるようになった背景（歴史的経緯）を説明できる。また、社会資源の活用・調整・開発について自身の経験や事例を通して、どのように行うのか理解できる。３．カンファレンスの事前準備や留意事項、その方法を理解し説明できる。４．事例分析、事例検討、事例研修について理解する。とりわけ事例検討について、事例検討会を行う目的や意義、事前準備、留意事項を説明できる。５．その他のソーシャルワークに関連する技法を理解する。とりわけ、（１）コンフリクトへの対処、（２）プレゼンテーションについて理解し説明できる。
■成績評価の基準	１．テキストに加えて、テキストの各節の末尾に掲載されている引用文献や参考文献に当たり、検討する等できる限り多様な視点を含んでいること（30 点）２．記述の論点がはっきりしており、明確であること（30 点）３．テキストの言葉をそのまま引用するのではなく、ソーシャルワーク実践や学生自身の経験や学びに基づき記述されていること（30 点）４．誤字・脱字がないこと（10 点）※論述問題の出題に対し、合致した解答でない場合は不合格とする。

授業科目	民俗学				単位	4.0
担当者	八木　透			シラバスグループ	TX0101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･民俗学を学ぶ:現代を知るために	八木透編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248870&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	民俗学は、現代社会の中に横たわる諸問題に目を据え、身近な日常生活を題材として、フィールドワークという手法を最大限に生かしながら、私たちの暮らしの表裏に見え隠れするさまざまな事象の持つ意味を読み解いてゆく、とても魅力溢れる学問である。本テキストは、第 1 章の総論を除いては、現代において民俗学が関わりを持つべきだと思われる諸課題について、あえて恣意的にテーマを設定した。そのほとんどが近年になって民俗学の研究対象とされるようになった、どちらかといえば新しい研究テーマである。また 10 編の論考の間に「コラム」として 9 編の小テーマを挟み込んでいる。コラムの内容も、また現代社会を考える上で示唆的なテーマに厳選したつもりである。そして全体を熟読していただくことにより、現代社会について考えるための、民俗学のあらましを学んでいただけるものと思う。
■学習の要点	リポート設題では、最近の民俗学の研究対象の中から、いくつかの課題を受講生諸君が自由に選択できるようにしている。また、民俗学の学史的動向に関する設題では、民俗学そのものが歩んできた道程についての学習を第一義とする。学問は時代の流れとともに常に進化するものであり、それは民俗学とて例外ではない。柳田國男をはじめとする多くの研究者によって提示された研究方法とその成否をめぐる議論、そして新たに着目された研究分野など、民俗学の研究動向について学び、生活文化への研究視角の変遷についての知識を深めてもらうことを希望したい。　･柳田國男存命中の「調査」と「研究」の乖離の実態についてまとめること。　･柳田國男の差別問題や被差別民へのまなざしの特徴と問題点についてまとめること。　･現在において無宗教葬や家族葬が増えてきた背景についてまとめること。　･民俗社会において「いのち」はどのように保護されてきたかについてまとめること。　･従来の民俗学で考えられていた「家」が次第に変質しつつある理由についてまとめること。　･生業研究における環境民俗学の可能性についてまとめること。
■学習の到達目標	文章は箇条書きによる記述は避け、あくまでも論述形式でまとめること。また漢字表記には正確さを求める。論点がうまく整理されているかどうか、また要点が正確に盛り込まれているかどうかが評価の基準となる。
■成績評価の基準	問題に対する適切な解答が論述されているかどうか。さらに具体的な事例に基づいて論述されているかどうか。

授業科目	考古学				単位	4.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX0102	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
よくわかる考古学	松藤和人・門田誠一編	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623055630

■授業の概要	考古学の目的や資料と方法を把握し、その後、時代や事象に対する考古学的な知見によって歴史を構築し、叙述していく方法を修得していくことを目的としています。これによって大学における考古学の学修をめざしています
■学習の要点	考古学は人間が地中に残した物資資料や大地に刻んだ生活の痕跡によって歴史を叙述するために、国や地域を越えた広がりをもつ研究分野となってきています。不明な専門用語や未知の地名などがあった場合は、各種の歴史事典、考古学事典および日本地図や世界地図でこまめに調べてみることを勧めます。
■学習の到達目標	考古学資料は地域や時代についての具体的な情報から歴史叙述を構築することが特色です。そのため遺跡・遺構・遺物などを根拠として、論理的な記述ができるようになることが目的です。
■成績評価の基準	考古資料は、地域や時代についての明瞭な記述がないと歴史資料とはなりません。最近、いつ・どこで・なにが・どうして・どのような意味があるのか、という基本的事項が欠けている解答が多く、これは歴史叙述としては基本的要件を満たしていません。基本事項の理解と記述に努めてください。

授業科目	地理学				単位	4.0
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	TX5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
文化地理学ガイダンス［改訂版］あたりまえを読み解く三段活用	中川正・森正人・神田孝治 著	ナカニシヤ出版	[ISBN]9784779516146

■授業の概要	地理学は地表面で生じる様々な現象（出来事）と地域との関係を理解しようとする学問です。現象には必ず位置（場所）が存在し、かつ、単独ではなく複数の現象との関係のもと地域に分布（地理的分布）しています。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々ですが、2 つとして同じ場所はなく、現象には必ず地域差（地域的差異）が現れます。そこで、この授業では位置や分布をキーワードとして地理学の基本を学びます。
■学習の要点	①　地理学における基本的用語（概念）の意味を理解する。②　基本的用語（概念）を通して地域について理解する。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて理解する。
■学習の到達目標	①　地理学における基本的用語（概念）を正しく説明できる。②　基本的用語（概念）を用いて地域について説明できる。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　記述が論理的に構成されていること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は不合格とする）。⑤　テキストの丸写し、テキストの再構成のみの論述は不合格とする。

授業科目	歴史地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX0104	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
歴史地理学	桑原公徳他編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248838&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	私たちの身の回りで起きている出来事・現象には、必ず時間と位置あるいは場所がある。また、それらは、単独ではなく、必ず他の出来事や現象と関わりながら起きている。このことは過去に起きた出来事・現象も同じである。歴史地理学は、過去に起きた出来事・現象をその場所において他の出来事や現象と関係づけて、場所のもつ意味や特性、場所（地域）の仕組みを考える学問分野である。この授業では、京都を中心にいくつかの出来事（現象）を取り上げ、複数の出来事（現象）を関係づけて空間的な視点からそれらの意味を考えていくことに重点を置き、講義していく。
■学習の要点	1．景観復原の直接的方法と間接的方法について、その方法の特色と使用する諸資（史）料、２つの方法の用い方や関連性を、具体例を通じて理解する。2．弥生時代～古墳時代の集落遺跡の立地環境を調べ、その変化と社会経済的背景を考える。3．わが国の古代都城（宮都）のプランについて、その計画性や特色を、図を用いて整理し、理解する。4．中世における集落形態の変化を整理し、城館集落の分布・形態・機能を具体例を用いてまとめる。5．近世城下町について都市の内部構造上の特色をまとめ、城下町における商工業機能の配置や地域的役割を整理するとともに、他の近世都市との機能的共通点や相違点を考える。6．近代以降における私鉄路線網の形成過程を図にして整理し、私鉄路線の伸長にともなってどのような地域開発が進んだかをまとめ、地域開発に対する私鉄の役割を理解する。
■学習の到達目標	①出来事・現象を含む、歴史地理学的な基本用語を正しく使うことができる。②複数の出来事（現象）間にある関係を見出し、その関係を説明できる。③ある出来事（現象）を他の出来事（現象）と関係づけながら説明できる。
■成績評価の基準	【リポート添削・評価の基準および留意点】①リポート課題の主旨を正確に理解し、それに適った内容になっていること。②リポートの文章構成が論理的に組み立てられているか。③自ら作成したオリジナルのリポートであること。これに該当しないと判断した場合は添削対象外とする。【リポート作成上の留意点】①リポートの形式（「はじめに」から開始し、本論に章番号・タイトルをつけて論理構成を示し、最後に「おわりに」で全体をまとめること）にしたがって記述すること。②参照した文献・資料を必ず記載すること。また、文献の参照部

授業科目	芸術文化				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TX5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
南北朝時代―五胡十六国から隋の統一まで（中公新書2667）	会田大輔	中央公論新社	[ISBN]9784121026675

■授業の概要	日本の仏教美術の源流である中国の仏教美術の歴史について、とくに日本の飛鳥・奈良美術との関係が深い魏晋南北朝時代に焦点をあてて学びます。具体的には、つぎのような項目について学びます。すなわち、インド発祥の仏教が中国に伝わり、どのような形で受容され、信仰されていったのか。中国在来の思想宗教との関わりの中で、どのようにして「中国の」仏教美術が形づくられていったのか。皇帝などの世俗権力は、仏教に対してどのようなリアクションをとったのか。地域や時代によって、どのような特徴や変化が見られるのか。広大で地理的多様性に富んだ空間を舞台として、漢民族と異民族とが入り乱れて形作ってきた複雑な歴史のうねりのなかで生み出されてきた中国仏教美術について考察してゆきます。
■学習の要点	魏晋南北朝時代の仏教美術を理解するには、背景となる歴史や地理的な知識を欠かすことができません。中国は歴史上、異民族が国を建てるということが頻繁に起きており、中国仏教美術が大きく発展した魏晋南北朝時代もまた、中国北方において五胡十六国と呼ばれる異民族支配による国が相次いで分立割拠し、南朝の諸王朝と対峙した時代でありました。この動乱期は、一方で仏教が篤く信奉され、壮麗な仏教美術が生み出された時代でもありました。美術作品は単独で存在しているものではなく、その背後には必ずやそれを生み出した人、時代、場所があることを忘れてはなりません。とりわけ魏晋南北朝時代の仏教美術は、地理的な観点や歴史的背景を抜きにしては理解しがたいことから、これらの要点に注意を払いつつ、中国仏教美術のダイナミズムを味わっていただきたいと思います。
■学習の到達目標	次の３点を、本科目における学習の到達目標とする。１）学習の要点を正しく理解し、論理的に記述することができる。２）中国の歴史や地理を理解したうえで、仏教美術の作例を説明することができる。３）中国仏教美術の論点について理解し、根拠を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標３点に加え、答案作成に関わる次の３点を加味して、総合的に評価する。４）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。５）キーワードや要点を押さえた論述ができる。６）事実を正しく把握し、文章化できる。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	日本の歴史				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	日本文化史				単位	4.0
担当者	駒井　匠			シラバスグループ	TX0111	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本文化史　第 2 版	家永三郎	岩波書店	[ISBN]9784004201878

■授業の概要	近年の日本史研究の分野では、日本の文化の独自性・特殊性を強調するのではなく、諸外国からの影響も適切に把握し、その中で日本文化の特質を明らかにすべきことが求められている。また文化は社会の産物であるから、各時代の特質との関係にも留意する必要がある。本科目では、日本文化史に関する古典的な著作を読むことから、日本文化史のおおまかな流れを把握し、その特質を考える手がかりを得たい。特に諸外国との交流や社会の変容と文化史との関係を重点的に読みとるように努めてほしい。
■学習の要点	以下の諸点に留意しながらテキストを読むこと。①文化といっても、政治や社会経済と全く無関係であるということはあり得ない。政治や経済を扱ういわゆる「一般史」との関わりを視野に入れて、日本文化史の流れを把握する。②貴族や武士だけが文化の担い手であるわけではない。文化の担い手を広く捉え、その変化を把握する。③日本の文化の歴史と諸外国との関係をどのように描き出しているか。このあたりは近年の日本史研究でも強く求められるところである。本書は新しい研究ではないが、叙述の特徴をしっかりと把握すること。④原書は必ずしも最近のものとは言えないので、参考文献を含め、近年の研究も積極的に参照し、理解を深めること。
■学習の到達目標	・文化史の流れを把握し、日本文化の特質を理解するための視角を身に付ける。・文化の展開それ自体を孤立したものとしてではなく、政治史・経済史・対外交流等との連関から捉える視角を身に付けることを大きな目標とする。
■成績評価の基準	上記の到達目標に合致した内容を含んでいるかどうかを重視する。その他、リポートとしての体裁を備えているかも評価の基準とする。・論理的な記述であること。・常体（～だ、～である）で書くこと。・自分の考えと他者の考えをきちんと区別して書いていること。・他者の意見の引用が適切にできていること。

授業科目	東北アジア史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ0110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東アジア国際政治史	川島真　編	名古屋大学出版会	[ISBN]9784815805616

■授業の概要	東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解することを目的とする。これまで、日本史、朝鮮史、中国史は、それぞれ別々に「一国史」の枠組みの中で理解されてきた。しかし実際には、三つの国家の歴史がばらばらに存在してきたわけではなく、古代以来それぞれの地域の歴史が有機的なつながりをもちながら展開してきた。また現在もそのような緊密な関係が続いており、「東アジア共同体」「東北アジア共同の家」構想に象徴されるように、今後もこの地域はいっそう強く結びついていくことが予想される。東北アジア史を学ぶことは、この三つの地域をより深いところで理解することでもある。　この科目では、東北アジアの近現代の歴史を学習する。東北アジアの諸地域が近代という時代をどのようにむかえ現代まで進んできたのかを歴史として理解することが必要である。とりわけ日本が朝鮮半島や中国の人々に対して植民地支配と侵略を行った歴史事実を直視することが重要だろう。そのことが、朝鮮半島や中国の人々とこれまで以上に友好関係を築いていくことにつながるからである。　東北アジア史を学ぶことによって、朝鮮半島や中国大陸に暮らす人々とともに生きていくための知識や知恵が得られることを願う。
■学習の要点	東北アジアの近現代史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「東北アジア史」の学習は成功である。特に、以下の点に留意しながら学習を進めてもらいたい。１．開港と近代化…資本主義化を進めた欧米列強のアジアへの圧力に対して、日本・朝鮮・中国の３国はどのように対応したのか。その中で日本はなぜ東北アジアに勢力を膨張させようとしたのか。それは東北アジアにどのような葛藤を引き起こしたのか。また、三つの地域で起った近代化への動きはどのように展開されたのか。２．日本の膨張と朝鮮・中国の抵抗…日清戦争、日露戦争の結果、日本は台湾、朝鮮を植民地支配したが、それはどのようなものだったのか。第一次世界大戦前後における中国問題をめぐる日本と国際社会の動向はどのようなものだったのか。日本の植民地支配、侵略に対して、朝鮮人や中国人はどのように対応したのか。また、そうした中でも進行していった産業化や民衆の生活はどのようなものだったのか。３．侵略戦争と民衆の被害…日本が、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争と１５年にわたって行った侵略戦争はどのようなものだったのか。日本の軍国主義はどこから生まれたのか。日本国民は侵略戦争の体制に動員されたのか。それに対する朝鮮人や中国人はどのように抵抗したのか。被害はどのようなものだったのか。また、戦時体制化における民衆の生活はどのようなものだったのか。人類史的な視点から考える必要がある。４．第二次大戦後の東アジア…東北アジアの三つの地域は、１９４５年８月１５日から始まる「戦後」をどのように迎え、どのような国をつくったのだろうか。日本の「過去の清算」はどうなったのだろうか。また、三つの地域は、どのような関係を結んでいったのだろうか。

■学習の到達目標	・東北アジア（日本・朝鮮・中国）の歴史を理解すること・文献や資料を適切に調査し、その内容を理解して、文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	芸術文化研究法				単位	4.0
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	TX5118	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
初版　古寺巡礼（ちくま学芸文庫）	和辻哲郎著	筑摩書房	[ISBN]9784480094544

■授業の概要	仏像の「芸術」としての在りようを捉え、その表現や印象を言葉で説明するための観点・方法を学ぶ。古典的名著、和辻哲郎の『古寺巡礼』を読み、仏像を芸術文化の所産として観た和辻の視点、叙述、語彙を手掛かりに、芸術研究（芸術文化研究）のスキル習得を目指す。
■学習の要点	「芸術」に関する研究では作品の鑑賞／観察が糸口となり、それに基づく内容が研究の動機や材料ともなる。加えて作品の表現や印象を、自身の記録、あるいは他者への伝達のために、視覚で捉えた内容を言葉に置きかえる必要がある。その際、前提として次の点をおさえておきたい。　「芸術」は感性に訴える事象である。したがって、芸術性に結びつく事柄――美しさ、巧さ、雰囲気など（作風を示す要素）には少なからず主観が関与する。この点、他の研究分野と異なる特殊な事情がある（なお面数・臂数・印相など形式にあたる要素は客観的に把握される）。　また信仰対象としての意義とは別に、「芸術」として、ときに批評的な言及を伴う。それらを研究に反映させるためには、深い鑑賞、丁寧な観察に基づく的確な言葉が求められ、これを重ねることで、説得性や共通理解につながる。
■学習の到達目標	・芸術研究（芸術文化研究）の視点から仏像を捉えることができるようになる・仏像の表現や印象を自らの言葉で説明できるようになる
■成績評価の基準	・用語や基礎情報が正確に扱われていること・作品の特徴を的確に捉えそれに相応しい言葉で記述されていること・要点を押えたうえで目から鱗が落ちるような叙述に期待

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋の歴史				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	神話・伝承学概論				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	哲学概論				単位	4.0
担当者	西本　明央			シラバスグループ	TB6519	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
流れとよどみ-哲学断章	大森 荘蔵　著	産業図書	[ISBN]9784782800157

■授業の概要	大森荘蔵は近代日本でもっとも明晰に、独創的な思索を表現した。『流れとよどみ』はその哲学への案内であり、議論は独自でありながら、古典的な骨格を備えている。この著作は二十一篇の断章から成るが、ここでは「心身問題、その一答案」「音がする」「心の中」「過去は消えず、去りゆくのみ」、「記憶について」「幻滅論法」の、六篇を取り上げる。大森は哲学者になる前、素粒子論の物理学者であり、その議論には、科学者としての基礎訓練がうかがえる。たとえば、議論は科学から話題をとることが多く、古典的な哲学の議論はここで、現代的、かつ具体的な表現を得ることになる。また大森は、主観と客観、言い換えれば、私と世界という日常の区別を前提しない。このことは、現代の物理学が、日常的な主観と客観の区別に依らないことと呼応している。この私と世界の新たな関係の探求が、大森哲学の一つの主題である。『流れとよどみ』を読むとき、このことを絶えず念頭にしておくことが大切である。
■学習の要点	『流れとよどみ』全体をまず、通読すること。ここで選ばれた六篇は、日常的な話題、平易な文章でありながら、みな、現代哲学の主要な主題と関係する。現代の哲学について、おおよその内容を知っていることが、大森の理解を助ける。大森に影響を与えた哲学者は、まず、ベルクソンであり、このことは心身問題や過去論に顕著である。ベルクソンについて、その議論を把握しておくことは、現代哲学の一つの傾向を知る手引きとなり、大森の理解を助ける。ベルクソンについては多くの翻訳や概説書があるので、いくつかに目を通してみること。そして、現代科学の概説書なども役に立つので、手にしてみること。大森哲学はその議論の新しさにもかかわらず、伝統的な哲学にしっかりと根ざしていて、その意味で、哲学史の教科書として大変すぐれている。ベルクソンだけでなく、カントやヒューム、そしてアリストテレスなど、西洋を代表する哲学の議論を、大森の表現を通して、身近に感じることができる。西洋哲学史にも視野を広げながら、『流れとよどみ』の世界を探索していただきたい。
■学習の到達目標	大森荘蔵の議論を通じて、哲学一般の議論の仕方、その歴史を把握することが目標である。大森の古典的な骨格は、長い西洋哲学史の一面を簡潔に要約しているともいえ、大森によってたとえば、近代哲学の雄、カントの問題をつかむこともできる。哲学がこれほど具体的に表現されることはまれである。抽象的な議論によって哲学は、いつも日常の経験を語っていたことを、ここで納得することを目標としたい。
■成績評価の基準	テキストをどれだけ正確に理解しているかが、成績評価の基準となる。テキスト内容をできるだけ詳しく答案に反映させることがまず、求められる。哲学では言葉を大切にするので答案でも語の意味や使い方に対して丁寧であることが評価される。

授業科目	倫理学概論				単位	4.0
担当者	市川　定敬			シラバスグループ	TB6520	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
倫理学概論	小笠原秀実	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248971&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	倫理という言葉の語源は ethos（エートス）です。それは、例えば小鳥が夕刻に巣に帰るような在り方という意味も持っています。倫理学は、人間だれもが、安息できる巣において生活できることを、ついには示すのです。さまざまな文化・文明の中で培われてきた考え方が、倫理学説として形成されています。　ここではおもに、西洋で培われた倫理学説を学びます。キリスト教との関わりも注意しながら、テキストを読み進めてください。そして、倫理学でも厳しい論理性を持つ議論を忍耐強く追ってください。
■学習の要点	テキストを始めから終りまでよく読むこと。　テキストの中に参考文献が紹介されていますので、それを購入して自らが考えながら読むことをくり返してください。　くり返しと同時に設題へのアプローチの仕方が自然に生じてきます。このレベルにおいて、リポートへと向ってください。　また、テキストを読むのは、最低限のことであり、プラトン『ソクラテスの弁明』、アウグスティヌス『告白』、カント『実践理性批判』、D.ヒューム『人性論』（いずれも、岩波文庫）の内の１冊は、必ず読むこと。　以下に留意しながら学習せよ。１．ソクラテスにおける「汝自身を知れ」とはどういうことか。　２．アウグスティヌスの「告白」の主題は何か。　３．英国経験論のとらえる倫理の特徴はいかなるものか。　４．カントの「定言命令(命法)」とは何か。　５．良心の罪という観点から、道徳と宗教について　6. エピクロスの倫理学と快楽の関係
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。テキストは広範な主題をカバーしているが、そこを貫くキリスト教、そして我という問題を明確に把握すること。
■成績評価の基準	テキストの議論を、テキストのままの文章でなく、自分なりの言葉で表現し、要約できること。

授業科目	インド哲学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島　鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	前半は「ヴェーダの宗教と思想」として、仏教が誕生するまでの古代インド思想について、バラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を読解します。1 ヴェーダ文献 2『リグ・ヴェーダ』の神々3『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 4『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 5 ブラーフマナの祭儀と神話 6 ウパニシャッドの哲学思想　　a. シャーンディリヤ; b. 五火・二道説; c. ウッダーラカ; d. ヤージュニャヴァルキヤ後半は「六派哲学」と呼ばれるインド正統派の６つの哲学が成立したマウリヤ王朝からグプタ王朝に至る時代背景と思想史を概観します。1 サーンキヤ学派(精神と物質の二元論)2 ヨーガ学派(実践論)3 ニヤーヤ学派(論理学)4 ヴァイシェーシカ学派(カテゴリー論)5 ミーマーンサー学派(聖典解釈学)6 ヴェーダーンタ学派(不二一元論)
■学習の要点	以下のキーワードを理解し、レポートを作成して下さい。「ヴェーダの宗教と思想」1 四ヴェーダ, 四祭官, ヴェーダの四部門, ヴェーダの補助学; 2『リグ・ヴェーダ』, 自然神, 特定の神々, 宇宙創造に関わる神々; 3 哲学的讃歌, 謎の歌, 原人の歌, 宇宙開闢の歌;4『アタルヴァ・ヴェーダ』, 呪法讃歌, 人体の構造を讃うる歌, 支柱の歌; 5 ブラーフマナ, 創造神話, 念想と同置, 祭式の内面化; 6 ウパニシャッド, 輪廻と解脱, 梵我一如, 五火・二道説,「汝はそれなり」,「あらず・あらずのアートマン」「六派哲学」1 サーンキヤ, 二元論, 25 原理, 純粋精神; 2 八支ヨーガ, 総持, 禅定, 三昧; 3 ニヤーヤ, 論理学, 認識手段, 認識対象; 4 ヴァイシェーシカ, カテゴリー論, 原子論, 実体と性質; 5 ミーマーンサー, 新得力,文法学, スポータ説; 6 ヴェーダーンタ,不二一元論, シャンカラ
■学習の到達目標	学習の要点に示される用語の理解によって、1 バラモン教典の内容を簡潔に説明し、原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握出来ることを目指します。 2 主要なインド思想について、それぞれの内容を簡潔に説明し、中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握出来ることを目指します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断します。

授業科目	東洋文化史				単位	4.0
担当者	西川　利文			シラバスグループ	TQ0508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋文化史	山口修	佛教大学通信教育部	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008244714&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	本科目で扱う「東洋」の範囲は、地域的にきわめて広く、また時代的にも長い時間にわたっている（テキストの１「東洋と東洋文化」を参照)。従って、その内容をすべて理解するには、かなりの困難が予想される。ただし各章が、地域別・時代別に配列されているので、例えば地域に注目して、該当する章を系統的にたどれば、その地域の文化的変遷が理解できるようになっている。学習の要点・リポート設題も、その点に留意して設定されているので、これらの点に留意しながら学習すれば、テキストのかなりの部分が理解できる。　なお学習の際には、各文化の歴史的背景に注意すること。いずれの文化も、歴史の流れの中で形成されるものだからである。ある文化が、どの地域でいつ頃、どのような歴史的背景によって誕生したのかを理解すること。そうすれば、東洋という空間の地域的広がりや多様性、それに伴う文化的特色の多様性が見えてくる。
■学習の要点	リポート設題については別に設定されているので、ここではそれを除く地域や時代の文化について、学習課題を設定しておく（括弧内の数字は、関連するテキストの各章を示す)。第１に、オリエント文化について、その形成からヘレニズム文化への展開までを理解する（２)。第２に、仏教文化の発展するマウリヤ朝とクシャーナ朝の文化を比較検討する（10・11)。第３に、仏教文化の繁栄によって新たな中国文化の展開が見られる六朝文化について、多角的に検討する（12)。第４に、イスラム教の形成と発展およびそれに伴う文化的展開を理解する（18)。第５に、独特の仏教文化が開花するチベットの文化について、その形成・発展を整理する（23 下)。第６に、ムガル帝国の盛衰とその文化的特色を理解する（25)。
■学習の到達目標	学習の到達目標として、①「東洋」の枠組みを的確に理解し説明できる、②東アジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、③東アジア以外のアジア諸地域の文化的特色を歴史的背景を踏まえて的確に説明できる、を掲げておく。
■成績評価の基準	各問題をどの程度理解しているかによって評価する(100 点満点)。問題について、到達目標に基づいてその基本事項が答えられていることを合格の最低ライン(60 点)とし、基本事項の理解度に応じて 60～69 点とし、不十分ながら問題の本質について言及できていれば 70～79 点、十分に本質をとらえられていれば 80～89 点、独自の視点が提示できていれば 90～100 点として評価する。

授業科目	日本思想史				単位	4.0
担当者	寺嶋　一根			シラバスグループ	TQ0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
概説日本思想史	佐藤弘夫　編集委員代表	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623043033

■授業の概要	本科目においては、日本の古代から現代にいたる日本思想の歴史を学ぶ。日本の思想の特徴としては、伝統的な思想を保持しようとする傾向、海外思想を取り入れることによりその後進性を克服しようとする努力、新旧両思想の反発と融合による二重構造の形成といったことが指摘できる。日本の思想や文化、その歴史や伝統を学ぶことは、民族の歴史や伝統を再検討・再認識することでもあり、また、思想や文化の新しい進路を探ることにつながる。
■学習の要点	テキストは古代から現代までの通史である。第１章 「日本の誕生」～第２５章「国民と市民の相克」からなるが、最初に目次を参考に、各章の特色を把握すること。試験問題は、各時代において基礎的に重要と思われる事項や思想について出題している。テキストは通史また概説書として編纂されたものであるので、参考文献を手がかりに、より一層の考察を深めてほしい。　１．奈良時代の仏教と寺院　２．摂関政治と国風文化　３．平安時代の仮名文学と物語文学　４．中世の文芸と芸能の思想　５．近世の町人の思想・農民の思想　６．大正デモクラシーの思想
■学習の到達目標	・「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。・問題はテキストに即して出題する。出題意図、問題内容、何を書くか、結論はどうするか、じっくり考えて解答すること。・誤字脱字、文体の不統一、不自然な表現や意味不明な表現がはなはだしい場合は不合格とする。・採点は加点方式を基本とする。問いに対して解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・出題の要点を正しく理解していて、表現が的確であり、主張の要旨が明快であれば高く評価する。
■成績評価の基準	出題の要点が正しく理解できていること。表現が的確であること。主張の要旨が明確であること、等を評価の基準とする。

授業科目	宗教文化				単位	4.0
担当者	熊谷　貴史・斎藤　英喜			シラバスグループ	TX0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
木：民衆生活の日本史	林屋辰三郎編	思文閣出版	[ISBN]9784784208401
日本文化の歴史	尾藤正英著	岩波新書	[ISBN]9784004306689

■授業の概要	まずテキスト『日本文化の歴史』によって、日本文化の歴史を、仏教の受容とその影響に主眼をおいて概観する。さらにテキスト『木：民衆生活の日本史』では、外来の宗教である仏教と日本古来の霊木信仰が有機的に結びついた尊像に注目する。通じて、宗教文化を捉える素地と視点を養う。
■学習の要点	インドにはじまる仏教は、地域や時代を経て、ダイナミックに展開しながら日本へと東漸した。日本の文化史を概観すると、大陸からの先進的な諸文化の受容と、それらを日本的に応用・変容していく流れがある。とくに古代～中世にかけては、漸次もたらされた仏教にかかるウエイトが大きい。ただし仏教にも様々な哲学や思想があり、その違いにより、文化としての表出の仕方も異なる。仏教思想の根幹と多様性をおさえ、それらが日本でどのように受け入れられ、また影響を及ぼしたのか、テキスト『日本文化の歴史』では、その概括的な把握を目指す。テキスト『木：民衆生活の日本史』は、焦点をしぼったテーマ学習である。仏教東漸にともなう仏教美術は、アジア諸地域の民族思想と習合することにより、各地に確かな根を張った。インドの「蓮華の思想」、中国の「氣の思想」、そして日本の「霊木信仰」はその代表例である。宗教文化としての多層的な実態を理解するためには、これら民族思想との習合現象を看過することはできない。また仏像の制作をめぐって、経軌や図像などの規範に基づく「図像仏」と、主として僧侶の祈りの中で生じた「感得仏」という、二つのあり方を理解することも重要である。
■学習の到達目標	日本文化の流れのなかで、仏教がどのように受容され、影響をおよぼしたのか、その要点を説明できるようになる。外来の宗教である仏教と、日本古来の霊木信仰が有機的に結びついた霊木化現仏について、その特徴を説明できるようになる。また宗教文化の一環を成す仏教美術について、深く鑑賞し、表現を読み解くことの大切さを理解する。
■成績評価の基準	・該当する対象を的確にとりあげ、論述されていること。・項目の羅列や用語説明ではなく、日本文化の流れを視野に入れて論述されていること。・テキスト等の書き写しではなく、各自の言葉で論述されていること。

授業科目	中国思想の歴史Ⅰ				単位	4.0
担当者	岡本　洋之介			シラバスグループ	TN5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　上（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010961

■授業の概要	中国の昔の思想を題材に、自分の見解を自分の言葉で述べてください。　テキストの他、原典・専門書をできるだけ多く読んでください。
■学習の要点	テキスト・原典・専門書を読み、興味を持った点や疑問点をリポートの主題とし、自分の見解を自分の言葉で述べること。その際、見解の根拠を原典から提示すること。
■学習の到達目標	中国古典思想の概略を把握し、その中の何かしらについて自分の見解を持つ。　自分の見解を論述文で書く。
■成績評価の基準	テーマについて、自身の見解を論述文で示せているか否か。　原典を読んだことが明らかな内容を示せているか否か。　そのためにはある程度の文章量が必要だということは、試験に臨むまでに課題を通じて学んでいるはずです。　なお、文章の意味が理解できない答案、箇条書きの答案、出題内容と無関係なことを書いた答案、解答に際して不正があったと岡本が判断した答案は評価対象としません。

授業科目	中国思想の歴史Ⅱ				単位	4.0
担当者	中尾　弥継			シラバスグループ	TN5107	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
中国思想史　下（レグルス文庫）	森三樹三郎	第三文明社	[ISBN]9784476010978

■授業の概要	漢代から清代にいたるまでの中国の思想史の流れを、中国において生成発展した儒教や道教と、外来思想である佛教思想との交流を機軸に深める。各時代の代表的な思想の特徴や思想家の生き方、その時代の政治や社会情勢との関わりについて特に留意して学習する。漢代以降、中国の思想は儒教を軸に進展してきたが、同時に道教や佛教もまた人々に大きな影響を及ぼしてきた。ことに六朝時代から唐代において中国佛教の発展はめざましく、儒教や道教にも大きな影響をあたえた。宋代以降、儒教が変貌をとげ、中国の中心的思想としての位置を取り戻したが、道教や佛教もそのあり方を変えて社会に浸透していった。　一般に中国哲学の歴史を論ずるとき、佛教思想を除いたかたちで叙述されることが多いが、テキストは佛教思想と儒教や道教など中国固有の思想との交流を機軸に中国思想を解明している。本科目はこのテキストを用いて漢代以降の思想史を通観する。
■学習の要点	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会状況との関連に留意し理解することにつとめるように。　漢代においては儒教を中心とした思想界の流れや、国家との関わりと経学の成立について理解を深めるように。六朝時代においては道教や佛教の興隆について、唐代においては仏教を中心に儒・仏・道三教相互の関連に留意して思想の流れを理解するように。宋代以降、儒教が復興するが、道教や仏教とも無関係ではなく、相互に影響しあって思想を形成していったことに留意して学習するように。清代の思想においては、考証学の発展を軸に考えるように。
■学習の到達目標	各時代の思想の特徴と代表的思想家について、歴史の流れや政治・社会との関わりについて理解すること。　問題に対して、過不足なく記述することにつとめるように。思想内容や歴史的事実については誤りのないように気をつけること。
■成績評価の基準	学習した内容を生かして、どれだけ具体的な記述がなされているかを基準とします。

授業科目	日本仏教史				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TB6106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本仏教史：思想史としてのアプローチ	末木文美士	新潮社	[ISBN]9784101489117

■授業の概要	仏教は６世紀に大陸から日本に伝来して以降、現在にいたるまで日本社会に大きな影響力を持ち続けている。ただ、その歴史的展開の中において、仏教は国家や社会状況から影響を受けつつ、日本独自のものへと変容してきた。本科目のテキストである末木文美士『日本仏教史―思想史としてのアプローチ』は、古代から近代までの長い時間の中で、日本における仏教の展開を具体的に論述している。本書を基礎として学習を進めることにより、各時代における日本仏教の特色と現在に残る痕跡を理解することができるだろう。　本科目では、日本仏教の発展・展開を通史的にたどることを通して、日本仏教独自の特徴を把握することを目標とする。
■学習の要点	テキストの各章・各節の内容を読み、以下の点を中心に読み取ること。第Ⅰ章　聖徳太子と南都の教学・日本への仏教伝来の過程、及び聖徳太子の思想・信仰について・奈良時代の仏教における「宗」概念と南都六宗の由来、発展について FEATURE１　大乗仏典とその受容・中国と日本における『法華経』解釈とその受容について第Ⅱ章　密教と円教・最澄と空海の事跡と思想について・平安時代における天台宗・真言宗の成立と発展について第Ⅲ章　末法と浄土・末法思想の流布と浄土教の特色（特に源信『往生要集』の内容）について・平安時代に見える浄土教以外の信仰の特色について FEATURE２・仏教思想としての本覚思想の位置付けと発展、及び日本の文化・思想への影響について第Ⅳ章　鎌倉仏教の諸相・近代以降の鎌倉新仏教への評価と鎌倉仏教観の転換について・鎌倉仏教の時期的展開と室町仏教への展望について第Ⅴ章　近世仏教の思想・近世仏教の形成過程とその評価について・排仏論の思想的特徴と仏教者による対応について FEATURE３・仏教による死者供養の歴史的経緯と葬式仏教の思想的根拠について第Ⅵ章　神と仏・本地垂迹概念の特徴と、日本における神仏習合の形態について・神道理論の形成と修験道の歴史・思想について終章　日本仏教への一視角・日本仏教がどのように研究されてきたかについて
■学習の到達目標	・日本における仏教が歴史的にどういった変容を経て、現在の姿に至っているのか、説明できるようになる。・日本仏教史研究に用いられる多くの専門用語の意味を理解し、それらの用語を適切に用いることができるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に理解し、各時代における仏教の特徴について、整理して理解することができているか。・テキストの内容に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	東洋の歴史				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	国際政治学				単位	4.0
担当者	原田　徹			シラバスグループ	TT0511	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際政治学をつかむ　第 3 版	村田晃嗣　ほか著	有斐閣	[ISBN]9784641177314

■授業の概要	国際政治学は、国際的な政治現象について学ぶ学問である。第一次世界大戦後に始まった国際政治学は、第二次世界大戦や冷戦、そして冷戦終了後から現在に至るまでの国際環境の変化とともに、常に発展を遂げてきた。そして、今日においても、TPP などの経済問題や、日中、日韓の歴史問題、世界で起こるテロ事件など、日本や世界をとりまく国際政治は様々な問題に直面している。　このように、国際政治に携わるアクターが多様化し、問題が複雑する今日の国際政治を考えるうえで、まず、国際政治学の基礎をしっかりと押さえておくことは、不可欠である。そこで本科目では、国家間の政治力学に重点を置き、国際政治の歴史的変遷と、国際政治の基本的な理論について学ぶことで、国際政治を考える基礎的知識を習得することを目標とする。
■学習の要点	テキストを熟読し、以下の点について詳しく検討すること。1.「国際秩序」が歴史的にいかに形成されたのか、そして変遷してきたのかについて 2.「勢力均衡」について 3.「相互依存」について 4.「安全保障」について
■学習の到達目標	国際政治学の基礎的な知識を習得し、それらを応用して現在の国際政治を理解することができるようになる。
■成績評価の基準	テキストの内容に沿ったものとなっているか、論理的な構成となっているか、キーワードとなる専門用語、具体的な事例などに言及できているか

授業科目	社会学概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TT0510	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やわらかアカデミズム・＜わかる＞シリーズ　よくわかる社会学（第 3 版）	宇都宮京子・西澤晃彦	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623089710

■授業の概要	この社会学概論という科目は社会学の基本的事項およびさまざまな領域を扱う科目である。そういった科目の性格を満たすために 40 名以上の執筆者によって編まれたテキストを使用する。テキストでは社会学の重要な基本的知識はもちろん、さまざまな社会学の視点から社会的な事象にアプローチされている。個別的・具体的にその事象をとらえるのではなくて、むしろ比較論的、類型論的に、かつその事象をとりまく社会にまで視点を広げて問題を把握することが重要である。その問題把握の方法の一つとして、またその問題整理の方法の一つとして社会学を学ぶ。これがこの科目を学ぶ基本的な意義である。
■学習の要点	このテキストは、社会学の理論と現実の社会における事象を扱っている。社会学という視点から見た現実の社会が描かれているので、常識的理解とは異なることがみえてくる教材である。関心のある箇所は、学習者によってさまざまであろうが、次のことを要点としてあげておく。　1．ピエール・ブルデューの文化資本、ハビトゥスについて把握すること。　2．日本社会の世代間移動（1995 年 SSM 調査男性）の諸特徴について把握すること。　3．現代家族の機能および現代の日本社会の家族が抱える諸問題について把握すること。　4．量的調査と質的調査のそれぞれの特徴を把握すること。　5．多文化社会の障壁となる認知構造について把握すること。　6．日本社会の差別現象について把握すること。
■学習の到達目標	学習の到達目標は、日常の社会的現実を社会学の視点から分析できることにある。
■成績評価の基準	科目最終試験における成績評価の基準は、社会学の基本概念の理解、現実への社会学的アプローチなどがどの程度できているかによる。

授業科目	経済学概論				単位	4.0
担当者	藤井　透			シラバスグループ	TV0505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･世界経済学入門（岩波新書新赤版 1482）	西川潤	岩波書店	[ISBN]9784004314820
〈格差〉と〈階級〉の戦後史	橋本　健二	河出書房新社	[ISBN]9784309631172

■授業の概要	グローバル経済化の進展、少子･高齢社会の急激な進行のなかで、これまで安定的と思われてきた日本社会･経済の制度、システム等あらゆるものが根幹を揺るがされ変容しつつある。このような激動の中で、わたしたちはどのような新しい時代を作り出していかねばならないのか。　バブル崩壊以降、日本では「構造改革」の名の下に、大企業･大銀行に対しては、その国際競争力強化のため、巨額の公金を投入し、法人税の減税をはかる一方、勤労者と弱者に対しては、社会福祉の「有償化」･「市場化」･手当て削減をはかり、消費税増税をすすめてきた。この結果、増税による税収増が、減税によって相殺され、巨額の「財政赤字」が生み出されることになった。また、種々の「規制緩和」の一環として、企業の使い勝手の良い雇用方法を法制化することによって、正規雇用の縮小、派遣･請負･有期雇用･パート･アルバイトなど不正規雇用の増大を生み出し、その結果、多くの「ワーキングプア」とともに勤労者の全般的所得低下･生活の不安定と社会的格差構造をつくり出してきた。このような事態を変えなければならない。世界に目を向けると、1980 年代以降の新自由主義の結果としての多国籍企業とマネー経済の世界的跳梁によって、世界経済が大きな危機に直面している。そして南北問題は、より複雑で深刻な問題となりつつある。　その方策をどこに見出すべきか。簡単には回答は出ないが、現状認識のアップデートは不可欠の作業であろう。当科目は、「格差」と「貧困」そして、世界経済についてはあたらしい市民社会の構築を目指す方法を学習することを通して果たそうとするものである。
■学習の要点	テキストを良く理解すること、つまり、テキストの内容がよく飲み込め、理解出来るまで繰り返し読むことである。そのことによって、テキストでの用語の使われ方や論理について理解が深まるであろう。その過程でより深く知りたいことや難しい専門用語などについては、参考文献、辞書などを利用することである。　とくに「格差」「貧困」「アンダークラス」「非正規雇用」「債務問題」「所得格差」といったキーワードについては、テキストを中心にその内容を良く理解するよう勉強してもらいたい。　また、リポートでも試験でも言えることだが、大事なことは、「問われていること」に正面から答えることであるから、リポートの設題を念頭において、その問題意識を持って学習することを薦める。
■学習の到達目標	テキストを良く勉強していて、その理解の上に立って「問題」に正面から的確に答えているか、これが「答案」評価の最大のポイントとなる。リポートの設題に答える場合に学習しなければならないことが科目最終試験の問題になるのだから、リポート作成の際の勉強が大切になる。当然のこととして、的外れな叙述や個人的な経験を書いても「評価」の対象にはならない。

■成績評価の基準	テキストの筆者が使用している用語の含意や論理を十分、理解しているかが評価の基準である。

授業科目	生涯学習概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論	西岡正子編著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248756&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	生涯学習体系への移行が進む中、教育に関わる者としても、また一市民としても、生涯学習の基本を知らずして、学び働くことは不可能といえる。本科目において、生涯学習の基礎理念、基礎知識、国及び地域の実態及び実践の手法を学び、生涯学習社会を建設し、生涯学習時代を生きる力を付けていただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.ユネスコにおける生涯学習論の展開について　2.学校式教育の特色について　3.ハッチンスの学習社会論について　4.学社融合による展開について　5.人の成長に関する二つのモデルについて　6.学歴社会から学習社会への移行に関する機構改革について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。試験問題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	博物館学				単位	4.0
担当者	堀　大介			シラバスグループ	TX0711	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新時代の博物館学	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編	芙蓉書房	[ISBN]9784829505519

■授業の概要	博物館について、歴史、種類、機能、目的などの基本的な論点を整理し、理解を深めながら、現代そして将来において求められるべき博物館のあり方を考える。
■学習の要点	科目最終試験の各問題はそれぞれテキスト『新時代の博物館学』で、各章を構成する節に含まれる項目として整理されています。問題はそのような項を確実に学習すれば解答できるように作成してありますので、対象となる項を熟読して、試験に備えてください。
■学習の到達目標	どの問題についても、テキストを読み、その論旨や要件を具体的かつ明瞭にまとめることが、解答を書くためのもっとも大切な点です。ですから、特にそれぞれを説明する際に必須となる用語を欠かさないように記述してください。
■成績評価の基準	テキストで使われている専門用語や概念などが正しく把握されているかが評価の基準となります。

授業科目	視聴覚教育メディア論				単位	4.0
担当者	近藤　友子			シラバスグループ	TS0517	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
教育メディアの開発と活用	日本教育工学会監修	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623063673

■授業の概要	学習者を中心においた教育はコミュニケーションであり、教育の歴史は、コミュニケーションの歴史でもあるといえる。学習の内容としては、・　教育メディアとコミュニケーションの関係、教育メディアの教育的意義や役割について概観する。・　各種メディアの特性と利用方法、教育メディア利用の効果等の関係について理解を深める。
■学習の要点	テキストを理解するために、以下の６つの視点でまとめていくこと。1　教育メディアの 2 つの定義を踏まえて、生涯教育の観点から、遠隔教育に注目し、教育メディアの意義についてまとめる（pp.23-27,80-84)。2　教育メディアの特徴と学習形態の志向について、3 つの時代区分（1）～1970 年代、(2) 1980～1990 年代、(3) 2000 年代～ごとにまとめる。ヒント：p.29「表 1-7 時代区分ごとの主な教育メディアと学習形態などの変遷」をもとに、pp.27-30、pp.39-40、pp.45-47 を読み取ると整理しやすい。3　学習者を中心においた教育では、教育メディアはどのような位置づけでかかわるか。教育メディアの 5 つの役割を中心にまとめる。ヒント：p.65「図 2-2 教育メディア 5 つの役割」をもとに、pp.57-64 を読み取ると整理しやすい。4　社会的構成主義の観点から、教育メディアの注目点、教育方法の特徴、教育メディアの役割についてまとめる。ヒント：p.93「表 2-4 教育メディアの背景理論」をもとに、pp.89-94 を読み取る。指定したページは、社会構成主義以外の主義も含む。しかし、全体を通して読むと、理解が深まる。5　教育メディア系の書籍で、なぜ、デールの「経験の円錐」が取り上げられるのか。デールの「経験の円錐」が教育メディアにどのような影響を与えたのか。教師の役割と関連してまとめる（p.6. p.57-59.)6　教育メディアの活用の普及にあたり、英国の例をとりあげ、どのような点が ICT 活用頻度にかかわったのかをまとめる。ヒント：4.1.2 実用化のための条件整備 pp.152-161. 特に p.158「図 4-2 英国における教育の情報化に関する施策」をもとに、指定された範囲の文章を読み取ると整理しやすい。
■学習の到達目標	学習の到達目標：上記の「学習の要点」に記してあるように、テキストを理解するための６つの視点に沿って、６つのテーマを理解・説明できる。「学習の要点」にある６つの視点を整理したうえで、科目最終試験に臨んで欲しい。知識として、６つのポイントを体系化して欲しい。　　成績評価の基準：問題に沿った解答（20)、知識として理解しているか（50)、構成（論理性）(10)、書式スタイル（10)、オリジナリティ（10）　「答案」作成上の留意点：書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。　**「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。
■成績評価の基準	問われている問題に適切に答えているか（20)、知識・理解ができているか（50)、文章の論理的な構成（10)、書式のスタイル・オリジナリティ（20）※問われている設題以外のことは述べないこと、要点を簡潔に述べること、などに心掛けてほしい。＊出典の書式スタイルについては、下記の備考欄を良く読んでおくこと。＊自分の言葉でまとめること。ただし、

	出典が明記されていることが前提条件となる。　＊「合格させて欲しい」などといった一文は決して書かないこと。このような場合は、採点の対象外となる。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	仏教文化				単位	4.0
担当者	坪井　剛			シラバスグループ	TX0721	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本の仏教　第２期第３巻 日本仏教の文献ガイド	日本仏教研究会　編	法蔵館	[ISBN]9784831802897

■授業の概要	現在にいたるまで、多くの歴史史料が残されてきており、我々はそれらを分析することで過去に起こった出来事とその意味を知ることができる。そういった歴史史料の中でも、恐らく最も情報量の多いのが文献史料であるといえるだろう。特に仏教及び仏教文化に関連する文献史料は多く残されてきている。　そういった文献史料の読解において、文意を十分に理解することが重要なのは当然である。しかし一方で、その文献の基本的情報（著者、成立年、構成、伝本…）を持っていないことには、その文意を十分に理解することはできないだろう。その点、本講義のテキストである日本仏教研究会編『日本仏教の文献ガイド』では、61 の文献について、基本的な情報をまとめている。本書を通覧することによって、自らの研究テーマにはどのような文献が有用なのか、その周辺にどのような文献が存在するのかを知ることができるだろう。
■学習の要点	本書は内容で分類してあるわけではなく、50 音順に並んでいる。それ故、まず、最初から最後までざっと見て、それぞれの文献が何をテーマにしたいつ頃の史料なのか、これを把握して欲しい。その上で、各自の興味関心ある文献に関する説明を精読すること。　当該文献がどのような性格のものなのか、著者はどういった人物なのか、全体構成にはどのような特徴があるのか、写本や伝本にはどのようなものがあるのか、そして何より、これまでの研究ではどのようなことが問題となり、どのような議論が展開されてきたのか、こういった情報を各項目において整理して理解すること。　また、同じようなテーマを扱った文献は存在するのか、当該文献にはどのような参考文献があるのかといった点を把握し、それらを読むことで理解を深めて欲しい。
■学習の到達目標	・日本仏教に係わる主要な文献史料について、その基本的な情報を説明できるようになる。・自らの関心あるテーマには、どのような文献が存在するのか、説明できるようになる。
■成績評価の基準	・テキストの内容を正確に読み込み、それぞれの文献資料の基本的情報を整理して理解することができているか。・テキストの説明に対して、自らの意見を持つことが出来ているか。・専門用語の意味を正確に理解し、自らの文章の中に取り込むことが出来ているか。

授業科目	西洋文化史				単位	4.0
担当者	竹中　徹			シラバスグループ	TP6508	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
魔女･怪物･天変地異　―近代的精神はどこから生まれたか	黒川正剛著	筑摩書房	[ISBN]9784480016713
図説　魔女狩り	黒川正剛著	河出書房新社	[ISBN]9784309761619

■授業の概要	中世末から近世にかけてのヨーロッパ世界では、「魔女狩りの激化」と「驚異の大増殖」という二つの出来事が同時代現象として噴出した。それは中世から近代へと移り変わる過渡期であり、中世的な考え方と近代的な考え方がせめぎあう時期であった。この授業では「魔女狩り」と「驚異」の歴史を考察することを通して、西洋における近代的精神がどのように生まれてきたのか理解することを目指す。
■学習の要点	二つのテキストは、社会背景について相互に補完しあう内容となっている。まずは両方のテキストを通読し、「驚異」と「魔女／魔術」に対する人々の認識の変容について、全体像を把握してもらいたい。そのうえで以下の要点あるいは各自が興味を持ったテーマについて学習し、各章ごとに扱われている内容の理解を深め、テキスト著者の主張を考察してもらいたい。その際、下記の参考文献やテキスト巻末に挙げられている参考文献なども活用すると良いだろう。1．近世以前のヨーロッパの人々の、「驚異」に対する認識と「好奇心」に関する考え方について、後世への影響も踏まえつつまとめる。2．大航海時代の幕開けが、ヨーロッパ人の「驚異」に対する認識と「知的好奇心」に与えた影響について、地図・植物誌・動物誌などにおける発展・変容を踏まえつつまとめる。3．16 世紀ヨーロッパにおける、新大陸をはじめとする異境由来の「驚異」についての認識と、「好奇心」に関する見解について、アンドレ・テヴェやアンブロワーズ・パレの著述を中心にまとめる。4．宗教改革前後の時代のヨーロッパ社会における、怪物・驚異を「世界の終末」や「神の怒り」として認識する傾向について、各地のさまざまな例を踏まえつつ整理する。5．近世を通して緩やかに進行した、「驚異の自然化」と「好奇心の近代化（名誉回復）」について、パレなどの萌芽的な動きと、中世的考え方を維持しようとする立場を対照させつつまとめる。6．中世末以降の魔女狩りに影響を与えた、古代・中世における「魔女」と「悪魔崇拝」のイメージの形成について、異端や異端審問の制度化の影響も踏まえつつまとめる。7．近世における魔女狩りの激化について、宗教改革および近世国家の中央集権化との関連の有無を、男性優位の近世的価値観の進展（家父長制や性の規律化）についても踏まえつつ整理する。8．魔女狩り激化の時代とその終焉以降において、「魔女」と「魔術／驚異」そして「好奇心」についての認識はどのように変化したか、例を挙げつつ整理する。
■学習の到達目標	「魔女／魔術」および「驚異」に対するヨーロッパの人々の認識の変容について学び、それを通して西洋の近代的精神とは何か、近代化とは何かということについて総合的な理解を得ること。

■成績評価の基準	成績評価の中心となるのはテキスト内容の理解度であるが、独自の参考文献調査による意見や考察があれば評価する（ただし、問題と関係のない「単なる感想」は認めない）。 出題の要点と意図を正しく理解し、構成をよく考えて論理的に記述すること。

授業科目	考古学研究				単位	4.0
担当者	門田　誠一			シラバスグループ	TX0723	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
大学の日本史 1.古代 −教養から考える歴史へ−	佐藤信編	山川出版社	[ISBN]9784634600317

■授業の概要	考古学は人類の歴史を遺跡の状況や発掘調査成果から得られた情報などを調査･研究し明らかにする学問です。この科目では、日本の古代史を概観するなかで、遺跡・遺物などの考古資料がどのように位置づけられるのかを考えることを目的としています。テキストは都を中心としつつも、各地の状況があわせて記述されています。これと関連して、各地域に所在する「各自の地域の遺跡」を調べて、各地域の歴史・文化を明らかにすることも目的の一つです。そのために発掘調査成果や出土資料など考古資料を用いて、日本列島の歴史を広い視野から見つめ直し、考古資料を用いた歴史研究の方法を学びます。
■学習の要点	日本の考古学研究は、日本各地でおこなわれている発掘調査成果や出土資料の研究によりめざましく進展しています。その結果、テキストにみられるように、遺跡・遺物などの考古資料を用いた歴史叙述が広く行われています。一方、現在日本列島には旧石器時代から近代にいたるまで約 40 万ヶ所ちかい遺跡が確認されています。これまで全国各地でおこなわれてきた発掘調査は学術的に大きな成果を上げるとともに、各地域の歴史・文化を明らかにし、地域の特色を示しています。そのため、皆さんの居住する地域（都道府県単位）の遺跡に注目し、各自で遺跡の詳細を調べて、それによって地域ごとの古代の実態を知ることも重要です。
■学習の到達目標	考古資料・文献資料を通じて、日本およびその他の地域の文化に親しみ、考古学・歴史学の方法にと古代史に習熟していただくことを目的としています。
■成績評価の基準	考古資料や歴史史料は、地域や時代についての明瞭な記述がないと歴史資料とはなりません。そのため、下記の記述があるかを成績評価の基準とします。１いつ・どこで・なにが・どうして・どのような意味があるのか、という基本的事項が記されているか。２１を踏まえたうえで、とりあげたテキストの章や各地の遺跡に関する歴史的な説明があるか。以上を備えた記述は 80 点以上とします。

授業科目	民俗学研究				単位	4.0
担当者	大野　啓			シラバスグループ	TX0724	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新･民俗学を学ぶ:現代を知るために	八木透編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248870&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	現在、民俗学は新たな方向性を模索している段階である。従来、民俗学は伝統的とされている文化（社会）的な要素を再構成することによって民俗誌を構築したり、民俗の特質に関する議論を行なっていた。しかし、これでは研究者の恣意によって伝統的な文化（社会）が創造されてしまう危険性や特定の状態の習俗や慣習などを民俗の本質として理解したり、固定化してしまう危険が伴っていた。こうした認識により、具体的な事実を積み上げていくという民俗学の基本的な姿勢に立ち返って文化（社会）を検討することが必要となっているのである。そこで、履修生はテキストの中でどのように事例が構築されているかについて検討していき、自らが文化（社会）に対してどのような視座を有しているのかについて考えていくことが必要である。
■学習の要点	学習に際しては、テキストの各論がどのように事例を構築しているのかについて注意すること。具体的な事例をどのような枠組みで研究史上に位置付けているのかについて留意しながらテキストを読み込むことが必要である。当然、テキストの巻末に上げられている参考文献一覧のなかの論文に目を通すことが求められる。なお、本科目と民俗学は同じテキストを使用しているが、本科目の履修生は、民俗学において必要な知識を得たことを前提とする。さらに、以下の点についての学習を行なうこと。　･村落のあり方がどのように生業と関係しているのかについて　･仏教民俗が村落社会の中にどのように包含されているのかについて　･現在の墓制研究が,どのような問題をはらんでいるのかについて　･現在の民俗学の研究が、どのような学問的意義を有しているのかについて研究史から考える　･一般的に考えられている性的役割分業と民俗社会での役割にどのような差異があるのかについて
■学習の到達目標	･問題と無関係な解答は評価の対象外とする。･最低限でもテキストの内容を把握したうえで、解答をすること。･可能であれば、これまでの学史の展開を踏まえたうえで、自らの考えを述べること。
■成績評価の基準	民俗学の基本的な知識や考え方を理解した上で、解答していること。問題に対して、テキストの論や内容を踏まえた上で、論理的に解答していること。上記の条件を満たしたうえで、受講生自らの考えを論理的に述べることが望ましい。

授業科目	古文書学				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5116	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古文書学入門〔新版〕	佐藤進一	法政大学出版局	[ISBN]9784588320118

■授業の概要	個人や組織・機関が命令や依頼、許可などを実施する際に発せられる文書（公文書、書状、書簡など）、いわゆる「古文書」は、宛先・差出の人物や組織の政治的・社会的な関係が反映されているだけでなく、その目的に即して一定の書式にしたがって記されることが多い。こうした書式は、人や組織が変化するに伴い変化するが、逆に文書の書式の変化に着目すれば、文書の発給・差出に関わる歴史的な事実を解き明かす手がかりとなる。本科目ではそうした「古文書学」に関する基礎的な知識の習得を目的とし、様式の具体的な内容、様式の変遷、その背景を検討することが学習の中心となる。　文書の様式についての理解を深め、それぞれの様式の用途について考えると共に、そうした様式がどのような背景で成立し、どのように変化していくのか、また後の様式とはどのような点で異なっているのか、その理由は何かといった点について学習する。
■学習の要点	古文書学の目的は、単なる文書様式の学習ではない。様式の背景にある時代的社会的な特徴と様式の関係を考えるのであるから、単に様式だけでなく、様式同士がどのような関係にあるのか、またその理由などについても考える必要がある。　実際の学習にあたっては、個々の様式を十分に理解した上で、様式成立の背景や前後の様式との関わりを意識しながら学習を進めてほしい。　・古文書とは何か。また古文書学研究と歴史学研究の関わりについて　・古文書における奉書と直状の特徴と違いについて　・中世の起請文の様式とその変遷について　・鎌倉時代の武家様文書の特色について　・次の古文書用語および様式について　　1：花押　2：右筆　3：院宣　4：奉書　5：外題安堵　・次の古文書用語および様式について　　1：綸旨　2：案文　3：女房奉書　4：端裏書　5：軍忠状
■学習の到達目標	用語に関する単なる理解ではなく、古文書学の基本的な考え方を理解するよう努めること。その上で以下の諸点について理解したい。1：古文書学の基本的な考え方が理解できている。2：古文書の基本的なターム（用語）について理解できている。 3：古文書が社会関係や政治状況を反映していることを理解している。
■成績評価の基準	1：古文書学の目的や基本的な方法、考え方についての理解 2：古文書学の基本的なターム（用語）についての理解 3：文書様式についての理解

授業科目	地理学				単位	4.0
担当者	木村　大輔			シラバスグループ	TX5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
文化地理学ガイダンス［改訂版］あたりまえを読み解く三段活用	中川正・森正人・神田孝治 著	ナカニシヤ出版	[ISBN]9784779516146

■授業の概要	地理学は地表面で生じる様々な現象（出来事）と地域との関係を理解しようとする学問です。現象には必ず位置（場所）が存在し、かつ、単独ではなく複数の現象との関係のもと地域に分布（地理的分布）しています。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々ですが、2 つとして同じ場所はなく、現象には必ず地域差（地域的差異）が現れます。そこで、この授業では位置や分布をキーワードとして地理学の基本を学びます。
■学習の要点	①　地理学における基本的用語（概念）の意味を理解する。②　基本的用語（概念）を通して地域について理解する。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて理解する。
■学習の到達目標	①　地理学における基本的用語（概念）を正しく説明できる。②　基本的用語（概念）を用いて地域について説明できる。③　複数の地理的事象と地域とを関連づけて説明できる。
■成績評価の基準	〔科目最終試験における成績評価の基準〕①　問題の主旨を正確に理解していること。②学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。③　記述が論理的に構成されていること。④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は不合格とする）。⑤　テキストの丸写し、テキストの再構成のみの論述は不合格とする。

授業科目	芸術文化				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TX5106	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
南北朝時代―五胡十六国から隋の統一まで（中公新書2667）	会田大輔	中央公論新社	[ISBN]9784121026675

■授業の概要	日本の仏教美術の源流である中国の仏教美術の歴史について、とくに日本の飛鳥・奈良美術との関係が深い魏晋南北朝時代に焦点をあてて学びます。具体的には、つぎのような項目について学びます。すなわち、インド発祥の仏教が中国に伝わり、どのような形で受容され、信仰されていったのか。中国在来の思想宗教との関わりの中で、どのようにして「中国の」仏教美術が形づくられていったのか。皇帝などの世俗権力は、仏教に対してどのようなリアクションをとったのか。地域や時代によって、どのような特徴や変化が見られるのか。広大で地理的多様性に富んだ空間を舞台として、漢民族と異民族とが入り乱れて形作ってきた複雑な歴史のうねりのなかで生み出されてきた中国仏教美術について考察してゆきます。
■学習の要点	魏晋南北朝時代の仏教美術を理解するには、背景となる歴史や地理的な知識を欠かすことができません。中国は歴史上、異民族が国を建てるということが頻繁に起きており、中国仏教美術が大きく発展した魏晋南北朝時代もまた、中国北方において五胡十六国と呼ばれる異民族支配による国が相次いで分立割拠し、南朝の諸王朝と対峙した時代でありました。この動乱期は、一方で仏教が篤く信奉され、壮麗な仏教美術が生み出された時代でもありました。美術作品は単独で存在しているものではなく、その背後には必ずやそれを生み出した人、時代、場所があることを忘れてはなりません。とりわけ魏晋南北朝時代の仏教美術は、地理的な観点や歴史的背景を抜きにしては理解しがたいことから、これらの要点に注意を払いつつ、中国仏教美術のダイナミズムを味わっていただきたいと思います。
■学習の到達目標	次の３点を、本科目における学習の到達目標とする。１）学習の要点を正しく理解し、論理的に記述することができる。２）中国の歴史や地理を理解したうえで、仏教美術の作例を説明することができる。３）中国仏教美術の論点について理解し、根拠を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標３点に加え、答案作成に関わる次の３点を加味して、総合的に評価する。４）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。５）キーワードや要点を押さえた論述ができる。６）事実を正しく把握し、文章化できる。

授業科目	文化人類学				単位	4.0
担当者	鈴木　文子			シラバスグループ	TX5108	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新版　文化人類学のレッスン：フィールドからの出発	梅屋潔・シンジルト共編	学陽書房	[ISBN]9784313340268

■授業の概要	文化人類学の入門テキストです。文化人類学は、異文化理解の学問として知られています。長期の滞在型あるいは密着型のフィールドワークで得た資料をもとに、ホリスティック（holistic：全体論的）な視点から文化と人間の関係、文化とはどのような脈絡の中から生まれてくるものなのかを考える学問です。歴史的にはその研究対象は、非産業化社会（未開の社会）・異文化社会を対象としていましたが、近現代の都市社会も含め、文化そのものを考察の対象としています。また、異文化とは決して外国のことではありません。自文化と異なる他者であり、ひいては、そのような他者に驚き、違和感をもつ自らの文化を考えることでもあります。家族・親族、結婚の意味、性とは何か、宗教・儀礼、経済、民族・国家など、人間をとりまくあらゆることが対象となります。人類学で扱われる代表的な主題を、具体的な生活の脈絡のなかから、その意味を考えます。
■学習の要点	テキストの各章では、独立した文化人類学のトピックが扱われています。テキストを読み込んで、各章のトピックとその研究動向、視点を把握してください。また、Key Word、Column欄も注意し、理解が難しい用語、専門用語などは、文化人類学事典、下記およびテキスト文末参考文献、推薦図書などで調べてください。以下の点にも留意してください。1.「Lesson１」のフィールドワークの歴史や各時代の特徴、「自然（生態系）と文化の関係（Lesson4）を理解するとともに、文化の概念がどのように変遷してきたかを把握し、説明できるようにしてください。生態人類学、「自然誌」的視点とは何か、p89 以下の事例から説明できるようにしてください。2.「Lesson2」を参考に、人類学の特徴的方法論、記述でもある民族誌（エスノグラフィー）についても理解してください。また、B.K.マリノフスキー以降のフィールドワークがどのように変化しているのか、J. クリフォードなどによる民族誌批判,E.W.サイードの『オリエンタリズム』、ポストコロニアルなど、用語や人物も調べ、今日的問題をおさえてください。「民族誌の現在」という意味も理解しておいてください。3. ジェンダー、第3 の性、セクシャリティ、民俗生殖理論などの「性」をめぐる多様な概念があることを理解するとともに、事例を挙げて説明できるようにしてください。理論の歴史も抑えてください。人類学調査からわかってきた、これらの概念をめぐる西洋的特徴は何かを説明できるでしょうか？　本質主義、構築主義といった用語も調べてください。（Lesson5）4. 家族、親族とは何か、「血のつながり」とは何か。関連する概念を押さえながら、G.P.マードックの核家族論に対して、世界の多様な家族・親族の関係があることから、何がいえるのかを説明できるようにしてください。また、現代の生殖技術の発達のなかで鮮明になってきた「近代家族」の特徴とは何かについても考えてください。「近代家族」は、専門用語です。調べてみてください。（Lesson6）　5. 人種、民族の概念に対する近年の考え方を国民国家の成立と民族、民族意識とはどのように関係しているのか、把握してください。また、民族意識をめぐる理論を説明できるようにしてください。最後のソッゴの事例は、「民族」概念がどのようなも

	のであることを示しているのか、説明できるようにしてください。(Lesoon7)　6. 儀礼と人々の認識との関係を理解してください。ファン・ヘネップの「通過儀礼」、V.ターナーの理論も抑えてください。また、儀礼に対する近年の人類学の視点についても注意してください。アサドの象徴体系としての宗教への批判とはどのような意味でしょうか。(Lesson8､9)　7.「宗教」を人類学では、どのように考えてきたか、その歴史と変遷を把握してください。呪術と近代医療が考える病の相違についても留意し、現代からみた宗教、呪術現象,宗教的実践とはどのような意味かを理解してください。現代社会においても、「呪術」的信仰が消えない理由、「再魔術化」とは何を意味しているのか、言語化できるようにしてください。（Lesson9）8. 石貨、ポトラッチ、クラなどの内容を理解し、象徴的交換と市場経済との相違を把握してください。贈与交換、互酬性などの意味を文化人類学事典などで調べてください。(Lesson10）9.グローバル化と人類学的課題についてまとめてください。(Lesson11）

■学習の到達目標	①「学習の要点」にある学習の視点をもとに、テキストの各章のトピックの重要な点について説明できるようになる。②文化人類学の基本的知見を理解するとともに、文化概念の変遷と今日の考え方を理解する。

■成績評価の基準	①最終試験では、テキストの専門用語を使いこなし、具体的な事例を提示しながら論じた方が高い評価がされます。②各章のトピックを適切に理解しているかが評価の対象となります。

授業科目	地誌学				単位	4.0
担当者	網島　聖			シラバスグループ	TX5110	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
図説　世界の地誌〔改訂版〕	辰巳勝・辰巳眞知子著	古今書院	[ISBN]9784772241915

■授業の概要	地理学は地誌学と系統地理学（自然地理学および人文地理学）の２分野から構成されている。地誌学は具体的な地域に関する地理的記載をおこない、総合的な地域の理解を目標とする地域科学であるといえる。その内容は、地域の自然環境、歴史、国や都市・地方の発達過程と人口の変化、産業や社会の特色を明らかにし、住民や国民がどのような課題をかかえ、それにどう対処しようとしているかを考えることにある。地域がどのような性質を持っているかは、その特徴を作り出す要素を見出し、他の地域と比較しつつその相違点や共通点を発見し、その発生要因を考えることが重要である。この科目では、地誌学を学ぶために世界のさまざまな地域、国の歴史、自然環境、人口の民族構成、産業構造の特色などを学習し、それらの共通点と相違点を要約し、それが生じた原因を考察していく。加えて、各地域、各国が日本と政治・経済・社会的にどのような関係をもっているかも過去・現在・未来の時間のなかでも考えていただきたい。
■学習の要点	１）中学・高校で使用した地図帳を常に開き、位置や地名などを地図上で確認する習慣を身につけること。２）世界のさまざまな地域について、地理的位置、歴史と開発過程、環境の特色、人口と民族、農業と工業、商業、都市と都市問題などのテーマごとに、一章ずつノートを作成して確実に整理すること。３）世界のさまざまな地域、国における人種・民族の問題に注目した学習を行うこと。４）世界のさまざまな地域、国における開発の歴史と地域間の経済格差に注目した学習を行うこと。５）世界のさまざまな地域、国の共通点と相違点をまとめること。これらの地域や国々が直面する問題を理解し、また、日本との関係および今後あるべき国際関係についても考察すること。
■学習の到達目標	①世界のさまざまな地域や国について、基本的な地誌的情報を正しく理解している。②世界のさまざまな地域や国における人種･民族に関する問題とその背景について説明することができる。③世界のさまざまな地域や国における経済開発とその結果出現した経済格差の問題について、歴史的背景を踏まえて説明することができる。
■成績評価の基準	①問題が問う要点について、その定義を正しく示せていること。②対象となる地域の基本的な地誌的情報について正しく理解していること。③問題が問う対象地域で発生した歴史的経緯を正しく説明できていること。

授業科目	日本史概論				単位	4.0
担当者	貝　英幸			シラバスグループ	TQ5101	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
概論日本歴史	佐々木潤之介ほか編	吉川弘文館	[ISBN]9784642077101

■授業の概要	本科目は、日本史についての基本的な知識を習得するだけでなく、過去を「歴史的に考える」方法を学ぶことを目的としている。　歴史学は、歴史上の出来事や人物の事跡を、単に羅列するものでもなく、ましてやそれを暗記するものでもない。複数の出来事がどのように関連しあっているのか、出来事の背景としてどういったことが考えられるのか、またそれらの中で何が重要なのかを客観的に判断することが重要である。　そのためにも、今につながる日本の歴史がどのような変遷を経ているのか、各時代を大きな流れで把握すると共に、各時代における個々の事象がどのように関連しているのかを考えて欲しい。また、歴史の変遷を考えようとすると、いきおい政治の変化を中心に考えがちだが、歴史を知ることは政治の流れを知ることとイコールではない。経済や社会、文化など、さらにはそれら分野の関連など、その時代における社会のありようを考えることが重要である。歴史学的な視点で社会を見る目を養うよう心がけて欲しい。
■学習の要点	本科目で最も重要なのは、個々の歴史事象だけにとらわれるのではなく、歴史を流れの中で把握することである。そのためにもある歴史事象や出来事がどのような背景であったのか、またその原因は何かといったことを基礎に、複数の歴史事象同士がどう関連するのかについて、与えられたテーマに沿って考えることが重要である。そして、そうした学習を通じて日本の歴史全体への知識を深めてほしい。　したがって、本科目で要求されているのは、歴史事象の年代や関係する人物などについての暗記ではなく、多くの歴史事象を歴史の変遷がわかる形で的確に記述することにある。そのためには設題に応じて、自らがいくつかのポイントを考え、そのポイントを中心に学習を進めていくことが重要である。　・奈良時代の政治について　・古代社会と信仰（仏教、神道など）について　・執権政治の展開について　・中世から近世の農民生活について　・鎖国から開国への政治過程について　・民権運動と政党政治の関係について
■学習の到達目標	人物についての叙述や事実の羅列とならぬように注意し、問題のポイントがわかるよう記述すること。細かな年代などを逐一暗記するよりも、大まかな流れを把握し、指標となる出来事や中心的な人物やその動向に注意しながら論ずることが重要である。
■成績評価の基準	設題に対する概括的な理解（40%）設題を理解する上でポイントとなる重要な事項（50%）全体のバランス（10%）以上の３点で評価します。

授業科目	芸術文化研究法				単位	4.0
担当者	安藤　佳香			シラバスグループ	TX5118	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
初版　古寺巡礼（ちくま学芸文庫）	和辻哲郎著	筑摩書房	[ISBN]9784480094544

■授業の概要	仏像の「芸術」としての在りようを捉え、その表現や印象を言葉で説明するための観点・方法を学ぶ。古典的名著、和辻哲郎の『古寺巡礼』を読み、仏像を芸術文化の所産として観た和辻の視点、叙述、語彙を手掛かりに、芸術研究（芸術文化研究）のスキル習得を目指す。

■学習の要点	「芸術」に関する研究では作品の鑑賞／観察が糸口となり、それに基づく内容が研究の動機や材料ともなる。加えて作品の表現や印象を、自身の記録、あるいは他者への伝達のために、視覚で捉えた内容を言葉に置きかえる必要がある。その際、前提として次の点をおさえておきたい。　「芸術」は感性に訴える事象である。したがって、芸術性に結びつく事柄――美しさ、巧さ、雰囲気など（作風を示す要素）には少なからず主観が関与する。この点、他の研究分野と異なる特殊な事情がある（なお面数・臂数・印相など形式にあたる要素は客観的に把握される）。　また信仰対象としての意義とは別に、「芸術」として、ときに批評的な言及を伴う。それらを研究に反映させるためには、深い鑑賞、丁寧な観察に基づく的確な言葉が求められ、これを重ねることで、説得性や共通理解につながる。

■学習の到達目標	・芸術研究（芸術文化研究）の視点から仏像を捉えることができるようになる・仏像の表現や印象を自らの言葉で説明できるようになる

■成績評価の基準	・用語や基礎情報が正確に扱われていること・作品の特徴を的確に捉えそれに相応しい言葉で記述されていること・要点を押えたうえで目から鱗が落ちるような叙述に期待

授業科目	仏教美術				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5408	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
古代国家と仏教美術 奈良・平安時代（天皇の美術史 1）	増記隆介･皿井舞･佐々木守俊著	吉川弘文館	[ISBN]9784642017312

■授業の概要	仏教美術の研究には、作品の精査と史料の分析とが欠かせません。本科目では古代王権の確立から鎌倉時代にかけての仏教美術を、為政者である天皇の側から探ったテキストを用いて、仏教美術史の研究手法を学びます。
■学習の要点	増記 隆介・皿井 舞『古代国家と仏教美術: 奈良・平安時代』をテキストとして、日本の上代から中世の仏教美術を対象に、仏教美術研究の方法について学びます。作品そのものから様式や図像などのさまざまな情報を読み取ってゆくとともに、関連する史料を用いて、仏教美術の作品がどのような社会的･宗教的背景で制作されたのかといった問題に対し、どのような見解を導き出しているのか。仏教美術研究の方法論や問題の所在に留意しながら、学習を進めましょう。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）日本の仏教美術の思想的背景について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）先行研究を探し、論旨を理解し、自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の４点を加味して、総合的に評価する。３）課題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。５）答案としての書式を守っている。６）引用と自身の言葉との書き分けができる。

授業科目	朝鮮史				単位	4.0
担当者	李　昇燁			シラバスグループ	TQ5403	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
朝鮮の歴史：先史から現代	田中俊明編	昭和堂	[ISBN]9784812208144

■授業の概要	朝鮮の歴史を具体的に理解することを目的とする。朝鮮という地域は、日本列島にもっとも近い隣の地域として、古くから日本列島の歴史と密接なつながりをもってきた。そして現在もそのような緊密な関係が続いており、未来においてもそうあり続けるものと思われる。朝鮮史を学ぶことは、朝鮮という地域をより深いところで理解することでもあり、また日本の私たち自身をみつめることでもある。朝鮮史を勉強してみよう。　朝鮮史を勉強していく上で第一に重要なのは、朝鮮という地域内部から朝鮮独自の歴史・社会・文化がつくられてきたという視点から朝鮮史をとらえることである。一方、朝鮮は、日本列島や中国大陸を始めとする東アジアの諸地域と活発な交流を行い、相互に影響を与えあってきた。そのような周辺諸地域との交流という視点から朝鮮史をとらえることが二つ目に重要な視点である。このように朝鮮内部への視点と外部との交流という視点の相互作用の中で朝鮮史を把握することが必要となる。　近年、大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国への様々な関心が高まっている。朝鮮史を理解することによって、それらの関心がより深く、より豊かなものになることを願う。
■学習の要点	朝鮮史の流れを把握し、それぞれの時代の具体的イメージを持ってほしい。テキストを読み終えた後、最も興味深い事柄が目の前に浮かび上がり、それについてもっと深く知りたいと思うようになれば、この「朝鮮史」の学習は成功である。以下、学習の要点を列挙しておく。　１．朝鮮の古代国家はどのように形成されたのか、また、以後どのように展開し、新羅による朝鮮統一にいたるのか。中国大陸や日本列島との関係、三国の攻防に留意しながらまとめる。　２．高麗の国家と社会、朝鮮王朝の支配体制はどのような特質を持ち、どのように変化していくのか。特に両班といわれる支配層の思想的背景はどのようなものであったのか。　３．朝鮮王朝と室町～江戸時代の日本との間にどのような交流が行われたのか。倭寇、日朝貿易、朝鮮通信使を中心にまとめる。　４．前近代から近代への移行がどのように始まるのか。開国前夜までの朝鮮王朝後期の政治・経済・文化を、特に租税・軍政改革と商業政策の転換、実学の台頭についてまとめる。　５．近代はどのように始まったのか。開国から韓国併合までの、朝鮮王朝支配体制の動揺、ウエスタンインパクト、日本の朝鮮侵略、中国や欧米列強の対応についてまとめる。また、東アジア三国の近代化の過程を比較する。６．植民地期朝鮮の政治・経済・社会・文化についてまとめる。特に、日本の植民地支配政策と民族解放運動、民衆の抵抗について。　７．植民地支配からの「解放」と分断国家の成立についてまとめる。朝鮮の人々にとって「解放」とは何だったのか、またなぜ分断国家が樹立されることになったのか、その後の大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国の歴史を簡単にまとめる。

■学習の到達目標	・朝鮮の歴史を具体的に理解すること・文献や資料を適切に調査し、検討・理解した内容を文章でしっかりと叙述できること
■成績評価の基準	・採点は加点方式を基本とする。問いに対して、答案に必要なキーワードがすべて含まれていれば 60 点とする。・論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。

授業科目	西洋史概論				単位	4.0
担当者	南川　高志・水田　大紀			シラバスグループ	TQ5105	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
超約　ヨーロッパの歴史	ジョン・ハースト・著福井憲彦・監倉嶋　雅人・訳	東京書籍	[ISBN]9784487811991
茶の世界史　―緑茶の文化の紅茶の社会	角山栄著	中央公論新書	[ISBN]9784121805966

■授業の概要	本科目では、西洋史、特にヨーロッパの歴史を、政治・文化・宗教・他地域との繋がりなどの観点から概観する。
■学習の要点	学習の要点は以下のとおりである。　世界史的視点から歴史を理解するために、受講者は本科目を通じて、(1) ヨーロッパの歴史の流れを概観的に把握する。(2) ヨーロッパの歴史に関する基礎的知識を理解する。(3) ヨーロッパの歴史がその他の地域と相互に影響し合いながら展開してきたことを理解する。
■学習の到達目標	到達目標は以下のとおりである。① ヨーロッパの歴史を概略的に説明することができる。② ヨーロッパ史に関するキーワードをあげ、それについて解説することができる。③ ヨーロッパと他の地域との歴史的つながりについて、具体例を挙げて説明することができる。
■成績評価の基準	学習の成果は「学習の到達目標」の各項目に照らして、試験で評価する。

授業科目	神話・伝承学概論				単位	4.0
担当者	村田　真一			シラバスグループ	TX5407	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
読み替えられた日本書紀	斎藤英喜著	角川書店	[ISBN]9784047037014

■授業の概要	本科目では、『日本書紀』をめぐる神話解釈の歴史、『日本書紀』が誰によって、どのように読まれ価値づけられたのか、ということの歴史について学びます。 『日本書紀』は、『古事記』と並ぶ日本最古の書物として知られていますが、現代のいわゆる「日本神話」という理解に立った場合には、『古事記』こそが古い神話を伝えるものであり、『日本書紀』は最初の国撰史書であって神話よりも古代史を伝えるものとして価値づけられていて、神話としての『日本書紀』という理解はあまり一般的ではないように思われます。 しかし、『日本書紀』には『古事記』と同様に神々の世界を描く「神代」が存在しており、「日本神話」を研究するためには『古事記』と並んで『日本書紀』もまた欠くことのできないものです。しかも、近世江戸時代に『古事記』が日本の古代を知るための文献として最も優れたものである、という評価がなされるまでの期間、中世以前においては『日本書紀』こそが日本の「始まり」について記すものとして正統なものであると考えられていました。 本科目指定テキスト『読み替えられた日本書紀』では、『日本書紀』がどのような意図に基づいて編纂されたのか、そして、日本における「始まり」を記した「神代」をめぐって、平安時代以降、どのような人々によってどのように読まれてきたのか、ということを論じています。 本科目では、テキストに説明される『日本書紀』の「読み替え」の具体的事例を歴史として学んでいくことがまずは求められます。しかし、同時に、本テキストの議論で基本的な視点として掲げる「中世神話」「中世日本紀」という分析視座、方法論について理解を深めることも重要な点としています。 「中世神話」「中世日本紀」という研究用語は、一般的とは言い難いものですが、専門の研究では研究史上において大きな意義を持つ視座として一定の評価が与えられるものです。これにつき、「中世神話」「中世日本紀」そのものの理論的な理解、また、分析視座、方法論、すなわち「神話の読み方」ということについて、具体的な『日本書紀』の「読み」の事例を踏まえつつ意識化し対象化することが求められます。 本テキストの主題それ自体への知見を深めつつ、歴史の中で「神話がどのように読まれてきたのか」また、現在の学問として「神話をどのように読むべきなのか」という問題意識や研究方法、本テキストの神話分析の考え方を学んでください。
■学習の要点	テキストの内容は、『日本書紀』の成立から現代の研究動向までを含む多岐に渡る内容となっています。また、構成は時代順にはなっていないので、注意してください。 プロローグでは、本科目で学ぶべき「中世神話」「中世日本紀」についての説明があります。 また、第一章・第二章では「中世神話」「中世日本紀」の議論の中心的な対象となる中世について論じています。プロローグ・第一章・第二章は、研究視座・方法論への理解を深めるために重要な部分となります。 第三章では平安時代（古代）、第四章では江戸時代（近世）、第五章では明治時代以降（近現代）における『日本書紀』の読まれ方、読み替えられ方が論じられています。各時代における特徴となる問題について理解を深めていってください。 なお、近現代を扱う第五章は、「中世神話」「中世日本紀」という『日本書紀』の読み方についての

	位置づけとして、プロローグ、およんでは本テキストに繋がる議論となっています。注意してください。　最終章である第六章では『日本書紀』そのものの成立を論じ、本テキストの結論が示されています。具体的な分析とともに、とくに「神話」をどのように考えるのか、という点については、本科目で学ぶべき重要なポイントとなりますので、意識するとよいでしょう。　テキストの各章について、単に知識として内容を学ぶだけではなく、神話・伝承学という研究、「中世神話」や「中世日本紀」あるいは「近世神話」という方法、考え方を意識して学ぶようににしてください。　リポート・試験について、注意するべき事柄をシラバスに記載しています。必ずそれぞれの「留意点」を読んで取り組んでください。　科目最終試験では、テキストの全体の中から選択されたテーマが出題されます。試験を受ける前には、リポートに用いた範囲だけではなく、テキスト全体として各章の理解を深めておいてください。

■学習の到達目標	1．テキストの内容を踏まえると共に、そこから導かれて当該の原典資料や他の文献を読み進めて理解を深める、という学習方法を身につけてください。2．リポート作成は、卒業論文を書くための基礎と考えてください。他人が読んで納得のいく、論理的な文章を書けるようになることが大切です。3．神話・伝承学という大きな視野を意識しつつ、中世神話・中世日本紀という分析方法を理解した上で、研究として神話を歴史的に位置づけ、そのことを説明できるようになることが具体的な目標です。

■成績評価の基準	1．科目最終試験では、テキストの内容、およびリポートの作成で学んだことを活せているかが評価の基準です。2．テキスト内容や知識だけではなく、試験の答案として学術的・論理的な文章を書くことも評価の基準とします。3．テキスト内容がきちんと踏まえられていることが前提ですが、他の文献や資料から学習したかどうか、その内容を適切に理解できているかどうかも評価の対象となります。【採点評価の割合の目安】中世神話・中世日本紀という研究方法への理解：30%『日本書紀』が歴史上どのように読まれてきたか、という問題に関す

授業科目	インド哲学				単位	4.0
担当者	細田　典明			シラバスグループ	TB6504	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
インド思想史	早島　鏡正	東京大学出版会	[ISBN]9784130120159

■授業の概要	前半は「ヴェーダの宗教と思想」として、仏教が誕生するまでの古代インド思想について、バラモン教の聖典であるヴェーダから哲学的詩篇を紹介し、ウパニシャッドの哲学へと発展していく過程を読解します。1 ヴェーダ文献 2『リグ・ヴェーダ』の神々3『リグ・ヴェーダ』の讃歌と哲学的思想 4『アタルヴァ・ヴェーダ』の呪術と哲学的思想 5 ブラーフマナの祭儀と神話 6 ウパニシャッドの哲学思想　　a. シャーンディリヤ; b. 五火・二道説; c. ウッダーラカ; d. ヤージュニャヴァルキヤ後半は「六派哲学」と呼ばれるインド正統派の６つの哲学が成立したマウリヤ王朝からグプタ王朝に至る時代背景と思想史を概観します。1 サーンキヤ学派(精神と物質の二元論)2 ヨーガ学派(実践論)3 ニヤーヤ学派(論理学)4 ヴァイシェーシカ学派(カテゴリー論)5 ミーマーンサー学派(聖典解釈学)6 ヴェーダーンタ学派(不二一元論)
■学習の要点	以下のキーワードを理解し、レポートを作成して下さい。「ヴェーダの宗教と思想」1 四ヴェーダ, 四祭官, ヴェーダの四部門, ヴェーダの補助学; 2『リグ・ヴェーダ』, 自然神, 特定の神々, 宇宙創造に関わる神々; 3 哲学的讃歌, 謎の歌, 原人の歌, 宇宙開闢の歌;4『アタルヴァ・ヴェーダ』, 呪法讃歌, 人体の構造を讃うる歌, 支柱の歌; 5 ブラーフマナ, 創造神話, 念想と同置, 祭式の内面化; 6 ウパニシャッド, 輪廻と解脱, 梵我一如, 五火・二道説,「汝はそれなり」,「あらず・あらずのアートマン」「六派哲学」1 サーンキヤ, 二元論, 25 原理, 純粋精神; 2 八支ヨーガ, 総持, 禅定, 三昧; 3 ニヤーヤ, 論理学, 認識手段, 認識対象; 4 ヴァイシェーシカ, カテゴリー論, 原子論, 実体と性質; 5 ミーマーンサー, 新得力,文法学, スポータ説; 6 ヴェーダーンタ,不二一元論, シャンカラ
■学習の到達目標	学習の要点に示される用語の理解によって、1 バラモン教典の内容を簡潔に説明し、原始仏教までの古代インド思想の特徴を教説に則して具体的に把握出来ることを目指します。 2 主要なインド思想について、それぞれの内容を簡潔に説明し、中世インド思想の特徴を教義に則して具体的に把握出来ることを目指します。
■成績評価の基準	自分の言葉でどれだけ論理的に論述がなされているかを判断します。

授業科目	東洋史概論				単位	4.0
担当者	山崎　覚士			シラバスグループ	TQ5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
東洋史概説	岩見宏ほか編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248815&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	歴史という学問は、過去の事実を単に知るだけのものではなく、現在の社会を理解するのに必要な社会全体の発展を学ぶためのものである。もちろん史実についての正確かつ充分な知識が要求されるが、個々ばらばらの史実が歴史の流れのなかでどのような意味をもって存在したかを考え、またそれが現代の諸問題の理解に役立つものでなければ、個々の史実を本当に理解したことにはならない。本科目のテキストはこの点をふまえ、中国史を中心に政治・経済・社会・文化および周辺諸民族に関する基礎的な知識を分かりやすく、系統的に学習できるよう、配慮したものである。
■学習の要点	次のようなテーマに基づいてテキストを精読しておくこと。　1．王朝末期に起こった民衆反乱を取り上げ、その原因・経過・結果はもちろんのこと、決起した民衆とその組織の実体、その反乱の時代的特質等を整理する。　2．各時代の文化の特徴についてまとめる。　3．各時代の王朝交替が起こった政治的・経済的・社会的な背景について整理すること。　4．漢民族と異民族の対抗を軸に中国史を整理する。　5．列強の侵略と民衆の抵抗を軸に中国近代史を整理する。　6．国民党と共産党を軸に 1919 年以降の中国史を整理する。
■学習の到達目標	歴史の学習の到達目標は、さまざまな歴史事象を歴史の流れの一部分としてではなく、全体的な歴史の流れの中で把握することにある。したがって各試験問題を解くにあたり、そうした観点に立って論述することが肝要となる。何はともあれ、解答を急がずに、まずポイントを箇条書きに整理してから、答案の作成に入るようにする。
■成績評価の基準	成績評価の基準は、解答の字数の多さにあるのではなく、問われている事項、例えば特徴・原因・結果・役割・相違・具体的事例等が、明確に正確に（誤字なく）指摘されているか、である。

授業科目	人文地理学				単位	4.0
担当者	渡邊　秀一			シラバスグループ	TX5505	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
人文地理学への招待	竹中克行 編著	ミネルヴァ書房	[ISBN]9784623072293

■授業の概要	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野である。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容を、高等学校における地理教育の内容を念頭に置きながら、「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは伝播、地域」に焦点を当てて学んでいく。
■学習の要点	①　人文地理学の基本的用語（概念）を理解する。　②　地理的事象間の相互関係を理解する。　③　複数の地理的事象を関係づけから、地域の特徴を理解する。
■学習の到達目標	①　人文地理学の基本的用語（概念）の意味を説明できる。　②　地理的事象を適切な概念を使って説明できる。　③　地域の特徴を複数の地理的事象を関係づけて説明できる。
■成績評価の基準	①　問題の主旨を正確に理解していること。　②　学習の到達目標①～③を踏まえた論述であること。　③　記述が論理的に構成されていること。　④　自ら作成したオリジナルの論述であること（なお、これに該当しないと判断した場合は　　不合格とする）

授業科目	自然地理学				単位	4.0
担当者	大邑　潤三			シラバスグループ	TX5507	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
自然地理学〔第 6 版〕 地球環境の過去・現在・未来	松原彰子著	慶應義塾大学出版会	[ISBN]9784766426526

■授業の概要	自然地理学は、主として人間の生活の場である地表を対象とするもので、研究対象としては、人間生活と関係する環境としての自然の諸性質を、地域という空間的広がりに観点をおいて研究するものである。ここで学習する自然地理学は、人間生活を取り巻く自然、即ち自然環境を扱う科目として設置されている。新たに高校教育に導入される地理総合では、自然地理学分野に関係の深い部分として、地図や地理情報システム（GIS）の利活用、場所や人間と自然環境との相互依存関係、地球環境問題、自然環境と防災、生活圏の調査と地域の展望、などを教えることが求められている。本授業では、地球規模の環境問題から身近で発生する各種自然災害、人間活動による自然環境の改変などを学ぶことを通じて、自然地理学の知識を習得することをねらいとする。またレポートに使用するデータや、自身の調査結果を地図にまとめる作業を通して、地図や地理情報システム（GIS）に触れ、地域を空間的にとらえる能力や技術を身につける。
■学習の要点	地球および地域の自然環境・災害に関する問題を把握することは、21 世紀を生きる我々にとって重要な課題である。特に日本列島は自然災害が多く発生する地域であり、環境や災害の問題を身近なものとして考える必要がある。そのためには指定テキストを読んで理解するだけでなく、より詳しい文献や、最新の報道などから情報を収集し、理解を深めることが必要である。また特定の地域について考える場合は自治体図書館の利用や、フィールドワークにもとづく考察が必要である。１．地球環境変遷の歴史および第四紀の気候変化を把握したうえで、気候変化に関わる諸要因についてそのメカニズムを理解し、説明できるようにすること。２．古気候や古環境、および旧海水準などの古地理の復元方法、各種年代測定の方法について理解し、そのしくみを説明できるようにすること。３．地球規模の各種環境問題について理解し、それに対する最新の取り組みなどについて報道などから自分で情報収集をおこなうこと。また持続可能な社会を実現するためにはどのようにすべきか意見を持つこと。４．プレートテクトニクスや地殻変動と関連づけて地震や火山の活動を理解し、それに伴って発生する様々な自然現象と被害について地形などをからめて深く知っておくこと。５．日本の沖積平野にみられる代表的な地形の特徴や形成要因などについて理解し、それに基づいてそれぞれの地形における土地利用のされ方や災害リスクについて考え、自分で調べること。６．現在自分の住む地域の自然環境や開発のあり方に関心を持ち、自治体の作成しているハザードマップなどを閲覧して、地域の災害リスクとその対策を考えておくこと。
■学習の到達目標	人間生活を取り巻く自然についてそのメカニズムを正しく理解したうえで、自然災害への対策や社会のあり方について考察できるようになる。調査や学習の結果を図表などにまとめ、わかりやすく表現する技能を身につける。

■成績評価の基準	設問の内容および学習の到達目標を正しく理解し、論理的に一貫性をもった正しい解答が述べられているかどうかにより評価する。

授業科目	法律学概論				単位	4.0
担当者	宮村　教平			シラバスグループ	TS5545	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高校から大学への法学〔第2版〕	君塚正臣・編	法律文化社	[ISBN]9784589037404

■授業の概要	この科目では、法律が自身の生活や社会に深く関わっていることを実感するとともに、法律学の基本概念や考え方を習得してもらうことを目指す。教科書を熟読したうえで、そこから他の資料や文献にもあたって主体的に学びを進めていって欲しい。
■学習の要点	１．近代民法の原則２．現代の家族問題（夫婦同氏の原則、再婚禁止期間）３．消費者契約・労働契約と契約自由の原則４．罪刑法定主義５．犯罪の成立要件６．不法行為７．生存権と社会保障８．労働基本権の保障内容
■学習の到達目標	①法律学の基本概念を理解する②現代社会における法的問題について関心を持ち、主体的に考察するとともに、論理的思考力、文章記述力を養う。
■成績評価の基準	問題文で問われていることについて過不足なく回答しているか、出題の趣旨を正確に理解しているかが問われる。同時に、文章としての形式が整った、日本語として適切な文章が書けているかも評価項目となる。

授業科目	生涯学習概論				単位	4.0
担当者	山本　桂子			シラバスグループ	TS5103	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
生涯学習概論	西岡正子編著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248756&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	生涯学習体系への移行が進む中、教育に関わる者としても、また一市民としても、生涯学習の基本を知らずして、学び働くことは不可能といえる。本科目において、生涯学習の基礎理念、基礎知識、国及び地域の実態及び実践の手法を学び、生涯学習社会を建設し、生涯学習時代を生きる力を付けていただきたい。
■学習の要点	テキストを精読し、下記の事項について理解を深めておくこと。　1.ユネスコにおける生涯学習論の展開について　2.学校式教育の特色について　3.ハッチンスの学習社会論について　4.学社融合による展開について　5.人の成長に関する二つのモデルについて　6.学歴社会から学習社会への移行に関する機構改革について
■学習の到達目標	「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進め、理解を深めること。
■成績評価の基準	メモのような箇条書きや、テキストの丸写しは解答とみなさない。試験問題が求める学習の要点を正しく理解し、その要点を中心にまとめること。問題によっては実態を調べ自分の意見や考察を加えること。

授業科目	美術史				単位	4.0
担当者	大西　磨希子			シラバスグループ	TB5426	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
日本美術史　歴史編	山下裕二・高木輝　監	美術出版社	[ISBN]9784568389074

■授業の概要	テキストを通して日本美術史の全体的な流れや、代表的作品や作家、各種の流派や主要な技法など、基本的知識を養います。そのうえで、各人の必要や関心に応じて、参考文献に目を通したり、時には寺社仏閣や展覧会などに足を運ぶことによって、知識を体験に結び付けながら身に着けることを目指します。とくに、各人が興味を持った作品について深く調べることにより、概説ではうかがい難い学問的議論の方法論や、卒業論文の作成に必要となる先行研究の検索や読解、さらに批判といった能力を養うことを目指します。
■学習の要点	テキストを熟読し、歴史の流れを把握するだけでなく、必ず関連する他の文献も活用しながら学習するようにしましょう。例えば以下のような要点をノートに整理しながら進めていくと理解の助けとなるでしょう。・作品が生まれた背景は何か。いかなる歴史的背景をもっていたのか、いかなる意識のもとで育まれたのか。・中国大陸や朝鮮半島からもたらされた様式・技術・技法が、いかに取り入れていったのか。・美術を担う社会階層や地域差はどうであったか。・造形的特徴や技法にはどのようなものがあり、どう変遷していったのか。・各時代の様式、流派などにおける代表的人物は誰であるか。代表的作品にはどのようなものがあるか。
■学習の到達目標	次の２点を、本科目における学習の到達目標とする。１）自身が選んだ作品について正しく理解し、論理的に記述することができる。２）取り上げた学術論文の正確に読解し、かつ自分の言葉でまとめることができる。
■成績評価の基準	成績は、上記の到達目標２点に加え、答案作成に関わる次の５点を加味して、総合的に評価する。３）問題を正しく理解し、求められた内容に的確に答えることができる。４）各時代の代表的人物や代表的作例、様式的特徴などを具体的に記述することができる。５）キーワードや要点を押さえ、論理的に記述することができる。６）答案としての書式を守っている。７）論文の一部を引用した文章と自身の文章との書き分けができる。

授業科目	教育行政学				単位	4.0
担当者	大林　照明			シラバスグループ	TZ5141	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育行政学（第４版）子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎　編著	八千代出版	[ISBN]9784842918396

■授業の概要	法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか、それを考え、具体化していくのが教育行政の役割です。近年、教育行政・制度は大きく変化しています。本科目ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を、テキスト履修をとおして広く理解することを目指します。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について、リポート作成をとおして考察してもらいます。
■学習の要点	基本的には教科書の各章をまんべんなく学習してください。特につぎの要点、キーワードについては十分に学習するようにしてください。1.【第 1 章】教育基本法の変化（共同統治モデル・成果管理モデル）　※巻末の教育基本法全文は一度よく読むようにしてください。2.【第 2 章】戦後の教育政策形成の流れ（勅令主義から法律主義へ、官邸主導）3.【第 3 章】戦後教育行政（改革）における 3 つの原則、教育委員会法と地教行法、2015 年度からの教育委員会制度（特に変更点：教育長へ一本化、総合教育会議、大綱の策定など）4.【第 4 章】県費負担教職員（第 8 章にも説明あり）、義務教育費国庫負担金制度、総額裁量制 5.【第 5 章】 学習指導要領の法的拘束力、教科書採択の仕組み、広域採択制度、教科書の使用義務・無償給与 6.【第 6 章】私教育と公教育、学校体系（複線型・分岐型・単線型）、学校の設置者と種類（一条校など）、義務教育制度（就学義務、授業料の無償化、就学援助（第 11 章にも説明あり）、学校設置義務）、不登校の定義、脱落型不登校、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（第 9 章にも説明あり）7.【第 7 章】学校組織のしくみ（校務分掌、職員会議の法的位置づけ）、学校組織の特性（官僚制と疎結合）、コミュニティースクール（学校運営協議会の法的権限含む）8.【第 8 章】教職員の種類、新たな職階、服務義務、教職の困難、専門家との連携（テキストには記載がないが「チームとしての学校」についても自分で調べてみること）9.【第 11 章】 保育所と幼稚園の制度上の違い、幼保一元化と認定こども園、子どもの虐待とその対応
■学習の到達目標	①教育行政・制度の概要を理解する②教育行政・制度のあり方を見直す観点を持つ
■成績評価の基準	①教育行政・制度に関わるキーワードの正確な理解ができている（キーワードの説明はテキストからそのまま抜き書きするのではなく、論述課題への解答となるように、自分の言葉でまとめるようにしてください。）②キーワードの正確な理解に基づいて、既存の教育行政・制度についての自身の見解が、論理的に展開されている

授業科目	教科教育法宗教１				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TZ5161	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教を考える教育仏教と教育	（宗教を考える教育）宗教教育研究会（仏教と教育）竹内明著	（宗教を考える教育）教文館（仏教と教育）佛教大学通信教育部	（宗教を考える教育）[ISBN]9784764273177（仏教と教育）{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248848&refHpStenCode=68038}
仏教読本	浄土宗仏教読本改訂委員会	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244835&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	前半では私学宗教科担当教師に必要な法的知識、教学的知識、宗教科教師の信仰、日本仏教における本覚思想の功罪などを学習する。後半は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	学習の重点テーマは以下の様である。（１）日本国憲法第 20 条、教育基本法第 9 条。（２）（１）をふまえて「信教の自由」。学校・教師、児童・生徒、親の立場。（３）仏教における心の問題。（４）日本本覚仏教と法然浄土教。（５）宗教科の教師自身の信仰。（６）学習した知識をもとに学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を行う。各自、テキスト・参考書等により、ノートに本テーマをまとめておくこと。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕を参考にすること。
■成績評価の基準	仏教の教学が理解されたうえで、答案作成者の明確な評論意見を述べること。

授業科目	教科教育法宗教２				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TZ5163	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教科教育法	管井大果著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248786&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教系私立学校における宗教教育、宗教科授業を展開するための基礎力養成をねらいとする。
■学習の要点	学習の中心テーマは以下の様である。（１）日本国憲法第 20 条とその周辺。（２）宗教教育の諸形態（テキスト前半「(上)」p.42 以下)。（３）仏教教育とは何か。（４）仏教の基礎知識。縁起、中道、八正道、四諦。（５）宗教科教師論（テキスト後半「(下)」p.78 以下)。（６）指導法各自、参考書等により、上記テーマに関することがらをノートにまとめておくこと。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕を参考にすること。
■成績評価の基準	仏教の教学が理解された上で私立・公立における宗教教育の問題を理解し、答案作成者の明確な評論意見を述べること。

授業科目	教科教育法社会１				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。２．学習指導要領「第１ 目標」のポイントについて理解を深める。３．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	教科教育法社会２				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5653	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会科授業づくりの理論と方法本質的な問いを生かした科学的探求学習	渡部　竜也・井手口　泰典　著	明治図書	[ISBN]9784183429230

■授業の概要	「社会１」では、中学校社会科指導の表層について理解し、授業を構想した。本科目（「社会２)」では、社会科教育をより深く理解するための学習を展開する。具体的には、「科学的探求学習」の視点に基づき、より本質的な社会認識形成を意図する学習指導のあり方を考える。
■学習の要点	①今日の社会科授業の現状と課題を把握する。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解する。③「問いの構造図」について理解を深める。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解を深める。⑤「科学的探求学習」の授業プランについて考えを深める。
■学習の到達目標	①今日の社会科授業の現状と課題を指摘できる。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解している。③「問いの構造図」について理解している。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解している。⑤「科学的探求学習」の授業プランを構想することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	教科教育法地理歴史				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5156	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　地理歴史編	文部科学省	東洋館出版社	[ISBN]9784491036410

■授業の概要	地理歴史科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。地理歴史科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて地理歴史科（地理総合・地理探究・歴史総合・日本史探究・世界史探究）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて地理歴史科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．地理歴史科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．地理歴史科の目標と科目編成について理解を深める。３．「地理総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「地理探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「歴史総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．「日本史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。７．「世界史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。８．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。９．これからの地理歴史科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。１０．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における地理歴史科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	教科教育法公民				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5158	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　公民編	文部科学省	東京書籍	[ISBN]9784487286331
シティズンシップ教育のすすめ―市民を育てる社会科・公民科授業論	杉浦真理・著	法律文化社	[ISBN]9784589034984

■授業の概要	公民科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。公民科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて公民科（公共・倫理・政治経済）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて公民科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．公民科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．公民科の目標と科目編成について理解を深める。３．「公共」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「倫理」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「政治経済」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの公民科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における公民科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	教科教育法国語１				単位	4.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TZ5171	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究	全国大学国語教育学会編	東洋館出版社	[ISBN]9784491037677
高等学校学習指導要領解説〈平成 30 年告示〉国語編中学校学習指導要領解説〈平成29年告示〉国語編	文部科学省編著文部科学省編著	東洋館出版社東洋館出版社	[ISBN]9784491036403[ISBN]9784491034706

■授業の概要	社会の変化や種々の学力調査の結果などを受け、国語科教育観や国語科学力観は大きく変化している。また、全ての教科において「主体的・対話的で深い学び」が目指される中、生徒の国語力の向上に関する中核的な役割を果たす場として、国語科教育の重要性が改めて指摘されている。このような点から、これから国語科教員を目指すものには、中等段階における国語科教育の位置づけや内容についてのより深い理解と、適切な学力の獲得を保証するような授業実践力が強く求められる。そこで、本科目における到達目標を以下の通り設定する。（1）中等教育段階の国語科教育の動向や現状、内容について理解することができる。（2）（1）の理解を踏まえて、実際に国語科授業を構想・実践することができる。
■学習の要点	まずは中学校国語科、高等学校国語科の全体像を正しく理解することが必要です。それぞれがどのような領域・事項、科目からなっているのかについて確認しましょう。その後、それぞれの領域・事項、科目の概説や目標・内容について整理していきましょう。その際に、実際の教材や言語活動と重ねながら理解を深めることが実践力の獲得へとつながります。テキストに掲載された教材や指導例をはじめ、その他の資料（教科書など）なども確認しながら、テキストに示された内容についてより具体的にイメージしながら理解していきましょう。
■学習の到達目標	新学習指導要領に基づいた、国語科教育の実際について説明することができる。
■成績評価の基準	テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか（60%）単なるテキストの理解にとどまらず自分なりにその指導について考えを深めることができているか（40%）

授業科目	教科教育法国語２				単位	4.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TZ5173	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校国語科の授業プラン	吉川芳則編著	明治図書	[ISBN]9784182529245
中学校学習指導要領解説〈平成 29 年告示〉国語編	文部科学省編著	東洋館出版社	[ISBN]9784491034706

■授業の概要	現在、中等国語科教育は大きな転換期にある。新学習指導要領への移行、高大接続改革などの大きな教育改革の中で、国語科教育についてもこれまでの教師主導で教材理解に主眼を置くような授業からの脱却、生徒が主体となって課題を解決する中で社会の中で生きて働くような国語科学力の育成を目指す授業の創造などが求められている。しかし、一方で、教育現場にはこれまでの国語科授業観が根強く残っていることも事実である。これからの国語科教育を担っていく若い教員には、まさに今求められている国語科教育の在り方についての深い理解とそれを実践する授業力を持ち、教育現場に新しい風を送っていくことが求められている。以上を踏まえて、本科目においては，今日の中等国語科教育の現状とそこで求められる指導の実際について理解することを目的としている。
■学習の要点	本科目では、特に中学校国語科に焦点をあて、新学習指導要領（平成 29 年版）に示される国語科のあり方についての理解を深める。学習指導要領の内容がどの様に改定されたのか、それによってこれからの国語科授業はどう変わるのか等について適切に理解を深めてください。
■学習の到達目標	新学習指導要領（平成 29 年版）に基づいたこれからの中等国語科教育について、具体的な教材（活動）を例に挙げながら説明することができる。
■成績評価の基準	指導要領の内容を適切に理解しているか（40%）テキスト、指導要領の内容を踏まえた具体的な授業イメージをもつことができているか（40%）自分の考えや経験を適切に交えて論述することができているか（20%）

授業科目	教科教育法書道				単位	4.0
担当者	加藤　達			シラバスグループ	TZ5176	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科教育法書道〔第3版〕	加藤達成編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248867&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の国際化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会の到来など21世紀を生きる人材の急務により、学校教育の在り方として、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とした教育課程の情操教育をめざす書道科の改善が図られ、学校５日制導入に適応する教科内容となった。　教科教育法書道は義務教育の基礎の上に立って、書道学習の最低限必要となる知識や技能の発達をめざし、幅広く学んだりする仕組を整えた教科である。　特に生涯教育の立場に立って、理想とする芸術教育活動を充実発展させるため、個性の尊重や自己実現を夢みて、創造力向上のために「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の二領域を緊密な学習の展開として重視し、芸術の幅広い活動を通して、感性や豊かな情操を養うことを強調した教科・科目である。
■学習の要点	芸術科書道においては、次のような点について学習の適切な効果を図ること。１．高等学校学習指導要領に示された書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目標（性格）内容についてＡ表現の主な指導事項を把握し、系統性を重視してその発展性を検討すること。２．Ｂ鑑賞の主な指導事項に精通して、表現領域との表裏を検討すること。３．書道各科目に示された「内容の取扱い」を理解して、効果的な指導法を工夫し検討すること。４．書写教育、書道教育の相違と関連性を重視し、毛筆・硬筆の特色とその用途による展開点を把握し、個性の伸展に期す指導法を検討すること。５．理解事項である書論・書道史に精通すること。中国・日本の関連を図りながら現代を踏まえて、書の本質を検討すること。６．評価の観点とその方法を理解し、作品の鑑別に当たって適切な評価を行い、指導助言の個別化を検討すること。
■学習の到達目標	１．試験問題を熟読して、その要旨を理解すること。２．自己の考察を明確にまとめること。３．出題の要旨を加味し追及すること。
■成績評価の基準	内容が十分理解していること。記述が明瞭であること。

授業科目	教科教育法中国語１				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TZ5181	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版	守屋宏則・李軼倫　著	東方書店	[ISBN]9784497219183

■授業の概要	文法を体系的に理解し、教授する力を養成する。
■学習の要点	テキスト「はじめに」及び「目次」を参照。
■学習の到達目標	文法の基礎をよく理解すること。科目最終試験は、問題をすべてテキストに即して出題するので、テキストの例文について文法説明ができるように準備してください。
■成績評価の基準	ピンインが正確かどうか、文法事項が理解しているかどうかを評価基準とします。

授業科目	教科教育法中国語２				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TZ5183	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
教師のための中国語音声学	平井　勝利 著	白帝社	[ISBN]9784863981195

■授業の概要	初級中国語教育において最も大きな比重を占める発音指導について、正しい音声学的知識を身に付けることで、自らの発音矯正に役立てるとともに、生徒に対しても適切な指導ができるように導く。
■学習の要点	1．音素レベル（声母、母音、鼻音韻尾）2．音節レベル（介母、韻母、声調、r 化など）3．超音節レベル（二音節の声調の組み合わせなど）4．発話レベル（強勢、ポーズなど）
■学習の到達目標	中国語教育に参考となる幅広い視点を身につけること。科目最終試験には中国語の基礎知識を問う設題を含む。科目最終試験の成績評価は、テキストに即した基礎知識の理解度によって評価する。「答案」には具体例を挙げることを求める。
■成績評価の基準	基本事項が理解できているかどうかを評価基準とします。

授業科目	教科教育法英語１				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TZ5186	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい英語科授業の実践改訂版　グローバル時代の人材育成をめざして	石田雅近・小泉仁 著	金星堂	[ISBN]9784764741119

■授業の概要	１）英語教育の目的、現状、指導事例の紹介といった講義を中心に、中学校・高等学校英語科教員としての資質の基礎を養成する。また、講義だけではなく、学んだ指導方法等をもとにして効果的な授業のあり方を考え、それを模擬授業という形で実践へとつなげていく。現在では目標言語である英語を使って授業をすることが求められており、英語力と指導力の融合もはかりたい。２）実践から理論（英語教育の目的、学習指導要領、第二言語習得論、４技能の指導理論）の理解へとつなげる。また、英語を使った授業展開に必要な英語表現や、文法指導の基礎となる英文法知識についても確認する。理論と英語力という二つの側面から、中学校・高等学校英語科教員としての資質を養成する。※模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえ、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net にて提出させ指導を行う。
■学習の要点	１）まずはテキスト全体に目を通し、全体像を捉え、その有機的なつながりを把握した上で、個々のパートを深く理解することが必要である。リポート作成や試験勉強のために、当該の箇所だけを読む学生が見られるが、そのような学生のリポートや答案は概して焦点がずれていることが多い。学習は基本的にテキストの範囲内で十分であるが、どうしても理解できない時は、他の英語教育関連の参考書にあたってみることで理解が得られることも多い。２）テキストのうち、以下の項目に関しては重点的に理解しておくこと。①英語指導法の変遷、②英語の習得過程と指導との関係、③指導と評価の一体化、④音声と文字の指導、⑤文法指導、⑥語彙の指導、辞書の指導、⑦英語を使った授業展開。３）平成 29 年および 30 年に学習指導要領が改訂となったが、どのように「外国語科」の目標は改訂されたのかを理解しておくこと。学習指導要領については、文部科学省のホームページで確認することができる。４）英語でオーラル・イントロダクションおよびテキスト理解のための発問ができるようにしておくこと。５）生徒ための英文エッセイのサンプルが書けるようにしておくこと。
■学習の到達目標	１）本講義で紹介された学校英語教育、第二言語習得論、英語教授法に関する内容や用語を簡潔に説明することができる。２）効果的な言語活動を取り入れた学習指導案を作成し、学習効果をあげる授業を実践することができる。３）中学生・高校生対象の授業を、基本的に英語で行うことができる。４）生徒の発話または英作文が、文法的に正しい英語であるのか、そうでないのかを判断することができる。
■成績評価の基準	１）解答に必要なキーワードとその説明を含めること。２）英語を使った授業の展開については、オリジナル性が求められる。剽窃および盗用厳禁。

授業科目	教科教育法英語２				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TZ5188	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際語としての英語　進化する英語科教育法	若本夏美／今井由美子／大塚朝美／杉森直樹	松柏社	[ISBN]9784775402467

■授業の概要	１）「教科教育法英語１」または「中等教科教育法英語Ⅰ」で学んだことに基づき、学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画について理解を深めた上で、中学校・英語科および小学校高学年・英語科における授業実践を中心に展開し、授業実践力と省察力を養成する。模擬授業を経験することで、授業力を身につけてもらいたい。２）各受講生の授業実践を振り返り、学習指導要領、第二言語習得論、英語教授法理論といった理論的側面から検討しなおすことで、さらに学習効果の高い授業実践ができるようになることを目指す。また、４技能の指導のみならず、音声指導、異文化理解からのアプローチ、ICT の活用、生徒の特性・習熟度への対応についても検討する。※模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえ、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net にて提出させ指導を行う。
■学習の要点	１）まずはテキスト全体に目を通し、全体像を捉え、その有機的なつながりを把握した上で、個々のパートを深く理解することが必要である。リポート作成や試験勉強のために、当該の箇所だけを読む学生が見られるが、そのような学生のリポートや答案は概して焦点がずれていることが多い。学習は基本的にテキストの範囲内で十分であるが、どうしても理解できない時は、他の英語教育関連の参考書にあたってみることで理解が得られることも多い。２）テキストのうち、以下の項目に関しては重点的に理解しておくこと。　①「英語能力をどう評価するか」　②「Communicative Language Teaching とは？」　③「Oral Approach とは？」④「Grammar Translation Method とは？」　⑤「聞くこと・話すことをどう指導するか？」⑥「読むこと・書くことをどう指導するか？」３）中学生に対し、「新教材の導入」を英語で行うことができるようにすること。４）平成 29 年告示の学習指導要領における、小学校と中学校の「外国語科」の目標について理解しておくこと。学習指導要領については、文部科学省のホームページで確認することができる。
■学習の到達目標	【中学校英語科：発展】１）小学校・中学校学習指導要領英語科における目標・内容について簡潔に説明することができる。２）小学生・中学生を対象にして、学習効果の上がる授業、英語を使用した授業を計画し、それを実践することができる。３）自身の授業実践を客観的に省察し、改善へと結びつけることができる。４）理論的に裏付けられた、学習効果の高い授業を実践することができる。５）効果的な生徒の音声指導をすることができる。６）異文化理解を取り入れた英語の授業を展開することができる。７）ICT を活用した授業展開を設計することができ、また実践することができる。８）画一的な指導だけではなく、生徒の特性・習熟度を踏まえた個別的な指導ができる。
■成績評価の基準	１）解答に必要なキーワードとその説明を含めること。２）英語を使った授業の展開については、オリジナル性が求められる。剽窃および盗用厳禁。３）文法事項の導入においては、文法説明よりもコミュニケーション活動を重視すること。

授業科目	教科教育法情報				単位	4.0
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	TZ5191	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報科教育法〔第 2 版〕	岡本敏雄･高橋参吉･西野和典編著	丸善出版	[ISBN]9784621089071
高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省編著	開隆堂	[ISBN]9784304021633

■授業の概要	高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この授業では、新学習指導要領の共通教科情報科（情報Ⅰ）の内容との関連も含めて、情報科の意義、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。また、現行学習指導要領の「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する分野の学習内容について、学習指導案の作成や模擬授業を通して、具体的な授業方法についても学ぶとともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。
■学習の要点	１．学習指導要領解説編を読んで、情報教育の変遷、情報科の意義と目標について、まとめてみよう。２．テキストを参考にしながら、情報Ⅰおよび情報Ⅱの各項目において、取りあげる内容と主な学習活動について、まとめてみよう。３．テキストや検定教科書を参考にして、以下の項目について、授業の展開例と学習指導の具体例について、考えてみよう。(a)メディアと情報、情報のディジタル化(b)情報モラル、情報と法制度、個人情報、著作権(c)ネットワーク、情報セキュリティ(d)情報デザイン、コンテンツ、情報の表現・発信(e)アルゴリズム、プログラミング、モデル化とシミュレーション、データベース４．テキストを参考にして、授業設計、学習指導の方法と学習評価について、考えてみよう。また、授業設計において、情報機器および教材の活用についても考えてみよう。５．テキストや検定教科書を参考にして、学習指導案や教材作成を通して、学習評価や授業改善についても、考えてみよう。
■学習の到達目標	高等学校情報科の意義、教育目標および科目概要について説明できる。高等学校情報科の科目内容および指導上の留意点について説明できる。高等学校情報科の学習指導に対する方法および評価について説明できる。情報科の科目について、授業設計、情報機器および教材の活用ができる。情報科の授業設計に基づく、学習指導案が作成できる。学習指導案に基づき模擬授業を実施し、授業改善について考えることができる。
■成績評価の基準	以下の点に留意して記述すること。１）論述問題の科目（情報Ⅰおよび情報Ⅱ）の指定された大項目について、目標を簡潔に記述すること。２）指定された項目に対する、ポイントとなる具体的な学習内容を記述すること。３）２）で記述した学習内容に対する指導上の留意点を記述すること。

授業科目	教科教育法福祉				単位	4.0
担当者	守野　美佐子			シラバスグループ	TZ5196	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領解説 福祉編	文部科学省	海文堂出版	[ISBN]9784303125110

■授業の概要	前半では、福祉教育・高等学校福祉科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」や福祉科の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。後半では、学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。福祉教育の本質と学習指導要領における高等学校福祉科の性格についてさらに理解を深める。
■学習の要点	本科目で学習していただきたいことの要点は、次のとおりである。次の①～⑨の項目について、単元の構成と目標を十分に理解する。 ①「社会福祉基礎」社会福祉とはどういうものか。 ②「介護福祉基礎」介護の意義とその内容。 ③「コミュニケーション技術」コミュニケーションに関する基礎的知識と技術。 ④「生活支援技術」自立を尊重した生活支援とは。 ⑤「介護過程」介護過程の展開。 ⑥「介護総合演習」介護演習や事例研究など総合的学習と学習の深化をはかる。 ⑦「介護実習」施設等の現場実習を含む体験的学習。 ⑧「こころとからだの理解」自立生活支援のためのこころとからだの理解。 ⑨「福祉情報処理」福祉サービスにおけるコンピューターの活用。 上記①から⑨の福祉に関する各項目について、高等学校で指導する方法を工夫する。 その際、高校生という、生徒の学習意欲や能力を考慮しながら、限られた時間、空間、環境の中でもっとも生徒の学習効果が上がる教育方法を考えていくことを、常に念頭においていただきたい。将来を担う高校生が、未来を見据えて、積極的に活き活きと学習できる教科となるような指導案が作成できることを目指していただきたい。
■学習の到達目標	高等学校福祉科】１．学習指導要領における福祉科の目標・内容並びに全体構造を理解している。２．福祉科の学習内容について、指導上の留意点を理解し、教材研究を行うことができる。３．生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。４．学習指導案の構成を理解し、福祉科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を取り入れ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。５．福祉科の学習評価の考え方を理解している。６．模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。７．福祉科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	① 「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。② 採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③ 出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は、1200 字以上に及んでいることを充たせば 10 点を加える。

授業科目	中等教科教育法社会１				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。２．学習指導要領「第１ 目標」のポイントについて理解を深める。３．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第３ 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会・地理歴史				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5156	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　地理歴史編	文部科学省	東洋館出版社	[ISBN]9784491036410

■授業の概要	地理歴史科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。地理歴史科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて地理歴史科（地理総合・地理探究・歴史総合・日本史探究・世界史探究）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて地理歴史科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．地理歴史科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．地理歴史科の目標と科目編成について理解を深める。３．「地理総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「地理探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「歴史総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．「日本史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。７．「世界史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。８．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。９．これからの地理歴史科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。１０．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における地理歴史科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会・公民				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5158	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　公民編	文部科学省	東京書籍	[ISBN]9784487286331
シティズンシップ教育のすすめ―市民を育てる社会科・公民科授業論	杉浦真理・著	法律文化社	[ISBN]9784589034984

■授業の概要	公民科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。公民科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて公民科（公共・倫理・政治経済）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて公民科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．公民科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．公民科の目標と科目編成について理解を深める。３．「公共」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「倫理」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「政治経済」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの公民科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における公民科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法国語１				単位	4.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TZ5171	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究	全国大学国語教育学会編	東洋館出版社	[ISBN]9784491037677
高等学校学習指導要領解説〈平成 30 年告示〉国語編中学校学習指導要領解説〈平成29年告示〉国語編	文部科学省編著文部科学省編著	東洋館出版社東洋館出版社	[ISBN]9784491036403[ISBN]9784491034706

■授業の概要	社会の変化や種々の学力調査の結果などを受け、国語科教育観や国語科学力観は大きく変化している。また、全ての教科において「主体的・対話的で深い学び」が目指される中、生徒の国語力の向上に関する中核的な役割を果たす場として、国語科教育の重要性が改めて指摘されている。このような点から、これから国語科教員を目指すものには、中等段階における国語科教育の位置づけや内容についてのより深い理解と、適切な学力の獲得を保証するような授業実践力が強く求められる。そこで、本科目における到達目標を以下の通り設定する。（1）中等教育段階の国語科教育の動向や現状、内容について理解することができる。（2）（1）の理解を踏まえて、実際に国語科授業を構想・実践することができる。
■学習の要点	まずは中学校国語科、高等学校国語科の全体像を正しく理解することが必要です。それぞれがどのような領域・事項、科目からなっているのかについて確認しましょう。その後、それぞれの領域・事項、科目の概説や目標・内容について整理していきましょう。その際に、実際の教材や言語活動と重ねながら理解を深めることが実践力の獲得へとつながります。テキストに掲載された教材や指導例をはじめ、その他の資料（教科書など）なども確認しながら、テキストに示された内容についてより具体的にイメージしながら理解していきましょう。
■学習の到達目標	新学習指導要領に基づいた、国語科教育の実際について説明することができる。
■成績評価の基準	テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか（60%）単なるテキストの理解にとどまらず自分なりにその指導について考えを深めることができているか（40%）

授業科目	中等教科教育法書道				単位	4.0
担当者	加藤　達			シラバスグループ	TZ5176	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科教育法書道〔第3版〕	加藤達成編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248867&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の国際化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会の到来など21世紀を生きる人材の急務により、学校教育の在り方として、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とした教育課程の情操教育をめざす書道科の改善が図られ、学校５日制導入に適応する教科内容となった。　教科教育法書道は義務教育の基礎の上に立って、書道学習の最低限必要となる知識や技能の発達をめざし、幅広く学んだりする仕組を整えた教科である。　特に生涯教育の立場に立って、理想とする芸術教育活動を充実発展させるため、個性の尊重や自己実現を夢みて、創造力向上のために「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の二領域を緊密な学習の展開として重視し、芸術の幅広い活動を通して、感性や豊かな情操を養うことを強調した教科・科目である。
■学習の要点	芸術科書道においては、次のような点について学習の適切な効果を図ること。１．高等学校学習指導要領に示された書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目標（性格）内容についてＡ表現の主な指導事項を把握し、系統性を重視してその発展性を検討すること。２．Ｂ鑑賞の主な指導事項に精通して、表現領域との表裏を検討すること。３．書道各科目に示された「内容の取扱い」を理解して、効果的な指導法を工夫し検討すること。４．書写教育、書道教育の相違と関連性を重視し、毛筆・硬筆の特色とその用途による展開点を把握し、個性の伸展に期す指導法を検討すること。５．理解事項である書論・書道史に精通すること。中国・日本の関連を図りながら現代を踏まえて、書の本質を検討すること。６．評価の観点とその方法を理解し、作品の鑑別に当たって適切な評価を行い、指導助言の個別化を検討すること。
■学習の到達目標	１．試験問題を熟読して、その要旨を理解すること。２．自己の考察を明確にまとめること。３．出題の要旨を加味し追及すること。
■成績評価の基準	内容が十分理解していること。記述が明瞭であること。

授業科目	中等教科教育法宗教１				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TZ5161	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教を考える教育仏教と教育	（宗教を考える教育）宗教教育研究会（仏教と教育）竹内明著	（宗教を考える教育）教文館（仏教と教育）佛教大学通信教育部	（宗教を考える教育）[ISBN]9784764273177（仏教と教育）{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248848&refHpStenCode=68038}
仏教読本	浄土宗仏教読本改訂委員会	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244835&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	前半では私学宗教科担当教師に必要な法的知識、教学的知識、宗教科教師の信仰、日本仏教における本覚思想の功罪などを学習する。後半は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	学習の重点テーマは以下の様である。（１）日本国憲法第 20 条、教育基本法第 9 条。（２）（１）をふまえて「信教の自由」。学校・教師、児童・生徒、親の立場。（３）仏教における心の問題。（４）日本本覚仏教と法然浄土教。（５）宗教科の教師自身の信仰。（６)学習した知識をもとに学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を行う。各自、テキスト・参考書等により、ノートに本テーマをまとめておくこと。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕を参考にすること。
■成績評価の基準	仏教の教学が理解されたうえで、答案作成者の明確な評論意見を述べること。

授業科目	中等教科教育法中国語１				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TZ5181	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版	守屋宏則・李軼倫　著	東方書店	[ISBN]9784497219183

■授業の概要	文法を体系的に理解し、教授する力を養成する。
■学習の要点	テキスト「はじめに」及び「目次」を参照。
■学習の到達目標	文法の基礎をよく理解すること。科目最終試験は、問題をすべてテキストに即して出題するので、テキストの例文について文法説明ができるように準備してください。
■成績評価の基準	ピンインが正確かどうか、文法事項が理解しているかどうかを評価基準とします。

授業科目	中等教科教育法英語１				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TZ5186	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい英語科授業の実践改訂版　グローバル時代の人材育成をめざして	石田雅近・小泉仁 著	金星堂	[ISBN]9784764741119

■授業の概要	１）英語教育の目的、現状、指導事例の紹介といった講義を中心に、中学校・高等学校英語科教員としての資質の基礎を養成する。また、講義だけではなく、学んだ指導方法等をもとにして効果的な授業のあり方を考え、それを模擬授業という形で実践へとつなげていく。現在では目標言語である英語を使って授業をすることが求められており、英語力と指導力の融合もはかりたい。２）実践から理論（英語教育の目的、学習指導要領、第二言語習得論、４技能の指導理論）の理解へとつなげる。また、英語を使った授業展開に必要な英語表現や、文法指導の基礎となる英文法知識についても確認する。理論と英語力という二つの側面から、中学校・高等学校英語科教員としての資質を養成する。※模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえ、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net にて提出させ指導を行う。
■学習の要点	１）まずはテキスト全体に目を通し、全体像を捉え、その有機的なつながりを把握した上で、個々のパートを深く理解することが必要である。リポート作成や試験勉強のために、当該の箇所だけを読む学生が見られるが、そのような学生のリポートや答案は概して焦点がずれていることが多い。学習は基本的にテキストの範囲内で十分であるが、どうしても理解できない時は、他の英語教育関連の参考書にあたってみることで理解が得られることも多い。２）テキストのうち、以下の項目に関しては重点的に理解しておくこと。①英語指導法の変遷、②英語の習得過程と指導との関係、③指導と評価の一体化、④音声と文字の指導、⑤文法指導、⑥語彙の指導、辞書の指導、⑦英語を使った授業展開。３）平成 29 年および 30 年に学習指導要領が改訂となったが、どのように「外国語科」の目標は改訂されたのかを理解しておくこと。学習指導要領については、文部科学省のホームページで確認することができる。４）英語でオーラル・イントロダクションおよびテキスト理解のための発問ができるようにしておくこと。５）生徒ための英文エッセイのサンプルが書けるようにしておくこと。
■学習の到達目標	１）本講義で紹介された学校英語教育、第二言語習得論、英語教授法に関する内容や用語を簡潔に説明することができる。２）効果的な言語活動を取り入れた学習指導案を作成し、学習効果をあげる授業を実践することができる。３）中学生・高校生対象の授業を、基本的に英語で行うことができる。４）生徒の発話または英作文が、文法的に正しい英語であるのか、そうでないのかを判断することができる。
■成績評価の基準	１）解答に必要なキーワードとその説明を含めること。２）英語を使った授業の展開については、オリジナル性が求められる。剽窃および盗用厳禁。

授業科目	中等教科教育法情報				単位	4.0
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	TZ5191	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報科教育法〔第 2 版〕	岡本敏雄･高橋参吉･西野和典編著	丸善出版	[ISBN]9784621089071
高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省編著	開隆堂	[ISBN]9784304021633

■授業の概要	高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この授業では、新学習指導要領の共通教科情報科（情報Ⅰ）の内容との関連も含めて、情報科の意義、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。また、現行学習指導要領の「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する分野の学習内容について、学習指導案の作成や模擬授業を通して、具体的な授業方法についても学ぶとともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。
■学習の要点	１．学習指導要領解説編を読んで、情報教育の変遷、情報科の意義と目標について、まとめてみよう。２．テキストを参考にしながら、情報Ⅰおよび情報Ⅱの各項目において、取りあげる内容と主な学習活動について、まとめてみよう。３．テキストや検定教科書を参考にして、以下の項目について、授業の展開例と学習指導の具体例について、考えてみよう。(a)メディアと情報、情報のディジタル化(b)情報モラル、情報と法制度、個人情報、著作権(c)ネットワーク、情報セキュリティ(d)情報デザイン、コンテンツ、情報の表現・発信(e)アルゴリズム、プログラミング、モデル化とシミュレーション、データベース４．テキストを参考にして、授業設計、学習指導の方法と学習評価について、考えてみよう。また、授業設計において、情報機器および教材の活用についても考えてみよう。５．テキストや検定教科書を参考にして、学習指導案や教材作成を通して、学習評価や授業改善についても、考えてみよう。
■学習の到達目標	高等学校情報科の意義、教育目標および科目概要について説明できる。高等学校情報科の科目内容および指導上の留意点について説明できる。高等学校情報科の学習指導に対する方法および評価について説明できる。情報科の科目について、授業設計、情報機器および教材の活用ができる。情報科の授業設計に基づく、学習指導案が作成できる。学習指導案に基づき模擬授業を実施し、授業改善について考えることができる。
■成績評価の基準	以下の点に留意して記述すること。１）論述問題の科目（情報Ⅰおよび情報Ⅱ）の指定された大項目について、目標を簡潔に記述すること。２）指定された項目に対する、ポイントとなる具体的な学習内容を記述すること。３）２）で記述した学習内容に対する指導上の留意点を記述すること。

授業科目	中等教科教育法福祉				単位	4.0
担当者	守野　美佐子			シラバスグループ	TZ5196	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領解説 福祉編	文部科学省	海文堂出版	[ISBN]9784303125110

■授業の概要	前半では、福祉教育・高等学校福祉科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」や福祉科の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。後半では、学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。福祉教育の本質と学習指導要領における高等学校福祉科の性格についてさらに理解を深める。
■学習の要点	本科目で学習していただきたいことの要点は、次のとおりである。次の①～⑨の項目について、単元の構成と目標を十分に理解する。 ①「社会福祉基礎」社会福祉とはどういうものか。 ②「介護福祉基礎」介護の意義とその内容。 ③「コミュニケーション技術」コミュニケーションに関する基礎的知識と技術。 ④「生活支援技術」自立を尊重した生活支援とは。 ⑤「介護過程」介護過程の展開。 ⑥「介護総合演習」介護演習や事例研究など総合的学習と学習の深化をはかる。 ⑦「介護実習」施設等の現場実習を含む体験的学習。 ⑧「こころとからだの理解」自立生活支援のためのこころとからだの理解。 ⑨「福祉情報処理」福祉サービスにおけるコンピューターの活用。 上記①から⑨の福祉に関する各項目について、高等学校で指導する方法を工夫する。 その際、高校生という、生徒の学習意欲や能力を考慮しながら、限られた時間、空間、環境の中でもっとも生徒の学習効果が上がる教育方法を考えていくことを、常に念頭においていただきたい。将来を担う高校生が、未来を見据えて、積極的に活き活きと学習できる教科となるような指導案が作成できることを目指していただきたい。
■学習の到達目標	高等学校福祉科】１．学習指導要領における福祉科の目標・内容並びに全体構造を理解している。２．福祉科の学習内容について、指導上の留意点を理解し、教材研究を行うことができる。３．生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。４．学習指導案の構成を理解し、福祉科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を取り入れ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。５．福祉科の学習評価の考え方を理解している。６．模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。７．福祉科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	① 「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。② 採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③ 出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は、1200 字以上に及んでいることを充たせば 10 点を加える。

授業科目	教育行政学				単位	4.0
担当者	大林　照明			シラバスグループ	TZ5141	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教育行政学（第４版）子ども・若者の未来を拓く	横井敏郎　編著	八千代出版	[ISBN]9784842918396

■授業の概要	法律などの形で示された理念や教育政策をいかに効果的に実現していくのか、それを考え、具体化していくのが教育行政の役割です。近年、教育行政・制度は大きく変化しています。本科目ではまず、これまでの改革の経緯も踏まえて、現在どういった形で教育行政・制度が成立しているか、その全体像を、テキスト履修をとおして広く理解することを目指します。そのうえで、現状の制度の課題を踏まえ、より効果的な行政・制度のあり方について、リポート作成をとおして考察してもらいます。
■学習の要点	基本的には教科書の各章をまんべんなく学習してください。特につぎの要点、キーワードについては十分に学習するようにしてください。1.【第 1 章】教育基本法の変化（共同統治モデル・成果管理モデル）　※巻末の教育基本法全文は一度よく読むようにしてください。2.【第 2 章】戦後の教育政策形成の流れ（勅令主義から法律主義へ、官邸主導）3.【第 3 章】戦後教育行政（改革）における 3 つの原則、教育委員会法と地教行法、2015 年度からの教育委員会制度（特に変更点：教育長へ一本化、総合教育会議、大綱の策定など）4.【第 4 章】県費負担教職員（第 8 章にも説明あり）、義務教育費国庫負担金制度、総額裁量制 5.【第 5 章】 学習指導要領の法的拘束力、教科書採択の仕組み、広域採択制度、教科書の使用義務・無償給与 6.【第 6 章】私教育と公教育、学校体系（複線型・分岐型・単線型）、学校の設置者と種類（一条校など）、義務教育制度（就学義務、授業料の無償化、就学援助（第 11 章にも説明あり）、学校設置義務）、不登校の定義、脱落型不登校、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー（第 9 章にも説明あり）7.【第 7 章】学校組織のしくみ（校務分掌、職員会議の法的位置づけ）、学校組織の特性（官僚制と疎結合）、コミュニティースクール（学校運営協議会の法的権限含む）8.【第 8 章】教職員の種類、新たな職階、服務義務、教職の困難、専門家との連携（テキストには記載がないが「チームとしての学校」についても自分で調べてみること）9.【第 11 章】 保育所と幼稚園の制度上の違い、幼保一元化と認定こども園、子どもの虐待とその対応
■学習の到達目標	①教育行政・制度の概要を理解する②教育行政・制度のあり方を見直す観点を持つ
■成績評価の基準	①教育行政・制度に関わるキーワードの正確な理解ができている（キーワードの説明はテキストからそのまま抜き書きするのではなく、論述課題への解答となるように、自分の言葉でまとめるようにしてください。）②キーワードの正確な理解に基づいて、既存の教育行政・制度についての自身の見解が、論理的に展開されている

授業科目	中等教科教育法社会Ⅰ				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5651	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
平成 29 年版 中学校新学習指導要領の展開 社会編	原田 智仁編	明治図書出版	[ISBN]9784183342140

■授業の概要	社会科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。社会科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて社会科（地理的分野・歴史的分野・公民的分野）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力の基礎」が養われる。本科目では、平成 29 年版学習指導要領に基づいて中学校社会科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	1．中学校社会科の改訂のキーポイントについて理解を深める。2．学習指導要領「第 1 目標」のポイントについて理解を深める。3．地理的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。4．歴史的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。5．公民的分野の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。6．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。7．これからの社会科学習指導をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。8．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における中学校社会科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会Ⅱ				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TS5653	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
社会科授業づくりの理論と方法本質的な問いを生かした科学的探求学習	渡部　竜也・井手口　泰典　著	明治図書	[ISBN]9784183429230

■授業の概要	「社会１」では、中学校社会科指導の表層について理解し、授業を構想した。本科目（「社会２)」では、社会科教育をより深く理解するための学習を展開する。具体的には、「科学的探求学習」の視点に基づき、より本質的な社会認識形成を意図する学習指導のあり方を考える。
■学習の要点	①今日の社会科授業の現状と課題を把握する。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解する。③「問いの構造図」について理解を深める。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解を深める。⑤「科学的探求学習」の授業プランについて考えを深める。
■学習の到達目標	①今日の社会科授業の現状と課題を指摘できる。②「科学的探求学習」の特徴と必要性を理解している。③「問いの構造図」について理解している。④社会科学習指導における「本質的な問い」について理解している。⑤「科学的探求学習」の授業プランを構想することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキストの理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会・地理歴史				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5156	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　地理歴史編	文部科学省	東洋館出版社	[ISBN]9784491036410

■授業の概要	地理歴史科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。地理歴史科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて地理歴史科（地理総合・地理探究・歴史総合・日本史探究・世界史探究）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて地理歴史科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．地理歴史科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．地理歴史科の目標と科目編成について理解を深める。３．「地理総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「地理探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「歴史総合」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．「日本史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。７．「世界史探究」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。８．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。９．これからの地理歴史科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。１０．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における地理歴史科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法社会・公民				単位	4.0
担当者	小林　隆			シラバスグループ	TZ5158	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　公民編	文部科学省	東京書籍	[ISBN]9784487286331
シティズンシップ教育のすすめ―市民を育てる社会科・公民科授業論	杉浦真理・著	法律文化社	[ISBN]9784589034984

■授業の概要	公民科は、一般的なイメージにあるような「暗記科目」ではない。公民科では、「社会的な見方・考え方」を働かせて公民科（公共・倫理・政治経済）ならではの思考・判断・表現を体験させ、概念や技能を習得させることが大切である。言い換えれば、ある社会的事象に対して「なぜ」なのか、「どうすれば」良いのかを諸資料に基づいて考え議論させることにより、生徒達の社会認識形成は促進され、「公民としての資質・能力」が養われる。本科目では、平成 30 年版学習指導要領に基づいて公民科の全体像をつかむと同時に、具体的な授業を構想し模擬授業をおこなうこととする。
■学習の要点	１．公民科の改訂の趣旨及び要点について理解を深める。２．公民科の目標と科目編成について理解を深める。３．「公共」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。４．「倫理」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。５．「政治経済」の目標と学習指導の具体的あり方について理解を深める。６．学習指導要領「第 3 指導計画の作成と内容の取扱い」のポイントについて理解を深める。７．これからの公民科授業をイメージし、具体的な学習指導案を作成する。８．具体的な学習指導案に基づき、模擬授業をおこなう。
■学習の到達目標	①　学習指導要領における公民科の目標・内容並びに全体構造を理解している。②　学習内容について、指導上の留意点を理解している。③　背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。④　発展的な学習内容を探求し、学習指導への位置付けを考察することができる。⑤　具体的な学習指導案を作成することができる。⑥　学習指導案に基づき、模擬授業を実施することができる。
■成績評価の基準	「学習の到達目標」とテキスト、平成 30 年版学習指導要領の理解に基づいて評価する。

授業科目	中等教科教育法宗教Ⅰ				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TZ5161	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教を考える教育仏教と教育	（宗教を考える教育）宗教教育研究会（仏教と教育）竹内明著	（宗教を考える教育）教文館（仏教と教育）佛教大学通信教育部	（宗教を考える教育）[ISBN]9784764273177（仏教と教育）{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248848&refHpStenCode=68038}
仏教読本	浄土宗仏教読本改訂委員会	浄土宗	{購入はこちら,https://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008244835&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	前半では私学宗教科担当教師に必要な法的知識、教学的知識、宗教科教師の信仰、日本仏教における本覚思想の功罪などを学習する。後半は学習指導案を作成し、模擬授業を行う。
■学習の要点	学習の重点テーマは以下の様である。（１）日本国憲法第 20 条、教育基本法第 9 条。（２）（１）をふまえて「信教の自由」。学校・教師、児童・生徒、親の立場。（３）仏教における心の問題。（４）日本本覚仏教と法然浄土教。（５）宗教科の教師自身の信仰。（６）学習した知識をもとに学習指導案を作成し、それをもとに模擬授業を行う。各自、テキスト・参考書等により、ノートに本テーマをまとめておくこと。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕を参考にすること。
■成績評価の基準	仏教の教学が理解されたうえで、答案作成者の明確な評論意見を述べること。

授業科目	中等教科教育法宗教Ⅱ				単位	4.0
担当者	南　宏信			シラバスグループ	TZ5163	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
宗教科教育法	管井大果著	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=01000000000000008248786&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	仏教系私立学校における宗教教育、宗教科授業を展開するための基礎力養成をねらいとする。
■学習の要点	学習の中心テーマは以下の様である。（1）日本国憲法第 20 条とその周辺。（2）宗教教育の諸形態（テキスト前半「(上)」p.42 以下)。（3）仏教教育とは何か。（4）仏教の基礎知識。縁起、中道、八正道、四諦。（5）宗教科教師論（テキスト後半「(下)」p.78 以下)。（6）指導法各自、参考書等により、上記テーマに関することがらをノートにまとめておくこと。
■学習の到達目標	〔学習の要点〕を参考にすること。
■成績評価の基準	仏教の教学が理解された上で私立・公立における宗教教育の問題を理解し、答案作成者の明確な評論意見を述べること。

授業科目	中等教科教育法国語Ⅰ				単位	4.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TZ5171	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究	全国大学国語教育学会編	東洋館出版社	[ISBN]9784491037677
高等学校学習指導要領解説〈平成 30 年告示〉国語編中学校学習指導要領解説〈平成29年告示〉国語編	文部科学省編著文部科学省編著	東洋館出版社東洋館出版社	[ISBN]9784491036403[ISBN]9784491034706

■授業の概要	社会の変化や種々の学力調査の結果などを受け、国語科教育観や国語科学力観は大きく変化している。また、全ての教科において「主体的・対話的で深い学び」が目指される中、生徒の国語力の向上に関する中核的な役割を果たす場として、国語科教育の重要性が改めて指摘されている。このような点から、これから国語科教員を目指すものには、中等段階における国語科教育の位置づけや内容についてのより深い理解と、適切な学力の獲得を保証するような授業実践力が強く求められる。そこで、本科目における到達目標を以下の通り設定する。（1）中等教育段階の国語科教育の動向や現状、内容について理解することができる。（2）（1）の理解を踏まえて、実際に国語科授業を構想・実践することができる。
■学習の要点	まずは中学校国語科、高等学校国語科の全体像を正しく理解することが必要です。それぞれがどのような領域・事項、科目からなっているのかについて確認しましょう。その後、それぞれの領域・事項、科目の概説や目標・内容について整理していきましょう。その際に、実際の教材や言語活動と重ねながら理解を深めることが実践力の獲得へとつながります。テキストに掲載された教材や指導例をはじめ、その他の資料（教科書など）なども確認しながら、テキストに示された内容についてより具体的にイメージしながら理解していきましょう。
■学習の到達目標	新学習指導要領に基づいた、国語科教育の実際について説明することができる。
■成績評価の基準	テキストや指導要領の内容についての理解を感じられるか（60%）単なるテキストの理解にとどまらず自分なりにその指導について考えを深めることができているか（40%）

授業科目	中等教科教育法国語Ⅱ				単位	4.0
担当者	青砥　弘幸			シラバスグループ	TZ5173	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校国語科の授業プラン	吉川芳則編著	明治図書	[ISBN]9784182529245
中学校学習指導要領解説〈平成 29 年告示〉国語編	文部科学省編著	東洋館出版社	[ISBN]9784491034706

■授業の概要	現在、中等国語科教育は大きな転換期にある。新学習指導要領への移行、高大接続改革などの大きな教育改革の中で、国語科教育についてもこれまでの教師主導で教材理解に主眼を置くような授業からの脱却、生徒が主体となって課題を解決する中で社会の中で生きて働くような国語科学力の育成を目指す授業の創造などが求められている。しかし、一方で、教育現場にはこれまでの国語科授業観が根強く残っていることも事実である。これからの国語科教育を担っていく若い教員には、まさに今求められている国語科教育の在り方についての深い理解とそれを実践する授業力を持ち、教育現場に新しい風を送っていくことが求められている。以上を踏まえて、本科目においては，今日の中等国語科教育の現状とそこで求められる指導の実際について理解することを目的としている。
■学習の要点	本科目では、特に中学校国語科に焦点をあて、新学習指導要領（平成 29 年版）に示される国語科のあり方についての理解を深める。学習指導要領の内容がどの様に改定されたのか、それによってこれからの国語科授業はどう変わるのか等について適切に理解を深めてください。
■学習の到達目標	新学習指導要領（平成 29 年版）に基づいたこれからの中等国語科教育について、具体的な教材（活動）を例に挙げながら説明することができる。
■成績評価の基準	指導要領の内容を適切に理解しているか（40%）テキスト、指導要領の内容を踏まえた具体的な授業イメージをもつことができているか（40%）自分の考えや経験を適切に交えて論述することができているか（20%）

授業科目	中等教科教育法書道				単位	4.0
担当者	加藤　達			シラバスグループ	TZ5176	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
教科教育法書道〔第3版〕	加藤達成編	佛教大学	{購入はこちら,http://www.e-hon.ne.jp/bec/SA/Detail?refShinCode=0100000000000008248867&refHpStenCode=68038}

■授業の概要	今日の国際化、科学技術の発展、環境問題への関心の高まり、少子高齢社会の到来など21世紀を生きる人材の急務により、学校教育の在り方として、自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成を基本とした教育課程の情操教育をめざす書道科の改善が図られ、学校５日制導入に適応する教科内容となった。　教科教育法書道は義務教育の基礎の上に立って、書道学習の最低限必要となる知識や技能の発達をめざし、幅広く学んだりする仕組を整えた教科である。　特に生涯教育の立場に立って、理想とする芸術教育活動を充実発展させるため、個性の尊重や自己実現を夢みて、創造力向上のために「Ａ表現」「Ｂ鑑賞」の二領域を緊密な学習の展開として重視し、芸術の幅広い活動を通して、感性や豊かな情操を養うことを強調した教科・科目である。
■学習の要点	芸術科書道においては、次のような点について学習の適切な効果を図ること。１．高等学校学習指導要領に示された書道Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの目標（性格）内容についてＡ表現の主な指導事項を把握し、系統性を重視してその発展性を検討すること。２．Ｂ鑑賞の主な指導事項に精通して、表現領域との表裏を検討すること。３．書道各科目に示された「内容の取扱い」を理解して、効果的な指導法を工夫し検討すること。４．書写教育、書道教育の相違と関連性を重視し、毛筆・硬筆の特色とその用途による展開点を把握し、個性の伸展に期す指導法を検討すること。５．理解事項である書論・書道史に精通すること。中国・日本の関連を図りながら現代を踏まえて、書の本質を検討すること。６．評価の観点とその方法を理解し、作品の鑑別に当たって適切な評価を行い、指導助言の個別化を検討すること。
■学習の到達目標	１．試験問題を熟読して、その要旨を理解すること。２．自己の考察を明確にまとめること。３．出題の要旨を加味し追及すること。
■成績評価の基準	内容が十分理解していること。記述が明瞭であること。

授業科目	中等教科教育法中国語Ⅰ				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TZ5181	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
やさしくくわしい中国語文法の基礎 改訂新版	守屋宏則・李軼倫　著	東方書店	[ISBN]9784497219183

■授業の概要	文法を体系的に理解し、教授する力を養成する。
■学習の要点	テキスト「はじめに」及び「目次」を参照。
■学習の到達目標	文法の基礎をよく理解すること。科目最終試験は、問題をすべてテキストに即して出題するので、テキストの例文について文法説明ができるように準備してください。
■成績評価の基準	ピンインが正確かどうか、文法事項が理解しているかどうかを評価基準とします。

授業科目	中等教科教育法中国語Ⅱ				単位	4.0
担当者	池田　晋			シラバスグループ	TZ5183	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
教師のための中国語音声学	平井　勝利 著	白帝社	[ISBN]9784863981195

■授業の概要	初級中国語教育において最も大きな比重を占める発音指導について、正しい音声学的知識を身に付けることで、自らの発音矯正に役立てるとともに、生徒に対しても適切な指導ができるように導く。
■学習の要点	1．音素レベル（声母、母音、鼻音韻尾）2．音節レベル（介母、韻母、声調、r 化など）3．超音節レベル（二音節の声調の組み合わせなど）4．発話レベル（強勢、ポーズなど）
■学習の到達目標	中国語教育に参考となる幅広い視点を身につけること。科目最終試験には中国語の基礎知識を問う設題を含む。科目最終試験の成績評価は、テキストに即した基礎知識の理解度によって評価する。「答案」には具体例を挙げることを求める。
■成績評価の基準	基本事項が理解できているかどうかを評価基準とします。

授業科目	中等教科教育法英語Ⅰ				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TZ5186	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
新しい英語科授業の実践改訂版　グローバル時代の人材育成をめざして	石田雅近・小泉仁 著	金星堂	[ISBN]9784764741119

■授業の概要	1）英語教育の目的、現状、指導事例の紹介といった講義を中心に、中学校・高等学校英語科教員としての資質の基礎を養成する。また、講義だけではなく、学んだ指導方法等をもとにして効果的な授業のあり方を考え、それを模擬授業という形で実践へとつなげていく。現在では目標言語である英語を使って授業をすることが求められており、英語力と指導力の融合もはかりたい。2）実践から理論（英語教育の目的、学習指導要領、第二言語習得論、4技能の指導理論）の理解へとつなげる。また、英語を使った授業展開に必要な英語表現や、文法指導の基礎となる英文法知識についても確認する。理論と英語力という二つの側面から、中学校・高等学校英語科教員としての資質を養成する。※模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえ、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net にて提出させ指導を行う。
■学習の要点	1）まずはテキスト全体に目を通し、全体像を捉え、その有機的なつながりを把握した上で、個々のパートを深く理解することが必要である。リポート作成や試験勉強のために、当該の箇所だけを読む学生が見られるが、そのような学生のリポートや答案は概して焦点がずれていることが多い。学習は基本的にテキストの範囲内で十分であるが、どうしても理解できない時は、他の英語教育関連の参考書にあたってみることで理解が得られることも多い。2）テキストのうち、以下の項目に関しては重点的に理解しておくこと。①英語指導法の変遷、②英語の習得過程と指導との関係、③指導と評価の一体化、④音声と文字の指導、⑤文法指導、⑥語彙の指導、辞書の指導、⑦英語を使った授業展開。3）平成 29 年および 30 年に学習指導要領が改訂となったが、どのように「外国語科」の目標は改訂されたのかを理解しておくこと。学習指導要領については、文部科学省のホームページで確認することができる。4）英語でオーラル・イントロダクションおよびテキスト理解のための発問ができるようにしておくこと。5）生徒ための英文エッセイのサンプルが書けるようにしておくこと。
■学習の到達目標	1）本講義で紹介された学校英語教育、第二言語習得論、英語教授法に関する内容や用語を簡潔に説明することができる。2）効果的な言語活動を取り入れた学習指導案を作成し、学習効果をあげる授業を実践することができる。3）中学生・高校生対象の授業を、基本的に英語で行うことができる。4）生徒の発話または英作文が、文法的に正しい英語であるのか、そうでないのかを判断することができる。
■成績評価の基準	1）解答に必要なキーワードとその説明を含めること。2）英語を使った授業の展開については、オリジナル性が求められる。剽窃および盗用厳禁。

授業科目	中等教科教育法英語Ⅱ				単位	4.0
担当者	松本　真治			シラバスグループ	TZ5188	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
国際語としての英語　進化する英語科教育法	若本夏美／今井由美子／大塚朝美／杉森直樹	松柏社	[ISBN]9784775402467

■授業の概要	1）「教科教育法英語１」または「中等教科教育法英語Ⅰ」で学んだことに基づき、学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画について理解を深めた上で、中学校・英語科および小学校高学年・英語科における授業実践を中心に展開し、授業実践力と省察力を養成する。模擬授業を経験することで、授業力を身につけてもらいたい。2）各受講生の授業実践を振り返り、学習指導要領、第二言語習得論、英語教授法理論といった理論的側面から検討しなおすことで、さらに学習効果の高い授業実践ができるようになることを目指す。また、４技能の指導のみならず、音声指導、異文化理解からのアプローチ、ICT の活用、生徒の特性・習熟度への対応についても検討する。※模擬授業はテキストによる学習内容を踏まえ、自身が行った模擬授業を動画として撮影し、B-net にて提出させ指導を行う。
■学習の要点	1）まずはテキスト全体に目を通し、全体像を捉え、その有機的なつながりを把握した上で、個々のパートを深く理解することが必要である。リポート作成や試験勉強のために、当該の箇所だけを読む学生が見られるが、そのような学生のリポートや答案は概して焦点がずれていることが多い。学習は基本的にテキストの範囲内で十分であるが、どうしても理解できない時は、他の英語教育関連の参考書にあたってみることで理解が得られることも多い。2）テキストのうち、以下の項目に関しては重点的に理解しておくこと。 ①「英語能力をどう評価するか」 ②「Communicative Language Teaching とは？」 ③「Oral Approach とは？」④「Grammar Translation Method とは？」 ⑤「聞くこと・話すことをどう指導するか？」⑥「読むこと・書くことをどう指導するか？」3）中学生に対し、「新教材の導入」を英語で行うことができるようにすること。4）平成 29 年告示の学習指導要領における、小学校と中学校の「外国語科」の目標について理解しておくこと。学習指導要領については、文部科学省のホームページで確認することができる。
■学習の到達目標	【中学校英語科：発展】1）小学校・中学校学習指導要領英語科における目標・内容について簡潔に説明することができる。2）小学生・中学生を対象にして、学習効果の上がる授業、英語を使用した授業を計画し、それを実践することができる。3）自身の授業実践を客観的に省察し、改善へと結びつけることができる。4）理論的に裏付けられた、学習効果の高い授業を実践することができる。5）効果的な生徒の音声指導をすることができる。6）異文化理解を取り入れた英語の授業を展開することができる。7）ICT を活用した授業展開を設計することができ、また実践することができる。8）画一的な指導だけではなく、生徒の特性・習熟度を踏まえた個別的な指導ができる。
■成績評価の基準	1）解答に必要なキーワードとその説明を含めること。2）英語を使った授業の展開については、オリジナル性が求められる。剽窃および盗用厳禁。3）文法事項の導入においては、文法説明よりもコミュニケーション活動を重視すること。

授業科目	中等教科教育法情報				単位	4.0
担当者	浅田　瞳			シラバスグループ	TZ5191	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト

書名	著者	出版社	ISBN
情報科教育法〔第 2 版〕	岡本敏雄･高橋参吉･西野和典編著	丸善出版	[ISBN]9784621089071
高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省編著	開隆堂	[ISBN]9784304021633

■授業の概要	高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この授業では、新学習指導要領の共通教科情報科（情報 I）の内容との関連も含めて、情報科の意義、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。また、現行学習指導要領の「情報Ⅰ」「情報Ⅱ」に関する分野の学習内容について、学習指導案の作成や模擬授業を通して、具体的な授業方法についても学ぶとともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。
■学習の要点	１．学習指導要領解説編を読んで、情報教育の変遷、情報科の意義と目標について、まとめてみよう。２．テキストを参考にしながら、情報Ⅰおよび情報Ⅱの各項目において、取りあげる内容と主な学習活動について、まとめてみよう。３．テキストや検定教科書を参考にして、以下の項目について、授業の展開例と学習指導の具体例について、考えてみよう。(a)メディアと情報、情報のディジタル化(b)情報モラル、情報と法制度、個人情報、著作権(c)ネットワーク、情報セキュリティ(d)情報デザイン、コンテンツ、情報の表現・発信(e)アルゴリズム、プログラミング、モデル化とシミュレーション、データベース４．テキストを参考にして、授業設計、学習指導の方法と学習評価について、考えてみよう。また、授業設計において、情報機器および教材の活用についても考えてみよう。５．テキストや検定教科書を参考にして、学習指導案や教材作成を通して、学習評価や授業改善についても、考えてみよう。
■学習の到達目標	高等学校情報科の意義、教育目標および科目概要について説明できる。高等学校情報科の科目内容および指導上の留意点について説明できる。高等学校情報科の学習指導に対する方法および評価について説明できる。情報科の科目について、授業設計、情報機器および教材の活用ができる。情報科の授業設計に基づく、学習指導案が作成できる。学習指導案に基づき模擬授業を実施し、授業改善について考えることができる。
■成績評価の基準	以下の点に留意して記述すること。１）論述問題の科目（情報Ⅰおよび情報Ⅱ）の指定された大項目について、目標を簡潔に記述すること。２）指定された項目に対する、ポイントとなる具体的な学習内容を記述すること。３）２）で記述した学習内容に対する指導上の留意点を記述すること。

授業科目	中等教科教育法福祉				単位	4.0
担当者	守野　美佐子			シラバスグループ	TZ5196	
開講年度	2023	履修方法	T	設題数	2	

■テキスト			
書名	著者	出版社	ISBN
高等学校学習指導要領解説 福祉編	文部科学省	海文堂出版	[ISBN]9784303125110

■授業の概要	前半では、福祉教育・高等学校福祉科の本質と学習指導要領の性格について理解を深める。学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」や福祉科の学問的背景となる領域に基づき、教材研究を行う。後半では、学習指導要領福祉科の「内容」「内容の取扱い」に基づき、授業設計と学習指導案の作成を行う。福祉教育の本質と学習指導要領における高等学校福祉科の性格についてさらに理解を深める。
■学習の要点	本科目で学習していただきたいことの要点は、次のとおりである。次の①～⑨の項目について、単元の構成と目標を十分に理解する。 ①「社会福祉基礎」社会福祉とはどういうものか。 ②「介護福祉基礎」介護の意義とその内容。 ③「コミュニケーション技術」コミュニケーションに関する基礎的知識と技術。 ④「生活支援技術」自立を尊重した生活支援とは。 ⑤「介護過程」介護過程の展開。 ⑥「介護総合演習」介護演習や事例研究など総合的学習と学習の深化をはかる。 ⑦「介護実習」施設等の現場実習を含む体験的学習。 ⑧「こころとからだの理解」自立生活支援のためのこころとからだの理解。 ⑨「福祉情報処理」福祉サービスにおけるコンピューターの活用。 上記①から⑨の福祉に関する各項目について、高等学校で指導する方法を工夫する。 その際、高校生という、生徒の学習意欲や能力を考慮しながら、限られた時間、空間、環境の中でもっとも生徒の学習効果が上がる教育方法を考えていくことを、常に念頭においていただきたい。将来を担う高校生が、未来を見据えて、積極的に活き活きと学習できる教科となるような指導案が作成できることを目指していただきたい。
■学習の到達目標	高等学校福祉科】1．学習指導要領における福祉科の目標・内容並びに全体構造を理解している。2．福祉科の学習内容について、指導上の留意点を理解し、教材研究を行うことができる。3．生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。4．学習指導案の構成を理解し、福祉科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を取り入れ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。5．福祉科の学習評価の考え方を理解している。6．模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。7．福祉科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。
■成績評価の基準	① 「学習の要点」に書かれた学習目標に即してテキスト学習を進めること。その学習の進度と理解度を試験で測る。またその到達度に即して成績評価する。② 採点は、加点方式を基本とする。問いに対して、解答するに必要なキーワードがすべて含まれていれば 50 点とする。③ 出題の要点を正しく理解し、理論的に解答が述べられていること。論述の展開とその深度により 40 点を上限に配点する。④解答は、1200 字以上に及んでいることを充たせば 10 点を加える。